山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第261集

玉川金山遺跡

― 一般国道139号（都留バイパス）建設に伴う発掘調査報告書 ―

2009.3

山梨県教育委員会

国土交通省　関東地方整備局

調査区遠景（南西方向から撮影）

調査区遠景（北東方向から撮影）

玉川金山遺跡概要

玉川金山遺跡は、山梨県都留市玉川字上ノ原にあります。今回、調査した場所は山と河川の間の斜面に位置しています。

この山中に都留バイパスを建設することとなったため、試掘調査を行ったところ、遺跡が発見されました。

発掘調査は４回に分けて行われ、様々な成果が得られました。ここではそのうちのいくつかをご紹介したいと思います。

玉川金山遺跡の位置

星印の位置が玉川金山遺跡です。

調査した場所

玉川金山遺跡は山と川の間の傾斜地にあります。

近世の調査

地表面を80cm下げたところから骨がみつかりました。赤丸の位置を掘り下げると･･･

動物の歯の骨が見つかりました。その後の調査により、馬骨であることが分かっています。

出土した骨は動物だけではありません。近世のお墓も見つかりました。

また、あちこちに焼けた土が見つかりました。これらは400年くらい前に火を使用した跡だと考えられます。

中世の調査

石がまとまって出土しましたが、中世のお墓であると推定されます。

他にも地下式土坑が見つかりました。地下式土坑とは地下に設けた死者を弔うための施設と考えられている遺構です。

奈良時代の調査

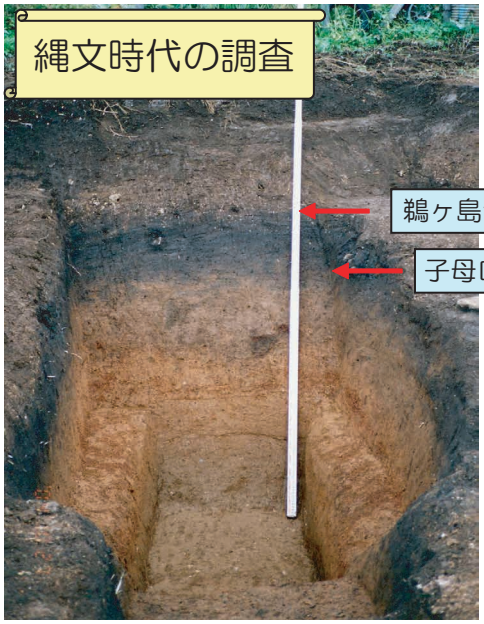
奈良時代の住居跡です。中から当時の人々が使用した土器などが出土します。

左写真の赤丸の位置を拡大した写真です。カマドから小型甕が出土しました。

カマドの煙道（煙出し）が１mほどもある住居跡も見つかりました。

カマドの脇に土器を埋設しています。
この土器は静岡県東部から運ばれてきたものです。

住居跡から出土した土器を見ると興味深いことが分かります。
左写真の上段左にある土器は軟質で土器の表面をさほどきれいに整えていません。これに対して、上段右にある土器は硬質で、表面をきれいに磨いています。
上段右にある土器は静岡県東部で作られたものであり、上段左の土器は山梨県内で作られたものだと考えられます。
奈良時代の人々は作られた場所の異なる２種類の土器を併用していたようです。

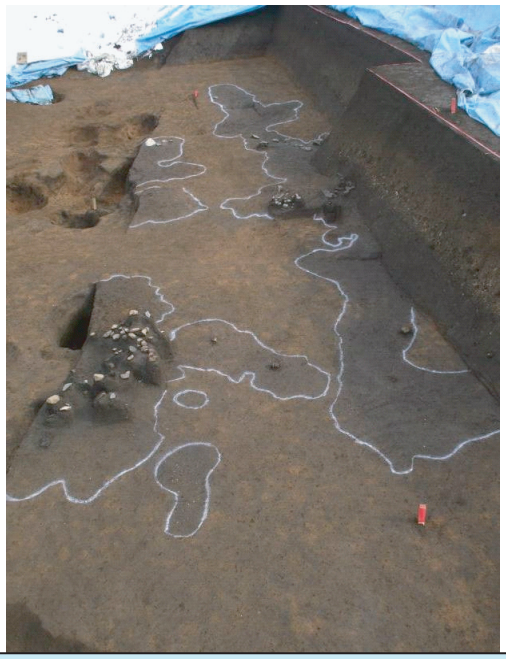


地表下２mの位置で、縄文時代早期後半（約8,000年前）の遺構・遺物が出土しました。土器は、子母口式併行期と鵜ヶ島台式期の２つが多く出土しましたが、左写真の様に出土する深さが異なる傾向にあります。

鵜ヶ島台式期の土器です。一個体が横倒しになった状態で出土しました。

鵜ヶ島台式期の土器です。様々な文様を組み合わせて、複雑な模様にしています。

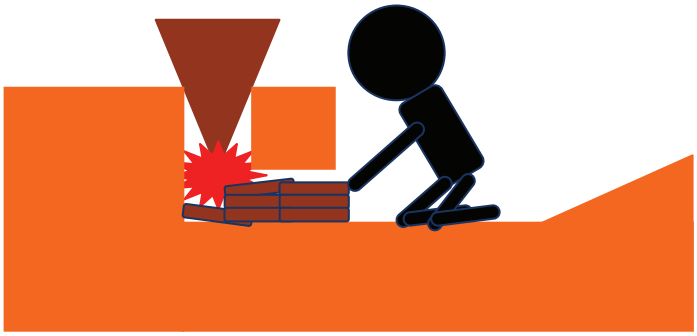
黒曜石の原石（割られていない石）が見つかりました。



上の写真は子母口式併行期の遺構が見つかった状態の写真です。
細長い遺構が様々な方向に連なっています。これを掘ると･･･

穴の底の方から焼けた土が見つかります。これらは炉穴という遺構が複数重なったものです。では、炉穴とはどのような遺構でしょうか？

縄文時代の調査



炉穴とは、調理を行うための遺構、または燻製を行う施設であると考えられます。玉川金山遺跡から見つかった炉穴は、遺構の端に焼土が確認されることから、調理施設ではないかと考えられます。左のイラストの様に掘りくぼめた大きな穴の端に小さな穴を煙突状に掘ります。
そして、小さな穴に土器を据え、大きな穴から木などを入れて調理をしたようです。

ほとんどの炉穴は２つの穴をつなぐ部分の上が崩落していましたが、上の遺構は残存した状態で見つかりました。

おそらくこの様に炉穴を使ったのでしょう。

炉穴の中やその周囲からは、左の写真のような模様の土器が見つかりました。これは、静岡県東部地域から見つかる土器の模様と同一です。
このことから、子母口式併行期に静岡県東部地域を中心に居住していた集団が都留市まで訪れて生活していたのだと考えられます。では、なぜ主に静岡県で暮らしていた人々が山梨県まできたのでしょうか？

都留市内からは、右写真のような凝灰岩がたくさん採れる場所が知られています。特に緑色の凝灰岩は石器を作るためには最適な、非常に質の良いものです。
玉川金山遺跡からもこれらの凝灰岩はたくさん出土しました。
静岡県から来た集団は、凝灰岩をはじめとする、山の資源を求めて訪れ、都留市内で居住したのでしょう。

序　文

本書は一般国道139号（都留バイパス建設）に伴い実施した、都留市玉川字上ノ原に位置する玉川金山遺跡の調査成果をまとめた報告書であります。

玉川金山遺跡は平成15年度に行われた試掘調査の結果を受け、登録・周知された遺跡です。試掘調査では平安時代～中世の遺構・遺物が検出されましたが、平成16～19年度にかけて行われた本調査においては、奈良時代や縄文時代早期の遺構・遺物などが確認されており、遺物としてはさらに幅広い時代のものが出土しております。調査の結果、この地においては縄文時代早期に居住が開始され、奈良時代・中世の段階において、様々な形で土地利用が行われたことが把握されました。

中世の遺構としては、地下式土坑や集石墓などが検出されました。これらの遺構の性格から、葬送に係わる場所である可能性が指摘されます。

奈良時代の調査によって、住居跡や掘立柱建物跡など居住した痕跡が確認され、調査地点周囲に集落跡が展開したことが把握できました。調査地点の周囲には平坦地が広がっており、集落範囲はさらに広がることが推測できます。

縄文時代の遺構としては、住居跡や土坑などと共に、炉穴や集石など調理に関連する遺構が数多く検出されました。特に炉穴は山梨県においては、報告事例が少ないため、貴重な発見であったと言えます。また、遺物としては縄文時代早期の中でも、限定された時期の資料がまとまって出土しており、該期の研究に資するものであると考えられます。

調査によって、これまで確認されなかった範囲にも埋蔵文化財包蔵地が広がっていることが周知されました。このように、地域の新たな歴史に光をあてることができたのは大きな成果と言えます。この報告書が本県の歴史や文化財に関わる学習並びに研究に対しまして、少しでも貢献できれば幸いです。

最後に、調査にあたって御協力頂いた関係者、関係機関、調査・整理作業に従事された皆様方に厚く御礼を申し上げます。

2009年３月

山梨県埋蔵文化財センター

所　長　　新津　健

例　言

1．本書は、山梨県都留市玉川字上ノ原地内に所在する玉川金山遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査は国土交通省関東地方整備局からの委託を山梨県教育委員会が受け、発掘調査・整理作業・報告書作成を山梨県埋蔵文化財センター（甲府市下曽根町所在）が担当した。

3．発掘調査は平成16年10月18日～平成17年２月18日（平成16年度調査）、平成17年11月10日～平成18年１月26日（平成17年度調査）、平成18年８月14日～平成19年１月19日（平成18年度調査）、平成19年５月14日～同年８月３日（平成19年度７・８区調査）、平成19年９月３日～平成20年１月31日（平成19年度５・９～11区調査）まで実施した。また、整理作業については、平成17～19年度に実施し、平成20年度に報告書を作成した。整理作業・報告書作成は、網倉邦生が担当した。なお、年度ごとの発掘調査担当者は第Ⅰ章第３節に記載してある。

4．本書の編集及び第Ⅰ章から第Ⅳ章、第Ⅴ章第１項、第Ⅵ章の執筆は、網倉邦生が担当した。

5．本書に掲載した遺構写真及び作業風景写真は網倉邦生（平成16～18・19年度５・９～11区）、田口明子・酒井玄暁（平成19年度７・８区調査）、正木季洋（平成16年度）が撮影した。

6．本書に掲載した遺跡空中写真・図化測量は株式会社シン技術コンサルに委託し、撮影・測量した。

7．本書に掲載した写真図版中、360～376・392～398頁に掲載した遺物写真は、塚原写真事務所に委託し、塚原明生（日本写真家協会会員）が撮影したものである。

8．発掘調査に係る国土座標測量・グリッドポイント設定・基準標高測量は、昭和測量に委託した。

9．出土遺物（石器の一部）の写真実測図化およびデジタル図化は、株式会社アルカに委託した。写真図版377～392頁に掲載した遺物写真は、株式会社アルカが撮影したものである。また、奈良時代の出土遺物の一部（第164図３・４、第165図１～３・５～10）と縄文時代の出土遺物の一部（第86図12・第95図１）の実測・デジタル図化は有限会社勾玉工房に委託した。

10. 鉄・銅製品の保存処理は帝京大学山梨文化財研究所に委託した。

11. 理化学的分析に関しては、ＡＭＳ年代測定は株式会社加速器分析研究所、出土動物骨及び土壌分析は株式会社パリノ・サーヴェイ、黒曜石産地分析は明治大学文化財研究施設、石器の使用痕分析は株式会社アルカに委託し、その報告原稿を編集した上で第Ⅴ章に掲載した。なお、黒曜石産地分析は、杉原重夫（明治大学文化財研究施設運営委員）、金成太郎・入江千晶（明治大学文学部リサーチアシスタント）、小野真嗣・築地貴久・佐藤裕亮（明治大学学術フロンティア推進事業リサーチアシスタント）、太田陽介（明治大学学術フロンティア推進事業アルバイト）が分析と原稿執筆を行った。分析を進めるにあたり、山科哲（明治大学黒曜石研究センター）に尽力して頂いた。ここに謝したい。

12. 本書に係る出土品及び記録図面・写真・出土遺物・デジタル化したデータ等は、一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。

13. 調査にあたって、次の組織や方々にご指導及び協力を戴いた。記して謝意を表したい。

秋山圭子　　池谷信之　　猪股喜彦　　上杉　陽　　岡野秀典　　小林克次　　櫛原功一　　杉原重夫
沼津市文化財センター　　野崎　進　　平野　修　　毒島正明　　村松佳幸　　明治大学文化財研究施設
山科　哲

凡　例

1．遺構番号については、調査区単位で付したため、報告書中の遺構名の前には調査区名を付けて報告した。遺構番号については、遺構平面図中に記載したので、参照されたい。

2．掲載した遺構図面の縮尺は原則として下記の通りである。

［遺跡関連図］　遺跡位置図　1/25,000　調査区位置図　1/1,000　グリッド設定図　1/600

［遺構関連図］　平面図　1/40　1/60　1/80　1/300　1/2,000　　断面図･土層図　1/40　1/60　1/80

3．遺物実測図の縮尺は下記の通りである。

土器･陶磁器類　1/3　　石器類　1/1　1/2　1/3　1/6　　金属製品　1/2　1/3　　その他　1/3

4．遺構平面図の網目は次の通りである。

地山　　灰　　焼土　　炭化物

5．遺構平面図中の表記は次の通りである。なお、分布図については一つの図面に対して複数のマークがあるものについてのみ下に記した。

［遺構微細図］　● 土器　　▲ 小形石製品　　■ 大形石製品

［石鏃・石鏃未成品分布図］　▲ 石鏃　　▲ 石鏃未成品

［削器・掻器分布図］　▲ 削器　　◆ 掻器

［礫器・打製石斧分布図］　■ 礫器　　◆ 打製石斧

［微細剥離を有する剥片・２次加工を有する剥片］　▲ 微細剥離を有する剥片　◆ ２次加工を有する剥片

［石核・剥片］　★ 石核　　● 剥片

［細片・砕片］　● 細片　　砕片

［磨石類］ 磨石　　棱磨石

［その他の黒曜石］　　和田峠・鷹山系　　和田峠系Ⅰ　◆ 男女倉系Ⅱ　　判別不明

6．遺物実測図中の網目は次の通りである。

［平面図］

内黒　　赤彩　　煤

［断面図］

土器・土師器・陶磁器　　須恵器

7．遺構図中の断面図脇にある数値は標高を示す。

8．遺構図・全体図などに示した方位（N）は国土座標による真北である。

9．遺物分布図・写真図版中の表記「　－　」は、「図版番号－図版中番号」である。

10. 第11・12表に所収した土器胎土の色調については、『標準土色帖（2001年版）』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）に基づいて記述した。

本文目次

玉川金山遺跡概要
序文
例言
凡例
本文目次
図版目次・写真図版目次・表目次
第Ⅰ章　調査経緯と経過……1
第１節　調査に至る経緯……1
第２節　調査経過……2
１．発掘調査の経過……2
２．整理作業の経過……5
３．調査に係る事務手続き……5
第３節　調査組織……6
第Ⅱ章　地理的環境と歴史的環境……7
第１節　地理的環境……7
第２節　歴史的環境……7
１．埋蔵文化財包蔵地……7
２．埋蔵文化財包蔵地とその立地……9
３．その他の文化財……10
４．文献資料……10
第Ⅲ章　調査の方法と基本層位……12
第１節　発掘調査の方法……12
１．調査区の規模……12
２．調査グリッドの設定……12
３．表土層の除去……12
４．表土層除去後の調査……12
第２節　基本層位……15
第Ⅳ章　検出された遺構・遺物……17
第１節　調査の概要……17
第２節　検出された遺構・遺物……17
１．第Ⅰ面の遺構・遺物……17
⑴　土坑……17
⑵　溝状遺構……18
⑶　石組……18
⑷　焼土集中……19
２．第Ⅱ面の遺構・遺物……19
⑴　竪穴住居跡……19
⑵　掘立柱建物跡……22
⑶　土坑……23
⑷　溝状遺構……23
⑸　礫集中……24
３．第Ⅲ面の遺構・遺物……24
⑴　竪穴住居跡……24
⑵　土坑……25
⑶　集石……34
⑷　配石……35
⑸　礫集中……36
⑹　焼土集中……36
⑺　遺物集中地点……36
第３節　出土遺物と遺物分布について……37
１．遺物の時期区分について……37
２．遺物分布について……38
第Ⅴ章　理化学的分析……41
第１節　ＡＭＳ年代測定分析……41
第２節　出土動物骨の分析……43
第３節　黒曜石産地分析……44
第４節　土壌分析……53
第５節　出土石器の使用痕分析……54
第Ⅵ章　調査の成果と課題……56
第１節　遺構の変遷と問題点……56
１．地形の変遷……56
２．遺構の変遷……56
第２節　時代ごとの成果……57
１．縄文時代……57
⑴　炉穴について……57
⑵　縄文時代早期後半の土器とその位置づけ……60
⑶　縄文時代早期後半の石器とその位置づけ……64
⑷　遺構の形成とその特徴について……67
２．奈良時代……68
⑴　出土遺物について……68
⑵　集落の構成について……69
３．中世……69
⑴　出土遺物について……69
⑵　遺構の構成について……69
写真図版……321
抄録

図版目次

第１図　遺跡分布図……8
第２図　都留市流域区分図……11
第３図　調査区位置図……13
第４図　グリッド設定図……14
第５図　土層柱状図……16
第６図　第Ⅰ面遺構図１……72
第７図　第Ⅰ面遺構図２……73
第８図　第Ⅰ面遺構図３……74
第９図　第Ⅰ面遺構図４……75
第10図　第Ⅰ面遺構図５……76
第11図　第Ⅰ面遺構図６……77
第12図　第Ⅰ面遺構図７……78
第13図　第Ⅰ面遺構図８……79
第14図　第Ⅰ面遺構図９……80
第15図　第Ⅰ面遺構図10……81
第16図　第Ⅰ面遺構図11……82
第17図　第Ⅰ面遺構図12……83
第18図　第Ⅰ面遺構図13……84
第19図　第Ⅰ面遺構図14……85
第20図　第Ⅰ面遺構図15……86
第21図　第Ⅰ面遺構図16……87
第22図　第Ⅱ面遺構図１……88
第23図　第Ⅱ面遺構図２……89
第24図　第Ⅱ面遺構図３……90
第25図　第Ⅱ面遺構図４……91
第26図　第Ⅱ面遺構図５……92
第27図　第Ⅱ面遺構図６……93
第28図　第Ⅱ面遺構図７……94
第29図　第Ⅱ面遺構図８……95
第30図　第Ⅱ面遺構図９……96
第31図　第Ⅱ面遺構図10……97
第32図　第Ⅱ面遺構図11……98
第33図　第Ⅱ面遺構図12……99
第34図　第Ⅱ面遺構図13……100
第35図　第Ⅱ面遺構図14……101
第36図　第Ⅱ面遺構図15……102
第37図　第Ⅱ面遺構図16……103
第38図　第Ⅱ面遺構図17……104
第39図　第Ⅱ面遺構図18……105
第40図　第Ⅱ面遺構図19……106
第41図　第Ⅱ面遺構図20……107
第42図　第Ⅱ面遺構図21……108
第43図　第Ⅱ面遺構図22……109
第44図　第Ⅱ面遺構図23……110
第45図　第Ⅱ面遺構図24……111
第46図　第Ⅱ面遺構図25……112
第47図　第Ⅱ面遺構図26……113
第48図　第Ⅱ面遺構図27……114
第49図　第Ⅱ面遺構図28……115
第50図　第Ⅱ面遺構図29……116
第51図　第Ⅱ面遺構図30……117
第52図　第Ⅲ面遺構図１……118
第53図　第Ⅲ面遺構図２……119
第54図　第Ⅲ面遺構図３……120
第55図　第Ⅲ面遺構図４……121
第56図　第Ⅲ面遺構図５……122
第57図　第Ⅲ面遺構図６……123
第58図　第Ⅲ面遺構図７……124
第59図　第Ⅲ面遺構図８……125
第60図　第Ⅲ面遺構図９……126
第61図　第Ⅲ面遺構図10……127
第62図　第Ⅲ面遺構図11……128
第63図　第Ⅲ面遺構図12……129
第64図　第Ⅲ面遺構図13……130
第65図　第Ⅲ面遺構図14……131
第66図　第Ⅲ面遺構図15……132
第67図　第Ⅲ面遺構図16……133
第68図　第Ⅲ面遺構図17……134
第69図　第Ⅲ面遺構図18……135
第70図　第Ⅲ面遺構図19……136
第71図　第Ⅲ面遺構図20……137
第72図　第Ⅲ面遺構図21……138
第73図　第Ⅲ面遺構図22……139
第74図　第Ⅲ面遺構図23……140
第75図　遺構出土遺物図１（縄文時代早期）……141
第76図　遺構出土遺物図２（縄文時代早期）……142
第77図　遺構出土遺物図３（縄文時代早期）……143
第78図　遺構出土遺物図４（縄文時代早期）……144
第79図　遺構出土遺物図５（縄文時代早期）……145
第80図　遺構出土遺物図６（縄文時代早期）……146
第81図　遺構出土遺物図７（縄文時代早期）……147
第82図　遺構出土遺物図８（縄文時代早期）……148
第83図　遺構出土遺物図９（縄文時代早期）……149
第84図　遺構出土遺物図10（縄文時代早期）……150
第85図　遺構出土遺物図11（縄文時代早期）……151
第86図　遺構出土遺物図12（縄文時代早期）……152
第87図　遺構出土遺物図13（縄文時代早期）……153
第88図　遺構出土遺物図14（縄文時代早期）……154
第89図　遺構出土遺物図15（縄文時代早期）……155
第90図　遺構出土遺物図16（縄文時代早期）……156
第91図　遺構出土遺物図17（縄文時代早期）……157
第92図　遺構出土遺物図18（縄文時代早期）……158
第93図　遺構出土遺物図19（縄文時代早期）……159
第94図　遺構出土遺物図20（縄文時代早期）……160
第95図　遺構出土遺物図21（縄文時代早期）……161
第96図　遺構外出土土器図１（縄文時代早期）……162
第97図　遺構外出土土器図２（縄文時代早期）……163
第98図　遺構外出土土器図３（縄文時代早期）……164
第99図　遺構外出土土器図４（縄文時代早期）……165
第100図　遺構外出土土器図５（縄文時代早期）……166
第101図　遺構外出土土器図６（縄文時代早期）……167
第102図　遺構外出土土器図７（縄文時代早期）……168
第103図　遺構外出土土器図８（縄文時代早期）……169
第104図　遺構外出土土器図９（縄文時代早期）……170
第105図　遺構外出土土器図10（縄文時代早期）……171
第106図　遺構外出土土器図11（縄文時代早期）……172
第107図　遺構外出土土器図12（縄文時代早期）……173
第108図　遺構外出土土器図13（縄文時代早期）……174

第109図 遺構外出土土器図14（縄文時代早期）……175
第110図 遺構外出土土器図15（縄文時代早期）……176
第111図 遺構外出土土器図16（縄文時代早期）……177
第112図 遺構外出土土器図17（縄文時代早期）……178
第113図 遺構外出土土器図18（縄文時代早期）……179
第114図 遺構外出土土器図19（縄文時代早期）……180
第115図 遺構外出土土器図20（縄文時代早期）……181
第116図 遺構外出土土器図21（縄文時代早期）……182
第117図 遺構外出土土器図22（縄文時代早期）……183
第118図 遺構外出土土器図23（縄文時代早期）……184
第119図 遺構外出土土器図24（縄文時代早期）……185
第120図 遺構外出土土器図25（縄文時代早期）……186
第121図 遺構外出土土器図26（縄文時代早期）……187
第122図 遺構外出土石器図１（縄文時代早期）……188
第123図 遺構外出土石器図２（縄文時代早期）……189
第124図 遺構外出土石器図３（縄文時代早期）……190
第125図 遺構外出土石器図４（縄文時代早期）……191
第126図 遺構外出土石器図５（縄文時代早期）……192
第127図 遺構外出土石器図６（縄文時代早期）……193
第128図 遺構外出土石器図７（縄文時代早期）……194
第129図 遺構外出土石器図８（縄文時代早期）……195
第130図 遺構外出土石器図９（縄文時代早期）……196
第131図 遺構外出土石器図10（縄文時代早期）……197
第132図 遺構外出土石器図11（縄文時代早期）……198
第133図 遺構外出土石器図12（縄文時代早期）……199
第134図 遺構外出土石器図13（縄文時代早期）……200
第135図 遺構外出土石器図14（縄文時代早期）……201
第136図 遺構外出土石器図15（縄文時代早期）……202
第137図 遺構外出土石器図16（縄文時代早期）……203
第138図 遺構外出土石器図17（縄文時代早期）……204
第139図 遺構外出土石器図18（縄文時代早期）……205
第140図 遺構外出土石器図19（縄文時代早期）……206
第141図 遺構外出土石器図20（縄文時代早期）……207
第142図 遺構外出土石器図21（縄文時代早期）……208
第143図 遺構外出土石器図22（縄文時代早期）……209
第144図 遺構外出土石器図23（縄文時代早期）……210
第145図 遺構外出土石器図24（縄文時代早期）……211
第146図 遺構外出土石器図25（縄文時代早期）……212
第147図 遺構外出土石器図26（縄文時代早期）……213
第148図 遺構外出土石器図27（縄文時代早期）……214
第149図 遺構外出土石器図28（縄文時代早期）……215
第150図 遺構外出土石器図29（縄文時代早期）……216
第151図 遺構外出土石器図30（縄文時代早期）……217
第152図 遺構外出土石器図31（縄文時代早期）……218
第153図 遺構外出土石器図32（縄文時代早期）……219
第154図 遺構外出土石器図33（縄文時代早期）……220
第155図 遺構外出土石器図34（縄文時代早期）……221
第156図 遺構外出土石器図35（縄文時代早期）……222
第157図 遺構外出土石器図36（縄文時代早期）……223
第158図 遺構外出土石器図37（縄文時代早期）……224
第159図 遺構外出土石器図38（縄文時代早期）……225
第160図 遺構外出土土器図１（縄文時代前～晩期）……226
第161図 遺構外出土土器図２（縄文時代前～晩期）……227
第162図 遺構外出土石器図１（縄文時代後期）……228
第163図 遺構外出土石器図２（縄文時代後期）……229
第164図 遺構出土遺物図１（奈良時代）……230
第165図 遺構出土遺物図２（奈良時代）……231
第166図 遺構出土遺物図３（奈良時代）……232
第167図 遺構出土遺物図４（奈良時代）……233
第168図 遺構出土遺物図５（奈良時代）……234
第169図 遺構出土遺物図６（第Ⅰ・Ⅱ面所属遺構）……235
第170図 遺構出土遺物図７（第Ⅰ・Ⅱ面所属遺構）……236
第171図 遺構外出土遺物図１（弥生時代）……237
第172図 遺構外出土遺物図２（古墳・奈良時代）……238
第173図 遺構外出土遺物図３（奈良時代）……239
第174図 遺構外出土遺物図４（奈良時代）……240
第175図 遺構外出土遺物図５（奈良時代）……241
第176図 遺構外出土遺物図６（平安時代・中世）……242
第177図 遺構外出土遺物図７（中世）……243
第178図 遺構外出土遺物図８（中世）……244
第179図 遺構外出土遺物図９（近世他）……245
第180図 遺構外出土金属製品図……246
第181図 遺物分布図（１～４期）……247
第182図 遺物分布図（５～８期）……248
第183図 遺物分布図（９～11期）……249
第184図 縄文早期土器分布図（２期）……250
第185図 縄文早期土器分布図（２期）……251
第186図 縄文早期土器分布図（２期）……252
第187図 縄文早期土器分布図（４期）……253
第188図 縄文早期土器分布図（４期）……254
第189図 縄文早期土器分布図（４期）……255
第190図 縄文早期石器分布図１……256
第191図 縄文早期石器分布図２……257
第192図 縄文早期石器分布図３……258
第193図 縄文早期石器石材分布図……259
第194図 金属製品分布図……260
第195図 炭化物採取地点平面・土層図……261
第196図 馬の骨格……261
第197図 石材遺物の原産地推定……262
第198図 玉川金山遺跡の判別図（Ｒｂ分率）……263
第199図 玉川金山遺跡の判別図（Ｓｒ分率）……263
第200図 玉川金山遺跡における原産地構成……264
第201図 石器時代における関東・中部地方の黒曜石原産地……265
第202図 「霧ヶ峰地区」における黒曜石原産地……266
第203図 地形の変遷……267
第204図 遺構分布図（子母口式併行期）……268
第205図 遺構分布図（鵜ヶ島台式期）……269
第206図 遺構分布図（奈良時代・中世）……270
第207図 遺構分布図（中世・近世）……271
第208図 炉穴群の変遷１……272
第209図 炉穴群の変遷２……273
第210図 子母口式併行期の土器文様……274
第211図 石器群構造模式図……275

写真図版目次

第Ⅴ章　使用痕分析写真……55

図版１　遺構俯瞰写真１……323
図版２　遺構俯瞰写真２……324
図版３　遺構俯瞰写真３……325
図版４　遺構俯瞰写真４……326
図版５　遺構俯瞰写真５……327
図版６　遺構俯瞰写真６……328
図版７　第Ⅰ面調査１……329
図版８　第Ⅰ面調査２……330
図版９　第Ⅰ面調査３……331
図版10　第Ⅰ面調査４……332
図版11　第Ⅱ面調査１……333
図版12　第Ⅱ面調査２……334
図版13　第Ⅱ面調査３……335
図版14　第Ⅱ面調査４……336
図版15　第Ⅱ面調査５……337
図版16　第Ⅱ面調査６……338
図版17　第Ⅱ面調査７……339
図版18　第Ⅱ面調査８……340
図版19　第Ⅱ面調査９……341
図版20　第Ⅲ面調査１……342
図版21　第Ⅲ面調査２……343
図版22　第Ⅲ面調査３……344
図版23　第Ⅲ面調査４……345
図版24　第Ⅲ面調査５……346
図版25　第Ⅲ面調査６……347
図版26　第Ⅲ面調査７……348
図版27　第Ⅲ面調査８……349
図版28　第Ⅲ面調査９……350
図版29　第Ⅲ面調査10……351
図版30　第Ⅲ面調査11……352
図版31　第Ⅲ面調査12……353
図版32　第Ⅲ面調査13……354
図版33　第Ⅲ面調査14……355
図版34　第Ⅲ面調査15……356
図版35　第Ⅲ面調査16……357
図版36　第Ⅲ面調査17……358
図版37　第Ⅲ面調査18……359
図版38　遺構出土縄文土器１……360
図版39　遺構出土縄文土器２……361
図版40　遺構出土縄文土器３……362
図版41　遺構出土縄文土器４……363
図版42　遺構出土縄文土器５……364
図版43　遺構出土縄文土器６……365
図版44　遺構外出土縄文土器１……366
図版45　遺構外出土縄文土器２……367
図版46　遺構外出土縄文土器３……368
図版47　遺構外出土縄文土器４……369
図版48　遺構外出土縄文土器５……370
図版49　遺構外出土縄文土器６……371
図版50　遺構出土遺物１……372
図版51　遺構出土遺物２……373
図版52　遺構出土遺物３・遺構外出土遺物１……374
図版53　遺構外出土遺物２……375
図版54　遺構外出土遺物３……376
図版55　石製遺物１……377
図版56　石製遺物２……378
図版57　石製遺物３……379
図版58　石製遺物４……380
図版59　石製遺物５……381
図版60　石製遺物６……382
図版61　石製遺物７……383
図版62　石製遺物８……384
図版63　石製遺物９……385
図版64　石製遺物10……386
図版65　石製遺物11……387
図版66　石製遺物12……388
図版67　石製遺物13……389
図版68　石製遺物14……390
図版69　石製遺物15……391
図版70　石製遺物16……392
図版71　石製遺物17……393
図版72　石製遺物18……394
図版73　石製遺物19……395
図版74　石製遺物20……396
図版75　金属製品……397
図版76　鉄滓・溶岩……398

表目次

第１表　遺跡一覧表……９
第２表　流域単位の遺跡分布一覧表……11
第３表　分析対象炭化物一覧表……41
第４表　関東・中部地方における黒曜石の測定値（強度比）……45
第５表　判別分析における群間距離（マハラノビス距離）……47
第６表　関東・中部地方における黒曜石原産地の区分……47
第７表　玉川金山遺跡出土黒曜石製遺物の原産地推定結果……49
第８表　微細物分析結果……53
第９表　玉川金山遺跡における原産地推定の集計結果……264
第10表　遺構一覧表……276
第11表　縄文土器一覧表……285
第12表　弥生～近世土器・陶磁器類一覧表……307
第13表　石器一覧表……313
第14表　金属製品一覧表……320

第Ⅰ章　調査経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

玉川金山遺跡は桂川の支流戸沢川と菅野川が合流する付近における川沿いの平坦地から山へ向かう緩斜面地に位置する。遺跡の北東側に縄文・古墳時代の散布地である玉川遺跡、西側に縄文時代の散布地である宮原遺跡が周知されている。

今回の調査は、都留バイパス（一般国道139号）建設に伴う発掘調査である。都留バイパスは都留市十日市場から田野倉に至る２車線道路として整備されている。玉川金山遺跡が所在する玉川字上ノ原は玉川から井倉に抜ける都留バイパス第２トンネルの北側に位置する。道路施工予定地点は埋蔵文化財包蔵地ではなかったが、１）北側に縄文・古墳時代の散布地である玉川遺跡があること、２）集落が展開するのに良好な地形であることなどから、試掘調査の必要性があるとされてきた。

平成15年12月19日に学術文化財課・県埋蔵文化財センター・国土交通省甲府河川国道事務所用地課・東洋測量が参加し、試掘調査事前協議が行われた。この協議で、用地取得分に係わり建物の完全撤去が終了した後に試掘調査に着手することが決まった。試掘調査を行う条件が整った後、平成16年２月16～19日に試掘調査を実施した。調査地点には重機が搬入できないため、トレンチを９本設定し、人力で掘り下げを行った。この結果、戸沢川の近くに設けた１～４トレンチからは、戸沢川からもたらされたと考えられる砂礫層が堆積しており、遺構・遺物は検出されなかった。これに対し、５～８トレンチからは縄文時代の土器片や平安時代～中世に位置づけられる青磁・白磁片などが出土し、これらの遺物に伴い、溝状遺構などのプランが確認された。このため、試掘調査地点を埋蔵文化財包蔵地として捉え、玉川金山遺跡として登録・周知した。

また、試掘調査の際に用地買収が終了しなかった地点については、用地取得後に試掘調査を実施することとされた。この後、平成16年３月８日に学術文化財課・県埋蔵文化財センター・国土交通省甲府河川国道事務所調査二課が参加した協議により、調査に入る際の条件などについて、平成16年度に国土交通省と協議することが決まった。このため、埋蔵文化財センターで調査に入る際に支障となる点を検討したところ、１）調査区内に石垣を伴う段差が数段あり、水路が走っているため、重機などを搬入するための道を造成する必要があること、２）調査区内に立木があり、伐採する必要性があること、３）水田が道路施工予定地点と地続きになっているため、農繁期に重機等の搬出入ができないこと、４）調査で生じる排土をおく予定地に盛土があるため、これを除去する必要があることなどが確認された。

（平成16年度調査）

平成16年７月23日・８月５日に学術文化財課・県埋蔵文化財センター・国土交通省甲府河川国道事務所調査二課が参加した協議により、調査のために搬入する重機を入れるための道を造成すること、調査対象範囲内にある立木を伐採すること、盛土を搬出することなどを農閑期にはいった段階で国土交通省が対応して行い、これらの問題点が解決した後に発掘調査に着手することに決定した。この後、８月27日に玉川地区の住民代表者に対して説明会を行い、発掘調査に係わる周知をし、９月28日に重機路造成や盛土の搬出を行う中村建設と協議を行った。10月14日に搬入路造成工事に伴い、掘削部分の立会調査を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。

この後、平成16年10月18日～平成17年２月18日まで１～３区を対象とした発掘調査を実施した。調査の結果、３区の東側に遺構が連続することが把握されたため、当該地点を本調査対象範囲に含めることとなった。

（平成17年度調査）

平成17年４月18日に学術文化財課・県埋蔵文化財センター・国土交通省甲府河川国道事務所調査二課が参加した協議により、予定調査期間である平成17年度後半における用地取得状況を鑑みて、調査地点を決定することとされた。この後、９月20日に再度協議を行ったものの、用地の取得状況に変化は見られなかったため、用地買収が終了した４区を対象に平成17年11月10日～平成18年１月26日まで発掘調査を実施した。

（平成18年度調査）

平成18年５月19日に学術文化財課・県埋蔵文化財センター・国土交通省甲府河川国道事務所調査二課・大月出

張所が参加した協議により、１区西側の試掘調査地点については農閑期に行うこと、本調査の範囲内にある障害物の取り扱いについて国土交通省で対応すること、などが決定した。この中で、３区の東側から遺構が検出されることは確実であるが、赤道が横断しているため、この地点については今後の協議で対応を検討することとされた。発掘調査を行う条件が整備された後に、平成18年８月14日～平成18年11月10日まで５区を対象とした発掘調査を実施した。この間、平成18年９月29日に国土交通省より調査終了地点を対象に工事発注を行うため、調査対象範囲の変更要請があった。取り扱いが保留となっていた赤道部分から遺構・遺物が出土するのは確実であり、立会調査では対応不可能であることから、８月から調査していた５区を第Ⅱ面まででいったん終了し、赤道部分の調査を先行して行うよう、調査計画を変更した。赤道下に敷設された水道管の移動や迂回路の設営などが終了した後、平成18年11月13日～平成19年１月19日まで６区の調査を行った。

また、平成18年11月24日に１区西側の用地取得地点を対象とした試掘調査を行った。調査では主軸を南北及び東西方向に持つトレンチを合計５本設け、埋蔵文化財の有無について確認した。この結果、最も戸沢川に近い３号トレンチからは砂礫層しか検出されなかったのに対し、１・２号トレンチからは遺物を伴う土層が確認された。このため、東西方向にトレンチを設け（４・５トレンチ）、砂礫層との境界を検出し、本調査対象面積の絞り込みを行った。

この試掘調査の結果を受け、平成19年１月23日・２月２日に学術文化財課・県埋蔵文化財センター・国土交通省甲府河川国道事務所調査二課・大月出張所が参加した協議を行い、平成19年度の発掘調査について、７・８区を５月～８月、５区と９・10区を９月～12月まで調査することとした。７・８区は農繁期中に調査を行うため、調査区内に水が流入することが懸念されることから、シートパイルを打設して調査を行うこととなった。

また、平成18年度に国土交通省が発注した工事が１～３月に行われることとなったため、埋蔵文化財包蔵地を掘削する可能性がある地点について、平成19年１月30・31日、２月７日に立会調査を実施した。立会調査地点の内、埋設水路を造成した地点からは、遺構・遺物が確認されたため、記録保存措置をとった。遺構が確認された掘削範囲を12区とした。

（平成19年度調査）

平成19年４月23日に学術文化財課・県埋蔵文化財センター・国土交通省甲府河川国道事務所調査二課・富士吉田出張所が参加した協議により、７・８区を対象とした調査は５月14日に着手すること、調査が終了した後に国土交通省が調査区の埋め戻しと搬入路造成を行うこと、月に一回発掘調査に係わる工程会議を行うことなどが決定した。この後、平成19年５月14日～平成19年８月３日まで７・８区を対象とした発掘調査を実施した。

８月中に調査区の埋め戻しと搬入路造成工事が終了したため、平成19年９月３日～平成20年１月31日まで５・９～10区を対象とした発掘調査を実施した。この間、12月の発掘調査工程会議において、調査が必要な地点が把握された。このため、平成20年12月20日・１月７日に学術文化財課・県埋蔵文化財センター・国土交通省甲府河川国道事務所調査二課・富士吉田出張所が参加した協議により、当該地点を11区とし、１月まで期間を延長して調査を行うこととなった。11区については、平成20年１月８日～１月31日まで調査を実施した。

また、５・９～10区の調査期間中に国土交通省が発注した工事を行うこととなったため、包蔵地を掘削する可能性がある地点について、平成19年11月26～28日、12月７・10日に立会調査を実施した。遺構・遺物を包含する土層も確認されたが、埋設水路を造成した地点から遺構・遺物は確認されなかった。

第２節　調査経過

１．発掘調査の経過

玉川金山遺跡の発掘調査は用地の完全取得を待たずに、用地が取得された地点から調査を行ったことや、調査対象地内に水路や赤道が横断していたため、調査区が細かく設定されることとなった。

調査が進行した経過は、平成16年度に１～３区、平成17年度に４区、平成18年度に５・６区、平成19年度の前半（平成19年５～８月）に７・８区、平成19年度の後半（平成19年９月～平成20年１月）に５・９～11区の調査を行った。以下に年度ごとの調査経過について記述する。

（平成16年度）

調査に際し、施設の設営に先行して表土剥ぎを実施した。第１回目の表土剥ぎは降雨のため断続的となり、10日間（ 10月18・19・22・25・27・28日、11月２・４・５・８日）行った。この内、１区第Ⅰ面を10月18・19日、２区第Ⅰ面を10月22・25日、３区第Ⅰ面を10月27・28日、11月２・４・５・８日に行った。なお、11月１日は排土の搬出及び盛土の造成を、重機・ダンプなどを用いて行った。１区では70～80cm 掘り下げた位置で遺物を伴う黒色土層が確認されたので、平面的に広げたところ、この土層の上面から焼土集中が検出されたため、遺構面として認定した。２区の表土剥ぎでは１区で検出された黒色土を鍵層として掘り下げを進めたところ、調査区東側では水田床土の直下から検出されたのに対して、西側ではより深い位置から確認された。このため、黒色土を基準に表土剥ぎを進めた結果、緩斜面を呈する地形となった。この黒色土からは１区と同様に焼土集中が複数確認されたため、同一時期の遺構面であることが分かった。３区の表土剥ぎでは調査区の北側と南側に東西方向に主軸を持つトレンチを１本ずつ設けたところ、地表下２ｍの位置から縄文土器が出土した。このため、この高さを基準に東側から掘削を行ったところ、調査区中央付近からより高い位置で遺構が確認されたので、地表下１ｍ程度の掘削とした。３区では調査区の東側は第Ⅲ面、中央は第Ⅱ面、西側では第Ⅰ面と時代の異なる遺構面が混在することとなった。なお、２区の南側にトレンチを設けて掘り下げたところ、第Ⅰ面より下に遺物を伴う２枚の遺構面が確認されたため、第Ⅰ面の遺構である焼土集中を記録した後、11月９・10日に再び表土剥ぎを行った。また、プレハブと発掘調査用の機材を平成16年10月21・22日に搬入し、10月22日に短期間非常勤嘱託を雇用して、発掘調査を開始した。基準点測量・グリッド杭・標高杭設置は11月17・18日に行った。この後、12月10・11日に遺構空中撮影を行ったが､撮影した対象は１・２区では第Ⅱ面、３区では第Ⅱ面・第Ⅲ面が撮影されることとなった。

第２回目の表土剥ぎは12月20・21・22・24日に行い、２・３区を対象として第Ⅲ面の検出を行った。１区ではトレンチを設定して深掘りした結果、第Ⅱ面より下には砂礫層が入りこんでおり、第Ⅲ面に対比し得る土層が検出されなかったことから、表土剥ぎの対象外とした。また、３区では明茶褐色土層が確認面より下に厚く堆積しているのに対し、２区では明茶褐色土層がなく、厚く堆積した暗褐色土層の下位に砂礫層が検出され、調査区によって堆積環境が大きく異なる様相が確認された。３区では、暗褐色土層中に遺物が包含されるため、暗褐色土層上位の遺構を調査した後に人力で掘削した。調査区北東端において第Ⅲ面の遺構を完掘していなかったが、調査工程上、遺構空中撮影を行う必要性があるため、平成17年1月31日に実施した。この後、平成17年２月９日にプレハブ・発掘調査用機材を撤去し、調査区北東端等の調査を２月15日に終えた。

（平成17年度）

調査に際し、施設の設営に先行して表土剥ぎを実施した。第１回目の表土剥ぎは平成17年11月10・11日に終えた。表土剥ぎに際しては、平成16年度調査における２区第Ⅰ面と対比される土層をトレンチで確認した後、全面に掘り下げを進めた。しかし、調査区の東端を中心に第Ⅱ面の構成土壌が検出されることが分かった。これは、水田を造成する段階で地形を改変した（傾斜地を平坦にし、２・４区と３区の間に水路を設けた）ため、平成16年度に第Ⅰ面と捉えていた面を削平したと考えられる。地形改変を行った時期であるが、近世段階における玉川村を描いた地図に当該地点周辺が水田の表記がされていることや、水田床土の中に近世の陶磁器片を伴うことから、江戸時代に切土等を行い、水田を造成したと考えられる。また、表土剥ぎの結果、第Ⅱ面の下にある火山灰層より遺構が確認されることが分かったため、これを遺構確認面と捉えて調査対象とした。プレハブと発掘調査用の機材は11月14日に搬入し､11月15日に短期間非常勤嘱託を雇用して発掘調査を開始した｡基準点測量・グリッド杭・標高杭設置を11月16日に行った。この後、11月24日まで第Ⅰ面の調査を行い、11月28日に４区第Ⅰ面を対象とした遺構空中撮影を行った。

第２回目の表土剥ぎは11月29日に行い、第Ⅱ面の検出を行った。グリッド杭・標高杭設置を12月５日に行った。12月22日まで第Ⅱ面の調査を実施し、12月26日に４区第Ⅱ面を対象とした遺構空中撮影を行った。

第３回目の表土剥ぎは平成18年１月10～12日に行い、第Ⅲ面の検出を行った。表土剥ぎの過程で、第Ⅲ面の上位に堆積する土壌として、調査区の北側を中心に花崗岩片を多量に含む土層が確認された。この土層は、山から地滑り的に供給されたものだと考えられる。また、平成16年度２区の調査によって明茶褐色土層が確認されない

ことが把握されているため、暗褐色土層を対象に調査を実施した。グリッド杭・標高杭設置を１月13日に行った。この後、１月24日まで第Ⅲ面の調査を実施し、１月25日に４区第Ⅲ面を対象とした遺構空中撮影を行った。１月26日に遺構の測量を終了し、プレハブ・発掘調査用機材を撤去した。なお、平成18年度調査時に４区の搬入路を造成しなければならないため、平成18年２月２・３・６・８・９日に調査区の埋め戻しを行った。

（平成18年度）

プレハブと発掘調査用の機材を平成18年８月14・15日に搬入した後に、８月16・18・21日に表土剥ぎを実施した。掘り下げにあたっては、平成16・17年度調査時の１～４区第Ⅰ面に対比し得る土層を検出し、この層を鍵層として全面に掘削を展開した。８月23日に短期間非常勤嘱託を雇用して発掘調査を開始した。基準点測量を８月23日、グリッド杭・標高杭設置を８月24日に行った。５区第Ⅰ面の調査は９月20日までに掘り下げなどの作業を終え、９月21日に空中写真撮影を実施した。

第２回目の表土剥ぎは９月26・28日に行い、第Ⅱ面の検出を行った。グリッド杭・標高杭設置を10月３日に行った。10月25日まで５区第Ⅱ面の調査を実施し、10月26日に遺構空中撮影を行った。調査の過程において、トレンチを設定したところ、４区と同様に第Ⅱ面の下にある火山灰層から遺構が検出されたため、この土層を対象とした表土剥ぎを実施した。

第３回目の表土剥ぎは11月１・２・６・７日に行い、遺構面の検出を行った。この後、11月10日に調査を終了した。この間、国土交通省より調査地点の変更要請があったため、５区第Ⅲ面の調査は平成19年度に行うこととし、６区の調査に着手した。調査に先立ち、排土を移動する必要があったため、９・10日に盛土の造成を行った。

６区の表土剥ぎは11月13・14日に行い、第Ⅰ面の検出を行った。グリッド杭・標高杭設置を11月16日に行った。第Ⅰ面の調査は11月22日に終了した。第２回目の表土剥ぎは11月24日に行い、第Ⅱ面の検出を行った。グリッド杭・標高杭設置を11月29日に行った。第Ⅱ面の調査は12月５日に終了した。第３回目の表土剥ぎは12月６・７日に行い、暗褐色土層の検出を行った。グリッド杭・標高杭設置を12月12日に行った。また、暗褐色土層にある遺構の調査に引き続き、明茶褐色土層を調査し、平成19年１月17日に第Ⅲ面の調査を終了した。１月18日に遺構空中撮影を行い、１月19日にプレハブ・発掘調査用機材を撤去して調査を終了した。

（平成19年度）

７・８区

プレハブと発掘調査用の機材を平成19年５月14日に搬入したのと同時に表土剥ぎを開始し、５月14～16日まで行った。表土剥ぎと併行して、５月15日に短期間非常勤嘱託を雇用して発掘調査を開始した。基準点測量・グリッド杭・標高杭設置を５月18日に行った。この後６月12日まで第Ⅰ面までの調査を終え、６月13日に遺構空中撮影を行った。なお、第Ⅰ面と第Ⅱ面の間は大きなレベル差がないため、重機による表土剥ぎは行わなかった。

第Ⅱ面の調査としては、７月19日に遺構空中撮影を行い、７月26日まで調査を行った後に、７月30日にプレハブ・発掘調査用機材を撤去して調査を終了した。

５・９～11区

調査対象は、５区第Ⅲ面・９区第Ⅰ～Ⅲ面・10区第Ⅱ面～Ⅲ面（第Ⅰ面は削平されたため、存在せず）である。このため、９区第Ⅰ・Ⅱ面と10区第Ⅱ面を先行して行い、第Ⅲ面調査時には、５・９・10区を一括して調査する計画を立てた。このため、第Ⅲ面の調査時には調査区の境界がなくなることから、第Ⅲ面の遺物取り上げ時に５区出土遺物として把握した。プレハブと発掘調査用の機材を平成19年９月３日に搬入したのと同時に表土剥ぎを開始し、９月３・４日の工程で行った。表土剥ぎと併行して、９月３日に短期間非常勤嘱託を雇用して発掘調査を開始した。基準点測量・グリッド杭・標高杭設置を９月11日に行った。この後、９月19日に９区第Ⅰ面、10月２日に９区第Ⅱ面、10月３日に10区第Ⅱ面の調査を終了した。10月9日に９区第Ⅱ面・10区第Ⅱ面を対象とした空中写真撮影を実施した。９・10区の調査と併行して、９月13日から５区の暗褐色土層までの表土剥ぎに着手した。９月13～10月１日まで行った。表土剥ぎが終了した地点から順次、遺構確認を行った。また、第Ⅲ面を検出するためのトレンチを設け、層厚を調べると共に、遺物の分布状況を確認することにより、次回に行う表土剥ぎの参考資料とした。

10月11日に９区を対象に表土剥ぎを行ったところ、第Ⅱ面に比定される土層から遺構が確認されたため、調査

対象として扱い、10月18日まで調査を実施した。これと併行して、５・９・10区の暗褐色土層を対象として10月15日～10月23日まで表土剥ぎを行った。ただし、５区のトレンチ調査により遺物が包含されないことが確認された範囲は明茶褐色土層まで掘り下げを実施した。この後、暗褐色土層と明茶褐色土層を併行して調査し、12月14日に遺構空中撮影を行った。12月26日に第Ⅲ面の調査を終了した。

11区については、１月８日から表土剥ぎに着手し、１月10日に11区第Ⅰ面の調査を終了した。次いで、１月10日に表土剥ぎに着手し、１月11日に第Ⅱ面の調査を終了した。暗褐色土層を対象とした表土剥ぎは、１月15・16日に行った。調査は１月31日まで行い、終了した後、プレハブ・発掘調査用機材を撤去して調査を終了した。

また、平成16～19年度の発掘調査結果について、現場速報「玉川金山ニュース」を作成し、遺跡の周知に努めた。なお、「玉川金山ニュース」は県埋蔵文化財センターのホームページ上に掲載している。

（山梨県埋蔵文化財センターのＵＲＬはhttp : //pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/index.html である）

２．整理作業の経過

整理作業は平成16年度（平成17年１月６日～３月16日）、平成17年度（平成17年５月９日～10月31日、平成18年２月16日～３月23日）と平成18年度（平成18年５月８日～７月26日、10月３日～平成19年３月16日）、平成19年度（平成19年５月７日～５月30日、９月３日～平成20年３月14日）、平成20年度（平成20年７月１日～平成21年３月19日）に実施した。年度ごとの作業内容は、平成16年度に平成16年度出土遺物の水洗・注記・接合、平成17年度に平成16年度出土遺物の拓本・断面実測・平成16年度遺構図整理・遺構トレースと平成17年度出土遺物の水洗・注記・接合、平成18年度に平成16年度出土遺物の拓本・断面実測・平成16年度遺構図整理・遺構トレースと平成18年度出土遺物の水洗・注記・接合、平成19年度に平成17・18年度出土遺物の拓本・断面実測と平成19年度出土遺物の水洗・注記・接合、平成20年度に平成17～19年度出土遺物実測・遺物トレース・遺物図版作成・遺構台帳作成・遺構トレース・遺構図版作成・写真図版作成・遺物台帳作成を行った。

原稿執筆は、平成19年２月20日より開始し、平成21年１月16日に終了した。報告書の入稿は１月29日であり、報告書は３月31日に刊行された。委託業務としては、分析業務ではＡＭＳ年代測定、動物骨分析、黒曜石産地分析、土壌分析、石器の使用痕分析を実施し、他に土器・石器図化、鉄・銅製品保存処理を行った。なお、平成16～19年度に実施した県埋蔵文化財センター主催の遺跡展に出土遺物を出展した。

３．調査に係る事務手続き

発掘調査に際しては、文化財保護法に基づく手続きの他に、発掘調査の成果に係る報告を行った。それらの事務手続きは以下の通りである。なお、平成19年度は、７・８区と５・９～11区に調査期間を分けて実施し、発見通知・完了通知はそれぞれ提出したが、発掘通知と実績報告は年度単位で報告した。また、文化財保護法第99条第２項（平成16年度は改正前であるため、第59条第２項）に基づく発見通知は山梨県教育委員会教育長に提出した後、学術文化財課から所轄の警察署に提出された。

（平成16年度）

平成16年９月21日　文化財保護法第58条第２項に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長に提出
平成17年２月18日　文化財保護法第59条第２項に基づく発見通知を山梨県教育委員会教育長に提出
平成17年３月９日　発掘調査の完了報告を山梨県教育委員会教育長に提出
平成17年３月23日　発掘調査・整理作業の実績報告を山梨県教育委員会教育長に提出

（平成17年度）

平成17年11月10日　文化財保護法第99条第２項に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長に提出
平成18年１月26日　文化財保護法第100条第２項に基づく発見通知を山梨県教育委員会教育長に提出
平成18年２月16日　発掘調査の完了報告を山梨県教育委員会教育長に提出
平成18年３月16日　発掘調査・整理作業の実績報告を山梨県教育委員会教育長に提出

（平成18年度）

平成18年８月14日　文化財保護法第99条第２項に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長に提出
平成19年１月23日　文化財保護法第100条第２項に基づく発見通知を山梨県教育委員会教育長に提出
平成19年１月31日　発掘調査の完了報告を山梨県教育委員会教育長に提出

平成19年２月22日　　立会調査の完了報告を山梨県教育委員会教育長に提出
平成19年３月15日　　発掘調査・整理作業の実績報告を山梨県教育委員会教育長に提出
（平成19年度）
７・８区
平成19年５月14日　　文化財保護法第99条第２項に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長に提出
平成19年８月３日　　文化財保護法第100条第２項に基づく発見通知を山梨県教育委員会教育長に提出
平成19年８月20日　　発掘調査の完了報告を山梨県教育委員会教育長に提出
５・９～11区
平成20年２月１日　　文化財保護法第100条第２項に基づく発見通知を山梨県教育委員会教育長に提出
平成20年２月15日　　発掘調査の完了報告を山梨県教育委員会教育長に提出
平成20年２月15日　　立会調査の完了報告を山梨県教育委員会教育長に提出
平成20年３月11日　　発掘調査・整理作業の実績報告を山梨県教育委員会教育長に提出

第３節　調査組織

調査主体　山梨県教育委員会
調査機関　山梨県埋蔵文化財センター
所長　渡辺 誠（平成16・17年度）　末木 健（平成18・19年度）　新津 健（平成20年度）
次長　山崎義雄（平成16年度）　末木 健（平成16・17年度）　窪田守忠（平成17年度）
　　小澤 稔（平成18・19年度）　小野正文（平成19・20年度）　渡辺晶夫（平成20年度）
調査課長　坂本美夫（平成16～19年度）　小林広和（平成20年度）
担当リーダー　小林広和（平成16・17年度）　山本茂樹（平成18・20年度）　保坂和博（平成19年度）
発掘調査・整理報告担当　主任文化財主事　網倉邦生
発掘調査担当　主任文化財主事　笠原みゆき（平成16年度）　副主査文化財主事　田口明子（平成19年度）　非常勤嘱託　正木季洋（平成16年度）　非常勤嘱託　酒井玄暁（平成17～19年度）
作業員（五十音順）
　発掘調査　青柳富夫・青柳良子・阿左美博資・天野智子・天野武子・天野美津子・石井 昇・伊田修勇・伊田弘子・入倉大東・岩倉里珠・牛田幸子・斧田文夫・後藤明美・小林昭子・小林清子・小林 定・小林信平・小林正子・小林正彦・小林安典・斉藤直樹・酒井仙一・酒井幸男・佐々木寛幸・佐藤あさ子・佐藤幸三・志村つね子・城之内義昭・鈴木 博・鈴木八重子・田辺秋太郎・椿 孝二・遠木常久・原清吉・堀内知子・宮下勝子・宮下 茂・武藤朝雄・元木公英・山下千秋・渡辺経彦
　整理作業　雨宮久美子・井上 絢・岡 和子・梶原初美・栗原礼子・斉藤律子・佐野眞雪・清水真弓・寺内みち子・中川美千子・西山和子・萩原里江子・樋口昭子・平川涼子・深澤茂子・森 奈奈

第Ⅱ章　地理的環境と歴史的環境

第１節　地理的環境

玉川金山遺跡は、都留市玉川字上ノ原に位置している。都留市は山梨県東部地域に位置しており、地理的環境が山梨県中西部地域と大きく異なる。山梨県東部地域の地形を大まかに大別すると、山地と山の間を開析した河川が形成した平坦地に分けられる。都留市もこのような地形の例外ではなく、市域の大部分を山地が占め、中央部北西寄りを桂川が流下している。桂川とその支流域には河岸段丘が発達しており、河川流域の地形形成過程において、河川による削剥作用を受けていると考えられる。また、山梨県東部地域の特徴として、富士山起源などの火山灰が厚く堆積した場所という点が挙げられる。つまり、都留市における完新世以降の地形形成史の中では、火山灰の降下と河川による削剥が地形を変化させる作用だと考えられる。都留市の南側に立地する富士山からは、火山泥流や溶岩などが流出し、地形環境に大きな影響を与えている。富士山周辺からは噴出年代が特定された様々な溶岩流が確認されているが、都留市内においても約8,000～8,500年前に流出したとされる猿橋溶岩が確認されている。猿橋溶岩は桂川を流下し、大月市猿橋まで達しており、桂川流域に大きな影響を与えたと考えられる。

更新世を含めて地形形成史をより巨視的に見ると、都留市はフォッサマグナの中に位置しており、隆起と沈降が繰り返された結果、現在の地形が形成された。都留市の地形は、一連の地殻変動によって極めて急峻な渓谷と山地になったと言える。（上杉　1987）。

玉川金山遺跡は戸沢川と菅野川の合流地点付近に立地する。北から東側にかけて生出山を中心とする山塊が位置しており、西側と南側にも山塊が広がる。戸沢川の対岸には平坦地が広がっているが、菅野川による開析の結果形成されたと考えられる。玉川金山遺跡の西南側には玉川の集落が広がっているが、遺跡が確認された地点は調査に着手する前の時点では水田や畑を営んでおり、集落の外縁部に位置している。山地と河川沿いの平坦地の間に位置する、緩斜面を呈する地形は遺跡より北西側にも広がる。広域的に見ると、このような地形は生出山及びその周囲の山塊と戸沢川の間にある緩斜面に位置している。今回遺跡が発見されたことからも、周囲における包蔵地の存否については留意する必要がある。

玉川金山遺跡は調査区単位でその地形特徴が異なる。１・７・８区はほぼ平坦な地形であり、中世以前においては戸沢川の流路沿いであったと推察される。２～６・９～11区は緩斜面を呈しているが、山に近い５・６・９～11区の方が傾斜は強く、２～４区の方に向かうにしたがって、緩い傾斜となる。

第２節　歴史的環境

１．埋蔵文化財包蔵地

都留市内において埋蔵文化財包蔵地に係わる調査は戦前から行われており、研究史も長い期間にわたっている。文化財保護法が整備される以前においては、大学の研究室や郷土史家を中心に調査が進められていった。このような調査の進展の中で、戦前において既に都留市内の遺跡一覧が報告されている。昭和３年において、羽田一成・仁科義男氏が都留市内の遺跡として47ヶ所の遺跡を確認し、昭和10年において、仁科義男氏は都留市内の遺跡として46ヶ所の遺跡を報告している（奥　1987）。この段階で把握された遺跡の中には、牛石遺跡など戦後の調査によって大きな成果を得たものも含まれている。

行政が調査の主体となる時期において、都留市における埋蔵文化財包蔵地は段階的に増加していった。行政の報告事例として、山梨県埋蔵文化財包蔵地分布調査により都留市内では昭和37年に34ヶ所、昭和47年に57ヶ所の遺跡、昭和56年に刊行された『全国遺跡地図　山梨県』では都留市内において60ヶ所の遺跡が報告された。平成20年の都留市教育委員会による遺跡一覧データによると都留市内には82ヶ所の遺跡が登録されている。

玉川金山遺跡の周辺にある遺跡としては、北側に縄文・古墳時代の散布地である玉川遺跡や縄文時代早期の住居跡が発見された生出山山頂遺跡、北東側に弥生時代の遺構が確認された天正寺遺跡、西側に縄文時代の散布地である宮原遺跡が立地する。生出山山頂遺跡は標高701mの生出山山頂に位置している。発掘調査の結果、縄文

第１図　遺跡分布図

第１表　遺跡一覧表

	遺　跡　名	種別	時　　代		遺　跡　名	種別	時　　代
1	大日影遺跡	散布地	縄文・平安	19	城の腰遺跡	散布地	弥生
2	横吹遺跡	散布地	縄文	20	谷村城	城館跡	中世
3	古谷戸遺跡	散布地	縄文	21	深田遺跡	散布地	縄文・古墳
4	亀石遺跡	散布地	縄文・平安	22	谷村の烽火台	城館跡	中世
5	下久保遺跡	散布地	縄文	23	宮原遺跡	散布地	縄文
6	大久保遺跡	散布地	縄文	24	玉川遺跡	散布地	縄文・古墳
7	九鬼Ⅱ遺跡	散布地	縄文・平安	25	住吉遺跡	集落跡	縄文
8	九鬼Ⅰ遺跡	散布地	縄文・奈良・平安	26	海戸遺跡	散布地	縄文
9	前ヶ久保遺跡	散布地	縄文・奈良・平安	27	天神山遺跡	散布地	縄文・古墳
10	美通遺跡	集落跡	縄文	28	桃曽根遺跡	散布地	縄文・弥生
11	鷹の巣遺跡	散布地	縄文・奈良・平安	28	引の田遺跡	散布地	縄文
12	徳重遺跡	散布地	縄文	30	西畑遺跡	散布地	縄文
13	山梨遺跡	散布地	縄文	31	金山遺跡	散布地	縄文
14	生出山山頂遺跡	集落跡	縄文・弥生・平安	32	十二割海戸遺跡	散布地	古墳・奈良・平安
15	与縄日向遺跡	散布地	縄文	33	中野原遺跡	散布地	縄文・古墳
16	天正寺遺跡	集落跡	縄文・弥生・中世	34	小野浜沢遺跡	散布地	縄文・平安
17	日影松原遺跡	散布地	縄文	35	上小野遺跡	散布地	縄文・平安
18	与縄城跡	城館跡	中世				

時代早期の住居跡１軒・小竪穴３基や、弥生時代中期・平安時代の遺物が出土した。また、生出山の東南側に連続する山塊の西向き斜面からは天正寺遺跡が確認された。天正寺遺跡からは、弥生時代前期・中期の遺構・遺物が検出されている。このような包蔵地の分布から、生出山周辺の山麓をも居住領域として活用した状況が理解される。また、今回の調査により玉川金山遺跡から縄文時代早期後半の集落跡が確認されたが、集落の領域についても、より広域な範囲を含めて検討する必要性があるといえる。

玉川金山遺跡の西側に位置する都留市の市街地からは三ノ側遺跡や鷹の巣遺跡など奈良・平安時代の集落跡が確認されている。特に三ノ側遺跡からは「和同開珎」・「富寿神寶」などの皇朝十二銭や銅製の小壺が出土しており、甲斐国都留郡多良郷の中心的な集落であることが指摘されている（奈良　1987）。この指摘が正しく、奈良・平安時代において都留市の市街地が集落として開発されていた場合には、玉川金山遺跡はその周囲に広がる衛星的な集落であったと位置づけられる。

玉川金山遺跡周辺に位置する中世段階の遺跡としては、北東側に与縄城跡、西側に谷村の烽火台があり、都留市街地の北西側には勝山城跡が位置している。勝山城は享禄五年（1532）に小山田氏が中津森館から移した谷村館に伴う要害として築かれ、戦国時代末期から江戸時代初頭にかけては山城として用いられたと考えられている。天正十年（1582）に小山田氏が滅亡した後、天正壬午の戦いの際に小田原北条氏が谷村に入るが、甲斐が徳川家康の所領となると都留郡ではその家臣鳥居元忠の支配が家康関東移封の天正十八年まで続いた。

天正十八年7月に羽柴秀勝、天正十九年に加藤光泰、文禄二年に浅野長政が甲斐を治めるようになると、それぞれその家臣である三輪近家、加藤光忠、浅野氏重が谷村城代となった。この後、慶長六年に鳥居成次が城主となるが、寛永九年に都留郡は幕府領となる。寛永十年に秋元泰朝が入封すると、宝永元年まで秋元氏が谷村藩を支配した。宝永元年以降都留郡は幕府領、宝永三年に甲府藩預地となるが、正徳三年（1713）には再び幕府領となって、幕末を迎えている。（平凡社　1995）

２．埋蔵文化財包蔵地とその立地

ここでは、河川の流域単位で見た遺跡分布の差異性について触れていきたい。河川の区分と範囲の区分については、都留市史に準拠する。すなわち、大幡川・鹿留川・柄杓流川・菅野川・戸沢川・朝日川・高川・桂川に流域を分け、その流域に位置する遺跡の分布をみた（第２表）。この作業を行う際に使用したデータは平成19年度に学術文化財課がまとめた、埋蔵文化財包蔵地に係わるデータである。

その結果、最も遺跡数の多いのが桂川流域であり、菅野川・大幡川流域が次に続くことが分かった。これに対し、鹿留川・戸沢川流域は遺跡の数が少ない。これは河川流域に広がる平坦地の面積の差であるとともに、河道

の安定性が反映していると考えられる。また、菅野川・高川・桂川の流域は断絶があるにせよ、ほぼ連続して遺跡が立地するのに対し、他の流域では縄文時代中期をピークに遺跡数は減少する。このような流域ごとの遺跡数の多寡は、時代におけるセトルメントの差異性を示している。例えば縄文時代の前期から後期にかけては、流域のほぼ全域に遺跡が分布するが、これは資源をむらなく獲得するために活動した結果と考えられる。これに対し、古墳時代以降においては菅野川と桂川流域が分布の中心となり、他の流域における遺跡分布は少なくなるが、これは土地の利用を集約化した結果と考えることができるかもしれない。

時代ごとに遺跡数の変遷をみると縄文時代中期を頂点に遺跡数は減少し、縄文時代晩期と弥生時代に最も少ない時期を迎える。古墳時代と奈良時代に遺跡数は緩やかに回復し、平安時代に再び増加するという形に変化する。

３．その他の文化財

都留市内における県指定の文化財としては、長安寺本堂附板札１枚、経石２個（建造物）・中谷遺跡出土土偶（考古資料）・勝山城跡（史跡）・真福寺の大カヤ（天然記念物）などが登録されている。この内、長安寺本堂は浄土宗の寺院であり、現存する本堂は享保十年（1725）に再建された。長安寺の開基は鳥居元忠で、天正十三年（1586）に小山田氏別邸を修営して創建されたと伝えられる。

山梨県内において、板碑は国中と郡内で分布が明確に異なる。郡内地域では武蔵型板碑、国中地域では在地型板碑が確認される。また、石幢は国中地域のみ分布しており、武蔵型板碑と在地型板碑・石幢は排他的な分布傾向を示す。これは、郡内と国中の差異を示すとともに、郡内の関東からの影響を示唆している事例である。また、在地型板碑・石幢は甲斐国独自の形式で造られ、周辺地域に伝播することはなかったことから、地形的な要因を背景とした独自の石造物文化が成立していたことが推察される。

都留市において、武蔵型板碑は文献などにより10点の資料が推定されるが、現在確認されるのは８点である。紀年銘が最も古いもので真福寺にある延文二年（1357）の資料であり、最も新しいもので大平薬師堂の嘉吉二年（1442）銘の資料が挙げられる（ただし、大平薬師堂の嘉吉二年（1442）銘の資料は現存しない）。郡内で確認される武蔵型板碑の年代は1350～1390年代が最も多いが、都留市の年代が判明している資料の内、３点を除いて1350～1390年代の間である。都留市内における武蔵型板碑の分布を検討すると、朝日川流域から４点・菅野川流域から２点の板碑が確認されている。朝日川流域を東進すると秋山村から神奈川県藤野町へ、菅野川沿いからは道志村を経由して神奈川県津久井町へつながる。板碑が原位置でない可能性も考慮にいれる必要があるが、山梨県東部の南側（都留市・富士吉田市・秋山村・道志村・西桂村・忍野村・山中湖村・富士河口湖村・鳴沢村）の中で武蔵型板碑が所在するのは、都留市・富士吉田市・秋山村・道志村に限られるため、武蔵型板碑がもたらされたのもこの２つのルートが想定される。

なお、都留市朝日馬場にある本光寺の板碑については、都留市朝日曽雌の伝昌寺に所在したものが盗難にあい、発見されて本光寺にもたらされたものだという。伝昌寺については、天文年間（1532～1555）に創建されたとされており、板碑の銘の方が古い。真福寺にある３点の板碑についても、銘が真福寺の創建年代である文安四年（1448）より古いため、菅野川流域にあった板碑が集められた可能性もある。（山梨県　2004）

４．文献資料

江戸時代における玉川金山遺跡周辺は玉川村内に比定される。『甲斐国志』に「戸沢・玉川、古ヘハ皆ナ朝日ト同村也」と記され、寛文九年（1669）の検地を契機にはじめて別村になるとある。この記述によると、玉川村を含む朝日郷が近世を遡る可能性を示唆しているが、中世段階において集落が展開していたという直接的な記録はない。遺跡周辺の地名として、戸沢川対岸に位置する法能は、戦国時代の文献にみえる「保尾」・「保之尾」の遺称地とされている。（平凡社　1995）。都留市小野にある小野熊野神社は「保之尾之惣社権現」に比定されているが、同社は法能を含む熊井戸・小野・菅野など菅野川一帯の諸村の産土神だったという。『甲斐国志』では、このことから、菅野川一帯を保尾郷の推定地に比定している。今回の調査の結果、玉川金山遺跡内に中世段階における集落の存在を示唆する遺構は確認されなかったが、地下式土坑などが検出されたことから、居住域以外の空間だったと位置づけられる。ただし、玉川金山遺跡を含む戸沢川と菅野川の合流地点より北西側に位置する、

第２図　都留市流域区分図（『都留市史』Ｐ114図を一部改変し掲載）

第２表　流域単位の遺跡分布一覧表

		高川流域	桂川流域	朝日川流域	戸沢川流域	菅野川流域	鹿留川流域	柄杓流川流域	大幡川流域	小　計
縄文時代	早期	0	1	3	0	2	0	1	5	12
	前期	5	6	1	1	3	0	3	3	22
	中期	5	11	5	4	7	0	5	11	48
	後期	1	5	3	0	4	1	2	1	17
	晩期	1	0	1	0	0	1	2	0	5
弥生時代		0	1	0	1	1	0	1	1	5
古墳時代		1	2	0	0	4	0	0	0	7
奈良時代		2	4	0	0	2	0	0	1	9
平安時代		4	9	2	0	6	0	0	1	22
中　世		0	7	2	0	0	0	1	2	12
小　計		19	46	17	6	29	2	15	25	

生出山山塊と戸沢川に挟まれた範囲をどの郷に所属した人々が用いたのかという点は問題である。玉川金山遺跡の北東側には与縄館があり、付近にある日影と日向集落は城下集落として成立した可能性を指摘されている（山梨県史　2004）。つまり、玉川金山遺跡周辺にある中世段階の集落としては、菅野川流域の法能と朝日川流域にあり後に朝日村となる範囲の２つが想定され、これらの集落に属する人々が使用した可能性を指摘できる。

玉川金山遺跡に係わる文献・絵画資料としては、『玉川村差出帳』・『玉川村明細帳』・『玉川村絵図』などが挙げられる。『玉川村差出帳』によると、享保八年（1723）の玉川村は、家数30・人数210・馬11、『甲斐国志』によると、文化三年（1806）では家数41・人数172・馬15という記録がある。（平凡社　1995）『玉川村絵図』は年不詳であるが、絵図を見る限り、玉川金山遺跡周辺は水田などに用いられたことが分かる。

また、村明細帳以外にも近世段階の玉川村に関しては、様々な文書が残されているが、その中でも災害関連の資料が散見される。元禄元年（1688）に玉川村は台風に起因して田畑が満水し、寛保二年（1742）には法能村より玉川付近の河川について普請願書が出されている。これらは２つの河川が合流するという立地から起こる災害といえる。

第Ⅲ章　調査の方法と基本層位

第１節 発掘調査の方法

１．調査区の規模

調査区については、水路などによって分けられた範囲ごとに設定したが、用地取得などの条件のため、より細分化された区画となった。調査区のナンバリングは着手した順に付していった。

１区は長軸約14m・短軸約13m の正方形に近い形状を呈し、面積は169m²である。２区は長軸約22m・短軸約12m の長方形に近い形状を呈し、面積は223m²である。３区は長軸約37m・短軸約24m の長方形に近い形状を呈し、面積は304m²である。４区は長軸約32m・短軸約16m の突出部を有する多角形を呈し、面積は242m²である。５区は長軸約26m・短軸約25m の五角形に近い形状を呈し、面積は586m²である。６区は長軸約27m・短軸約10m のＬ字形を呈し、面積は163m²である。７区は長軸約24m・短軸約14m の長方形に近い形状を呈し、面積は263m²である。８区は長軸約12m・短軸約５m の長方形に近い形状を呈し、面積は51m²である。９区は長軸約12m・短軸約４m の三角形を呈し、面積は37m²である。10区は長軸約26m・短軸約10m の三角形を呈し、面積は167m²である。11区は長軸約19m・短軸約９m の台形を呈し、面積は95m²である。12区は長軸約39m・短軸２m の長方形を呈し、面積は78m²である。調査区の面積の総計は2,440m²である。

２．調査グリッドの設定

平成16年度における発掘調査の着手に際し、国土座標に基づく５m グリッドを設定した。方角杭については、南北ラインを西から東へアルファベット大文字でＡ・Ｂ・Ｃ、東西ラインを南から北へアラビア数字で１・２・３の順に記号を付し、ラインが交差してできる方角を、Ａ－１・Ｂ－２の様に呼称した。

グリッドの起点は１区の西南側に位置するように設定した。ただし、平成18年度の試掘調査によって１区の北側及び西南側も調査対象範囲（７区）となったため、当初のグリッドから外れる範囲については南北ラインを東から西にAA・AB・AC、東西ラインを北から南へ０・－１・－２の様に呼称した。

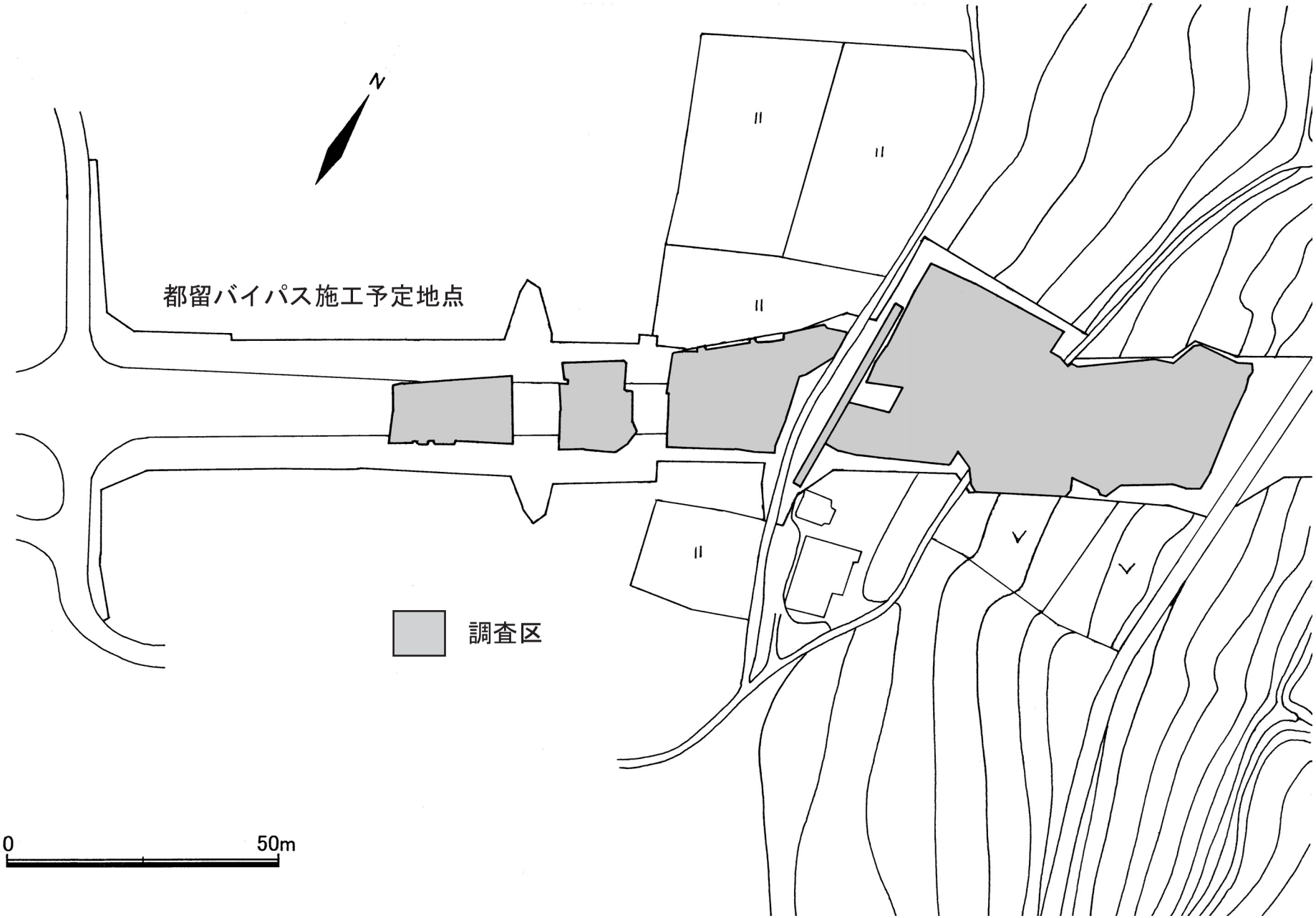
３．表土層の除去

玉川金山遺跡は堆積環境が良好であったため、遺構面は土層に被覆された状況で検出された。遺構面の間にある土層の厚さは一定ではなかったため、堆積する土層が厚く遺物が包含されない場合については、重機で掘削し、層厚が薄く遺物が確認される場合は人力で掘り下げを行った。第Ⅰ面までの層厚や第Ⅰ面・第Ⅱ面の構成土壌は調査区によって異なっていたが、トレンチ断面の層位を比較して対比した。これに対し、第Ⅲ面については調査区ごとに層厚が異なるものの、構成土壌は共通していたため、これらの土層を基準に表土剥ぎを実施した。掘り下げを行うに際しては0.4クラスの重機を使用した。

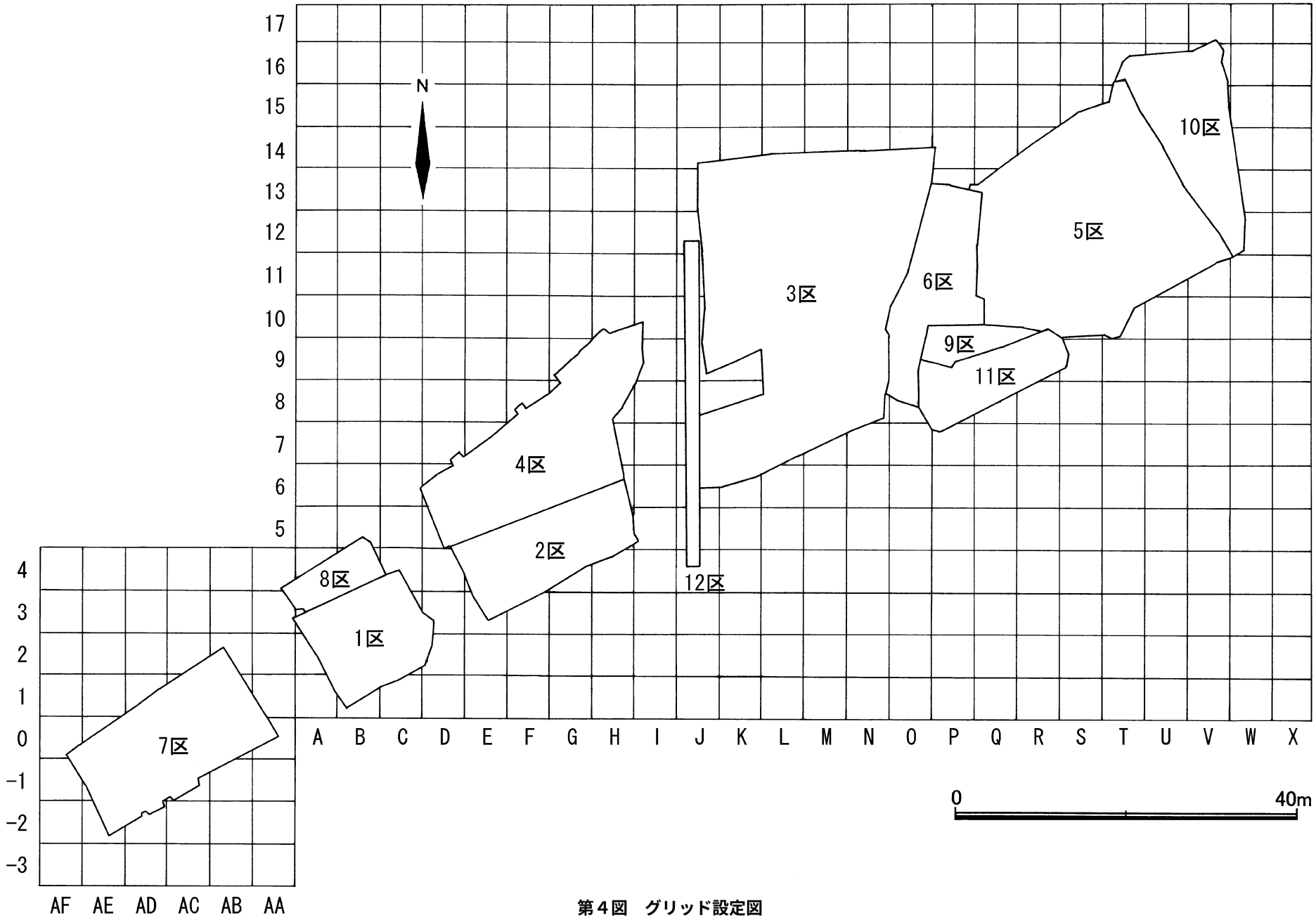
４．表土層除去後の調査

表土層除去後の掘り下げと遺構確認は人力で行った。遺構確認は、表土剥ぎの際に確認された遺構確認面を基準に掘り下げを行った。また、遺構確認などの作業と併行してトレンチ掘削を行い、新たな遺構面の把握に努めた。作業の手順としては、ジョレンを用いてプラン確認を行い、移植ごてを使用して遺構を掘り下げた。平面プランが検出された遺構については、遺構の規模を勘案し、土層観察用のベルトを設けるか、半截した。記録図面については、遺構平面図・断面図・土層堆積状況図などを調査の進捗に応じ、適宜作成した。

測量方法については、平面図はグリッド杭を基準とした平板測量を行い、補助的に空中写真撮影による図化測量を実施した。また、立面図は方眼紙への計測図化により作成した。出土遺物は原位置の記録に努め、グリッド杭を基準とした光波測量により出土位置を記録した。また、遺構・遺物の平面図中に高さのデータを記入し、３次元データとしての記録に努めた。写真については、遺構検出・半截・完掘状況・遺物出土状況などを中心に撮影した。撮影機材は、小型一眼レフカメラによる35mm モノクロネガ・カラーポジを主体に使用し、デジタルカメラも補助的に用いて記録した。



第３図　調査区位置図


N
17
16
15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0
-1
-2
-3
A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X
AF AE AD AC AB AA
1区
2区
3区
4区
5区
6区
7区
8区
9区
10区
11区
12区
0
40m

第４図　グリッド設定図

第２節 基本層位

玉川金山遺跡は山の鞍部に至る傾斜地から河川沿いまでという変化に富んだ地形に立地している。このため、堆積した土層の内容や厚さなどが調査区ごとに異なっている。調査では土層の色調や包含物などの比較によって、数種類の鍵層が検出できたため、これらの土層を基準に調査区ごとの遺構面の対比を行った。この作業の中で、対比しうる鍵層が検出されない調査区も確認されたが、土層の堆積順序を比較して対比させた。

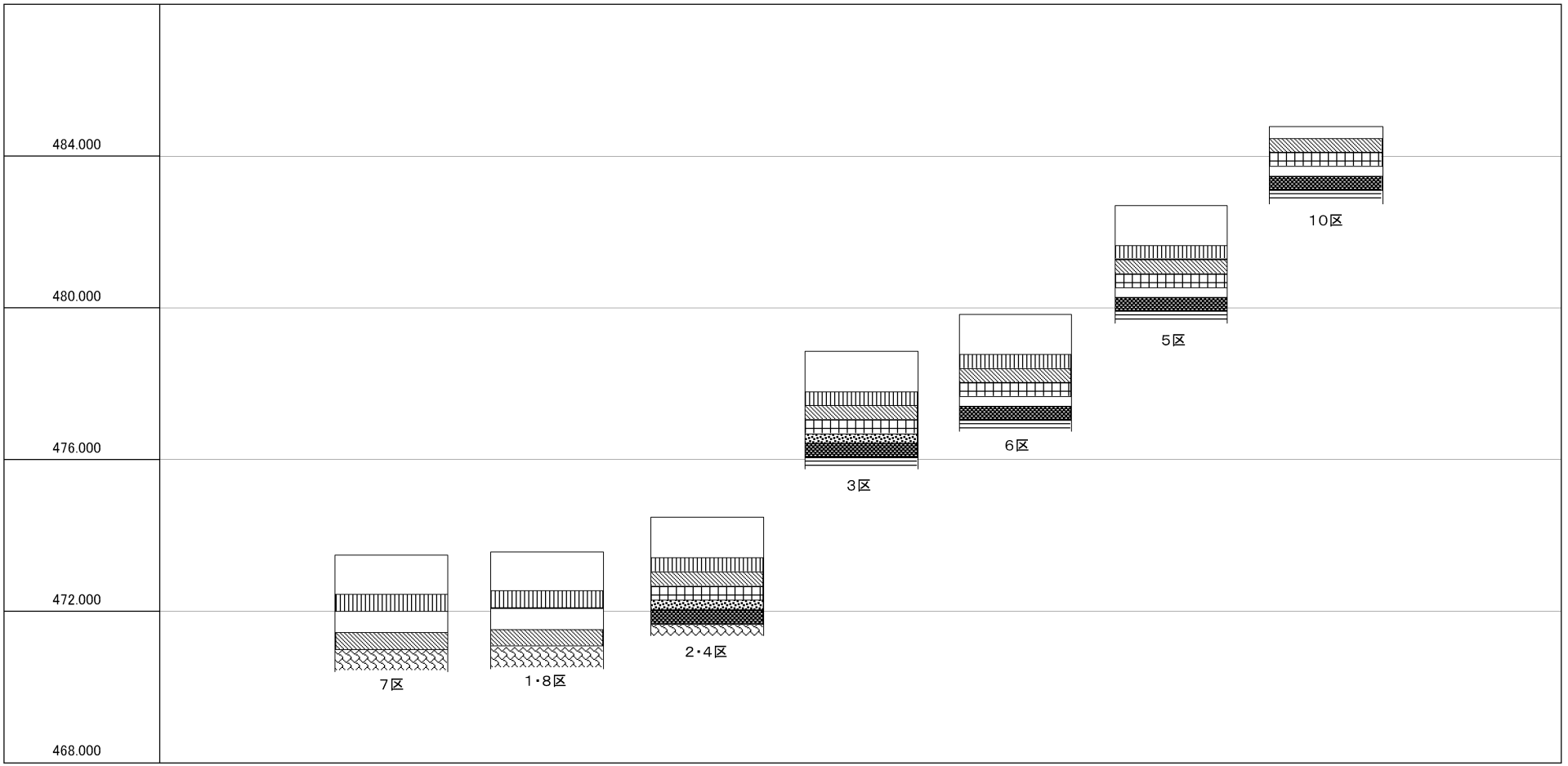
遺構面の認定に際しては、トレンチ断面において遺物や炭化物の集中が認められた土層を対象に調査対象とし、それらについて第Ⅰ面・第Ⅱ面・第Ⅲ面という名称をつけた。調査の進捗によって、第Ⅱ面と第Ⅲ面の間に検出レベルの異なる遺構面が把握されたが、それぞれ第Ⅱ面と第Ⅲ面に統括して捉え、遺構の時期把握が可能なものについては時期を付して報告した。時期が確定できた遺構だけで５つの異なる時期に分けられる。

第Ⅰ面の構成土壌は色調が褐色・暗褐色・黒褐色を呈する土層であり、炭化物粒子を含んでいる。層厚は調査区によって異なるが、約25cm である。第Ⅱ面の色調は茶褐色・暗褐色・黒色を呈する土層である。層厚は調査区によって異なるが、約20cm である。７区においてはこの土層が河道の変化に起因する砂礫層の堆積によって削平されている地点もある。第Ⅱ面の下には色調が明褐色・褐色・暗褐色・青灰色を呈する土層がある。層厚は調査区によって異なるが、約30cm である。第Ⅲ面の色調は明茶褐色を呈す土層である。層厚は調査区によって異なるが、約20cm である。第Ⅲ面の上には暗褐色を呈する土層があり、炭化物粒子を含む。層厚は調査区によって異なるが、約30cm である。

玉川金山遺跡は厚い土層によって被覆された環境にあるが、時代によって堆積環境に差が認められる。第Ⅰ面の上にある土層は調査区によって異なり、２・４区の東側では水田の床土が堆積する。これは、第Ⅰ章で記した様に水田造成のため、地形を改変したためと捉えられる。なお、水田として用いられていたのは２・４区から西側であり、３区より東側においては畑であった。２・４区の東側以外の調査区・地点においては、第Ⅰ面の上に褐色土・暗褐色土などが認められる。これらは弱い粘性を有し、炭化物も微量に含む。この炭化物について AMS 年代測定分析を行った結果を第Ⅴ章に収めている。第Ⅰ面と第Ⅱ面の間はおおむね連続的に変化することから、この2つの遺構面が機能していた段階においてはほぼ連続的に土地活用されていたと考えられる。10区においては、第Ⅰ面の構成土壌は削平されたためか確認されない。

調査の当初段階において、第Ⅱ面として一括して捉えていた遺構面の中に奈良時代と中世という年代が異なる遺構が確認され、その後も第Ⅱ面と第Ⅲ面の間から遺構が検出された。第Ⅱ面の下に確認される土層の構成土壌としたのは火山灰層であり、スコリアが厚く堆積しているのに対し、第Ⅱ面の土層中には炭化物を含んでいる。このことから、奈良・中世段階における基盤層である第Ⅱ面の下にある火山灰層から第Ⅱ面の廃絶に至るまで、土層の供給が微弱であったために、地盤高の差がさほどないにもかかわらず時代の異なる遺構が検出されることとなったと考えられる。なお、第Ⅱ面の下に位置する火山灰層の年代比定については、第Ⅴ章で検討している。第Ⅱ面の下にある火山灰層から第Ⅲ面の上に位置する暗褐色土層までは複数の土層が認められているが、暗褐色土層の直上に堆積している黄白色礫混じり暗褐色土層が鍵層である。この土層は２・４区から10区まで確認されるが、調査区・地点によって厚さに差があり、３区南側から４区東側に最も厚く堆積している。この土層中に含まれる黄白色礫は花崗岩であるが、東側に位置する山塊から供給されたと考えられる。この土層より下に縄文時代早期の遺構・遺物が確認される。

暗褐色土層は縄文時代早期後半の遺物を包含し、30～50cm の層厚を挟んで第Ⅲ面の遺構面である明茶褐色土層が検出される。暗褐色土層と第Ⅲ面は第Ⅱ面と第Ⅱ面の下にある火山灰層の関係と同じであり、地山層である第Ⅲ面から暗褐色土層までほぼ連続的に土地活用がなされたと考えることができる。土層の年代比定について、第Ⅴ章で検討を加えている。



土層凡例

第Ⅰ面
第Ⅱ面
第Ⅲ面
砂礫層
暗褐色土層
火山灰層
黄白色礫混じり暗褐色土層

第５図　土層柱状図

第Ⅳ章　検出された遺構・遺物

第１節 調査の概要

平成16年度に行った調査では、調査区を３つに分けて調査を行い（１～３区)、平成17年度に実施した調査では、４区の調査を行った。平成18年度には５・６区、平成19年度には７・８区と５・９～11区に分けて調査を実施した。以下に検出された遺構の主要な成果を記述する。なお、第２節に掲載しなかった遺構については一覧表として掲載し、遺構・遺物の検討については、第Ⅵ章の第２節に記載した。また、今回の調査では調査区ごとに遺構番号を付したため、遺構名の前に調査区名をつけて報告することとする。調査の結果、第Ⅰ面は中世・近世、第Ⅱ面は奈良時代・中世、第Ⅲ面は縄文時代早期の遺構確認面であることが把握された。

第２節 検出された遺構・遺物

１．第Ⅰ面の遺構・遺物

第Ⅰ面の構成土壌は10区においては、削平されていたため、検出されなかった。１～９・11区の内、９・11区以外の調査区において遺構が検出された。

（１）土坑

３区第15号土坑（第13図）

位置　３区の北西側、Ｌ－12グリッドに位置する。周囲に遺構は存在しない。

形状　長軸2.04m・短軸0.87m で、東北－西南方向に長軸をもつ不整形を呈する。馬骨が検出されたレベルで遺構認定を行ったため、遺構の深さは不明である。

遺物　土坑の底面近くから馬骨が検出された。この馬骨は、12歳前後と判断される（詳細については、第Ⅴ章に所収してある)。馬骨の内、全身骨格は確認されていないが、残されている骨片の位置から土坑に横たえた状況で埋められたと推察される。馬骨の他には伴出遺物は確認されていない。

時期　山梨県内の出土事例としては、平安時代の事例が多く知られており、該期においては雨乞いの祭祀を行う際に馬が捧げられたようである。ただし、馬の埋納行為は中近世に連続するため、馬骨が土坑内から確認されたことだけをとらえて時期を比定することはできない。第15号土坑の底面は第Ⅱ面の構成土壌より上に位置していることから、土坑の所属時期としては中近世だと考えられる。

性格　検出された状況から、遺構内に埋納されたと考えられ、なんらかの祭祀的意図があったと考えられる。

７区第１号土坑（第６図、第169図）

位置　７区の西側、AD・AE－０・－１グリッドに位置している。２号溝状遺構と切りあっている。遺構確認段階での先後関係から他の遺構より新しい段階に構築されたと考えられる。

形状　長軸3.25m・短軸2.60m で、東西方向に長軸を持つ不整円形を呈する。第Ⅰ面の遺構確認面から遺構底面まで2.10m である。

層位　土層の堆積状況から、２単位に分かれて埋没したと考えられる。２～26層が砂層を含む多様な土壌が層理状に堆積していることから、自然に堆積したと考えられる。これに対し、１層は炭化物と礫を含む土壌が一括した形状で埋まっており、人為的に埋められた可能性を有している。

遺物　近世の火鉢の破片が１点（第169図18）・奈良時代の甕の破片が１点（第169図17）と、馬骨と考えられる骨片が６点検出されている。これらの遺物は１層の下位において出土している。

時期　第１号土坑は第Ⅰ面の構成土壌を切っており、より新しい段階での遺構だと判断される。ただし、第１号土坑は水田床土を切っておらず、水田床土の下から寛永通寶が出土していることから、近代以降の新しい掘り込みではないと結論づけられる。遺構内から出土した近世の遺物から、遺構の所属時期を近世と捉えたい。奈良時代の甕の破片も出土しているが、奈良時代の遺構面にあったものが、遺構覆土に混じりこんだと考えられる。

性格　遺構の埋没過程が途中で大幅に異なっていることから、遺構の機能も変更された可能性が指摘される。遺構の底面から１層までは漸次的に土層が堆積したと考えられる。この段階での遺構の機能は不明である。１層の下位から馬骨６点が検出されていることから、３区第15号坑と同じく馬を埋納した後、土坑を埋めた可能性を有している。

６区第１号墓坑（第20図、第169図）

位置　６区の西南側、０－９グリッドに位置している。６区第２・３号溝状遺構等と近接しているが、切りあってはいない。周囲にある遺構の内、第２～８号溝状遺構と平面形状が類似する。この内、第４号溝状遺構と長軸方向が同一であるが、第２・３・５～８号溝状遺構とは直交している。

形状　長軸1.57m・短軸0.69mで南北方向に長軸を持つ長方形を呈する。遺構確認段階において、周辺に平行・直交する遺構群が検出されたため、溝状遺構として遺構認定を行った。

遺物　近世の陶磁器が２点（第169図14・15）、寛永通寶が１点（第169図16）、鉄製の釘が１点、人骨の全身骨格が一体分確認されている他、頭骨が出土している。近世の陶磁器の内、１点は完形（第169図15）・１点は割れた状態（第169図14）で検出された。ただし、割れた陶磁器もほぼ１個体分に復元されたため、生前被葬者が使用していた陶磁器を埋葬するときに意図的に割ったものだと考えることができる。寛永通寶は１点しか確認されなかったが、六道銭として副葬されたものと考えることができる。また、鉄製の釘には木片が付着し、遺構の壁から確認されることから、長方形の木棺に遺体を入れて埋葬したことが分かる。

時期　伴出遺物から近世の遺構と判断される。

性格　近世の墓坑と判断される。遺構の底面に膝を折り曲げる形で一体分の人骨が検出されたが、胴体が上を向いているのに対し、頭骨は斜め下を向いた状態で出土した。これより上に頭骨が確認されたが、他の部位の骨は確認されていない。全身骨格と頭骨の間には土層があり、埋葬された際の時期差があると考えられる。また、意図的に割られた陶磁器片は全身骨格の下、完形の陶磁器と寛永通寶は上から確認されており、埋葬時の儀礼の進行を反映していると捉えられる。

（２）溝状遺構

７区第２～５号溝状遺構（第９図）

位置　７区の西側、AC・AD－－1、AD－0・－1グリッドに位置する。第２号溝状遺構が７区第１号土坑に切られている。

形状　第２号溝状遺構はＬ字形に屈曲しており、トレンチによって切られているものの、第４号溝状遺構は逆Ｌ字形に屈曲している。第３号溝状遺構は第２・４号溝状遺構の間に位置し、第５号溝状遺構は第２～４号溝状遺構と対向する位置にある。

遺物　遺構の覆土中からは遺物は出土していない。

時期　第Ⅰ面に所属していることから、中近世と考えられるが、近世の土坑（７区第１号土坑）に切られているため、中世の遺構である可能性が強い。

性格　溝状遺構の平面配置が方形の区画を示していると考えられ、地割を示す溝である可能性を有している。

（３）石組

５区第１号石組（第21図）

位置　５区の東南端、U－11グリッドに位置している。周囲に遺構は存在しない。

形状　石組は３単位に分かれている。U－11グリッドの中央には、平坦な面を横に据えた石垣状の石組が向かい合う形で存在する。また、その東側には平坦な面を上に向けた礫が存在する。

遺物　石組の周囲から10点の陶磁器・複数の鉄片が出土している。陶磁器の内、５点が近世・２点が近代である。

時期　伴出する遺物から、近世から近代にかけて用いられた遺構であると判断される。

性格　U－11グリッドの中央に存在する石組は石垣の下部だと考えられる。石垣の並びは南北軸を向いている。これらの石垣は土地の区画を示していると考えられる。

６区第１号石組（第21図）

位置　６区の中央、０－11・12グリッドに位置している。周囲に遺構は存在しない。

形状　石組は平坦な面を南側に向けている。
遺物　石組の周囲から遺物は出土していない。
時期　検出された土層から近世に所属する遺構であると判断される。
性格　石垣の並びは東西軸を向いている。５区第１号石組と同じく土地の区画を示していると考えられる。
（４）焼土集中（第10・12～14図）
焼土集中は第Ⅰ面の構成土壌の検出面直上ないしは構成土壌の中から検出された。第Ⅰ面に所属すると考えられるものは、33基確認されている。調査の過程で遺構を半截し、土層の堆積状況を観察したが、明確な掘り方を有しているものは少なく、構成土壌中に焼土が混じるような形状で確認された。検出段階では、面的な広がりをもって確認されていることから、明確な掘り込みを持たずに燃焼し、燃やした土壌を土に混ぜ込んで作業を終えたと考えられる。なお、２区第３号焼土集中から検出された炭化物片を対象に、放射性炭素年代測定（ＡＭＳ測定）を行ったところ、1,510～1,590年という値を得た。このことから、第Ⅰ面から検出された焼土集中は中世～近世にかけて形成されたことが分かる。分析結果の詳細な報告については、第Ⅴ章に所収してある。

２．第Ⅱ面の遺構・遺物

（１）竪穴住居跡
３区第１号住居跡（第37図、第164・165図）
位置　３区の中央、Ｌ・Ｍ－10・11グリッドに位置している。
重複　他の遺構とは重複関係にないが、南・西側に土坑群が確認されている。なお、北側に位置する第15号柱穴は３区第１号住居跡の関連遺構である可能性を有している。
形状　平面形状は方形であり、断面形状は概ね箱形を呈する。
規模　長軸3.55m・短軸3.20m で東西方向に主軸を持っている。床面までの深さは43cm を測る。
柱穴　北側にある第15号柱穴は、３区第１号住居跡に伴う遺構である可能性を有すが、他に柱穴は確認されなかった。
施設　カマドは北壁の東寄りに付設されていた。カマドの周囲からは礫が２つ確認されたが、東側の礫がカマドの袖石と判断される。袖石の東側には駿東型甕の口縁部が出土しており、カマドの補強材として埋設されたと考えられる。燃焼部は浅く掘り込まれており、焼土が10cm ほど堆積していた。焚口付近には駿東型甕の胴部破片が集中して出土しており、炭化物の集中も認められる。床面は全体に硬化しているが、貼床は認められない。
遺物　遺物の出土点数は31点であり、土師器28点（坏１点・甕27点）、須恵器２点（蓋２点）が出土しており、図化を行ったものは19点ある。これらの遺物の内、駿東型甕は個体資料２点（第164図３・４）・破片資料11点（第164図５～15）が確認されており、駿東型以外の甕は個体資料１点（第164図16）・破片資料３点（第164図17～19）が出土している。なお、第165図20は縄文時代の遺物が混じりこんだものと考えられる。遺物の分布状況であるが、住居跡の東側に偏在している。住居跡の北東コーナーの壁際からは、完形に近い形状の蓋（第164図１）が出土している。これは８世紀初頭段階に位置づけられる。また、駿東型甕は球胴形を呈し、胴部上位に最大径を有していることから、８世紀第１四半期に位置づけられる。第164図16は表土剥ぎの際に検出されたため、出土位置は不明であるが、覆土上層に包含されていたと考えられる。東南側から出土した遺物は覆土中より検出されたが、カマドの補強材として用いられたものや焚口付近から検出された駿東型甕（第164図4）は、住居の使用時の年代に近いと考えられる。
時期　遺構内より伴出している遺物から、山梨県史編年の第１期（７世紀末～８世紀初頭）と考えられる。なお、カマド内から検出された炭化物片を対象に、放射性炭素年代測定（ＡＭＳ測定）を行ったところ、540～640年という値を得た。分析結果の詳細な報告については、第Ⅴ章に所収してある。
３区第２号住居跡（第38図、第165・166図）
位置　３区の北側、Ｍ－12・13グリッドに位置している。
重複　他の遺構とは重複関係にないが、北側に第10号土坑、南側に第26号土坑・第16号溝状遺構が確認されてい

る。

形状　平面形状は方形、断面形状は箱形を呈する。

規模　長軸4.00m・短軸3.60m で南北方向に主軸を持っている。床面までの深さは50cm を測る。

柱穴　壁内外に柱穴は有さない。

施設　カマドは北壁の西寄りに付設されている。煙道は短く、住居跡の外側にはほとんど張り出さない形態である。袖部は粘性を有する明茶褐色土で構築されており、石は用いられていない。検出段階ではカマドの煙出しから焚口にかけて灰層・暗褐色土層の順で堆積しており、焼土はその下から検出された。燃焼部の掘り込みは認められなかった。東壁の中央付近から階段状の施設が確認された。住居構築時に壁を掘削した後、竪穴壁に沿って階段状に盛土したものだと考えられる。また、住居跡の中央を中心に貼床が認められる。

遺物　遺物の出土点数は60点であり、土師器58点（甕56点・小型甕１点・鉢１点）が出土しており、図化を行ったものは29点ある。駿東型甕は個体資料１点（第165図１）・破片資料21点（第165図２～22）が確認されており、駿東型以外の甕は破片資料３点（第166図23～25）が出土している。なお、第166図29は縄文時代の遺物が混じりこんだものと考えられる。遺物は住居跡の西南側を中心に分布している。出土したレベルは床面より若干上のものが多い。特殊な出土状況を示す遺物としては、カマドの東側袖部より、小型甕（第166図26）が確認され、住居跡の北東側の床面のほぼ直上より台石（第166図28）が出土した。第165図１・２は球胴形を呈し、胴部上位に最大径を有していることから、８世紀第１四半期に位置づけられる。第166図23～25は淡い色調・第166図26は古代紫色を呈しており、堀之内原 Type に比定される。第166図23～25の器面調整は非常に荒い。

時期　遺構内より伴出している遺物の内、駿東型甕の年代は８世紀第１四半期に位置づけられるが、堀之内原 Type も伴出しており、その年代については検討を要する。このため、遺構の年代についても８世紀前半と捉えたい。

２区第３号住居跡（第25・26図、第167・168図）

位置　２区の中央東寄り、G－５・６、H－5グリッドに位置している。

重複　他の遺構とは重複関係にないが、西側に２区第１号掘立柱建物跡・北側に４区第１号掘立柱建物跡が存在する。

形状　カマドの煙道を除くと、平面プランは方形、断面形状は箱形を呈する。

規模　長軸4.44m・短軸2.92m で南北方向に主軸を持っている。床面までの深さは59cm を測る。

柱穴　壁内外に柱穴は有さない。

施設　カマドは北壁中央の壁面に付設される。カマドの袖には一対の自然礫を立てて置き、袖石としている。検出段階では崩落していたが、袖部から天井部にかけて、粘性を有する土壌で構築されていたと推測される。燃焼部の中には支脚が残されており、支脚が確認された場所に焼土が最も厚く堆積していた。燃焼部には浅い掘り込みを有している。壁面には平坦な面を焚口の方に向けた石を配し、その上部に棒状の石をわたしている。煙道は住居跡の長軸と同じ方向に112cm ほど伸びている。煙道の両側にはそれぞれ５つの石を配している。石の形状は多様で、概ね平坦な面を上に向けている以外に規則性は認められない。これらの礫の上部に平坦な面を上に向けた４つの石を設置しており、煙道を閉塞している。ただし、石の間には土層が挟在しており、煙道は礫と土を組み合わせて構築したようである。煙道の端部には平坦面を焚口に対向するように設置した大形の礫があり、この礫と煙道を閉塞した礫の間を煙出しにしたようである。山梨県内において、大形の煙道を有する住居の類例としては、大月市富浜町に所在する南堀之内遺跡が知られている。貼床・硬化面は確認されていない。

遺物　遺物の出土点数は40点であり、土師器31点（坏９点・甕22点）、須恵器４点（蓋１点・坏２点・高台付坏１点）が出土しており、図化を行ったものは28点ある。これらの遺物の内、駿東型甕は破片資料２点（第167図19・20）が確認されており、駿東型以外の甕は破片資料10点（第167図12～18・21～23）が出土している。なお、第168図24・25は縄文時代の遺物が混じりこんだものと考えられる。出土遺物の多くは床面

よりやや上に位置する土層中より確認されており、遺構が埋没し凹地になった段階で投棄されたと判断される。これらの遺物が出土したのと同じレベルから、８つの石が直線状に折り重なる形で検出された。２区第３号住居跡が廃絶し、凹地となった段階で生活財の廃棄場としてだけではなく、礫を分割加工する場所として用いられていた可能性を有している。カマド脇・東側・南側から検出された３つの礫（第168図26～28）は接合する。第167図11の高台付坏は８世紀前半に位置づけられる。また、第167図１は底部が半球形を呈しており、７世紀後半代の坏であると考えられる。

時期　遺構内より伴出している遺物から、７世紀後半～８世紀前半と考えられる。ただし、遺物の多くは覆土の中位から下位に分布しているため、２区第３号住居跡が機能していた時期とは若干の時間差が想定される。なお、覆土中位から検出された炭化物片を対象に、放射性炭素年代測定（AMS 測定）を行ったところ、420～500年という値を得た。分析結果の詳細な報告については、第Ⅴ章に所収してある。

３区第４号住居跡（第39図）

位置　３区の北西端、J・K－13グリッドに位置している。

重複　他の遺構とは重複関係にないが、南側に第13・14号柱穴が位置している。

形状　調査区の端で検出されており、全体的な形状が把握されていないため、不明であるが、断面形状は把握されている範囲で箱形である。

規模　把握されている範囲で長軸4.04m・短軸1.24m である。床面までの深さは21cm を測る。

柱穴　第13・14号柱穴は３区第４号住居跡と離れているため、関連遺構ではないと判断される。

施設　カマドは住居跡の東南コーナーに構築されている。左右の袖部には板状の礫を重ねている。礫の間には黒褐色土・暗褐色土等を充填しているが、これらの土壌に粘性はない。袖部と燃焼部が接する位置に礫を斜めに立てており、この地点で焼土が最も厚く堆積する。また、燃焼部内の堆積土の内、焼土層と灰層が互層状に２単位堆積している。燃焼部は浅く掘り込まれている。

時期　遺物が出土していないため、時期比定は困難であるが、３区１・２号住居跡と同じ構成土壌から検出されているため、奈良時代の住居跡と考えられる。

４区第１号住居跡（第27図、第168図）

位置　４区の中央、E・F－６・７に位置している。

重複　東側の壁を第Ⅰ面の４区第15号溝状遺構、南側の壁を第Ⅰ面の４区第16号溝状遺構によって切られているため、不明である。４区第24号土坑と平面位置は重なっているが、４区第１号住居跡の方がより新しい遺構であり、切りあい関係にはない。遺構の東側には４区第１号掘立柱建物跡、北側には土坑が存在する。

形状　東壁の方が西壁より短いが、概ね方形を呈する。断面形状は箱形を呈する。

規模　長軸3.77m・短軸3.65m で南北方向に主軸を持っている。床面までの深さは28cm を測る。

柱穴　壁内外に柱穴は有さない。

施設　東壁の中央からカマドが確認されている。カマドの内部には焼土が灰層を挟んで堆積している。焼土の上には褐色土が位置しているが、これが天井部の構築土壌である。カマドの土層断面図（東西）により天井部が崩落せずに埋没したことが確認された。袖部には石を用いておらず、燃焼部には浅い掘り込みが確認されている。また、床面の南側から灰と焼土の集積層が検出されている。

遺物　出土した遺物のうち、図化を行ったものは10点ある。これらの遺物の内、駿東型甕は破片資料４点（第168図２～５）が確認されており、駿東型以外の甕は破片資料４点（第168図６～９）が出土している。

時期　遺構内より伴出している遺物から、奈良時代と考えられる。

４区第２号住居跡（第28図）

位置　４区の北西側、D－６・７グリッドに位置している。

重複　把握されている範囲では他の遺構と重複関係にない。

形状　調査区の端で検出されており、全体的な形状が把握されていないため、不明であるが、断面形状は把握されている範囲で箱形である。

規模　把握されている範囲で長軸1.78m・短軸1.01m である。床面までの深さは14cm を測る。

柱穴　把握されている範囲で壁内外に柱穴は有さない。
施設　カマドは住居跡の東南コーナーに位置している。カマドの袖部には小形の礫を敷いて補強材としている。煙道には北側と南側に板状の礫を２つずつ斜めに据えており、その上に平坦な面を上に向けた礫を３つ置いて閉塞している。燃焼部から煙出しまでは短く、住居のプランからさほど張り出さないと推察される。燃焼部は浅く掘り込まれている。調査した範囲では、貼床・硬化面は確認されていない。
遺物　覆土中に遺物は包含していない。
時期　伴出遺物が確認されていないため、時期比定は困難であるが、２区３号住居跡、４区１・３・４号住居跡と同じ構成土壌から検出されているため、奈良時代と考えられる。

４区第３号住居跡（第28図）
位置　４区の北東側、H－９グリッドに位置している。
重複　４区第24号土坑・４区第２号掘立柱建物跡（第５・７・９～11号土坑）と平面位置は重なっているが、４区第３号住居跡の方がより新しい遺構であり、切りあい関係にはない。
形状　住居跡の北西側や遺構の上面が近世段階における地形改変によって、削平されたため、遺構の全体的な平面形状は不明である。断面形状は非常に浅いが、これは住居跡の上部が削られたためと考えられる。
規模　長軸・短軸ともに不明である。床面までの深さは現存しているだけで24cm を測る。
柱穴　把握されている範囲で壁内外に柱穴は有さない。
施設　カマドが東壁の中央に位置している。カマド北側の袖部には石を斜めに据えて、袖石としているが、南側には袖を形成する石や構成土壌は検出されなかった。焼土は他の土層を含まずに10cm ほど堆積しており、燃焼部は浅く掘り込まれている。住居跡の北西側の壁面は残されていなかったが、カマドの北西に灰層の集中が確認された。おそらく、この範囲までは４区第３号住居跡の範囲内であったと考えられる。
遺物　覆土中に遺物は包含していない。
時期　伴出遺物が確認されていないため、時期比定は困難であるが、２区３号住居跡、４区１・２・４号住居跡と同じ構成土壌から検出されているため、奈良時代と考えられる。

４区第４号住居跡（第29図、第169図）
位置　４区の南側、G－６グリッドに位置している。
重複　４区第１号掘立柱建物跡（第12～14・16・17・20～22号土坑）と平面位置は重なっているが、４区第４号住居跡の方がより新しい遺構である。
形状　遺構の上面が近世段階における地形改変によって、削平されたため、遺構の平面・断面形状は不明である。カマドのみ検出されたので、遺構認定を行った。
施設　カマドは住居跡の東壁か東南コーナーに構築されたと推測される。カマドの南側には平坦な石を連ねて袖石としているが、北側にはこれに対応するものは検出されていない。煙出し付近には灰層が厚く堆積している。この灰層中からは鉄製品（第169図１～3）が出土した。
遺物　遺物の出土点数は３点（第169図１～３）であり、刀子・やっとこ・不明鉄製品である。
時期　年代の検討が可能な遺物が確認されていないため、時期比定は困難であるが、２区３号住居跡、４区１・３・４号住居跡と同じ構成土壌から検出されているため、奈良時代と考えられる。

（２）掘立柱建物跡

２区第１号掘立柱建物跡（第29図）
位置　２区の西側、E－５、F・G－４・５グリッドに位置している。
重複　２区第22・25・32・33号土坑、２区第６・７号溝状遺構などと重なっているが、これらの遺構群とは時期差があると考えられる。東側には２区第３号住居跡が位置している。
規模　２区第１・４～７・９・10・12号柱穴という８基の柱穴から構成される。これらの柱穴の深さは12～31cm とばらつきがあるが、平面的な位置関係から掘立柱建物跡と認定した。長軸は約６ｍで北東－南西方向、短軸は約5.5m で北西－南東方向である。柱穴間の距離は、北西－南東方向が１～1.5m、北東－南西方向が２～2.5m を測る。２区第１号柱穴と、２区第４・12号柱穴の間には柱穴は確認されていない。北側に

ある第２・３号柱穴は関連遺構である可能性を有している。

４区第１号掘立柱建物跡（第30図）

位置　４区の東側、F－６・７、G－６～８、H－７グリッドに位置している。

重複　４区第４号住居跡、４区第15・31号土坑、４区第22・23号溝状遺構などと重なっているが、４区第１号掘立柱建物跡はこれらの遺構群より古いと考えられる。

規模　４区第12～14・16・17・20～22号土坑という８基の土坑から構成される。これらの土坑の深さは25～72cmとばらつきがあるが、平面的な位置関係から掘立柱建物跡と認定した。長軸は約6.5mで北西－南東方向、短軸は約６ｍで北東－南西方向である。柱穴間の距離は北西－南東方向・北東－南西方向のいずれも1.5～２ｍを測る。

４区第２号掘立柱建物跡（第30図）

位置　４区の北東側、G・H－９グリッドに位置している。

重複　４区第３号住居跡と重なっているが、４区第２号掘立柱建物跡はより古い遺構だと考えられる。４区第６・８号土坑と近接しているが、遺構の深さが大きく異なるため、関連遺構ではないと判断される。

規模　調査区の端で検出されており、全体的な形状は不明であるが、確認されている範囲で４区第５・７・９～11号土坑という５基の土坑から構成される。これらの土坑の深さは39～70cmとばらつきがあるが、平面的な位置関係から掘立柱建物跡と認定した。柱穴間の距離は、１～1.5mを測る。

（３）土坑

２区第24号土坑（第31図・第169図）

位置　２区の中央北より、G－５グリッドに位置している。

形状　平面形状が円形を呈し、長軸1.45m・短軸1.42mの竪坑と平面形状が方形で、長軸1.80m・短軸1.78mの主室に分けられる。

層位　竪坑部分の層位は数単位に分層され、第Ⅱ面より70cmほど下がった位置において焼土と灰が平面的に広がる。この上下の土層はほぼ単層であることから、竪坑は人為的に埋め戻された可能性を有している。また、主室部分においても北東コーナーを中心に灰と炭化物の集積層が広がっている。

遺物　土坑から検出された遺物の組成としては碗２点・皿３点・鉢２点・瓶１点であり、中世のものが主体を占めるが、奈良時代の遺物（第169図１）も混じる。これは、地山中に包含されていたものが、２次的に堆積したものと考えられる。第169図の５と６、７と８はそれぞれ同一個体だと考えられる。

時期　出土遺物から15世紀代に構築された遺構だと考えられる。

性格　平面・断面形態が竪坑と主室に分化されることから地下式土坑と考えられる。主室部分については、上部を掘り下げた上で調査を行ったため詳細な構造は不明であるが、竪坑と主室の底面レベルと平面的な関係は、竪坑の底面が主室の床面より高く、竪坑と主室の位置が重なっていないことから、有段Ⅰ類Ｂ形態に分類される（大森　2006）。主室の底面は礫を含むシルト質の土壌が広がっており、硬化面などは認められない。灰と炭化物の集積層は竪坑と主室が接する地点付近に分布しているが、堆積は薄い。竪坑の覆土中位から検出された灰層も主室と同質であり、竪坑と主室に包含される遺物の時期もほぼ共通することから、地下式土坑の機能が失われた後に土坑内を埋めたと考えられる。地下式土坑に関しては、墓あるいは葬送に関連する施設とするものと倉庫とする説の２つがあるが、人為的に埋め戻し覆土中に灰・炭化物を面的に伴う点や、主室に硬化面が確認されない点など、前者である可能性を示唆する材料の方が多く認められる。

（４）溝状遺構

７区第７～26号溝状遺構（第22・23図）

位置　７区の西側、AC・AD－－１～１グリッドに位置している。第７号溝状遺構と第８号溝状遺構、第12号溝状遺構と第13号溝状遺構、第16号溝状遺構と第17号溝状遺構、第21号溝状遺構と第22号溝状遺構は平面形状が重複しているが、時期的な差は考えにくく、遺構が機能していた段階でこのような形状であったことが推察される。また、第21・22号溝状遺構は７区第１号土坑によって切られている。

形状　７区第７～26号溝状遺構の内、多くのものが東西方向に主軸を持っている。遺構の深さは５～８cm 程度の浅いものが多く、形状が規格的であることから、同じ性格の遺構であると考えられる。

遺物　遺構の覆土中から遺物は出土していない。

時期　調査区内に設定したトレンチの断面から、７区第７～26号溝状遺構の下位には遺構は存在しないことが確認されている。調査区から出土した遺物の内、最も古いものは奈良時代の遺物であるため、７区第７～26号溝状遺構は奈良時代の遺構だと判断される。

性格　７区の西側（AE－０～－２・AF－０～－１グリッド）と東側（AB・AC－２～－１グリッド）には砂礫層が広がっている。これは、戸沢川の氾濫によってもたらされたと考えられ、奈良時代には１・７・８区の周囲は河道の範囲内に位置していたと考えられる。７区第７～26号溝状遺構はシルト質の土壌中に構築されており、その形状から畑の畝の間にある凹地を捉えているものと考えられる。おそらく、河道中の一時的な微高地を利用して、耕作を行ったものと考えられる。

（５）礫集中

１区第１号礫集中（第24図）

位置　１区中央北寄り、B－２・３グリッドに位置している。

形状　B－２・３グリッドの間を中心に位置する、石を配した遺構である。検出された地点は砂礫を多く含む土層中に位置しているが、平面形態が長方形を呈しており、北側と南側に礫の平坦面を向けているものも認められ、人為的に石を配置したと捉えられることから遺構認定を行った。

層位　遺構の覆土は第Ⅰ面の検出面から１区第１号礫集中が構築されている第Ⅱ面までほぼ変化がなく、単層である。

時期　遺構内から遺物はまとまって出土しておらず、散漫に分布しているが、遺構が検出されたレベルに多く認められるのが中世の陶磁器片である。このため、遺構の時期も遺構周囲から出土した陶磁器の年代に比定したい。

性格　石の平面的な形状としては、平坦な面を横に向けているものと、平坦な面を上に向けているものに大別される。平坦な面を横に向けているものとしては、１区第１号礫集中の北側と南側に位置している石が該当する。南側の石の並びが不連続であるのに対して、北側の石は東に向かうにつれサイズが小さくなるものの、連続的に確認されている。南側と北側の石の間には、平坦な面を上に向けているものが検出されている。平坦な面を外側に向けている形状から石垣の形状に似るが、平坦な石を囲うように石を配していることから、長方形の構造物の基礎部分にあたると考えられる。中世における石を用いた遺構としては、集石墓が知られているが、２区において、墓あるいは葬送に関連する施設である可能性が強い地下式土坑（２区第24号土坑）が検出されていることから、中世においては調査地点周辺が墓域として機能していた可能性が強い。このことから、１区第１号礫集中を集石墓として捉えたい。

３．第III面の遺構・遺物

（１）竪穴住居跡

３区第５号住居跡（第54図、第75・76図）

位置　３区の北側、L・M－12・13グリッドに位置している。

重複　他の遺構とは重複関係にないが、東側に第34・35号土坑、南側に３区第67号土坑などが位置している。

形状　平面形状は不整円形、断面形状は浅丸形を呈している。

規模　長軸3.83m・短軸3.15m で南北方向に主軸を持っている。床面までの深さは20cm を測る。

柱穴　７本の柱穴状の掘り込みが認められた。深いもので床面から13cm を測るが、平面的には住居跡の西側に集中しており、規則性は有していない。

施設　住居内に炉などの施設は認められない。

遺物　遺物の出土点数は23点であり、土器12点（第75図１～12）、石器６点（第75図13～17・第76図18）、剥片5点が出土しており、図化を行ったものは18点ある。これらの遺物の内、第75図１～12に施文はないが、胎

土に金色雲母を有していることから、鵜ヶ島台式期の土器と判断される。遺物は中央から北側にかけて、散漫に分布している。

時期　遺構内より伴出している遺物から、鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

（２）土坑

３区第34号土坑（第53図）

位置　３区の北側、M－13グリッドに位置している。東南側に第35号土坑が近接している。

形状　平面形状は不整円形、断面形状は逆台形を呈している。

層位　遺構覆土上層と下層の一部に焼土粒子を多量に含む黒色土層が認められ、間に焼土粒子をほとんど含まない黒色土層を狭在している。

時期　遺構内より遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

性格　覆土に焼土粒子を含む土壌が確認されることから、炉穴であると判断される。浅い不整円形の土坑を構築した後に、燃焼したと考えられる。なお、焼土粒子を含む土層が上下２枚認められており、燃焼に時間差が認められる。

３区第35号土坑（第53図）

位置　３区の北側、M・N－13グリッドに位置している。

形状　平面形状は不整円形、断面形状は不整形を呈している。

層位　土坑の西側を中心に焼土が堆積している。西側における焼土の堆積は、土坑の底面まで及んでいる。焼土は土坑の西側に形成され、東側の焼土の上層には焼土粒子を含む黒色土層が確認される。

時期　遺構内より遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

性格　遺構覆土内に焼土が確認されており、炉穴であると判断される。主に土坑の西側を燃焼部としたと考えられる。

３区第38・49・83号土坑（第54図、第79図）

位置　３区の中央、L－10グリッドに位置している。３基の土坑が切りあっている形状を呈している。

形状　第38号土坑の平面形状は不整円形・断面形状は丸形、第49号土坑の平面形状・断面形状は不整形、第83号土坑の平面形状は不整円形・断面形状は丸形を呈している。

層位　第38号土坑底面の地山層が焼土化していた。範囲は20cm×10cm 程度である。第49号土坑の遺構底面からは、焼土と炭化物が確認された。

遺物　第83号土坑の覆土内からは、土器が１点（第79図60）出土している。

時期　遺構内より伴出している遺物から、子母口式併行期と考えられる。

性格　第38号土坑と第83号土坑は東西方向に重なっており、第38号土坑の方が底面まで深く、燃焼部を有している。このような形状から、第38・83号土坑は同時に機能した遺構であり、炉穴として用いられた可能性が強い。また、第83号土坑底面からは風化した花崗岩が出土している。これに対して、第49号土坑は底面に焼土と炭化物が認められており、浅い土坑を構築した後に燃焼したと考えられる。

３区第39号土坑（第55図）

位置　３区の中央西寄り、K・L－10グリッドに位置している。

形状　平面形状は長円形、断面形状は２段に分かれており、西側が深く東側に向かって浅くなる形状を呈している。

層位　ほぼ単層であり、埋没過程が短かったと推察される。土坑中央の底面において焼土が堆積している。

時期　遺構内より遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

性格　土坑底面の中央を燃焼部として用いたと考えられる。地形の傾斜に対して直交する向きに遺構を構築しており、平面形状が長円形を呈していることから、土坑の西側が足場、東側を炉部として用いられた可能性

を有している。

３区第41・42号土坑（第55図）

位置　３区の北東側、O－11グリッドに位置している。２基の土坑が切りあっている形状を呈している。

形状　第41号土坑の平面形状は不整円形・断面形状は不整形、第42号土坑の平面形状は不整円形・断面形状は逆台形を呈している。

層位　第42号土坑は焼土粒子を含まないのに対し、第41号土坑底面の北側・南側には焼土粒子を含む土層がある。

時期　遺構内より遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

性格　第41・42号土坑共に浅い掘り込みであるため、同時期に用いられた遺構ではないと考えられる。第41号土坑は焼土粒子を底面に含んでいることから、炉穴だと判断される。

３区第44～46・55・85号、６区第57号土坑（第56図、第76～79図）

位置　３区の中央東寄り、M・N・O－９グリッドに位置している。６基の土坑が切りあっている形状を呈している。

形状　３区第44号土坑の平面形状は円形・断面形状は浅丸形、３区第45号土坑の平面形状は長円形・断面形状の長軸が丸形・短軸が円筒形、３区第46号土坑の平面形状は不整形・断面形状の長軸が丸形・短軸は円筒形、３区第55号土坑の平面形状は不整形・断面形状の長軸が丸形・短軸は円筒形、３区第85号土坑の平面形状は不整円形・断面形状は丸形、６区第57号土坑の平面形状は不整形・断面形状の長軸が丸形・短軸が円筒形を呈している。

層位　３区第45・46・55号、６区第57号土坑と３区第85号土坑の土坑底面に焼土が堆積していた。また、土層観察により東側の土坑群が西側を切っており、構築過程が西側から東側に移っていったと推察される。

遺物　３区第44号土坑から土器４点（第76図７～10）・石器１点（第76図11）・剥片６点、３区第45号土坑から土器15点（第77図12～26）・剥片２点、３区第46号土坑から土器13点（第77図27・28、第78図29～39）・石器２点（第78図40・41）・剥片１点、３区第55号土坑から土器１点（第78図48）・石器１点（第78図49）、３区第85号土坑から土器１点（第79図61）・石器２点（第79図62・63）・剥片１点が出土している。なお、第76図７と８、第77図27と28は同一個体である。

時期　遺構内より伴出している遺物から、子母口式併行期と考えられる。

性格　炉穴が集積した遺構群であり、複雑に切りあっている。遺構の断面形状から３区第44・85号土坑が足場に該当し、３区第45・46・55号土坑、６区第57号土坑はいずれも炉部に比定される。３区第45・55号土坑は北東側、３区第46号土坑は南西側、６区第57号土坑は東側に炉部を向けており、廃絶と再構築を繰り返したことが分かる。

３区第48号土坑（第55図、第78図）

位置　３区の北東側、O－12グリッドに位置している。

形状　平面形状は長楕円形で、断面形状は逆台形を呈している。

層位　焼土は北東側の遺構底面に確認され、焼土の上に黒褐色土が堆積している。

遺物　第48号土坑の覆土内からは、土器が１点（第78図46）出土している。

時期　遺構内より伴出している遺物から、子母口式併行期と考えられる。

性格　土坑の北東側を炉部とする、炉穴であると考えられる。

３区第54・89～91号、６区第39～42号土坑（第63・64図、第83図）

位置　３区の中央東寄り、N・O－10、O－11グリッドに位置している。８基の土坑が切りあっている形状を呈している。

形状　３区第54号土坑の平面形状は不整形・断面形状は浅丸形、３区第89号土坑の平面形状は不整形・断面形状は浅丸形、３区第90号土坑の平面形状は長楕円形・断面形状の長軸が丸形・短軸は円筒形、３区第91号土坑の平面形状は不整形・断面形状は浅丸形、６区第39号土坑の平面形状は不整形・断面形状は浅丸形、６区第40号土坑の平面形状は不整形・断面形状は丸形、６区第41号土坑の平面形状は長楕円形・断面形状の

長軸が丸形・短軸は円筒形、６区第42号土坑の平面形状は不整形・断面形状は浅丸形を呈する。

層位　３区第54・91号土坑、６区第40・41号土坑の底面からは、焼土の堆積が認められる。

遺物　６区第41号土坑から土器が１点（第83図123）出土している。遺構覆土の切りあい関係から、東側から西側に遺構が構築された可能性を指摘できる。

時期　遺構内より時期比定可能な遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

性格　炉穴が集積した遺構群である。３区第54・89～91号土坑は、３区90号土坑の長軸と直交する方向に位置しているが、遺構が廃絶した後に異なる方向に再構築したためと考えられる。６区第39・42号土坑は炉部を有する６区第40・41号土坑のいずれも右側に位置している遺構であり、遺構底面までの深さなどの形状が非常に類似している。このことから、６区第40号土坑と６区第42号土坑・６区第39号土坑と６区第41号土坑は同時に機能した一連の遺構であると考えられる。

３区第62号土坑（第57図）

位置　３区の中央東寄り、M－７・８グリッドに位置している。３区第73・105～107号土坑と近接している。

形状　平面形状は長楕円形・断面形状は浅丸形を呈している。

層位　土坑底面の北側と南側に焼土が確認された。

時期　遺構内より遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

性格　遺構覆土内に焼土が確認されており、炉穴であると判断される。

３区第63・87号土坑（第57図、第78・79図）

位置　３区の北東側、N－12グリッドに位置している。２基の土坑が切りあっている形状を呈している。

形状　第63号土坑の平面形状は長楕円形・断面形状の長軸が丸形・短軸は円筒形、第87号土坑の平面形状は長楕円形・断面形状は浅丸形を呈している。

層位　第63号土坑は土坑底面の東南側と西南側、第87号土坑は土坑中央の一部に焼土集中を有する。また、第63号土坑の土層断面と焼土の位置から東南側と西南側の間には、ブリッジを有していた可能性がある。

遺物　第63号土坑からは土器１点（第78図50）、第87号土坑からは土器２点（第79図64～66）が出土している。

時期　遺構内より伴出している遺物から、子母口式併行期と考えられる。

性格　２単位の炉穴が切りあっており、平面形状から第63号土坑がより新しい遺構であると判断される。

３区第68号土坑（第57図）

位置　３区の中央東寄り、M－９・10グリッドに位置している。

形状　平面形状は不整円形・断面形状は丸形を呈している。

層位　遺構の覆土上位～中位に焼土粒子を多量に含んでいる土層が確認された。

時期　遺構内より遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

性格　遺構覆土内に焼土が確認されており、炉穴であると判断される。

３区第73・105～107号土坑（第58図、第78・81図）

位置　３区の南側、L・M－８グリッドに位置している。４基の土坑が切りあっている形状を呈している。

形状　第73・105～107号土坑の平面形状は不整円形・断面形状は不整形、第105号土坑の平面形状は長楕円形・断面形状の長軸が丸形・短軸は円筒形、第106・107号土坑の平面形状は不整円形・断面形状は丸形を呈する。

層位　第105～107号土坑の遺構底面には焼土が堆積していた。

遺物　第73号土坑からは石器が１点（第78図51）、第105号土坑からは土器が２点（第81図87・88）・剥片１点、第106号土坑からは土器が１点（第81図92）、第107号土坑からは土器が３点（第81図89～91）確認されている。

時期　遺構内より伴出している土器は金色雲母を含んでおり、鵜ヶ島台式期と考えられる。

性格　４基の土坑が切りあっているが、第73号土坑は足場、第105～107号土坑は炉部に比定される。炉部は同じ方向に３単位構築されており、廃絶と再構築を繰り返した様子が窺われる。

３区第75号土坑（第58図、第79図）

位置　３区の南側、L－８グリッドに位置している。

形状　平面形状は不整形・断面形状は浅丸形を呈している。

層位　遺構覆土は黒褐色土である。土層中に焼土粒子・炭化物粒子等は含まれない。

遺物　２個体の土器（第79図52～59）が並んで埋設されていた。

時期　遺構内より伴出している土器は金色雲母を含んでおり、鵜ヶ島台式期と考えられる。

性格　土器を並べて埋設する遺構としては、５区の第77号土坑内においても２個体分の土器が検出されている。

３区第86号土坑（第59図）

位置　３区の北東側、O－13グリッドに位置している。

形状　平面形状は不整形・断面形状は浅丸形を呈している。

層位　土坑底面に焼土が確認されている。

時期　遺構内より遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

性格　遺構底面に焼土が確認されており、炉穴であると判断される。

３区第92・100・101号土坑（第59図、第80図）

位置　３区の北東側、N－12・13グリッドに位置している。３基の土坑が切りあっている形状を呈している。

形状　第92号土坑の平面形状は長楕円形・断面形状の長軸が丸形・短軸が円筒形、第100号土坑の平面形状は長楕円形・断面形状の長軸が丸形・短軸は円筒形、第101号土坑の平面形状は不整円形・断面形状の長軸が丸形・短軸は円筒形を呈している。

層位　第92・100号土坑の東側、第101号土坑の北側における土坑底面には焼土が堆積している。また、第100号土坑が第92号土坑を切っており、西側から東側へ遺構が構築されたことが分かる。

遺物　第92号土坑から土器２点（第80図67・68）・剥片１点、第100号土坑から土器１点（第80図72）が出土した。

時期　遺構内より伴出している遺物から、子母口式併行期と考えられる。

性格　東西方向に長軸を持つ炉穴群と考えられる。

３区第93号土坑（第59図）

位置　３区の北東側、N・O－12グリッドに位置している。

形状　平面形状は長楕円形・断面形状は不整形を呈している。

層位　土坑底面の西側と東側の一部に焼土が確認されている。

遺物　第93号土坑からは土器が１点（第80図69）確認されている。

時期　遺構内より伴出している遺物から、鵜ヶ島台式期と考えられる。

性格　遺構底面に焼土が確認されており、炉穴であると判断される。

３区第94号土坑（第59図、第80図）

位置　３区の北東側、N・O－13グリッドに位置している。

形状　平面形状は楕円形・断面形状は丸形を呈している。

層位　遺構底面の西側に焼土が堆積している。

遺物　第94号土坑からは土器が１点（第80図70）確認されている。

時期　遺構内より時期比定が可能な遺物が出土していないため、不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

性格　遺構底面に焼土が確認されており、炉穴であると判断される。

３区第95号土坑（第59図、第80図）

位置　３区の北東側、O－14グリッドに位置している。

形状　平面形状は不明・断面形状は不整形を呈している。
層位　土坑底面の一部に焼土が確認されている。
遺物　第95号土坑からは土器が１点（第80図71）確認されている。
時期　遺構内より時期比定が可能な遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。
性格　遺構底面に焼土が確認されており、炉穴であると判断される。遺構の北側は調査区外のため、全容は不明であるが、確認されている範囲内での遺構の形状から、炉穴が複数切りあっている可能性を有する。

３区第96号土坑（第59図）
位置　３区の北東側、O－14グリッドに位置している。
形状　平面形状は不明・断面形状は不整形を呈している。
層位　土坑底面の一部に焼土が確認されている。
時期　遺構内より遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。
性格　遺構底面に焼土が確認されており、炉穴であると判断される。遺構の北側は調査区外のため、全容は不明であるが、確認されている範囲内での遺構の形状から、炉穴が複数切りあっている可能性を有する。

３区第97～99・102～104号土坑（第60図、第80・81図）
位置　３区の北東側、N・O－13グリッドに位置している。６基の土坑が切りあっている形状を呈している。また、第103号土坑の北側には１号配石がある。
形状　第97号土坑の平面形状は長楕円形・断面形状の長軸が丸形・短軸が円筒形、第98号土坑の平面形状は長楕円形・断面形状は丸形、第99号土坑の平面形状は不明・断面形状の長軸が丸形・短軸は円筒形、第102号土坑の平面形状は長楕円形・断面形状の長軸が丸形・短軸が円筒形、第103号土坑の平面形状は不整円形・断面形状の長軸が丸形・短軸が円筒形、第104号土坑の平面形状は長楕円形・断面形状の長軸が丸形・短軸が円筒形を呈している。
層位　第97～99・102～104号土坑の遺構底面からは焼土が確認されている。
遺物　第98号土坑からは土器２点（第80図73・74）・台石２点（第80図75・76）、第102号土坑からは土器５点（第80図77～81）・台石２点（第80図82・83）、第103号土坑からは土器１点（第81図84）、第104号土坑からは土器が２点（第81図85・86）確認されている。
時期　遺構内より伴出している遺物から、子母口式併行期と考えられる。
性格　遺構の平面形状から、第98号土坑は足場、第97・99・102～104号土坑は炉部と足場が複合した遺構であると判断される。第98号土坑内からも焼土が２ヶ所確認されている。また、第98号土坑内からは台石が２点重なって出土した。遺構の構築順序であるが、第103号土坑が第104号土坑を切っており、東側から西側に構築されたと考えられる。

５区第58号土坑（第67図）
位置　５区中央、T－12グリッドに位置している。西側に第59・60号土坑が近接している。
形状　平面形状は不整形・断面形状の長軸が丸形・短軸は円筒形を呈している。
層位　遺構覆土の中位から下位に焼土が確認された。焼土は遺構の東側と西側に分かれて検出されている。また、遺構東側の上位から中位において石が集積して出土した。
時期　遺構内より遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。
性格　遺構の東側を中心に38個の礫が出土した。これらは遺構の覆土中位から確認されており、遺構底面との間には土層が挟在している。このため、遺構が廃絶した後に用いられた可能性を有している。東側の焼土範囲が炉部に比定され、より底面に近い位置に焼土が位置する。また、礫の配置に規則性はなく、炉穴の機能に伴って、石を配したとも考えがたい。したがって、炉穴として５区第58号土坑を使用した後に、埋没した遺構に礫を入れて異なる機能を持つ遺構に転用したと推定される。

５区第59・60号土坑（第67図）

位置　５区中央、T－12・13グリッドに位置している。２基の土坑が切りあっている形状を呈している。

形状　第59・60号土坑の平面形状は不整形・断面形状は丸形を呈している。

層位　第59号土坑が、第60号土坑を切っており、第59号土坑西側の土坑底面には焼土が堆積している。

時期　遺構内より遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

性格　第59号土坑の底面に焼土が堆積していることから、炉穴であると考えられる。

５区第63号土坑（第68図、第81図）

位置　５区中央、T－11グリッドに位置している。

形状　平面形状は不整形・断面形状は丸形を呈している。

遺物　土器が３点（第81図96～98）確認されている。

時期　遺構内より伴出している遺物から、鵜ヶ島台式期と考えられる。

性格　土器は断面図では土坑の上に位置しているが、遺構確認の段階で覆土上位と周囲の土壌が同質であったためであり、土坑が構築された段階での掘り込み面はより上に位置していたと考えられる。したがって、土坑の覆土の上位に土器を埋めたと推定される。

５区第66号土坑（第68図）

位置　５区西南側、R－11グリッドに位置している。

形状　平面形状は不整円形・断面形状は丸形を呈している。

層位　覆土の上位に焼土・炭化物粒子を含む土層が確認されている。

時期　遺構内より遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

性格　燃焼した痕跡が遺構の上位から検出されていることが、他の土坑と異なっている。

５区第74号土坑（第68図、第82図）

位置　５区西南端、P－９グリッドに位置している。

形状　平面形状は不整円形・断面形状は逆台形を呈している。

遺物　石錐が１点（第82図103）、砕片が２点出土している。

時期　遺構内より遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

性格　５区第75号土坑と平面形状が似ており、同時期の遺構であると考えられる。

５区第75号土坑（第68図、第82図）

位置　５区西南端、P－９グリッドに位置している。

形状　平面形状は不整円形・断面形状は袋状を呈している。

遺物　土器が１点（第82図104）出土している。

時期　遺構内より時期比定が可能な遺物が出土していないため、不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

性格　土坑の中位、西側と南側に大形の礫が確認された。確認面よりも遺構底面において最大径を有しているが、広がり方は非常に緩い。遺構確認面から底面まで1.09m を測る。

５区第77号土坑（第70図、第82図）

位置　５区西南端、O－10グリッドに位置している。

形状　平面形状・断面形状は不整形を呈している。

遺物　遺構の上位から下位にかけて、土器が２個体分（第82図105～107）確認された。図示したものの内、第82図105・106は同一個体であると考えられる。

時期　遺構内より時期比定が可能な遺物が出土していないため、不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

性格　３区第75号土坑と同じく、２個体の土器を並べて埋置したと考えられる遺構である。土器は無文であるため、時期比定は困難であるが、子母口式併行期と同じ特徴を持つ胎土である。

５区第78号土坑（第70図）

位置　５区西南端、Q－10グリッドに位置している。

形状　平面形状・断面形状は不整形を呈している。

層位　遺構の底面近くより、焼土が確認された。ただし、焼土の広がりは非常に狭い。

時期　遺構内より遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

性格　覆土に焼土が確認されることから、炉穴であると判断される。

５区第79・80号土坑（第69図、第82図）

位置　５区西南端、Q－10グリッドに位置している。２基の土坑が切りあっている形状を呈している。

形状　第79・80号土坑はいずれも平面形状は不整形・断面形状の長軸が丸形・短軸が円筒形である。

層位　第79号土坑の西側と第80号土坑の東側・西側において、焼土が認められた。焼土は遺構の底面付近に広がっている。

遺物　第79号土坑から土器が１点（第82図108）出土している。

時期　遺構内より時期比定が可能な遺物が出土していないため、不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

性格　遺構底面において焼土が検出されていることから、炉穴であると考えられる。いずれも、平面形状が不整形ながらも、長楕円形に似ており、足場と炉部を有する炉穴であると判断される。なお、第79号土坑西側の遺構覆土の上位に石が３点確認されているが、炉穴の機能に伴うものかは不明である。

５区第81号土坑（第70図）

位置　５区西南端、Q－10グリッドに位置している。

形状　平面形状は不整円形・断面形状は不整形を呈している。

層位　遺構底面までの層厚は非常に薄いが、遺構覆土の上位において焼土粒子を含む土層が確認された。

時期　遺構内より遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

性格　遺構覆土中から焼土粒子を含む土層が確認されていることから、炉穴であると判断される。

５区第82～86号土坑、６区第33号土坑、11区第87・88号土坑（第69図、第82・84図）

位置　５区西南端、P・Q－９・10グリッドに位置している。８基の土坑が切りあっている形状を呈している。

形状　５区第82号土坑の平面形状は不整形・断面形状の長軸が丸形・短軸は円筒形、５区第83号土坑の平面形状は長楕円形・断面形状の長軸が丸形・短軸は円筒形、５区第84号土坑の平面形状は不整形・断面形状は丸形、５区第85～86号・６区33号土坑・11区87・88号土坑の平面形状は長楕円形・断面形状の長軸が丸形・短軸は円筒形を呈している。

層位　５区第82号～86号土坑・６区33号土坑・11区87・88号土坑の遺構底面から焼土が確認されている。また、土層観察から、５区第85号土坑が最も新しい土坑であると判断される。

遺物　５区第83号土坑から土器が４点（第82図109～112）、５区第85号土坑から土器が４点（第82図113～116）・剥片が２点、５区第86号土坑から剥片が２点・細片が２点、11区88号土坑からは土器が１点（第84図135）出土している。

時期　遺構内より伴出している遺物から、子母口式併行期と考えられる。

性格　複数の炉穴が重複している遺構であり、どの遺構も長楕円形を呈している。最も新しい５区第82号土坑の平面形状は西側が不整円形・東側が長楕円形である。この内、長楕円形の底面から焼土が検出されていることから、西側が炉部・東側が足場であると判断される。５区第82号土坑の中位～下位の土層がほぼ単層であることから、埋没過程に時間幅がなかったと考えられる。

６区第13号土坑（第61図）

位置　６区北西端、O・P－12グリッドに位置している。
形状　調査区外に遺構が広がるため、全体の形状は不明であるが、断面形状の長軸が丸形・短軸は円筒形を呈する。
層位　遺構底面の東側から焼土が確認されている。
時期　遺構内より遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。
性格　炉部を東側、足部を西側に有する炉穴だと判断される。

６区第23号土坑（第62図、第83図）
位置　６区中央西側寄りの、O－12グリッドに位置している。６区第24号土坑に隣接している。
形状　調査区の端部に位置しているため、遺構西側が捉えられなかったが、平面形状は２つの土坑が連なっている形状を呈している。東側の土坑底面の地山は硬化が進み、土壌は焼土化しており、激しく燃焼した様子が窺える。焼土の広がりがある土坑の東側は緩く窪んでおり、東側に向けて急角度に立ち上がる形状を呈している。土坑の間には天井部が残存している。
層位　焼土は遺構の底面しか堆積しておらず、その上はほぼ単層である。
遺物　遺構東側の底面付近において土器が１点（第83図117）出土している。
時期　遺構内より時期比定が可能な遺物が出土していないため、不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。
性格　炉部を東側、足部を西側に有する炉穴であると考えられる。天井部が残存していることが、遺構の特殊性として挙げられる。また、焼土が東側の土坑の直下に形成しており、焼土の範囲内から土器（第83図117）の口縁部が出土していることから、遺構の機能としては穴に土器を埋置して煮沸したと考えられる。

６区第31号土坑（第62図）
位置　６区中央西側寄りの、O－11グリッドに位置している。第30号土坑に隣接している。
形状　平面形状は楕円形・断面形状の長軸が丸形・短軸は円筒形を呈している。
層位　遺構底面の西側と東側から焼土の広がりが認められ、覆土上位には焼土粒子が確認されている。
時期　遺構内より遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。
性格　遺構底面に焼土の広がりが確認されていることから、炉穴であると判断される。

６区第43号土坑（第65図）
位置　６区西南側、N・O－10グリッドに位置している。
形状　平面形状は不整形・断面形状は浅丸形を呈している。
層位　遺構底面から焼土が確認されている。
時期　遺構内より遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。
性格　遺構底面に焼土の広がりが確認されていることから、炉穴であると判断される。

６区第44号土坑（第65図）
位置　６区西南側、N－10グリッドに位置している。
形状　平面形状は不整形・断面形状は浅丸形を呈している。
層位　遺構の覆土中位から焼土が確認されている。
時期　遺構内より遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。
性格　遺構覆土中位に焼土層が確認されていることから、炉穴であると判断される。

11区第４～６号土坑（第70図）
位置　11区東側、Q・R－９グリッドに位置している。３基の土坑が切りあっている形状を呈している。
形状　第４号土坑の平面形状は不整形・断面形状は丸形、第５・６号土坑の平面形状は長楕円形・断面形状の長

軸が丸形・短軸は円筒形を呈している。

層位　第４・５号土坑の東側、第６号土坑の東南側における遺構底面より、焼土が検出されている。また、土層断面観察により、５号土坑が最も新しい土坑であると判断される。

遺物　第４号土坑から土器が１点出土している。

時期　遺構内より時期比定が可能な遺物が出土していないが、子母口式併行期の遺構である11区第７～11号土坑に切られており、ほぼ同時期の遺構であると推測される。

性格　第４・５号土坑と第６号土坑の長軸方向は大きく異なっていることから、第６号土坑が廃絶した後に第４・５号土坑を構築したと考えられる。また、第４・５号土坑の長軸方向はほぼ同一であるが、遺構底面の形状においては第４号土坑を第５号土坑が切っており、遺構を延伸したと判断される。

11区第７～11号土坑（第71図）

位置　11区南側、P・Q－９グリッドに位置している。５基の土坑が切りあっている形状を呈している。第11号土坑覆土上面には第１号配石が確認されている。

形状　第７号土坑の平面形状は不整形・断面形状の長軸が丸形・短軸は円筒形、第８号土坑は不整形・断面形状は逆台形、第９号土坑の平面形状は不整形・断面形状の長軸が丸形・短軸は円筒形、第10号土坑の平面形状は不整形・断面形状は浅丸形、第11号土坑の平面形状は不整形・断面形状の長軸が丸形・短軸は円筒形を呈している。

層位　第７・９号土坑の底面には焼土が確認されている。

遺物　第７・11号土坑から土器が１点出土している。

時期　遺構内より時期比定が可能な遺物が出土していないが、子母口式併行期の遺構である11区第12～15号土坑に切られており、ほぼ同時期の遺構であると推測される。

性格　足場と炉部を有する炉穴が集積した遺構群であると考えられる。第９・11号土坑は調査区外に遺構が伸びているため、全容は不明であるが、形状から第９号土坑が炉部、第11号土坑が足場だと判断される。同じく第７号土坑は炉部、第８号土坑は足場であり、同時に機能した土坑と考えられる。第７号土坑の焼土が確認される範囲の北東側に長楕円形の掘り込みが確認されたが、これも第７・８号土坑の関連遺構である可能性を有する。

11区第12～15号土坑（第71図、第83図）

位置　11区南側、P－８・９グリッドに位置している。

形状　第12・14号土坑の平面形状は長楕円形・断面形状の長軸が丸形・短軸は円筒形、第13・15号土坑の平面形状・断面形状は不明である。

層位　第12号土坑及び第13・14号土坑東側の底面には焼土が認められる。土層観察から、第14号土坑が第13号土坑を切っている状況が看取された。

遺物　第12号土坑から土器が２点（第83図125・126）、第13号土坑から土器が５点（第83図127～130）、第14号土坑から土器が７点（第83図131～133）・剥片１点、第15号土坑から土器が１点出土している。

時期　遺構内より伴出している遺物から、子母口式併行期と考えられる。

性格　第13号土坑の西側が足場であり、調査区外に伸びており完全な形で検出できなかったが、東側に炉部が位置する。第12号土坑の足場は、第13号土坑の西側であったと推察される。第14号土坑が土坑群中で最も新しいものであると判断される。

11区第16号土坑（第71図）

位置　５区西南端、P－９グリッドに位置している。

形状　平面形状は長楕円形・断面形状は丸形を呈している。

層位　土坑底面の中央から焼土が検出されている。

時期　遺構内より遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

性格　平面形状が長楕円形を呈し、土坑底面に焼土が広がっていることから、足場と炉部を有する炉穴であると

判断される。焼土が検出された位置から北側が炉部、南側が足場だと考えられる。

12区第２号土坑（第74図）

位置　12区南側、J−5グリッドに位置している。

形状　平面形状は不整円形・断面形状は浅丸形を呈している。

層位　土坑底面の南側から焼土が検出されている。

時期　遺構内より遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期〜鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

性格　遺構底面に焼土の広がりが確認されていることから、炉穴であると判断される。

12区第３号土坑（第74図）

位置　12区南側、J－５グリッドに位置している。

形状　平面形状は不整円形・断面形状は浅丸形を呈している。

層位　土坑底面の北東側から焼土が検出されている。

時期　遺構内より遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期〜鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

性格　遺構底面に焼土の広がりが確認されていることから、炉穴であると判断される。

（３）集石

３区第１号集石（第65図、第84図）

位置　３区北東側、N−13グリッドに位置している。

形状　長軸1.1m・短軸0.8m の間に石が集中して確認されたため、集石として認定した。また、平坦なレベルで検出された礫を計測後に外したところ、下部からも長軸0.9m・短軸0.7m の範囲に石がまとまって検出された。

層位　第Ⅲ面の遺構確認面の上に堆積する暗褐色土層の中位〜下位から検出された。

遺物　第１号集石からは土器１点（第84図１）・石核１点（第84図２）・礫器１点（第84図３）・楔形石器１点（第84図４）が出土している。

時期　遺構内より伴出している遺物から、子母口式併行期と考えられる。

３区第２号集石（第65図、第85図）

位置　３区北東側、N−13グリッドに位置している。

形状　長軸0.8m・短軸0.7m の間に石が集中して確認されたため、集石として認定した。

層位　第Ⅲ面の遺構確認面の上に堆積する暗褐色土層の中位〜下位から検出された。

遺物　第２号集石からは稜磨・敲石１点（第85図５）が出土している。

時期　遺構内より遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期〜鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

３区第３号集石（第65図）

位置　３区西南側、K－７グリッドに位置している。

形状　長軸0.6m・短軸0.5m の間に石が集中して確認されたため、集石として認定した。

層位　第Ⅲ面の遺構確認面の上に堆積する暗褐色土層の中位〜下位から検出された。

時期　遺構内より遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期〜鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

３区第４号集石（第65図、第85図）

位置　３区西南側、K－７・８グリッドに位置している。

形状　長軸１m・短軸0.9m の間に石が集中して確認されたため、集石として認定した。

層位　第Ⅲ面の遺構確認面の上に堆積する暗褐色土層の中位〜下位から検出された。

遺物　第４号集石からは土器が１点(第85図６)出土している。

時期　遺構内より時期比定が可能な遺物が出土していないため、不明であるが、遺構の検出された位置から、子

母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

４区第１号集石（第53図、第85図）

位置　４区東側、G－７グリッドに位置している。

形状　長軸1.5m・短軸１m の間に石が集中して確認されたため、集石として認定した。

層位　第Ⅲ面の上に位置する構成土壌である暗褐色土層の上面から遺構が検出された。

遺物　第１号集石からは稜磨石１点(第85図７)・磨石１点（第85図８）・削器１点（第85図９）が出土している。

時期　遺構内より時期比定が可能な遺物が出土していないが、遺構が検出された土層から鵜ヶ島台式期と考えられる。

４区第２号集石（第53図）

位置　４区東側、F－７グリッドに位置している。

形状　長軸0.8m・短軸0.4m の間に石が集中して確認されたため、集石として認定した。

層位　第Ⅲ面の上に位置する構成土壌である暗褐色土層の上面から遺構が検出された。

時期　遺構内からは遺物が検出されていないが、遺構が検出された土層から鵜ヶ島台式期と考えられる。

５区第１号集石（第72図）

位置　５区の北東側、U－14・15グリッドに位置している。東南側に５区第１号焼土集中が位置している。

形状　長軸２m・短軸1.5m の間に石が分布していたため、一括して集石として認定した。この範囲内には石が集中する地点が２ケ所認められており、その周囲に散漫に石が分布している。

層位　第Ⅲ面の遺構確認面の上に堆積する暗褐色土層の上位から検出された。

時期　遺構内より遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、鵜ヶ島台式期の遺構である可能性が強い。

６区第１号集石（第65図）

位置　６区の北東側、N－10グリッドに位置している。

形状　長軸0.8m・短軸0.3m の間に石が集中して確認されたため、集石として認定した。

層位　第Ⅲ面の遺構確認面と同じレベルから検出された。

時期　遺構内より遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

11区第１号集石（第72図、第85・86図）

位置　11区の西側、P－９グリッドに位置している。

形状　長軸1.8m・短軸１m の間に石が集中して確認されたため、集石として認定した。ただし、石のレベルは平坦ではなく、若干の上下差を有している。土器片を多く含むのもこの遺構の特徴であるが、他の集石とは性格が異なる遺構である可能性を有している。

層位　第Ⅲ面の遺構確認面の上に堆積する暗褐色土層の中位～下位から礫・遺物は検出された。

遺物　11区第１号集石からは土器が16点（第85図10・11、第86図12）出土した。

時期　出土した土器は、子母口式併行期が２点（第85図10・11)、鵜ヶ島台式期が11点（第86図12）である。出土した鵜ヶ島台式期の土器片はほとんどが同一固体であり、集石に伴って検出された。したがって、子母口式併行期の土器片は混ざりこんだものであり、鵜ヶ島台式期が遺構の年代と考えられる。

11区第２号集石（第72図）

位置　11区の中央南寄り、P・Q－９グリッドに位置している。11区土器集中地点の北側に位置している。

形状　長軸0.8m・短軸0.5m の間に石が集中して確認されたため、集石として認定した。

層位　第Ⅲ面の遺構確認面の上に堆積する暗褐色土層の下位から遺物は検出された。

時期　遺構内からは遺物が検出されていないが、11区土器集中地点と同一レベルであり、近接していることから、鵜ヶ島台式期と考えられる。

（４）配石

３区第１号配石（第60図、第87図）

位置　３区の北東側、O－13グリッドに位置している。
形状　長軸0.7m・短軸0.7m の範囲に円形に配された石が認められたため、配石と認定した。検出段階において、配石中央には径25cm の礫が確認されたが、その下には平坦な面を上に向けた石が並べられていた。
層位　第Ⅲ面の遺構確認面と同じレベルから検出された。また、３区第１号配石は、３区第103号土坑覆土上面とほぼ同じレベルに構築されている。
遺物　第１号配石からは稜磨・敲石が１点（第87図1）出土している。
時期　遺構内より時期比定可能な遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

11区第１号配石（第71図）
位置　11区の中央南寄り、Q－９グリッドに位置している。
形状　長軸0.5m・短軸0.4m の範囲に円形に配された石が認められたため、配石と認定した。配された石の間に空隙があり、３区第１号配石より雑な形状である。また、配石の下部に石は確認されなかった。
層位　第Ⅲ面の遺構確認面と同じレベルから検出された。また、11区第１号配石は、11区第８号土坑覆土上面とほぼ同じレベルに構築されている。
時期　遺構内より遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

（５）礫集中

５・６区第１号礫集中（第72図、第86図）
位置　５区の西側と６区の東側、P・R－10～12グリッドに位置している。
形状　集石ほどに石が集中していないものの、散漫に分布する石が検出された。この散漫に石が分布する範囲を礫集中と認定した。
層位　第Ⅲ面の遺構確認面の上に堆積する暗褐色土層の中位～下位から検出された。
遺物　５・６区第１号礫集中からは稜磨石が２点（第86図１・４）、石核が１点（第86図２）、凹・敲石が１点（第86図３）出土している。
時期　遺構内より遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺構と考えられる。

（６）焼土集中

５区第１号焼土集中（第72図、第87図）
位置　５区の東側、U－14グリッドに位置している。北西側に５区１号集石が位置している。
形状　長軸0.7m・短軸0.5m の範囲に焼土の広がりが認められたため、掘り下げたところ不整形の掘り方を有することが把握された。
層位　焼土は遺構確認面及び覆土の中位にも認められている。
遺物　第１号焼土集中の遺構検出面からは稜磨石が１点（第87図１）出土している。
時期　遺構内より時期比定が可能な遺物が出土していないため不明であるが、遺構の検出された位置から、鵜ヶ島台式期の遺構である可能性が強い。５区１号集石が近接しているため、関連遺構であると推察される。

（７）遺物集中地点

５区石器集中地点（第73図、第87～95図）
位置　５区の中央北寄り、R・S－12・13グリッドに位置している。
形状　長軸７m・短軸３m の範囲に小形の石器が集中して出土したため、石器集中地点として認定した。
層位　第Ⅲ面の遺構確認面の上に堆積する暗褐色土層の上面から遺物は検出された。
遺物　土器が27点（第87図１～16）、石鏃未成品２点（第88図17・18）・削器７点（第88図20～22・第92図52～54・第94図71）・楔形石器１点（第88図19）・稜磨石（第94図72）・磨石２点（第94図73・第95図75）・磨凹石１点（第94図74）・剥片24点（第93図59・61～65・第94図66～70）・細片20点・砕片２点・石核24点（第88図25・第89図27～35・第90図36～43・第91図44～51・第92図55～57・第93図58）・微細剥離痕を

有する剥片３点（第88図23・24・第93図60）・２次加工痕を有する剥片１点（第88図26）・原石５点・台石１点（第95図76）が出土している。

時期　遺構内より伴出している遺物から、鵜ヶ島台式期と考えられる。

性格　出土した範囲の内、S－13グリッドの中央西寄りに集中地点を有し、そこから外側に向けて散漫に分布している。確認された石器類の内、石核・剥片・細片・砕片や未成品が組成し、石器製作跡だと考えられる。また、削器・微細剥離痕を有する剥片・２次加工痕を有する剥片・台石など作業を行ったことを示唆する石器も確認された。このため、５区石器集中地点とその周囲を対象に遺構確認を行ったが、遺構を示す掘り込み等は検出されなかった。

５区土器集中地点１（第73図、第95図）

位置　５区の中央南寄り、T－11グリッドに位置している。

形状　長軸0.5m・短軸0.4m の範囲に土器が集中して出土したため、土器集中地点として認定した。土器は口縁部を東側に向けて横倒しとなった状況で検出されている。遺構に伴う遺物である可能性が考えられたため、遺構確認を行ったが、遺構プランは確認されなかった。

層位　第Ⅲ面の遺構確認面の上に堆積する暗褐色土層の上位から検出された。

遺物　ほぼ完形の個体資料（第95図１）であることが把握された。文様構成から鵜ヶ島台式期と考えられる。

５区土器集中地点２（第73図、第95図）

位置　５区の東側、U－14グリッドに位置している。北側に５区１号集石、東側に５区１号焼土集中が検出された。

形状　0.2m 四方の範囲に同一個体と考えられる土器が集中して出土したため、土器集中地点として認定した。土器が検出された地点の北側には径30cm の石が確認された。ただし、この石に使用痕などは認められない。

層位　第Ⅲ面の遺構確認面の上に堆積する暗褐色土層の上位から検出された。

遺物　金色の雲母片を含んでおり、文様構成から鵜ヶ島台式期と考えられる（第95図２）。

11区土器集中地点（第73図、第95図）

位置　11区の東側、Q－９グリッドに位置している。

形状　長軸0.5m・短軸0.4m の範囲に土器が集中して出土したため、土器集中地点として認定した。

層位　第Ⅲ面の遺構確認面の上に堆積する暗褐色土層の下位から遺物は検出された。

遺物　金色の雲母片を多量に含んでおり、鵜ヶ島台式期と考えられる。当初、出土した土器片全てが同一個体であると考えられたが、第95図３と第95図４の頸部の厚さが異なるため、数個体の土器が集積した可能性も考えられる。

第３節 出土遺物と遺物分布について

１． 遺物の時期区分について

玉川金山遺跡からは、縄文時代早期後半から江戸時代までの幅広い遺物が検出された。遺物の分類をする際には次のように区分を行った。なお、分類において数量が多いものについては細分し、少ないものは広い分類基準で統括している。

第１類　縄文時代早期　繊維と微量の金色雲母を胎土に含み、押型文が施文された土器が該当する。

第２類　縄文時代早期　繊維と砂粒を胎土に含み、絡条体圧痕文・微隆起線文・沈線文が施され、子母口式併行期（清水柳Ｅ式・ミヲ坂式）に比定される土器が該当する。

第３類　縄文時代早期　繊維と砂粒を胎土に含み、微隆起線文・沈線文が施される土器で、野島式に比定される土器と、縄文が施文された古屋敷式に比定される土器が該当する。

第４類　縄文時代早期　繊維・砂粒・金色雲母を胎土に含み、押引文・刺突文・微隆起線文・沈線文・条痕文が施される土器で、鵜ヶ島台式に比定される土器が該当する。

第５類　縄文時代早期　連続する刺突文・沈線文が施されるもの、2～４条の結束した竹管で押引文を施すもの、器壁が非常に薄い一群の土器が該当する。胎土の特徴は土器によって異なり、微量の繊維と砂粒を含むものや微量の金色雲母と砂粒を含むもの、繊維と砂粒を含むものなどがある。

第６類　縄文時代前～晩期　数量が少ないため、縄文時代前～晩期を一括して第６期とした。第６期に該当するもので細分が不可能なものは第６期とした。

第６－１類　縄文時代前期の土器である諸磯ｂ式に比定される。

第６－２類　縄文時代中期の土器である勝坂式・曽利式に比定される。

第６－３類　縄文時代後期の土器である堀之内式・加曽利Ｂ式に比定される。

第６－４類　縄文時代晩期の土器である清水天王山式に比定される。

第７類　弥生時代の前期～中期の土器が該当する。

第８類　古墳時代の土器が該当する。

第９類　奈良時代の土師器・須恵器が該当する。

第10類　平安時代の土師器・須恵器が該当する。

第11類　中世の磁器・陶器が該当する。

第12類　近世の陶磁器が該当する。

この他、繊維を含有しており、縄文時代早期に位置づけられるものの、第１類～第５類に分類が困難である土器（条痕文・無文土器）については細分を行っていない。

２．遺物分布について

検出された土器・石器・金属製品などについて分類ごとの分布と接合関係を示したのが第181～192図である。なお、遺構内での接合関係については遺構の図版で示したため、ここでは扱っていない。ただし、遺構内外の土器が接合関係にあるものについては、図中に示してある。以下に分布の特徴を記述する。

第１期（第181図）

３区・５区に散漫に分布しており、明確なまとまりを持たない。

第２期（第181図・第184～186図）

３区・４区・５区西南側・６区に広がり、N・O－８～14、P－８～10、Q－９～11、R－11グリッドに集中を有する。接合関係がある資料については、３・４区・５区東南側・６区の全てに確認されるが、特にN・O－８～13グリッドにおいて最も多くの資料が接合している。

第３期（第181図）

３区東側・４区・５区西南側・６区に分布しており、分布の中心を６区の南側に持つ。

第４期（第181図・第187～189図）

３区・４区・５区中央～西側・６区に広がり、N－８～14、P・Q－９～13、R－９～12、S－10～13、T－11グリッドに集中を有している。接合関係がある資料については、３区と６区に確認されるが、特にP・Q－９～12、R－10～12グリッドにおいて最も多くの資料が接合関係を有している。

第５期（第182図）

４区・５区西南側・６区に分布しており、分布の中心を４区のG－６・７、Q・R－10グリッドに持つ。

第６期（第182図）

３区西側・４区・５区西南側・６区に分布しており、分布の中心を５区のQ・R－９・10グリッドに持つ。

第７期（第182図）

３区・４区・５区西南側・６区に分布し、分布の中心を４区のG－７・８とE－６、５区のQ・R－10グリッドに持つ。

第８期（第182図）

４区に分布し、接合資料を２点含む。

第９・10期（第183図）

奈良時代の遺物は、９・11・12区を除く全ての調査区において出され、特に４区における集中が著しい。また、２区・３区から集中して出土しているが、これは住居跡出土遺物である。これに対して、平安時代の遺物は１・４・５・7・８区に分布するが、１区・７区・８区東側にややまとまって出土する以外は散漫である。

第11期（第183図）

１区・２区・３区北西側・４～８区に分布している。最も多く出土するのが１区・８区であり、２区で集中しているのは、２区第24号土坑から出土した遺物である。

石鏃・石鏃未成品（第190図）

石鏃は３～６区に分布し、Q～T－９・10グリッドにまとまって出土しており、剥片・石核・細片・砕片などの石器製作を示唆する遺物と分布域が同一である。石鏃未成品は３～６区に分布するが、分布は散漫である。

石錐（第190図）

３～６区に分布し、Q～T－10・11グリッドにまとまって出土している。剥片・石核・細片・砕片などの石器製作を示唆する遺物と分布域が重なっている。

石匙（第190図）

４・６区から出土しているが、分布状況は非常に散漫である。

楔形石器（第190図）

３～６区に分布し、Q・R－10～12グリッドにまとまって出土している。

削器・掻器（第191図）

削器は３～６区に分布し、O～S－８～11グリッドにまとまって出土している。剥片・石核・細片・砕片などの石器製作を示唆する遺物と分布域が重なっている。掻器は３・５・６区に分布するが、分布は散漫である。

礫器・打製石斧（第191図）

礫器は３～６区に分布するが、分布は散漫である。打製石斧は３・６区から出土した。

微細剥離を有する剥片（MF）**・２次加工を有する剥片**（RF）（第191図）

微細剥離を有する剥片は３～６区に分布し、Q～S－10・11グリッドにまとまって出土している。２次加工を有する剥片は３～６区に分布するが、分布は散漫である。

石核・剥片（第191図）

石核・剥片はN・O－８～14、Q～S－10～12、S－13グリッドにまとまって出土している。N・O－８～14グリッドは３区第44～46・55・85号・６区第57号土坑、３区第97～99・102～104号土坑などの炉穴群、Q～S－10～12グリッドは５区１号礫集中、S－13グリッドは５区石器集中地点と重なっており、遺構の時期と同時期と考えられる。

細片・砕片（第192図）

石核・剥片の分布傾向とほぼ同一であるが、３～５区における分布が少ない。

原石（第192図）

２・３・５・６区に分布し、Q～S－10・11グリッドにまとまって出土している。剥片・石核・細片・砕片などの石器製作を示唆する遺物と分布域が重なっている。

磨石類（第192図）

３・５・６区に分布し、Q～S－10～12、N－9グリッドにまとまって出土している。剥片・石核・細片・砕片などの石器製作を示唆する遺物と一部分布域が重なっている。

台石（第192図）

３・６区から出土しているが、分布状況は散漫である。

恩馳島系黒曜石（第193図）

３～６区に分布し、N－９グリッドにまとまって出土している。

西霧ヶ峰系黒曜石（第193図）

３～６区に分布し、Q～S－10～12、S－13グリッドにまとまって出土している。Q～S－10～12グリッドは５

区１号礫集中、S－13グリッドは５区石器集中地点に分布しており、遺構の時期と同時期と考えられる。

その他の黒曜石（第193図）

和田峠・鷹山系、和田峠系Ⅰ、男女倉系Ⅲなどが確認されているが、いずれも分布は散漫である。判別不明の黒曜石はQ～S－10～12グリッドからまとまって出土している。

緑色凝灰岩（第193図）

３～６区に分布し、N・O－13・14、Q～S－10・11、L－８グリッドからまとまって出土している。N・O－13・14グリッドは３区第97～99・102～104号土坑、Q～S－10～12グリッドは５区１号礫集中と同時期に所属する可能性がある。

金属製品（第194図）

１～８区に分布し、最も多く出土しているのが、１区・８区である。第180図１～３・５・６は奈良・平安時代に比定される。第180図４も形態的には奈良・平安時代の鉄斧に類似するが、出土した位置がやや高く、中世に所属する可能性もある。あくまで形態的に検討する必要性はあるが、１区・８区に集中するという出土傾向は中世の遺物と共通していることから、１区・８区出土の不明鉄製品は中世のものである可能性が指摘される。また、銭貨は１・４・７区から検出されており、いずれも中国銭であるが、中世において流通－使用されたものだと言える。

第Ⅴ章　理化学的分析

第１節　AMS 年代測定分析

１．目的

遺跡が所在する都留市は火山灰によって厚く被覆されており、遺構面の間に観察される火山灰を同定することが、極めて重要な問題である。玉川金山遺跡からも火山灰と考えられる複数の層位が検出されたことから、火山灰の年代比定について上杉陽氏の助言を頂きながら検討を進めた。検討を進める中で年代比定された火山灰と遺構の年代について大きな差が生じたため、火山灰の中に含まれる炭化物を対象に AMS 年代測定分析を行った。また、遺構の所属時期を検討するために遺構覆土内から検出された炭化物を対象に AMS 年代測定分析を行った。

２．分析

上杉陽氏が火山灰の年代を検討したところ、３区において奈良時代の遺構が構築された土層の下位に位置する火山灰は B.C.3,000年前に降灰した忍野スコリアと考えられ、奈良時代の遺構確認面は B.C.2,900年前の大室スコリアである可能性を有しているという。また、縄文時代早期の遺構確認面・遺物包含層である暗褐色土層の下位は B.C.7,000～8,000年前の火山灰が含まれているという。特に忍野スコリアと湯船第１スコリアを含む土層の間には、火山灰の純層が認められており、非常に遺存状態が良好である。仮に火山灰の年代が検討通りだとすると、縄文時代早期に係わる遺構と火山灰の年代は整合的であるが、奈良時代については齟齬が生じる。そこで、土層内に含まれる炭化物を検出し、加速器分析研究所に委託し、AMS 年代測定分析を実施した。分析の方法については、加速器分析研究所の方法に準拠している。

３．対象

上杉陽氏が分層した層中に含まれる炭化物を採取し、分析を行った。対象とした土層は２区東壁のⅢ・Ⅳ層、４区北壁のⅥ・Ⅹ～ⅩⅡ・ⅩⅣ・ⅩⅤ層であり、それぞれ１点ずつ採取した。なお、上杉陽氏による火山灰比定によると、Ⅳ層は大室スコリア・Ⅴ層は忍野スコリア・Ⅵ層は湯船第１スコリアの可能性を有しているという。

４．結果と考察

分析結果については次表の通りである。

第３表　分析対象炭化物一覧表

分析番号	試料	ＢＰ年代および炭素の同位体比				
1	試料採取場所：　３区１号住居跡 カマド　Ｃ－３	Libby Age（yrBP）	：	1,490	±	40
		δ^{13}C（‰）、（加速器）	＝	−26.38	±	0.86
	試料形態：　木炭	Δ^{14}C（‰）	＝	−169.7	±	3.7
	試料名（番号）：　H16　ＮＯ１	ｐＭＣ（％）	＝	83.03	±	0.37
	（参考）　δ^{13}Cの補正無し	δ^{14}C（‰）	＝	−172	±	3.4
		ｐＭＣ（％）	＝	82.8	±	0.34
		Age（yrBP）	：	1,520	±	30
2	試料採取場所：　２区３号住居跡 Ｃ－５	Libby Age（yrBP）	：	1,360	±	40
		δ^{13}C（‰）、（加速器）	＝	−28.68	±	0.73
	試料形態：　木炭	Δ^{14}C（‰）	＝	−155.4	±	3.8
	試料名（番号）：　H16　ＮＯ２	ｐＭＣ（％）	＝	84.46	±	0.38
	（参考）　δ^{13}Cの補正無し	δ^{14}C（‰）	＝	−161.8	±	3.5
		ｐＭＣ（％）	＝	83.82	±	0.35
		Age（yrBP）	：	1,420	±	30
3	試料採取場所：　２区　焼土集中３	Libby Age（yrBP）	：	400	±	40
		δ^{13}C（‰）、（加速器）	＝	−28.71	±	0.76
	試料形態：　木炭	Δ^{14}C（‰）	＝	−48.8	±	4.1
	試料名（番号）：　H16　ＮＯ３	ｐＭＣ（％）	＝	95.12	±	0.41
	（参考）　δ^{13}Cの補正無し	δ^{14}C（‰）	＝	−56	±	3.8
		ｐＭＣ（％）	＝	94.4	±	0.38
		Age（yrBP）	：	460	±	30

分析番号	試　　料	ＢＰ年代および炭素の同位体比				
4	試料採取場所：　４区北壁	Libby Age（yrBP）	：	30	±	30
		$\delta^{13}C$（‰）、（加速器）	＝	−21.04	±	0.93
	試料形態：　炭化物	$\Delta^{14}C$（‰）	＝	−4.3	±	3.6
	試料名（番号）：　H17　Ⅲ層	ｐＭＣ（%）	＝	99.57	±	0.36
		$\delta^{14}C$（‰）	＝	3.8	±	3.1
	（参考）　$\delta^{13}C$の補正無し	ｐＭＣ（%）	＝	100.38	±	0.31
		Age（yrBP）	：	Ｍｏｄｅ		
5	試料採取場所：　４区北壁	Libby Age（yrBP）	：	480	±	30
		$\delta^{13}C$（‰）、（加速器）	＝	−22.85	±	0.73
	試料形態：　炭化物	$\Delta^{14}C$（‰）	＝	−57.7	±	3.5
	試料名（番号）：　H17　Ⅳ層	ｐＭＣ（%）	＝	94.23	±	0.35
		$\delta^{14}C$（‰）	＝	−53.6	±	3.2
	（参考）　$\delta^{13}C$の補正無し	ｐＭＣ（%）	＝	94.64	±	0.32
		Age（yrBP）	：	440	±	30
6	試料採取場所：　３区東壁	Libby Age（yrBP）	：	2,870	±	40
		$\delta^{13}C$（‰）、（加速器）	＝	−17.19	±	0.8
	試料形態：　炭化物	$\Delta^{14}C$（‰）	＝	−300.1	±	3.4
	試料名（番号）：　H17　Ⅵ層	ｐＭＣ（%）	＝	69.99	±	0.34
		$\delta^{14}C$（‰）	＝	−288.8	±	3.3
	（参考）　$\delta^{13}C$の補正無し	ｐＭＣ（%）	＝	71.12	±	0.33
		Age（yrBP）	：	2,740	±	40
7	試料採取場所：　３区東壁	Libby Age（yrBP）	：	4,390	±	40
		$\delta^{13}C$（‰）、（加速器）	＝	−24.24	±	0.73
	試料形態：　炭化物	$\Delta^{14}C$（‰）	＝	−420.9	±	2.8
	試料名（番号）：　H17　Ⅹ層	ｐＭＣ（%）	＝	57.91	±	0.28
		$\delta^{14}C$（‰）	＝	−420	±	2.6
	（参考）　$\delta^{13}C$の補正無し	ｐＭＣ（%）	＝	58	±	0.26
		Age（yrBP）	：	4,380	±	40
8	試料採取場所：　３区東壁	Libby Age（yrBP）	：	4,470	±	40
		$\delta^{13}C$（‰）、（加速器）	＝	−20.6	±	0.84
	試料形態：　炭化物	$\Delta^{14}C$（‰）	＝	−426.4	±	2.6
	試料名（番号）：　H17　ⅩⅠ層	ｐＭＣ（%）	＝	57.36	±	0.26
		$\delta^{14}C$（‰）	＝	−421.3	±	2.4
	（参考）　$\delta^{13}C$の補正無し	ｐＭＣ（%）	＝	57.87	±	0.24
		Age（yrBP）	：	4,390	±	30
9	試料採取場所：　３区東壁	Libby Age（yrBP）	：	7,700	±	40
		$\delta^{13}C$（‰）、（加速器）	＝	−21.97	±	0.89
	試料形態：　炭化物	$\Delta^{14}C$（‰）	＝	−616.4	±	2
	試料名（番号）：　H17　ⅩⅡ層	ｐＭＣ（%）	＝	38.36	±	0.2
		$\delta^{14}C$（‰）	＝	−614	±	1.9
	（参考）　$\delta^{13}C$の補正無し	ｐＭＣ（%）	＝	38.6	±	0.19
		Age（yrBP）	：	7,650	±	40
10	試料採取場所：　３区東壁	Libby Age（yrBP）	：	7,710	±	50
		$\delta^{13}C$（‰）、（加速器）	＝	−22.92	±	0.99
	試料形態：　炭化物	$\Delta^{14}C$（‰）	＝	−617.1	±	2.2
	試料名（番号）：　H17　ⅩⅣ層	ｐＭＣ（%）	＝	38.29	±	0.22
		$\delta^{14}C$（‰）	＝	−615.4	±	2.1
	（参考）　$\delta^{13}C$の補正無し	ｐＭＣ（%）	＝	38.46	±	0.21
		Age（yrBP）	：	7,680	±	40
11	試料採取場所：　３区東壁	Libby Age（yrBP）	：	7,870	±	50
		$\delta^{13}C$（‰）、（加速器）	＝	−16.56	±	0.86
	試料形態：　炭化物	$\Delta^{14}C$（‰）	＝	−624.5	±	2.1
	試料名（番号）：　H17　ⅩⅤ層	ｐＭＣ（%）	＝	37.55	±	0.21
		$\delta^{14}C$（‰）	＝	−618	±	2
	（参考）　$\delta^{13}C$の補正無し	ｐＭＣ（%）	＝	38.2	±	0.2
		Age（yrBP）	：	7,730	±	40

分析番号	試　　料	ＢＰ年代および炭素の同位体比				
12	試料採取場所：　第Ⅰ面	Libby Age（yrBP）	：	1,090	±	40
		δ^{13}C（‰）、（加速器）	＝	−17.67	±	0.88
	試料形態：　木炭	Δ^{14}C（‰）	＝	−127.3	±	3.7
	試料名（番号）：　H17　C－5	pMC（%）	＝	87.27	±	0.37
	（参考）　δ^{13}Cの補正無し	δ^{14}C（‰）	＝	−114.1	±	3.4
		pMC（%）	＝	88.59	±	0.34
		Age（yrBP）	：	970	±	30
13	試料採取場所：　第Ⅰ面	Libby Age（yrBP）	：	770	±	30
		δ^{13}C（‰）、（加速器）	＝	−20.85	±	0.81
	試料形態：　木炭	Δ^{14}C（‰）	＝	−91.3	±	3.8
	試料名（番号）：　H17　C－16	pMC（%）	＝	90.87	±	0.38
	（参考）　δ^{13}Cの補正無し	δ^{14}C（‰）	＝	−83.6	±	3.5
		pMC（%）	＝	91.64	±	0.35
		Age（yrBP）	：	700	±	30
14	試料採取場所：　第Ⅱ面	Libby Age（yrBP）	：	730	±	30
		δ^{13}C（‰）、（加速器）	＝	−22.25	±	0.79
	試料形態：　木炭	Δ^{14}C（‰）	＝	−86.4	±	3.5
	試料名（番号）：　H17　C－17	pMC（%）	＝	91.36	±	0.35
	（参考）　δ^{13}Cの補正無し	δ^{14}C（‰）	＝	−81.2	±	3.2
		pMC（%）	＝	91.88	±	0.32
		Age（yrBP）	：	680	±	30
15	試料採取場所：　第Ⅲ面	Libby Age（yrBP）	：	6,870	±	40
		δ^{13}C（‰）、（加速器）	＝	−19.11	±	0.81
	試料形態：　炭化物	Δ^{14}C（‰）	＝	−574.9	±	2.2
	試料名（番号）：　H17　C－27	pMC（%）	＝	42.51	±	0.22
	（参考）　δ^{13}Cの補正無し	δ^{14}C（‰）	＝	−569.7	±	2.1
		pMC（%）	＝	43.03	±	0.21
		Age（yrBP）	：	6,770	±	40

土層の中に含まれる炭化物を対象としたAMS年代測定分析によると、概ね検出された遺構の年代と整合的である。ただし、奈良時代の遺構と火山灰について、検討された火山灰の年代とは大きく異なることとなった。火山灰分析は重鉱物分析などを経ておらず、肉眼観察であるため、その妥当性については留保をつけることが必要である。ただ、火山灰分析が正しいと仮定した上で考察を進めると、縄文時代晩期に降灰した大室スコリア以降土層の堆積が極めて微弱であったため、時代の異なる遺構を隔てる土層が生じなかったと考えられる。

また、遺構内の覆土から検出された炭化物によるＡＭＳ年代測定分析をみると、第Ⅰ面の２区第３号焼土集中からはA.D.1,460～1,520年、４区第４号土坑からはA.D.920～1,080年という値が出ている。第Ⅱ面に所属する遺構の内、３区第１号住居跡はA.D.400～460年、２区第３号住居跡はA.D.500～560年といずれも伴出する遺物から考えられる年代より古い値が得られた。４区第１号住居跡はA.D.665～735年であり、伴出する遺物の年代と比較して概ね妥当な数値が得られている。遺構の時期比定が困難であった、第28号土坑はA.D.650～730年という値が出ている。４区の遺構確認面直上から検出された炭化物の年代はB.C.5,660～5,850年であり、遺構の年代より新しい結果が出ている。

第２節　出土動物骨の分析

１．目的

中近世と考えられる土坑（３区第15号土坑）内より出土した骨の種類を調べ、当時の動物利用に関する情報を得るために、動物骨の分析を行った。

２．分析

（１）試料

骨同定試料は、中近世の３区第15号土坑から出土した獣類の顎骨と四肢骨片である。いずれも土壌が付着した

状態で、特に顎骨はブロック塊として取り上げられている。

（２）分析方法

試料に付着した砂分や泥分を乾いた筆・竹串、あるいは水に浸した筆で除去する。一部の試料については、一般工作用接着剤を用いて接合する。また、保存の悪いものに関してはバインダー No.17を塗布し、補強を行う。自然乾燥後、試料を肉眼およびルーペで観察し、その形態的特徴から、種類および部位の特定を行う。なお、同定および解析には、金子浩昌先生の協力を得た。

３．結果と考察

出土骨は、脊椎動物門(Vertebrata)哺乳綱(Mammalia)ウマ目(奇蹄目：Perissodactyla)ウマ科(Equidae)ウマ(Equus caballus)の下顎骨と左中手骨である。なお、ウマの骨格各部の名称を図1に示す。

下顎骨は、ブロック塊として取り上げられており、左右下顎骨が咬み合わせた状態が確認される。左右ともに第2前臼歯～第1後臼歯までが植立し、第2後臼歯の歯槽部が残される。第2後臼歯は、おそらく脱落したと想定される。出土したウマは、第２前臼歯の全歯高が22.34mm を計り、西中川ほか(1991)の研究例を参考とすると、12歳前後と推定される。

また、左中手骨は、骨体部を残すのみの破片であるが、破損部が新しく、埋存時に完存していた可能性もある。推定される骨体中央幅30.6mm 前後である。この中手骨の大きさから推定されるウマは日本在来馬としては中小型、体高125cm、現生する御崎馬程度であったと思われる。中近世遺跡検出の馬としては、最も普通にみる大きさである。なお本馬の由来について明らかでないが、何らかの目的で埋置されたものと思われる。馬骨、馬歯が祭祀的な意味で埋置された例は中近世において類例が多い。

第３節　黒曜石産地分析

１．目的

考古学研究では、遺物が遺跡へと至るまでの来歴を辿ることによって、個々の時代における人々の行動様式や流通関係に迫ることが可能となる。特に狩猟・採集によって生計を立てていたと考えられている石器時代においては、石器に使用する石材の原産地推定が、空間的な人の動きに迫るための有効な分析方法となる。なかでも、火山の噴出物として生成された黒曜石は、結晶構造をもたず、斑晶の含有量が少ないことから元素組成が安定しており、このような黒曜石の岩石学的特質に着目して、今日まで様々な理化学的分析方法を用いた原産地推定が行われている。特に蛍光Ｘ線分析装置を用いた分析は、装置の操作や測定の前処理が容易である点や、特に資料を非破壊で測定できるなどといったメリットにより、考古資料の扱いに適している。また、比較的短い時間で測定できるという点で、分析対象が出土遺物全般におよぶ石器研究においては非常に有効な測定手段といえる。以上のような経緯で、今回も蛍光Ｘ線分析装置を用いた原産地推定を行った。石器石材（黒曜石・サヌカイト等）の元素組成を根拠とした原産地推定のフローチャートを第197図に示す。

２．分析

（１）測定方法

蛍光Ｘ線法を用いて黒曜石の正確な元素分析値を得るには、内部が均質で表面形態が一様な試料を作成し、検量線法などによって定量的に分析を行うのが一般的である。そのためには、試料を粉砕してプレスしたブリケットを作成するか、もしくは溶融してガラスビードを作成する必要がある。しかしながら、遺跡から出土した遺物は、通常、非破壊での測定が要求されるため、上記の方法をとることは困難である。そのため、遺物に直接Ｘ線を照射する定性（半定量）分析が行われている。このような直接照射によって発生する蛍光Ｘ線の強度そのものは、試料の状態や装置の経年変化によって変動する可能性が高いが、特定元素の強度同士の比を採った場合はその影響は小さいと考えられている。今回は測定強度比をパラメータとして原産地推定を行った。

（２）試料の前処理

比較用の原産地採取原石については、必要に応じて新鮮な破断面または研磨面を作製し、超音波洗浄器によるクリーニングを行った。遺跡出土石器は、多くの場合新鮮で平滑な剥離面があるため、試料表面をメラミンスポ

ンジとアルコールで洗浄してから測定を行った。特に汚れがひどい遺物のみ超音波洗浄器を用いた。

（３）装置・測定条件

蛍光Ｘ線の測定にはエネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置ＪＳＸ－3201（日本電子データム製）を用いた。Ｘ線管球は、ターゲットがRh（ロジウム）のエンドウインドウ型を使用した。管電圧は30KV、電流は抵抗が一定となるよう自動設定とした。Ｘ線検出器はSi（ケイ素）/Li（リチウム）半導体検出器を使用した。試料室内の状態は真空雰囲気下とし、Ｘ線照射面径は2mmとした。測定時間は，産出地採取原石が600sec、遺跡出土資料が300secである。測定元素は、主成分元素はケイ素（Si）・ チタン（Ti）・アルミニウム（Al）・鉄（Fe）・マンガン（Mn）・ マグネシウム（Mg）・カルシウム（Ca）・ナトリウム（Na）・カリウム（K）の計９元素、微量元素はルビジウム（Rb)、ストロンチウム（Sr)、イットリウム（Y)、ジルコニウム（Zr）の計４元素の合計13元素とした。また、Ｘ線データ解析ソフトには、明治大学文化財研究施設製；Ｘ－JSN－1.03を使用した。

（４）原産地推定の方法

黒曜石はケイ酸、アルミナ等を主成分とするガラス質火山岩であるが、その構成成分は産出地による差異が認められる。とりわけ微量元素のRb・Sr・Y・Zrでは産出地ごとの組成差がより顕著となっている。望月は、この産地間の組成差から黒曜石の産地推定が可能であると考え、上記の4元素にK・Fe・Mnの３元素を加えた計７元素の強度比を組み合わせることで産地分析を行っている（望月ほか　1994・望月　1997)。これら７元素による原産地分析の有効性は、ガラスビードを用いた定量分析によっても裏付けられている（嶋野ほか　2004)。ここでも、上記の判別方法に準拠することとし、原産地推定のパラメータにRb分率｛Rb強度×100/（Rb強度＋Ｓｒ強度＋Y強度＋Zr強度)｝、Sr分率｛Sr強度×100/（Rb強度＋Sr強度＋Y強度＋Zr強度)｝、Mn強度×100/Fe強度、log（Fe強度/K強度）を用い、判別図の作製、および判別分析を行った。

（５）黒曜石原産地の判別

５－1．判別図

判別図は、視覚的に分類基準が捉えられる点、および判定基準が分かりやすいというメリットがある。また、測定結果の提示に際し、読者に理解しやすいという点も有効であろう。まず、各産出地採取試料（基準試料）の測定データを基に2種類の散布図グラフ（Rb分率 vs Mn×100/FeとSr分率 vs log（Fe/K))を作製し、各原産地を推定するための判別域を決定した。次に遺物の測定結果を重ね合わせて大まかな判別を行った。基準試料の測定強度比の平均値を第４表に示す。

第４表　関東・中部地方における黒曜石の測定値（強度比）

原産地		Rb 分率	Sr 分率	Mn×100／Fe	Log（Fe／K）
和田峠・鷹山系	平均値：	54.7690	3.0815	11.6711	－0.0031
	標準偏差：	2.5946	2.1097	1.0493	0.0353
西霧ヶ峰系	平均値：	40.8156	13.2437	10.0207	－0.0620
	標準偏差：	1.4427	1.1886	0.2266	0.0186
男女倉系Ⅰ（ブドウ沢・高松沢）	平均値：	38.4777	14.4707	6.4756	0.0784
	標準偏差：	2.0225	1.5259	0.2328	0.0390
男女倉系Ⅱ（牧ヶ沢）	平均値：	29.6839	22.0209	6.4010	0.0998
	標準偏差：	0.9876	1.7894	0.1631	0.0154
男女倉系Ⅲ（高松沢）	平均値：	46.9960	8.2283	8.1375	0.0279
	標準偏差：	2.0558	1.7470	0.4366	0.0291
冷山・麦草峠系	平均値：	24.5701	30.4887	4.4946	0.1945
	標準偏差：	2.0462	1.7663	0.1899	0.0286
横岳系	平均値：	29.4723	27.2270	4.9746	0.0962
	標準偏差：	1.4146	1.1045	0.1572	0.0201
恩馳島系	平均値：	22.5484	27.9753	7.6801	0.2004
	標準偏差：	1.7204	2.5311	0.3510	0.0252
砂糠崎系	平均値：	26.2025	24.8873	8.6546	0.1269
	標準偏差：	1.4433	2.0079	0.3444	0.0157
畑宿系	平均値：	5.7341	36.3115	3.1356	1.1342
	標準偏差：	0.9929	1.1798	0.0918	0.0231
芦之湯系	平均値：	3.4910	53.3066	2.8761	1.6603
	標準偏差：	0.9726	1.1167	0.0827	0.0378
鍛冶屋系	平均値：	6.3780	35.1359	3.1328	0.9563
	標準偏差：	1.2817	1.6319	0.0835	0.0177
上多賀系	平均値：	7.6429	33.1369	2.8781	0.7891
	標準偏差：	1.1792	2.0844	0.1944	0.0221
柏峠系	平均値：	9.9618	26.1282	2.2911	0.7197
	標準偏差：	0.9030	1.5549	0.1165	0.0363

原産地細分		Rb 分率	Sr 分率	Mn×100／Fe	Log（Fe／K）
高原山系	平均値：	22.3885	24.5422	2.5152	0.5821
	標準偏差：	1.0847	1.1636	0.1150	0.0365
和田峠系Ⅰ（小深沢・ツチヤ沢・東俣採掘場）	平均値：	52.3775	4.9266	10.5719	0.0196
	標準偏差：	1.8360	2.0296	0.7724	0.0262
和田峠Ⅱ・鷹山系（東餅屋）	平均値：	55.7722	2.0170	12.3108	−0.0302
	標準偏差：	1.1396	0.9358	0.2593	0.0219
和田峠系Ⅲ（丁字御領）	平均値：	58.8500	1.2037	12.7655	0.0352
	標準偏差：	1.0460	0.8530	0.3793	0.0087

5－2. 判別分析

判別図や測定値の比較による原産地の推定は、測定者ごとの恣意的な判断を完全に排除することは難しい。そこで、多変量解析の一つである判別分析を行った。判別分析では、判別図作製に用いたパラメータを基にマハラノビス距離を割り出し、各原産地に帰属する確率を求めた。距離と確率とは反比例の関係にあり、資料と各原産地の重点間の距離が最も短い原産地が第一の候補となる。なお、分析用ソフトには明治大学文化財研究施設製；MDR1.02を使用した。また、判別結果の参考資料として、各原産地（重点）間のマハラノビス距離を提示した（第５表）。

（６）黒曜石原産地の名称と地理的な位置づけ

今回の黒曜石の原産地推定にあたっては、日本の黒曜石産出地データベース（杉原・小林　2004・2006）を使用し、この中から、既存の文献・資料を参考にして現地調査を行い、石器石材に利用可能と思われる黒曜石の産出地を選択した。ただし、ここでは黒曜石の原産地候補を関東・中部地方に限定して考察しており、北海道・東北・北陸・九州地方の各産出地については、検討していない。

黒曜石原産地（obsidian source）の判別にあたっては、各産出地を火山帯・島嶼・河川流域・岩石区等の地形・地質的条件によって枠組みを行い、これを「地区；area」と名づけ、現在、黒曜石を産出する地点（露頭・散布地など）を「産出地区域（単に産出地とよぶ）；district」とした。今回の原産地推定に使用した「系；series」は、「地区」内の「産出地」のうち、蛍光Ｘ線分析の結果に地形・地質情報を参考にして判別された地理的に隣接する「産出地」群で、岩石化学的原産地を指す。それぞれの「系」内の黒曜石産出地については、火道や貫入岩の位置、噴出物の産状や分布状態、黒曜石の岩石学的特徴（含有する斑晶鉱物・球顆の有無・色調・透明度など）についても検討を行い、この原産地設定が火山地質学的に有意義であることを確認している。ただし、同一の「系」内の産出地でも、複数の判別域が存在する場合や、異なる「系」どうしで判別が困難な例も存在する。また、黒曜石産出地には、噴出源に近い1次産出地のほか、河川や海流によって遠方に運ばれた2次産出地があり、ここでの判別域は、必ずしも考古学的原産地（石器時代における採取地）を示すのではないことは言うまでもない。

「霧ヶ峰地区」：霧ヶ峰火山からは複数火口からの黒曜石が岩脈・溶岩・火砕流など多様性ある産状を示す。これらの黒曜石は噴出源や噴出年代によって元素組成に地域性が認められる（杉原・小林　2004、杉原ほか　2004、長井ほか　2006）。ここでは西霧ヶ峰系・男女倉系・和田峠系・鷹山系に分類したが，和田峠系と鷹山系は産出地域が離れているにも拘らず、判別図では明瞭な識別が不可能であるので、この2つの原産地を和田峠・鷹山系として一括した扱いをする。なお、和田峠系は小深沢・東俣採掘場・ツチヤ沢の和田峠Ⅰグループ、東餅屋の和田峠Ⅱグループ、丁字御領の和田峠Ⅲグループと細分することも可能である。この分類では和田峠系Ⅱと鷹山系がほぼ同じ領域に入ることになる。また男女倉系はブドウ沢・高松沢の男女倉系Ⅰグループ、牧ヶ沢の男女倉系Ⅱグループ、高松沢の男女倉系Ⅲグループについても細分が可能である。しかし、これらの黒曜石原産地は判別域が一部重複し、しかも黒曜石遺物の分析では、形状・水和作用・付着物の存在によって、測定値にバラツキが生じることから過度に詳細な区分は遺物の原産地を推定するうえで混乱を招く。この報告書では、通常は原産地名称「系」で示し、必要に応じて細分名称「グループ」を使用するに止める。

「北八ヶ岳地区」：八ヶ岳火山列では、比較的活動年代が新しい北八ヶ岳において黒曜石が産出する。このうち冷山系と麦草峠系が代表的な原産地である。ただし、この2つの黒曜石は、主要元素の組成が酷似しており、判別図・判別分析による原産地識別が不可能であることから、ここでは冷山・麦草峠系として一括して扱う。横

第５表　判別分析における群間距離（マハラノビス距離）

	和田峠・鷹山系	西霧ヶ峰系	男女倉系Ⅰ	男女倉系Ⅱ	男女倉系Ⅲ	冷山・麦草峠系	横岳系	恩馳島系	砂糠崎系	畑宿系	芦之湯系	鍛冶屋系	上多賀系	柏峠系	高原山系
和田峠・鷹山系	0.0000	270.8152	838.7062	1960.2724	178.1266	2068.5190	4195.2616	445.9605	452.6008	18100.8935	12660.6744	12429.5598	3840.7760	13849.9968	9426.2759
西霧ヶ峰系	270.8152	0.0000	307.5238	578.5130	264.3048	998.7031	1721.1881	202.9212	292.3899	13004.7535	8208.0988	8969.9709	2847.3602	8018.6659	5512.6363
男女倉系Ⅰ	838.7062	307.5238	0.0000	92.9334	21.5239	204.2551	375.9460	218.5051	260.2907	6102.2693	4384.4914	3626.4163	1754.0610	3146.5467	1496.7765
男女倉系Ⅱ	1960.2724	578.5130	92.9334	0.0000	209.2318	126.6065	204.1245	130.6179	151.1826	5281.6263	3468.1448	3437.3613	1381.6897	2430.1029	1317.0031
男女倉系Ⅲ	178.1266	264.3048	21.5239	209.2318	0.0000	609.7344	1183.9288	266.6970	336.4315	9453.1502	6186.3191	5651.1862	2470.4189	6045.3611	3354.6049
冷山・麦草峠系	2068.5190	998.7031	204.2551	126.6065	609.7344	0.0000	27.6190	193.6236	198.8743	3108.9101	2890.3817	2268.3562	926.6565	1089.4071	408.3902
横岳系	4195.2616	1721.1881	375.9460	204.1245	1183.9288	27.6190	0.0000	293.3813	349.8587	4201.0278	3409.3380	2909.7395	1319.5641	1564.9735	580.6621
恩馳島系	445.9605	202.9212	218.5051	130.6179	266.6970	193.6236	293.3813	0.0000	27.8012	6094.1426	3720.5916	4239.2866	1184.4155	3457.3248	2607.5287
砂糠崎系	452.6008	292.3899	260.2907	151.1826	336.4315	198.8743	349.8587	27.8012	0.0000	8214.2509	5145.4686	5835.3107	1610.2163	4832.1264	3659.9037
畑宿系	18100.8935	13004.7535	6102.2693	5281.6263	9453.1502	3108.9101	4201.0278	6094.1426	8214.2509	0.0000	588.5292	122.7413	291.9094	426.0964	655.8184
芦之湯系	12660.6744	8208.0988	4384.4914	3468.1448	6186.3191	2890.3817	3409.3380	3720.5916	5145.4686	588.5292	0.0000	1809.8736	1941.8091	1440.8281	1904.1092
鍛冶屋系	12429.5598	8969.9709	3626.4163	3437.3613	5651.1862	2268.3562	2909.7395	4239.2866	5835.3107	122.7413	1809.8736	0.0000	74.9860	232.0470	435.3548
上多賀系	3840.7760	2847.3602	1754.0610	1381.6897	2470.4189	926.6565	1319.5641	1184.4155	1610.2163	291.9094	1941.8091	74.9860	0.0000	81.2163	237.4478
柏峠系	13849.9968	8018.6659	3146.5467	2430.1029	6045.3611	1089.4071	1564.9735	3457.3248	4832.1264	426.0964	1440.8281	232.0470	81.2163	0.0000	152.8569
高原山系	9426.2759	5512.6363	1496.7765	1317.0031	3354.6049	408.3902	580.6621	2607.5287	3659.9037	655.8184	1904.1092	435.3548	237.4478	152.8569	0.0000

	和田峠系Ⅰ	和田峠Ⅱ・鷹山系	和田峠系Ⅲ
和田峠系Ⅰ	0.0000	62.9164	72.6699
和田峠Ⅱ・鷹山系	62.9164	0.0000	68.1022
和田峠系Ⅲ	72.6699	68.1022	0.0000

第６表　関東・中部地方における黒曜石原産地の区分

地区（area）	系（series）	産地（district）
霧ヶ峰地区	西霧ヶ峰系	星ヶ塔，星ヶ台
	男女倉系	ブドウ沢，牧ヶ沢，高松沢
	和田峠系	小深沢，東餅屋，東俣採掘場，丁字御領，ツチヤ沢
	鷹山系	星糞峠，鷹山川河床
北八ヶ岳地区	冷山系	冷山
	麦草峠系	麦草峠
	横岳系	大岳林道，双子池
箱根地区	芦之湯系	芦之湯
	畑宿系	畑宿
	鍛冶屋系	鍛冶屋
	上多賀系	上多賀
天城地区	柏峠系	柏峠
高原山地区	高原山系	八方ヶ原（桜沢），甘湯沢
神津島地区	恩馳島系	恩馳島，観音浦海蝕崖，［長浜海岸，沢尻湾，観音浦］
	砂糠崎系	砂糠崎，［長浜海岸，沢尻湾，観音浦］

注）「地区」内には，黒曜石の産出する地域が１つの「系」しか存在しない場合もある。また１つの「系」内に複数の種類の黒曜石が産出することがある。その場合，岩石学的・地域的に細分が出来る場合は「グループ；Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ…」と呼ぶ。

岳の山頂付近では大岳林道沿いで比較的良質な黒曜石の礫が産出し、このほか双子池付近や滝ノ湯川上流などでも黒曜石の礫が認められ、転石として山麓斜面や河床でも散見できる。ここでは、横岳山頂の大岳林道沿いに産出する黒曜石を横岳系とよぶ。

「箱根地区」：箱根火山の噴出物中からは芦之湯・畑宿・鍛冶屋・上多賀で黒曜石が産出する。これらは判別図によって、それぞれの原産地推定が可能である。須雲川沿いの畑宿付近では、火砕流堆積物中から石器石材として利用可能な黒曜石が産出する。しかし、その他の地域から産出する黒曜石は石器石材としては良質とは言えず、遺跡からの出土も少ない。

「天城地区」：天城火山に近い柏峠から産出する黒曜石である。柏峠では黒曜石が岩脈または転石として認められる。黒曜石原産地としての規模は大きくないが、周辺地域の遺跡からはしばしば、ここを原産地とする石製遺物が出土する。

「高原山地区」：高原山火山では八方ヶ原、甘湯沢に黒曜石の産出地がある（栃木県教育委員会（編）2006)。とくに剣ヶ峰から八方ヶ原に至る尾根筋近くには溶岩ドームの一部を形成していたと考えられる黒曜石岩塊が認められ、その周辺には黒曜石礫が産出する。また山体を刻んだ桜沢の北支谷沿いには火砕流堆積物中に比較的良質な黒曜石が多く認められる。さらに桜沢の北支谷沿いには黒曜石の河床礫や転石が分布する。また塩原付近で箒川に合流する甘湯沢でも黒曜石の河床礫が認められる。これらの黒曜石は、すべて同じ判別域に入る。このほか南麓斜面の湯沢・枝持沢・七尋沢の河床にも黒曜石の産出が知られているが、石器石材としては不向きである。ここでは八方ヶ原（桜沢）産、甘湯沢産の黒曜石に限り高原山系とする。

「神津島地区」：神津島は複数の流紋岩質単成火山から構成されていて、黒曜石の産出が各地で認められる。このうち神津島の沖約６km にある恩馳島とその周囲海底および多幸湾に臨む砂糠崎からは、黒曜石が豊富に産出する。判別分析から、両地域の黒曜石を識別することが可能であることから、それぞれ恩馳島系と砂糠崎系として扱う（杉原ほか　2006)。神津島ではこのほか各地で黒曜石を産出する。このうち観音浦海蝕崖に露出する黒曜石は判別図では恩馳島系に含まれる（吉谷　2002)。神津島西海岸の長浜海岸や沢尻湾、および同東海岸の観音浦では黒曜石の海浜礫が産出するが、これらも恩馳島や砂糠崎から産出する黒曜石の判別域に入るが、地理的な位置関係や沿岸流（とくに海浜流）による漂礫の状況からみて、海浜礫のすべてをこれらの産出地からの２次的産出地とすることはできない。海底に露出している噴出物（火砕流や泥流）中の黒曜石が海浜に打ち上げられた可能性もあり、今後は未知の産出地に関する海底地質の調査が必要になると考えられる。

３．結果

今回測定を行ったのは、山梨県玉川金山遺跡（縄文時代早期後半；子母口式併行期・鵜ヶ島台式期）から出土した黒曜石製遺物である。測定した点数は349点であり、原産地が判別できた点数は288点である。

原産地推定の結果は、霧ヶ峰地区西霧ヶ峰系が249点（86.5%）であり、次いで神津島地区恩馳島系が31点（10.8%）であった。その他、霧ヶ峰地区和田峠・鷹山系が7点、同地区男女倉系IIIが1点推定された。今回の結果では、西霧ヶ峰系に代表される霧ヶ峰地区が非常に高い割合を示しながらも、時期的な傾向であろうか恩馳島系も認められた。なお、ＴＧＫ1－271・274は藁科・東村（1995）が設定しているＮＫ群の可能性がある。

黒曜石製遺物の原産地推定は、明治大学文化財研究施設に設置されている「黒曜石原産地推定システム」で行ったものである。なお、この報告書を参考に論文を作成する場合は、原産地推定の結果を遺物の出土状況からも検討していただきたい。

第７表　玉川金山遺跡出土黒曜石製遺物の原産地推定結果

試料№	Rb 分率	Sr 分率	Mn×100/Fe	Log(Fe/K)	候補1	確率	距離	候補2	確率	距離	器種	図版番号	年度	調査区	注記番号
TGK1-001	40.4006	11.6772	9.9746	-0.2487	判別不可	-	-	-	-	-	石錐	第124図62	17	4区	S-35
TGK1-002	38.5996	15.0437	9.9381	-0.0554	西霧ヶ峰系	1.0000	3.2202	和田峠・鷹山系	0.00	67.55	石鏃	第162図1	18	5区	S-2
TGK1-003	42.4596	12.3139	9.7141	-0.1718	判別不可	-	-	-	-	-	MF	第162図9	18	5区	S-4
TGK1-004	41.7775	13.2511	10.1704	-0.0554	西霧ヶ峰系	1.0000	2.0661	和田峠・鷹山系	0.00	45.62	石核	第163図18	18	5区	S-5
TGK1-005	42.0850	15.7105	9.7168	-0.0738	西霧ヶ峰系	1.0000	15.6414	和田峠・鷹山系	0.00	62.60	MF	第162図10	18	5区	S-8
TGK1-006	41.9183	13.9383	9.9347	-0.0359	西霧ヶ峰系	1.0000	4.9836	和田峠・鷹山系	0.00	43.68	石核	第163図17	18	5区	S-12
TGK1-008	39.6784	14.4111	9.8151	-0.0574	西霧ヶ峰系	1.0000	2.1866	和田峠・鷹山系	0.00	57.51	MF	第138図182	18	5区	S-17
TGK1-009	43.6861	12.9405	9.8161	-0.2861	判別不可	-	-	-	-	-	石鏃	第123図47	18	5区	S-18
TGK1-010	42.4825	13.4127	9.3563	-0.0202	西霧ヶ峰系	1.0000	12.6702	和田峠・鷹山系	0.00	34.14	石鏃	第122図8	18	5区	S-19
TGK1-011	42.6412	11.3905	9.5902	-0.0511	西霧ヶ峰系	1.0000	5.7125	和田峠・鷹山系	0.00	32.36	石核	第142図233	18	5区	S-20
TGK1-012	41.1134	12.0939	9.8946	-0.0578	西霧ヶ峰系	1.0000	1.5648	和田峠・鷹山系	0.00	44.09	楔形石器	第126図77	18	5区	S-27
TGK1-013	39.5645	14.2324	9.7894	-0.0611	西霧ヶ峰系	1.0000	2.6275	和田峠・鷹山系	0.00	57.81	石核	第149図286	18	5区	S-33
TGK1-014	40.4835	11.8947	9.4399	-0.1195	判別不可	-	-	-	-	-	石錐	第124図57	18	5区	S-37
TGK1-015	23.2370	28.3896	7.7174	0.2106	恩馳島系	1.0000	0.9031	砂糠崎系	0.00	35.16	MF		18	5区	S-39
TGK1-016	43.3923	12.3500	9.8572	-0.0570	西霧ヶ峰系	1.0000	3.9030	和田峠・鷹山系	0.00	34.99	MF	第138図185	18	5区	S-41
TGK1-017	39.9856	15.4169	9.8436	-0.0454	西霧ヶ峰系	1.0000	4.7997	和田峠・鷹山系	0.00	59.18	MF	第138図181	18	5区	2トレンチ一括
TGK1-018	41.2647	15.7484	10.4478	-0.0776	西霧ヶ峰系	1.0000	13.3256	和田峠・鷹山系	0.00	68.77	MF	第136図166	18	6区	S-3
TGK1-019	40.4224	13.5907	9.8001	-0.0417	西霧ヶ峰系	1.0000	1.6413	和田峠・鷹山系	0.00	48.68	石核	第146図261	18	6区	S-4
TGK1-020	41.8955	13.7637	9.9019	-0.0493	西霧ヶ峰系	1.0000	2.6248	和田峠・鷹山系	0.00	44.52	楔形石器	第126図84	18	6区	S-5
TGK1-021	41.2983	12.6720	9.5679	-0.0385	西霧ヶ峰系	1.0000	4.6032	和田峠・鷹山系	0.00	39.42	MF	第137図176	18	6区	S-6
TGK1-022	40.1281	15.1035	9.8519	-0.0587	西霧ヶ峰系	1.0000	3.6900	和田峠・鷹山系	0.00	59.00	MF	第137図178	18	6区	S-10
TGK1-023	41.0949	11.0696	9.7210	-0.0494	西霧ヶ峰系	1.0000	7.0007	和田峠・鷹山系	0.00	41.64	石鏃	第122図16	18	6区	S-11
TGK1-024	39.2303	15.2146	9.9204	-0.1053	西霧ヶ峰系	1.0000	13.2211	和田峠・鷹山系	0.00	74.20	MF	第136図167	18	6区	S-17
TGK1-025	41.0436	14.5625	9.5828	-0.0507	西霧ヶ峰系	1.0000	6.1846	和田峠・鷹山系	0.00	49.48	石鏃未製品	第123図48	18	6区	S-18
TGK1-026	39.5159	15.7191	9.8863	-0.0508	西霧ヶ峰系	1.0000	5.1488	和田峠・鷹山系	0.00	64.11	石核	第142図236	18	6区	S-21
TGK1-027	25.0952	25.9470	7.5607	0.2244	恩馳島系	1.0000	3.7780	砂糠崎系	0.00	43.99	石匙	第125図66	18	6区	S-23
TGK1-028	43.7791	12.8801	9.6879	-0.0811	西霧ヶ峰系	1.0000	8.9456	和田峠・鷹山系	0.00	43.05	MF	第137図179	18	6区	S-24
TGK1-029	23.5224	29.1141	7.3287	0.2279	恩馳島系	1.0000	2.1305	砂糠崎系	0.00	45.95	石鏃	第122図3	18	6区	S-26
TGK1-030	43.2112	14.2696	8.9150	-0.1075	判別不可	-	-	-	-	-	石鏃	第123図32	18	6区	S-29
TGK1-031	23.0469	29.7143	7.6464	0.2211	恩馳島系	1.0000	2.2504	砂糠崎系	0.00	45.76	MF	第136図165	18	6区	一括
TGK1-032	40.2394	15.4035	9.4364	-0.0511	西霧ヶ峰系	1.0000	11.6804	和田峠・鷹山系	0.00	55.83	石錐	第124図65	18	6区	S 一括
TGK1-033	44.6406	12.7353	9.6593	-0.0493	西霧ヶ峰系	1.0000	11.8317	和田峠・鷹山系	0.00	34.08	石核	第140図213	19	5区	S-561
TGK1-034	41.1478	13.3655	9.8731	-0.3387	判別不可	-	-	-	-	-	RF	第88図26	19	5区 石 器集中地点	S-630
TGK1-035	43.9931	13.3240	8.6646	-0.2061	判別不可	-	-	-	-	-	石核	第145図255	19	5区	S-645
TGK1-036	39.1742	12.7914	9.5207	-0.0368	西霧ヶ峰系	1.0000	9.4004	和田峠・鷹山系	0.00	53.27	石核	第144図251	19	5区	S-658
TGK1-037	41.8859	13.9985	9.4266	-0.0533	西霧ヶ峰系	1.0000	9.2236	和田峠・鷹山系	0.00	44.12	石核	第140図212	19	5区	S-720
TGK1-038	44.5810	11.3866	9.2803	-0.0255	西霧ヶ峰系	0.9222	17.7671	和田峠・鷹山系	0.08	22.71	石核	第141図222	19	5区	S-784
TGK1-039	40.4581	14.3787	9.4501	-0.0682	西霧ヶ峰系	1.0000	10.2104	和田峠・鷹山系	0.00	53.12	削器	第127図94	19	5区	S-798
TGK1-040	43.3371	14.7888	9.4849	-0.0603	西霧ヶ峰系	1.0000	17.8288	和田峠・鷹山系	0.00	51.33	楔形石器	第126図83	19	5区	S-833
TGK1-041	40.0236	12.8354	9.7427	-0.0582	西霧ヶ峰系	1.0000	3.0811	和田峠・鷹山系	0.00	50.88	RF	第139図204	19	5区	S-866
TGK1-042	39.7289	15.0009	10.0833	-0.0554	西霧ヶ峰系	1.0000	2.3366	和田峠・鷹山系	0.00	62.20	石核	第144図253	19	5区	S-893
TGK1-043	41.6215	14.2754	9.6567	-0.0326	西霧ヶ峰系	1.0000	6.4662	和田峠・鷹山系	0.00	43.89	石鏃	第122図17	19	5区	S-901
TGK1-044	43.0526	11.6178	9.7218	-0.0551	西霧ヶ峰系	1.0000	4.0010	和田峠・鷹山系	0.00	32.46	石核	第145図256	19	5区	S-908
TGK1-045	40.7687	13.4790	10.0613	-0.0490	西霧ヶ峰系	1.0000	0.7743	和田峠・鷹山系	0.00	49.68	石鏃	第122図13	19	5区	S-910
TGK1-046	41.5814	13.3751	9.5686	-0.0663	西霧ヶ峰系	1.0000	5.3402	和田峠・鷹山系	0.00	45.01	原石		19	5区	S-911
TGK1-047	42.2098	13.8920	9.6277	-0.1643	判別不可	-	-	-	-	-	MF	第136図162	19	5区	S-914
TGK1-048	40.2822	12.1083	9.9264	-0.0447	西霧ヶ峰系	1.0000	3.5592	和田峠・鷹山系	0.00	49.14	楔形石器	第126図82	19	5区	S-916
TGK1-049	43.4277	12.0334	9.7665	-0.0537	西霧ヶ峰系	1.0000	4.3532	和田峠・鷹山系	0.00	32.68	削器	第127図97	19	5区	S-917
TGK1-050	42.8760	12.7466	9.7713	-0.0424	西霧ヶ峰系	1.0000	4.4367	和田峠・鷹山系	0.00	35.13	剥片		19	5区	S-922
TGK1-051	38.3983	12.6864	9.8418	-0.0494	西霧ヶ峰系	1.0000	8.0925	和田峠・鷹山系	0.00	64.89	石核	第149図285	19	5区	S-928
TGK1-052	40.3897	13.5467	10.1268	-0.0767	西霧ヶ峰系	1.0000	0.8794	和田峠・鷹山系	0.00	56.45	石錐	第124図61	19	5区	S-935
TGK1-053	43.7979	11.5525	8.6705	-0.2297	判別不可	-	-	-	-	-	石鏃	第123図35	19	5区	S-944
TGK1-054	40.1309	14.7040	9.9183	-0.0573	西霧ヶ峰系	1.0000	1.9492	和田峠・鷹山系	0.00	57.35	石核	第145図257	19	5区	S-946
TGK1-055	40.2303	13.4145	9.7778	-0.0566	西霧ヶ峰系	1.0000	1.5554	和田峠・鷹山系	0.00	50.81	MF	第137図175	19	5区	S-948
TGK1-056	41.4377	14.4333	9.9501	-0.0486	西霧ヶ峰系	1.0000	3.5079	和田峠・鷹山系	0.00	49.72	石鏃	第123図26	19	5区	S-949
TGK1-057	41.9596	13.0125	9.6016	-0.0475	西霧ヶ峰系	1.0000	3.9340	和田峠・鷹山系	0.00	38.99	MF	第138図183	19	5区	S-953
TGK1-058	41.4702	13.5439	9.7164	-0.1227	西霧ヶ峰系	1.0000	19.3508	和田峠・鷹山系	0.00	62.63	石核	第144図252	19	5区	S-954
TGK1-059	45.8207	11.9520	7.5164	-0.1033	判別不可	-	-	-	-	-	石核	第148図282	19	5区	S-957
TGK1-060	38.5111	13.4465	9.7000	-0.0448	西霧ヶ峰系	1.0000	6.6487	和田峠・鷹山系	0.00	61.47	石核	第142図234	19	5区	S-961
TGK1-061	42.5090	13.8091	9.6541	-0.0076	西霧ヶ峰系	1.0000	13.9249	和田峠・鷹山系	0.00	36.35	石核	第81図101	19	5区67土	S-963
TGK1-062	42.5694	15.0349	10.0607	-0.0656	西霧ヶ峰系	1.0000	10.6463	和田峠・鷹山系	0.00	55.82	石核	第139図206	19	5区	S-968
TGK1-063	41.3436	13.7494	9.9039	-0.0589	西霧ヶ峰系	1.0000	1.0877	和田峠・鷹山系	0.00	47.96	削器	第127図96	19	5区	S-971
TGK1-064	39.3873	12.3746	9.8526	-0.0555	西霧ヶ峰系	1.0000	5.0665	和田峠・鷹山系	0.00	56.38	石鏃	第122図6	19	5区	S-973
TGK1-065	40.3875	14.3917	9.7409	-0.0329	西霧ヶ峰系	1.0000	3.8616	和田峠・鷹山系	0.00	50.10	石鏃	第123図38	19	5区	Q-11一括
TGK1-066	41.0184	15.7907	9.4716	-0.0248	西霧ヶ峰系	1.0000	15.2767	和田峠・鷹山系	0.00	52.26	石核	第141図223	19	11区	S-2
TGK1-067	23.5150	26.6889	7.7290	0.2242	恩馳島系	1.0000	2.9902	砂糠崎系	0.00	49.69	石鏃	第122図25	19	11区	S-9
TGK1-068	40.4033	12.3401	9.9509	-0.0292	西霧ヶ峰系	1.0000	5.0974	和田峠・鷹山系	0.00	47.90	石鏃	第122図24	19	11区	S-14
TGK1-069	23.5996	27.4929	8.0293	0.2139	恩馳島系	1.0000	5.1045	砂糠崎系	0.00	45.35	掻器	第131図173	19	11区	S-19
TGK1-070	41.6221	13.4345	9.8185	-0.0602	西霧ヶ峰系	1.0000	1.4549	和田峠・鷹山系	0.00	45.20	石鏃	第123図34	19	11区	S-21
TGK1-071	25.8391	27.5653	7.6248	0.2121	恩馳島系	1.0000	4.8455	砂糠崎系	0.00	32.54	石核	第148図283	19	11区	S-22
TGK1-072	40.6857	13.8667	9.6570	-0.0559	西霧ヶ峰系	1.0000	3.1587	和田峠・鷹山系	0.00	48.89	削器	第127図95	19	11区	S-25
TGK1-073	39.0935	13.2828	9.8026	-0.0625	西霧ヶ峰系	1.0000	4.2343	和田峠・鷹山系	0.00	59.23	石核	第144図249	19	11区	S-27
TGK1-074	39.9689	14.1255	9.5708	-0.0209	西霧ヶ峰系	1.0000	6.9105	和田峠・鷹山系	0.00	48.94	削器	第127図89	19	11区	S-32
TGK1-075	40.0902	14.0029	9.3939	-0.0251	西霧ヶ峰系	1.0000	9.3298	和田峠・鷹山系	0.00	46.51	石鏃	第122図14	16	3区	S-1
TGK1-076	24.1773	24.1229	7.6096	0.2157	恩馳島系	1.0000	3.3110	砂糠崎系	0.00	39.57	掻器	第131図131	16	3区	S-2
TGK1-077	38.7242	13.6424	9.4585	-0.0634	西霧ヶ峰系	1.0000	12.4559	和田峠・鷹山系	0.00	59.12	石核	第142図230	16	3区	S-4
TGK1-078	41.5714	11.9040	9.5373	-0.0447	西霧ヶ峰系	1.0000	5.8777	和田峠・鷹山系	0.00	37.15	石鏃未成品	第124図55	16	3区	S-7
TGK1-079	23.0771	29.9312	7.6648	0.2275	恩馳島系	1.0000	3.6641	砂糠崎系	0.00	53.75	MF	第137図172	16	3区	S-8
TGK1-080	23.6390	24.7752	7.7067	0.2214	恩馳島系	1.0000	3.6129	砂糠崎系	0.00	47.73	MF	第137図169	16	3区	S-10
TGK1-081	38.7564	15.4841	9.9155	-0.0501	西霧ヶ峰系	1.0000	4.0489	和田峠・鷹山系	0.00	67.33	石核	第148図279	16	3区	S-18
TGK1-082	41.9036	13.1963	10.0914	-0.0467	西霧ヶ峰系	1.0000	2.6042	和田峠・鷹山系	0.00	43.08	石核	第146図263	16	3区	S-28
TGK1-083	42.2035	13.8847	10.0506	-0.0607	西霧ヶ峰系	1.0000	3.4216	和田峠・鷹山系	0.00	47.21	石核	第141図227	16	3区	S-29
TGK1-084	38.9147	13.4480	9.6359	-0.0564	西霧ヶ峰系	1.0000	6.7277	和田峠・鷹山系	0.00	58.35	石核	第145図258	16	3区	S-31
TGK1-085	42.9232	13.6583	9.5146	-0.0499	西霧ヶ峰系	1.0000	9.0559	和田峠・鷹山系	0.00	40.21	石核	第140図216	16	3区	S-34
TGK1-086	40.8977	13.1916	9.4831	-0.0539	西霧ヶ峰系	1.0000	5.9769	和田峠・鷹山系	0.00	44.20	MF	第151図297	16	3区	S-47
TGK1-087	25.6632	27.0444	7.5411	0.2380	恩馳島系	1.0000	7.4279	砂糠崎系	0.00	59.97	石鏃	第122図20	16	3区	S-51
TGK1-088	23.3012	25.8531	7.7391	0.2192	恩馳島系	1.0000	2.5285	砂糠崎系	0.00	45.36	石核		16	3区	S-54
TGK1-089	40.3412	14.5824	10.3818	-0.0552	西霧ヶ峰系	1.0000	4.8942	和田峠・鷹山系	0.00	60.44	剥片	第151図301	16	3区	S-56
TGK1-090	40.1136	14.8695	9.6762	-0.0409	西霧ヶ峰系	1.0000	4.7770	和田峠・鷹山系	0.00	53.70	石核		16	3区	S-62
TGK1-091	41.3655	16.5378	10.1582	-0.0581	西霧ヶ峰系	1.0000	16.4280	和田峠・鷹山系	0.00	68.75	石核	第142図231	16	3区	S-64
TGK1-092	42.2213	12.9331	9.0252	-0.0363	西霧ヶ峰系	0.9993	19.5972	和田峠・鷹山系	0.00	34.14	石鏃	第122図4	16	3区	S-65
TGK1-093	21.2367	27.8399	7.5273	0.2307	恩馳島系	1.0000	2.7271	砂糠崎系	0.00	59.76	MF	第136図161	16	3区	S-69
TGK1-094	40.6193	13.8880	9.9336	-0.0727	西霧ヶ峰系	1.0000	1.3136	和田峠・鷹山系	0.00	54.25	RF	第139図205	16	3区	S-70
TGK1-095	21.5631	31.4593	7.1288	0.2204	恩馳島系	1.0000	3.9106	砂糠崎系	0.00	44.79	石錐	第124図59	16	3区	S-72
TGK1-096	27.0619	27.5166	7.1132	0.2304	恩馳島系	1.0000	11.2244	砂糠崎系	0.00	45.71	石核	第146図260	16	3区	S-87
TGK1-097	39.1715	14.7132	9.9136	-0.0588	西霧ヶ峰系	1.0000	2.2712	和田峠・鷹山系	0.00	62.79	石核	第141図229	16	3区	S-88

試料№	Rb 分率	Sr 分率	Mn×100/Fe	Log(Fe/K)	候補1	確率	距離	候補2	確率	距離	器種	図版番号	年度	調査区	注記番号
TGK1-098	42.8863	12.8702	9.7951	-0.0372	西霧ヶ峰系	1.0000	5.3409	和田峠・鷹山系	0.00	35.02	RF	第139図203	16	3区	S-92
TGK1-099	41.9060	13.8022	9.8239	-0.0626	西霧ヶ峰系	1.0000	2.7683	和田峠・鷹山系	0.00	46.59	石核	第141図225	16	3区	S-93
TGK1-100	27.4241	28.1595	7.2507	-0.0103	判別不可	-	-	-	-	-	石鏃未成品	第124図51	16	3区	S-102
TGK1-101	41.0928	14.3568	9.4616	-0.0772	西霧ヶ峰系	1.0000	11.8917	和田峠・鷹山系	0.00	53.45	MF	第137図171	16	3区	S-103
TGK1-102	41.5726	12.7347	9.3292	-0.0557	西霧ヶ峰系	1.0000	9.9370	和田峠・鷹山系	0.00	39.63	MF	第137図170	16	3区	一括
TGK1-103	43.0848	14.8016	9.4908	-0.0219	西霧ヶ峰系	1.0000	18.8276	和田峠・鷹山系	0.00	42.57	楔		16	3区	K-7G
TGK1-104	24.8767	26.9842	7.2506	0.2456	恩馳島系	1.0000	5.7013	砂糠崎系	0.00	63.23	RF		17	4区	S-5
TGK1-105	55.7918	2.2492	11.2586	-0.0512	和田峠系Ⅰ	1.0000	9.6806	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.00	35.46	石核	第151図298	17	4区	S-15
TGK1-106	24.6658	27.1251	7.5736	0.2160	恩馳島系	1.0000	2.1764	砂糠崎系	0.00	35.46	石核	第146図266	17	4区	S-17
TGK1-107	43.4805	12.9969	9.1765	-0.0357	西霧ヶ峰系	0.9995	17.3365	和田峠・鷹山系	0.00	32.69	楔	第125図71	17	4区	S-18
TGK1-108	44.9532	12.5989	9.5861	-0.0574	西霧ヶ峰系	1.0000	13.4204	和田峠・鷹山系	0.00	35.44	MF	第137図168	17	4区	S-20
TGK1-109	55.6913	2.9428	12.4964	-0.0232	和田峠・鷹山系	1.0000	1.1076	男女倉系Ⅲ	0.00	297.61	MF	第151図299	17	4区	S-26
TGK1-110	55.6290	1.7342	11.9748	-0.0099	和田峠・鷹山系	1.0000	0.5706	男女倉系Ⅲ	0.00	185.13	MF	第151図300	17	4区	S-26
TGK1-111	26.7249	26.8560	7.3993	0.2396	恩馳島系	1.0000	9.8790	砂糠崎系	0.00	59.33	石匙	第125図68	17	4区	S-28
TGK1-112	53.4783	5.0585	11.5237	-0.0055	和田峠系Ⅰ	0.9999	2.1375	和田峠Ⅱ・鷹山系	0.00	20.21	MF	第138図184	17	4区	S-31
TGK1-113	43.3291	13.5011	9.6314	-0.1368	判別不可	-	-	-	-	-	RF	第139図207	17	4区	S-37
TGK1-114	22.2962	26.2589	7.2513	0.2326	恩馳島系	1.0000	3.1650	砂糠崎系	0.00	54.35	石匙	第125図67	17	4区	S-38
TGK1-115	37.6902	13.8241	10.1417	-0.1726	判別不可	-	-	-	-	-	石核	第141図220	17	4区	S-39
TGK1-116	40.7682	13.8277	10.1802	-0.0483	西霧ヶ峰系	1.0000	2.0456	和田峠・鷹山系	0.00	52.00	石鏃	第122図5	17	4区	S-41
TGK1-117	24.2874	29.9160	7.5539	0.2184	恩馳島系	1.0000	3.6231	砂糠崎系	0.00	40.02	楔	第126図74	17	4区	S-42
TGK1-118	42.7524	14.8796	9.4644	-0.0484	西霧ヶ峰系	1.0000	15.3931	和田峠・鷹山系	0.00	48.43	石鏃	第123図43	17	4区	S-48
TGK1-119	43.2558	12.3105	10.0173	-0.0591	西霧ヶ峰系	1.0000	3.4769	和田峠・鷹山系	0.00	36.16	石核	第141図221	17	4区	S-50
TGK1-120	40.8135	12.7005	9.8652	-0.0290	西霧ヶ峰系	1.0000	3.8210	和田峠・鷹山系	0.00	44.20	RF		17	4区	D-6
TGK1-121	41.9036	14.1521	9.6019	-0.0555	西霧ヶ峰系	1.0000	6.3150	和田峠・鷹山系	0.00	46.08	石鏃		17	4区	S-24
TGK1-122	39.9508	13.3975	9.9763	-0.0665	西霧ヶ峰系	1.0000	0.8160	和田峠・鷹山系	0.00	55.66	MF	第88図23	19	5区 石 器集中地点	S-518
TGK1-123	40.2781	12.3318	10.0331	-0.0606	西霧ヶ峰系	1.0000	1.8862	和田峠・鷹山系	0.00	51.62	MF	第88図24	19	5区 石 器集中地点	S-611
TGK1-124	42.6455	15.7425	9.8481	-0.0510	西霧ヶ峰系	1.0000	16.6963	和田峠・鷹山系	0.00	57.62	MF	第137図180	19	5区	S-778
TGK1-125	39.4853	13.7923	9.0512	0.0046	判別不可	-	-	-	-	-	MF	第137図173	19	5区	S-864
TGK1-126	40.5814	13.2650	9.3944	-0.0803	西霧ヶ峰系	1.0000	13.3342	和田峠・鷹山系	0.00	50.50	石錐	第124図64	19	5区	S-599
TGK1-127	42.4178	13.1707	9.9414	-0.0517	西霧ヶ峰系	1.0000	2.5350	和田峠・鷹山系	0.00	40.70	石錐	第124図58	19	5区	S-641
TGK1-128	41.5917	12.4875	10.2147	-0.0659	西霧ヶ峰系	1.0000	1.4018	和田峠・鷹山系	0.00	45.85	石錐	第124図60	19	5区	S-780
TGK1-129	44.0265	13.7450	9.5893	-0.0627	西霧ヶ峰系	1.0000	13.4268	和田峠・鷹山系	0.00	44.20	石錐	第124図63	19	5区	S-812
TGK1-130	43.1067	12.7672	10.1639	-0.0534	西霧ヶ峰系	1.0000	5.3823	和田峠・鷹山系	0.00	38.43	掻器	第131図128	19	5区	S-722
TGK1-131	40.3636	12.1776	9.4305	-0.0437	西霧ヶ峰系	1.0000	9.4918	和田峠・鷹山系	0.00	43.88	楔形石器	第126図78	19	5区	S-731
TGK1-132	41.3719	15.0467	9.9318	-0.0328	西霧ヶ峰系	1.0000	7.9549	和田峠・鷹山系	0.00	51.15	楔形石器	第88図19	19	5区 石 器集中地点	S-763
TGK1-133	43.3319	12.5661	9.6024	-0.0527	西霧ヶ峰系	1.0000	6.1879	和田峠・鷹山系	0.00	34.53	楔形石器	第125図72	19	5区	S-819
TGK1-134	39.6656	11.2964	9.8908	-0.0369	西霧ヶ峰系	1.0000	10.6000	和田峠・鷹山系	0.00	54.99	削器	第88図21	19	5区 石 器集中地点	S-513
TGK1-135	47.3507	9.2664	9.6296	-0.2385	判別不可	-	-	-	-	-	削器	第88図20	19	5区 石 器集中地点	S-656
TGK1-136	42.0190	14.7021	8.0555	-0.2411	判別不可	-	-	-	-	-	削器	第127図93	19	5区	S-882
TGK1-137	25.9541	25.5283	7.3897	0.2280	恩馳島系	1.0000	5.7548	砂糠崎系	0.00	44.98	削器	第127図92	19	5区	S-883
TGK1-138	41.0227	16.0479	10.1655	-0.0458	西霧ヶ峰系	1.0000	12.0094	和田峠・鷹山系	0.00	62.99	石鏃未製品	第124図52	19	5区	S-573
TGK1-139	40.8266	14.2793	9.6234	-0.0522	西霧ヶ峰系	1.0000	4.4234	和田峠・鷹山系	0.00	49.27	石鏃未製品	第88図17	19	5区 石 器集中地点	S-764
TGK1-140	42.4191	13.0531	10.0370	-0.1024	西霧ヶ峰系	1.0000	6.3044	和田峠・鷹山系	0.00	52.07	石鏃未製品	第88図18	19	5区 石 器集中地点	S-766
TGK1-141	41.1411	13.7171	9.7326	-0.0626	西霧ヶ峰系	1.0000	2.4055	和田峠・鷹山系	0.00	48.10	石鏃未製品	第123図45	19	5区	S-899
TGK1-142	41.2359	14.7996	9.3554	-0.0239	西霧ヶ峰系	1.0000	13.2338	和田峠・鷹山系	0.00	44.70	石鏃	第123図37	19	5区	S-592
TGK1-143	42.2181	13.3894	9.9720	-0.0430	西霧ヶ峰系	1.0000	3.5080	和田峠・鷹山系	0.00	41.26	石鏃	第122図23	19	5区	S-601
TGK1-144	40.6578	15.5099	9.9029	-0.0629	西霧ヶ峰系	1.0000	6.2459	和田峠・鷹山系	0.00	60.87	石鏃	第124図50	19	5区	S-604
TGK1-145	42.1397	13.7473	9.6018	-0.0530	西霧ヶ峰系	1.0000	5.5397	和田峠・鷹山系	0.00	42.80	石鏃	第122図12	19	5区	S-608
TGK1-146	40.9809	13.5863	9.4491	-0.0508	西霧ヶ峰系	1.0000	6.7675	和田峠・鷹山系	0.00	44.48	石鏃	第123図27	19	5区	S-644
TGK1-147	43.5111	13.2393	9.6699	-0.2832	判別不可	-	-	-	-	-	石鏃	第122図19	19	5区	S-685
TGK1-148	42.5785	10.2840	9.8966	-0.0567	西霧ヶ峰系	1.0000	6.9729	和田峠・鷹山系	0.00	33.97	石鏃	第123図28	19	5区	S-701
TGK1-149	40.5236	15.2640	9.5699	-0.0607	西霧ヶ峰系	1.0000	9.1727	和田峠・鷹山系	0.00	56.90	石鏃	第122図21	19	5区	S-728
TGK1-150	46.6432	12.2745	9.6639	-0.2552	判別不可	-	-	-	-	-	石鏃	第123図46	19	5区	S-759
TGK1-151	42.4199	14.1535	10.0324	-0.0574	西霧ヶ峰系	1.0000	5.3119	和田峠・鷹山系	0.00	47.61	石鏃	第122図10	19	5区	S-787
TGK1-152	41.2975	13.4290	9.8802	-0.0542	西霧ヶ峰系	1.0000	0.7434	和田峠・鷹山系	0.00	45.91	石鏃	第122図15	19	5区	S-790
TGK1-153	40.1446	12.6174	9.8988	-0.0479	西霧ヶ峰系	1.0000	2.0895	和田峠・鷹山系	0.00	50.32	石鏃	第124図53	19	5区	S-801
TGK1-154	41.9401	13.0915	9.6217	-0.1834	判別不可	-	-	-	-	-	石鏃	第122図7	19	5区	S-803
TGK1-155	41.5697	13.3772	10.1405	-0.2841	判別不可	-	-	-	-	-	石鏃	第122図22	19	5区	S-808
TGK1-156	40.6760	13.8175	10.1258	-0.1067	西霧ヶ峰系	1.0000	7.0208	和田峠・鷹山系	0.00	62.81	石鏃	第124図54	19	5区	S-817
TGK1-157	43.9917	12.8376	9.3087	-0.1578	判別不可	-	-	-	-	-	石鏃	第123図31	19	5区	S-852
TGK1-158	41.5195	12.8077	9.4428	-0.0286	西霧ヶ峰系	1.0000	7.6594	和田峠・鷹山系	0.00	36.82	石鏃	第124図49	19	5区	S-874
TGK1-159	41.3078	11.6728	9.8939	-0.2719	判別不可	-	-	-	-	-	石鏃	第123図29	19	5区	S-887
TGK1-160	38.3205	15.3161	10.2578	-0.0642	西霧ヶ峰系	1.0000	4.4093	和田峠・鷹山系	0.00	75.76	石鏃	第124図56	19	5区	一括
TGK1-161	41.0628	13.3593	10.4891	-0.0920	西霧ヶ峰系	1.0000	5.3737	和田峠・鷹山系	0.00	58.38	石鏃	第123図33	19	5区	一括
TGK1-162	44.5335	13.3942	9.6621	-0.0345	西霧ヶ峰系	0.9999	15.9952	和田峠・鷹山系	0.00	35.35	石鏃	第123図36	19	5区	一括
TGK1-163	45.2192	12.7688	9.5235	-0.2767	判別不可	-	-	-	-	-	石鏃	第123図39	19	5区	一括
TGK1-164	42.6871	15.4005	9.6516	-0.0780	西霧ヶ峰系	1.0000	17.9241	和田峠・鷹山系	0.00	61.43	石核	第89図29	19	5区 石 器集中地点	S-543
TGK1-165	42.4481	13.9701	10.3107	-0.0817	西霧ヶ峰系	1.0000	6.7662	和田峠・鷹山系	0.00	53.27	石核	第90図37	19	5区 石 器集中地点	S-545
TGK1-166	39.7810	15.3067	10.2363	-0.0766	西霧ヶ峰系	1.0000	4.7045	和田峠・鷹山系	0.00	68.50	石核	第89図31	19	5区 石 器集中地点	S-514
TGK1-167	44.4699	13.2722	8.9174	0.0089	判別不可	-	-	-	-	-	石核	第90図38	19	5区 石 器集中地点	S-519
TGK1-168	41.0990	14.2173	10.2140	-0.0536	西霧ヶ峰系	1.0000	3.1192	和田峠・鷹山系	0.00	52.96	石核	第90図39	19	5区 石 器集中地点	S-523
TGK1-169	40.6726	14.3044	10.0697	-0.0746	西霧ヶ峰系	1.0000	1.8196	和田峠・鷹山系	0.00	57.35	石核	第91図50	19	5区 石 器集中地点	S-524
TGK1-170	42.6527	11.4992	10.1850	-0.0748	西霧ヶ峰系	1.0000	3.1441	和田峠・鷹山系	0.00	39.30	石核	第89図28	19	5区 石 器集中地点	S-525
TGK1-171	42.4894	13.7967	9.9471	-0.3715	判別不可	-	-	-	-	-	石核	第148図278	19	5区	S-526
TGK1-172	39.1023	12.5464	10.1587	-0.0559	西霧ヶ峰系	1.0000	4.8712	和田峠・鷹山系	0.00	62.76	石核	第90図40	19	5区 石 器集中地点	S-541
TGK1-173	43.5811	15.7967	10.0197	-0.0793	判別不可	-	-	-	-	-	石核	第90図41	19	5区 石 器集中地点	S-542
TGK1-174	39.8633	15.2973	10.2923	-0.0712	西霧ヶ峰系	1.0000	4.7852	和田峠・鷹山系	0.00	67.72	石核	第89図30	19	5区 石 器集中地点	S-543
TGK1-175	39.6393	13.7427	10.3495	-0.0665	西霧ヶ峰系	1.0000	2.5124	和田峠・鷹山系	0.00	62.85	石核	第90図42	19	5区 石 器集中地点	S-544
TGK1-176	40.8610	14.1970	10.3439	-0.0730	西霧ヶ峰系	1.0000	3.3267	和田峠・鷹山系	0.00	58.16	石核	第91図49	19	5区 石 器集中地点	S-545

試料№	Rb 分率	Sr 分率	Mn×100/Fe	Log(Fe/K)	候補1	確率	距離	候補2	確率	距離	器種	図版番号	年度	調査区	注記番号
TGK1-177	40.0642	13.4744	10.1353	-0.0855	西霧ヶ峰系	1.0000	2.2654	和田峠・鷹山系	0.00	59.71	石核	第91図48	19	5区 石 器集中地点	S-546
TGK1-178	40.1263	13.0581	10.0782	-0.0900	西霧ヶ峰系	1.0000	3.4179	和田峠・鷹山系	0.00	58.52	石核	第91図46	19	5区 石 器集中地点	S-547
TGK1-179	42.1616	13.7397	9.7737	-0.0937	西霧ヶ峰系	1.0000	8.2923	和田峠・鷹山系	0.00	53.32	石核	第141図226	19	5区	S-587
TGK1-180	40.7841	13.8908	10.1625	-0.0736	西霧ヶ峰系	1.0000	1.1303	和田峠・鷹山系	0.00	55.55	石核	第146図262	19	5区	S-588
TGK1-181	41.6691	10.3861	10.1462	-0.0608	西霧ヶ峰系	1.0000	8.1329	和田峠・鷹山系	0.00	42.45	石核	第89図32	19	5区 石 器集中地点	S-610
TGK1-182	37.5496	18.1181	9.8399	-0.0521	西霧ヶ峰系	1.0000	18.5895	和田峠・鷹山系	0.00	88.50	石核	第89図35	19	5区 石 器集中地点	S-616
TGK1-183	40.2215	13.6925	9.8350	-0.0593	西霧ヶ峰系	1.0000	1.0741	和田峠・鷹山系	0.00	52.52	石核	第91図51	19	5区 石 器集中地点	S-622
TGK1-184	43.0845	13.3517	9.9596	-0.0573	西霧ヶ峰系	1.0000	4.8489	和田峠・鷹山系	0.00	41.15	石核	第89図33	19	5区 石 器集中地点	S-623
TGK1-185	43.4858	14.0313	9.8739	-0.0780	西霧ヶ峰系	1.0000	10.1834	和田峠・鷹山系	0.00	50.45	石核	第91図44	19	5区 石 器集中地点	S-624
TGK1-186	41.1048	10.8719	9.7569	-0.0680	西霧ヶ峰系	1.0000	7.8534	和田峠・鷹山系	0.00	43.91	石核	第90図43	19	5区 石 器集中地点	S-626
TGK1-187	40.3675	14.7265	9.8149	-0.0741	西霧ヶ峰系	1.0000	4.5224	和田峠・鷹山系	0.00	58.70	石核	第91図47	19	5区 石 器集中地点	S-627
TGK1-188	39.7783	16.4171	10.3425	-0.0805	西霧ヶ峰系	1.0000	11.5986	和田峠・鷹山系	0.00	77.77	石核	第91図45	19	5区 石 器集中地点	S-636
TGK1-189	38.9476	15.7498	10.1784	-0.0813	西霧ヶ峰系	1.0000	6.5722	和田峠・鷹山系	0.00	75.35	石核	第88図25	19	5区 石 器集中地点	S-637
TGK1-190	44.0417	10.9308	9.1269	-0.2805	判別不可	-	-	-	-	-	石核	第90図36	19	5区 石 器集中地点	S-649
TGK1-191	40.9509	14.2481	10.5381	-0.0758	西霧ヶ峰系	1.0000	6.9214	和田峠・鷹山系	0.00	60.47	石核	第141図224	19	5区	S-704
TGK1-192	41.6608	14.6434	10.0442	-0.0722	西霧ヶ峰系	1.0000	4.8233	和田峠・鷹山系	0.00	55.53	石核	第148図274	19	5区	S-723
TGK1-193	42.4375	13.8111	10.5768	-0.0827	西霧ヶ峰系	1.0000	10.8876	和田峠・鷹山系	0.00	54.28	石核	第149図284	19	5区	S-725
TGK1-194	39.4005	13.9331	9.8050	-0.0753	西霧ヶ峰系	1.0000	4.3926	和田峠・鷹山系	0.00	60.25	石核	第140図215	19	5区	S-738
TGK1-195	38.8875	15.2171	10.4847	-0.0720	西霧ヶ峰系	1.0000	6.5187	和田峠・鷹山系	0.00	75.53	石核	第140図218	19	5区	S-743
TGK1-196	40.9993	13.7824	10.2200	-0.0610	西霧ヶ峰系	1.0000	1.5366	和田峠・鷹山系	0.00	52.58	石核	第89図27	19	5区 石 器集中地点	S-765
TGK1-197	41.6477	12.6249	9.7179	-0.0436	西霧ヶ峰系	1.0000	2.4948	和田峠・鷹山系	0.00	39.20	石核	第89図34	19	5区 石 器集中地点	S-767
TGK1-198	40.9279	12.2793	9.6979	-0.0795	西霧ヶ峰系	1.0000	5.5668	和田峠・鷹山系	0.00	47.51	石核	第144図250	19	5区	S-779
TGK1-199	41.5759	14.5215	9.6402	-0.0647	西霧ヶ峰系	1.0000	6.9280	和田峠・鷹山系	0.00	51.10	石核	第144図245	19	5区	S-782
TGK1-200	40.8835	15.8231	9.8726	-0.0998	西霧ヶ峰系	1.0000	16.0351	和田峠・鷹山系	0.00	72.38	石核	第144図248	19	5区	S-810
TGK1-201	41.8824	15.3631	9.8156	-0.0862	西霧ヶ峰系	1.0000	13.1466	和田峠・鷹山系	0.00	63.46	石核	第148図277	19	5区	S-813
TGK1-202	40.4775	14.0004	10.1758	-0.0691	西霧ヶ峰系	1.0000	0.9695	和田峠・鷹山系	0.00	56.88	石核	第146図265	19	5区	S-823
TGK1-203	40.3438	13.9820	10.0302	-0.0723	西霧ヶ峰系	1.0000	0.9263	和田峠・鷹山系	0.00	56.66	石核		19	5区	S-141
TGK1-204	39.8717	12.0056	9.5155	-0.0491	西霧ヶ峰系	1.0000	9.8488	和田峠・鷹山系	0.00	48.64	石核	第148図281	19	5区	S-834
TGK1-205	40.5464	15.1318	10.1005	-0.0780	西霧ヶ峰系	1.0000	4.8460	和田峠・鷹山系	0.00	63.45	石核	第142図235	19	5区	S-841
TGK1-206	41.8788	14.7491	10.1752	-0.0679	西霧ヶ峰系	1.0000	6.4511	和田峠・鷹山系	0.00	55.70	石核	第141図228	19	5区	S-856
TGK1-207	40.6577	12.9561	9.8352	-0.0749	西霧ヶ峰系	1.0000	2.1825	和田峠・鷹山系	0.00	50.54	石核	第148図275	19	5区	S-860
TGK1-208	42.4483	14.2992	9.5358	-0.0782	西霧ヶ峰系	1.0000	12.4590	和田峠・鷹山系	0.00	51.97	石核	第140図217	19	5区	S-871
TGK1-209	41.7458	13.3621	9.9867	-0.0744	西霧ヶ峰系	1.0000	1.3166	和田峠・鷹山系	0.00	48.19	石核	第144図246	19	5区	S-875
TGK1-210	43.4577	13.6744	10.0422	-0.0713	西霧ヶ峰系	1.0000	7.6126	和田峠・鷹山系	0.00	46.29	石核	第144図247	19	5区	S-886
TGK1-211	42.0494	12.0896	10.1592	-0.2462	判別不可	-	-	-	-	-	石核	第148図280	19	5区	S-890
TGK1-212	42.2678	11.3958	9.8261	-0.0530	西霧ヶ峰系	1.0000	3.2692	和田峠・鷹山系	0.00	35.54	原石		16	2区	2･3住 S-53
TGK1-213	41.8533	13.0172	9.3834	-0.0319	西霧ヶ峰系	1.0000	8.7344	和田峠・鷹山系	0.00	36.08	原石		16	3区	3･2住 S ー48
TGK1-214	41.7733	13.6069	9.9020	-0.0571	西霧ヶ峰系	1.0000	1.5753	和田峠・鷹山系	0.00	45.44	原石		16	3区	3･S-5
TGK1-215	41.8033	10.9940	9.5847	-0.0423	西霧ヶ峰系	1.0000	8.0981	和田峠・鷹山系	0.00	35.27	原石		16	3区	3･S-23
TGK1-216	41.0460	14.4039	9.1518	-0.0444	西霧ヶ峰系	1.0000	17.0350	和田峠・鷹山系	0.00	45.39	原石		16	3区	3･S-77
TGK1-217	23.0219	27.9046	7.5386	0.2190	恩馳島系	1.0000	0.7182	砂糠崎系	0.00	40.67	原石		16	3区	3･S-90
TGK1-218	42.4799	12.8682	9.7657	-0.0351	西霧ヶ峰系	1.0000	4.6142	和田峠・鷹山系	0.00	35.84	原石		18	5区	5･2トレ S-32
TGK1-219	42.9052	14.2934	8.8816	-0.0059	判別不可	-	-	-	-	-	原石		18	6区	6･S-9
TGK1-220	39.6422	13.5963	9.9052	-0.0577	西霧ヶ峰系	1.0000	1.1892	和田峠・鷹山系	0.00	56.33	原石		18	6区	6･S-25
TGK1-221	43.5865	11.3410	8.2286	-0.0288	男女倉系III	0.9977	14.5946	和田峠・鷹山系	0.00	26.74	原石		18	6区	6･S-27
TGK1-222	41.5097	12.0213	9.5580	-0.0435	西霧ヶ峰系	1.0000	5.3615	和田峠・鷹山系	0.00	37.63	原石		19	5区	5･S-510
TGK1-223	39.4468	14.4016	9.7910	-0.0570	西霧ヶ峰系	1.0000	2.6409	和田峠・鷹山系	0.00	58.51	原石		19	5区	5･S-516
TGK1-224	41.7768	12.0922	8.4074	0.0312	判別不可	-	-	-	-	-	原石		19	5区	5･S-520
TGK1-225	42.4502	14.1288	9.0055	0.1136	判別不可	-	-	-	-	-	原石		19	5区	5･S-550
TGK1-226	39.8495	13.7529	8.9824	-0.0122	判別不可	-	-	-	-	-	原石	第159図368	19	5区	5･S-559
TGK1-227	38.6537	13.9020	10.3602	-0.0546	西霧ヶ峰系	1.0000	4.6609	和田峠・鷹山系	0.00	70.36	原石		19	5区	5･S-581
TGK1-228	41.1265	11.0080	9.2964	-0.0616	西霧ヶ峰系	1.0000	17.0473	和田峠・鷹山系	0.00	40.22	原石		19	5区	5･S-595
TGK1-229	41.8121	13.9081	10.1013	-0.2384	判別不可	-	-	-	-	-	原石		19	5区	5･S-651
TGK1-230	47.0004	11.2836	8.3656	-0.2766	判別不可	-	-	-	-	-	原石		19	5区	5･S-699
TGK1-231	41.3763	12.9944	10.0011	-0.0554	西霧ヶ峰系	1.0000	0.3702	和田峠・鷹山系	0.00	45.18	原石		19	5区	5･S-702
TGK1-232	40.4157	13.2110	9.8737	-0.0573	西霧ヶ峰系	1.0000	0.6447	和田峠・鷹山系	0.00	50.17	原石		19	5区	5･S-715
TGK1-233	41.8791	12.6258	9.7354	-0.0584	西霧ヶ峰系	1.0000	1.9231	和田峠・鷹山系	0.00	40.41	原石	第159図367	19	5区	5･S-736
TGK1-234	41.1487	13.8469	9.1877	-0.0104	西霧ヶ峰系	1.0000	16.5757	和田峠・鷹山系	0.00	38.26	原石		19	5区	5･S-740
TGK1-235	40.1920	13.4426	9.8284	-0.0467	西霧ヶ峰系	1.0000	1.2529	和田峠・鷹山系	0.00	50.45	原石		19	5区	5･S-741
TGK1-236	40.8435	11.8630	9.9125	-0.0536	西霧ヶ峰系	1.0000	2.6842	和田峠・鷹山系	0.00	45.40	原石		19	5区	5･S-749
TGK1-237	41.4964	14.4821	9.9762	-0.1105	西霧ヶ峰系	1.0000	12.1480	和田峠・鷹山系	0.00	65.05	原石		19	5区	5･S-755
TGK1-238	43.9547	15.1202	9.2016	-0.0297	判別不可	-	-	-	-	-	原石		19	5区	5･S-756
TGK1-239	41.9233	12.5841	9.5209	-0.0023	西霧ヶ峰系	1.0000	13.3021	和田峠・鷹山系	0.00	33.33	原石		19	5区	5･S-758
TGK1-240	42.1507	12.0614	9.6568	-0.0393	西霧ヶ峰系	1.0000	4.3372	和田峠・鷹山系	0.00	34.63	原石		19	5区	5･S-796
TGK1-241	41.5617	12.1024	8.7771	-0.1875	判別不可	-	-	-	-	-	原石		19	5区	5･S-807
TGK1-242	42.1638	13.4168	9.8283	-0.0556	西霧ヶ峰系	1.0000	2.3832	和田峠・鷹山系	0.00	42.62	原石		19	5区	5･S-811
TGK1-243	38.9678	14.8278	10.2876	-0.0351	西霧ヶ峰系	1.0000	5.9974	和田峠・鷹山系	0.00	67.70	原石		19	5区	5･S-829
TGK1-244	38.8427	14.9683	9.8254	-0.0628	西霧ヶ峰系	1.0000	4.2697	和田峠・鷹山系	0.00	65.32	原石		19	5区	5･S-842
TGK1-245	45.1310	10.4571	8.7172	-0.2631	判別不可	-	-	-	-	-	原石		19	5区	5･S-844
TGK1-246	39.3739	12.6318	10.0094	-0.0460	西霧ヶ峰系	1.0000	3.9108	和田峠・鷹山系	0.00	57.81	原石		19	5区	5･S-846
TGK1-247	41.7546	12.5381	9.2545	-0.0045	西霧ヶ峰系	0.9996	16.4166	和田峠・鷹山系	0.00	32.22	原石		19	5区	5･S-847
TGK1-248	40.0276	16.0225	9.7431	-0.0290	西霧ヶ峰系	1.0000	9.9179	和田峠・鷹山系	0.00	59.49	原石		19	5区	5･S-849
TGK1-249	40.3960	11.9272	9.9152	-0.0600	西霧ヶ峰系	1.0000	3.2619	和田峠・鷹山系	0.00	49.31	原石		19	5区	5･S-869
TGK1-250	43.6358	11.8522	9.8130	-0.1365	判別不可	-	-	-	-	-	原石		19	5区	5･S-888
TGK1-251	39.8417	13.9141	9.5705	-0.0111	西霧ヶ峰系	1.0000	8.8918	和田峠・鷹山系	0.00	48.91	原石		19	5区	5･S-892
TGK1-252	43.5506	13.9533	10.0481	-0.0459	西霧ヶ峰系	1.0000	11.4607	和田峠・鷹山系	0.00	42.68	原石		19	5区	5･S-900
TGK1-253	41.9796	13.6435	9.2111	-0.0277	西霧ヶ峰系	1.0000	14.4454	和田峠・鷹山系	0.00	36.83	原石		19	5区	5･S-918
TGK1-254	41.5243	14.4276	9.4316	-0.0329	西霧ヶ峰系	1.0000	10.0026	和田峠・鷹山系	0.00	43.63	原石		19	5区	5･S-930
TGK1-255	41.3862	13.2071	10.5571	-0.0452	西霧ヶ峰系	1.0000	10.7229	和田峠・鷹山系	0.00	50.49	原石		19	5区	5･S-937
TGK1-256	41.9172	14.4357	9.0653	-0.0127	判別不可	-	-	-	-	-	原石		19	11区	11･S-12
TGK1-257	41.4197	12.8668	10.0169	-0.0488	西霧ヶ峰系	1.0000	1.0098	和田峠・鷹山系	0.00	43.91	原石		19	11区	11･S-30
TGK1-258	40.3252	13.9277	10.3373	-0.0695	西霧ヶ峰系	1.0000	2.2182	和田峠・鷹山系	0.00	59.18	剥片		16	2区	2･深掘り地点3-1
TGK1-259	40.3853	15.6641	8.7366	-0.0564	判別不可	-	-	-	-	-	剥片		16	2区	2･深掘り地点3-2
TGK1-260	43.2424	14.5403	9.9626	-0.0547	西霧ヶ峰系	1.0000	11.3422	和田峠・鷹山系	0.00	48.68	剥片		16	2区	2･深掘り地点3-3
TGK1-261	42.1370	14.0503	9.8123	-0.0473	西霧ヶ峰系	1.0000	4.6034	和田峠・鷹山系	0.00	44.48	剥片		16	3区	3･S-6

試料№	Rb 分率	Sr 分率	Mn×100/Fe	Log(Fe/K)	候補1	確率	距離	候補2	確率	距離	器種	図版番号	年度	調査区	注記番号
TGK1-262	25.6429	26.2630	7.7133	0.2314	恩馳島系	1.0000	7.4792	砂糠崎系	0.00	55.95	剥片		16	3区	3･S-9
TGK1-263	39.9848	14.6065	9.9163	-0.0548	西霧ヶ峰系	1.0000	1.6387	和田峠･鷹山系	0.00	57.26	剥片		16	3区	3･S-13
TGK1-264	42.8497	13.1149	9.9963	-0.0614	西霧ヶ峰系	1.0000	3.2088	和田峠･鷹山系	0.00	41.30	剥片		16	3区	3･S-14
TGK1-265	25.4859	26.0016	7.5306	0.2242	恩馳島系	1.0000	4.3681	砂糠崎系	0.00	42.90	剥片		16	3区	3･S-21
TGK1-266	40.3534	15.4261	10.1199	-0.1049	西霧ヶ峰系	1.0000	11.6753	和田峠･鷹山系	0.00	73.03	剥片		16	3区	3･S-24
TGK1-267	24.4364	26.2098	7.6632	0.2229	恩馳島系	1.0000	3.1223	砂糠崎系	0.00	45.06	剥片		16	3区	3･S-33
TGK1-268	23.8420	28.6991	7.4793	0.2236	恩馳島系	1.0000	1.9792	砂糠崎系	0.00	43.06	剥片		16	3区	3･S-37
TGK1-269	21.0359	29.4555	7.8382	0.2165	恩馳島系	1.0000	3.1189	砂糠崎系	0.00	51.32	剥片		16	3区	3･S-42
TGK1-270	40.4504	15.0219	9.6969	-0.0747	西霧ヶ峰系	1.0000	7.6134	和田峠･鷹山系	0.00	59.48	剥片		16	3区	3･S-44
TGK1-271	18.4465	45.7708	6.4229	0.2975	判別不可	-	-	-	-	-	剥片		16	3区	3･S-58
TGK1-272	38.4686	13.3730	10.3558	-0.0718	西霧ヶ峰系	1.0000	5.8160	和田峠･鷹山系	0.00	72.62	剥片		16	3区	3･S-59
TGK1-273	40.5562	14.4887	9.6071	0.0041	西霧ヶ峰系	1.0000	14.2417	和田峠･鷹山系	0.00	46.31	剥片		16	3区	3･S-78
TGK1-274	15.1195	46.0200	6.3894	0.2556	判別不可	-	-	-	-	-	剥片		16	3区	3･S-82
TGK1-275	42.6252	11.8145	10.1454	-0.0689	西霧ヶ峰系	1.0000	2.4122	和田峠･鷹山系	0.00	38.99	剥片		16	3区	3･S-93
TGK1-276	24.0132	24.3287	7.5689	0.2101	恩馳島系	1.0000	2.6582	砂糠崎系	0.00	33.82	剥片		16	3区	3･S-96
TGK1-277	21.8859	29.4031	8.0808	0.2331	恩馳島系	1.0000	12.1155	砂糠崎系	0.00	79.27	剥片		16	3区	3･S-97
TGK1-278	56.0921	0.0000	11.3899	-0.1349	判別不可	-	-	-	-	-	剥片		17	4区	4･S-13
TGK1-279	54.3199	4.7905	11.7638	-0.0267	和田峠系Ⅰ	0.9897	5.0793	和田峠Ⅱ･鷹山系	0.01	14.21	剥片		17	4区	4･S-21
TGK1-280	40.7760	13.0480	9.6106	-0.3147	判別不可	-	-	-	-	-	剥片		17	4区	4･S-22
TGK1-281	41.6536	13.8693	9.4306	-0.0571	西霧ヶ峰系	1.0000	8.6280	和田峠･鷹山系	0.00	44.72	剥片		17	4区	4･S-23
TGK1-282	40.1539	15.3572	9.5870	-0.0879	西霧ヶ峰系	1.0000	14.7193	和田峠･鷹山系	0.00	65.20	剥片		17	4区	4･S-25
TGK1-283	55.2941	2.7271	12.1587	-0.0331	和田峠･鷹山系	1.0000	0.8249	男女倉系Ⅲ	0.00	222.73	剥片		17	4区	4･S-29
TGK1-284	54.7839	2.6494	11.8115	-0.0096	和田峠･鷹山系	1.0000	0.1617	男女倉系Ⅲ	0.00	185.79	剥片		17	4区	4･S-30
TGK1-285	40.7541	13.1116	9.2611	-0.0766	西霧ヶ峰系	1.0000	16.8954	和田峠･鷹山系	0.00	48.00	剥片		17	4区	4･S-44
TGK1-286	27.7134	23.4927	7.3145	0.2393	恩馳島系	1.0000	13.0992	砂糠崎系	0.00	60.27	剥片		17	4区	4･S-52
TGK1-287	38.7542	12.9614	10.0786	-0.1067	西霧ヶ峰系	1.0000	12.6937	和田峠･鷹山系	0.00	71.21	剥片		17	4区	4･S-53
TGK1-288	42.4164	13.5860	9.6118	-0.2830	判別不可	-	-	-	-	-	剥片		18	5区	5･S-16
TGK1-289	39.6652	14.9533	9.8176	-0.0291	西霧ヶ峰系	1.0000	4.7183	和田峠･鷹山系	0.00	56.67	剥片		18	5区	5･S-23
TGK1-290	42.6484	13.0372	9.9207	-0.0801	西霧ヶ峰系	1.0000	3.3131	和田峠･鷹山系	0.00	45.14	剥片		18	5区	5･S-24
TGK1-291	39.9235	14.8762	9.5244	-0.0428	西霧ヶ峰系	1.0000	7.1906	和田峠･鷹山系	0.00	53.52	剥片		18	5区	5･S-29
TGK1-292	38.8495	12.9210	9.7205	-0.1964	判別不可	-	-	-	-	-	剥片		18	5区	5･S-35
TGK1-293	25.4455	29.1690	7.2053	0.2348	恩馳島系	1.0000	6.9435	砂糠崎系	0.00	50.63	剥片		18	6区	6･37±S-33
TGK1-294	41.8484	11.8463	9.4495	-0.0597	西霧ヶ峰系	1.0000	7.9056	和田峠･鷹山系	0.00	37.44	剥片		18	6区	6･S-2
TGK1-295	40.3185	15.7592	9.5221	-0.2791	判別不可	-	-	-	-	-	剥片		18	6区	6･S-8
TGK1-296	40.5526	12.5735	10.2199	-0.0715	西霧ヶ峰系	1.0000	1.5779	和田峠･鷹山系	0.00	53.13	剥片		18	6区	6･S-13
TGK1-297	40.3462	12.8066	10.2443	-0.0772	西霧ヶ峰系	1.0000	1.8385	和田峠･鷹山系	0.00	55.97	剥片		18	6区	6･S-16
TGK1-298	41.5469	12.9945	10.0243	-0.0643	西霧ヶ峰系	1.0000	0.2890	和田峠･鷹山系	0.00	45.87	剥片		18	6区	6･S-20
TGK1-299	42.5409	11.8770	9.5252	-0.2540	判別不可	-	-	-	-	-	剥片		18	6区	6･S-30
TGK1-300	42.7963	13.4435	9.7928	-0.0887	西霧ヶ峰系	1.0000	7.3833	和田峠･鷹山系	0.00	49.33	剥片		19	5区	5･S-502
TGK1-301	40.3249	13.0146	9.5910	-0.0589	西霧ヶ峰系	1.0000	4.7845	和田峠･鷹山系	0.00	48.15	剥片		19	5区	5･S-506
TGK1-302	42.0314	13.8869	9.5525	-0.0652	西霧ヶ峰系	1.0000	7.3370	和田峠･鷹山系	0.00	46.26	剥片		19	5区	5･S-507
TGK1-303	41.1691	12.9855	9.6881	-0.0628	西霧ヶ峰系	1.0000	2.5277	和田峠･鷹山系	0.00	45.03	剥片		19	5区	5･S-508
TGK1-304	41.6584	13.1704	9.8040	-0.0643	西霧ヶ峰系	1.0000	1.4395	和田峠･鷹山系	0.00	44.63	剥片		19	5区	5･S-517
TGK1-305	44.4925	11.3672	10.1746	-0.0583	西霧ヶ峰系	1.0000	9.1523	和田峠･鷹山系	0.00	29.81	剥片		19	5区	5･S-522
TGK1-306	42.8435	12.6122	10.1461	-0.0370	西霧ヶ峰系	1.0000	7.2437	和田峠･鷹山系	0.00	36.40	剥片		19	5区	5･S-563
TGK1-307	40.1621	14.0515	9.3617	-0.0128	西霧ヶ峰系	1.0000	11.7990	和田峠･鷹山系	0.00	45.15	剥片		19	5区	5･S-574
TGK1-308	42.5343	14.3676	9.4895	-0.2771	判別不可	-	-	-	-	-	剥片		19	5区	5･S-577
TGK1-309	45.5489	11.8688	7.7588	-0.1317	判別不可	-	-	-	-	-	剥片		19	5区	5･S-579
TGK1-310	38.8995	15.1230	10.0138	-0.0635	西霧ヶ峰系	1.0000	3.0072	和田峠･鷹山系	0.00	67.80	剥片		19	5区	5･S-589
TGK1-311	46.8192	12.2999	9.9564	-0.3751	判別不可	-	-	-	-	-	剥片		19	5区	5･S-591
TGK1-312	41.8791	12.5904	9.9402	-0.0687	西霧ヶ峰系	1.0000	0.7314	和田峠･鷹山系	0.00	43.25	剥片		19	5区	5･S-593
TGK1-313	36.1156	16.1242	9.8611	-0.0711	西霧ヶ峰系	1.0000	15.4564	和田峠･鷹山系	0.00	91.17	剥片		19	5区	5･S-602
TGK1-314	42.6248	12.0667	9.9067	-0.0592	西霧ヶ峰系	1.0000	1.8515	和田峠･鷹山系	0.00	36.79	剥片		19	5区	5･S-603
TGK1-315	41.6178	10.7035	10.0213	-0.2067	判別不可	-	-	-	-	-	剥片		19	5区	5･S-606
TGK1-316	41.4421	13.2148	10.0355	-0.0520	西霧ヶ峰系	1.0000	0.8538	和田峠･鷹山系	0.00	45.42	剥片		19	5区	5･S-609
TGK1-317	38.8633	14.2945	9.9775	-0.0334	西霧ヶ峰系	1.0000	3.5185	和田峠･鷹山系	0.00	62.61	剥片		19	5区	5･S-620
TGK1-318	41.0212	16.2203	9.6165	-0.0463	西霧ヶ峰系	1.0000	14.5060	和田峠･鷹山系	0.00	60.16	剥片		19	5区	5･S-625
TGK1-319	40.2410	11.1908	9.8295	-0.0719	西霧ヶ峰系	1.0000	8.6410	和田峠･鷹山系	0.00	51.29	剥片		19	5区	5･S-628
TGK1-320	39.3518	14.8083	9.7425	-0.0194	西霧ヶ峰系	1.0000	6.4690	和田峠･鷹山系	0.00	56.67	剥片		19	5区	5･S-629
TGK1-321	39.7305	15.1090	10.2293	-0.2143	判別不可	-	-	-	-	-	剥片		19	5区	5･S-633
TGK1-322	41.9661	12.9899	9.7215	-0.0455	西霧ヶ峰系	1.0000	2.6621	和田峠･鷹山系	0.00	39.24	剥片		19	5区	5･S-647
TGK1-323	37.5694	13.4681	9.6511	-0.0258	西霧ヶ峰系	1.0000	12.6676	和田峠･鷹山系	0.00	69.61	剥片		19	5区	5･S-652
TGK1-324	42.7860	13.5534	9.6813	-0.1057	西霧ヶ峰系	1.0000	14.4966	和田峠･鷹山系	0.00	55.50	剥片		19	5区	5･S-653
TGK1-325	43.1226	12.3467	9.7027	-0.1609	判別不可	-	-	-	-	-	剥片		19	5区	5･S-661
TGK1-326	42.2343	11.4560	9.3534	-0.0555	西霧ヶ峰系	1.0000	10.6894	和田峠･鷹山系	0.00	34.05	剥片		19	5区	5･S-668
TGK1-327	43.6470	14.1759	9.6500	-0.0286	西霧ヶ峰系	1.0000	15.6752	和田峠･鷹山系	0.00	39.58	剥片		19	5区	5･S-680
TGK1-328	42.7280	13.5024	9.7624	-0.0494	西霧ヶ峰系	1.0000	4.9204	和田峠･鷹山系	0.00	40.27	剥片		19	5区	5･S-682
TGK1-329	40.8395	12.7025	9.8503	-0.0719	西霧ヶ峰系	1.0000	1.6894	和田峠･鷹山系	0.00	48.49	剥片		19	5区	5･S-688
TGK1-330	37.1346	14.8299	10.1331	-0.0640	西霧ヶ峰系	1.0000	7.0789	和田峠･鷹山系	0.00	82.69	剥片		19	5区	5･S-689
TGK1-331	39.9962	15.9431	10.2164	-0.0609	西霧ヶ峰系	1.0000	7.2598	和田峠･鷹山系	0.00	68.50	剥片		19	5区	5･S-695
TGK1-332	41.5739	13.4599	9.9214	-0.0584	西霧ヶ峰系	1.0000	0.8854	和田峠･鷹山系	0.00	45.85	剥片		19	5区	5･S-703
TGK1-333	46.9837	12.3570	9.6266	-0.3072	判別不可	-	-	-	-	-	剥片		19	5区	5･S-709
TGK1-334	41.7436	14.6906	7.3687	0.1429	判別不可	-	-	-	-	-	剥片		19	5区	5･S-710
TGK1-335	42.9975	13.7332	9.7227	-0.0570	西霧ヶ峰系	1.0000	6.7479	和田峠･鷹山系	0.00	42.68	剥片		19	5区	5･S-718
TGK1-336	41.0915	14.4659	9.4882	-0.0471	西霧ヶ峰系	1.0000	7.7003	和田峠･鷹山系	0.00	47.64	剥片		19	5区	5･S-733
TGK1-337	39.4055	14.6221	9.7130	-0.0324	西霧ヶ峰系	1.0000	4.4279	和田峠･鷹山系	0.00	56.11	剥片		19	5区	5･S-737
TGK1-338	41.9141	14.3225	9.4494	-0.0824	西霧ヶ峰系	1.0000	14.5195	和田峠･鷹山系	0.00	53.51	剥片		19	5区	5･S-742

第４節　土壌分析

１．はじめに

各遺構面で検出された遺構の中には焼土や炭化物等が含まれるものが存在することから、遺構覆土の微細物分析を行うことによって、土坑内容物の検討を行う。

２．分析

（１）試料

微細物分析試料は、中世の地下式土坑である２区第24号土坑、縄文時代早期の３区第67号土坑と３区第102号土坑、奈良時代の３区第１号住居跡内焼土の計４点である。

（２）分析方法

試料各200cc を水に浸し、0.5mm 目の篩を通して水洗する。残渣を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な種実や２mm 角以上の炭化材などの遺物を抽出する。現生標本および原色日本植物種子写真図鑑(石川　1994)、日本植物種子図鑑(中山ほか　2000)との対照から、種実の種類と部位を同定し、個数を求める。実体顕微鏡下の観察による判別が困難な複数の分類群は、ハイフォンで結び表示する。炭化材や炭化物は、70℃48時間乾燥後の重量を求める。分析後の種実遺体等は、種類毎に容器に入れて保管する。

３．結果と考察

結果を第８表に示す。

第８表　微細物分析結果

分類群	部位	状態	２区	３区			備考
			第24号土坑	第67号土坑	第102号土坑	第１号住居跡	
アワ－ヒエ	胚乳	炭化	７個	－	－	－	
イネ科	胚乳	炭化	１個	－	－	－	
炭化材		炭化	0.06g	＜0.01g	0.1g	＜0.01g	
不明炭化物		炭化	0.02g	－	＜0.01g	＜0.01g	
分析量			200cc	200cc	200cc	200cc	
			285.3g	246.9g	262.1g	310.7g	

分析の結果、種実遺体3種類(イネ、アワ－ヒエ、イネ科)のほか、炭化材、不明炭化物(部位や種類を特定できない炭化物)が検出される。なお、３区第67号土坑から検出されたイネは炭化しておらず、破片ではあるが表面模様等の状態が良好であることから、後代から混入したものと考えられる。

縄文時代早期の３区第67号土坑・３区第102号土坑、奈良時代の第1号住居跡内焼土に関しては、いずれの試料も炭化材が微量認められるのみである。これらの試料では、土壌中に２mm 前後の炭化物が肉眼で散見されるが、微細物分析の結果では微量検出されたのみである。土壌内にみられた炭化材は、いずれも脆弱であるため、一部は水洗の際に壊れたと推測される。

中世の地下式土坑からは、アワ－ヒエが少量検出される。アワ－ヒエの炭化種子は、県内では弥生時代以降、複数の遺跡で出土例がある(櫛原　1999、松谷　2001)。今回は検出量が微量であること、焼土を伴うことから、炭化した胚乳をまとめて投棄したとは考えにくい。その由来は不明であるが、当時、アワ－ヒエが周辺で栽培・利用されていたことは確実である。以下に、検出された種類の形態的特徴を記す。

・アワ－ヒエ(Setaria itarica（L.）P.Beauv.- Echinochloa utilis Ohwi et Yabuno)　イネ科エノコログサ属－ヒエ属

３区第24号土坑から、胚乳が7個検出された。炭化しており黒色を呈す。広楕円体でやや偏平。径１－1.5mm 程度。背面は丸みがあり、腹面は平ら。正中線上基部に胚の凹みがある。アワ、ヒエは、走査型電子顕微鏡下による内外穎の観察による区別が可能であるが(松谷　1980・2000など)、検出された胚乳は遺存状態が悪く、表面に穎が付着した個体は認められなかった。

・イネ科(Gramineae)

３区第24号土坑から、胚乳が1個検出された。炭化しており黒色を呈す。楕円体でやや偏平。長さ1.4mm、幅0.7mm 程度で、アワ－ヒエよりも細長い。背面は丸みがあり、腹面は平ら。正中線上基部に胚の凹みがある。

第５節　出土石器の使用痕分析

１．はじめに

調査によって、磨石と稜磨石という機能の異なることが想定される石器が出土した。この２つの石器の使用痕形状について検討するために、分析を行った。また、研磨面のあるＭＦとして報告した資料についても、磨面について使用痕分析を実施した。

２．分析

（１）分析方法

キーエンス社のデジタル HD マイクロスコープ（VH－7000）による高倍率ズームレンズ（VH－Z450、200倍～450倍）と低倍率ズームレンズ（10～40倍）を用いて使用痕観察をおこなった。観察面は、適宜アルコールを浸した脱脂綿で軽く拭き取り、脂分などを取り除いた。観察範囲は、石器表面全体を詳細に観察し、使用痕光沢および線状痕の認定をおこなった。

（２）分析対象

稜磨石としては第87図１・第85図７・第94図72・第154図320・第155図326、磨石としては第157図347・348、研磨面のあるＭＦとしては第138図189を対象に分析を行った。

３．結果と考察

稜磨石・磨石

写真は稜磨石、第87図１・第85図７・第154図320・第155図326の磨面拡大である。平滑な面でなく、凹凸のあるザラザラした磨面である。線状痕などは確認できなかったので、どのような動きでこの面が形成されたかは、不明である。また高倍率で検鏡したが、特に何も確認できなかった。稜磨石には、他に使用痕跡として、凹みや長軸両端に敲打の痕跡がある。また、稜磨石の中には、写真にある第94図72などのように、稜磨石の使用痕を持ちながらも形態的には磨石と同じものも確認される。

磨石の磨面は、平滑な面で形成され、稜磨石の機能面とは異なる。高倍率で検鏡したが、特に何も確認できなかった。他に使用痕として、凹みの痕跡がある。

稜磨石・磨石の磨面の差は用途の差と考えられる。高倍率顕微鏡では使用痕は確認できなかったので、具体的なことは明らかにできなかった。ただ、ほぼ同時期の忍野村笹見原遺跡において、磨石に B タイプ光沢が確認されている。こうした石器は従来その用途については、軽視されがちであったが、こうしたデータを積み上げていくことで、その用途に何らかの方向性が得られるかもしれない。

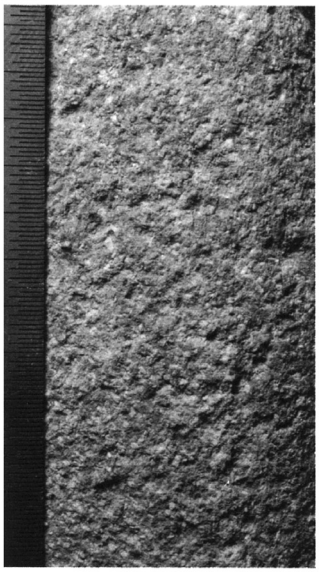
稜磨石・磨石は、完形のものが少なく、程度はあるが、どこかしら破損している。中には第157図347・348にみられるように、まっぷたつに叩き折っている資料もある。写真はその剥離面の開始部である。玉川金山遺跡ではこの磨石のように意図的に叩き折っている資料が他にもみられる。磨石としての役割を終えた後、何らかの意図で叩き割っている可能性がある。

第138図189は石器裏面側と正面刃部の一部に肉眼でも明瞭な研磨面が確認される。高倍率顕微鏡で検鏡したところ、この部分にタイプ不明の光沢が確認できた。また写真の矢印方向に線状痕がみられるので、何かしらの意図で研磨されたと思われる。後晩期の例であるが、富山県南砺市(旧利賀村)矢張下島遺跡において、石器裏面に研磨面が残されている石器が確認されている。

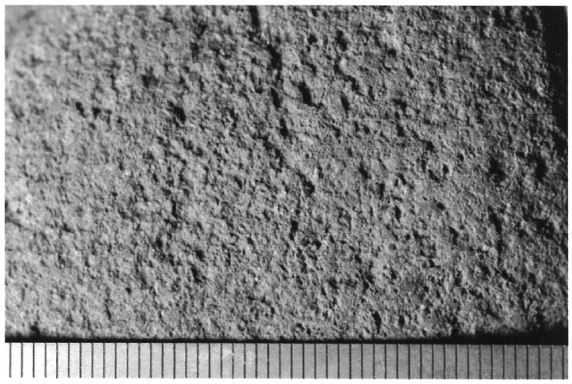
第87図１　磨面拡大

第154図320　磨面拡大

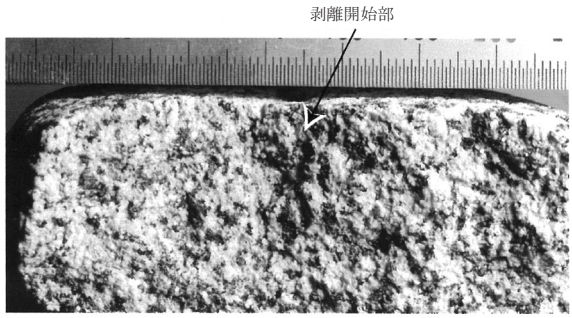
第155図326　磨面拡大



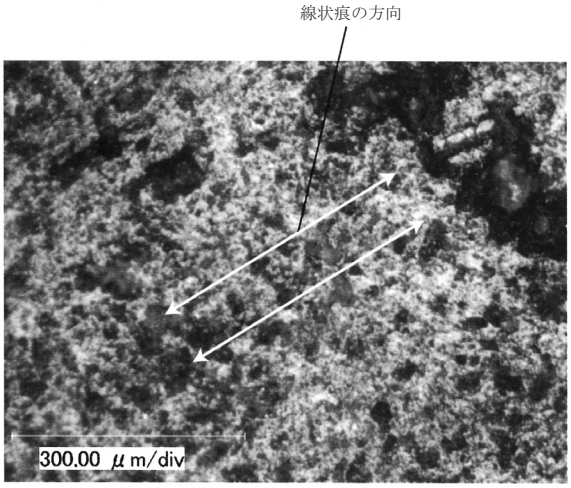
第85図７　磨面拡大

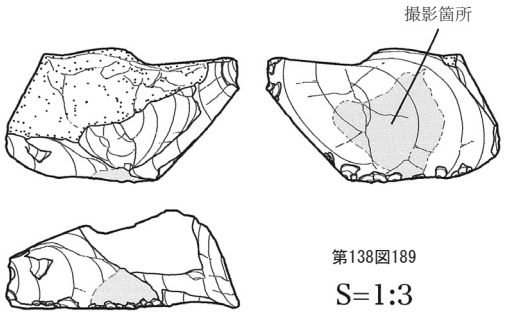


第94図72　磨面拡大



第157図347　剥離面の拡大





第138図189

S=1:3

第Ⅵ章　調査の成果と課題

第１節　遺構の変遷と問題点

１．地形の変遷

調査区は東西方向に細長い形状であり、戸沢川付近に位置する西側から山塊に向かう東側までを含んでいる。したがって、地形の変化が著しく、調査に着手する前の地表面において、西側に位置する１・２・７・８区が概ね平坦であるのに対し、東側に位置する３・５・６・９～12区は緩斜面を呈する。また、１・８区と２・４区、２・４区と３・12区、３区と６区の間には大きな比高差が存在した。このような地形的特徴の成立と、時代ごとの地形の変遷を検討したい。

まず、調査前の地形がどの段階で成立したのかということであるが、『玉川村絵図』など近世段階の資料によると、玉川金山遺跡周辺は水田などに用いられていたようであるが、調査前の状況と共通している。また、７区の水田床土を除去した際に寛永通寶が出土していることから、調査に着手する前の地表面は概ね近世段階に開発された可能性を有している。このため、調査区の西側に位置する１・２・７・８区は水田であったが、近世段階に平坦面を造成したと推定される。１・８区と２・４区の間の段差はおそらく斜面を切土した際に生じた排土を用いて、平坦面を形成するために盛ったものだと考えられる。これを証明するように第Ⅰ・Ⅱ面における遺構面の傾斜を検討すると、７区と１・８区、１・８区と２・４区の間に若干の段差がある以外は、４区から10区までは緩斜面が連続する（第Ⅰ・Ⅱ面の間にある土層は薄いため、ほとんど地形に変化はなかったと考えられる）。つまり、近世段階以前には、調査に着手する前の地表面に存在した段差はなかったものと考えられる。第Ⅲ面においては２・４区が平坦であり、３・12区から10区に至るまで緩斜面が連続する。４区西側の地山層の下には砂礫層が堆積しており、縄文時代早期においては戸沢川の流路が東側に及んでいたと考えられる。地表面から第Ⅰ・Ⅱ面、第Ⅰ・Ⅱ面から第Ⅲ面までに厚い土層が堆積している要因としては、前者は土地の開発に伴う地形の変更、後者は火山灰の堆積や土砂の崩落に起因していると推定される。

２．遺構の変遷

調査によって確認された玉川金山遺跡における遺構の初源は縄文時代早期に遡る。この後、弥生～近世までの遺物が時期的な断絶をはさみながらも出土しているため、様々な形で土地の利用がなされてきた。ただし、遺構を伴いながら、多くの遺物が出土した時代は、縄文時代早期・奈良時代・中世・近世であるため、主にこれらの時代における遺構の変遷を検討したい。なお、第Ⅲ面からは縄文時代早期以外の遺構は存在しないものの、第Ⅰ面には中世と近世、第Ⅱ面には奈良時代と中世の遺構が混在している。

縄文時代早期の遺構を総体として眺めると、N～Q－８・９～13・14グリッドに集中する傾向が認められる。遺構が集中する範囲は、３区東側から５区西側の間にあたる。４区と５区東側にも遺構は存在するものの散漫であり、分布状況が明確に異なる。縄文時代早期における遺構としては、第２期（子母口式併行期）と第４期（鵜ヶ島台式期）に分化される。この他の時期に構築された遺構も存在する可能性を有するが、遺物を共伴していないため、所属時期が不明である遺構の方が多い。ここでは、時期が明確に確定している遺構のみを対象として議論を進めたい。微視的に遺構の変遷を見ると、２期の遺構は４区～５区西側に広がり、N･O－８～14グリッドに集中する。第Ⅳ章に掲載した第２期と第４期の土器の分布も同様の傾向が窺える。すなわち、分布範囲が４区～５区西側である２期に対して、４期の資料は４区～５区東側に広がっており、重複している範囲を含むものの領域が明確に分化している。また、遺構の性格としては、炉穴が多く、複数の炉穴が複合した炉穴群が検出されている２期に対し、４期の遺構は３区～５区東側まで広がっており、明確な遺構の集中をもたない。４期における遺構の性格としても、炉穴と共に住居跡や石器製作跡など多様な機能が推定される遺構が確認されている。これらのことから、遺構の性格の差異性も第２期から第４期に移行した段階で、遺跡の機能が変容した、ないしは居住地点が変更されたことを示唆している。

奈良時代の遺構は、２～４・７区において確認されている。特に２～４区には住居跡、２・４区には掘立柱建物跡が確認されており、集落が展開していたと考えられる。７区においては河道に挟まれた微高地に溝状遺構が

検出されている。これらの溝状遺構は畑の畝の凹部に対応していると捉えられる。このことから、山と川に挟まれた緩斜面に集落を展開し、戸沢川の流路脇に畑を展開していたと考えられる。２～４区を中心に集落が広がっていたことから推定すると、１・８区、５～11区においても、奈良時代の遺構が展開していたと考えるのが妥当であろう。

中世の遺構は、１・２・７区において検出されている。その内容としては、１区第１号礫集中や２区第24号土坑など葬送に関わるものや７区第２～５号溝状遺構など地割に関係する遺構が確認されている。遺跡が所在する字名である「玉川」については、近世以降の文書に見られる地名であり、中世段階における遺称地は不明である。玉川の周辺における中世段階の遺称地としては法能があり、これは玉川の西側にある法能の集落を指すものと考えられる。地名から類推すると、中世においては玉川に集落は存在せず、法能の集落に居住した人々が集落の外縁部に位置する調査地点周辺を利用して集落とは異なる機能の遺構を構築したと考えられる。

近世の遺構は、１～７区において確認されている。遺構の性格としては、３区第15号土坑・７区第１号土坑が死んだ馬を埋めた遺構であり、６区第１号墓坑は土坑墓、５区１号石組と６区１号石組は土地区画を示す石垣の下部であると想定される。これらの遺構の他には、焼土集中が分布する。近世段階においては玉川集落が成立しており、水田や畑等として調査区周辺が用いられたと考えられる。

第２節　時代ごとの成果

１．縄文時代

（１）炉穴について

炉穴の定義と分類

縄文時代早期の遺構を調査する中で、遺構の底面に焼土が堆積しているものと、遺構の覆土内に焼土粒子を含むものが確認された。これらの遺構は焼土を含んでいることから、遺構が機能した際に、内部で燃焼させる行為を伴ったと考えられる。したがって、これらの遺構を一括して炉穴と捉えた。また、炉穴として認識した土坑以外に、確認面において焼土の広がりを伴うものを焼土集中として認定した。焼土集中の中には、焼土の下部に掘り方を伴うものと、ほぼ水平な面に焼土が形成されたものがある。ただし、遺構底面までが浅いものが多く、土坑との機能差が想定されるため、ここでは検討の対象としない。

炉穴の平面・断面形態としては、２つの種類が確認された。分類の内容と該当する遺構については下記の通りである。

第１類　平面形状が不整円形・断面形状が丸形～浅丸形を呈しており、遺構の底面ないしは覆土中に焼土を伴うもの

該当する遺構）

３区第34号土坑、３区第35号土坑、３区第41・42号土坑、３区第68号土坑、３区第86号土坑、３区第93号土坑、３区第94号土坑、３区第95号土坑、３区第96号土坑、５区第59・60号土坑、５区第78号土坑、５区第81号土坑、６区第43号土坑、６区第44号土坑、11区第16号土坑、12区第２号土坑、12区第３号土坑

第２類　平面形状が長楕円形、断面形状の長軸が丸形・短軸が円筒形を呈しており、遺構底面の一端に焼土を伴うもの

該当する遺構）

３区第38・49・83号土坑、３区第39号土坑、３区第44～46・55・85号・６区第57号土坑、３区第48号土坑、３区第54・89～91号・６区第39～42号土坑、３区第62号土坑、３区第63・87号土坑、３区第73・105～107号土坑、３区第92・100・101号土坑、３区第97～99・102～104号土坑、５区第58号土坑、５区第79・80号土坑、５区第82～86号土坑・６区第33号土坑・11区第87・88号土坑、６区第13号土坑、６区第23号土坑、６区第31号土坑、11区第４～６号土坑、11区第７～11号土坑、11区第12～15号土坑

第１類の形態は掘り方の内部がほぼ全て燃焼部であり、遺構内における機能の分化は認められない。これに対して、第２類の形態は足場と炉部を有するもので、遺構の内部に機能差を有している。２類の多くは炉部を山側、

足場を川側に設けており、地形を利用して炉穴を構築したと考えられる。分布の状況としてはさほど差異はなく、N～Q－８～14グリッドを中心に、４区から５区まで分布している。

炉穴の機能について

炉穴の機能については、第２類のように遺構内で機能分化が窺えるものを対象として、主に土器を煮沸するための遺構であるとする説と燻製を行う施設であるとする説がある。玉川金山遺跡から検出された炉穴の多くは遺構の機能時にその機能が失われたらしく、使用時の形状が残存していない。ただし、６区第23号土坑は天井部が残存しており、足場と炉部の位置についても、推定可能である。そこで、６区第23号土坑を中心に炉穴第２類の機能について考察したい。

既に第Ⅳ章において述べたように、６区第23号土坑は２つの土坑が連なる形で構築されており、その間には天井部が残存している。西側よりも東側の方がやや小さいものの、極端に平面形状が異なるということはなく、東西をつなぐ穴も、東西の土坑の幅と比してやや狭くなる程度である。したがって、横位に穿たれた穴は、煙のみを送るという性格のものではない。また、土坑の底面において確認された焼土についても、東側の竪坑の直下に形成され、地山の土壌が変化しており、燃焼が激しかったことが予想される。仮に竪坑の上部に燻製にする食材を吊るした場合、燃焼部が近いため、目的を達するのはほぼ不可能ではないかと考えられる。このため、６区第23号土坑の機能は土器を煮沸するための遺構だったと考えられる。多くの遺構は天井部が崩落しているため、機能の推定は困難であるが、土坑短軸の断面形状が円筒形を呈している点は６区第23号土坑と同一であり、土坑底面における焼土の形成も遺構の端部に位置しているものが多い。ただし、11区第７号土坑からは焼土層を挟んだ足場と対向する炉部のさらに北東側に、細長い掘り方が確認された。これは煙道とも考えられ、この遺構の機能が燻製を行う施設であった可能性が指摘される。しかし、このような掘り方を持つ遺構は11区第７号土坑のみであった。玉川金山遺跡において検出された炉穴第２類は燻製を行う施設であることを示唆するものが１事例のみ把握されるものの、多くは土器を煮沸するための遺構であると推定される。

炉穴群の構築順序について

玉川金山遺跡からは、複雑に切りあった炉穴群が８単位検出された。調査の過程において、炉穴群は検出段階において複雑な形状を呈しているものの、一定の構築順序にしたがっていることが把握された。ここでは確認された８単位の炉穴群を対象として、その構築順序について検討したい。構築順序を推定する方法としては、土層断面観察の結果と遺構底面の形状がある。前者に対して、後者による推定は確度が落ちる。したがって、第208・209図中の表記について土層断面観察による切り合い順序を単線の矢印・遺構底面の形状による切り合い順序を二重線矢印で表現した。

３区第44～46・55・85号・６区第57号土坑

炉穴として機能したのは３区第44号土坑・第46号土坑・第55号土坑・６区第57号土坑の４基であり、３区第44号土坑・第85号土坑が足場だったと考えられる。炉穴群の東西土層断面によって、３区第44・85号土坑より３区第46号土坑、南北土層断面により３区第85号土坑より３区第45号土坑の方が新しいことが把握されている。さらに遺構底面の形状から、３区第55号土坑より３区第45号土坑・第46号土坑、６区第57号土坑より３区第46号土坑の方が新しいと推定される。炉穴群は西側に位置を移した後に、小刻みに炉穴の主軸を変えて、３区第45号土坑・第46号土坑の使用を最後に廃絶したと考えられる。

３区第54・89～91号・６区第39～42号土坑

３区第54・89・91号土坑について遺構認定は３単位に分けて扱ったが、遺構が機能した段階には一つの炉穴として用いたと考えられる。また、第Ⅳ章で述べたように、６区第39号土坑と６区第41号土坑・６区第40号土坑と６区第42号土坑は平面形状・位置関係ともに共通しており、６区第39号土坑・第42号土坑は６区第40号土坑・第41号土坑を炉穴として用いた際に同時に構築された可能性を有している。したがって、炉穴の単位としては、３区第54・89・91号土坑、３区第90号土坑、６区第40号土坑、６区第41号土坑の４基の炉穴が想定される。炉穴群の東西土層断面によって、６区第41号土坑より３区第54・89・91号土坑、南北土層断面により６区第40号土坑より６区第41号土坑の方が新しいと考えられる。また、遺構底面の形状から、３区第90号土坑より３区第54・89・91号土坑の方が新しいと推定される。炉穴群は遺構の主軸を北東側に向けた後に、西側に変遷し、３区第54・89

・91号土坑の使用を最後に廃絶したと考えられる。

３区第73・105～107号土坑

炉穴として機能したのは３区第105～107号土坑の３基であり、３区第73号土坑は足場であると考えられる。遺構の構築順序を推定する手がかりは遺構底面の形状しかないが、底面形状から３区第106号土坑→３区第107号土坑→３区第105号土坑の順に西側に変遷したと考えられる。

３区第97～99・102～104号土坑

全ての土坑中から焼土が確認されており、３区第98号土坑内に２単位の焼土を含んでいることから、炉穴としては７基存在したと考えられる。炉穴群の南北土層断面により３区第104号土坑より３区第103号土坑の方が新しいと考えられる。また、遺構底面の形状から、３区第97号土坑・３区第99号土坑→３区第102号土坑→３区第103号土坑・３区第104号土坑→３区第98号土坑の順に構築されたと推察される。炉穴群は３区第102号土坑北西側付近を足場に、当初北東側を主軸に炉部を設定し、軸を東南側に移して３区第102号土坑を使用した後に北西側に変遷した。そして、３区第98号土坑付近を足場に炉部を東南側に設けた後に、３区第98号土坑の使用を最後に炉穴群は廃絶したと考えられる。また、３区第103号土坑の北側には３区１号配石が構築されており、３区第98号土坑を使用したのと同時か、もしくは炉穴群が廃絶した後に異なる機能を持つ遺構を構築したと考えられる。

５区第82～86号土坑・６区第33号土坑・11区第87・88号土坑

全ての土坑から焼土が検出されており､炉穴としては８基存在したと考えられる｡炉穴群の東西土層断面によって、５区第85号土坑が５区第83号土坑・５区第84号土坑・11区第87号土坑・11区第88号土坑、南北土層断面により５区第85号土坑が５区第84号土坑を切っていることが確認された。また、遺構底面の観察から６区第33号土坑より５区第82号土坑、11区第87号土坑より11区第88号土坑の方が新しく、５区第83号土坑→５区第84号土坑→５区第86号土坑の順に構築されたと考えられる。炉穴群は５区第84号土坑の西側付近に足場を持ち、南北と東側に炉部を設けたもの（５区第82・84・86号土坑・６区第33号土坑）と、５区第85号土坑の西側付近に足場を持ち、北東から南東方向にかけて主軸をずらしながら構築したもの（５区第83・85土坑・11区第87・88号土坑）という、２つの炉穴群が複合したものと考えられる。また、５区第85号土坑の西側は不整円形・東側は長楕円形を呈し、中央がテラス状になっているのに対し、東西それぞれが凹んでいる。土坑東側の底面に焼土が形成している点も、６区第23号土坑と類似しており、同じ機能が想定される。

11区第４～６号土坑

全ての土坑から焼土が検出されており､炉穴としては３基存在したと考えられる｡炉穴群の東西土層断面によって、11区第５号土坑が11区第６号土坑を切っていることが確認された。また、遺構底面の観察から11区第４号土坑より11区第５号土坑の方が新しいと推定される。炉穴群は11区第６号土坑が廃絶した後、東側に移り11区第４号土坑を設け、さらに東南側に11区第５号土坑を構築したと考えられる。

11区第７～11号土坑

11区第７号土坑と11区第９号土坑から焼土が検出されており、炉穴として２基存在し、11区第８号土坑は11区第７号土坑、11区第11号土坑は11区第９号土坑の足場に対応すると考えられる。11区第７号土坑は11区第６号土坑と切りあっているが、遺構の形状を見る限り、11区第７号土坑は11区第６号土坑より新しい。調査区際に位置しているため、11区第８号土坑と11区第９号土坑の切り合いは不明である。11区第７号土坑の焼土層よりさらに北東側に長楕円形の浅い掘り込みが確認されたが、これは煙道である可能性を有している。また、11区第８号土坑の南側には11区１号配石が検出されており、11区第７号土坑の東南側壁に不連続ながらも礫が直線的に並べられている。これらの礫は11区第７号土坑の機能時に伴うものであるのかもしれない。

11区第12～15号土坑

炉穴として機能したのは11区第12～14号土坑の３基であり、11区第13号土坑と11区第14号土坑の西側は足場であると考えられる。11区第13号土坑は11区第11号土坑と切りあっているが、遺構の形状を見る限り、11区第13号土坑は11区第11号土坑より新しい。炉穴群の東西土層断面によって、11区第14号土坑が11区第13号土坑を切っていることが確認された。また、遺構底面の観察から11区第12号土坑より11区第13号土坑、11区第15号土坑より11区第14号土坑の方が新しいと推定される。炉穴群は11区第13号土坑西側を足場に、北東側から東側に主軸を変更

した後、西側に移り11区第14号土坑を構築したと考えられる。

炉穴群の事例ごとに構築順序を検討した。炉穴の変遷としては、炉穴群も足場を固定させ、使用した炉部が廃絶したら異なる方向に炉部を構築するものと、炉部・足場ともに移動するパターンに分けられる。また、炉部・足場を移す際に西側（川側）へ動かすものがほとんどであり、東側（山側）に変遷するのは11区第４～６号土坑のみである。いずれにせよ、一つの炉穴群が形成されて廃絶するまでの炉穴の動きは連続的であり、極めて限定的な時間幅の中で構築されたものだと考えることができる。

（２）縄文時代早期後半の土器とその位置づけ

縄文時代早期に位置づけられる土器は第１期から第５期であり、遺構が確認される最下面である明茶褐色土層から暗褐色土層の間に遺物は包含される。ただし、第１期から第５期までの遺物出土量は一定でなく、２期と４期が卓越し、その他の時期は少量である。このような出土傾向と土層は概ね対応しており、暗褐色土層の上面からは４期の土器、明茶褐色土層の上面からは２期の遺物が多く出土する傾向にある。ただし、明茶褐色土層上面から暗褐色土層上面の間より検出される土器は２期と４期が混在する傾向にある。このような現象が生じた背景としては２つの事項が考えられる。第１には２期から４期に移行する時期には土層の堆積が希薄であったため、さほど比高差のない位置から時期の異なる土器が出土するということ、第２には第４期の遺構面における地山層が暗褐色土層であるのに対し、覆土も同質の土層であるため、第４期における遺構の覆土中に存在した遺物と第２期の遺構外資料を弁別することが不可能であったことが挙げられる。「層位は型式に優先する」のが原則ではあるが、上記の条件により、出土土層により土器を細分しても土器を把握できない危険性を有している。このため、出土土器の型式学的な検討が要される。その方法としては、遺構内一括資料を軸に同時期の土器を把握し、そこで得られた型式学的特徴から遺構外出土資料を分類したい。

このような方法が要される理由としては、２期（子母口式併行期）に比定される土器の特殊性にある。２期の資料について、第Ⅳ章で「繊維と砂粒を胎土に含み、絡条体圧痕文・微隆起線文・沈線文が施され、子母口式併行期（清水柳Ｅ式・ミヲ坂式）に比定される土器が該当する」と定義した。つまり、２期の資料は東海地域を中心に分布する絡条体圧痕文を主な施文原理とする土器に該当する。静岡県においては清水柳Ｅ式として、清水柳遺跡から出土した土器を標式資料として認識されている。しかし、多くの遺跡では他型式の資料が混在しており、「清水柳Ｅ式」について一型式として把握が困難な状況である。玉川金山遺跡においては野島式など２期・４期以外の出土量が少ないため、鵜ヶ島台式期との型式的差異性を認識できれば、２期について定義可能となる。このため、子母口式併行期と鵜ヶ島台式期の型式的差異性を抽出することを通じて、子母口式併行期（清水柳Ｅ式・ミヲ坂式）に比定される土器を検討したい。なお、ここで取り上げるのは、施文を有する土器であるが、条痕文が施された土器は185点、無文の土器は647点出土している。土器の胎土特徴（金色雲母が含まれるか、否か）などから、大まかな時期区分はできるが、時期細分は困難であるため、これらの遺物については、検討の対象とはしない。

２期の土器を伴出している遺構は、３区第12号土坑、３区第36号土坑、３区第37号土坑、３区第44～46・55号土坑、３区第48号土坑、３区第63号土坑、３区第83号土坑、３区第87号土坑、３区第100号土坑、３区第98・102～104号土坑、５区第83・85・86号土坑、11区第12・13号土坑、11区第１号集石、３区第29号焼土集中である。ただし、一つの遺構における出土資料は少ないため、型式的に比較検討するのは困難である。しかし、前項で述べたように、炉穴群は連続的に構築されており時期的な幅は少ないと考えられる。このため、炉穴群出土資料を一括して同時期資料として認識したい。以下に炉穴群単位に出土した資料を検討する。また、暗褐色土層上位から検出され、鵜ヶ島台式期の土器を伴出している遺構は、３区第５号住居跡、３区第75号土坑、３区第93号土坑、５区第63号土坑、６区第15号土坑、11区第１号集石、５区石器集中地点、５区土器集中地点１、５区土器集中地点２、11区土器集中地点である。これらの遺構の内、個体資料として出土したもの（５区土器集中地点１、５区土器集中地点２、11区土器集中地点、11区第１号集石）を対象として取り上げ、２期の施文等の特徴と比較検討したい。

３区第44～46・55・85号・６区第57号土坑

３区第44号土坑からは絡条体圧痕文（第76図７～９）、３区第45号土坑からは沈線文（第77図13）、３区第46号

土坑からは微隆起線文と沈線文（第77図27）、３区第55号土坑からは刺突文が施文された土器（第78図48）が出土している。第77図13は横位の沈線文が施され、口縁部から横位の沈線文の間を斜格子の沈線文が充填される。口唇部には斜格子の沈線文と対応するように斜位の刻みが施される。第77図27の波状口縁の頂部からは３単位の微隆起線文が垂下する。横位の微隆起線文の下には斜位の沈線文が施されているが、第77図13とは異なり、充填的に施されているのではない。口唇部には横位の刻みが施される。第78図48は絡条体圧痕文を模倣して、刺突文が施されている。また、第44～46号土坑の一括資料として、横位の微隆起線文と斜位の沈線文が施された土器（第78図42）が出土している。

３区第54・89～91号・６区第39～42号土坑

出土資料がすべて無文である。胎土には砂粒・繊維が含まれる。

３区第73・105～107号土坑

出土資料がすべて無文である。胎土には砂粒・繊維と共に金色雲母が含まれる。

３区第97～99・102～104号土坑

３区第98号土坑からは絡条体圧痕文・微隆起線文・沈線文（第80図73）、３区第102号土坑からは絡条体圧痕文（第80図77）、３区第103号土坑からは沈線文（第81図84）、３区第104号土坑からは絡条体圧痕文（第81図85）が出土している。第80図73は横位の微隆起線文を配し、その上に絡条体圧痕文を施している。口縁部から横位の微隆起線文の間は斜位の沈線文を有する。口唇部には斜位の刻みが確認されるが、斜位の沈線文とは対応していない。また、横位の微隆起線文の下には絡条体圧痕文を施文している。第80図77には斜位の絡条体圧痕文が施され、補修孔を有している。第81図84は横位の沈線文を有し、その上下に斜位の沈線文がある。これは矢羽状を呈する沈線文である可能性が考えられる。第81図85には斜位の絡条体圧痕文が施される。

５区第82～86号土坑・６区第33号土坑・11区第87・88号土坑

５区第83号土坑からは絡条体圧痕文・微隆起線文・沈線文（第82図110）、沈線文（第82図111）、絡条体圧痕文（第82図112）、５区第85号土坑からは絡条体圧痕文・沈線文（第82図113）が出土している。第82図110は横位の微隆起線文を配し、その上に絡条体圧痕文を施している。口縁部から横位の微隆起線文の間は斜位の沈線文を有する。口唇部には斜位の刻みが確認されるが、斜位の沈線文とは対応していない。また、横位の微隆起線文の下には絡条体圧痕文を施文している。第82図111は横位と縦位の沈線文を施している。口唇部には斜位の刻みが確認されるが、斜位の沈線文とは対応していない。第82図112には横位と斜位の絡条体圧痕文を有している。第82図113は横位と縦位の沈線文を施し、区画された上位に斜位の沈線文、下位に絡条体圧痕文がある。

11区第４～６号土坑

出土資料は無文である。胎土には砂粒・繊維が含まれる。

11区第７～11号土坑

出土資料は無文である。胎土には砂粒・繊維が含まれる。

11区第12～15号土坑

11区第12号土坑からは沈線文（第83図125）、11区第13号土坑からは絡条体圧痕文・微隆起線文（第83図127）、沈線文（第83図129・130）が出土している。第83図125は横位の沈線文を施し、その上位に斜位の沈線文を有している。第83図127は縦位に３単位、横位に２単位の微隆起線文を施文している。微隆起線文の下位に絡条体圧痕文を施しているが、上下の微隆起線文上にも絡条体圧痕文が確認される。第83図129は横位に沈線文を施し、その上位に斜位の沈線文を有す。また、第83図130は斜位の沈線文を有している。

５区土器集中地点１（第95図１）

体部上半を施文範囲に設定し、下半には条痕文を施す。施文法としては沈線文を用いている。文様帯の構成としては、体部上半に横位の沈線文を施文し、上下に異なる文様帯を設けている。上位の文様帯においては、縦位に２単位の沈線文を施した後に、沈線に区画された内部に斜位の沈線文を２単位施し、この施文によって生じた上下左右の区画帯に縦位・斜位の沈線文を充填している。また、下位の文様帯には斜格子の沈線文を設けている。口唇部には刻みを有し、底部は平底であるが、かなり幅狭である。胎土には金色雲母・砂粒・繊維が含まれる。

５区土器集中地点２（第95図２）

体部上半を施文範囲に設定し、下半には条痕文を施す。施文法としては沈線文・押引文を用いている。また、内面にも条痕文が認められる。口縁部直下において、横位に幅広の沈線文、その下に６条の幅広沈線文を山形に配し、これによって生じた山形の区画に縦位・斜位の沈線文を加えている。口唇部には刻みを有し、胎土には金色雲母・砂粒・繊維が含まれる。

11区土器集中地点　（第95図３・４）

無文であるが、条痕文をナデ消した痕跡が認められる。胎土には金色雲母・砂粒・繊維が含まれる。

11区１号集石（第86図12）

２段に屈曲した器体を呈し、その上半に上下に分かれた文様帯を有している。２段に屈曲した段の下には条痕文を施している。口縁は波状を呈している。施文法としては微隆起線文・押引文・刺突文を用いている。文様帯の構成としては上下共通しており、斜位に基軸となる２単位の微隆起線文を施し、その間に平行ないしは直交する微隆起線文を施文して、微隆起線文を施したことによって生じた区画に押引文を充填している。一部、微隆起線文が縦位になる箇所を有するが、ここが波状口縁の頂部だと考えられる。また、微隆起線文が交差する場所に刺突文を有し、口唇部上にも押引文を施している。

以上、炉穴群及び暗褐色土層上位から出土した資料から検討を進めてきたが、施文法として２期では絡条体圧痕文・微隆起線文・沈線文、４期では微隆起線文・押引文・沈線文・刺突文を用いている。胎土として、砂粒・繊維を主に含む点は共通しているが、２期には金色雲母を包含しないが、４期は含んでいる土器が一般的であるという点に特徴がある。この様な文様等の差異性から、土器は時期ごとに分類されうるが、どちらの時期でも沈線文を用いているという共通点も認められる。しかし、２期の沈線文は幅狭で、断面三角形であり、４期の沈線文は幅広で、半円形・断面四角形を呈している。これは、前者が先の尖ったヘラ状の施文具、後者が半截竹管等の施文具を使用していると推定され、施文具の差異性が時期差を示していると考えられる。つまり、沈線文の形状から時期区分は可能である。

これらの分類属性をもとに、縄文時代早期の土器を時期別に分類したのが、第96～121図である。第96図８～第99図109は絡条体圧痕文が施文されている。絡条体圧痕文の長さと幅については、第11表に記載した。第96図８・９は施文範囲の下位を横位の絡条体圧痕文、その上に斜位の絡条体圧痕文、第96図11は上下に横位の絡条体圧痕文、その間に矢羽状に絡条体圧痕文を施している。口唇部には刻みを施すもの（第96図11・19・23）と施さないもの（第96図８～10・12～18・20～22・24・25）の両方が確認される。絡条体圧痕文には、縄を巻きつけた軸の形状が把握されるものがある。第96図13・15は半円形の凹みが器面に認められるため円形、第96図９・17は線状の痕跡が認められるため、三角形ないしは四角形の軸が想定される。第99図110～113は絡条体圧痕文を模倣して刻みを器面に施したと考えられる文様である。第99図114も絡条体圧痕文を模倣した刺突文が施される。第99図115～第100図138は絡条体圧痕文と微隆起線文が施された土器である。この属性に分類された土器の全てに横位の微隆起線文を有するが、縦位の微隆起線文が認められるものもある（第99図120・125・129）。横位の微隆起線文は２単位施文されることもある（第99図118・126）。口唇部には刻みを施すもの（第99図116～118・122・123）、絡条体圧痕文を施すもの（第99図117・121）、施文されないもの（第99図115・119・120・124）が確認される。また、横位の微隆起線文上に絡条体圧痕文が施されるものもある（第99図116・118・120・123・124、第100図125・127・129～131・134）。第100図139～145は沈線文と絡条体圧痕文が施された土器である。上位に沈線文・下位に絡条体圧痕文が施されるもの（第100図139～143・145）と絡条体圧痕文と沈線文の施文範囲が重複するもの（第100図144）に分けられる。沈線文は斜位に施されるものが多い。口唇部には刻みを施すもの（第100図140）と施さないもの（第100図139）の両方が確認される。第101図146～152は絡条体圧痕文・微隆起線文・沈線文が施文されている。絡条体圧痕文は横位の微隆起線文の下位に施されるものが多い。微隆起線文は横位のものが多く認められるが、縦位に２～３単位の微隆起線文を有するものもある。沈線文は微隆起線文の上位に存在するものが主体を占める。口唇部には刻みを施すもの（第101図147～150）、絡条体圧痕文を施すもの（第101図146）が確認される。第101図153～156は微隆起線文・沈線文が施文されている。この内、第101図153・154には口唇部に刻みが施される。第101図157～163は微隆起線文が施文されている。縦位に１～３単位の微隆起線文を有するもの（第101図157・158・163）があり、口唇部には刻みを施すもの（第101図158～160）と施さないもの

（第101図157）の両方が確認される。第101図164～第102図197は沈線文が施文されている。沈線文としては、文様帯を区画する横位の沈線文と文様帯内に充填される、斜位・格子状の沈線文に区分される。また、口唇部には刻みを施すもの（第101図164・167・175・176・178～180）と施さないもの（第101図165・166・168・177・181）の両方が確認される。第102図198～204は波状の沈線文が施文されている。これらの土器の文様属性は遺構単位に検討した土器群には含まれないが、胎土の特徴から２期に分類した。波状文の中には、２単位の沈線文を併行して施すもの（第102図198～200）と５単位以上の沈線文を併行して施すもの（第102図202～204）がある。第102図205は横位の押引文、第102図206～208は縦位・斜位の沈線文を有する土器である。これらの土器は２期の中でも新しい要素を持つものと考えられる。

２期に分類した土器の内、遺構出土土器及び遺構外出土土器（第96図８～第102図204）の特徴については、以下の通りに要約される。１）口縁の形状は平縁が主体であるが波状口縁も含む。２）文様帯が多段化するものが認められる。文様帯の単位としては３つに分化され、それぞれ微隆起線文・沈線文・絡条体圧痕文が施文される。ただし、第２文様帯は第１文様帯と第３文様帯を横位に分割するように、微隆起線文・沈線文が施されるが、しばしば省略もされる。第101図146のように第２文様帯に入組状の沈線文を有すものは主体ではない。第１文様帯に縦位に３単位の微隆起線文を施すのが、この土器型式の特徴である。また、沈線文の多くは充填的に施されるものが多いが、第77図27のようにそのような性格を持たない沈線文も確認される。３）口唇部形状としては、刻みを有すもの・絡条体圧痕文を有すもの・施文されないものの３種類が存在する。口唇部上と第１文様帯に施された沈線文について、連続的に施されるものとそうではないものが認められるが、これは時期差を示しているのかもしれない。４）施文としては絡条体圧痕文が組成の主体を占めるが、絡条体圧痕文の施文範囲が広いことと、破片資料が多いためであると考えられる。

２期を特徴付けている要素は、多段化した文様帯と文様属性の互換性である。つまり、２期の土器は口縁部下位に２～３段の文様帯を設け、その中で絡条体圧痕文・微隆起線文・沈線文を使い分けながら施文している点に特徴がある。この点は、清水柳遺跡と概ね共通する要素であり、特に第１文様帯において縦位に３単位、横位に２単位の微隆起線文を施した後、横位の微隆起線文の上に斜位の沈線文を充填し、第３文様帯に絡条体圧痕文を有す、施文特徴は全く同一であると言って良い。しかし、同じ特性を持つ土器の中に、異なる点も同時に存在する。３区第46号土坑から出土した微隆起線文と沈線文が施文された土器（第77図27）であるが、これは清水柳遺跡を含む静岡県東部地域からは出土していないタイプの土器である。また、絡条体圧痕文・微隆起線文が施文された土器（第101図146）の文様構成は多摩ニュータウン No．192遺跡と全く同一である。土器型式としては東海地域から確認される清水柳Ｅ式と共通するが、その内部には異なる属性要素も含んでいることが、玉川金山遺跡出土土器の特異性と言える。

山梨県を含む中部地域においては、子母口式期に併行する土器は判ノ木山西式であり、清水柳Ｅ式に類似する資料は子母口式～野島古段階ないしは野島式に併行するとされてきた。その理由としては、分布域の中心である静岡県において、型式的な一括性を有する資料が乏しかったため、時期的な位置づけと型式内容を捉えることが困難であったことが挙げられる。しかし、玉川金山遺跡においては他型式と混在しない形で検出されたため、野島式に客体的に含まれる土器ではなく、独立型式であることが把握された。静岡県において野島式に含めて考えられる傾向があるが、堆積条件が良好でないために土器型式の混在を招いていると思われる。しかし、今回の調査によって、野島式の組成が微弱であり、清水柳Ｅ式の型式内容を把握可能な内容が出土したため、両者の時期的な断絶を想定するほうが妥当であると言える。清水柳Ｅ式の時期的な位置づけについては、文様帯の多段化が認められることから野島式に含める説もあるが、文様帯の多段化は口縁部～胴部上半のみに認められ、胴部中位～下半に及ぶ野島式とは質的に異なる。また、微隆起線文の採用を土器型式の画期として捉え、清水柳Ｅ式を野島式の古段階に含める考えもある。早期後半の条痕文系土器群と押型文・沈線文系土器群を断絶させて見る視点であり、清水柳Ｅ式を子母口式新段階併行とする考えと対立している。この点は土器型式の画期をどこに求め、短期的ないし長期的視点でみるかで、見解が異なることが予想されるが、清水柳Ｅ式は絡条体圧痕文が施文され、微隆起線文・沈線文などが複合した極めて独自性の高い土器型式である。器形・施文原理が異なる野島式とは異なる土器型式として認識した方が良いのではないだろうか。なにより地域的に土器型式が独自性を

持っていた縄文時代早期後半において、東海地方において子母口式併行期の土器として清水柳Ｅ式が存在したと考えるほうが適当であろう。なお、先行して２期を取り上げたが、以下に１・３～５期の土器についてもふれていきたい。

１期は繊維と微量の金色雲母を胎土に含み、押型文が施文された土器と定義され、第96図１～７が該当する。第96図１～６には楕円文が施されており、第96図７は縄文と押型文（楕円文）を有している。３期に該当する土器は第102図209～218である。この内、第96図209～214は野島式、第96図215～218は古屋敷式に分類される。４期に該当する土器は第103図219～第107図393である。この内、文様属性として微隆起線文・押引文・沈線文・刺突文・条痕文を有するものが第103図219～223、微隆起線文・押引文・沈線文・刺突文を有するものが第103図224、微隆起線文・沈線文・刺突文・条痕文を有するものが第103図225・226、微隆起線文・押引文・沈線文・条痕文を有するものが第103図227、押引文・沈線文・刺突文・条痕文を有するものが第103図228～233、微隆起線文・沈線文・刺突文を有するものが第103図234・235、微隆起線文・沈線文・条痕文を有するものが第103図236、微隆起線文・押引文・条痕文を有するものが第103図237、押引文・沈線文・刺突文を有するものが第103図238～第104図262、沈線文・刺突文・条痕文を有するものが第104図263～268、押引文・沈線文・条痕文を有するものが第104図269～273、沈線文・刺突文・縄文を有するものが第104図274、沈線文・刺突文を有するものが第104図275～279、押引文・沈線文を有するものが第104図280～第105図317、沈線文・条痕文を有するものが第105図318～326、沈線文を有するものが第106図335～356・358～377、刺突文を有するものが第107図378～380、押引文を有するものが第107図381～389、隆起線文・微隆起線文を有するものが第107図390～393である。４期の土器の内、全体の形状が把握可能なものが個体資料として出土している。この内、５区土器集中地点１出土土器（第95図１）と11区１号集石出土土器（第86図12）を比較すると、第86図12は微隆起線文によって区画された中に押引文が充填されるが、第95図１は沈線文が施される。また、第86図12と第95図１について、後者は前者に比べて、非常に施文が粗雑である。胎土も異なっており、第86図12は内部と外面の色調が異なっているのに対し、第95図１は色調が単一であり、金色雲母が含まれる。第103図219～第107図393の中では、第95図１に類似する胎土を持つ土器が主体的であり、第86図12に類する胎土を持つものは非常に少ない。第86図12と第95図１の差異性の要因としては、２つの可能性が考えられる。第１には時期差である。第95図１は第86図12よりも施文が退化していることから、第86図12→第95図１の順に変遷したという可能性が指摘される。第２には地域差である。第86図12が関東から搬入された土器で、第95図１が在地で製作されたと考えれば、文様と胎土の差異性は理解できる。ただし、山梨県においては鵜ヶ島台式の出土事例はさほど多くないため、出土事例の増加を待ちたい。５期の土器としては、刺突文を連続して施文するもの（第107図394～401）、３～５条の押引文を施文するもの（第107図402～405）、器壁が薄手のもの（第107図406～409）という３種類の土器が該当する。この時期は、茅山上層式に併行・後続する東海系の土器群に比定される。第107図402～405は微量の金色雲母を伴う点では１期と共通しているが、器壁が薄手の第107図407と施文原体が共通していることから、同じ分類として捉えたい。これらの土器は、大月市外ガイド遺跡から出土している土器に施文が類似している。

（３）縄文時代早期後半の石器とその位置づけ

玉川金山遺跡から出土した縄文時代早期後半に位置づけられる石器の総点数は442点であり、出土した石器の内訳は、石鏃39点（遺構外出土39点）、石鏃未成品19点（遺構出土２点・遺構外出土17点）、石錐10点（遺構出土１点・遺構外出土９点）、石匙３点（遺構外出土３点）、楔形石器21点（遺構出土２点・遺構外19点）、削器49点（遺構出土10点・遺構外39点）、掻器15点（遺構外15点）・礫器18点（遺構内３点・遺構外15点）、打製石斧２点（遺構内１点・遺構外１点）、微細剥離を有する剥片45点（遺構内４点・遺構外41点）、２次加工を有する剥片13点（遺構内１点・遺構外12点）、石核121点（遺構内35点・遺構外86点）、稜磨・磨石類63点（遺構内16点・遺構外47点）、台石22点（遺構内８点・遺構外14点）である。石器の石材組成と器種の技術形態的特性は下記の通りである。

石鏃・石鏃未成品　石鏃の石材組成は黒曜石35点（西霧ヶ峰系23点・恩馳島系３点・不明９点）・緑色凝灰岩２点・凝灰岩１点・安山岩１点であり、石鏃未成品の石材組成は黒曜石15点（西霧ヶ峰系13点・不明２点）・緑色凝灰岩４点である。形態的には全て凹基鏃である（第123図28は左右の脚部が欠損している）。長幅比1.5～1.7が

９点（第122図１～３・５・６・11・17・22・31）、長幅比0.7～0.9が６点（第123図４・27・33～35・39）であるが、長幅比1.0～1.4が24点で最も多く、主体的である。第122図１・３・７・９・14・16・18・19・22・23～25・27・28・31～38は器体の一部が欠損している。総点数39点の内、欠損している石鏃は22点であり、欠損率は56%である。この内、第122図７は先端が欠損しており、衝撃剥離の可能性が指摘される。第123図30・39は小形であるのに加えて、左右非対称であるため、リダクションを経た最終形態であるのかもしれない。石鏃未成品から窺える素材剥片の形状を見る限り、通常剥離によって得られた三角形・貝殻状剥片を素材としている。側縁に比して基部の形成が微弱であるもの（第123図44・46、第124図49・50・51）や調整段階の初期で製作を放棄したもの（第88図17・18、第124図53～56）なども確認されている。

石錐　石錐の石材組成は黒曜石９点（西霧ヶ峰系６点・恩馳島系１点・不明２点）・凝灰岩１点である。調整が表裏両面に及んでいるものは、第82図103と第124図57の２点のみであり、他は素材剥片の形状を残し、機能部のみに調整を加えている。第124図63と64は上端が欠損している。

石匙　石匙の石材組成は黒曜石３点（恩馳島系３点）である。形態的には横形（第125図66・67）・縦形（第125図68）に分けられる。第125図68の表裏面には素材面が残置しているものの、全て両面調整である。ただし、第125図67・68が押圧剥離によって成形されているのに対して、第125図66はつまみ部や器体の周縁に認められるのは押圧剥離であるが、中央に残されている剥離痕は通常剥離によるものと考えられる。石核を転用したのか、最初から石匙を製作するつもりで剥離が加えられたのかで解釈が分かれる。第125図66・67は下端部、第125図68は左側縁を刃部に設定したと考えられるが、機能刃に確認される剥離痕は階段状を呈さない。このことから、さほど使用されなかったことが想定され、全て恩馳島系であることを含め、位置づけについて検討を要する。

楔形石器　楔形石器の石材組成は黒曜石10点（西霧ヶ峰系９点・恩馳島系１点）・凝灰岩５点・緑色凝灰岩２点・水晶２点・安山岩１点・頁岩１点である。形態的には長幅比2.1～3.3の縦形が５点（第125図71・72、第126図38・74・76）の他は全て幅広形である。器体に残置している剥離痕形状から両極剥片を得るために使用された可能性も考えられる。ただし、素材剥片の獲得が期待できないほど縮小化したもの（第126図78～84）や石器にない石材も含んでいる（第126図76・79）ため、石核と楔という両方の機能を想定するのが妥当であろう。

削器　削器の石材組成は緑色凝灰岩14点・凝灰岩12点・黒曜石９点（西霧ヶ峰系６点・恩馳島系１点・不明２点）・頁岩８点・チャート２点・ホルンフェルス１点・鉄石英１点・結晶片岩１点・流紋岩１点である。形態的には長幅比2.0～2.8の縦長形が２点（第127図88・89）、長幅比0.4～0.5の横長形が９点（第88図20、第127図93～97・99、第130図119・120）の他は全て幅広形である。この中でも、第128図100～105の内、第128図100・102・103・105は素材の下端、第128図101・104は素材の側縁に加えられているが、調整の規模などが類似しており、削器の中でも規範性の高いものといえる。刃部は直線的に成形されるものが主であるが、鋸歯状を呈するものもある（第127図91、第128図106・108・109、第129図110・112・115～117）。また、刃部は素材縁部を用いているが、器体の一部に成形を目的とした剥離痕を有すもの（第129図111・114）も削器に分類した。

掻器　掻器の石材組成は凝灰岩６点・黒曜石３点（恩馳島系２点・西霧ヶ峰系１点）・緑色凝灰岩２点・砂岩２点・頁岩１点・安山岩１点である。小形（第131図127～131）と大形（第131図132～第132図141）に大別され、形態的には長幅比2.2～2.8の縦長形が４点（第131図128～第132図131）以外は全て長幅比0.6～1.9の幅広形である。この中でも、第131図134～第132図138は素材を分割・切断し、短辺に急斜度調整を加えている点で共通しており、掻器の中でも規範性の高いものといえる。刃部の形状としては、幅が厚い素材の端部に円形の刃部を作出する典型的な形態（第131図128・132、第132図139）や素材の側縁に刃部を形成する形態（第131図131・133）など多様である。なお、第131図127は素材剥片の打面に背面側から調整が加えられている。剥片剥離時の打面調整のように見えるが、細かな調整が縁部に集中しており、刃部作出のための調整だと判断される。

礫器　礫器の石材組成は凝灰岩８点・緑色凝灰岩４点・砂岩３点・花崗岩１点・斑糲岩１点・礫岩１点である。刃部の形状は平刃（第75図14、第84図３、第133図142～144、第134図147、第135図151・153～155）、凸刃（第134図146～150、第135図152）、凹刃（第75図13・第133図145）に分けられる。

打製石斧　打製石斧の石材組成はホルンフェルス１点・結晶片岩１点である。第75図16は刃部側が折損している。第135図157は片面のみに調整を施し、円形の刃部を作出している。右側縁は階段状剥離が発達する。

微細剥離を有する剥片（MF）　微細剥離を有する剥片の石材組成は黒曜石23点（西霧ヶ峰系16点・恩馳島系４点・和田峠系Ｉ１点・不明２点）・凝灰岩14点・緑色凝灰岩４点・頁岩３点・砂岩１点である。小形（第88図23・24、第136図158～第138図185）と大形（第138図186～第139図198）に大別され、長幅比2.0～4.4の縦長形が９点（第136図159・160・162・164・165、第137図169・170・172、第138図187）、長幅比0.4～0.5の横長形が３点（第137図177・179・180）の他は全て幅広形である。この中でも、第137図174・第138図191～第139図195は素材の短辺を刃部に設定していることや、刃部側の幅が最も大きく・基部側の幅が最も小さいなど共通する点が多く、微細剥離を有する剥片の中でも規範性の高いものといえる。第138図189の腹面側中央と背面側の一部に磨面が確認され、研磨具として用いられたと考えられる。

２次加工を有する剥片（RF）　２次加工を有する剥片の石材組成は黒曜石８点（西霧ヶ峰系６点・不明２点）・緑色凝灰岩３点・水晶１点・砂岩１点である。小形（第139図199～207）と大形（第140図208～210）に大別される。その機能としては、加えられた調整部位を刃部に設定するものと、石器を製作する過程で放棄したものの両方が想定される。

石核　石核の石材組成は黒曜石82点（西霧ヶ峰系71点・恩馳島系３点・不明８点）・凝灰岩19点・緑色凝灰岩10点・頁岩10点である。小形（第88図26、第140図211～第142図236、第144図245～第146図266、第148図274～286）、大形（第142図237～第144図244、第146図267～第147図273、第149図287～第151図296）に大別される。石核を分類するにあたっては、１）打面と作業面の関係（打面と作業面を固定するか、転移するか）、２）作業面の数量、３）打面の数量を基準に分類を行った。項目についてはＡ類（打面と作業面を固定するもの）、Ｂ類（打面と作業面を転移するもの）、Ｃ類（数回の剥片剥離を行った後に、石核を放棄しているもの）に分け、作業面の数と打面の数を付した。分類の結果、小形石核においては、Ａ－１－１類（打面と作業面を固定し、作業面・打面の数がそれぞれ１であるもの）が14点・Ａ－１－２類が８点・Ａ－１－４類が１点・Ａ－２－２類が11点・Ａ－２－３類が６点・Ａ－２－４類が３点・Ａ－２－５類が１点・Ａ－３－３類が２点・Ａ－３－５類が１点・Ｂ－２－２類が12点・Ｂ－２－３類が４点・Ｂ－２－４類が１点・Ｂ－２－５類が２点・Ｂ－２－６類が１点・Ｂ－３－３類が２点・Ｂ－３－４類が１点・Ｂ－３－５類が１点・Ｂ－４－４類が３点・Ｃ－１－１類が14点、Ｃ－１－２類が２点、Ｃ－２－２類が２点、大形石核においては、Ａ－１－１類が１点・Ａ－１－２類が３点・Ａ－２－２類が３点・Ａ－２－３類が１点・Ａ－２－４類が１点・Ａ－３－３類が１点・Ｂ－２－２類が３点・Ｂ－３－３類が１点・Ｂ－４－４類が２点・Ｂ－４－６類が１点・Ｃ－１－１類が８点、Ｃ－１－２類が２点、Ｃ－２－２類が２点である。小形の石核については、Ａ類が47点（51％）・Ｂ類が27点（29％）・Ｃ類が18点（20％）であるが、素材の形状が板状を呈しているものが目立つという点で共通する。作業面の数と打面の数もそれぞれ１～２をピークとして減じており、打面転移を繰り返しながら石核を極限まで消費しようとする指向性とはやや異なる。むしろ、作業面や打面をある程度保持しながら、剥片剥離を進めようとする傾向が窺える。この点からＡ類からＢ類に連続的に移行した可能性が指摘される。また、さほど素材を消費せずに作業を終えたＣ類も一定量存在することから、石核素材が一定量保持されていたと想定される。これは、大形の原石（第159図367～369）を含め、49点の原石が出土していることからも首肯されよう。大形の石核については、Ａ類10点（34％）・Ｂ類７点（24％）・Ｃ類12点（41％）であり、Ａ～Ｃ類を通して石核消費の限界を迎えたのではないにも関らず、石核を放棄しているものが確認される。Ｃ類が最も多量であることからも、石核は素材の使用が「浪費的」である傾向が窺えると言えよう。

稜磨・磨石類　器種の細分は稜磨石16点、稜磨・敲石11点、稜磨・凹石４点、稜磨・磨石１点、稜磨・磨・敲石１点、稜磨・磨・凹石１点、稜磨・凹・敲石２点、磨石17点、磨・凹石４点、磨・敲石１点、凹石２点、凹・敲石２点、敲石１点であり、石材組成は花崗岩26点・凝灰岩19点・閃緑岩７点・安山岩６点・砂岩５点である。稜磨石は機能面に細かな凹凸が観察され、磨石は平滑な機能部を有する石器である。名称の通りに稜磨石は礫の稜部に機能部が形成されるが、平坦面に機能部を持つものもある（第153図313、第94図72）。稜磨面や磨面以外にも凹石・敲石が確認されたが、これらの４つの機能が複合している石器も一定量組成される。機能が複合するという現象は、機能的な互換性を有していたと考えられる。稜磨・磨・凹・敲という４つの属性の中で稜磨・磨が多いが、稜磨と磨という属性で対比させてみると稜磨の機能を持つものが42点、磨の機能を持つものが27点、２

つの機能を持つものが４点であり、稜磨石が最も多く用いられた器種であることが分かる。

台石　台石の石材組成は凝灰岩13点・閃緑岩５点・安山岩２点・緑色凝灰岩２点である。ほぼ完形であるもの（第83図122、第158図353・355、第159図360・364）、側縁に剥離面を有するもの（第80図75・82、第95図76、第158図354・357）、分割されているもの（第78図49・51、第80図83、第158図356・358・359・361～363・365・366）に分けられる。機能部の形状としては、平坦（第78図49・51、第80図75・76・82・83、第158図356・358、第159図361・363～365）、凸形（第158図353・354・357・359）、凹形（第158図355、第159図360・362・366）に分けられる。ただし、第159図366は石皿の形態に類似しているため、縄文時代早期以降に所属する遺物である可能性を有する。

該期における石器製作技術の構造は、第211図の通りである。すなわち、小形石器製作システムと大形石器製作システムに分けられ、重複する器種を含んでいる。小形石器製作システム・大形石器製作システムのどちらにおいても、素材の獲得に際して剥片剥離を行っている訳ではないが、「石核」の項目で指摘したように剥片剥離技術において作業面や打面などに対する意識は明確に認められる。また、石器形態のサイズや使用石材が異なるため、大形と小形に分けたが、技術的には共通している点が多い。例えば微細剥離を有する剥片において、第137図174と第138図191～第139図195はサイズが異なるものの、素材剥片の使用法などの点では共通しており、サイズに関係なく同一の方法で石器を使用する指向性が指摘される。また、第137図174と第138図191～第139図195は素材剥片の短辺に刃部を設けているが、このような形状は削器の第129図110～117にも共通している。これらの石器は刃部形状と調整の有無という点で異なるものの、縄文時代早期においては同一の器種として捉えられていた可能性を有する。いずれにせよ、素材の縁部を組み込んだ石器製作技術であり、目的剥片を獲得する際に製作する石器を念頭において、剥片剥離を行った可能性が強い。また、掻器（第131図134・135、第132図136・137）や石核（第143図242・第149図288・第151図296）の中には、調整・剥片剥離段階の前に分割作業を行い、器体の両端を大きな剥離によって補正した後に、刃部作出・剥片剥離を行ったものもあり、通常の剥片剥離と共に、分割・折り取りを石器製作技術に組み込んでいる状況が看取される。

（４）遺構の形成とその特徴について

縄文時代早期後半に形成された遺構の位置づけについて、検討したい。山梨県における子母口式併行期～鵜ヶ島台式期の遺跡としては、北杜市大日川原遺跡、北杜市屋敷平遺跡、甲州市奥豊原遺跡、笛吹市西原遺跡・堂所遺跡、上野原町談合坂遺跡・穴沢遺跡・仲大地遺跡、忍野村笹見原遺跡、富士吉田市古屋敷遺跡、北杜市丘の公園第５遺跡、市川三郷町一条氏館跡などが知られている。この内、北杜市大日川原遺跡、北杜市屋敷平遺跡、甲州市奥豊原遺跡、笛吹市西原遺跡、上野原町談合坂遺跡・穴沢遺跡、忍野村笹見原遺跡から出土した土器は判ノ木山西式類似例として、検討されている。これに対し、２期に比定可能な土器が出土している遺跡としては、上野原町談合坂遺跡、忍野村笹見原遺跡、富士吉田市古屋敷遺跡が挙げられる。判ノ木山西式類似例と２期に比定可能な土器が出土した遺跡の分布状況を見ると、前者が中西部地域は４遺跡・東部地域は３遺跡であるのに対し、後者は東部地域が３遺跡である。玉川金山遺跡を加えても清水柳Ｅ式に比定可能な土器が出土している遺跡は東部地域に限られる。この分布論的な偏在性は山梨県東部地域に東海地方を中心的な居住地とした集団が流入してきたということに求められよう。既に前項で考察した様に、玉川金山遺跡から出土した子母口式併行期の土器は若干異なる要素も含みながらも、清水柳遺跡など静岡県から出土する土器と同様な施文原理によって製作されており、静岡県から集団が移動してきたと考えるのが妥当である。また、上に挙げた遺跡のうち、上野原町談合坂遺跡、忍野村笹見原遺跡、富士吉田市古屋敷遺跡は遺物のみが出土したのに対して、玉川金山遺跡においては遺構も検出されている点に留意すべき点である。玉川金山遺跡は東海系の集団が流入・居住したことを示す遺跡であると言える。これは、黒曜石の分布状況からも裏付けられる。第193図は黒曜石の産地ごとの分布を示しているが、恩馳島系が３・４・５区西南端・６区に散漫に分布しているのに対して、西霧ヶ峰系は３・４区・５区中央～西側・６区に分布し、特にQ･S－10～12、S－13グリッドに集中する。これに対し、２期の土器は、３・４区・５区西南側・６区に広がり、N･O－８～14、P－８～10、Q－９～11、R－11グリッドに集中し、４期の土器は、３・４区・５区中央～西側・６区に広がり、N－８～14、P･Q－９～13、R－９～12、S－10～13、T－11グリッドに集中を有している。産地別の黒曜石と２・４期の土器の分布を比較すると、西霧ヶ峰系と４期の分布領域が重なっている状況を指摘できる。特に４期の遺構に比定される５区石器集中地点には黒曜石が集中してい

るが、把握される限り全て西霧ヶ峰系であり、恩馳島系を含まない。恩馳島系は散漫ではあるが、２期の分布領域と一致している。このことから、２期の集団は恩馳島系の黒曜石を用いる集団であり、４期の集団は西霧ヶ峰系の黒曜石を用いたと考えられる。この現象は遺跡分布や遺跡から確認された土器型式などの状況と整合的である。つまり、２期においては恩馳島系の黒曜石を携えた集団が遺跡を形成したと結論付けられる。ただし、２期の集団が恩馳島系の黒曜石しか使用しなかったとの前提に立つと、石器組成の内容が非常に貧弱になるため、西霧ヶ峰系の黒曜石も同時に用いたと考えたい。なお、遺跡からは石匙が３点出土しているが、この内の第125図66は器体が大きく、使用する過程で多数の剥片が生じたことが予想されるが、遺跡内から検出された恩馳島系の黒曜石は少量であるため、石器は製作したものが持ち込まれたと考えられる。

これまで、遺跡を形成した集団の位置づけについて議論を進めてきたが、東海系の集団が山梨県東部地域に赴き、遺跡を形成した理由としては、どのような点が考えられるであろうか。都留市内の東南側には道志山地を源に桂川に合流する菅野川が位置しているが、菅野川上流域においては緑色凝灰岩や凝灰岩の原石が採取可能である。遺跡内からも緑色凝灰岩や凝灰岩製の石器が多く出土しているが、その採取地点も菅野川上流域が比定され、玉川金山遺跡は石材原産地の周縁に位置していると言える。これは、石核を数回の剥離の後に放棄してしまうという、浪費的な使用傾向からも指摘できる。つまり、資源獲得としての東海系集団の北進の結果が玉川金山遺跡の形成につながったと結論付けられる。遺物の分布傾向もこの説を支持している。すなわち、緑色凝灰岩は２期の遺構・土器が分布しているN･O－８～14グリッドと４期の土器が集中的に出土しているP･Q－９～13、R－９～12、S－10～13グリッドの両方にまとまりをもって出土しており、２期だけでなく４期においても緑色凝灰岩を獲得－使用したことが推察される。また、忍野村笹見原遺跡において確認された判ノ木山西式と２期が子母口式と併行関係にあるとの前提に立てば、山梨県東部地域において異なる集団が接触したということも想定される。

山梨県における鵜ヶ島台式の出土事例はさほど多くない。笛吹市堂所遺跡、上野原町穴沢遺跡・仲大地遺跡、北杜市丘の公園第５遺跡・神取遺跡、市川三郷町一条氏館跡などで出土している。分布範囲を見る限り、中西部地域・東部地域共に分布しているが、出土した遺物の量はいずれも少ない。炉穴については上野原町仲大地遺跡に次ぐ発見であるが、住居跡・集石・炉穴群・石器製作跡などと共にまとまった土器が出土したため、今後の研究に資する部分が大きいと評価される。ただし、前項で指摘した土器の搬入・伴出等の議論は、現状では困難である。今後の出土事例の増加を待ってから行うものとしたい。

２．奈良時代

（１）出土遺物について

奈良時代の住居跡から出土した一括資料を基に、議論を進めていきたい。遺跡からは８軒の住居跡が確認されたが、覆土中に一定量の遺物を伴う遺構は、３区第１号住居跡・３区第２号住居跡・２区第３号住居跡である。これらの住居跡からは駿東型甕以外の土師器甕が出土した。これらの土器の内、第166図23～26は胎土の色調が淡い肌色か古代紫色を呈しており、堀之内原 Type に比定することが可能である。しかし、胎土の色調は褐色のものが多く、堀之内原 Type の定義である「胎土には古代紫色をした１～３mm 大の粒子を含有し、全体の色調も淡い膚色或いは古代紫色を呈する」という要素を満たさないものも同時に認められる。このため、在地系甕として堀之内原 Type 以外の属性を持つ甕が存在していたと見られる。堀之内原 Type 以外と考えられる在地系甕としては、第164図16・第167図12・13などが挙げられる。第164図16は内外面が無調整であるのに対して、第166図12は外面に縦ハケ、第166図13は外面に縦ハケ・内面の頚部付近に横ハケを有している。また、第164図16は球胴であり、第166図12は胴部が屈曲し、口縁が強く外反する。第166図13は頚部が内反し、口縁が直線状に開いている。第166図12・13に類する資料として、大月市南堀之内遺跡から口縁が強く外反する土師器甕が出土している。ただし、南堀之内遺跡出土甕は内面に横ハケを伴うものを含んでおり、器面調整が異なるが、８世紀前半（山梨県史編年Ⅱ期）に位置づけられており、年代はほぼ同じと考えられる。

３区第１・２号住居跡から出土した駿東型甕は、球胴形を呈し、胴部上位に最大径を有していることから、８世紀第１四半期に位置づけられる。２区第３号住居跡から出土した駿東型甕も概ね同じ年代の資料だと推定される。これらの駿東型甕は赤褐色の胎土で焼成は良好であり、縦・斜方向のハケの上に横・斜方向のミガキを有し、

静岡県東部地域で生産されたものが搬入されたと考えられる。

遺物の器種組成としては、３区第１号住居跡は土師器28点（坏１点・甕27点）・須恵器２点（蓋２点）で甕が駿東型甕13点・在地系甕８点・堀之内原 Type６点、３区第２号住居跡は土師器58点（甕56点・小型甕１点・鉢１点）で甕が駿東型甕47点・在地系甕２点・堀之内原 Type７点、２区第３号住居跡は、土師器31点（坏９点・甕22点）・須恵器４点（蓋１点・坏２点・高台付坏１点）で甕が駿東型甕２点・在地系甕12点・堀之内原 Type８点が出土している。３区第１・２号住居跡では坏が全く組成しないか、少量であり、駿東型甕を非常に多く組成する。これに対して、２区第３号住居跡は一定量の坏を有し、駿東型甕は２点のみである。２区第３号住居跡からは半球形の底部を持つ坏が出土しており、３区第１・２号住居跡よりやや古い年代が考えられる。８世紀前半に比定される高台付坏も出土しているが、遺物の多くが覆土中位に位置していることから、新しい年代の遺物が混入したと推察される。仮にこの過程が正しいとすると、在地系甕から駿東型甕へ量的な組成が変化したと言える。ただし、第Ⅳ章で述べたように、堀之内原 Type は８世紀前半に出現するとされているが、２区第３号住居跡からも堀之内原 Type が８点出土しているため、遺構内遺物の一括性については慎重に考えるべきかもしれない。

（２）集落の構成について

遺跡から検出された奈良時代の集落は、多良郷（都留市谷村が比定地）の周縁に展開していた集落であると考えられる。都留市内における奈良時代の遺跡の分布については、「桂川とその支流からなる河川の合流点付近の台地上の平坦地で、桂川の支流により形成された谷間を背負う位置」に遺跡が分布する傾向があり、これは「河川の合流点と谷の玄関口において奈良時代の開発の拠点として集落が配置された」可能性が指摘されている（杉本　2008）。玉川金山遺跡は戸沢川と菅野川の合流地点付近に立地している。このような立地は前記の説に整合的であるが、都留市の地形が山地と河川沿いの低地が多いため、集落を形成する場所が限定されるのももう一つの理由であろう。都留市内において遺跡が減少する古墳時代の後に、土地開発の端緒を開いたのが奈良時代であったと言える。

奈良時代の遺構の配置としては、河川沿いの７区に河道内の微高地を利用した畑があり、２～４区を中心に集落が展開していたと考えられる。５区は傾斜がややきつくなるため、居住地としては適さなかったと考えられる。集落内の分布としては、２・４区（２区と４区はほぼ同一の地盤高である）には住居跡５軒と掘立柱建物跡３軒、３区には３軒検出されている。カマドの位置は北壁が３軒・東壁が２軒・東南壁が２軒・不明１軒であり、斉一性は認められない。掘立柱建物跡の配置を見ると、３軒共に北西－南東方向を柱穴の主軸としており、北側に３軒が位置をずらしながら配されている。このような遺構配置から集落を計画的に展開させようとする意図が窺える。集落が断絶的に発生したことや計画的な建物配置が確認されることは、為政者の施策を反映していると考えられる。集落内において、駿東型甕を多量に組成するということは、集落の唐突な発生と関連性があるのかどうかという点は今後の課題であろう。また、平安時代の遺物は確認されるものの、明確な遺構は確認されない。調査地点の北西側には緩斜面・平坦地が広がっているため、集落の中心が移動したことも十分考えられるが、奈良時代と平安時代の遺物の量的な多寡が歴然としており、平安時代においては集落が廃絶した可能性も指摘できる。

３．中世

（１）出土遺物について

遺跡から出土した遺物の器種組成は、土師質土器２点・蓋１点・碗15点・皿５点・瓶４点・鉢８点・擂鉢３点・片口鉢１点・壺４点・広口壺１点・甕42点である。全て破片資料であるが、遺物組成の中では甕が最も多く、土師質土器が少ないことが特徴として挙げられる。遺構外出土遺物において、図化した碗の内、４点（第176図８～11）が青磁であるが、これらは12世紀中頃～後半に位置づけられる。第177図30～43は常滑産の甕であるが、口縁部形態から第177図32は14世紀後半・第177図31は15世紀前半に位置づけられる。遺物の年代が12世紀から15世紀に及んでいるものの、集中的な遺物の出土は確認されておらず、居住域以外の土地活用がなされたと考えられる。

（２）遺構の構成について

第１節の中で中世においては玉川に集落は存在せず、法能の集落に居住した人々が集落の外縁部に位置する調

査地点周辺を利用して集落とは異なる機能の遺構を構築したと考えられると述べた。その理由としては、地下式土坑や集石墓などの遺構しか確認されず、遺物の出土も散漫であることが挙げられる。玉川金山遺跡の北東側には中世の城館跡である、与縄館跡が存在しているが、その北側にある日影・日向集落は城下集落として成立した可能性が指摘されている（『山梨県史』　2004)。また、『甲斐国志』に「近世其西ノ方山崩レテ空穴顕ハル。広方七尺許リ」との記述があり、この空穴とは地下式土坑ではないかと推定されている（角川書店　1985)。中世の都留市内において、城館跡や集落の周辺に地下式土坑を構築したと考えられ、調査地点において確認された地下式土坑や集石墓も法能に居住した人々によって構築された可能性が指摘される。

引用参考文献

第Ⅱ章

上杉　陽　1987「地史　第２章　都留市の基盤岩類・第３章　都留市の被覆層」『都留市史』

奥　隆行　1987「考古　第１章　都留市における考古学調査のあゆみ・第２章　都留市の遺跡」『都留市史』

角川書店　1985『角川日本地名大辞典　19　山梨県』

文化庁　1982『全国遺跡地図　山梨県』

平凡社　1995『日本歴史地大系第19巻　山梨県の地名』

奈良泰史　1987「考古　第３章　発掘された都留市の遺跡」『都留市史』

山梨県　2004『山梨県史』　資料編７　中世４　考古資料

山梨県　2004『甲斐の中世石幢』　山梨県史　資料編７　中世４　考古資料　別冊

雄山閣　1968『大日本地誌大系　甲斐国志』　第四巻

第Ⅴ章

［出土動物骨の分析］

西中川　駿・本田　道輝・松元　光春　1991「古代遺跡出土骨からみたわが国の牛」『馬の渡来時期とその経路に関する研究』平成２年度文部省科学研究費補助金（一般研究 B）研究成果報告書　99p

［黒曜石産地分析］

阿部芳郎　1990「第１節　古屋敷遺跡早期第Ⅳ群土器の型式学的検討」『古屋敷遺跡発掘調査報告書』

嶋野岳人・石原園子・長井雅史・鈴木尚史・杉原重夫　2004「波長分散型蛍光 X 線分析装置による日本全国の黒耀石全岩定量分析」『日本文化財科学会第21回大会研究発表要旨集』140－141p

杉原重夫・小林三郎　2004「考古遺物の自然科学的分析に関する研究―黒耀石産出地データベース―」『明治大学人文科学研究所紀要』55　１－83p

杉原重夫・小林三郎　2006「文化財の自然科学的分析による文化圏の研究」『明治大学人文科学研究所紀要』59　43－94p

杉原重夫・檀原徹・山下透　2004「霧ヶ峰火山における黒耀石の産出状況とフィッション・トラック年代」『日本第四紀学会発表要旨集』34　20－21p

杉原重夫・長井雅史・柴田徹　2008「伊豆諸島産黒曜石の記載岩石学的・岩石化学的検討―黒曜石製遺物の産地推定法に関する基礎的研究―」『駿台史学』133　45－76p

杉原重夫・長井雅史・鈴木尚史・柴田徹・小森次郎・太田陽介・金成太郎　2006「神津島産黒耀石の産地推定に関する基礎的研究―蛍光 X 線分析による定量・定性分析から―」『日本文化財科学会第23回大会発表要旨集』200－201p

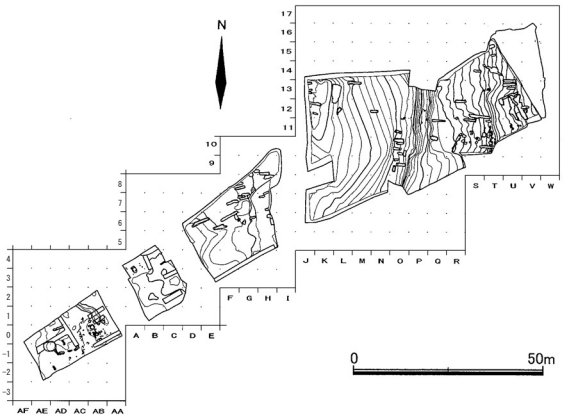
長井雅史・嶋野岳人・杉原重夫　2008「蛍光 X 線分析装置による火成岩の主成分・微量成分の定量分析ルーチンの作製とその評価―石器石材の産地推定に関する基礎的研究―」『明治大学博物館研究報告』13　69－80p

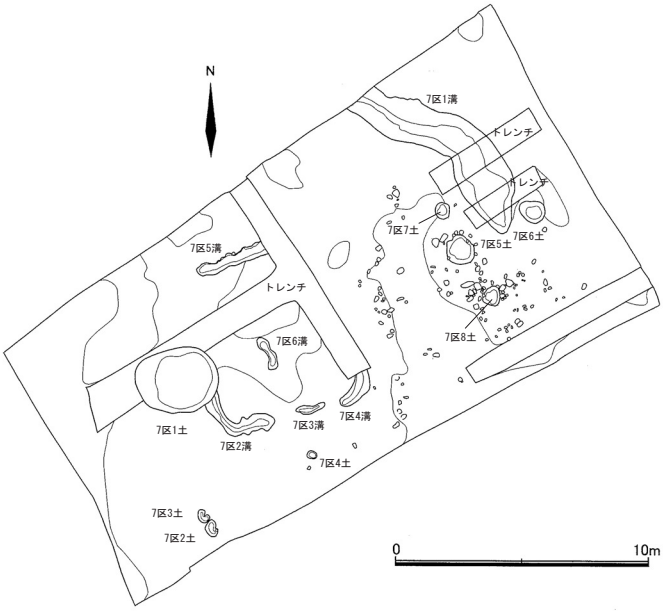
長井雅史・杉原重夫・檀原徹・岩野英樹・小森次郎・柴田徹・平野公平　2006「塩嶺累層，和田峠－霧ヶ峰地域の火山層序とフィッション・トラック年代」『日本第四紀学会発表要旨集』36　96－97p

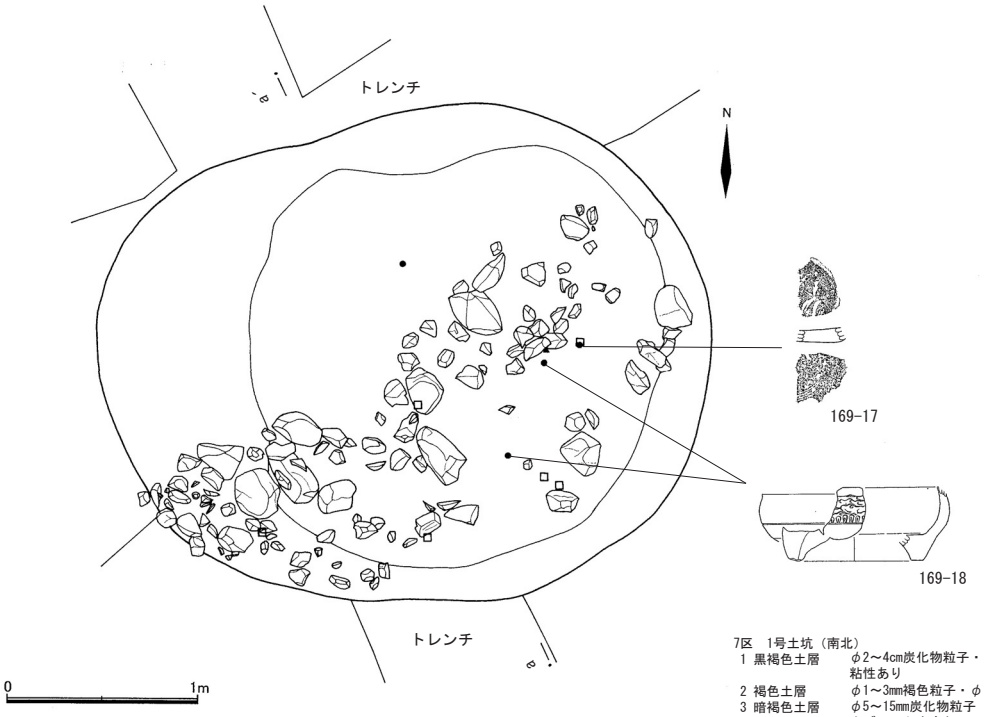
吉谷昭彦　2002「神津島の黒耀石」『東京都神津島村フォークロア』東京都神津島村教育委員会　２－17p

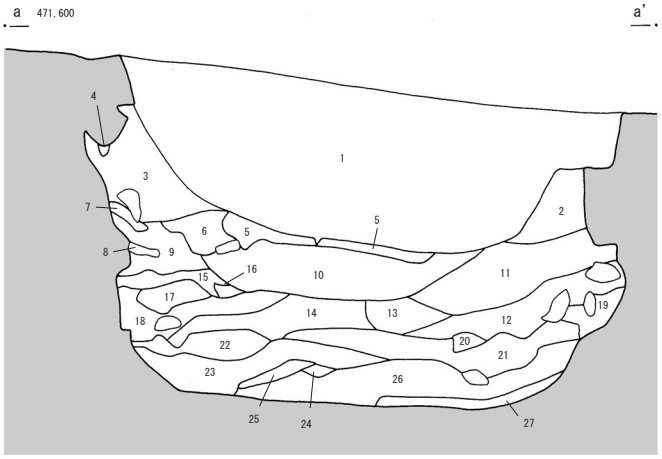
吉谷昭彦・西田史朗・川口　優　2003「黒曜岩岩体内部での化学組成の変化について」『考古学と自然科学』46

１－16p
望月明彦・池谷信之・小林克次・武藤由里　1994「遺跡内における黒曜石製石器の原産地別分布について―沼津市土手上遺跡 BBⅤ層の原産地推定から―」『静岡県考古学研究』26　１－24p
望月明彦　1997「蛍光 X 線分析による中部・関東地方の黒曜石産地の判別」『X 線分析の進歩』28　157－168p
藁科哲男・東村武信　1995「中ツ原遺跡群出土石器の石材産地分析」『中ツ原第１遺跡 G 地点の研究』Ⅰ　128p
［土壌分析］
石川茂雄　1994『原色日本植物種子写真図鑑』石川茂雄図鑑刊行委員会　328p
櫛原功一　1999「炭化種実から探る食生活－古代から中世を中心に－」『帝京大学山梨文化財研究所研究集会報告集２　食の復元　遺跡・遺物からなにを読みとるか』櫛原功一編　岩田書院　81－98p
松谷暁子　1980「十勝太若月遺跡出土炭化物の識別について」『浦幌町郷土博物館報告』第16号　203－211p
松谷暁子2000「植物遺残の識別と保存について」『Ouroboros，東京大学総合研究博物館ニュース』Volume５・Number１　８－10p
松谷暁子　2001「灰像と炭化像による先史時代の利用植物の探求」『植生史研究』10　47－66p
中山至大・井之口希秀・南谷忠志　2000「日本植物種子図鑑」『東北大学出版会』　642p
第Ⅵ章
安孫子昭二　1982「子母口式土器の再検討－清水柳遺跡第二群土器の検討を中心として－」『東京考古』　１号
大森隆志　2006「北杜市・中村道祖神遺跡の地下式坑群の検討」『山梨県考古学協会誌』　第16号
小笠原永隆　2001「子母口式成立前後の広域編年作業にむけての問題点」『先史考古学研究』　第８号
小野正文　1996「第２節　縄文土器」『外ガイド遺跡発掘調査報告書』
1999「２　縄文時代の編年　（３）早期」『山梨県史』　資料編２　原始・古代２　考古（遺構・遺物）
角川書店　1985『角川日本地名大辞典　19　山梨県』
金子直行　1999「関東地方　早期後葉」『縄文時代10　縄文時代文化研究の100年　第１分冊　総論、土器型式編年研究』
2004「押型文系土器群と沈線文系土器群終末期の関係性－絡条体圧痕文土器の分析を通して画期をさぐる－」研究紀要　第19号　埼玉県埋蔵文化財調査事業団
北川恵一　1988「「駿東型甕」の初源と終末について」『沼津市博物館紀要』12
小林義典　1999「遺構研究　炉穴」『縄文時代10　縄文時代文化研究の100年　第３分冊　型式研究、方法論、集落・領域論、葬墓制研究、遺構研究、生業研究、関連科学研究』
笹津海祥・瀬川裕市郎・関野哲夫・杉山治夫　1976「清水柳遺跡の土器と石器」『沼津市博物館紀要』１
杉本悠紀　2008「古代甲斐国都留郡の様相」『山梨県立博物館調査研究報告２　古代の交易と道研究報告所』
都留市史　1989「都留市史　資料編　都留郡　村絵図　村明細帳集」『都留市史』
外山秀一　1994「プラントオパールからみた稲作農耕の開始と土地条件の変化」『第四紀研究』Vol. 33　No. 5
中野晴久　1995「［２］常滑・渥美」『概説　中世の土器・陶磁器』
中山誠二　1985「甲斐における弥生文化の成立」『研究紀要』２　山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
中山誠二　1999「３　弥生時代の編年」『山梨県史』　資料編２　原始・古代２　考古（遺構・遺物）
毒島正明　1983「子母口式土器研究の検討（上）」『土曜考古』第７号
2004「子母口式土器研究の検討（下）－子母口式２細分試論－」『土曜考古』第28号
2005「「ミヲ坂式」「木戸上式」の再提唱について」『土曜考古』第29号
三田村美彦　1998「談合坂遺跡第Ⅰ群土器について」『談合坂遺跡』山梨県教育委員会
2003「笹見原遺跡上層文化層から出土した縄文時代早期土器群について」『笹見原遺跡』忍野村教育委員会
2003「山梨の縄文時代早期沈線文土器群終末期前後の検討」『研究紀要』19　山梨県考古博物館
山下孝司　1999「５　奈良・平安時代の編年」『山梨県史』　資料編２　原始・古代２　考古（遺構・遺物）





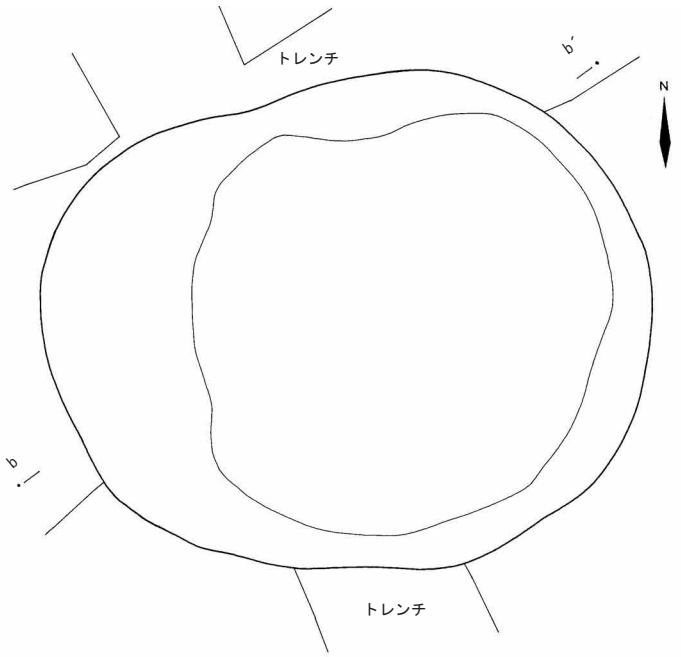


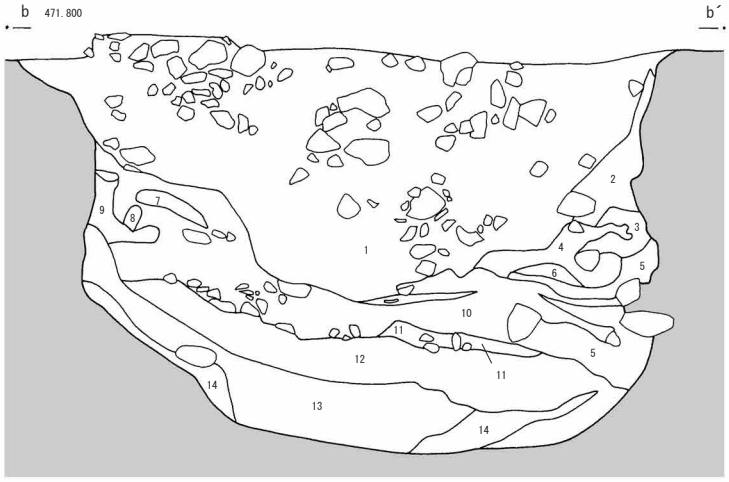


7区　1号土坑（南北）

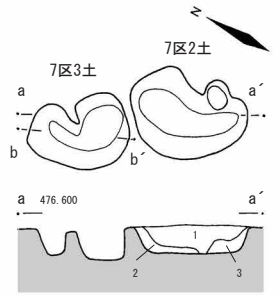
1	黒褐色土層	φ2～4cm炭化物粒子・φ1～26cm礫（多量）を含む　しまりあり・粘性あり
2	褐色土層	φ1～3mm褐色粒子・φ1～3cm礫を少量含む　しまりあり・粘性あり
3	暗褐色土層	φ5～15mm炭化物粒子（少量）・φ3～20cm礫（少量）・φ10mm褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
4	褐色細砂層	φ4～50mm礫を少量含む　しまり弱・粘性なし
5	褐色土層	黒褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
6	黒褐色土層	φ1～5mm褐色粒子（多量）・φ1～3cm礫（少量）を含む　しまりあり・粘性あり
7	暗褐色砂層	褐色砂を含む　しまりあり・粘性あり
8	黒褐色土層	φ1～3mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性あり
9	暗褐色砂層	しまりあり・粘性あり
10	黒褐色土層	φ5～20mm炭化物粒子・φ1～40cm礫を含む　しまりあり・粘性あり
11	暗褐色土層	褐色砂を含む　しまりあり・粘性あり
12	褐色土層	φ1～3mm褐色粒子・φ4～20cm礫を少量含む　しまりあり・粘性あり
13	黒褐色土層	φ1～5mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性あり
14	褐色土層	暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
15	黒褐色土層	φ1～3mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性あり
16	褐色土層	しまりあり・粘性あり
17	褐色土層	φ1～4cm礫を少量含む　しまりあり・粘性あり
18	褐色土層	暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
19	暗褐色土層	φ1～13cm礫を多量に含む　しまりあり・粘性あり
20	黒褐色土層	φ1～9mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性あり
21	暗褐色土層	φ5～6cm礫を少量含む　しまりあり・粘性あり
22	暗褐色土層	φ1～15mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性あり
23	暗褐色土層	φ1～5mm褐色粒子・φ1cm礫を含む　しまりあり・粘性あり
24	褐色土層	しまりあり・粘性あり
25	暗褐色土層	φ1～10mm褐色粒子を多量に含む　しまりあり・粘性あり
26	暗褐色土層	φ1～12mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性あり
27	砂礫層	φ1～5mm褐色粒子・φ3～50mm礫を多量に含む　しまりあり・粘性あり

第６図　第Ⅰ面遺構図１

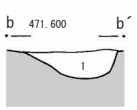




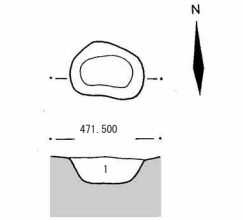
7区　1号土坑（東西）
1 黒褐色土層　φ2～4cm炭化物粒子・φ1～26cm礫（多量）を含む　しまりあり・粘性あり
2 黄褐色土層　しまりあり・粘性なし
3 黒褐色土層　φ1～5mm褐色粒子（多量）・φ1～3cm礫（少量）を含む　しまりあり・粘性あり
4 褐色土層　しまりあり・粘性なし
5 褐色土層　暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
6 暗褐色土層　しまりあり・粘性あり
7 暗褐色砂層　φ1～3cm礫（少量）を含む　しまりあり・粘性なし
8 黄褐色土層　しまりあり・粘性あり
9 暗褐色砂層　しまりあり・粘性あり
10 黒褐色土層　φ5～20mm炭化物粒子・φ1～40cm礫を含む　しまりあり・粘性あり
11 暗褐色土層　褐色砂を含む　しまりあり・粘性あり
12 暗褐色土層　φ5～6cm礫（少量）を含む　しまりあり・粘性あり
13 暗褐色土層　φ1～12mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性あり
14 暗褐色土層　φ1～5mm褐色粒子・φ1cm礫を含む　しまりあり・粘性あり



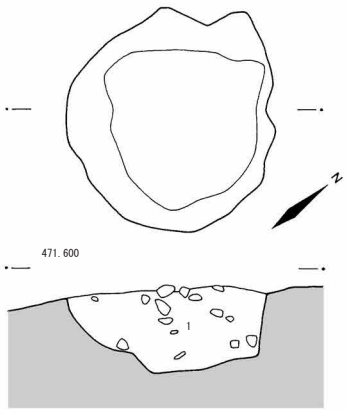
7区　2号土坑
1 黒褐色土層　焼土・炭化物粒子、φ2mm赤色・白色・黄色粒子、φ5mm暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
2 黒褐色土層　焼土・炭化物粒子、φ1mm赤色・白色・黄色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
3 暗褐色土層　焼土・炭化物粒子、φ3mm赤色・白色・黄色粒子を含む　しまりあり・粘性あり



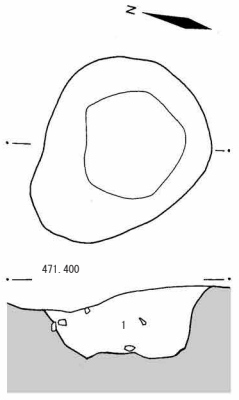
7区　3号土坑
1 黒褐色土層　焼土・炭化物粒子、φ2mm赤色・白色・黄色粒子、φ5mm暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり



7区　4号土坑
1 黒褐色土層　焼土・炭化物粒子、φ2mm赤色・白色・黄色粒子、φ5mm暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり

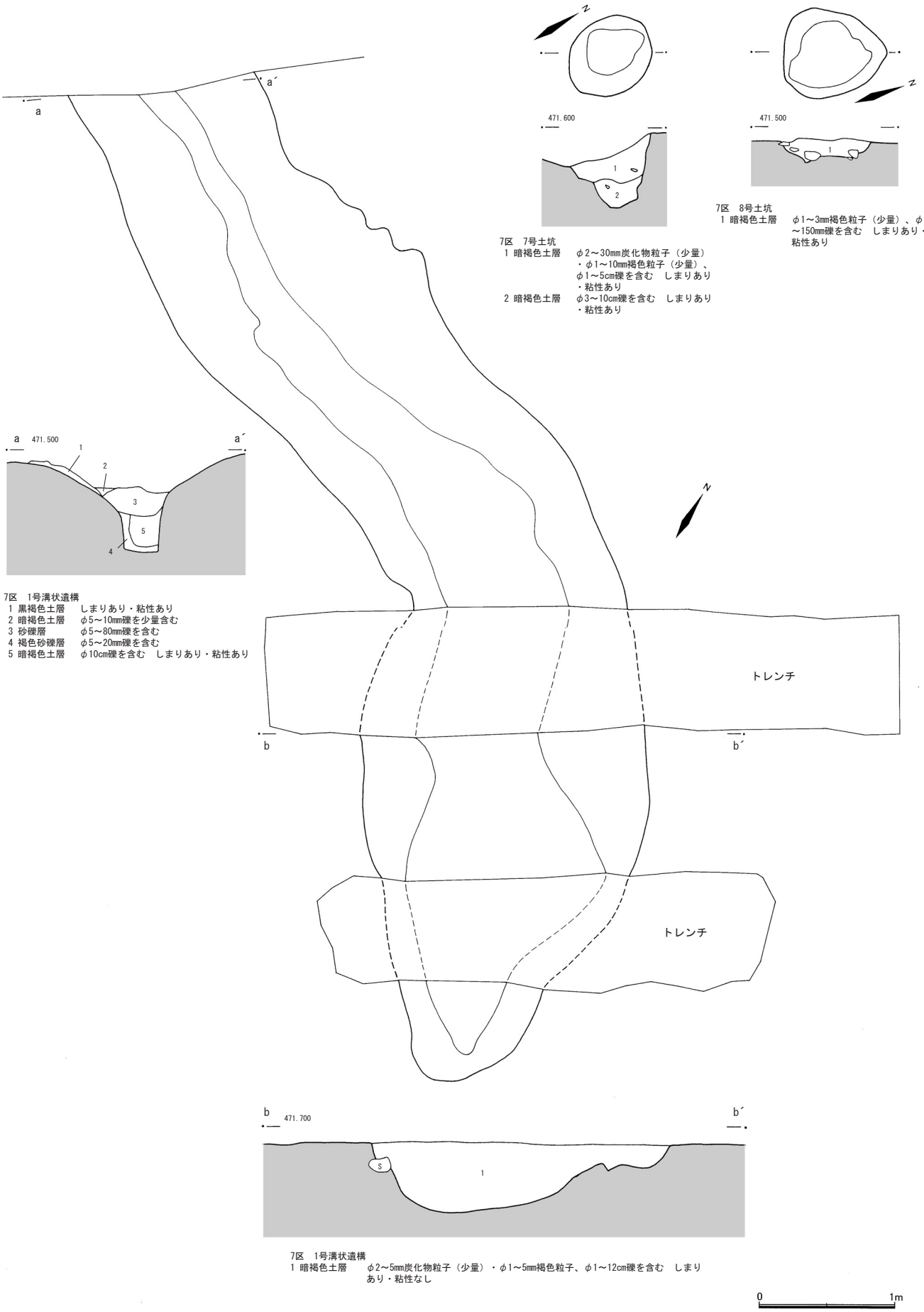


7区　5号土坑
1 黒褐色土層　φ1mm赤色・白色・黄色粒子・φ10cm礫を含む　しまりあり・粘性あり



7区　6号土坑
1 暗褐色土層　炭化物粒子、φ1～3mm褐色粒子、φ4～7cm礫を含む　しまりあり・粘性なし

第７図　第Ⅰ面遺構図２



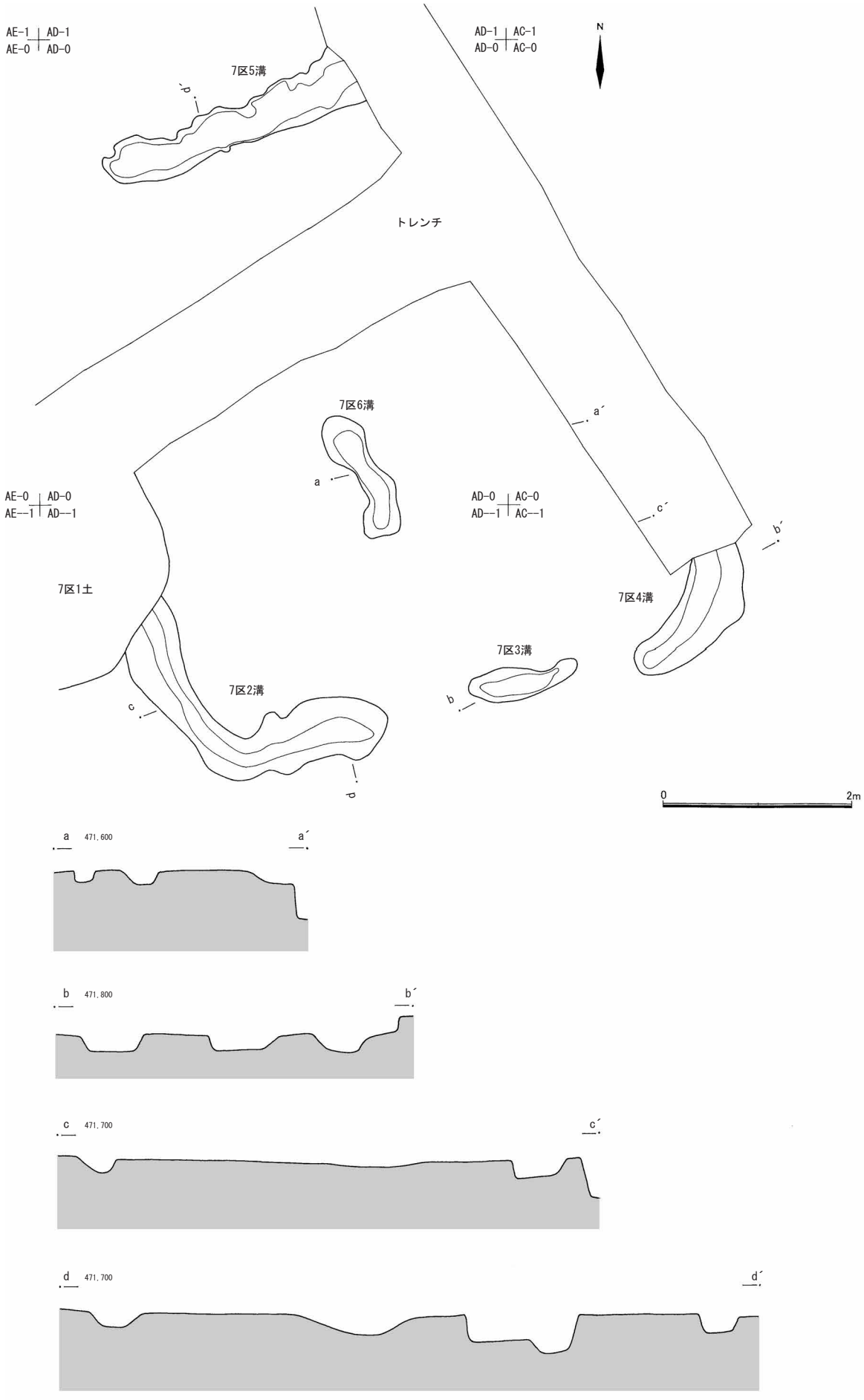
7区　7号土坑
1 暗褐色土層　φ2～30mm炭化物粒子（少量）・φ1～10mm褐色粒子（少量）、φ1～5cm礫を含む　しまりあり・粘性あり
2 暗褐色土層　φ3～10cm礫を含む　しまりあり・粘性あり

7区　8号土坑
1 暗褐色土層　φ1～3mm褐色粒子（少量）、φ5～150mm礫を含む　しまりあり・粘性あり

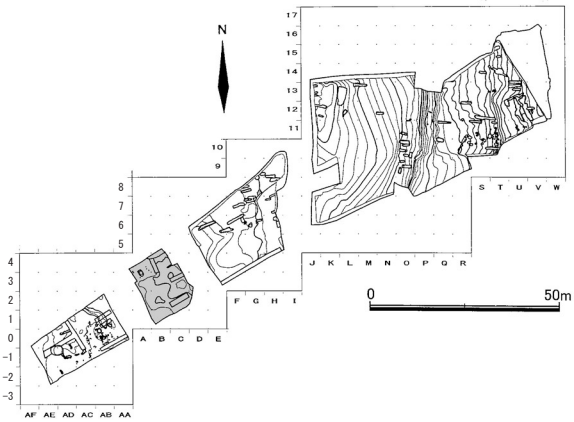
7区　1号溝状遺構
1 黒褐色土層　しまりあり・粘性あり
2 暗褐色土層　φ5～10mm礫を少量含む
3 砂礫層　φ5～80mm礫を含む
4 褐色砂礫層　φ5～20mm礫を含む
5 暗褐色土層　φ10cm礫を含む　しまりあり・粘性あり

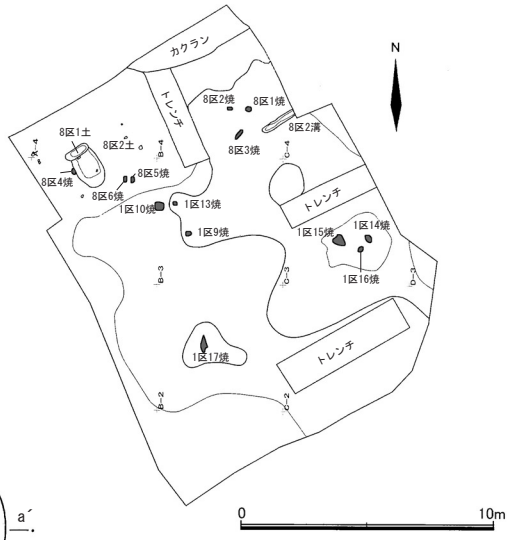
7区　1号溝状遺構
1 暗褐色土層　φ2～5mm炭化物粒子（少量）・φ1～5mm褐色粒子、φ1～12cm礫を含む　しまりあり・粘性なし

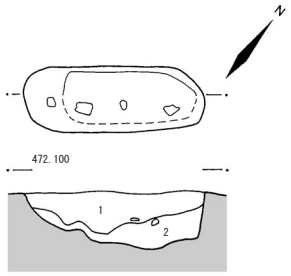
第８図　第Ⅰ面遺構図３


AE-1 AD-1
AE-0 AD-0
AD-1 AC-1
AD-0 AC-0
N
7区5溝
d´
トレンチ
7区6溝
a´
a
AE-0 AD-0
AE--1 AD--1
AD-0 AC-0
AD--1 AC--1
c´
b´
7区1土
7区4溝
7区3溝
b
7区2溝
c
d
0
2m
a
471.600
a´
b
471.800
b´
c
471.700
c´
d
471.700
d´

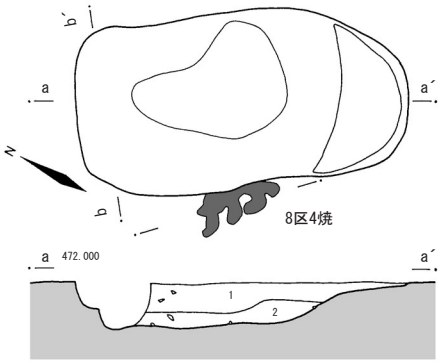
第９図　第Ⅰ面遺構図４



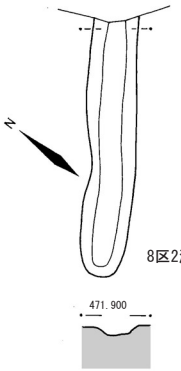


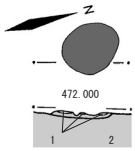


8区　1号土坑
1 暗褐色土層　炭化物粒子（少量）・赤色粒子・φ2cm暗褐色粒子（多量）を含む　しまりあり・粘性あり
2 暗褐色土層　炭化物粒子（少量）・赤色粒子・φ6cm礫を含む　しまりあり・粘性あり

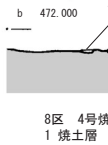


8区　2号土坑
1 黒褐色土層　φ1～5cm黄褐色土ブロック（多量）・φ3～4cm礫（少量）を含む　しまりあり・粘性なし
2 黒褐色土層　φ3～4cm礫を少量含む　しまりあり・粘性なし

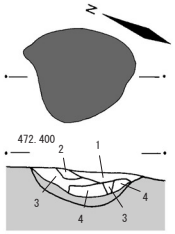




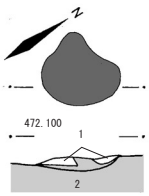
1区　9号焼土集中
1 焼土層　焼土の純層　しまりなし・粘性なし
2 黒褐色土層　地山層　しまりあり・粘性弱



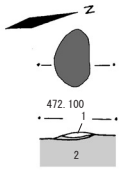
8区　4号焼土集中
1 焼土層



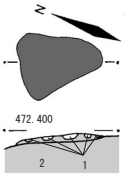
1区　15号焼土集中
1 暗褐色粘質土層　焼土粒子・炭化物粒子を含む　しまりなし・粘性あり
2 焼土層　しまりなし・粘性なし
3 褐色粘質土　しまりなし・粘性あり
4 焼土層　しまりなし・粘性なし



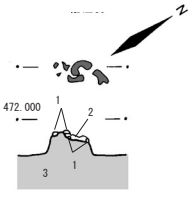
1区　10号焼土集中
1 焼土層　焼土の純層　しまりなし・粘性なし
2 黒褐色土層　地山層　しまりあり・粘性弱



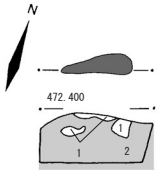
1区　13号焼土集中
1 焼土層　焼土の純層　しまりなし・粘性なし
2 黒褐色土層　地山層　しまりあり・粘性弱



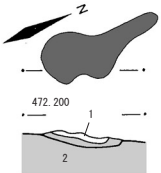
1区　14号焼土集中
1 焼土層　焼土の純層　しまりなし・粘性なし
2 黒褐色土層　地山層　しまりあり・粘性弱



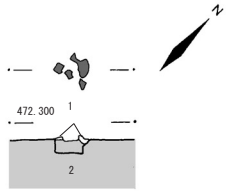
8区　2号焼土集中
1 焼土層
2 黒褐色土層　φ1mm焼土粒子（多量）・黄褐色粒子・φ7mm礫（少量）を含む
3 黒褐色土層　φ1mm焼土粒子（少量）・黄褐色粒子・φ20mm礫（少量）を含む



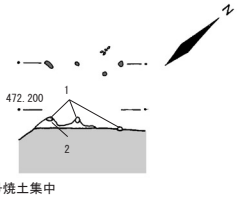
1区　16号焼土集中
1 焼土層　焼土の純層　しまりなし・粘性なし
2 黒褐色土層　地山層　しまりあり・粘性弱



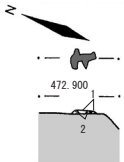
1区　17号焼土集中
1 焼土層　焼土の純層　しまりなし・粘性なし



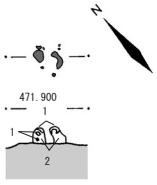
8区　1号焼土集中
1 焼土層
2 黒褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を少量含む



8区　3号焼土集中
1 焼土層
2 黒褐色土層　焼土粒子（少量）・黄褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり

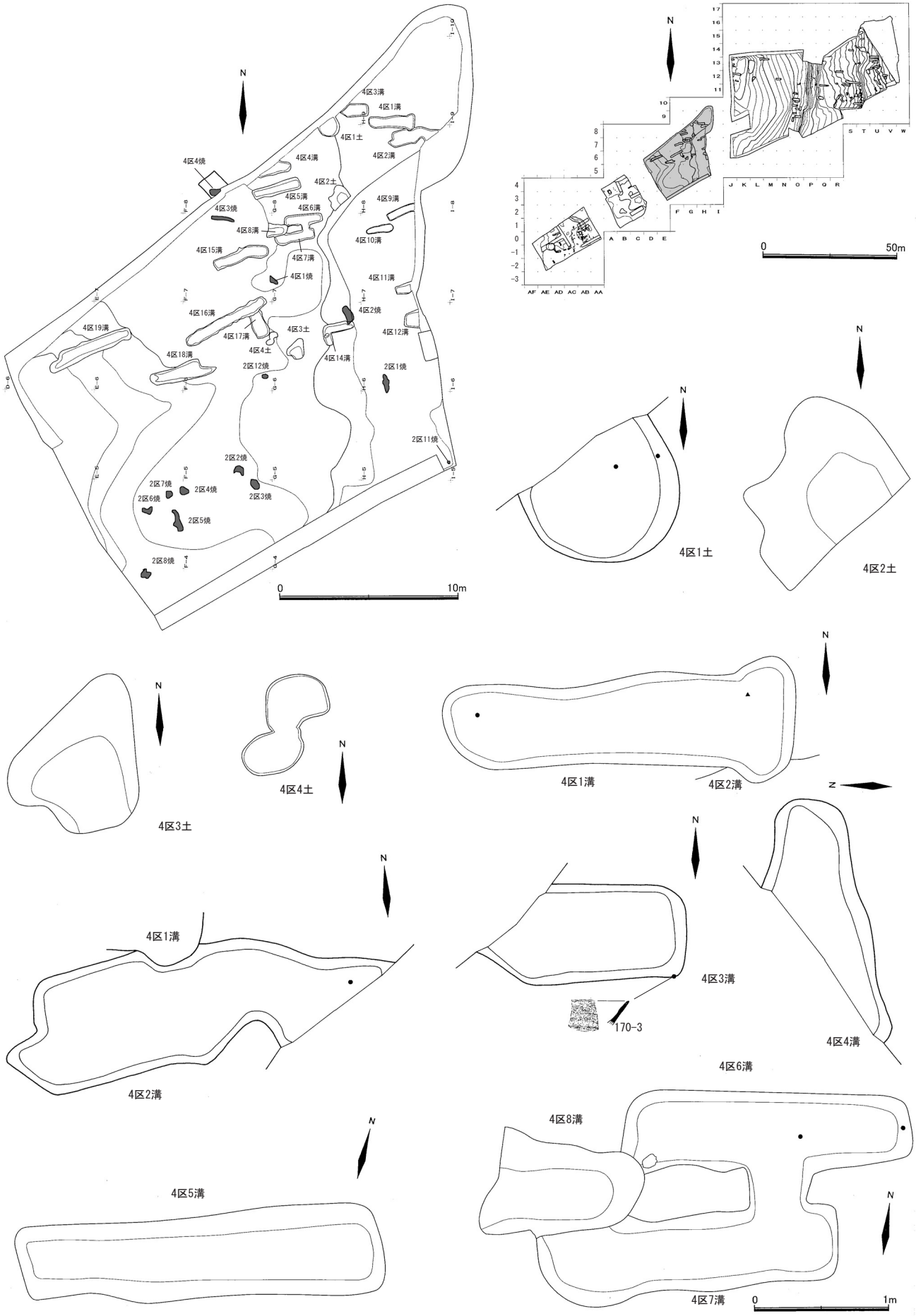


7区　5号焼土集中
1 焼土層　しまりあり・粘性なし
2 黒褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を少量含む　しまりあり・粘性あり

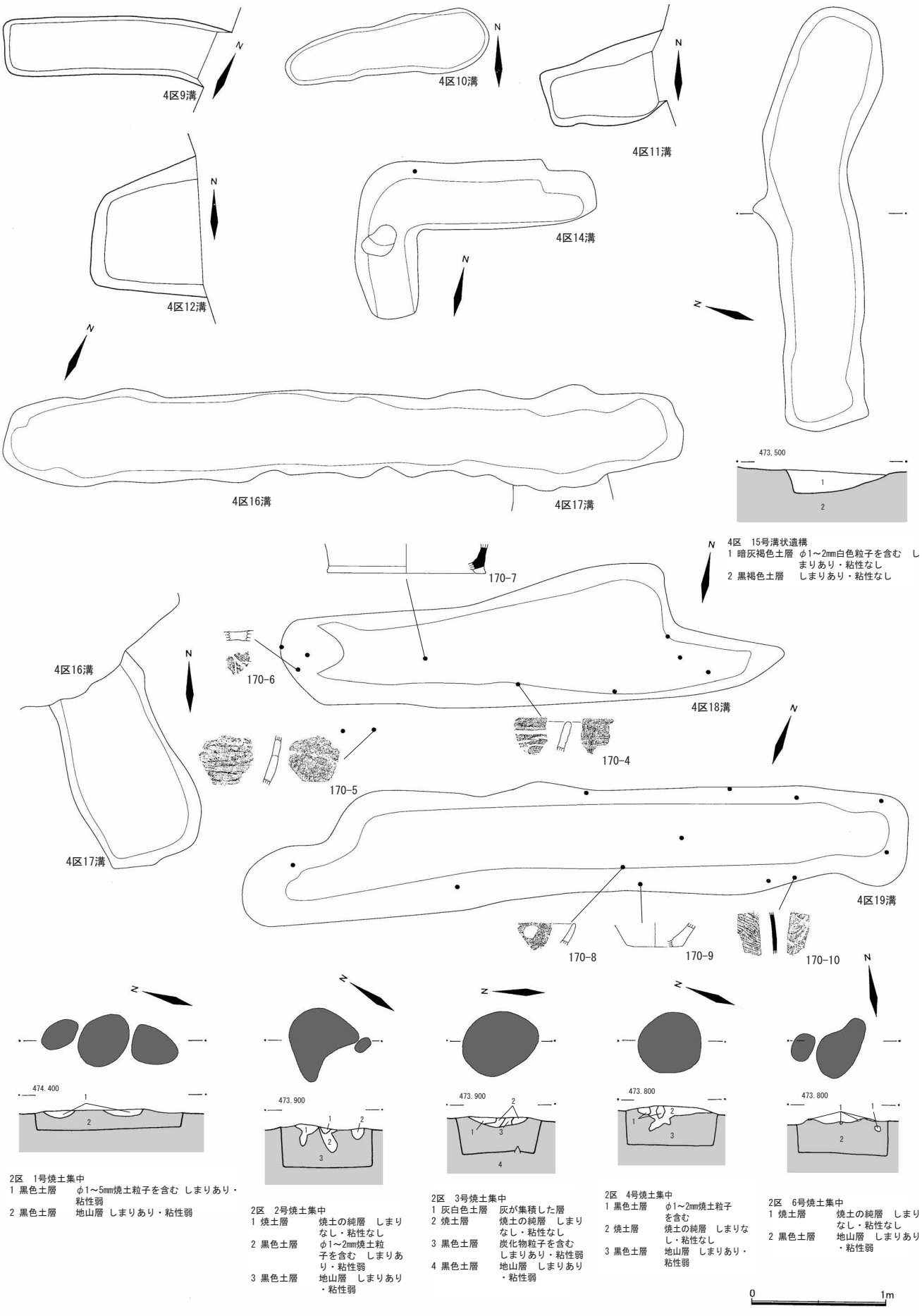


8区　6号焼土集中
1 焼土層
2 黒褐色土層　φ10mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性あり

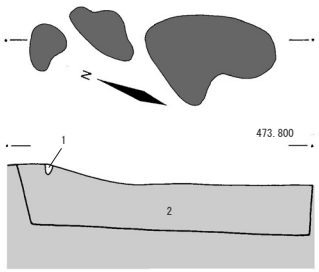
第10図　第Ⅰ面遺構図5



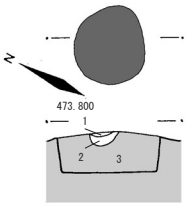
第11図　第Ⅰ面遺構図６



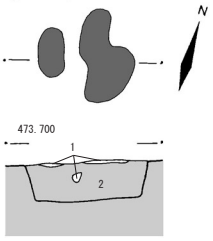
第12図　第Ⅰ面遺構図７



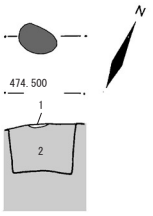
2区　5号焼土集中
1 焼土層　　焼土の純層　しまりなし・粘性なし
2 黒色土層　地山層　しまりあり・粘性弱



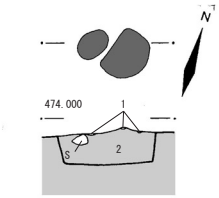
2区　7号焼土集中
1 黒色土層　しまりあり・粘性弱
2 焼土層　　焼土の純層　しまりなし・粘性なし
3 黒色土層　地山層　しまりあり・粘性弱



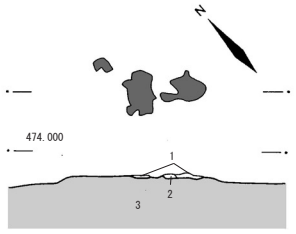
2区　8号焼土集中
1 焼土層　　焼土の純層　しまりなし・粘性なし
2 黒色土層　地山層　しまりあり・粘性弱



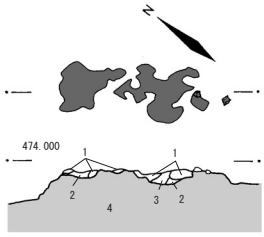
2区　11号焼土集中
1 焼土層　　焼土の純層　しまりなし・粘性なし
2 黒色土層　地山層　しまりあり・粘性弱



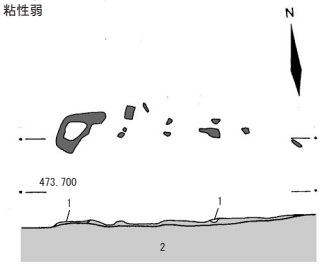
2区　12号焼土集中
1 焼土層　　焼土の純層　しまりなし・粘性なし
2 黒色土層　地山層　しまりあり・粘性弱



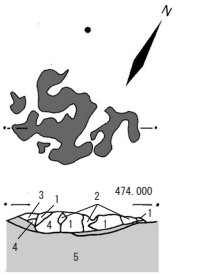
4区　1号焼土集中
1 焼土層　　暗褐色土を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 黒色土層　しまりあり・粘性なし



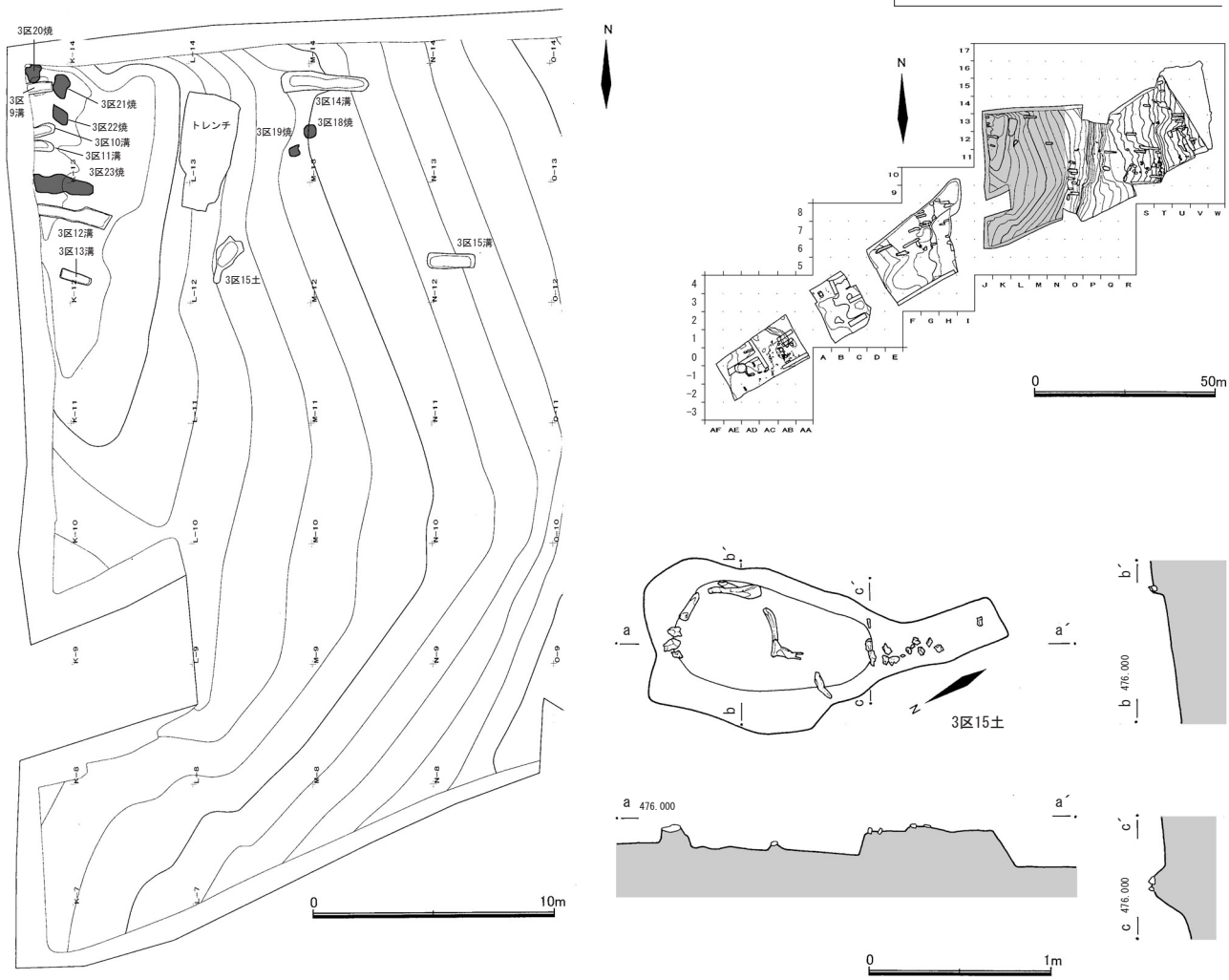
4区　2号焼土集中
1 焼土層　　しまりあり・粘性なし
2 黒色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 焼土層　　暗褐色土を含む　しまりあり・粘性なし
4 黒色土層　しまりあり・粘性なし



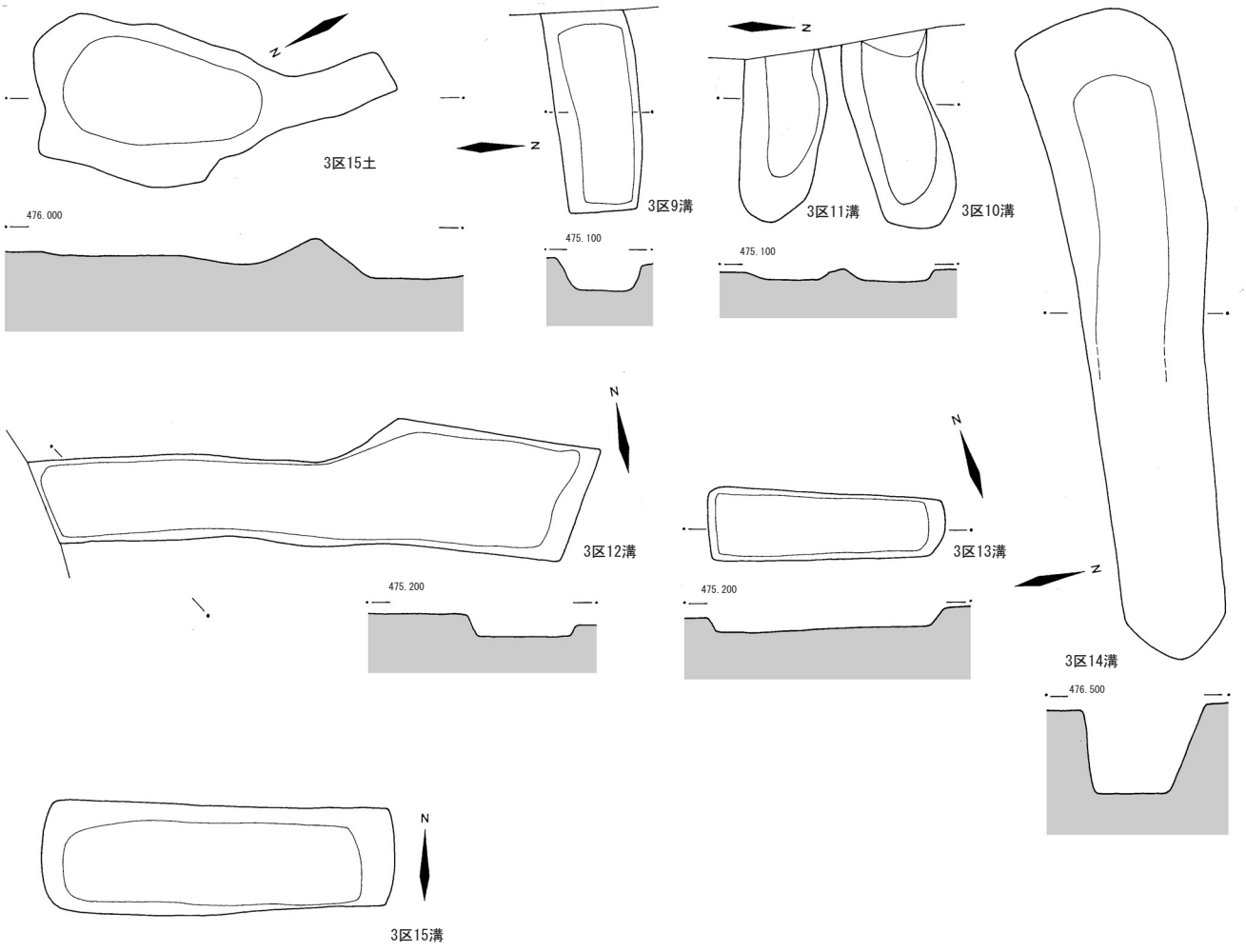
4区　3号焼土集中
1 焼土層　　焼土の純層
2 黒色土層　しまりあり・粘性なし

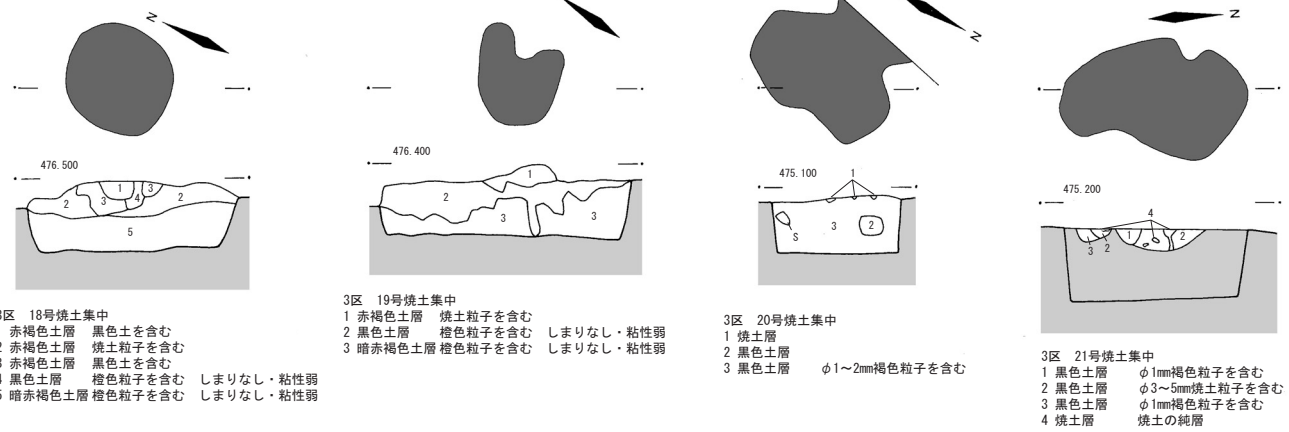


4区　4号焼土集中
1 焼土層　　焼土の純層　しまりあり・粘性なし
2 黒褐色土層　φ1mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 赤褐色土層　褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
4 暗赤褐色土層 褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
5 黒褐色土層　しまりあり・粘性なし



第13図　第Ⅰ面遺構図８



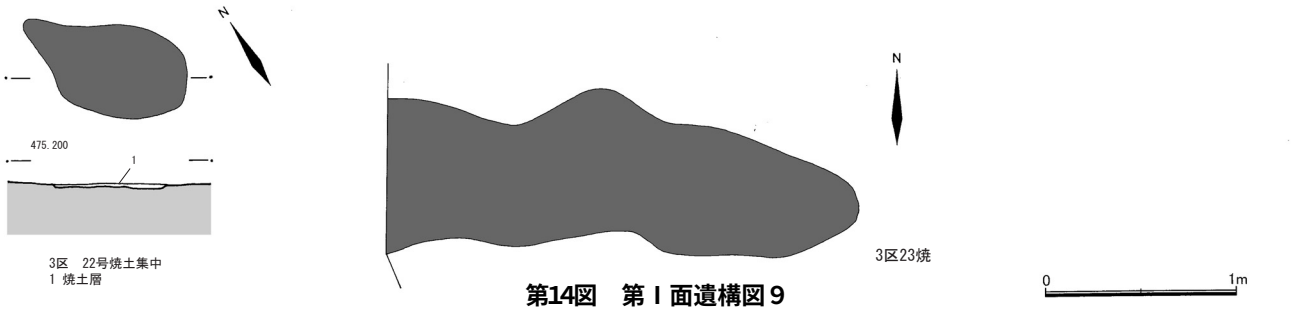


3区　18号焼土集中
1 赤褐色土層　黒色土を含む
2 赤褐色土層　焼土粒子を含む
3 赤褐色土層　黒色土を含む
4 黒色土層　橙色粒子を含む　しまりなし・粘性弱
5 暗赤褐色土層 橙色粒子を含む　しまりなし・粘性弱

3区　19号焼土集中
1 赤褐色土層　焼土粒子を含む
2 黒色土層　橙色粒子を含む　しまりなし・粘性弱
3 暗赤褐色土層 橙色粒子を含む　しまりなし・粘性弱

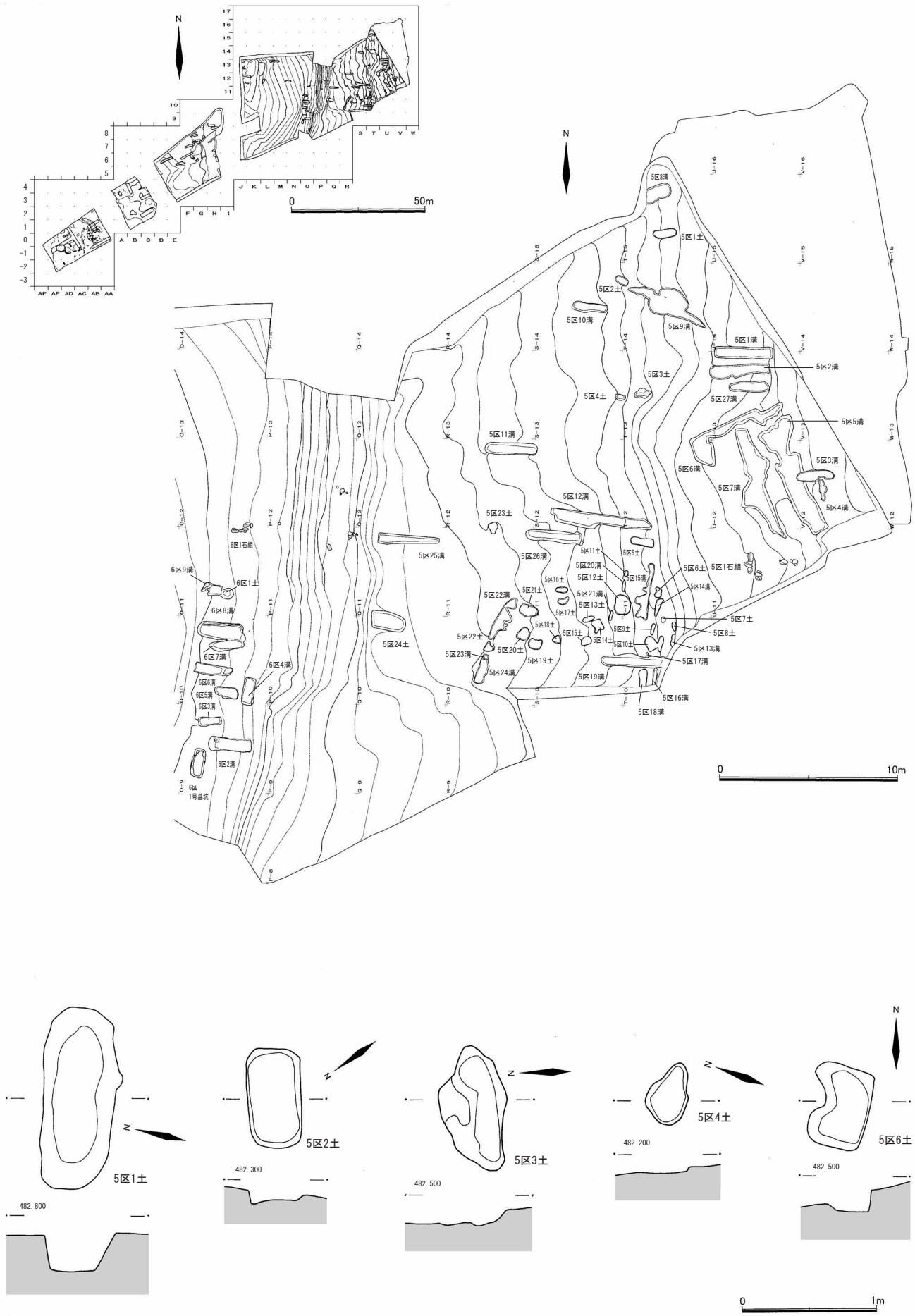
3区　20号焼土集中
1 焼土層
2 黒色土層
3 黒色土層　φ1～2mm褐色粒子を含む

3区　21号焼土集中
1 黒色土層　φ1mm褐色粒子を含む
2 黒色土層　φ3～5mm焼土粒子を含む
3 黒色土層　φ1mm褐色粒子を含む
4 焼土層　焼土の純層

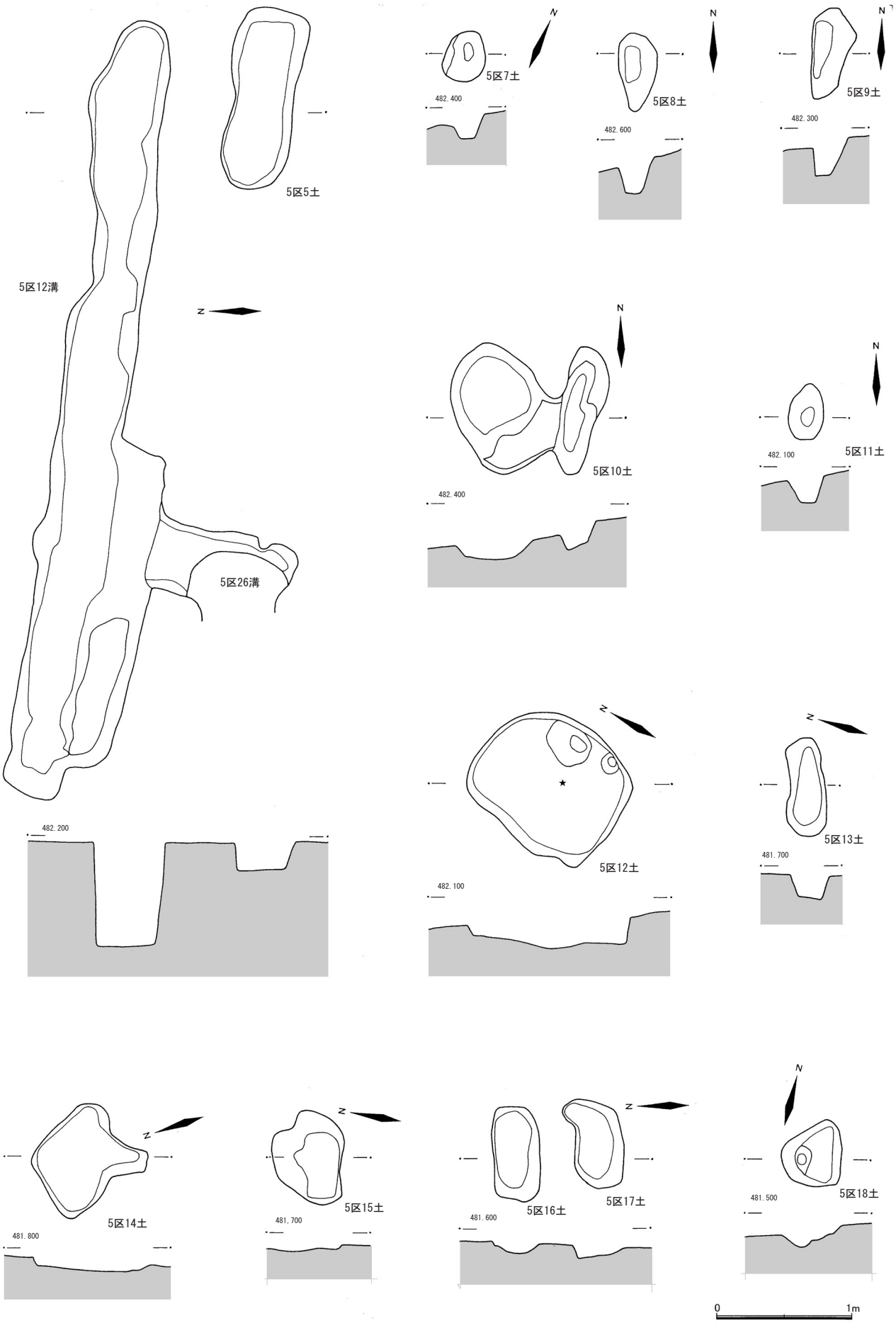


3区　22号焼土集中
1 焼土層

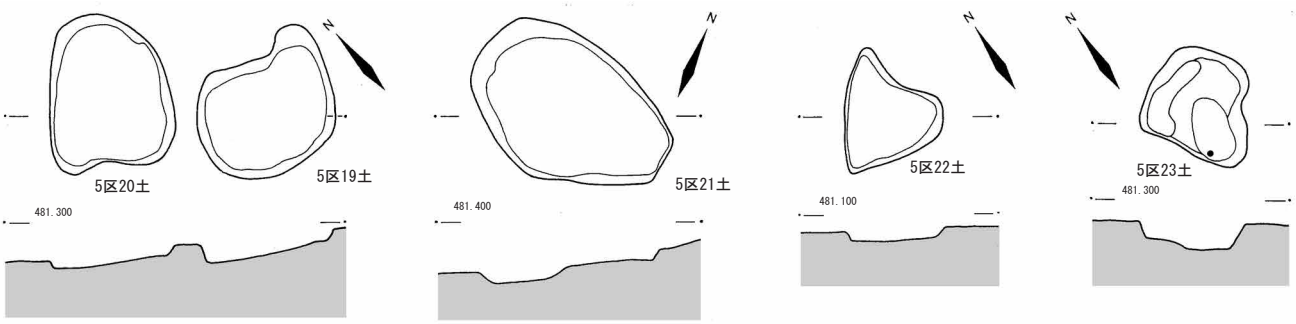
第14図　第Ⅰ面遺構図９

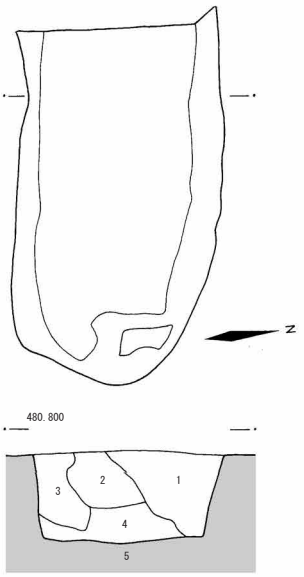


第15図　第Ⅰ面遺構図10

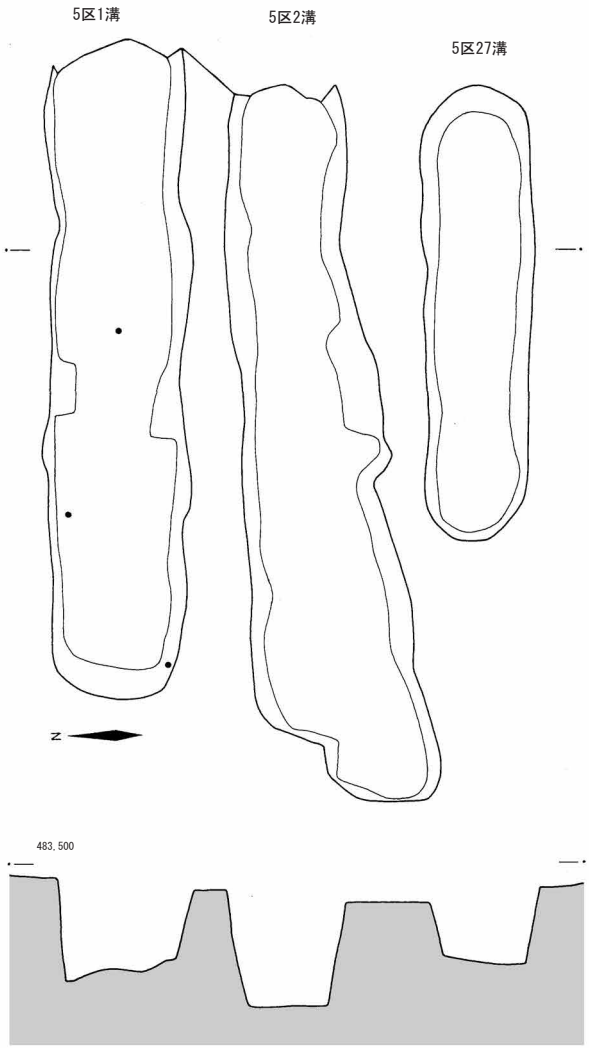


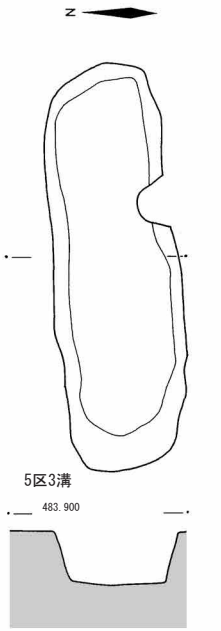
第16図　第Ⅰ面遺構図11

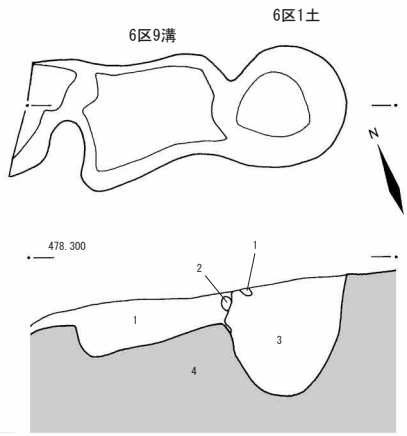




5区　24号土坑
1 暗褐色土層　褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 黒褐色土層　褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
4 灰褐色土層　褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
5 黒褐色土層　褐色・白色粒子を含む　しまりあり・粘性なし

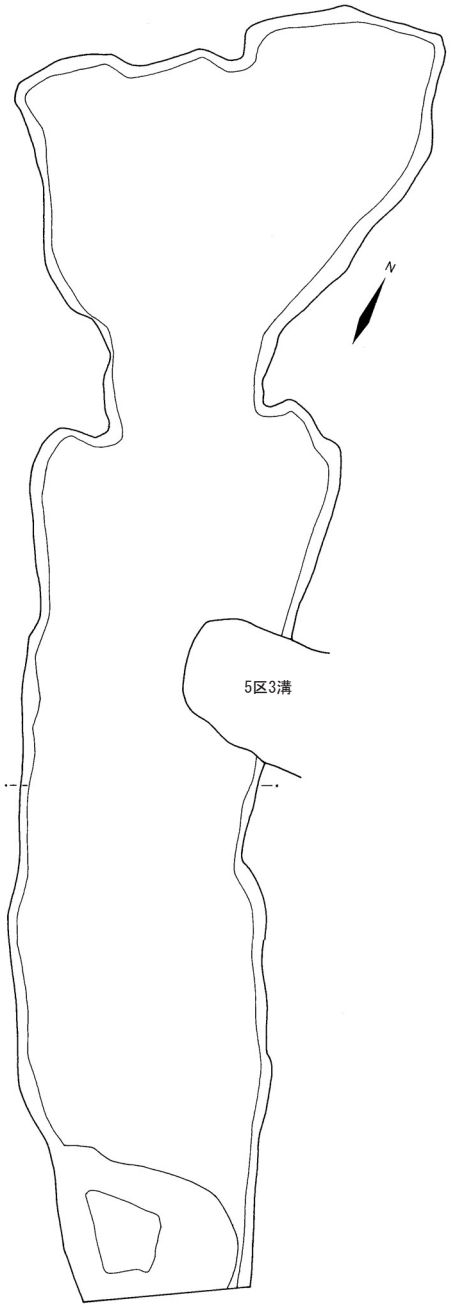


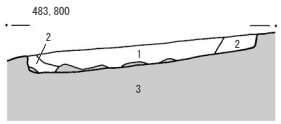




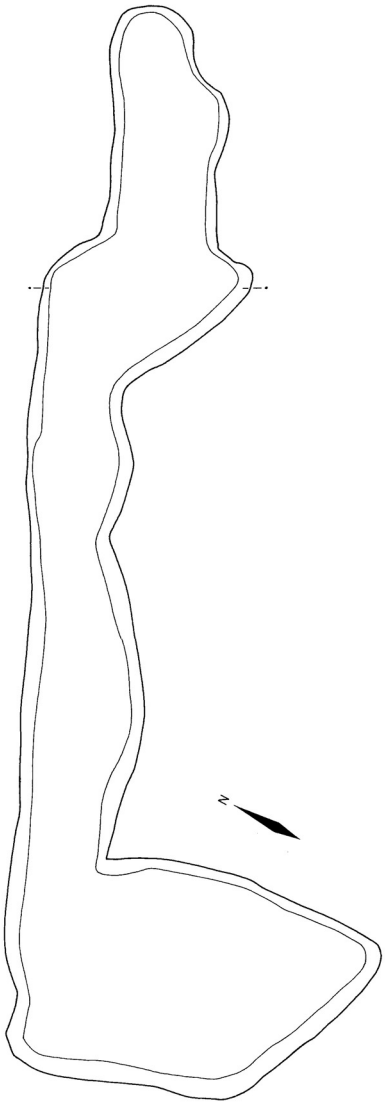
6区　1号土坑・9号溝状遺構
1 灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗灰褐色土層 φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 黒色土層　　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
4 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし

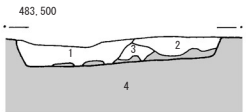
第17図　第Ⅰ面遺構図12



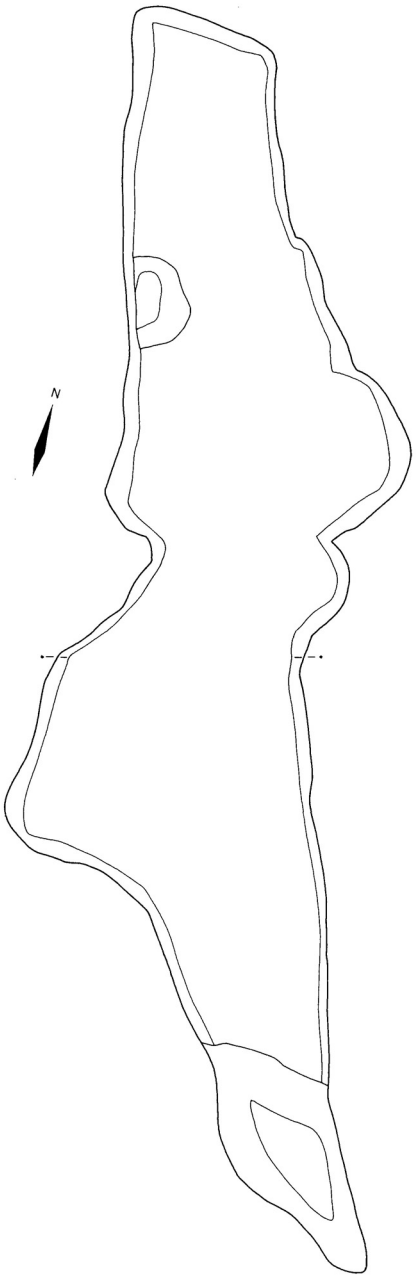


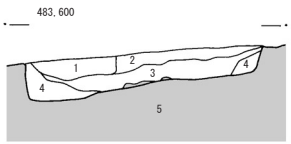
5区　5号溝状遺構
1 灰褐色土層　褐色粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 黒褐色土層　褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし





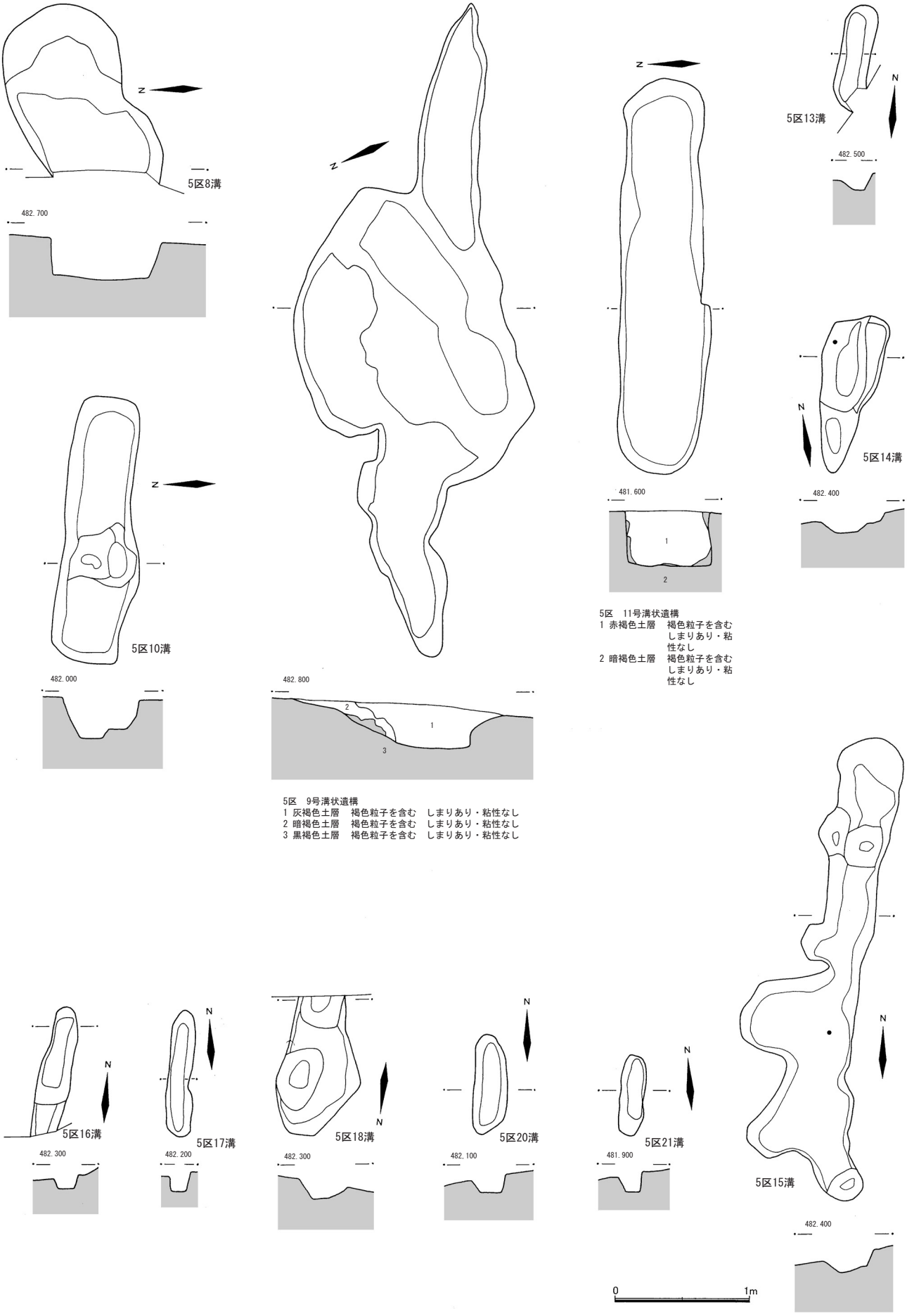
5区　6号溝状遺構
1 灰褐色土層　褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
4 黒褐色土層　褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし



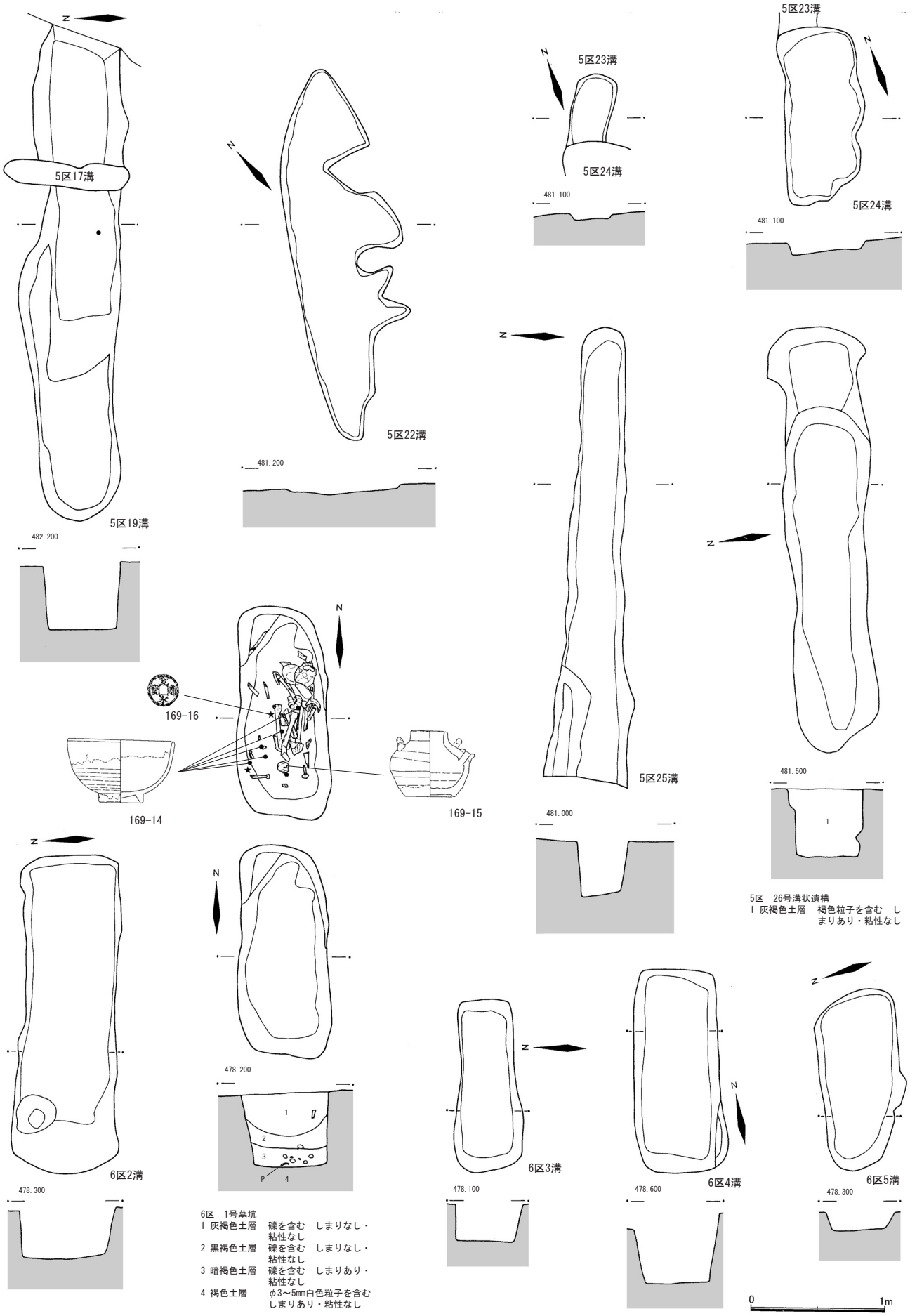


5区　7号溝状遺構
1 暗褐色土層　褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
4 黒褐色土層　褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
5 黒褐色土層　褐色粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし

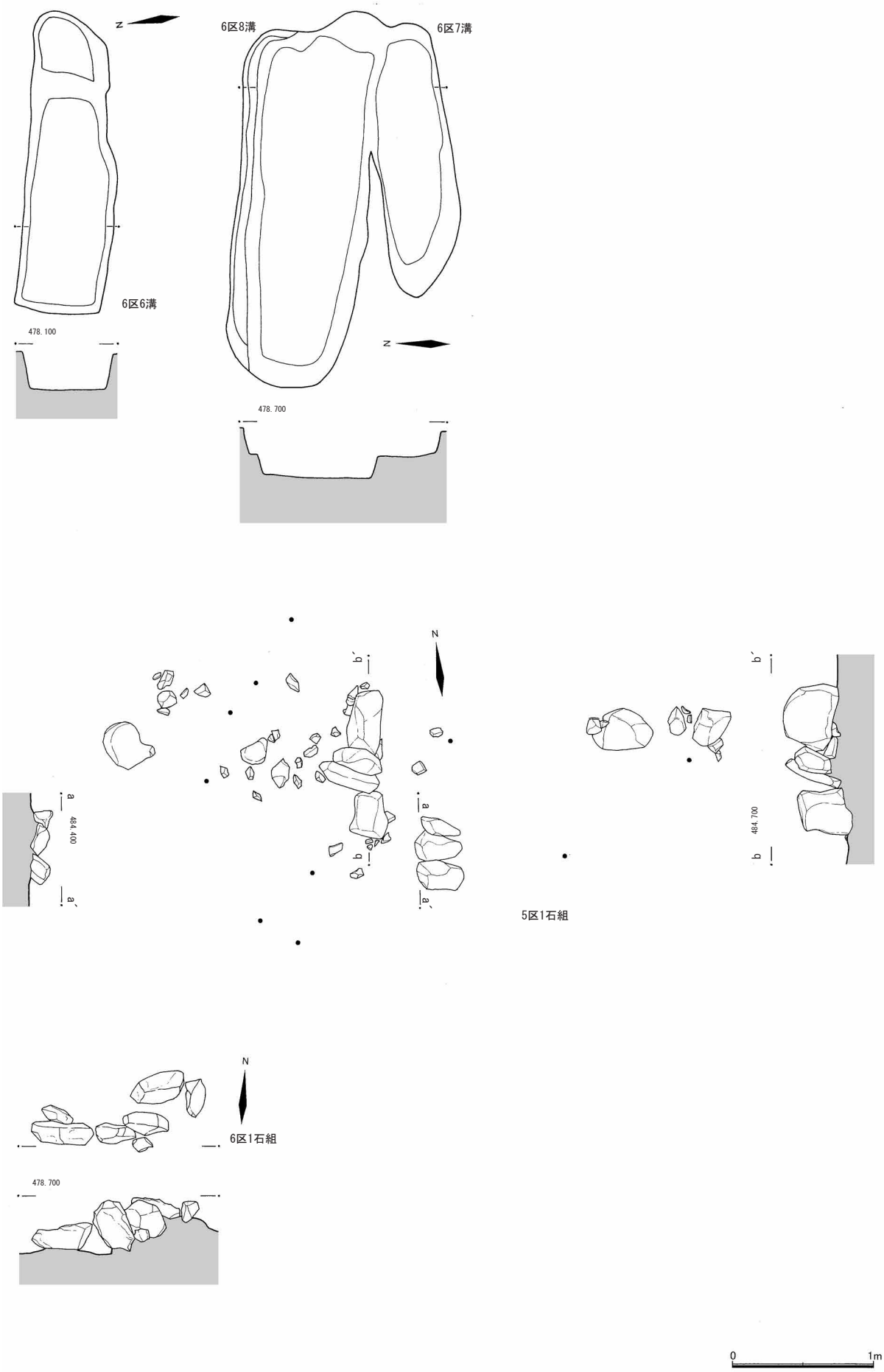
第18図　第Ⅰ面遺構図13



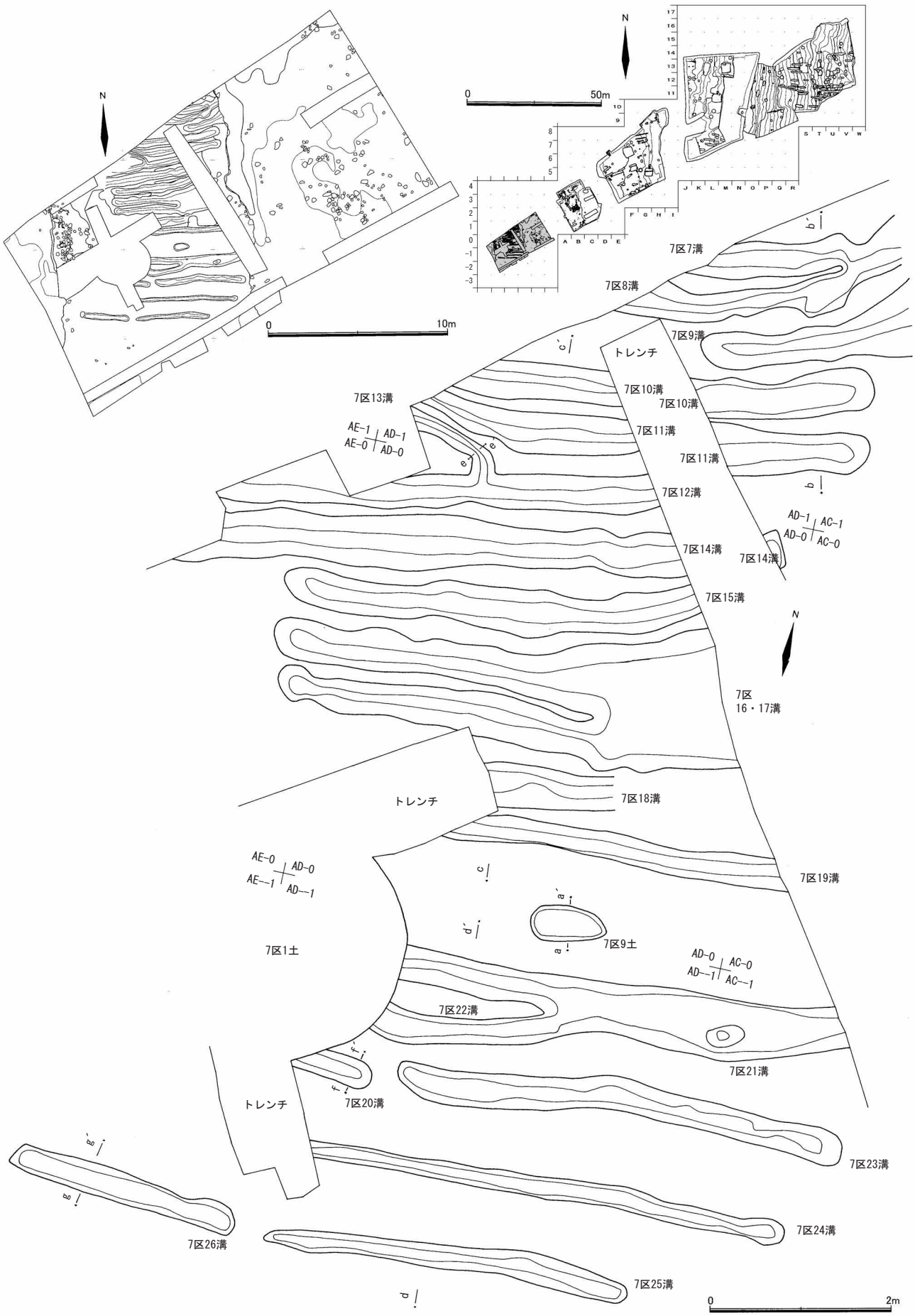
第19図　第Ⅰ面遺構図14



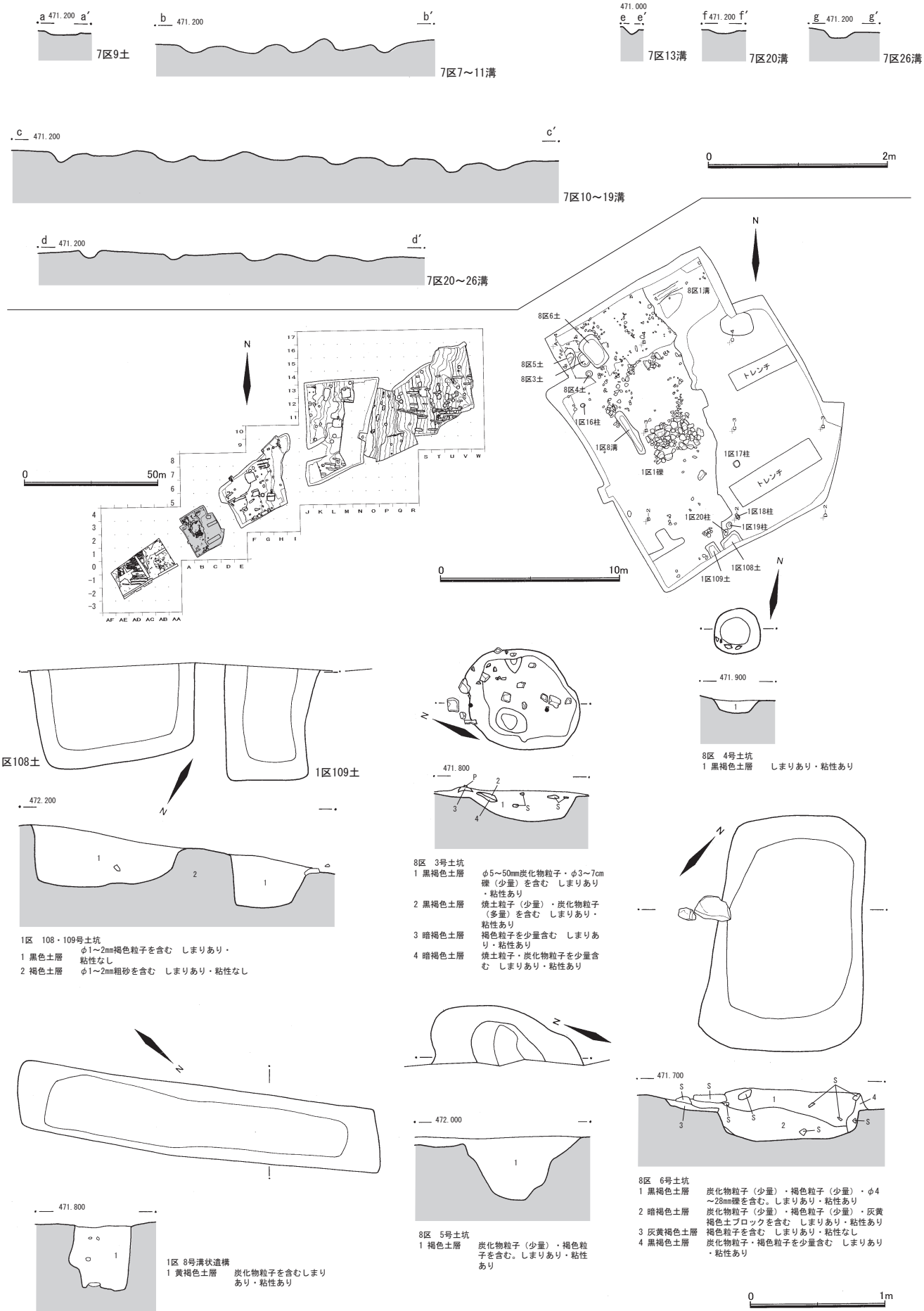
第20図　第Ⅰ面遺構図15



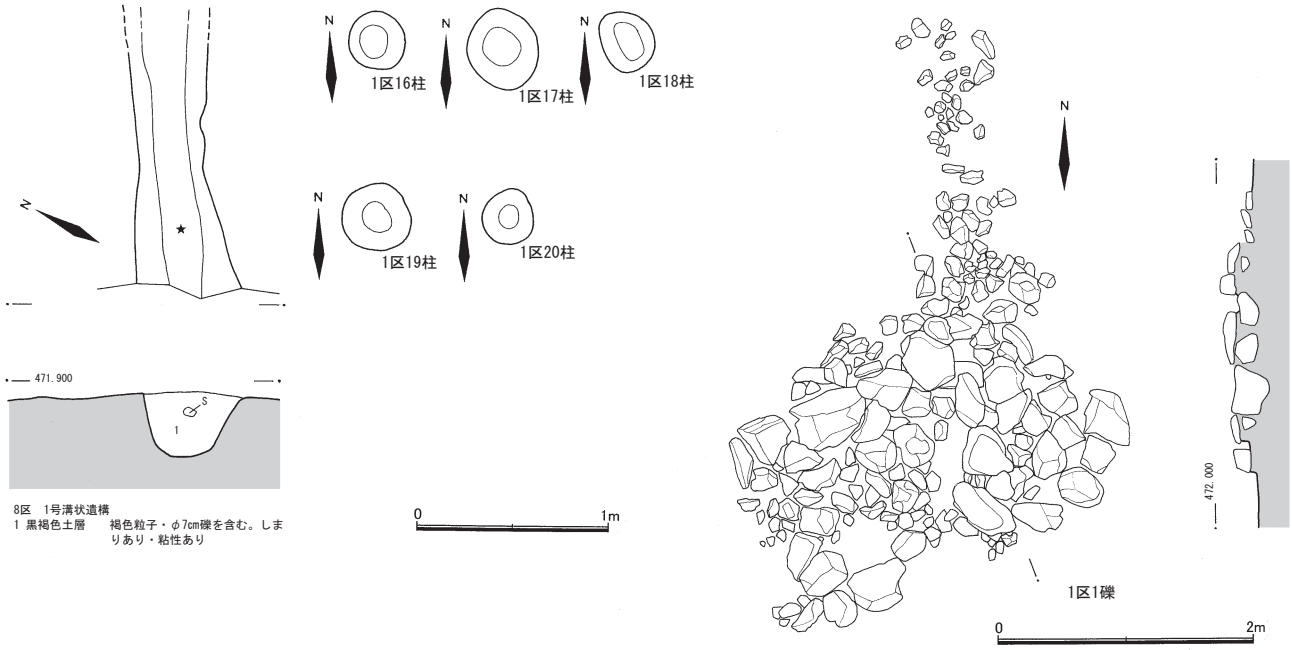
第21図　第Ⅰ面遺構図16



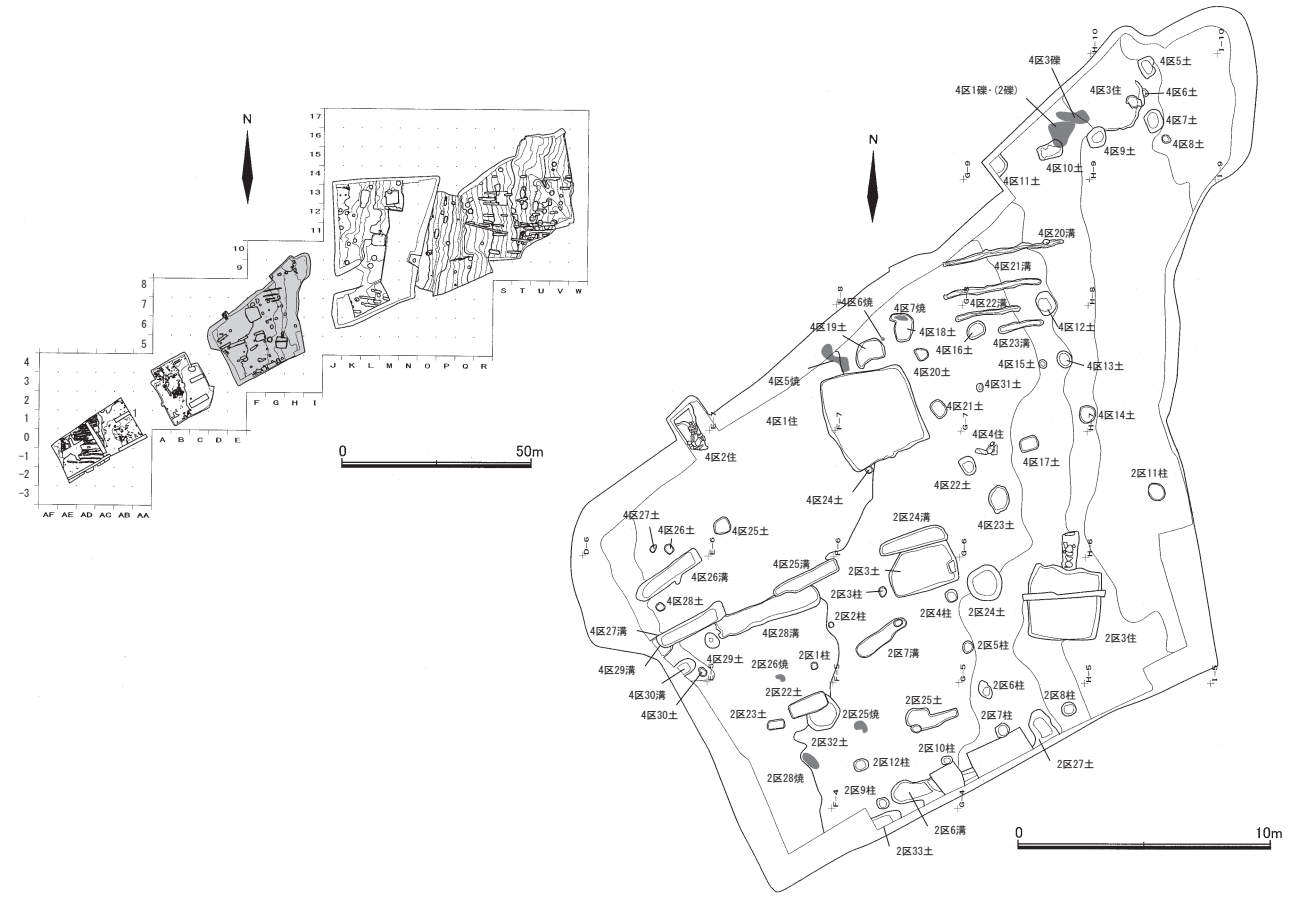
第22図　第Ⅱ面遺構図１



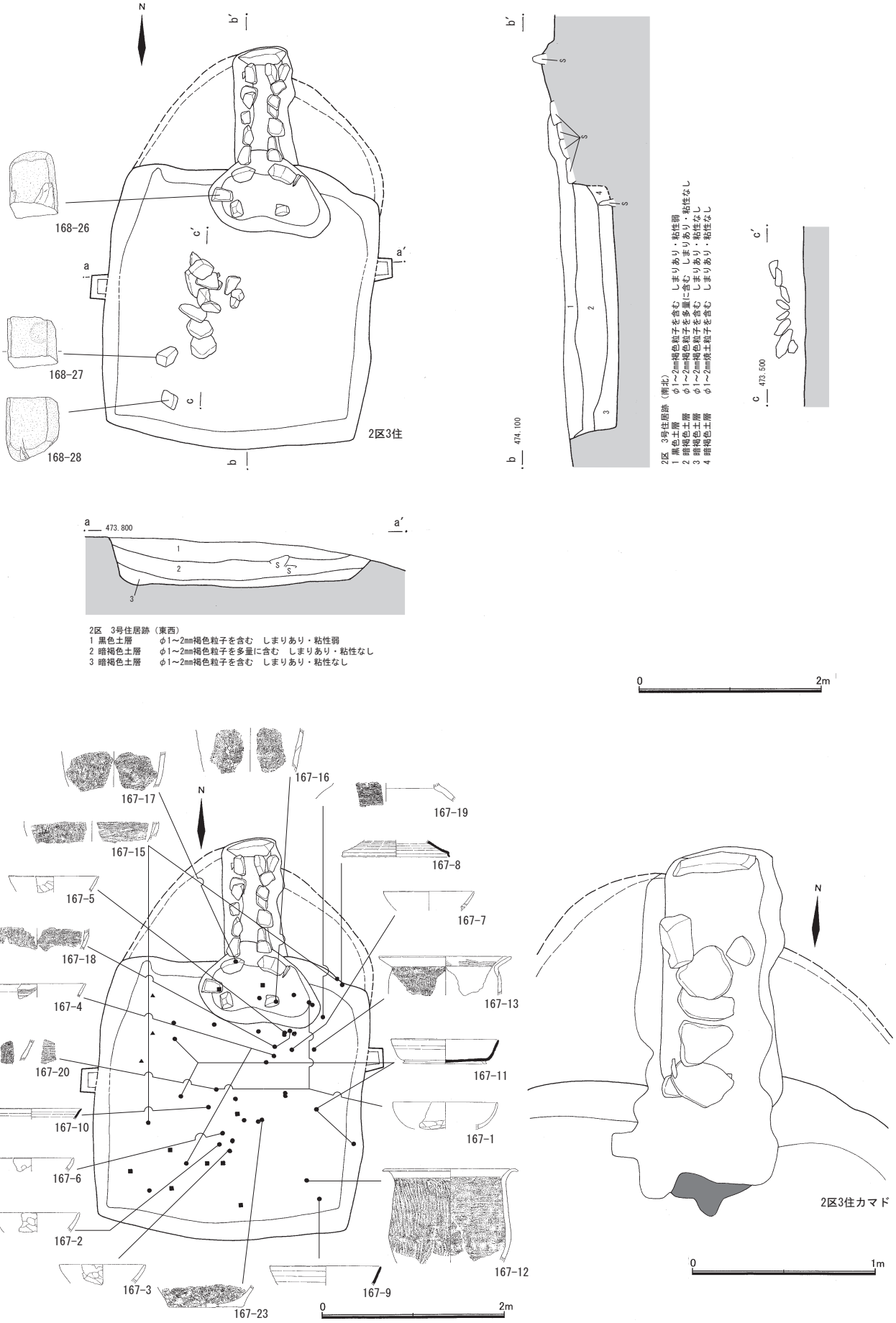
第23図　第Ⅱ面遺構図２



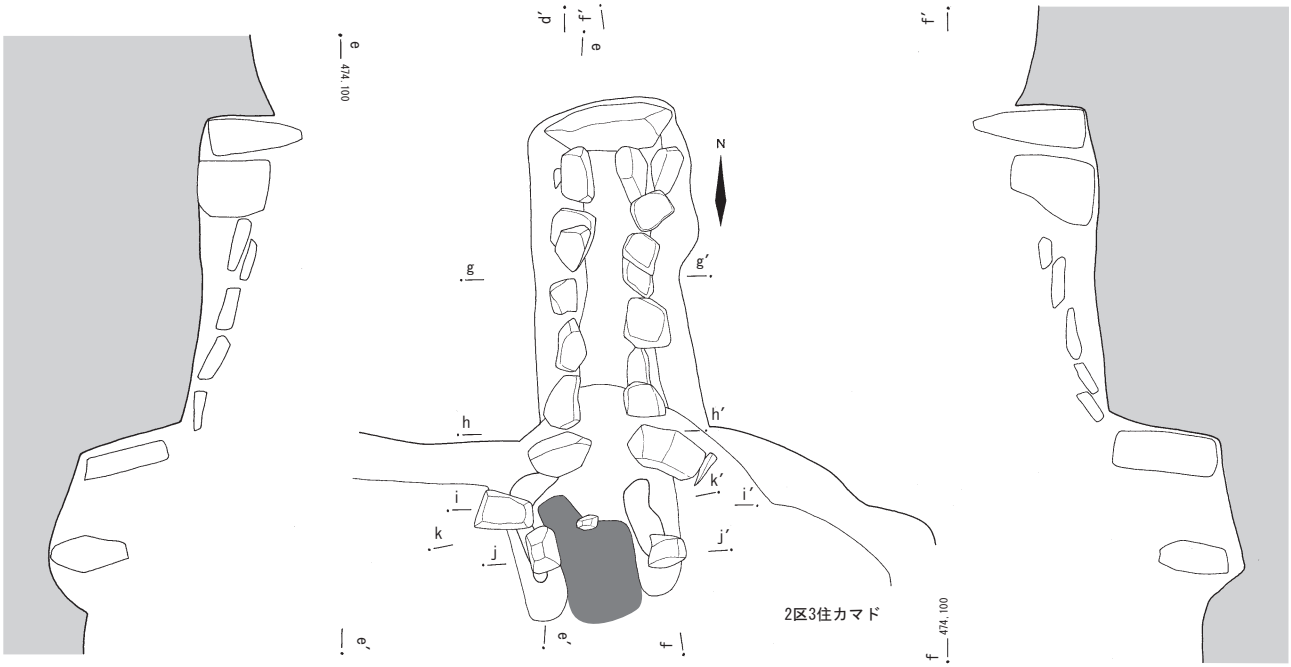
8区　1号溝状遺構
1 黒褐色土層　　褐色粒子・φ7cm礫を含む。しまりあり・粘性あり

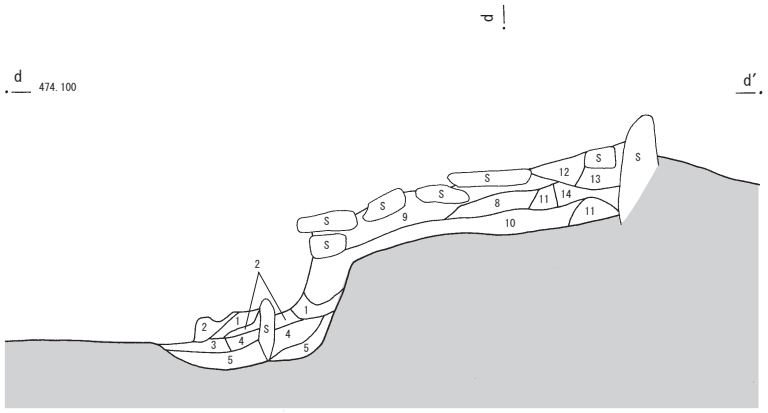


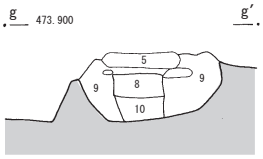
第24図　第Ⅱ面遺構図３



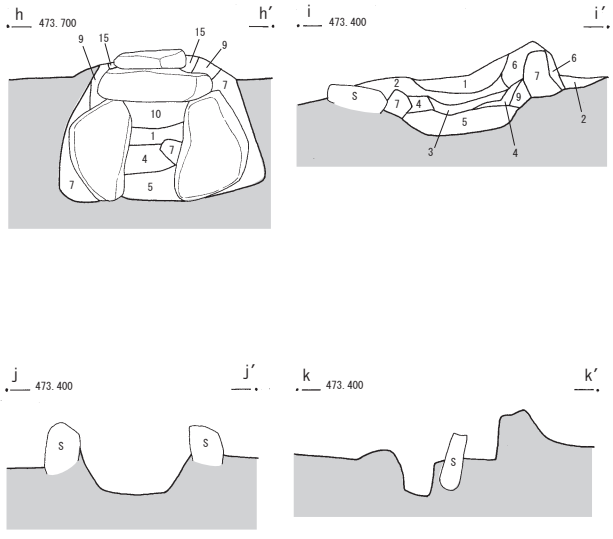
第25図　第Ⅱ面遺構図４

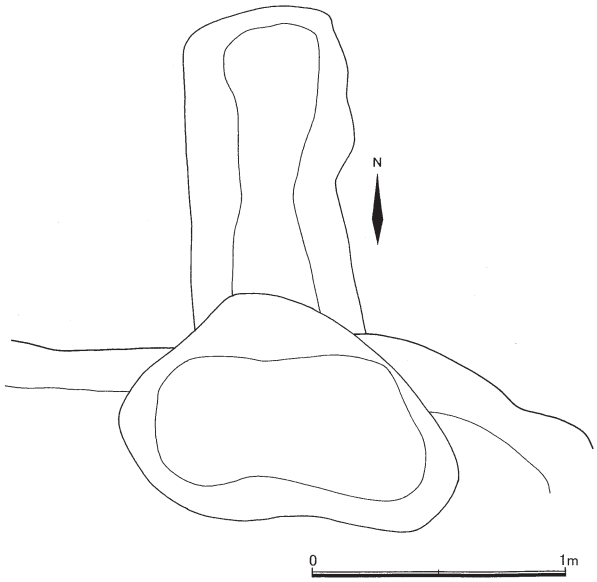




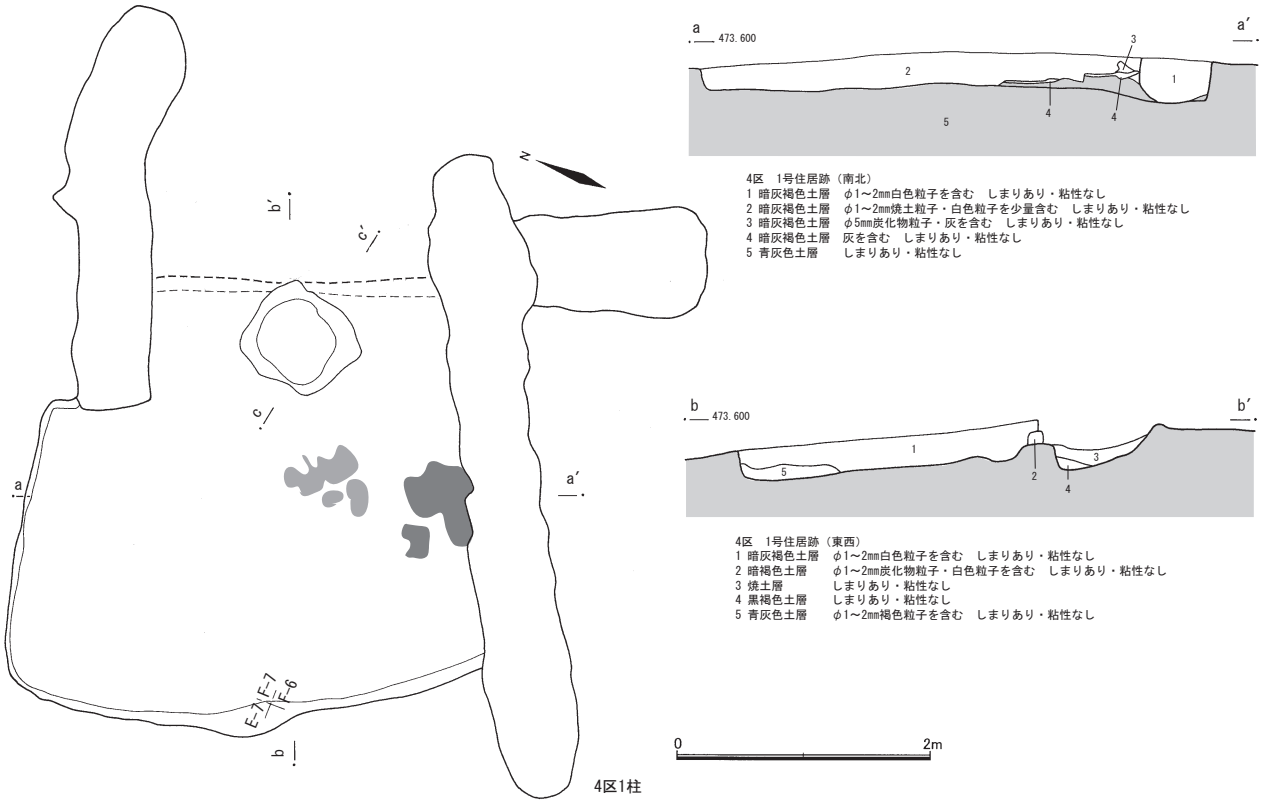


2区　3住カマド（南北）・3住カマド（東西1～3）
1 暗褐色土層　φ1cm焼土粒子を少量含む
2 褐色土層　φ5mm焼土粒子（多量）・φ2～5mm炭化物粒子（少量）を含む
3 焼土層　焼土の純層
4 褐色土層　焼土粒子を多量に含む
5 黒色土層　φ3cm焼土粒子を多量に含む
6 暗褐色土層　φ3cm黄褐色粒子を多量に含む
7 黄褐色土層　φ1～5mm白色粒子を多量に含む
8 黒褐色土層　φ5mm焼土粒子・φ1cmの褐色ブロックを多量に含む
9 黄褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を少量含む
10 黒褐色土層　φ2mm焼土粒子を含む
11 暗赤褐色土層　φ1mm焼土粒子を多量に含む
12 褐色土層　φ2mm橙色粒子を多量に含む
13 暗褐色土層　φ5mm褐色粒子を少量含む
14 暗褐色土層　φ3mm焼土粒子・φ5mm褐色粒子（少量）を含む
15 黒褐色土層



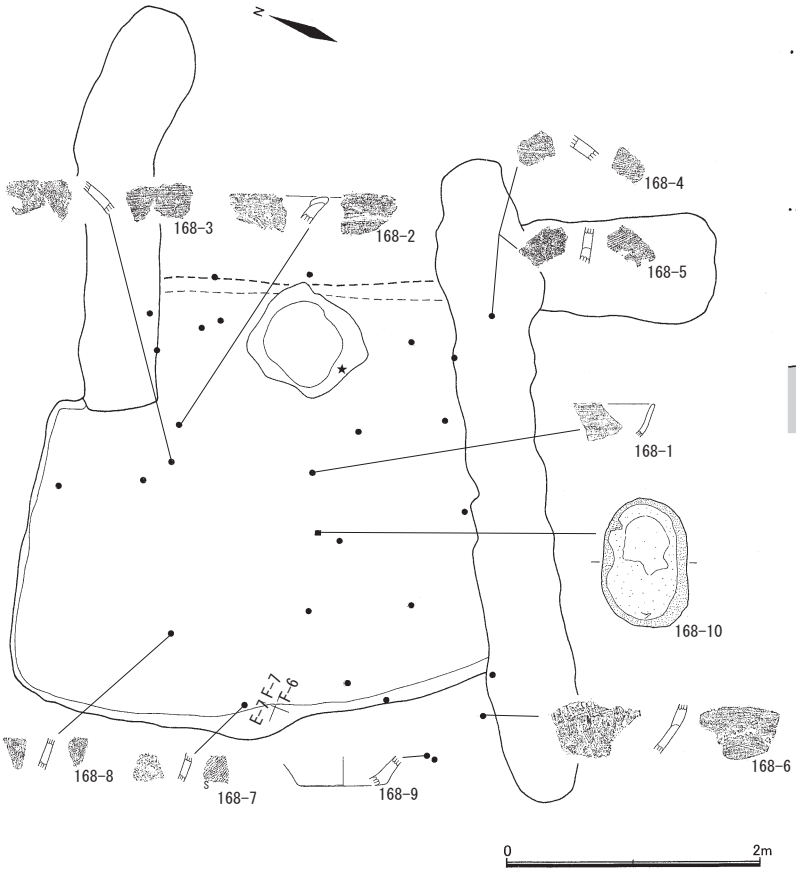


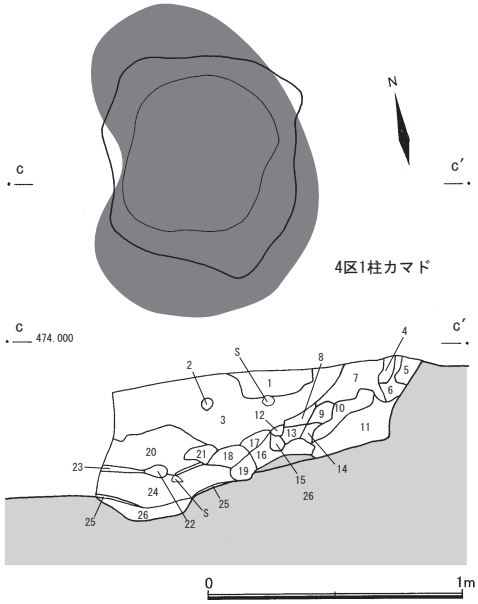
第26図　第Ⅱ面遺構図5



4区　1号住居跡（南北）
1 暗灰褐色土層　φ1～2mm白色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗灰褐色土層　φ1～2mm焼土粒子・白色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
3 暗灰褐色土層　φ5mm炭化物粒子・灰を含む　しまりあり・粘性なし
4 暗灰褐色土層　灰を含む　しまりあり・粘性なし
5 青灰色土層　　しまりあり・粘性なし

4区　1号住居跡（東西）
1 暗灰褐色土層　φ1～2mm白色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　　φ1～2mm炭化物粒子・白色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 焼土層　　しまりあり・粘性なし
4 黒褐色土層　　しまりあり・粘性なし
5 青灰色土層　　φ1～2mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし

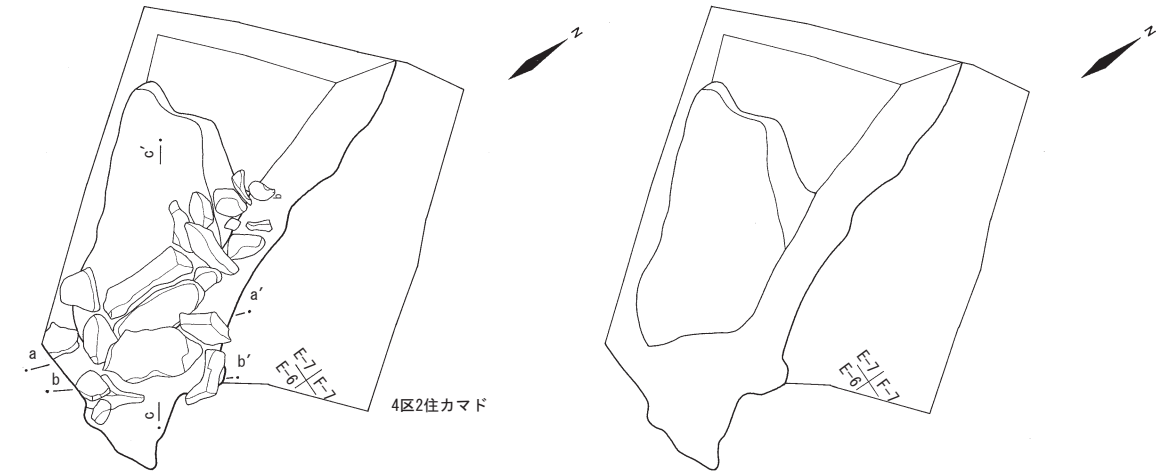


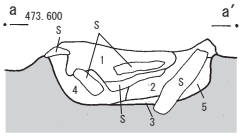


4区1柱カマド

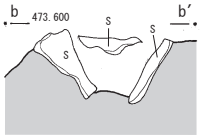
4区　1号住居跡カマド（東西）
1 暗褐色土層　φ1～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ1～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 褐色土層　　φ1～3mm焼土粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし
4 焼土層　　焼土の純層　しまりあり・粘性なし
5 暗褐色土層　φ1～3mm焼土粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし
6 暗褐色土層　φ1～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
7 暗褐色土層　φ1～5mm焼土粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし
8 暗褐色土層　φ1～6mm焼土粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし
9 暗褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
10 焼土層　　焼土の純層　しまりあり・粘性なし
11 暗褐色土層　φ1～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
12 焼土層　　焼土の純層　しまりあり・粘性なし
13 褐色土層　　φ1～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
14 暗褐色土層　しまりあり・粘性なし
15 暗褐色土層　φ1mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
16 焼土層　　暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
17 暗褐色土層　φ1～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
18 褐色土層　　φ1～3mm焼土粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし
19 暗褐色土層　φ1～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
20 褐色土層　　φ1～5mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
21 焼土層　　暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
22 暗褐色土層　しまりあり・粘性なし
23 灰白色土層　しまりなし・粘性なし
24 焼土層　　しまりあり・粘性なし
25 赤色土層　　しまりなし・粘性なし
26 暗褐色土層　φ1～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし

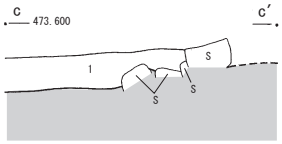
第27図　第Ⅱ面遺構図６



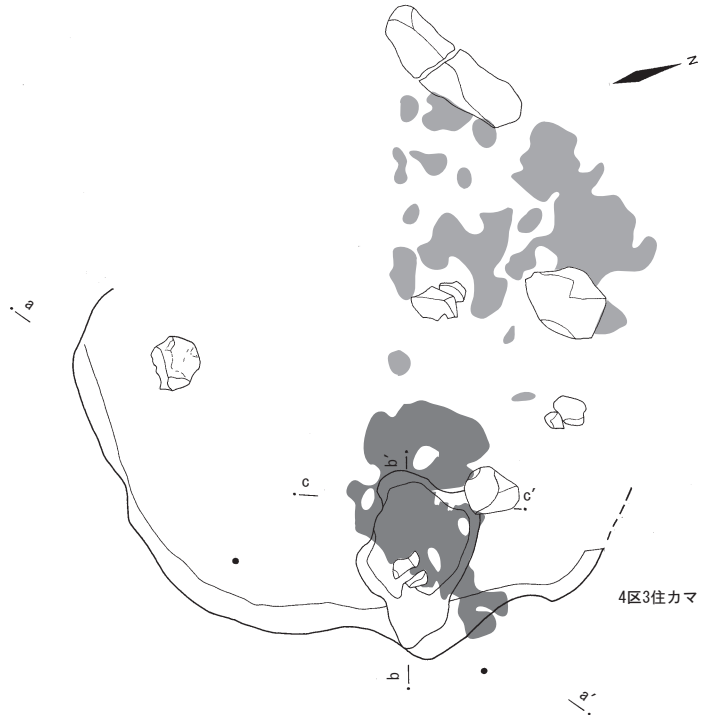


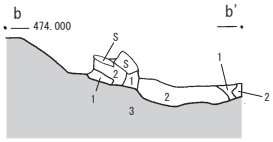
4区　2号住居跡カマド（南北）
1 暗褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 焼土層　暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
4 暗褐色土層　しまりあり・粘性なし
5 焼土層　暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし



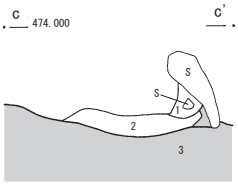


4区　2号住居跡カマド（東西）
1 暗褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし

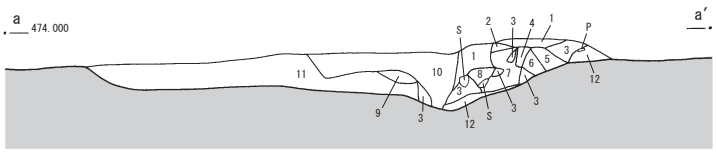




4区　3号住居跡カマド（南北）
1 黒色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 焼土層　焼土の純層　しまりあり・粘性なし
3 黒色土層　しまりあり・粘性なし

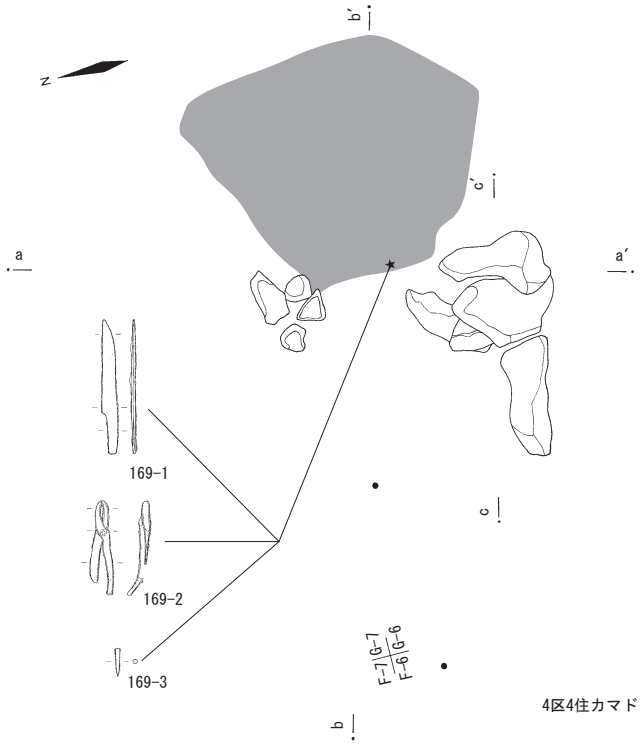


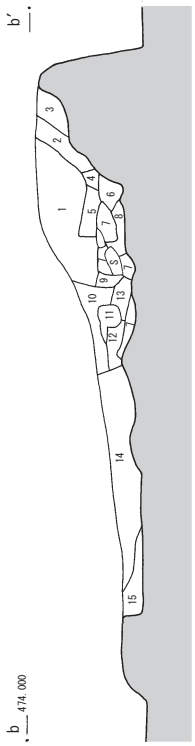
4区　3号住居跡カマド（東西）
1 黒色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 焼土層　焼土の純層　しまりあり・粘性なし
3 黒色土層　しまりあり・粘性なし



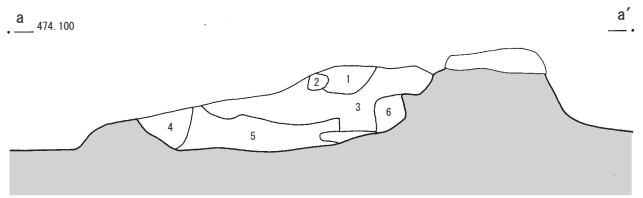
4区　3号住居跡（東西）
1 暗褐色土層　φ1～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 黒色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む　しまりなし・粘性なし
3 焼土層　しまりあり・粘性なし
4 暗褐色土層　φ1～2mm・φ2cm焼土粒子を含む　しまりなし・粘性なし
5 暗褐色土層　φ2～5mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
6 黒色土層　しまりなし・粘性なし
7 焼土層　暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
8 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりなし・粘 性なし
9 暗褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む　しまりなし・粘性なし
10 暗灰褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
11 暗灰褐色土層　黒色土ブロックを含む　しまりなし・粘性なし
12 黒色土層　礫を含む　しまりなし・粘性なし

第28図　第Ⅱ面遺構図７

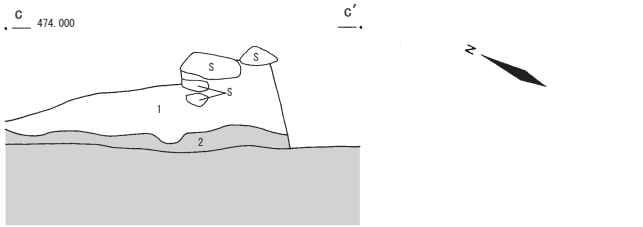




4区　4号住居跡カマド（東西1）
1 暗褐色土層　φ1～2mm焼土・灰粒子（多量）、φ1～2mm灰粒子（少量）を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ1～2mm焼土粒子、φ1～3mm灰粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　φ1～2mm灰粒子を含む　しまりあり・粘性なし
4 暗褐色土層　φ1～2mm焼土・灰粒子を含む　しまりあり・粘性なし
5 黄褐色土層　φ1～2mm焼土・灰粒子、φ2cm焼土粒子（少量）を含む　しまりあり・粘性なし
6 黄褐色土層　φ1～3mm焼土・灰粒子を含む　しまりあり・粘性なし
7 焼土層　焼土の純層　しまりあり・粘性なし
8 黒褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
9 黄褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
10 暗褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
11 黄褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
12 黄褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
13 黒褐色土層　φ 1～2mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
14 暗褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
15 暗褐色土層　しまりあり・粘性なし



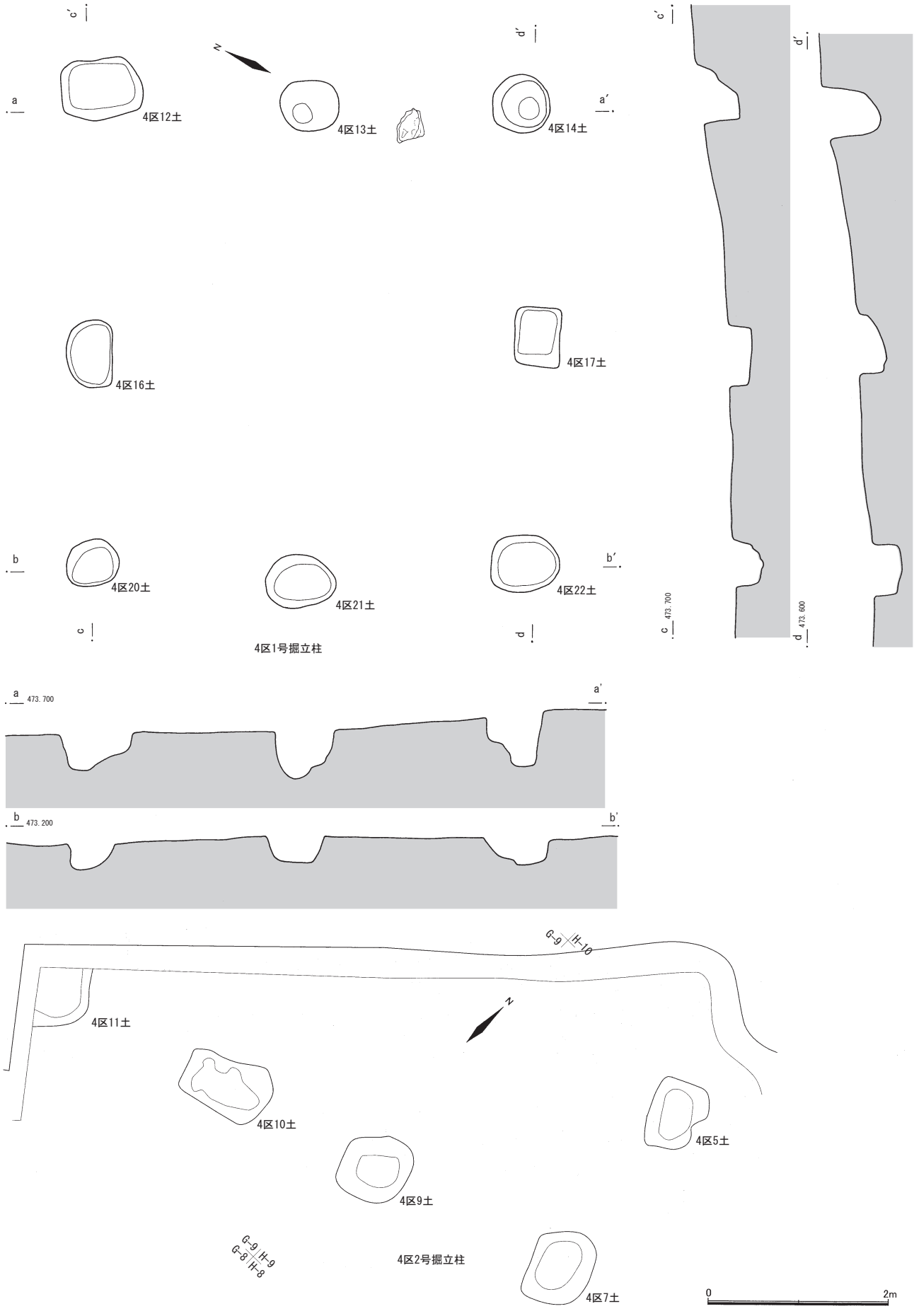
4区　4号住居跡カマド（南北）
1 暗褐色土層　φ1～5mm灰粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 灰層　しまりあり・粘性なし
3 黄褐色土層　φ1～2mm焼土粒子・灰粒子を含む　しまりあり・粘性なし
4 暗褐色土層　黄褐色土ブロック・礫を含む　しまりあり・粘性なし
5 暗褐色土層　φ1～2mm焼土粒子・灰粒子を含む　しまりあり・粘性なし
6 焼土層　焼土の純層



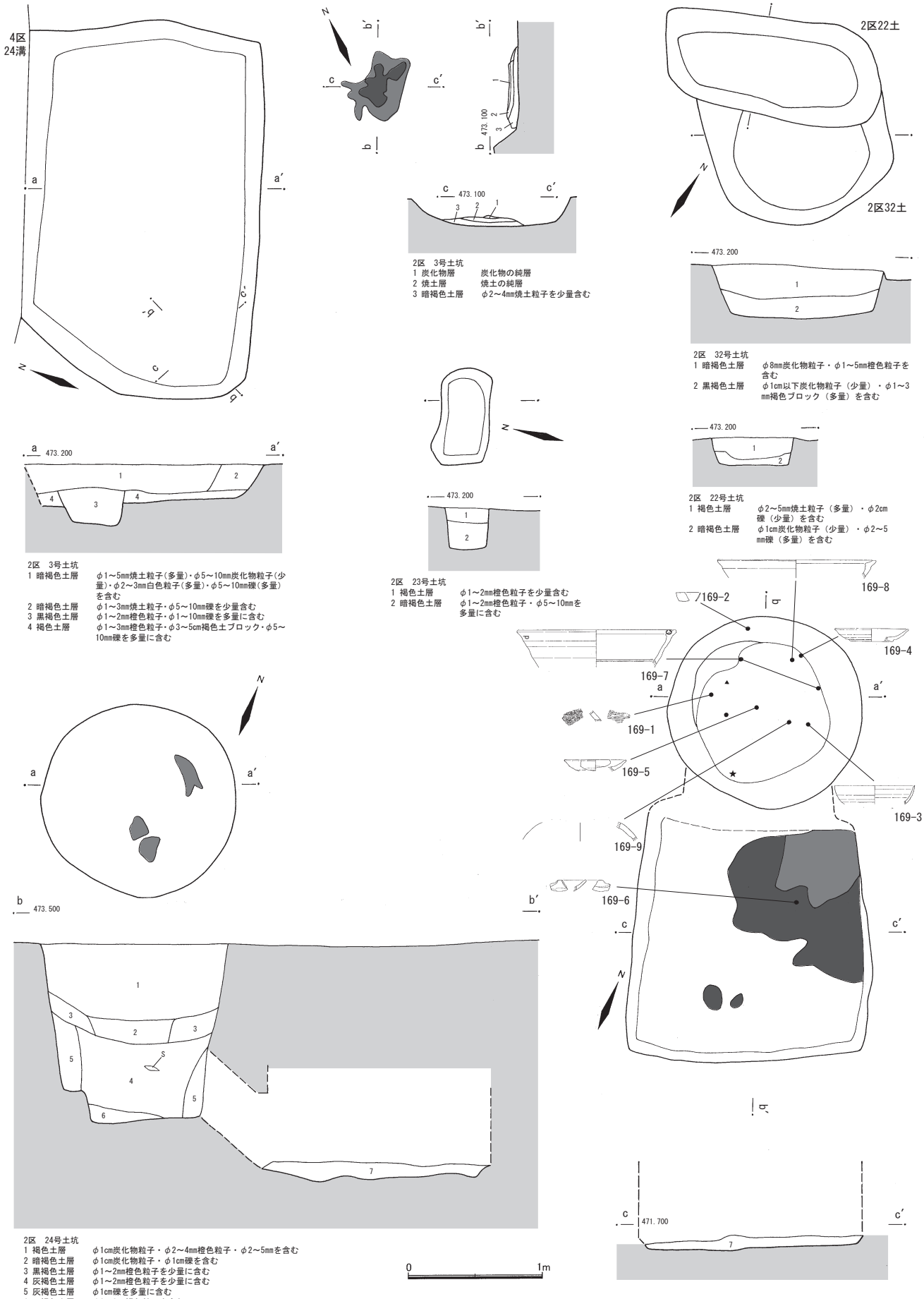
4区　4住カマド（東西2）
1 暗褐色土層　φ1～2mm焼土・白色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　しまりあり・粘性なし

2区1号掘立柱

第29図　第Ⅱ面遺構図８



第30図　第II面遺構図９



2区　3号土坑
1 炭化物層　炭化物の純層
2 焼土層　焼土の純層
3 暗褐色土層　φ2～4mm焼土粒子を少量含む

2区　32号土坑
1 暗褐色土層　φ8mm炭化物粒子・φ1～5mm橙色粒子を含む
2 黒褐色土層　φ1cm以下炭化物粒子（少量）・φ1～3mm褐色ブロック（多量）を含む

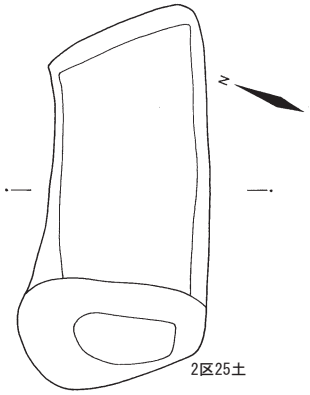
2区　22号土坑
1 褐色土層　φ2～5mm焼土粒子（多量）・φ2cm礫（少量）を含む
2 暗褐色土層　φ1cm炭化物粒子（少量）・φ2～5mm礫（多量）を含む

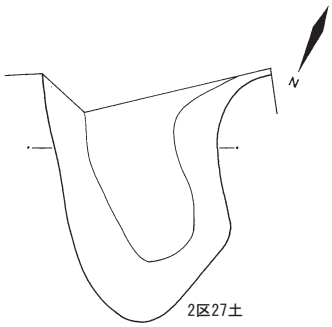
2区　3号土坑
1 暗褐色土層　φ1～5mm焼土粒子(多量)・φ5～10mm炭化物粒子(少量)・φ2～3mm白色粒子(多量)・φ5～10mm礫(多量)を含む
2 暗褐色土層　φ1～3mm焼土粒子・φ5～10mm礫を少量含む
3 黒褐色土層　φ1～2mm橙色粒子・φ1～10mm礫を多量に含む
4 褐色土層　φ1～3mm橙色粒子・φ3～5cm褐色土ブロック・φ5～10mm礫を多量に含む

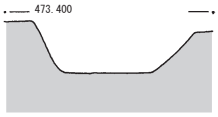
2区　23号土坑
1 褐色土層　φ1～2mm橙色粒子を少量含む
2 暗褐色土層　φ1～2mm橙色粒子・φ5～10mmを多量に含む

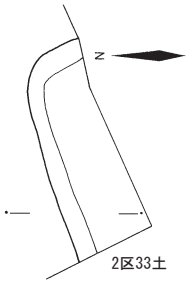
2区　24号土坑
1 褐色土層　φ1cm炭化物粒子・φ2～4mm橙色粒子・φ2～5mmを含む
2 暗褐色土層　φ1cm炭化物粒子・φ1cm礫を含む
3 黒褐色土層　φ1～2mm橙色粒子を少量に含む
4 灰褐色土層　φ1～2mm橙色粒子を少量に含む
5 灰褐色土層　φ1cm礫を多量に含む
6 灰褐色土層　φ2～3cm褐色粒子を含む
7 暗褐色土層

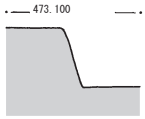
第31図　第Ⅱ面遺構図10

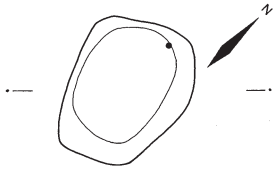


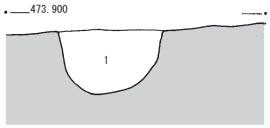




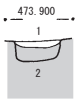




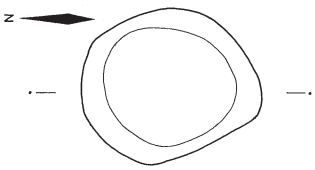


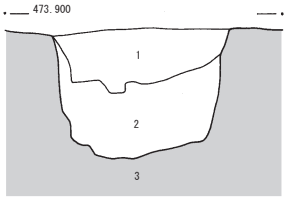


4区　5号土坑
1 黒褐色土層　礫・φ1～2mm白色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし

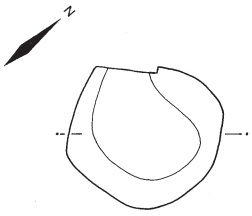


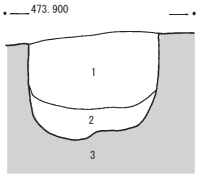
4区　6号土坑
1 暗褐色土層　φ1mm焼土粒子を含むしまりあり・粘性なし
2 褐色土層　φ1～2mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし



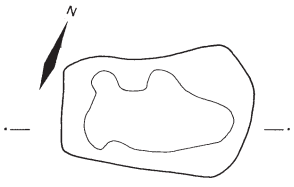


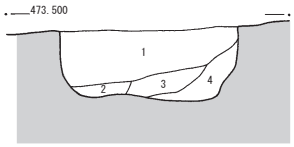
4区　7号土坑
1 暗灰褐色土層　褐色土ブロックを含むしまりなし・粘性なし
2 黒褐色土層　礫を含む　しまりあり・粘性なし
3 明褐色土層　φ1～2mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし



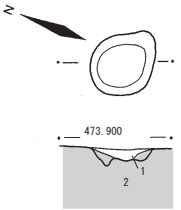


4区　9号土坑
1 黒褐色土層　しまりあり・粘性なし
2 褐色土層　φ1～2mm褐色粒子を含むしまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　しまりあり・粘性なし

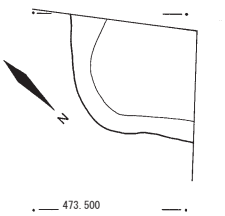




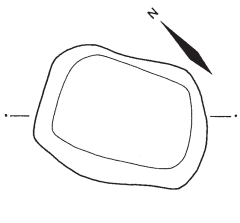
4区　10号土坑
1 黒褐色土層　礫を含む　しまりなし・粘性なし
2 暗褐色土層　φ1～2mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　φ1～2mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
4 青灰色土層　しまりあり・粘性なし



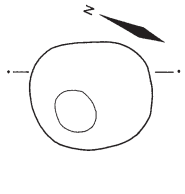
4区　8号土坑
1 黒褐色土層　礫を含む　しまりあり・粘性なし
2 明褐色土層　φ1～2mm褐色粒子を含むしまりあり・粘性なし



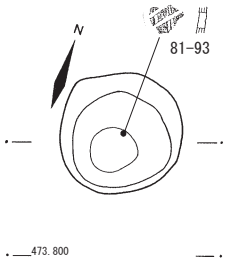
4区　11号土坑
1 明褐色土層　φ1～2mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　しまりあり・粘性なし
3 黒褐色土層　しまりなし・粘性なし



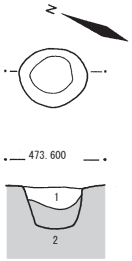
4区　12号土坑
1 暗褐色土層　φ1～2mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
2 青灰色土層　φ1～2mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし



4区　13号土坑
1 暗褐色土層　φ1～2mm褐色粒子・暗灰褐色土ブロックを少量含む
2 褐色土層　φ1～2mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし

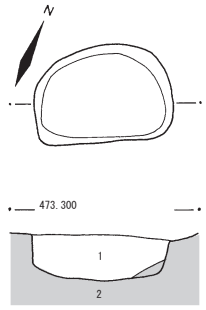


4区　14号土坑
1 黒褐色土層　φ1～2mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし

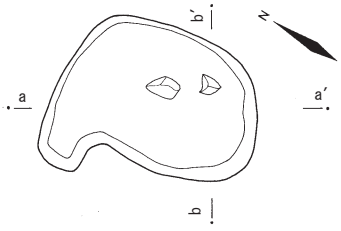


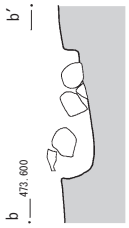
4区　15号土坑
1 暗褐色土層　φ1～2mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
2 青灰色土層　φ1～2mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし

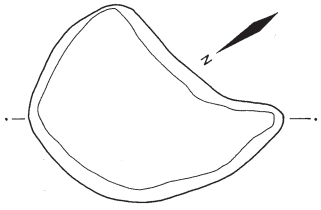
第32図　第Ⅱ面遺構図11

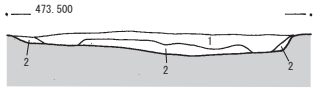


4区　16号土坑
1 黒褐色土層　礫を含む　しまりあり・粘性なし
2 青灰色土層　φ1～2mm褐色粒子を含むしまりあり・粘性なし

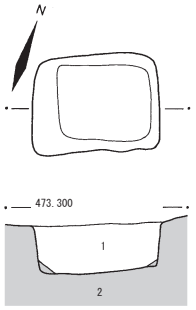




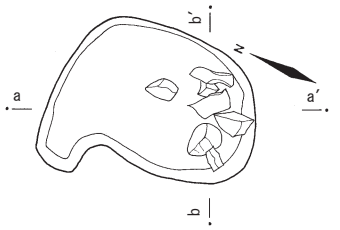


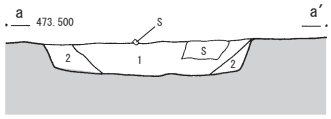


4区　19号土坑
1 暗灰褐色土層　しまりあり・粘性なし
2 黒褐色土層　しまりあり・粘性なし

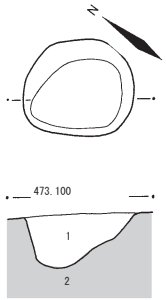


4区　17号土坑
1 黒褐色土層　礫を含む　しまりあり・粘性なし
2 青灰色土層　φ1～2mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし

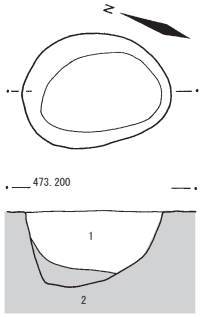




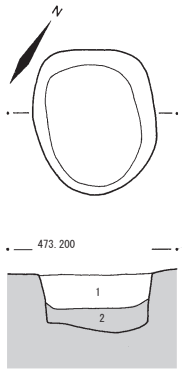
4区　18号土坑
1 暗灰褐色土層　しまりあり・粘性なし
2 黒褐色土層　しまりあり・粘性なし



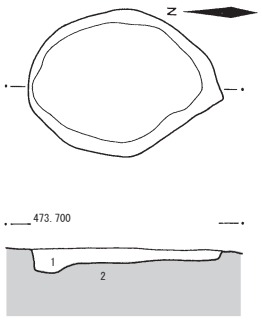
4区　20号土坑
1 暗灰褐色土層　礫を含む　しまりなし・粘性なし
2 青灰色土層　φ1～2mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし



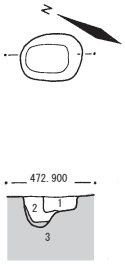
4区　21号土坑
1 黒褐色土層　礫を含む　しまりなし・粘性なし
2 青灰色土層　φ1～2mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし



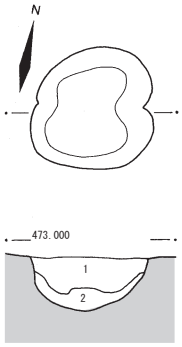
4区　22号土坑
1 黒褐色土層　礫を含む　しまりあり・粘性なし
2 青灰色土層　φ1～2mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし



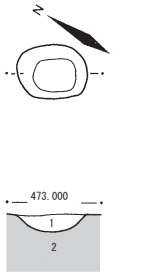
4区　23号土坑
1 暗灰褐色土層　φ1～2mm白色粒子を含むしまりあり・粘性なし
2 黒褐色土層　しまりあり・粘性なし



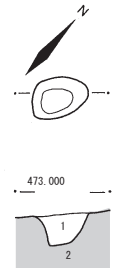
4区　24号土坑
1 暗褐色土層　φ1～2mm褐色粒子・φ2～3cm褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
2 黒褐色土層　しまりなし・粘性なし
3 青灰色土層　φ1～2mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし



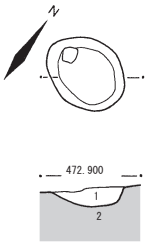
4区　25号土坑
1 暗褐色土層　φ1～2mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 青灰色土層　φ1～2mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし



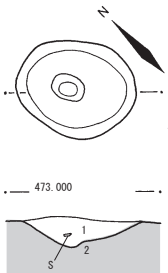
4区　26号土坑
1 暗灰褐色土層　しまりあり・粘性なし
2 青灰色土層　φ1～2mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし



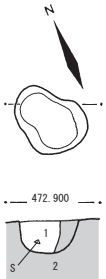
4区　27号土坑
1 暗灰褐色土層　φ1～2mm白色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
2 青灰色土層　φ1～2mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし



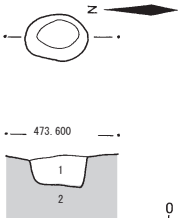
4区　28号土坑
1 暗灰褐色土層　しまりあり・粘性なし
2 青灰色土層　φ1～2mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし



4区　29号土坑
1 暗灰褐色土層　φ1～2mm褐色粒子を含むしまりあり・粘性なし
2 青灰色土層　φ1～2mm褐色粒子を含むしまりあり・粘性なし

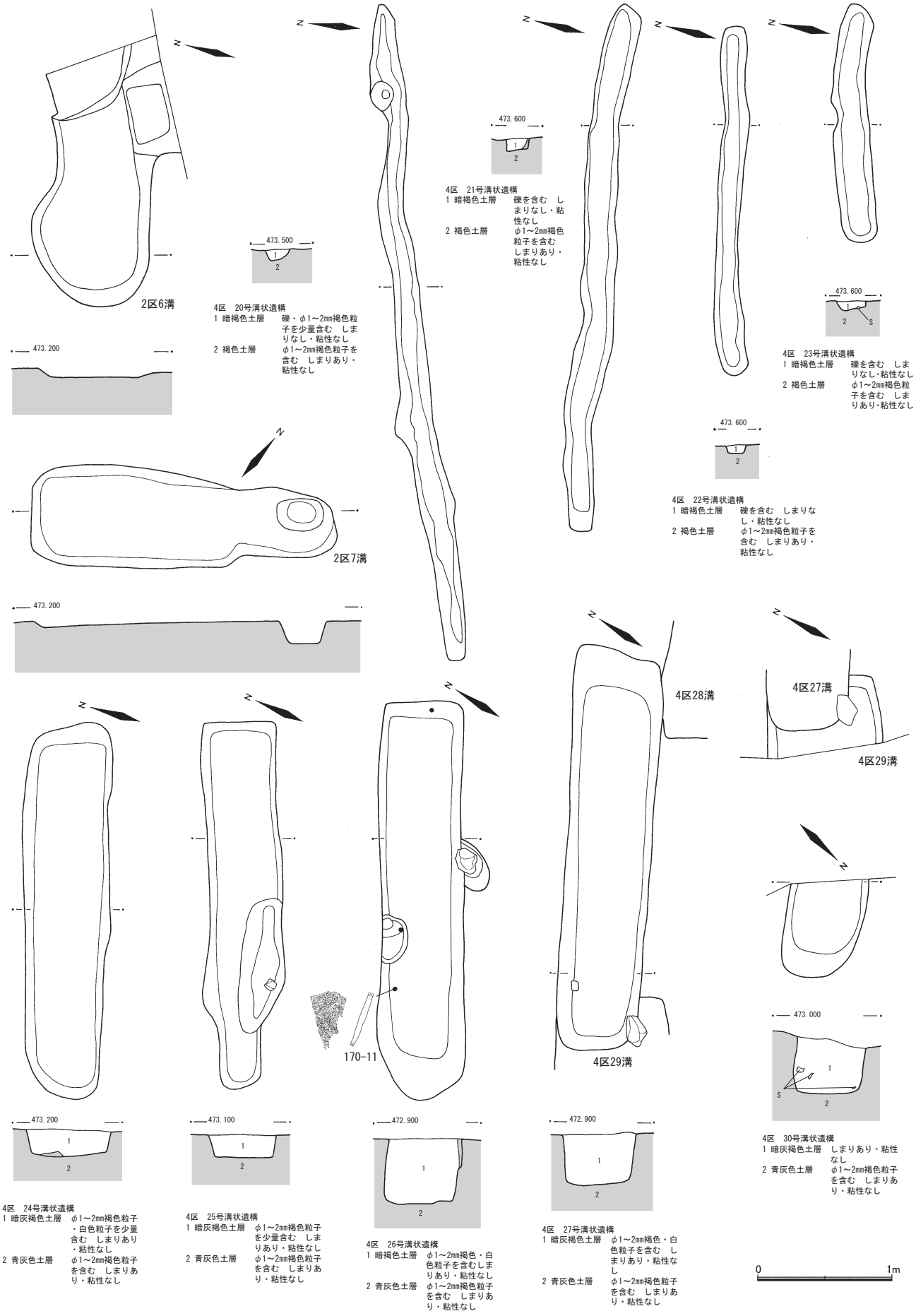


4区　30号土坑
1 暗灰褐色土層　しまりあり・粘性なし
2 青灰色土層　φ1～2mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし

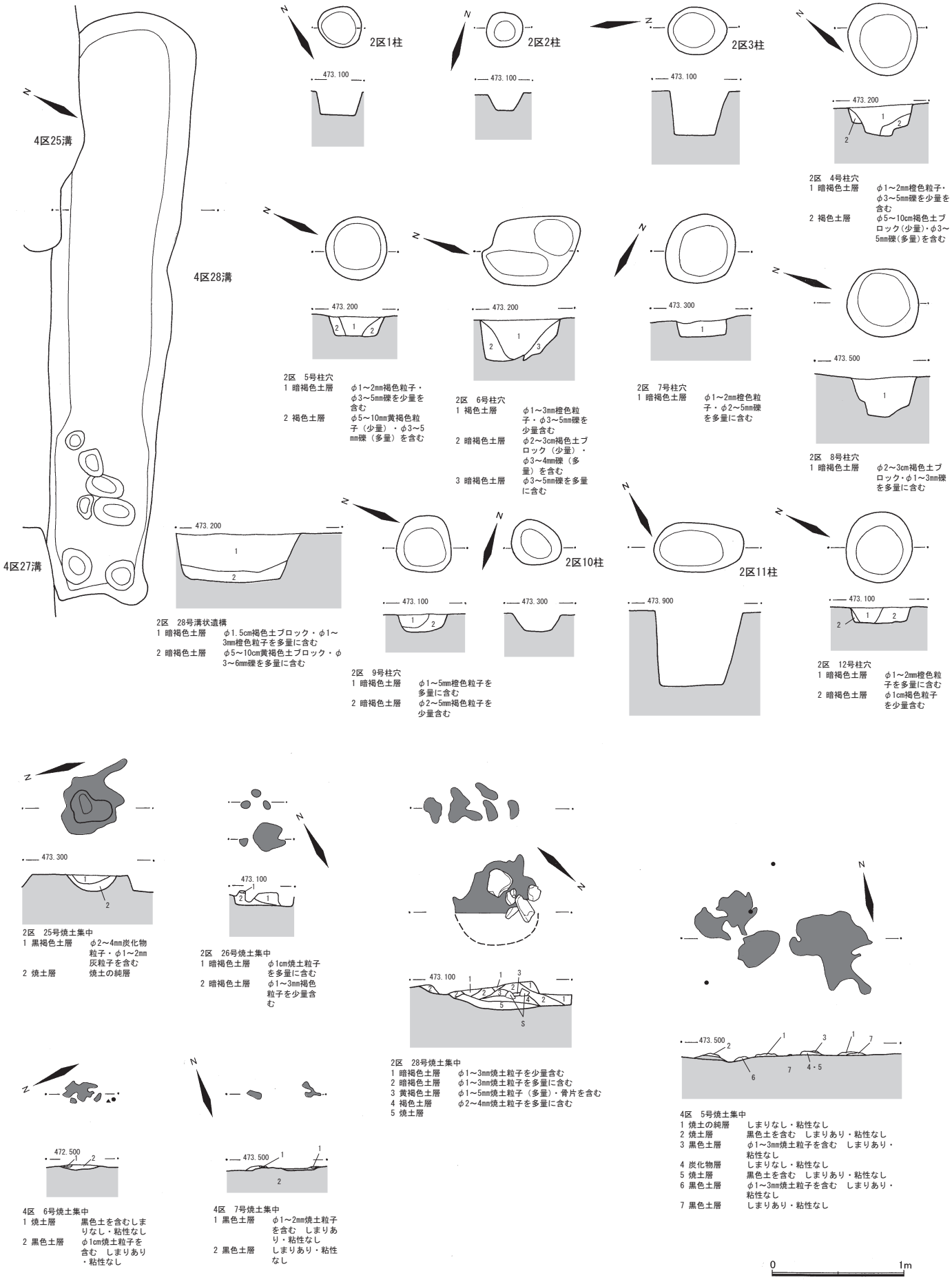


4区　31号土坑
1 暗灰褐色土層　しまりあり・粘性なし

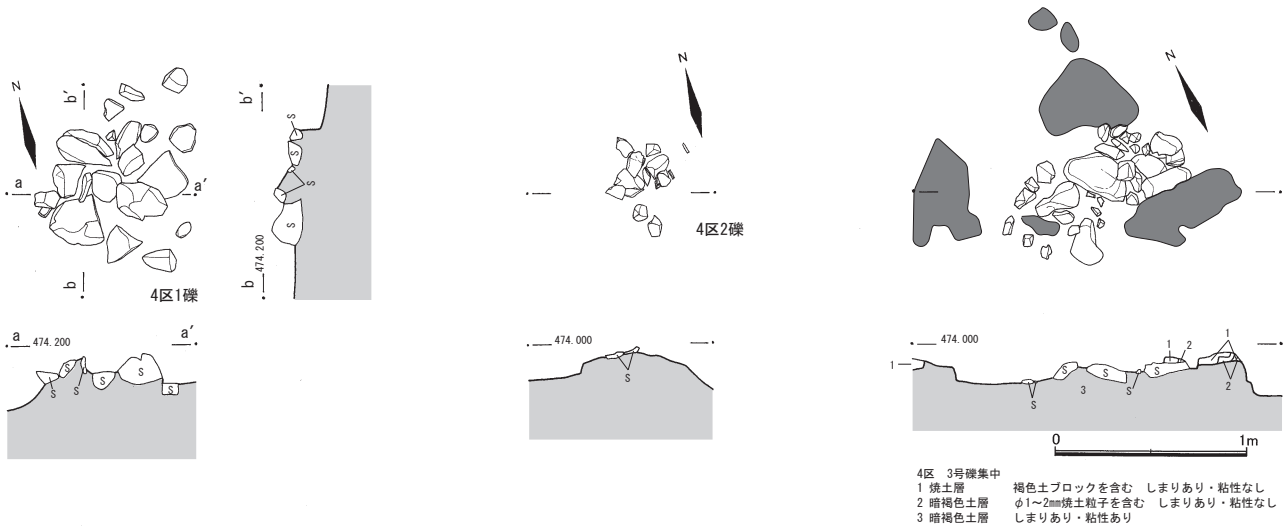
第33図　第Ⅱ面遺構図12

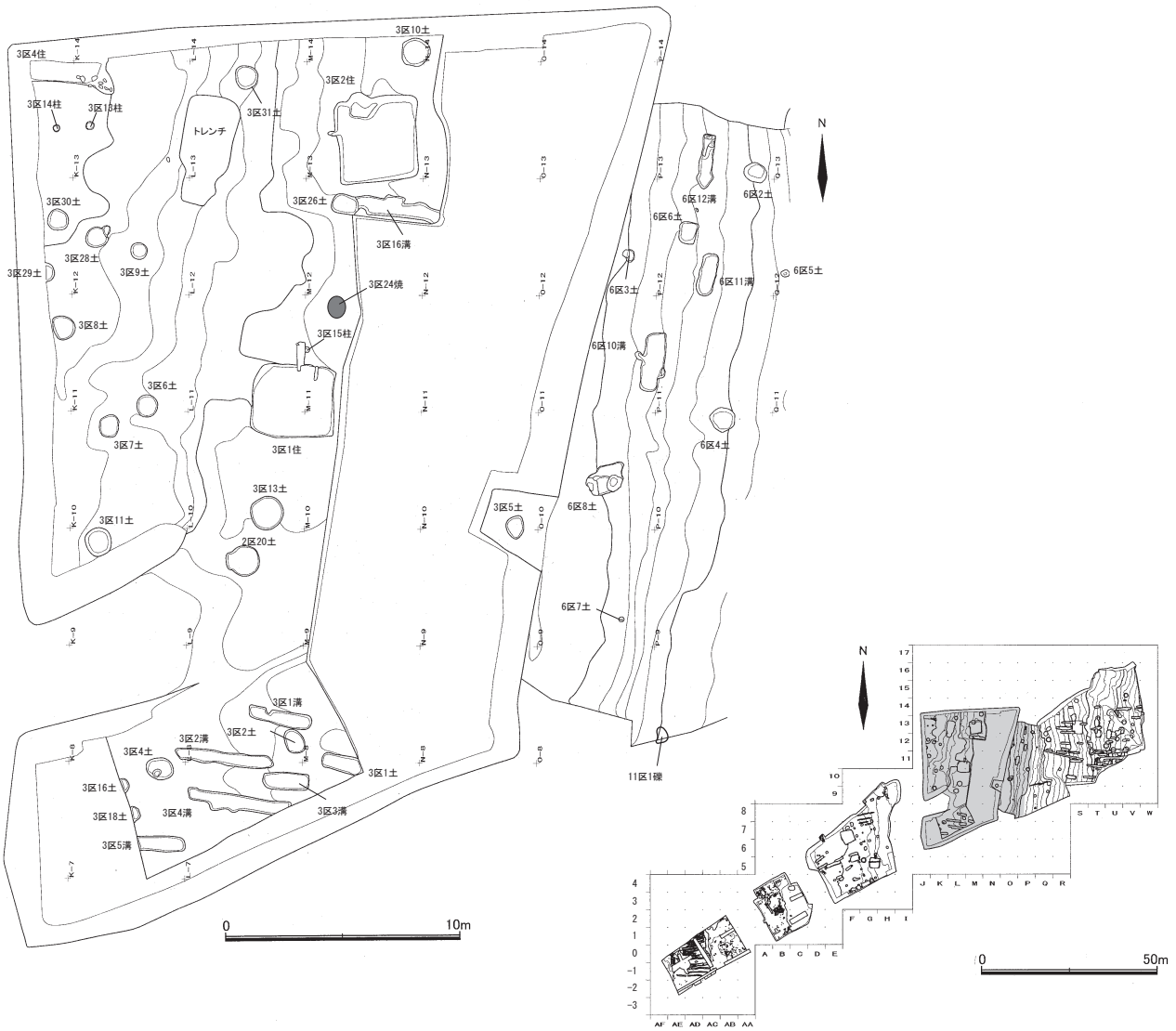


第34図　第Ⅱ面遺構図13

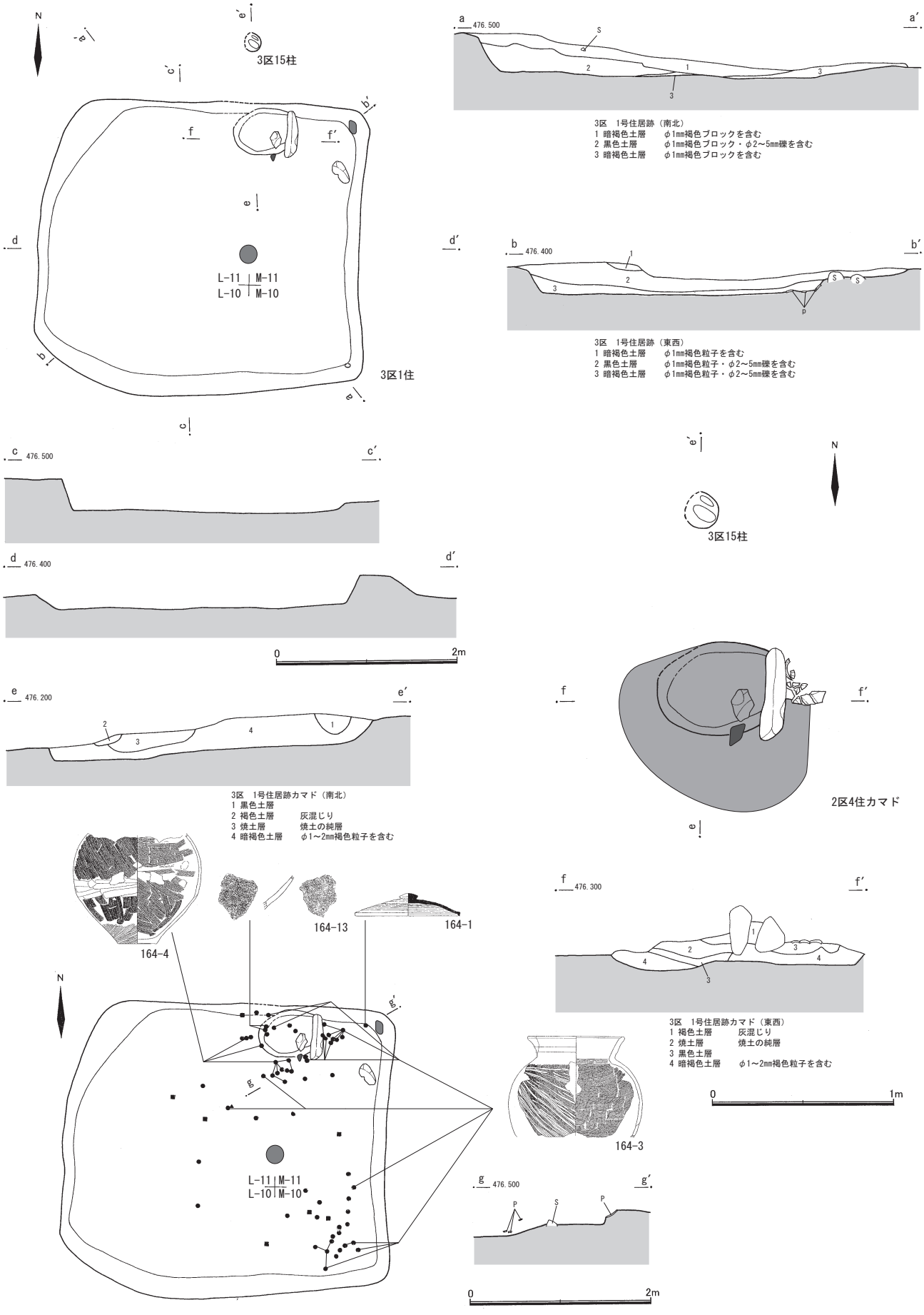


第35図　第Ⅱ面遺構図14

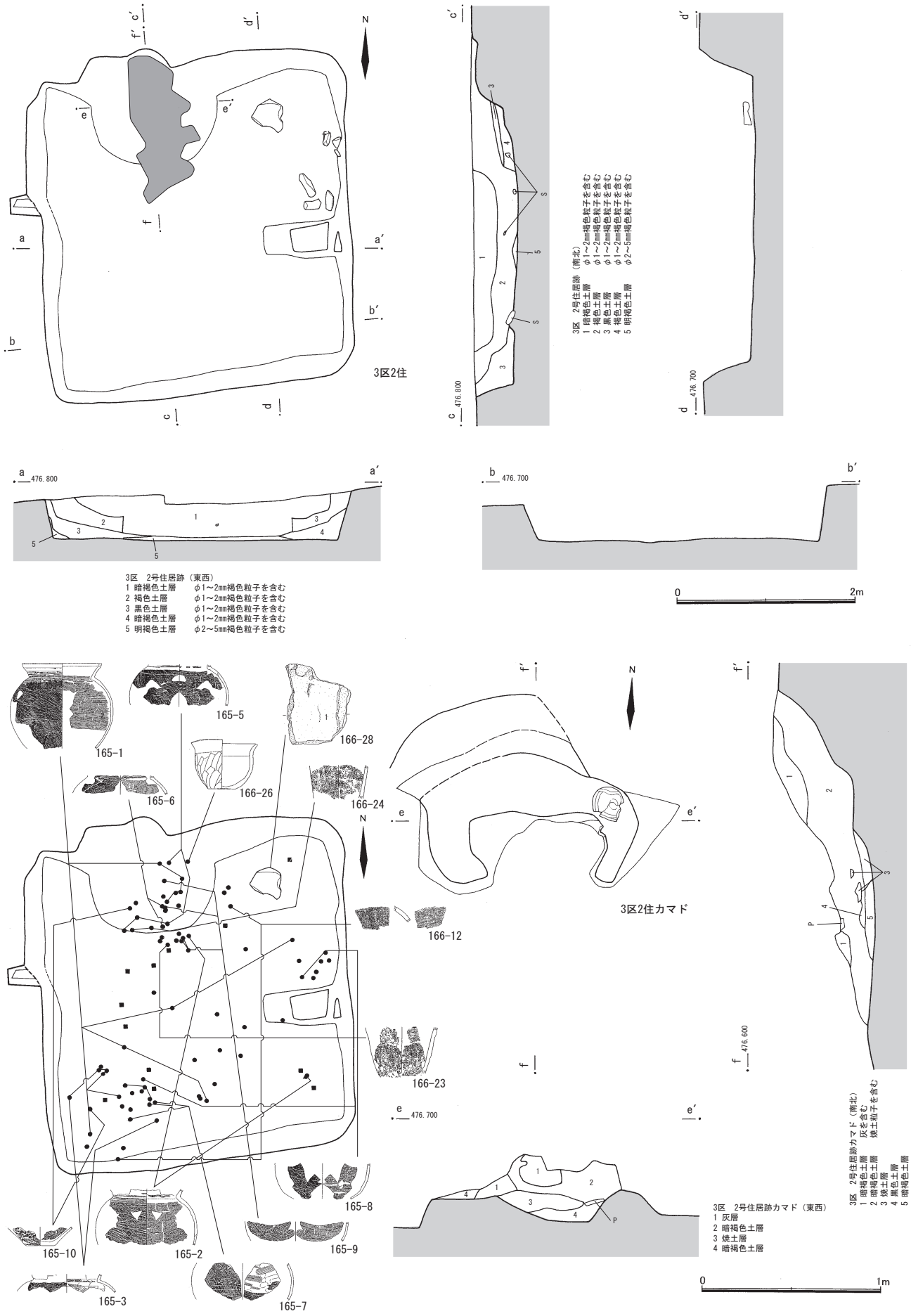




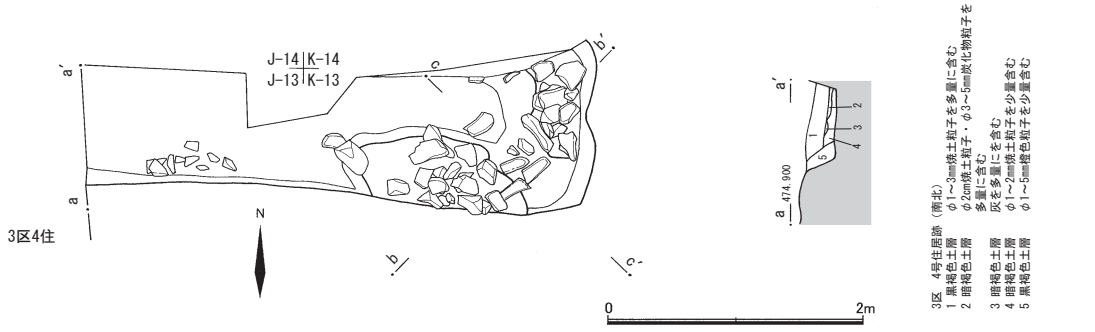
第36図　第Ⅱ面遺構図15

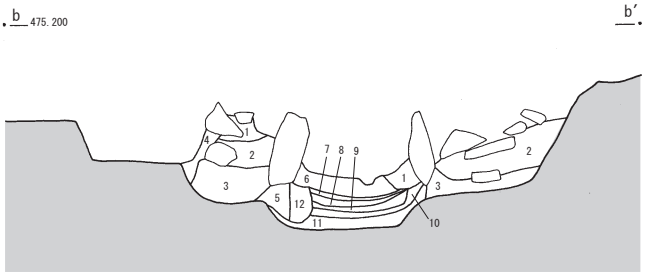


第37図　第Ⅱ面遺構図16

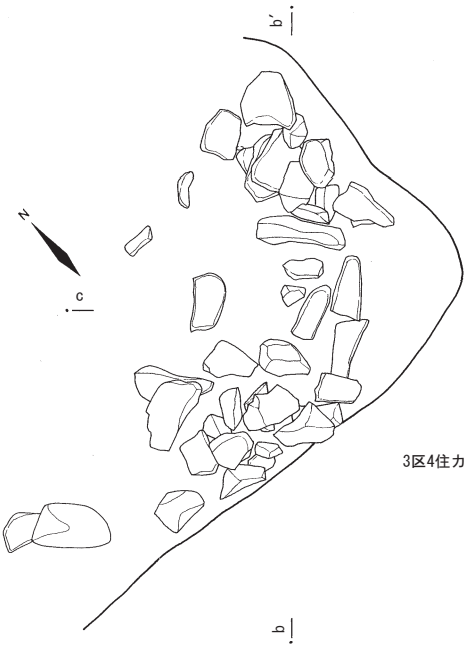


第38図　第Ⅱ面遺構図17

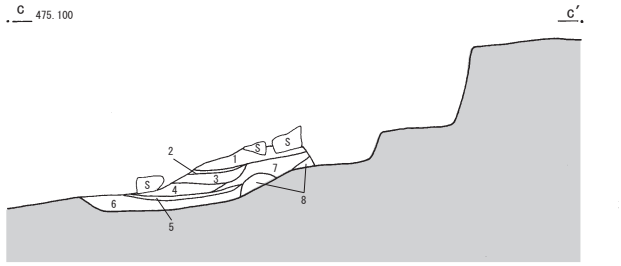




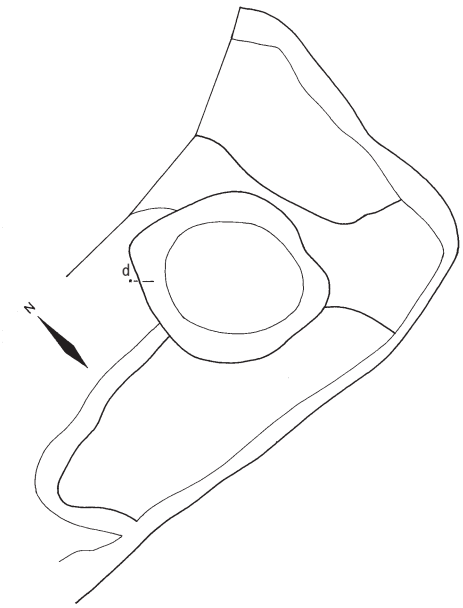
3区 4号住居跡カマド（東西）
1 黄褐色土層 φ5mm焼土粒子を少量含む
2 黒褐色土層 φ2～5mm黄褐色粒子を少量含む
3 暗褐色土層 φ1～3mm黄褐色粒子を多量に含む
4 暗褐色土層 φ5mm黄褐色粒子を少量含む
5 暗褐色土層 φ2～3mm焼土粒子・φ5mm黄褐色粒子を少量含む
6 褐色土層 φ2～5mm焼土粒子を多量に含む
7 焼土層 焼土の純層
8 灰層
9 焼土層 焼土の純層
10 灰層
11 焼土層 焼土の純層
12 褐色土層 φ3mm焼土粒子を少量含む

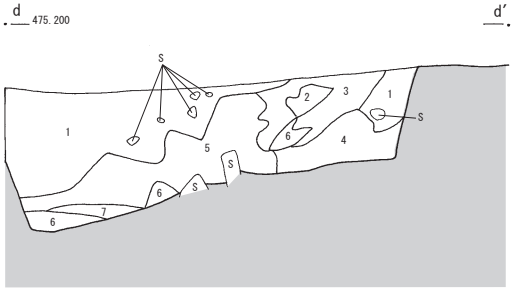


3区4住カマド



3区 4号住居跡カマド（南北）
1 褐色土層 φ2～5mm焼土粒子を多量に含む
2 焼土層 焼土の純層
3 灰層
4 焼土層 焼土の純層
5 灰層
6 焼土層 焼土の純層
7 褐色土層 φ2～3mm焼土粒子・φ5mm黄褐色粒子を少量含む
8 焼土層 焼土の純層

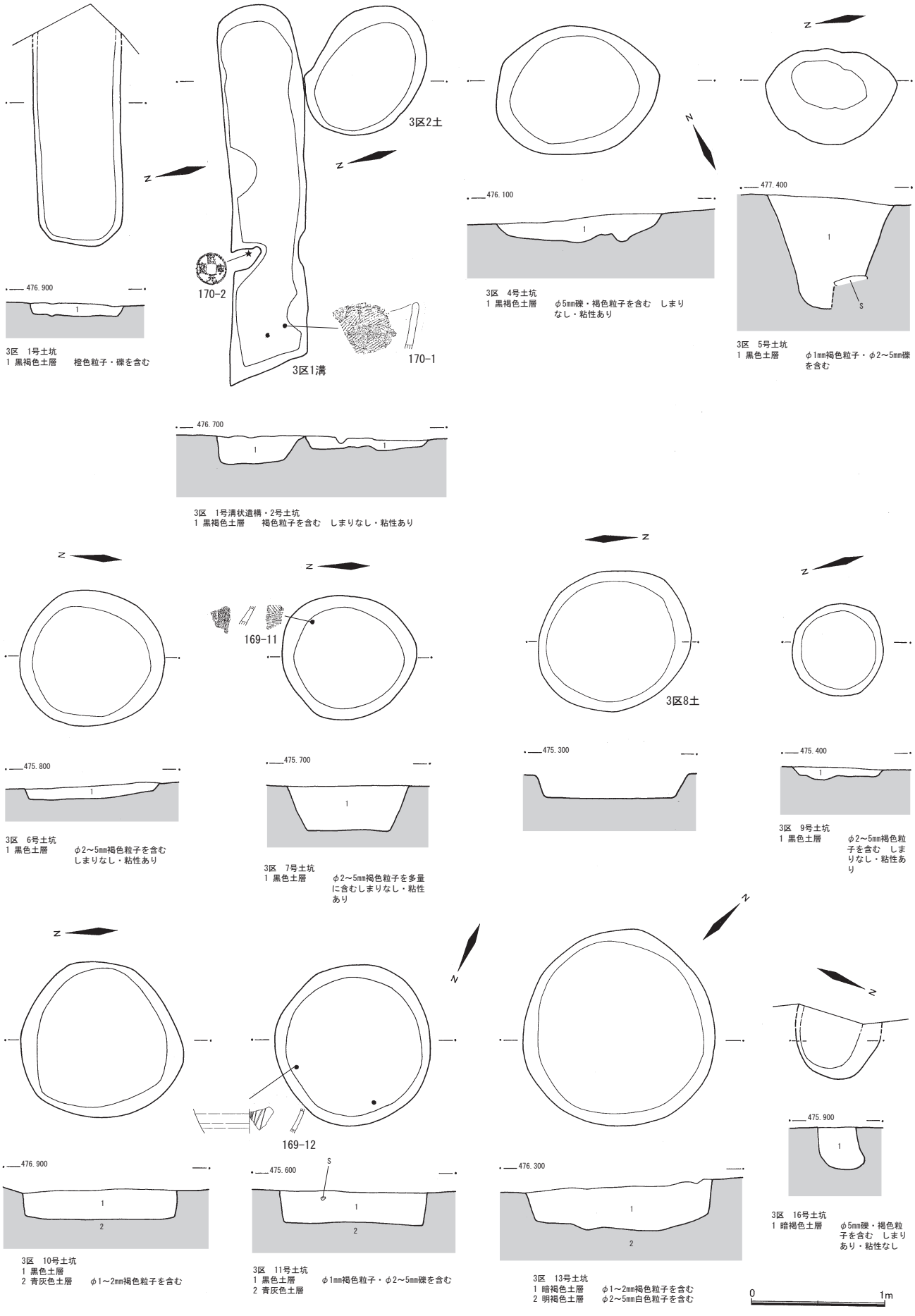




3区 4号住居跡カマド（南北）
1 黒色土層
2 黄褐色土層 焼土粒子を含む
3 黒色土層 φ1～2mm褐色粒子を含む
4 黄褐色土層 焼土粒子を含む
5 黄褐色土層 焼土粒子を含む
6 焼土層 焼土の純層
7 灰白色土層

0 1m

第39図　第II面遺構図18



3区　1号土坑
1 黒褐色土層　　橙色粒子・礫を含む

3区　1号溝状遺構・2号土坑
1 黒褐色土層　　褐色粒子を含む　しまりなし・粘性あり

3区　4号土坑
1 黒褐色土層　　φ5mm礫・褐色粒子を含む　しまりなし・粘性あり

3区　5号土坑
1 黒色土層　　φ1mm褐色粒子・φ2～5mm礫を含む

3区　6号土坑
1 黒色土層　　φ2～5mm褐色粒子を含むしまりなし・粘性あり

3区　7号土坑
1 黒色土層　　φ2～5mm褐色粒子を多量に含むしまりなし・粘性あり

3区　9号土坑
1 黒色土層　　φ2～5mm褐色粒子を含むしまりなし・粘性あり

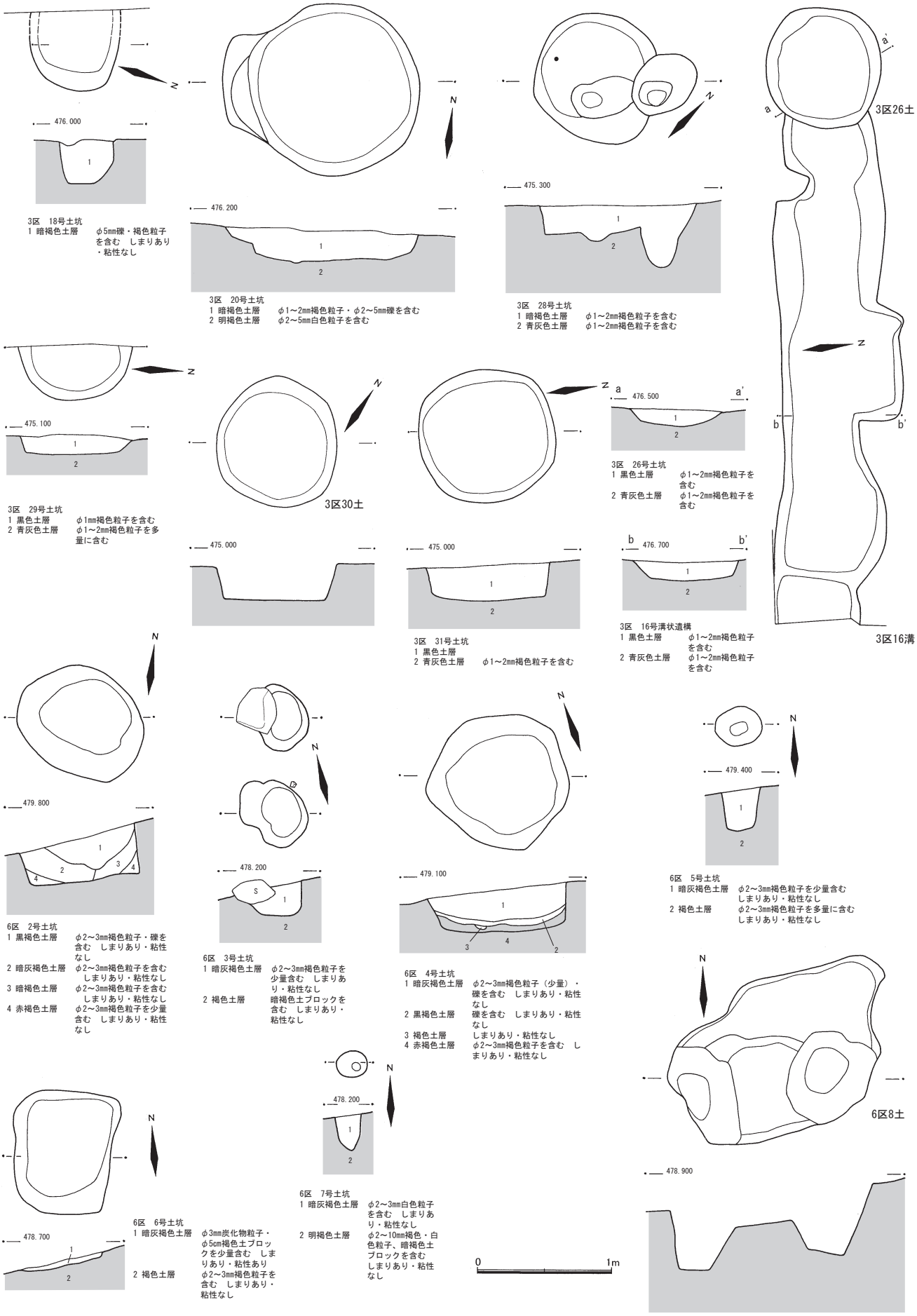
3区　10号土坑
1 黒色土層
2 青灰色土層　　φ1～2mm褐色粒子を含む

3区　11号土坑
1 黒色土層　　φ1mm褐色粒子・φ2～5mm礫を含む
2 青灰色土層

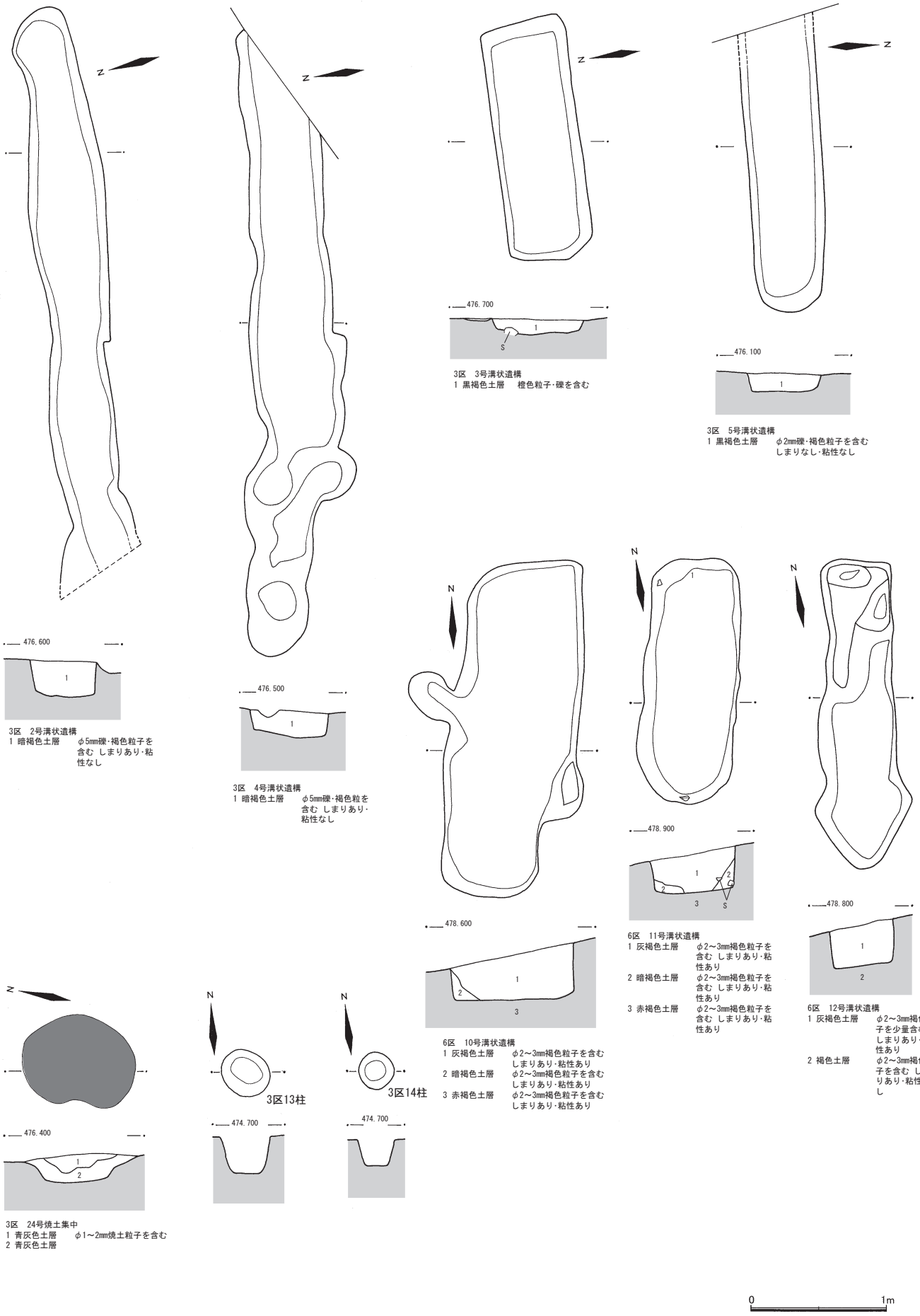
3区　13号土坑
1 暗褐色土層　　φ1～2mm褐色粒子を含む
2 明褐色土層　　φ2～5mm白色粒子を含む

3区　16号土坑
1 暗褐色土層　　φ5mm礫・褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし

第40図　第II面遺構図19



第41図　第II面遺構図20



3区　2号溝状遺構
1 暗褐色土層　　φ5mm礫・褐色粒子を含む しまりあり・粘性なし

3区　4号溝状遺構
1 暗褐色土層　　φ5mm礫・褐色粒を含む しまりあり・粘性なし

3区　3号溝状遺構
1 黒褐色土層　　橙色粒子・礫を含む

3区　5号溝状遺構
1 黒褐色土層　　φ2mm礫・褐色粒子を含む しまりなし・粘性なし

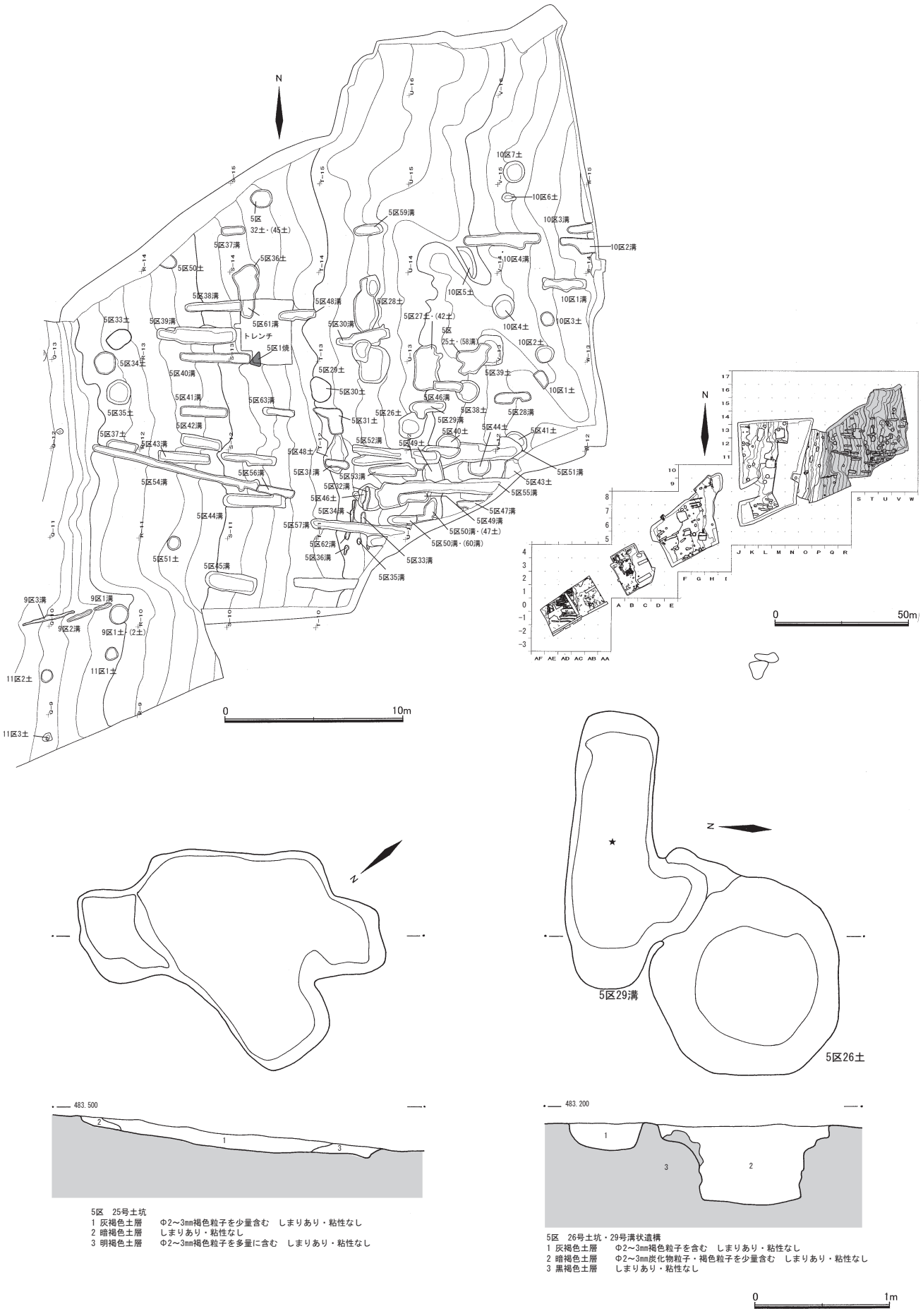
6区　10号溝状遺構
1 灰褐色土層　　φ2～3mm褐色粒子を含む しまりあり・粘性あり
2 暗褐色土層　　φ2～3mm褐色粒子を含む しまりあり・粘性あり
3 赤褐色土層　　φ2～3mm褐色粒子を含む しまりあり・粘性あり

6区　11号溝状遺構
1 灰褐色土層　　φ2～3mm褐色粒子を含む しまりあり・粘性あり
2 暗褐色土層　　φ2～3mm褐色粒子を含む しまりあり・粘性あり
3 赤褐色土層　　φ2～3mm褐色粒子を含む しまりあり・粘性あり

6区　12号溝状遺構
1 灰褐色土層　　φ2～3mm褐色粒子を少量含む しまりあり・粘性あり
2 褐色土層　　φ2～3mm褐色粒子を含む しまりあり・粘性なし

3区　24号焼土集中
1 青灰色土層　　φ1～2mm焼土粒子を含む
2 青灰色土層

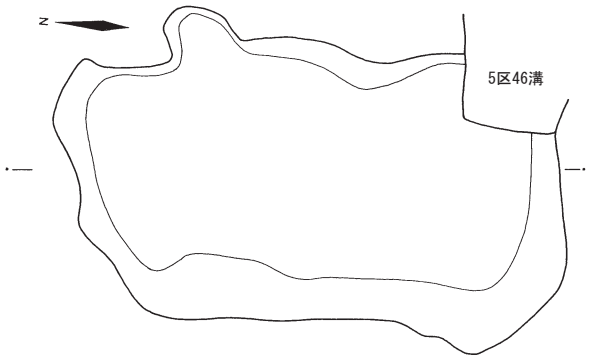
第42図　第Ⅱ面遺構図21

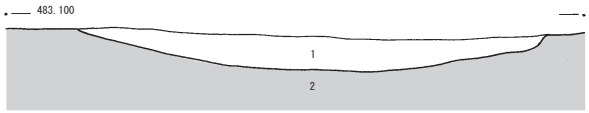


5区　25号土坑
1 灰褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　しまりあり・粘性なし
3 明褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし

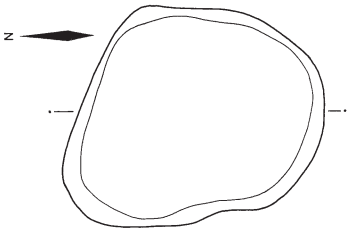
5区　26号土坑・29号溝状遺構
1 灰褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　Φ2～3mm炭化物粒子・褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
3 黒褐色土層　しまりあり・粘性なし

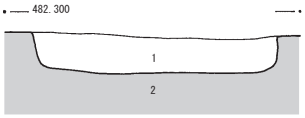
第43図　第Ⅱ面遺構図22



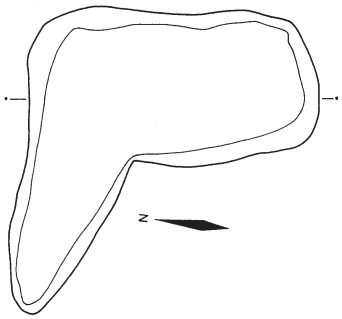


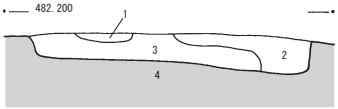
5区　27号土坑
1 褐色土層　　Φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　しまりあり・粘性なし



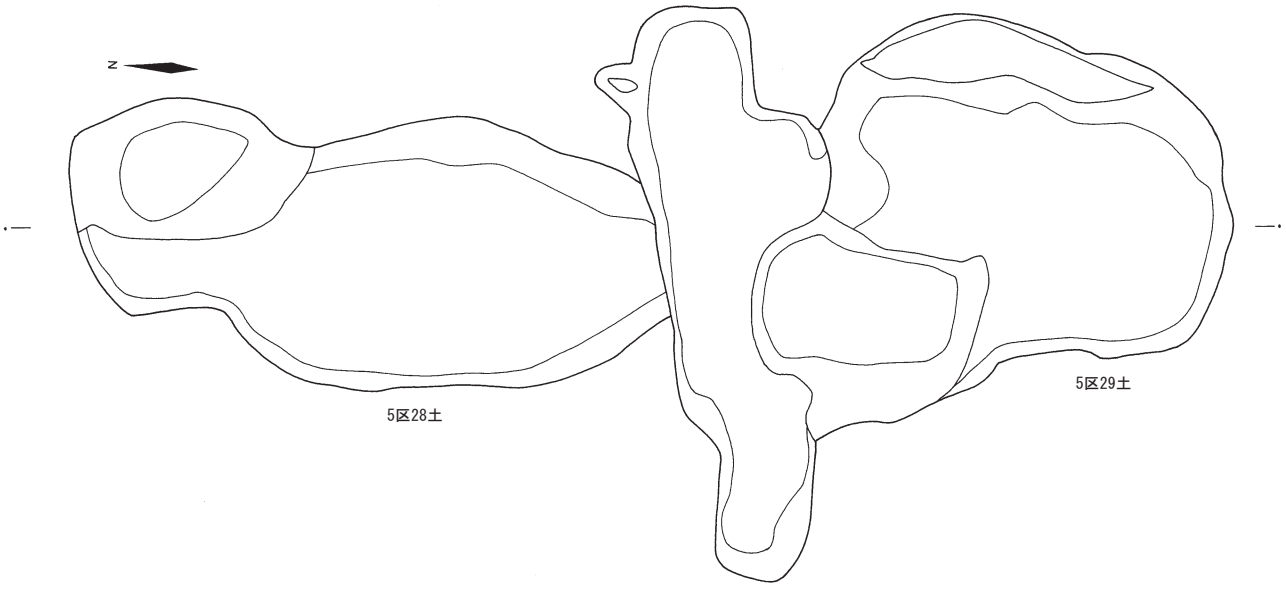


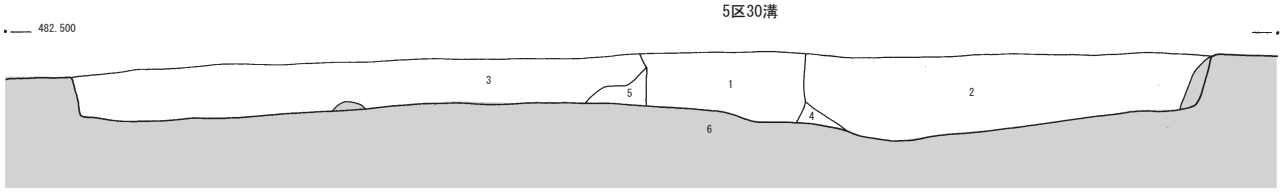
5区　30号土坑
1 灰褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　しまりあり・粘性なし





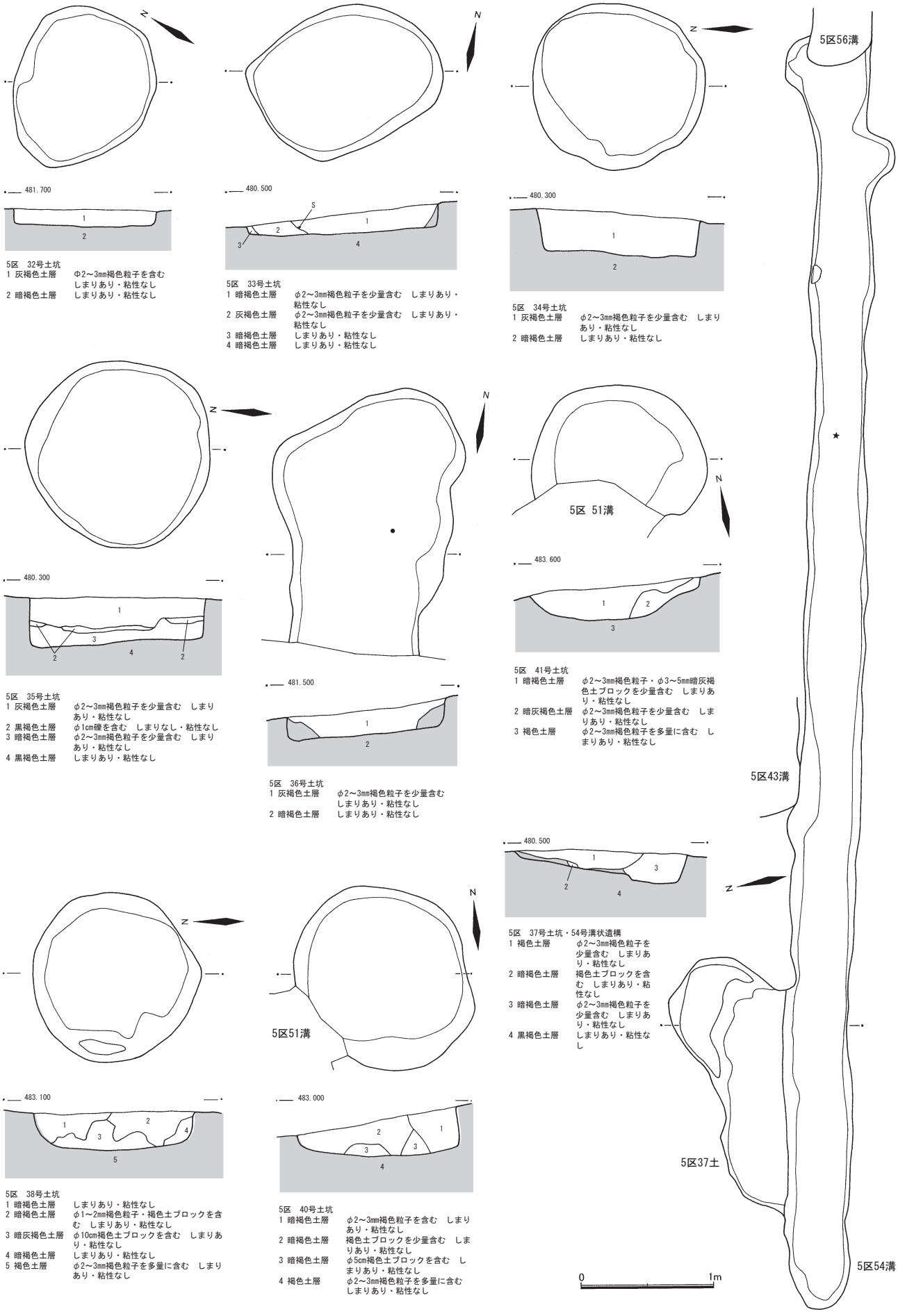
5区　31号土坑
1 褐色土層　　しまりあり・粘性なし
2 灰褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子・礫を少量含む　しまりあり・粘性なし
4 暗褐色土層　しまりあり・粘性なし





5区　28号土坑・29号土坑・30号溝状遺構
1 明褐色土層　　Φ2～3mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　　Φ2～3mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
3 暗灰褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
4 暗灰褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
5 暗褐色土層　　Φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
6 褐色土層　　Φ2～3mm褐色粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし

第44図　第Ⅱ面遺構図23



5区　32号土坑
1 灰褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　しまりあり・粘性なし

5区　33号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
2 灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　しまりあり・粘性なし
4 暗褐色土層　しまりあり・粘性なし

5区　34号土坑
1 灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　しまりあり・粘性なし

5区　35号土坑
1 灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
2 黒褐色土層　φ1cm礫を含む　しまりなし・粘性なし
3 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
4 黒褐色土層　しまりあり・粘性なし

5区　36号土坑
1 灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　しまりあり・粘性なし

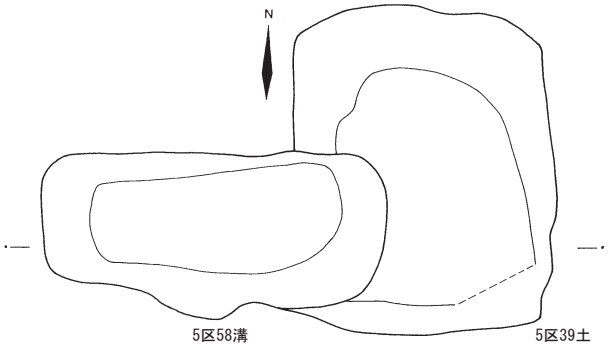
5区　41号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・φ3～5mm暗灰褐色土ブロックを少量含む　しまりあり・粘性なし
2 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
3 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし

5区　37号土坑・54号溝状遺構
1 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
4 黒褐色土層　しまりあり・粘性なし

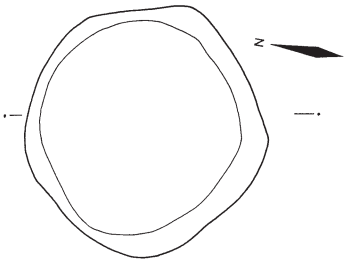
5区　38号土坑
1 暗褐色土層　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ1～2mm褐色粒子・褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
3 暗灰褐色土層　φ10cm褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
4 暗褐色土層　しまりあり・粘性なし
5 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし

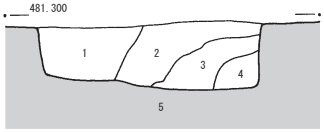
5区　40号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　褐色土ブロックを少量含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　φ5cm褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
4 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし

第45図　第Ⅱ面遺構図24

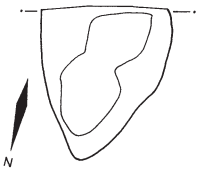


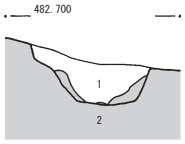
5区　39号土坑・58号溝状遺構
1 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・礫を含む　しまりあり・粘性なし
4 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子(多量)・暗灰褐色土ブロックに含む　しまりあり・粘性なし
5 赤褐色土層　φ2～3mm褐色・白色粒子を含むしまりあり・粘性なし



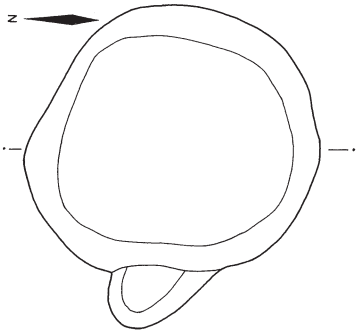


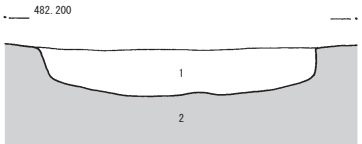
5区　45号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を多量に含むしまりあり・粘性なし
2 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
4 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
5 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を多量に含むしまりあり・粘性なし



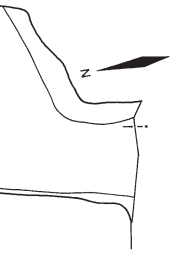


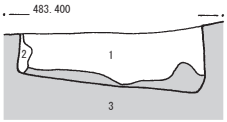
5区　47号土坑
1 灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 黒褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・礫を含む　しまりあり・粘性なし



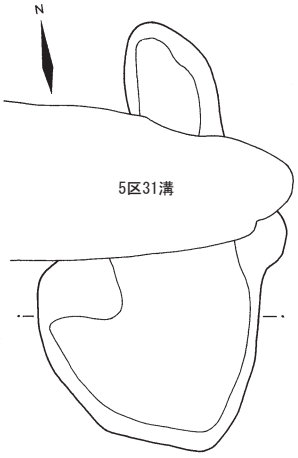


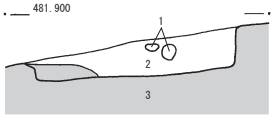
5区　46号土坑
1 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子（少量）・礫を含む　しまりあり・粘性なし
2 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし



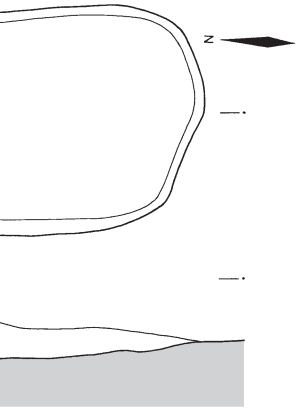


5区　43号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含むしまりあり・粘性なし
2 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
3 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし

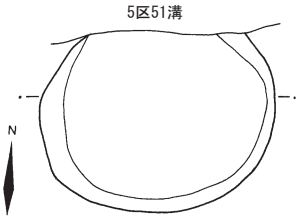




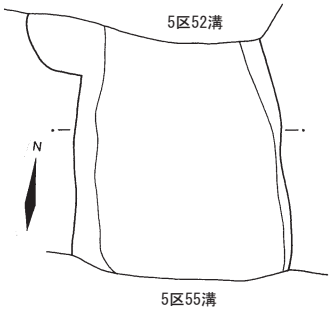
5区　48号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含むしまりあり・粘性なし
2 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含むしまりあり・粘性なし
3 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を多量に含むしまりあり・粘性なし

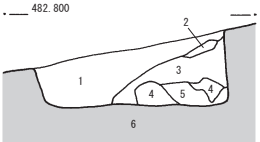


5区　42号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし



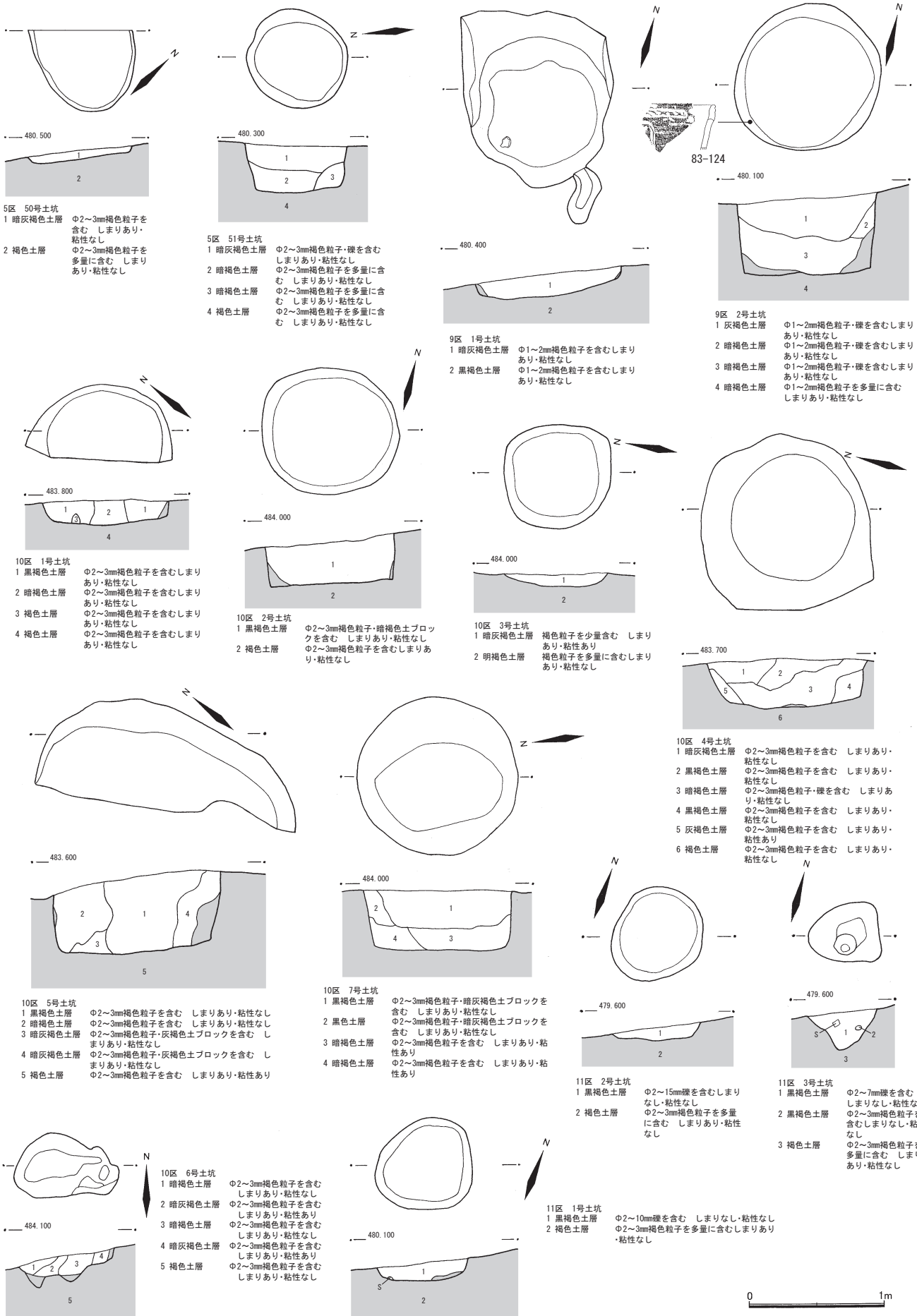
5区　44号土坑
1 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含むしまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含むしまりあり・粘性なし
3 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含むしまりあり・粘性なし





5区　49号土坑
1 灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　しまりあり・粘性なし
3 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
4 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
5 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
6 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし

第46図　第Ⅱ面遺構図25



5区　50号土坑
1 暗灰褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし

5区　51号土坑
1 暗灰褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子・礫を含むしまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし
4 褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし

9区　1号土坑
1 暗灰褐色土層　Φ1～2mm褐色粒子を含むしまりあり・粘性なし
2 黒褐色土層　Φ1～2mm褐色粒子を含むしまりあり・粘性なし

9区　2号土坑
1 灰褐色土層　Φ1～2mm褐色粒子・礫を含むしまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　Φ1～2mm褐色粒子・礫を含むしまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　Φ1～2mm褐色粒子・礫を含むしまりあり・粘性なし
4 暗褐色土層　Φ1～2mm褐色粒子を多量に含むしまりあり・粘性なし

10区　1号土坑
1 黒褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を含むしまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を含むしまりあり・粘性なし
3 褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を含むしまりあり・粘性なし
4 褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を含むしまりあり・粘性なし

10区　2号土坑
1 黒褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子・暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
2 褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を含むしまりあり・粘性なし

10区　3号土坑
1 暗灰褐色土層　褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性あり
2 明褐色土層　褐色粒子を多量に含むしまりあり・粘性なし

10区　4号土坑
1 暗灰褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 黒褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子・礫を含む　しまりあり・粘性なし
4 黒褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
5 灰褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
6 褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし

10区　5号土坑
1 黒褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 暗灰褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子・灰褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
4 暗灰褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子・灰褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
5 褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり

10区　7号土坑
1 黒褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子・暗灰褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
2 黒色土層　Φ2～3mm褐色粒子・暗灰褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
4 暗褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり

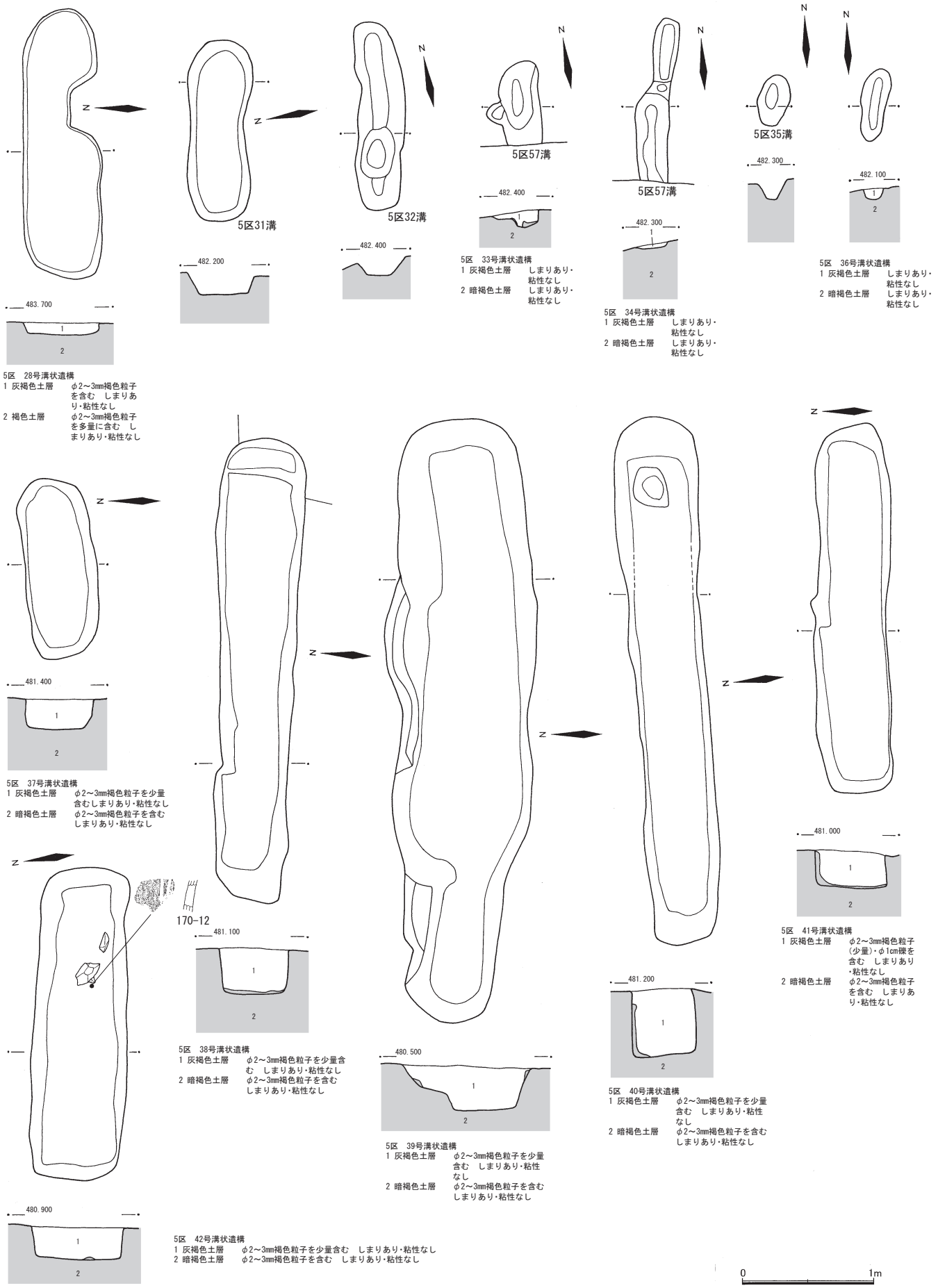
11区　2号土坑
1 黒褐色土層　Φ2～15mm礫を含むしまりなし・粘性なし
2 褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし

11区　3号土坑
1 黒褐色土層　Φ2～7mm礫を含むしまりなし・粘性なし
2 黒褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を含むしまりなし・粘性なし
3 褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし

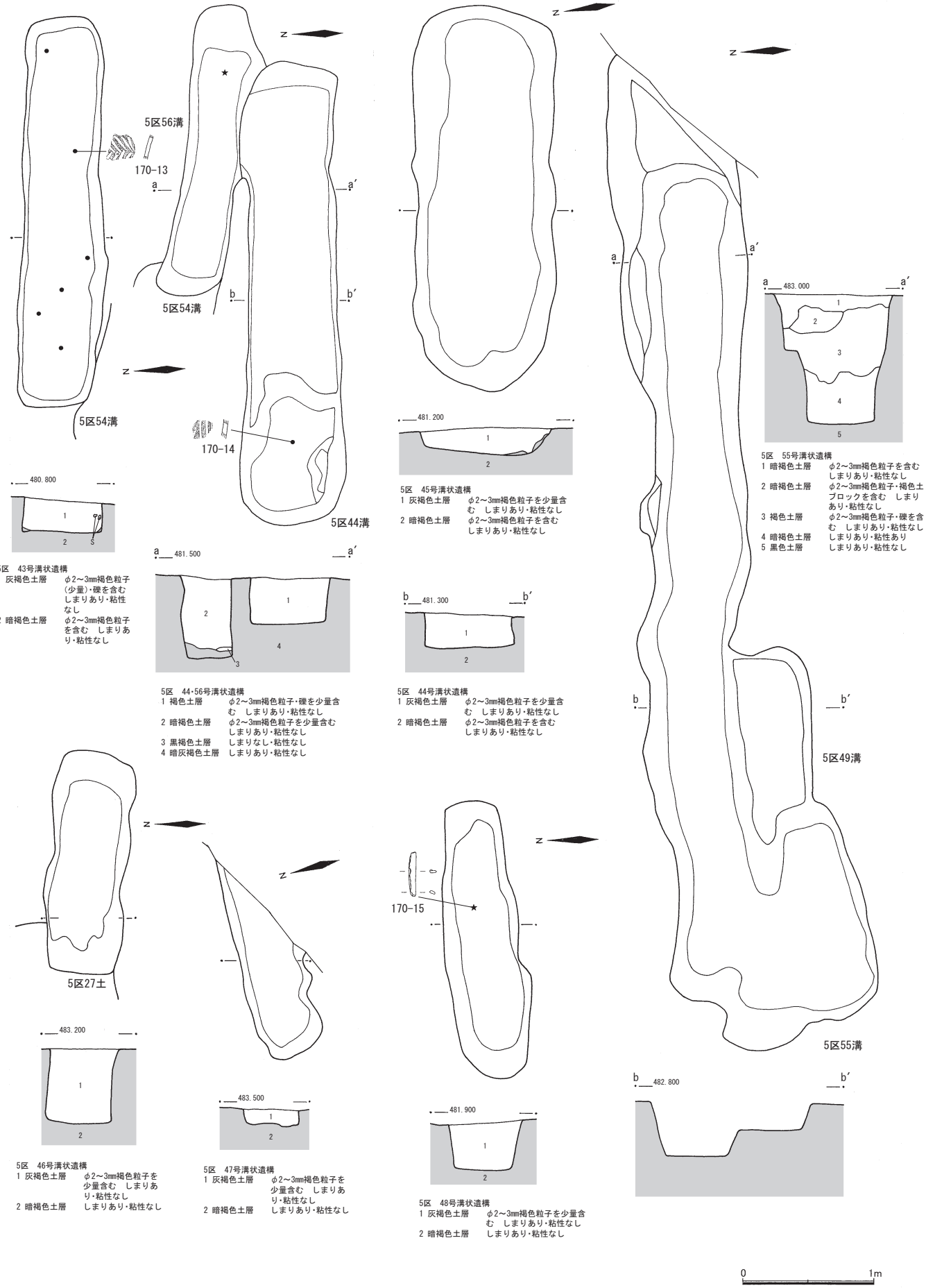
10区　6号土坑
1 暗褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を含むしまりあり・粘性なし
2 暗灰褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を含むしまりあり・粘性あり
3 暗褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を含むしまりあり・粘性なし
4 暗灰褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を含むしまりあり・粘性あり
5 褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を含むしまりあり・粘性なし

11区　1号土坑
1 黒褐色土層　Φ2～10mm礫を含む　しまりなし・粘性なし
2 褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を多量に含むしまりあり・粘性なし

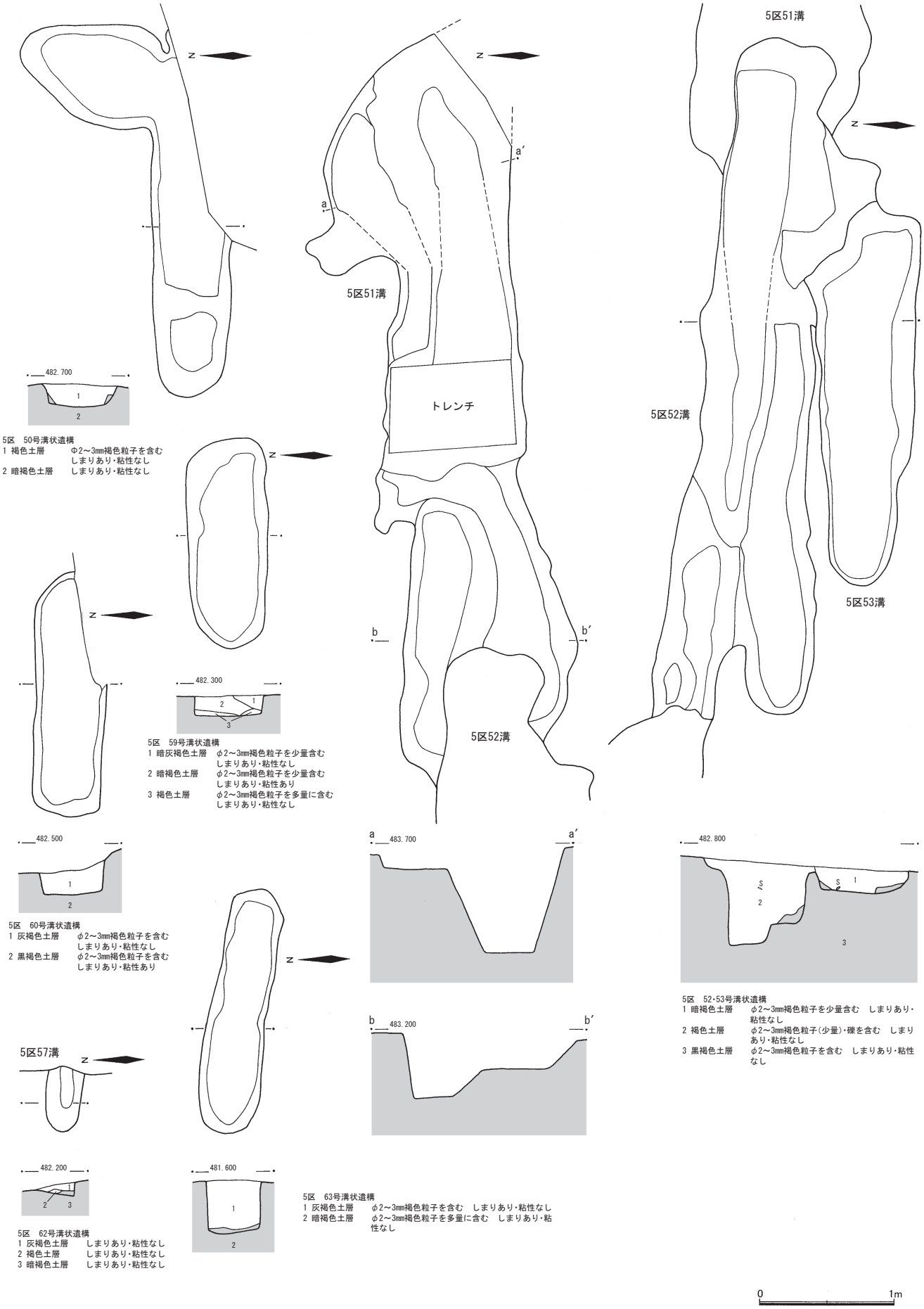
第47図　第Ⅱ面遺構図26



第48図　第Ⅱ面遺構図27



第49図　第Ⅱ面遺構図28



5区　50号溝状遺構
1 褐色土層　　Φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　しまりあり・粘性なし

5区　59号溝状遺構
1 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性あり
3 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし

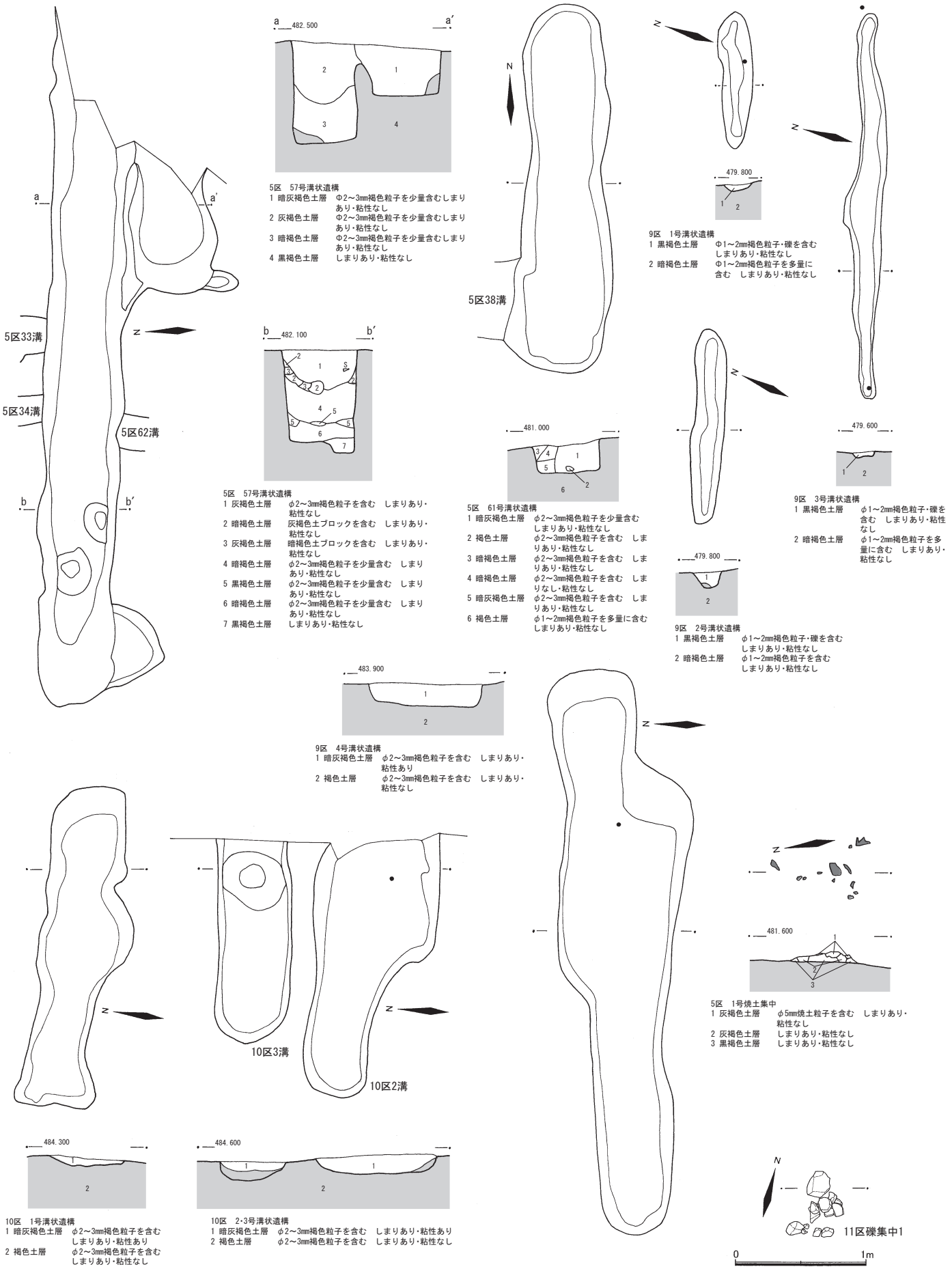
5区　60号溝状遺構
1 灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 黒褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり

5区　52・53号溝状遺構
1 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
2 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子(少量)・礫を含む　しまりあり・粘性なし
3 黒褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし

5区　62号溝状遺構
1 灰褐色土層　しまりあり・粘性なし
2 褐色土層　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　しまりあり・粘性なし

5区　63号溝状遺構
1 灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし

第50図　第Ⅱ面遺構図29



5区　57号溝状遺構
1 暗灰褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を少量含むしまりあり・粘性なし
2 灰褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を少量含むしまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　Φ2～3mm褐色粒子を少量含むしまりあり・粘性なし
4 黒褐色土層　しまりあり・粘性なし

5区　57号溝状遺構
1 灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　灰褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
3 灰褐色土層　暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
4 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
5 黒褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
6 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
7 黒褐色土層　しまりあり・粘性なし

5区　61号溝状遺構
1 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を少量含むしまりあり・粘性なし
2 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
4 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりなし・粘性なし
5 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
6 褐色土層　φ1～2mm褐色粒子を多量に含むしまりあり・粘性なし

9区　1号溝状遺構
1 黒褐色土層　Φ1～2mm褐色粒子・礫を含むしまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　Φ1～2mm褐色粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし

9区　2号溝状遺構
1 黒褐色土層　φ1～2mm褐色粒子・礫を含むしまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ1～2mm褐色粒子を含むしまりあり・粘性なし

9区　3号溝状遺構
1 黒褐色土層　φ1～2mm褐色粒子・礫を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ1～2mm褐色粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし

9区　4号溝状遺構
1 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
2 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし

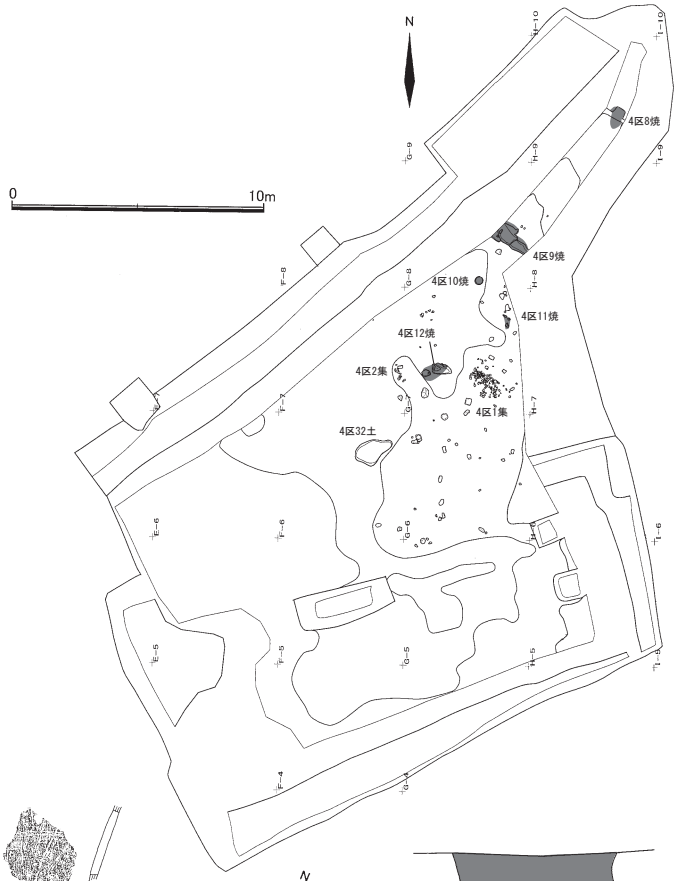
5区　1号焼土集中
1 灰褐色土層　φ5mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 灰褐色土層　しまりあり・粘性なし
3 黒褐色土層　しまりあり・粘性なし

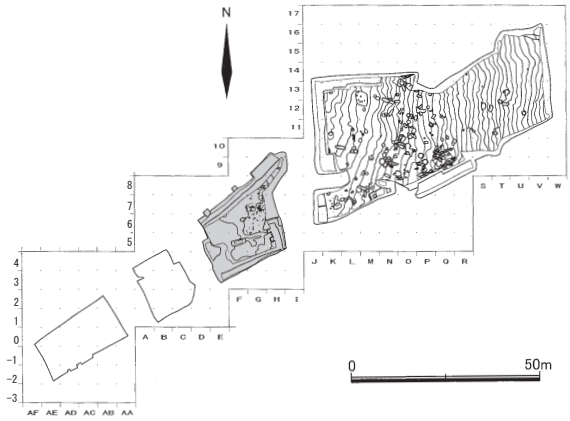
10区　1号溝状遺構
1 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含むしまりあり・粘性あり
2 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含むしまりあり・粘性なし

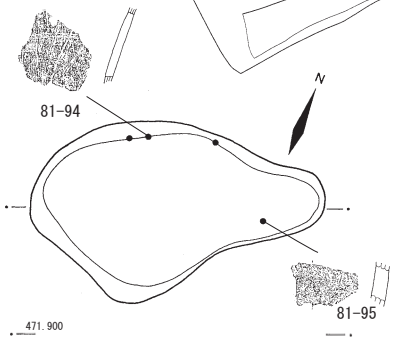
10区　2･3号溝状遺構
1 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
2 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし

11区礫集中1

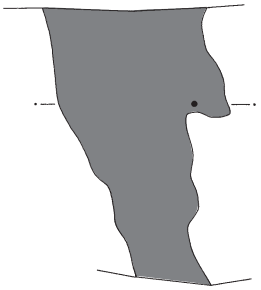
第51図　第Ⅱ面遺構図30

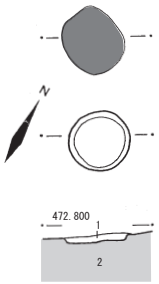




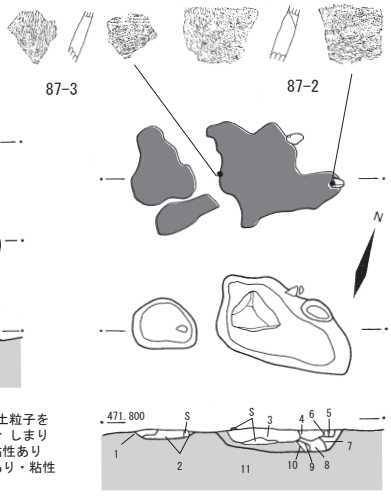


4区　32号土坑
1 暗褐色土層　φ2～5mm褐色粒 子・φ1～10mm白色粒子（多量）を含む　しまりあり・粘性あり
2 暗褐色土層　しまりあり・粘性あり

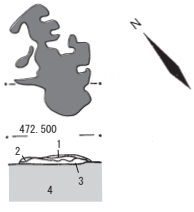




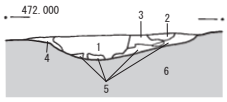
4区　10号焼土集中
1 暗褐色土層　φ1mm焼土粒子を少量含む しまりあり・粘性あり
2 暗褐色土層　しまりあり・粘性あり



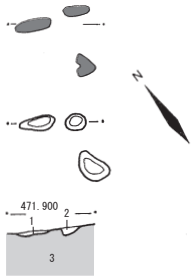
4区　12号焼土集中
1 焼土層　褐色粒子を含む しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性あり
3 焼土層　褐色粒子を含む しまりあり・粘性なし
4 暗褐色土層　φ2～5mm白色粒子を含む　しまりなし・粘性なし
5 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性あり
6 暗褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性あり
7 黒褐色土層　しまりあり・粘性あり
8 暗褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を少量含む　しまりあり・粘性あり
9 焼土層　しまりあり・粘性なし
10 黒褐色土層　しまりあり・粘性あり
11 暗褐色土層　しまりあり・粘性あり



4区　8号焼土集中
1 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒 子を含む　しまりあり・粘性なし
2 焼土層　褐色粒子を含む しまりあり・粘性なし
3 焼土層　しまりあり・粘性なし
4 暗褐色土層　しまりあり・粘性あり



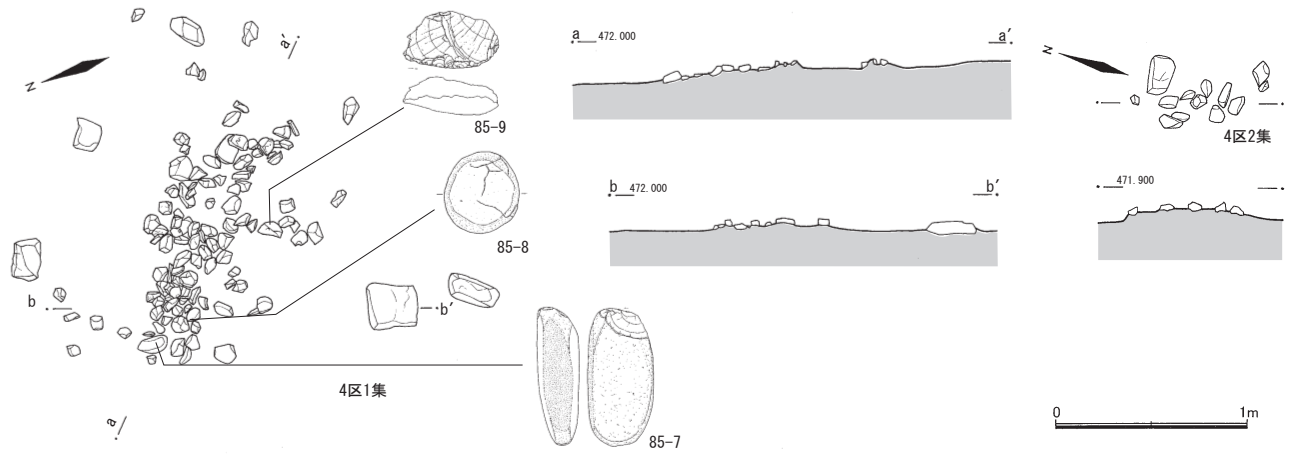
4区　9号焼土集中
1 焼土層　暗褐色粒子を含む しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ2～5mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性あり
3 暗褐色土層　φ5mm焼土粒子を少量含む　しまりあり・粘性あり
4 暗褐色土層　φ2～5mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性あり
5 暗褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を少量含む しまりあり・粘性あり
6 暗褐色土層　しまりあり・粘性あり



4区　11号焼土集中
1 暗褐色土層　焼土粒子を含む しまりあり・粘性あり
2 焼土層　暗褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　しまりあり・粘 性あり

0
1m

第52図　第III面遺構図１



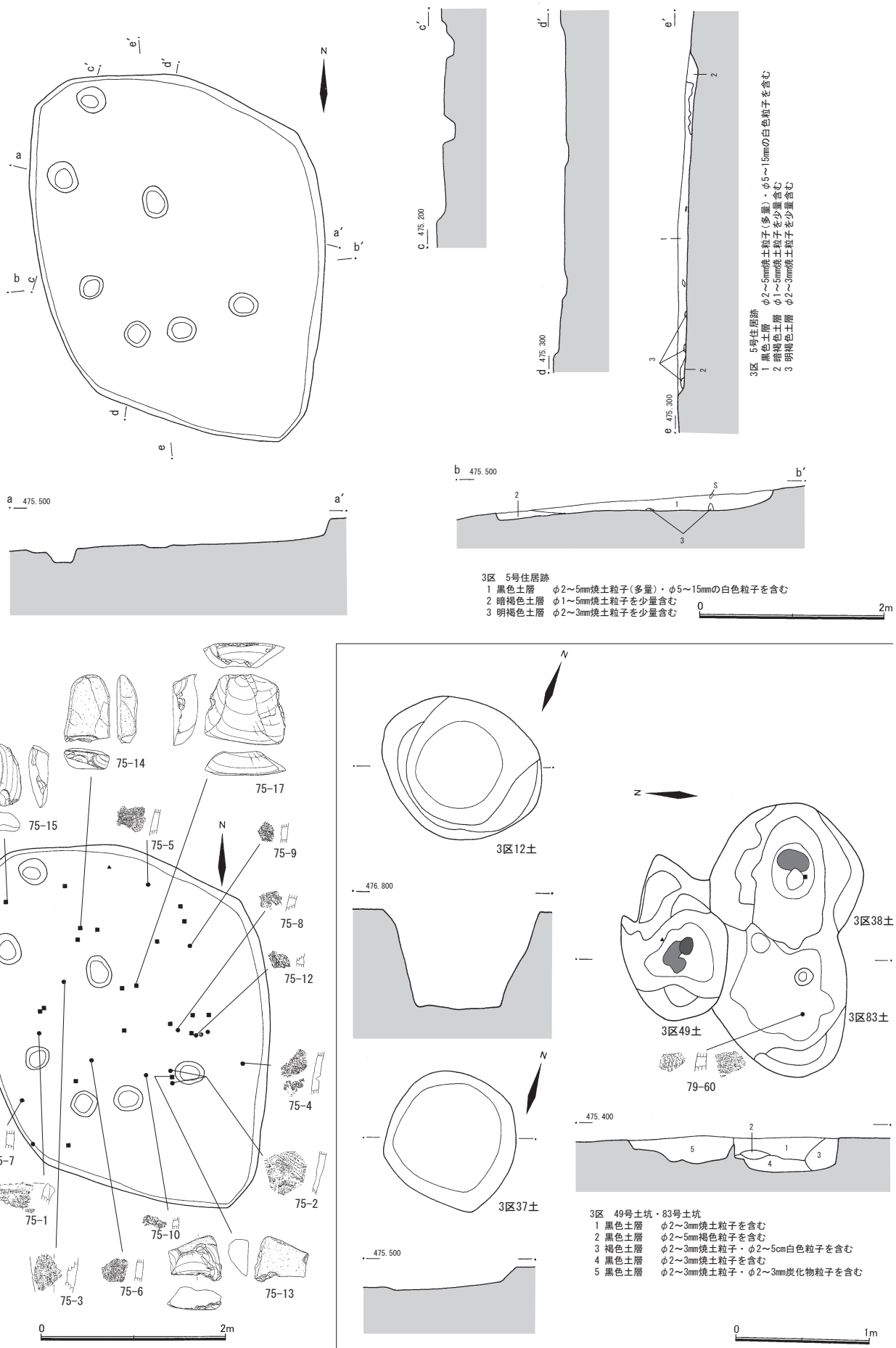
3区　34号土坑
1 黒色土層　φ1mm焼土粒子を含む
2 黒色土層　φ2～5mm焼土粒子を含む
3 暗褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む
4 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む
5 明褐色土層　φ1mm焼土粒子を含む

3区　35号土坑
1 黒色土層　φ1～3mm焼土粒子を含む
2 焼土層
3 炭化物層
4 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む
5 明褐色土層

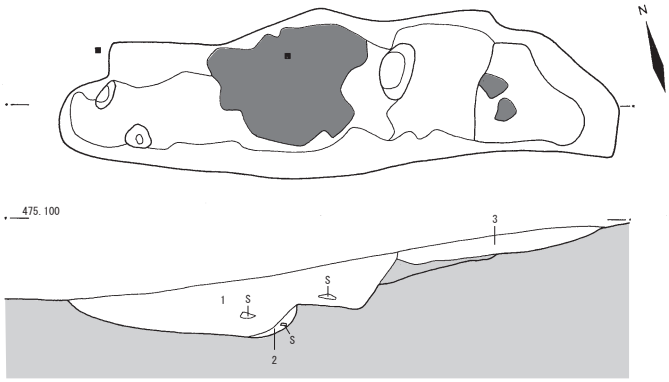
3区　36号土坑
1 黒褐色土層　φ1～5mm焼土粒子・φ2～3mm炭化物粒子・φ3～5mm橙色粒子・φ5mm白色粒子を少量含む
2 暗褐色土層　φ2～5mm橙色粒子(多量)・φ3～5mm白色粒子(少量)を含む
3 暗褐色土層

0　1m

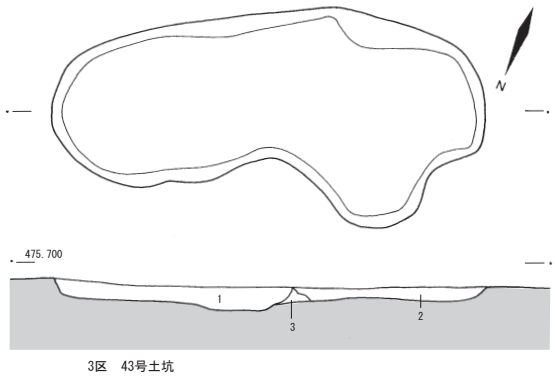
第53図　第III面遺構図２



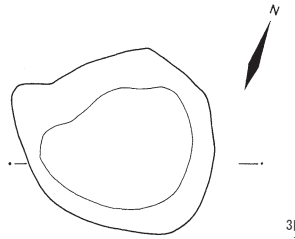
第54図　第III面遺構図３



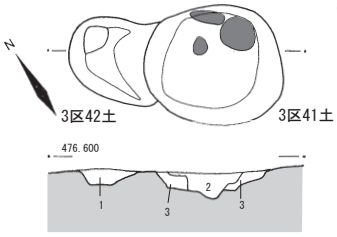
3区　39号土坑
1 黒色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む
2 暗褐色土層　φ1～3mm焼土粒子を少量含む
3 黒色土層　φ2～3mm焼土粒子・φ1～3mm白色粒子を含む



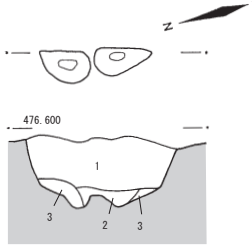
3区　43号土坑
1 黒褐色土層　φ1～3mm橙色粒子・φ2～5mm白色粒子を多量に含む
2 黒褐色土層　φ1～3mm橙色粒子・φ2～5mm白色粒子を少量含む
3 暗褐色土層　φ1cm黄褐色ブロックを多量に含む



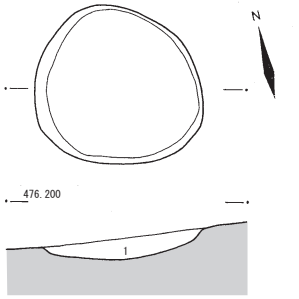
3区　40号土坑
1 黒色土層　φ2～4mm焼土粒子・φ1～5mm白色粒子を少量含む



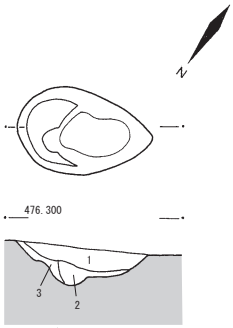
3区　41・42号土坑
1 黒褐色土層　φ3～5mm炭化物粒子・φ1～3mm橙色粒子を少量含む
2 黒褐色土層　φ1～3mm焼土粒子を多量に含む
3 暗褐色土層　φ5mm焼土粒子を多量に含む



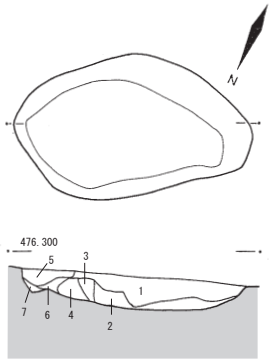
3区　47号土坑
1 黒褐色土層　φ2～5mm橙色粒子・φ1cm白色粒子を多量に含む
2 黒褐色土層　φ1～3mm橙色粒子を多量に含む
3 暗褐色土層　φ3mm橙色粒子を少量含む



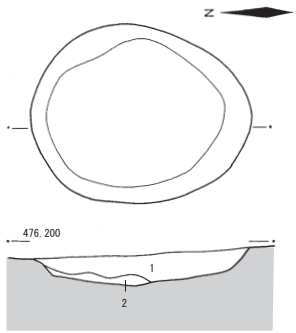
3区　50号土坑
1 黒色土層　φ1mm焼土粒子・φ5mm白色粒子を含む



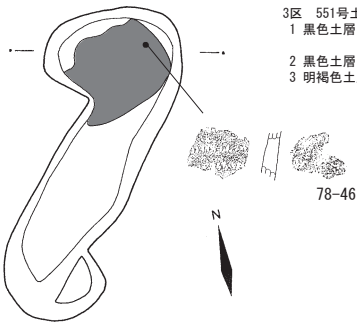
3区　551号土坑
1 黒色土層　φ1～5mm焼土粒子・φ2～3mm褐色粒子を含む
2 黒色土層　φ2～5mm褐色粒子を含む
3 明褐色土層　φ1mm焼土粒子を含む



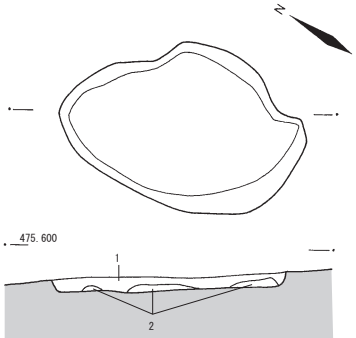
3区　52号土坑
1 黒色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む
2 黒色土層　φ2～5mm褐色粒子を含む
3 明褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む
4 黒色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む
5 黒色土層　φ1mm焼土粒子を含む
6 明褐色土層　φ1mm焼土粒子を含む
7 黒色土層　φ5mm褐色粒子を含む



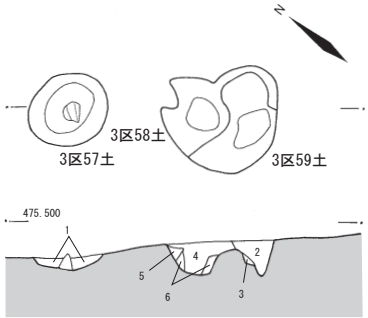
3区　53号土坑
1 黒色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む
2 暗褐色土層



3区　48号土坑
1 黄褐色土層
2 黒褐色土層　φ1～5mm焼土粒子(多量)・φ5mm炭化物粒子(少量)・φ1～5mm橙色粒子を含む
3 暗褐色土層　φ1～5mm焼土粒子を多量に含む
4 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を少量含む

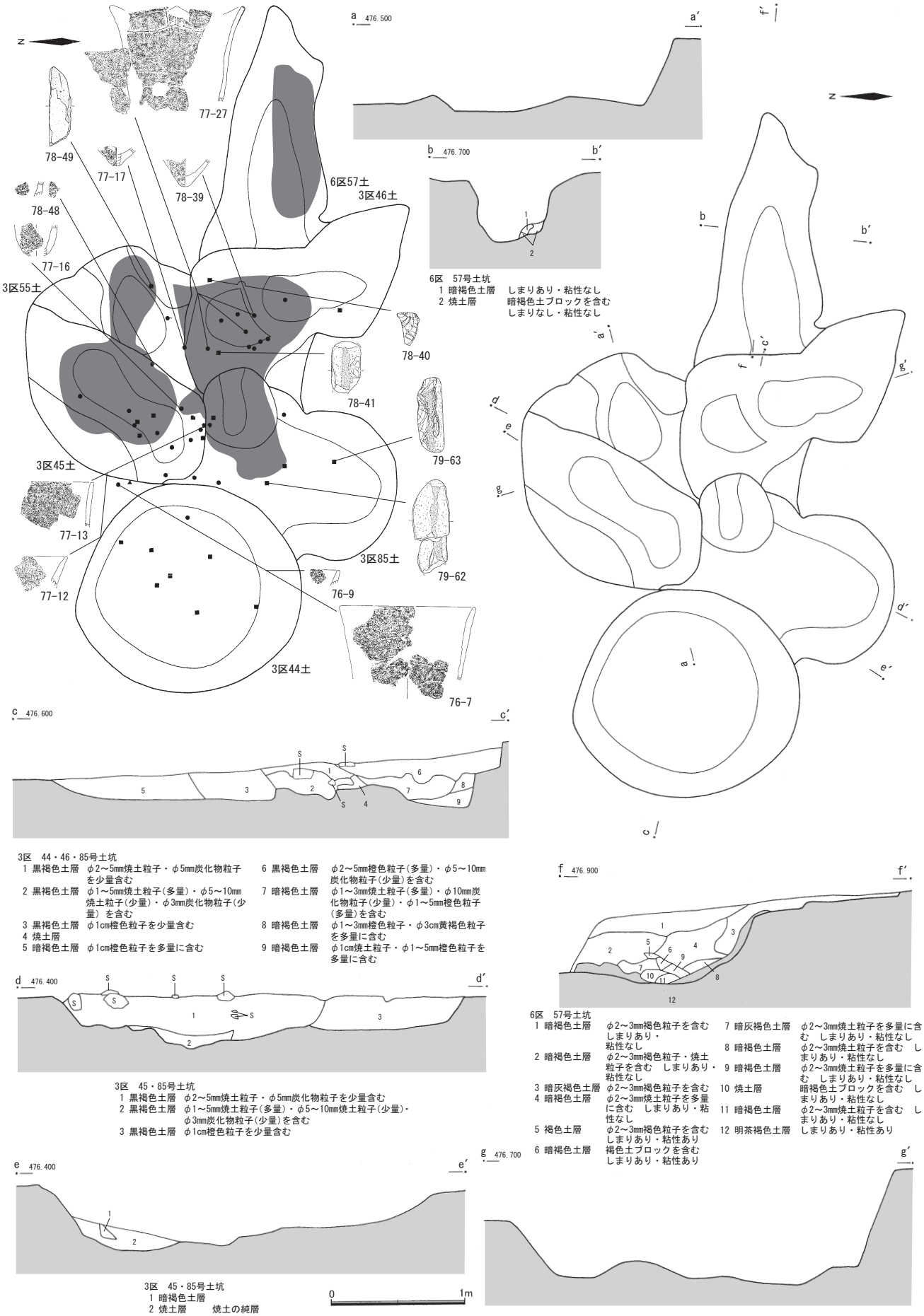


3区　56号土坑
1 黒褐色土層　φ1cm橙色粒子を多量に含む
2 暗褐色土層　φ2～7mm橙色粒子を少量含む

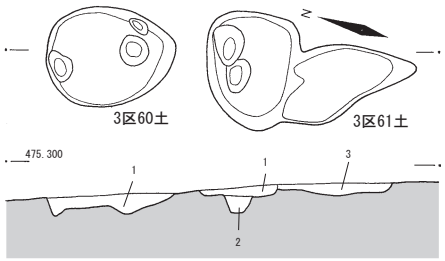


3区　57～59号土坑
1 黒褐色土層　φ1～3mm橙色粒子を少量含む
2 暗褐色土層　φ1～8mm橙色粒子を多量に含む
3 暗褐色土層　φ1～3mm橙色粒子を少量含む
4 暗褐色土層　φ1～3mm橙色粒子を少量含む
5 明褐色土層
6 暗褐色土層　φ1～3mm橙色粒子を少量含む

第55図　第III面遺構図４

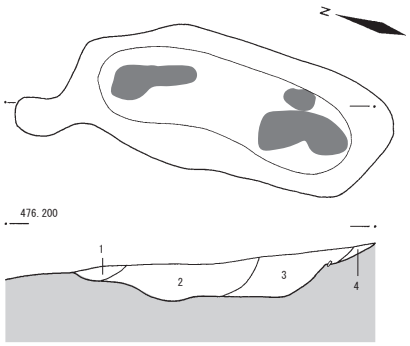


第56図　第III面遺構図５

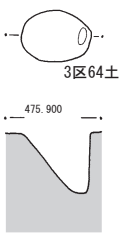


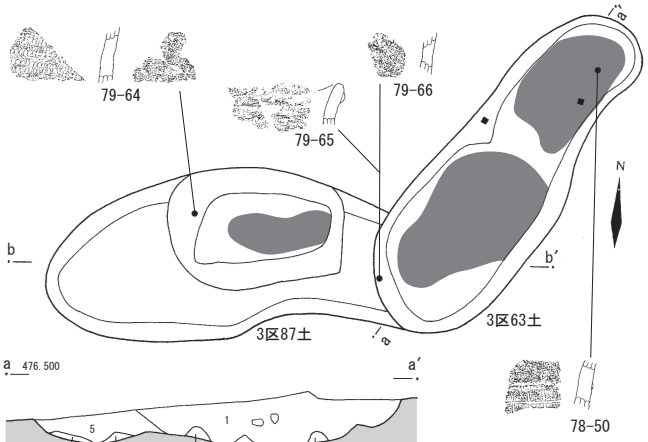
3区　60号土坑
1 暗褐色土層　φ1～3mm焼土粒子(多量)・φ1cm白色粒子（少量）を含む

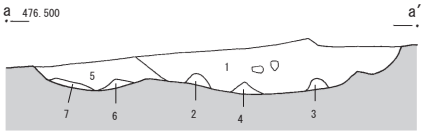
3区　61号土坑
1 暗褐色土層　φ1～4mm焼土粒子を多量に含む
2 暗褐色土層　φ1～3mm白色粒子を少量含む
3 暗褐色土層　φ2～5mm焼土粒子・φ1cm黄褐色土ブロックを少量含む



3区　62号土坑
1 暗褐色土層　φ1cm橙色粒子(少量)・φ5mm黄褐色粒子(多量)に含む
2 黒褐色土層　φ1～5mm焼土粒子(多量)・φ5mm炭化物粒子(少量)・φ1～2cm白色粒子(少量）を含む
3 黒褐色土層　φ1cm焼土粒子(多量)・φ1～2cm白色粒子(少量)を含む
4 暗褐色土層　φ1cm黄褐色ブロックを少量含む

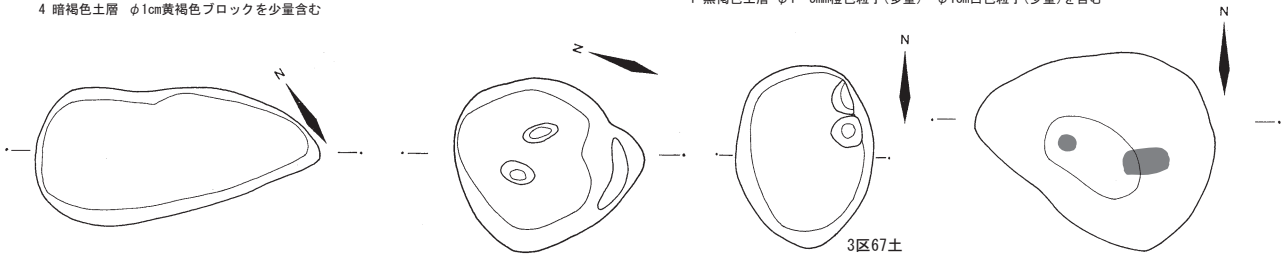


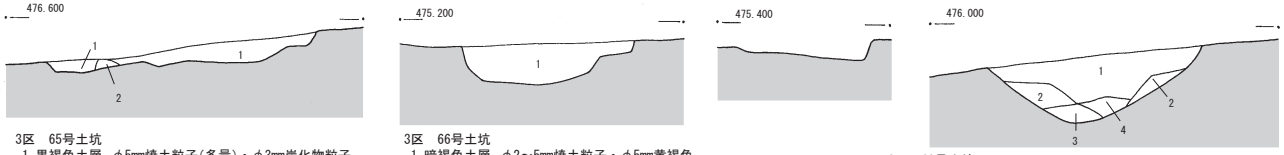




3区　63号土坑
1 黒色土層　φ1～2mm焼土粒子・φ1～2mm白色粒子を含む
2 褐色土層　φ3～5mm焼土粒子を含む
3 褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む
4 褐色土層
5 黒色土層　φ1～2mm焼土粒子・φ2～3mm白色粒子を含む
6 褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む
7 黒色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む

3区　87号土坑
1 黒褐色土層　φ1～5mm橙色粒子(多量)・φ1cm白色粒子(少量)を含む

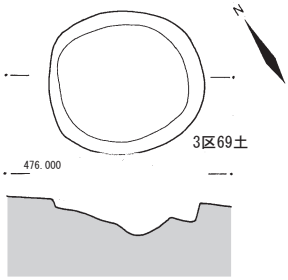


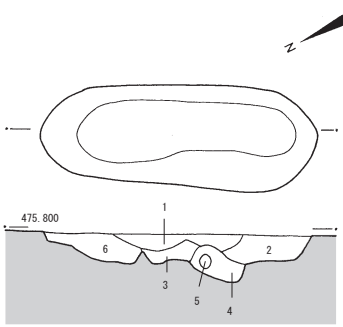


3区　65号土坑
1 黒褐色土層　φ5mm焼土粒子(多量)・φ3mm炭化物粒子(少量)を含む
2 焼土層

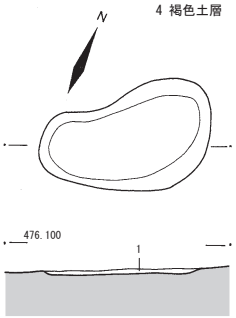
3区　66号土坑
1 暗褐色土層　φ2～5mm焼土粒子・φ5mm黄褐色粒子を多量に含む

3区　68号土坑
1 黒褐色土層　φ1cm焼土粒子(多量)・φ5mm炭化物粒子(少量)・白色粒子(少量)を含む
2 暗褐色土層　φ1～5mm焼土粒子(多量)・φ1～2mm炭化物粒子(少量)・φ1～3mm白色粒子(少量)を含む
3 暗褐色土層　φ1～3mm焼土粒子(少量)・φ1～3mm炭化物粒子(少量)を含む
4 褐色土層　φ1～4mm焼土粒子（多量)・φ2～3mm炭化物粒子(少量)を含む

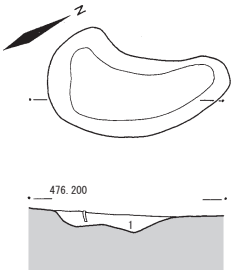




3区　70号土坑
1 黒褐色土層　φ5mm橙色粒子を多量に含む
2 黒褐色土層　褐色土ブロックを多量に含む
3 黒褐色土層　褐色土ブロックを多量に含む
4 暗褐色土層　φ2～5mm橙色粒子を多量に含む
5 黄褐色土層　黄褐色土ブロックを含む
6 暗褐色土層　φ5mm橙色粒子を少量含む

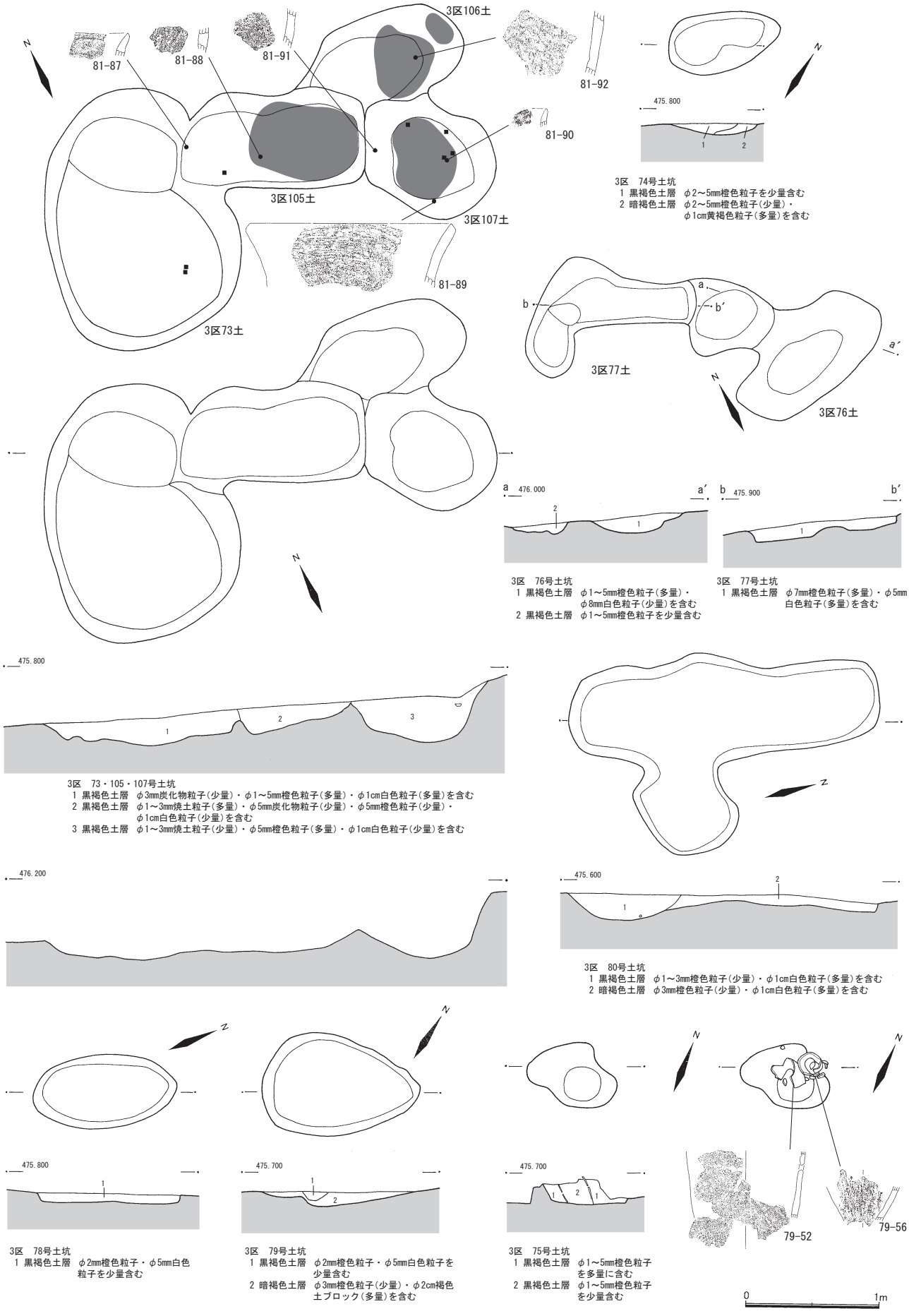


3区　71号土坑
1 暗褐色土層　φ2～5mm橙色粒子・φ2cm褐色土ブロックを多量に含む



3区　72号土坑
1 黒褐色土層　φ2～5mm橙色粒子を少量含む

第57図　第III面遺構図６



3区　74号土坑
1 黒褐色土層　φ2～5mm橙色粒子を少量含む
2 暗褐色土層　φ2～5mm橙色粒子(少量)・φ1cm黄褐色粒子(多量)を含む

3区　76号土坑
1 黒褐色土層　φ1～5mm橙色粒子(多量)・φ8mm白色粒子(少量)を含む
2 黒褐色土層　φ1～5mm橙色粒子を少量含む

3区　77号土坑
1 黒褐色土層　φ7mm橙色粒子(多量)・φ5mm白色粒子(多量)を含む

3区　73・105・107号土坑
1 黒褐色土層　φ3mm炭化物粒子(少量)・φ1～5mm橙色粒子(多量)・φ1cm白色粒子(多量)を含む
2 黒褐色土層　φ1～3mm焼土粒子(多量)・φ5mm炭化物粒子(少量)・φ5mm橙色粒子(少量)・φ1cm白色粒子(少量)を含む
3 黒褐色土層　φ1～3mm焼土粒子(少量)・φ5mm橙色粒子(多量)・φ1cm白色粒子(少量)を含む

3区　80号土坑
1 黒褐色土層　φ1～3mm橙色粒子(少量)・φ1cm白色粒子(多量)を含む
2 暗褐色土層　φ3mm橙色粒子(少量)・φ1cm白色粒子(多量)を含む

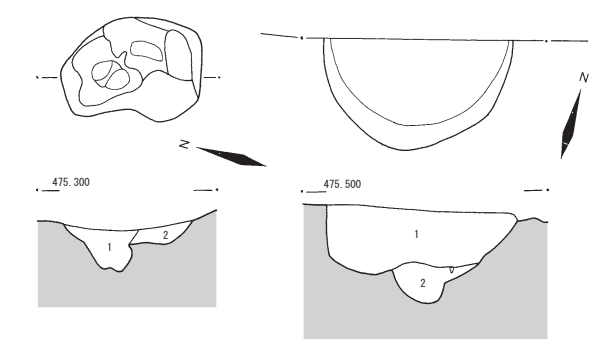
3区　78号土坑
1 黒褐色土層　φ2mm橙色粒子・φ5mm白色粒子を少量含む

3区　79号土坑
1 黒褐色土層　φ2mm橙色粒子・φ5mm白色粒子を少量含む
2 暗褐色土層　φ3mm橙色粒子(少量)・φ2cm褐色土ブロック(多量)を含む

3区　75号土坑
1 黒褐色土層　φ1～5mm橙色粒子を多量に含む
2 黒褐色土層　φ1～5mm橙色粒子を少量含む

79-52
79-56

第58図　第III面遺構図７

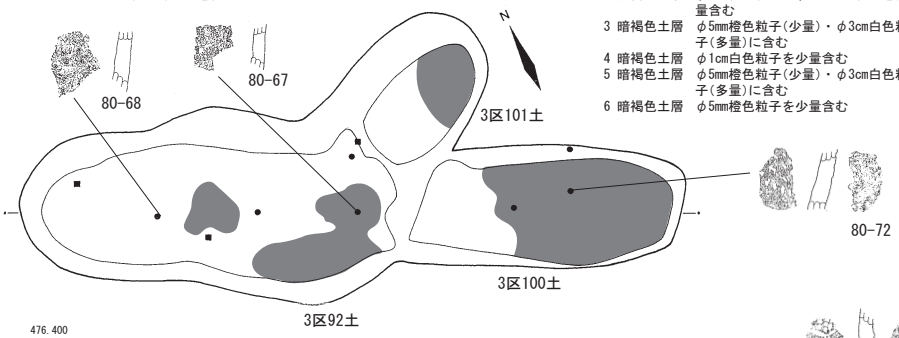


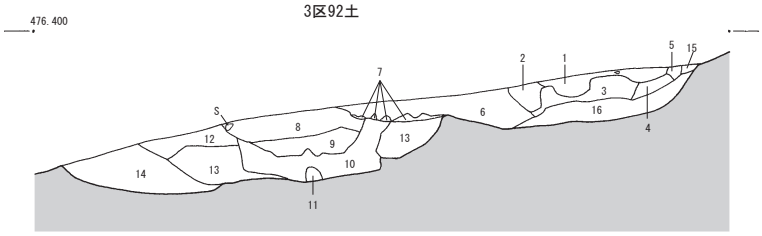
3区　81号土坑
1 黒褐色土層　φ5mm橙色粒子・φ5mm白色粒子を少量含む
2 暗褐色土層　φ8mm橙色粒子(少量)・φ2cm白色粒子(多量)を含む

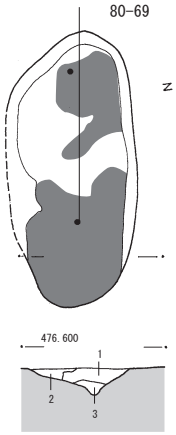
3区　82号土坑
1 暗褐色土層　φ5～10mm橙色粒子・φ2～5mm白色粒子を少量含む
2 暗褐色土層　φ3～5mm白色粒子を少量含む

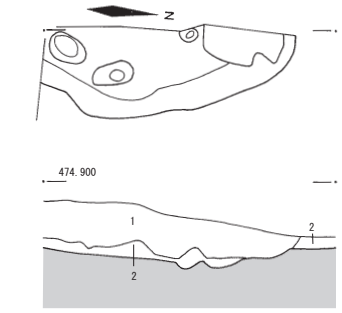
3区　84号土坑
1 暗褐色土層　φ1～3mm橙色粒子(少量)・φ1～5mm白色粒子(多量)・φ1～2cm白色粒子(少量)を含む
2 黒褐色土層　φ5mm橙色粒子・φ1cm白色粒子を少量含む
3 暗褐色土層　φ5mm橙色粒子(少量)・φ3cm白色粒子(多量)に含む
4 暗褐色土層　φ1cm白色粒子を少量含む
5 暗褐色土層　φ5mm橙色粒子(少量)・φ3cm白色粒子(多量)に含む
6 暗褐色土層　φ5mm橙色粒子を少量含む

3区　86号土坑
1 黒褐色土層　φ2～5mm橙色粒子・φ1cm白色粒子を多量に含む
2 暗褐色土層　φ1～5mm焼土粒子を多量に含む
3 暗褐色土層　φ1～3mm橙色粒子・φ1～3mm白色粒子を少量含む

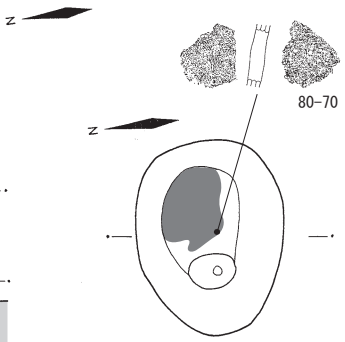


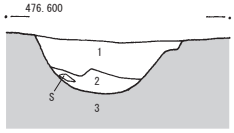






3区　88号土坑
1 黒褐色土層　φ2～5mm橙色粒子を多量に含む
2 暗褐色土層　φ1～3mm橙色粒子(少量)・φ3～5mm黄褐色土粒子(多量)に含む

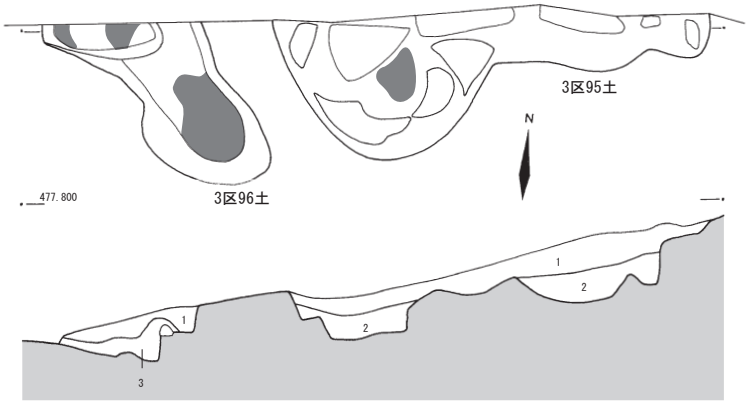




3区　92・100号土坑
1 黒褐色土層　φ2～5mm焼土粒子・φ5～10mm白色粒子を少量含む
2 暗褐色土層　φ1～5mm焼土粒子(多量)・φ3～5mm炭化物粒子(少量)・φ1～3mm白色粒子(少量)を含む
3 暗褐色土層　φ1～5mm焼土粒子(多量)・φ1cm炭化物粒子(少量)を含む
4 暗褐色土層　φ1～10mm焼土粒子を多量に含む
5 焼土層
6 暗褐色土層　φ1～3mm焼土粒子(多量)・φ2cm橙色粒子(少量)・φ1cm白色粒子(多量)を含む
7 暗黄褐色土層
8 黒褐色土層　φ1cm橙色粒子・φ2～5mm白色粒子を多量に含む
9 暗黒褐色土層　φ1～3mm炭化物粒子・φ3～5mm橙色粒子・φ1～7mm白色粒子を少量含む
10 黒褐色土層　φ2～5mm焼土粒子(少量)・φ1cm白色粒子(多量)に含む
11 暗褐色土層　φ1～3mm黄褐色土粒子を多量に含む
12 暗黒褐色土層　φ1～5mm焼土粒子・φ2～5mm炭化物粒子・φ2～5mm白色粒子を少量含む
13 黒褐色土層　φ2～5mm焼土粒子(多量)・φ1cm炭化物粒子(少量)・φ2cm白色粒子(多量)を少量含む
14 黒褐色土層
15 黒褐色土層　φ3～7mm炭化物粒子(少量)・φ2～5mm炭化物粒子(少量)・φ2cm白色粒子(多量)を含む
16 焼土層　暗褐色土を含む

3区　93号土坑
1 黒褐色土層　φ3～5mm焼土粒子・φ2～3mm炭化物粒子を少量含む
2 暗褐色土層　φ1～3mm焼土粒子(多量)・φ3～5mm黄褐色土ブロック(少量)を含む
3 暗褐色土層　φ1～5mm焼土粒子を多量に含む

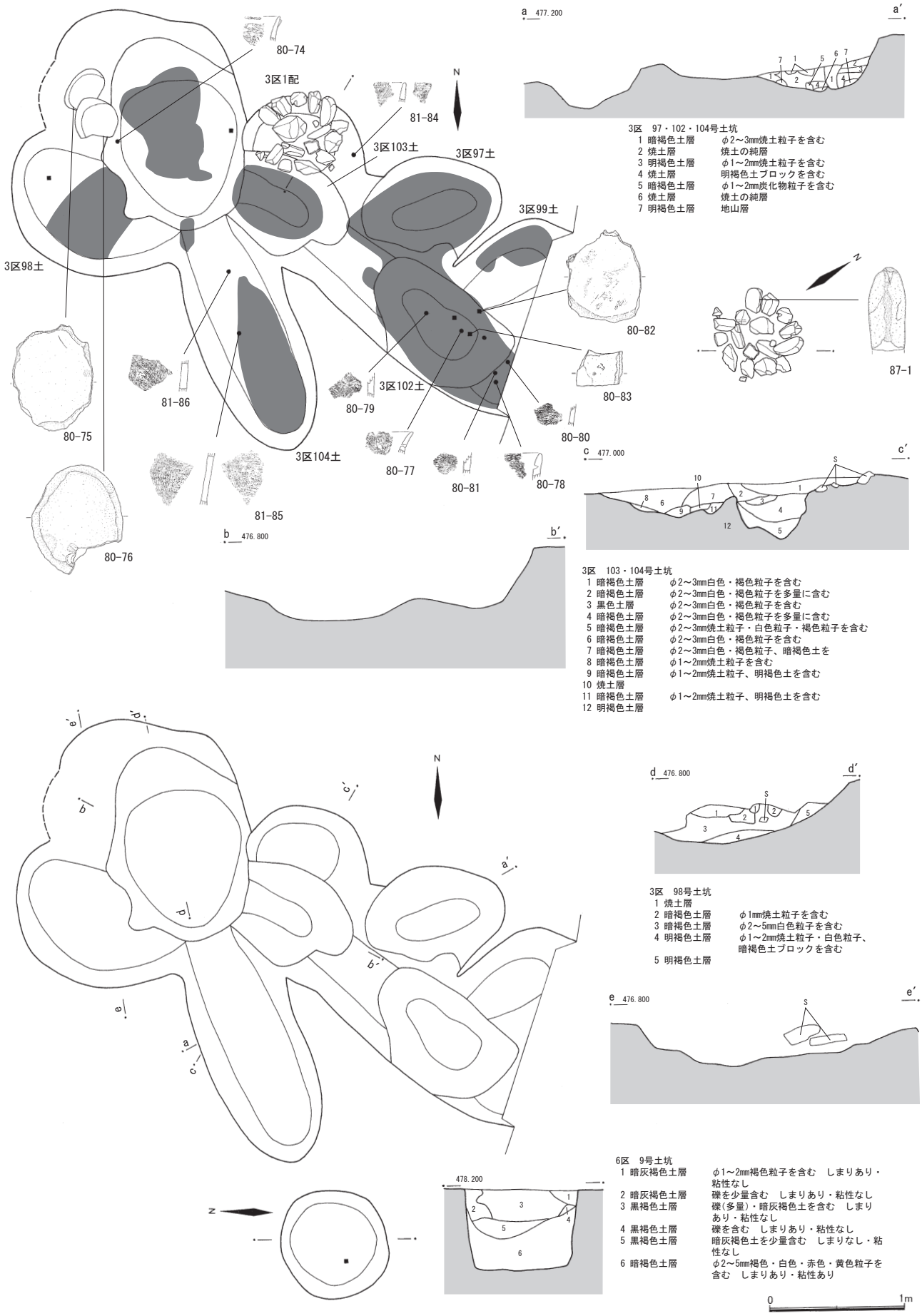
3区　94号土坑
1 黒褐色土層　φ2～3mm炭化物粒子・φ1～5mm橙色粒子・φ2～15mm白色粒子を少量含む
2 黒褐色土層　φ3～10mm橙色粒子を少量含む
3 黄褐色土層　φ1～3mm橙色粒子を少量含む



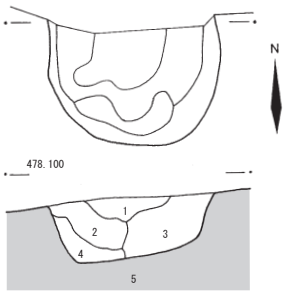
3区　95・96号土坑
1 暗褐色土層　φ1～2mm焼土粒子・白色粒子・褐色粒子を含む
2 暗褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む
3 暗褐色土層　φ1～2mm焼土粒子・φ2～5mm明褐色土ブロックを含む

0　1m

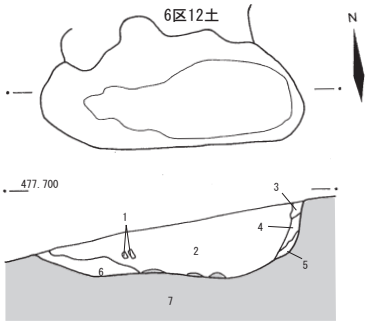
第59図　第III面遺構図８



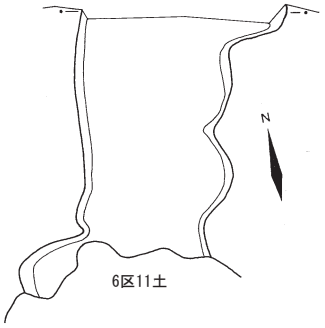
第60図　第III面遺構図９

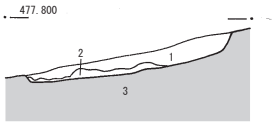


6区　10号土坑
1 暗褐色土層　φ2～10mm赤色・白色・黄色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
3 暗褐色土層　φ2～5mm褐色・白色・黄色粒子・褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
4 明褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
5 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

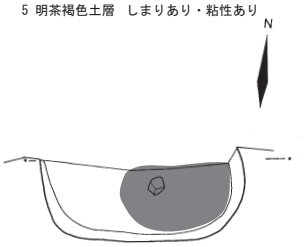


6区　11号土坑
1 明褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
2 暗褐色土層　φ1～5mm褐色・白色・黄色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
4 暗灰褐色土層　φ1～2mm白色・黄色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
5 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
6 褐色土層　φ2～3mm褐色・白色粒子・暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
7 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

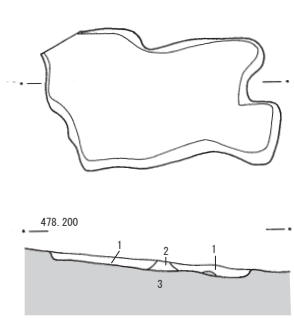




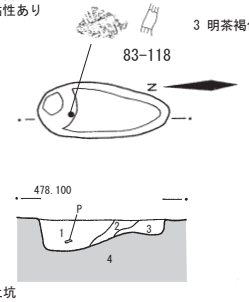
6区　12号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm褐色・黄色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
3 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり



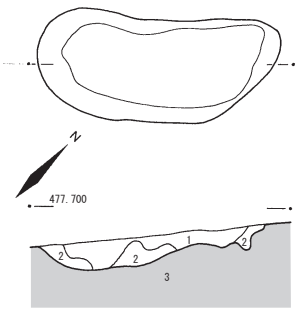
6区　13号土坑
1 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
2 暗褐色土層　φ2～3mm褐色・白色・黄色粒子、φ3～5mm白色・黄色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
4 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
5 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
6 明褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
7 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色・白色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
8 焼土層　しまりなし・粘性なし
9 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり



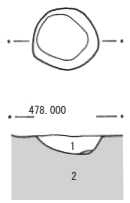
6区　14号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
3 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり



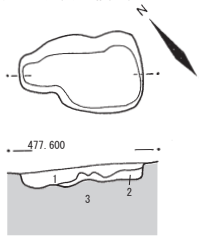
6区　15号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm赤色・黄色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗灰褐色土層　φ2～3mm赤色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
3 明褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
4 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり



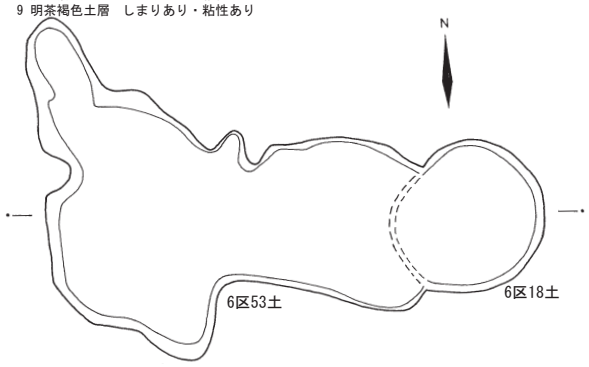
6区　17号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
3 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

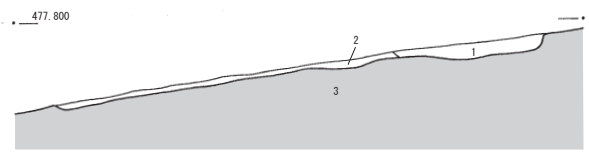


6区　16号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

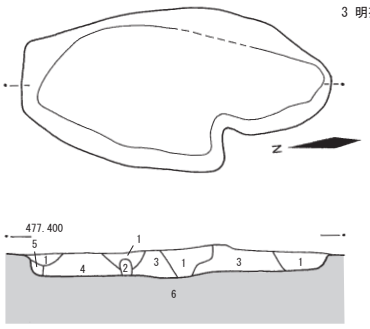


6区　19号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
3 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

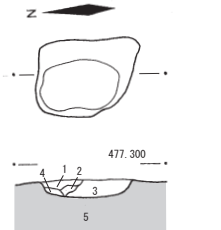




6区　18・53号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm褐色・白色・黄色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
3 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり



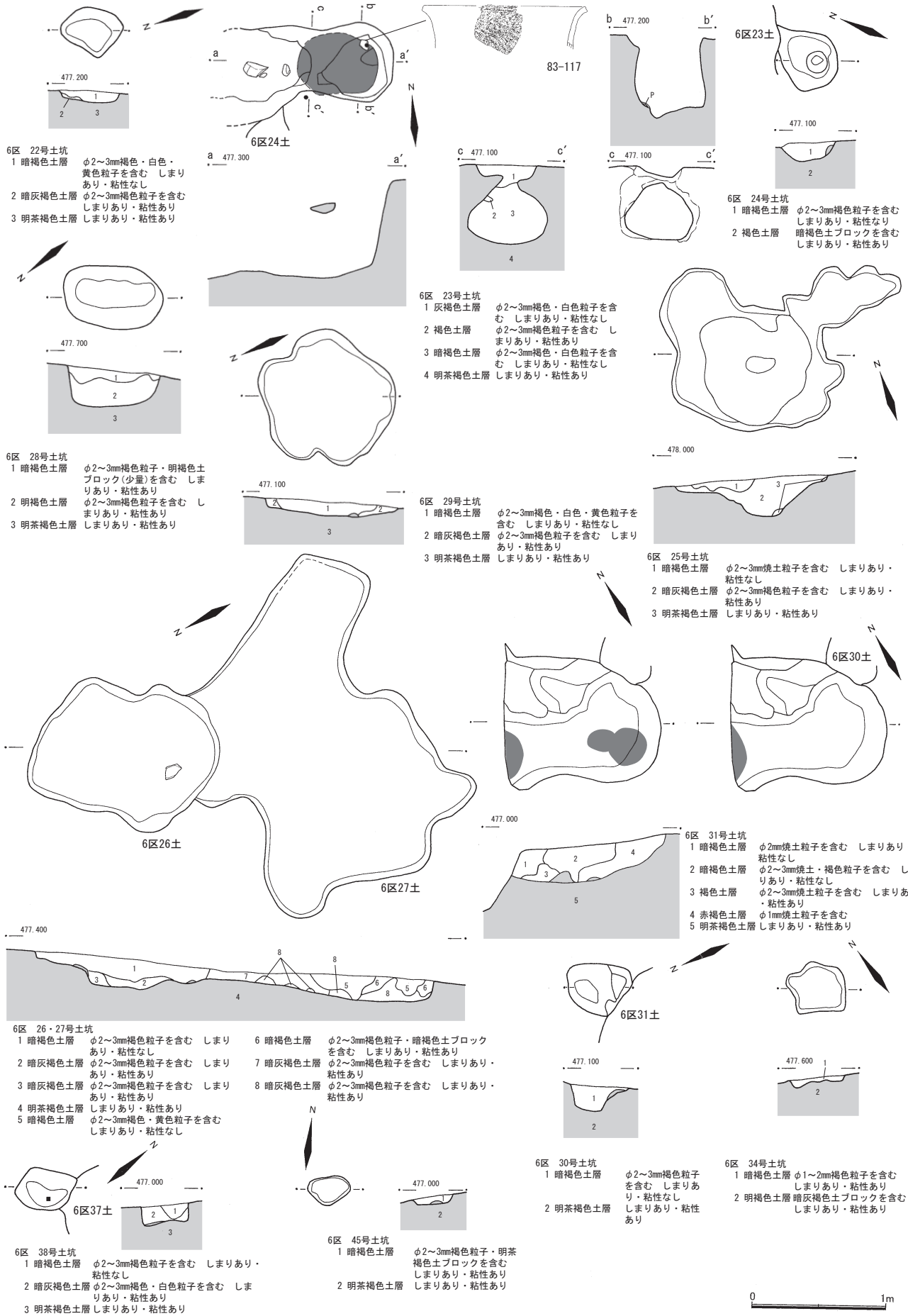
6区　20号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
3 灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
4 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
5 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
6 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり



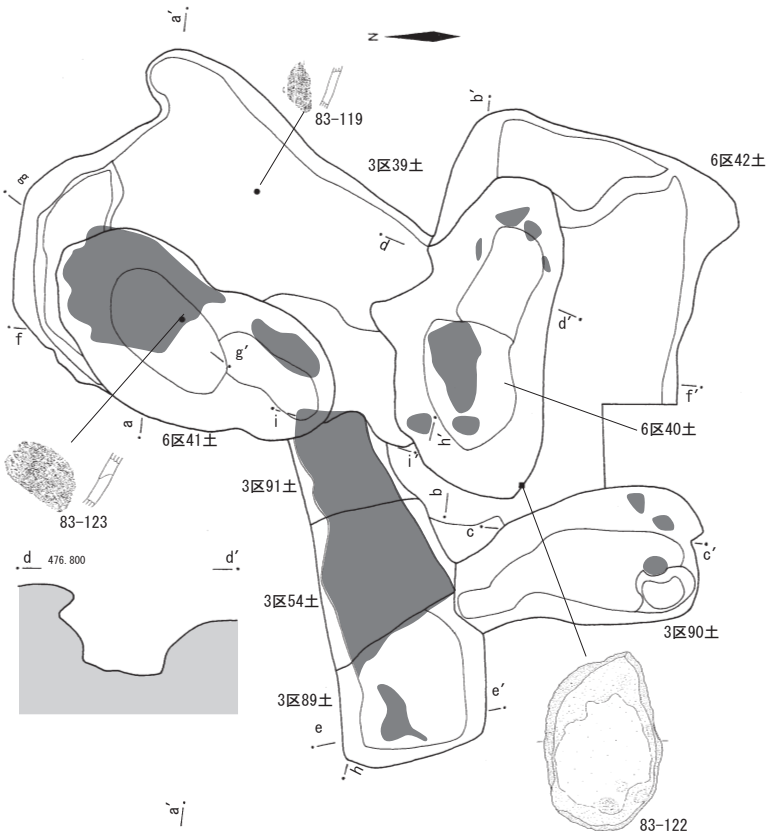
6区　21号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm褐色・白色・黄色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
3 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
4 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
5 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

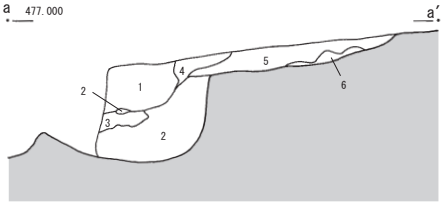
0　1m

第61図　第III面遺構図10

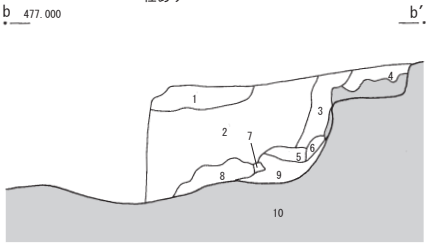


第62図　第III面遺構図11

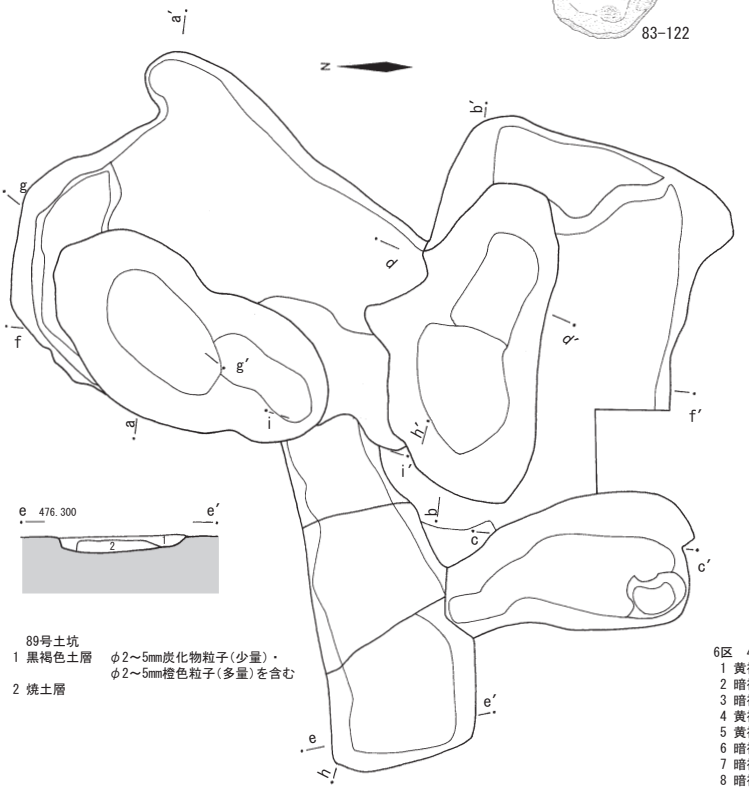




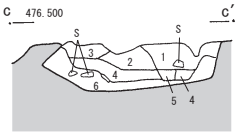
6区 39・41号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm褐色・赤色・白色粒子・焼土粒子(少量)を含む　しまりあり・粘性あり
2 焼土層　焼土の純層　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
4 暗褐色土層　φ2～3mm褐色・白色粒子・褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
5 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色・白色・黄色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
6 茶褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり



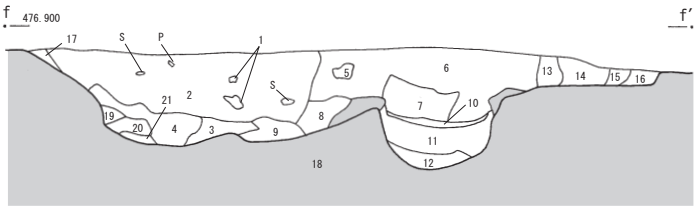
6区 40・42号土坑
1 灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ1～2mm焼土粒子・φ2～3mm褐色・白色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
4 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
5 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
6 暗褐色土層　φ2～3mm焼土・炭化物粒子を含む　しまりあり・粘性なし
7 焼土層　焼土の純層 しまりなし・粘性なし
8 暗褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
9 暗褐色土層　しまりあり・粘性なし
10 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり



89号土坑
1 黒褐色土層　φ2～5mm炭化物粒子(少量)・φ2～5mm橙色粒子(多量)を含む
2 焼土層



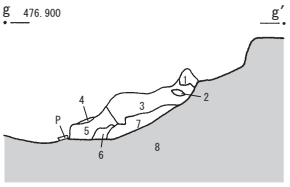
3区　90号土坑
1 暗褐色土層　φ3～10mm橙色粒子(多量)・φ2～3mm炭化物粒子(少量)を含む
2 暗褐色土層　φ1～5mm橙色粒子・φ2cm黄褐色ブロックを多量に含む
3 黒褐色土層　φ1～3mm橙色粒子を少量含む
4 黒褐色土層　φ2～5mm焼土粒子(多量)・φ5mm炭化物粒子(少量)を含む
5 黄褐色土層
6 暗褐色土層　φ2～5mm橙色粒子を多量に含む



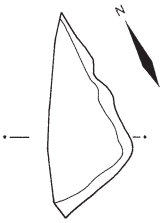
6区　40・41・42号土坑
1 黄褐色土層　φ1～2mm赤色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
2 暗褐色土層　φ2～10mm白色・赤色・黄色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　φ2～3mm焼土・白色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
4 黄褐色土層　φ2～3mm焼土粒子・暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
5 黄褐色土層　φ1～2mm赤色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
6 暗褐色土層　φ2～3mm赤色・白色粒子・黄褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
7 暗褐色土層　φ2～3mm赤色・黄色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
8 暗褐色土層　φ1～2mm焼土粒子・φ2～3mm赤色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
9 焼土層　暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
10 黄褐色土層　φ2～3mm赤色粒子・暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
11 暗褐色土層　φ2～3mm赤色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
12 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
13 暗褐色土層　φ2～3mm赤色粒子を含む
14 黄褐色土層　φ2～3mm赤色粒子を含む
15 暗褐色土層
16 明黄褐色土層　φ2～3mm赤色粒子を含む
17 暗褐色土層　φ2～10mm白色・赤色・黄色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
18 明黄褐色土層　φ2～3mm赤色粒子を含む
19 焼土層　黄褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
20 焼土層　焼土の純層　しまりあり・粘性なし
21 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし

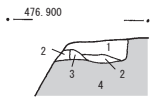
0　1m

第63図　第III面遺構図12

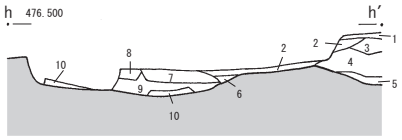


6区　41号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ1mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 焼土層　暗褐色土ブロックを少量含む　しまりあり・粘性なし
4 焼土層　焼土の純層　しまりなし・粘性なし
5 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
6 焼土層　暗褐色土ブロックを少量含む　しまりなし・粘性なし
7 明茶褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性あり
8 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

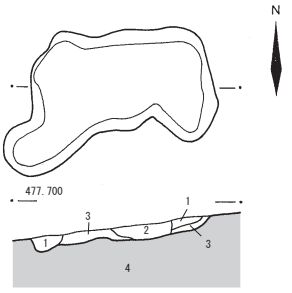




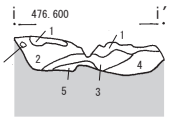
6区　32号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色・白色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
3 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
4 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり



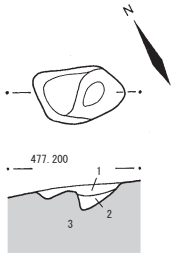
3区　54・89・91号土坑
1 焼土層
2 黒褐色土層　φ5mm焼土粒子・φ1cm黄褐色土ブロックを少量含む
3 暗褐色土層　φ1～5mm焼土粒子を多量に含む
4 暗褐色土層　φ1～3mm焼土粒子(多量)・φ1cm黄褐色土ブロック(少量)に含む
5 焼土層
6 暗褐色土層　φ1～3mm焼土粒子を多量に含む
7 黄褐色土層
8 暗褐色土層　φ1cm橙色粒子を多量に含む
9 黒褐色土層　φ2～5mm焼土粒子(多量)・φ2～7mm黄褐色土粒子（少量）を含む
10 焼土層



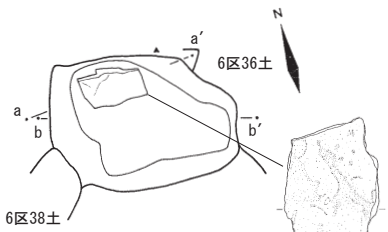
6区　35号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
3 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
4 明褐色土層　しまりあり・粘性あり



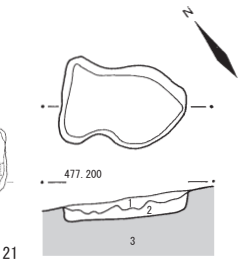
3区　91号土坑
1 焼土層
2 黒褐色土層　φ5mm焼土粒子・φ1cm黄褐色土ブロックを少量含む
3 暗褐色土層　φ1～5mm焼土粒子を多量に含む
4 黒褐色土層　φ2～5mm橙色粒子・φ5mm白色粒子を少量含む
5 焼土層



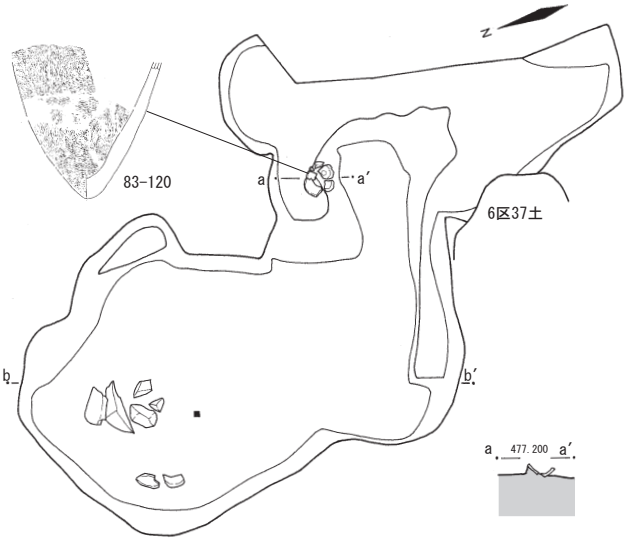
6区　49号土坑
1 暗褐色土層
2 暗灰褐色土層
3 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

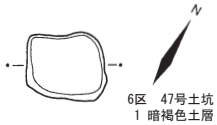


6区　37号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm褐色・白色粒子を含むしまりあり・粘性なし
2 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
3 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

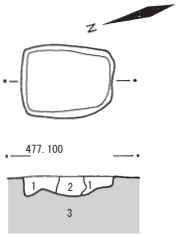


6区　46号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・暗灰褐色土ブロックを含むしまりあり・粘性あり
2 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含むしまりあり・粘性あり
3 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

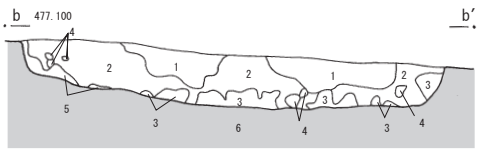




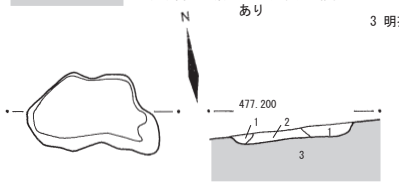
6区　47号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
3 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり



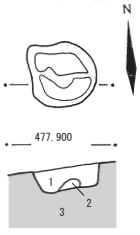
6区　48号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・暗灰褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
2 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
3 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり



6区　36号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm褐色・白色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし
3 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
4 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・暗褐色土ブロツクを含む　しまりあり・粘性あり
5 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
6 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

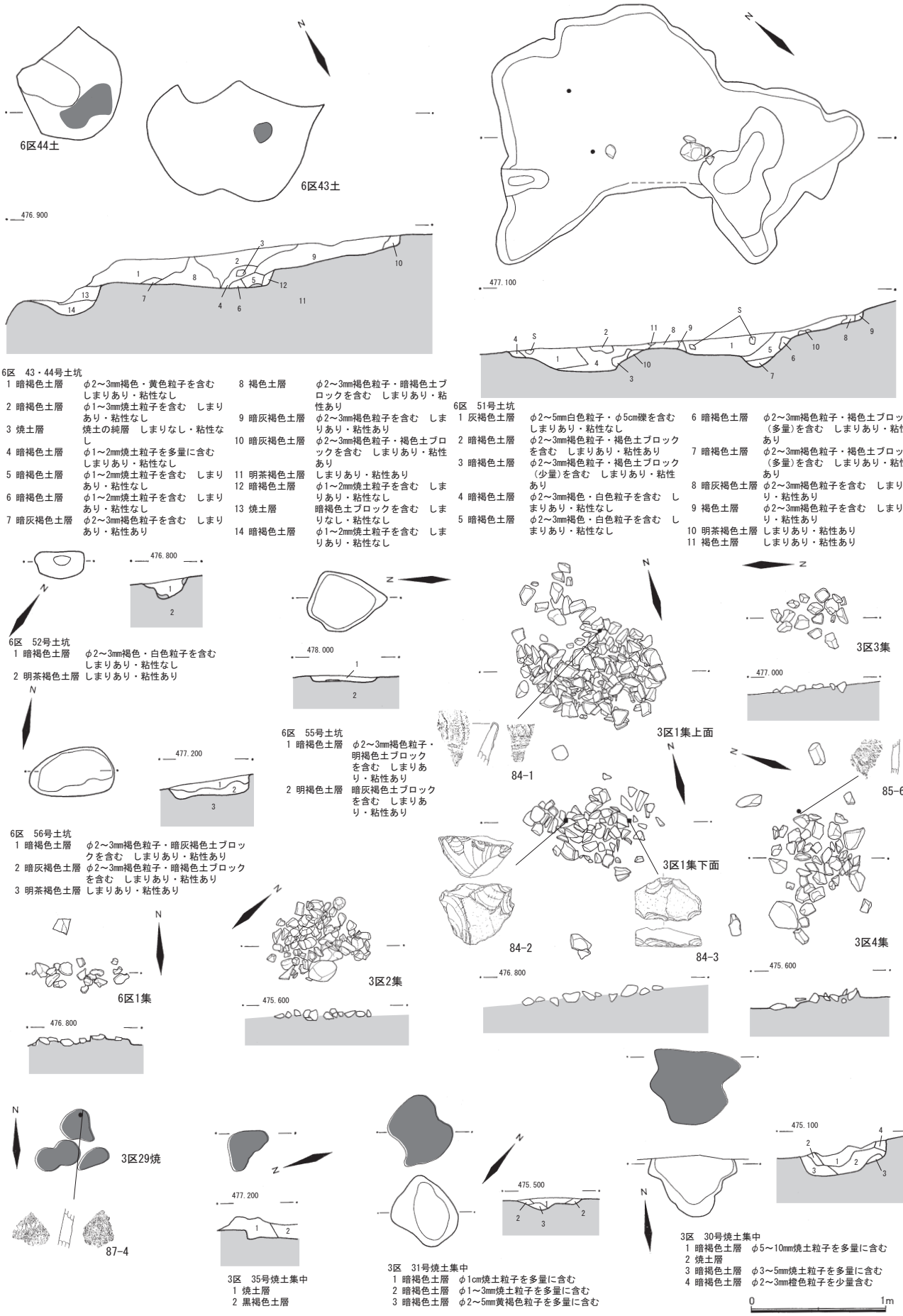


6区　50号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm赤褐色粒子・明褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
2 明褐色土層　φ2～3mm赤色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
3 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

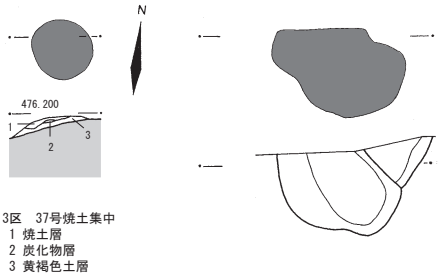


6区　54号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・暗灰褐色土ブロックを含むしまりあり・粘性あり
2 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
3 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

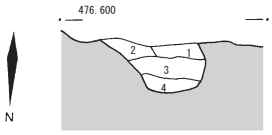
第64図　第III面遺構図13



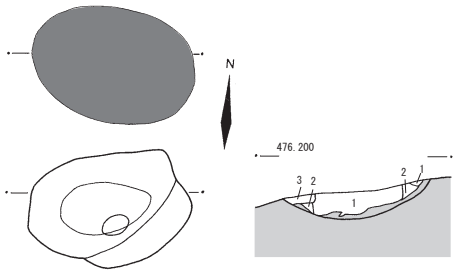
第65図　第III面遺構図14



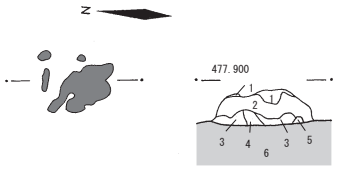
3区　37号焼土集中
1 焼土層
2 炭化物層
3 黄褐色土層



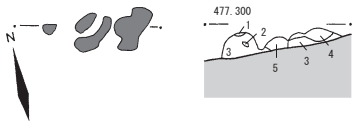
3区　34号焼土集中
1 黒褐色土層　φ2cm焼土粒子を多量に含む
2 暗褐色土層　φ1cm焼土粒子を多量に含む
3 焼土層
4 褐色土層　φ5mm焼土粒子(多量)・φ2～5mm炭化物粒子(少量)を含む



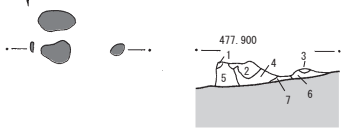
3区　38号焼土集中
1 焼土層
2 暗褐色土層　φ1～5mm焼土粒子を多量に含む
3 明褐色土層　φ1～3mm焼土粒子を少量含む



6区　1号焼土集中
1 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
4 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
5 明茶褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり
6 暗灰褐色土層　明茶褐色土層を含む　しまりあり・粘性あり

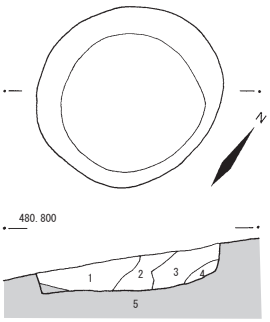


6区　2号焼土集中
1 焼土層　しまりなし・粘性なし
2 褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性あり
3 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を少量含む　しまりあり・粘性あり
4 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性あり
5 暗褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし

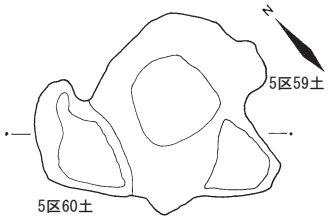


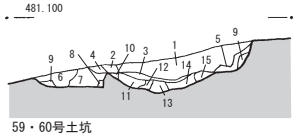
6区　3号焼土集中
1 焼土層　しまりなし・粘性なし
2 暗褐色土層　φ2～5mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
4 褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性あり
5 暗褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
6 暗褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
7 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性あり

第66図　第III面遺構図15

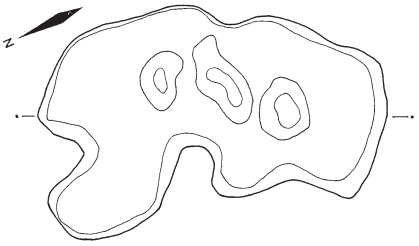


5区　54号土坑
1 灰褐色土層　φ2～3mm炭化物粒子・礫を含む　しまりあり・粘性なし
2 明褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・礫を含む　しまりあり・粘性なし
3 明褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・礫を含む　しまりあり・粘性あり
4 暗褐色土層　φ2～3mm白色粒子・礫を含む　しまりあり・粘性あり
5 暗褐色土層　φ2～5mm白色・黄色粒子を含む　しまりあり・粘性あり

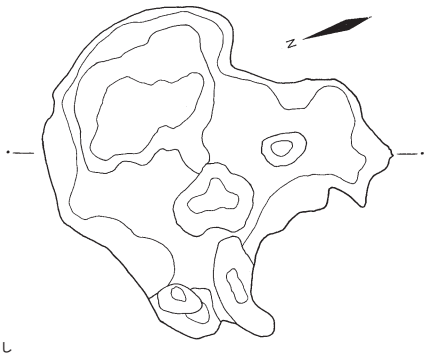


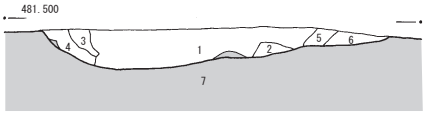


5区　59・60号土坑
1 暗褐色土層　φ1mm焼土粒子(少量)・φ2～10mm褐色粒子(多量)を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ1～15mm焼土粒子を多量に含む しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　焼土粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし
4 灰褐色土層　φ3mm炭化物粒子・φ3mm赤色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
5 灰褐色土層　φ2～3cm明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
6 灰褐色土層　φ2～5mm赤色粒子・φ2～3cm暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
7 明茶褐色土層　φ2～4mm暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
8 灰褐色土層　φ2mm黒色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
9 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり
10 灰暗色土層　φ4～10mm焼土粒子を含む　しまりなし・粘性なし
11 焼土層　φ2～5mm白色粒子(少量)・灰褐色土ブロックを含む　しまりなし・粘性なし
12 暗灰褐色土層　φ3mm焼土粒子・φ7mm白色粒子(少量)・灰褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
13 焼土層　φ2～3cm灰褐色土ブロックを含む　しまりなし・粘性なし
14 灰褐色土層　φ2～3cm焼土粒子・φ7mm白色粒子(少量)を含む　しまりあり・粘性なし
15 焼土層　φ4cm灰褐色土ブロックを含む　しまりなし・粘性なし

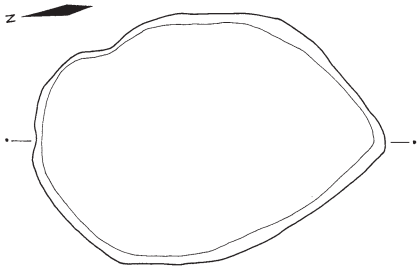


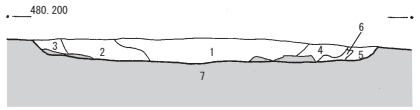
5区　61号土坑
1 暗褐色土層　φ1～8mm褐色粒子・φ1～4mm灰色粒子(少量)を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ1～5mm褐色粒子・φ2～4mm黄色粒子(少量)・φ5～20mm灰褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　φ1～9mm褐色粒子・φ1～8mm黄色粒子(少量)を含む　しまりあり・粘性なし
4 暗褐色土層　φ1～4mm褐色粒子(少量)・φ2～4mm黄色粒子(少量)・φ2～5cm灰褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
5 灰褐色土層　φ2～7mm褐色粒子・φ2～7cm黄色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
6 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり



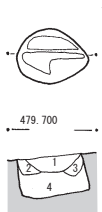


5区　57号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm褐色・黄色粒子、φ2～3cm明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
2 灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 茶褐色土層　φ2～3mm褐色粒子、暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
4 暗褐色土層　φ2～3mm褐色・黄色粒子を含む　しまりり・粘性なし
5 灰褐色土層　φ2～3mm褐色・黄色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
6 明茶褐色土層　φ2～3mm褐色粒子、暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
7 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

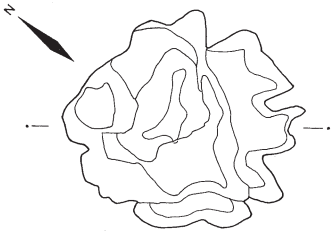


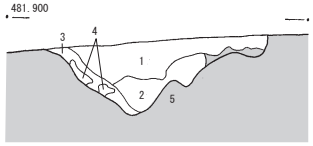


5区　62号土坑
1 灰褐色土層　φ2～3mm黄色粒子・礫を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ2～3mm褐色・黄色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
4 暗褐色土層　φ2～3mm褐色・黄色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
5 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
6 明茶褐色土層　暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
7 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

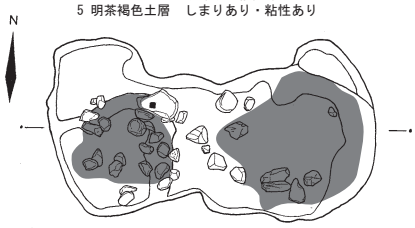


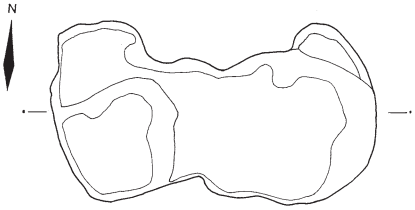
5区　65号土坑
1 黒褐色土層　φ1～2mm褐色粒子(少量)・φ2～4mm礫を含むしまりなし・粘性なし
2 暗褐色土層　φ1mm褐色粒子(少量)・φ2～3cm明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　φ1mm褐色粒子(少量)・φ1cm明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
4 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

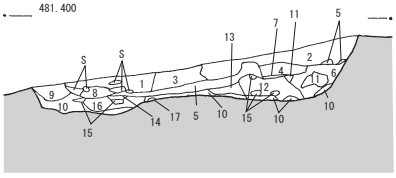




5区　56号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm褐色・黄色粒子、暗褐色土ブロック(少量)を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
3 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・φ2～5mm明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
4 明茶褐色土層　暗褐色土ブロックを少量含む　しまりあり・粘性あり
5 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり



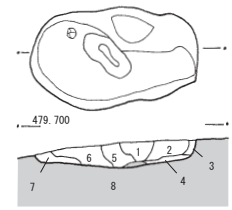




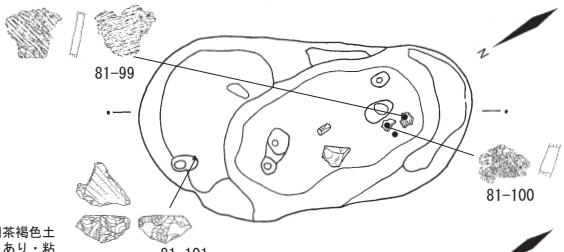
5区　58号土坑
1 暗褐色土層　φ1～5mm褐色粒子・φ3～6mm礫を含むしまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ4cm焼土粒子・φ5mm炭化物粒子(少量)・φ1～6mm褐色粒子・φ5～10mm礫を含むしまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　φ1～5mm褐色粒子・φ5cm明茶褐色土ブロック・φ6～15mm礫(少量)を含む　しまりあり・粘性なし
4 暗灰褐色土層　φ12～15mm焼土粒子・φ2～4mm褐色粒子・φ1～4mm礫を含む　しまりあり・粘性なし
5 焼土層　しまりあり・粘性なし
6 灰褐色土層　φ8～12mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
7 灰褐色土層　φ1～3mm礫を少量含む　しまりあり・粘性なし
8 灰褐色土層　φ2cm焼土粒子・φ1～5mm褐色粒子・φ5mm礫(少量)を含む　しまりあり・粘性なし
9 灰褐色土層　φ2～4mm焼土粒子・φ2～5mm褐色粒子・φ3cm明茶褐色土ブロック・φ3～5mm礫を含むしまりあり・粘性なし
10 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり
11 明茶褐色土層　φ2～3mm褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
12 暗褐色土層　φ2～4mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
13 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子・明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
14 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
15 焼土層　褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
16 暗褐色土層　φ2～4mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
17 暗褐色土層　しまりあり・粘性なし

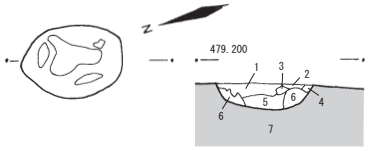
0　1m

第67図　第III面遺構図16

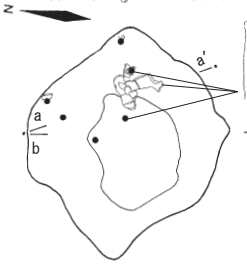


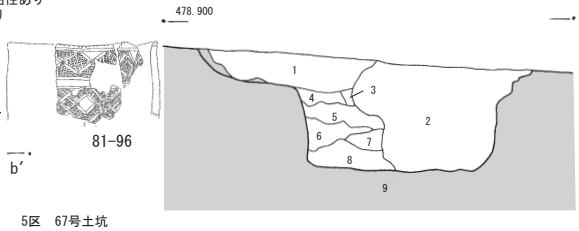
5区　64号土坑
1 暗褐色土層　φ1～2mm焼土粒子・φ2～3mm明茶褐色土ブロック(少量)を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子・φ1～2mm炭化物粒子(少量)を含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　明茶褐色土ブロックを少量含む　しまりあり・粘性なし
4 明茶褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
5 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
6 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・φ1～2mm黄色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
7 明茶褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
8 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

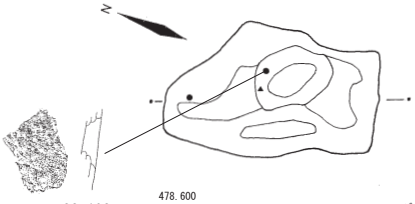


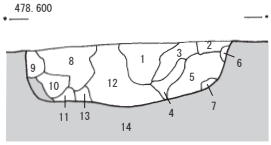


5区　66号土坑
1 暗褐色土層　φ1～5mm焼土粒子・φ5mm炭化物粒子(少量)を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗灰褐色土層　φ1～5mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 焼土層　暗灰色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
4 明茶褐色土層　暗灰色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
5 明茶褐色土層　φ1～3mm褐色粒子・暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
6 明茶褐色土層　φ1～2mm褐色粒子・暗褐色土ブロック(少量)を含む　しまりあり・粘性あり
7 明茶褐色土層　しまりあり・粘性なし

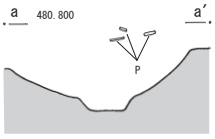


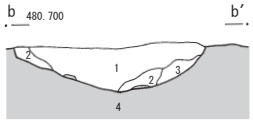






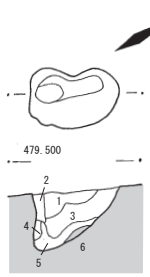
5区　67号土坑
1 灰褐色土層　φ2～6mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ2～5mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 暗灰褐色土層　φ2～4mm明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
4 暗灰褐色土層　φ2～5mm褐色粒子・φ2～3mm明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
5 灰褐色土層　φ5～10mm明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
6 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
7 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
8 灰褐色土層　φ2～5mm褐色粒子・明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
9 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり



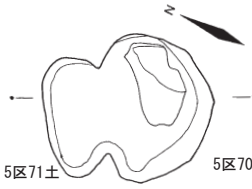


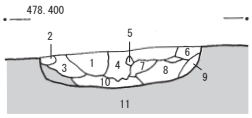
5区　69号土坑
1 暗褐色土層　φ1～9mm褐色粒子・灰褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
2 暗灰褐色土層　φ1～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　φ1～3mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
4 暗灰褐色土層　φ1～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘なし
5 暗褐色土層　φ1～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
6 暗褐色土層　φ1～2mm褐色粒子・明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
7 暗褐色土層　φ1～2mm褐色粒子・明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
8 暗褐色土層　φ1～4mm褐色粒子・明茶褐色土ブロック(少量)を含む　しまりあり・粘性なし
9 暗灰褐色土層　φ1～2mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
10 暗褐色土層　φ1～3mm褐色粒子・明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
11 暗褐色土層　φ1～2mm褐色粒子・明茶褐色土ブロック(少量)を含む　しまりあり・粘性なし
12 灰褐色土層　φ1～4mm褐色粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし
13 暗褐色土層　φ1～3mm褐色粒子・φ3cm明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
14 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

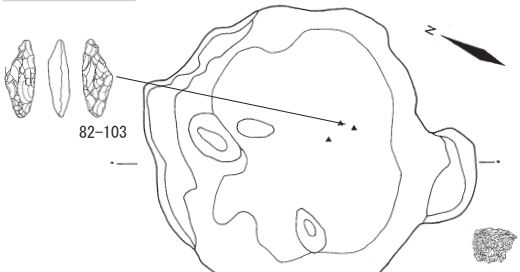
5区　63号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 明茶褐色土層　暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
4 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

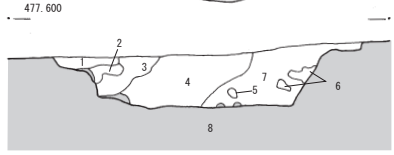


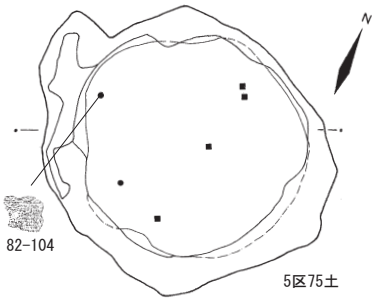
5区　68号土坑
1 暗褐色土層　φ1～3mm褐色・白色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 明茶褐色土層　φ1～2mm褐色・白色粒子、暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
3 赤褐色土層　φ1～2mm白色粒子・φ3mm黄色粒子(少量)・φ12mm赤色粒子(少量)を含む　しまりあり・粘性なし
4 明茶褐色土層　φ1～3mm褐色・白色・黄色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
5 暗褐色土層　φ1～3mm褐色・白色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
6 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

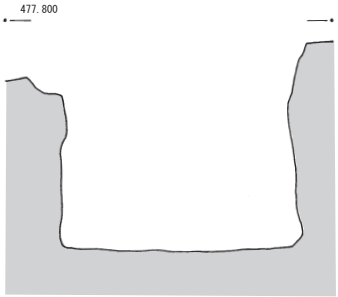








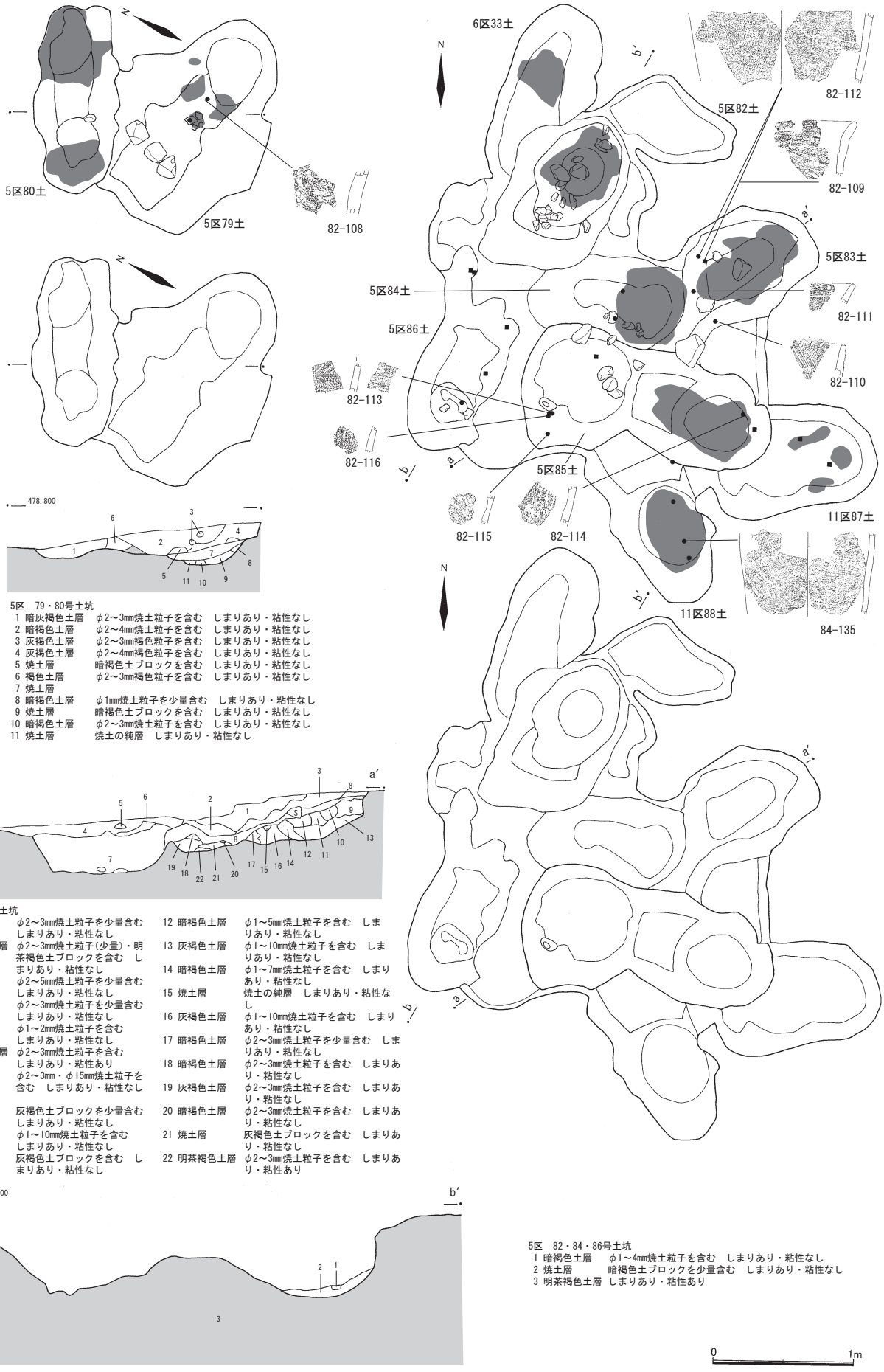




5区　70・71号土坑
1 暗褐色土層　φ1～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ1～2mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 暗灰色土層　φ1～2mm褐色粒子・φ1～3mm白色粒子(少量)を含む　しまりあり・粘性なし
4 暗灰色土層　φ1～5mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
5 茶褐色土層　φ1～3mm褐色粒子・暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
6 暗灰色土層　φ1～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
7 暗褐色土層　φ1～3mm褐色粒子(少量)を含む　しまりあり・粘性なし
8 暗灰色土層　φ1～3mm褐色粒子・φ2～5mm白色粒子(少量)を含む　しまりあり・粘性なし
9 暗灰色土層　φ1～3mm褐色粒子・明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
10 暗灰褐色土層　φ1～5mm褐色粒子・暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
11 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

5区　74号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗灰褐色土層　φ2～4mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　φ2～4mm褐色粒子・φ4mm白色粒子(少量)を含む　しまりあり・粘性なし
4 暗灰褐色土層　φ2～5mm褐色粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし
5 明茶褐色土層　暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
6 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
7 暗褐色土層　φ2～5mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
8 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

第68図　第III面遺構図17



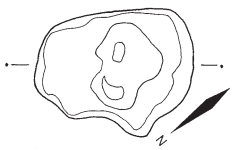
5区　79・80号土坑
1 暗灰褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ2～4mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
4 灰褐色土層　φ2～4mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
5 焼土層　暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
6 褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
7 焼土層
8 暗褐色土層　φ1mm焼土粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
9 焼土層　暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
10 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
11 焼土層　焼土の純層　しまりあり・粘性なし

5区　83～85号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
2 暗灰褐色土層　φ2～3mm焼土粒子(少量)・明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　φ2～5mm焼土粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
4 灰褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
5 暗褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
6 明茶褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性あり
7 暗褐色土層　φ2～3mm・φ15mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
8 焼土層
9 焼土層　灰褐色土ブロックを少量含む　しまりあり・粘性なし
10 暗褐色土層　φ1～10mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
11 焼土層　灰褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
12 暗褐色土層　φ1～5mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
13 灰褐色土層　φ1～10mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
14 暗褐色土層　φ1～7mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
15 焼土層　焼土の純層　しまりあり・粘性なし
16 灰褐色土層　φ1～10mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
17 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
18 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
19 灰褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
20 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
21 焼土層　灰褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
22 明茶褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性あり

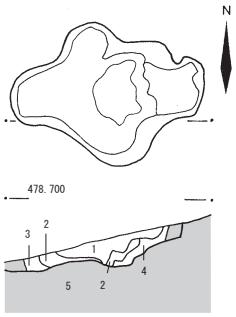
5区　82・84・86号土坑
1 暗褐色土層　φ1～4mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 焼土層　暗褐色土ブロックを少量含む　しまりあり・粘性なし
3 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

第69図　第III面遺構図18

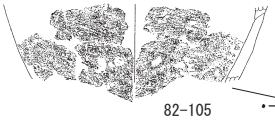
5区　72号土坑
1 暗褐色土層　φ1～2mm褐色粒子、灰褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
2 灰褐色土層　φ1～4mm褐色粒子、暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
3 明茶褐色土層　φ1～2mm褐色粒子、暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
4 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

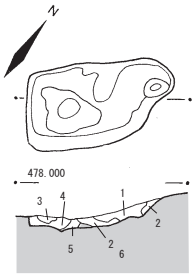


5区　73号土坑
1 暗灰相色土層　φ1～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 茶褐色土層　φ1～2mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　φ1～4mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
4 暗灰褐色土層　φ1～2mm褐色粒子・φ1～4mm白色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
5 暗褐色土層　φ1～4mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
6 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

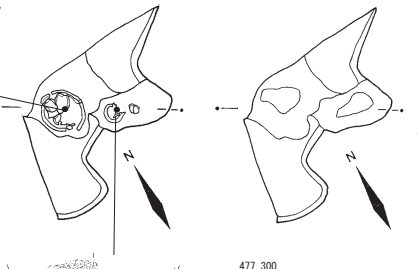


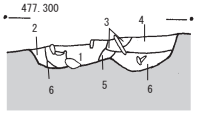
5区　78号土坑
1 暗褐色土層　φ2～5mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　φ5～20mm明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
4 灰褐色土層　φ2～5mm褐色粒子・明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
5 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり



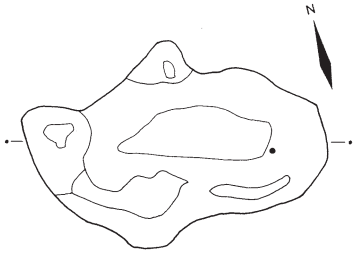


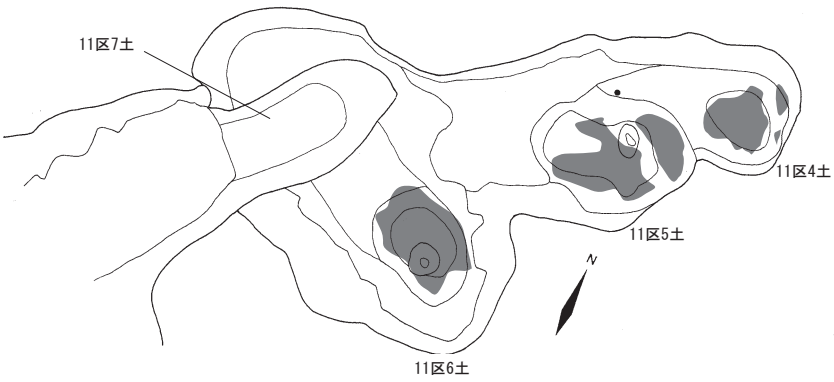
5区　81号土坑
1 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 灰褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし
4 灰褐色土層　明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
5 灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
6 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

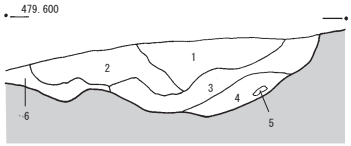




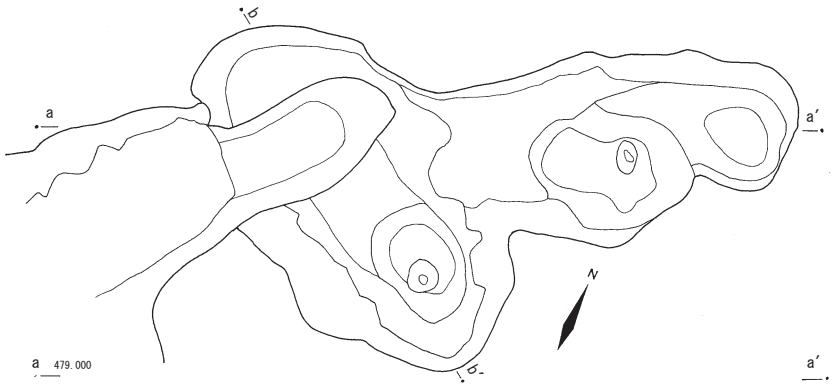
5区　77号土坑
1 暗褐色土層　φ2～4mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
4 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
5 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり
6 明茶褐色土層　暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり

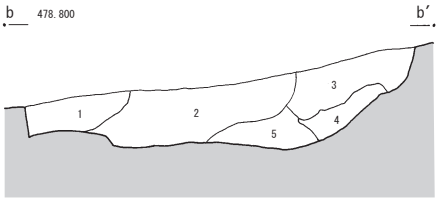




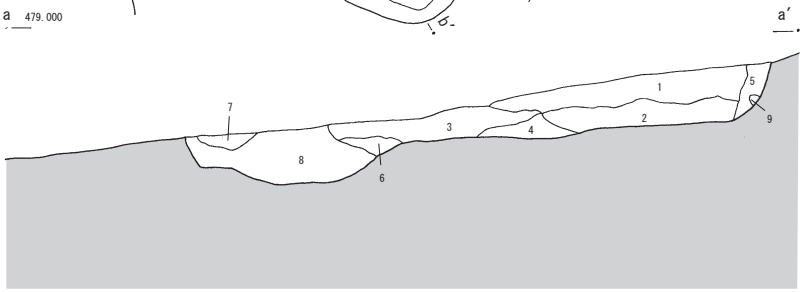


5・11区　76号土坑
1 暗灰褐色土層　φ2～5mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗灰褐色土層　φ2～7mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　2～7mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
4 暗褐色土層　φ2～7mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
5 焼土層　暗褐色土ブロックを含む　しまりあり粘性なし
6 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり



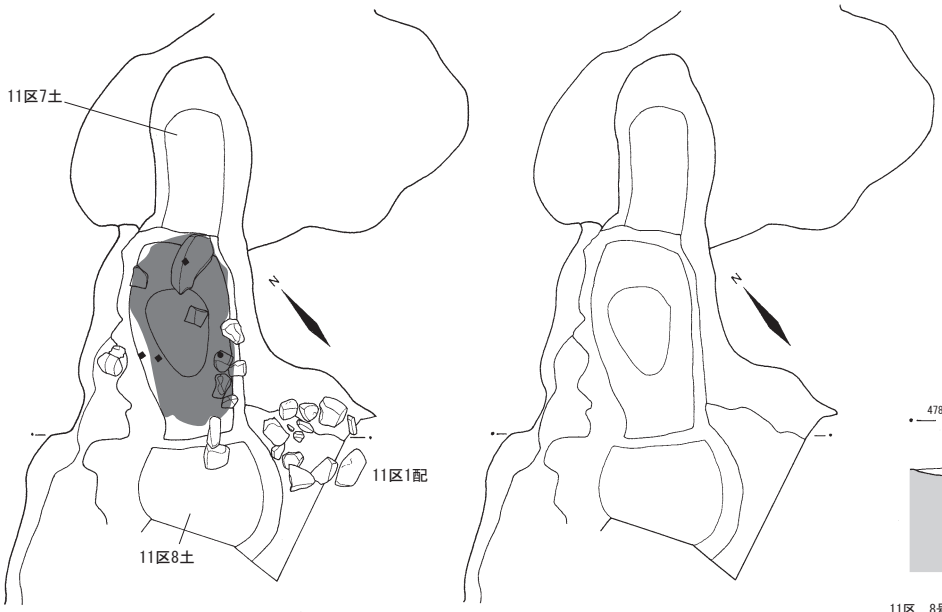


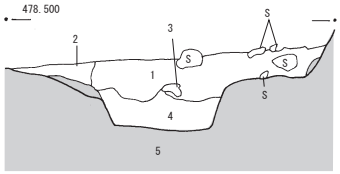
11区　6・7号土坑
1 暗灰褐色土層　φ2～6mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ7mm炭化物粒子(少量)・φ2～10mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 暗灰褐色土層　φ2～10mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
4 暗灰褐色土層　φ1mm焼土粒子・φ2～5mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
5 暗褐色土層　φ2～15mm焼土粒子・φ2～3mm褐色粒子・明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし



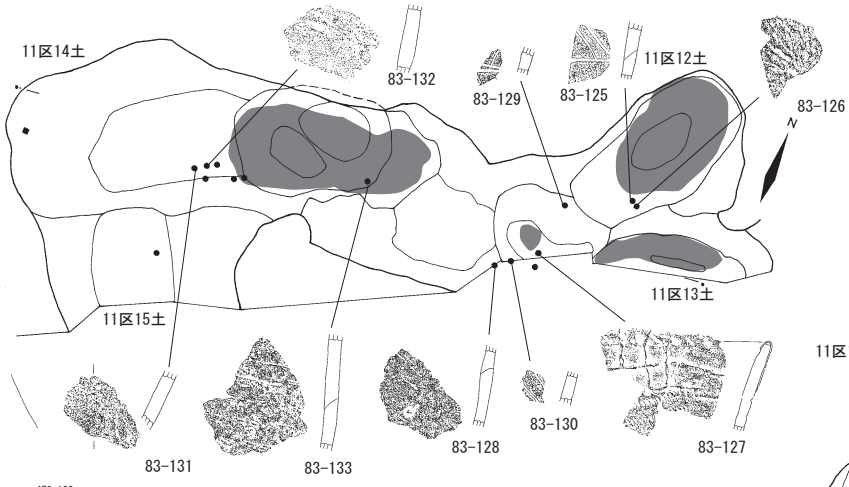
11区　4～7号土坑
1 暗灰褐色土層　φ5～10mm炭化物粒子(少量)・φ2～5mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 暗灰褐色土層　φ2～7mm焼土粒子・φ2～5mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
3 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
4 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
5 黄褐色土層　φ2～3mm焼土・褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
6 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
7 暗褐色土層　φ2～4mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
8 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
9 焼土層　焼土の純層　しまりあり・粘性なし

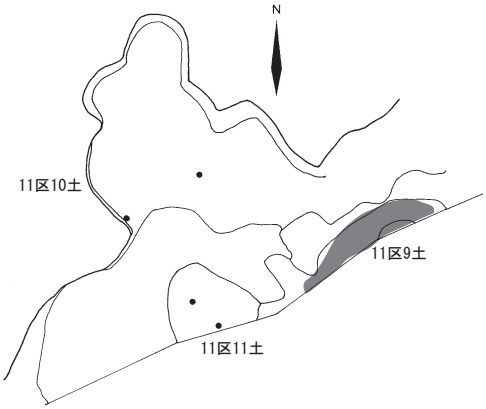
第70図　第III面遺構図19



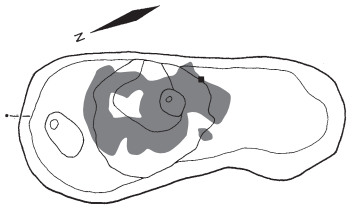


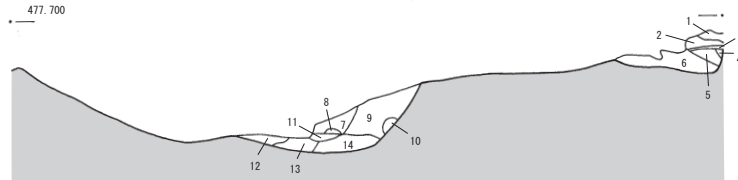
11区　8号土坑
1 暗灰褐色土層　φ2～6mm褐色粒子・明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
2 暗灰褐色土層　φ2～5mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 明茶褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
4 暗褐色土層　φ2～10mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
5 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり



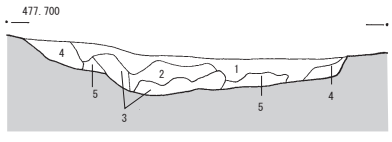


11区　13・14号土坑
1 暗褐色土層　φ2～8mm褐色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ2～6mm褐色粒子を多量に含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　φ1mm焼土粒子・φ2～5mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
4 暗灰褐色土層　φ2～5mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
5 暗褐色土層　φ2～8mm焼土粒子・φ4cm明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
6 焼土層　暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
7 暗褐色土層　φ10mm炭化物数子(少量)・φ2～5mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
8 暗褐色土層　φ2～5mm褐色粒子・φ5cm明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
9 暗灰褐色土層　φ2～5mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
10 明茶褐色土層　暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
11 暗褐色土層　φ2～10mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
12 焼土層　焼土の純層　しまりあり・粘性なし
13 暗褐色土層　φ2～10mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし



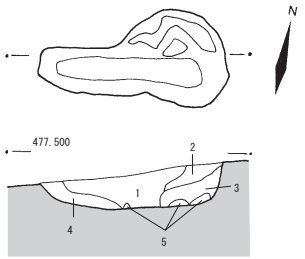


11区　11・13・14号土坑
1 明茶褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む　しまりあい・粘性あり
2 焼土層　明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
3 黒褐色土層　φ1～2mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
4 焼土層　焼土の純層　しまりあり・粘性なし
5 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
6 焼土層　明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
7 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
8 明茶褐色土層　φ2～4mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性あり
9 暗褐色土層　φ2～14mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
10 焼土層　焼土の純層　しまりあり・粘性なし
11 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
12 焼土層　暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
13 焼土層　明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
14 焼土層　焼土の純層　しまりあり・粘性なし

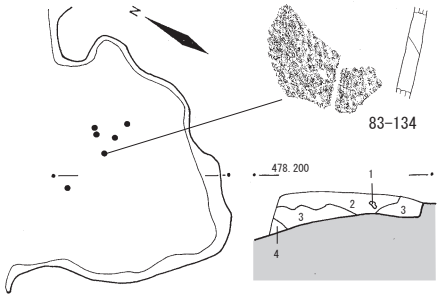


11区　16号土坑
1 暗褐色土層　φ1～10mm焼土粒子・2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 灰褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 焼土層　φ10mm炭化物粒子・灰褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
4 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
5 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

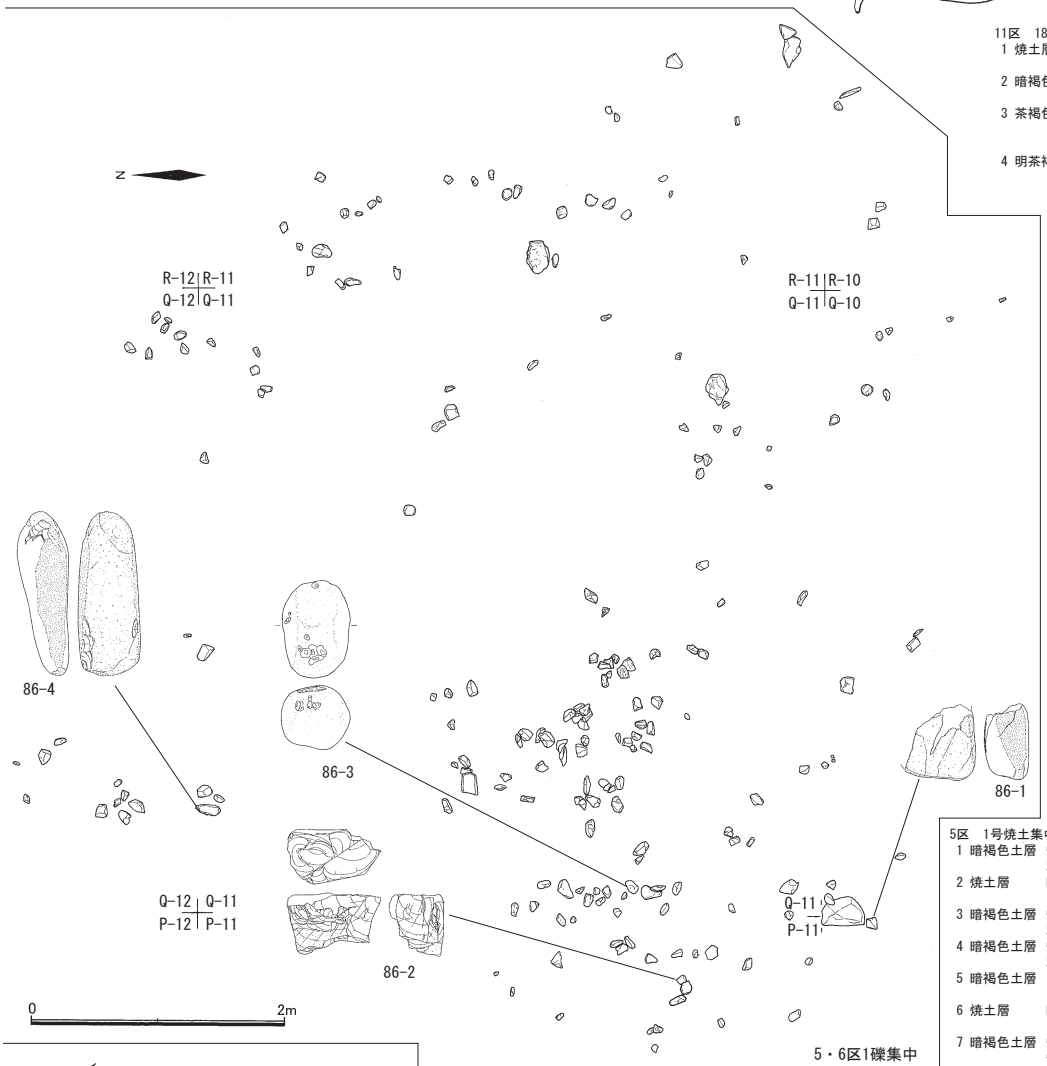
第71図　第III面遺構図20

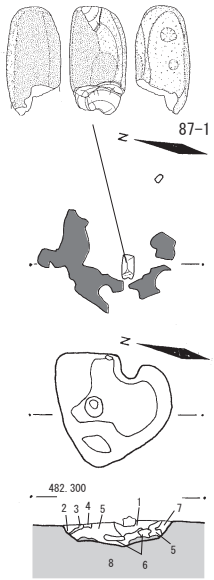


11区　17号土坑
1 暗灰褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・φ2～5mm白色粒子・明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・φ2～5mm白色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　φ2～5mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
4 暗褐色土層　明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
5 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

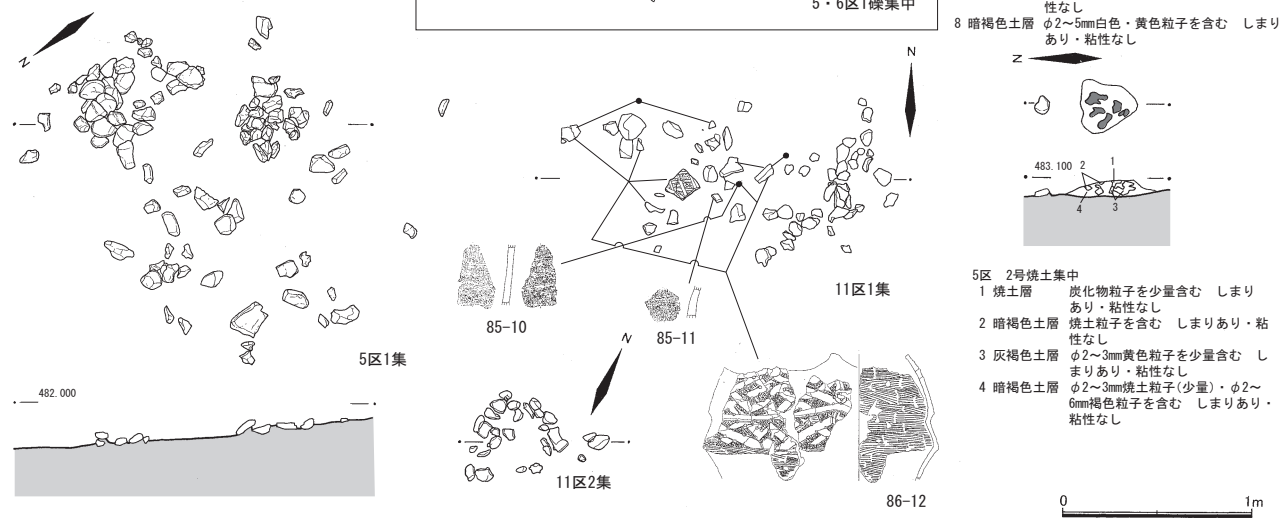


11区　18号土坑
1 焼土層　茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　φ2～3mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 茶褐色土層　φ2～3mm褐色粒子・暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性あり
4 明茶褐色土層　明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし



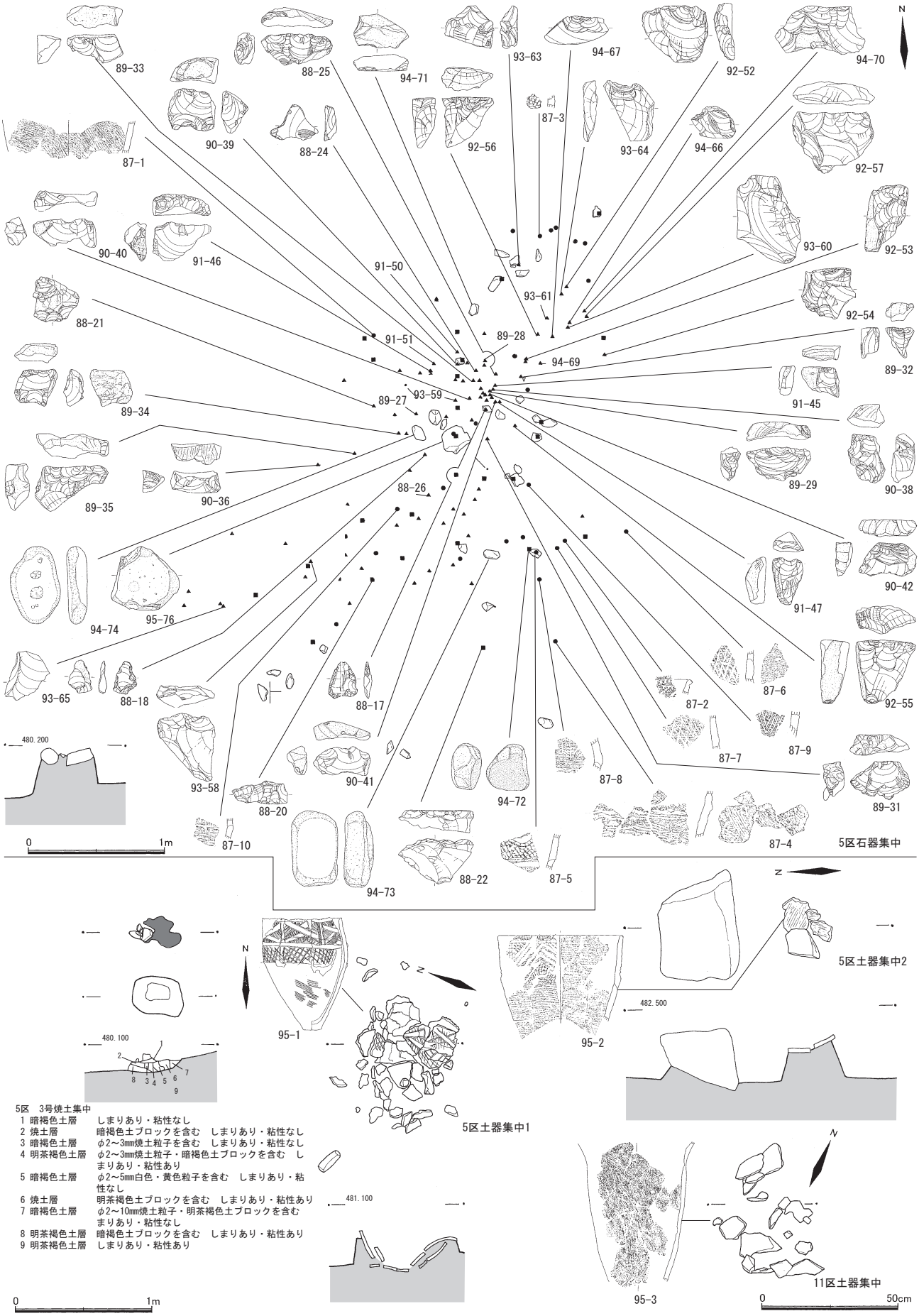


5区　1号焼土集中
1 暗褐色土層　焼土粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
2 焼土層　暗褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　焼土粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
4 暗褐色土層　焼土粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
5 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
6 焼土層　暗褐色土ブロックを少量含む　しまりあり・粘性なし
7 暗褐色土層　焼土粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
8 暗褐色土層　φ2～5mm白色・黄色粒子を含む　しまりあり・粘性なし

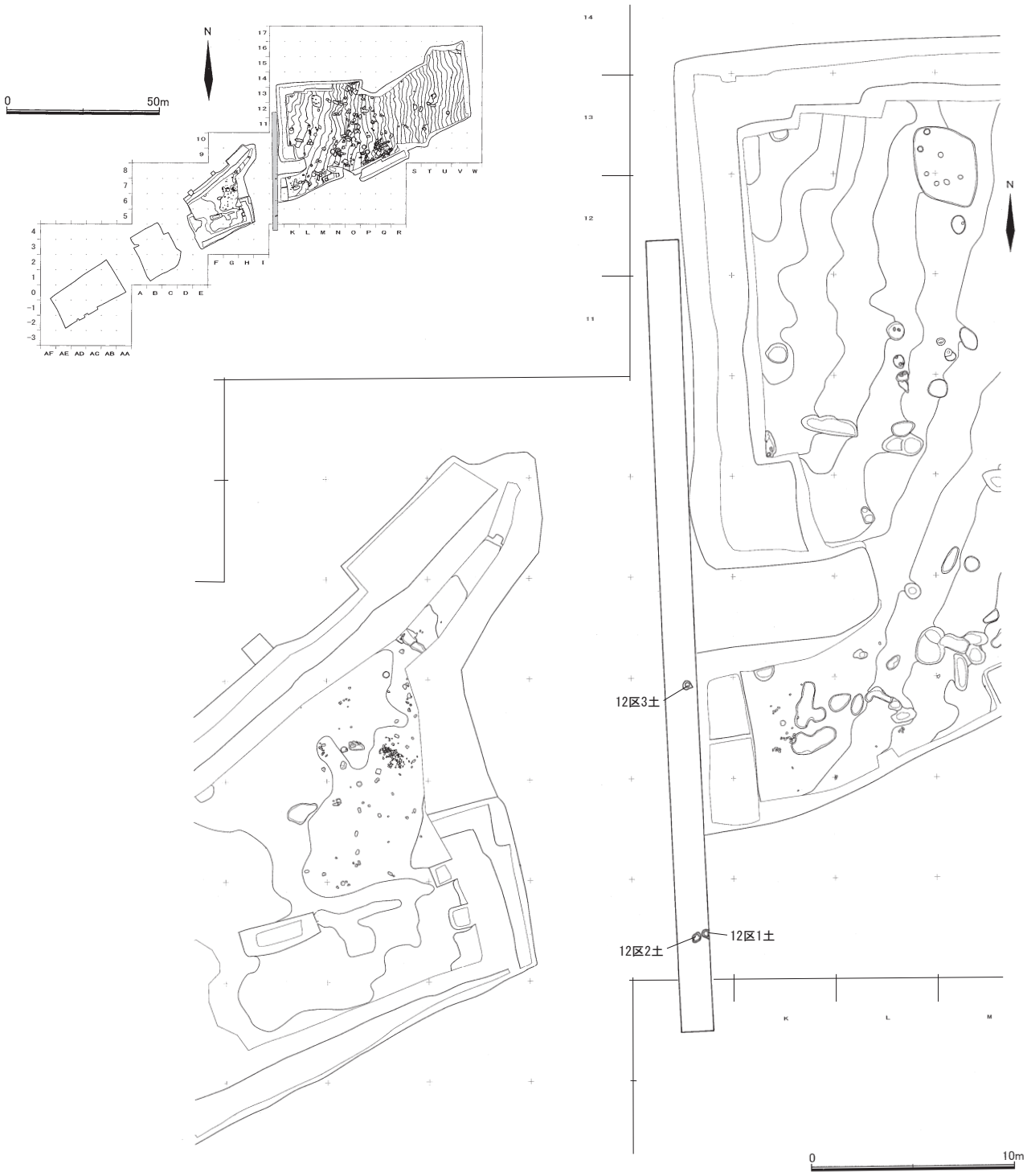


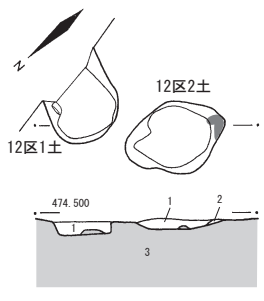
5区　2号焼土集中
1 焼土層　炭化物粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
2 暗褐色土層　焼土粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 灰褐色土層　φ2～3mm黄色粒子を少量含む　しまりあり・粘性なし
4 暗褐色土層　φ2～3mm焼土粒子(少量)・φ2～6mm褐色粒子を含む　しまりあり・粘性なし

第72図　第III面遺構図21

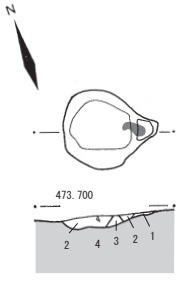


第73図　第III面遺構図22





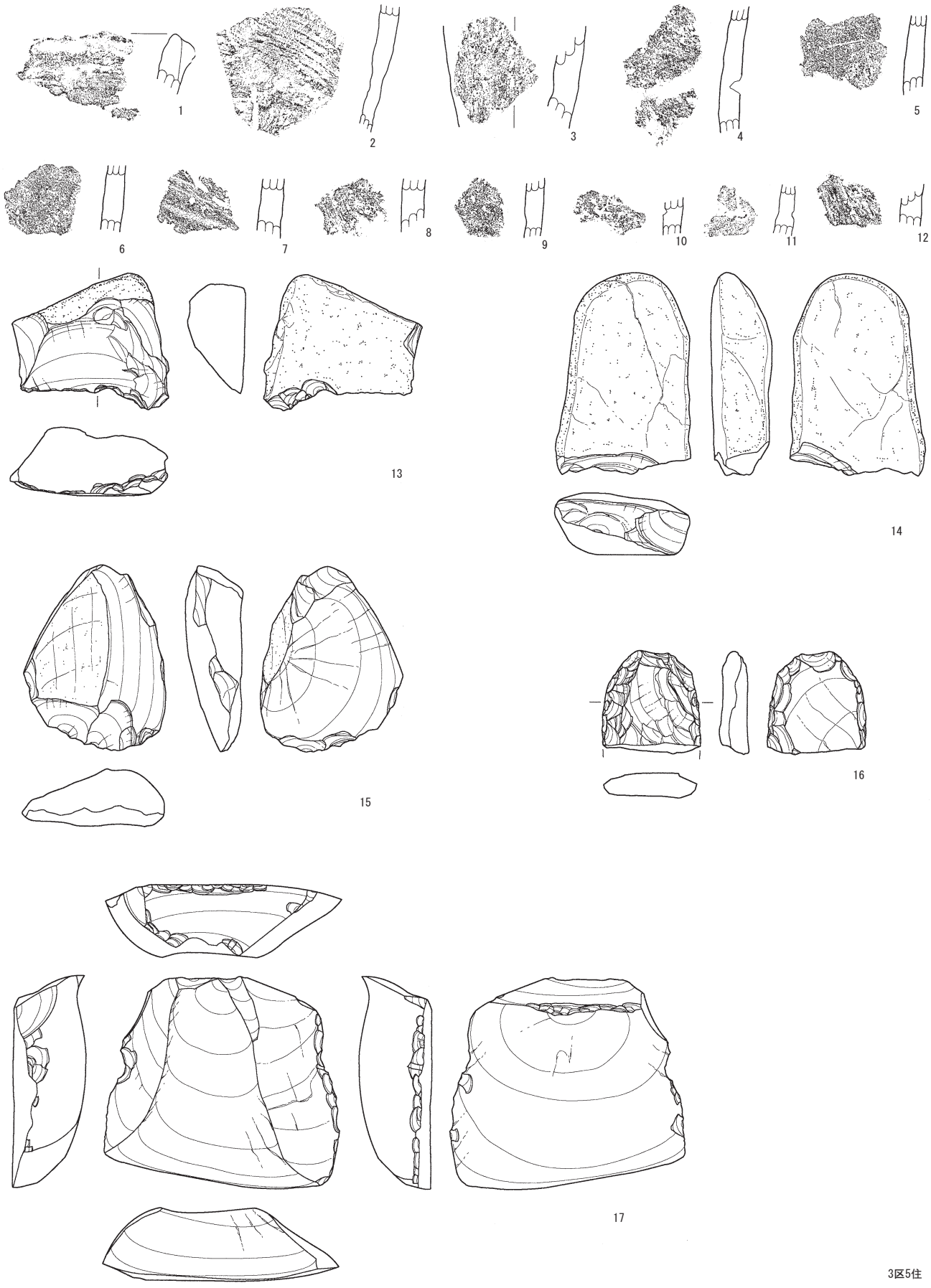
12区　1・2号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3㎜赤色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
2 焼土層　しまりなし・粘性なし
3 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり



12区　3号土坑
1 暗褐色土層　φ2～3㎜焼土粒子を含む　しまりなし・粘性なし
2 暗褐色土層　φ2～3㎜赤色粒子を含む　しまりあり・粘性なし
3 暗褐色土層　明茶褐色土ブロックを含む　しまりあり・粘性なし
4 明茶褐色土層　しまりあり・粘性あり

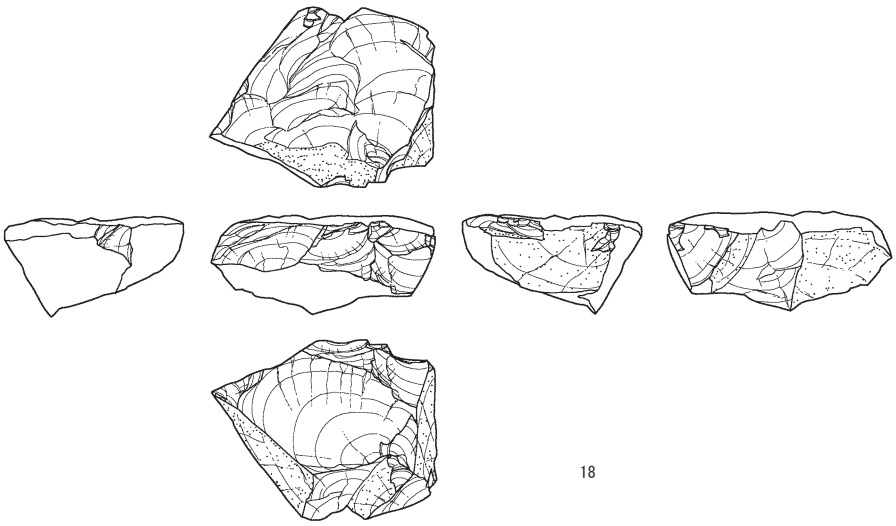
0　1m

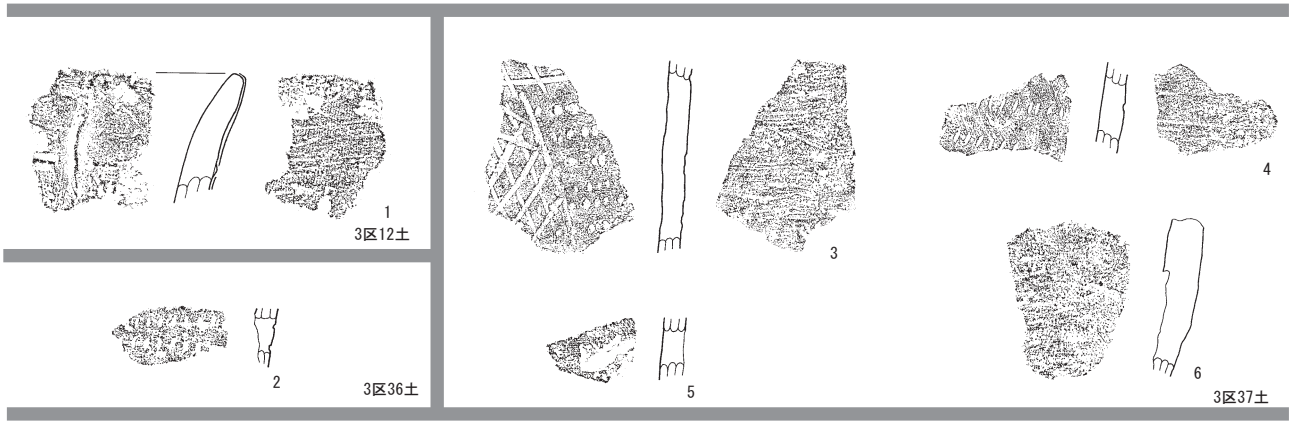
第74図　第III面遺構図23

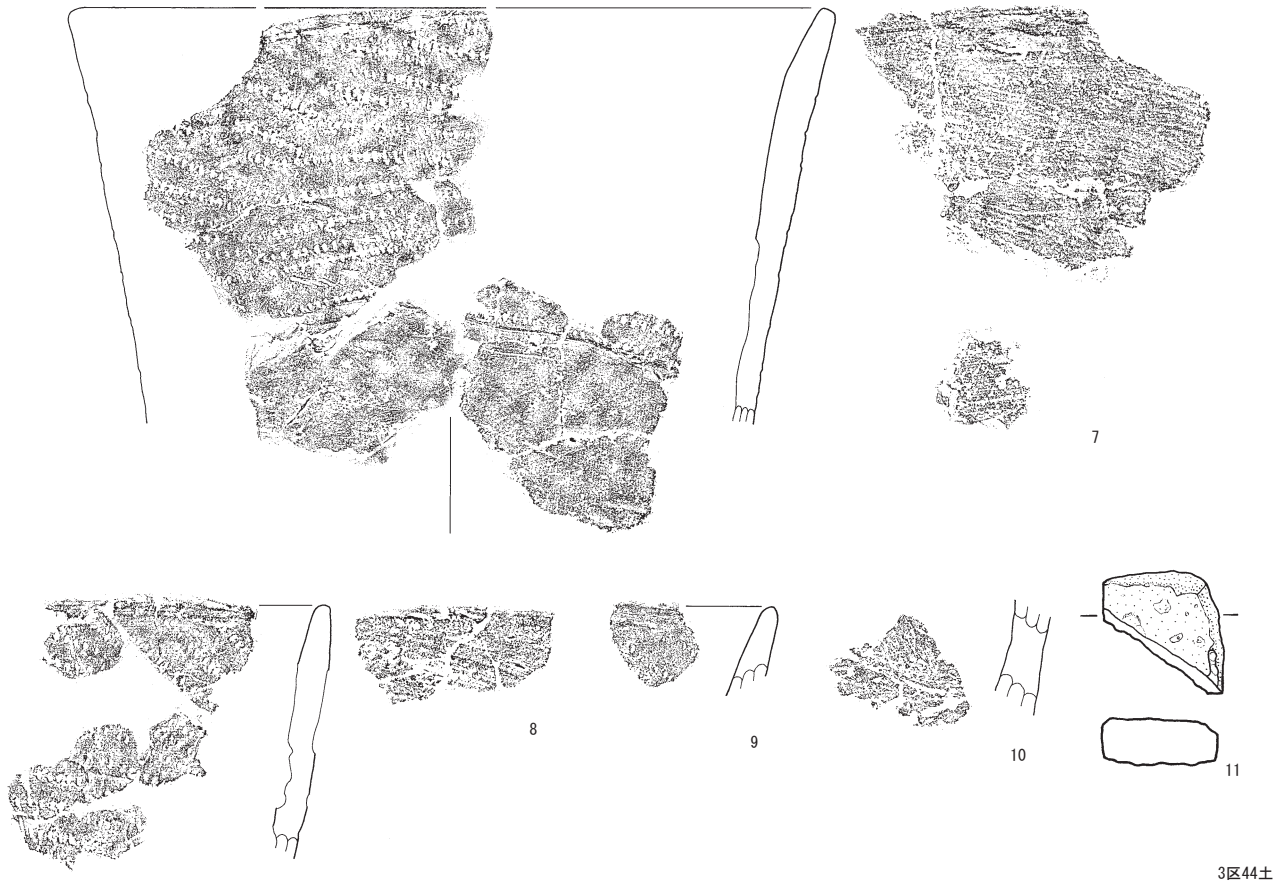


第75図　遺構出土遺物図１（縄文時代早期）

17　：1/1
1～16：1/3

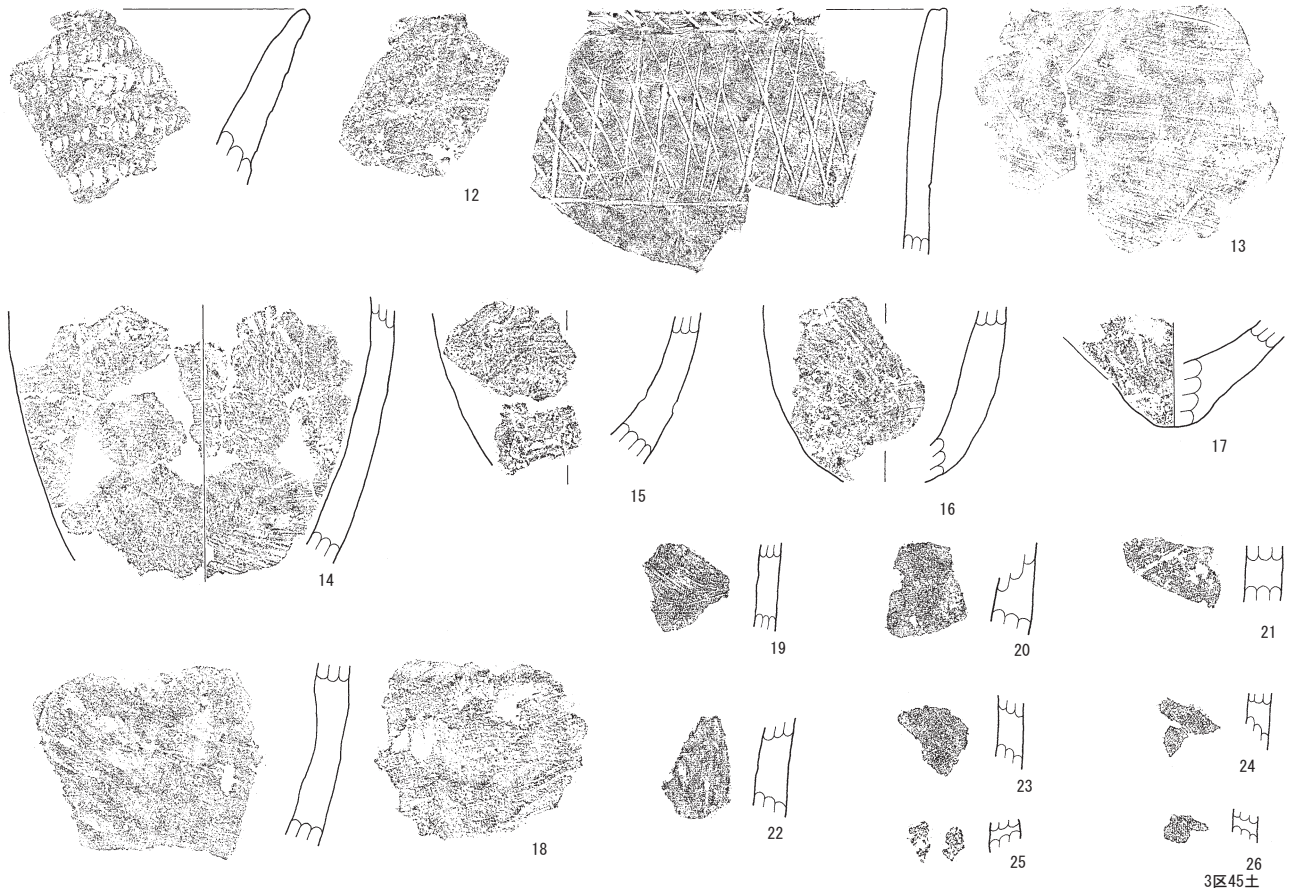


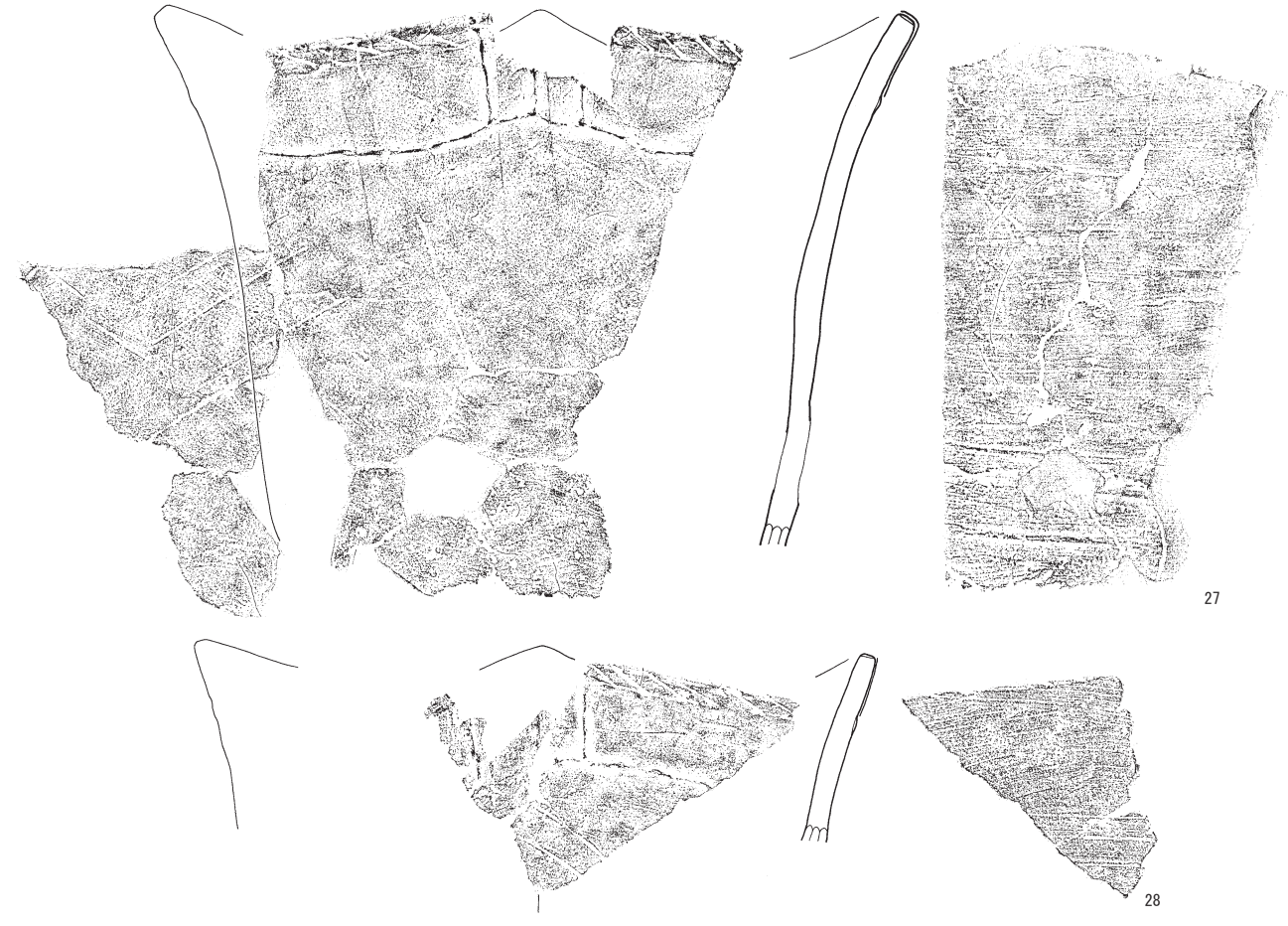




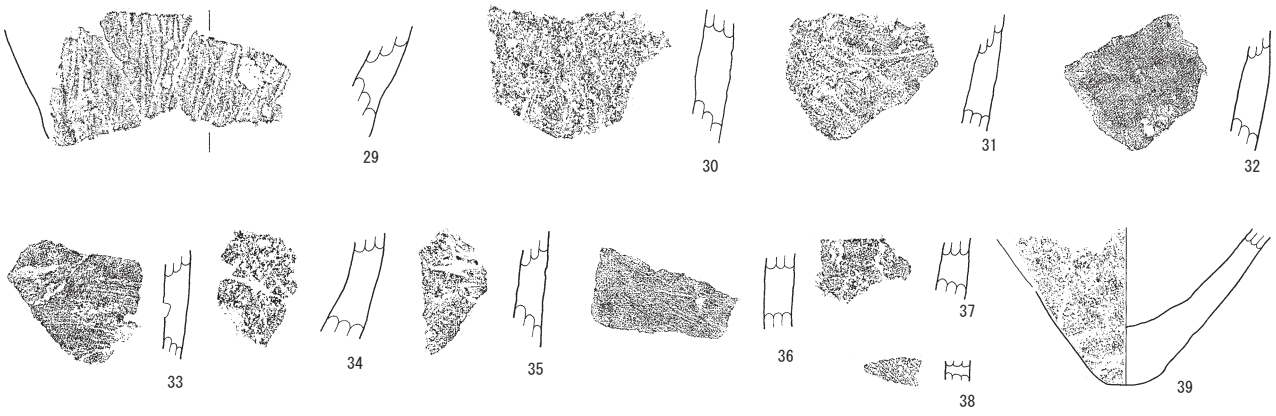
第76図　遺構出土遺物図２（縄文時代早期）

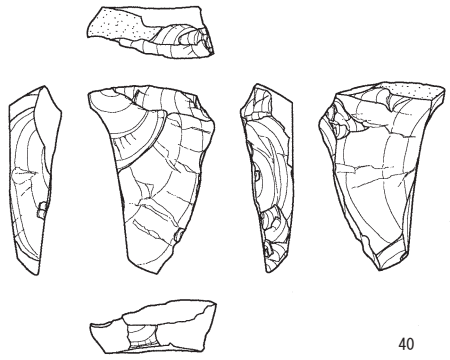
18・1～10：1/3
11　　：1/6

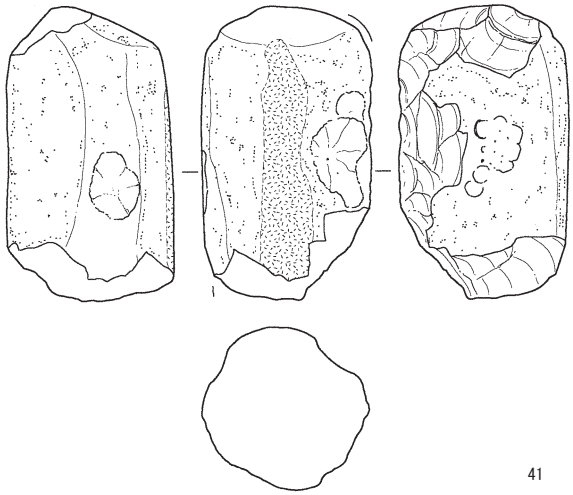


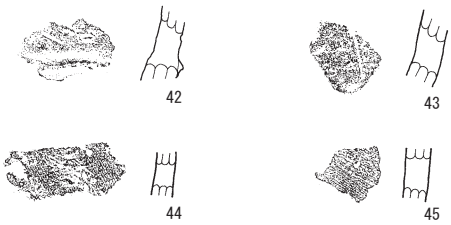


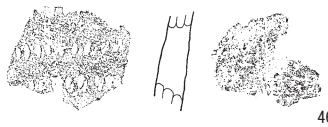
第77図　遺構出土遺物図３（縄文時代早期）　12～28：1/3

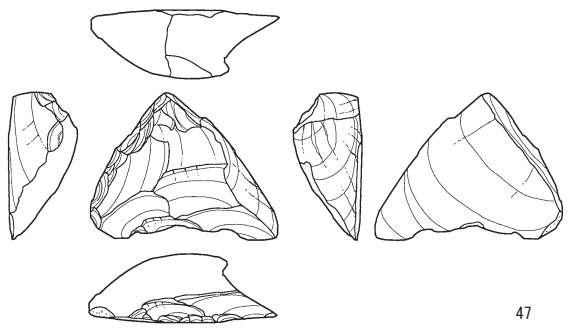


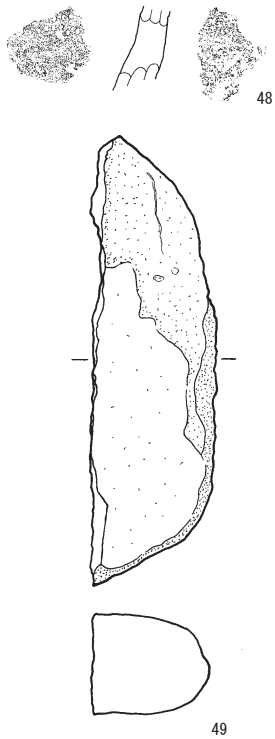


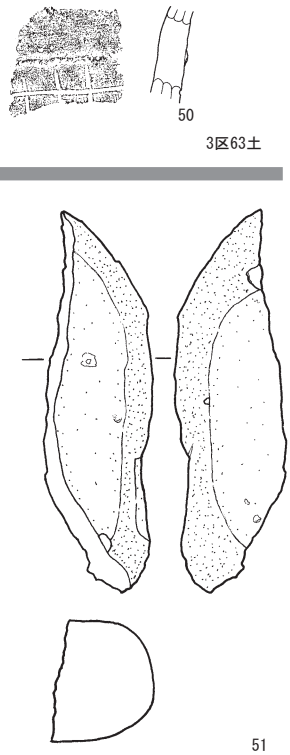






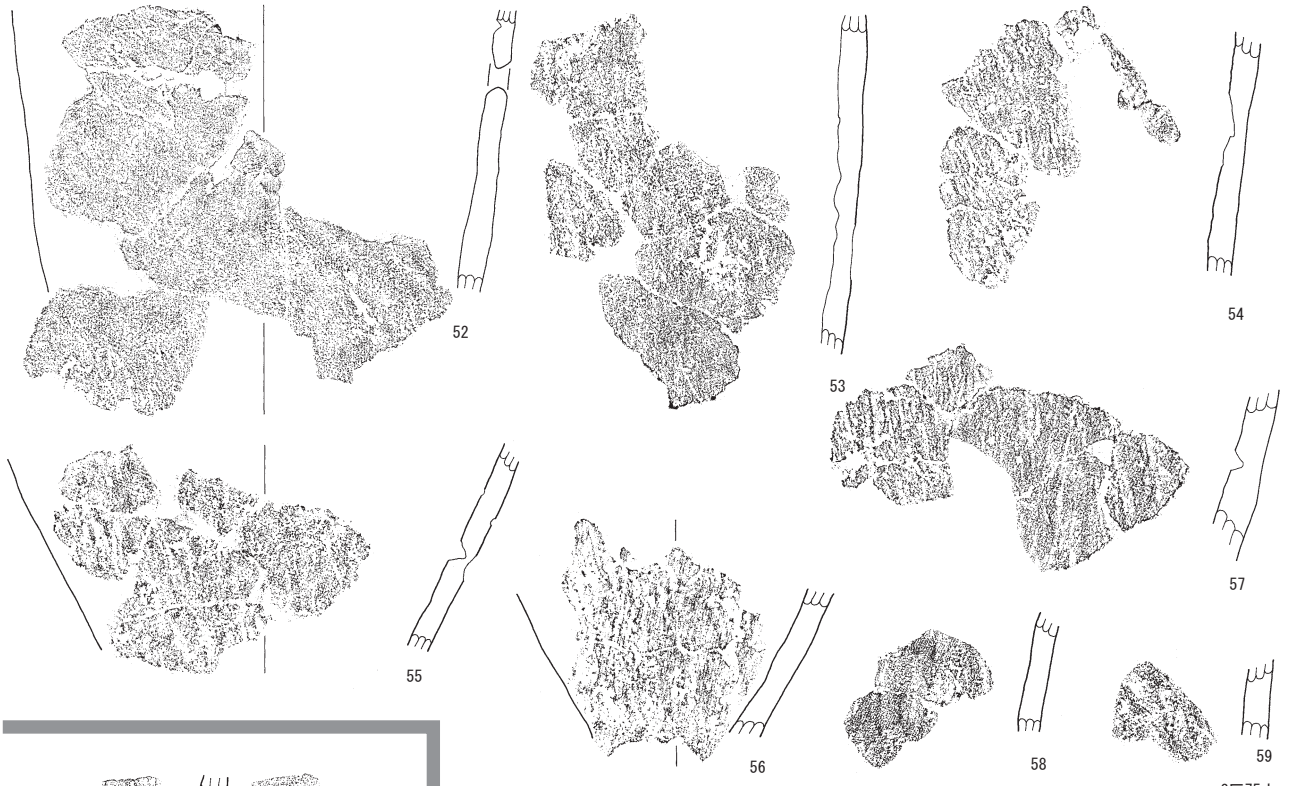


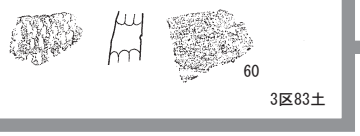


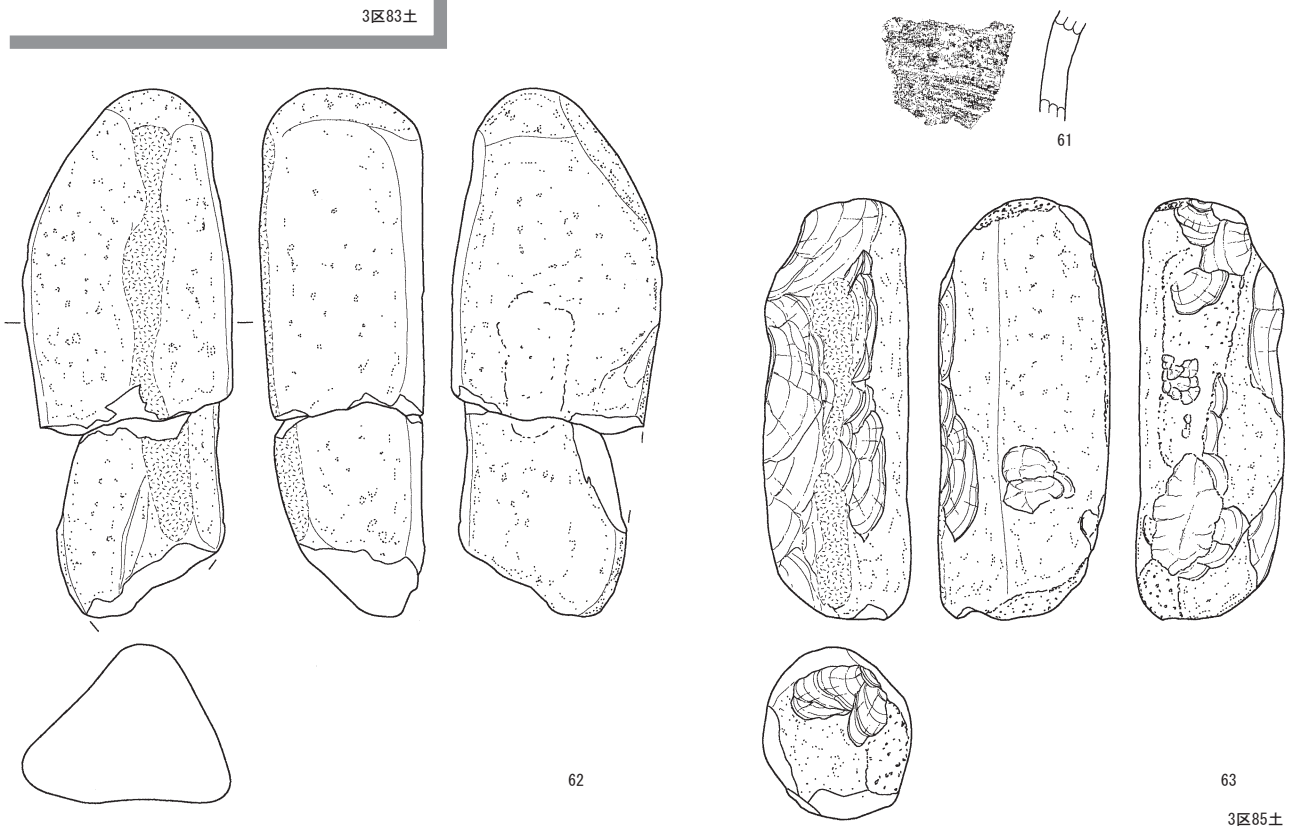


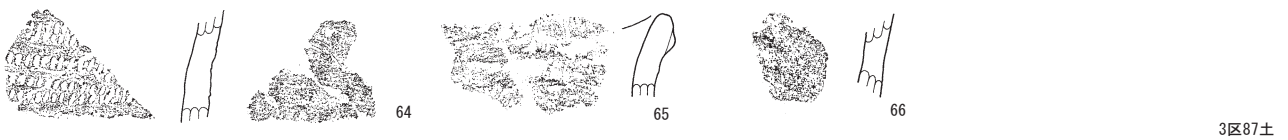
47 : 1/2
29～46・48・50 : 1/3
49・51 : 1/6

第78図　遺構出土遺物図４（縄文時代早期）



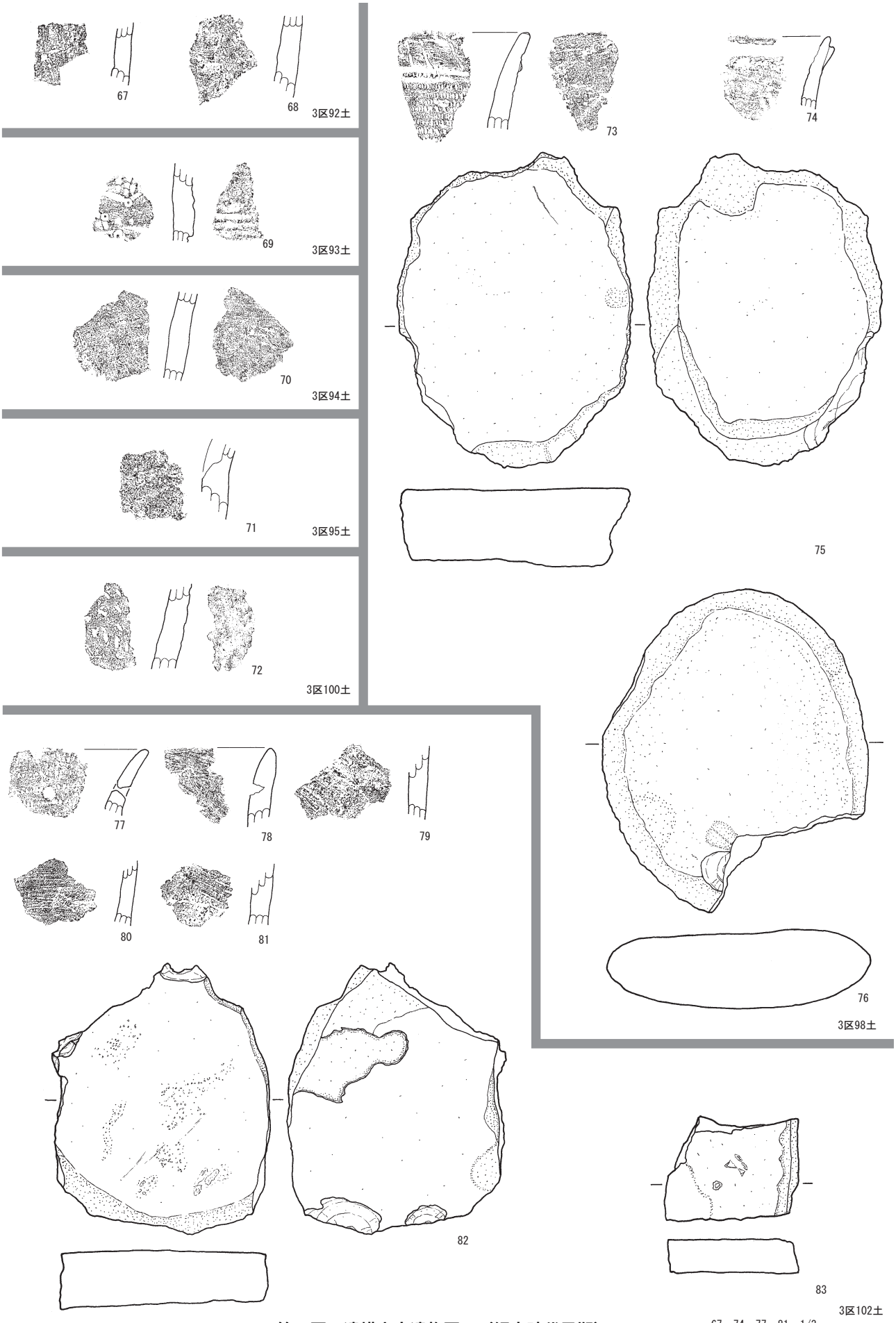






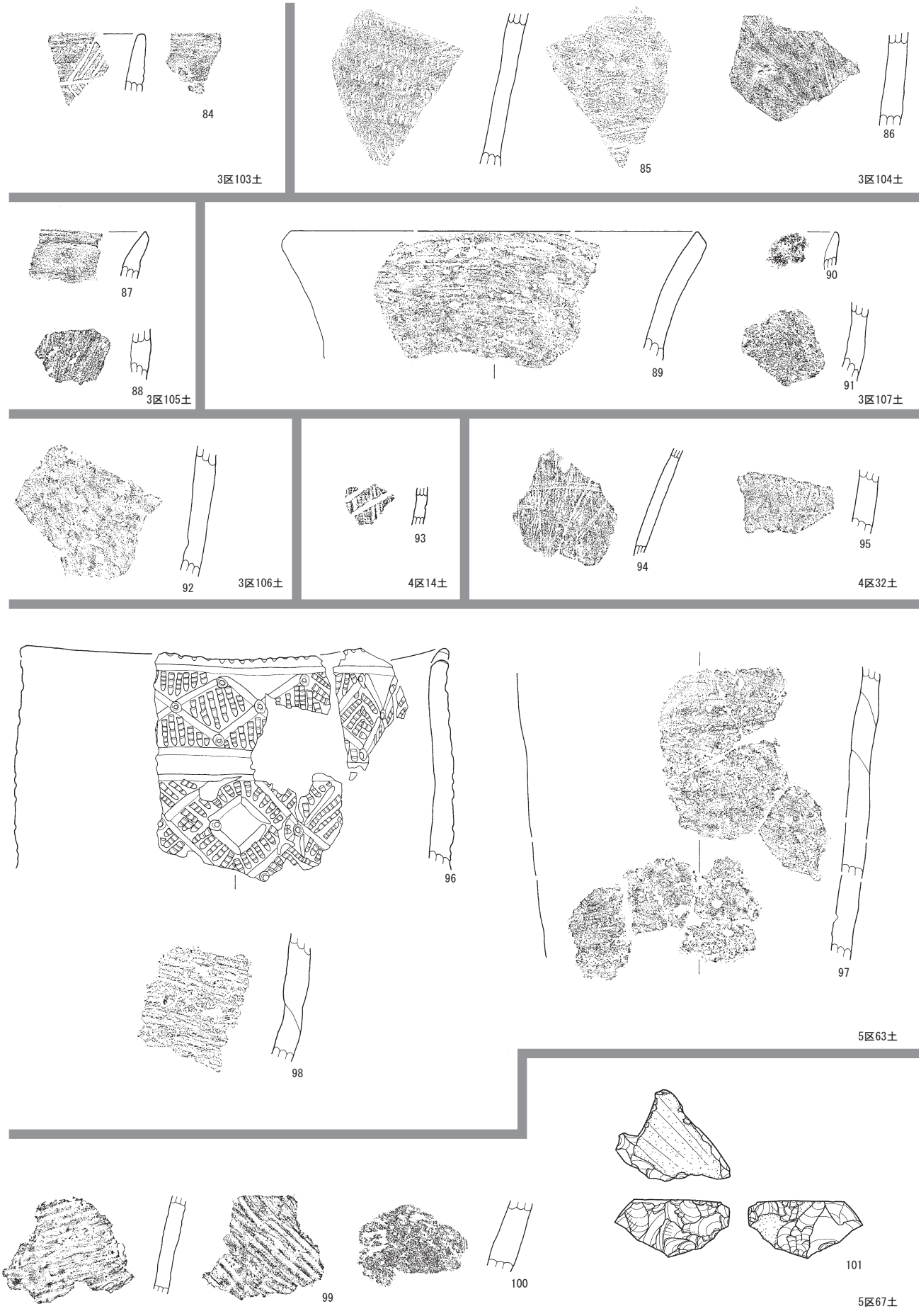
第79図　遺構出土遺物図５（縄文時代早期）

52～66：1/3



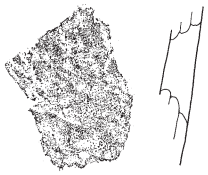
第80図　遺構出土遺物図６（縄文時代早期）

67～74・77～81：1/3
75・76・82・83：1/6

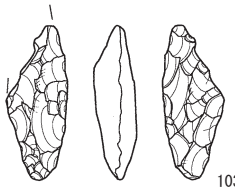


第81図　遺構出土遺物図７（縄文時代早期）

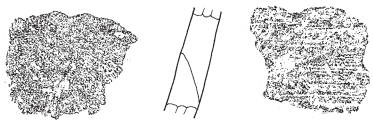
101　：1/1
84～100：1/3


102

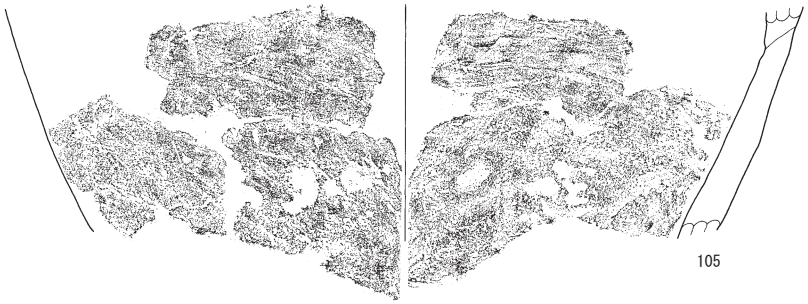
5区69土


103

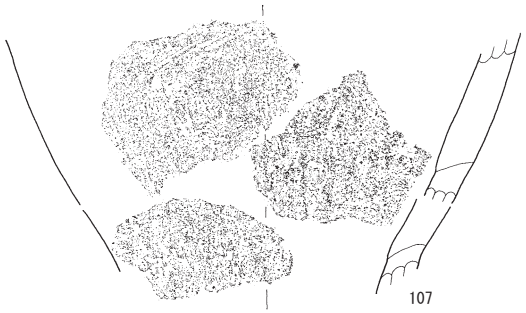
5区74土


104

5区75土


105

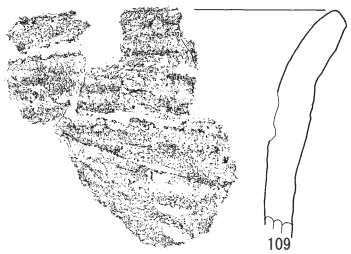
106

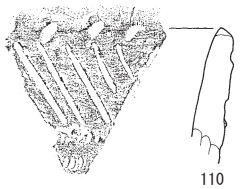

107

5区77土

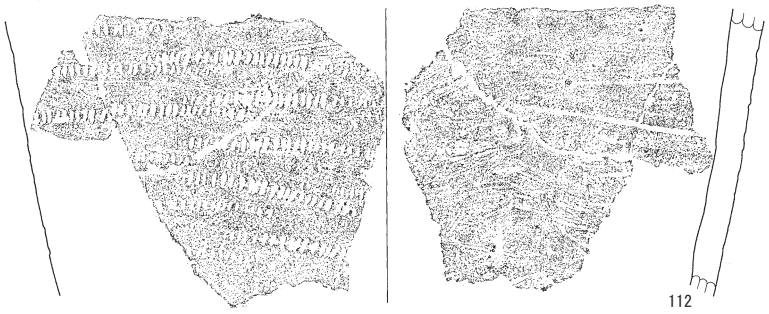
108

5区79土

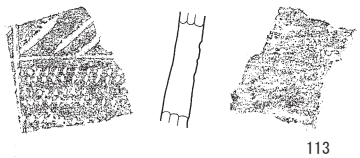

109

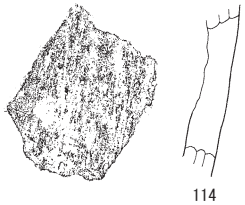

110

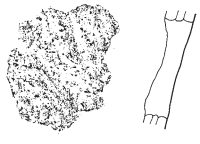
111

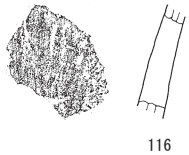

112

5区83土


113


114

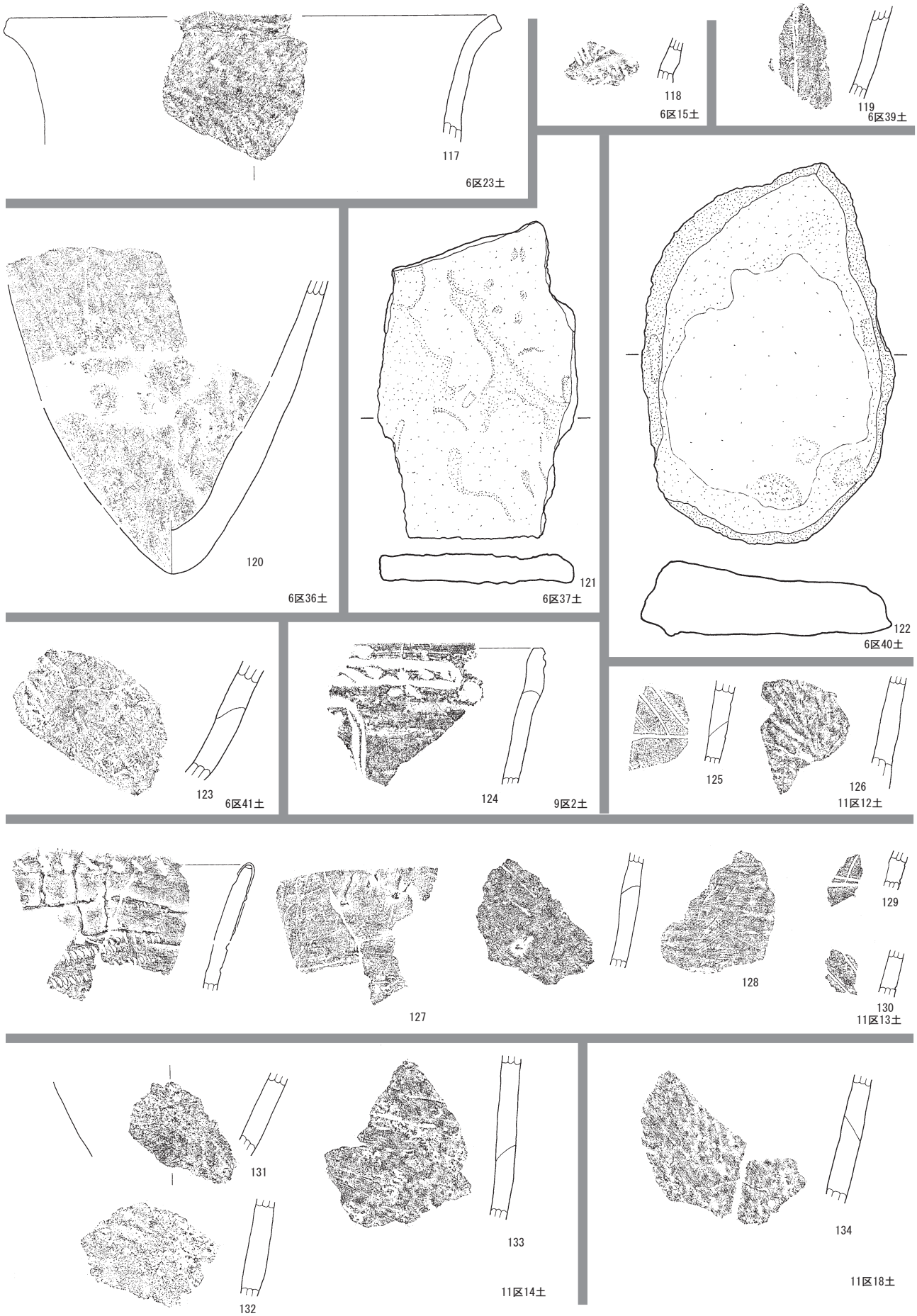

115


116

5区85土

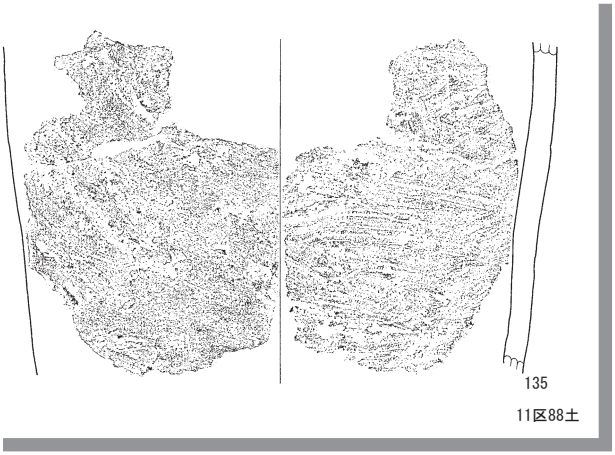
第82図　遺構出土遺物図８（縄文時代早期）

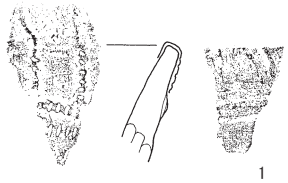
103　：1/1
102・104～116：1/3

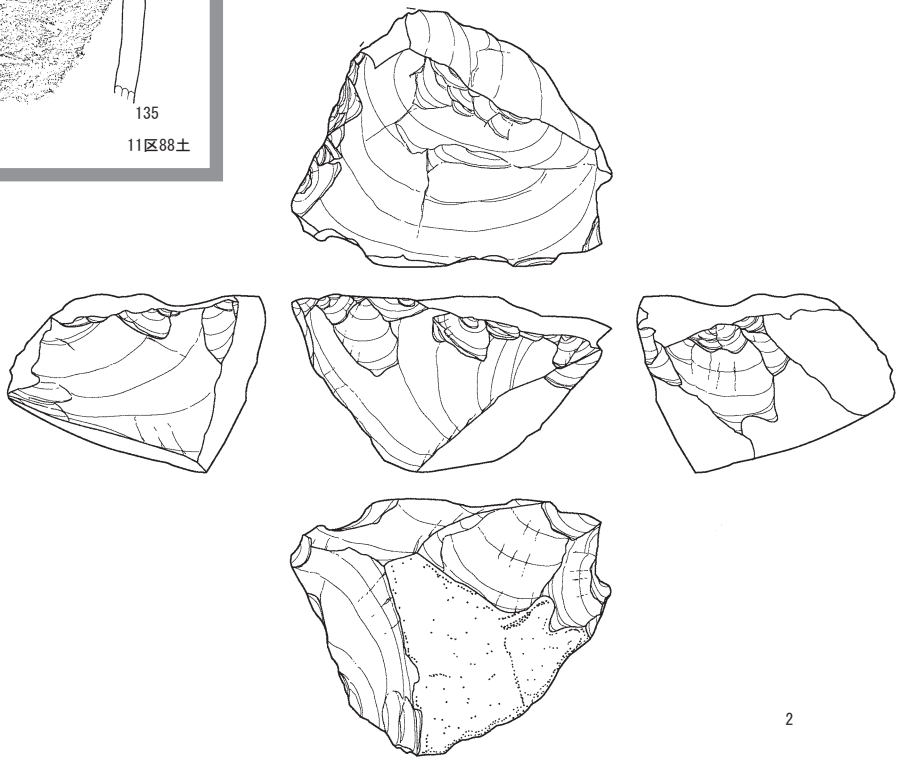


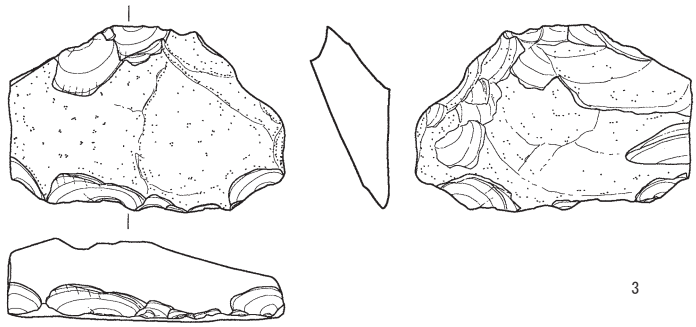
第83図　遺構出土遺物図９（縄文時代早期）

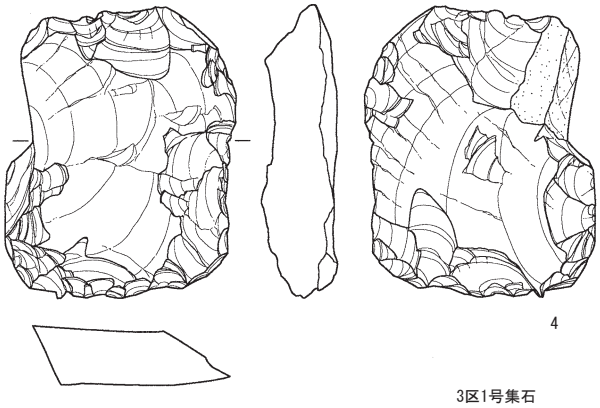
117～120・123～134：1/3
121・122　　：1/6




1


2

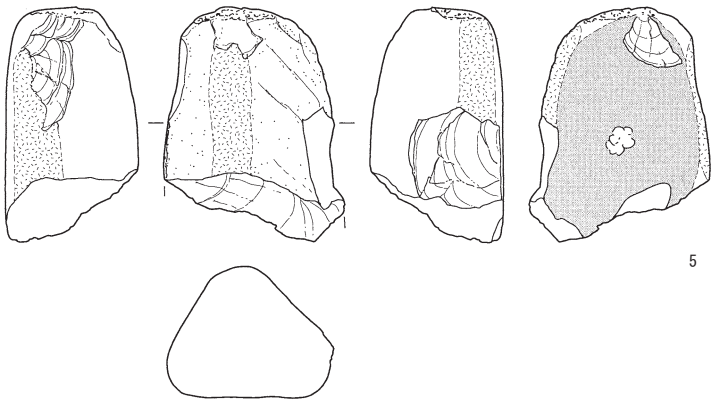

3


4

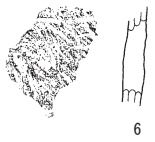
3区1号集石

第84図　遺構出土遺物図10（縄文時代早期）

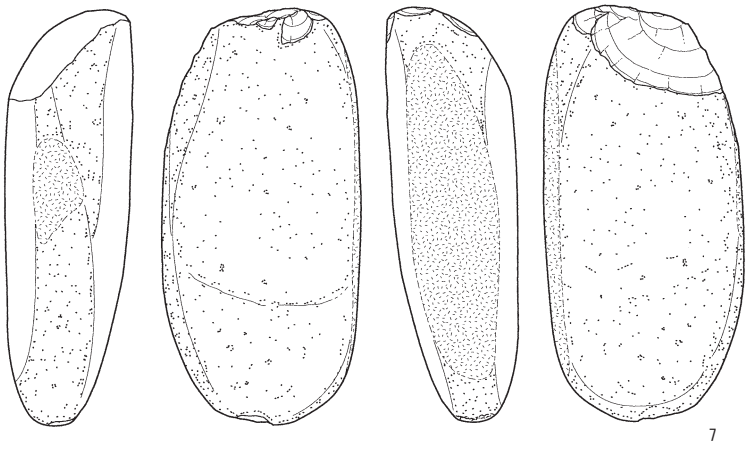
4　　：1/1
135・1～3：1/3

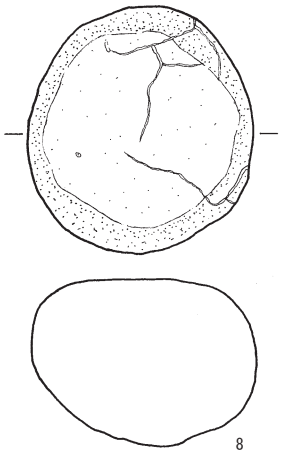


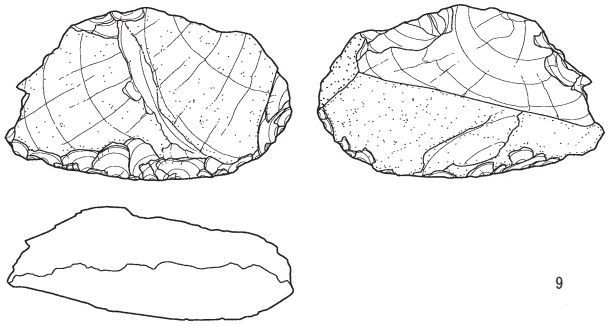
3区2号集石



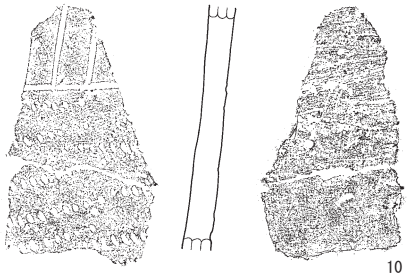
3区4号集石

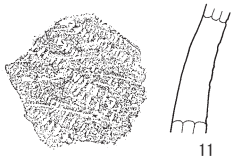






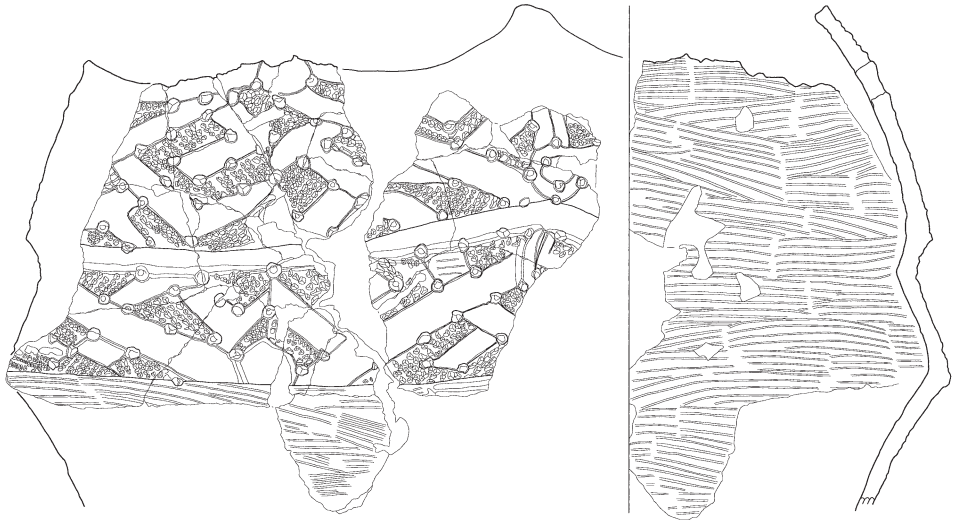
4区1号集石





11区1号集石

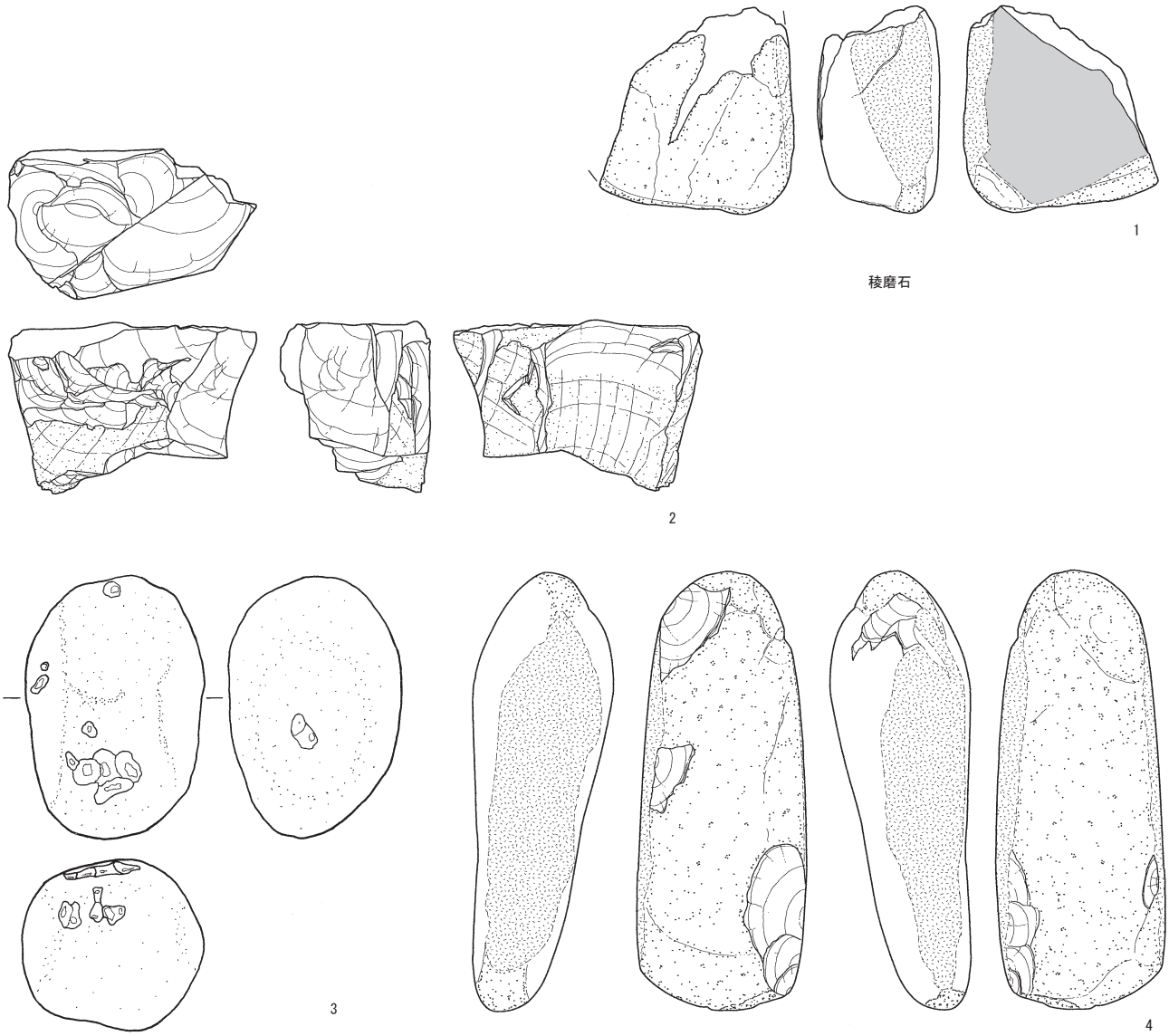
第85図　遺構出土遺物図11（縄文時代早期）　5～11：1/3



12

11区1号集石

5・6区1号集石



1

稜磨石

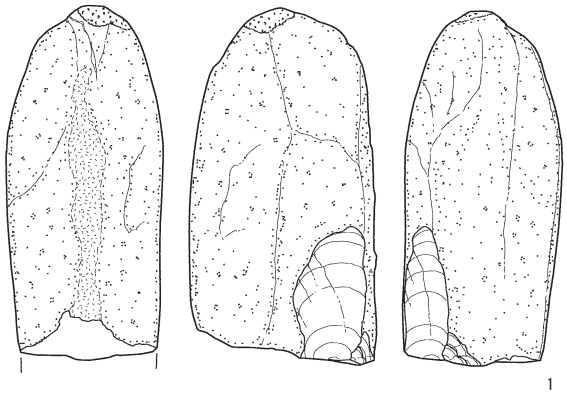
2

3

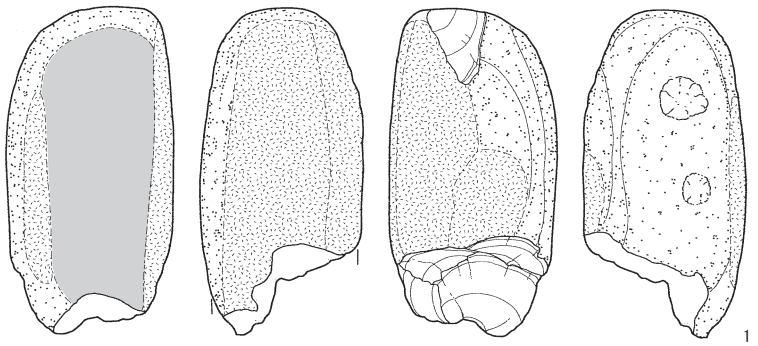
4

第86図　遺構出土遺物図12（縄文時代早期）

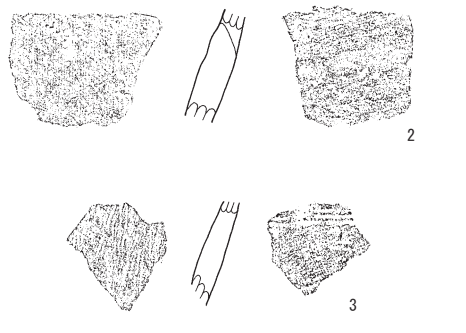
1～4：1/3
12　：1/4



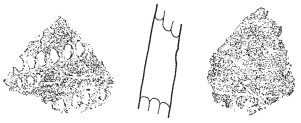
3区1号配石



5区1号焼土集中

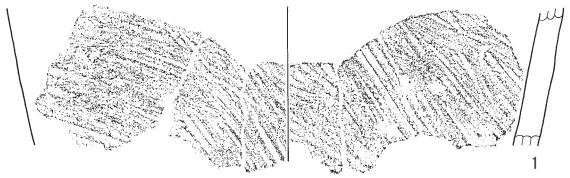


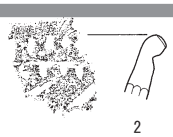
4区12号焼土集中

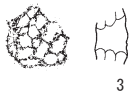


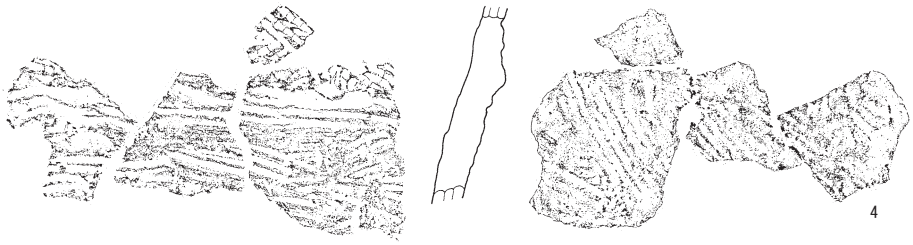
3区29号焼土集中

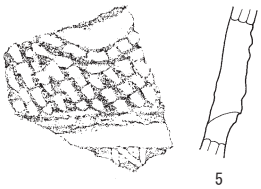
3区焼土集中一括

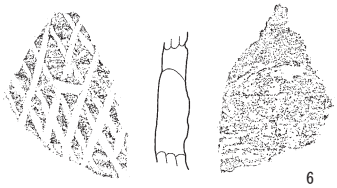


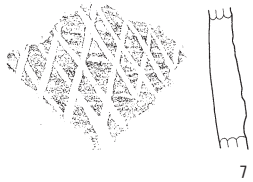


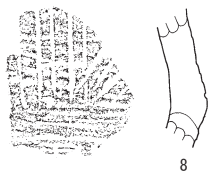


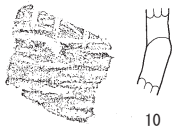


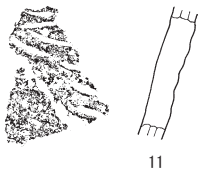


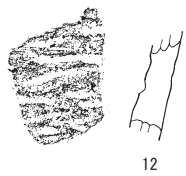


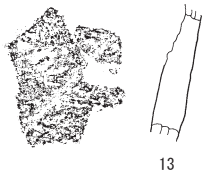


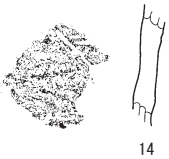


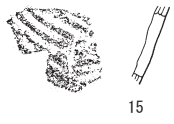


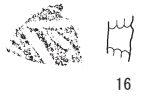








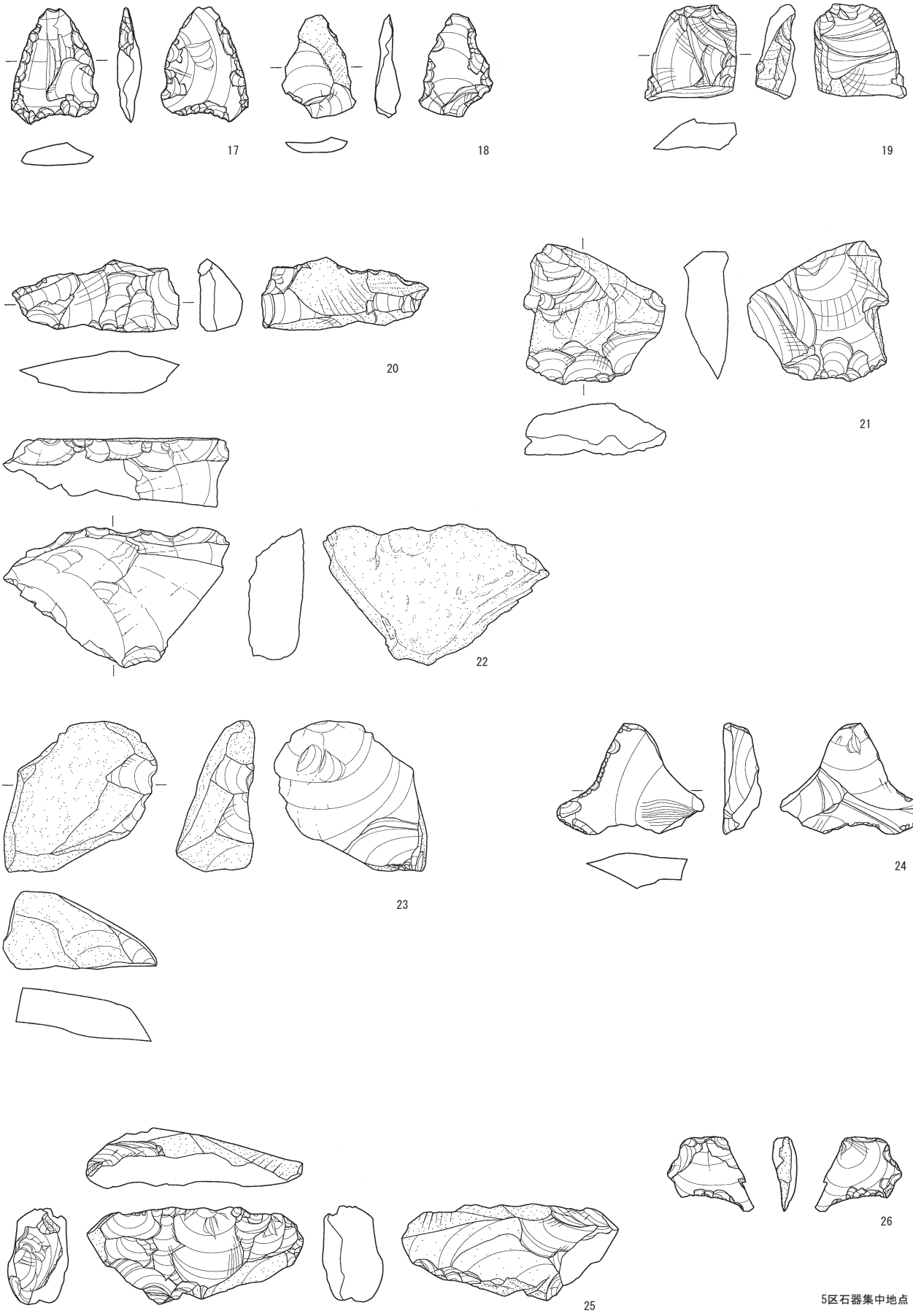




5区石器集中地点

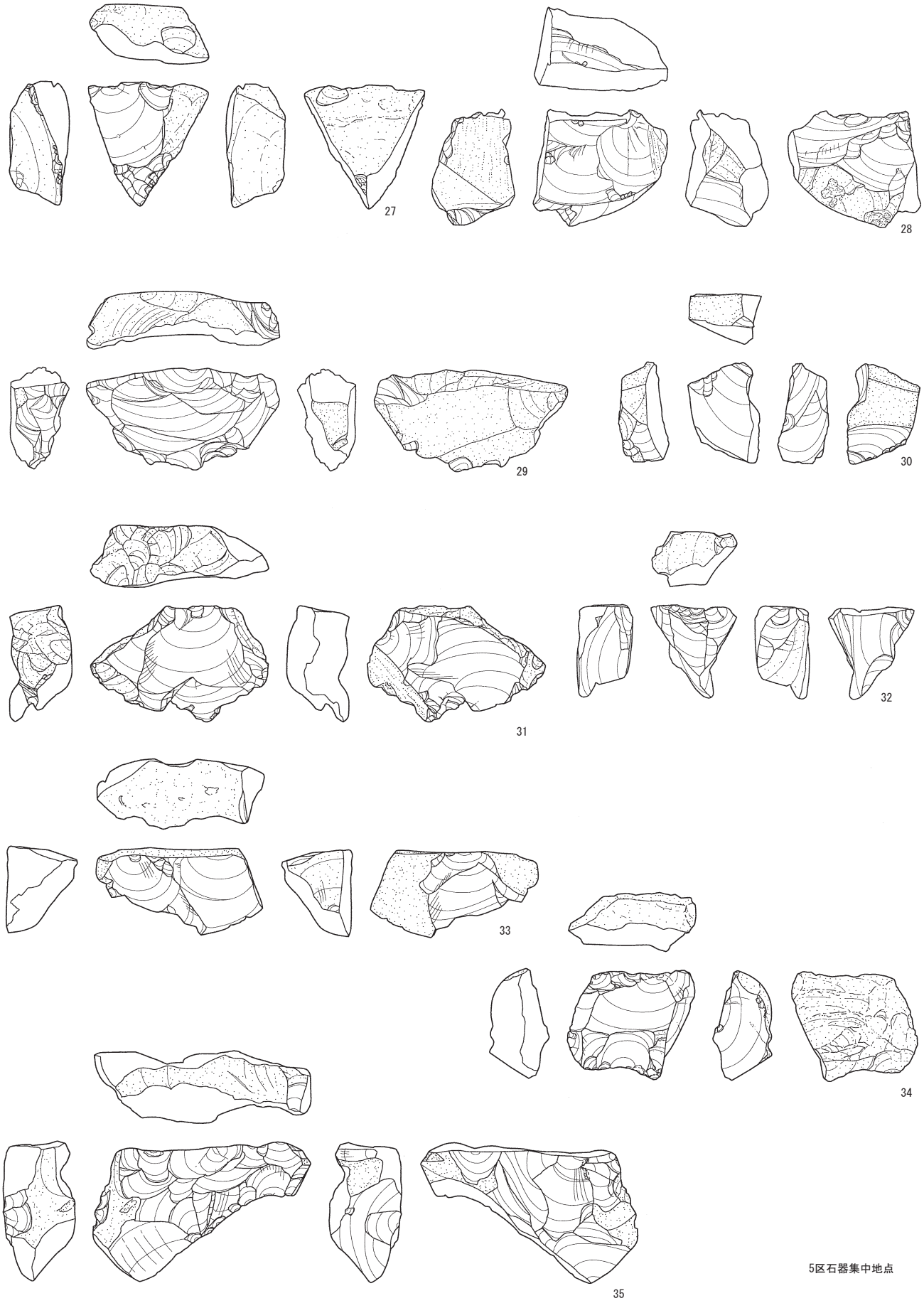
第87図　遺構出土遺物図13（縄文時代早期）

1・1～5・1～16：1/3



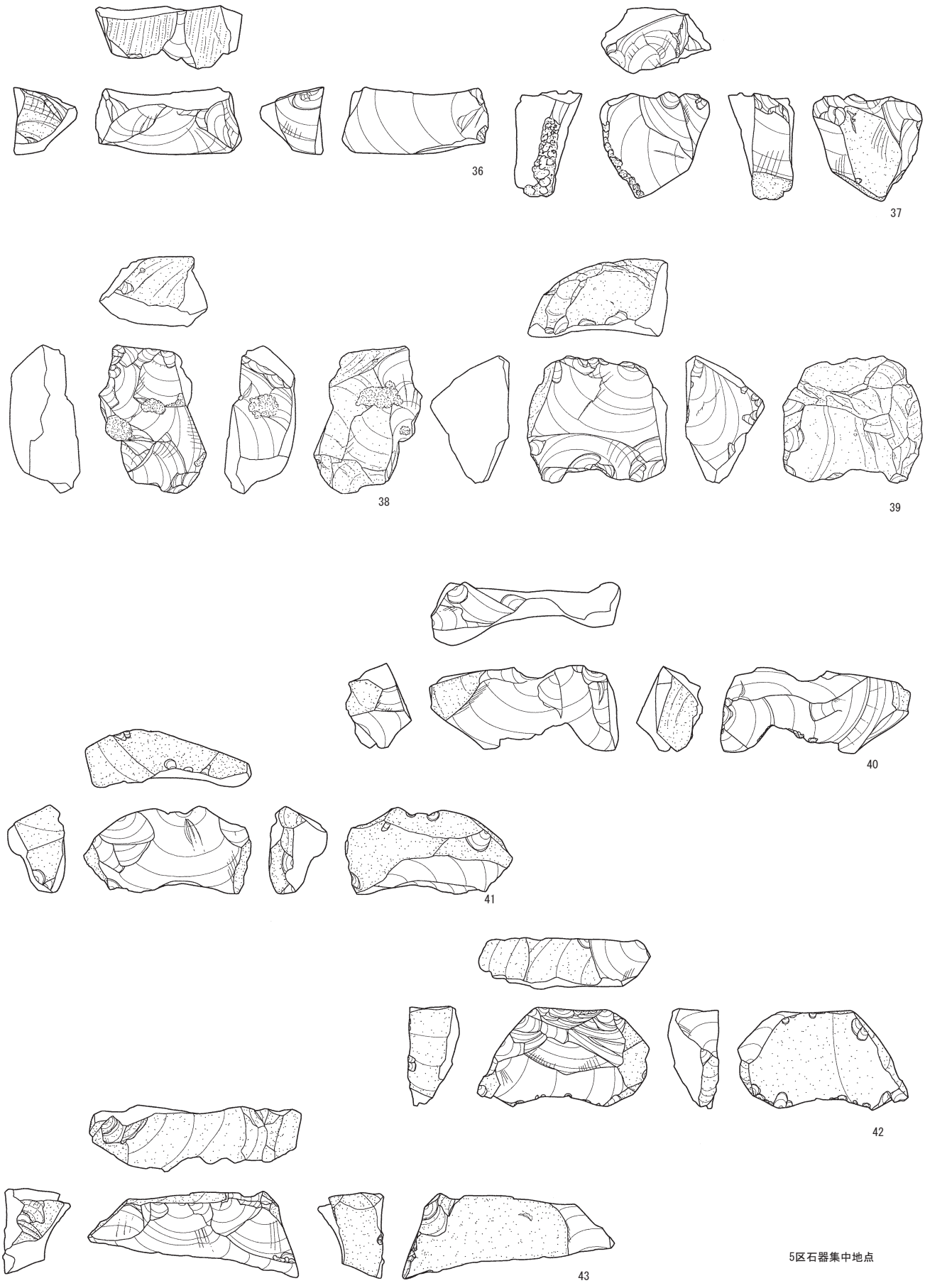
第88図　遺構出土遺物図14（縄文時代早期）

17～21・23～26：1/1
22　　：1/3



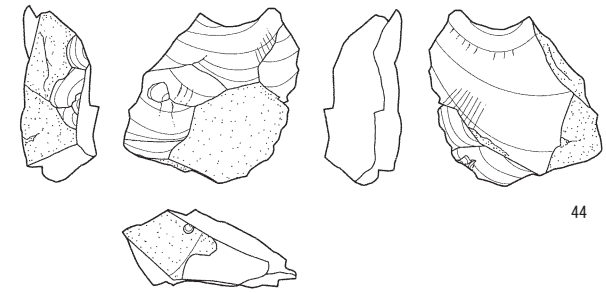
第89図　遺構出土遺物図15（縄文時代早期）

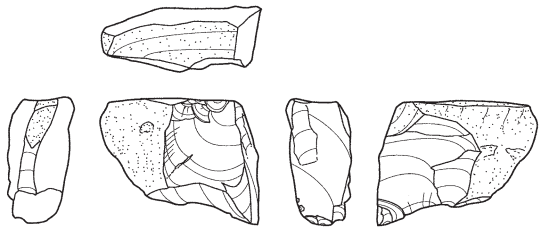
27～35：1/1

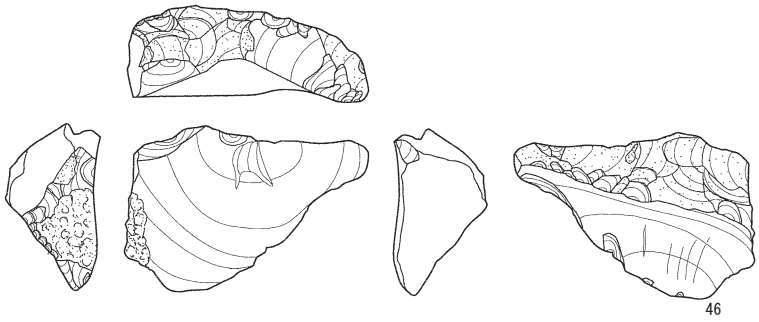


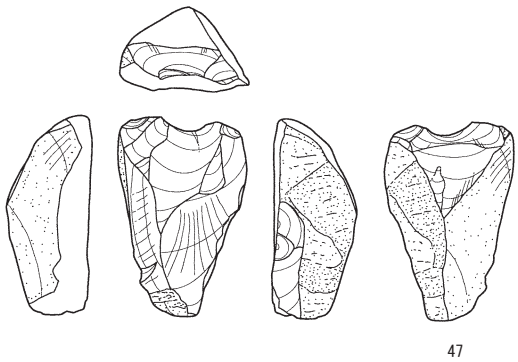
第90図　遺構出土遺物図16（縄文時代早期）

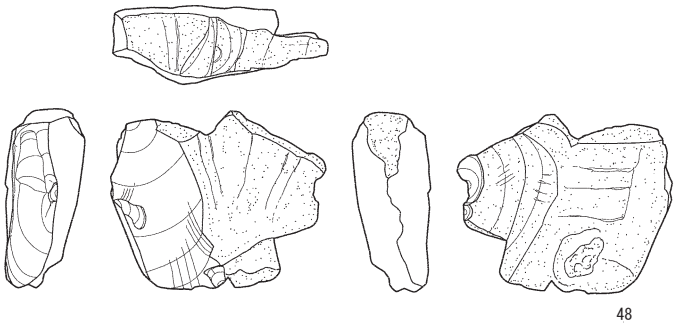
36～43：1/1

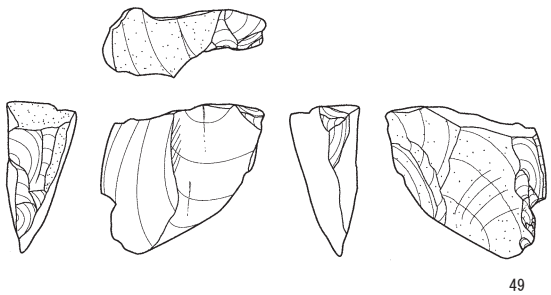


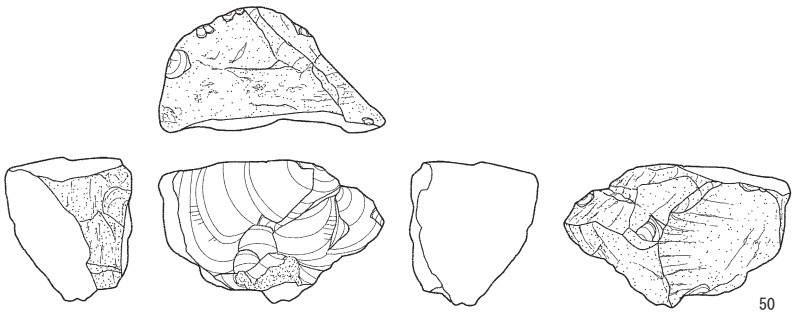


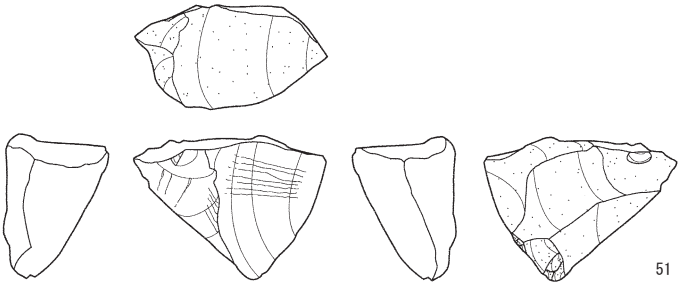








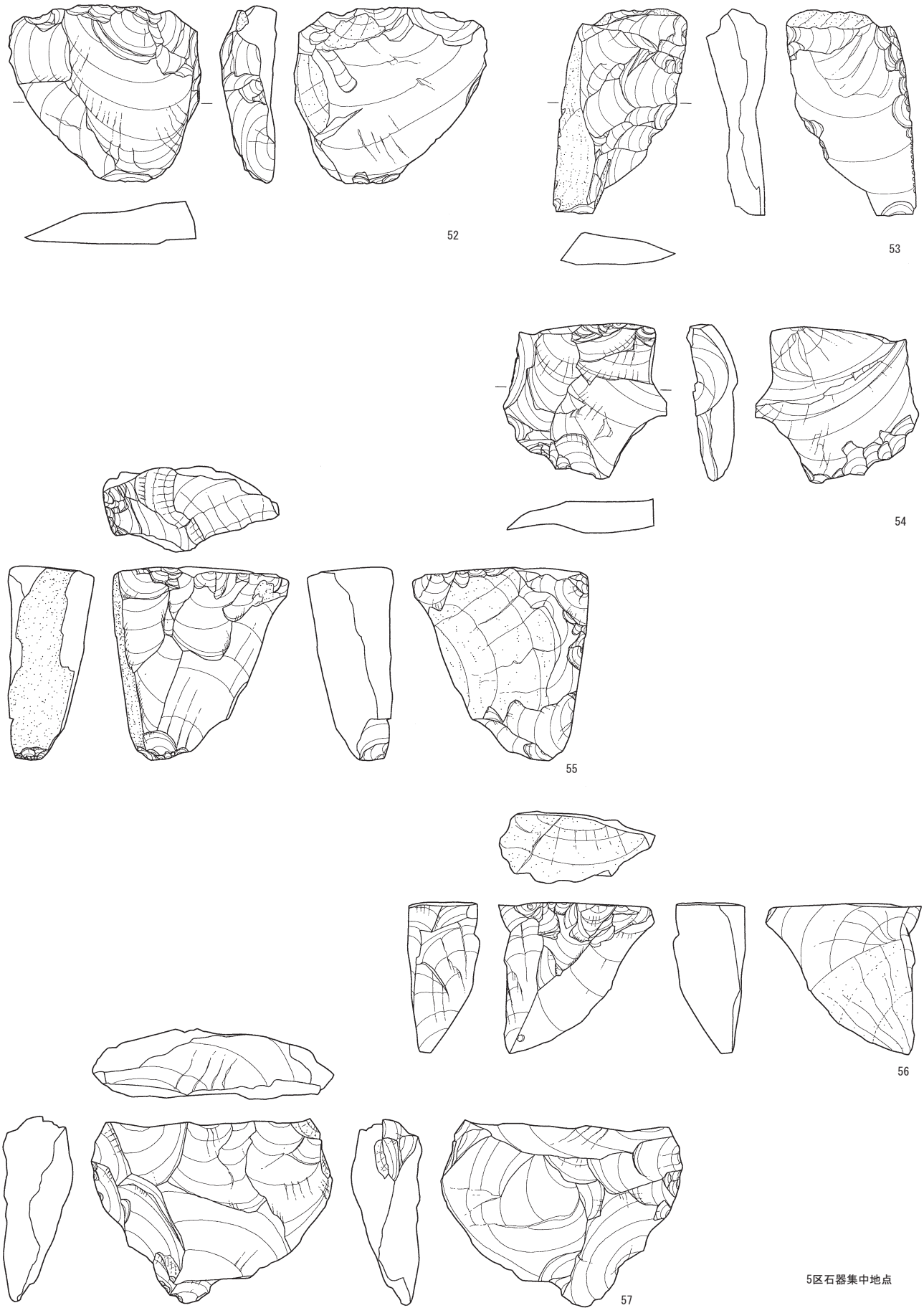




5区石器集中地点

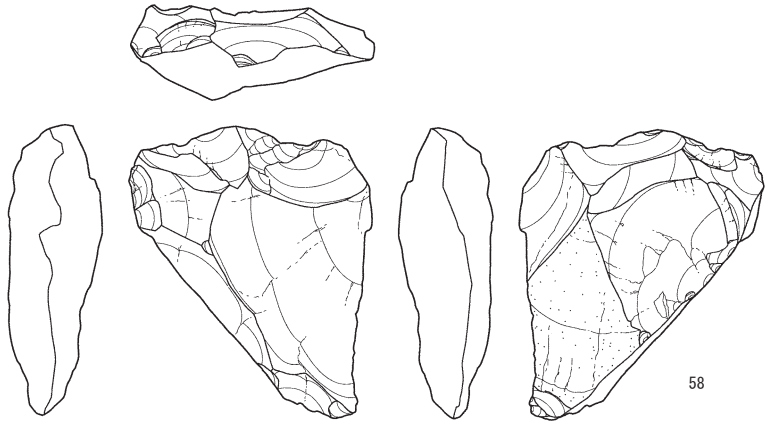
第91図　遺構出土遺物図17（縄文時代早期）

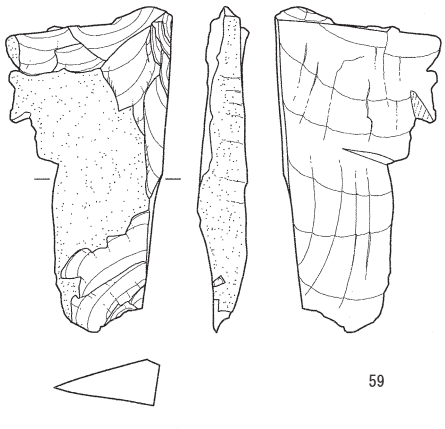
44～51：1/1

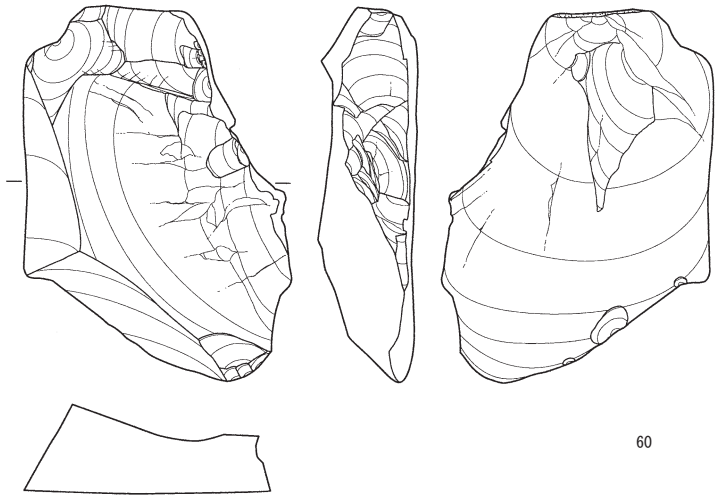


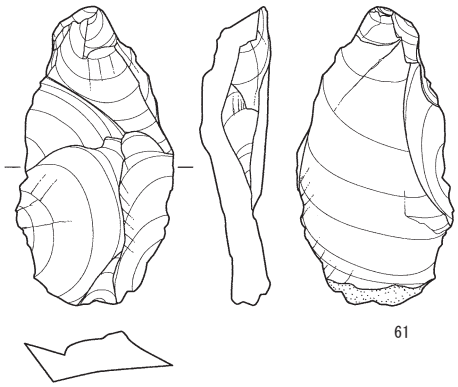
第92図　遺構出土遺物図18（縄文時代早期）

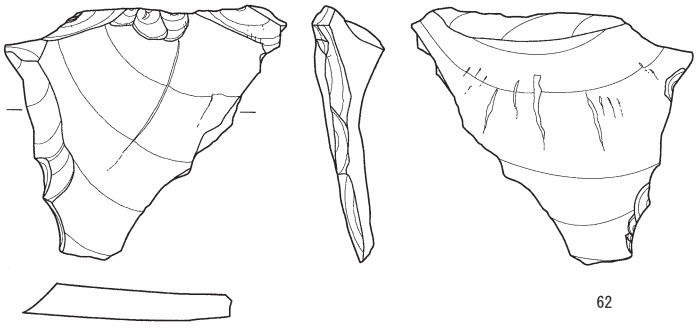
52～57：1/1

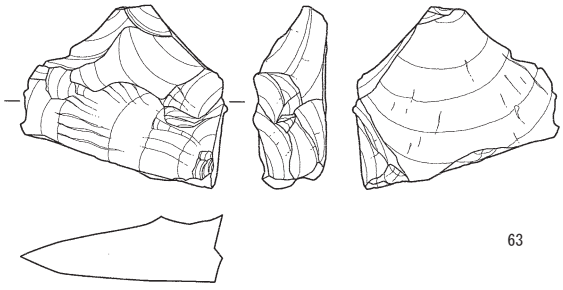


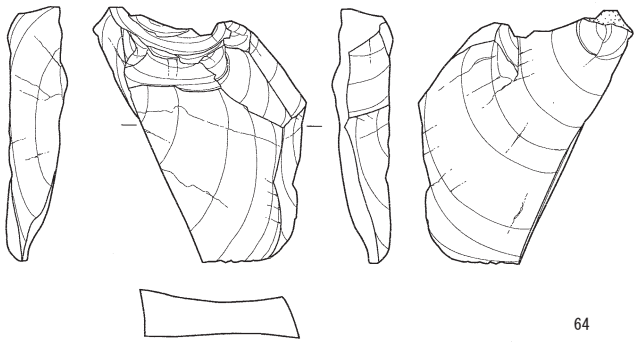


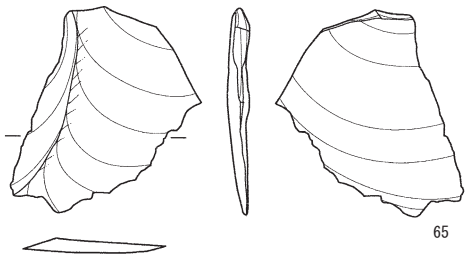












5区石器集中地点

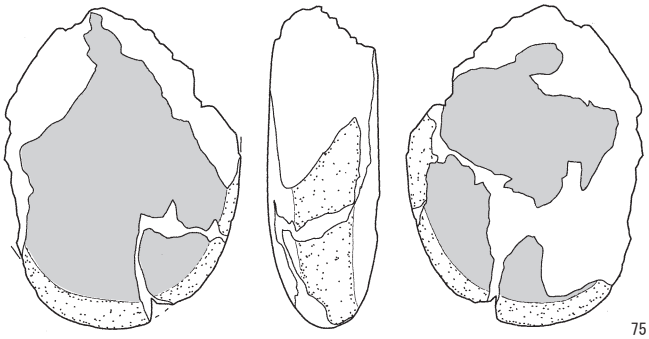
58～65：1/1

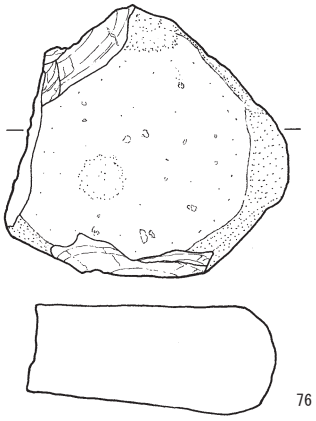
第93図　遺構出土遺物図19（縄文時代早期）

5区石器集中地点

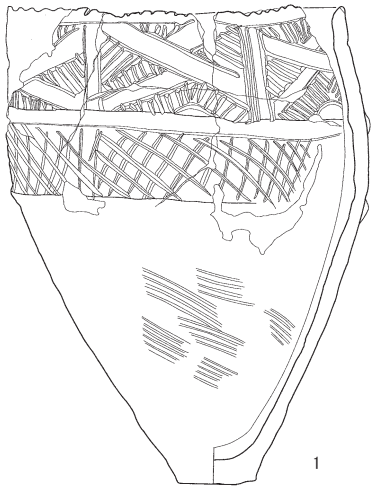
第94図　遺構出土遺物図20（縄文時代早期）

66～70：1/1
71～74：1/3

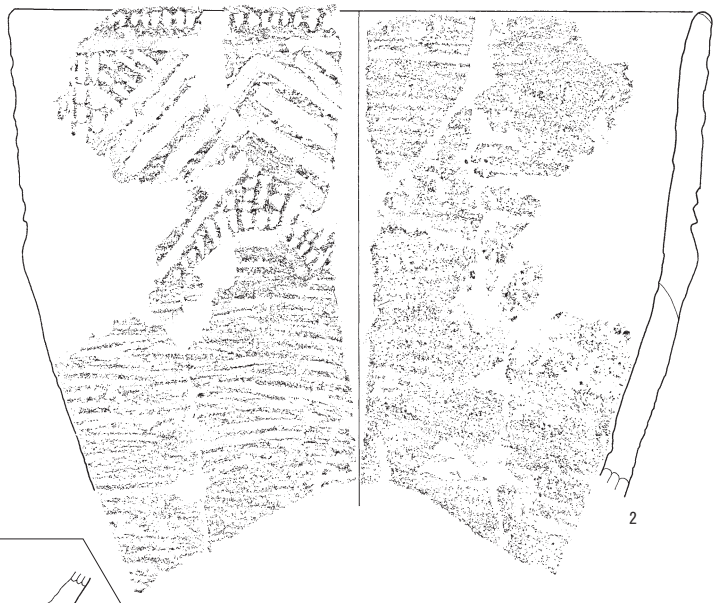




5区石器集中地点



5区土器集中地点1



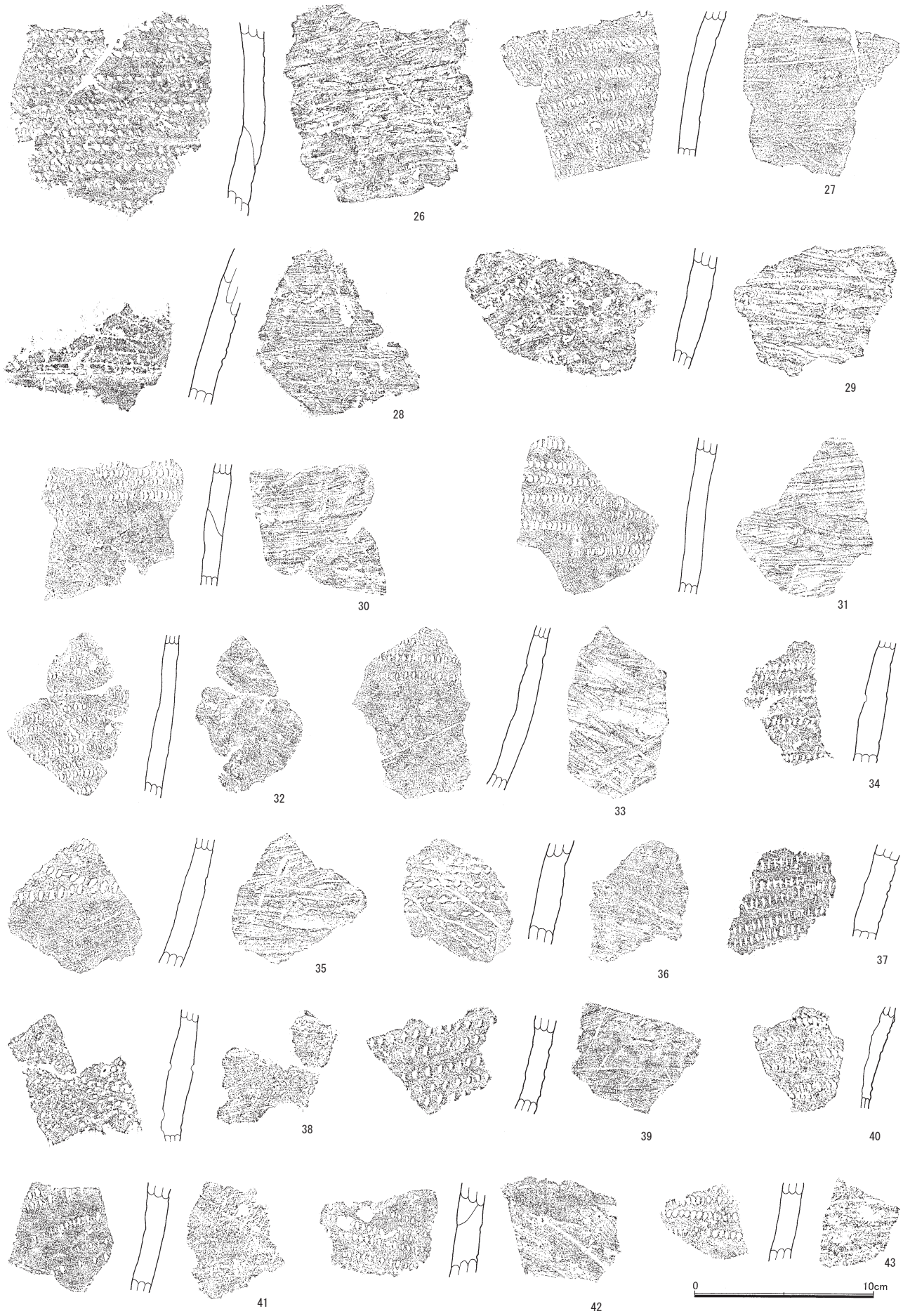
5区土器集中地点2

11区土器集中地点

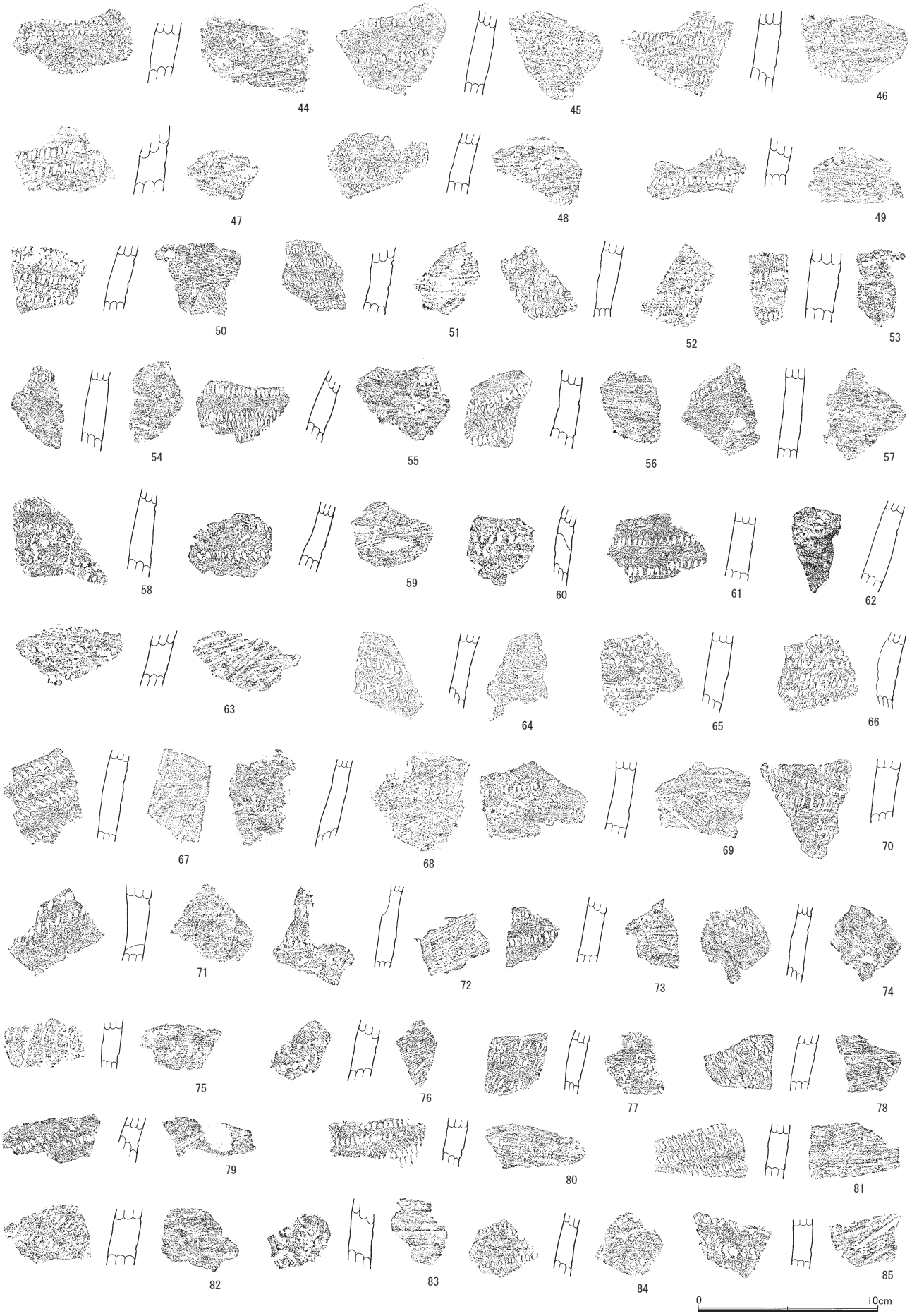
75・2～4：1/3
1　　：1/4
76　　：1/6

第95図　遺構出土遺物図21（縄文時代早期）

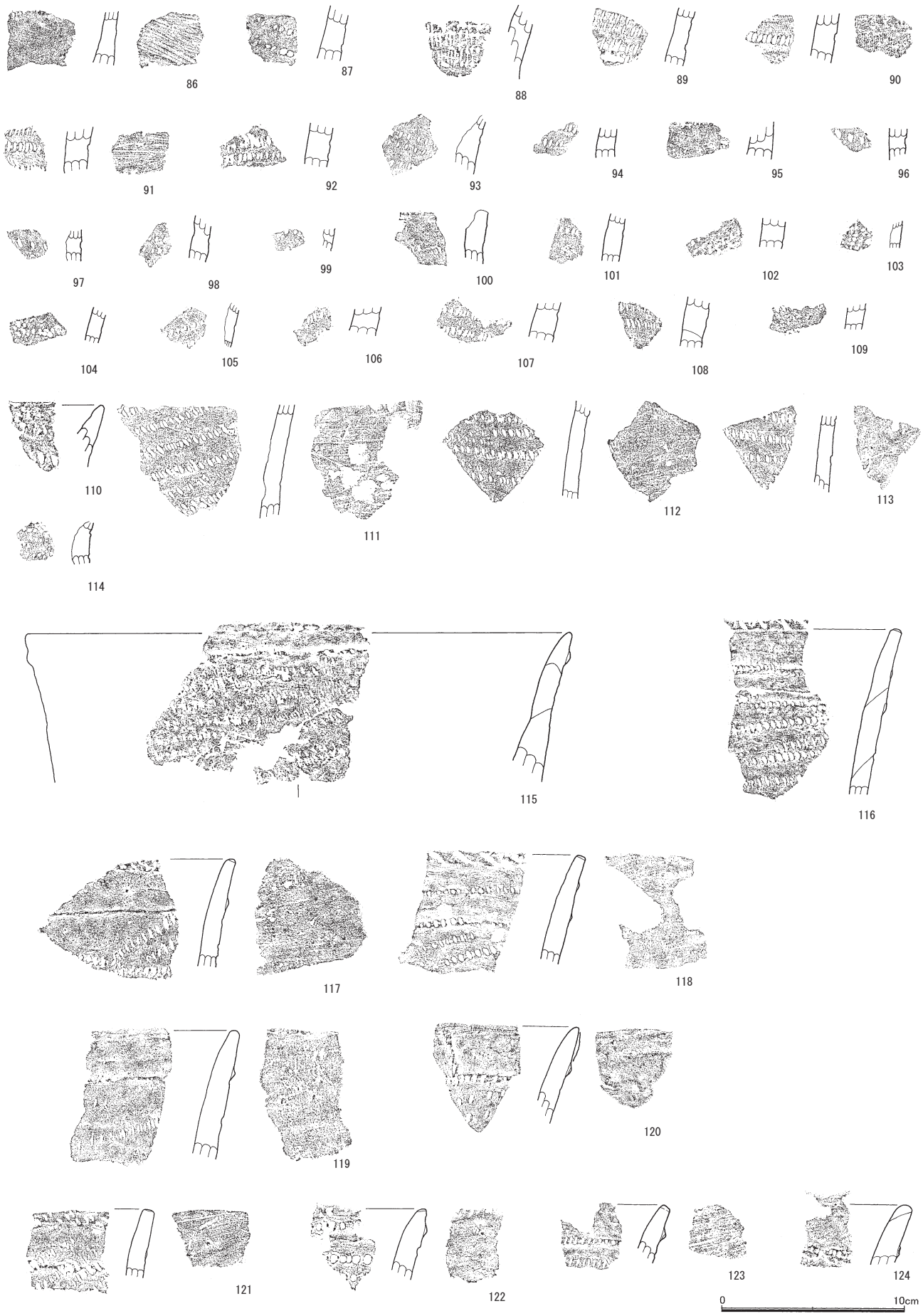
第96図　遺構外出土土器図１（縄文時代早期）



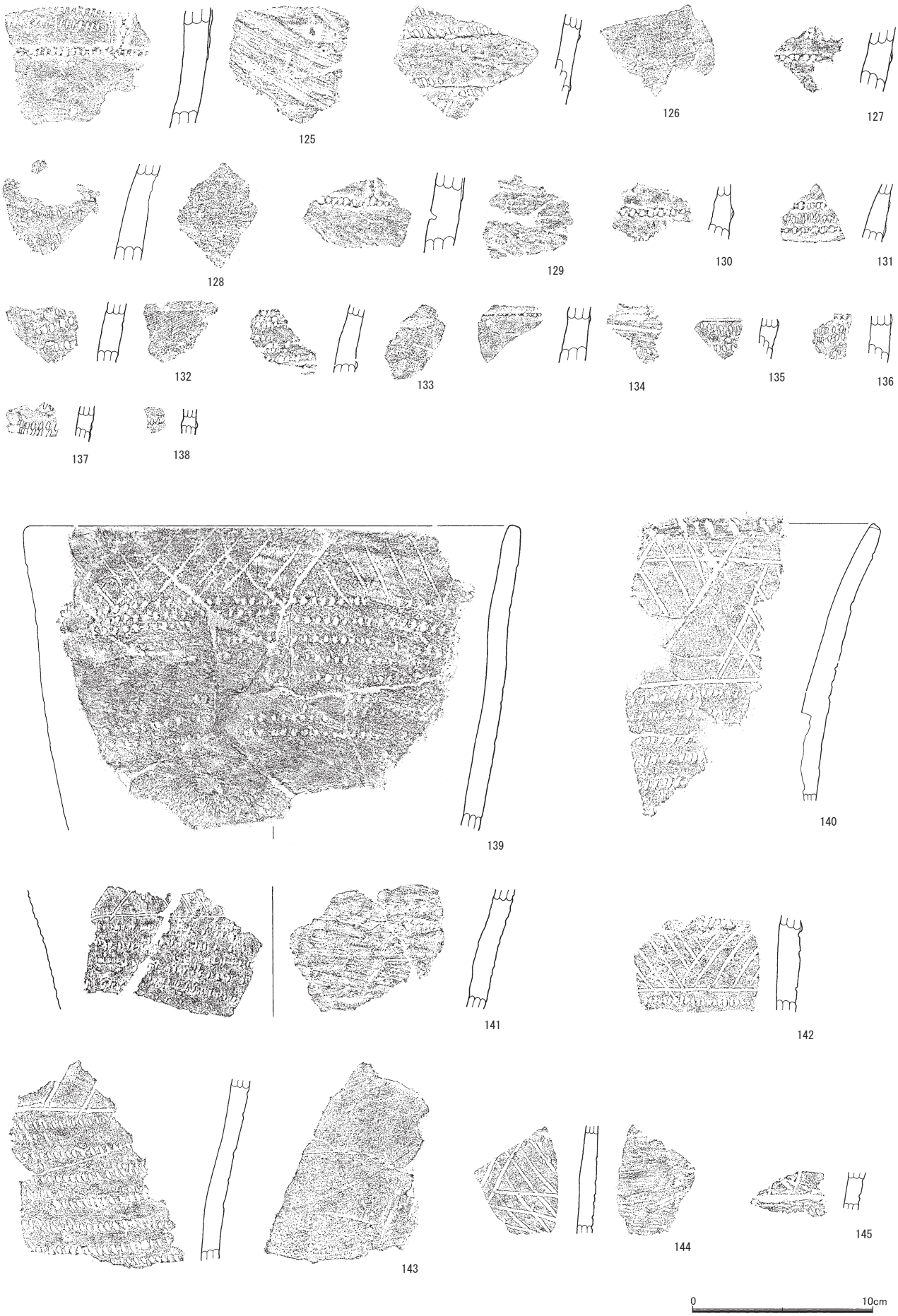
第97図　遺構外出土土器図２（縄文時代早期）



第98図　遺構外出土土器図３（縄文時代早期）

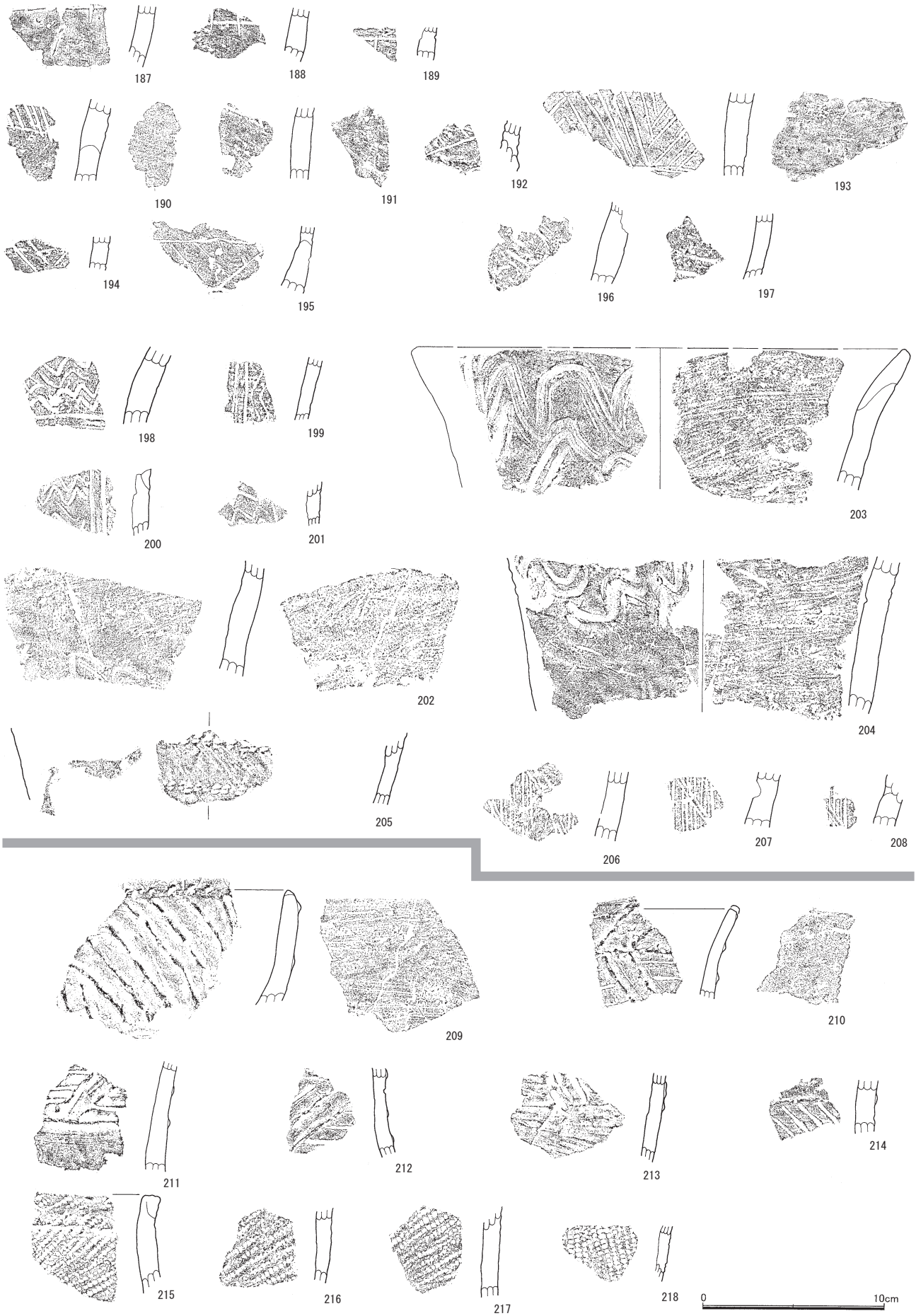


第99図　遺構外出土土器図４（縄文時代早期）



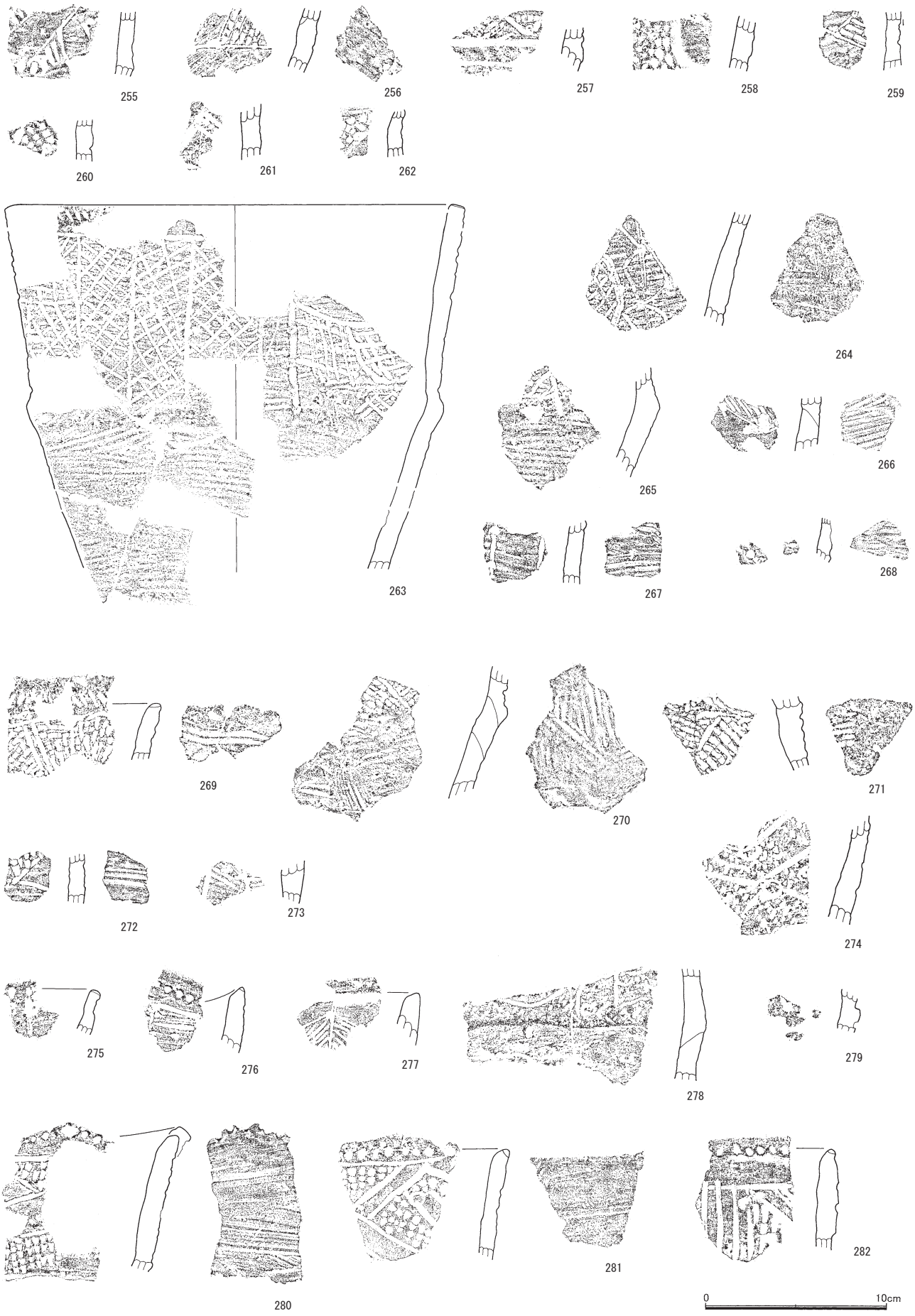
第100図　遺構外出土土器図５（縄文時代早期）

第101図　遺構外出土土器図６（縄文時代早期）

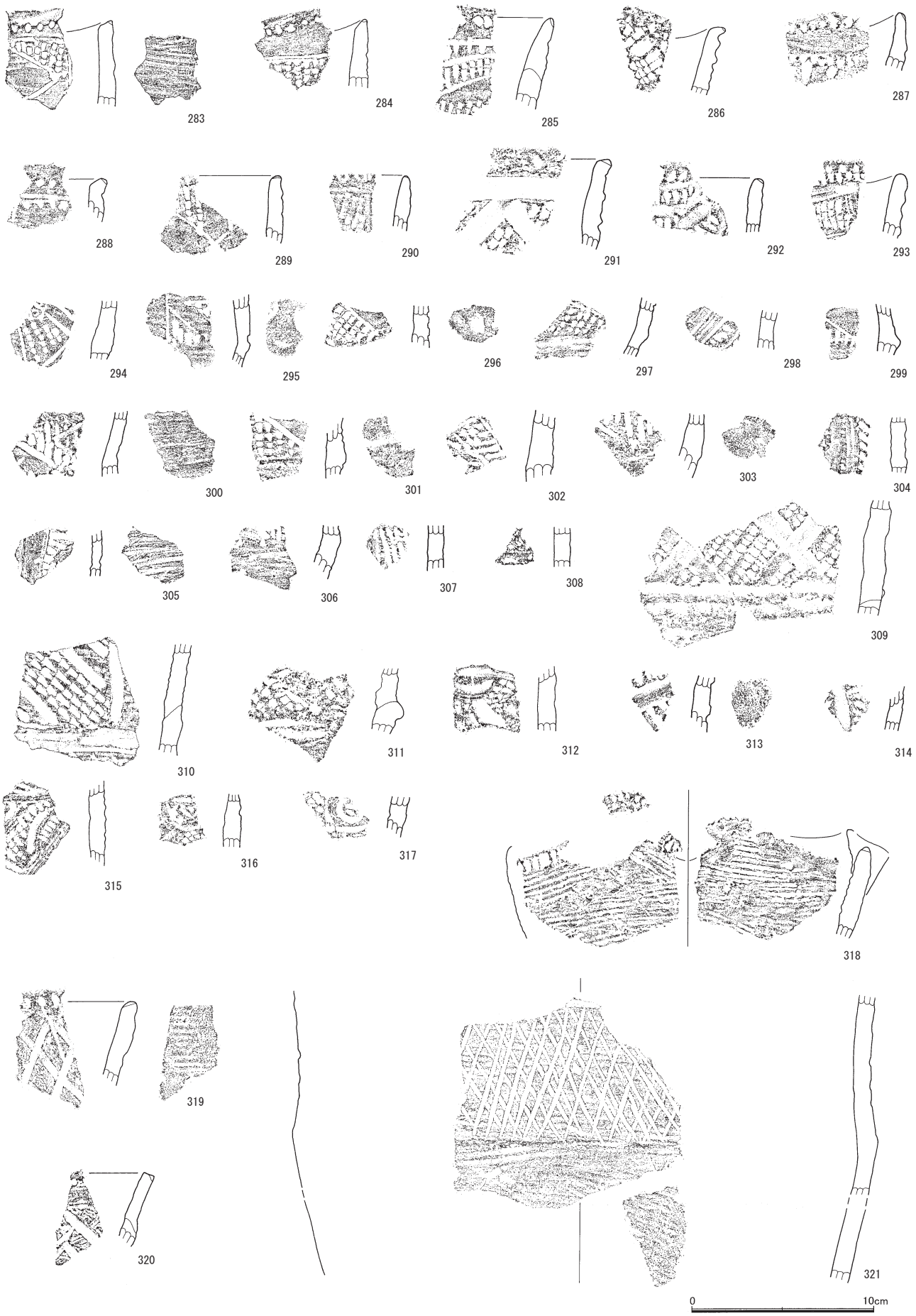


第102図　遺構外出土土器図７（縄文時代早期）

第103図　遺構外出土土器図８（縄文時代早期）

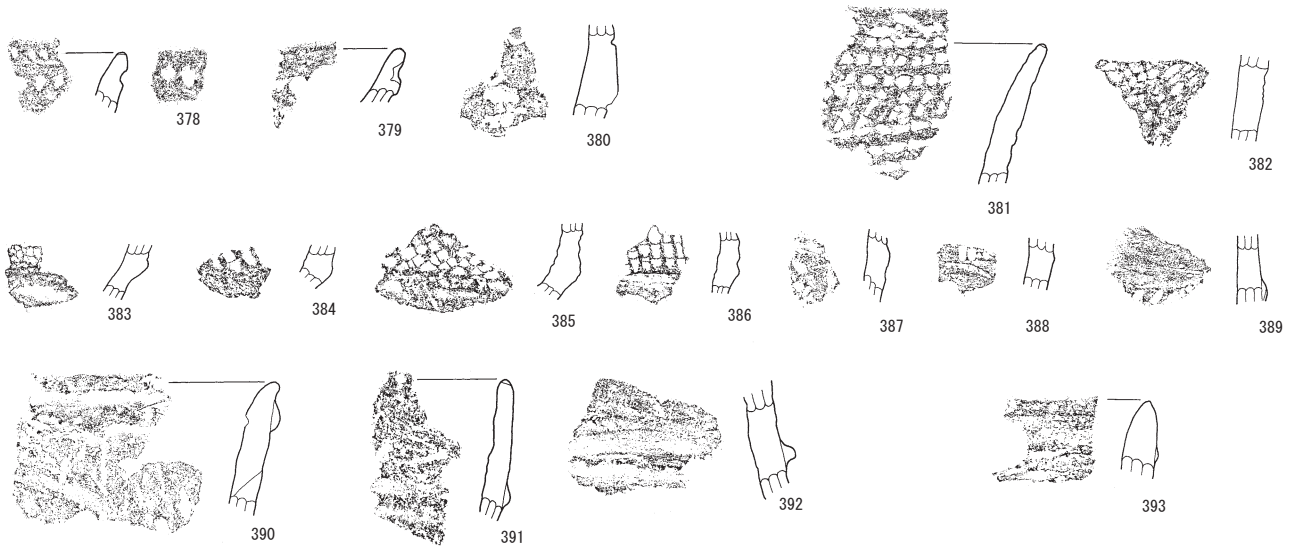


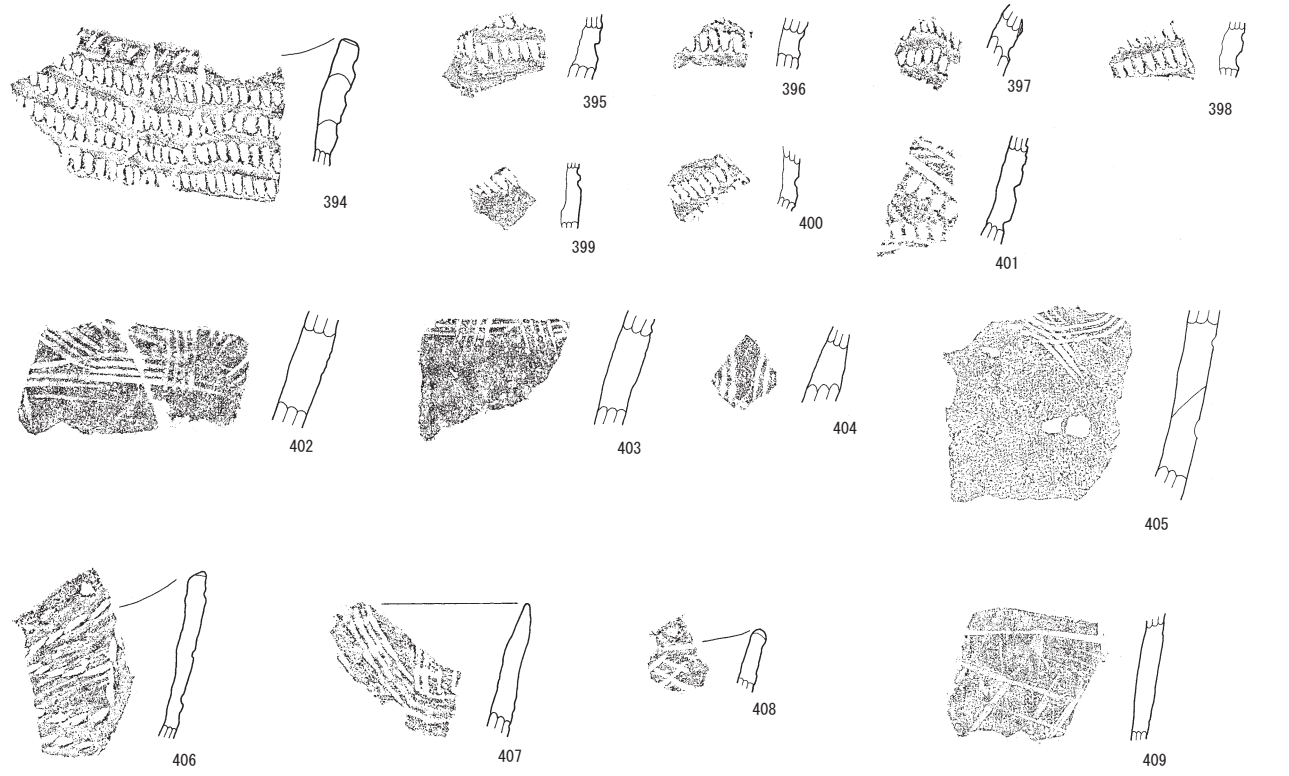
第104図　遺構外出土土器図９（縄文時代早期）



第105図　遺構外出土土器図10（縄文時代早期）

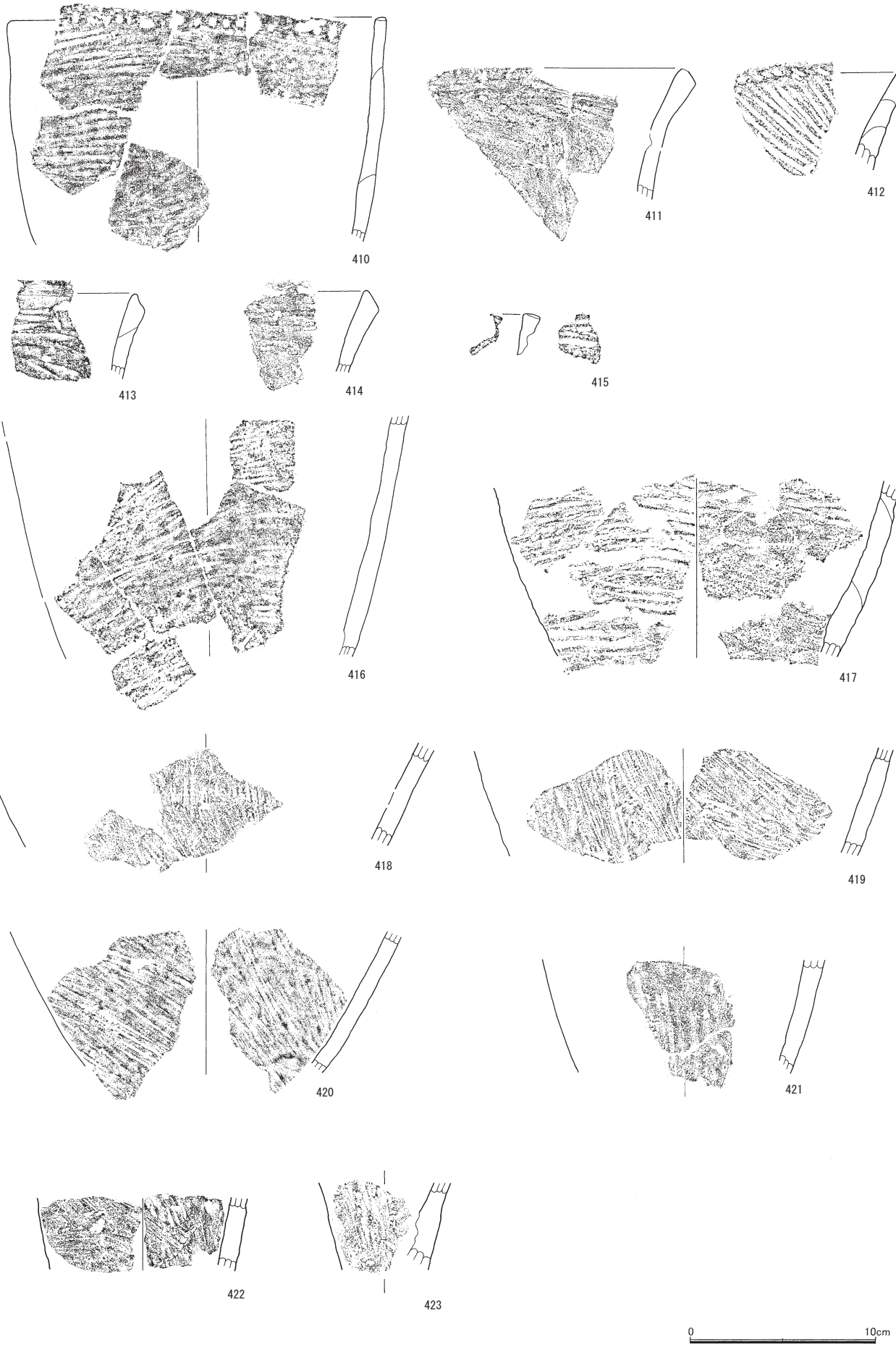
第106図　遺構外出土土器図11（縄文時代早期）



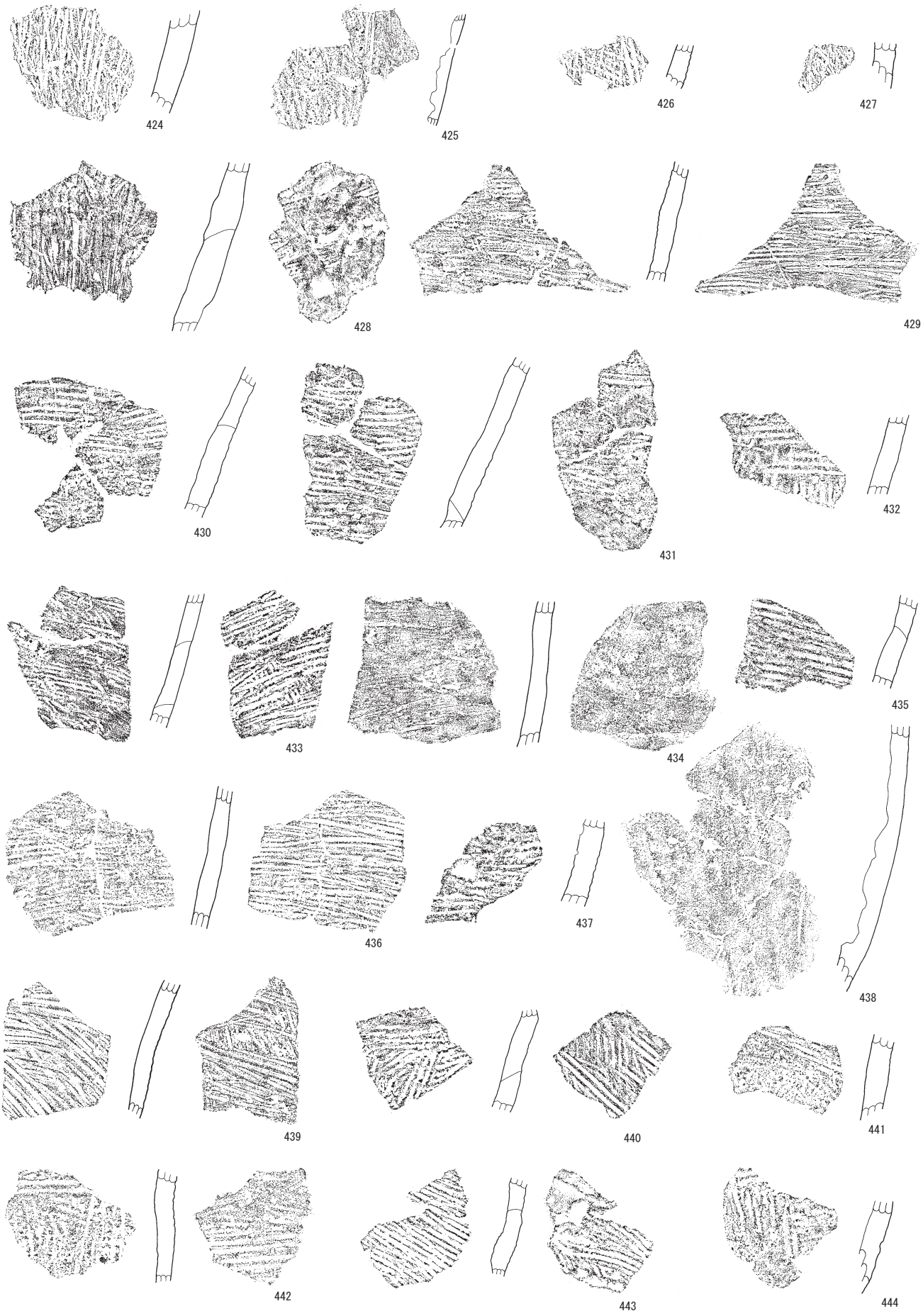


0 10cm

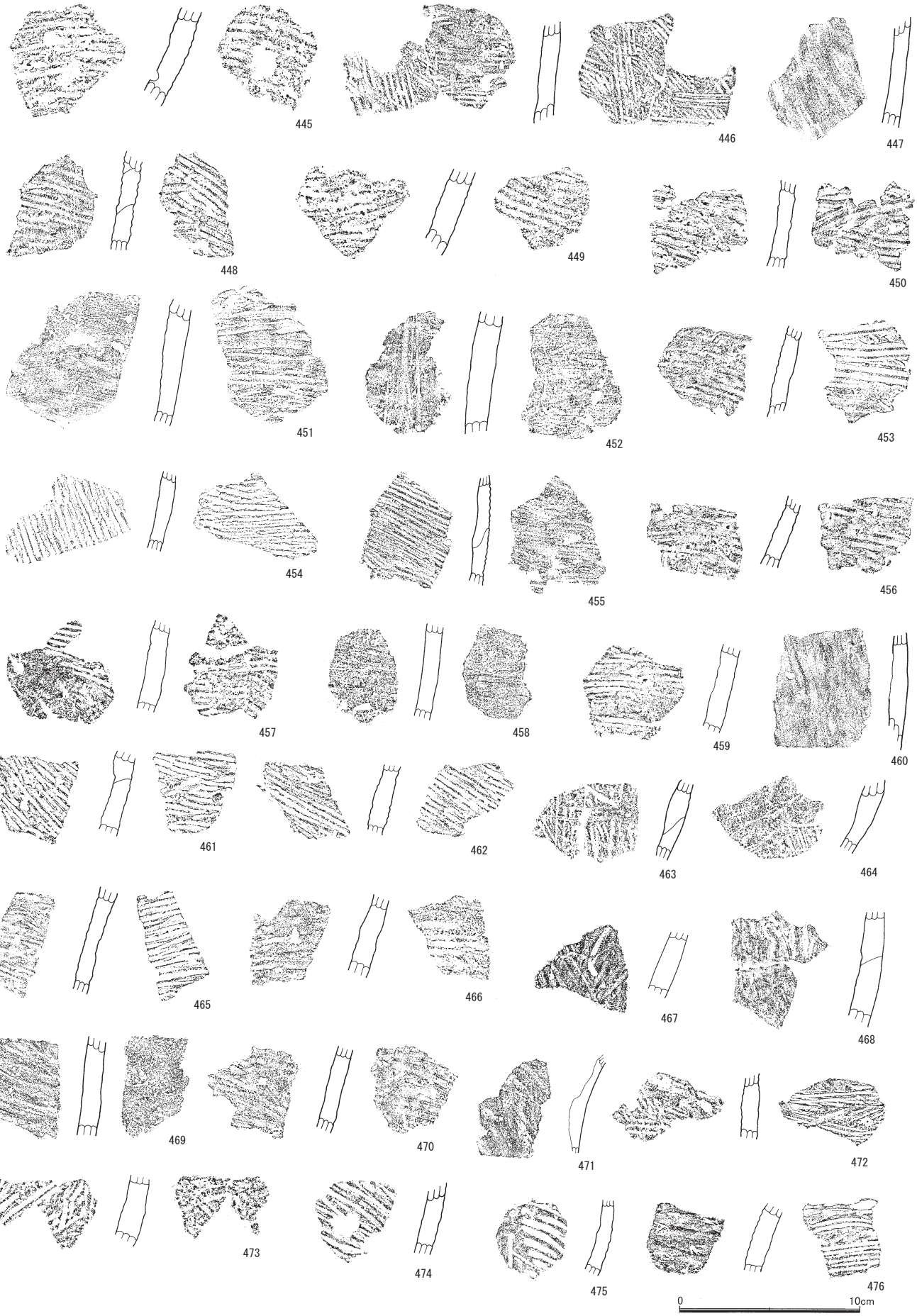
第107図　遺構外出土土器図12（縄文時代早期）



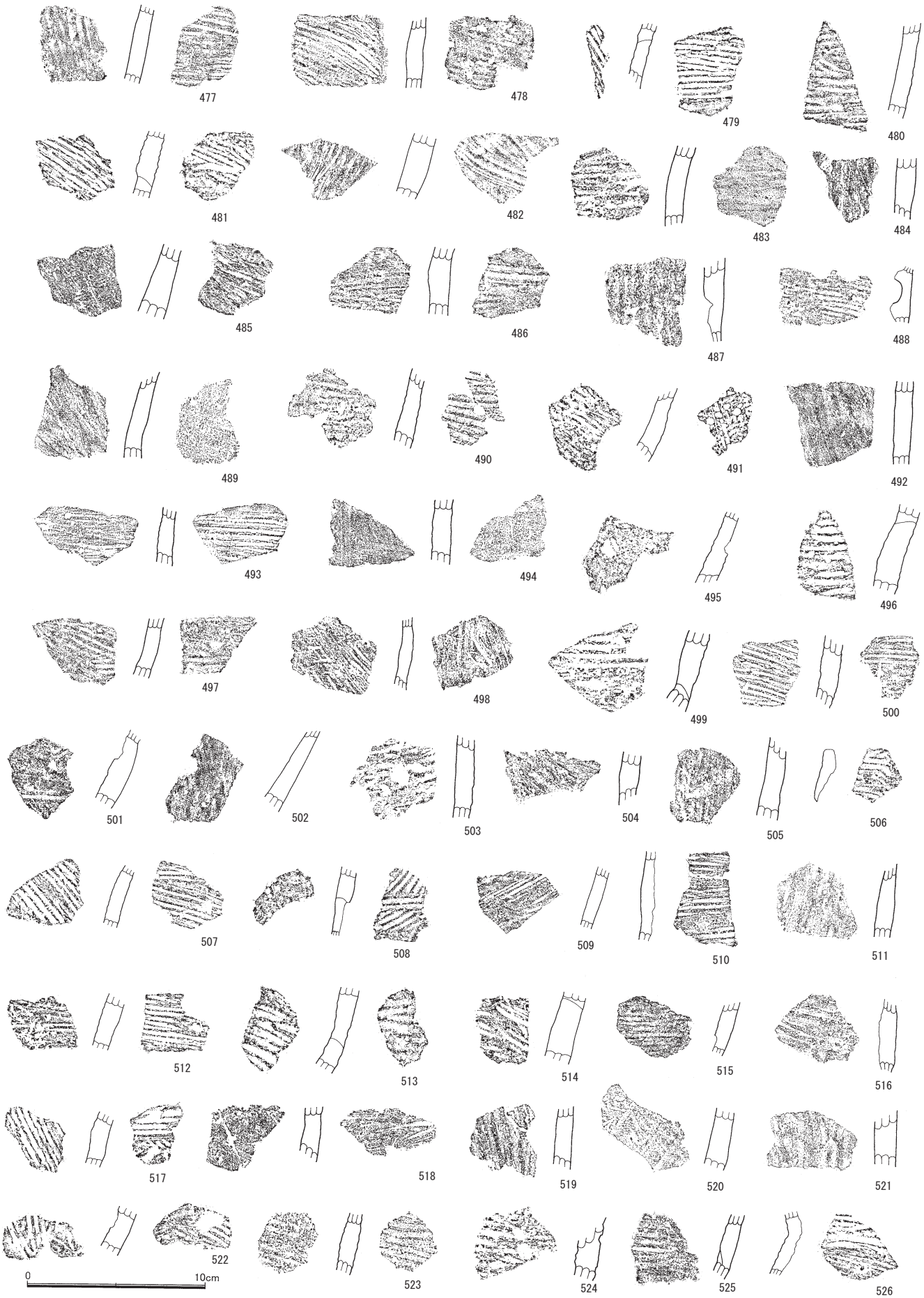
第108図　遺構外出土土器図13（縄文時代早期）



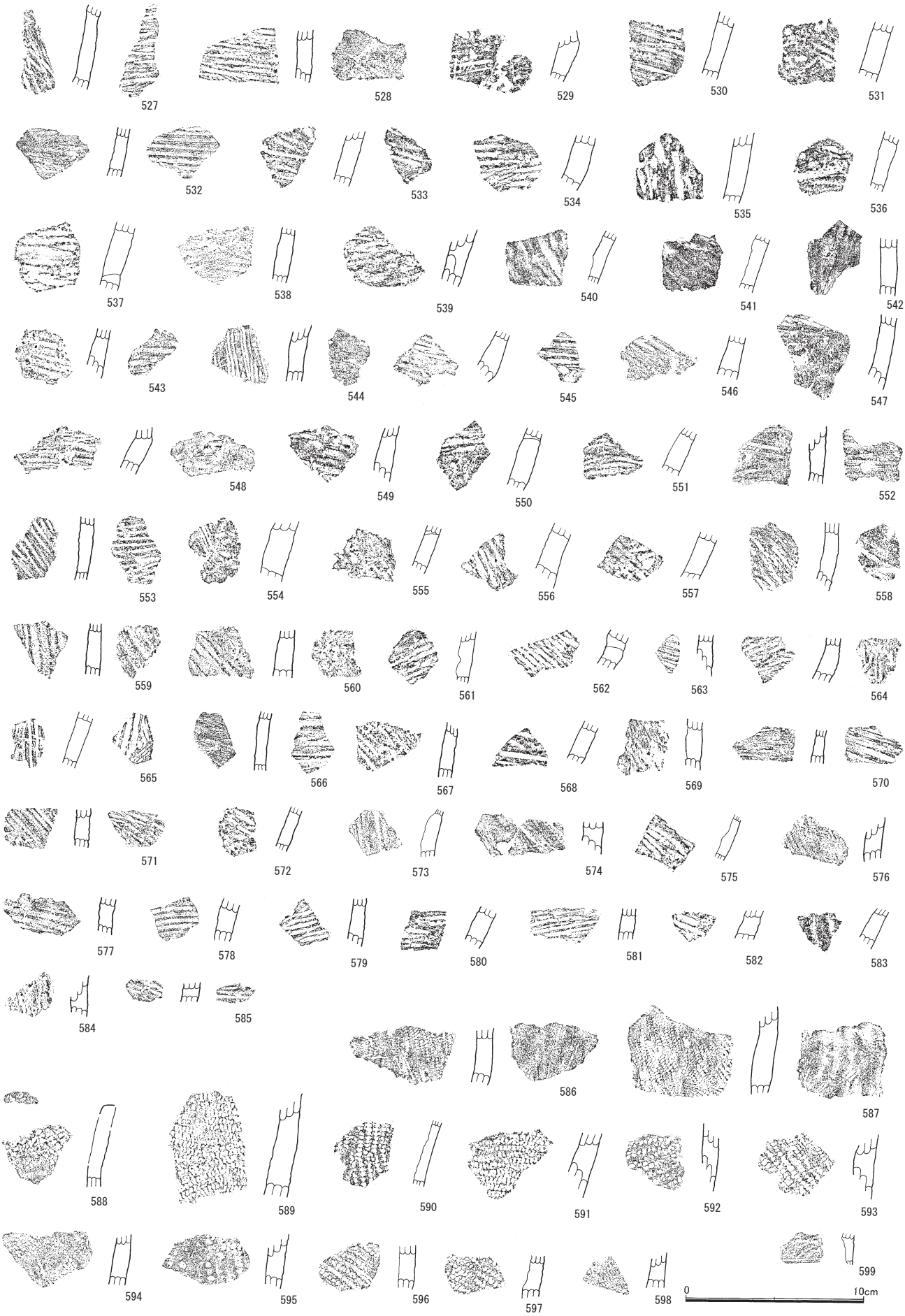
第109図　遺構外出土土器図14（縄文時代早期）



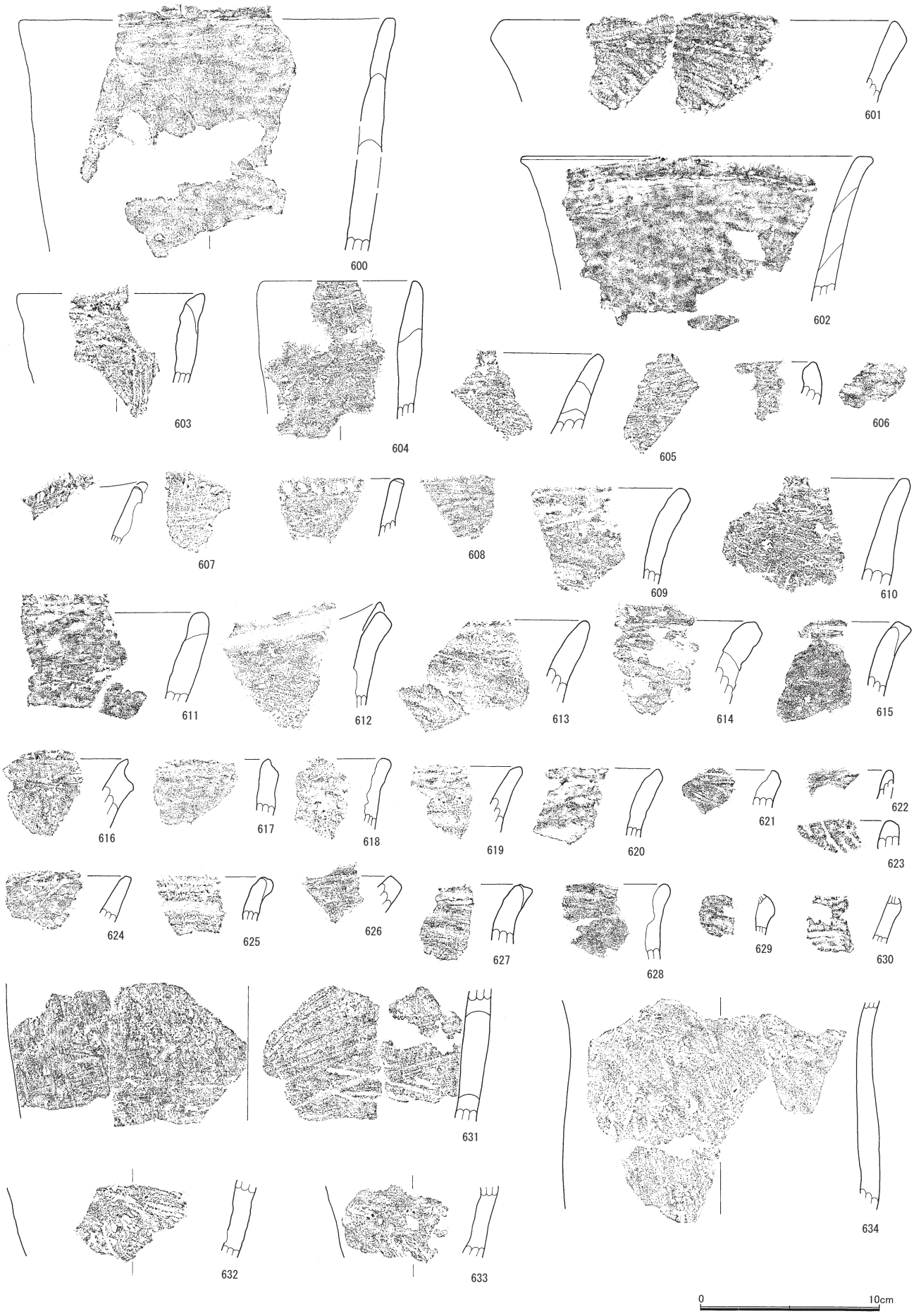
第110図　遺構外出土土器図15（縄文時代早期）



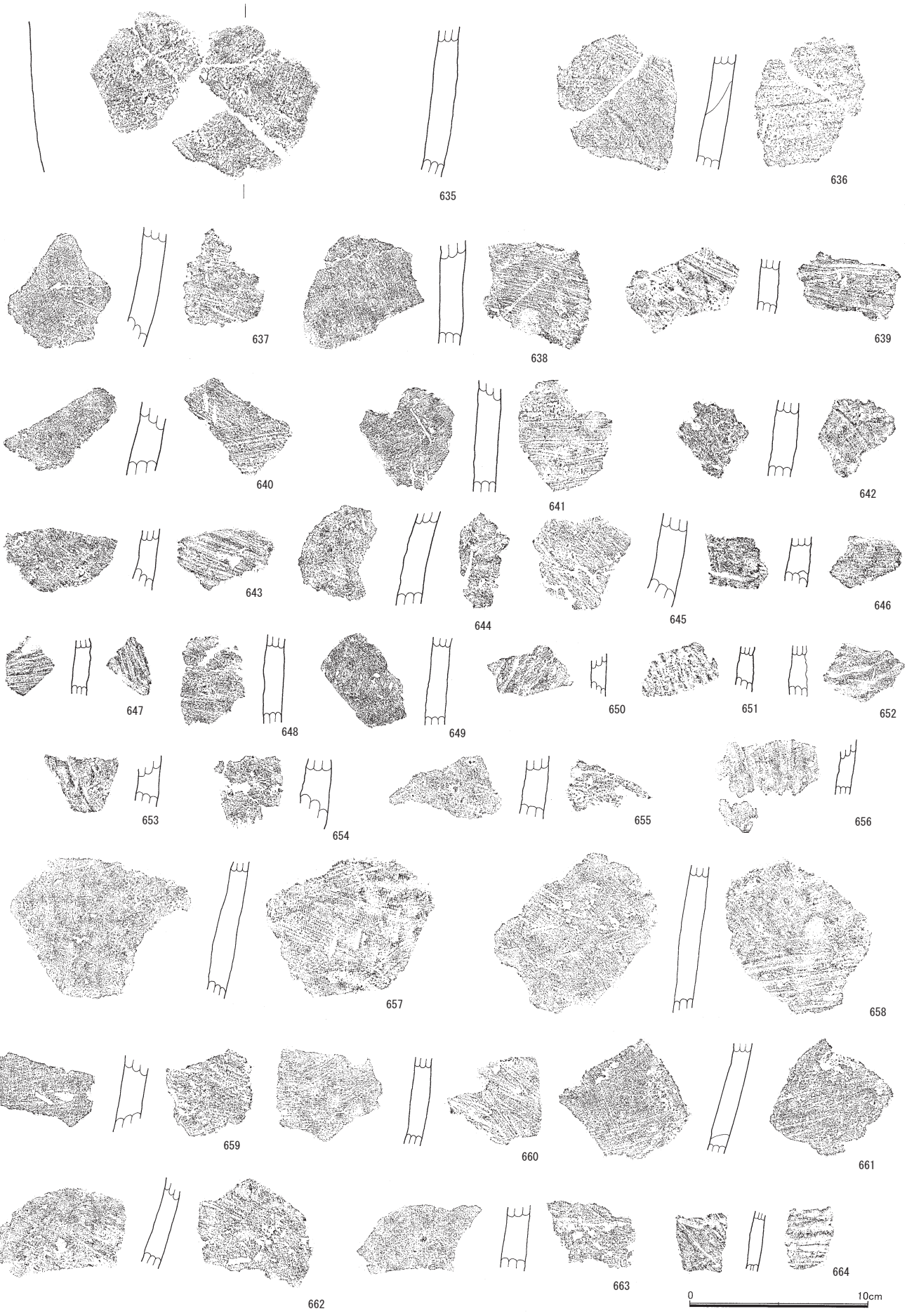
第111図　遺構外出土土器図16（縄文時代早期）



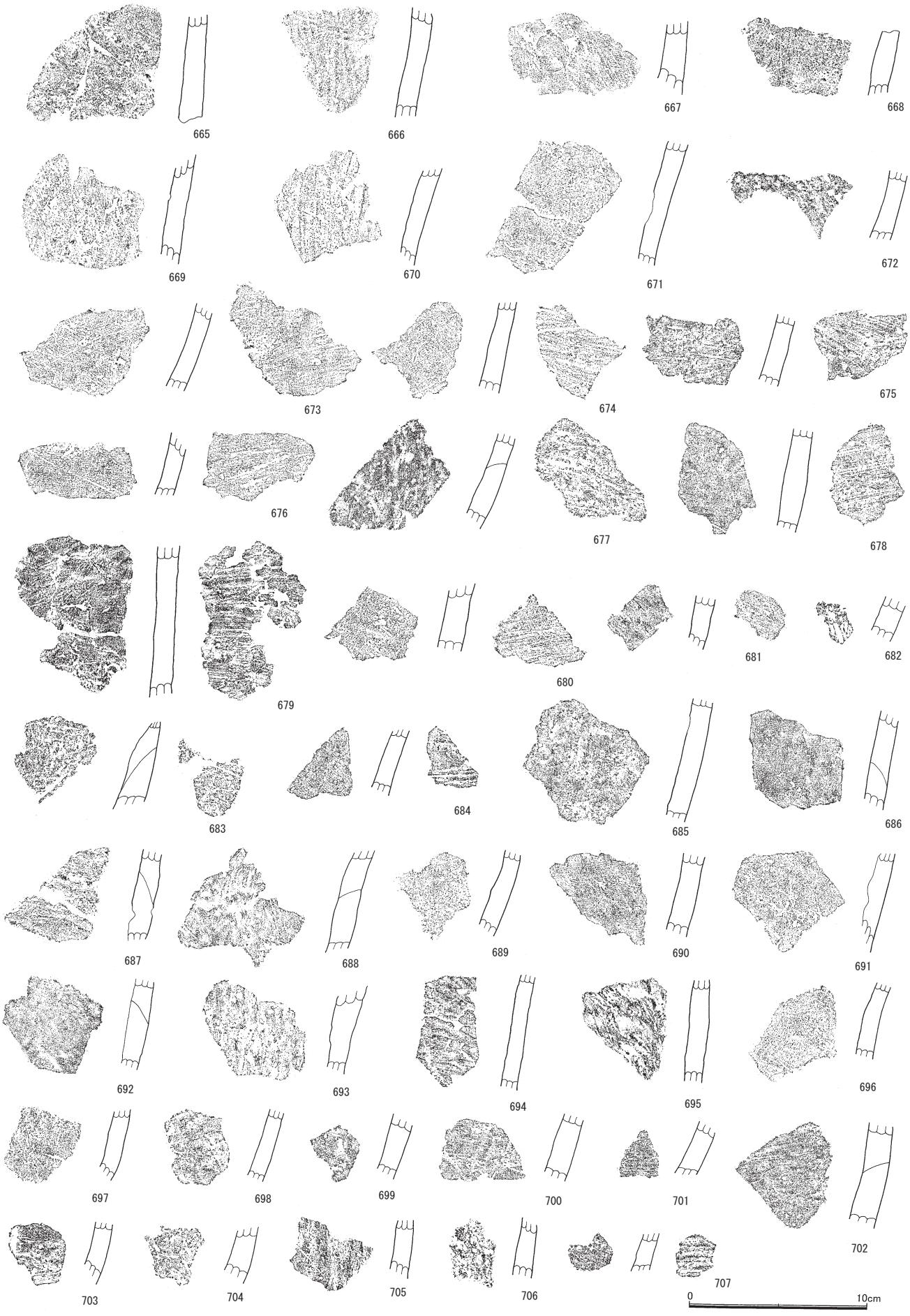
第112図　遺構外出土土器図17（縄文時代早期）



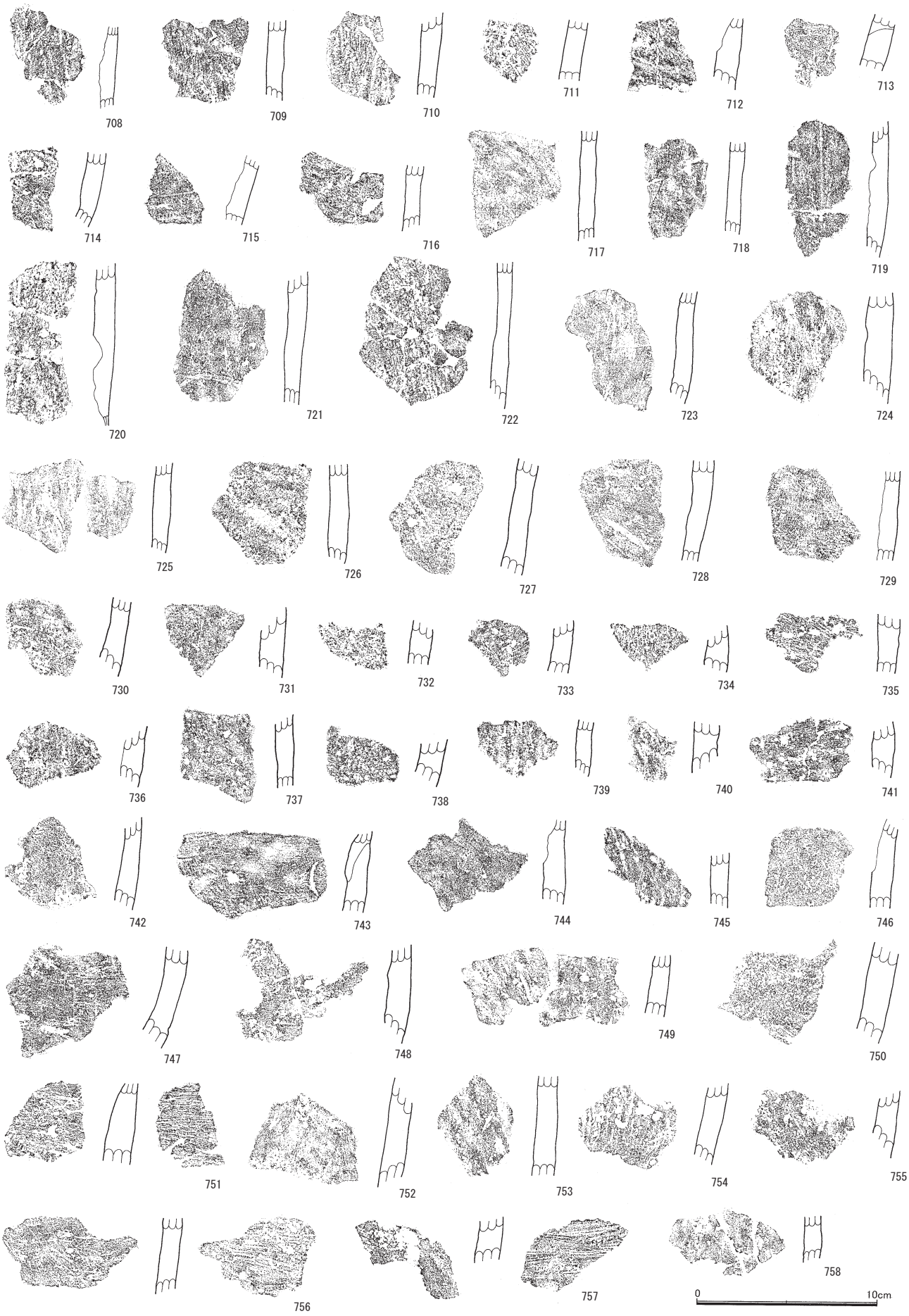
第113図　遺構外出土土器図18（縄文時代早期）



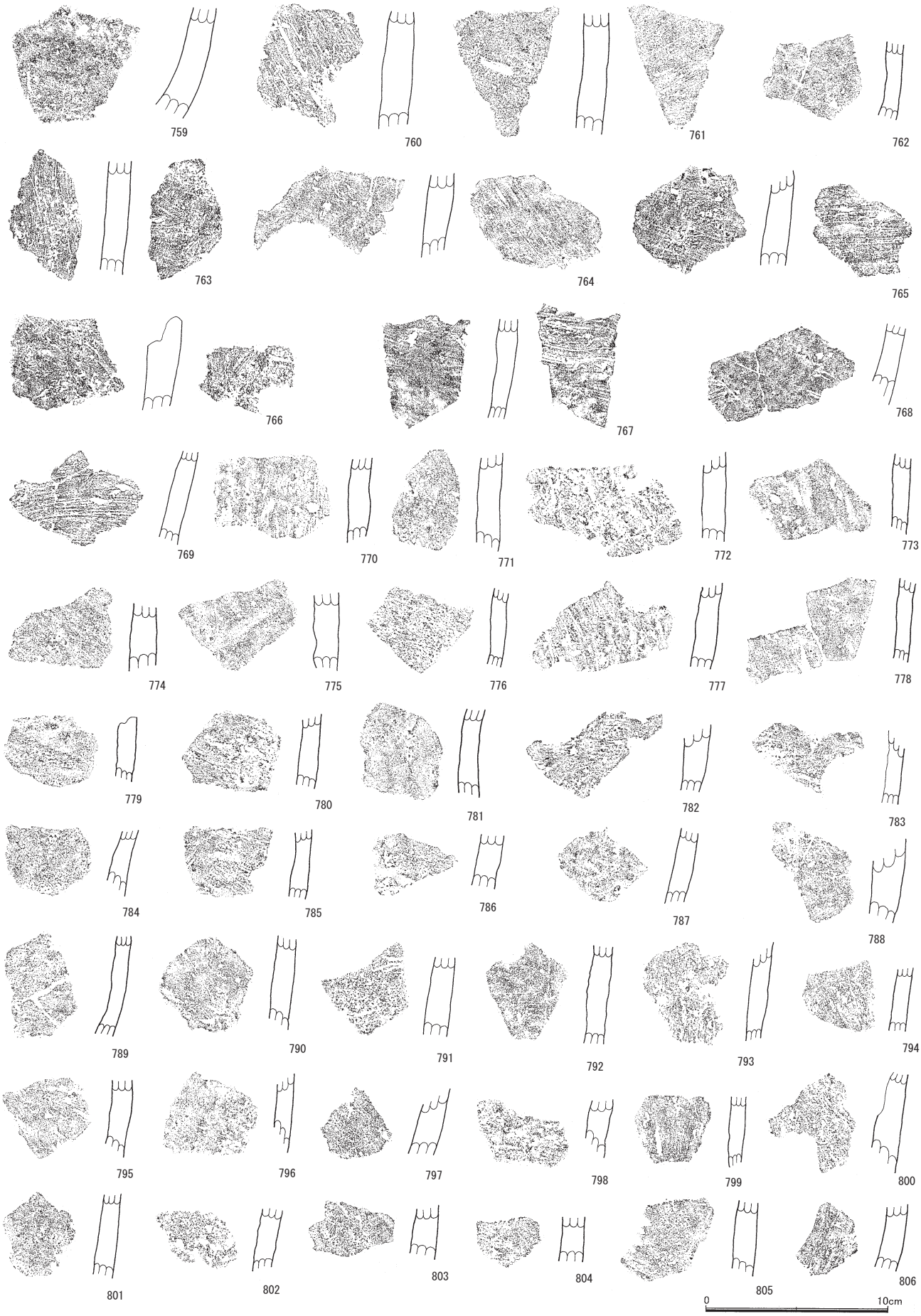
第114図　遺構外出土土器図19（縄文時代早期）



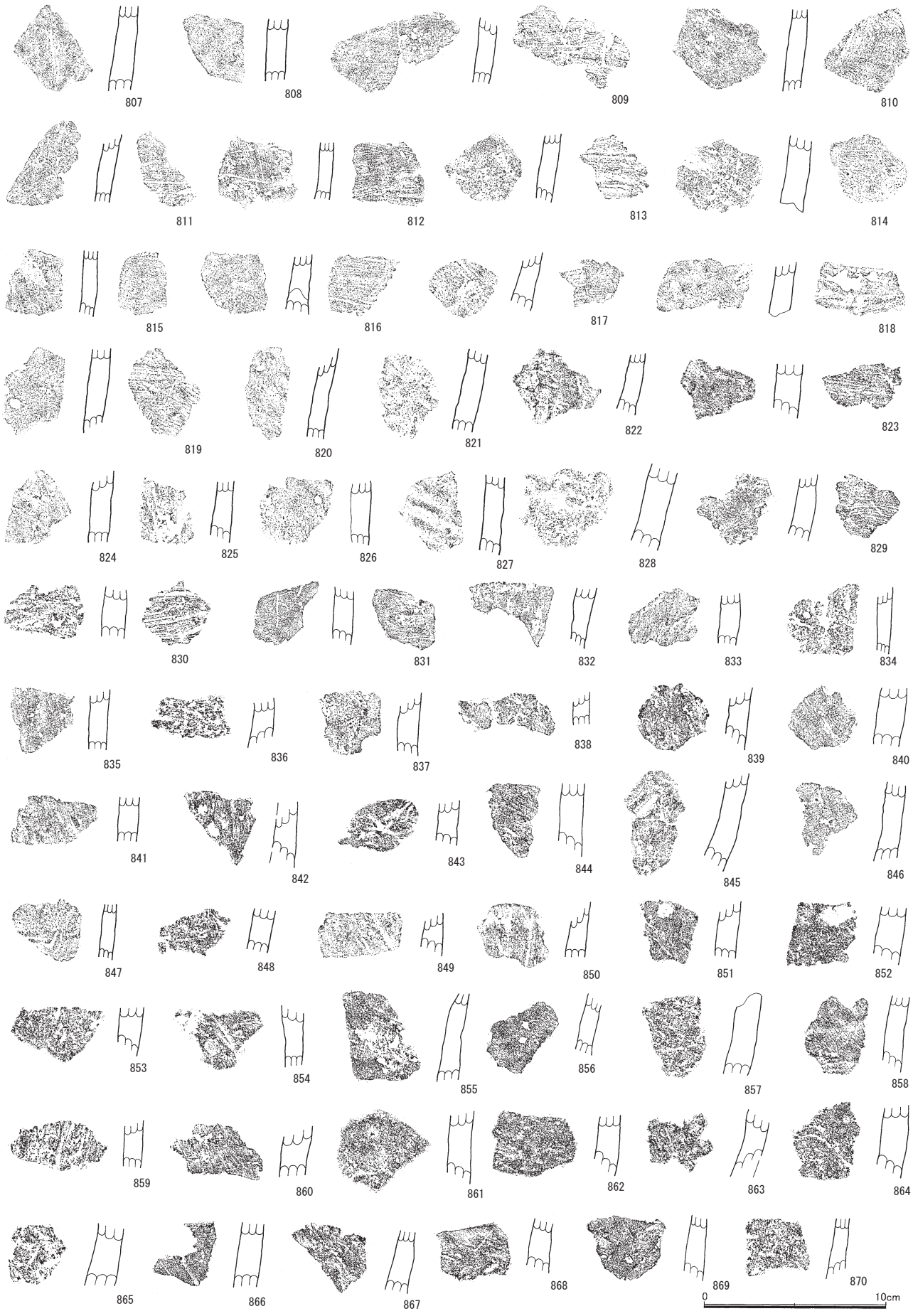
第115図　遺構外出土土器図20（縄文時代早期）



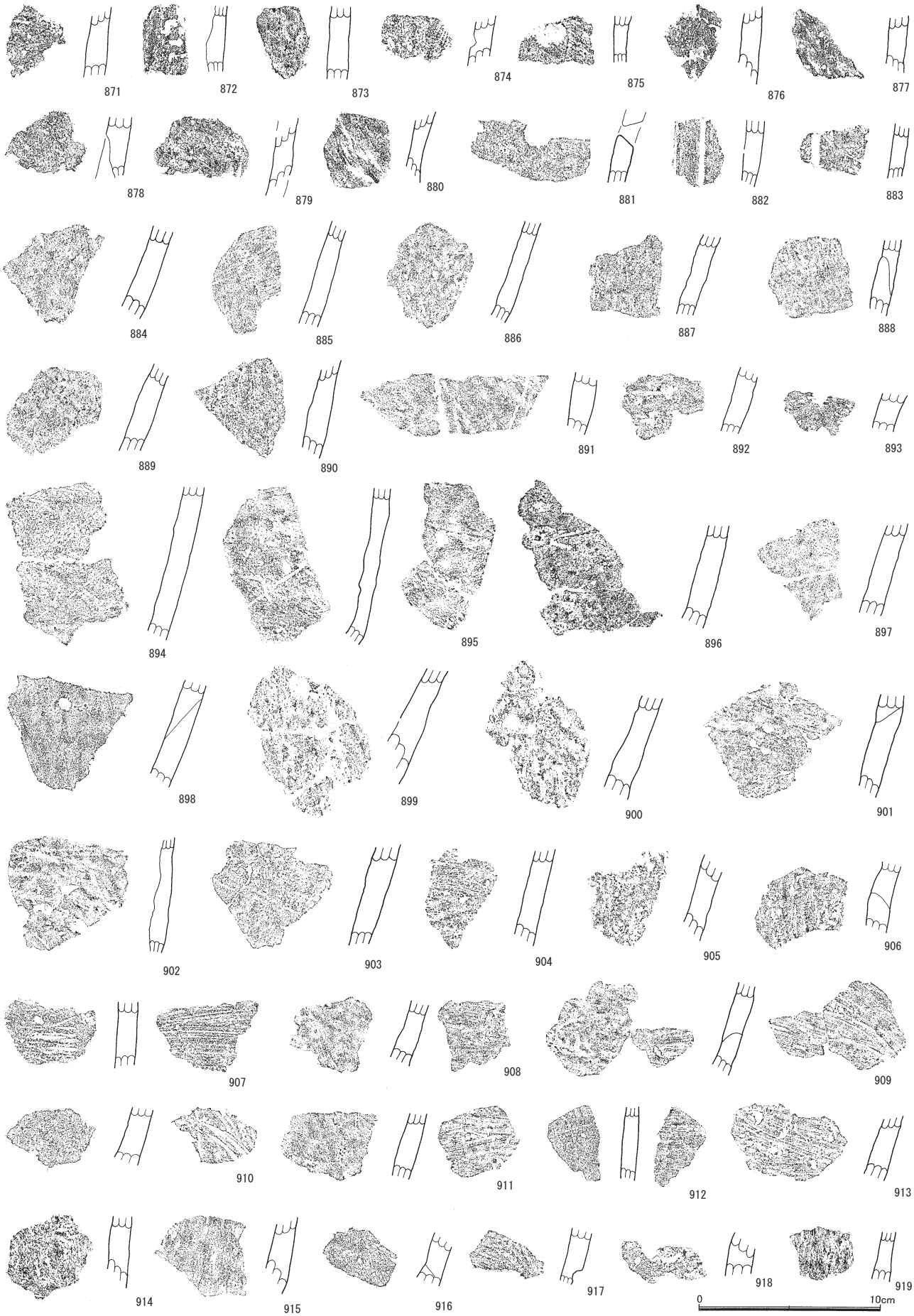
第116図　遺構外出土土器図21（縄文時代早期）



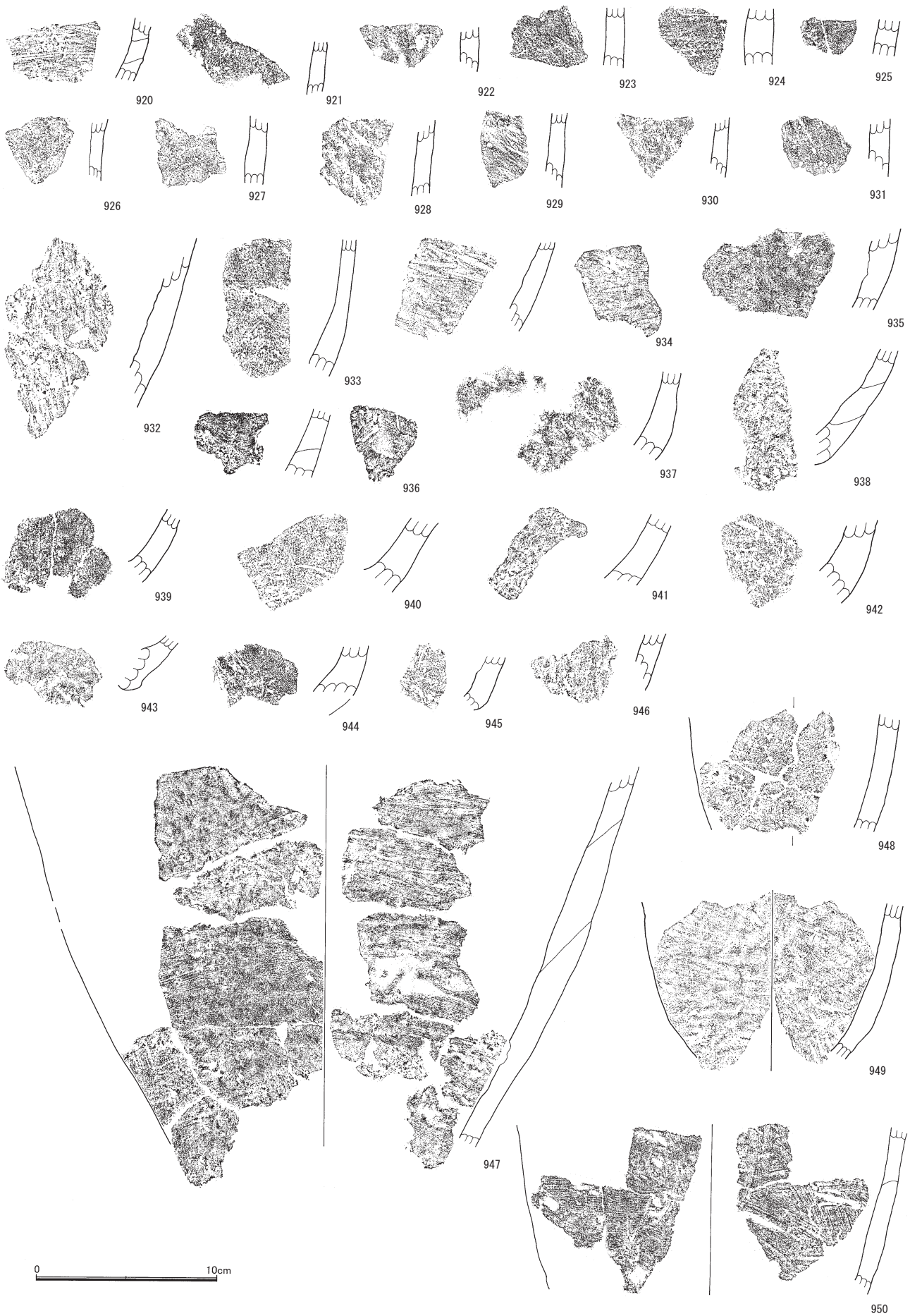
第117図　遺構外出土土器図22（縄文時代早期）



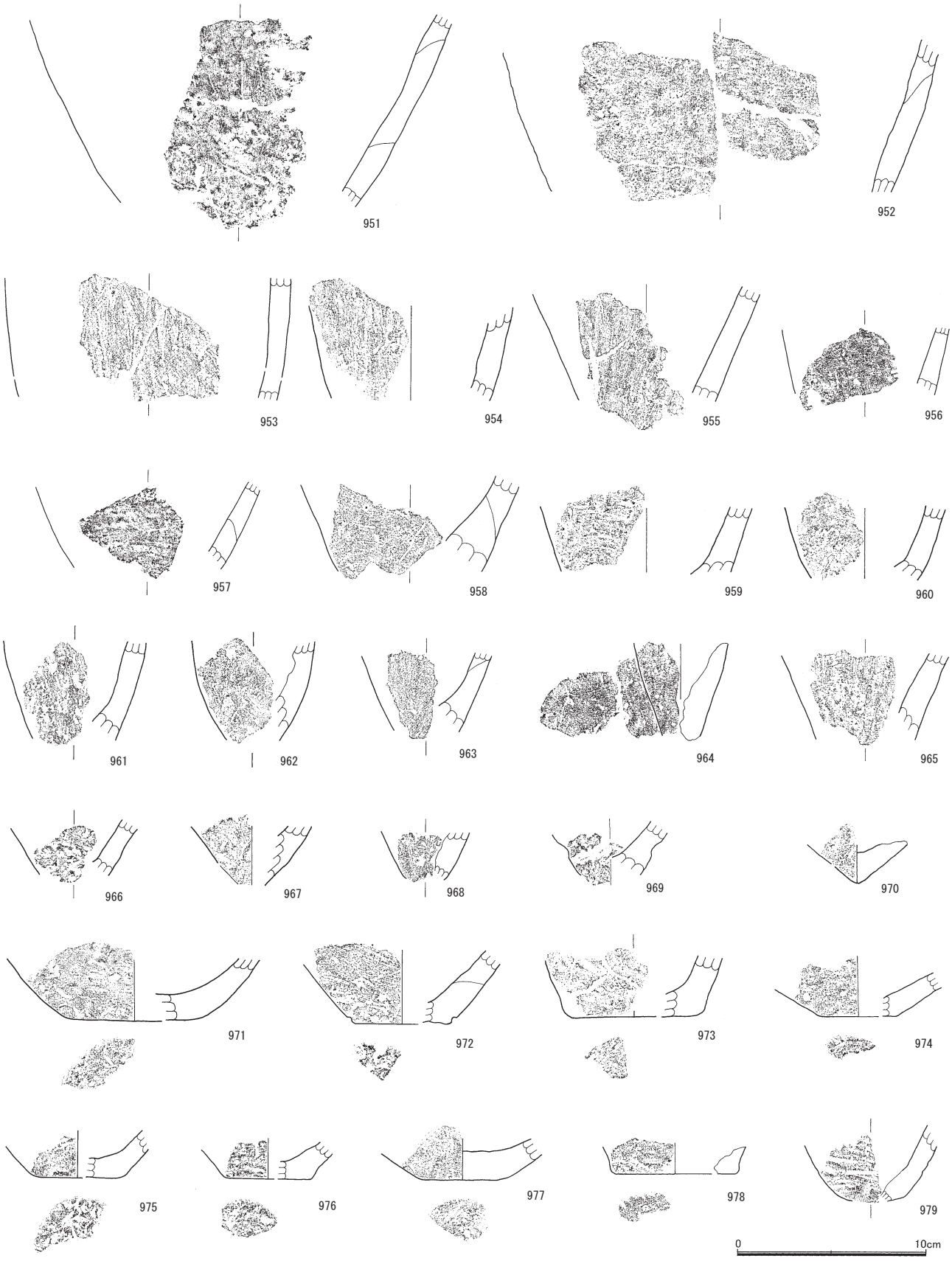
第118図　遺構外出土土器図23（縄文時代早期）



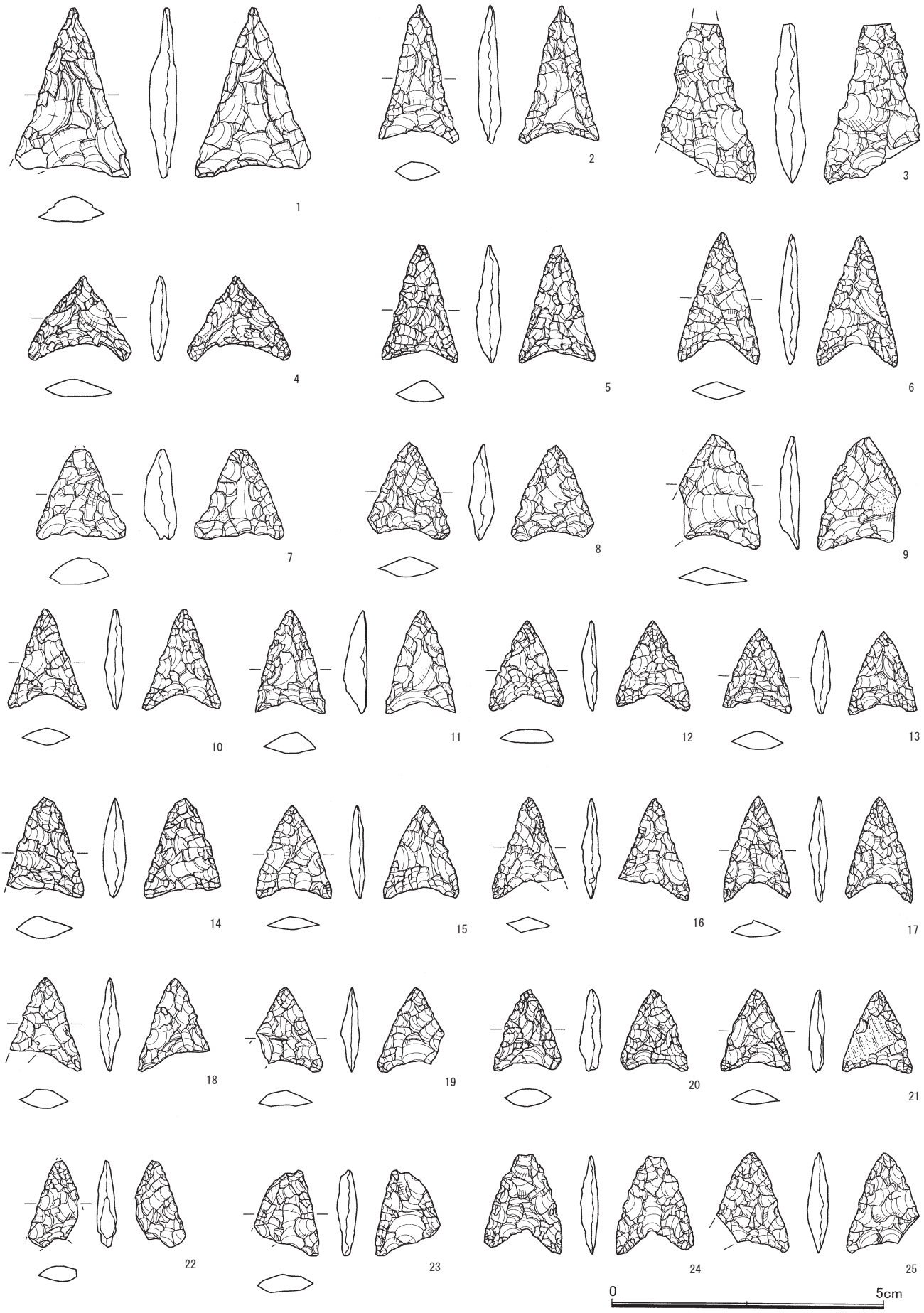
第119図　遺構外出土土器図24（縄文時代早期）



第120図　遺構外出土土器図25（縄文時代早期）

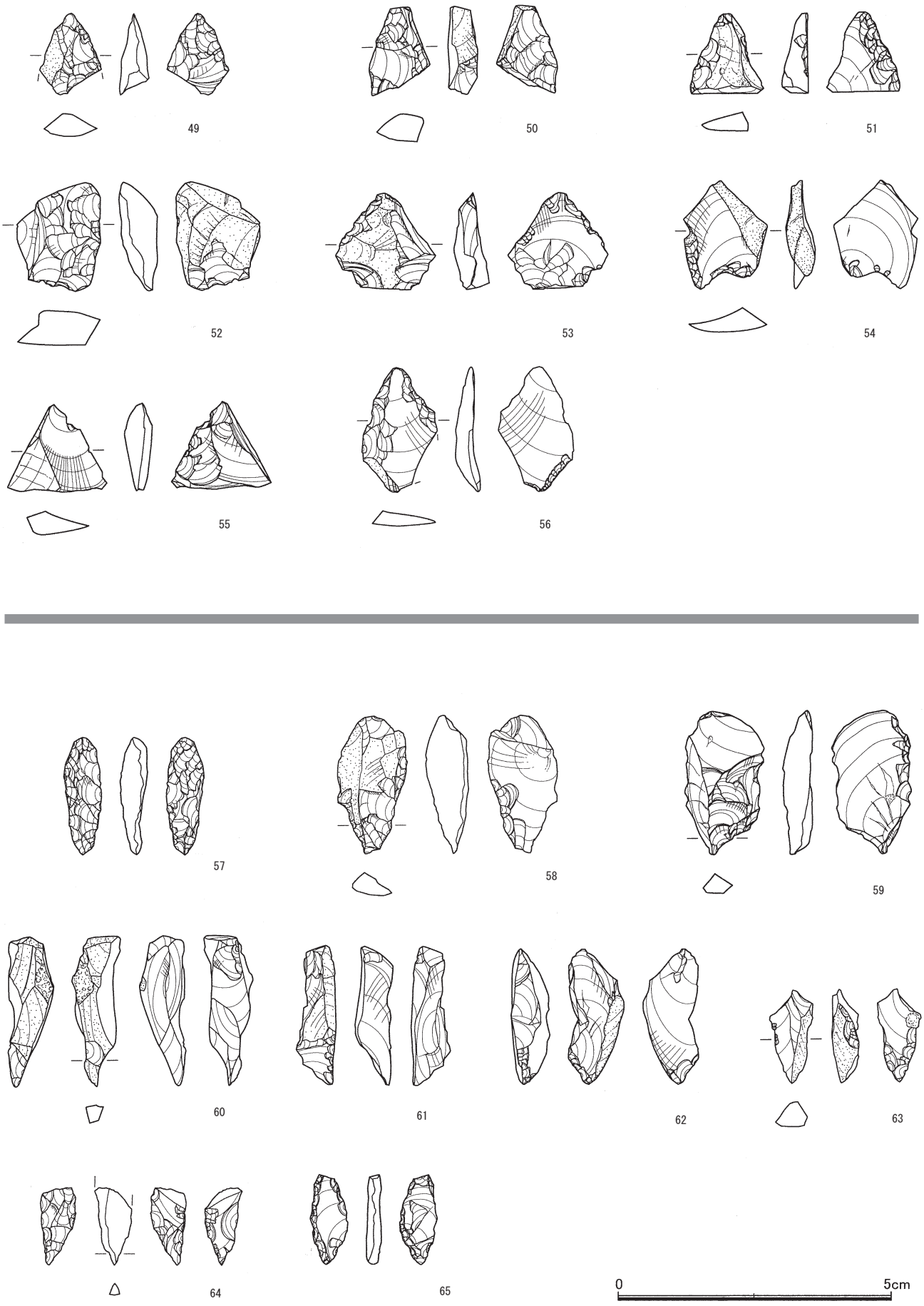


第121図　遺構外出土土器図26（縄文時代早期）

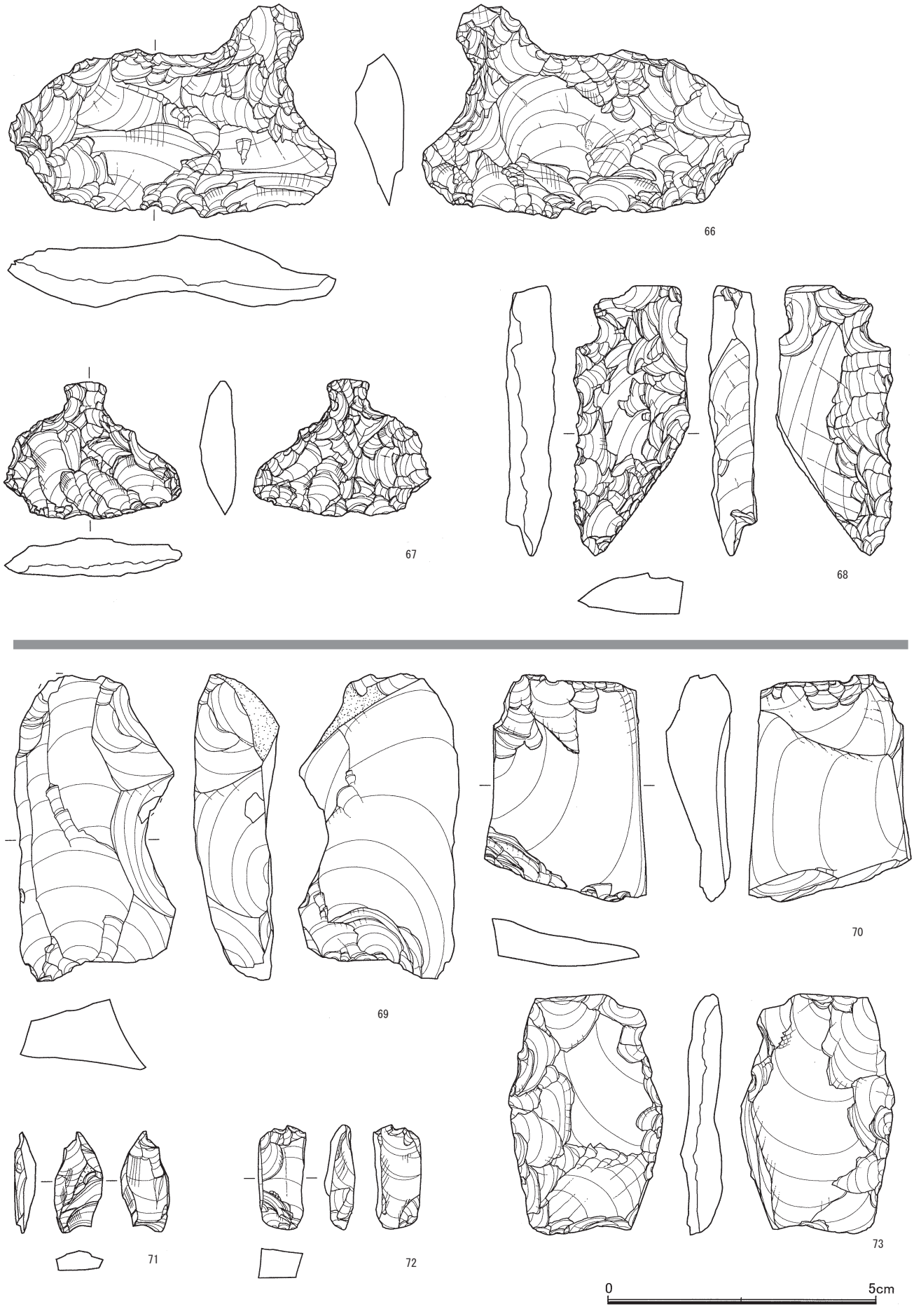


第122図　遺構外出土石器図１（縄文時代早期）

第123図　遺構外出土石器図２（縄文時代早期）

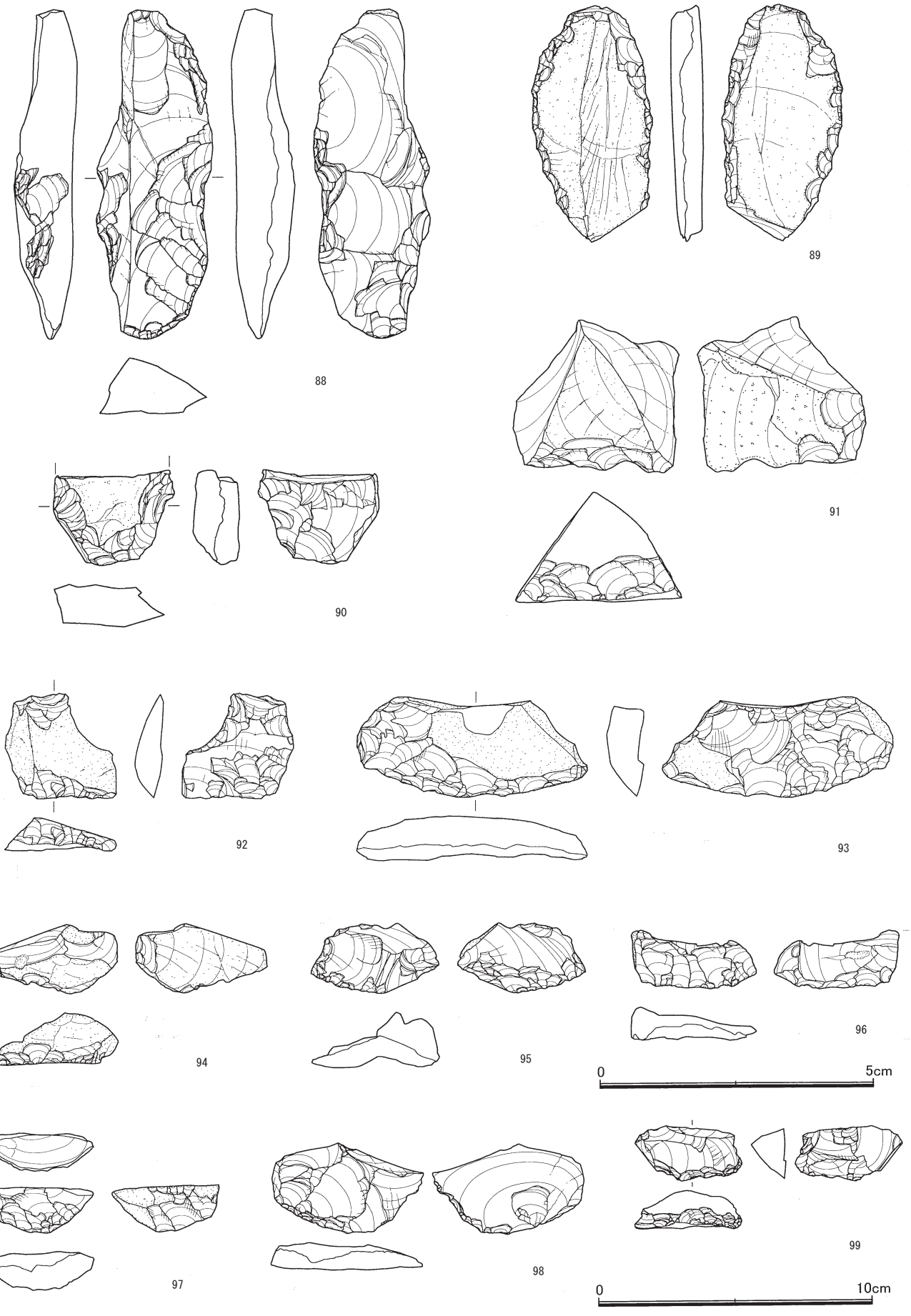


第124図　遺構外出土石器図３（縄文時代早期）

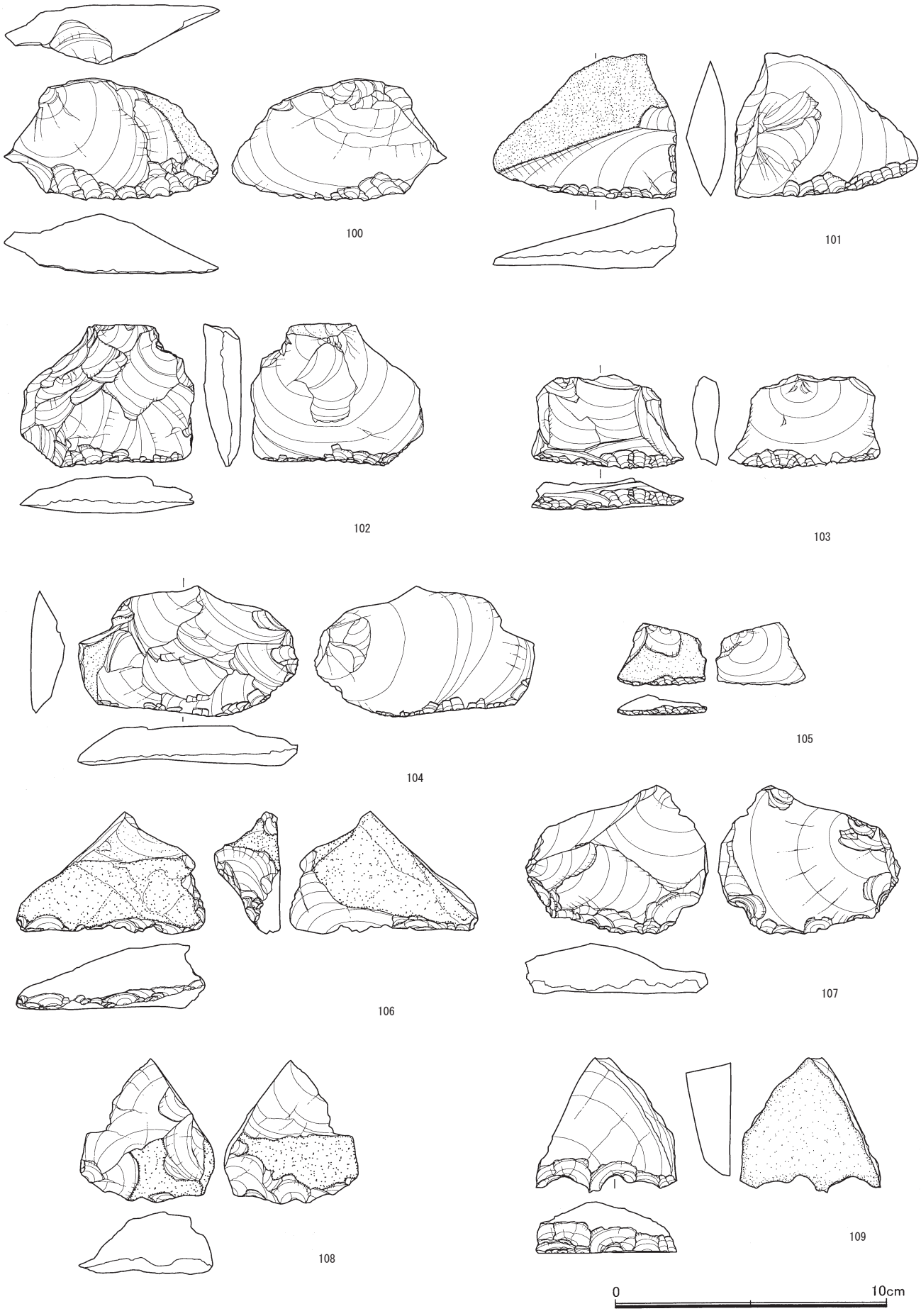


第125図　遺構外出土石器図４（縄文時代早期）

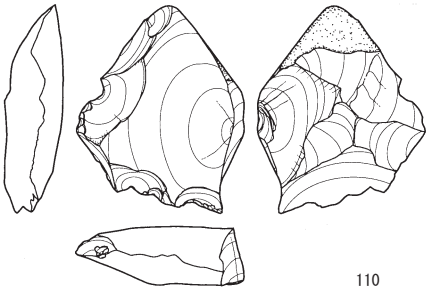
第126図　遺構外出土石器図５（縄文時代早期）

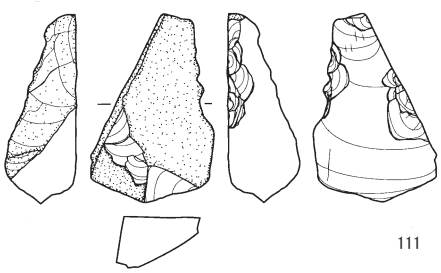


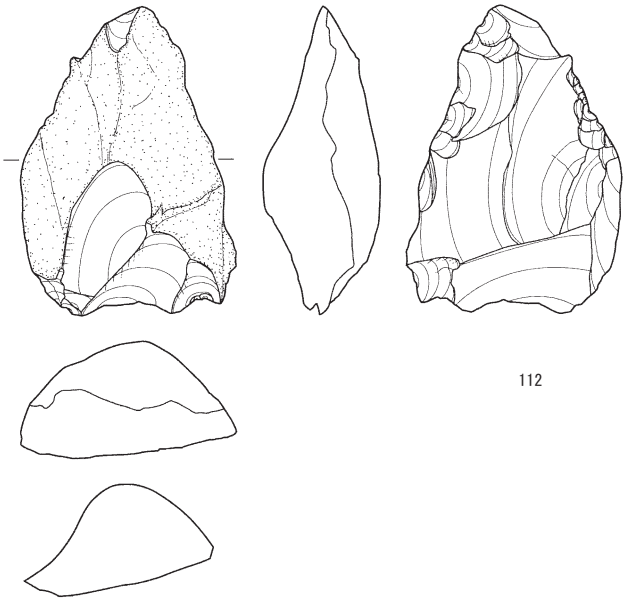
第127図　遺構外出土石器図６（縄文時代早期）

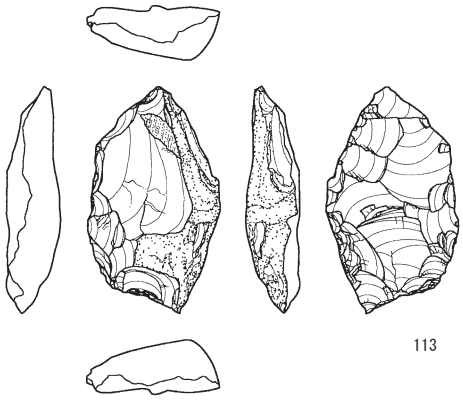


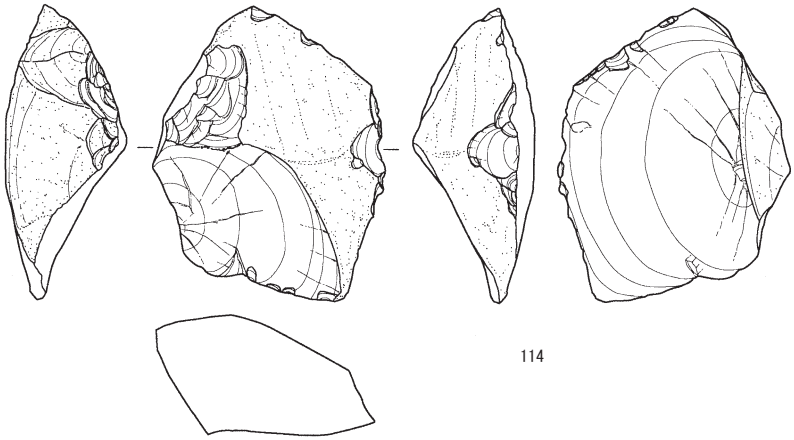
第128図　遺構外出土石器図７（縄文時代早期）

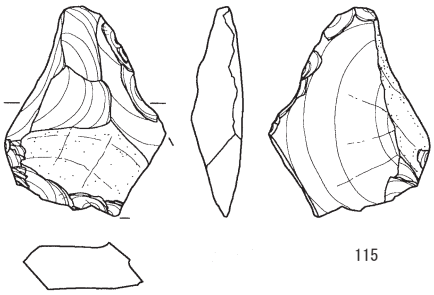


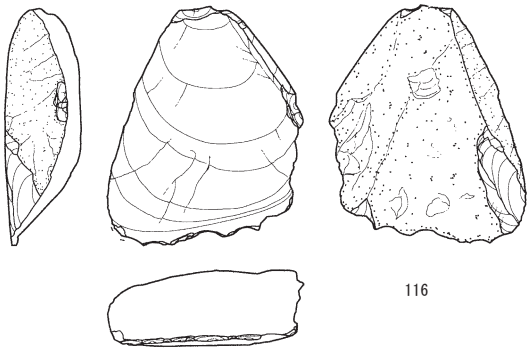


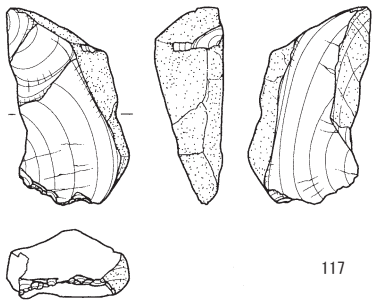




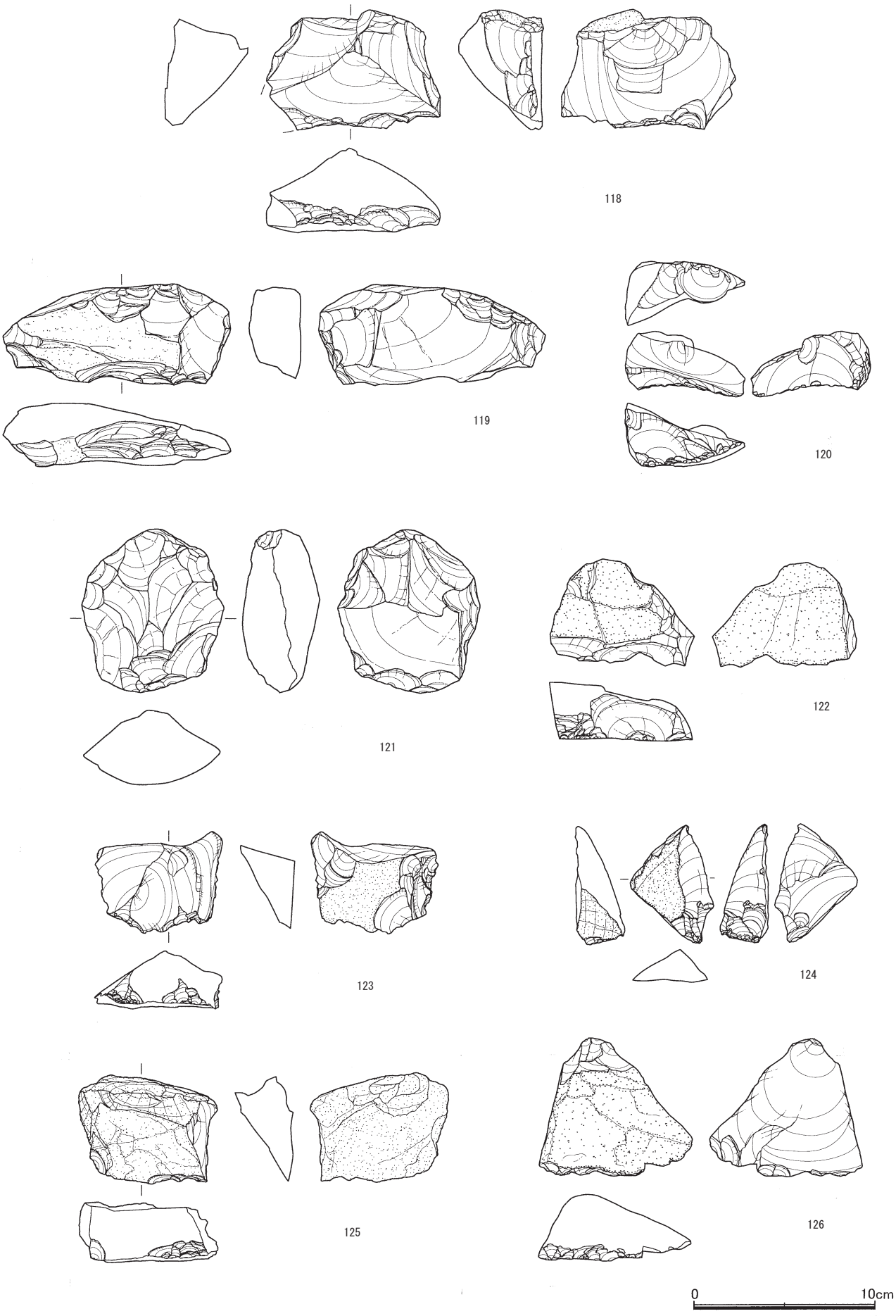




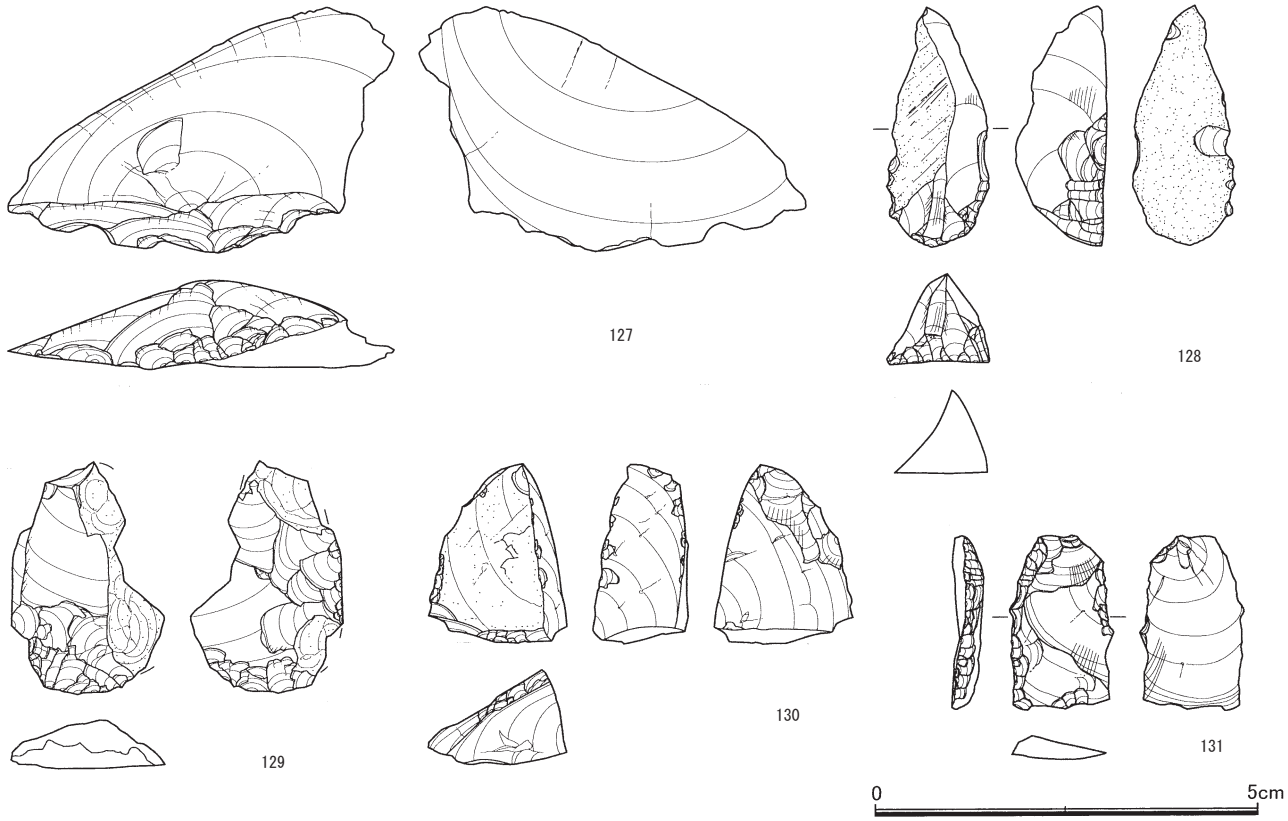


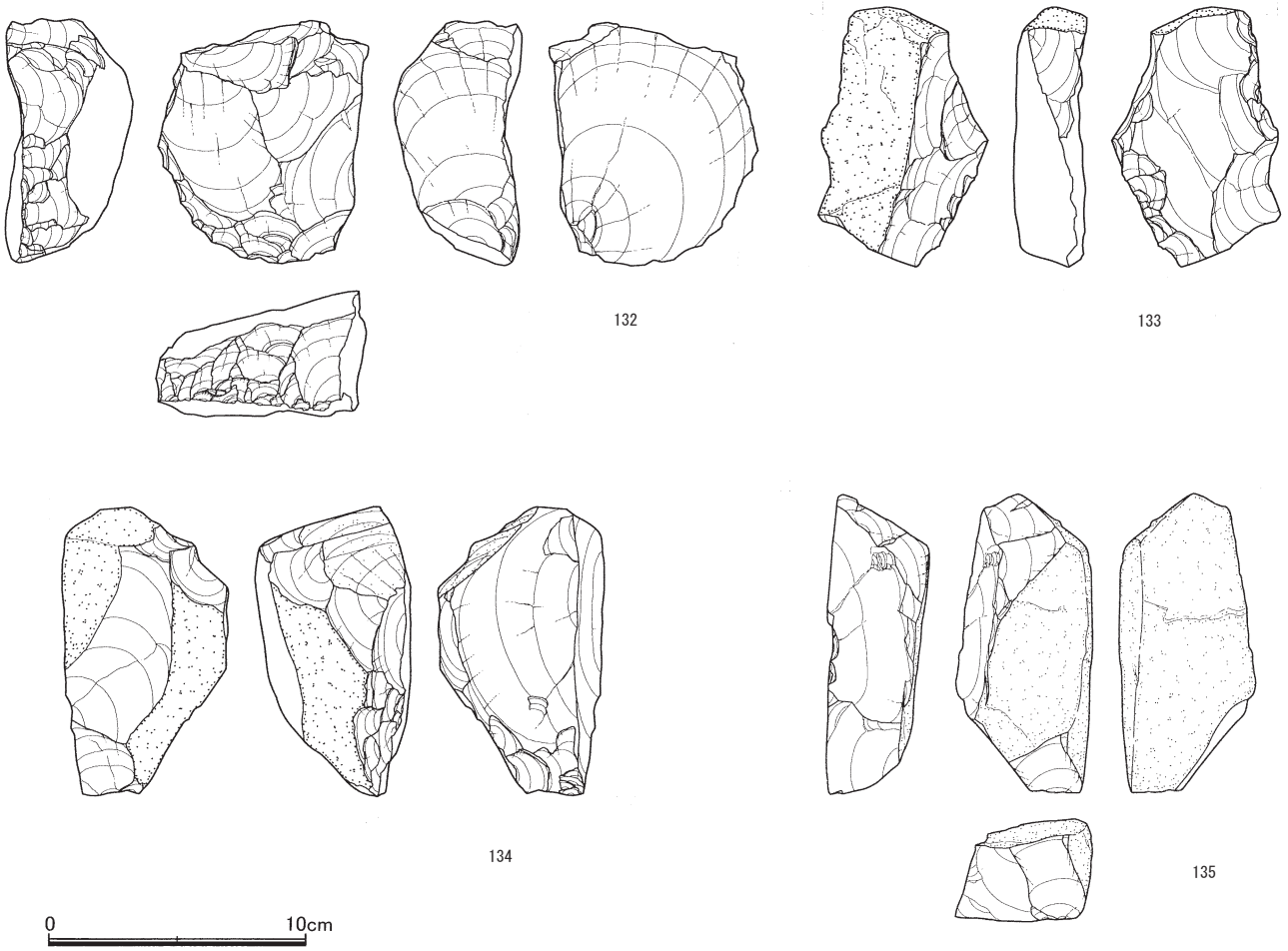


第129図　遺構外出土石器図８（縄文時代早期）

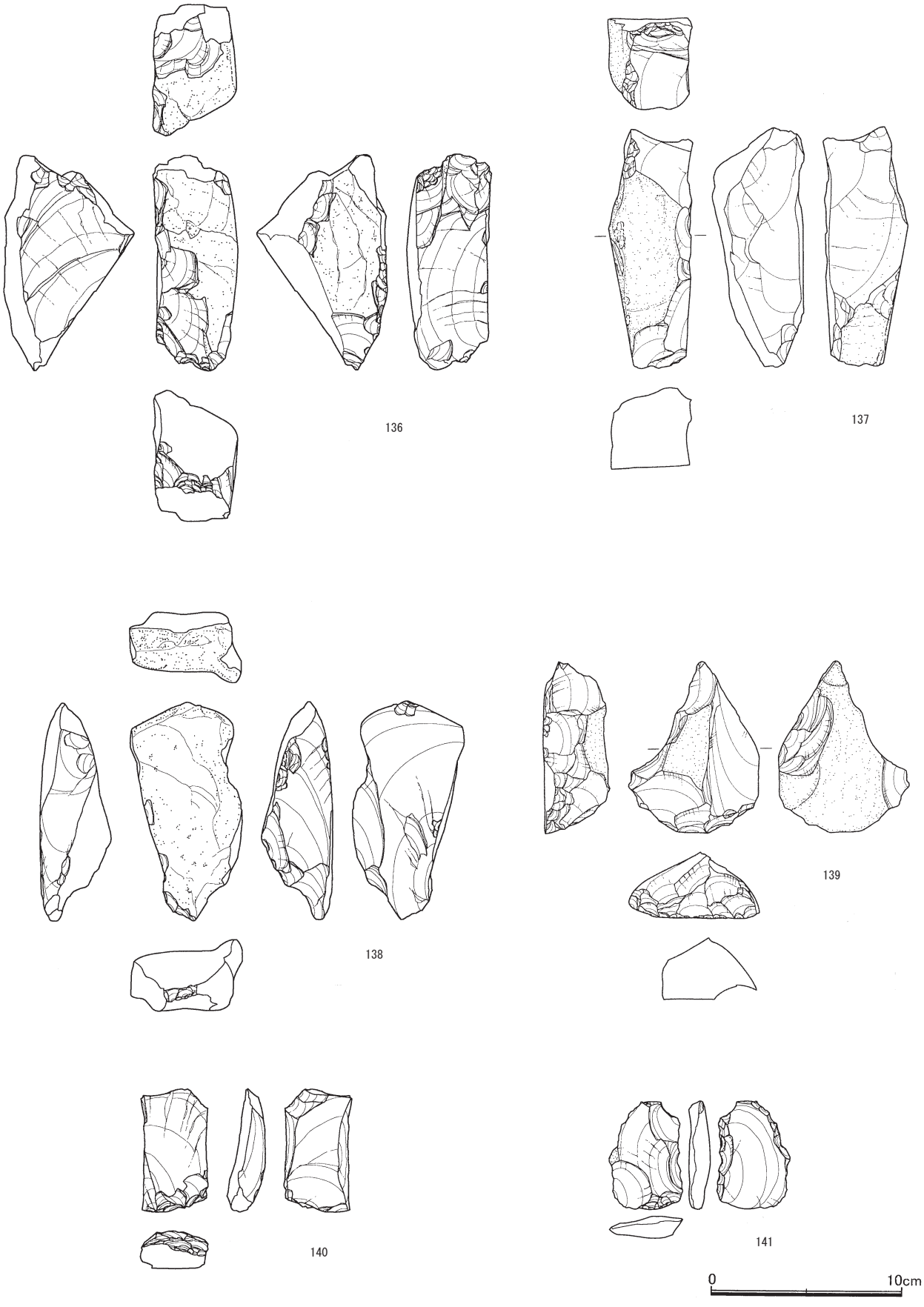


第130図　遺構外出土石器図９（縄文時代早期）

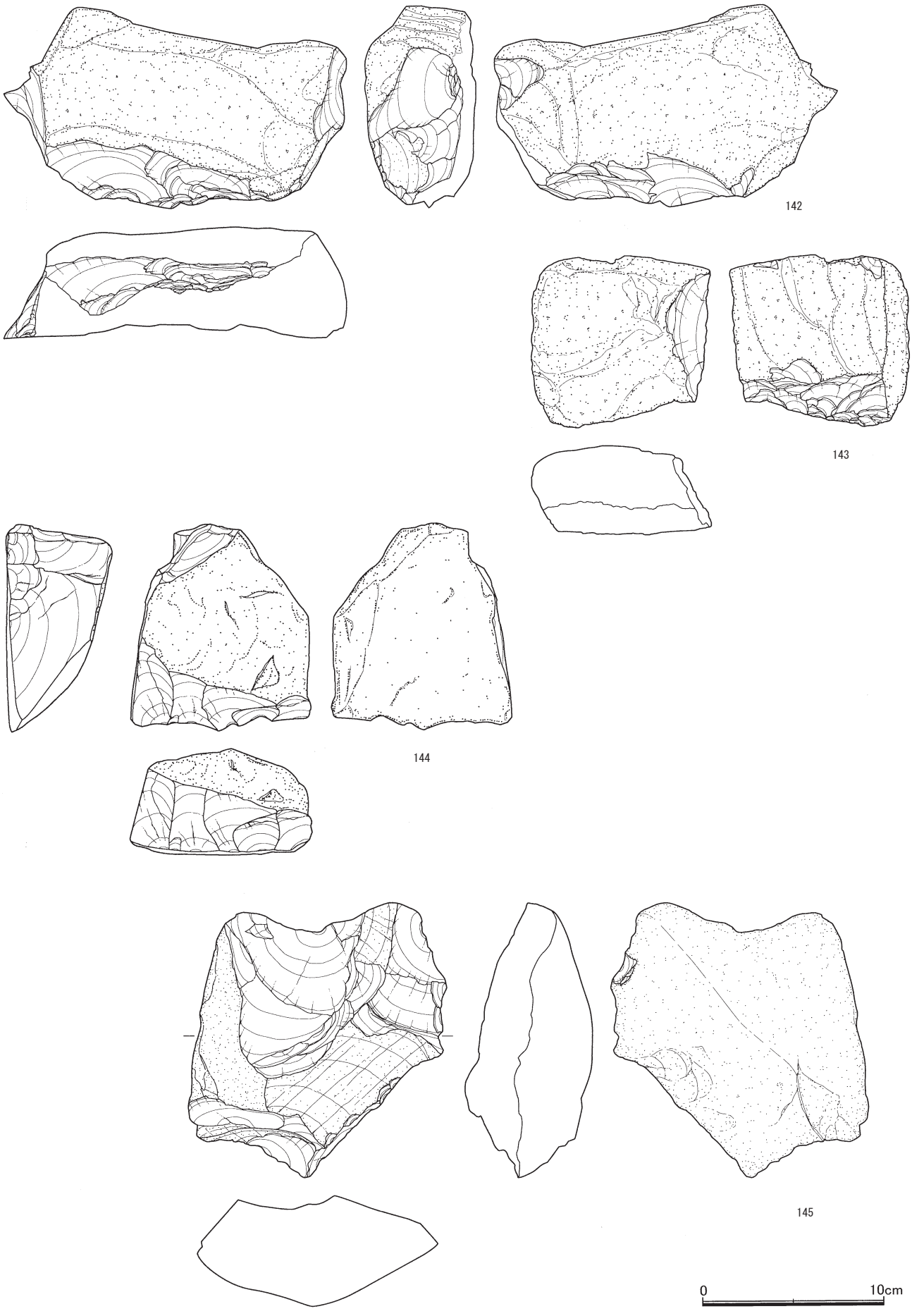




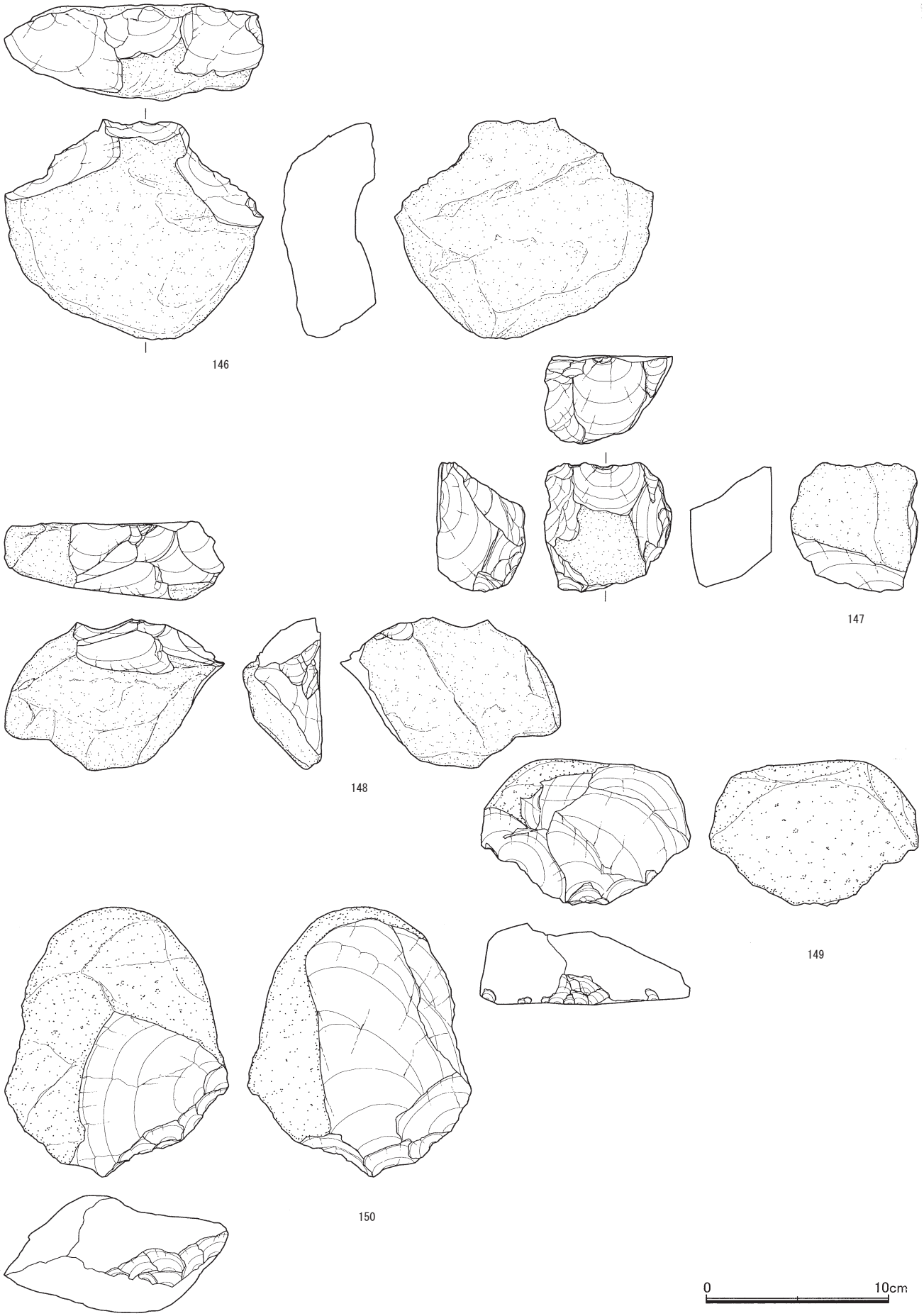
第131図　遺構外出土石器図10（縄文時代早期）



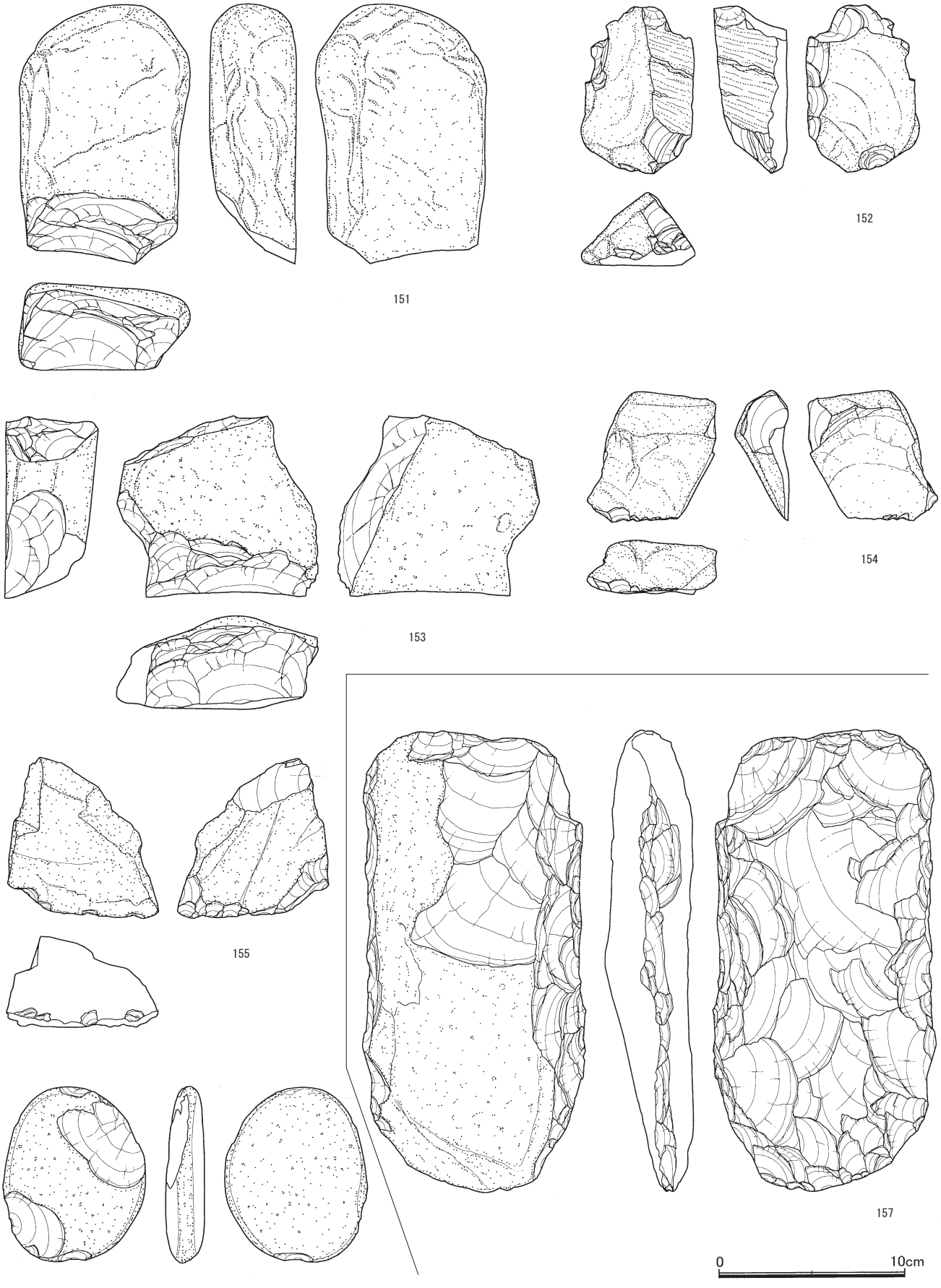
第132図　遺構外出土石器図11（縄文時代早期）



第133図　遺構外出土石器図12（縄文時代早期）

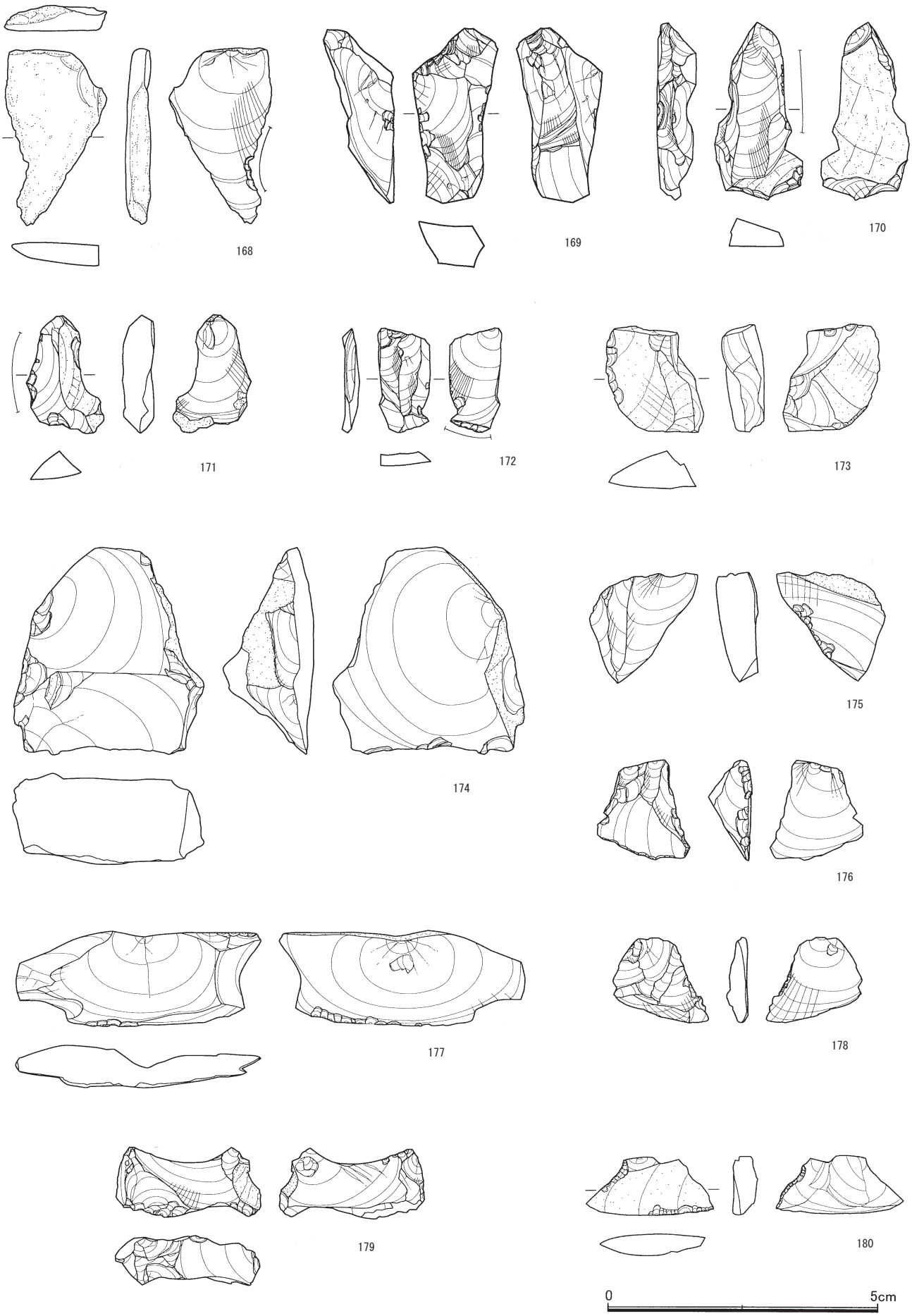


第134図　遺構外出土石器図13（縄文時代早期）

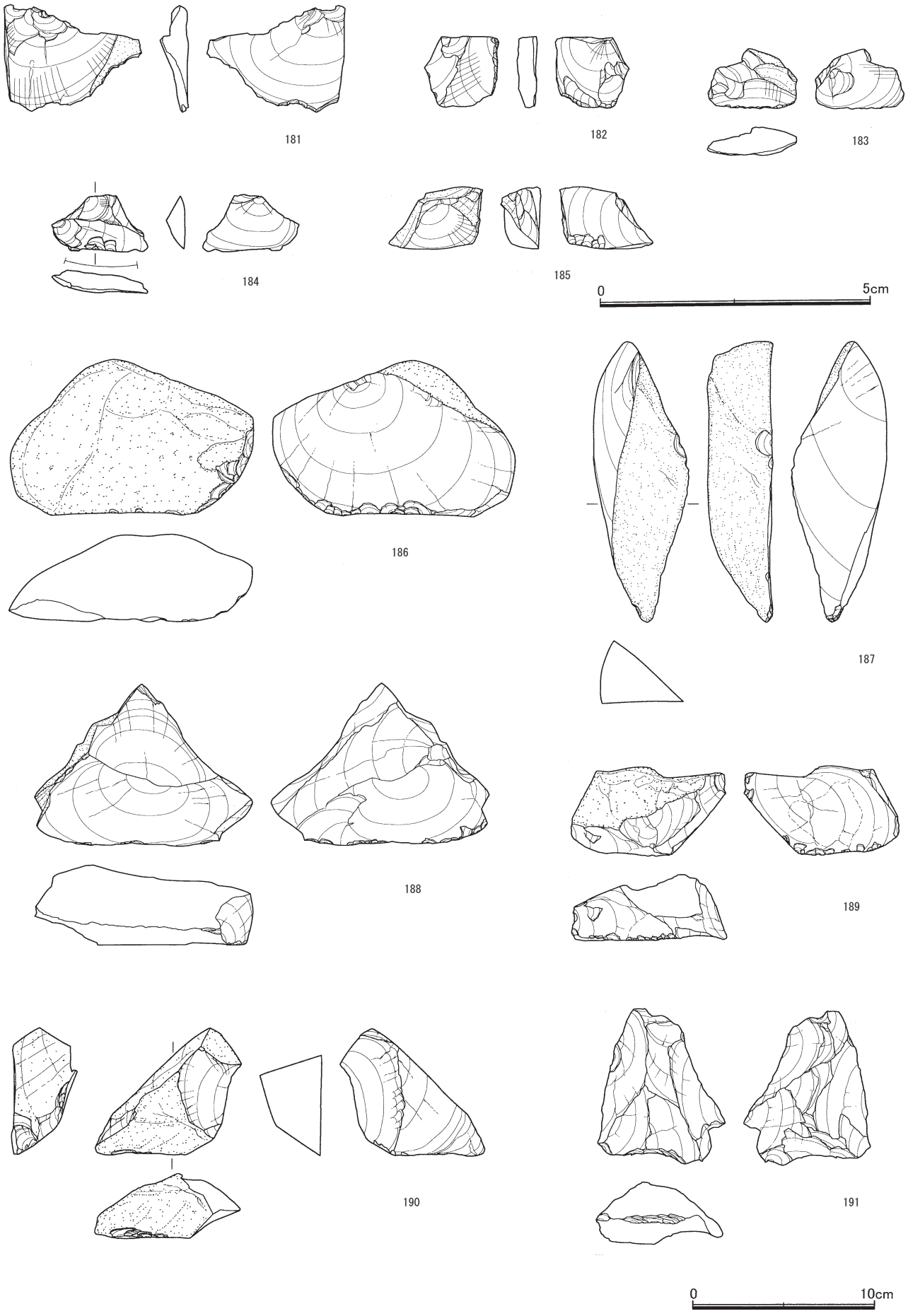


第135図　遺構外出土石器図14（縄文時代早期）

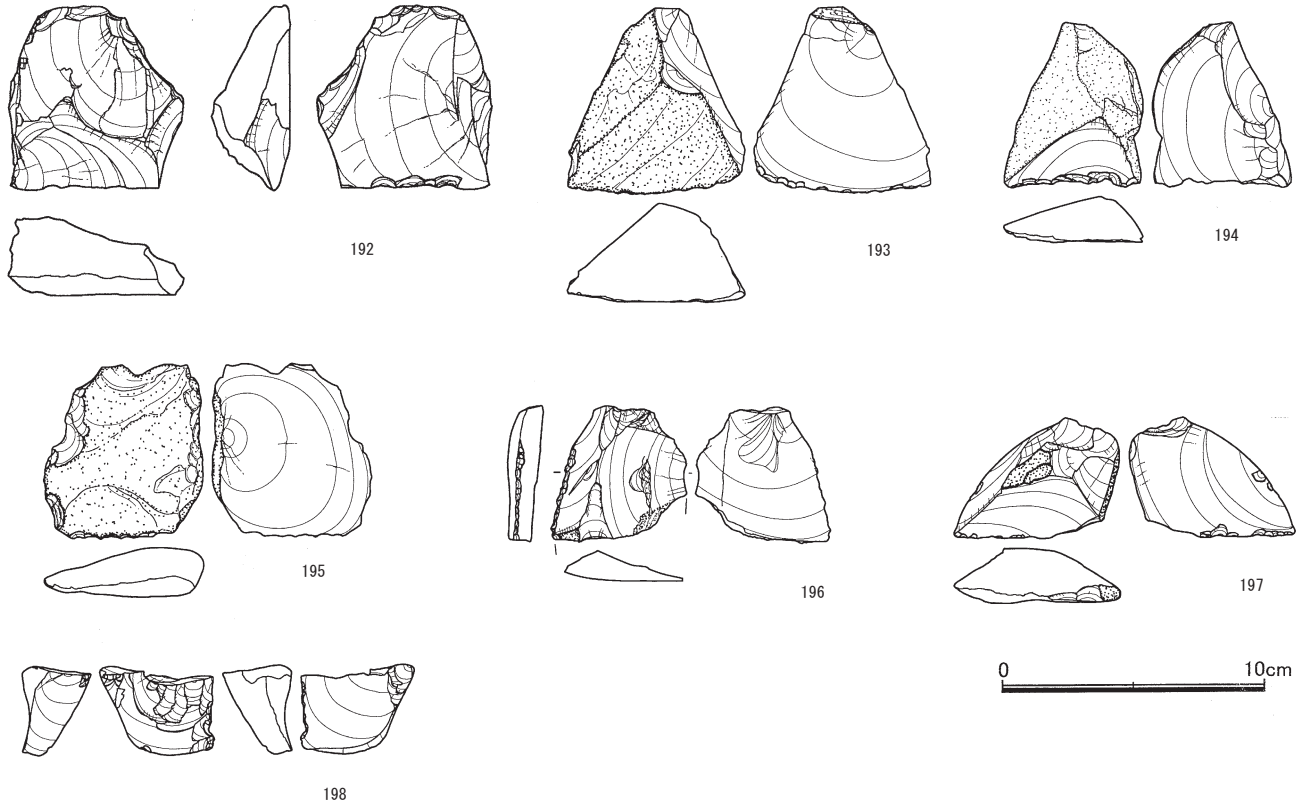
第136図　遺構外出土石器図15（縄文時代早期）

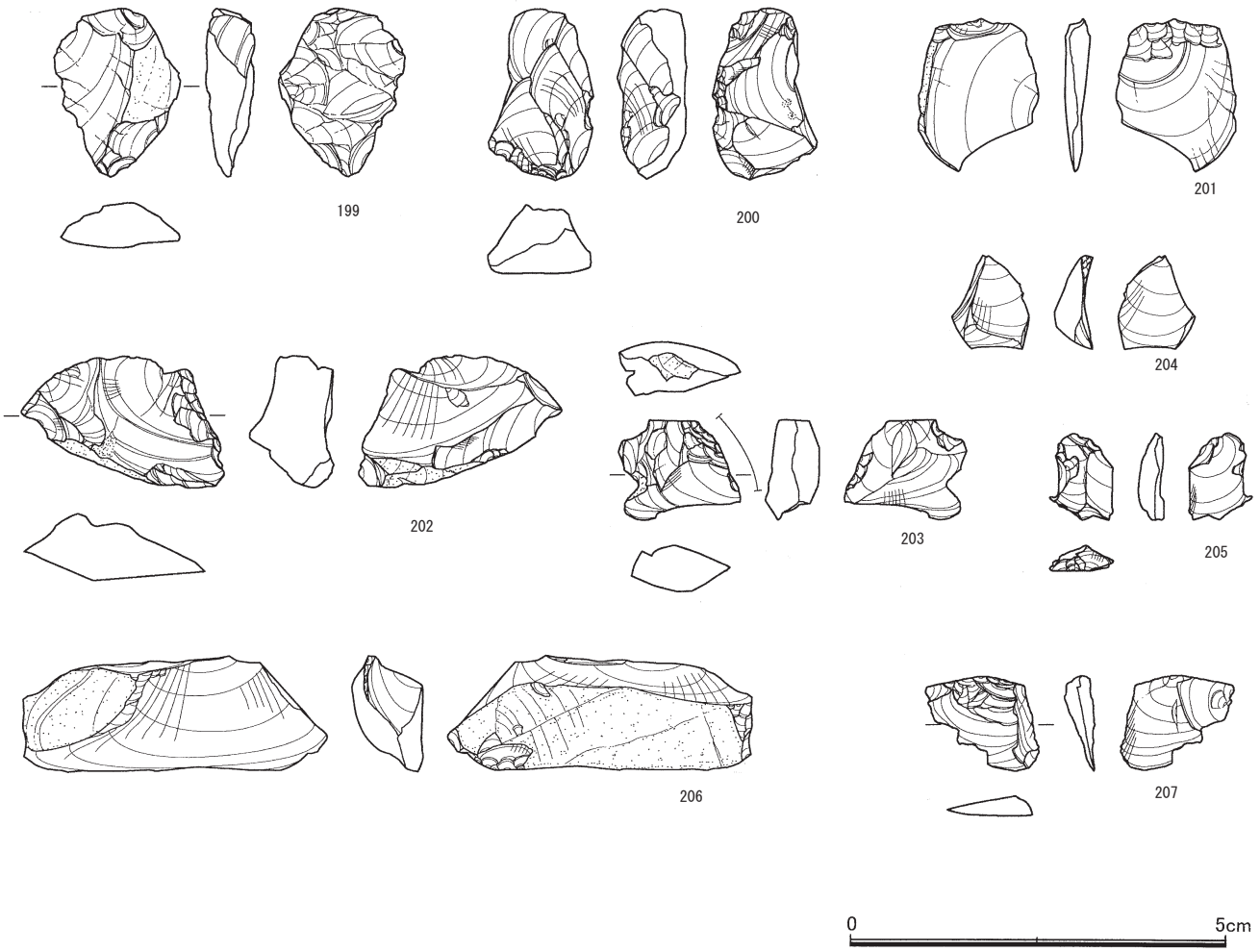


第137図　遺構外出土石器図16（縄文時代早期）

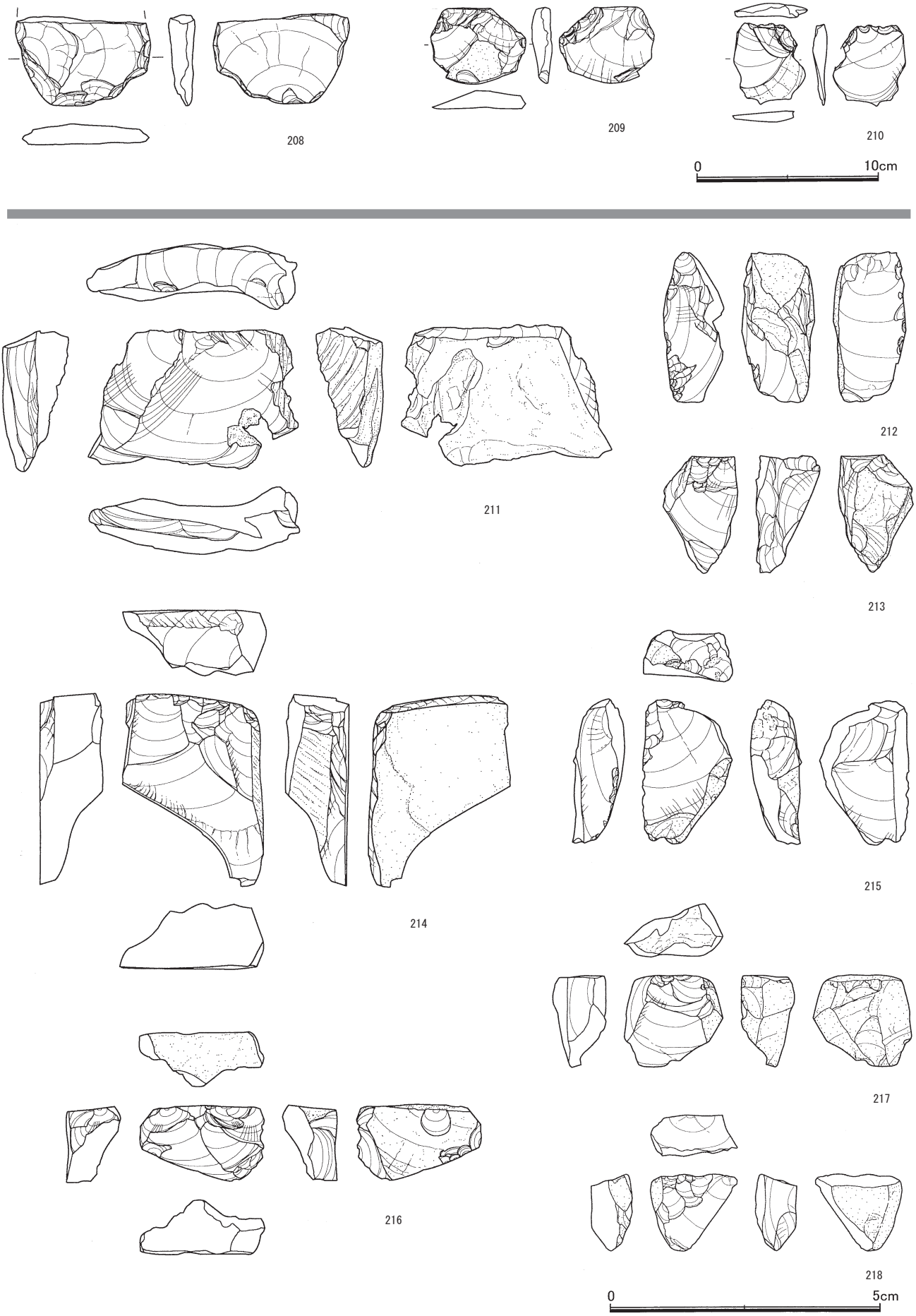


第138図　遺構外出土石器図17（縄文時代早期）

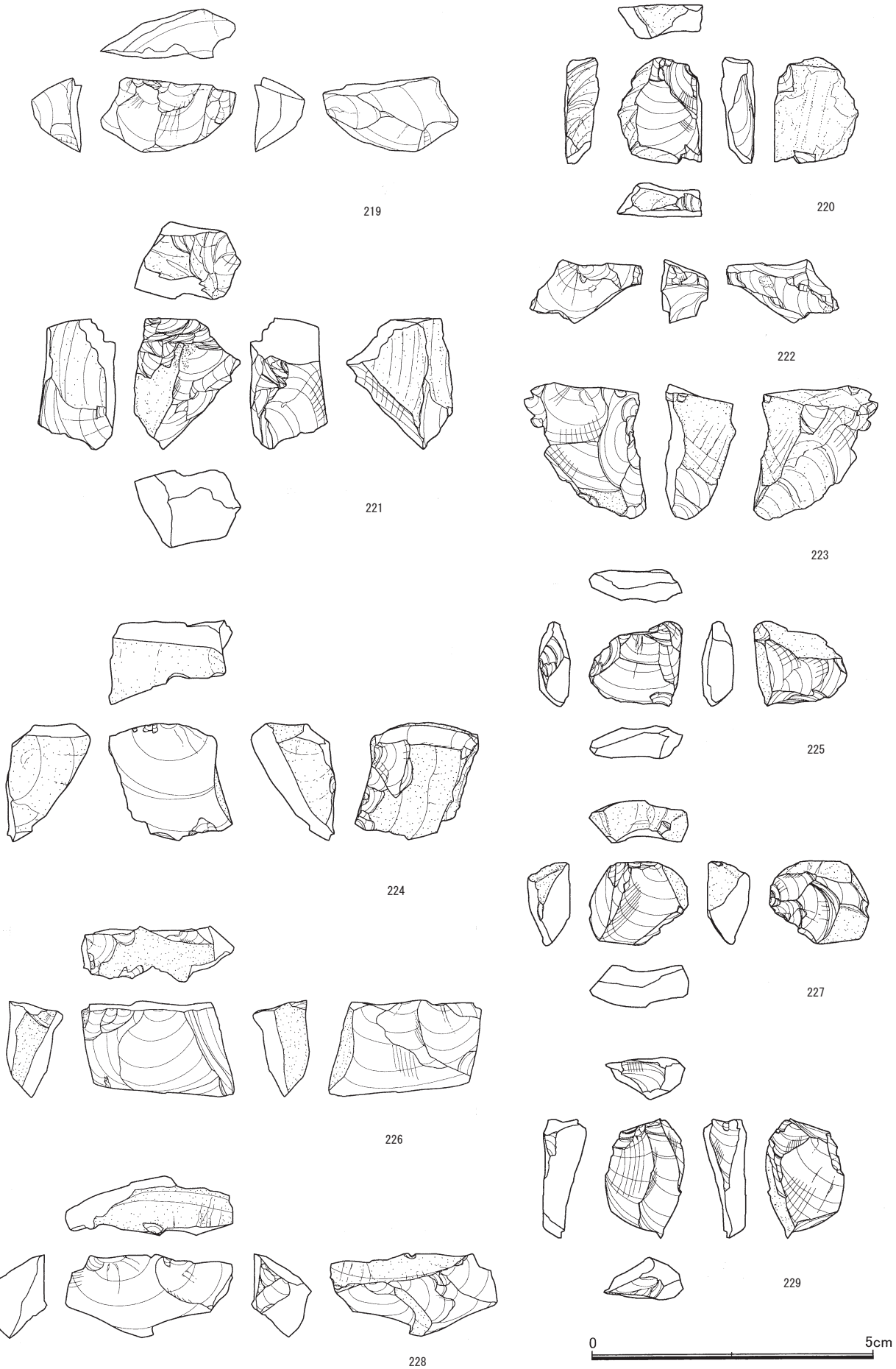




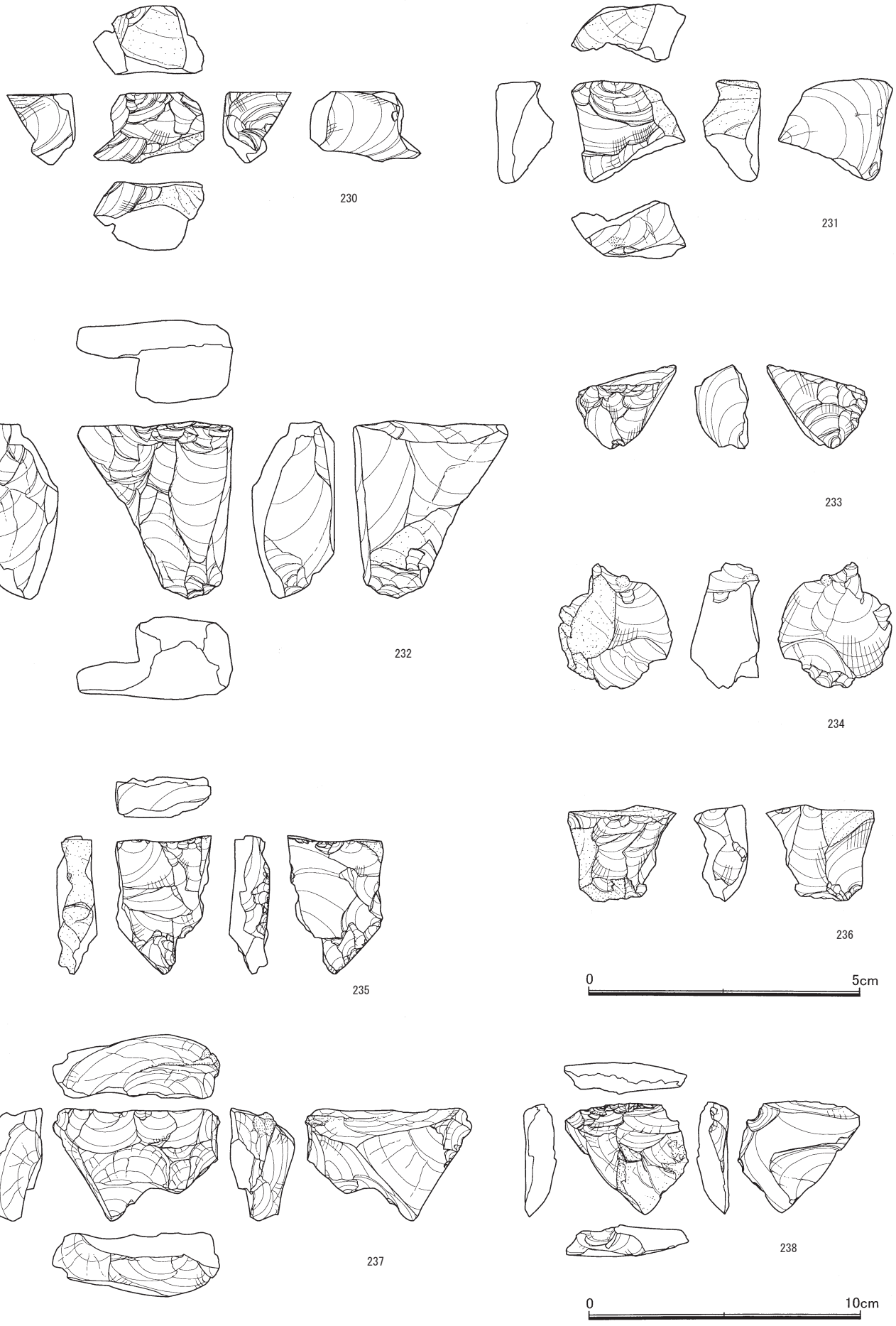
第139図　遺構外出土石器図18（縄文時代早期）



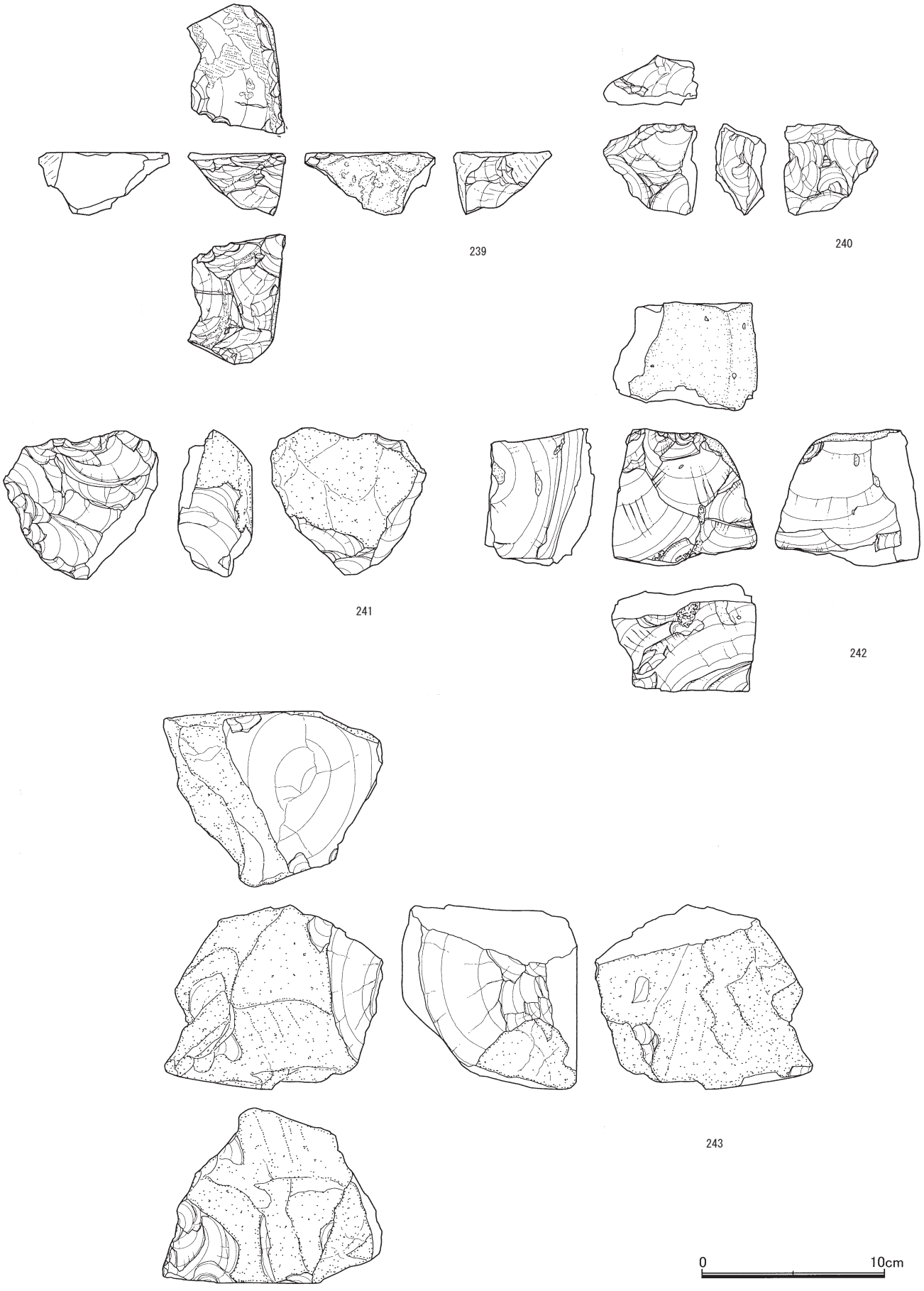
第140図　遺構外出土石器図19（縄文時代早期）



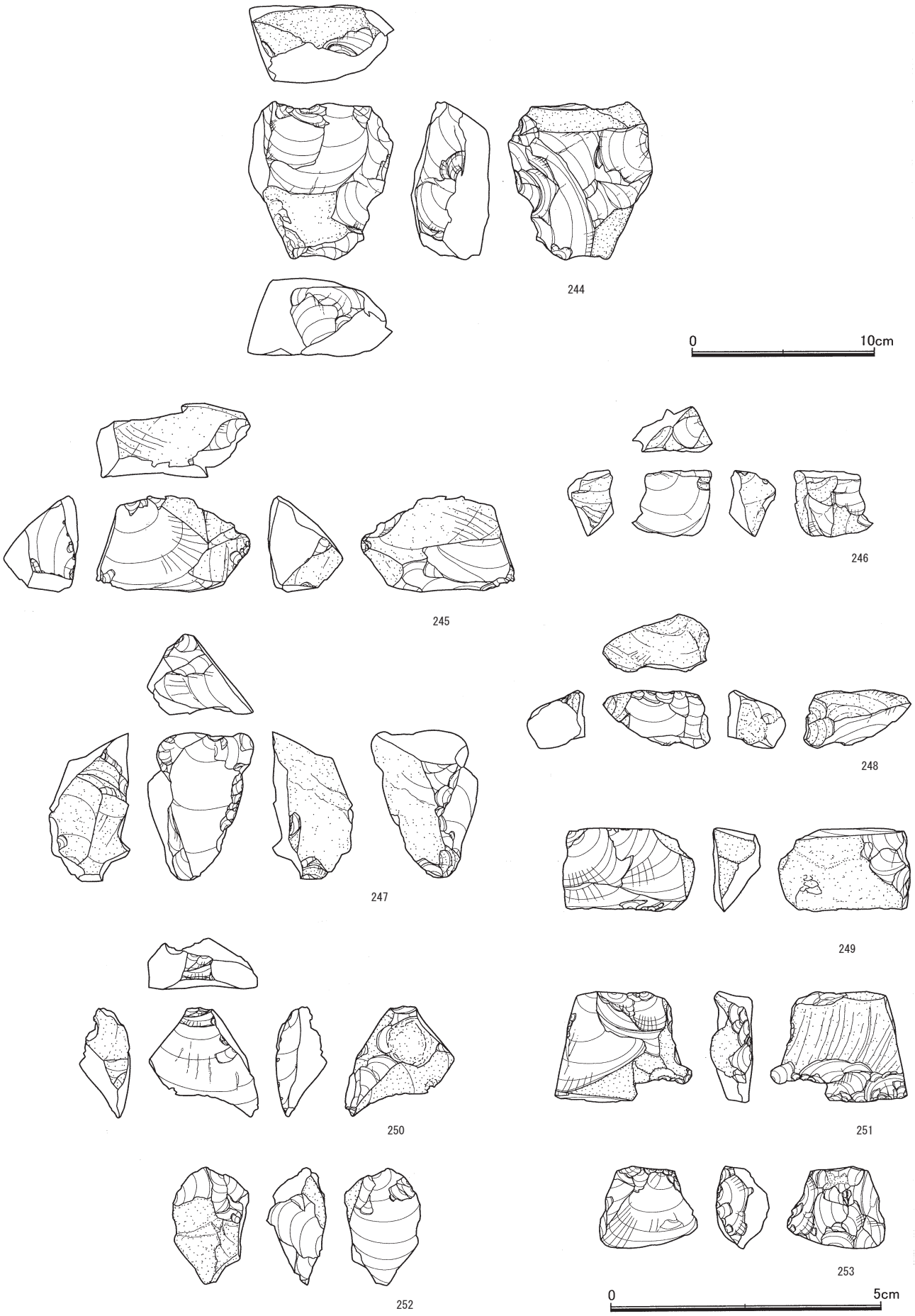
第141図　遺構外出土石器図20（縄文時代早期）



第142図　遺構外出土石器図21（縄文時代早期）

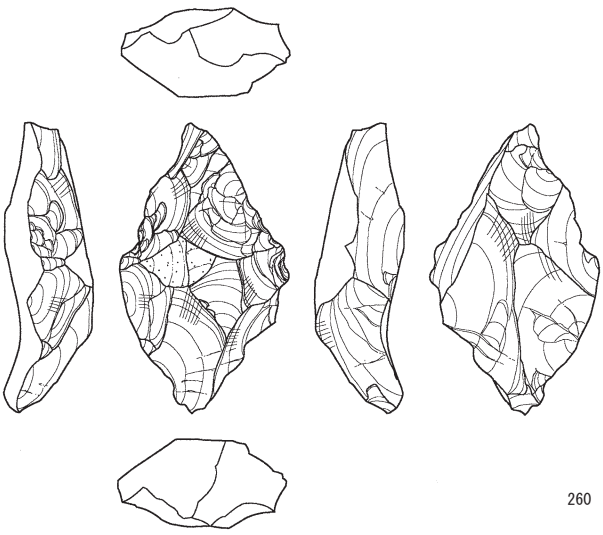


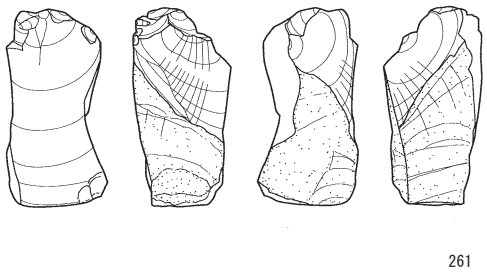
第143図　遺構外出土石器図22（縄文時代早期）

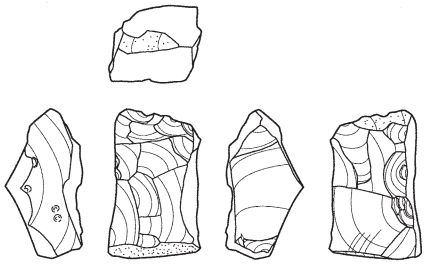


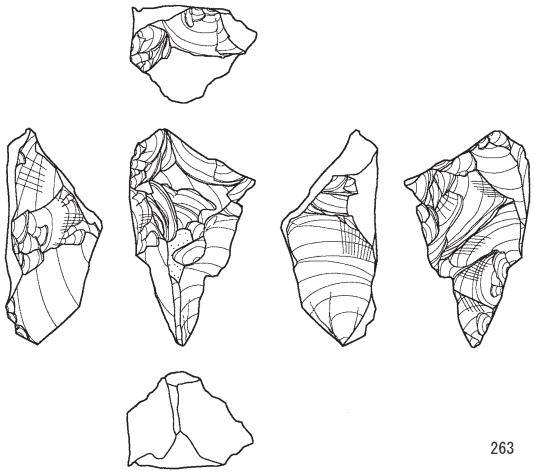
第144図　遺構外出土石器図23（縄文時代早期）

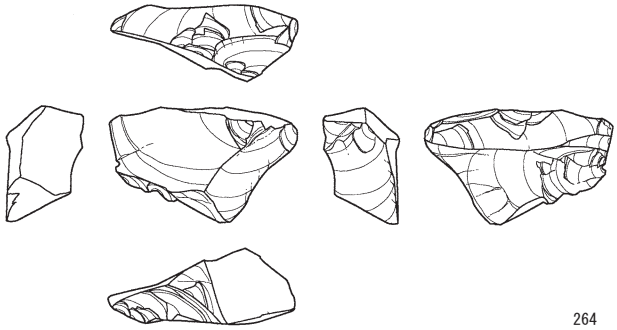
第145図　遺構外出土石器図24（縄文時代早期）

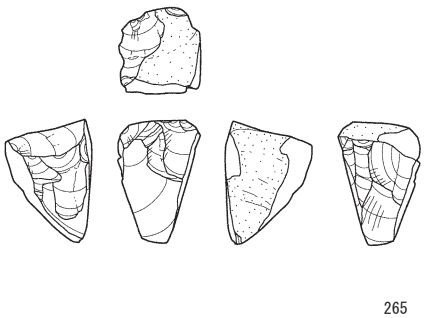


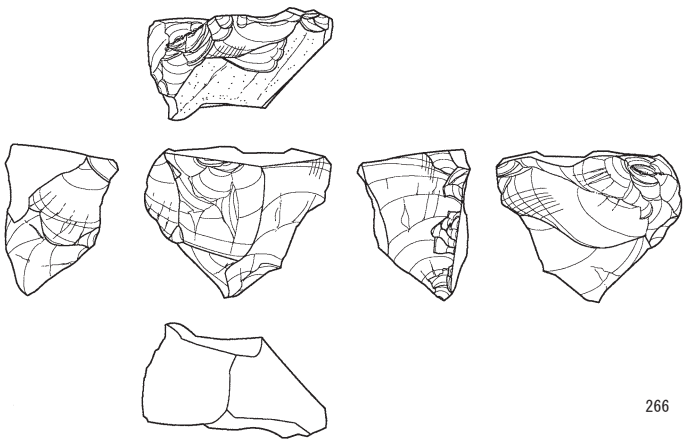


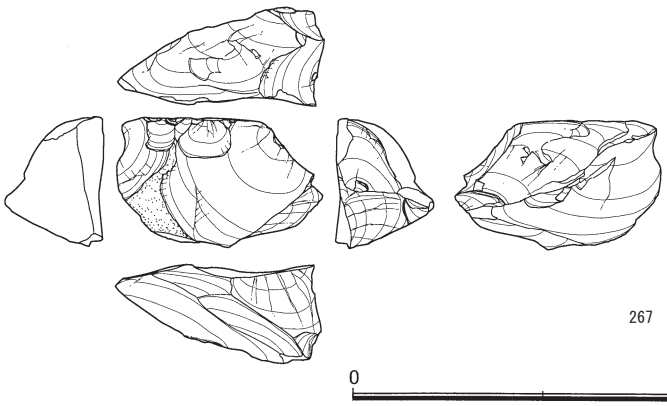




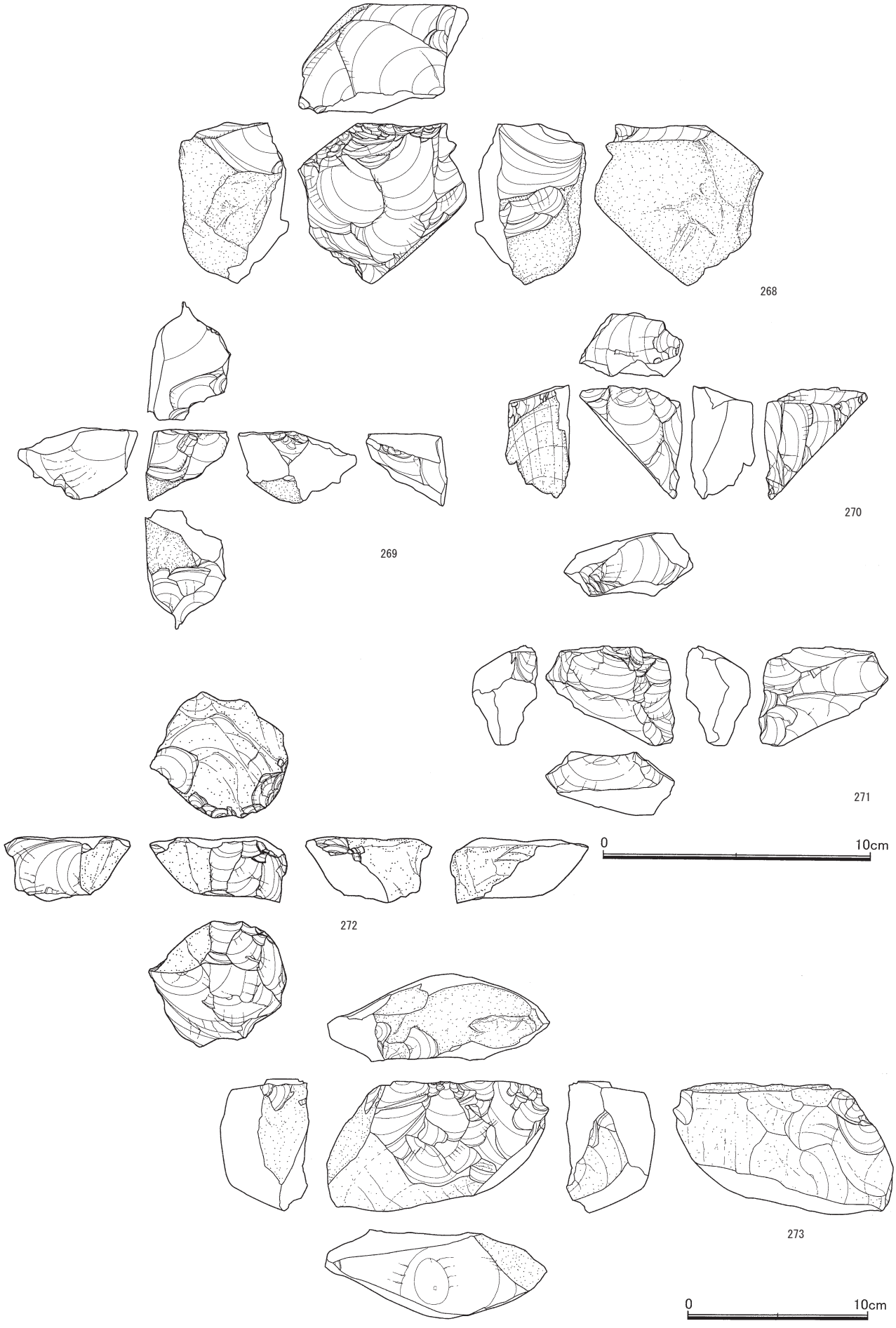




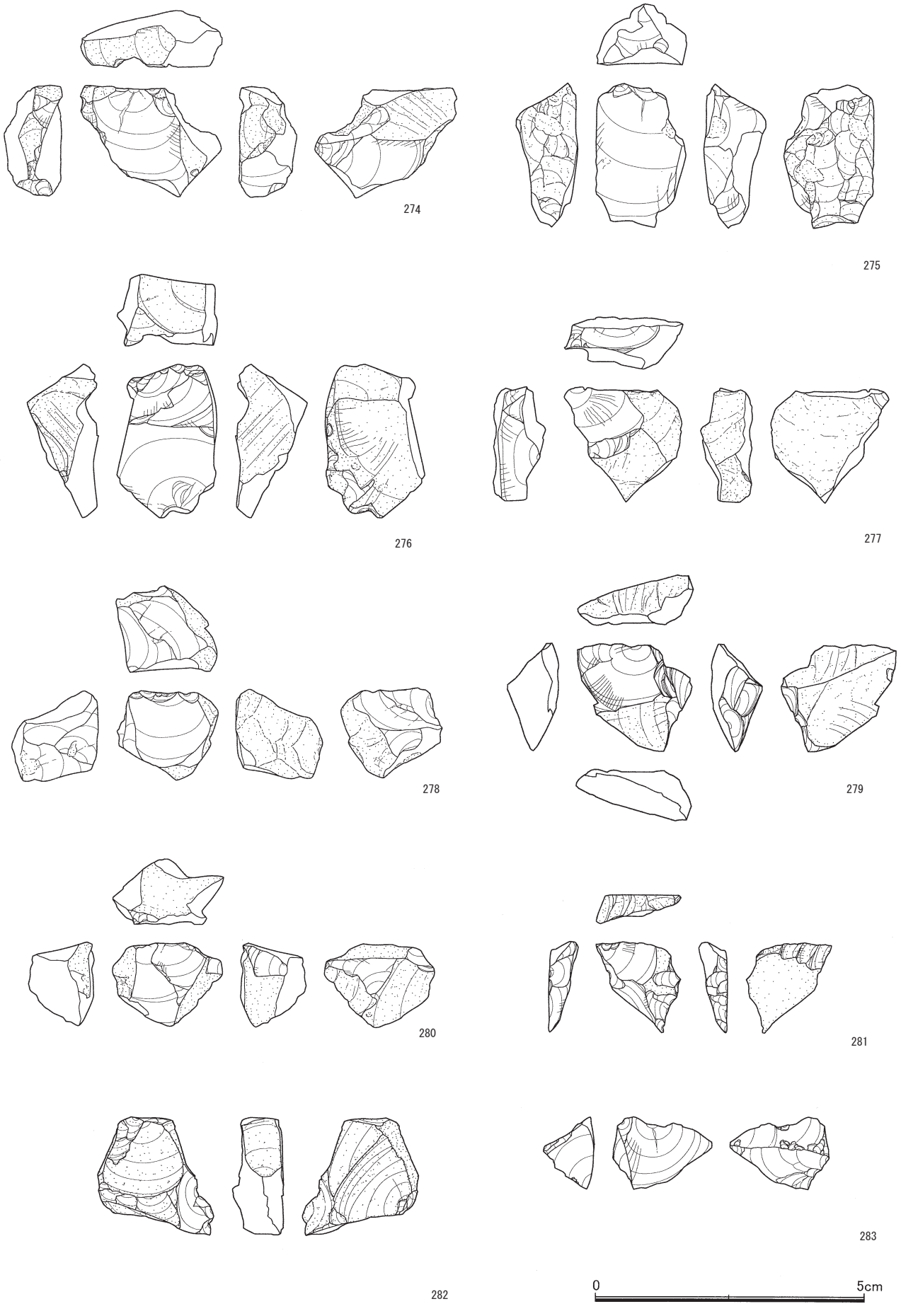




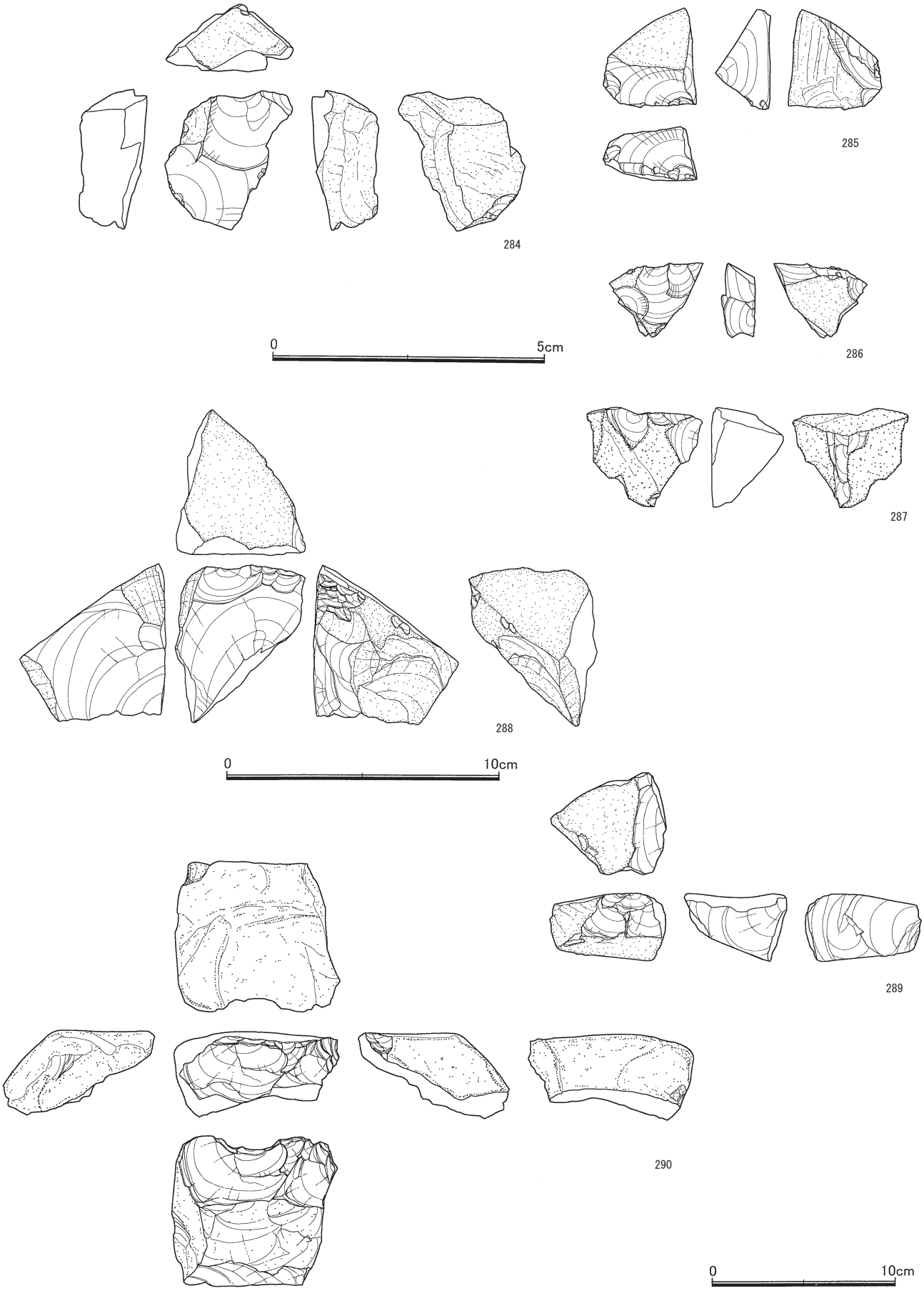
第146図　遺構外出土石器図25（縄文時代早期）



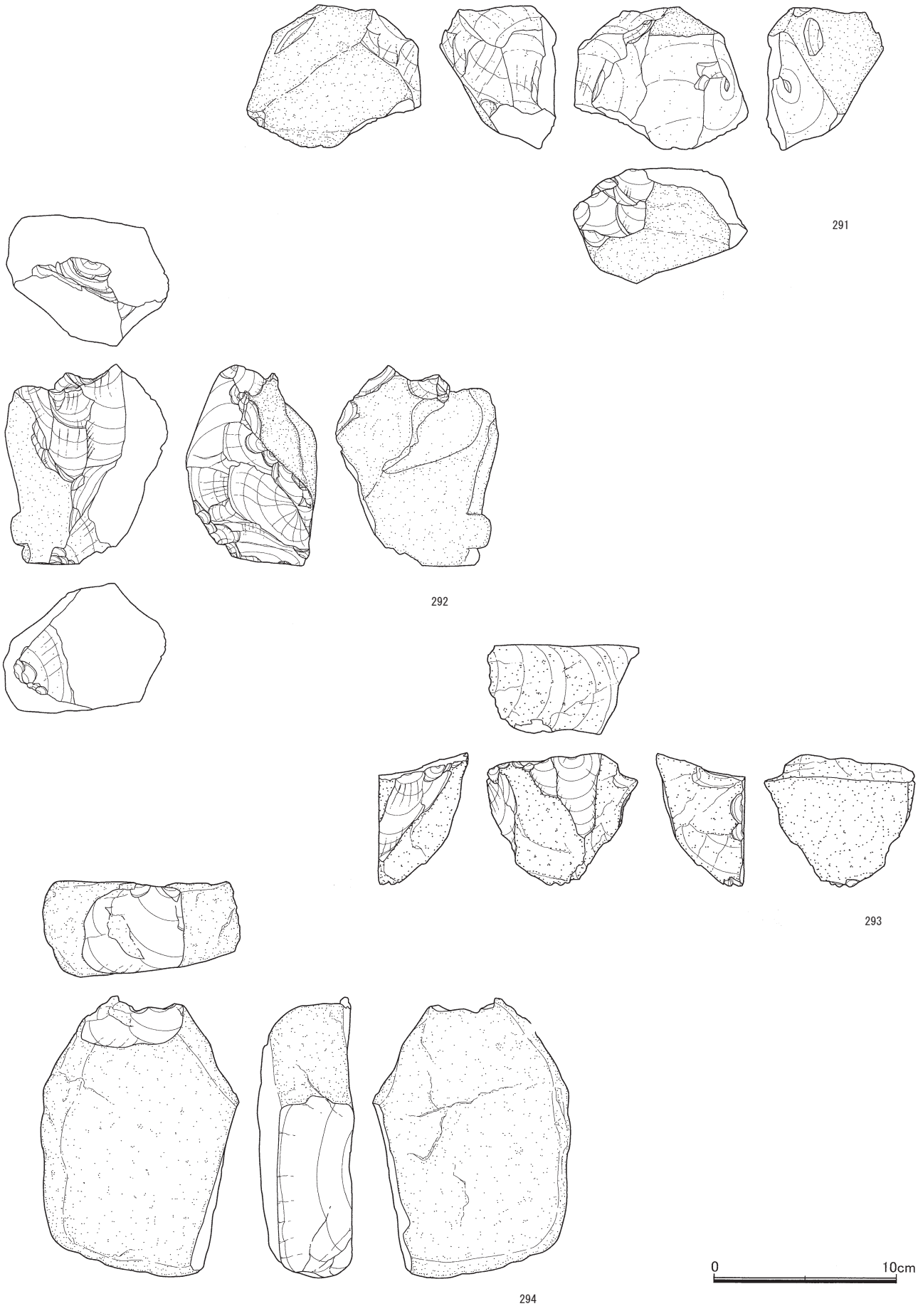
第147図　遺構外出土石器図26（縄文時代早期）



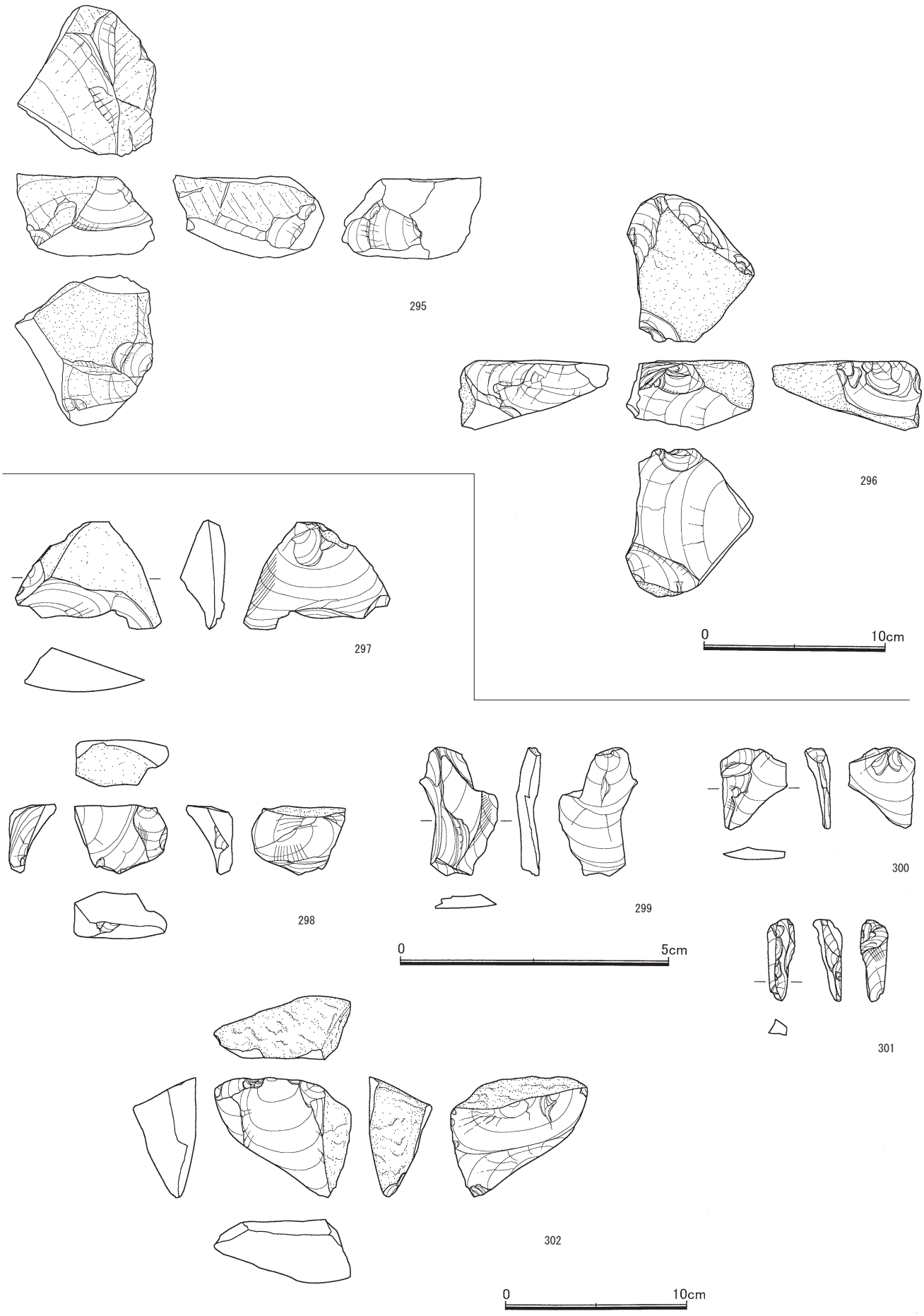
第148図　遺構外出土石器図27（縄文時代早期）



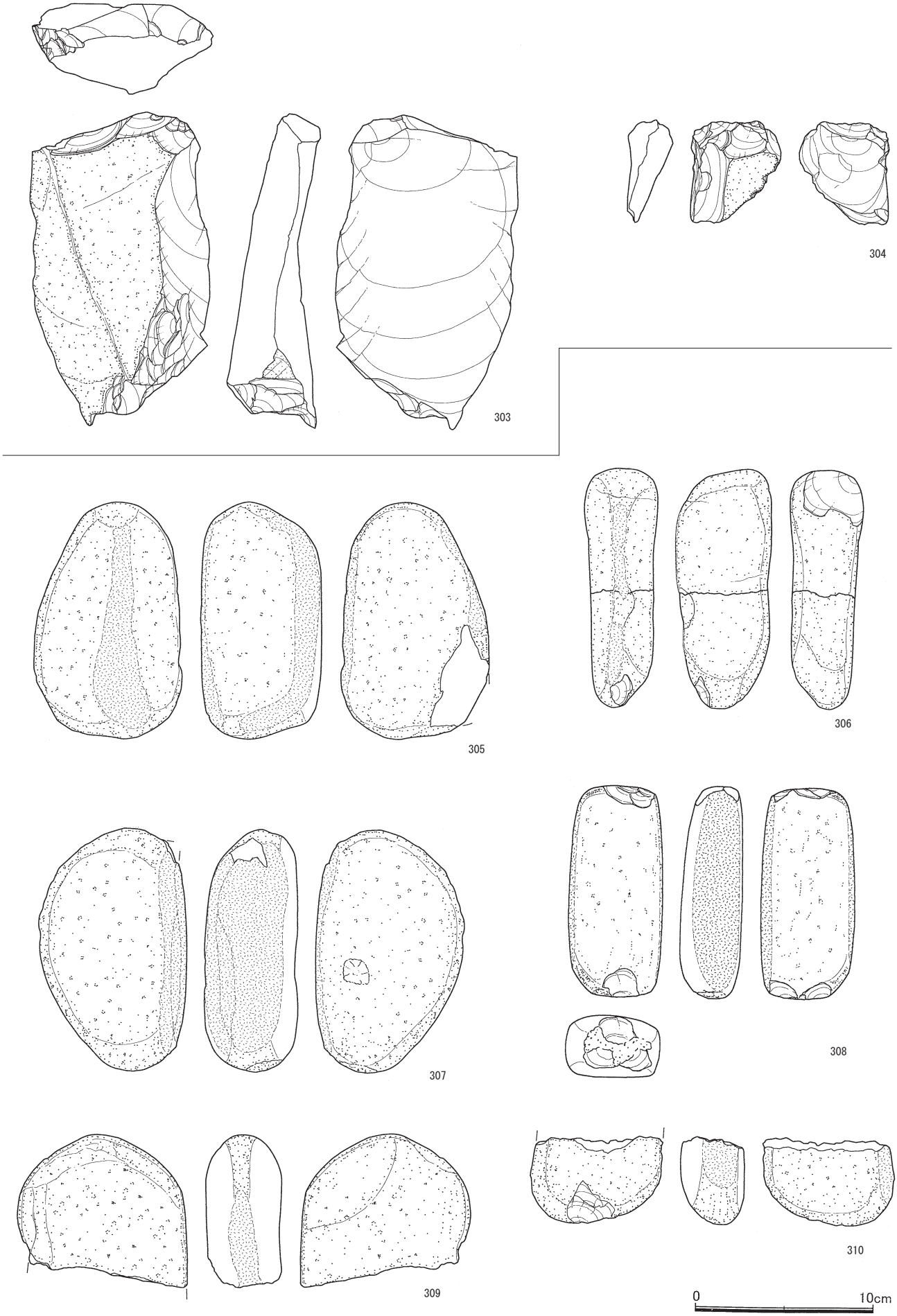
第149図　遺構外出土石器図28（縄文時代早期）



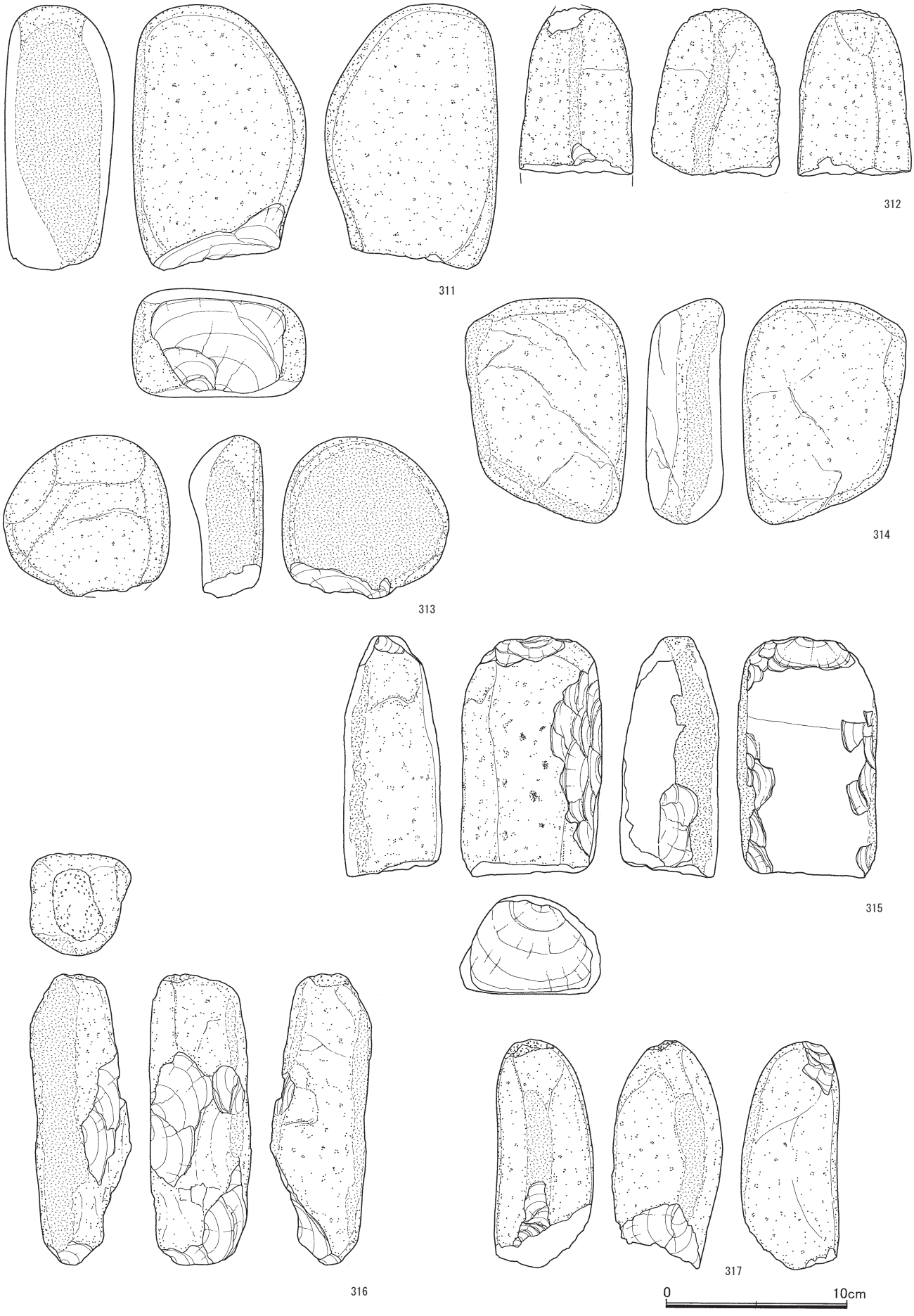
第150図　遺構外出土石器図29（縄文時代早期）



第151図　遺構外出土石器図30（縄文時代早期）

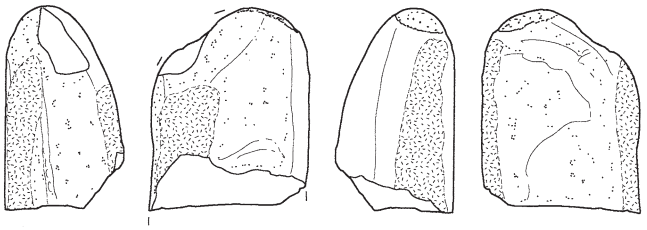


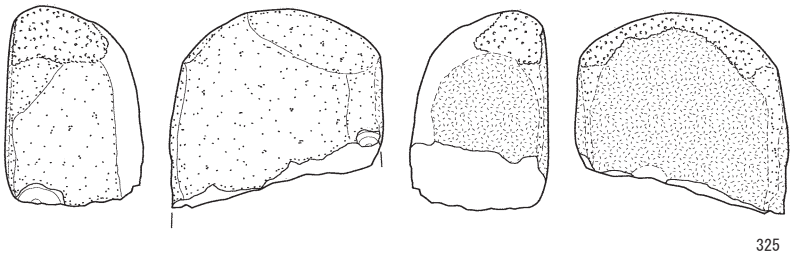
第152図　遺構外出土石器図31（縄文時代早期）

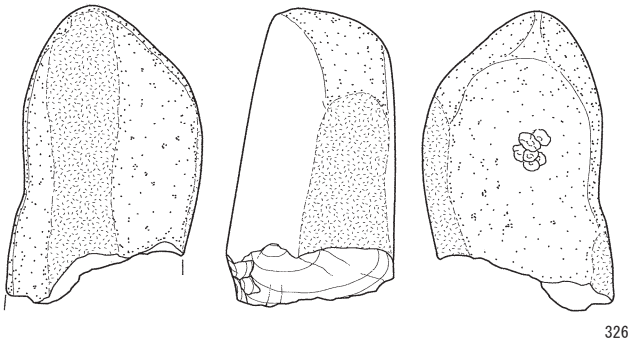


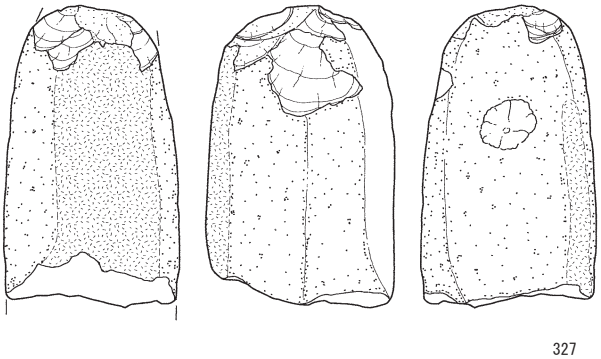
第153図　遺構外出土石器図32（縄文時代早期）

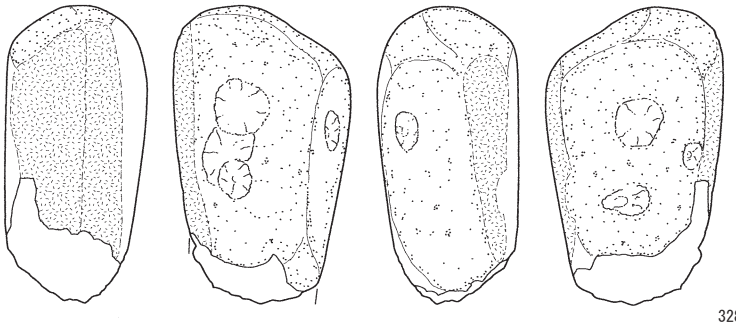
第154図　遺構外出土石器図33（縄文時代早期）



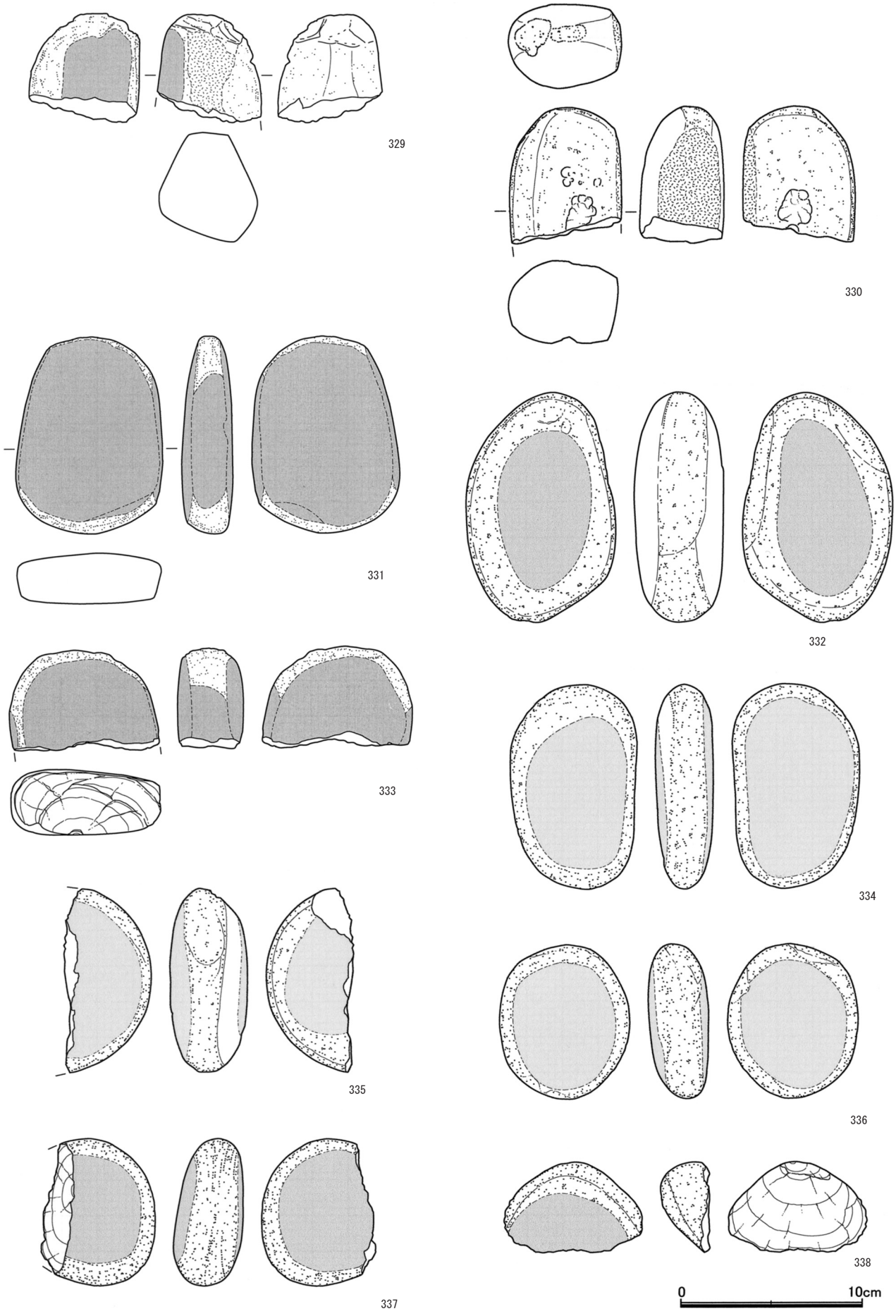




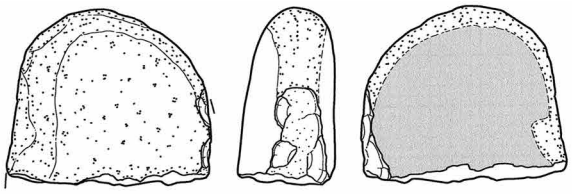


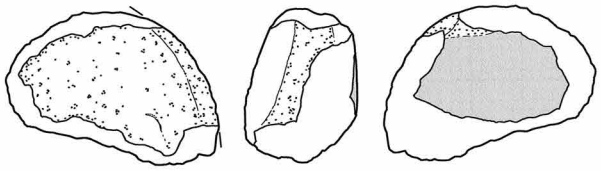


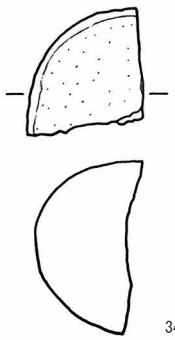
第155図　遺構外出土石器図34（縄文時代早期）

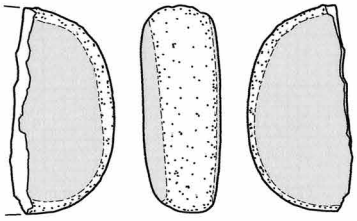


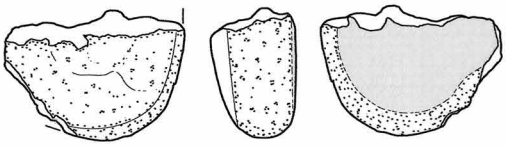
第156図　遺構外出土石器図35（縄文時代早期）

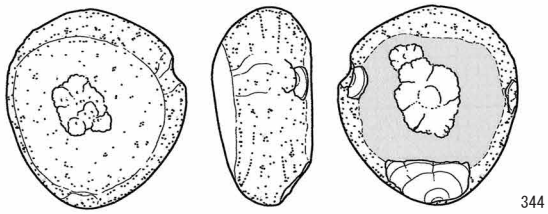

339

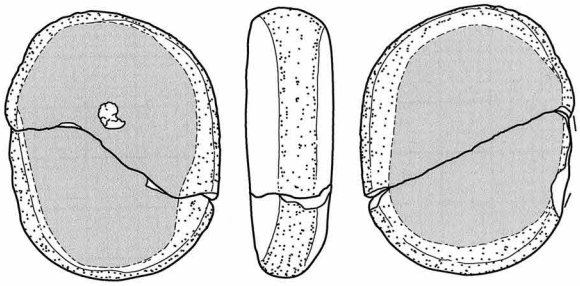

340

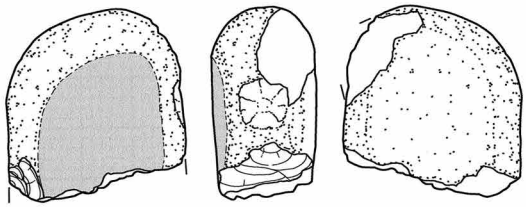

341

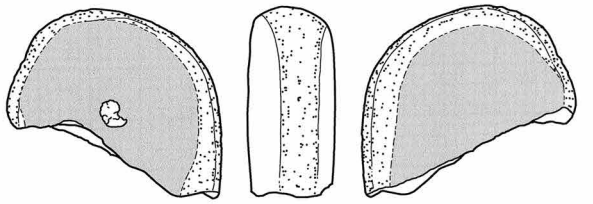

342

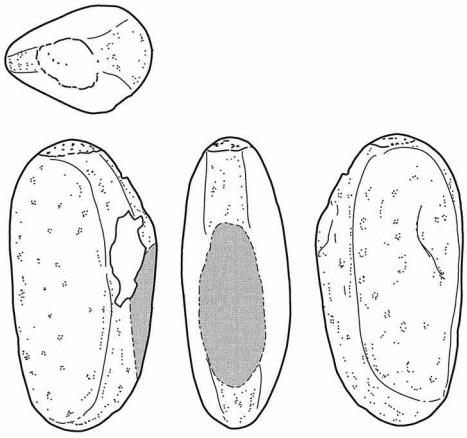

343

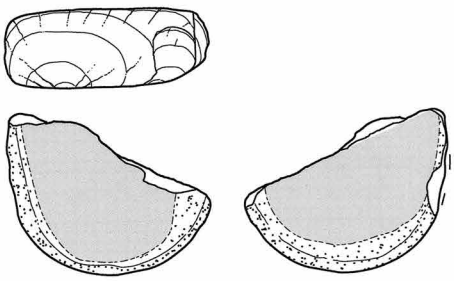

344


347＋348

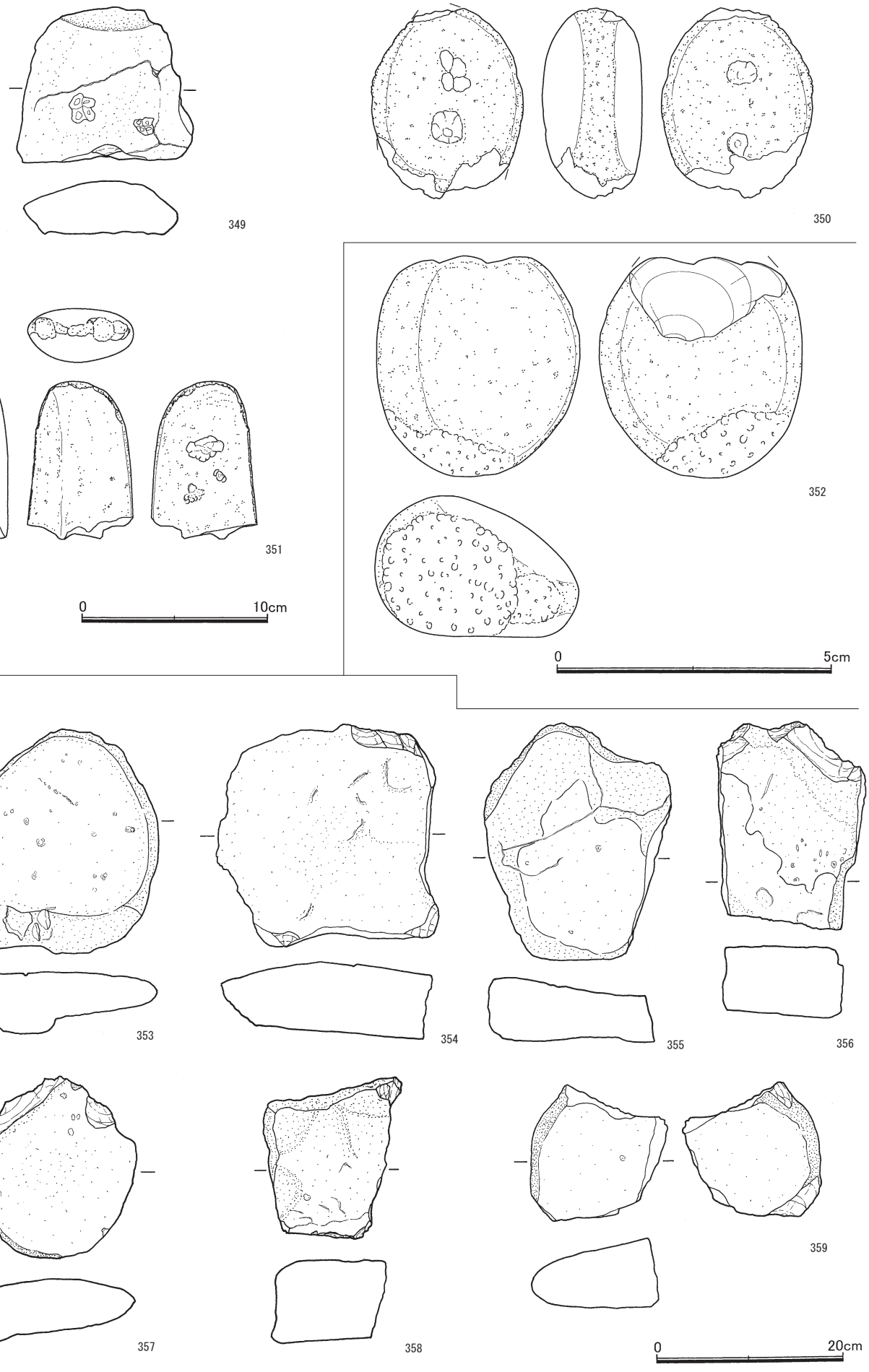

345


347

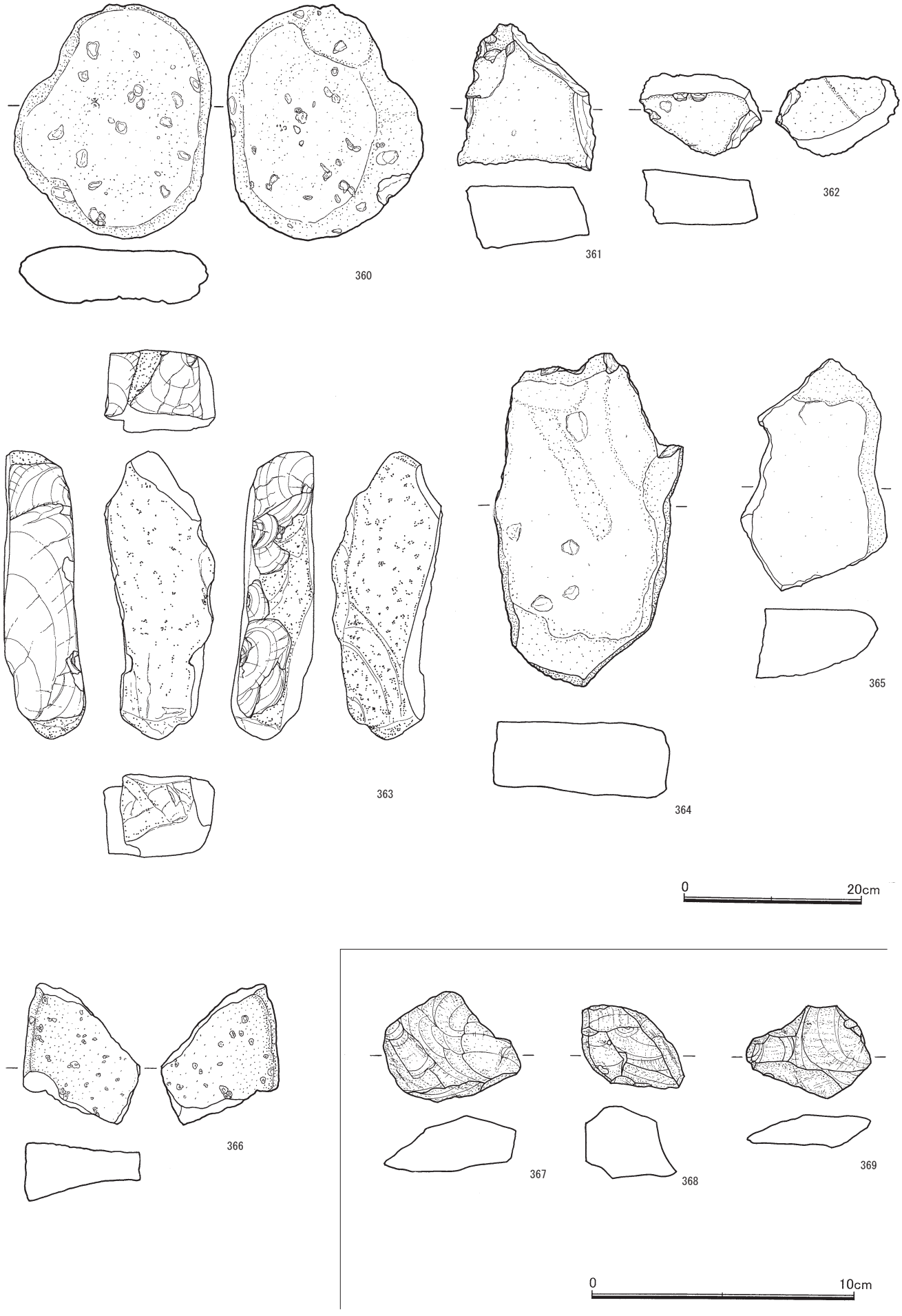

346


348

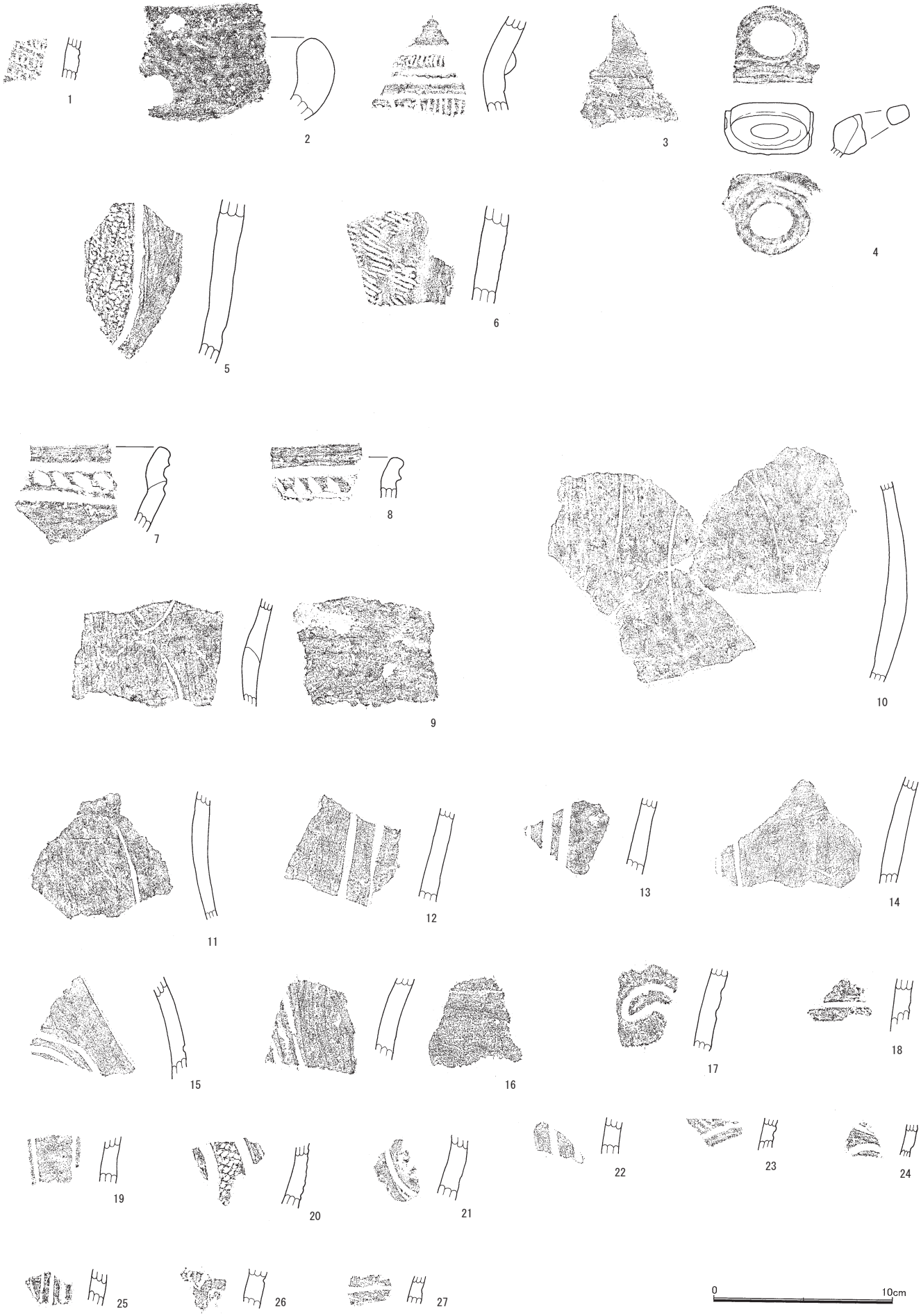
第157図　遺構外出土石器図36（縄文時代早期）



第158図　遺構外出土石器図37（縄文時代早期）

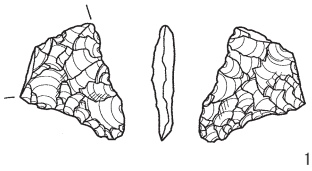


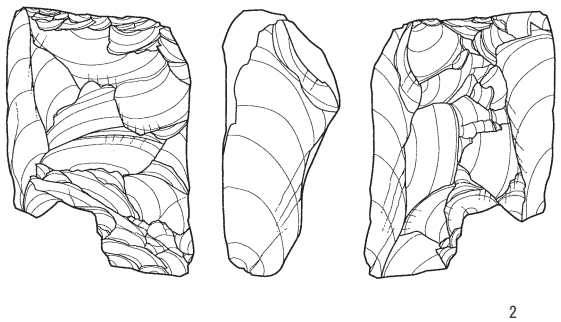
第159図　遺構外出土石器図38（縄文時代早期）

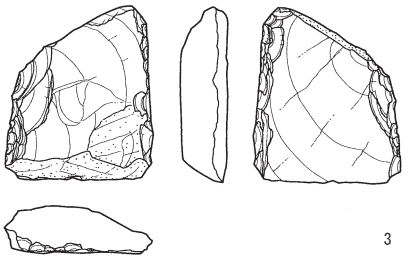


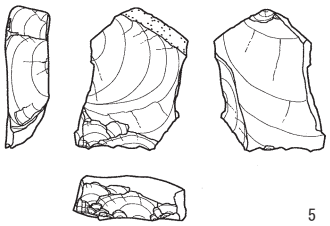
第160図　遺構外出土土器図１（縄文時代前～晩期）

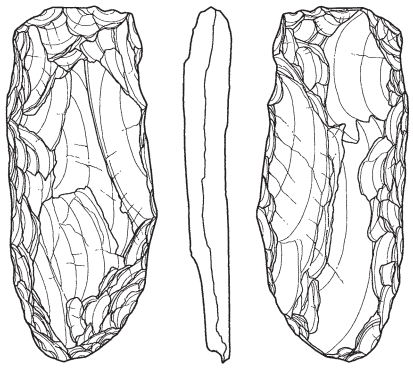
第161図　遺構外出土土器図２（縄文時代前～晩期）

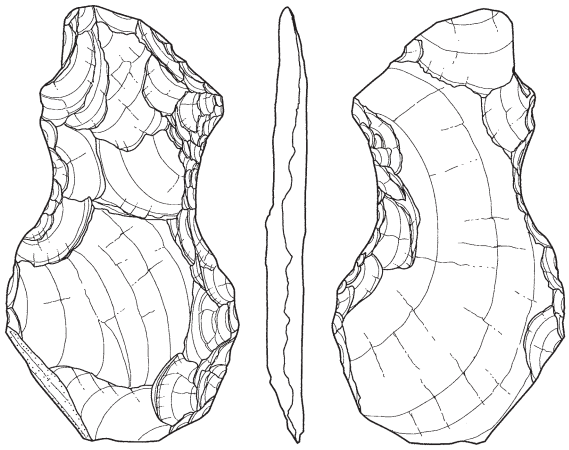


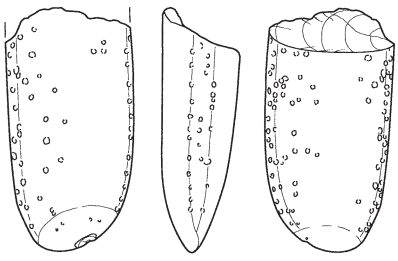


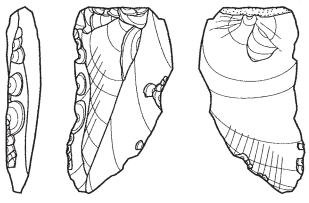


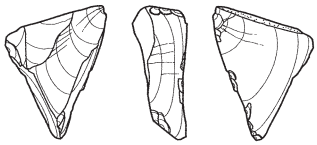






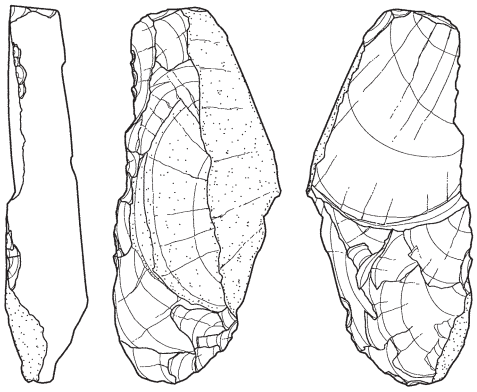


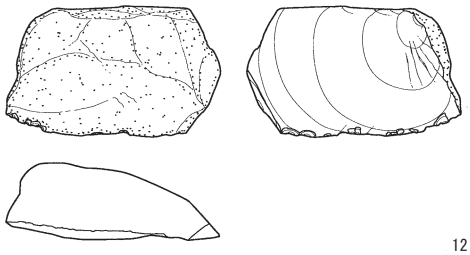


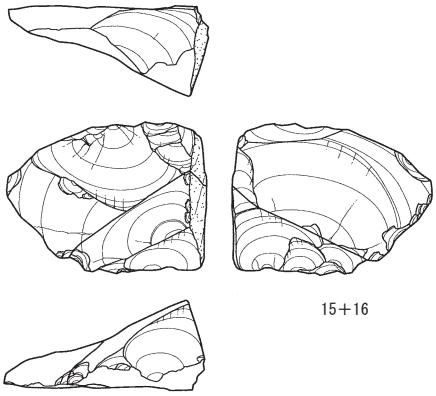


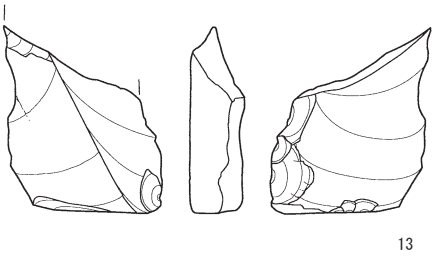
第162図　遺構外出土石器図１（縄文時代後期）

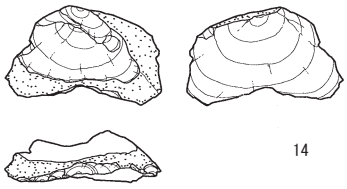
1・2・9・10：1/1
3～8　　：1/3

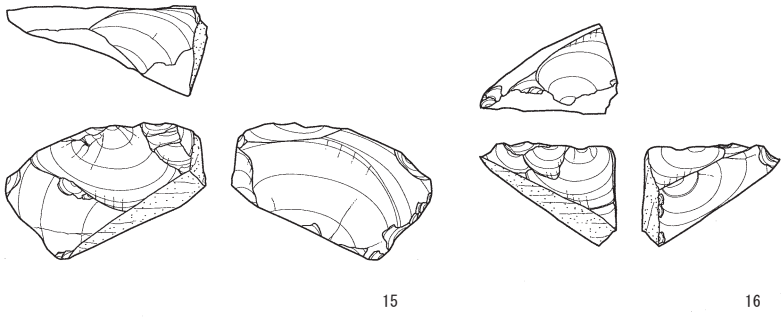


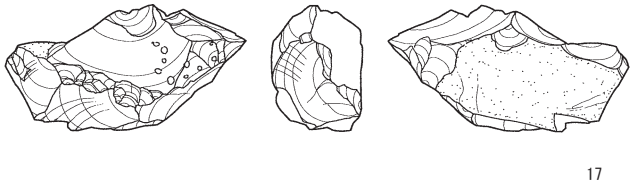


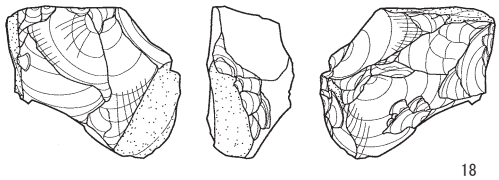






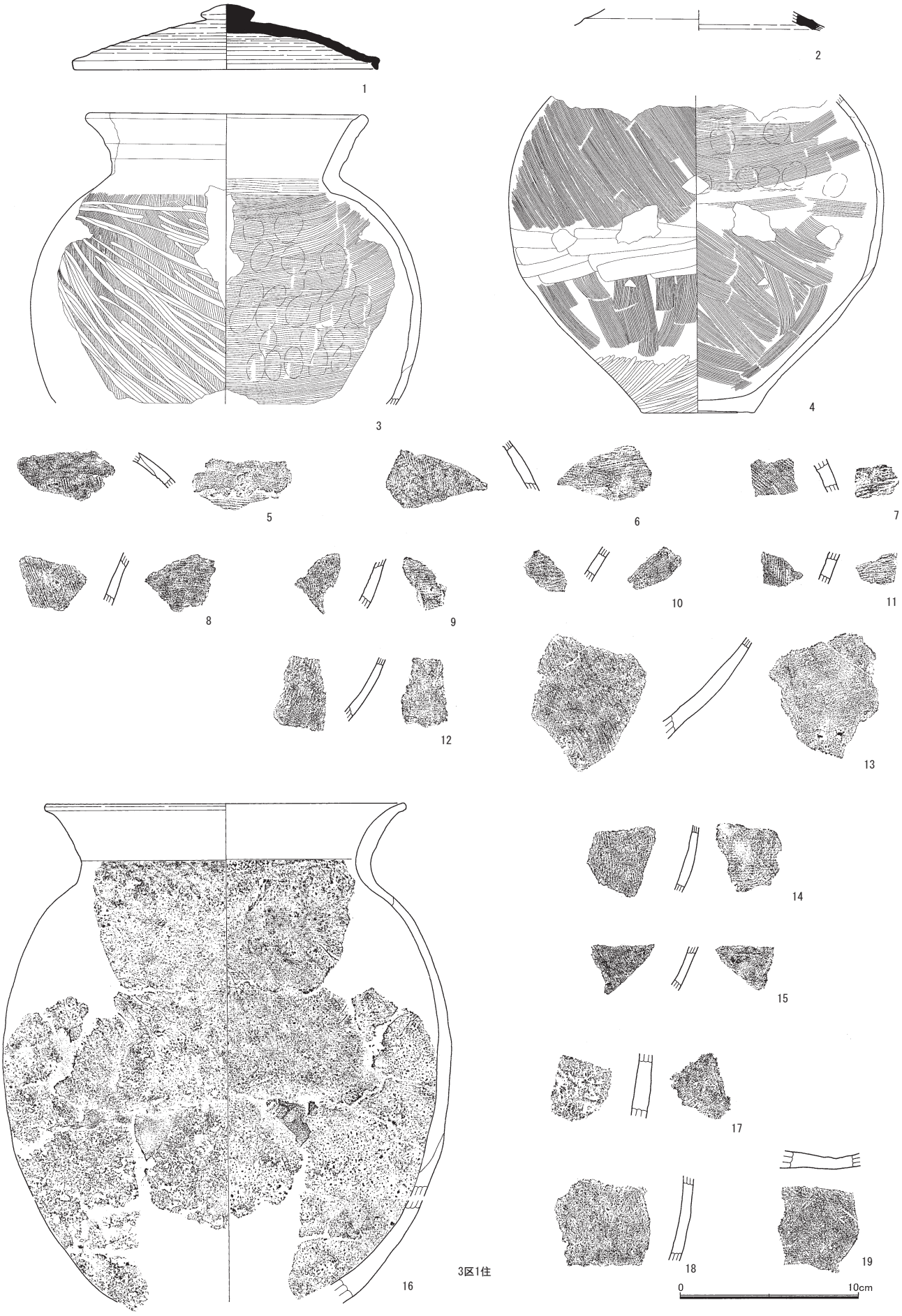




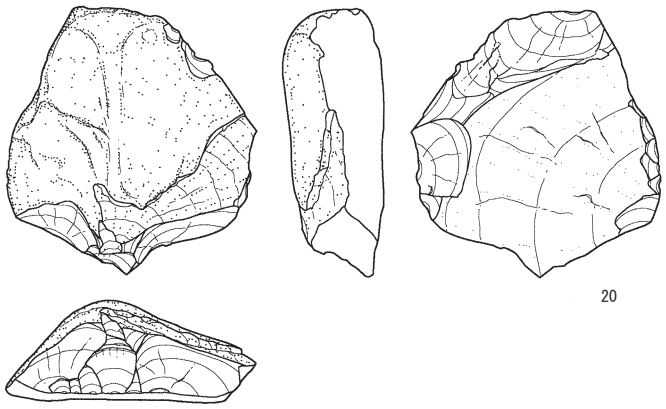


第163図　遺構外出土石器図２（縄文時代後期）

17・18：1/1
11～16：1/3

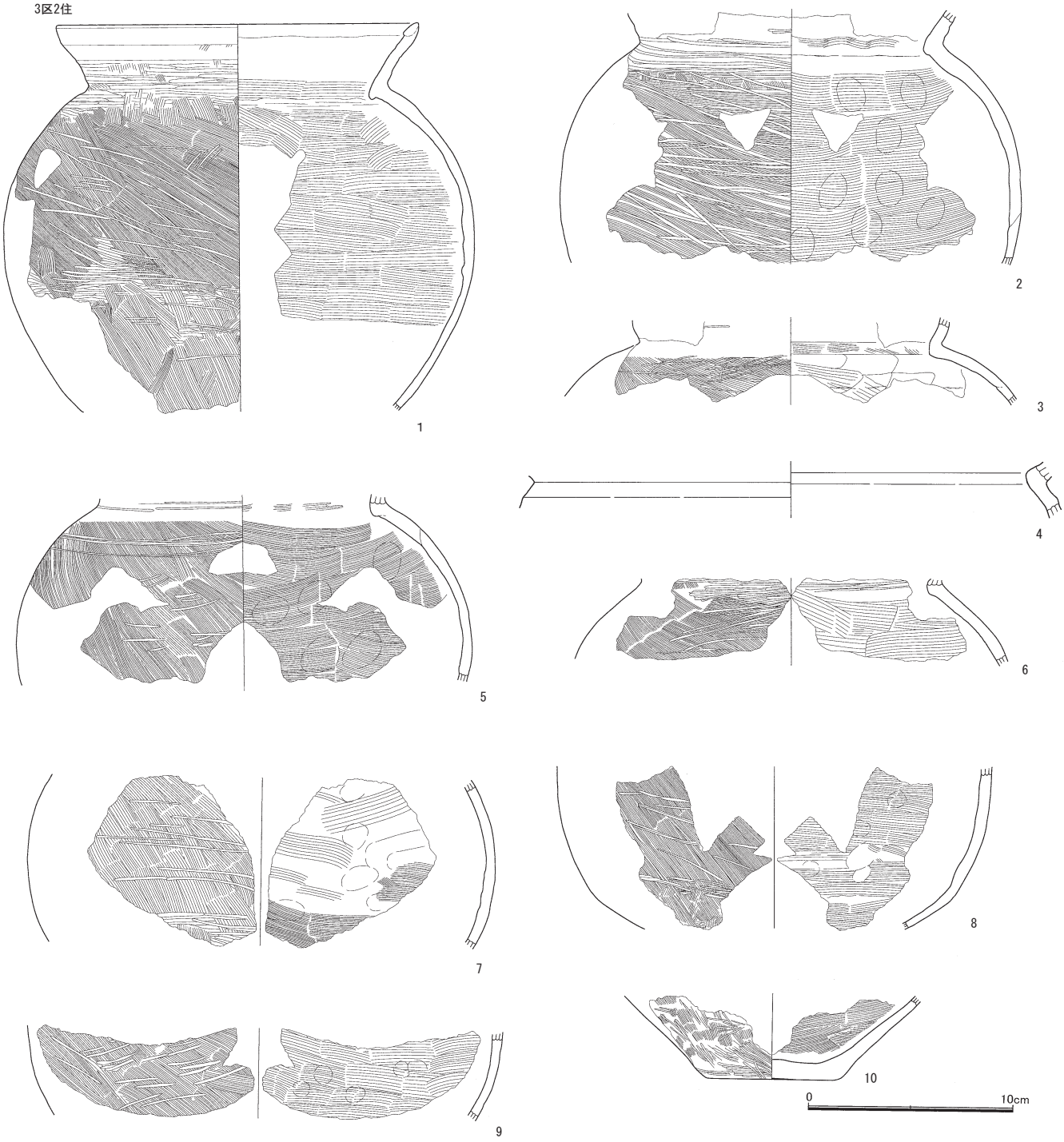


第164図　遺構出土遺物図１（奈良時代）

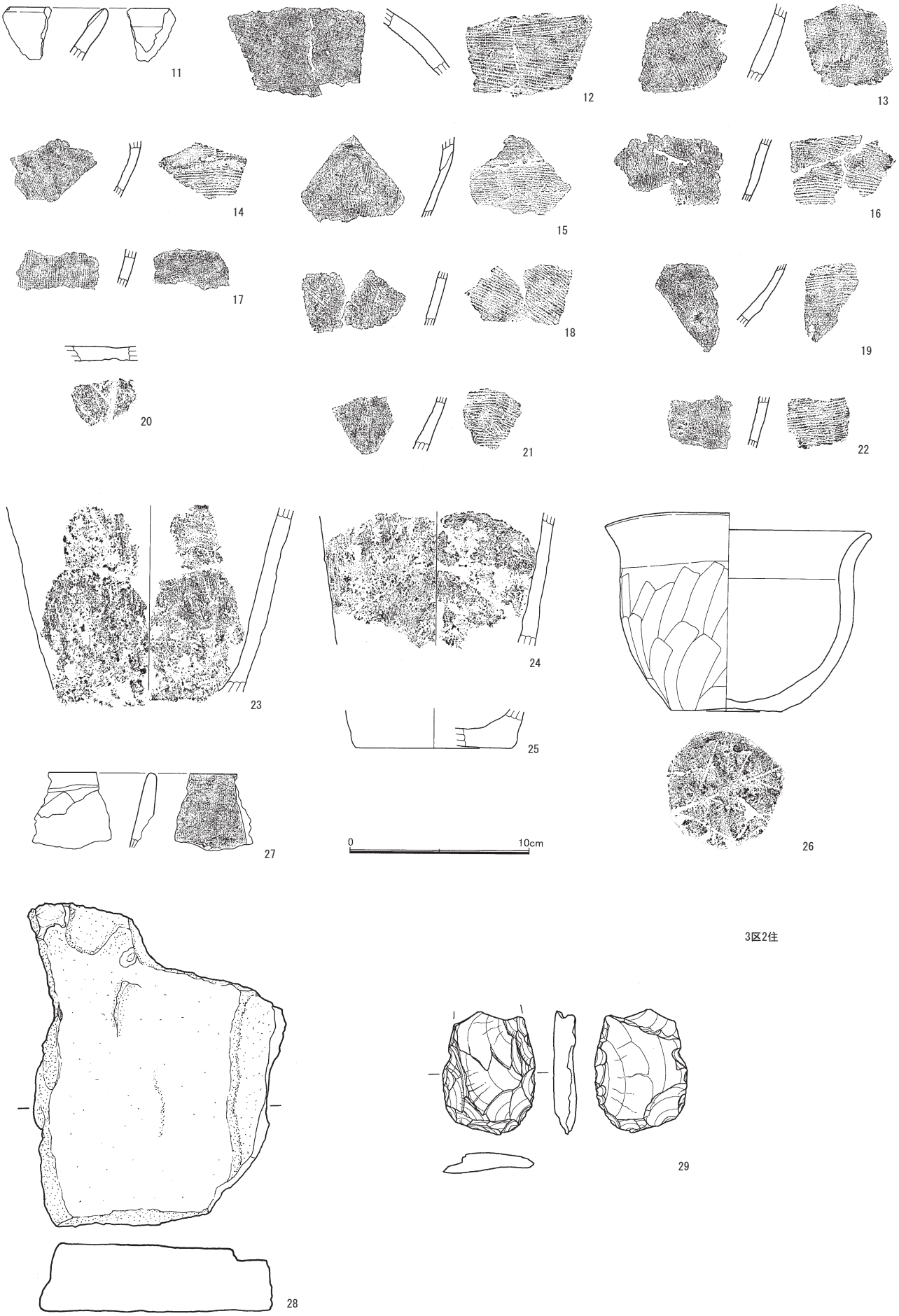


3区1住

3区2住

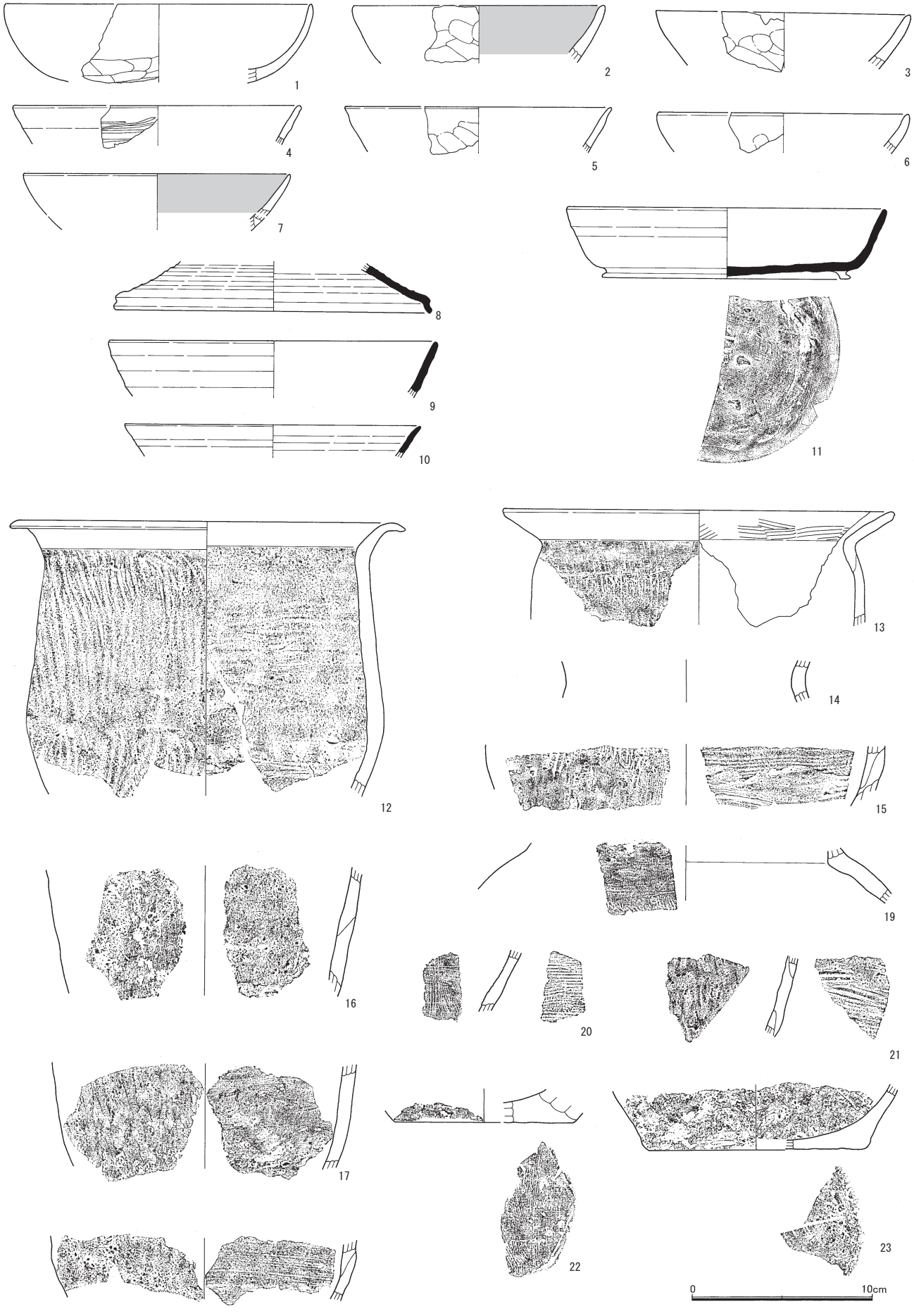


第165図　遺構出土遺物図２（奈良時代）

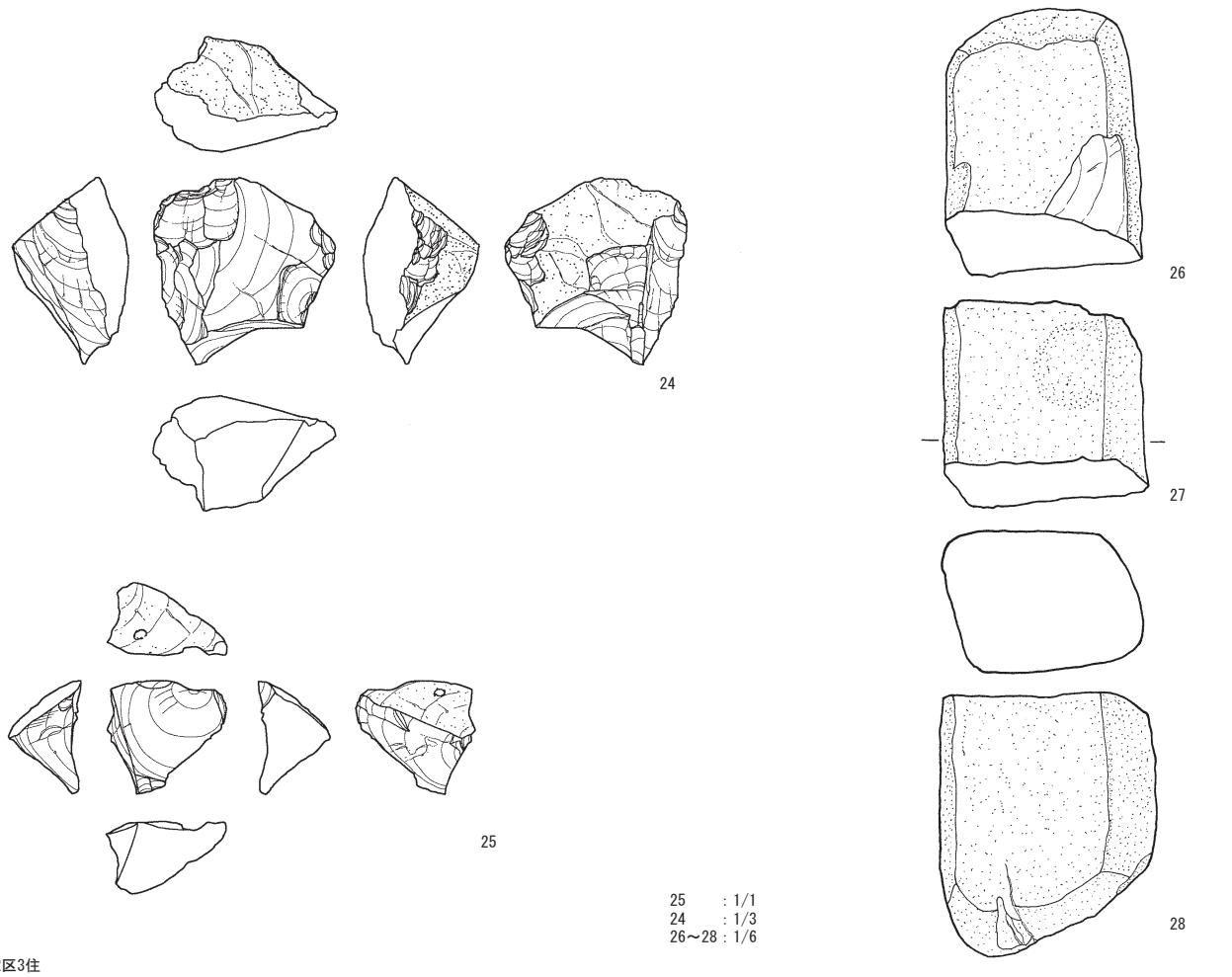


第166図　遺構出土遺物図３（奈良時代）

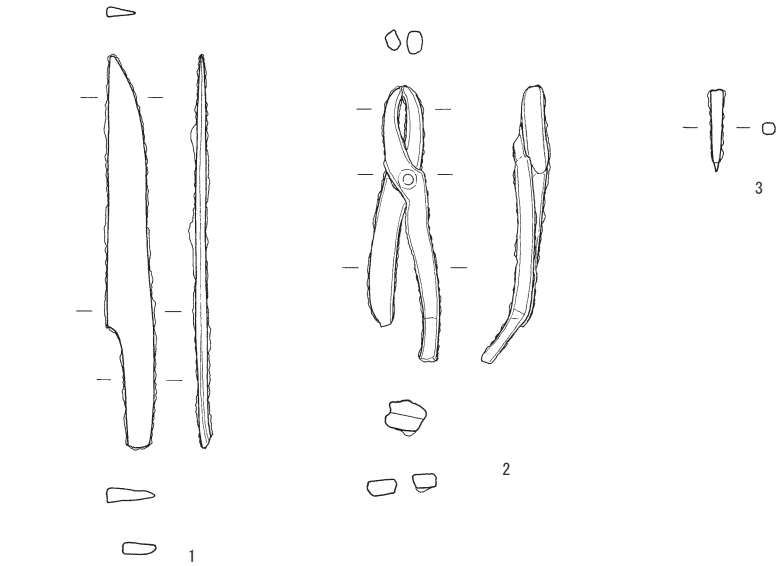
29：1/3
28：1/6



第167図　遺構出土遺物図４（奈良時代）

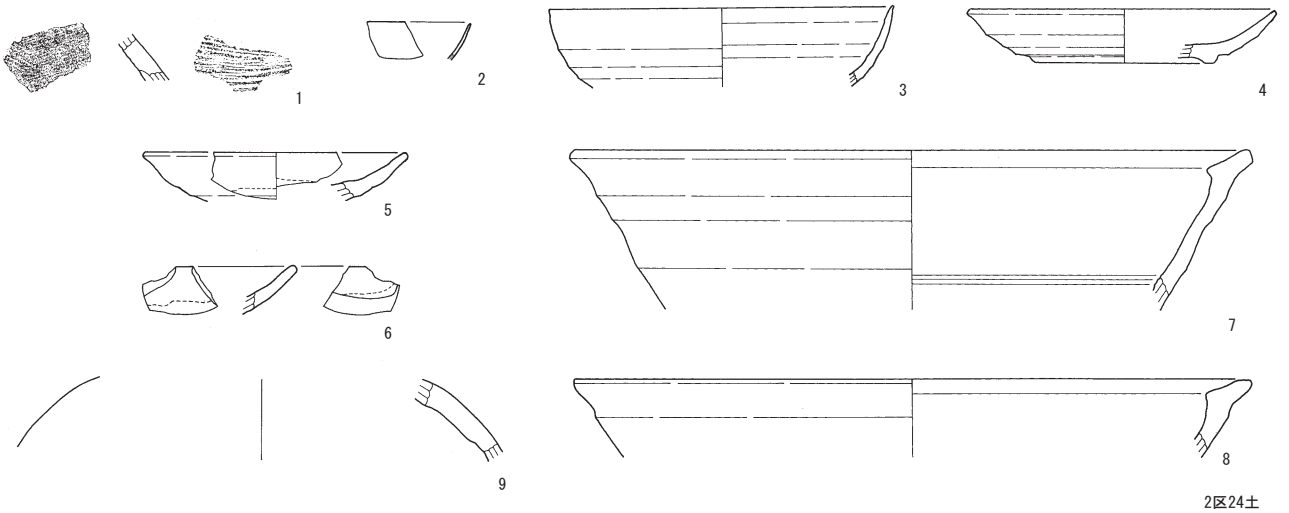


第168図　遺構出土遺物図５（奈良時代）



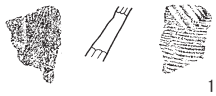
1～3：1/3

4区4住

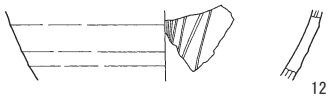


2区24土

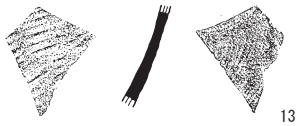
3区5土



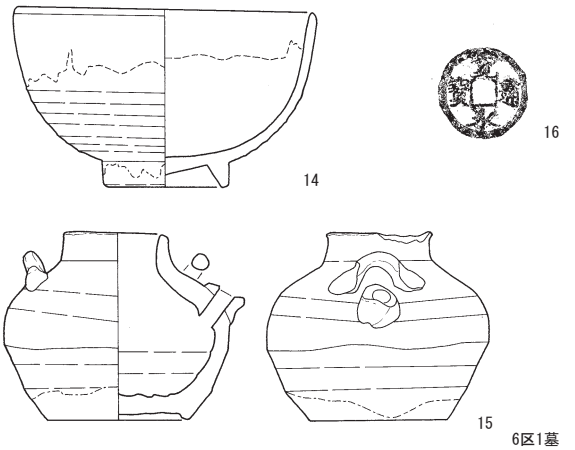
3区7土



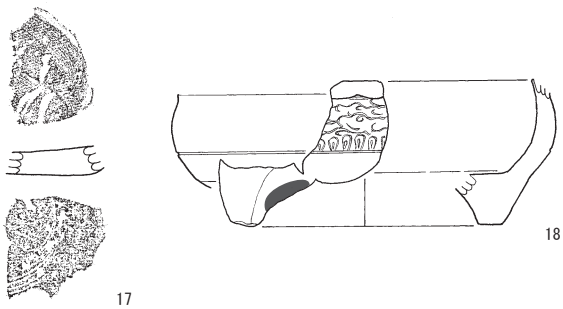
3区11土



3区26土



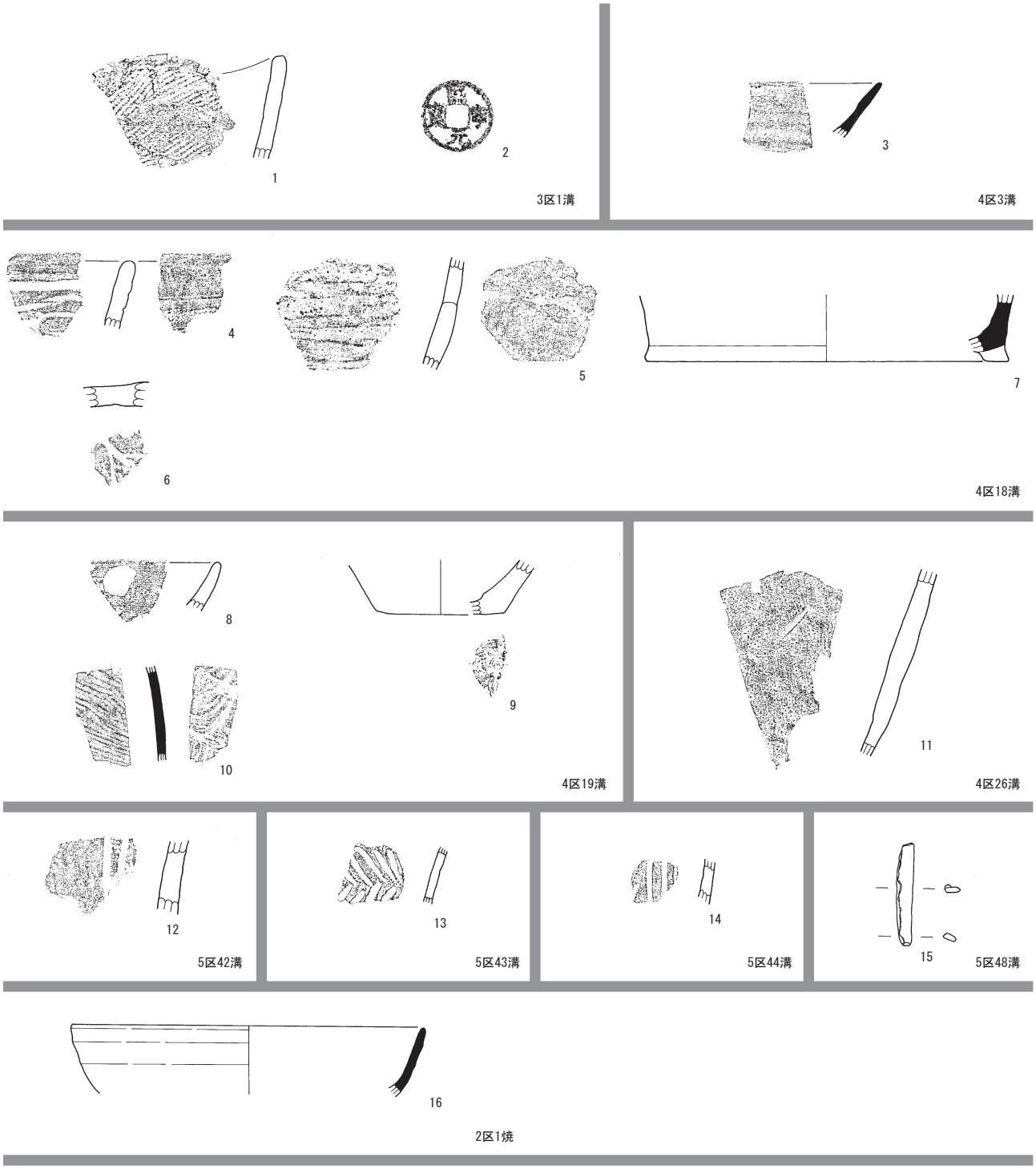
6区1墓



7区1土

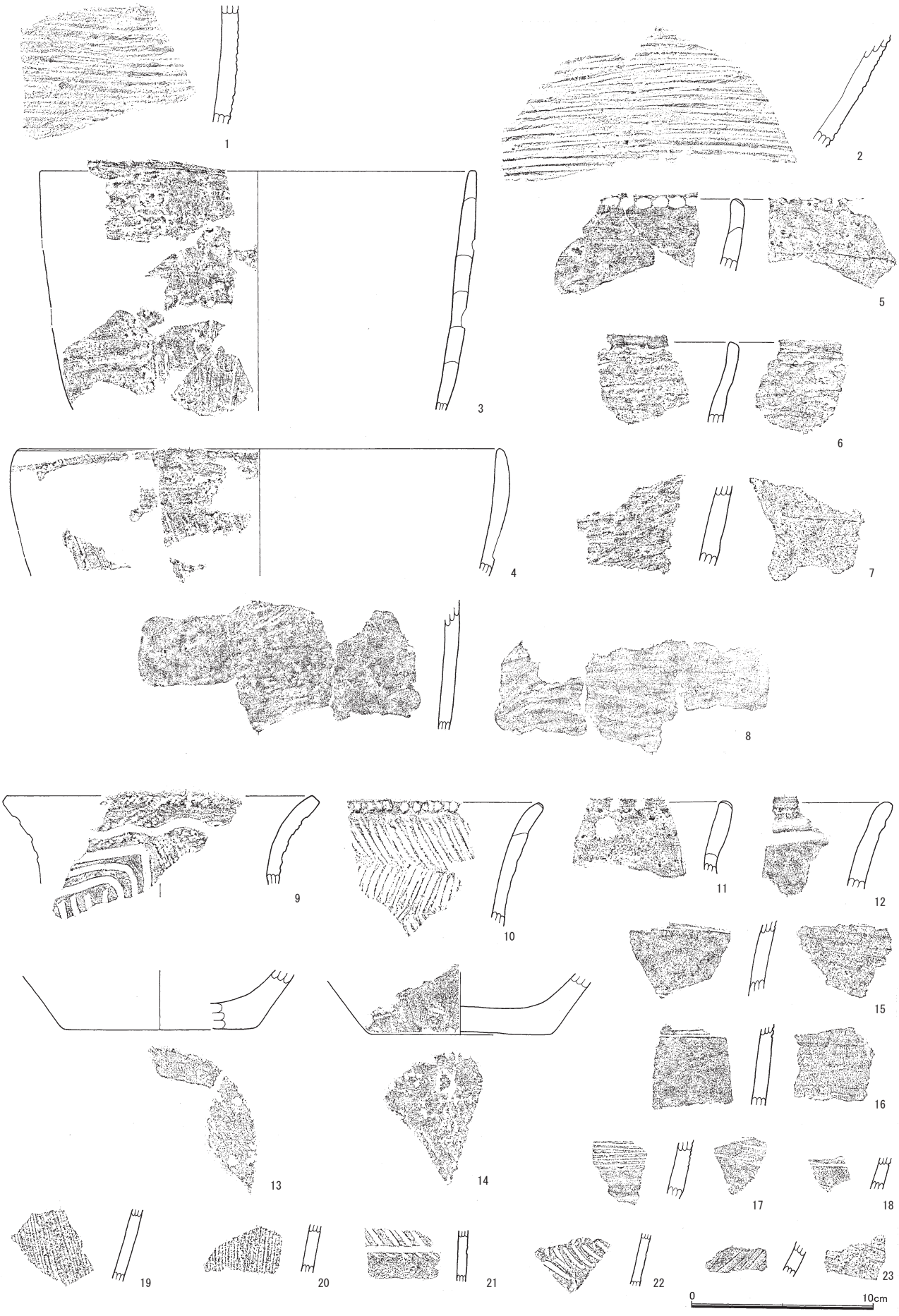
第169図　遺構出土遺物図６（第Ⅰ・Ⅱ面所属遺構）

16　：1/2
1～15・17・18：1/3

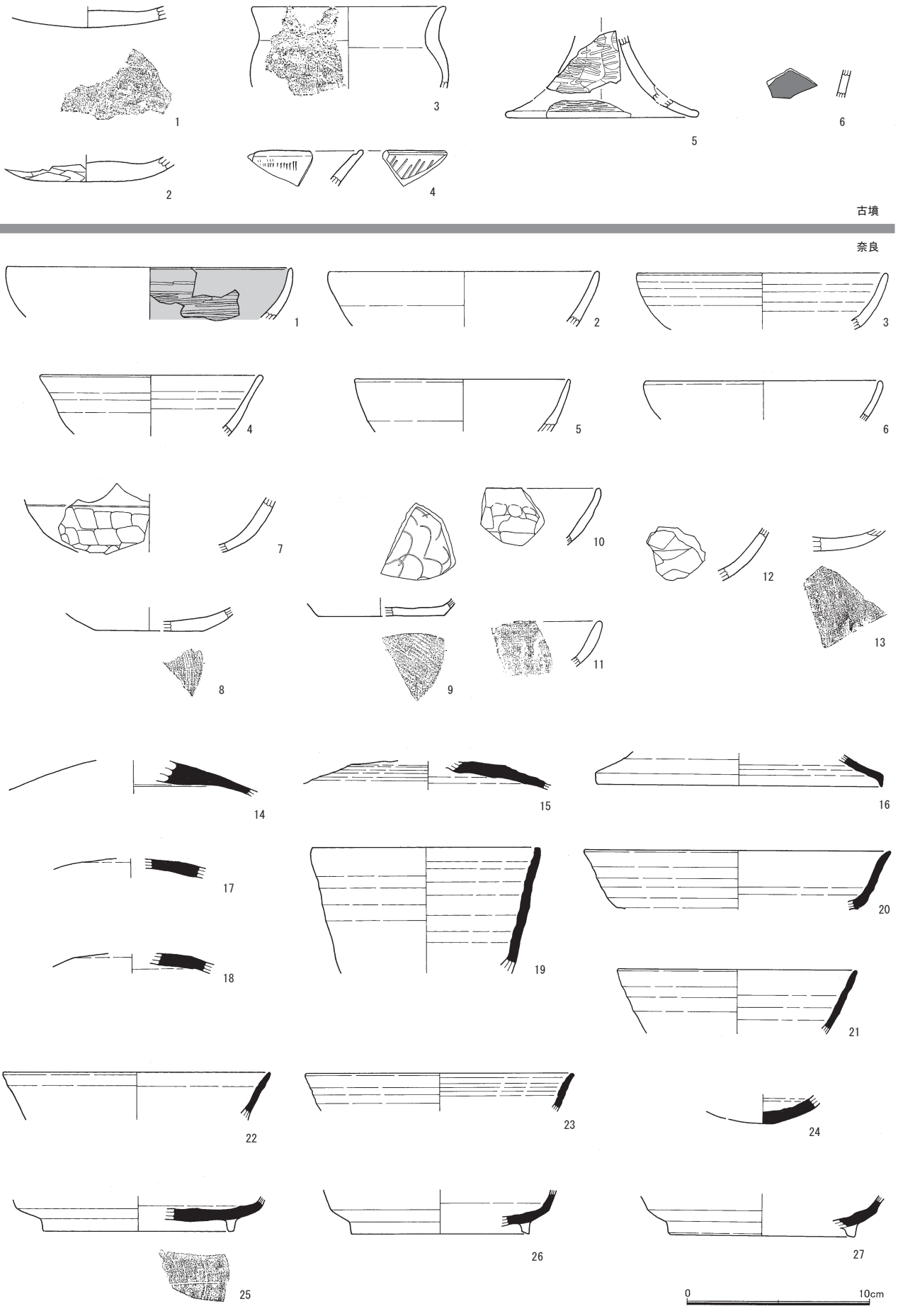


第170図　遺構出土遺物図７（第Ⅰ・Ⅱ面所属遺構）

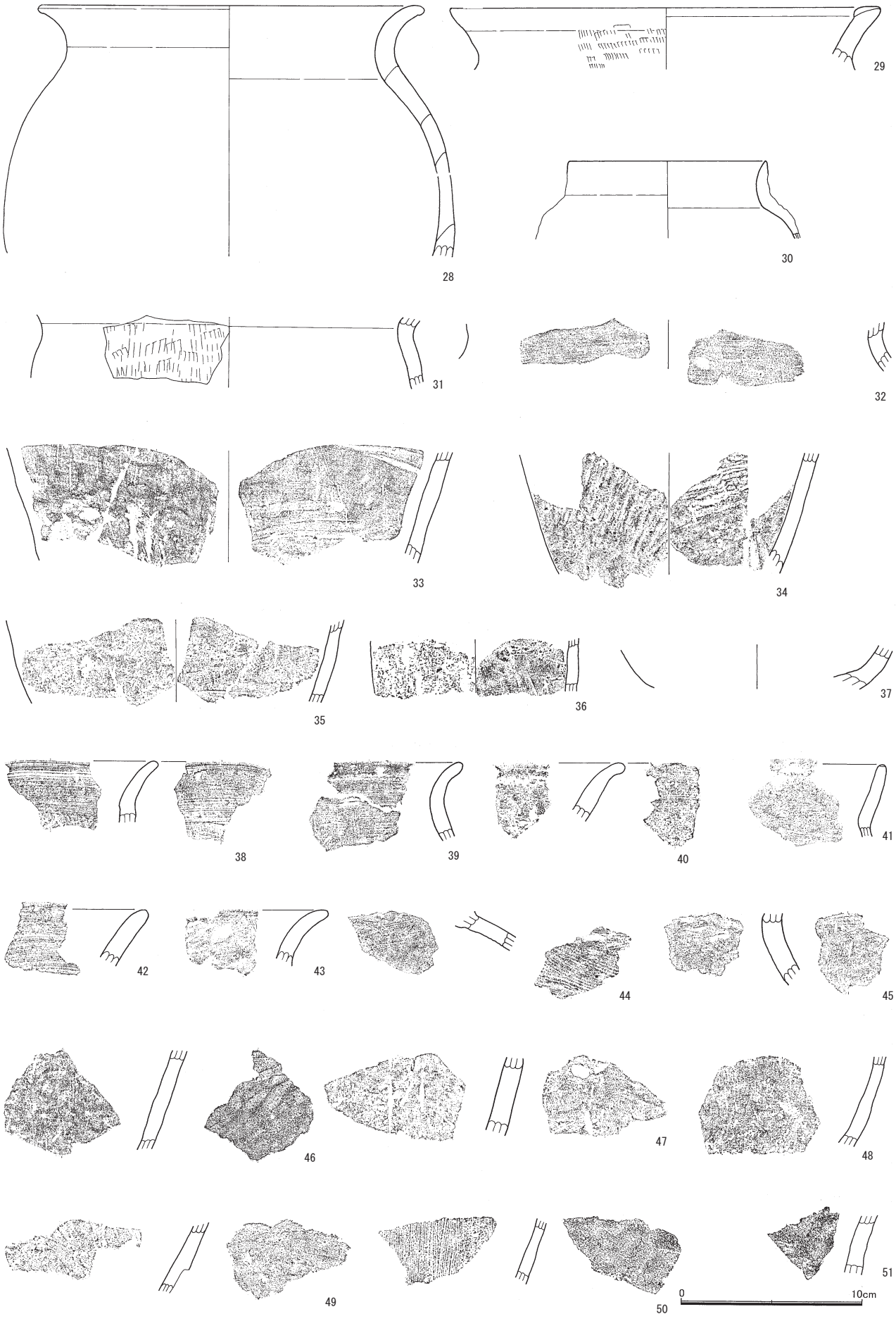
1・3～16：1/3
2　　：1/2



第171図　遺構外出土遺物図１（弥生時代）

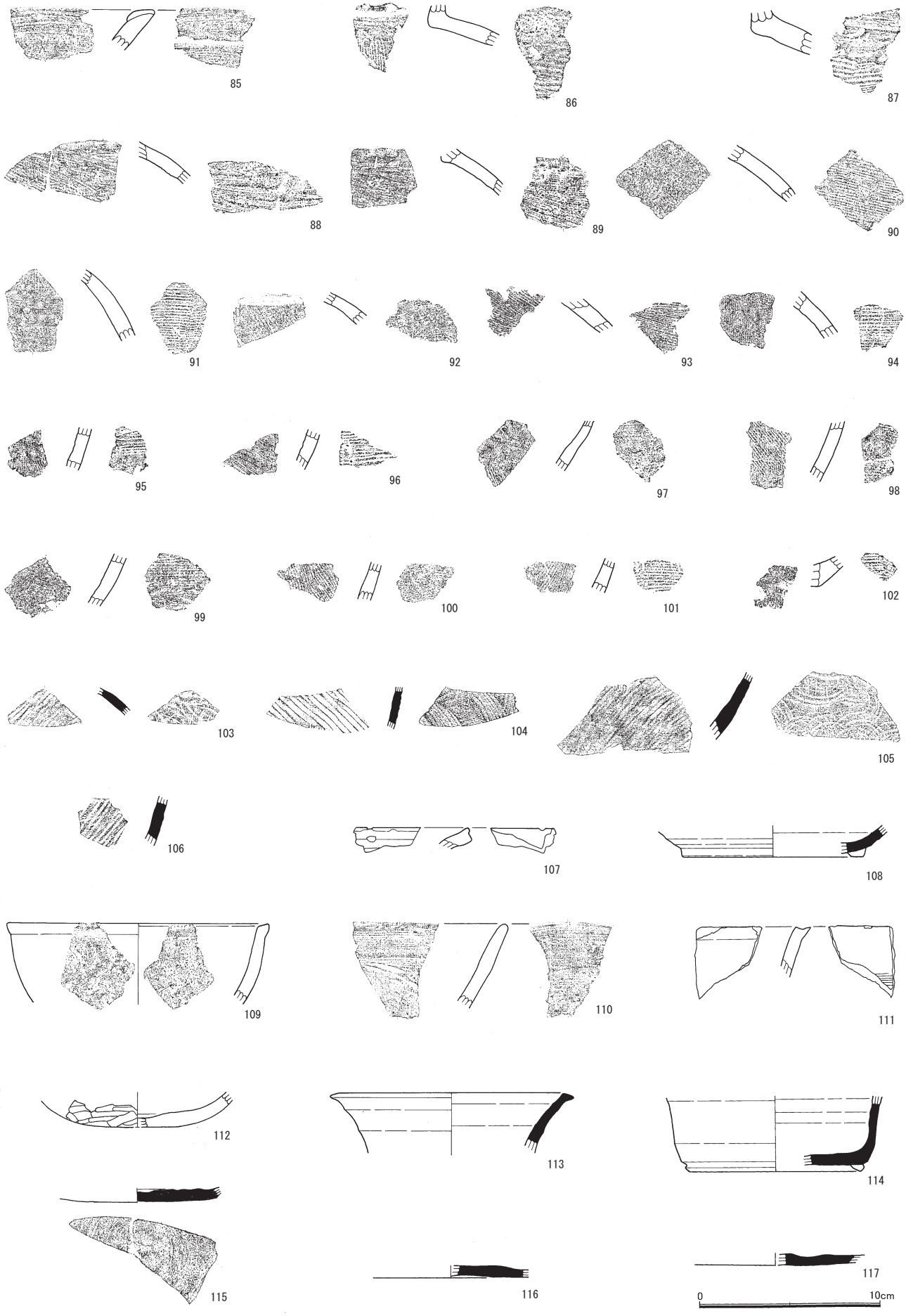


第172図　遺構外出土遺物図２（古墳・奈良時代）

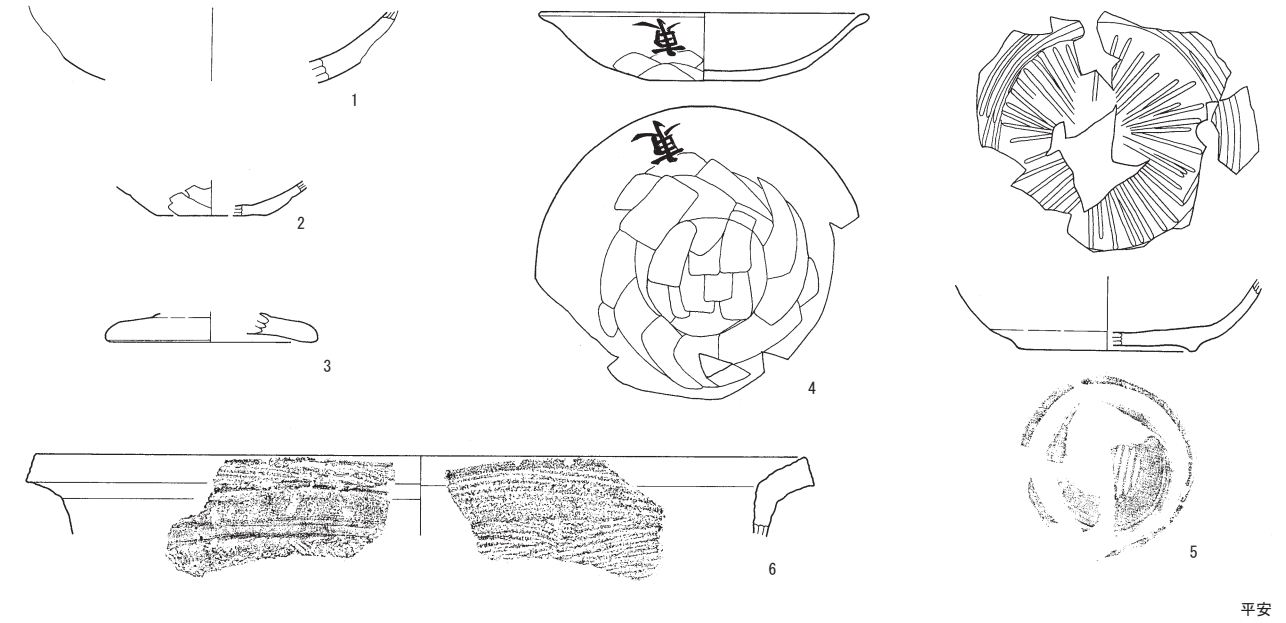


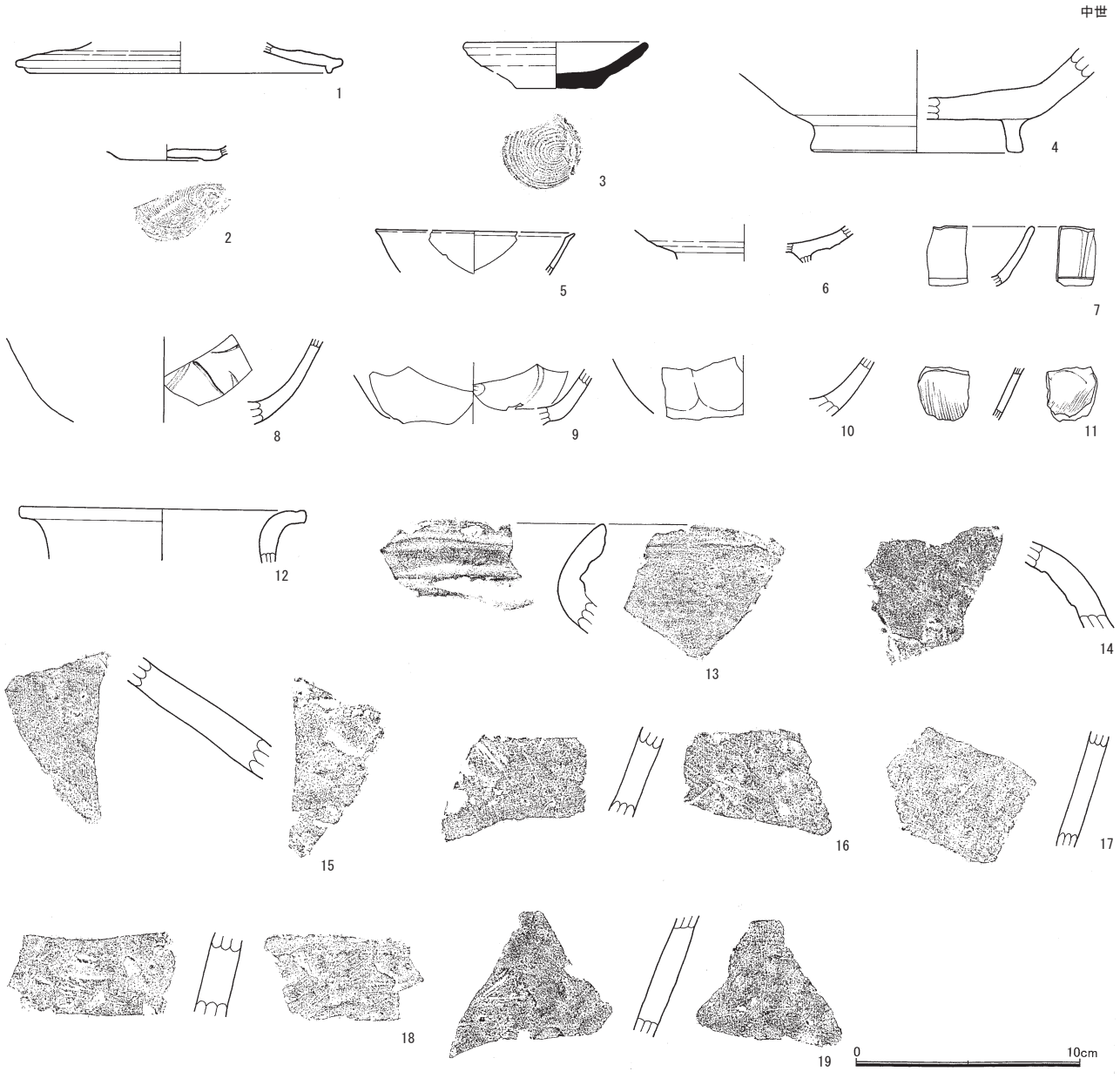
第173図　遺構外出土遺物図３（奈良時代）

第174図　遺構外出土遺物図４（奈良時代）

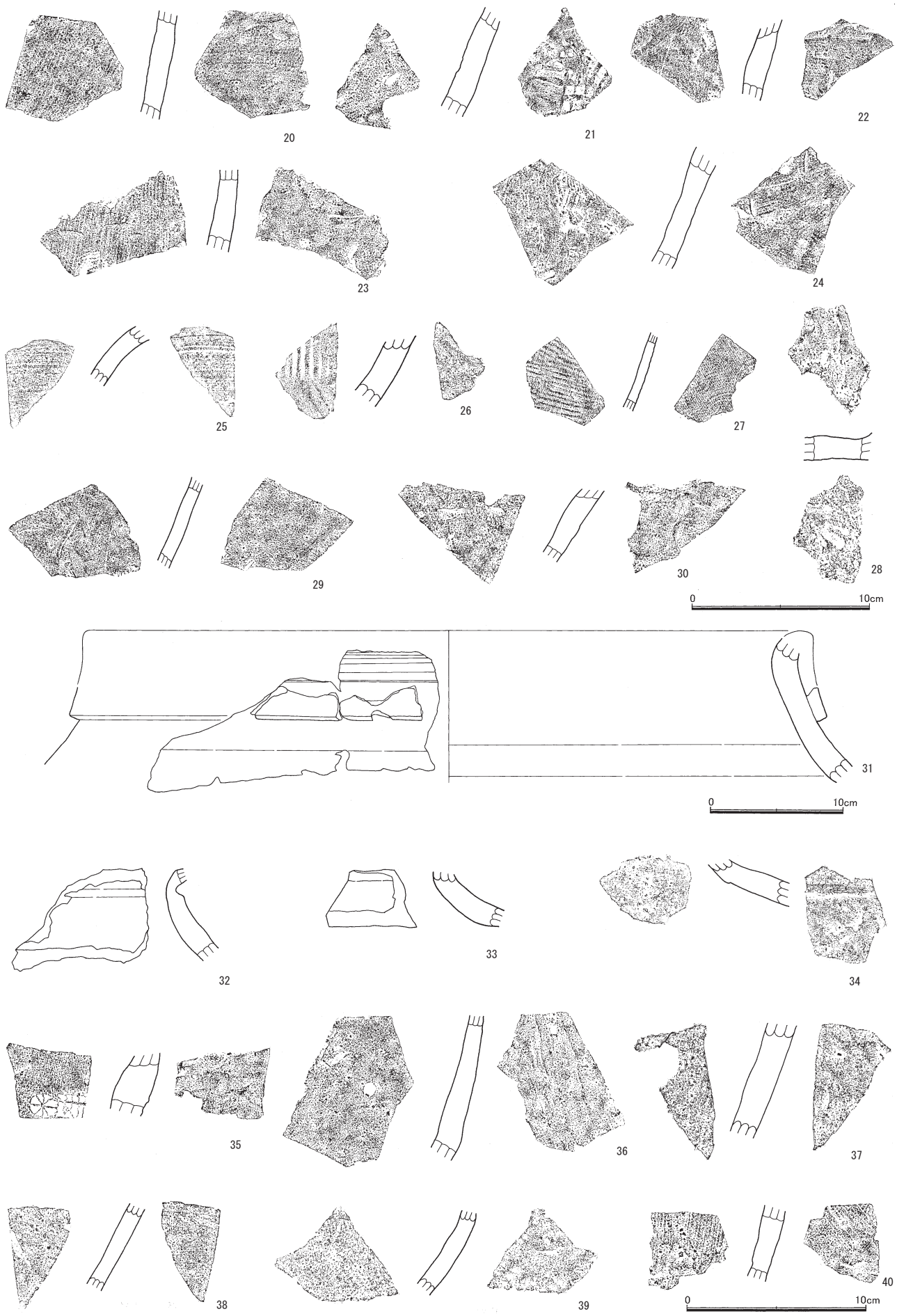


第175図　遺構外出土遺物図５（奈良時代）

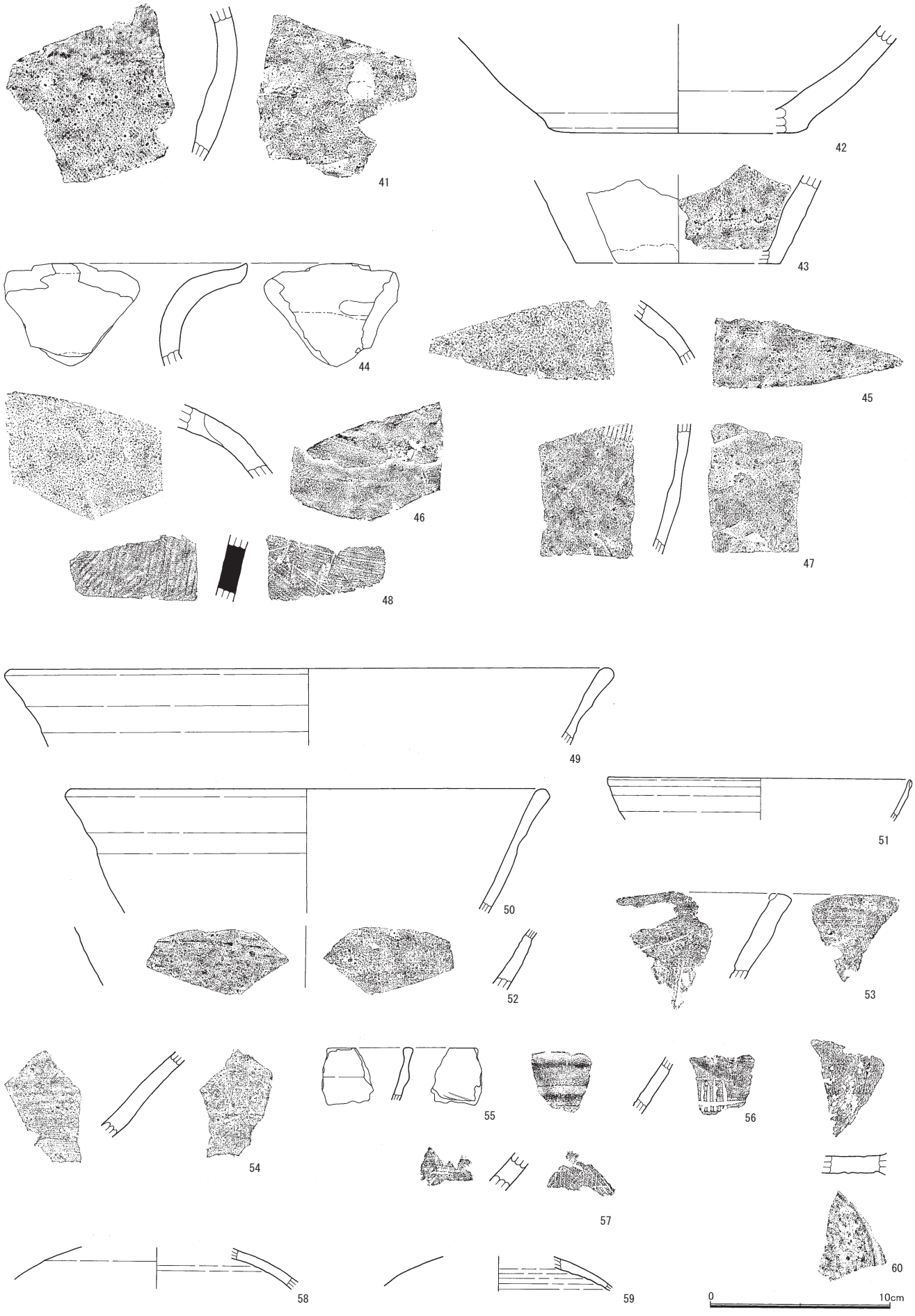




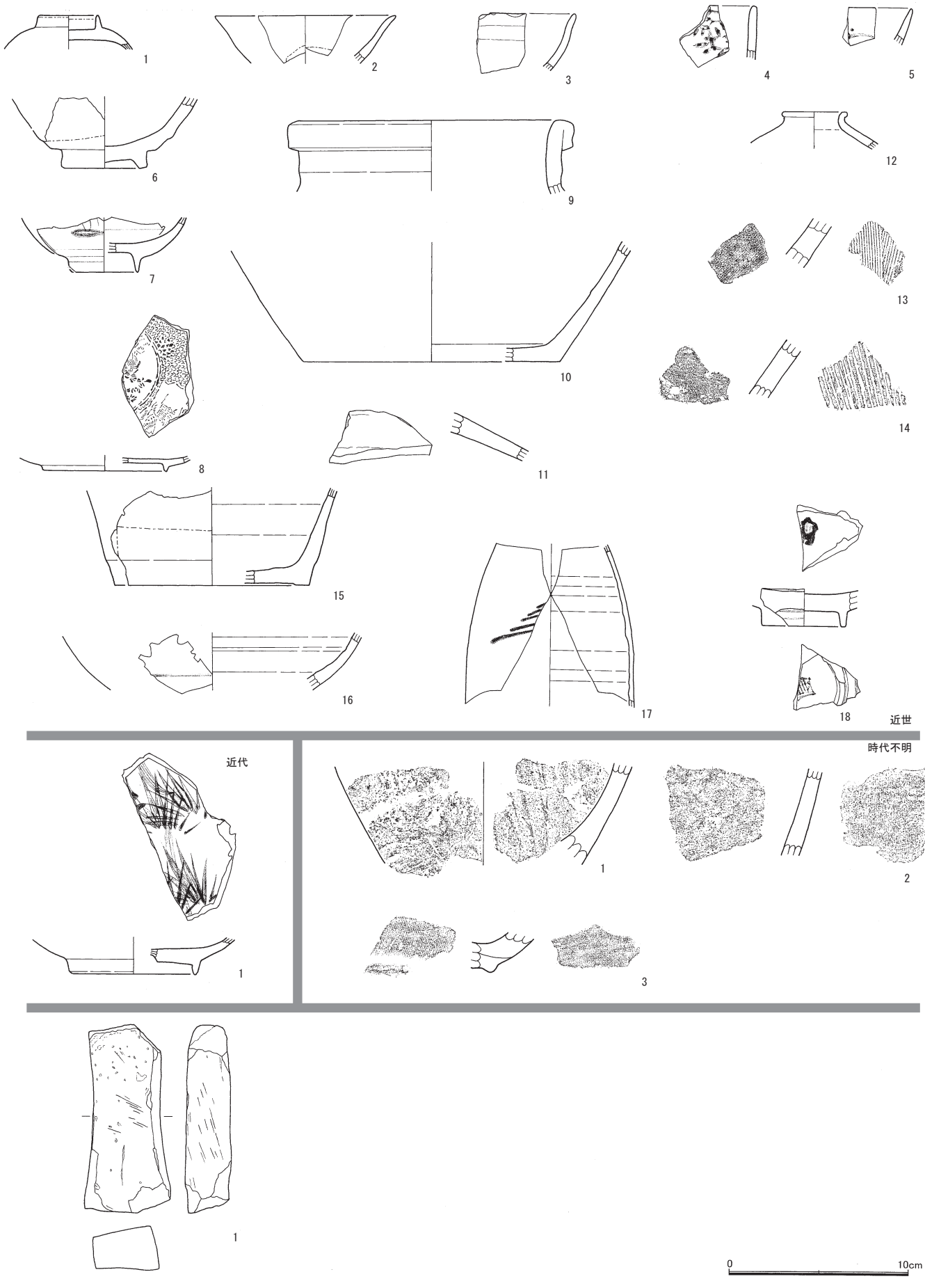
第176図　遺構外出土遺物図６（平安時代・中世）



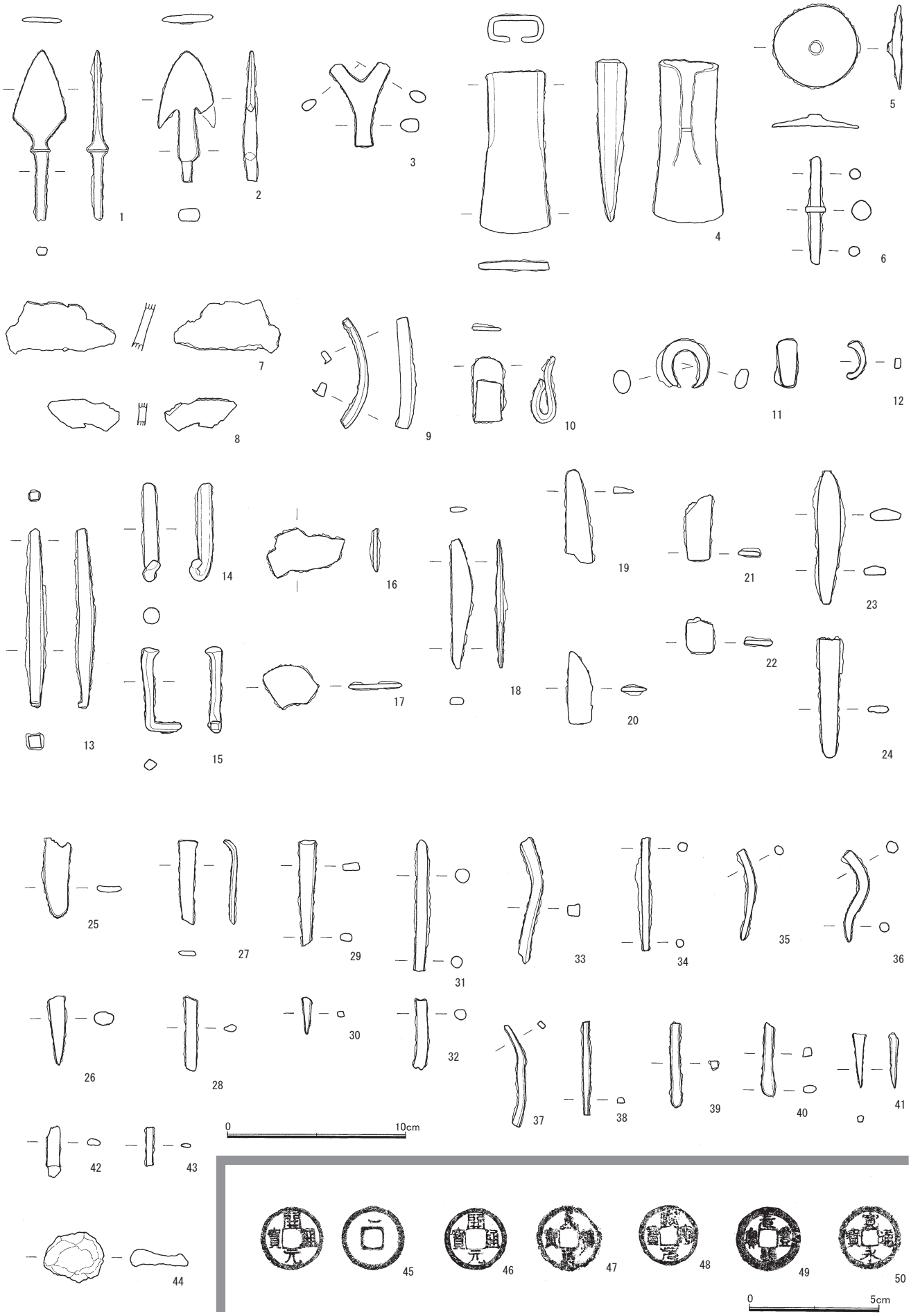
第177図　遺構外出土遺物図７（中世）



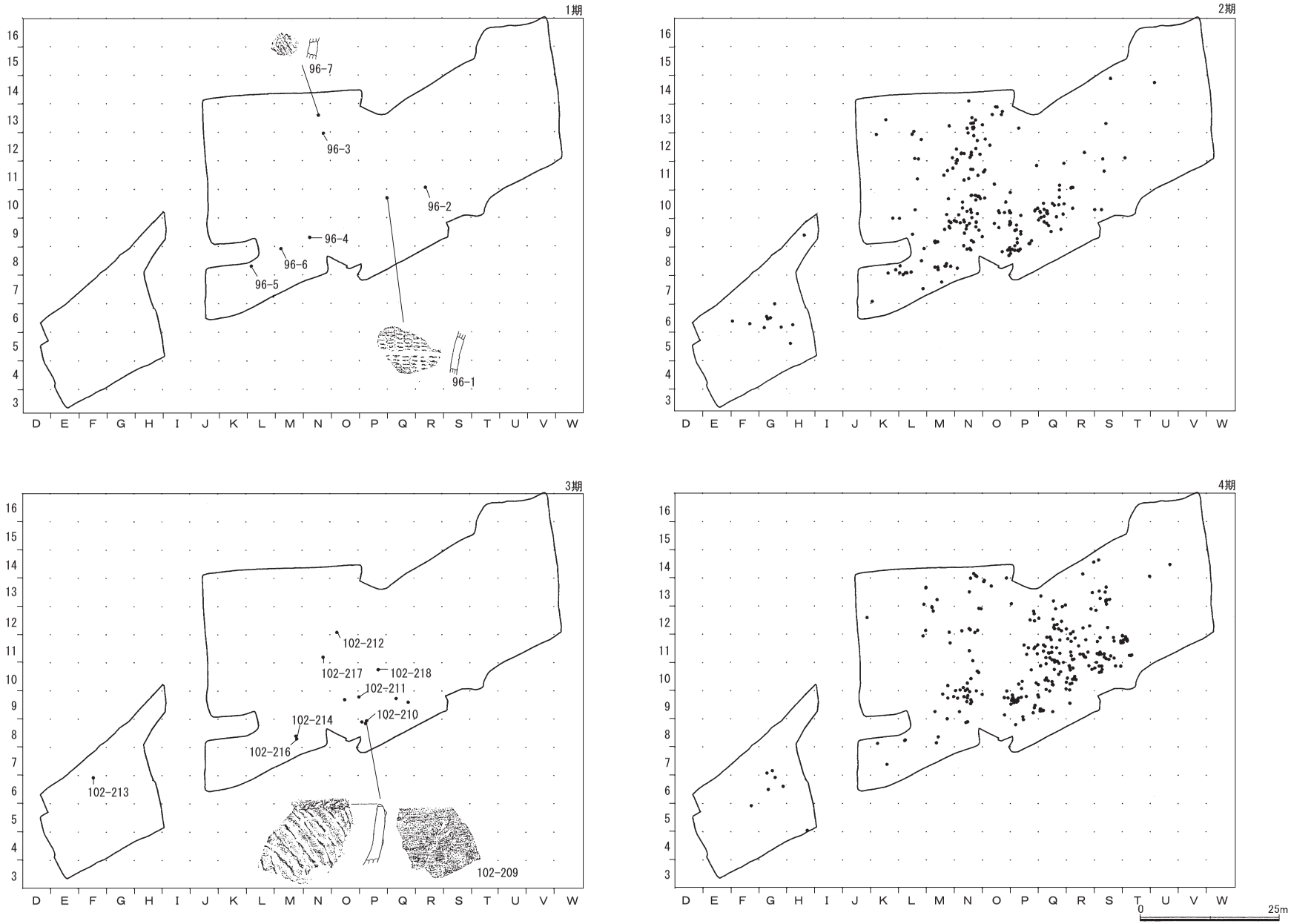
第178図　遺構外出土遺物図８（中世）



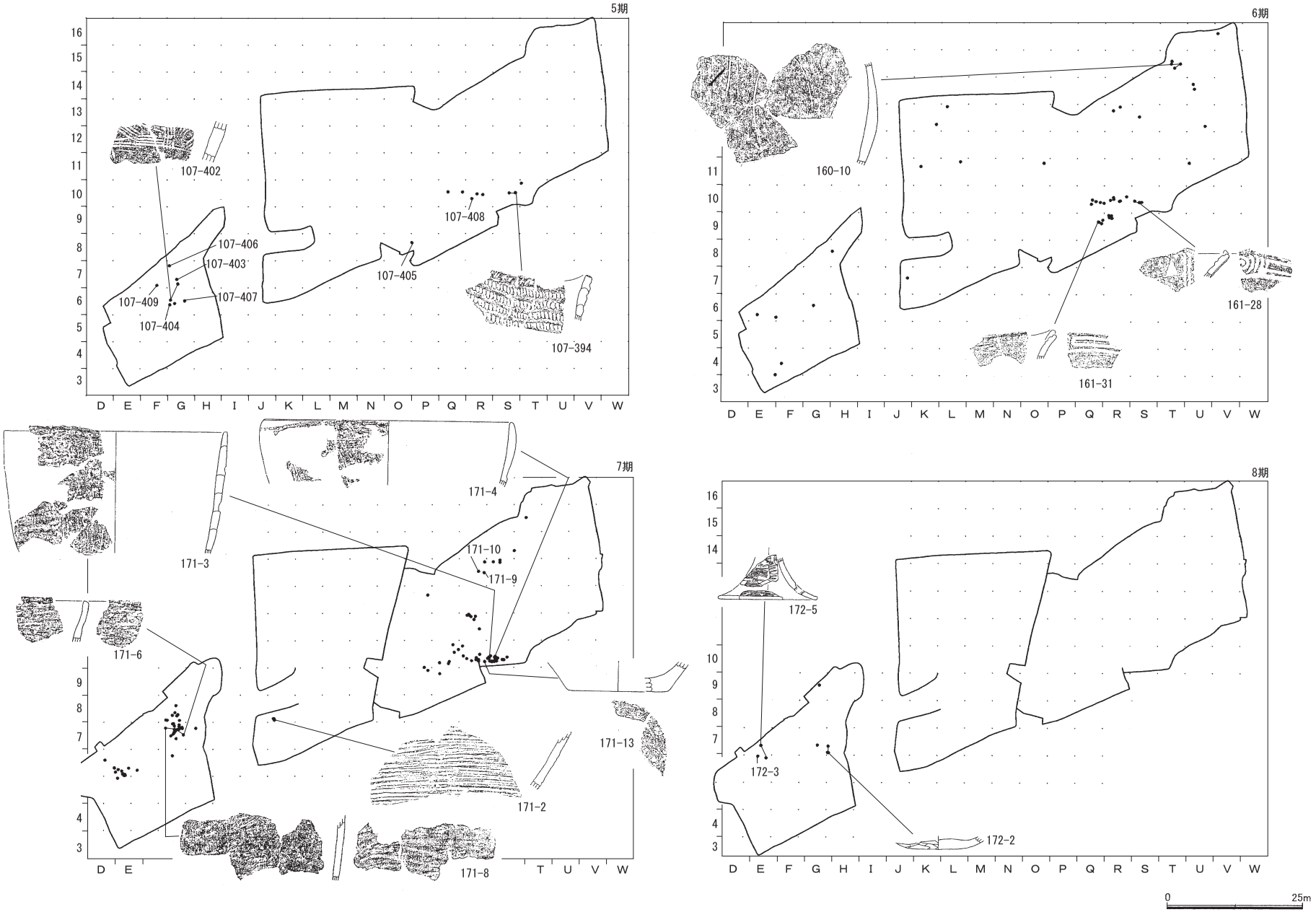
第179図　遺構外出土遺物図９（近世他）



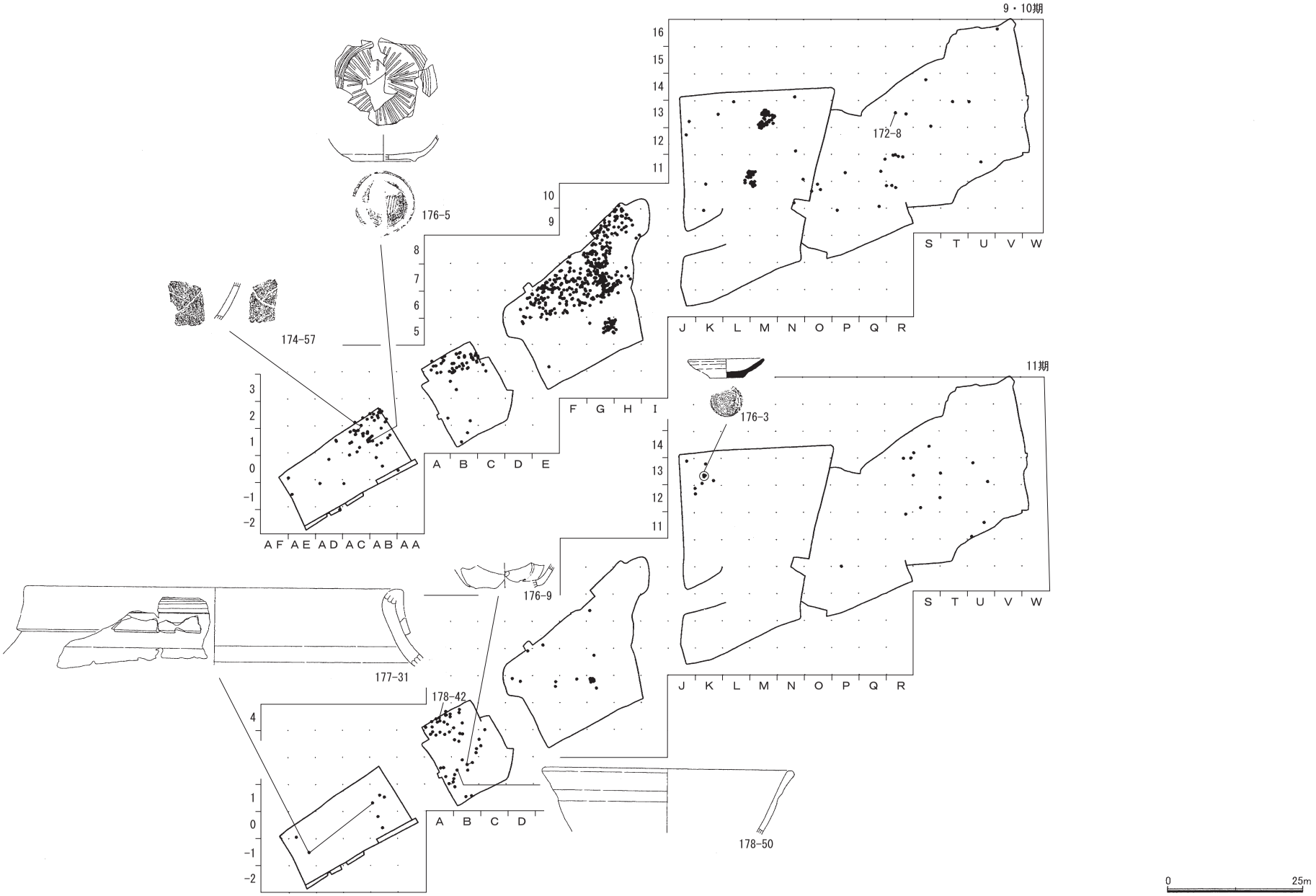
第180図　遺構外出土金属製品図



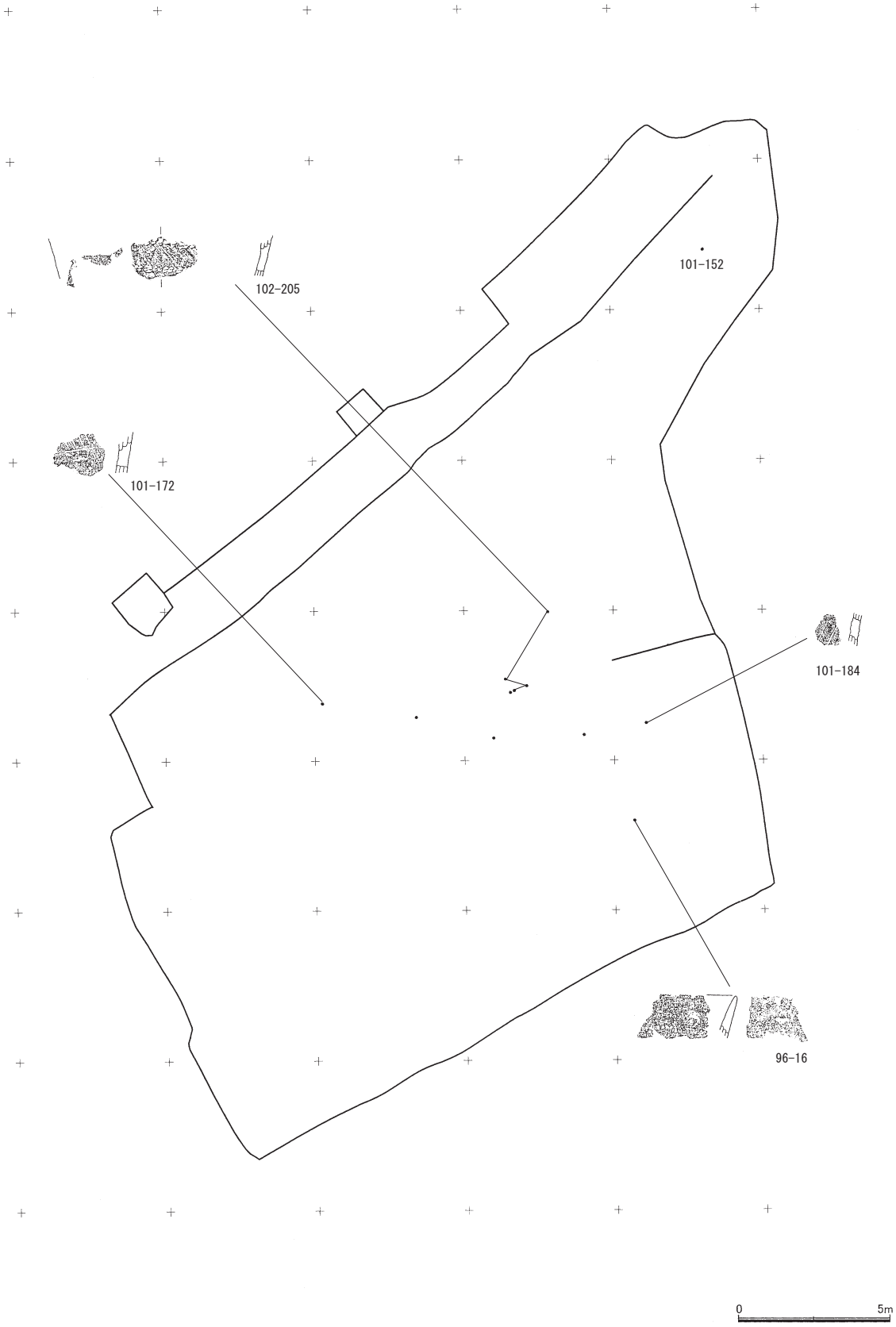
第181図　遺物分布図（１～４期）



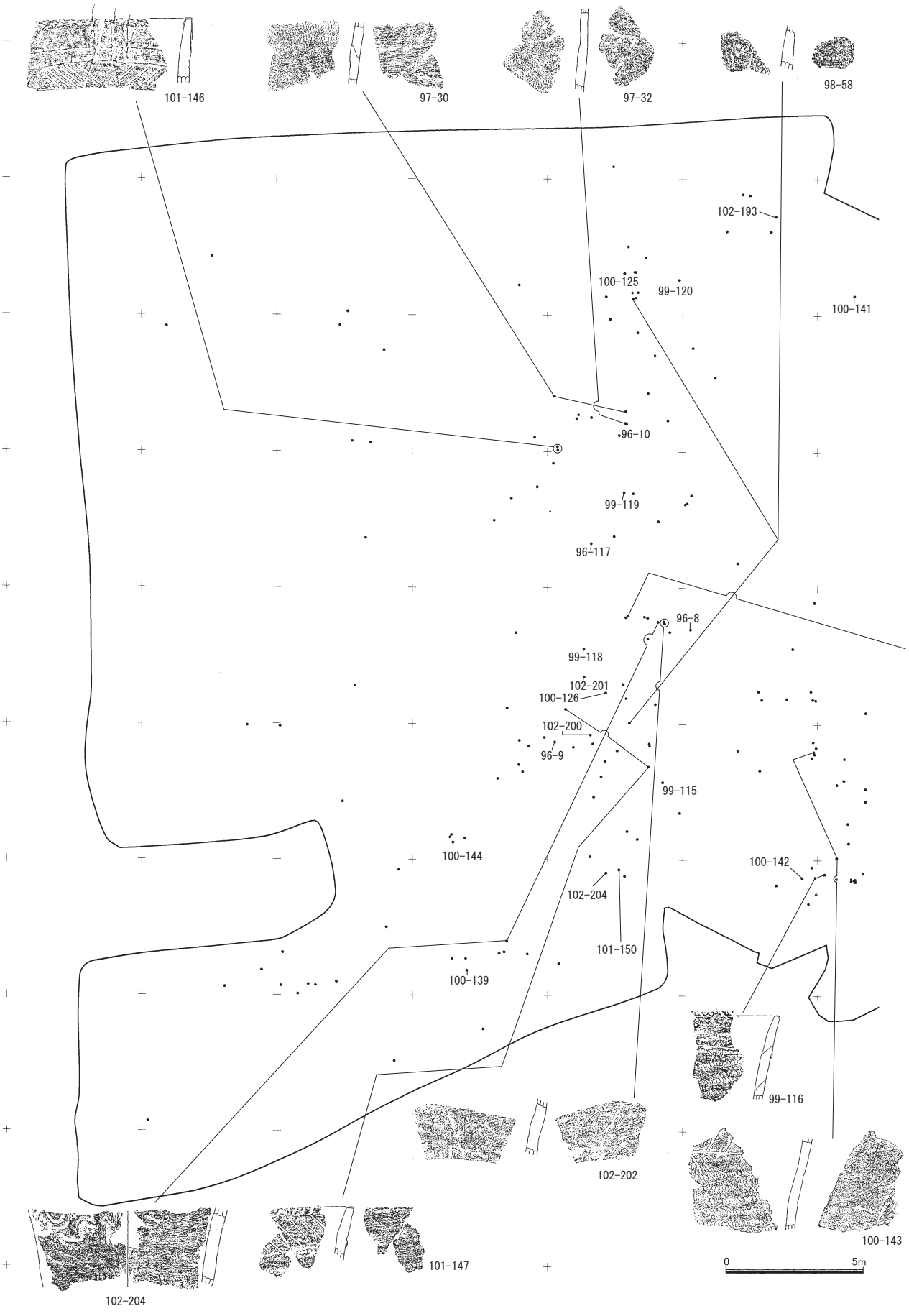
第182図　遺物分布図（５～８期）



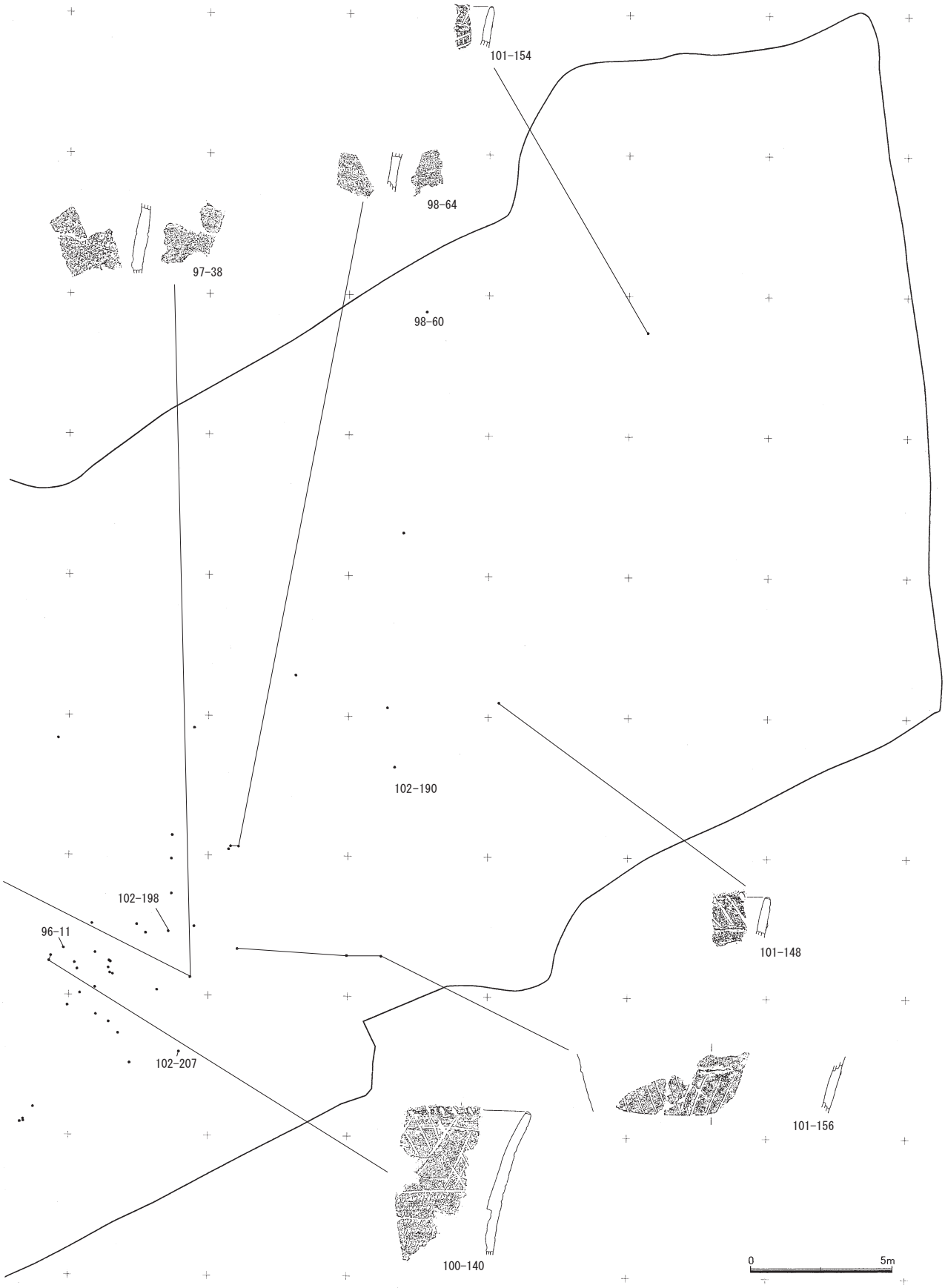
第183図　遺物分布図（９～11期）



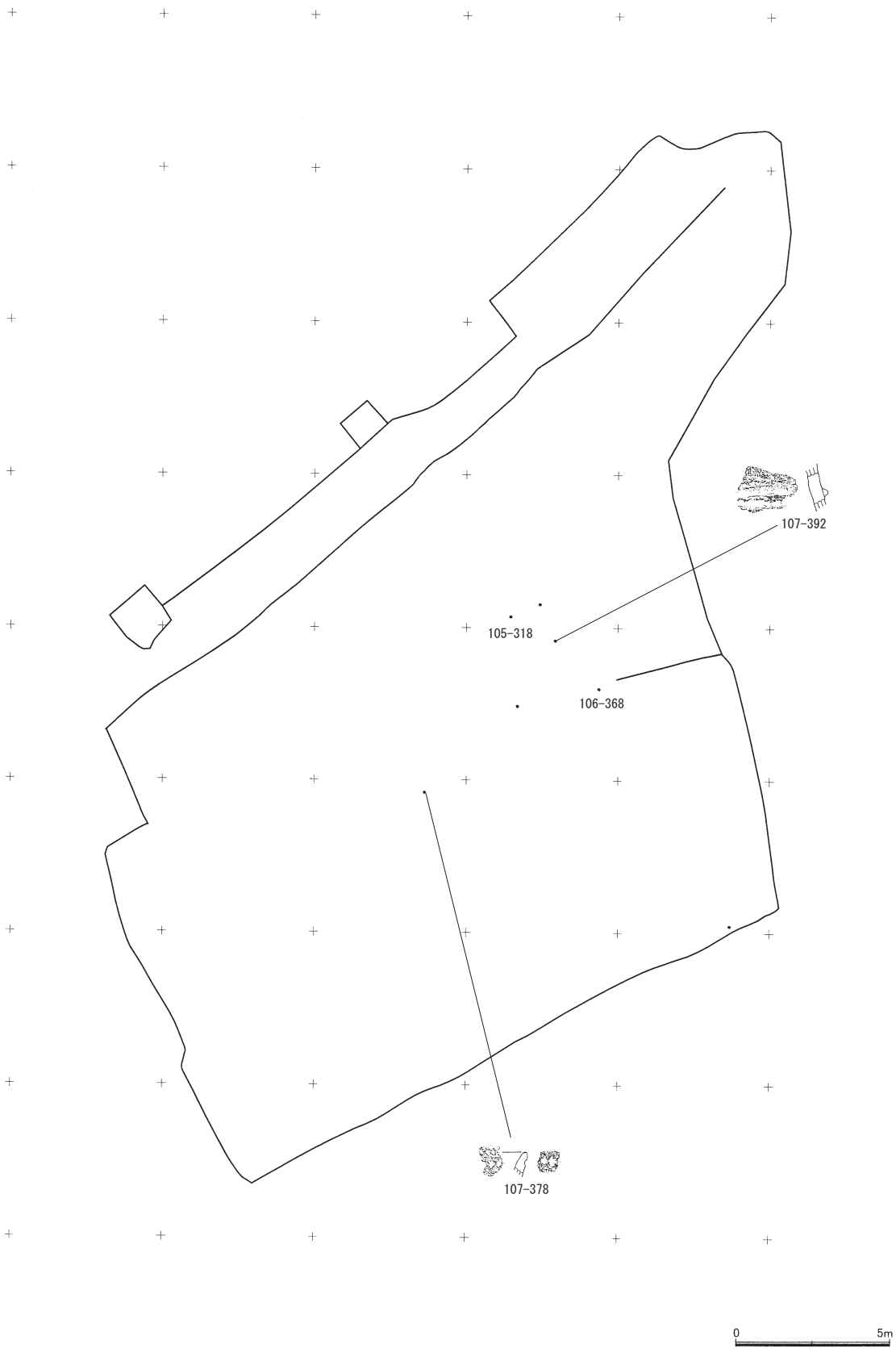
第184図　縄文早期土器分布図（２期）



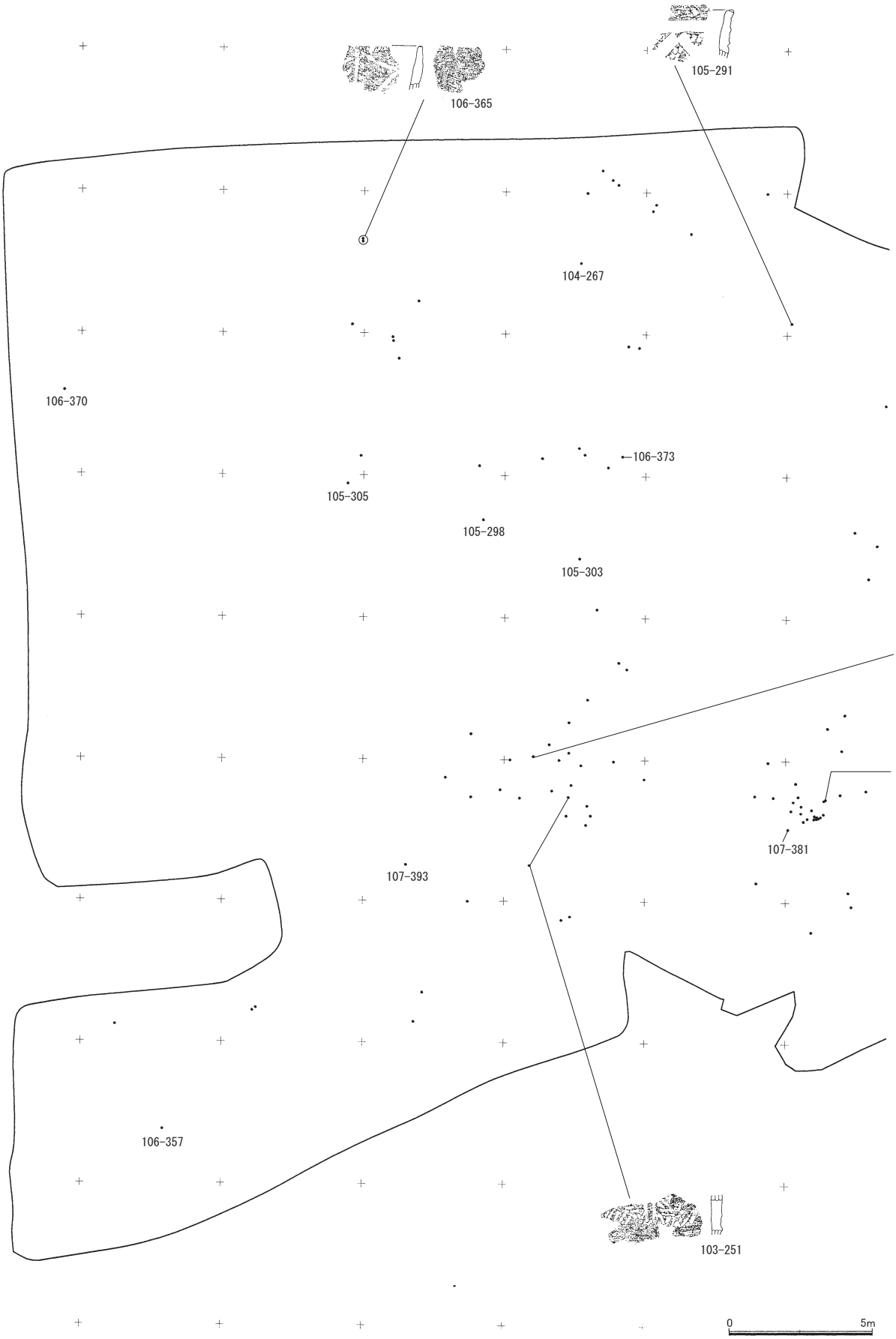
第185図　縄文早期土器分布図（２期）



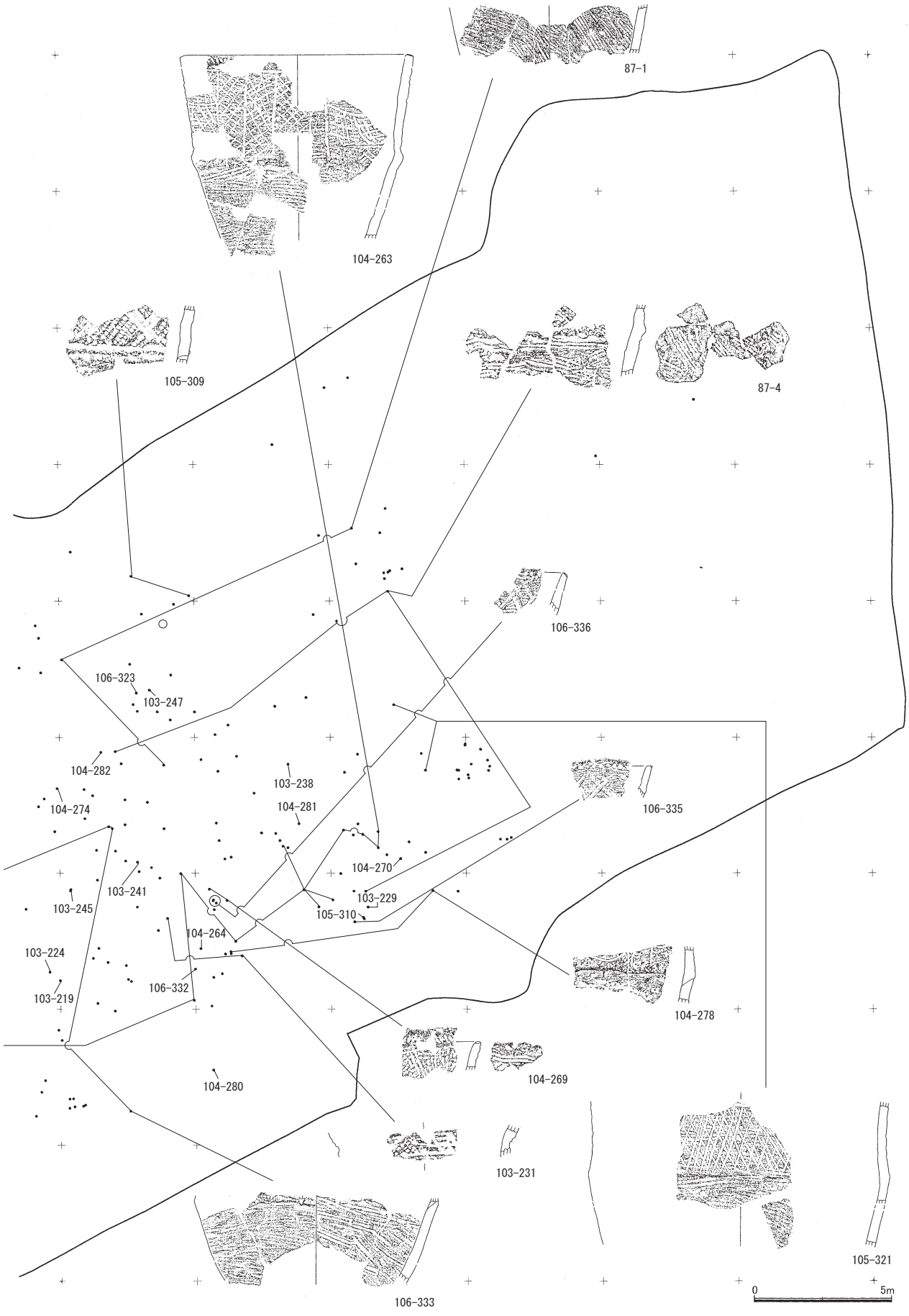
第186図　縄文早期土器分布図（２期）



第187図　縄文早期土器分布図（４期）

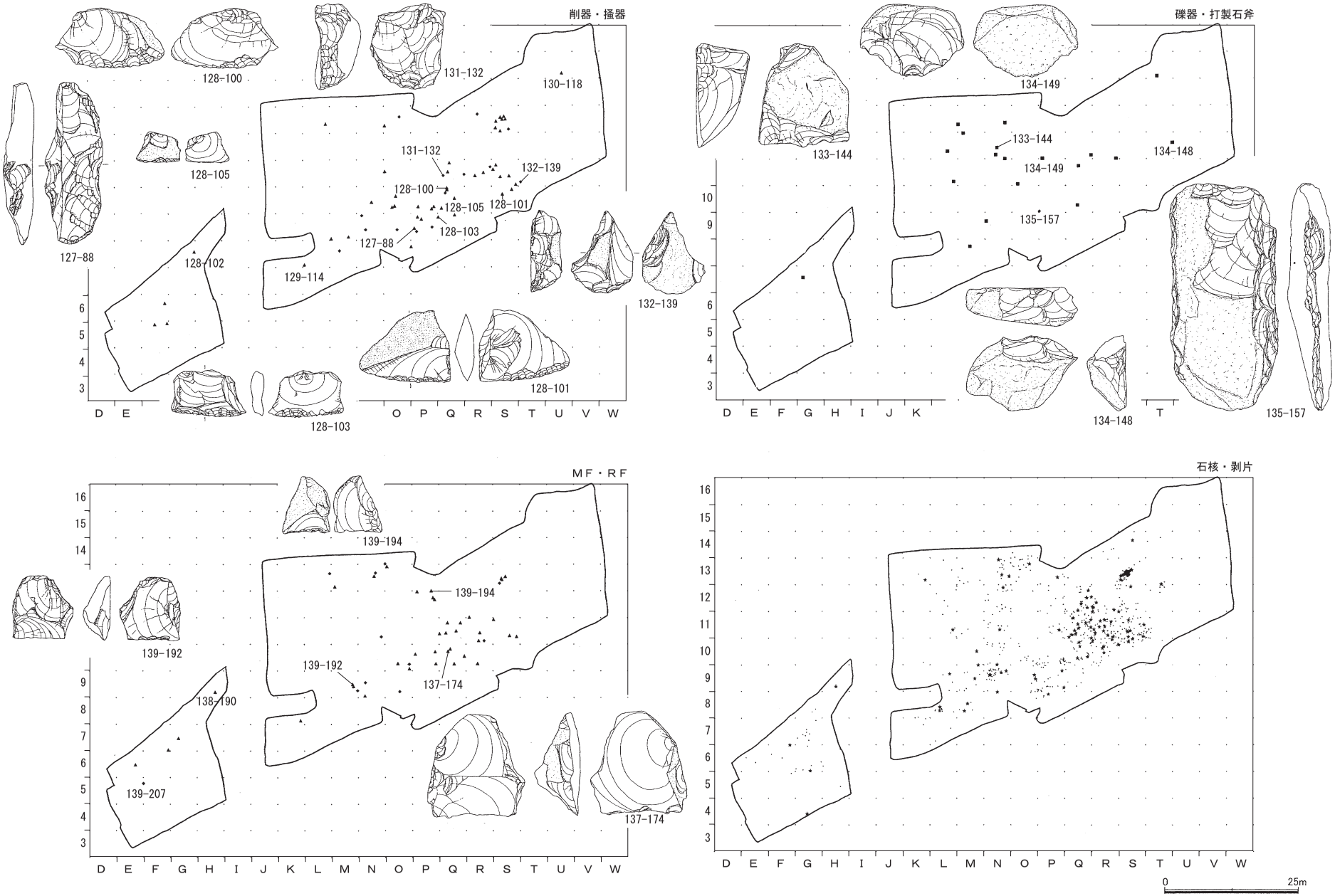


第188図　縄文早期土器分布図（４期）

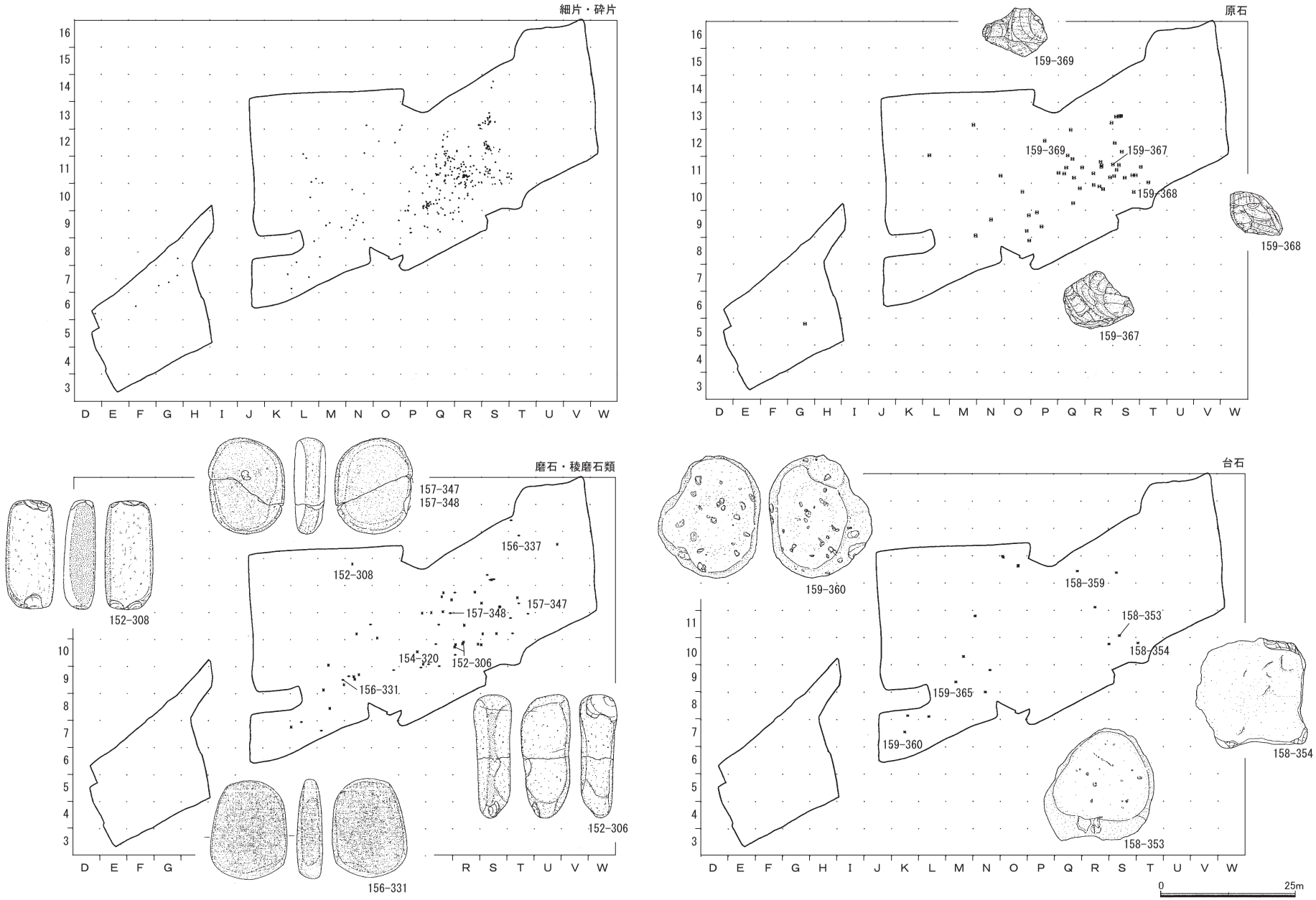


第189図　縄文早期土器分布図（４期）

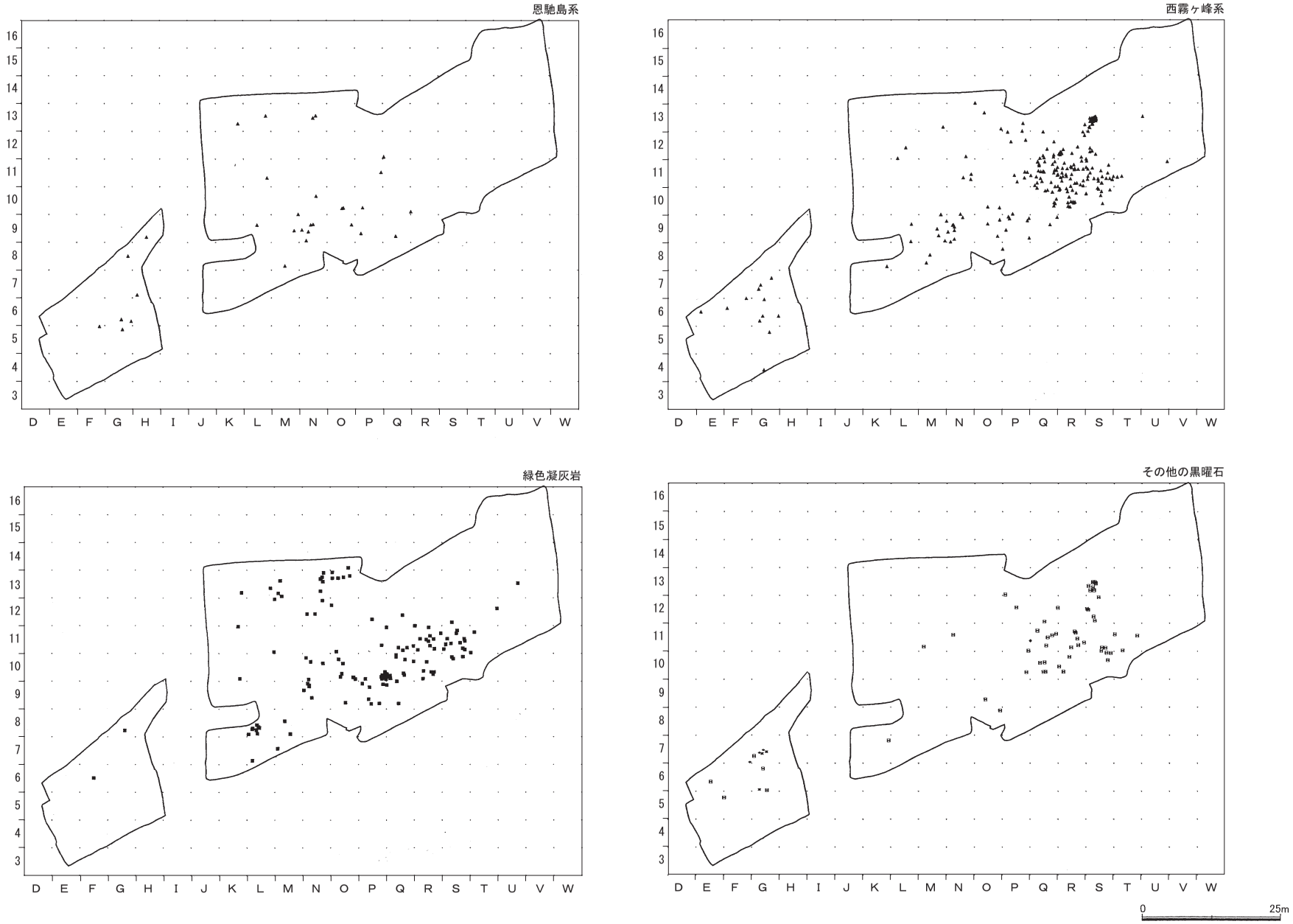
第190図　縄文早期石器分布図１



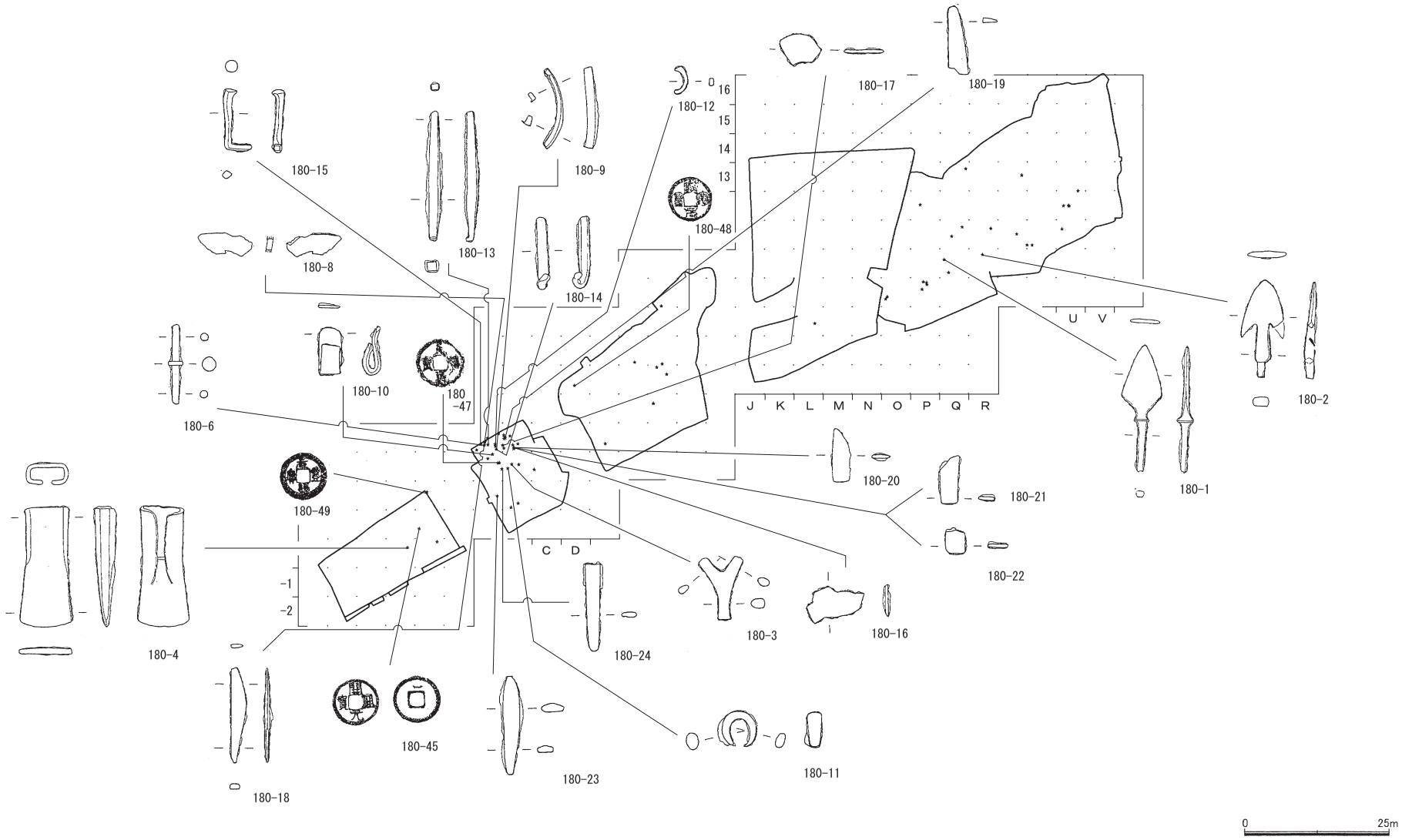
第191図　縄文早期石器分布図２



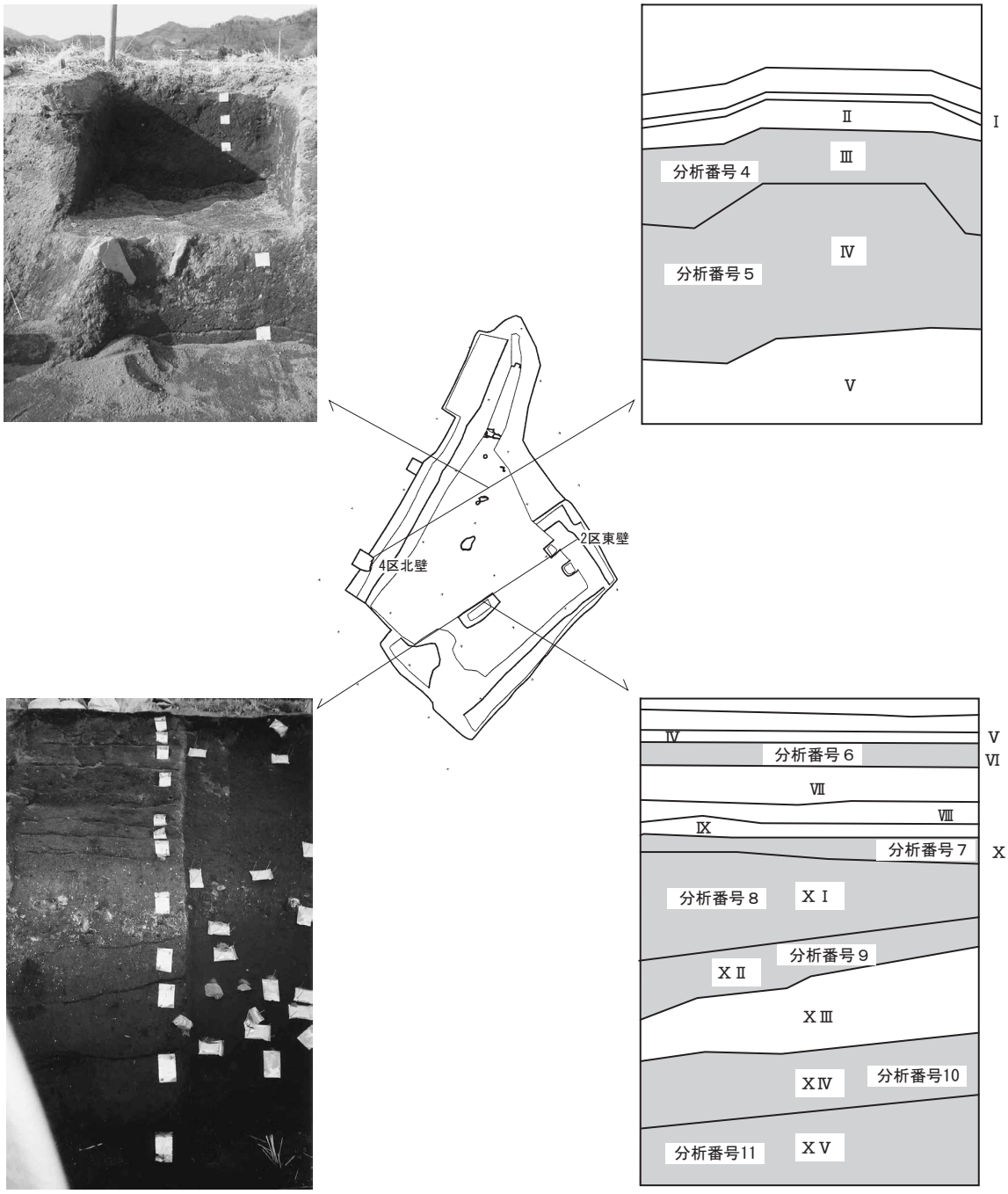
第192図　縄文早期石器分布図３



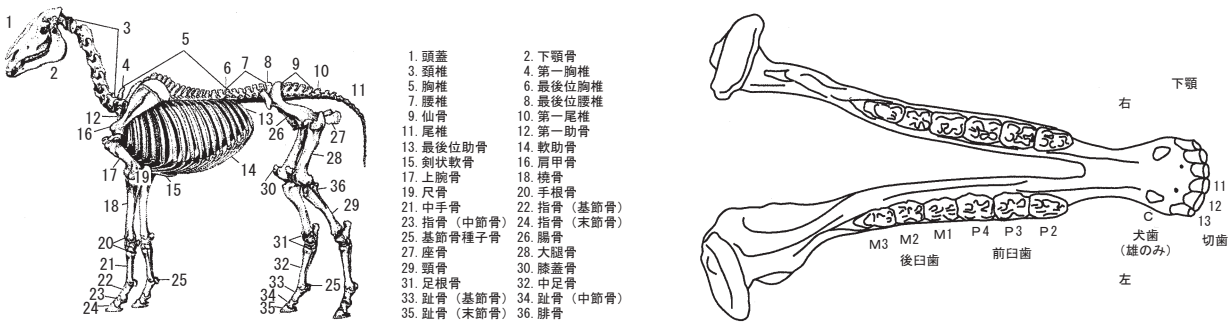
第193図　縄文早期石器石材分布図



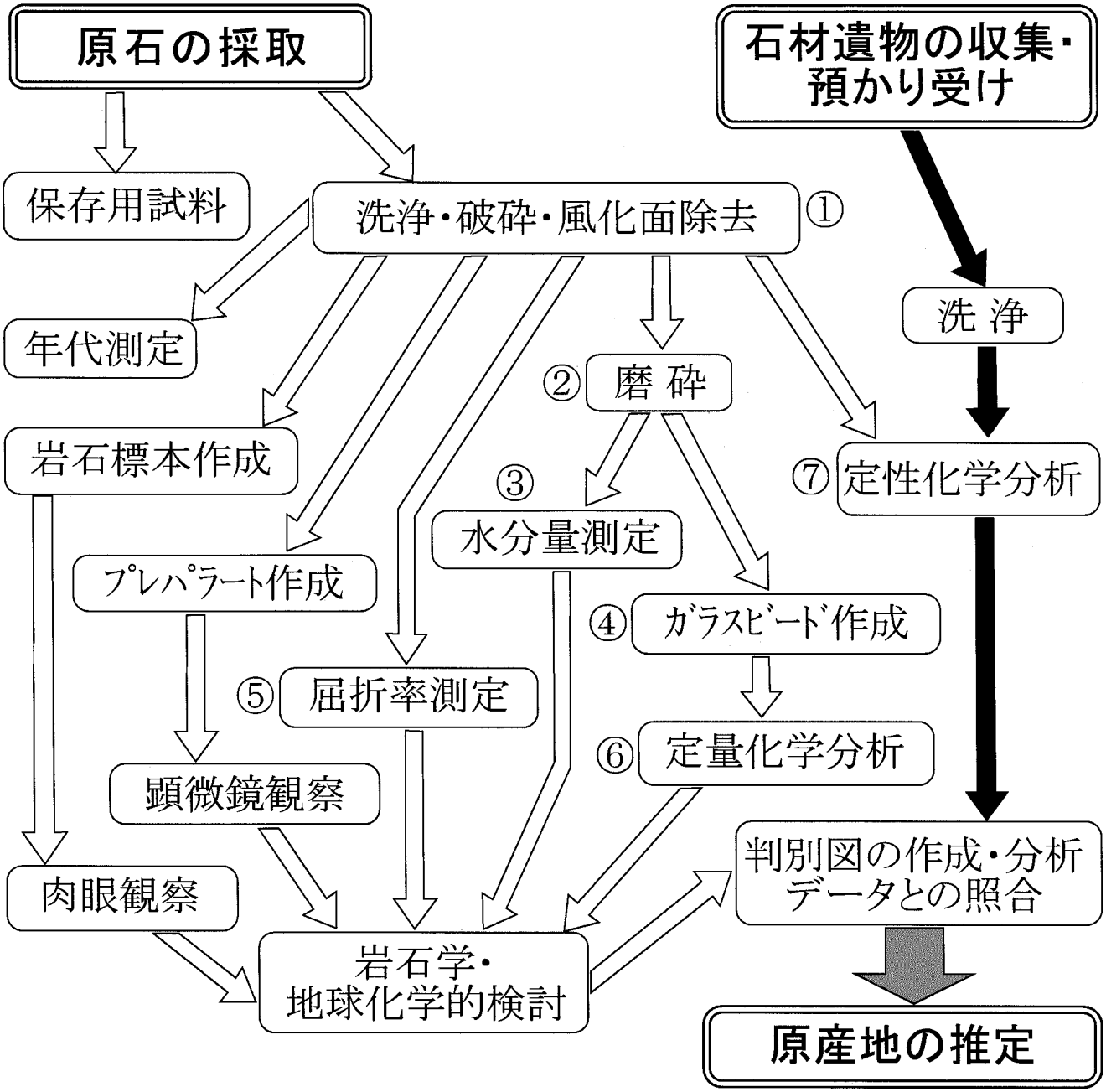
第194図　金属製品分布図



第195図　炭化物採取地点平面・土層図



第196図　馬の骨格



① 洗浄・破砕・風化面除去 ：試料の洗浄，およびトリミングによって，風化・酸化部位を除去する．使用機器：超音波洗浄機，Renfert basic master．

② 磨砕 ：試料がパウダー状になるまで鉄乳鉢，およびメノウ製自動乳鉢を用いて磨砕する．使用機器：フリッチュ遊星型ボールミルP-6．

③ 水分量測定 ：試料を燃焼して原石に含まれる水分量を測定する．測定機器：カールフィッシャー水分計MKC-610，および水分気化装置ADP-512．

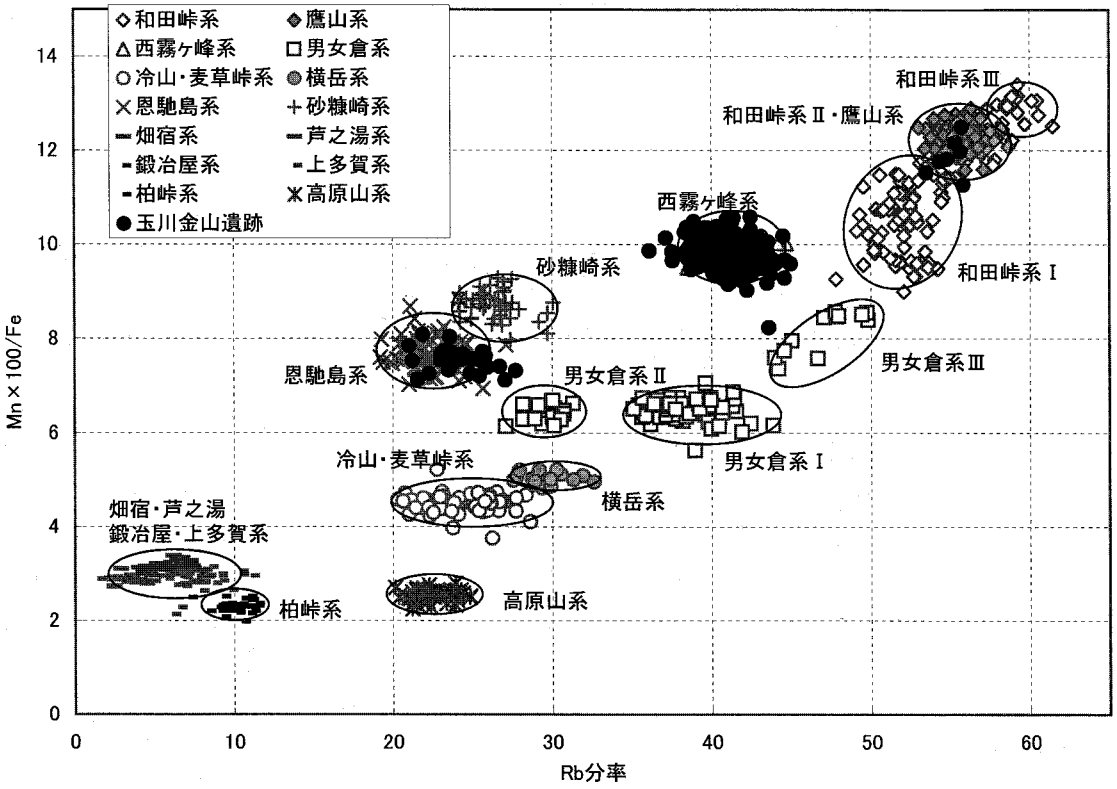
④ 溶融ﾋﾞｰﾄﾞ試料の作成 ：粉末試料をフラックス(触剤．四ホウ酸リチウム)とともに1100℃，8分で溶融させ，ｶﾞﾗｽﾋﾞｰﾄﾞ(おはじき状のｶﾞﾗｽ板)を作成する．使用機器：日本サーモニクス NT2100

⑤ 屈折率測定 ：既知の屈折率をもった浸液を用い，透明～半透明試料の屈折率を測定する．屈折率は化学組成を反映しており，また少量かつ簡便な測定が可能．測定機器：京都ﾌｨｯｼｮﾝﾄﾗｯｸ温度変化屈折率測定ｼｽﾃﾑ RIMS2000

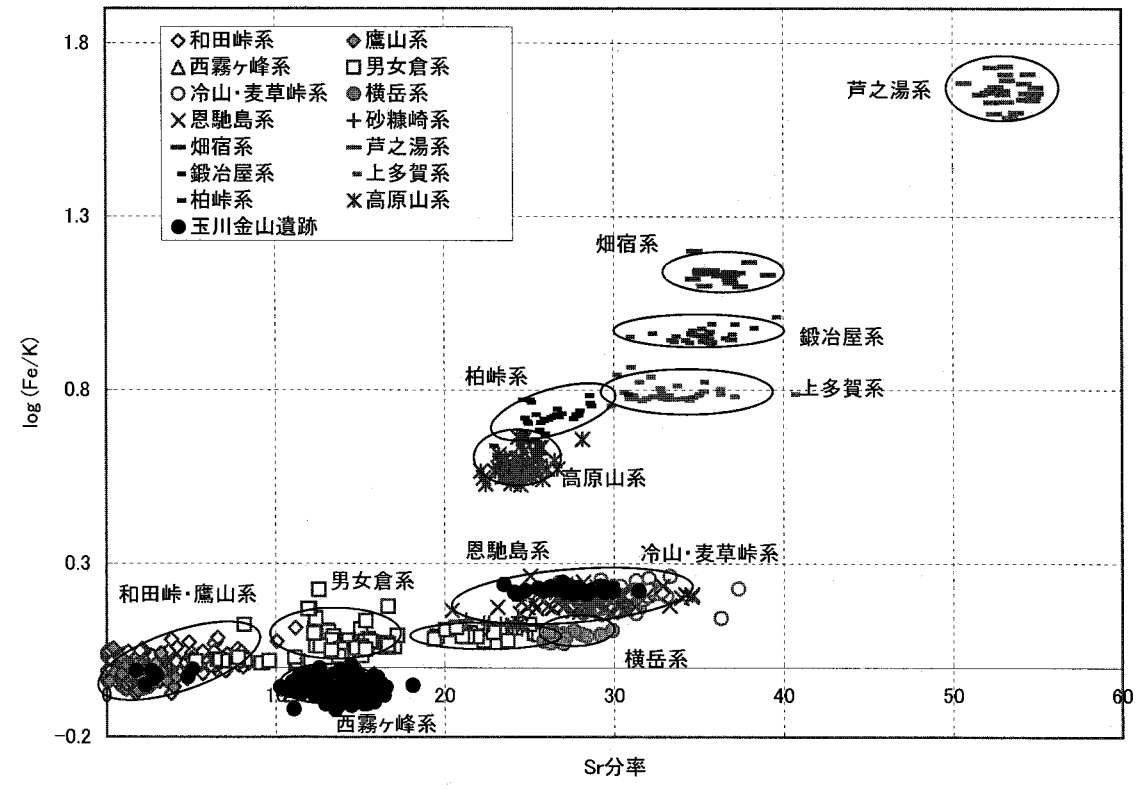
⑥ 定量化学分析 ：波長分散型蛍光X線分析装置を使用．Na,Mg,Al,Si,P,K,Ca,Ti,V,Mn,Fe,Co,Ni,Rb,Y,Zr等の元素を定量する．6試料の連続測定が可能．測定機器：リガクRIX1000

⑦ 定性化学分析 ：エネルギー分散型蛍光X線分析装置を使用．化学成分の存在比を非破壊，非接触で測定している．16試料の連続測定が可能．測定機器：日本電子JSX-3201

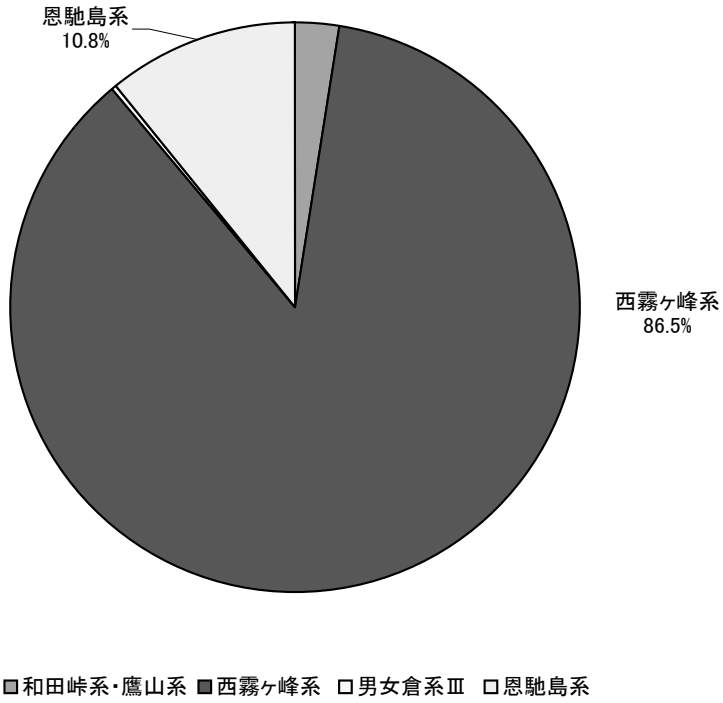
第197図　石材遺物の原産地推定



第198図　玉川金山遺跡の判別図（Ｒｂ分率）



第199図　玉川金山遺跡の判別図（Ｓｒ分率）

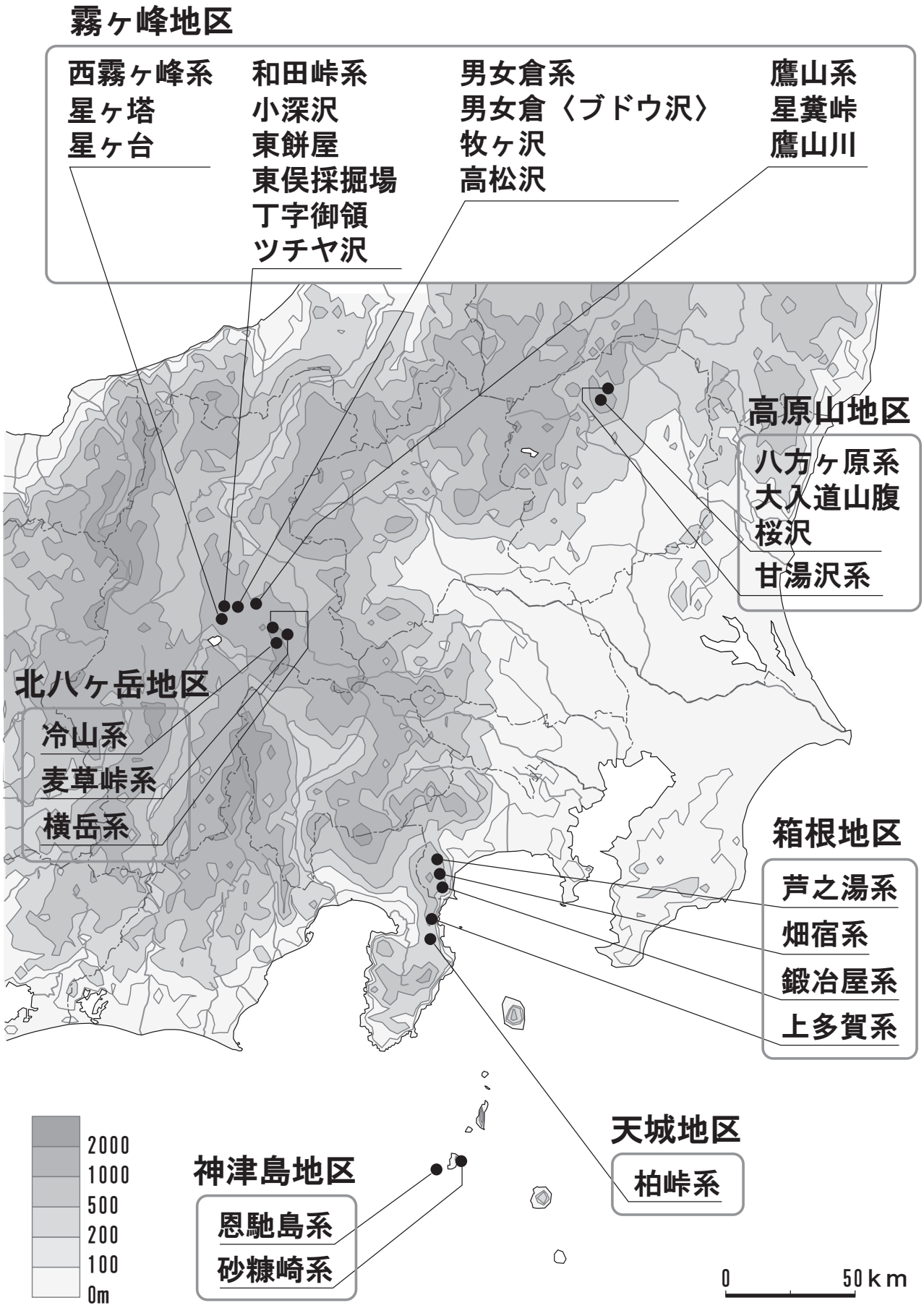


第200図　玉川金山遺跡における原産地構成

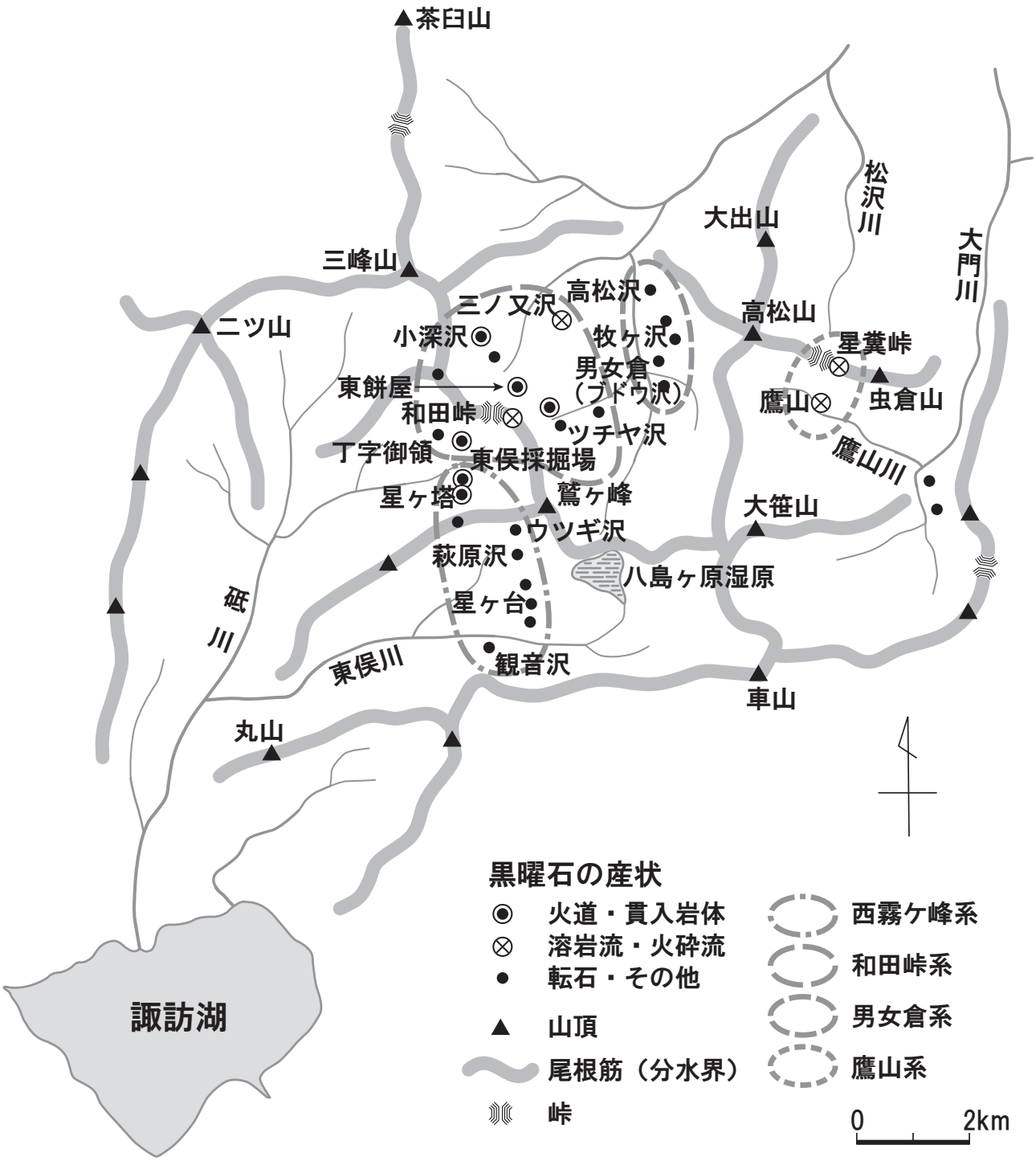
第9表　玉川金山遺跡における原産地推定の集計結果

土器型式	測定点数	判別点数	和田峠系･鷹山系	西霧ヶ峰系	男女倉系Ⅲ	恩馳島系	判別不可
子母口式併行期と鵜ヶ島台式期	349	288	7	249	1	31	61

和田峠系Ⅰ	細分不可
3	4



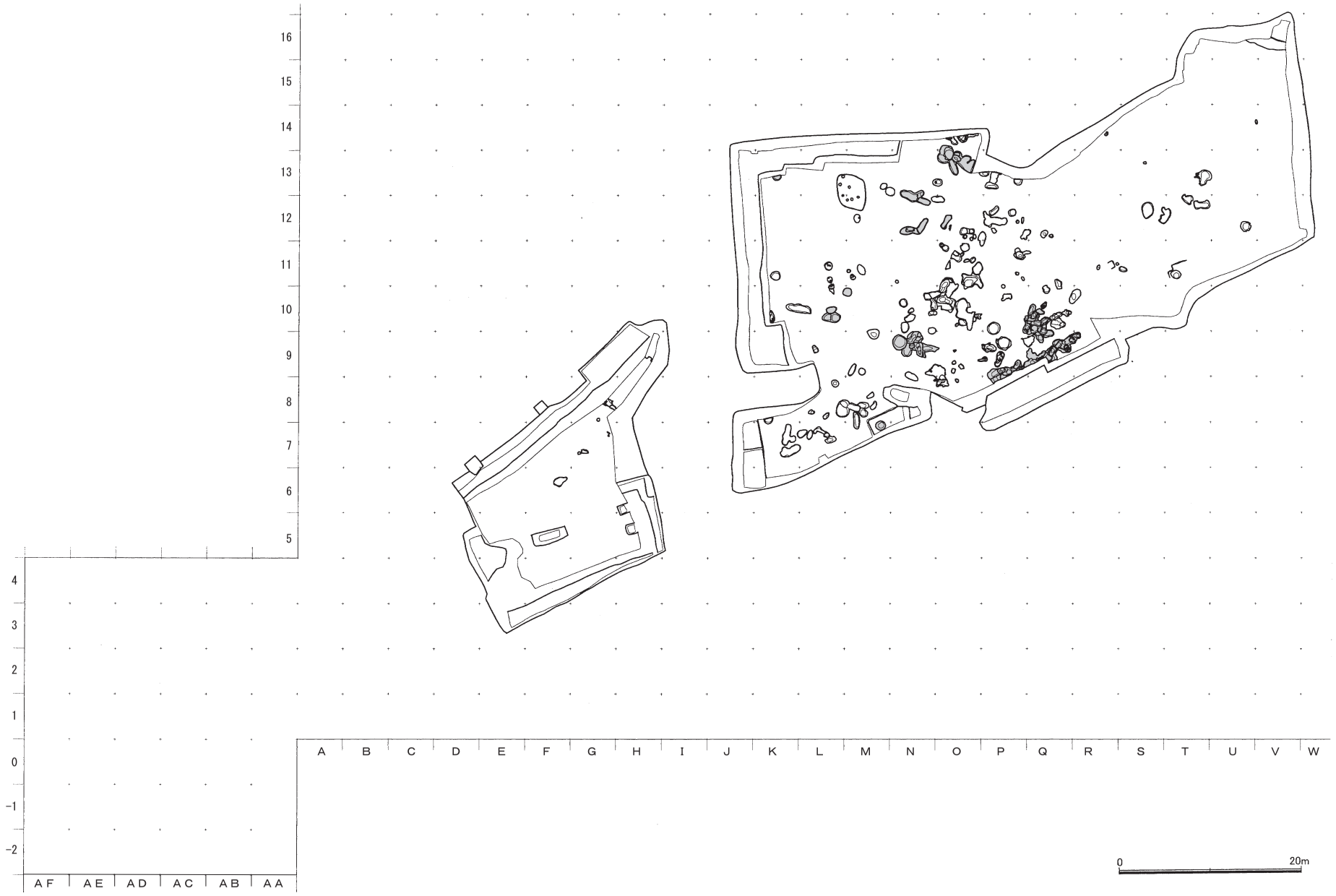
第201図　石器時代における関東・中部地方の黒曜石原産地



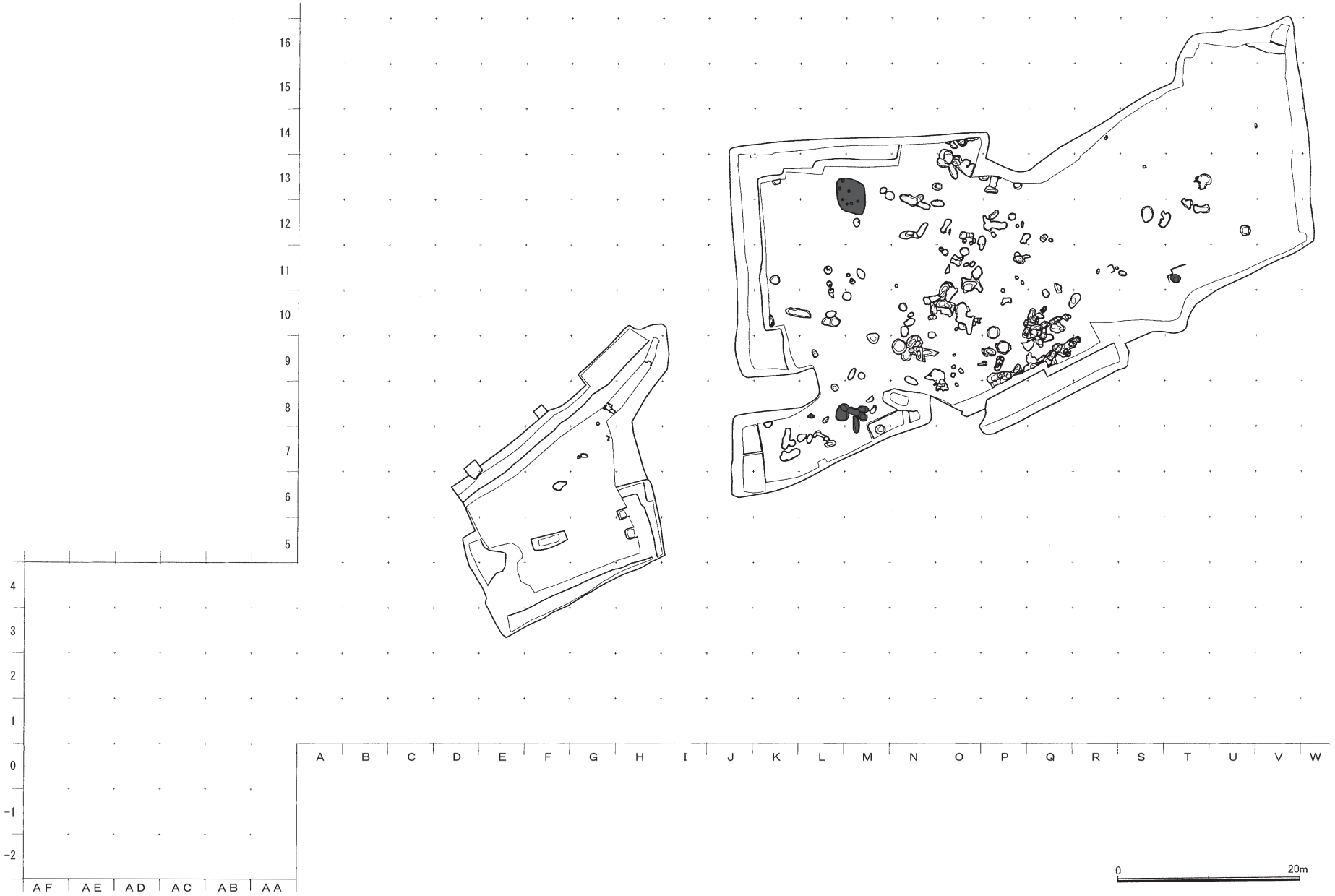
第202図　「霧ヶ峰地区」における黒曜石原産地

N
16
15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
4
3
2
1
0
−1
−2
AF
AE
AD
AC
AB
AA
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
V
W
0
40m
488.000
484.000
480.000
旧地表面
第１２３面
第４面

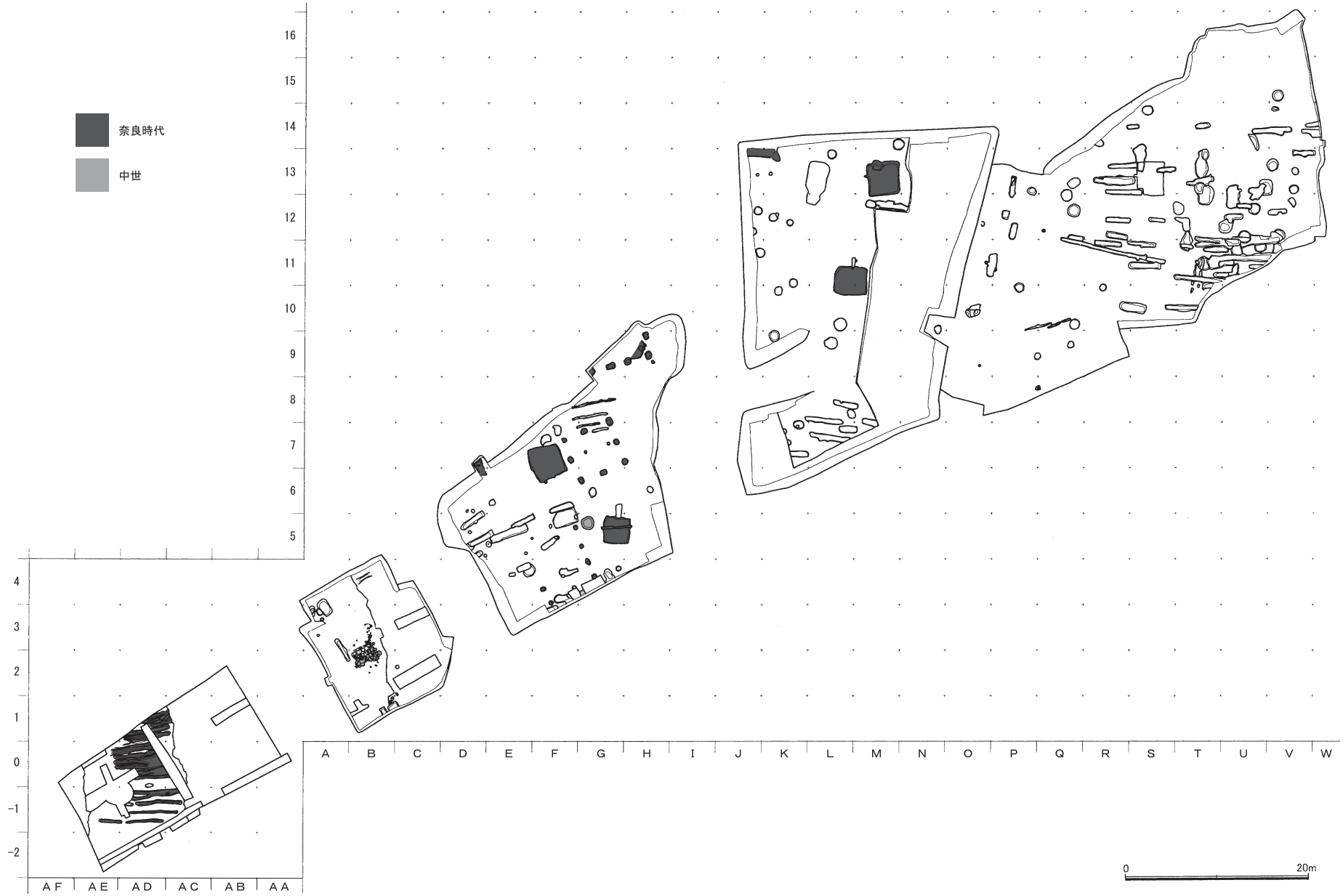
第203図　地形の変遷



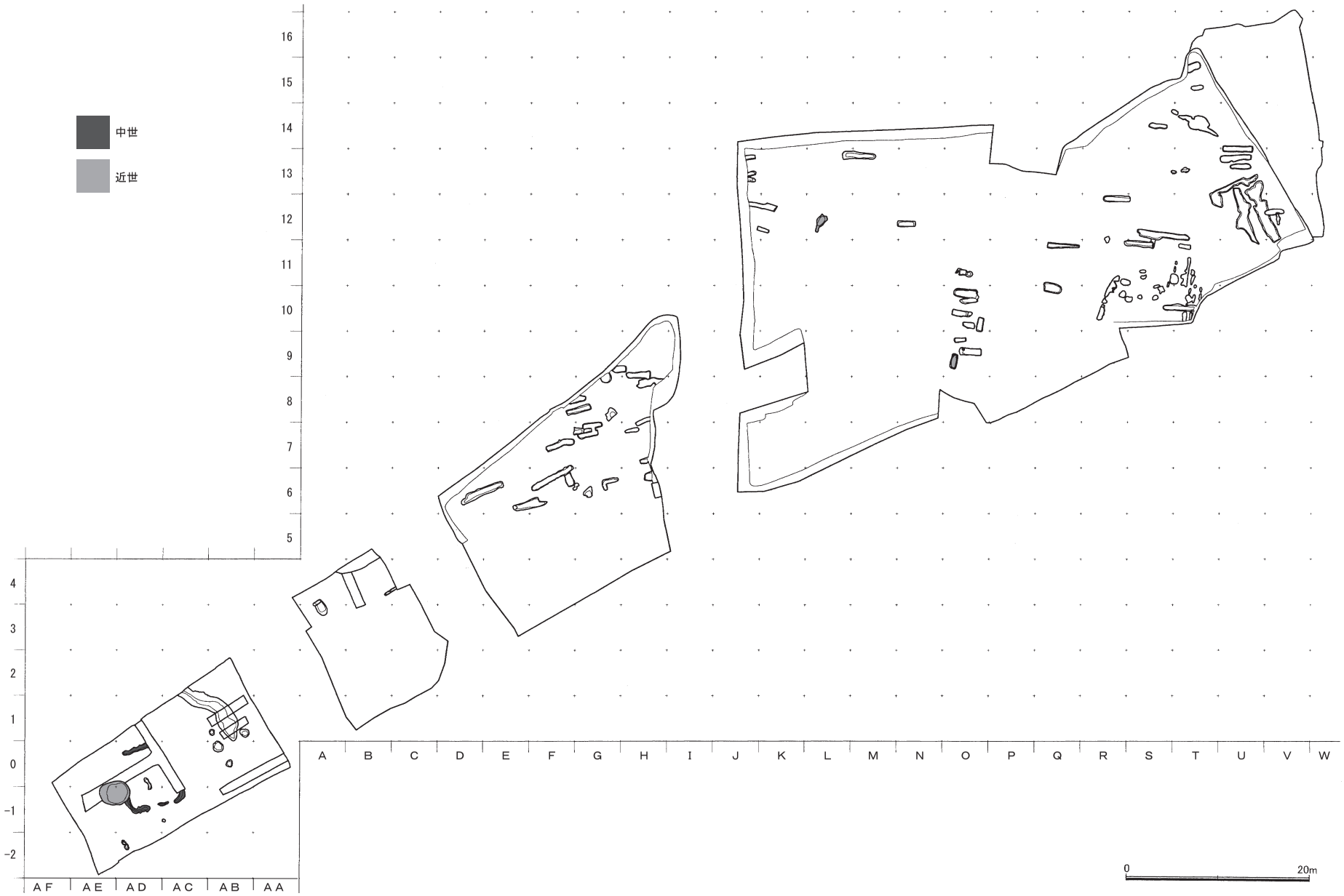
第204図　遺構分布図（子母口式併行期）



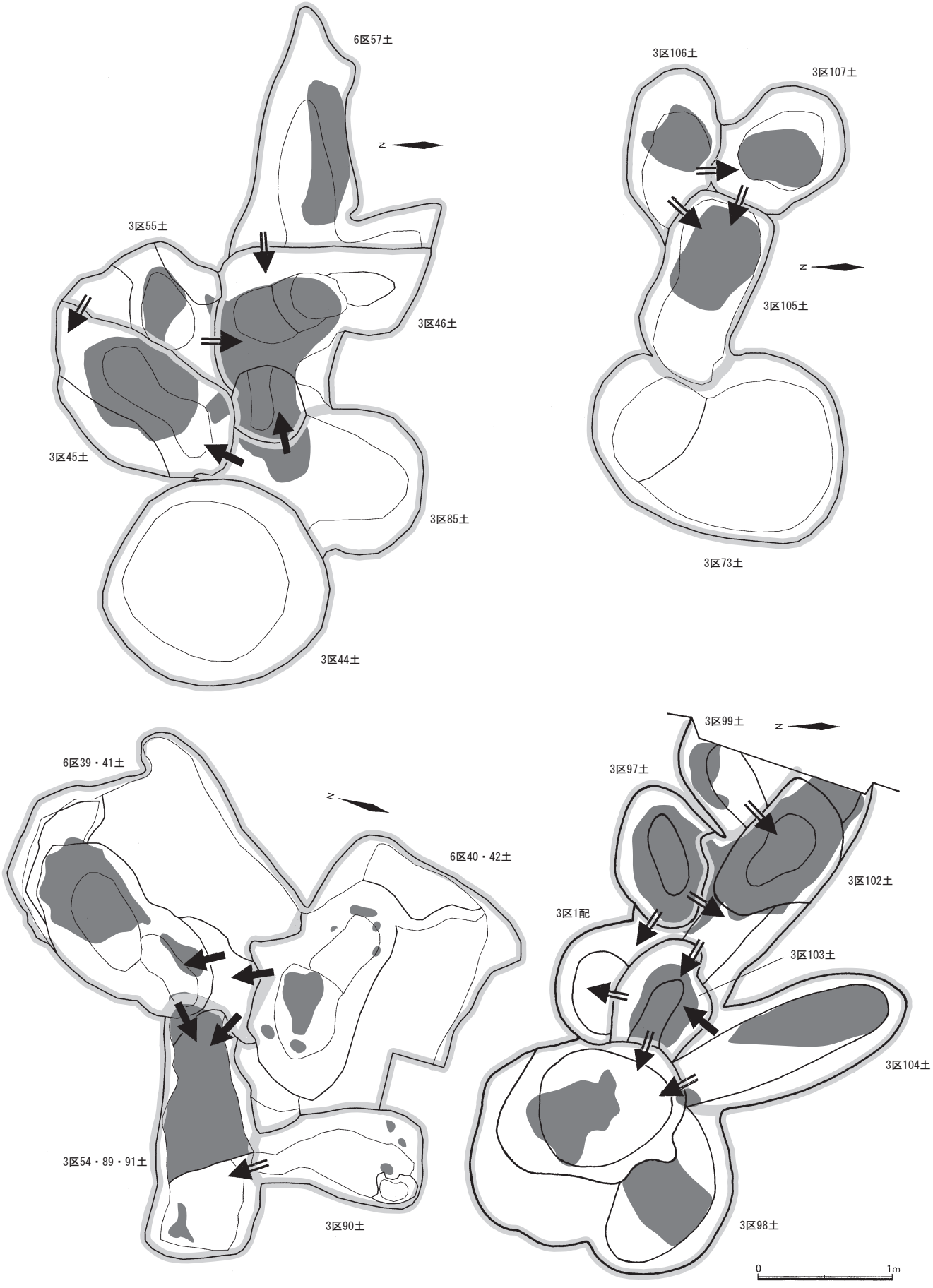
第205図　遺構分布図（鵜ヶ島台式期）



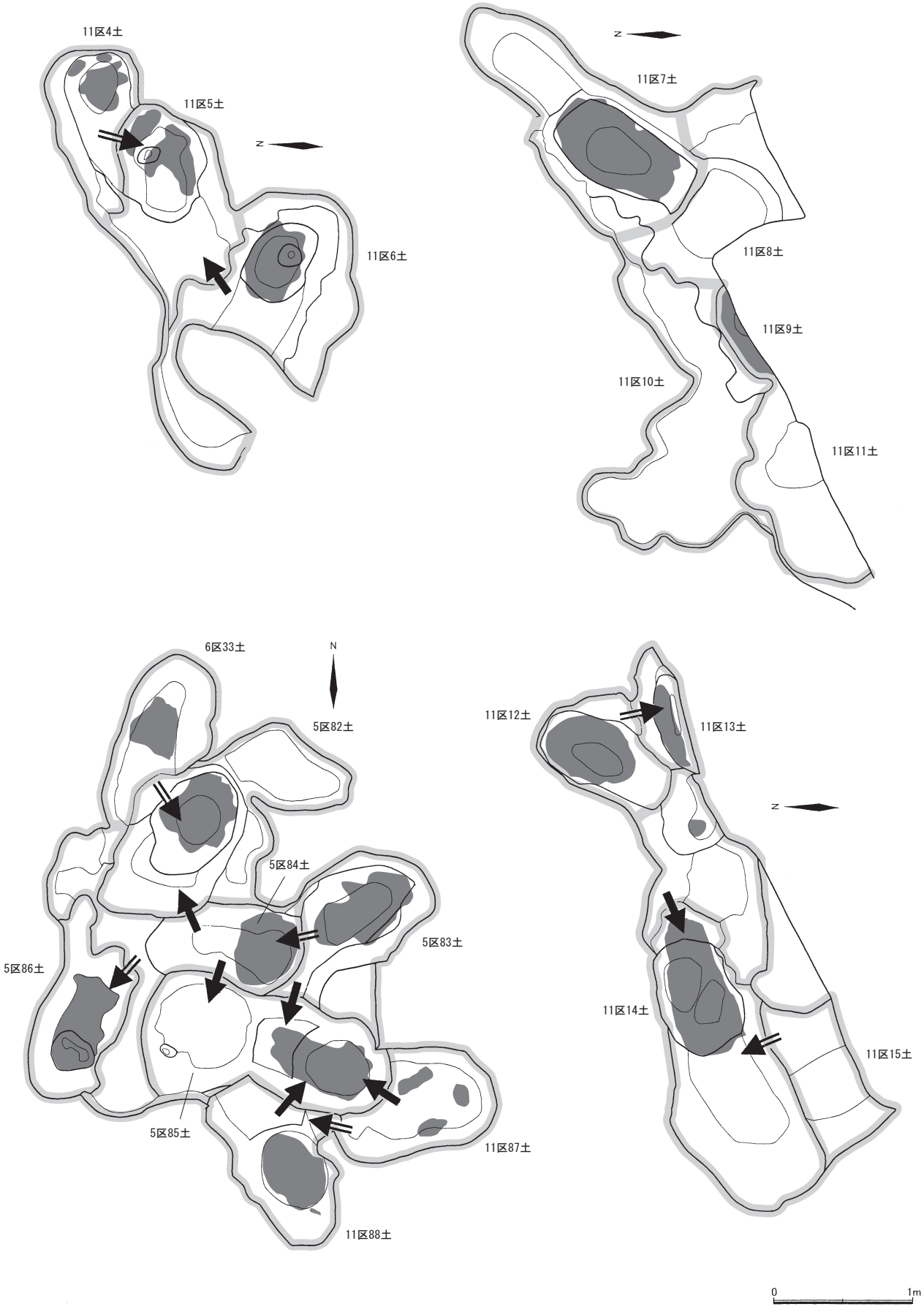
第206図　遺構分布図（奈良時代・中世）



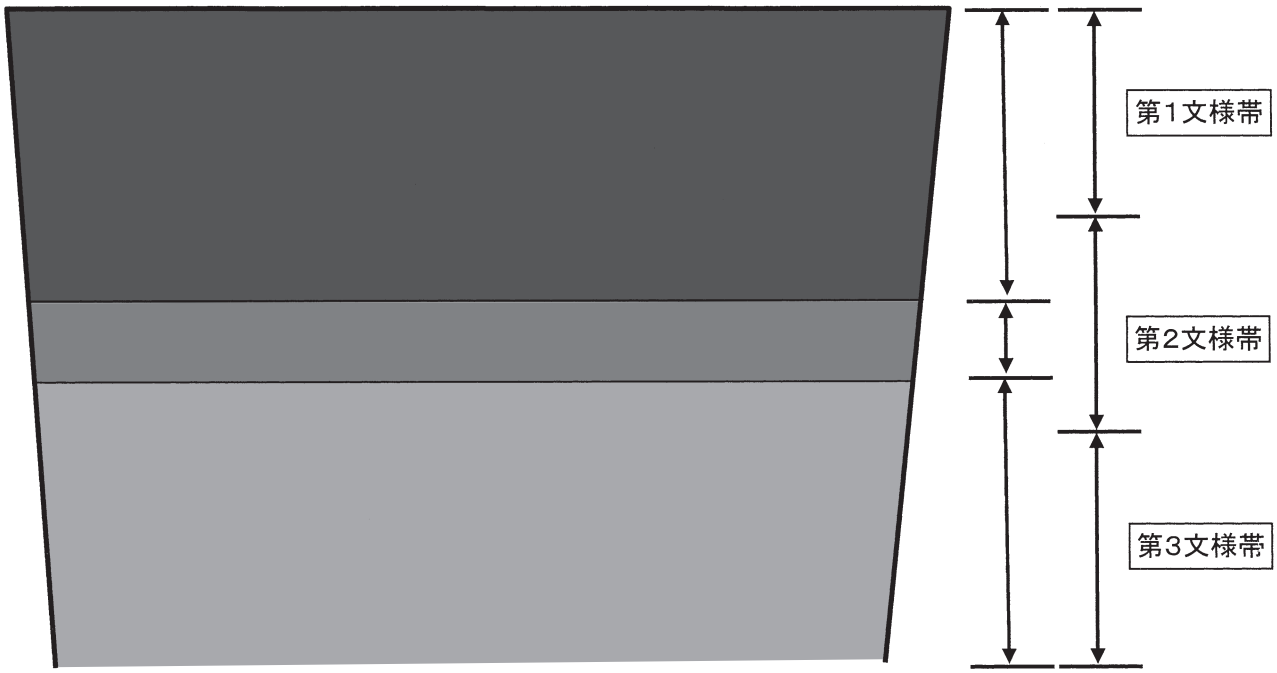
第207図　遺構分布図（中世・近世）



第208図　炉穴群の変遷１

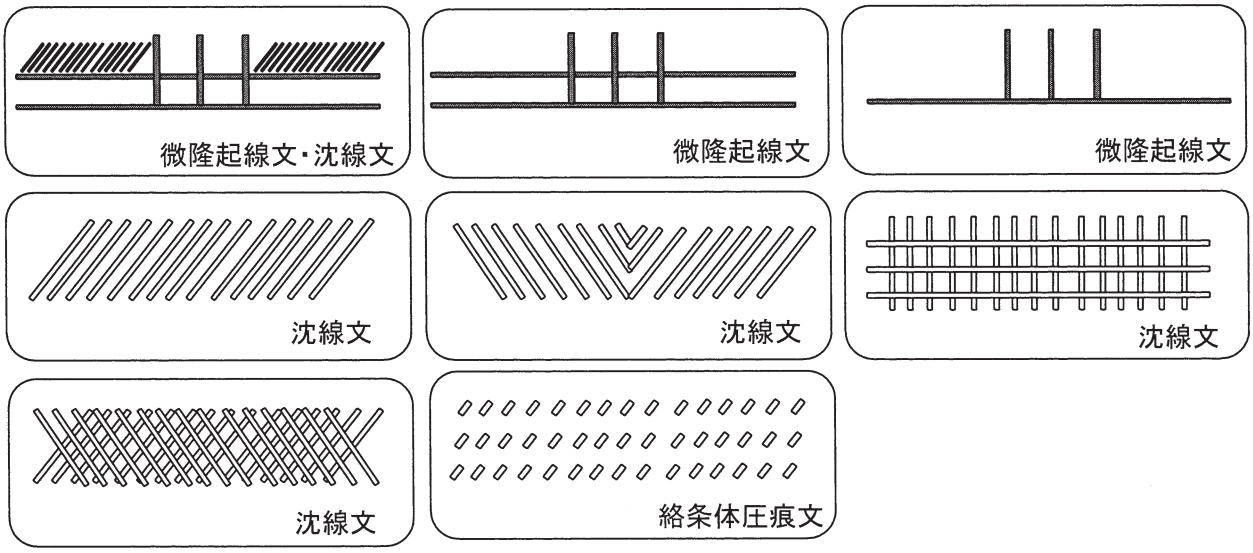


第209図　炉穴群の変遷２

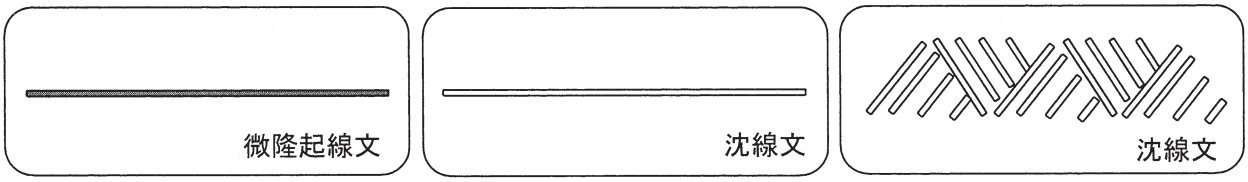


第1・2・3文様帯の幅は一定ではなく、第2文様帯は省略されることもある。

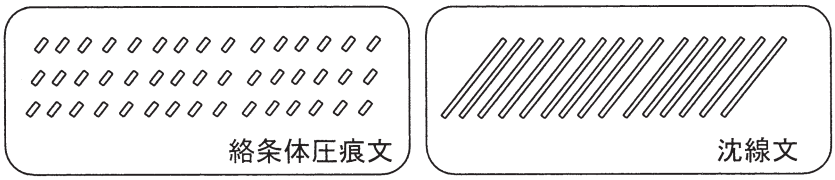
第1文様帯の文様群



第2文様帯の文様群

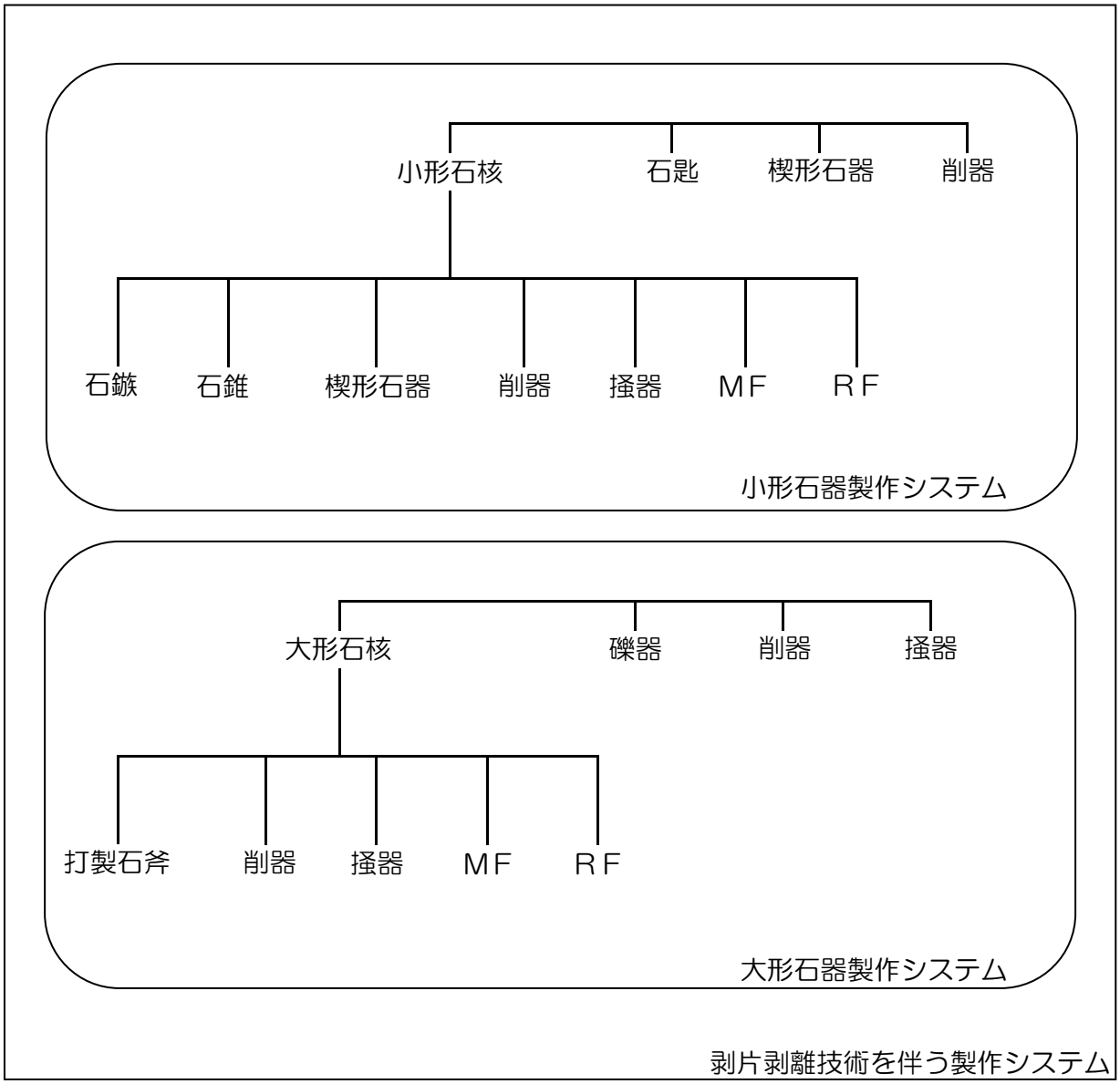


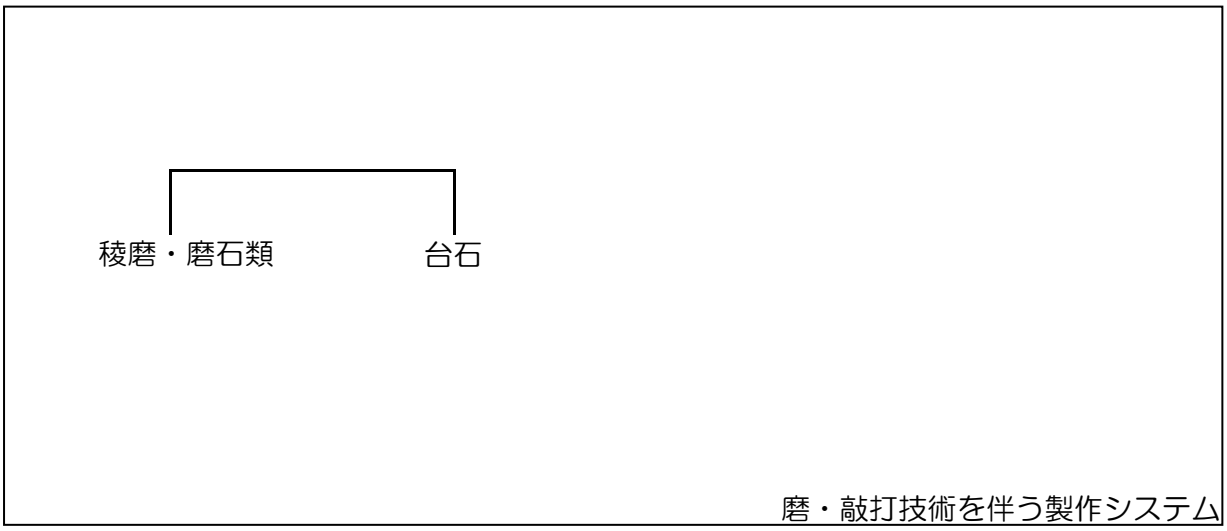
第3文様帯の文様群



第210図　子母口式併行期の土器文様

石器製作技術構造





第211図　石器群構造模式図

第10表　遺構一覧表

調査区	遺構名	位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	面数	時期
1区	9号焼土集中	B-3	円形	30	26	—	第Ⅰ面	中世～近世
1区	10号焼土集中	B-3	不整円形	40	40	—	第Ⅰ面	中世～近世
1区	13号焼土集中	B-3	楕円形	21	18	—	第Ⅰ面	中世～近世
1区	14号焼土集中	C-3	不整形	44	34	—	第Ⅰ面	中世～近世
1区	15号焼土集中	C-3	不整円形	52	48	19	第Ⅰ面	中世～近世
1区	16号焼土集中	C-3	長楕円形	37	11	—	第Ⅰ面	中世～近世
1区	17号焼土集中	B-2	不整形	66	24	—	第Ⅰ面	中世～近世
2区	1号焼土集中	H-5・6	楕円形	96	36	—	第Ⅰ面	中世～近世
2区	2号焼土集中	F-5	不整形	56	52	—	第Ⅰ面	中世～近世
2区	3号焼土集中	F-4・5	不整円形	59	44	—	第Ⅰ面	中世～近世
2区	4号焼土集中	E・F-4	不整円形	47	44	—	第Ⅰ面	中世～近世
2区	5号焼土集中	E-4	不整形	128	48	—	第Ⅰ面	中世～近世
2区	6号焼土集中	E-4	不整形	50	48	—	第Ⅰ面	中世～近世
2区	7号焼土集中	E-4	円形	42	37	—	第Ⅰ面	中世～近世
2区	8号焼土集中	E-3・4	不整形	50	50	—	第Ⅰ面	中世～近世
2区	11号焼土集中	H-5	不整円形	20	15	6	第Ⅰ面	中世～近世
2区	12号焼土集中	F-6	不整形	36	26	—	第Ⅰ面	中世～近世
3区	15号土坑	L-12	不整形	(204)	(87)	—	第Ⅰ面	—
3区	9号溝状遺構	J-13	長方形	(111)	48	18	第Ⅰ面	—
3区	10号溝状遺構	J-13	不整形	(110)	47	6	第Ⅰ面	—
3区	11号溝状遺構	J-13	不整形	93	47	3	第Ⅰ面	—
3区	12号溝状遺構	J・K-12	不整形	(313)	68	16	第Ⅰ面	—
3区	13号溝状遺構	J・K-12	長方形	130	40	8	第Ⅰ面	—
3区	14号溝状遺構	L・M-13	長方形	185	88	46	第Ⅰ面	—
3区	15号溝状遺構	M・N-12	長方形	196	62	8	第Ⅰ面	—
3区	18号焼土集中	L・M-13	不整円形	63	56	—	第Ⅰ面	中世～近世
3区	19号焼土集中	L-13	不整形	42	34	19	第Ⅰ面	中世～近世
3区	20号焼土集中	J-13	不整形	(82)	(54)	—	第Ⅰ面	中世～近世
3区	21号焼土集中	J・K-13	不整形	111	62	12	第Ⅰ面	中世～近世
3区	22号焼土集中	J・K-13	不整形	94	50	—	第Ⅰ面	中世～近世
3区	23号焼土集中	J・K-12・13	不整形	(252)	80	—	第Ⅰ面	中世～近世
4区	1号土坑	G-8・9	不整円形	117	(93)	—	第Ⅰ面	—
4区	2号土坑	G-8	不整形	125	(99)	—	第Ⅰ面	—
4区	3号土坑	G-6	不整形	121	95	—	第Ⅰ面	—
4区	4号土坑	F・G-6	不整形	68	48	—	第Ⅰ面	—
4区	1号溝状遺構	H-8・9	不整形	264	93	—	第Ⅰ面	—
4区	2号溝状遺構	H-8	不整形	(272)	91	—	第Ⅰ面	—
4区	3号溝状遺構	G・H-9	長方形	(134)	76	—	第Ⅰ面	—
4区	4号溝状遺構	F・G-8	不整形	(127)	71	—	第Ⅰ面	—
4区	5号溝状遺構	F・G-8	長方形	271	67	—	第Ⅰ面	—
4区	6号溝状遺構	G-7・8	長方形	214	61	—	第Ⅰ面	—
4区	7号溝状遺構	G-7	長方形	225	59	—	第Ⅰ面	—
4区	8号溝状遺構	F・G-7	不整形	(110)	80	—	第Ⅰ面	—
4区	9号溝状遺構	H-7・8	不整形	(160)	43	—	第Ⅰ面	—
4区	10号溝状遺構	H-7	不整形	154	46	—	第Ⅰ面	—
4区	11号溝状遺構	H-7	不整形	(84)	61	—	第Ⅰ面	—
4区	12号溝状遺構	H-6	不整形	106	(84)	—	第Ⅰ面	—
4区	14号溝状遺構	G-6	不整形	179	117	—	第Ⅰ面	—
4区	15号溝状遺構	F-7	不整形	319	73	—	第Ⅰ面	—
4区	16号溝状遺構	F-6・7	長方形	511	78	—	第Ⅰ面	—
4区	17号溝状遺構	F-6	不整形	(140)	86	—	第Ⅰ面	—
4区	18号溝状遺構	E・F-6	不整形	369	105	—	第Ⅰ面	—
4区	19号溝状遺構	D・E-6	不整形	499	97	—	第Ⅰ面	—
4区	1号焼土集中	F・G-7	不整形	62	34	—	第Ⅰ面	中世～近世
4区	2号焼土集中	G-6	不整形	78	46	—	第Ⅰ面	中世～近世
4区	3号焼土集中	F-7	不整形	130	36	—	第Ⅰ面	中世～近世
4区	4号焼土集中	F-8	不整形	70	50	—	第Ⅰ面	中世～近世
5区	1号土坑	T-15	長方形	137	59	29	第Ⅰ面	—
5区	2号土坑	S・T-14	長方形	74	40	11	第Ⅰ面	—
5区	3号土坑	T-13	不整形	94	51	12	第Ⅰ面	—
5区	4号土坑	S・T-13	不整形	48	31	4	第Ⅰ面	—
5区	5号土坑	T-11	長方形	137	54	22	第Ⅰ面	—
5区	6号土坑	T-11	不整形	61	44	18	第Ⅰ面	—
5区	7号土坑	T-10・11	不整円形	39	32	19	第Ⅰ面	—
5区	8号土坑	T-10	不整形	58	29	28	第Ⅰ面	—
5区	9号土坑	T-10	不整形	70	34	27	第Ⅰ面	—
5区	10号土坑	T-10	不整形	114	96	29	第Ⅰ面	—
5区	11号土坑	S・T-11	不整円形	43	26	22	第Ⅰ面	—
5区	12号土坑	S・T-11	不整円形	114	98	21	第Ⅰ面	—

調査区	遺構名	位置	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	面数	時期
5区	13号土坑	S-10・11	不整形	72	30	19	第Ⅰ面	—
5区	14号土坑	S-10	不整形	77	76	10	第Ⅰ面	—
5区	15号土坑	S-10	不整形	70	54	3	第Ⅰ面	近世
5区	16号土坑	S-11	長方形	72	36	9	第Ⅰ面	—
5区	17号土坑	S-11	不整形	71	40	10	第Ⅰ面	—
5区	18号土坑	S-10	不整形	50	49	9	第Ⅰ面	—
5区	19号土坑	R・S-10	不整形	88	69	9	第Ⅰ面	—
5区	20号土坑	R-10	不整形	84	67	6	第Ⅰ面	—
5区	21号土坑	R・S-11	不整形	112	77	6	第Ⅰ面	—
5区	22号土坑	R-10	不整形	66	53	6	第Ⅰ面	—
5区	23号土坑	R-11・12	不整形	69	62	14	第Ⅰ面	—
5区	24号土坑	Q-10・11	不整形	196	110	48	第Ⅰ面	—
5区	1号溝状遺構	U-13・14	長方形	351	65	55	第Ⅰ面	—
5区	2号溝状遺構	T・U-13	不整形	387	87	62	第Ⅰ面	—
5区	3号溝状遺構	U・V-12	長方形	217	68	29	第Ⅰ面	—
5区	4号溝状遺構	V-12	不整形	129	47	23	第Ⅰ面	—
5区	5号溝状遺構	U-12・13、V-11・12	不整形	661	227	11	第Ⅰ面	—
5区	6号溝状遺構	T・U-12・13	不整形	568	200	13	第Ⅰ面	—
5区	7号溝状遺構	U-11～13	不整形	676	164	21	第Ⅰ面	—
5区	8号溝状遺構	T-15	不整形	(140)	86	28	第Ⅰ面	—
5区	9号溝状遺構	T-14	不整形	485	172	32	第Ⅰ面	—
5区	10号溝状遺構	S-14	長方形	200	59	31	第Ⅰ面	—
5区	11号溝状遺構	R・S-12	長方形	299	69	41	第Ⅰ面	—
5区	12号溝状遺構	S・T-11・12	長方形	589	81	79	第Ⅰ面	—
5区	13号溝状遺構	T-10	不整形	80	23	13	第Ⅰ面	—
5区	14号溝状遺構	T-11	不整形	121	46	8	第Ⅰ面	—
5区	15号溝状遺構	T-10・11	不整形	337	110	12	第Ⅰ面	—
5区	16号溝状遺構	T-10	長方形	(96)	25	10	第Ⅰ面	—
5区	17号溝状遺構	T-10	長方形	95	20	15	第Ⅰ面	—
5区	18号溝状遺構	T-10	不整形	(106)	64	16	第Ⅰ面	—
5区	19号溝状遺構	S・T-10	不整形	(568)	77	51	第Ⅰ面	—
5区	20号溝状遺構	S・T-11	不整形	74	25	14	第Ⅰ面	—
5区	21号溝状遺構	S-10・11	不整形	60	19	16	第Ⅰ面	—
5区	22号溝状遺構	R-10・11	不整形	282	86	4	第Ⅰ面	—
5区	23号溝状遺構	R-10	不明	(53)	29	5	第Ⅰ面	—
5区	24号溝状遺構	R-10	不整形	134	60	9	第Ⅰ面	—
5区	25号溝状遺構	Q-11	長楕円形	(336)	64	42	第Ⅰ面	—
5区	26号溝状遺構	R・S-11	不整形	338	64	53	第Ⅰ面	—
5区	27号溝状遺構	U-13	不整形	242	61	41	第Ⅰ面	—
5区	1号石組	U-11	—	—	—	—	第Ⅰ面	近世
6区	1号土坑	O-11	不整円形	62	58	61	第Ⅰ面	—
6区	1号墓坑	O-9	長方形	157	69	57	第Ⅰ面	近世
6区	2号溝状遺構	O-9	長方形	241	80	35	第Ⅰ面	—
6区	3号溝状遺構	O-9	長方形	130	52	29	第Ⅰ面	—
6区	4号溝状遺構	O-9・10	長方形	154	68	53	第Ⅰ面	—
6区	5号溝状遺構	O-10	長方形	137	66	14	第Ⅰ面	—
6区	6号溝状遺構	O-10	長方形	216	66	28	第Ⅰ面	—
6区	7号溝状遺構	O-10	長方形	197	54	19	第Ⅰ面	—
6区	8号溝状遺構	O-10	長方形	274	96	34	第Ⅰ面	—
6区	9号溝状遺構	O-11	不整形	(113)	67	28	第Ⅰ面	—
6区	1号石組	O-11・12	—	—	—	—	第Ⅰ面	近世
7区	1号土坑	AD・AE-0・-1	不整円形	325	260	210	第Ⅰ面	近世
7区	2号土坑	AD--2	不整形	64	44	15	第Ⅰ面	—
7区	3号土坑	AD--2	不整形	52	40	15	第Ⅰ面	—
7区	4号土坑	AC・AD--1	不整円形	40	29	14	第Ⅰ面	—
7区	5号土坑	AB-0	不整円形	121	110	43	第Ⅰ面	—
7区	6号土坑	AB-1	不整円形	106	87	48	第Ⅰ面	—
7区	7号土坑	AB-1	不整円形	68	56	42	第Ⅰ面	—
7区	8号土坑	AB-0	不整形	77	69	37	第Ⅰ面	—
7区	1号溝状遺構	AB・AC-1・2	不整形	(724)	214	53	第Ⅰ面	—
7区	2号溝状遺構	AD--1	不整形	205	186	18	第Ⅰ面	中世
7区	3号溝状遺構	AC・AD--1	不整形	117	36	18	第Ⅰ面	中世
7区	4号溝状遺構	AC--1	不整形	(170)	69	15	第Ⅰ面	中世
7区	5号溝状遺構	AD-0	不整形	(284)	70	18	第Ⅰ面	中世
7区	6号溝状遺構	AD-0・-1	不整形	141	45	13	第Ⅰ面	—
8区	1号土坑	A-3・4	長方形	97	35	29	第Ⅰ面	—
8区	2号土坑	A-3・4	長方形	176	97	23	第Ⅰ面	—
8区	2号溝状遺構	B・C-4	不整形	(136)	27	10	第Ⅰ面	—
8区	1号焼土集中	B-4	不整形	19	19	3	第Ⅰ面	—
8区	2号焼土集中	B-4	不整形	8	8	3	第Ⅰ面	—
8区	3号焼土集中	B-4	不整形	41	14	2	第Ⅰ面	—

調査区	遺構名	位置	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	面数	時期
8区	4号焼土集中	A-3	不整形	47	(22)	5	第Ⅰ面	—
8区	5号焼土集中	A-3	不整形	14	10	2	第Ⅰ面	—
8区	6号焼土集中	A-3	不整形	17	15	7	第Ⅰ面	—
1区	108号土坑	B・C-1	長方形	(123)	78	45	第Ⅱ面	—
1区	109号土坑	B-1	長方形	(85)	(70)	39	第Ⅱ面	—
1区	16号柱穴	A-3	円形	30	30	18	第Ⅱ面	—
1区	17号柱穴	C-2	円形	44	39	—	第Ⅱ面	—
1区	18号柱穴	C-1・2	円形	35	29	12	第Ⅱ面	—
1区	19号柱穴	B-1・2	円形	39	37	20	第Ⅱ面	—
1区	20号柱穴	B-1	円形	39	35	20	第Ⅱ面	—
1区	8号溝状遺構	A-2・3、B-2	長方形	274	54	50	第Ⅱ面	—
1区	1号礫集中	B-2・3	長方形	324	178	27	第Ⅱ面	中世
2区	3号住居跡	G-5・6、H-5	正方形	444	292	59	第Ⅱ面	奈良時代
2区	3号土坑	F-5・6	不明	(284)	(175)	45	第Ⅱ面	—
2区	22号土坑	E-4	長方形	192	77	22	第Ⅱ面	—
2区	23号土坑	E-4	長方形	72	43	31	第Ⅱ面	—
2区	24号土坑	G-5	円形(竪坑)・正方形(横穴)	333	181	133	第Ⅱ面	中世
2区	25号土坑	F-4	不整形	187	100	5	第Ⅱ面	—
2区	27号土坑	G-4	不明	138	119	48	第Ⅱ面	—
2区	32号土坑	E・F-4	不整円形	137	121	40	第Ⅱ面	—
2区	33号土坑	F-3	不明	(106)	(42)	50	第Ⅱ面	—
2区	1号柱穴	E-5	不整円形	35	32	18	第Ⅱ面	奈良時代
2区	2号柱穴	E-5	不整円形	28	26	14	第Ⅱ面	—
2区	3号柱穴	F-5	不整円形	47	37	67	第Ⅱ面	—
2区	4号柱穴	F-5	不整円形	54	53	24	第Ⅱ面	奈良時代
2区	5号柱穴	G-5	不整円形	47	46	16	第Ⅱ面	奈良時代
2区	6号柱穴	G-4・5	不整形	66	52	31	第Ⅱ面	奈良時代
2区	7号柱穴	G-4	不整円形	58	53	12	第Ⅱ面	奈良時代
2区	8号柱穴	G-4	不整円形	54	51	30	第Ⅱ面	—
2区	9号柱穴	F-3・4	不整円形	43	42	13	第Ⅱ面	奈良時代
2区	10号柱穴	F-4	不整円形	40	33	13	第Ⅱ面	奈良時代
2区	11号柱穴	H-6	楕円形	68	37	57	第Ⅱ面	—
2区	12号柱穴	F-4	不整円形	55	51	12	第Ⅱ面	奈良時代
2区	6号溝状遺構	F-4	不明	209	91	6	第Ⅱ面	—
2区	7号溝状遺構	F-5	長楕円形	228	75	17	第Ⅱ面	—
2区	25号焼土集中	F-4	不整円形	72	43	13	第Ⅱ面	—
2区	26号焼土集中	E-5	不整形	36	22	9	第Ⅱ面	—
2区	28号焼土集中	E-4	不整形	74	28	21	第Ⅱ面	—
3区	1号住居跡	L・M-10・11	正方形	355	320	43	第Ⅱ面	奈良時代
3区	2号住居跡	M-12・13	長方形	400	360	50	第Ⅱ面	奈良時代
3区	4号住居跡	J・K-13	不明	(404)	(124)	21	第Ⅱ面	奈良時代
3区	1号土坑	M-7・8	不明	170	66	10	第Ⅱ面	—
3区	2号土坑	L・M-8	楕円形	105	78	9	第Ⅱ面	—
3区	4号土坑	K-7・8	楕円形	120	98	11	第Ⅱ面	—
3区	5号土坑	N-9・10	不整円形	99	73	84	第Ⅱ面	—
3区	6号土坑	K-10・11	円形	109	102	10	第Ⅱ面	—
3区	7号土坑	K-10	円形	100	92	34	第Ⅱ面	—
3区	8号土坑	J・K-11	円形	117	104	15	第Ⅱ面	—
3区	9号土坑	K-12	楕円形	96	89	10	第Ⅱ面	—
3区	10号土坑	M・N-13・14	楕円形	123	116	22	第Ⅱ面	—
3区	11号土坑	K-9・10	円形	122	118	25	第Ⅱ面	—
3区	13号土坑	L-9・10	円形	148	143	33	第Ⅱ面	—
3区	16号土坑	K-7	不明	(61)	(38)	32	第Ⅱ面	—
3区	18号土坑	K-7	不明	(66)	(39)	34	第Ⅱ面	—
3区	20号土坑	L-9	不整形	147	130	26	第Ⅱ面	—
3区	26号土坑	M-12	円形	97	91	13	第Ⅱ面	—
3区	28号土坑	K-12	不整形	121	96	47	第Ⅱ面	—
3区	29号土坑	J-12	不明	(28)	(14)	15	第Ⅱ面	—
3区	30号土坑	J-12	円形	99	91	28	第Ⅱ面	—
3区	31号土坑	L-13	円形	108	106	27	第Ⅱ面	—
3区	13号柱穴	K-13	楕円形	37	33	27	第Ⅱ面	—
3区	14号柱穴	J-13	不整円形	28	28	20	第Ⅱ面	—
3区	15号柱穴	M-11	不整円形	20	19	10	第Ⅱ面	—
3区	1号溝状遺構	L・M-8	不整形	270	62	20	第Ⅱ面	—
3区	2号溝状遺構	K-8、L-7・8	不整形	417	60	27	第Ⅱ面	—
3区	3号溝状遺構	L・M-7	長方形	179	64	12	第Ⅱ面	—
3区	4号溝状遺構	L-7	不整形	428	80	20	第Ⅱ面	—
3区	5号溝状遺構	K・L-7	不整形	(49)	14	14	第Ⅱ面	—
3区	16号溝状遺構	M-12	不整形	368	93	15	第Ⅱ面	—
3区	24号焼土集中	M-11	不整形	85	67	21	第Ⅱ面	—
4区	1号住居跡	E・F-6・7	長方形	(377)	(365)	28	第Ⅱ面	奈良時代

調査区	遺構名	位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	面数	時期
4区	2号住居跡	D-6・7	不明	(178)	(101)	14	第Ⅱ面	奈良時代
4区	3号住居跡	H-9	不明	(190)	(149)	24	第Ⅱ面	奈良時代
4区	4号住居跡	G-6	不明	(21)	(16)	34	第Ⅱ面	奈良時代
4区	5号土坑	H-9	楕円形	62	44	58	第Ⅱ面	奈良時代
4区	6号土坑	H-9	楕円形	35	29	11	第Ⅱ面	－
4区	7号土坑	H-9	楕円形	91	77	70	第Ⅱ面	奈良時代
4区	8号土坑	H-9	不整円形	33	32	60	第Ⅱ面	－
4区	9号土坑	G・H-9	不整円形	78	76	55	第Ⅱ面	奈良時代
4区	10号土坑	G-9	長方形	99	65	39	第Ⅱ面	奈良時代
4区	11号土坑	G-9	不明	(63)	(54)	58	第Ⅱ面	奈良時代
4区	12号土坑	G-7・8	長方形	91	68	58	第Ⅱ面	－
4区	13号土坑	G-7	不整円形	65	58	41	第Ⅱ面	－
4区	14号土坑	G・H-7	不整円形	64	64	72	第Ⅱ面	－
4区	15号土坑	G-7	不整円形	36	31	23	第Ⅱ面	－
4区	16号土坑	G-7	不整円形	75	51	25	第Ⅱ面	－
4区	17号土坑	G-6	長方形	68	51	26	第Ⅱ面	－
4区	18号土坑	F-7	不整形	111	81	18	第Ⅱ面	－
4区	19号土坑	F-7	不整形	136	104	9	第Ⅱ面	－
4区	20号土坑	F-7	不整円形	59	52	28	第Ⅱ面	－
4区	21号土坑	F-7	不整円形	78	59	34	第Ⅱ面	－
4区	22号土坑	F・G-6	不整円形	78	65	32	第Ⅱ面	－
4区	23号土坑	G-6	不整円形	105	79	23	第Ⅱ面	－
4区	24号土坑	F-6	長方形	32	25	14	第Ⅱ面	－
4区	25号土坑	E-6	不整形	65	64	29	第Ⅱ面	－
4区	26号土坑	D-6	長方形	36	29	9	第Ⅱ面	－
4区	27号土坑	D-6	不整円形	29	22	16	第Ⅱ面	－
4区	28号土坑	D-5	楕円形	45	37	10	第Ⅱ面	－
4区	29号土坑	D・E-5	楕円形	64	52	16	第Ⅱ面	－
4区	30号土坑	D-5	不整円形	40	33	17	第Ⅱ面	－
4区	31号土坑	G-7	楕円形	34	25	17	第Ⅱ面	－
4区	20号溝状遺構	F・G-8	不整形	(497)	29	9	第Ⅱ面	－
4区	21号溝状遺構	F・G-8	不整形	(397)	27	9	第Ⅱ面	－
4区	22号溝状遺構	F・G-7、G-8	不整形	(262)	23	7	第Ⅱ面	－
4区	23号溝状遺構	G-7	不整形	179	27	7	第Ⅱ面	－
4区	24号溝状遺構	F-6	不整形	284	64	21	第Ⅱ面	－
4区	25号溝状遺構	E・F-5	不整形	276	60	17	第Ⅱ面	－
4区	26号溝状遺構	D-5・6	長方形	300	66	49	第Ⅱ面	－
4区	27号溝状遺構	D・E-5	長方形	304	68	39	第Ⅱ面	－
4区	28号溝状遺構	E-5	長方形	134	80	32	第Ⅱ面	－
4区	29号溝状遺構	D-5	不明	(54)	87	12	第Ⅱ面	－
4区	30号溝状遺構	D-5	不明	(74)	58	42	第Ⅱ面	－
4区	5号焼土集中	E・F-7	不整形	146	45	－	第Ⅱ面	－
4区	6号焼土集中	F-7	不整形	29	17	4	第Ⅱ面	－
4区	7号焼土集中	F-7	不整形	57	12	－	第Ⅱ面	－
4区	1号礫集中	G-9	－	107	86	－	第Ⅱ面	－
4区	2号礫集中	G-9	－	58	38	－	第Ⅱ面	－
4区	3号礫集中	G-9	－	178	132	－	第Ⅱ面	－
5区	25号土坑	U-12・13	不整形	230	153	5	第Ⅱ面	－
5区	26号土坑	T・U-12	不整形	174	150	59	第Ⅱ面	－
5区	27号土坑	U-12・13	不整形	268	165	18	第Ⅱ面	－
5区	28号土坑	T-13	不整形	(310)	142	28	第Ⅱ面	－
5区	29号土坑	T-12・13	不整形	240	207	45	第Ⅱ面	－
5区	30号土坑	S・T-12	不整円形	148	118	21	第Ⅱ面	－
5区	31号土坑	S・T-12	不整形	163	154	19	第Ⅱ面	－
5区	32号土坑	S-14	不整円形	128	104	13	第Ⅱ面	－
5区	33号土坑	Q-13	不整円形	137	106	17	第Ⅱ面	－
5区	34号土坑	Q-12・13	不整円形	130	129	32	第Ⅱ面	－
5区	35号土坑	Q-12	不整円形	143	142	39	第Ⅱ面	－
5区	36号土坑	S-13・14	不整形	(202)	145	19	第Ⅱ面	－
5区	37号土坑	Q-11・12	不整形	164	(88)	14	第Ⅱ面	－
5区	38号土坑	U-12	不整円形	130	129	29	第Ⅱ面	－
5区	39号土坑	U・V-12・13	長方形	176	136	21	第Ⅱ面	－
5区	40号土坑	U-11・12	不整円形	146	130	31	第Ⅱ面	－
5区	41号土坑	V-12	不整円形	134	98	24	第Ⅱ面	－
5区	42号土坑	U-12・13	長方形	210	124	34	第Ⅱ面	－
5区	43号土坑	V-11	不明	102	100	35	第Ⅱ面	－
5区	44号土坑	U-11	不整円形	124	(98)	35	第Ⅱ面	－
5区	45号土坑	S-14	円形	135	128	37	第Ⅱ面	－
5区	46号土坑	T-11	不整円形	174	152	13	第Ⅱ面	－
5区	47号土坑	U-11	不明	(82)	69	21	第Ⅱ面	－
5区	48号土坑	T-11・12	不整形	230	132	21	第Ⅱ面	－

調査区	遺構名	位置	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	面数	時期
5区	49号土坑	U-11	不明	126	(125)	39	第Ⅱ面	—
5区	50号土坑	R-14	不明	77	61	7	第Ⅱ面	—
5区	51号土坑	R-10・11	円形	229	227	35	第Ⅱ面	—
5区	28号溝状遺構	V-12	不整形	206	56	9	第Ⅱ面	—
5区	29号溝状遺構	U-12	不整形	209	106	20	第Ⅱ面	—
5区	30号溝状遺構	T-13	不整形	306	100	37	第Ⅱ面	—
5区	31号溝状遺構	T-11	不整円形	91	33	17	第Ⅱ面	—
5区	32号溝状遺構	T-11	長方形	144	36	12	第Ⅱ面	—
5区	33号溝状遺構	T-11	不明	(63)	42	12	第Ⅱ面	—
5区	34号溝状遺構	T-11	長方形	(125)	26	4	第Ⅱ面	—
5区	35号溝状遺構	T-10・11	不整円形	39	25	12	第Ⅱ面	—
5区	36号溝状遺構	T-10	不整円形	57	21	8	第Ⅱ面	—
5区	37号溝状遺構	R・S-14	長方形	140	53	23	第Ⅱ面	—
5区	38号溝状遺構	R・S-13	長方形	352	67	34	第Ⅱ面	—
5区	39号溝状遺構	R・S-13	長方形	460	116	35	第Ⅱ面	—
5区	40号溝状遺構	R-13、S-12・13	長方形	404	64	51	第Ⅱ面	—
5区	41号溝状遺構	R-12	長方形	282	58	28	第Ⅱ面	—
5区	42号溝状遺構	R-11・12	長方形	240	74	25	第Ⅱ面	—
5区	43号溝状遺構	R-11・12	長方形	298	68	24	第Ⅱ面	—
5区	44号溝状遺構	R・S-11	長方形	352	82	36	第Ⅱ面	—
5区	45号溝状遺構	R・S-10	長方形	296	108	20	第Ⅱ面	—
5区	46号溝状遺構	U-12	長方形	170	62	58	第Ⅱ面	—
5区	47号溝状遺構	U-11	長方形	(142)	49	13	第Ⅱ面	—
5区	48号溝状遺構	S-13	長方形	213	63	36	第Ⅱ面	—
5区	49号溝状遺構	T・U-11	不整円形	164	52	19	第Ⅱ面	—
5区	50号溝状遺構	T・U-11	不整形	(280)	(147)	17	第Ⅱ面	—
5区	51号溝状遺構	U・V-11・12	不整形	(368)	155	80	第Ⅱ面	—
5区	52号溝状遺構	T・U-11・12	不整形	647	143	63	第Ⅱ面	—
5区	53号溝状遺構	T・U-11	長方形	288	85	17	第Ⅱ面	—
5区	54号溝状遺構	Q-11・12、R・S-11	長方形	952	64	23	第Ⅱ面	—
5区	55号溝状遺構	T～V-11	不整形	(715)	160	98	第Ⅱ面	—
5区	56号溝状遺構	S-11	長方形	225	58	63	第Ⅱ面	—
5区	57号溝状遺構	S～U-11、T-10	不整形	546	130	80	第Ⅱ面	—
5区	58号溝状遺構	U-12・13	長方形	181	88	86	第Ⅱ面	—
5区	59号溝状遺構	T-14	長方形	159	60	16	第Ⅱ面	—
5区	60号溝状遺構	T・U-11	長方形	188	52	23	第Ⅱ面	—
5区	61号溝状遺構	S-13・14	長方形	287	74	24	第Ⅱ面	—
5区	62号溝状遺構	T-10・11	不整円形	49	27	8	第Ⅱ面	—
5区	63号溝状遺構	S-12	長方形	187	46	38	第Ⅱ面	—
5区	1号焼土集中	S-12・13	不整形	62	48	—	第Ⅱ面	—
6区	2号土坑	P-12・13	不整円形	98	81	38	第Ⅱ面	—
6区	3号土坑	O-12	不整円形	50	49	25	第Ⅱ面	—
6区	4号土坑	P-10・11	不整円形	110	103	34	第Ⅱ面	—
6区	5号土坑	Q-12	楕円形	36	30	31	第Ⅱ面	—
6区	6号土坑	P-12	不整形	94	80	5	第Ⅱ面	—
6区	7号土坑	O-9	円形	24	20	28	第Ⅱ面	—
6区	8号土坑	O-10	不整形	182	114	55	第Ⅱ面	—
6区	10号溝状遺構	O・P-11	不整形	251	128	40	第Ⅱ面	—
6区	11号溝状遺構	P-12	長方形	184	72	31	第Ⅱ面	—
6区	12号溝状遺構	P-12・13	長方形	236	72	32	第Ⅱ面	—
7区	9号土坑	AD-0・-1	不整形	85	40	7	第Ⅱ面	—
7区	7号溝状遺構	AC・AD-1	不整形	(213)	82	8	第Ⅱ面	奈良時代
7区	8号溝状遺構	AD-1	不整形	(265)	45	7	第Ⅱ面	奈良時代
7区	9号溝状遺構	AC・AD-1	不整形	(242)	87	10	第Ⅱ面	奈良時代
7区	10号溝状遺構	AC・AD-1	不整形	(459)	49	9	第Ⅱ面	奈良時代
7区	11号溝状遺構	AC・AD-1	不整形	(502)	57	13	第Ⅱ面	奈良時代
7区	12号溝状遺構	AD-0・-1、AE-0	不整形	(491)	42	8	第Ⅱ面	奈良時代
7区	13号溝状遺構	AD-0・1	不整形	(122)	35	13	第Ⅱ面	奈良時代
7区	14号溝状遺構	AD・AE-0	不整形	(631)	64	7	第Ⅱ面	奈良時代
7区	15号溝状遺構	AD・AE-0	不整形	(466)	54	5	第Ⅱ面	奈良時代
7区	16号溝状遺構	AD・AE-0	不整形	(251)	47	7	第Ⅱ面	奈良時代
7区	17号溝状遺構	AD・AE-0	不整形	(260)	25	7	第Ⅱ面	奈良時代
7区	18号溝状遺構	AD-0	不整形	(140)	51	5	第Ⅱ面	奈良時代
7区	19号溝状遺構	AC・AD-0	不整形	(326)	36	5	第Ⅱ面	奈良時代
7区	20号溝状遺構	AD--1	不整形	(88)	31	8	第Ⅱ面	奈良時代
7区	21号溝状遺構	AC・AD--1	不整形	(505)	70	5	第Ⅱ面	奈良時代
7区	22号溝状遺構	AD--1	不整形	(220)	45	5	第Ⅱ面	奈良時代
7区	23号溝状遺構	AC・AD--1	不整形	508	38	8	第Ⅱ面	奈良時代
7区	24号溝状遺構	AC・AD--1	不整形	(545)	26	6	第Ⅱ面	奈良時代
7区	25号溝状遺構	AD--1	不整形	414	34	9	第Ⅱ面	奈良時代
7区	26号溝状遺構	AD・AE--1	不整形	260	34	17	第Ⅱ面	奈良時代

調査区	遺構名	位置	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	面数	時期
8区	3号土坑	A-3	不整円形	93	78	14	第Ⅱ面	—
8区	4号土坑	A-3	不整円形	37	36	9	第Ⅱ面	—
8区	5号土坑	A-3	不明	56	(23)	24	第Ⅱ面	—
8区	6号土坑	A-3・4	長方形	180	122	40	第Ⅱ面	—
8区	1号溝状遺構	B-4	不明	(140)	53	34	第Ⅱ面	—
9区	1号土坑	Q-10	不整円形	134	114	16	第Ⅱ面	—
9区	2号土坑	Q-10	円形	114	104	58	第Ⅱ面	—
9区	1号溝状遺構	Q-10	不整形	106	26	4	第Ⅱ面	—
9区	2号溝状遺構	Q-10	不整形	151	26	12	第Ⅱ面	—
9区	3号溝状遺構	P・Q-10	不整形	300	30	4	第Ⅱ面	—
10区	1号土坑	V-12	不明	110	(59)	18	第Ⅱ面	—
10区	2号土坑	V-12・13	円形	110	96	34	第Ⅱ面	—
10区	3号土坑	V-13	不整円形	90	82	9	第Ⅱ面	—
10区	4号土坑	U・V-13	不整円形	133	128	37	第Ⅱ面	—
10区	5号土坑	U-13・14	不明	197	(82)	58	第Ⅱ面	—
10区	6号土坑	V-14	不整形	79	49	15	第Ⅱ面	—
10区	7号土坑	V-15	円形	121	120	45	第Ⅱ面	—
10区	1号溝状遺構	V・W-13	不整形	248	72	7	第Ⅱ面	—
10区	2号溝状遺構	V・W-14	不明	(215)	97	15	第Ⅱ面	—
10区	3号溝状遺構	V・W-14	不明	158	57	7	第Ⅱ面	—
10区	4号溝状遺構	U・V-14	不整形	440	100	18	第Ⅱ面	—
11区	1号土坑	Q-9	不整円形	74	69	14	第Ⅱ面	—
11区	2号土坑	P・Q-9	円形	75	67	9	第Ⅱ面	—
11区	3号土坑	P・Q-8	不整形	54	45	29	第Ⅱ面	—
11区	1号礫集中	P-8	—	52	36	—	第Ⅱ面	—
3区	5号住居跡	L・M-12・13	不整円形	383	315	20	第Ⅲ面	鵜ヶ島台式期
3区	12号土坑	M-7・8	楕円形	126	99	67	第Ⅲ面	子母口式併行期
3区	34号土坑	M-13	不整円形	87	66	12	第Ⅲ面	—
3区	35号土坑	M・N-13	不整円形	114	102	23	第Ⅲ面	—
3区	36号土坑	K-13	不明	(93)	(57)	43	第Ⅲ面	—
3区	37号土坑	L・M-10	不整円形	105	101	12	第Ⅲ面	子母口式併行期
3区	38号土坑	L-10	不整円形	119	107	26	第Ⅲ面	子母口式併行期
3区	39号土坑	K・L-10	不整形	285	90	32	第Ⅲ面	子母口式併行期
3区	40号土坑	K-11	不整形	119	96	31	第Ⅲ面	—
3区	41号土坑	O-11	不整円形	75	63	13	第Ⅲ面	—
3区	42号土坑	O-11	不整形	44	(42)	9	第Ⅲ面	—
3区	43号土坑	K・L-7	不整形	230	114	13	第Ⅲ面	—
3区	44号土坑	M・N-9	円形	174	156	20	第Ⅲ面	子母口式併行期
3区	45号土坑	N-9	不整円形	170	96	32	第Ⅲ面	子母口式併行期
3区	46号土坑	N-9	不整形	230	111	70	第Ⅲ面	子母口式併行期
3区	47号土坑	O-12	不整形	32	15	37	第Ⅲ面	—
3区	48号土坑	O-12	不整形	174	72	30	第Ⅲ面	子母口式併行期
3区	49号土坑	L-10	不整形	120	81	21	第Ⅲ面	子母口式併行期
3区	50号土坑	N-10	楕円形	93	84	11	第Ⅲ面	—
3区	51号土坑	N-10	不整形	72	45	20	第Ⅲ面	—
3区	52号土坑	N-10	不整形	126	72	18	第Ⅲ面	—
3区	53号土坑	N-9・10	不整円形	117	95	16	第Ⅲ面	—
3区	54号土坑	N-10	不整形	69	63	15	第Ⅲ面	—
3区	55号土坑	N-9	不整形	134	80	48	第Ⅲ面	子母口式併行期
3区	56号土坑	M-11	不整形	132	90	9	第Ⅲ面	—
3区	57号土坑	L・M-11	楕円形	45	38	6	第Ⅲ面	—
3区	58号土坑	M-11	不整円形	42	36	17	第Ⅲ面	—
3区	59号土坑	M-11	不整形	57	(30)	20	第Ⅲ面	—
3区	60号土坑	L-11	不整形	69	54	11	第Ⅲ面	—
3区	61号土坑	L-10・11	不整形	111	62	13	第Ⅲ面	—
3区	62号土坑	M-7・8	不整形	201	77	23	第Ⅲ面	子母口式併行期
3区	63号土坑	N-12	不整形	197	74	28	第Ⅲ面	子母口式併行期
3区	64号土坑	N-11	楕円形	36	27	32	第Ⅲ面	—
3区	65号土坑	N-8・9	楕円形	150	75	12	第Ⅲ面	—
3区	66号土坑	L-11	不整円形	102	93	21	第Ⅲ面	—
3区	67号土坑	M-12	楕円形	96	74	11	第Ⅲ面	—
3区	68号土坑	M-9・10	不整形	126	102	35	第Ⅲ面	—
3区	69号土坑	M-9	楕円形	84	80	17	第Ⅲ面	—
3区	70号土坑	M-9	楕円形	146	54	26	第Ⅲ面	—
3区	71号土坑	M-8	不整形	99	54	3	第Ⅲ面	—
3区	72号土坑	M-8	不整形	96	56	8	第Ⅲ面	—
3区	73号土坑	L・M-8	不整形	195	146	35	第Ⅲ面	鵜ヶ島台式期
3区	74号土坑	L-8	不整形	86	45	9	第Ⅲ面	—
3区	75号土坑	L-8	不整形	69	48	19	第Ⅲ面	鵜ヶ島台式期
3区	76号土坑	L-7	不整形	(138)	93	13	第Ⅲ面	—
3区	77号土坑	L-7	不整形	117	87	11	第Ⅲ面	—

調査区	遺構名	位置	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	面数	時期
3区	78号土坑	L-7	不整形	108	56	7	第Ⅲ面	—
3区	79号土坑	K・L-7	不整形	119	78	10	第Ⅲ面	—
3区	80号土坑	K-7	不整形	234	149	19	第Ⅲ面	—
3区	81号土坑	L-9	不整形	75	54	23	第Ⅲ面	—
3区	82号土坑	K-7・8	不明	(102)	(57)	49	第Ⅲ面	—
3区	83号土坑	L-10	不整形	(114)	105	11	第Ⅲ面	子母口式併行期
3区	84号土坑	L-8	不整円形	84	75	45	第Ⅲ面	—
3区	85号土坑	N-9	不整形	150	108	26	第Ⅲ面	子母口式併行期
3区	86号土坑	O-13	不明	(69)	41	37	第Ⅲ面	—
3区	87号土坑	N-12	不整形	(173)	90	16	第Ⅲ面	子母口式併行期
3区	88号土坑	K-10	不明	(135)	(48)	25	第Ⅲ面	—
3区	89号土坑	N-10	不整形	78	72	9	第Ⅲ面	—
3区	90号土坑	N-10	不整形	135	75	25	第Ⅲ面	—
3区	91号土坑	N・O-10	不整形	(51)	(42)	39	第Ⅲ面	—
3区	92号土坑	N-12・13	不整形	210	98	28	第Ⅲ面	子母口式併行期
3区	93号土坑	N・O-12	不整形	147	66	14	第Ⅲ面	鵜ヶ島台式期
3区	94号土坑	N・O-13	楕円形	102	80	28	第Ⅲ面	—
3区	95号土坑	O-14	不明	(231)	(75)	34	第Ⅲ面	—
3区	96号土坑	O-14	不明	(114)	51	26	第Ⅲ面	—
3区	97号土坑	O-13	不整形	140	104	18	第Ⅲ面	子母口式併行期
3区	98号土坑	N・O-13	不整形	208	170	28	第Ⅲ面	子母口式併行期
3区	99号土坑	O-13	不整形	(90)	(74)	3	第Ⅲ面	子母口式併行期
3区	100号土坑	N-12	不整形	140	65	26	第Ⅲ面	子母口式併行期
3区	101号土坑	N-12・13	不整形	82	66	18	第Ⅲ面	子母口式併行期
3区	102号土坑	O-13	不整形	148	71	25	第Ⅲ面	子母口式併行期
3区	103号土坑	O-13	不整形	84	72	42	第Ⅲ面	子母口式併行期
3区	104号土坑	O-13	不整形	176	74	21	第Ⅲ面	子母口式併行期
3区	105号土坑	M-8	不整形	138	74	35	第Ⅲ面	鵜ヶ島台式期
3区	106号土坑	M-8	不整形	135	66	16	第Ⅲ面	鵜ヶ島台式期
3区	107号土坑	M-8	不整形	111	75	34	第Ⅲ面	鵜ヶ島台式期
3区	29号焼土集中	N・O-11	不整形	54	45	—	第Ⅲ面	子母口式併行期
3区	30号焼土集中	L・M-13	不明	(60)	(57)	20	第Ⅲ面	—
3区	31号焼土集中	K・L-8	不整形	50	42	9	第Ⅲ面	—
3区	34号焼土集中	N-10	不明	(72)	(45)	27	第Ⅲ面	—
3区	35号焼土集中	O-12	不明	(29)	(29)	15	第Ⅲ面	—
3区	37号焼土集中	N-13	円形	32	32	5	第Ⅲ面	—
3区	38号焼土集中	N-13	楕円形	87	62	12	第Ⅲ面	—
3区	1号集石	N-13	—	130	92	—	第Ⅲ面	子母口式併行期
3区	2号集石	O-13	—	74	64	—	第Ⅲ面	—
3区	3号集石	K-7	—	56	45	—	第Ⅲ面	—
3区	4号集石	K-7・8	—	94	70	—	第Ⅲ面	子母口式併行期
3区	1号配石	O-13	—	66	66	—	第Ⅲ面	—
4区	32号土坑	F-6	不整形	157	97	41	第Ⅲ面	—
4区	1号集石	G-7	—	130	90	—	第Ⅲ面	鵜ヶ島台式期
4区	2号集石	F-7	—	75	39	—	第Ⅲ面	鵜ヶ島台式期
4区	8号焼土集中	H-9	不整形	62	42	—	第Ⅲ面	—
4区	9号焼土集中	G-8	不整形	(135)	78	13	第Ⅲ面	—
4区	10号焼土集中	G-8	円形	32	32	4	第Ⅲ面	—
4区	11号焼土集中	G-7	不整形	56	37	4	第Ⅲ面	—
4区	12号焼土集中	G-7	不整形	116	54	25	第Ⅲ面	—
5区	53号土坑	Q-12	円形	20	20	12	第Ⅲ面	—
5区	54号土坑	S-14	楕円形	98	93	19	第Ⅲ面	—
5区	55号土坑	U-14	不整円形	50	30	14	第Ⅲ面	—
5区	56号土坑	U-12	不整形	123	116	39	第Ⅲ面	—
5区	57号土坑	T-13	不整形	92	88	21	第Ⅲ面	—
5区	58号土坑	T-12	不整形	177	98	28	第Ⅲ面	—
5区	59号土坑	T-12	不整形	106	92	10	第Ⅲ面	—
5区	60号土坑	T-12・13	不整形	72	43	17	第Ⅲ面	—
5区	61号土坑	S・T-12	不整形	182	115	17	第Ⅲ面	—
5区	62号土坑	S-12	不整円形	187	132	13	第Ⅲ面	—
5区	63号土坑	T-11	不整形	242	211	22	第Ⅲ面	鵜ヶ島台式期
5区	64号土坑	R・S-11	不整円形	89	52	13	第Ⅲ面	—
5区	65号土坑	R-11	楕円形	37	29	11	第Ⅲ面	—
5区	66号土坑	R-11	不整円形	54	39	14	第Ⅲ面	—
5区	67号土坑	Q・R-10	不整円形	179	98	59	第Ⅲ面	—
5区	68号土坑	R-14	不整形	47	31	30	第Ⅲ面	—
5区	69号土坑	Q-10・11	不整形	114	71	33	第Ⅲ面	—
5区	70号土坑	Q-10	不明	79	(60)	19	第Ⅲ面	—
5区	71号土坑	Q-10・11	不明	64	31	12	第Ⅲ面	—
5区	72号土坑	Q-12	不整形	43	42	10	第Ⅲ面	—
5区	73号土坑	Q-12	不整形	82	68	21	第Ⅲ面	—

調査区	遺構名	位置	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	面数	時期
5区	74号土坑	P-9・10	不整円形	184	159	31	第Ⅲ面	—
5・11区	75号土坑	P-9	不整円形	174	138	109	第Ⅲ面	—
5・11区	76号土坑	O・P-9	不整形	162	111	40	第Ⅲ面	—
5区	77号土坑	O-10	不整形	128	68	17	第Ⅲ面	—
5区	78号土坑	Q-10	不整形	103	78	16	第Ⅲ面	—
5区	79号土坑	Q-10	不整形	163	(121)	27	第Ⅲ面	—
5区	80号土坑	Q-10	不整形	135	63	10	第Ⅲ面	—
5区	81号土坑	Q-10	不整円形	79	45	7	第Ⅲ面	—
5区	82号土坑	P・Q-10	不整形	185	100	49	第Ⅲ面	子母口式併行期
5区	83号土坑	Q-10	不整形	144	79	33	第Ⅲ面	子母口式併行期
5区	84号土坑	P・Q-10	不整形	153	145	18	第Ⅲ面	子母口式併行期
5区	85号土坑	Q-9・10	不整形	185	95	38	第Ⅲ面	子母口式併行期
5区	86号土坑	P・Q-10	不整形	122	58	36	第Ⅲ面	子母口式併行期
5区	1号集石	U-14・15	不明	142	104	—	第Ⅲ面	鵜ヶ島台式期
5区	1号焼土集中	U-14	不整形	61	60	11	第Ⅲ面	—
5区	2号焼土集中	T-11・12	不整形	20	17	6	第Ⅲ面	鵜ヶ島台式期
5区	3号焼土集中	S-13	不整形	37	26	8	第Ⅲ面	—
5・6区	1号礫集中	P～R-10～12	—	800	750	—	第Ⅲ面	鵜ヶ島台式期
5区	土器集中地点1	T-11	—	50	35	—	第Ⅲ面	鵜ヶ島台式期
5区	土器集中地点2	U-14	—	20	12	—	第Ⅲ面	鵜ヶ島台式期
5区	石器集中地点	R・S-12・13	—	440	220	—	第Ⅲ面	鵜ヶ島台式期
6区	9号土坑	P-12	円形	90	85	62	第Ⅲ面	—
6区	10号土坑	P-13	不明	91	(68)	33	第Ⅲ面	—
6区	11号土坑	P-13	不整形	141	72	35	第Ⅲ面	—
6区	12号土坑	P-13	不整形	(133)	107	11	第Ⅲ面	—
6区	13号土坑	O・P-12	不明	111	(38)	21	第Ⅲ面	—
6区	14号土坑	P・Q-12	不整形	124	74	6	第Ⅲ面	—
6区	15号土坑	P-12	楕円形	69	29	16	第Ⅲ面	—
6区	16号土坑	P-12	円形	34	33	10	第Ⅲ面	—
6区	17号土坑	P-12	楕円形	128	58	15	第Ⅲ面	—
6区	18号土坑	P-12	円形	83	81	9	第Ⅲ面	—
6区	19号土坑	P-12	不整形	66	43	11	第Ⅲ面	—
6区	20号土坑	O・P-11・12	不整形	163	87	15	第Ⅲ面	—
6区	21号土坑	O-12	不整形	62	45	10	第Ⅲ面	—
6区	22号土坑	O-11・12	長方形	39	32	9	第Ⅲ面	—
6区	23号土坑	O-12	不整形	121	73	60	第Ⅲ面	—
6区	24号土坑	O-12	不整円形	60	42	14	第Ⅲ面	—
6区	25号土坑	P・Q-11	不整形	192	133	30	第Ⅲ面	—
6区	26号土坑	O・P-11	長方形	133	110	22	第Ⅲ面	—
6区	27号土坑	O・P-10・11	不整形	209	208	19	第Ⅲ面	—
6区	28号土坑	O-11	不整円形	74	47	28	第Ⅲ面	—
6区	29号土坑	O-11	不整円形	101	97	11	第Ⅲ面	—
6区	30号土坑	O-11	不整形	(47)	37	19	第Ⅲ面	—
6区	31号土坑	O-11	楕円形	101	93	27	第Ⅲ面	—
6区	32号土坑	O-11	不明	(109)	(45)	12	第Ⅲ面	—
6区	33号土坑	P・Q-10	不整形	(115)	65	25	第Ⅲ面	子母口式併行期
6区	34号土坑	P-10・11	不整形	49	41	7	第Ⅲ面	—
6区	35号土坑	P-10	不整形	121	70	8	第Ⅲ面	—
6区	36号土坑	O-10	不整形	374	205	28	第Ⅲ面	—
6区	37号土坑	O-10	不整形	103	69	23	第Ⅲ面	—
6区	38号土坑	O-10	不整円形	48	33	14	第Ⅲ面	—
6区	39号土坑	O-10・11	不整形	185	105	6	第Ⅲ面	—
6区	40号土坑	O-10	不整形	204	96	64	第Ⅲ面	—
6区	41号土坑	O-10・11	不整形	200	82	24	第Ⅲ面	—
6区	42号土坑	O-10	不整形	209	155	17	第Ⅲ面	—
6区	43号土坑	N・O-10	不整形	134	90	14	第Ⅲ面	—
6区	44号土坑	N-10	不整円形	92	45	19	第Ⅲ面	—
6区	45号土坑	O-9	不整円形	32	21	6	第Ⅲ面	—
6区	46号土坑	O-9	不整形	66	46	12	第Ⅲ面	—
6区	47号土坑	O-9	長方形	42	35	6	第Ⅲ面	—
6区	48号土坑	O-9	長方形	49	39	10	第Ⅲ面	—
6区	49号土坑	O-8	不整円形	49	31	13	第Ⅲ面	—
6区	50号土坑	O-8	不整形	72	38	7	第Ⅲ面	—
6区	51号土坑	N・O-8・9	不整形	269	156	24	第Ⅲ面	—
6区	52号土坑	N-8	長方形	37	20	13	第Ⅲ面	—
6区	53号土坑	O・P-12	不整形	190	138	5	第Ⅲ面	—
6区	54号土坑	P-11	不整形	40	35	13	第Ⅲ面	—
6区	55号土坑	P-11	不整形	60	45	5	第Ⅲ面	—
6区	56号土坑	O-11	不整円形	65	36	13	第Ⅲ面	—
6区	57号土坑	N・O-9	不整形	(176)	117	26	第Ⅲ面	子母口式併行期
6区	1号集石	N-10	—	72	25	—	第Ⅲ面	—

調査区	遺構名	位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	面数	時期
6区	1号焼土集中	P-10	不整形	42	38	8	第Ⅲ面	—
6区	2号焼土集中	O-12	不整形	57	22	9	第Ⅲ面	—
6区	3号焼土集中	P-12	不整形	50	28	10	第Ⅲ面	—
11区	87号土坑	Q-9・10	不整形	120	77	14	第Ⅲ面	子母口式併行期
11区	88号土坑	Q-9	不整形	133	66	41	第Ⅲ面	子母口式併行期
11区	4号土坑	Q・R-9	不整形	109	68	14	第Ⅲ面	子母口式併行期
11区	5号土坑	Q・R-9	不整形	142	71	8	第Ⅲ面	子母口式併行期
11区	6号土坑	Q-9	不整形	216	118	39	第Ⅲ面	子母口式併行期
11区	7号土坑	Q-9	不整形	204	99	59	第Ⅲ面	子母口式併行期
11区	8号土坑	Q-9	不整形	168	93	39	第Ⅲ面	子母口式併行期
11区	9号土坑	Q-9	不明	79	(20)	21	第Ⅲ面	子母口式併行期
11区	10号土坑	P・Q-9	不整形	150	99	6	第Ⅲ面	子母口式併行期
11区	11号土坑	P・Q-9	不整形	154	(75)	38	第Ⅲ面	子母口式併行期
11区	12号土坑	P-9	不整形	103	75	51	第Ⅲ面	子母口式併行期
11区	13号土坑	P-9	不明	(83)	(21)	28	第Ⅲ面	子母口式併行期
11区	14号土坑	P-8・9	不整形	233	89	37	第Ⅲ面	子母口式併行期
11区	15号土坑	P-8・9	不整形	124	(53)	30	第Ⅲ面	子母口式併行期
11区	16号土坑	P-9	不整形	174	79	21	第Ⅲ面	—
11区	17号土坑	O・P-9	不整形	102	50	21	第Ⅲ面	—
11区	18号土坑	P・Q-9	不整形	129	115	2	第Ⅲ面	—
11区	1号集石	P-9	—	160	105	—	第Ⅲ面	鵜ヶ島台式期
11区	2号集石	P・Q-9	—	73	50	—	第Ⅲ面	鵜ヶ島台式期
11区	1号配石	Q-9	—	58	55	—	第Ⅲ面	—
11区	土器集中地点	Q-9	—	50	41	—	第Ⅲ面	鵜ヶ島台式期
12区	1号土坑	J-5	不整形	38	(32)	7	第Ⅲ面	—
12区	2号土坑	J-5	不整円形	53	40	6	第Ⅲ面	—
12区	3号土坑	J-7	不整円形	51	41	8	第Ⅲ面	—

第11表　縄文土器一覧表

○表中の「　」の項目について、絡条体圧痕文は、長さ/幅を記載し、沈線文・刺突文などについては残されている文様から想定される背文具を記載した。
○「表面調整」・「裏面調整」については、器面を平坦に整える調整を有す場合、大まかに整形されているのをナデ、文様施文などのために丁寧に整形する調整を磨きと記載した。

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	文様	文様の形状	施文方向	胎土特徴	内面調整	外面調整	口唇刻みの形状	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	焼成	備考
第75図1	P1050	H16	3区5住				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	なし	—	—	—	5YR6/6橙色	不良	
第75図2	P1046・P1047	H16	3区5住	条痕文	幅3.8	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第75図3	P1104	H16	3区5住				雲母・砂粒・繊維	不明	縦・斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	不良	
第75図4	P1099・P1100	H16	3区5住				砂粒・繊維	斜、磨き	斜、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第75図5	P1049	H16	3区5住				砂粒・繊維	横、ナデ	縦・斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第75図6	P1103	H16	3区5住				砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第75図7	P1051	H16	3区5住				スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第75図8	P1102	H16	3区5住				砂粒・繊維	斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第75図9	P1048	H16	3区5住				砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第75図10	P1058	H16	3区5住				雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	不良	
第75図11	5住一括	H16	3区5住	沈線文 刺突文	幅1.3・ヘラ状工具 φ2.6・竹管状工具	縦・斜	砂粒・繊維	横、ナデ	縦・横、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第75図12	P1101	H16	3区5住	条痕文	幅3.3	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	不良	
第76図1	12土一括	H16	3区12土	微隆起線文		縦・横	砂粒・繊維	横、ナデ	縦・横、磨き	なし	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第76図2	P1096	H16	3区36土	絡条体圧痕文	3.7/1.0	横	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR8/8黄橙色	やや良	
第76図3	37土一括	H16	3区37土	絡条体圧痕文 沈線文	4.5/2.4 幅3.0・ヘラ状工具	斜 斜	スコリア・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第76図4	37土一括	H16	3区37土	絡条体圧痕文	4.2/1.1	横	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第76図5	37土一括	H16	3区37土				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR7/6橙色	やや良	
第76図6	37土一括	H16	3区37土				砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、ナデ	—	—	—	—	2.5YR6/8橙色	やや良	
第76図7・8	P1038・P1039	H16	3区44土	絡条体圧痕文	4.0/2.2	横・斜	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、磨き	なし	—	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	やや良	絡条体圧痕間に線状の軸痕を有す
第76図9	P1032	H16	3区44土	絡条体圧痕文	1.9/1.5	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	なし	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第76図10	P1144	H16	3区44土				スコリア・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第77図12	P1136	H16	3区45土	絡条体圧痕文	6.4/2.4	横	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	縦、磨き	なし	—	—	—	10YR4/3にぶい黄褐色	やや良	繊維は微量である
第77図13	P1136	H16	3区45土	沈線文	幅2.0・ヘラ状工具	横・斜	スコリア・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	刻み（ヘラ状工具）・斜	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	内面右端に補修孔あり
第77図14	P1034・P1035・P1136・P1039・N-13G	H16	3区45土				砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第77図15	P1136・44～46土一括	H16	3区45土				スコリア・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第77図16	P1123	H16	3区45土				砂粒・繊維	縦、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第77図17	P1002・P1037	H16	3区45土				砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第77図18	P1120	H16	3区45土				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第77図19	P1136	H16	3区45土				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第77図20	P1127	H16	3区45土				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	
第77図21	P1121	H16	3区45土				砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第77図22	P1122	H16	3区45土				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第77図23	P1136	H16	3区45土				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第77図24	P1136	H16	3区45土				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第77図25	P1037	H16	3区45土				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第77図26	P1136	H16	3区45土				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第77図27・28	P1037・P1043・P1097・P1126	H16	3区46土	微隆起線文 沈線文	幅1.2・ヘラ状工具	縦・横 斜	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	刻み（ヘラ状工具）・斜	29.6	—	—	10YR6/6明黄褐色	良	
第78図29	P1084	H16	3区46土	条痕文	幅1.9	縦	雲母・砂粒・繊維	不明	斜、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	外面は条痕調整後にナデられている
第78図30	P1032	H16	3区46土				砂粒・繊維	横、ナデ	縦、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第78図31	P1126	H16	3区46土				砂粒・繊維	不明	横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第78図32	P1036	H16	3区46土				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第78図33	P1043	H16	3区46土				砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/8明黄褐色	やや良	
第78図34	P1032	H16	3区46土				砂粒・繊維	横、ナデ	縦・斜、ナデ	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第78図35	P1126	H16	3区46土				砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第78図36	P1041	H16	3区46土				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR4/2灰黄褐色	良	
第78図37	P1043	H16	3区46土				砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第78図38	P1042	H16	3区46土				砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第78図39	P1126・44～46土一括	H16	3区46土				砂粒・繊維	斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第78図42	44～46土一括	H16	3区44～46土	微隆起線文 沈線文	幅1.3・ヘラ状工具	横 斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第78図43	44～46土一括	H16	3区44～46土				砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第78図44	44～46土一括	H16	3区44～46土				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第78図45	44～46土一括	H16	3区44～46土				スコリア・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第78図46	P1119	H16	3区48土	絡条体圧痕文	4.7/2.5	横	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第78図48	P1098	H16	3区55土	刺突文	φ1.7	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	やや良	刺突文で絡条体圧痕文を模倣している
第78図50	P1063	H16	3区63土	絡条体圧痕文 微隆起線文 沈線文	1.2/0.7 幅1.5・ヘラ状工具	横 横 縦・横	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	微隆起線文上に絡条体圧痕文を施している
第79図52	P1138・75土一括	H16	3区75土				雲母・スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	縦・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	不良	
第79図53	P1138	H16	3区75土				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、ナデ	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第79図54	P1139	H16	3区75土				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	外面は条痕調整後にナデられている
第79図55	P1138・L-7G一括	H16	3区75土				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	不良	
第79図56	75土一括	H16	3区75土	条痕文	幅3.1	縦	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	縦、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	外面は条痕調整後にナデられている
第79図57	P677・75土一括	H16	3区75土	条痕文	幅2.3	縦	雲母・砂粒・繊維	不明	縦、ナデ	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	不良	外面は条痕調整後にナデられている
第79図58	P1138	H16	3区75土				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	文様	文様の形状	施文方向	胎土特徴	内面調整	外面調整	口唇刻みの形状	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	備考
第79図59	P1138	H16	3区75土				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、ナデ	―	―	―	―	5YR6/6橙色	やや良	
第79図60	P1082	H16	3区83土	絡条体圧痕文	3.5/1.6	横	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	―	―	―	―	7.5YR7/6橙色	やや良	
第79図61	P1033	H16	3区85土				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	―	―	―	―	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第79図64	P1152	H16	3区87土	絡条体圧痕文	4.2/1.8	横	スコリア・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横、ナデ	―	―	―	―	7.5YR7/6橙色	やや良	
第79図65	P1105	H16	3区87土				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	なし	―	―	―	10YR6/6明黄褐色	不良	
第79図66	P1105	H16	3区87土				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、ナデ	―	―	―	―	10YR4/2灰黄褐色	不良	
第80図67	P1157	H16	3区92土				雲母・砂粒・繊維	不明	不明	不明	―	―	―	10YR7/6明黄褐色	不良	
第80図68	P1159	H16	3区92土				雲母・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、ナデ	―	―	―	―	7.5YR6/6橙色	やや良	
第80図69	P1161	H16	3区93土	沈線文 刺突文 押引文	幅3.3・竹管状工具 φ4.0・竹管状工具 φ3.5・竹管状工具	横・斜 縦・斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	―	―	―	―	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第80図70	P1160	H16	3区94土				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	―	―	―	―	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第80図71	95土一括	H16	3区95土				雲母・砂粒・繊維	不明	縦・横、磨き	―	―	―	―	10YR3/2黒褐色	不良	
第80図72	P1153	H16	3区100土	絡条体圧痕文	5.3/2.2	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	―	―	―	―	5YR6/8橙色	やや良	内面指頭痕あり
第80図73	98土一括	H16	3区98土	絡条体圧痕文 微隆起線文 沈線文	3.2/1.4 幅1.6・ヘラ状工具	横 横 斜	スコリア・砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、磨き	刻み(ヘラ状工具)・斜	―	―	―	2.5YR4/4にぶい赤褐色	やや良	
第80図74	P1163	H16	3区98土				スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	なし	―	―	―	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第80図77	P1175	H16	3区102土	絡条体圧痕文	2.5/1.0	横	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	なし	―	―	―	7.5YR7/6橙色	やや良	絡条体圧痕間に線状の軸痕を有す、補修孔あり
第80図78	P1173	H16	3区102土				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、ナデ	なし	―	―	―	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第80図79	P1166	H16	3区102土				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、ナデ	―	―	―	―	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第80図80	P1174	H16	3区102土				砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	―	―	―	―	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第80図81	P1164	H16	3区102土				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、ナデ	―	―	―	―	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第81図84	P1167	H16	3区103土	沈線文	幅1.8・ヘラ状工具	横・斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	なし	―	―	―	2.5YR6/8橙色	やや良	
第81図85	P1176	H16	3区104土	絡条体圧痕文	3.9/1.3	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、ナデ	―	―	―	―	7.5YR4/3褐色	やや良	
第81図86	P1172	H16	3区104土				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、ナデ	―	―	―	―	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第81図87	P1130	H16	3区105土				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	なし	―	―	―	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第81図88	P1131	H16	3区105土				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	―	―	―	―	7.5YR6/6橙色	やや良	
第81図89	P1134	H16	3区107土				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、ナデ	なし	―	―	―	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第81図90	P1135	H16	3区107土				雲母・砂粒・繊維	不明	不明	―	―	―	―	7.5YR7/6橙色	不良	
第81図91	P1133	H16	3区107土				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、ナデ	―	―	―	―	7.5YR7/6橙色	やや良	
第81図92	P1132	H16	3区106土				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	―	―	―	―	7.5YR6/6橙色	やや良	
第81図93	P419	H17	4区14土	沈線文	φ2.0・竹管状工具	斜	砂粒	斜、磨き	横、磨き	―	―	―	―	5YR5/6明赤褐色	良	
第81図94	P690	H17	4区32土	沈線文	幅0.8・併行沈線	縦・横	砂粒・繊維	縦・斜、ナデ	縦、磨き	―	―	―	―	7.5YR6/6橙色	やや良	
第81図95	P690	H17	4区32土				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	縦、磨き	―	―	―	―	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第81図96～98	P727・P729・P944	H19	5区63土	押引文	φ2.8・竹管状工具	縦・横・斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、磨き	刻み(竹管状工具)・直	23.6	―	―	5YR3/2暗赤褐色	不良	
第81図99	P1007	H19	5区67土	条痕文	幅2.5	斜	砂粒・繊維	不明	斜、磨き	―	―	―	―	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第81図100	P1006	H19	5区67土				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	―	―	―	―	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第82図102	P1008	H19	5区69土				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	―	―	―	―	10YR6/4にぶい黄褐色	不良	
第82図104	P1019	H19	5区75土				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	―	―	―	―	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第82図105・106	P1026	H19	5区77土				砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、磨き	―	―	―	―	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第82図107	P1025	H19	5区77土				砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、磨き	―	―	―	―	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第82図108	P1028	H19	5区79土				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	―	―	―	―	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第82図109	P1021・P1022	H19	5区83土	条痕文	幅2.5	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	横、磨き	なし	―	―	―	2.5YR6/4にぶい黄色	やや良	
第82図110	P1013	H19	5区83土	絡条体圧痕文 微隆起線文 沈線文	4.1/1.6 幅2.0・ヘラ状工具	横 横 斜	砂粒・繊維	横・斜、磨き	横・斜、ナデ	刻み(竹管状工具)・斜	―	―	―	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第82図111	P1023	H19	5区83土	沈線文	幅2.4・ヘラ状工具	縦・横	砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	刻み(ヘラ状工具)・斜	―	―	―	10YR3/2黒褐色	やや良	
第82図112	P1022・P1027(5区)、P72(11区)	H19	5区83土・11区	絡条体圧痕文	6.1/1.7	横・斜	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、磨き	―	―	―	―	7.5YR6/6橙色	やや良	
第82図113	P1017	H19	5区85土	絡条体圧痕文 沈線文	3.0/1.5 幅1.5・ヘラ状工具	横 縦・横・斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	―	―	―	―	2.5Y3/2黒褐色	やや良	絡条体圧痕間に線状の軸痕を有す
第82図114	P1030	H19	5区85土				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	縦、磨き	―	―	―	―	5YR6/6橙色	やや良	
第82図115	P1015	H19	5区85土				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	―	―	―	―	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第82図116	P1018	H19	5区85土	条痕文	幅2.3	縦	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	縦、磨き	―	―	―	―	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第83図117	P165	H18	6区23土	条痕文	不明		雲母・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、ナデ	なし	―	―	―	7.5YR6/6橙色	やや良	外面は条痕調整後にナデられている
第83図118	P153	H18	6区15土	沈線文 押引文	幅9.0・指頭 φ2.4・竹管状工具	斜 斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	―	―	―	―	7.5YR5/4にぶい褐色	やや良	
第83図119	P33	H18	6区39土	沈線文	φ2.4・竹管状工具	縦	砂粒・繊維	横、ナデ	縦、磨き	―	―	―	―	7.5YR6/6橙色	良	
第83図120	P143	H18	6区36土				砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、磨き	―	―	―	―	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第83図123	P166	H18	6区41土				砂粒・繊維	斜、ナデ	縦・斜、磨き	―	―	―	―	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第83図124	P10・P17	H19	9区2土	沈線文 刺突文	φ5.2・竹管状工具 φ5.2・竹管状工具	縦・横・斜	砂粒	横・斜、磨き	横・斜、磨き	なし	―	―	―	5YR6/6橙色	良	
第83図125	P219	H19	11区12土	沈線文	φ2.1・竹管状工具	横・斜	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	―	―	―	―	7.5YR5/4にぶい褐色	やや良	
第83図126	P182	H19	11区12土	条痕文	幅2.0	斜	雲母・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	縦・斜、磨き	―	―	―	―	5YR4/3にぶい赤褐色	やや良	
第83図127	P208	H19	11区13土	絡条体圧痕文 微隆起線文	4.8/2.2	斜 縦・横	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横、磨き	刻み(ヘラ状工具)・斜	―	―	―	10YR4/2灰黄褐色	やや良	
第83図128	P210	H19	11区13土				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	―	―	―	―	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第83図129	P181	H19	11区13土	沈線文	幅1.8・ヘラ状工具	横・斜	砂粒・繊維	不明	横・斜、磨き	―	―	―	―	10YR4/2灰黄褐色	やや良	
第83図130	P209	H19	11区13土	沈線文	幅1.6・ヘラ状工具	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	―	―	―	―	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	
第83図131	P212	H19	11区14土				砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、磨き	―	―	―	―	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第83図132	P216	H19	11区14土				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	―	―	―	―	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	文様	文様の形状	施文方向	胎土特徴	内面調整	外面調整	口唇刻みの形状	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	備考
第83図133	P180	H19	11区14土				砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第83図134	P204	H19	11区18土				雲母・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第84図135	P69・P200	H19	11区88土				雲母・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第84図1	P1106	H16	3区1号集石	絡条体圧痕文 微隆起線文	4.1/1.3	縦・横 縦・横	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	なし	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	やや良	
第85図6	P1111	H16	3区4号集石	沈線文	幅1.7・ヘラ状工具	横	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	断面に種実痕跡あり
第85図10	P167・P199	H19	11区88土・1号集石	絡条体圧痕文 沈線文	4.9/2.2 幅2.1・ヘラ状工具	斜 横・斜	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第85図11	P169	H19	11区1号集石	絡条体圧痕文	3.5/1.2	斜	スコリア・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR3/1黒褐色	やや良	
第86図12	P48・P512・P917(3区) P654・P724・P825・P827・ P883・P885(5区)1集 P161・P163・P165・P166・ P170～174・P178・P179、 76土P217(11区)	H19	11区1号集石	微隆起線文 押引文 刺突文 条痕文	 φ3.1・竹管状工具 φ6.0・竹管状工具 幅2.6	横・斜 斜 横・斜	砂粒・繊維	不明	不明	押引文・斜	40.6	—	—	2.5Y5/3黄褐色	やや良	
第87図2	P689	H17	4区12焼集				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR4/4褐色	やや良	
第87図3	P688	H17	4区12焼集	条痕文	幅2.2	横	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	やや良	
第87図4	P656	H16	3区29焼集	絡条体圧痕文	5.5/2.3	横	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第87図5	焼土集中一括	H16	3区焼集				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	
第87図1	P128(6区)P589・P936 (H19・5区)	H18・H19	5区石器集中地点・6区	条痕文	幅2.5	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第87図2	P585	H19	5区石器集中地点	沈線文 押引文	φ3.9・竹管状工具 φ3.4・竹管状工具	斜 縦	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	刻み(竹管状工具)・直	—	—	—	2.5Y8/2暗灰黄色	やや良	
第87図3	P588	H19	5区石器集中地点	押引文	φ3.3・竹管状工具	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	5YR3/2暗赤褐色	不良	
第87図4	P515・P558・P693・P732	H19	5区石器集中地点	刺突文 押引文 条痕文	φ2.9・竹管状工具 φ2.1・竹管状工具 2.7	 斜 斜	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第87図5	P590	H19	5区石器集中地点	沈線文 押引文	φ2.3・竹管状工具 φ3.8・竹管状工具	横・斜 斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第87図6	P516	H19	5区石器集中地点	沈線文	φ3.1・竹管状工具	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	やや良	
第87図7	P586	H19	5区石器集中地点	沈線文	φ2.7・竹管状工具	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR3/2黒褐色	やや良	
第87図8	P587	H19	5区石器集中地点	沈線文	幅2.1・ヘラ状工具	縦・横・斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第87図9	P517	H19	5区石器集中地点	沈線文	幅2.1・ヘラ状工具	横・斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	やや良	
第87図10	P618	H19	5区石器集中地点	沈線文 条痕文	幅2.5・ヘラ状工具 幅3.0	縦・斜 横	砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第87図11	P522	H19	5区石器集中地点	条痕文	幅3.5	横	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第87図12	P598	H19	5区石器集中地点	条痕文	幅2.5	横	雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第87図13	P593	H19	5区石器集中地点	条痕文	幅2.3	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第87図14	P584	H19	5区石器集中地点	沈線文 条痕文	幅1.9・ヘラ状工具 幅3.4	横・斜 斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR5/6橙色	やや良	
第87図15	P620	H19	5区石器集中地点	条痕文	幅2.4	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第87図16	P520	H19	5区石器集中地点	沈線文	φ3.3・竹管状工具	横・斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第95図1	P527・P535・P538・P539・ P541・P542・P583・P659・ P704・P836	H19	5区土器集中地点1	沈線文 条痕文	φ3.2・竹管状工具 幅4.2	縦・横・斜 斜	雲母・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、磨き	刻み(竹管状工具)・直	26.1	38.0	6.0	5YR3/4暗赤褐色	やや良	外面下半部は磨きが施されない
第95図2	P725・P859	H19	5区土器集中地点2	沈線文 押引文 条痕文	幅8.3・幅広形工具 φ4.7・竹管状工具 幅3.1	斜 縦・斜 横	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	刻み(竹管状工具)・直	27.4	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第95図3	P162・P190～192・P196・ P197	H19	11区土器集中地点				雲母・砂粒・繊維	縦、ナデ	縦・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第95図4	P162・P114	H19	11区土器集中地点	条痕文	幅2.7	縦	雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	なし	—	—	—	2.5YR4/3オリーブ褐色	やや良	外面は条痕調整後に磨かれている
第96図1	P37	H18	6区	押型文	楕円文	縦	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第96図2	P906	H19	5区	押型文	楕円文	縦	雲母・砂粒・繊維	横、磨き	不明	—	—	—	—	7.5YR3/1黒褐色	やや良	
第96図3	P309	H16	3区	押型文	楕円	縦	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	雲母は微量である
第96図4	P229	H16	3区	押型文	楕円	縦	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	5YR5/4にぶい赤褐色	やや良	雲母は微量である
第96図5	P1066	H16	3区	押型文	楕円	縦	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	雲母は微量である
第96図6	P1011	H16	3区	押型文	楕円	不明	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第96図7	P935	H16	3区	縄文		斜	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第96図8	P1094・N-10G一括	H16	3区	絡条体圧痕文	3.3/2.0	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、磨き	なし	24.0	—	—	10YR4/4褐色	やや良	絡条体圧痕間に線状の軸痕を有す
第96図9	P473	H16	3区	絡条体圧痕文	2.3/1.4	横・斜	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	なし	23.2	—	—	5YR6/8橙色	やや良	絡条体圧痕間に線状の軸痕を有す
第96図10	P757	H16	3区	絡条体圧痕文	4.5/2.4	横・斜	スコリア・砂粒・繊維	縦・横、ナデ	縦・横、磨き	なし	—	—	—	10YR7/4にぶい黄褐色	やや良	補修孔あり
第96図11	P864	H19	5区	絡条体圧痕文	4.0/2.0	横・斜	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第96図12	P311	H18	5区2トレ	絡条体圧痕文	5.4/2.0	横・斜	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横、磨き	刻み(竹管状工具)・直	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第96図13	P805	H16	3区	絡条体圧痕文	5.8/2.2	横	砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	なし	—	—	—	10R5/8赤色	良	絡条体圧痕間に丸い軸痕を有す
第96図14	P1026・N-13G一括	H16	3区	絡条体圧痕文	5.0/3.3	斜	スコリア・繊維	横、ナデ	横、磨き	なし	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	文様	文様の形状	施文方向	胎土特徴	内面調整	外面調整	口唇刻みの形状	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	備考
第96図15	P657	H16	3区	絡条体圧痕文	5.2/2.3	横	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	なし	—	—	—	10R4/8赤色	良	絡条体圧痕間に丸い軸痕を有す
第96図16	P1140	H16	2区	絡条体圧痕文	3.5/2.1	横	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	なし	—	—	—	10YR7/4にぶい黄褐色	不良	絡条体圧痕間に線状の軸痕を有す
第96図17	P179	H16	3区	絡条体圧痕文	2.1/1.0	斜	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横、磨き	なし	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	絡条体圧痕間に線状の軸痕を有す
第96図18	焼土集中	H16	3区	絡条体圧痕文	5.4/2.1	横	砂粒・繊維	縦・横、ナデ	横、磨き	なし	—	—	—	10R5/8赤色	良	絡条体圧痕間に丸い軸痕を有す
第96図19	P838	H16	3区	絡条体圧痕文	2.8/1.7	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	横、ナデ	刻み(ヘラ状工具)・斜	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第96図20	P1168	H16	3区	絡条体圧痕文	3.8/1.0	横・斜	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	絡条体圧痕間に丸い軸痕を有す
第96図21	P994	H16	3区	絡条体圧痕文	4.9/1.4	横	砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	やや良	
第96図22	P1088	H16	3区	絡条体圧痕文	4.5/1.2	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	なし	—	—	—	10YR4/4褐色	やや良	
第96図23	P226	H16	3区	絡条体圧痕文	5.8/2.3	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	刻み(ヘラ状工具)・斜	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第96図24	P413	H16	3区	絡条体圧痕文	3.0/1.3	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	なし	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第96図25	P880	H19	5区	絡条体圧痕文	3.0/1.9	斜	スコリア・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR3/2黒褐色	やや良	絡条体圧痕間に線状の軸痕を有す
第97図26	P1011	H19	5区	絡条体圧痕文	4.0/2.7	横	砂粒・繊維	横、ナデ	縦・横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第97図27	P92・P152	H19	11区	絡条体圧痕文	3.9/1.8	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	やや良	
第97図28	P606	H19	5区	絡条体圧痕文	2.3/0.8	横・斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	絡条体圧痕間に線状の軸痕を有す
第97図29	P77	H18	6区	絡条体圧痕文	3.7/1.3	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第97図30	P287・P678	H16	3区	絡条体圧痕文	3.2/1.8	横	砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	5YR4/6赤褐色	良	
第97図31	P1016	H16	3区	絡条体圧痕文	4.0/1.4	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第97図32	P495・P705	H16	3区	絡条体圧痕文	4.2/1.8	横	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR4/4にぶい赤褐色	良	
第97図33	P970	H16	3区	絡条体圧痕文	4.6/2.4	斜	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/8橙色	やや良	
第97図34	P994	H19	5区	絡条体圧痕文	4.1/1.8	横・斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	2.5Y5/3	やや良	
第97図35	P718	H16	3区	絡条体圧痕文	5.4/2.1	横・斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	10R5/8赤色	良	
第97図36	P1107	H16	3区	絡条体圧痕文	4.4/3.5	横	スコリア・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR6/6橙色	やや良	絡条体圧痕間に線状の軸痕を有す
第97図37	3区表土・3区一括	H16	3区	絡条体圧痕文	5.9/1.4	横	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第97図38	P416・P972	H16・H19	3区・5区	絡条体圧痕文	3.4/2.1	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	やや良	
第97図39	P560	H17	4区	絡条体圧痕文	5.0/2.1	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第97図40	P296	H18	5区2トレ	絡条体圧痕文	5.3/2.6	横	砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	不良	
第97図41	P492	H16	3区	絡条体圧痕文	5.6/2.2	横・斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/4にぶい橙色	やや良	
第97図42	N-10G一括	H16	3区	絡条体圧痕文	3.5/2.0	斜	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	不良	絡条体圧痕間に線状の軸痕を有す
第97図43	P902	H16	3区	絡条体圧痕文	4.5/2.3	斜	スコリア・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第98図44	3区一括	H16	3区	絡条体圧痕文	2.9/2.6	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	不良	絡条体圧痕間に丸い軸痕を有す
第98図45	P489	H16	3区	絡条体圧痕文	4.6/1.7	横	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第98図46	P103	H16	3区	絡条体圧痕文	4.4/1.0	横	砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	絡条体圧痕間に丸い軸痕を有す
第98図47	P918	H16	3区	絡条体圧痕文	5.0/2.2	横	砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	不良	
第98図48	3区一括	H16	3区	絡条体圧痕文	2.0/1.3	横	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第98図49	3区一括	H16	3区	絡条体圧痕文	5.1/1.8	横	砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR6/8橙色	やや良	
第98図50	P974	H16	3区	絡条体圧痕文	4.4/1.5	横	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第98図51	3区一括	H16	3区	絡条体圧痕文	2.7/1.1	横	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第98図52	3区一括	H16	3区	絡条体圧痕文	4.0/2.4	斜	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR4/3にぶい黄褐色	やや良	
第98図53	P785	H16	3区	絡条体圧痕文	5.1/1.7	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	縦・横、ナデ	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第98図54	P1023	H16	3区	絡条体圧痕文	3.5/1.4	斜	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/8黄橙色	やや良	
第98図55	P283	H16	3区	絡条体圧痕文	4.2/1.1	横	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第98図56	P910	H16	3区	絡条体圧痕文	5.0/1.4	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第98図57	P1059	H16	3区	絡条体圧痕文	4.0/1.1	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第98図58	P920・P928	H16	3区	絡条体圧痕文	2.3/1.7	横	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第98図59	P237	H18	5区2トレ	絡条体圧痕文	5.1/1.6	横	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第98図60	P330	H18	5区3トレ	絡条体圧痕文	4.2/1.9	横	砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/8橙色	不良	
第98図61	P965	H19	5区	絡条体圧痕文	4.9/2.0	横	砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第98図62	P107	H19	11区	絡条体圧痕文	3.8/1.9	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第98図63	P47	H18	6区	絡条体圧痕文	3.5/3.0	横	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	5YR5/7明赤褐色	やや良	
第98図64	P670・P673	H19	5区	絡条体圧痕文	5.3/2.0	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第98図65	P714	H19	5区	絡条体圧痕文	4.4/2.3	斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	やや良	
第98図66	P453	H16	3区	絡条体圧痕文	4.3/1.6	横	砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR6/8橙色	やや良	
第98図67	P830	H19	5区	絡条体圧痕文	5.0/2.0	斜	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第98図68	P861	H19	5区	絡条体圧痕文	3.2/1.6	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第98図69	P922	H19	5区	絡条体圧痕文	3.4/1.2	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第98図70	P956	H19	5区	絡条体圧痕文	5.2/1.1	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第98図71	P954	H19	5区	絡条体圧痕文	4.5/1.9	斜	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第98図72	P93	H19	11区	絡条体圧痕文	4.6/1.9	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第98図73	P23	H19	11区	絡条体圧痕文	3.0/1.6	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第98図74	P707	H16	3区	絡条体圧痕文	3.4/1.3	横	砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第98図75	P1065	H16	3区	絡条体圧痕文	3.3/1.4	横	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	繊維は微量である
第98図76	P988	H16	3区	絡条体圧痕文	3.6/2.4	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第98図77	P934	H16	3区	絡条体圧痕文	4.6/1.1	横	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第98図78	P5	H16	3区	絡条体圧痕文	2.9/1.7	横	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第98図79	P340	H16	3区	絡条体圧痕文	4.3/2.2	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	縦・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第98図80	P58	H16	3区	絡条体圧痕文	4.0/1.6	横	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第98図81	P977	H16	3区	絡条体圧痕文	4.5/1.0	横	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第98図82	P1109	H16	3区	絡条体圧痕文	5.3/1.1	斜	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第98図83	P1052	H16	3区	絡条体圧痕文	3.4/2.0	斜	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第98図84	P777	H16	3区	絡条体圧痕文	2.5/1.4	横	砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第98図85	P992	H19	5区	絡条体圧痕文 条痕文	2.8/2.1 幅2.2	斜 斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	文様	文様の形状	施文方向	胎土特徴	内面調整	外面調整	口唇刻みの形状	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	備考
第99図86	P232	H16	3区	絡条体圧痕文	3.0/1.6	横	砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第99図87	P327	H16	3区	絡条体圧痕文	3.9/2.2	斜	スコリア・砂粒・繊維	斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第99図88	P989	H16	3区	絡条体圧痕文	4.1/1.2	横	砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第99図89	P788	H16	3区	絡条体圧痕文	7.4/1.2	横	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	2.5YR3/2暗赤褐色	やや良	
第99図90	P187	H16	3区	絡条体圧痕文	5.1/2.1	横	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第99図91	P927	H16	3区	絡条体圧痕文	4.6/1.2	横	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR6/8橙色	やや良	
第99図92	P981	H19	5区	絡条体圧痕文	4.0/1.8	横	砂粒・繊維	縦・横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第99図93	P255	H16	3区	絡条体圧痕文	3.4/1.3	斜	砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第99図94	P986	H16	3区	絡条体圧痕文	4.5/1.6	横	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10R5/6赤色	やや良	繊維は微量である
第99図95	P786	H16	3区	絡条体圧痕文	1.9/1.5	横	砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	不良	繊維は微量である
第99図96	O-14G一括	H16	3区	絡条体圧痕文	5.2/2.0	斜	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第99図97	P811	H16	3区	絡条体圧痕文	5.3/1.2	横	砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	5YR7/6橙色	やや良	
第99図98	P260	H16	3区	絡条体圧痕文	2.9/1.4	横	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第99図99	P1086	H16	3区	絡条体圧痕文	2.7/2.1	横	砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/8橙色	やや良	
第99図100	P948	H16	3区	絡条体圧痕文	3.4/1.7	横	砂粒・繊維	横、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第99図101	P616	H17	4区	絡条体圧痕文	3.0/1.5	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第99図102	P106	H18	6区	絡条体圧痕文	4.1/1.9	横	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	2.5Y6/4にぶい黄色	やや良	
第99図103	P116	H18	6区	絡条体圧痕文	2.3/1.9	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	不良	
第99図104	P27	H18	6区	絡条体圧痕文	3.3/2.3	斜	砂粒・繊維	不明	横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第99図105	P672	H19	5区	絡条体圧痕文	2.8/1.5	斜	砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	
第99図106	P878	H19	5区	絡条体圧痕文	4.4/1.8	斜	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR3/1黒褐色	やや良	
第99図107	P890	H19	5区	絡条体圧痕文	4.4/2.0	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第99図108	P41	H19	11区	絡条体圧痕文	4.9/1.7	横	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR4/2灰褐色	やや良	
第99図109	P89	H19	11区	絡条体圧痕文	不明/1.9	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR4/2灰褐色	やや良	
第99図110	P312	H18	5区2トレ	擬似絡条体圧痕文		斜	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第99図111	P114	H16	3区	擬似絡条体圧痕文		横	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	文様は刻みによる模倣である
第99図112	P999	H19	5区	擬似絡条体圧痕文		横	砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	文様は刻みによる模倣である
第99図113	P524	H16	3区	擬似絡条体圧痕文		横	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	文様は刻みによる模倣である
第99図114	P968	H16	3区	刺突文	φ1.8	横	砂粒・繊維	不明	横、ナデ	—	—	—	—	10YR4/2灰黄褐色	やや良	刺突文で絡条体圧痕文を模倣している
第99図115	P145	H18	6区	絡条体圧痕文 微隆起線文	4.3/1.4	横 横	砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	なし	30.3	—	—	7.5YR6/8橙色	やや良	微隆起線文上に絡条体圧痕文あり
第99図116	P109・P133	H19	11区	絡条体圧痕文 微隆起線文	4.0/2.3	横・斜 横	スコリア・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、磨き	刻み(竹管状工具)・斜	—	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	やや良	
第99図117	P689	H16	3区	絡条体圧痕文 微隆起線文	4.1/1.4	斜 横	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	縦・横、磨き	刻み(絡条体圧痕)・斜	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第99図118	P258	H16	3区	絡条体圧痕文 微隆起線文	3.6/2.4	横・斜 横	砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	刻み(竹管状工具)・斜	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	絡条体圧痕間に線状の軸痕を有し、微隆起線文上に絡条体圧痕文を施している
第99図119	P497	H16	3区	絡条体圧痕文 微隆起線文	4.5/1.1	斜 横	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	なし	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第99図120	P1112	H16	3区	絡条体圧痕文 微隆起線文	5.0/2.5	横・斜 縦・横	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	なし	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第99図121	P504	H16	3区	絡条体圧痕文 微隆起線文	5.0/1.9	斜 横	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	縦・横、磨き	刻み(絡条体圧痕)・斜	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第99図122	P999	H16	3区	絡条体圧痕文 微隆起線文	3.9/3.9	横 横	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	なし	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第99図123	P983	H16	3区	絡条体圧痕文 微隆起線文	4.2/1.1	横 横	スコリア・砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	刻み(ヘラ状工具)・斜	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第99図124	P101	H19	11区	絡条体圧痕文 微隆起線文	3.1/2.0	横 横	砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	なし	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第100図125	P933	H16	3区	絡条体圧痕文 微隆起線文	5.0/1.3	横 縦・横	スコリア・砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	絡条体圧痕間に丸い軸痕を有す
第100図126	P877	H16	3区	絡条体圧痕文 微隆起線文 沈線文	5.1/1.8 幅2・ヘラ状工具	斜 斜 斜	スコリア・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第100図127	P718	H17	4区	絡条体圧痕文 微隆起線文	4.0/2.1	横 横	砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第100図128	P527	H16	3区	絡条体圧痕文 微隆起線文	4.6/1.7	横 斜	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	やや良	
第100図129	P1108	H16	3区	絡条体圧痕文 微隆起線文	3.7/1.9	横 縦・横	スコリア・砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	微隆起線文上に絡条体圧痕文を施している
第100図130	P1086	H16	3区	絡条体圧痕文 微隆起線文	3.7/2.7	横 横	砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	微隆起線文上に絡条体圧痕文を施している
第100図131	P215	H16	3区	絡条体圧痕文 微隆起線文	3.4/1.0	横 横	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	微隆起線文上に絡条体圧痕文を施している
第100図132	P908	H16	3区	絡条体圧痕文 微隆起線文	3.8/1.9	斜 縦	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	縦・横、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第100図133	P526	H16	3区	絡条体圧痕文 微隆起線文	4.0/1.6	横 横	砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	2.5Y4/2暗灰黄色	やや良	絡条体圧痕間に丸い軸痕を有す
第100図134	P898	H16	3区	絡条体圧痕文 微隆起線文	1.4/1.4	横 横	スコリア・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR6/8橙色	やや良	微隆起線文上に絡条体圧痕文を施している
第100図135	P924	H16	3区	絡条体圧痕文 微隆起線文	4.0/1.4	横 横	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	文様	文様の形状	施文方向	胎土特徴	内面調整	外面調整	口唇刻みの形状	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	備考
第100図136	P987	H16	3区	絡条体圧痕文 微隆起線文	3.2/1.2	横 横	スコリア・砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第100図137	M-9G一括	H16	3区	絡条体圧痕文 微隆起線文	4.3/1.4	斜 横	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	横、磨き	横、磨き	
第100図138	L-12G一括	H16	3区	絡条体圧痕文 微隆起線文	2.9/1.5	横 横	スコリア・砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	微隆起線文上に絡条体圧痕文を施している
第100図139	P1073	H16	3区	絡条体圧痕文 沈線文	3.7/3.0 幅2.1・ヘラ状工具	横 斜	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	なし	26.8	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第100図140	P788・P878	H19	5区	絡条体圧痕文 沈線文	4.4/1.3 幅1.9・ヘラ状工具	横 横・斜	スコリア・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR4/4褐色	やや良	
第100図141	P59	H18	6区	絡条体圧痕文 沈線文	3.8/1.5 幅0.9・ヘラ状工具	横 横・斜	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	縦・斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第100図142	P72	H16	3区	絡条体圧痕文 沈線文	3.5/2.2 幅2.0・ヘラ状工具	横 横・斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第100図143	P891・P127	H19	5区・11区	絡条体圧痕文 沈線文	4.9/2.5 幅2.0・ヘラ状工具	横 横・斜	スコリア・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	やや良	
第100図144	P1062	H16	3区	絡条体圧痕文 沈線文	2.7/1.8 幅1.8・ヘラ状工具	斜 横・斜	スコリア・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第100図145	P90	H19	11区	絡条体圧痕文 沈線文	3.9/1.4 幅3.3・ヘラ状工具	横 横・斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	5YR5/4にぶい赤褐色	やや良	
第101図146	P926・P1025	H16	3区	絡条体圧痕文 微隆起線文 沈線文	4.7/1.7 幅1.8・ヘラ状工具	斜 縦・横 横・斜	スコリア・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	縦・横、磨き	刻み(絡条体圧痕)・斜	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第101図147	P108・P329	H16	3区	絡条体圧痕文 微隆起線文 沈線文	5.0/2.1 幅1.8・ヘラ状工具	横 横 斜	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	刻み(竹管状工具)・斜	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	微隆起線文上に絡条体圧痕文を施している
第101図148	P526	H19	5区	絡条体圧痕文 微隆起線文 沈線文	3.4/1.6 幅1.8・ヘラ状工具	横 横 斜	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横、磨き	刻み(ヘラ状工具)・斜	—	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	やや良	
第101図149	L-8G一括	H16	3区	絡条体圧痕文 微隆起線文 沈線文	3.5/1.9 幅1.3・ヘラ状工具	横 横 斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	刻み(竹管状工具)・斜	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第101図150	P669	H16	3区	絡条体圧痕文 微隆起線文 沈線文	4.1/1.6 幅2.2・ヘラ状工具	横 横 斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	刻み(ヘラ状工具)・斜	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	微隆起線文上に絡条体圧痕文を施している
第101図151	P91	H19	11区	絡条体圧痕文 微隆起線文 沈線文	3.0/1.7 幅0.9・ヘラ状工具	斜 縦 斜	砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	
第101図152	P659	H17	4区	絡条体圧痕文 微隆起線文 沈線文	3.5/1.3 幅1.8・ヘラ状工具	横 縦 横・斜	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第101図153	P134	H19	11区	微隆起線文 沈線文	幅1.1・併行沈線	縦・横 斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	5YR4/3にぶい赤褐色	やや良	
第101図154	P347	H18	5区4トレ	微隆起線文 沈線文	φ1.6・竹管状工具	横 縦・斜	砂粒・繊維 砂粒・繊維	斜、ナデ 斜、ナデ	横、磨き 横・斜、磨き	刻み(竹管状工具)・斜	—	—	—	10YR6/6明黄褐色 7.5YR6/6橙色	やや良 やや良	
第101図155	P231	H18	5区	微隆起線文 沈線文	幅0.8・ヘラ状工具	横 斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	微隆起線文上にφ4.6竹管状工具による刻みあり
第101図156	P253・P254・P261	H18	5区2トレ	微隆起線文 沈線文	幅2.0・ヘラ状工具	横 横・斜	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第101図157	P351	H16	3区	微隆起線文		横	砂粒・繊維	横、ナデ	縦・横、磨き	なし	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第101図158	P183	H16	3区	微隆起線文		縦・横	砂粒・繊維	横、ナデ	縦・横、磨き	刻み(ヘラ状工具)・斜	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第101図159	P754	H16	3区	微隆起線文		横	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	刻み(ヘラ状工具)・斜	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第101図160	P635	H17	4区	微隆起線文		斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	刻み(ヘラ状工具)・斜	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	
第101図161	P548	H19	5区	微隆起線文		横	砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第101図162	P62	H19	11区	微隆起線文		横	砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第101図163	P63	H19	11区	微隆起線文		縦	砂粒・繊維	横、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	縦位に3単位の微隆起線文を有す
第101図164	P79	H18	6区	沈線文	幅1.8・ヘラ状工具	斜	砂粒・繊維	不明	斜、磨き	刻み(ヘラ状工具)・斜	—	—	—	5YR4/3にぶい赤褐色	やや良	
第101図165	3区一括	H16	3区	沈線文	幅2.0・ヘラ状工具	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	なし	—	—	—	10YR4/2灰黄褐色	やや良	
第101図166	P652	H16	3区	沈線文	幅1.7・ヘラ状工具	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	なし	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第101図167	P1078	H16	3区	沈線文	幅1.4・ヘラ状工具	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	刻み(竹管状工具)・斜	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	外面に貫通していない孔あり
第101図168	P240	H16	3区	沈線文	幅2.0・ヘラ状工具	横・斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	刻み(ヘラ状工具)・直	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	不良	
第101図169	P338	H16	3区	沈線文	幅2.0・ヘラ状工具	横・斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第101図170	P857	H19	5区	沈線文	幅1.4・ヘラ状工具	横・斜	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第101図171	P1010	H19	5区	沈線文	幅1.4・ヘラ状工具	横・斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	やや良	
第101図172	P705	H17	4区	沈線文		斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第101図173	P106	H19	11区	沈線文	幅1.0・ヘラ状工具	横・斜	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第101図174	P346	H16	3区	沈線文	幅1.9・ヘラ状工具	縦・横	砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第101図175	K-8G一括	H16	3区	沈線文	幅2.1・ヘラ状工具	斜	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	刻み(竹管状工具)・斜	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	文様	文様の形状	施文方向	胎土特徴	内面調整	外面調整	口唇刻みの形状	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	備考
第101図176	P90	H18	6区	沈線文	φ2.0・竹管状工具	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	刻み(ヘラ状工具)・斜	—	—	—	7.5YR2/2黒褐色	やや良	
第101図177	P900	H16	3区	沈線文	幅1.9・ヘラ状工具	斜	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、ナデ	なし	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第101図178	P55	H19	11区	沈線文	幅1.9・ヘラ状工具	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	刻み(竹管状工具)・斜	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第101図179	P115	H18	6区	沈線文	幅1.0・ヘラ状工具	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	刻み(竹管状工具)・斜	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第101図180	P88	H16	3区	沈線文	幅1.3・ヘラ状工具	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	刻み(竹管状工具)・斜	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第101図181	P907	H16	3区	沈線文	幅0.8・ヘラ状工具	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第101図182	P982	H16	3区	沈線文	幅1.3・ヘラ状工具	斜	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第101図183	P971・3区一括	H16	3区	沈線文	幅2.2・ヘラ状工具	斜	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第101図184	P634	H17	4区	沈線文	φ1.5・竹管状工具	斜	砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	
第101図185	3区一括	H16	3区	沈線文	幅1.1・ヘラ状工具	斜	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第101図186	P41	H18	6区	沈線文	幅1.9・ヘラ状工具	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第102図187	P860	H19	5区	沈線文	幅1.4・ヘラ状工具	横・斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第102図188	P125	H19	11区	沈線文	幅2.6・ヘラ状工具	縦・横	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR7/8橙色	やや良	
第102図189	P73	H19	11区	沈線文	幅1.8・ヘラ状工具	横・斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第102図190	P722	H19	5区	沈線文	幅1.8・ヘラ状工具	横・斜	スコリア・砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第102図191	P995	H16	3区	沈線文	幅2.3・ヘラ状工具	斜	スコリア・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第102図192	P324	H18	5区2トレ	沈線文	幅1.2・ヘラ状工具	斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR5/6明褐色	やや良	
第102図193	P356	H16	3区	沈線文	幅2.0・ヘラ状工具	横・斜	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	縦・横、磨き	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第102図194	P828	H19	5区	沈線文	幅1.6・ヘラ状工具	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第102図195	P892	H19	5区	沈線文	幅1.4・ヘラ状工具	横・斜	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第102図196	P66	H19	11区	沈線文	幅1.5・ヘラ状工具	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第102図197	P28	H18	6区	沈線文	幅3.4・ヘラ状工具	縦	砂粒	斜、磨き	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	良	
第102図198	P269	H18	5区2トレ	沈線文	幅2.5・ヘラ状工具	横・斜					—	—	—			
第102図199	4区一括	H17	4区	沈線文	幅1.8・ヘラ状工具	縦・横・斜	砂粒	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第102図200	P430	H16	3区	波状文	幅2.3・ヘラ状工具	斜	スコリア・砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	5YR7/8橙色	やや良	
第102図201	P425	H16	3区	波状文	幅1.3・ヘラ状工具	縦・斜	砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	5YR7/8橙色	やや良	
第102図202	P787・P842	H16	3区	波状文	幅1.3・併行沈線	斜	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第102図203	P1064	H16	3区	波状文	φ4.3・竹管状工具	斜	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横、磨き	なし	27.2	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第102図204	P783・P818	H16	3区	波状文	φ3.0・竹管状工具	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第102図205	P538・P568・P612・P636	H17	4区	押引文	φ4.5・竹管状工具	横	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	不良	
第102図206	P73	H18	6区	沈線文	幅1.2・併行沈線	縦・斜	砂粒・繊維	不明	縦・横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第102図207	P57	H19	11区	沈線文	幅1.3・併行沈線	縦・斜	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	
第102図208	P56	H19	11区	沈線文	幅1.3・併行沈線	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第102図209	P84・P105	H19	11区	微隆起線文		斜	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、磨き	刻み(ヘラ状工具)・斜	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第102図210	P95	H19	11区	微隆起線文 沈線文	 幅1.4・ヘラ状工具	横・斜 横・斜	砂粒・繊維	横、磨き	横・斜、磨き	なし	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第102図211	P889	H19	5区				砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第102図212	P139	H16	3区	微隆起線文 沈線文	 幅2.2・ヘラ状工具	斜 斜	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/8橙色	やや良	
第102図213	P694	H17	4区	微隆起線文 沈線文 条痕文	 φ3.9・竹管状工具 幅2.7	横・斜 斜 斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR3/2黒褐色	やや良	
第102図214	P839	H16	3区	微隆起線文 沈線文	 幅2.0・ヘラ状工具	横 斜	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5Y6/4にぶい黄色	やや良	
第102図215	3区一括	H16	3区	縄文		斜	砂粒・繊維	横、ナデ	不明	縄文	—	—	—	2.5YR6/8橙色	やや良	
第102図216	P42	H16	3区	縄文		斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	—	—	—	—	2.5YR6/8橙色	やや良	
第102図217	P688	H16	3区	縄文		斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	—	—	—	—	2.5YR6/8橙色	やや良	
第102図218	P69	H18	6区	縄文		斜	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第103図219	P943	H19	5区	微隆起線文 沈線文 刺突文 押引文 条痕文	 幅0.9・ヘラ状工具 φ3.4・竹管状工具 φ3.0・竹管状工具 幅2.8	斜 斜 斜 斜 横・斜	砂粒・繊維	不明	横・斜、磨き	刻み(竹管状工具)・直	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	口唇部に一対の矢羽状の刻みを有する
第103図220	P804	H19	5区	微隆起線文 沈線文 刺突文 押引文 条痕文	 幅1.4・ヘラ状工具 φ3.4・竹管状工具 φ2.7・竹管状工具 幅2.7	縦 斜 斜 横・斜	砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第103図221	P850	H19	5区	微隆起線文 沈線文 刺突文 押引文 条痕文	 幅1.6・ヘラ状工具 φ3.0・竹管状工具 φ3.0・竹管状工具 φ3.7・竹管状工具	横 斜 斜 横	砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第103図222	P782	H19	5区	微隆起線文 沈線文 刺突文 押引文 条痕文	 幅1.1・ヘラ状工具 φ3.0・竹管状工具 φ3.1・竹管状工具 幅3.0	縦・横 斜 斜 横	砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	文様	文様の形状	施文方向	胎土特徴	内面調整	外面調整	口唇刻みの形状	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	備考
第103図223	P320	H18	5区2トレ	微隆起線文 沈線文 刺突文 押引文 条痕文	 幅1.0・ヘラ状工具 φ3.2・竹管状工具 φ2.5・竹管状工具 幅3.5	横 斜 斜 横	砂粒・繊維	不明	横、磨き	―	―	―	―	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第103図224	P783	H19	5区	微隆起線文 沈線文 刺突文 押引文	 幅1.0・ヘラ状工具 φ2.8・竹管状工具 φ3.1・竹管状工具	斜 斜 斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	刻み(竹管状工具)・直	―	―	―	10YR7/4にぶい黄褐色	やや良	
第103図225	P122	H19	11区	微隆起線文 沈線文 刺突文 条痕文	 φ5.0・竹管状工具 幅2.3	横 斜 横・斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	―	―	―	―	10YR8/4浅黄橙色	やや良	
第103図226	P695	H19	5区	微隆起線文 沈線文 刺突文 条痕文	 φ2.3・竹管状工具 φ4.7・竹管状工具 幅2.3	斜 斜 横	砂粒・繊維	不明	横、磨き	―	―	―	―	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第103図227	P268	H18	5区2トレ	微隆起線文 沈線文 押引文 条痕文	 幅1.3・ヘラ状工具 φ2.7・竹管状工具 幅3.9	斜 斜 斜 横	砂粒・繊維	不明	横、磨き	―	―	―	―	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第103図228	P322	H18	5区2トレ	微隆起線文 刺突文 押引文 条痕文	 φ3.4・竹管状工具 φ3.4・竹管状工具 幅4.0	横 斜 横・斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	―	―	―	―	7.5YR7/6橙色	やや良	
第103図229	P701	H19	5区	沈線文 刺突文 押引文 条痕文	φ1.9・竹管状工具 φ2.3・竹管状工具 φ1.9・竹管状工具 2.7	横 斜 横	砂粒・繊維	不明	横、磨き	刻み(竹管状工具)、直・斜	―	―	―	10YR4/2灰黄褐色	やや良	
第103図230	P267	H18	5区2トレ	沈線文 刺突文 押引文 条痕文	幅1.2・ヘラ状工具 φ3.5・竹管状工具 φ2.6・竹管状工具 幅2.9	斜 斜 横	砂粒・繊維	不明	横、磨き	―	―	―	―	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第103図231	P271・P319	H18	5区2トレ	沈線文 刺突文 押引文 条痕文	幅2.8・竹管状工具 φ4.8・竹管状工具 φ4.7・竹管状工具 幅3.5	横・斜 斜 横	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	―	―	―	―	7.5YR6/6橙色	不良	
第103図232	P120	H18	6区	沈線文 刺突文 押引文 条痕文	幅1.2・ヘラ状工具 φ3.5・竹管状工具 φ3.5・竹管状工具 幅2.2	縦 縦 横	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	縦・斜、磨き	―	―	―	―	7.5YR6/6橙色	やや良	
第103図233	P125	H18	6区	沈線文 刺突文 押引文 条痕文	幅1.0・ヘラ状工具 φ2.9・竹管状工具 φ2.7・竹管状工具 幅2.7	斜 斜 横	砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	―	―	―	―	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第103図234	P968	H19	5区	微隆起線文 沈線文 刺突文	 幅1.8・ヘラ状工具 φ4.5・竹管状工具	斜 斜 	砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	―	―	―	―	10YR8/4浅黄橙色	やや良	
第103図235	P540	H19	5区	微隆起線文 沈線文 刺突文	 幅4.0・ヘラ状工具 φ3.6・竹管状工具	斜 横 	砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	―	―	―	―	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第103図236	P150	H19	11区	微隆起線文 沈線文 条痕文	 φ3.2・竹管状工具 幅3.0	縦 縦 横	砂粒・繊維	横、ナデ	縦、磨き	―	―	―	―	5YR6/6橙色	やや良	
第103図237	P126	H16	3区	微隆起線文 押引文 条痕文	 φ2.6・竹管状工具 幅1.4	斜 斜 横	砂粒・繊維	不明	斜、磨き	―	―	―	―	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第103図238	P691	H19	5区	沈線文 刺突文 押引文	φ3.0・竹管状工具 φ11.2・竹管状工具 φ3.6・竹管状工具	縦・横・斜 縦	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	刻み(竹管状工具)・斜	―	―	―	2.5YR4/4にぶい赤褐色	やや良	
第103図239	P712	H19	5区	沈線文 刺突文 押引文	φ3.0・竹管状工具 φ5.7・竹管状工具 φ3.4・竹管状工具	縦・横・斜 斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	刻み(竹管状工具)・直	―	―	―	10YR7/4にぶい黄褐色	不良	
第103図240	P937	H19	5区	沈線文 刺突文 押引文	φ3.4・竹管状工具 φ10.0・竹管状工具 φ3.7・竹管状工具	横・斜 縦	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	刻み(竹管状工具)、直・斜	―	―	―	5YR3/1黒褐色	やや良	
第103図241	P750	H19	5区	沈線文 刺突文 押引文	φ4.2・竹管状工具 φ5.1・竹管状工具 φ3.2・竹管状工具	横・斜 斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	横、ナデ	刻み(竹管状工具)・直	―	―	―	10YR3/1黒褐色	不良	
第103図242	P106	H16	3区	沈線文 刺突文 押引文	幅1.7・ヘラ状工具 φ3.6・竹管状工具 φ3.8・竹管状工具	斜 縦	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	刻み(竹管状工具)・直	―	―	―	5YR6/8橙色	やや良	

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	文様	文様の形状	施文方向	胎土特徴	内面調整	外面調整	口唇刻みの形状	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	備考
第103図243	P428	H16	3区	沈線文 刺突文 押引文	幅4.3・竹管状工具 φ4.1・竹管状工具 φ3.7・竹管状工具	縦・斜 縦・斜	雲母・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横、磨き	刻み(竹管状工具)・直	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第103図244	P203	H16	3区	沈線文 刺突文 押引文 条痕文	幅1.3・ヘラ状工具 φ5.3・竹管状工具 φ2.8・竹管状工具 幅3	斜 縦・斜 横・斜	砂粒・繊維	不明	横、磨き	刻み(竹管状工具)・直	—	—	—	2.5YR6/8橙色	やや良	
第103図245	P124	H18	6区	沈線文 刺突文 押引文	φ3.8・竹管状工具 φ9.9・竹管状工具 φ3.8・竹管状工具	縦・斜 斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	刻み(竹管状工具)・直	—	—	—	5YR4/3にぶい赤褐色	やや良	
第103図246	P62	H18	6区	沈線文 刺突文 押引文	φ3.1・竹管状工具 φ4.4・竹管状工具 φ4.1・竹管状工具	斜・横 斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	刻み(竹管状工具)・直	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第103図247	P736	H19	5区	沈線文 刺突文 押引文	幅2.0・ヘラ状工具 φ5.9・竹管状工具 φ2.5・竹管状工具	横・斜 斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第103図248	P683	H16	3区	沈線文 刺突文 押引文	幅4.0・竹管状工具 φ9.7・竹管状工具 φ3.5・竹管状工具	斜 縦・斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第103図249	P692	H19	5区	沈線文 刺突文 押引文	φ3.0・竹管状工具 φ9.0・竹管状工具 φ3.1・竹管状工具	縦・横・斜 縦・斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第103図250	P44	H19	11区	沈線文 刺突文 押引文	φ2.9・竹管状工具 φ10.0・竹管状工具 φ2.8・竹管状工具	斜 斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第103図251	P10・P516	H16	3区	沈線文 刺突文 押引文	幅3.1・竹管状工具 φ4.2・竹管状工具 φ2.9・竹管状工具	縦・斜 横・斜	雲母・砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第103図252	P251	H16	3区	沈線文 刺突文 押引文	幅3.7・竹管状工具 φ4.2・竹管状工具 φ4.0・竹管状工具	斜 斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第103図253	P188	H16	3区	沈線文 刺突文 押引文	幅3.7・竹管状工具 φ4.2・竹管状工具 φ4.0・竹管状工具	縦 斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR6/8橙色	やや良	
第103図254	P676	H19	5区	沈線文 刺突文 押引文	φ2.7・竹管状工具 φ7.9・竹管状工具 φ4.0・竹管状工具	縦・斜 斜	雲母・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第104図255	P185	H16	3区	沈線文 刺突文 押引文	幅1.1・ヘラ状工具 φ3.4・竹管状工具 φ2.8・竹管状工具	斜 縦・斜	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	5YR7/8橙色	やや良	
第104図256	P246	H18	5区2トレ	沈線文 刺突文 押引文	幅1.2・ヘラ状工具 φ3.4・竹管状工具 φ2.4・竹管状工具	横・斜 斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR3/1黒褐色	やや良	内面は条痕調整後にナデられている
第104図257	P312	H18	5区2トレ	沈線文 刺突文 押引文	φ4.5・竹管状工具 φ4.5・竹管状工具 φ4.5・竹管状工具	横・斜 横・斜	雲母・砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	2.5YR3/1黒褐色	不良	
第104図258	P329	H18	5区3トレ	沈線文 刺突文 押引文	幅5.0・ヘラ状工具 φ8.5・竹管状工具 φ3.9・竹管状工具	斜 斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第104図259	P851	H19	5区	沈線文 刺突文 押引文	幅1.5・ヘラ状工具 φ2.9・竹管状工具 φ2.9・竹管状工具	斜 斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第104図260	P901	H19	5区	沈線文 刺突文 押引文	φ3.4・竹管状工具 φ5.7・竹管状工具 φ3.4・竹管状工具	斜 斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	
第104図261	P429	H16	3区	沈線文 刺突文 押引文	幅3.9・ヘラ状工具 φ3.6・竹管状工具 φ3.0・竹管状工具	斜 斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第104図262	K-12G一括	H16	3区	沈線文 刺突文 押引文	幅3.8・竹管状工具 φ5.7・竹管状工具 φ4.9・竹管状工具	横・斜 斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第104図263	P292(H18・5区)・P614・P629・P630・P633・P638・P646・P653・P661・P664・P681・P882(以上H19・5区)・P47(H19・11区)	H18・19	5区・11区	沈線文 刺突文 条痕文	φ3.4・竹管状工具 φ5.3・竹管状工具 幅2.8	縦・横・斜 横	雲母・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第104図264	P243	H18	5区2トレ	沈線文 刺突文 条痕文	φ2.4・竹管状工具 φ4.6・竹管状工具 幅3.2	縦・斜 横	雲母・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	不明	—	—	—	—	10YR4/3にぶい黄褐色		
第104図265	P132	H16	3区	沈線文 刺突文 条痕文	幅2.2・ヘラ状工具 φ2.3・竹管状工具 幅2.2	縦・斜 横	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	文様	文様の形状	施文方向	胎土特徴	内面調整	外面調整	口唇刻みの形状	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	備考
第104図266	P719	H19	5区	沈線文 刺突文 条痕文	幅1.9・ヘラ状工具 φ4.2・竹管状工具 幅2.7	斜 斜	スコリア・砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR3/1黒褐色	やや良	
第104図267	P355	H16	3区	沈線文 刺突文 条痕文	幅2.9・竹管状工具 φ5.2・竹管状工具 幅2.2	縦 横	砂粒・繊維	斜、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	外面は条痕調整後にナデられている
第104図268	P42	H19	11区	沈線文 刺突文 条痕文	幅3.1・ヘラ状工具 φ4.4・竹管状工具 幅2.3	横 横	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第104図269	P573・P612	H19	5区	沈線文 押引文 条痕文	φ2.2・竹管状工具 φ2.3・竹管状工具 幅3.2	横 斜 横	砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	刻み(竹管状工具)・斜	—	—	—	5YR5/4にぶい赤褐色	やや良	
第104図270	P552	H19	5区	沈線文 押引文 条痕文	φ2.3・竹管状工具 φ2.3・竹管状工具 幅2.4	斜 斜 横・斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第104図271	P919	H19	5区	沈線文 押引文 条痕文	φ2.9・竹管状工具 φ2.9・竹管状工具 幅2.9	横・斜 斜 横	砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	—	—	—	—	10YR3/2黒褐色	やや良	
第104図272	P751	H19	5区	沈線文 押引文 条痕文	φ2.7・竹管状工具 φ3.6・竹管状工具 幅2.2	斜 斜 横	砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	
第104図273	P37	H19	11区	沈線文 押引文 条痕文	φ3.4・竹管状工具 φ2.2・竹管状工具 幅2.4	斜 斜 斜	雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第104図274	P113	H18	6区	沈線文 刺突文 縄文	φ3.9・竹管状工具 φ11.7・竹管状工具	斜 斜	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	2.5Y3/2黒褐色	不良	
第104図275	P639	H19	5区	沈線文 刺突文	φ4.1・竹管状工具 φ8.1・竹管状工具	縦	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	刻み(竹管状工具)・直	—	—	—	10YR3/1黒褐色	やや良	
第104図276	P765	H19	5区	沈線文 刺突文	φ2.6・竹管状工具 φ3.5・ペン先状工具	斜	砂粒・繊維	横、磨き	斜、磨き	刻み(竹管状工具)・直	—	—	—	2.5YR6/4にぶい黄色	やや良	
第104図277	P42	H18	6区	沈線文 刺突文	幅0.9・1.6・ヘラ状工具 φ4.3・竹管状工具	縦・斜	砂粒・繊維	不明	横、磨き	なし	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第104図278	P247(H18・5区)P634(H19・5区)	H18・H19	5区	沈線文 刺突文	φ2.8・竹管状工具 φ10.3・竹管状工具	縦・横・斜	雲母・砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	5YR5/4にぶい赤褐色	やや良	
第104図279	P109	H18	6区	沈線文 刺突文	幅3.3・ヘラ状工具 φ5.0・竹管状工具	縦	雲母・砂粒・繊維	不明	横・斜、ナデ	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	不良	
第104図280	P21	H19	11区	沈線文 押引文	φ3.0・竹管状工具 φ3.0・竹管状工具	横・斜 縦・斜	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	不明	刻み(竹管状工具)・直	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第104図281	P767	H19	5区	沈線文 押引文	φ3.9・竹管状工具 φ3.3・竹管状工具	横・斜 縦・斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	刻み(竹管状工具)・直	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第104図282	P743	H19	5区	沈線文 押引文	幅3.0・ヘラ状工具 φ3.2・竹管状工具	縦・横・斜 縦・斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	刻み(竹管状工具)、直・斜	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第105図283	P668	H19	5区	沈線文 押引文	φ2.3・竹管状工具 φ3.2・竹管状工具	縦・斜 縦	砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	
第105図284	P741	H19	5区	沈線文 押引文	φ3.0・竹管状工具 φ3.0・竹管状工具	横 縦	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	刻み(竹管状工具)・直	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第105図285	P913	H19	5区	沈線文 押引文	φ2.9・竹管状工具 φ2.9・竹管状工具	横・斜 縦・斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	刻み(竹管状工具)・直	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第105図286	P682	H19	5区	沈線文 押引文	幅7.3・幅広形工具 φ3.5・竹管状工具	斜 斜	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	不明	刻み(竹管状工具)・直	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第105図287	P190	H16	3区	沈線文 押引文	幅5.3・ヘラ状工具 φ4.2・竹管状工具	斜 縦	雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	刻み(竹管状工具)・直	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第105図288	P336	H16	3区	沈線文 押引文	幅2.9・竹管状工具 φ3.0・竹管状工具	横 縦	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	刻み(竹管状工具)・直	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第105図289	P947	H16	3区	沈線文 押引文	幅1.4・竹管状工具 φ2.9・竹管状工具	斜 縦	砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第105図290	P248	H16	3区	沈線文 押引文	幅2.9・竹管状工具 φ3.0・竹管状工具	縦 斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	刻み(竹管状工具)・直	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第105図291	P52	H18	6区	沈線文 押引文	幅12.1・幅広工具 φ3.7・竹管状工具	横・斜 斜	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	刻み(竹管状工具)・直	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第105図292	P53	H18	6区	沈線文 押引文	幅8.2・指頭 φ2.2・竹管状工具	横・斜 縦・斜	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	刻み(竹管状工具)・斜	—	—	—	7.5YR3/2黒褐色	不良	
第105図293	P44	H18	6区	沈線文 押引文	φ4.2・竹管状工具 φ2.3・竹管状工具	横 縦	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	不明	刻み(竹管状工具)・直	—	—	—	5YR3/2暗赤褐色	やや良	
第105図294	P835	H19	5区	沈線文 押引文	幅2.2・ヘラ状工具 φ2.9・竹管状工具	斜 斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第105図295	P109	H16	3区	沈線文 押引文	幅1.6・ヘラ状工具 φ4.5・竹管状工具	縦・横・斜 縦	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第105図296	N-9G一括	H16	3区	沈線文 押引文	幅1.4・ヘラ状工具 φ2.7・竹管状工具	斜 斜	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR6/8橙色	やや良	
第105図297	H-7G一括	H17	4区	沈線文 押引文	幅1.1・ヘラ状工具 φ1.8・竹管状工具	斜 斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/4にぶい黄褐色	やや良	

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	文様	文様の形状	施文方向	胎土特徴	内面調整	外面調整	口唇刻みの形状	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	備考
第105図298	P284	H16	3区	沈線文 押引文	幅8.0・幅広形工具 φ3.0・竹管状工具	斜 斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第105図299	P1053	H16	3区	沈線文 押引文	幅0.6・ヘラ状工具 φ2.6・竹管状工具	斜 縦	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第105図300	P200	H16	3区	沈線文 押引文	幅4.5・ヘラ状工具 φ4.1・竹管状工具	斜 縦	砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第105図301	P294	H16	3区	沈線文 押引文	幅3.0・ヘラ状工具 φ3.2・竹管状工具	斜 縦	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第105図302	P405	H16	3区	沈線文 押引文	幅2.0・竹管状工具 φ2.8・竹管状工具	縦 斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第105図303	P235	H16	3区	沈線文 押引文	幅2.7・竹管状工具 φ3.8・竹管状工具	斜 縦	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第105図304	P680	H19	5区	沈線文 押引文	幅6.8・幅広形工具 φ3.0・竹管状工具	縦 斜	砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第105図305	P967	H16	3区	沈線文 押引文	幅3.9・竹管状工具 φ3.9・竹管状工具	縦・横・斜 横	砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	良	
第105図306	P181	H16	3区	沈線文 押引文	幅2.9・ヘラ状工具 φ2.7・竹管状工具	斜 縦	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第105図307	P180	H16	3区	沈線文 押引文	幅4.4・ヘラ状工具 φ2.8・竹管状工具	縦 斜	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第105図308	P545	H19	5区	沈線文 押引文	φ2.2・竹管状工具 φ2.9・竹管状工具	横 縦	砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	10YR3/3暗褐色	やや良	
第105図309	P530・P599	H19	5区	沈線文 押引文	幅12.6・幅広形工具 φ4.6・竹管状工具	斜 斜	雲母・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第105図310	P686	H19	5区	沈線文 押引文	幅5.7・幅広形工具 φ3.6・竹管状工具	縦・斜 斜	雲母・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	不明	—	—	—	—	2.5Y4/2暗灰黄色	やや良	
第105図311	P934	H19	5区	沈線文 押引文	φ3.0・竹管状工具 φ3.5・竹管状工具	斜 斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第105図312	P565	H19	5区	沈線文 押引文	幅7.9・幅広形工具 φ3.1・竹管状工具	横・斜 縦・横	砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第105図313	P556	H16	3区	沈線文 押引文	幅12.9・幅広状工具 φ3.7・竹管状工具	斜 斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第105図314	P130	H18	6区	沈線文 押引文	幅7.7・指頭 φ1.8・竹管状工具	斜 斜	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第105図315	P973	H19	5区	沈線文 押引文	幅7.2・幅広形工具 φ3.2・竹管状工具	横・斜 斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第105図316	P570	H19	5区	沈線文 押引文	幅7.7・幅広形工具 φ3.0・竹管状工具	斜 斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第105図317	P61	H18	6区	沈線文 押引文	φ3.7・竹管状工具 φ3.7・竹管状工具	横・斜 斜	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	不良	
第105図318	P559	H17	4区	沈線文 条痕文	幅0.7・ヘラ状工具 幅1.3	斜 横・斜	砂粒・繊維	不明	不明	刻み(ヘラ状工具)・直	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第105図319	P513	H19	5区	沈線文 条痕文	φ4.5・竹管状工具 幅2.2	斜 横	雲母・砂粒・繊維	不明	縦、ナデ	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第105図320	P326	H18	5区2トレ	沈線文 条痕文	幅4.1・ヘラ状工具 幅3.6	斜 斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	刻み(ヘラ状工具)・直	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第105図321	P544・547	H19	5区	沈線文 条痕文	幅3.2・ヘラ状工具 幅2.7	斜 横・斜	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	不明	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	
第106図322	P568	H19	5区	沈線文 条痕文	幅2.7・ヘラ状工具 幅2.7	斜 横	雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第106図323	P737	H19	5区	沈線文 条痕文	φ4.1・竹管状工具 幅3.8	斜 斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第106図324	P600	H19	5区	沈線文 条痕文	φ2.2・竹管状工具 幅3.0	斜 横	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第106図325	P946	H19	5区	沈線文 条痕文	幅4.4・ヘラ状工具 幅2.0	斜 横	砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第106図326	P738	H19	5区	沈線文 条痕文	幅1.4・ヘラ状工具 幅4.0	斜 斜	砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第106図327	P663	H19	5区	刺突文 押引文	不明・竹管状工具 幅2.9・ヘラ状工具	 斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第106図328	P753	H19	5区	刺突文 押引文	φ11.3・竹管状工具 幅2.9・ヘラ状工具	 斜	砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第106図329	P960	H19	5区	刺突文 押引文	φ2.7・竹管状工具 φ2.3・竹管状工具	 斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第106図330	P988	H19	5区	刺突文 押引文	φ3.6・竹管状工具 φ2.7・竹管状工具	 斜	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	
第106図331	P101	H16	3区	刺突文 押引文	φ3.9・竹管状工具 φ3.2・竹管状工具	 斜	雲母・砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第106図332	P847	H19	5区	押引文 条痕文	φ2.0・竹管状工具 幅2.7	斜 横	砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第106図333	P427(3区)P749・P837(5区)P25(11区)	H16・H19	3区・5区・11区	押引文 条痕文	φ2.9・竹管状工具 幅1.5	縦 横・斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第106図334	P647	H19	5区	微隆起線文		横	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	刻み(竹管状工具)・直	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	文様	文様の形状	施文方向	胎土特徴	内面調整	外面調整	口唇刻みの形状	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	備考
第106図335	P687・P688	H19	5区	沈線文	幅4.7・ヘラ状工具	斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	刻み(角棒状工具)・直	—	—	—	10YR3/1黒褐色	やや良	
第106図336	P574・P575	H19	5区	沈線文	幅5.1・ヘラ状工具	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	刻み(竹管状工具)・直	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第106図337	P550	H19	5区	沈線文	φ3.6・竹管状工具	縦・斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	刻み(竹管状工具)・斜	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第106図338	P566	H19	5区	沈線文	幅5.1・ヘラ状工具	斜	砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	2.5YR6/8橙色	やや良	
第106図339	P910	H19	5区	沈線文	幅5.6・幅広形工具	斜	砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第106図340	P514	H19	5区	沈線文	φ3.7・竹管状工具	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第106図341	P328	H18	5区3トレ	沈線文	幅2.8・ヘラ状工具	横・斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第106図342	P949	H16	3区	沈線文	幅2.3・ヘラ状工具	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第106図343	P126	H18	6区	沈線文	φ4.1・竹管状工具	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	刻み(竹管状工具)・斜	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第106図344	M-9G一括	H16	3区	沈線文	幅3.3・竹管状工具 幅3.9・ヘラ状工具	縦・斜 縦・斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	刻み(竹管状工具)・直	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	外面に種実痕あり
第106図345	P123	H18	6区	沈線文	幅3.1・ヘラ状工具	縦・斜	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	7.5YR4/3褐色	不良	
第106図346	P669	H19	5区	沈線文	幅2.4・ヘラ状工具	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	5YR4/3にぶい赤褐色	やや良	
第106図347	P274	H16	3区	沈線文	幅3.4・ヘラ状工具	縦・横・斜	砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第106図348	P756	H19	5区	沈線文	幅6.3・幅広形工具	斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第106図349	P537	H19	5区	沈線文	不明・竹管状工具	縦・斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第106図350	P834	H19	5区	沈線文	幅3.0・ヘラ状工具	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第106図351	P38	H19	11区	沈線文	幅3.5・ヘラ状工具	横	雲母・砂粒・繊維	不明	横、ナデ	なし	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第106図352	P547	H16	3区	沈線文	幅3.1・竹管状工具	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	刻み(竹管状工具)・斜	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第106図353	P713	H19	5区	沈線文	φ3.3・竹管状工具	縦・斜	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第106図354	P915	H16	3区	沈線文	幅3.7・竹管状工具	縦・斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第106図355	P967	H19	5区	沈線文	幅5.6・幅広形工具	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第106図356	P110	H19	11区	沈線文	幅3.0・ヘラ状工具	斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第106図357	P1022	H16	3区	微隆起線文 沈線文 幅4.6・ヘラ状工具		斜 斜 斜	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	やや良	
第106図358	P768	H19	5区	沈線文	幅10.2・幅広形工具	斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第106図359	P969	H19	5区	沈線文	幅6.8・幅広形工具	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第106図360	P665	H19	5区	沈線文	幅2.8・ヘラ状工具	縦	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	不明	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第106図361	P703	H19	5区	沈線文	幅1.6・ヘラ状工具	縦・横・斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第106図362	P702	H19	5区	沈線文	幅1.5・ヘラ状工具	縦・横・斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、ナデ	刻み(竹管状工具)・直	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第106図363	F-6G一括	H17	4区	沈線文	幅1.6・竹管状工具	横・斜	雲母・砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第106図364	P843	H19	5区	沈線文	幅1.6・ヘラ状工具	縦	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第106図365	P1055・P1056	H16	3区	沈線文	幅4.5・竹管状工具	縦・斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	刻み(竹管状工具)・直	—	—	—	5YR4/6赤褐色	やや良	
第106図366	P88	H18	6区	沈線文	幅5.3・ヘラ状工具	斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	2.5Y3/2黒褐色	不良	
第106図367	P125	H18	5区	沈線文	幅4.9・ヘラ状工具	横・斜	砂粒	不明	横、ナデ	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第106図368	P415	H17	4区	沈線文	φ4.1・竹管状工具	横・斜	砂粒	横、ナデ	不明	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	良	
第106図369	P63	H18	6区	沈線文	φ3.2・竹管状工具	縦	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第106図370	P315	H16	3区	沈線文	幅4.4・ヘラ状工具	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	5YR7/8橙色	やや良	
第106図371	P979	H16	3区	沈線文	幅5.0・幅広形工具	横	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第106図372	P246	H16	3区	沈線文	幅5.8・幅広形工具	縦	砂粒・繊維	縦・横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第106図373	P160	H16	3区	沈線文	幅5.0・幅広形工具	横	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第106図374	P815	H19	5区	沈線文	φ2.4・竹管状工具	縦・斜	砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第106図375	P321	H16	3区	沈線文	幅2.0・ヘラ状工具	横・斜	雲母・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第106図376	P806	H19	5区	沈線文	幅0.9・ヘラ状工具	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第106図377	P508	H19	5区	沈線文	幅2.0・ヘラ状工具	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第107図378	P549	H17	4区	刺突文	φ4.4・竹管状工具		砂粒・繊維	不明	不明	刻み(ヘラ状工具)・斜	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第107図379	P219	H18	5区	刺突文	φ7.1・竹管状工具		砂粒・繊維	横、磨き	横、磨き	なし	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第107図380	P524	H19	5区	刺突文	不明・竹管状工具		砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第107図381	P141	H19	11区	押引文	φ4.0・竹管状工具	横・斜	雲母・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横、磨き	刻み(竹管状工具)・斜	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第107図382	P579	H19	5区	押引文	φ3.6・竹管状工具	斜	砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第107図383	P605	H19	5区	押引文	φ2.3・竹管状工具	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第107図384	P614	H19	5区	押引文	φ4.1・竹管状工具	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第107図385	P642	H19	5区	押引文	φ3.9・竹管状工具	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第107図386	P970	H19	5区	押引文	φ3.1・竹管状工具	縦	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	
第107図387	P900	H19	5区	押引文	φ4.6・竹管状工具	縦・斜	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第107図388	第Ⅲ面一括	H19	5区	押引文	φ3.1・竹管状工具	縦	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR4/2灰黄褐色	やや良	
第107図389	P719	H16	3区	押引文	2.9・竹管状工具	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第107図390	P48	H19	11区	隆起線文		横	雲母・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR6/6明黄褐色	やや良	
第107図391	P331	H18	5区3トレ	隆起線文		横	雲母・砂粒・繊維	不明	斜、ナデ	—	—	—	—	10YR4/2灰黄褐色	不良	
第107図392	P638	H17	4区	隆起線文		横	砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第107図393	P762	H16	3区	微隆起線文		横	雲母・繊維	横、ナデ	横、ナデ	なし	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	繊維は微量である
第107図394	P279・P337	H18	5区2トレ	刺突文	φ2.8・竹管状工具	斜	スコリア・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	刻み(ヘラ状工具)・斜	—	—	—	7.5YR6/8橙色	やや良	絡条体圧痕文を刺突文で模倣している
第107図395	P249	H18	5区2トレ	刺突文	φ2.8・竹管状工具	横	砂粒・繊維	不明	横・斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	絡条体圧痕文を刺突文で模倣している
第107図396	P304	H18	5区2トレ	刺突文	φ2.8・竹管状工具	横	砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	絡条体圧痕文を刺突文で模倣している
第107図397	P308	H18	5区2トレ	刺突文	φ2.6・竹管状工具	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	絡条体圧痕文を刺突文で模倣している
第107図398	P252	H18	5区2トレ	刺突文	φ2.1・竹管状工具	斜	砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	文様	文様の形状	施文方向	胎土特徴	内面調整	外面調整	口唇刻みの形状	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	備考
第107図399	R-10G一括	H19	5区	刺突文	φ2.4・竹管状工具	斜	砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第107図400	P774	H19	5区	刺突文	φ2.7・竹管状工具	斜	スコリア・砂粒・繊維	不明	横、ナデ	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第107図401	P632	H17	4区	沈線文 刺突文	幅3.5・竹管状工具 φ3.5・竹管状工具	斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第107図402	P531・P606	H17	4区	沈線文 押引文	φ1.8・竹管状工具 φ1.8・竹管状工具	横 縦・斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	竹管状工具を4本束ねて施文している
第107図403	P614	H17	4区	沈線文 押引文	φ1.8・竹管状工具 φ1.8・竹管状工具	横 斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	竹管状工具を4本束ねて施文している
第107図404	P655	H17	4区	押引文	φ2.6・竹管状工具	縦	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第107図405	P218	H19	11区	沈線文	φ1.9・竹管状工具	斜	雲母・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	5つの竹管を束ねて施文している
第107図406	P620	H17	4区	沈線文	幅2.4・ヘラ状工具	縦・横・斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR4/3にぶい黄褐色	やや良	
第107図407	P553	H17	4区	押引文	φ1.9・竹管状工具	横・斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR4/3にぶい黄褐色	やや良	竹管状工具を4本束ねて施文している
第107図408	P222	H18	5区	沈線文	幅1.9・ヘラ状工具	横・斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	
第107図409	P624	H17	4区	沈線文	φ2.9・竹管状工具	横・斜	砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第108図410	P297(H16・3区)・P236(H18・5区)・P779・P802・P933(以上H19・5区)	H16・18・19	3区・5区	条痕文	幅3.6	横・斜	雲母・砂粒・繊維	横、磨き	横、磨き	刻み(竹管状工具)・直	20.6	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	内外面は条痕調整後に磨かれている
第108図411	P866	H19	5区	条痕文	幅3.7	斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	なし	—	—	—	2.5YR6/4にぶい黄色	やや良	外面は条痕調整後に磨かれている
第108図412	P713	H17	4区	条痕文	幅3.9	斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	不明	刻み(竹管状工具)・斜	—	—	—	7.5YR2/1黒色	やや良	
第108図413	P112	H19	11区	条痕文	幅2.7	横・斜	雲母・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、磨き	なし	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第108図414	P874	H19	5区	条痕文	幅2.3	横	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	なし	—	—	—	2.5YR4/2暗灰黄色	やや良	
第108図415	P898	H19	5区	条痕文	幅3.4	横・斜	スコリア・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	5YR5/4にぶい赤褐色	やや良	
第108図416	P635・P636・P660・P775・P776・P917	H19	5区	条痕文	幅2.4	横・斜	雲母・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第108図417	P225・P228・P235・P240・P310	H18	5区2トレ	条痕文	幅4.0	横	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、ナデ	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第108図418	P601・P605	H17	4区	条痕文	幅2.5	縦・斜	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	縦・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第108図419	P686	H17	4区	条痕文	幅1.5	斜	砂粒・繊維	斜、磨き	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/4にぶい黄褐色	やや良	
第108図420	5区一括	H19	5区	条痕文	幅2.5	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第108図421	P547	H17	4区	条痕文	幅2.4	斜	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第108図422	P400	H16	3区	条痕文	幅3.5	斜	砂粒・繊維	横・斜、磨き	不明	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第108図423	P925	H16	3区	条痕文	幅3.3	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第109図424～427	P726	H19	5区	条痕文	幅1.7	縦・斜	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第109図428	P534	H19	5区	条痕文	幅2.0	縦	砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第109図429	P12・P343	H16	3区	条痕文	幅1.7	横	砂粒・繊維	不明	横、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第109図430	P616・P632	H19	5区	条痕文	幅2.4	斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第109図431	P553・P651・P698	H19	5区	条痕文	幅2.6	横・斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第109図432	P549	H19	5区	条痕文	幅2.1	縦・横	砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第109図433	P582・P748	H19	5区	条痕文	幅1.2	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第109図434	P515	H16	3区	条痕文	幅2.6	斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	外面は条痕調整後にナデられている
第109図435	P909	H19	5区	条痕文	幅2.8	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第109図436	P675	H17	4区	条痕文	幅1.7	横・斜	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第109図437	P507	H19	5区	条痕文	幅1.8	横	雲母・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	外面は条痕調整後に磨かれている
第109図438	P936	H16	3区	条痕文	幅5.2	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	横・斜、ナデ	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	不良	外面は条痕調整後にナデられている
第109図439	P708	H17	4区	条痕文	幅2.6	斜	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR5/6黄褐色	やや良	
第109図440	P764	H19	5区	条痕文	幅2.2	斜	砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	外面は条痕調整後に磨かれている
第109図441	P31	H19	11区	条痕文	幅2.4	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	斜、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第109図442	P601	H19	5区	条痕文	幅3.0	横・斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	外面は条痕調整後に磨かれている
第109図443	P770・P848	H19	5区	条痕文	幅2.0	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第109図444	P334	H18	5区2トレ	条痕文	幅3.0	縦・横	雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	不良	
第110図445	P238	H18	5区2トレ	条痕文	幅3.3	横	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第110図446	P212・P765	H16	3区	条痕文	幅2.2	縦・横	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第110図447	P1001	H16	3区	条痕文	幅1.5	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	不良	外面は条痕調整後にナデられている
第110図448	P233	H18	5区	条痕文	幅3.3	斜	砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第110図449	P239	H18	5区2トレ	条痕文	幅3.0	横・斜	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	不良	
第110図450	P241・P270・P274	H18	5区2トレ	条痕文	幅2.4	斜	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第110図451	P468	H16	3区	条痕文	幅2.3	横	砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	内面は条痕調整後にナデられている
第110図452	P1092	H16	3区	条痕文	幅3.4	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	外面は条痕調整後にナデられている
第110図453	P255	H18	5区2トレ	条痕文	幅3.0	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第110図454	P1178	H16	2区	条痕文	幅2.6	横・斜	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第110図455	P337	H16	3区	条痕文	幅1.7	斜	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第110図456	P297	H18	5区2トレ	条痕文	幅2.4	斜	砂粒・繊維	不明	横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第110図457	P631	H19	5区	条痕文	幅2.4	斜	砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第110図458	P805	H19	5区	条痕文	幅2.7	横	雲母・砂粒・繊維	横、磨き	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第110図459	P789	H19	5区	条痕文	幅2.5	横	雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第110図460	P891	H16	3区	条痕文	幅3.8	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第110図461	P915	H19	5区	条痕文	幅2.1	斜	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	2.5Y3/1黒褐色	やや良	外面は条痕調整後に磨かれている
第110図462	P54	H18	6区	条痕文	幅1.9	斜		不明	不明	—	—	—	—	2.5Y6/4にぶい黄色	やや良	
第110図463	P671・P719	H17	4区	条痕文	幅2.3	縦・斜	砂粒・繊維	不明	縦、ナデ	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第110図464	P626	H17	4区	条痕文	幅0.9	斜	砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	外面は条痕調整後にナデられている
第110図465	P80	H18	6区	条痕文	幅2.8	斜	砂粒・繊維	不明	横、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	外面は条痕調整後にナデられている
第110図466	P327	H18	5区3トレ	条痕文	幅3.7	横・斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	外面は条痕調整後にナデられている
第110図467	P723	H19	5区	条痕文	幅3.1	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	外面は条痕調整後に磨かれている

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	文様	文様の形状	施文方向	胎土特徴	内面調整	外面調整	口唇刻みの形状	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	備考
第110図468	P136	H19	11区	条痕文	幅2.8	斜	雲母・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第110図469	P899	H16	3区	条痕文	幅3.0	斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	やや良	外面は条痕調整後にナデられている
第110図470	P141	H18	6区	条痕文	幅3.0	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	縦・斜、ナデ	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	内外面は条痕調整後にナデられている
第110図471	P869	H19	5区	条痕文	幅3.0	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR6/4にぶい黄色	やや良	
第110図472	P884	H16	3区	条痕文	幅1.9	斜	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第110図473	埋土一括	H19	1区	条痕文	幅2.9	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第110図474	P416	H17	4区	条痕文	幅2.0	斜	スコリア・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第110図475	P124	H19	11区	条痕文	幅3.0	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第110図476	P957	H19	5区	条痕文	幅2.0	斜	砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第111図477	P550	H17	4区	条痕文	幅3.1	横・斜	砂粒・繊維	横、磨き	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第111図478	P953	H16	3区	条痕文	幅2.6	斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第111図479	P696	H19	5区	条痕文	幅2.1	斜	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR3/1黒褐色	やや良	
第111図480	P627	H19	5区	条痕文	幅3.2	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第111図481	P694	H19	5区	条痕文	幅2.3	斜	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第111図482	P154	H19	11区	条痕文	幅2.2	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第111図483	P353	H16	3区	条痕文	幅2.6	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	7.5YR7/7橙色	やや良	
第111図484	P1024	H16	3区	条痕文	幅2.7	縦	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第111図485	P752	H16	3区	条痕文	幅2.4	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	斜、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第111図486	P233	H16	3区	条痕文	幅2.8	横	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第111図487	P1117	H16	3区	条痕文	幅3.5	縦	雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	不良	外面は条痕調整後にナデられている
第111図488	P20	H19	11区	条痕文	幅2.6	横	雲母・砂粒・繊維	不明	縦、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	内面に種実圧痕を有す
第111図489	P1148	H16	3区	条痕文	幅3.2	斜	雲母・砂粒・繊維	縦・横、ナデ	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	外面は条痕調整後にナデられている
第111図490	P291	H18	5区2トレ	条痕文	幅3.0	横・斜	砂粒・繊維	不明	横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第111図491	P602	H19	5区	条痕文	幅2.0	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第111図492	P647	H16	3区	条痕文	幅3.1	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	縦、ナデ	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	外面は条痕調整後にナデられている
第111図493	P434	H16	3区	条痕文	幅2.1	横	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第111図494	3区一括	H16	3区	条痕文	幅3.2	縦・横・斜	砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	外面は条痕調整後にナデられている
第111図495	P950	H19	5区	条痕文	幅2.4	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	内面は条痕調整後にナデられている
第111図496	P595	H19	5区	条痕文	幅2.4	横	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第111図497	P420	H16	3区	条痕文	幅2.4	横	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第111図498	2区1トレンチ	H16	2区	条痕文	幅2.0	縦・斜	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第111図499	P317	H18	5区2トレ	条痕文	幅2.5	横	砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	5YR6/6橙色	不良	
第111図500	P40	H18	6区	条痕文	幅2.6	横・斜	砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第111図501	P766	H19	5区	条痕文	幅2.8	横	砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/4にぶい黄褐色	やや良	
第111図502	P525	H19	5区	条痕文	幅2.0	斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/4にぶい黄褐色	やや良	
第111図503	P676	H16	3区	条痕文	幅2.8	横	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第111図504	表採	H16	3区	条痕文	幅2.9	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第111図505	P323	H16	3区	条痕文	幅3.3	縦	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	外面は条痕調整後にナデられている
第111図506	P747	H19	5区	条痕文	幅2.9	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	
第111図507	P777	H19	5区	条痕文	幅2.5	斜	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第111図508	P744	H19	5区	条痕文	幅2.4	横・斜	砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第111図509	P833	H19	5区	条痕文	幅2.3	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第111図510	P231	H16	3区	条痕文	幅2.7	横	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR8/6黄橙色	やや良	
第111図511	P414	H16	3区	条痕文	幅3.3	斜	雲母・スコリア・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	外面は条痕調整後にナデられている
第111図512	P745	H19	5区	条痕文	幅2.0	横・斜	砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第111図513	P903	H19	5区	条痕文	幅3.5	斜	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第111図514	P556	H19	5区	条痕文	幅2.6	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第111図515	P996	H19	5区	条痕文	幅2.5	横	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	—	—	—	—	2.5YR4/2暗灰黄色	やや良	
第111図516	N-12G一括	H16	3区	条痕文	幅2.8	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	縦、ナデ	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	外面は条痕調整後にナデられている
第111図517	P740	H19	5区	条痕文	幅2.2	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第111図518	P755	H16	3区	条痕文	幅2.0	斜	砂粒・繊維	不明	斜、ナデ	—	—	—	—	5YR6/9橙色	やや良	
第111図519	P162	H16	3区	条痕文	幅3.5	縦	雲母・砂粒・繊維	不明	縦、ナデ	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	外面は条痕調整後にナデられている
第111図520	P707	H19	5区	条痕文	幅2.9	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	外面は条痕調整後に磨かれている
第111図521	P357	H16	3区	条痕文	幅3.0	縦・斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	外面は条痕調整後にナデられている
第111図522	P816	H19	5区	条痕文	幅2.5	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第111図523	P275	H18	5区2トレ	条痕文	幅2.2	斜	砂粒・繊維	不明	横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	外面は条痕調整後にナデられている
第111図524	P307	H18	5区2トレ	条痕文	幅2.3	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	不良	
第111図525	P60	H18	6区	条痕文	幅2.8	斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	内外面は条痕調整後にナデられている
第111図526	P886	H19	5区	条痕文	幅2.3	横	砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第112図527	P600	H17	4区	条痕文	幅1.6	横・斜	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第112図528	3区一括	H16	3区	条痕文	幅1.5	横	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第112図529	P656	H19	5区	条痕文	幅2.4	横	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第112図530	P608	H19	5区	条痕文	幅2.4	斜	雲母・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	外面は条痕調整後に磨かれている
第112図531	P838	H19	5区	条痕文	幅2.1	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	外面は条痕調整後に磨かれている
第112図532	P455	H16	3区	条痕文	幅2.1	横	砂粒・繊維	不明	横、ナデ	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第112図533	P655	H19	5区	条痕文	幅2.4	斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	外面は条痕調整後に磨かれている
第112図534	P564	H19	5区	条痕文	幅2.6	横	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第112図535	P876	H19	5区	条痕文	幅3.1	斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第112図536	P708	H19	5区	条痕文	幅2.1	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	外面は条痕調整後に磨かれている
第112図537	P803	H19	5区	条痕文	幅3.0	横	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第112図538	P39	H19	11区	条痕文	幅2.4	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第112図539	P298	H18	5区2トレ	条痕文	幅2.2	横	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第112図540	P870	H19	5区	条痕文	幅2.7	斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR4/2暗灰黄色	やや良	

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	文様	文様の形状	施文方向	胎土特徴	内面調整	外面調整	口唇刻みの形状	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	備考
第112図541	P881	H19	5区	条痕文	幅2.9	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	やや良	
第112図542	P698	H16	3区	条痕文	幅2.9	斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第112図543	P272	H18	5区	条痕文	幅2.8	横・斜	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第112図544	P47	H16	3区	沈線文	幅0.7	縦	砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第112図545	P951	H19	5区	条痕文	幅2.2	斜	砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第112図546	P65	H19	11区	条痕文	幅2.4	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第112図547	P648	H16	3区	条痕文	幅2.6	斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第112図548	P294	H18	5区2トレ	条痕文	幅2.8	横	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第112図549	3区一括	H16	3区	条痕文	幅4.2	横	雲母・砂粒・繊維	不明	縦、ナデ	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第112図550	P940	H19	5区	条痕文	幅2.2	横	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第112図551	P846	H19	5区	条痕文	幅2.3	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第112図552	P713	H16	3区	条痕文	幅2.0	横・斜	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第112図553	P533	H16	3区	条痕文	幅2.5	横・斜	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第112図554	P974	H19	5区	条痕文	幅1.5	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第112図555	P720	H19	5区	条痕文	幅2.2	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	外面は条痕調整後に磨かれている
第112図556	P754	H19	5区	条痕文	幅2.2	斜	砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第112図557	P911	H19	5区	条痕文	幅2.9	斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	外面は条痕調整後に磨かれている
第112図558	3区一括	H16	3区	条痕文	幅1.7	斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第112図559	P813	H16	3区	条痕文	幅4.2	斜	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第112図560	P954	H16	3区	条痕文	幅3.2	斜	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第112図561	P679	H19	5区	条痕文	幅2.5	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第112図562	P916	H19	5区	条痕文	幅1.6	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第112図563	P962	H16	3区	条痕文	幅2.2	横	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR8/6黄橙色	やや良	
第112図564	O-12G一括	H16	3区	条痕文	幅1.7	縦	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第112図565	P995	H19	5区	条痕文	幅1.6	斜	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第112図566	P912	H16	3区	条痕文	幅2.9	横	砂粒・繊維	不明	横、ナデ	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第112図567	P144	H18	5区	条痕文	幅1.4	斜	繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第112図568	P690	H19	5区	条痕文	幅2.9	斜	砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	
第112図569	P806	H16	3区	条痕文	幅2.5	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	斜、ナデ	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	外面は条痕調整後にナデられている
第112図570	P140	H16	3区	条痕文	幅3.6	斜	砂粒・繊維	不明	斜、ナデ	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第112図571	P521	H16	3区	条痕文	幅2.0	斜	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第112図572	P662	H19	5区	条痕文	幅2.3	斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第112図573	P71	H19	11区	条痕文	幅2.3	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	外面は条痕調整後に磨かれている
第112図574	—	H16	—	条痕文	幅2.7	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	斜、ナデ	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	外面は条痕調整後にナデられている
第112図575	P907	H19	5区	条痕文	幅2.8	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	斜、ナデ	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第112図576	P548	H16	3区	条痕文	幅1.7	斜	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第112図577	P128	H16	3区	条痕文	幅3.9	横	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第112図578	P58	H18	6区	条痕文	幅3.1	横	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第112図579	P304	H16	3区	条痕文	幅1.6	斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第112図580	P559	H19	5区	条痕文	幅2.6	横	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第112図581	P496	H16	3区	条痕文	幅1.5	斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第112図582	P930	H19	5区	条痕文	幅3.0	斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第112図583	P855	H19	5区	条痕文	幅2.4	縦	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/4にぶい黄褐色	やや良	外面は条痕調整後に磨かれている
第112図584	P708	H16	3区	条痕文	幅2.4	斜	砂粒・繊維	不明	縦、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	外面は条痕調整後にナデられている
第112図585	P129	H16	3区	条痕文	幅1.8	横・斜	砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	外面は条痕調整後にナデられている
第112図586	P686	H16	3区	縄文		斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第112図587	P266	H16	3区	縄文		斜	雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	施文後に縄文をナデ消している
第112図588	P89	H18	6区	縄文		斜	雲母・スコリア・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	5YR5/4にぶい赤褐色	やや良	
第112図589	P676	H17	4区	縄文		斜	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第112図590	P942	H19	5区				砂粒	不明	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第112図591	P673	H17	4区	縄文		斜	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第112図592	P199	H16	3区	縄文		斜	砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	繊維は微量、施文後に縄文をナデ消している
第112図593	P536	H16	3区	縄文		斜	雲母・砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	2.5YR6/8橙色	不良	
第112図594	P99	H16	3区	縄文		斜	砂粒	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第112図595	P522	H16	3区	縄文		斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	施文後に縄文をナデ消している
第112図596	P960	H16	3区	縄文		斜	雲母・砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第112図597	P868	H16	3区	縄文		斜	砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	施文後に縄文をナデ消している
第112図598	P45	H16	3区	縄文		斜	砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第112図599	P731	H19	5区	沈線文 縄文	幅0.9・ヘラ状工具	横 斜	砂粒・繊維	不明	横・斜、ナデ	—	—	—		5YR4/4にぶい赤褐色	やや良	
第113図600	P76	H18	6区				砂粒・繊維	横・斜、ナデ	縦・横・斜、磨き	なし	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第113図601	P966・P1000	H19	5区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	なし	22.0	—	—	2.5YR6/4にぶい黄色	やや良	
第113図602	P147	H19	11区				砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、磨き	なし	21.6	—	—	5YR4/3にぶい赤褐色	やや良	
第113図603	P256	H18	5区2トレ				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	縦・横、ナデ	なし	—	—	—	7.5YR4/3褐色	やや良	
第113図604	P922	H16	3区				スコリア・繊維	縦・横・斜、ナデ	縦・横、ナデ	なし	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第113図605	P127	H18	6区				スコリア・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、ナデ	なし	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第113図606	3区一括	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	横、ナデ	なし	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第113図607	P902	H19	5区				砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	刻み(竹管状工具)・斜	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第113図608	P690	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横、ナデ	刻み(竹管状工具)・斜	—	—	—	7.5YR6/8橙色	やや良	
第113図609	3区一括	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、ナデ	なし	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第113図610	P665	H16	3区				スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、ナデ	なし	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第113図611	P120	H19	11区				砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	なし	—	—	—	5YR7/8橙色	やや良	

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	文様	文様の形状	施文方向	胎土特徴	内面調整	外面調整	口唇刻みの形状	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	備考
第113図612	P472	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、ナデ	なし	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第113図613	P358	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、ナデ	なし	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	不良	
第113図614	P35	H19	11区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	なし	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第113図615	P965	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	なし	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第113図616	P36	H19	11区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	なし	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第113図617	P540	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	縦、磨き	なし	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第113図618	P450	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	横、ナデ	なし	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第113図619	P305	H16	3区				スコリア・繊維	横、ナデ	横、ナデ	なし	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第113図620	P301	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	なし	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第113図621	P457	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、ナデ	なし	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	不良	
第113図622	N-11G一括	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	なし	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第113図623	P882	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、ナデ	なし	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第113図624	P536	H17	4区				砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	なし	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第113図625	P1076	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	なし	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第113図626	P958	H19	5区				砂粒・繊維	不明	横、磨き	なし	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	
第113図627	P1009	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	なし	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第113図628	L-7G一括	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	横、ナデ	なし	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第113図629	P153	H19	11区				雲母・砂粒・繊維	不明	横、磨き	なし	—	—	—	2.5Y4/2暗灰黄色	やや良	
第113図630	P153	H19	11区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	なし	—	—	—	2.5Y4/2暗灰黄色	不良	
第113図631	P98・P128	H18	5区				雲母・砂粒	斜、ナデ	縦・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR5/6明褐色	良	
第113図632	P657	H19	5区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第113図633	P798	H16	3区				スコリア・砂粒・繊維	斜、ナデ	縦・横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第113図634	P51・P151	H19	11区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第114図635	P1065	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第114図636	P623・P943	H16	3区・5区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第114図637	3区一括	H16	3区				スコリア・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第114図638	P519	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第114図639	P153	H16	3区				砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第114図640	P764	H16	3区				砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第114図641	3区一括	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第114図642	P528	H16	3区				砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第114図643	3区一括	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第114図644	P502	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第114図645	P174	H16	3区				スコリア・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第114図646	P451	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第114図647	P110	H16	3区				スコリア・砂粒・繊維	斜、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第114図648	P930	H16	3区				砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第114図649	P944	H16	3区	綾条体圧痕文	2.9/1.4	斜	スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第114図650	P975	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、ナデ	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第114図651	P950	H16	3区				砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第114図652	P290	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	不良	
第114図653	P654	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第114図654	P778	H16	3区				スコリア・砂粒・繊維	不明	斜、ナデ	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第114図655	P1044	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	縦・斜、ナデ	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第114図656	P931	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	縦、ナデ	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	不良	
第114図657	P782	H16	3区				スコリア・砂粒・繊維	斜、ナデ	縦・斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第114図658	P35	H16	3区				スコリア・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第114図659	P82	H19	11区				スコリア・砂粒・繊維	斜、ナデ	縦・横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第114図660	P985	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第114図661	P68	H19	11区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第114図662	P797	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第114図663	P769	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、ナデ	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第114図664	P139	H19	11区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	
第115図665	P44	H16	3区				スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、ナデ	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第115図666	P150	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	縦・横、ナデ	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第115図667	P324	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、ナデ	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第115図668	P1015	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第115図669	P487・P488	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	不良	
第115図670	P46	H19	11区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、ナデ	—	—	—	—	7.5YR5/6明褐色	やや良	
第115図671	P49	H19	11区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR4/4にぶい赤褐色	やや良	
第115図672	P129	H19	11区				砂粒・繊維	縦・斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第115図673	P613	H19	5区				砂粒・繊維	斜、磨き	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第115図674	P626	H19	5区				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第115図675	P963	H19	5区				砂粒・繊維	斜、ナデ	縦・横、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第115図676	P778	H19	5区				スコリア・砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第115図677	P822	H19	5区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第115図678	P961	H19	5区				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第115図679	P756	H16	3区				スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第115図680	P808	H19	5区				砂粒・繊維	斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第115図681	P758	H19	5区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	
第115図682	P921	H19	5区				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第115図683	P979	H19	5区				砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第115図684	P984	H19	5区				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR4/2灰黄褐色	やや良	

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	文様	文様の形状	施文方向	胎土特徴	内面調整	外面調整	口唇刻みの形状	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	焼成	備考
第115図685	P1002	H19	5区				砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第115図686	P771	H19	5区				砂粒・繊維	斜、磨き	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第115図687	P628	H19	5区				雲母・砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第115図688	P865	H19	5区				砂粒・繊維	横、磨き	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第115図689	P609	H19	5区				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	やや良	内面に指頭圧痕あり
第115図690	P667	H19	5区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR3/1黒褐色	やや良	
第115図691	P811	H19	5区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第115図692	P863	H19	5区				砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第115図693	P918	H19	5区				雲母・砂粒・繊維	縦、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第115図694	P955・P975	H19	5区				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第115図695	P348	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第115図696	P797	H19	5区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR4/2灰黄褐色	やや良	
第115図697	P793	H19	5区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第115図698	P899	H19	5区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第115図699	P938	H19	5区				砂粒・繊維	横、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第115図700	P949	H19	5区				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第115図701	P853	H19	5区				砂粒・繊維	縦・横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第115図702	P977	H19	5区				砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第115図703	P813	H19	5区				砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第115図704	P920	H19	5区				砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第115図705	3区一括	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第115図706	L-13G	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第115図707	P858	H19	5区				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第116図708	P946	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第116図709	3区一括	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第116図710	3区一括	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第116図711	P799	H19	5区				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、ナデ	—	—	—	—	10YR4/2灰黄褐色	やや良	
第116図712	P1129	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第116図713	P807	H19	5区				砂粒・繊維	斜、ナデ	縦・横、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第116図714	P649	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第116図715	P796	H19	5区				スコリア・砂粒・繊維	不明	横・斜、磨き	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第116図716	P332	H16	3区				砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第116図717	3区一括	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	縦・斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	やや良	
第116図718	P239	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第116図719	P267・P668	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第116図720	P-753	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第116図721	P767	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	縦・斜、ナデ	縦・横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第116図722	P1113	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	縦・斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第116図723	P1013	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第116図724	P1057	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第116図725	P433・P530	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第116図726	3区一括	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第116図727	P507	H16	3区				砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第116図728	P143	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第116図729	P124	H16	3区				砂粒・繊維	不明	縦・横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第116図730	P285	H16	3区				砂粒・繊維	不明	横、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第116図731	P820	H16	3区				スコリア・砂粒・繊維	不明	縦・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第116図732	P189	H16	3区				砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第116図733	P1065	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第116図734	P937	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、ナデ	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第116図735	P201	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	やや良	
第116図736	P439	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第116図737	P120	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第116図738	P878	H16	3区				砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第116図739	P500	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第116図740	P238	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第116図741	P401	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第116図742	P532	H16	3区				砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第116図743	P155	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	5YR7/8橙色	やや良	
第116図744	P270	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第116図745	P981	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第116図746	P195	H16	3区				砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第116図747	P32	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第116図748	P173	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	縦・横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第116図749	P972・P981	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	縦・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第116図750	P1029	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第116図751	P911	H16	3区				スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第116図752	P749	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第116図753	P1177	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第116図754	P957	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	縦・斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第116図755	P225	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第116図756	P750	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第116図757	P897	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	文様	文様の形状	施文方向	胎土特徴	内面調整	外面調整	口唇刻みの形状	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	焼成	備考
第116図758	P1093	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第117図759	P436	H16	3区				砂粒・繊維	縦・横、ナデ	不明	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第117図760	P539	H16	3区				スコリア・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第117図761	P958	H16	3区				スコリア・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第117図762	P107・P123	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、ナデ	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第116図763	P991	H16	3区				砂粒・繊維	横・斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第117図764	P919	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	縦・横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第117図765	P406	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第117図766	P223	H16	3区				砂粒・繊維	縦・横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第117図767	P888	H16	3区				砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第117図768	P146	H19	11区				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第117図769	P774・P775・M-9G一括	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第117図770	P1008	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第117図771	P772	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	縦、磨き	横、ナデ	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第117図772	P880	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	不良	
第117図773	P38	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第117図774	P807	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第117図775	P895	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦・横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第117図776	P552	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第117図777	P784	H16	3区				砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第117図778	P837・P1087	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第117図779	P537	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	10YR7/4にぶい黄褐色	やや良	
第117図780	P25	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第117図781	P40	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第117図782	P857	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第117図783	P973	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第117図784	P75	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第117図785	3区一括	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第117図786	P969	H16	3区				砂粒・繊維	横・斜、ナデ	縦、ナデ・磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第117図787	P1074	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	縦・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第117図788	P859	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第117図789	P1	H16	3区				砂粒・繊維	不明	横・斜、ナデ	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第117図790	P490	H16	3区				スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第117図791	P993	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第117図792	P154	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第117図793	P559	H16	2区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第117図794	P929	H16	3区				雲母・繊維	不明	斜、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第117図795	P923	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第117図796	P66	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第117図797	P292	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第117図798	P279	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	横、ナデ	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第117図799	P714	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第117図800	P435	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第117図801	P105	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR6/8橙色	やや良	
第117図802	P252	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、ナデ	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第117図803	P836	H16	3区				スコリア・砂粒・繊維	斜、ナデ	縦・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第117図804	3区一括	H16	3区				砂粒・繊維	横・斜、ナデ	縦・横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第117図805	P21	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第117図806	P167	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第118図807	P249	H16	3区				雲母・スコリア・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第118図808	P144	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第118図809	P711・P773	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR6/8橙色	やや良	
第118図810	P493	H16	3区				砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第118図811	P901	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第118図812	P518	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR6/8橙色	やや良	
第118図813	P407	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	縦・斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第118図814	P437	H16	3区				スコリア・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第118図815	P517	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR6/8橙色	やや良	
第118図816	P491	H16	3区				スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第118図817	P1028	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第118図818	P1170	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第118図819	P426	H16	3区				砂粒・繊維	横・斜、ナデ	縦・斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第118図820	P417	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第118図821	P939	H16	3区				砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第118図822	P184	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第118図823	P717	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第118図824	P893	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第118図825	P525	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第118図826	P102	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第118図827	P698	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第118図828	P702	H16	3区				砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR7/8黄橙色	やや良	
第118図829	P682	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第118図830	P271	H16	3区				砂粒・繊維	斜、磨き	斜、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	文様	文様の形状	施文方向	胎土特徴	内面調整	外面調整	口唇刻みの形状	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	備考
第118図831	P1018	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第118図832	P1004	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第118図833	P1147	H16	3区				砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第118図834	N-9G一括	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	不良	
第118図835	P263	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第118図836	P151	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第118図837	P113	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	不良	
第118図838	P1149	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第118図839	3区一括	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第118図840	P1005	H16	3区				スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第118図841	P1085	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第118図842	P1072	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	不良	
第118図843	P1021	H16	3区				砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR8/8黄橙色	不良	
第118図844	P1070	H16	3区				スコリア・砂粒・繊維	縦、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第118図845	3区一括	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	縦・横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第118図846	P217	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第118図847	P1065	H16	3区				砂粒・繊維	不明	縦・横、磨き	—	—	—	—	10YR8/6黄橙色	やや良	
第118図848	P796	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第118図849	P903	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第118図850	P211	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第118図851	M-9G一括	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第118図852	P1071	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第118図853	P111	H16	3区				砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第118図854	P520	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第118図855	P295	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第118図856	P896	H16	3区				スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第118図857	P437	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR6/8橙色	やや良	
第118図858	P115	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	横・斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR6/8橙色	不良	
第118図859	P555	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第118図860	P716	H16	3区				スコリア・砂粒・繊維	斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第118図861	P712	H16	3区				砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR8/6黄橙色	不良	
第118図862	P887	H16	3区				砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第118図863	P1145	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第118図864	3区一括	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	縦・横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第118図865	P940	H16	3区				砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR8/6黄橙色	やや良	
第118図866	P872	H16	3区				砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第118図867	P16	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第118図868	P156	H16	3区				砂粒・繊維	不明	斜、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第118図869	P307	H16	3区				スコリア・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/8黄橙色	やや良	
第118図870	P209	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	不明	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第119図871	P412	H16	3区				砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第119図872	P1004	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第119図873	P196	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第119図874	P871	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	縦、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第119図875	P293	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第119図876	P863	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	不良	
第119図877	P170	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	不良	
第119図878	P959	H16	3区				砂粒・繊維	不明	横・斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第119図879	P1045	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第119図880	P205	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR6/8橙色	不良	
第119図881	P720	H17	4区				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第119図882	P288	H17	4区				砂粒・繊維	横、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第119図883	P417	H17	4区				砂粒・繊維	縦・横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	良	
第119図884	P556	H17	4区				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第119図885	P563	H17	4区				スコリア・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第119図886	P570	H17	4区				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第119図887	P603	H17	4区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第119図888	P617	H17	4区				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第119図889	P618	H17	4区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第119図890	P619	H17	4区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	やや良	
第119図891	P534	H17	4区				砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	不良	
第119図892	P617	H19	5区				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第119図893	P990	H19	5区				スコリア・砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第119図894	P576・P652	H19	5区				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第119図895	P122・P208	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	縦・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第119図896	P67	H18	6区				砂粒・繊維	横・斜、ナデ	縦・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第119図897	P55	H18	6区				砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	2.5Y8/6黄色	不良	
第119図898	P505	H19	5区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	縦・斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第119図899	P135	H18	6区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	不良	
第119図900	P339	H18	5区2トレ				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第119図901	P87	H18	6区				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第119図902	P332	H18	5区3トレ				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	不良	
第119図903	P121	H18	6区				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	文様	文様の形状	施文方向	胎土特徴	内面調整	外面調整	口唇刻みの形状	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	備考
第119図904	P43	H18	6区				砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第119図905	P322・P323	H18	5区2トレ				雲母・砂粒・繊維	不明	横・斜、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第119図906	P551	H19	5区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第119図907	P-840	H16	3区				砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第119図908	P136	H18	6区				砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第119図909	P139	H18	6区				砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第119図910	P155	H18	6区				砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第119図911	P119	H18	6区				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第119図912	P74	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	縦・横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第119図913	P64	H18	6区				砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横・斜、ナデ	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第119図914	P335	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	縦・斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	
第119図915	P952	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	
第119図916	P506	H19	5区				スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	縦・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第119図917	P577	H19	5区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第119図918	M-9G一括	H16	3区				スコリア・砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第119図919	P-1075	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	2.5YR6/8橙色	やや良	
第120図920	P93	H18	6区				砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、ナデ	—	—	—	—	7.5YR6/4にぶい橙色	やや良	
第120図921	M-9G一括	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第120図922	P1007	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第120図923	P299	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第120図924	N-13G	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第120図925	P75	H18	6区				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第120図926	P990	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第120図927	N-10G一括	H16	3区				砂粒・繊維	横・斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第120図928	P306	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第120図929	P751	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第120図930	P1061	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	縦、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第120図931	P655	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	やや良	
第120図932	P146	H18	6区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦・斜、ナデ	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	不良	
第120図933	P529・P821	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第120図934	P615	H19	5区				スコリア・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第120図935	P1146	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	縦・斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	やや良	
第120図936	P145	H19	11区				砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第120図937	P766	H16	3区				砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第120図938	P150	H18	6区				砂粒・繊維	横・斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第120図939	P70	H18	6区				砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第120図940	P622	H17	4区				砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第120図941	P953	H19	5区				砂粒・繊維	縦・横、ナデ	縦・横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第120図942	P881	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第120図943	P48	H18	6区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第120図944	P984	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第120図945	P563	H19	5区				砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第120図946	P104	H18	6区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	不良	
第120図947	P875・P877・P952	H19	5区				砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	やや良	
第120図948	P498・P803	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第120図949	P134	H18	6区				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第120図950	P884・P887・P888	H19	5区				砂粒・繊維	縦・横・斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第121図951	P817・P983	H19	5区				砂粒・繊維	縦、磨き	縦、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第121図952	P586・P611・P637・P647	H17	4区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第121図953	P94	H19	11区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第121図954	P661	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	縦、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第121図955	P879	H19	5区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第121図956	P155	H19	11区				砂粒・繊維	不明	横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第121図957	P819	H19	5区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第121図958	P88	H19	11区				砂粒・繊維	縦・横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第121図959	P808	H16	3区				砂粒・繊維	横、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第121図960	P687	H16	3区				砂粒・繊維	不明	縦・横、磨き	—	—	—	—	10YR7/4にぶい黄橙色	やや良	
第121図961	P1005	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第121図962	P228	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第121図963	P502	H17	2区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	縦・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第121図964	P253・P276	H16	3区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第121図965	P800	H19	5区				雲母・砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第121図966	P978	H19	5区				砂粒・繊維	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第121図967	P1033・44～46土一括	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第121図968	P198	H19	11区				雲母・砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第121図969	P826	H19	5区				砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第121図970	P318	H16	3区				砂粒・繊維	不明	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/4にぶい黄橙色	やや良	
第121図971	P932	H16	3区				砂粒・繊維	不明	縦・横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第121図972	P832	H19	5区				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第121図973	P1010	H16	3区				スコリア・砂粒・繊維	不明	縦・横、ナデ	—	—	—	6.6	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第121図974	P856	H19	5区				砂粒・繊維	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	やや良	
第121図975	P528	H19	5区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR6/8橙色	やや良	内面に指頭圧痕あり
第121図976	P752	H19	5区				雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	4.6	7.5YR6/6橙色	やや良	

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	文様	文様の形状	施文方向	胎土特徴	内面調整	外面調整	口唇刻みの形状	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	焼成	備考
第121図977	P1031	H16	3区				砂粒・繊維	斜、ナデ	縦・横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第121図978	P580	H19	5区				砂粒・繊維	不明	横、磨き	—	—	—	6.6	7.5YR6/6橙色	やや良	外面は条痕調整後に磨かれている
第121図979	P554	H19	5区				雲母・砂粒・繊維	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	外面は条痕調整後に磨かれている
第160図1	P371	H16	2区	沈線文 刺突文	幅1.1・ヘラ状工具 φ4.4・竹管状工具	斜 斜	雲母・砂粒・繊維	不明	不明	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第160図2	排土一括	H19	5区				雲母・砂粒	横、ナデ	横、磨き	なし	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第160図3	P56	H19	8区	沈線文 押引文	幅2.4・ヘラ状工具 φ5.6・竹管状工具	縦・横 横	砂粒	横、磨き	横、磨き	—	—	—	—	10YR4/3にぶい黄褐色	良	
第160図4	P511	H19	5区				砂粒	横、ナデ	斜、磨き	なし				5YR6/6橙色	良	
第160図5	P314	H18	5区2トレ	沈線文 縄文	幅3.9・ヘラ状工具	斜 斜	砂粒	横・斜、磨き	縦・斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	良	
第160図6	P10	H18	5区	縄文		斜	スコリア・砂粒	横・斜、ナデ	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	良	
第160図7	P213	H18	5区	沈線文	幅5.1・ヘラ状工具	横・斜	スコリア・砂粒	横、磨き	横、磨き	なし	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	良	
第160図8	P305	H18	5区2トレ	沈線文	幅5.1・ヘラ状工具	横・斜	スコリア・砂粒	横、磨き	横、磨き	なし	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	良	
第160図9	P4	H19	10区	沈線文	幅2.7・ヘラ状工具	—	砂粒	横、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	良	
第160図10	P343・P344・P346	H18	5区4トレ	沈線文	幅2.2・ヘラ状工具	縦・斜	スコリア・砂粒	横、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	良	
第160図11	P345	H18	5区4トレ	沈線文	幅2.2・ヘラ状工具	斜	スコリア・砂粒	横、磨き	縦、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	良	
第160図12	P5	H19	11区	沈線文	φ4.9・竹管状工具	縦	砂粒	不明	縦、磨き	—	—	—	—	5YR6/6橙色	良	
第160図13	P211	H18	5区	沈線文	幅4.6・ヘラ状工具	縦	砂粒	横、磨き	縦、磨き	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	良	
第160図14	P546	H16	3区	沈線文	φ2.6・竹管状工具	縦	砂粒	横、磨き	横・斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR6/8橙色	良	
第160図15	HP14	H16	2区	沈線文	φ3.2・竹管状工具	斜	砂粒	斜、磨き	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR6/8橙色	良	
第160図16	R-11G一括	H19	11区	沈線文	φ2.9・竹管状工具	斜	砂粒	横、ナデ		—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	良	
第160図17	一括	H19	5区	沈線文	φ4.3・竹管状工具	斜	砂粒	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第160図18	P290	H18	5区2トレ	沈線文	φ2.0・竹管状工具	横	砂粒	横、磨き	斜、磨き	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	良	
第160図19	HP12	H16	2区	沈線文	幅1.9・ヘラ状工具	縦	砂粒	横、ナデ	横、ナデ	—	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	良	
第160図20	P342	H18	5区4トレ	沈線文 縄文	φ5.8・竹管状工具	斜 斜	砂粒	斜、磨き	不明	—	—	—	—	5YR6/6橙色	良	
第160図21	P966	H16	2区	沈線文	φ2.9・竹管状工具	斜	砂粒	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	良	
第160図22	P541	H16	3区	沈線文	φ4.2・竹管状工具	斜	砂粒	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	良	
第160図23	P835	H16	3区	沈線文 縄文	φ3.3・竹管状工具	斜 斜	砂粒	横、ナデ	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第160図24	P263	H17	4区	沈線文	φ3.9・竹管状工具	斜	砂粒	斜、磨き	斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	良	
第160図25	P414	H17	4区	沈線文	幅2.2・ヘラ状工具	縦・斜	雲母・砂粒・繊維	横、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	2.5YR6/8橙色	良	
第160図26	P341	H18	5区4トレ	沈線文	幅2.3・ヘラ状工具	斜	砂粒	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	やや良	
第160図27	HP11	H16	2区	沈線文	φ3.4・竹管状工具	横	砂粒	不明	不明	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第161図28	P205・P206・P282	H18	5区2トレ	沈線文 隆帯	幅2.6・ヘラ状工具	横・斜 縦	砂粒	横、磨き	斜、磨き	—	—	—	—	5YR6/8橙色	良	隆帯上に幅3.0竹管状工具による刻みあり
第161図29	P8	H19	11区	沈線文	φ2.1・竹管状工具	縦・横・斜	砂粒	横、ナデ	斜、磨き	—				10YR8/6黄橙色	良	
第161図30	10トレンチ一括	H18	6区10トレ	沈線文	幅2.4・ヘラ状工具	横	砂粒	横、ナデ	横、ナデ	—				10YR6/6明黄褐色	良	
第161図31	P7・P11	H19	11区	沈線文	φ3.5・竹管状工具	縦・横・斜	砂粒	横、磨き	横、磨き	なし				7.5YR7/6橙色	良	
第161図32	P12	H19	11区	沈線文 隆帯	幅2.4・ヘラ状工具	縦・斜 横	砂粒	横、磨き	斜、磨き	—	—	—	—	10YR3/1黒褐色	良	
第161図33	P9	H19	11区	沈線文 刺突文 隆帯	幅3.2・ヘラ状工具 幅3.3・ヘラ状工具	縦 横	砂粒	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	良	
第161図34	P14	H19	11区	沈線文	φ3.2・竹管状工具	縦・横	砂粒	横、磨き	横、磨き	なし				10YR7/6明黄褐色	良	
第161図35	P341	H17	4区	沈線文	幅1.8・ヘラ状工具	横・斜	砂粒	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	良	
第161図36	P465	H16	3区	沈線文 縄文	幅1.3・ヘラ状工具	斜 斜	スコリア・砂粒・繊維	斜、ナデ	不明	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第161図37	P4	H19	11区	沈線文	幅1.9・ヘラ状工具	斜	砂粒	斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	良	
第161図38	P100	H18	5区	沈線文	幅2.1・ヘラ状工具	横・斜	砂粒	横、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	良	
第161図39	P182	H18	5区	沈線文 縄文	φ2.2・竹管状工具	横 斜	砂粒	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	2.5Y6/4にぶい黄色	良	
第161図40	P68	H16	3区	沈線文 縄文	φ3.0・竹管状工具	横 斜	砂粒	斜、磨き	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	
第161図41	P284	H18	5区2トレ	沈線文 隆帯 縄文	幅1.7・ヘラ状工具	縦 縦 斜	砂粒	斜、磨き	不明	—	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	良	
第161図42	P232	H18	5区	沈線文	幅0.7・ヘラ状工具	斜	スコリア・砂粒	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	良	
第161図43	P216	H18	5区	沈線文	幅2.9・ヘラ状工具	斜	砂粒	横・斜、ナデ	横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/6橙色	やや良	
第161図44	P215	H18	5区	沈線文 縄文	幅2.3・ヘラ状工具	縦 斜	砂粒	斜、磨き	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第161図45	P29	H18	6区	沈線文	幅2.2・ヘラ状工具	斜	砂粒	縦、磨き	横・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR6/6橙色	やや良	
第161図46	P113	H18	5区	沈線文 縄文		横 斜	砂粒	横、ナデ	不明	—	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	良	
第161図47	P218	H18	5区	沈線文	幅2.1・ヘラ状工具	縦・斜	砂粒	横、磨き	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	
第161図48	P183	H18	5区	沈線文 縄文	φ2.2・竹管状工具	斜 斜	砂粒	斜、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	良	
第161図49	表土剥ぎ一括	H18	5区	沈線文 刺突文 隆帯	幅3.1・ヘラ状工具 φ2.7・ペン先状工具	横・斜 横	雲母・砂粒	横、ナデ	斜、磨き	なし	—	—	—	10YR5/3にぶい黄褐色	良	隆帯上に幅2.2ヘラ状工具による刻みあり
第161図50	P167	H18	5区	縄文		斜	砂粒	縦・横、磨き	不明	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第161図51	P212	H18	5区	縄文		斜	スコリア・砂粒	斜、ナデ	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/4にぶい黄褐色	やや良	

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	文様	文様の形状	施文方向	胎土特徴	内面調整	外面調整	口唇刻みの形状	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	焼成	備考
第161図52	P337	H17	4区	縄文		斜	砂粒	不明	斜、ナデ	—	—	—	—	7.5YR5/6明褐色	良	
第161図53	P142	H18	5区	縄文		斜	砂粒	斜、磨き	斜、磨き	—	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	やや良	
第169図10	5土一括	H16	3区5土	沈線文	φ2.4・竹管状工具	横	砂粒	横、ナデ	縦、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	
第170図1	P459	H16	3区1溝	縄文		斜	砂粒・繊維	横、ナデ	不明	なし	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	やや良	施文後に縄文をナデ消している
第170図4	P90	H17	4区18溝	沈線文	幅1.9・ヘラ状工具	横・斜	砂粒	横、磨き	横・斜、磨き	なし	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	良	
第170図12	P117	H18	5区42溝	沈線文	φ3.0・竹管状工具	縦	砂粒	横・斜、磨き	縦・斜、磨き	—	—	—	—	7.5YR7/8黄橙色	やや良	
第170図14	P110	H18	5区44溝	沈線文	幅2.2・ヘラ状工具	縦・斜	砂粒	横、ナデ	横、磨き	—	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	良	

第12表　弥生～近世土器・陶磁器類一覧表

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	器形	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	胎土	焼成	残存率	時代	備考
第164図1	P445	H16	3区1住	蓋	17.2	3.7	—	N6/0灰色	白色粒子	良	75%	奈良	
第164図2	P392	H16	3区1住	蓋	—	—	—	N6/0灰色	白色粒子	良	破片	奈良	
第164図3	P381・P390・P399・P408・P477・P479～482・P485・P486・P643・P663・P664・P667・P741～746・P748	H16	3区1住	甕	21.5	—	—	2.5YR3/6暗赤褐色	雲母・白色粒子	良	20%	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケ・指頭圧痕あり
第164図4	P376・P378～380・P382～386・P474	H16	3区1住	甕	—	—	8.6	5YR4/3にぶい赤褐色	雲母・白色粒子	良	20%	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケ・指頭圧痕あり
第164図5	P394	H16	3区1住	甕	—	—	—	7.5YR3/1黒褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第164図6	P646	H16	3区1住	甕	—	—	—	7.5YR3/2黒褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケ・指頭圧痕あり
第164図7	P395	H16	3区1住	甕	—	—	—	5YR3/4暗赤褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第164図8	P389	H16	3区1住	甕	—	—	—	5YR3/2暗赤褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第164図9	P484	H16	3区1住	甕	—	—	—	7.5YR3/2黒褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第164図10	1住一括	H16	3区1住	甕	—	—	—	7.5YR3/1黒褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第164図11	P483	H16	3区1住	甕	—	—	—	7.5YR3/2黒褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第164図12	P740	H16	3区1住	甕	—	—	—	7.5YR5/6明褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第164図13	P644・645	H16	3区1住	甕	—	—	—	7.5YR5/6明褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ナデ、内面に横ハケあり
第164図14	P375	H16	3区1住	甕	—	—	—	7.5YR5/6明褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケ・指頭圧痕あり
第164図15	P747	H16	3区1住	甕	—	—	—	7.5YR4/6褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第164図16	P387・P391	H16	3区1住	甕	20.3	—	—	7.5YR6/6橙色	雲母・砂粒	良	20%	奈良	外面頸部に横ハケがわずかにあり
第164図17	P386	H16	3区1住	甕	—	—	—	10YR7/4にぶい黄橙色	白色粒子	良	破片	奈良	
第164図18	P377	H16	3区1住	甕	—	—	—	10YR3/2黒褐色	雲母・砂粒	良	破片	奈良	
第164図19	P393	H16	3区1住	甕	—	—	—	7.5YR6/6橙色	白色粒子	良	破片	奈良	底部にヘラ削りあり
第165図1	P594・P605・P608・P612・P613・P615・P635・P642・P830・P831・P853・P855	H16	3区2住	甕	24.0	—	—	7.5YR4/4褐色	雲母・白色粒子	良	20%	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第165図2	P590・P597・P598・P600・P602・P618・P625	H16	3区2住	甕	—	—	—	5YR4/6赤褐色	雲母・白色粒子	良	20%	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケ・指頭圧痕あり
第165図3	P596・P607・P609・P611	H16	3区2住	甕	—	—	—	5YR4/6赤褐色	雲母・白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第165図4	2住一括	H16	3区2住	甕	—	—	—	5YR4/6赤褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第165図5	P619・P639・P640・P833・P856	H16	3区2住	甕	—	—	—	5YR4/4にぶい赤褐色	雲母・白色粒子	良	20%	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケ・指頭圧痕あり
第165図6	P828・P847	H16	3区2住	甕	—	—	—	7.5YR3/3暗褐色	雲母・白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第165図7	P591・P599	H16	3区2住	甕	—	—	—	5YR4/3にぶい赤褐色	雲母・白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第165図8	P603・P628・P633	H16	3区2住	甕	—	—	—	5YR4/3にぶい赤褐色	雲母・白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第165図9	P621～623・P829・P832	H16	3区2住	甕	—	—	—	5YR4/3にぶい赤褐色	雲母・白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第165図10	P606・P852	H16	3区2住	甕	—	—	8.4	10YR4/2灰黄褐色	雲母・白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第166図11	P631	H16	3区2住	甕	—	—	—	5YR4/4にぶい赤褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型甕の口縁部破片
第166図12	P589・P636	H16	3区2住	甕	—	—	—	5YR4/3にぶい赤褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第166図13	P624	H16	3区2住	甕	—	—	—	5YR2/1黒褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第166図14	P595	H16	3区2住	甕	—	—	—	7.5YR2/2黒褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第166図15	P846	H16	3区2住	甕	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第166図16	P617	H16	3区2住	甕	—	—	—	7.5YR4/3褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第166図17	P592	H16	3区2住	甕	—	—	—	7.5YR3/4暗褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第166図18	P614	H16	3区2住	甕	—	—	—	5YR4/4にぶい赤褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第166図19	P641	H16	3区2住	甕	—	—	—	5YR3/4にぶい暗赤褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第166図20	P691	H16	3区2住	甕	—	—	—	5YR3/2暗赤褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、底部に木葉痕あり
第166図21	P693	H16	3区2住	甕	—	—	—	5YR4/3にぶい赤褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第166図22	2住一括	H16	3区2住	甕	—	—	—	7.5YR3/2黒褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第166図23	P638・P851	H16	3区2住	甕	—	—	—	7.5YR7/6橙色	スコリア・砂粒	良	破片	奈良	外面に縦ハケ、胎土が粗い
第166図24	P826・P850・カマド一	H16	3区2住	甕	—	—	—	7.5YR6/4にぶい橙色	スコリア・砂粒	良	破片	奈良	胎土が粗い
第166図25	P848	H16	3区2住	甕	—	—	8.8	7.5YR7/6橙色	スコリア・砂粒	良	破片	奈良	胎土が粗い
第166図26	P854	H16	3区2住	小型甕	14.8	11.1	6.3	5YR4/6赤褐色	白色粒子	良	破片	奈良	外面にヘラ削り、底部に木葉痕あり

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	器形	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	胎土	焼成	残存率	時代	備考
第166図27	P593	H16	3区2住	鉢	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	白色粒子	良	破片	奈良	外面にヘラ削り、内面にナデあり
第167図1	P568・P583	H16	2区3住	坏	17.0	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	白色粒子	良	15%	奈良	外面下半にヘラ削りあり
第167図2	P723	H16	2区3住	坏	14.0	—	—	7.5YR6/4にぶい橙色	雲母・白色粒子	良	破片	奈良	外面下半に指頭圧痕・ヘラ削り、内面内黒である
第167図3	P564	H16	2区3住	坏	14.2	—	—	7.5YR4/6褐色	雲母・白色粒子	良	破片	奈良	外面下半に指頭圧痕・ヘラ削りあり
第167図4	P577・P722	H16	2区3住	坏	16.0	—	—	7.5YR5/6明褐色	雲母・白色粒子	良	破片	奈良	外面に横位のミガキあり
第167図5	P580	H16	2区3住	坏	14.9	—	—	7.5YR4/4褐色	雲母・白色粒子	良	破片	奈良	外面に指頭圧痕あり
第167図6	P724	H16	2区3住	坏	14.0	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	雲母・白色粒子	良	破片	奈良	外面に指頭圧痕あり
第167図7	P575	H16	2区3住	坏	14.9	—	—	7.5YR6/6橙色	白色粒子	良	破片	奈良	内黒である
第167図8	P731	H16	2区3住	蓋	17.6	—	—	N6/0灰色	白色粒子	良	破片	奈良	口唇部付近に自然釉あり
第167図9	P571	H16	2区3住	坏	18.2	—	—	N4/0灰色	白色粒子	良	破片	奈良	
第167図10	P566	H16	2区3住	坏	16.6	—	—	7.5Y7/1灰白色	白色粒子	良	破片	奈良	
第167図11	P567・P572・P734・P736	H16	2区3住	高台付	17.7	3.95	13.9	N5/0灰色	白色粒子	良	25%	奈良	貼り付け高台、内面に自然釉あり
第167図12	P735	H16	2区3住	甕	21.0	—	—	5YR6/6橙色	雲母・砂粒	良	20%	奈良	外面に縦ハケあり
第167図13	P732	H16	2区3住	甕	21.8	—	—	7.5YR5/6明褐色	雲母・砂粒	良	破片	奈良	外面に縦ハケ、内面の口縁に部分的に横ハケあり
第167図14	P588	H16	2区3住	甕	—	—	—	7.5YR4/3褐色	白色粒子	良	破片	奈良	
第167図15	P721・P730	H16	2区3住	甕	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	雲母・砂粒	良	破片	奈良	外面に縦ハケ、内面に横ハケあり
第167図16	P585	H16	2区3住	甕	—	—	—	10YR3/1黒褐色	スコリア・砂粒	良	破片	奈良	外面に縦ハケ、胎土が粗い
第167図17	P587	H16	2区3住	甕	—	—	—	7.5YR4/3褐色	スコリア・砂粒	良	破片	奈良	外面に縦ナデあり
第167図18	P579・P727	H16	2区3住	甕	—	—	—	7.5YR5/6明褐色	雲母・砂粒	良	破片	奈良	外面に縦ハケ、内面に横ハケあり
第167図19	P576	H16	2区3住	甕	—	—	—	7.5YR4/4褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第167図20	P568	H16	2区3住	甕	—	—	—	5YR4/6赤褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第167図21	P584	H16	2区3住	甕	—	—	—	7.5YR5/6明褐色	雲母・砂粒	良	破片	奈良	外面に縦ハケ、内面に横ハケあり
第167図22	P565	H16	2区3住	甕	—	—	9.4	7.5YR7/6橙色	雲母・砂粒	良	破片	奈良	底部にハケ、胎土が粗い
第167図23	P725	H16	2区3住	甕	—	—	12.0	10YR4/3にぶい黄褐色	雲母・砂粒	良	破片	奈良	底部に木葉痕あり
第168図1	P432	H17	4区1住	坏	—	—	—	10YR3/1黒褐色	赤色粒子	良	破片	奈良	
第168図2	P420	H17	4区1住	甕	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型の口縁部である
第168図3	P430・P111	H17	4区1住	甕	—	—	—	2.5YR5/4にぶい赤褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第168図4	P441-1	H17	4区1住	甕	—	—	—	7.5YR4/4褐色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第168図5	P441-2	H17	4区1住	甕	—	—	—	7.5YR4/3褐色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第168図6	P20	H17	4区1住	甕	—	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	白色粒子	良	破片	奈良	
第168図7	P434	H17	4区1住	甕	—	—	—	7.5YR4/4褐色	白色粒子	良	破片	奈良	
第168図8	P421	H17	4区1住	甕	—	—	—	10YR4/2灰黄褐色	白色粒子	良	破片	奈良	
第168図9	P22	H17	4区1住	甕	—	—	7.0	10YR4/3にぶい黄褐色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	
第169図1	P476	H16	2区24土	甕	—	—	—	5YR3/3暗赤褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第169図2	P737	H16	2区24土	碗	—	—	—	N8/0灰白色	—	良	破片	中世	内外面に釉薬(透明釉)が施されている
第169図3	P448	H16	2区24土	碗	13.5	—	—	5Y7/1灰白色	白色粒子	良	破片	中世	
第169図4	P738	H16	2区24土	皿	12.1	2.1	7.0	2.5Y8/2灰白色	黒色粒子	良	破片	中世	内外面に釉薬(透明釉)が施されている
第169図5	P446	H16	2区24土	皿	10.3	—	—	N6/0灰色	白色粒子	良	破片	中世	内外面に釉薬(鉄釉)がかかり、口唇部には灰釉が施されている
第169図6	P1143	H16	2区24土	皿	—	—	—	N6/0灰色	白色粒子	良	破片	中世	内外面に釉薬(鉄釉)、口唇部には灰釉が施されている
第169図7	P447・P449・P1151	H16	2区24土	鉢	26.8	—	—	7.5YR5/3にぶい褐色	白色粒子	良	破片	中世	内外面に釉薬(鉄釉)が施されている
第169図8	P739	H16	2区24土	鉢	26.8	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	白色粒子	良	破片	中世	内外面に釉薬(鉄釉)が施されている
第169図9	P560	H16	2区24土	瓶	—	—	—	5Y7/2灰白色	白色粒子	良	破片	中世	外面全体に釉薬(灰釉)が施されている
第169図11	P311	H16	3区7土	甕	—	—	—	5YR4/4にぶい赤褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第169図12	P312	H16	3区11土	坏	—	—	—	5YR4/6赤褐色	白色粒子	良	破片	奈良	内面に暗文あり
第169図13	26土一括	H16	3区26土	甕？	—	—	—	N5/0灰色	白色粒子	良	破片	奈良	外面全体に釉薬(灰釉)が施されている
第169図14	P16	H18	6区1墓	碗	11.6	4.4	7.1	2.5Y8/2灰白色	—	良	100%	近世	
第169図15	P15	H18	6区1墓	土瓶	3.75	5.5	7.4	2.5Y8/2灰白色	—	良	100%	近世	
第169図17	P4	H19	7区1土	甕	—	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	
第169図18	P1・P3	H19	7区1土	火鉢	—	—	—	2.5Y2/1黒色	白色粒子	良	破片	近世	
第170図3	P51	H17	4区3溝	坏	—	—	—	2.5Y5/1黄灰色	白色粒子	良	破片	奈良	
第170図5	P457	H17	4区18溝	甕	—	—	—	2.5Y3/2黒褐色	砂粒	良	破片	弥生	
第170図6	P74	H17	4区18溝	甕	—	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	白色粒子	良	破片	奈良	底部に木葉痕あり
第170図7	P87	H17	4区18溝	壺	—	—	17.8	N7/0灰白色	白色粒子	良	破片	奈良	
第170図8	P80	H17	4区19溝	坏	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	白色粒子	良	破片	奈良	
第170図9	P79	H17	4区19溝	甕	—	—	6.2	10YR5/3にぶい黄褐色	白色粒子	良	破片	奈良	
第170図10	P70	H17	4区19溝	甕	—	—	—	2.5Y5/1黄灰色	白色粒子	良	破片	奈良	外面にタタキを有する
第170図11	P445	H17	4区26溝	甕	—	—	—	N4/0灰色	白色粒子	良	破片	中世	
第170図13	P108	H18	5区43溝	甕	—	—	—	7.5YR4/3褐色	砂粒	良	破片	弥生	
第170図16	焼土集中1一括	H16	2区焼集1	坏	—	—	—	N5/0灰色	白色粒子	良	破片	奈良	
第171図1	P543	H16	3区	甕	—	—	—	2.5YR5/8明赤褐色	砂粒	良	破片	弥生	外面に条痕文が施文される

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	器形	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	胎土	焼成	残存率	時代	備考
第171図2	P542・P545	H16	3区	甕	—	—	—	2.5YR6/8橙色	砂粒	良	破片	弥生	外面に条痕文が施文される
第171図3	P135・P162・P163・P171・P172・P173	H18	5区	甕	24.6	—	—	10YR4/3にぶい黄褐色	雲母・砂粒	良	破片	弥生	
第171図4	P119・P152・P194	H18	5区	甕	27.0	—	—	10YR5/6黄褐色	雲母・砂粒	良	破片	弥生	
第171図5	P479・P499	H17	4区	甕	—	—	—	10YR3/1黒褐色	雲母・砂粒	良	破片	弥生	
第171図6	P521	H17	4区	甕	—	—	—	10YR5/6黄褐色	砂粒	良	破片	弥生	
第171図7	P500	H17	4区	甕	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	砂粒	良	破片	弥生	
第171図8	P475・P477・P495	H17	4区	甕	—	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	砂粒	良	破片	弥生	
第171図9	P130	H18	5区	甕	17.2	—	—	10YR6/6明黄褐色	雲母・スコリア・砂粒	やや良	破片	弥生	
第171図10	P131	H18	5区	甕	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	砂粒	良	破片	弥生	口唇部に刻みを有する
第171図11	P132	H18	5区	甕	—	—	—	7.5YR4/4褐色	砂粒	良	破片	弥生	口唇部に刻みを有する
第171図12	P134	H18	5区	甕	—	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	砂粒	良	破片	弥生	
第171図13	P153・P174	H18	5区	甕	—	—	10.8	10YR5/4にぶい黄褐色	砂粒	良	破片	弥生	
第171図14	P2	H19	11区	甕	—	—	10.0	10YR6/6明黄褐色	砂粒	やや良	破片	弥生	
第171図15	P469	H17	4区	甕	—	—	—	7.5YR4/6褐色	砂粒	良	破片	弥生	
第171図16	P139	H18	5区	甕	—	—	—	10YR5/6黄褐色	雲母・砂粒	良	破片	弥生	
第171図17	P513	H17	4区	甕	—	—	—	7.5YR5/6明褐色	砂粒	良	破片	弥生	横位の併行沈線が4単位施文される
第171図18	P454	H17	4区	甕	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	砂粒	良	破片	弥生	
第171図19	P157	H18	5区	甕	—	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	砂粒	良	破片	弥生	
第171図20	P159	H18	5区	甕	—	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	砂粒	良	破片	弥生	
第171図21	P170	H18	5区	甕	—	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	砂粒	良	破片	弥生	
第171図22	P14	H18	6区	甕	—	—	—	10YR7/6明黄褐色	砂粒	やや良	破片	弥生	
第171図23	P126	H18	5区	甕	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	砂粒	良	破片	弥生	
第172図1	P316	H17	4区	坏	—	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	赤色・白色粒子	良	破片	古墳	
第172図2	P160・P168	H17	4区	甕	—	—	4.0	10YR5/4にぶい黄褐色	白色粒子	良	破片	古墳	外面底部にヘラ削りを有する
第172図3	P195	H17	4区	壺	10.8	—	—	10YR4/4褐色	白色粒子	良	破片	古墳	
第172図4	P709	H17	4区	壺	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	砂粒	良	破片	古墳	外面と内面施文範囲に赤彩が施されている
第172図5	P112・P197	H17	4区	高坏	—	—	10.8	5YR5/6明赤褐色		良	破片	古墳	ケズリの後にミガキを施している
第172図6	P221	H17	4区	不明	—	—	—	5YR4/6赤褐色	白色粒子	良	破片	古墳	外面に赤彩が施されている
第172図1	P39・P346	H17	4区	坏	15.8	—	—	10YR4/3にぶい黄褐色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	内面にミガキを施している
第172図2	第Ⅱ・Ⅲ面一括	H17	4区	坏	15.0	—	—	7.5YR6/6橙色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	
第172図3	P665	H17	4区	坏	14.0	—	—	2.5Y6/1黄灰色	白色粒子	良	破片	奈良	
第172図4	P47	H19	8区	坏	12.4	—	—	2.5Y6/1黄灰色	白色粒子	良	破片	奈良	
第172図5	HP1	H16	2区	坏	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	—	良	破片	奈良	
第172図6	一括	H16	—	坏	—	—	—	10YR2/1黒色	白色粒子	良	破片	奈良	
第172図7	P205	H17	4区	坏	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	白色粒子	良	破片	奈良	外面底部にヘラ削りを有する
第172図8	P60	H18	5区	坏	—	—	6.0	2.5Y5/2暗灰黄	雲母・砂粒	良	破片	奈良	
第172図9	P124	H17	4区	坏	—	—	7.0	5YR6/8橙色	—	良	破片	奈良	
第172図10	P287	H17	4区	坏	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	白色粒子	良	破片	奈良	外面に指頭圧痕・ヘラ削りを有する
第172図11	P48	H17	4区	坏	—	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	白色粒子	良	破片	奈良	
第172図12	P276	H17	4区	坏	—	—	—	10YR4/2灰黄褐色	白色粒子	良	破片	奈良	外面底部にヘラ削りを有する
第172図13	N-10G一括	H16	3区	坏	—	—	—	7.5YR5/6明褐色	白色粒子	良	破片	奈良	底部にヘラ削りあり
第172図14	P186	H17	4区	蓋	—	—	—	2.5Y5/1黄灰色	白色粒子	良	破片	奈良	
第172図15	P4・P366	H16	1区	蓋	—	—	—	N7/0灰白色	白色粒子	良	15%	奈良	
第172図16	P239・P320	H17	4区	蓋	15.8	—	—	N6/0灰色	白色粒子	良	破片	奈良	
第172図17	P8	H17	4区	蓋	—	—	—	N5/0灰色	白色粒子	良	破片	奈良	
第172図18	P169・P265・P330	H17	4区	蓋	—	—	—	N6/0灰色	白色粒子	良	破片	奈良	
第172図19	P481・P687・P701	H17	4区	坏	12.8	—	—	N7/0灰白色	白色粒子	良	破片	奈良	
第172図20	P286	H17	4区	坏	17.1	—	—	7.5Y5/1灰色	白色粒子	良	破片	奈良	
第172図21	HP3	H16	2区	坏	13.2	—	—	N6/0灰色	白色粒子	良	破片	奈良	
第172図22	P252・P460・P466	H17	4区	坏	14.9	—	—	N6/0灰色	白色粒子	良	破片	奈良	
第172図23	試掘	H15	—	坏	14.9	—	—	N6/0灰色	白色粒子	良	破片	奈良	
第172図24	P305	H17	4区	坏	—	—	—	N7/0灰白色	白色粒子	良	破片	奈良	
第172図25	P234	H17	4区	坏	—	—	10.6	N6/0灰色	白色粒子	良	破片	奈良	底部に線刻あり
第172図26	P129	H17	4区	坏	—	—	—	N6/0灰色	白色粒子	良	破片	奈良	
第172図27	P247・P250	H17	4区	坏	—	—	10.2	N6/0灰色	白色粒子	良	破片	奈良	
第173図28	P328・P528・P683・P684・P685・G・H-9G一括	H17	4区	甕	21.8	—	—	7.5YR5/8明褐色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	
第173図29	P43	H19	8区	甕	24.2	—	—	7.5YR5/6明褐色	白色粒子	良	破片	奈良	
第173図30	試掘	H15	—	小型甕	—	—	—	5Y4/1	白色粒子	良	破片	奈良	

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	器形	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	胎土	焼成	残存率	時代	備考
第173図31	P667	H17	4区	甕	—	—	—	7.5YR5/6明褐色	白色粒子	良	破片	奈良	
第173図32	P101	H17	4区	甕	—	—	—	7.5YR6/6橙色	砂粒	良	破片	奈良	
第173図33	P126	H17	4区	甕	—	—	—	7.5YR6/4にぶい橙色	雲母・砂粒	良	破片	奈良	
第173図34	P340・P402	H17	4区	甕	—	—	—	7.5YR5/6明褐色	雲母・白色粒子	良	破片	奈良	
第173図35	P310・P347	H17	4区	甕	—	—	—	7.5YR6/4にぶい橙色	雲母・砂粒	良	破片	奈良	
第173図36	P916	H16	3区	甕	—	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	スコリア・砂粒	良	破片	奈良	胎土が粗い
第173図37	P149・P308・P358	H17	4区	甕	—	—	—	7.5YR3/1黒褐色	雲母・砂粒	良	破片	奈良	
第173図38	P512	H17	4区	甕	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	白色粒子	良	破片	奈良	
第173図39	P301・351	H17	4区	甕	—	—	—	7.5YR7/6橙色	雲母・砂粒	良	破片	奈良	外面に横ハケあり
第173図40	P97	H19	8区	甕	—	—	—	7.5YR5/6明褐色	雲母・白色粒子		破片	奈良	
第173図41	2区一括	H16	2区	甕	—	—	—	7.5YR4/4褐色	白色粒子	良	破片	奈良	
第173図42	P196	H17	4区	甕	—	—	—	7.5YR4/4褐色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	
第173図43	P274	H17	4区	甕	—	—	—	7.5YR6/4にぶい橙色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	
第173図44	P109	H17	4区	甕	—	—	—	2.5YR2/2極暗赤褐色	白色粒子	良	破片	奈良	
第173図45	P53	H19	8区	甕	—	—	—	7.5YR4/4褐色	白色粒子	良	破片	奈良	
第173図46	P509	H17	4区	甕	—	—	—	5YR4/6明赤褐色	雲母・砂粒	良	破片	奈良	
第173図47	P682	H17	4区	甕	—	—	—	7.5YR6/8橙色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	
第173図48	P390	H17	4区	甕	—	—	—	7.5YR5/4にぶい橙色	雲母・砂粒	良	破片	奈良	
第173図49	P102	H19	8区	甕	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	白色粒子	良	破片	奈良	
第173図50	P549	H16	3区	甕	—	—	—	2.5Y2/1黒色	雲母・白色粒子	良	破片	奈良	外面に縦ハケあり
第173図51	表土	H16	3区	甕	—	—	—	5YR4/6赤褐色	白色粒子	良	破片	奈良	
第174図52	P101	H19	8区	甕	—	—	—	7.5YR6/6橙色	白色粒子	良	破片	奈良	
第174図53	表土剥ぎ	H18	5区	甕	—	—	—	7.5YR4/3褐色	白色粒子	良	破片	奈良	
第174図54	P56	H17	4区	甕	—	—	—	7.5YR5/6明褐色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	
第174図55	P43	H19	7区	甕	—	—	—	7.5YR6/6橙色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	
第174図56	P321	H17	4区	甕	—	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	雲母・白色粒子	良	破片	奈良	
第174図57	P44～46	H19	7区	甕	—	—	—	7.5YR6/6橙色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	
第174図58	P5	H19	10区	甕	—	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	
第174図59	D-6G一括	H17	4区	甕	—	—	—	10YR4/2灰黄褐色	白色粒子	良	破片	奈良	
第174図60	P62	H19	8区	甕	—	—	—	10YR5/3にぶい黄褐色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	
第174図61	P96	H17	4区	甕	—	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	
第174図62	P843	H16	3区	甕	—	—	—	7.5YR4/3褐色	雲母・白色粒子	良	破片	奈良	
第174図63	P412	H17	4区	甕	—	—	—	7.5YR5/6明褐色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	
第174図64	4区一括	H17	4区	甕	—	—	3.8	10YR4/4褐色	白色粒子	良	破片	奈良	
第174図65	P661	H17	4区	甕	—	—	5.0	7.5YR4/3褐色	白色粒子	良	破片	奈良	
第174図66	試掘	H15	—	甕	—	—	—	7.5YR6/3にぶい褐色	砂粒	良	破片	奈良	胎土が粗い
第174図67	P448	H17	4区	甕	—	—	7.5	7.5YR5/4にぶい褐色	スコリア・白色粒子	良	破片	奈良	
第174図68	P392・P405	H17	4区	甕	—	—	8.0	5YR6/6橙色	雲母・砂粒	良	破片	奈良	
第174図69	P449	H17	4区	甕	—	—	5.0	7.5YR6/6橙色	白色粒子	良	破片	奈良	
第174図70	P219	H17	4区	甕	—	—	—	7.5YR6/6橙色	雲母・砂粒	良	破片	奈良	
第174図71	P523	H17	4区	甕	—	—	9.1	10YR7/4にぶい黄橙色	白色粒子	良	破片	奈良	底部に木葉痕あり
第174図72	第Ⅱ面一括	H17	4区	甕	—	—	10.0	7.5YR6/4にぶい橙色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	底部に木葉痕あり
第174図73	P372	H16	2区	甕	—	—	4.3	5YR5/6明赤褐色	雲母・砂粒	良	破片	奈良	底部に回転糸切り痕あり
第174図74	P85	H19	8区	甕	—	—	7.4	10YR6/6明黄褐色	白色粒子	良	破片	奈良	
第174図75	P2	H18	5区	甕	—	—	7.4	5YR3/2暗赤褐色	白色粒子	良	破片	奈良	
第174図76	P223	H17	4区	甕	—	—	—	10YR6/6明黄褐色	雲母・白色粒子	良	破片	奈良	
第174図77	P56	H19	7区	甕	—	—	—	10YR4/3にぶい黄褐色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	
第174図78	P81	H19	7区	甕	—	—	—	7.5YR6/4にぶい橙色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	
第174図79	P154	H17	4区	甕	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	白色粒子	良	破片	奈良	
第174図80	P57	H19	7区	甕	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	
第174図81	P283	H17	4区	甕	—	—	—	7.5YR6/6橙色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	
第174図82	P450	H17	4区	甕	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	
第174図83	P411	H17	4区	甕	—	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	
第174図84	P353	H17	4区	甕	—	—	—	10YR6/4にぶい黄橙色	白色粒子	良	破片	奈良	底部に木葉痕あり
第175図85	P190	H17	4区	甕	—	—	—	10YR5/4にぶい黄褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型の口縁部である
第175図86	P75	H19	7区	甕	—	—	—	7.5YR4/4褐色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第175図87	P99	H19	8区	甕	—	—	—	7.5YR4/4褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第175図88	P313・P453	H17	4区	甕	—	—	—	7.5Y3/2黒褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第175図89	P202	H17	4区	甕	—	—	—	7.5YR4/3褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面にミガキ、内面に横ハケあり
第175図90	P651	H17	4区	甕	—	—	—	7.5YR4/3褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第175図91	P63	H17	4区	甕	—	—	—	7.5YR4/4褐色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	器形	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	胎土	焼成	残存率	時代	備考
第175図92	F-7G一括	H17	4区	甕	—	—	—	7.5YR3/3暗褐色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第175図93	P482	H17	4区	甕	—	—	—	2.5YR4/6赤褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第175図94	P551	H16	3区	甕	—	—	—	5YR4/4にぶい赤褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第175図95	P67	H16	3区	甕	—	—	—	5YR4/4にぶい赤褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第175図96	K-11G一括	H16	3区	甕	—	—	—	5YR4/4にぶい赤褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第175図97	3区一括	H16	3区	甕	—	—	—	7.5YR3/3暗褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第175図98	3区一括	H16	3区	甕	—	—	—	7.5YR2/1黒色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第175図99	P206	H17	4区	甕	—	—	—	5YR4/6赤褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第175図100	P413	H17	4区	甕	—	—	—	5YR4/6赤褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第175図101	P451	H17	4区	甕	—	—	—	7.5YR4/4褐色	赤色・白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第175図102	P317	H16	3区	甕	—	—	—	5YR4/3にぶい赤褐色	白色粒子	良	破片	奈良	駿東型、外面に縦ハケの後ミガキ、内面に横ハケあり
第175図103	P146	H17	4区	甕	—	—	—	2.5Y6/1黄灰色	白色粒子	良	破片	奈良	外面にタタキを有する
第175図104	HP20	H16	2区	甕	—	—	—	N5/0灰色	白色粒子	良	破片	奈良	外面にタタキあり
第175図105	P139	H17	4区	甕	—	—	—	N6/0灰色	白色粒子	良	破片	奈良	
第175図106	表採	H16	—	甕	—	—	—	N6/0灰色	白色粒子	良	破片	奈良	外面にタタキあり
第175図107	HP8	H16	2区	壺	—	—	—	N6/0灰色	白色粒子	良	破片	奈良	
第175図108	P195	H17	4区	壺？	—	—	10.0	N6/0灰色	白色粒子	良	破片	奈良	
第175図109	P373	H17	4区	鉢	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	白色粒子	良	破片	奈良	
第175図110	P314	H17	4区	鉢	—	—	—	7.5YR5/4にぶい褐色	白色粒子	良	破片	奈良	
第175図111	試掘	H15	—	鉢	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	砂粒	良	破片	奈良	内面に横ハケあり
第175図112	P77	H19	7区	鉢	—	—	4.4	7.5YR6/6橙色	白色粒子	良	破片	奈良	
第175図113	P233	H17	4区	瓶	13.6	—	—	N6/0灰色	白色粒子	良	破片	奈良	
第175図114	P527	H17	4区	瓶	—	—	—	N7/0灰白色	白色粒子	良	破片	奈良	
第175図115	P46・P182	H17	4区	瓶	—	—	—	10YR5/1褐灰色	白色粒子	良	破片	奈良	
第175図116	P143	H17	4区	瓶？	—	—	—	N6/0灰色	白色粒子	良	破片	奈良	
第175図117	P379	H17	4区	瓶？	—	—	—	N6/0灰色	白色粒子	良	破片	奈良	
第176図1	P368	H16	1区	坏	—	—	—	7.5YR5/6橙色	褐色粒子	良	破片	平安	
第176図2	P53	H16	1区	坏	—	—	—	7.5YR6/6橙色	褐色粒子	良	破片	平安	外面にヘラ削り、底部にヘラ切りあり
第176図3	P658	H17	4区	高台付[illegible]	—	—	8.4	7.5YR5/6明褐色	白色粒子	良	破片	平安	
第176図4	P23	H19	7区	坏	13.2	2.6	4.4	5YR6/8橙色	赤色・白色粒子	良	90%	平安	墨書「東」を外面に有している
第176図5	P7・P8・P14・P32～34・P36・P37・P40	H19	7区	坏	—	—	—	5YR5/6明赤褐色	赤色・白色粒子	良	65%	平安	
第176図6	P28	H16	1区	甕	30.6	—	—	7.5YR4/6褐色	砂粒	良	破片	平安	甲斐型、外面に縦ハケ、内面に横ハケあり
第176図1	P138	H18	5区	蓋	13.6	—	—	2.5Y6/1黄灰色	白色粒子	良	破片	中世	口唇部に灰釉が施されている
第176図2	P4	H19	8区	坏	—	—	4.4	2.5Y7/2灰黄色	白色粒子	良	破片	中世	
第176図3	P316・P325・P462	H16	3区	坏	8.0	2.1	3.6	N6/0灰色	白色粒子	良	破片	中世	
第176図4	P36	H19	8区	碗	—	—	9.6	2.5Y5/2暗灰黄色	白色粒子	良	10%	中世	
第176図5	P367	H16	1区	碗	9.0	—	—	2.5Y8/1灰白色	—	良	破片	中世	内外面に釉薬(透明釉)が施されている
第176図6	P52	H16	1区	碗	—	—	—	7.5Y8/1灰白色	白色粒子	良	破片	中世	
第176図7	P96	H19	8区	碗	—	—	—	5Y5/1灰色	—	良	破片	中世	輪花碗、内外面に緑釉が施されている
第176図8	P80	H19	8区	碗	—	—	—	5Y5/2灰オリーブ色	—	良	破片	中世	青磁碗、外面に草花文を有する
第176図9	P362・P558	H16	1区	碗	—	—	—	5Y7/1灰白色	白色粒子	良	破片	中世	青磁碗、内面に花文あり
第176図10	試掘	H15	—	碗	—	—	—	5Y7/1灰色	—	良	破片	中世	輪花文をもつ青磁碗である
第176図11	P363	H16	1区	碗	—	—	—	5Y6/1灰白色	白色粒子	良	破片	中世	青磁碗、内面に花文あり
第176図12	P68	H19	8区	甕	12.8	—	—	5Y5/2灰オリーブ色	白色粒子	良	破片	中世	内外面に釉薬(灰釉)がかかっている
第176図13	排土一括	H19	7区	甕	—	—	—	10YR5/1褐灰色	白色粒子	良	破片	中世	
第176図14	P1	H17	4区	甕	—	—	—	N5/0灰色	白色粒子	良	破片	中世	
第176図15	P15	H19	8区	甕	—	—	—	2.5Y5/1黄灰色	白色粒子	良	破片	中世	外面に灰釉が施されている
第176図16	P103	H17	4区	甕	—	—	—	7.5YR6/6橙色	白色粒子	良	破片	中世	
第176図17	P630	H17	4区	甕	—	—	—	2.5Y4/1黄灰色	白色粒子	良	破片	中世	
第176図18	P28	H19	8区	甕	—	—	—	7.5YR6/6橙色	白色粒子	良	破片	中世	
第176図19	試掘	H15	—	甕	—	—	—	10YR6/3にぶい黄橙	白色粒子	良	破片	中世	外面に指頭痕あり
第177図20	P83	H16	1区	甕	—	—	—	2.5YR5/6明赤褐色	白色粒子	良	破片	中世	外面全体に釉薬(鉄釉)が施されている
第177図21	P369	H16	1区	甕	—	—	—	2.5Y7/1灰白色	黒色粒子	良	破片	中世	内面にタタキあり、外面全体に釉薬(灰釉)が施されている
第177図22	試掘	H15	—	甕	—	—	—	N7/0灰色	白色粒子	良	破片	中世	外面に釉薬(鉄釉)が施されている
第177図23	HP13	H16	2区	甕？	—	—	—	N6/0灰色	白色粒子	良	破片	中世	外面に釉薬(鉄釉)が施されている
第177図24	P373	H16	2区	甕？	—	—	—	7.5YR6/6橙色	白色粒子	良	破片	中世	
第177図25	P11	H19	8区	甕	—	—	—	2.5Y6/1黄灰色	白色粒子	良	破片	中世	
第177図26	P86	H19	8区	甕	—	—	—	2.5Y5/2暗灰黄色	白色粒子	良	破片	中世	
第177図27	P19	H16	3区	甕	—	—	—	N7/0灰白色	白色粒子	良	破片	中世	外面の一部にタタキが残っている
第177図28	P97	H16	1区	甕？	—	—	—	5Y7/1灰白色	白色粒子	良	破片	中世	

図版番号	注記番号	調査年度	出土位置	器形	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	胎土	焼成	残存率	時代	備考
第177図29	試掘	H15	—	甕	—	—	—	2.5GY7/1明オリーブ灰	白・黒色粒子	良	破片	中世	外面に釉薬(鉄釉)が施されている
第177図30	試掘	H15	—	甕	—	—	—	N7/0灰白色	白色粒子	良	破片	中世	外面に釉薬(鉄釉)が施されている
第177図31	P20・P22	H19	7区	甕	—	—	—	7.5YR4/3褐色	白色粒子	良	破片	中世	常滑、外面に釉薬(灰釉・鉄釉)・内面に鉄釉が施されている
第177図32	試掘	H15	—	甕	—	—	—	N5/0灰色	白色粒子	良	破片	中世	常滑、内外面に釉薬(灰釉・鉄釉)が施されている
第177図33	P95	H18	5区	甕	—	—	—	2.5Y5/2暗灰黄色	白色粒子	良	破片	中世	常滑、外面に釉薬(灰釉・鉄釉)・内面に鉄釉が施されている
第177図34	P95	H19	8区	甕	—	—	—	2.5Y5/2暗灰黄色	白色粒子	良	破片	中世	常滑、外面に灰釉・内面に鉄釉が施されている
第177図35	P98	H16	1区	甕	—	—	—	10R4/4赤褐色	白色粒子	良	破片	中世	常滑、押印文あり、外面全体に釉薬(鉄釉)が施されている
第177図36	P365	H16	1区	甕	—	—	—	10R4/4赤褐色	白色粒子	良	破片	中世	常滑、外面に釉薬(灰釉・鉄釉)が施されている
第177図37	P16	H19	7区	甕	—	—	—	10YR5/1褐灰色	白色粒子	良	破片	中世	常滑、外面に鉄釉が施されている
第177図38	P78	H19	8区	甕	—	—	—	2.5y5/2暗灰黄色	白色粒子	良	破片	中世	常滑、外面に鉄釉が施されている
第177図39	P31	H19	7区	甕	—	—	—	2.5Y5/2暗灰黄色	白色粒子	良	破片	中世	常滑、外面に鉄釉が施されている
第177図40	試掘	H15	—	甕	—	—	—	N7/0灰白色	白色粒子	良	破片	中世	常滑、外面に釉薬(鉄釉)が施されている
第178図41	試掘	H15	—	甕	—	—	—	N5/0灰色	白色粒子	良	破片	中世	常滑、外面に釉薬(灰釉・鉄釉)が施されている
第178図42	P19	H19	8区	甕	—	—	13.0	2.5Y5/2暗灰黄色	白色粒子	良	破片	中世	常滑、内外面に鉄釉が施されている
第178図43	P61	H16	1区	甕	—	—	11.6	2.5YR4/3にぶい赤褐色	白色粒子	良	破片	中世	常滑、外面に釉薬(灰釉・鉄釉)が施されている
第178図44	P71	H16	1区	広口壺	—	—	—	5Y7/1灰白色	黒色粒子	良	破片	中世	内面に釉薬(灰釉)が施されている
第178図45	P463	H16	3区	壺	—	—	—	7.5Y6/1灰色	白色粒子	良	破片	中世	外面全体に釉薬(灰釉)が施されている
第178図46	試掘	H15	—	壺	—	—	—	N7/0灰白色	白色粒子	良	破片	中世	外面に釉薬(灰釉)が施されている
第178図47	P18	H16	3区	壺？	—	—	—	5Y6/2灰オリーブ	白色粒子	良	破片	中世	外面の一部にタタキが残り、外面に釉薬(鉄釉)が施されている
第178図48	P461	H16	3区	壺？	—	—	—	N6/0灰色	白色粒子	良	破片	中世	外面にタタキあり
第178図49	試掘	H15	—	片口鉢	34.1	—	—	N6/0灰色	白色粒子	良	破片	中世	口唇部に釉薬(灰釉)が施されている
第178図50	P81・P364	H16	1区	鉢	27.1	—	—	7.5Y7/1灰白色	白色粒子	良	破片	中世	口唇部に釉薬(灰釉)が施されている
第178図51	HP2	H16	2区	鉢	17.0	—	—	5Y8/2灰白色	—	良	破片	中世	内外面に釉薬(透明釉)が施されている
第178図52	試掘	H15	—	鉢	—	—	—	7.5Y7/1灰色	白色粒子	良	破片	中世	
第178図53	P43	H16	1区	鉢	—	—	—	2.5Y8/2灰白色	砂粒	良	破片	中世	
第178図54	P18	H19	7区	鉢	—	—	—	2.5Y6/2灰黄色	白色粒子	良	破片	中世	
第178図55	HP5	H16	2区	擂鉢	—	—	—	2.5Y7/2灰黄色	—	良	破片	中世	
第178図56	HP6	H16	2区	擂鉢	—	—	—	7.5YR6/3にぶい褐色	白色粒子	良	破片	中世	内外面に釉薬(灰釉)が施されている
第178図57	P5	H19	9区	擂鉢	—	—	—	2.5Y5/2暗灰黄色	白色粒子	良	破片	中世	
第178図58	P64	H16	1区	瓶	—	—	—	5Y6/1灰色	白色粒子	良	破片	中世	外面全体に釉薬(灰釉)が施されている
第178図59	P3	H16	1区	瓶	—	—	—	2.5Y7/1灰白色	白色粒子	良	破片	中世	外面全体に釉薬(灰釉)が施されている
第178図60	P15	H16	1区	瓶？	—	—	—	7.5Y7/1灰白色	白色粒子	良	破片	中世	
第179図1	P51	H18	5区	蓋	3.3	—	—	7.5Y8/1灰白色	—	良	破片	近世	
第179図2	P17	H16	3区	碗	10.2	—	—	N7/0灰白色	—	良	破片	近世	
第179図3	P9	H19	9区	碗	—	—	—	2.5Y6/2灰黄色	白色粒子	良	破片	近世	内外面に灰釉が施される
第179図4	2区一括	H16	2区	碗	—	—	—	N5/0灰色	—	良	破片	近世	
第179図5	HP9	H16	2区	碗	—	—	—	N8/0灰白色	—	良	破片	近世	
第179図6	P1	H18	6区	碗	—	—	4.8	N7/0灰白色	黒色粒子	良	破片	近世	
第179図7	一括	H18	—	碗	—	—	3.8	N8/0灰白色	—	良	破片	近世	
第179図8	5区一括	H18	5区	皿	—	—	6.9	2.5Y8/1灰白色	—	良	破片	近世	
第179図9	P33	H18	5区	甕	14.8	—	—	N5/0灰色	白色粒子	良	破片	近世	
第179図10	P3	H19	9区	甕	—	—	—	10YR5/2灰黄褐色	白色粒子	良	破片	近世	外面に鉄釉が施されている
第179図11	P4	H19	9区	甕	—	—	—	10YR5/2灰黄褐色	白色粒子	良	破片	近世	外面に鉄釉が施されている
第179図12	P84	H19	7区	壺	3.6	—	—	5Y8/1灰白色	白色粒子	良	破片	近世	内外面に釉薬(飴釉)が施されている
第179図13	P535	H16	3区	擂鉢	—	—	—	7.5Y8/1灰白色	白色粒子	良	破片	近世	
第179図14	表採	H19	7区	擂鉢	—	—	—	5YR4/6赤褐色	白色粒子	良	破片	近世	
第179図15	P48	H18	5区	植木鉢	—	—	11.0	2.5Y8/2灰白色	白色粒子	良	破片	近世	
第179図16	表採	H16	—	花瓶	—	—	—	N8/0灰白色	—	良	破片	近世	
第179図17	P9	H18	6区	徳利	—	—	—	2.5Y7/1灰白色	—	良	破片	近世	外面に山水文あり
第179図18	P69	H18	5区	碗	—	—	4.8	N8/0灰白色	—	良	破片	近世	
第179図1	P49	H18	5区	皿	—	—	7.0	N8/0灰白色	—	良	破片	近代	
第179図1	P165・P187	H18	5区	甕	—	—	—	7.5YR4/6褐色	雲母・砂粒	良	破片	不明	
第179図2	P185	H18	5区	甕	—	—	—	7.5YR4/4褐色	雲母・砂粒	良	破片	不明	
第179図3	P21	H19	8区	甕	—	—	—	7.5YR6/6橙色	雲母・白色粒子	良	破片	不明	

第13表　石器一覧表

○項目「石材」の括弧中の表記は第Ⅴ章所収の「黒曜石製遺物の原産地推定」の分析結果における「候補1」の産地を記入した。

図版番号	調査区	注記番号	器種	石材	時代	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	備考
第75図13	3区5住	R226	礫器	凝灰岩	縄文早期	75.0	86.8	37.7	265.1	
第75図14	3区5住	R227	礫器	緑色凝灰岩	縄文早期	111.4	74.7	34.2	411.1	
第75図15	3区5住	R229	削器	緑色凝灰岩	縄文早期	102.3	78.4	31.7	265.9	
第75図16	3区5住	一括	打製石斧	結晶片岩	縄文早期	56.8	54.2	17.0	66.2	
第75図17	3区5住	R269	MF	緑色凝灰岩	縄文早期	39.1	43.2	13.5	28.0	
第76図18	3区5住	一括	石核	緑色凝灰岩	縄文早期	39.6	88.8	71.3	266.9	石核分類C-1-1
第76図11	3区44土	R313	磨石	凝灰岩	縄文早期	95.0	98.0	37.0	455.0	
第78図40	3区46土	R298	石核	凝灰岩	縄文早期	75.3	50.3	21.0	71.3	石核分類C-1-1
第78図41	3区46土	R314	稜磨石	花崗岩	縄文早期	116.4	67.8	66.8	768.2	
第78図47	3区52土	一括	削器	凝灰岩	縄文早期	39.0	49.8	18.4	30.3	
第78図49	3区55土	R315	台石	凝灰岩	縄文早期	359.0	100.2	80.0	4120.0	
第78図51	3区73土	R301	台石	緑色凝灰岩	縄文早期	306.8	86.0	98.0	3830.0	
第79図62	3区85土	R294	稜磨石	花崗岩	縄文早期	209.3	83.4	65.7	1403.3	
第79図63	3区85土	R224	稜磨石	凝灰岩	縄文早期	166.8	59.1	68.4	975.6	
第80図75	3区98土	R318	台石	凝灰岩	縄文早期	357.5	267.2	89.0	14600.0	
第80図76	3区98土	R319	台石	閃緑岩	縄文早期	360.9	305.9	87.0	14100.0	
第80図82	3区102土	R327	台石	凝灰岩	縄文早期	311.0	246.4	66.8	7750.0	
第80図83	3区102土	R325	台石	凝灰岩	縄文早期	119.7	152.0	41.3	1248.0	
第81図101	5区67土	S963	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	10.7	17.0	21.4	2.4	石核分類A-2-4
第82図103	5区74土	S980	石錐	凝灰岩	縄文早期	20.3	8.1	5.7	0.8	
第83図121	6区37土	37土一括	礫	凝灰岩	縄文早期	358.0	221.4	34.0	3690.0	
第83図122	6区40土	R286	台石	凝灰岩	縄文早期	420.9	289.0	84.0	13900.0	
第84図2	3区1号集石	R279	石核	凝灰岩	縄文早期	70.2	126.5	102.0	930.4	
第84図3	3区1号集石	R281	礫器	凝灰岩	縄文早期	74.5	109.3	33.5	258.3	
第84図4	3区1号集石	一括	楔	凝灰岩	縄文早期	38.4	30.5	10.1	10.8	
第85図5	3区2号集石	一括	稜磨石	花崗岩	縄文早期	93.0	72.1	52.7	416.9	
第85図7	4区1号集石	1集85	稜磨石	閃緑岩	縄文早期	164.7	79.5	51.5	1100	
第85図8	4区1号集石	T108	磨石	凝灰岩	縄文早期	97.9	89.1	66.0	707.0	
第85図9	4区1号集石	第Ⅲ面礫27	削器	頁岩	縄文早期	68.5	113.5	45.6	252.4	
第86図1	5･6区1号礫集中	礫46	稜磨･磨石	砂岩	縄文早期	90.6	85.1	53.8	509.6	
第86図2	5･6区1号礫集中	礫35	石核	凝灰岩	縄文早期	74.9	108.6	65.6	549.0	石核分類A-2-2
第86図3	5･6区1号礫集中	R51	凹･敲石	凝灰岩	縄文早期	114.0	78.1	75.0	996.0	
第86図4	5･6区1号礫集中	R824	稜磨石	凝灰岩	縄文早期	191.3	74.5	61.8	1268.8	
第87図1	3区1号配石	1配4	稜磨石	凝灰岩	縄文早期	140.6	62.6	75.2	830.3	
第87図1	5区1号焼土集中	R783	稜磨石	花崗岩	縄文早期	129.6	64.7	66.3	781.1	
第88図17	5区石器集中地点	S764	石鏃未成品	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	20.9	15.8	4.4	1.1	
第88図18	5区石器集中地点	S766	石鏃未成品	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	18.7	13.4	4.6	0.7	
第88図19	5区石器集中地点	S763	楔形石器	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	17.2	16.7	7.2	1.9	
第88図20	5区石器集中地点	S656	削器	黒曜石(判別不可)	縄文早期	13.2	30.1	8.0	2.4	
第88図21	5区石器集中地点	S513	削器	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	25.4	25.5	9.5	4.7	
第88図22	5区石器集中地点	R519	削器	凝灰岩	縄文早期	76.6	122.1	38.0	369.8	
第88図23	5区石器集中地点	S518	MF	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	27.4	27.9	14.2	7.6	
第88図24	5区石器集中地点	S611	MF	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	20.2	26.5	7.1	2.1	
第88図25	5区石器集中地点	S637	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	17.7	39.1	11.0	5.1	石核分類A-1-2
第88図26	6区石器集中地点	S630	RF	黒曜石(判別不可)	縄文早期	13.5	15.7	4.4	0.7	
第89図27	5区石器集中地点	S765	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	23.1	22.3	11.0	4.2	石核分類A-1-1
第89図28	5区石器集中地点	S525	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	21.7	24.8	15.5	7.8	石核分類A-3-3
第89図29	5区石器集中地点	S543	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	19.0	35.8	10.8	6.0	石核分類A-1-2
第89図30	5区石器集中地点	S543	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	18.7	13.4	9.4	2.3	石核分類A-2-2
第89図31	5区石器集中地点	S514	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	21.8	33.0	11.6	6.7	石核分類A-2-3
第89図32	5区石器集中地点	S610	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	17.4	15.9	10.3	2.2	石核分類A-2-2
第89図33	5区石器集中地点	S623	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	16.3	31.1	13.1	5.3	石核分類A-2-2
第89図34	5区石器集中地点	S767	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	20.4	23.6	11.0	4.4	石核分類A-1-2
第89図35	5区石器集中地点	S616	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	26.1	40.3	13.5	9.7	石核分類A-2-4
第90図36	5区石器集中地点	S649	石核	黒曜石(判別不可)	縄文早期	12.6	27.1	11.8	3.5	石核分類A-3-3
第90図37	5区石器集中地点	S545	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	19.8	20.3	12.3	4.2	石核分類A-2-3
第90図38	5区石器集中地点	S519	石核	黒曜石(判別不可)	縄文早期	27.6	20.0	13.2	5.9	石核分類A-1-4
第90図39	5区石器集中地点	S523	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	23.8	25.9	14.7	8.1	石核分類A-1-2
第90図40	5区石器集中地点	S541	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	15.9	35.1	12.1	4.0	石核分類A-2-2
第90図41	5区石器集中地点	S542	石核	黒曜石(判別不可)	縄文早期	16.3	31.0	10.8	4.6	石核分類A-1-1
第90図42	5区石器集中地点	S544	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	18.6	31.8	9.5	5.5	石核分類A-1-2
第90図43	5区石器集中地点	S626	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	16.0	39.2	12.4	5.2	石核分類B-2-2
第91図44	5区石器集中地点	S624	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	23.3	22.9	10.3	4.3	石核分類B-3-3
第91図45	5区石器集中地点	S636	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	16.7	21.1	8.8	3.1	石核分類C-2-2
第91図46	5区石器集中地点	S547	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	22.1	31.9	12.5	6.0	石核分類B-2-2
第91図47	5区石器集中地点	S627	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	26.4	17.1	11.2	4.5	石核分類B-2-2
第91図48	5区石器集中地点	S546	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	23.8	28.3	10.5	6.3	石核分類C-1-1
第91図49	5区石器集中地点	S545	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	20.0	21.4	9.2	2.8	石核分類C-1-1
第91図50	5区石器集中地点	S524	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	19.1	29.8	16.9	7.7	石核分類C-1-1
第91図51	5区石器集中地点	S622	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	19.1	25.4	13.8	5.0	石核分類C-1-1
第92図52	5区石器集中地点	S532	削器	頁岩	縄文早期	32.7	35.4	10.4	10.8	
第92図53	5区石器集中地点	S539	削器	頁岩	縄文早期	37.9	24.4	11.2	8.0	
第92図54	5区石器集中地点	S530	削器	頁岩	縄文早期	28.8	30.0	9.5	6.4	

図版番号	調査区	注記番号	器種	石材	時代	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	備考
第92図55	5区石器集中地点	S540	石核	頁岩	縄文早期	35.8	32.4	15.9	19	石核分類A-2-4
第92図56	5区石器集中地点	S537	石核	頁岩	縄文早期	27.9	28.7	13.4	9.5	石核分類A-1-1
第92図57	5区石器集中地点	S552	石核	頁岩	縄文早期	34.4	44.3	13	16.6	石核分類A-2-3
第93図58	5区石器集中地点	S657	石核	頁岩	縄文早期	38.5	32.2	12.5	12.4	石核分類B-2-5
第93図59	5区石器集中地点	S555	剥片	頁岩	縄文早期	43.0	22.0	6.7	4.7	
第93図60	5区石器集中地点	S534	MF	頁岩	縄文早期	49.5	35.6	13.0	24.4	
第93図61	5区石器集中地点	S535	剥片	頁岩	縄文早期	39.5	20.8	9.3	6.1	
第93図62	5区石器集中地点	S612	剥片	頁岩	縄文早期	33.8	37.1	9.6	7.1	
第93図63	5区石器集中地点	S613	剥片	頁岩	縄文早期	24.1	27.2	9.7	6.0	
第93図64	5区石器集中地点	S533	剥片	頁岩	縄文早期	33.6	28.2	7.9	6.1	
第93図65	5区石器集中地点	S548	剥片	頁岩	縄文早期	27.3	24.9	3.0	1.5	
第94図66	5区石器集中地点	S553	剥片	頁岩	縄文早期	18	24.2	7.5	3.0	
第94図67	5区石器集中地点	S536	剥片	凝灰岩	縄文早期	16.2	35.3	5.3	2.1	
第94図68	5区石器集中地点	S554	剥片	頁岩	縄文早期	18.5	26.7	9.2	3.2	
第94図69	5区石器集中地点	S538	剥片	頁岩	縄文早期	32.2	19.4	10.6	5.7	
第94図70	5区石器集中地点	S531	剥片	頁岩	縄文早期	27.1	49.2	12.4	17.2	
第94図71	5区石器集中地点	R600	削器	流紋岩	縄文早期	57.5	92.2	28.3	141.0	
第94図72	5区石器集中地点	R605	稜磨石	凝灰岩	縄文早期	78.4	70.2	49.2	363.5	
第94図73	5区石器集中地点	R599	磨石	花崗岩	縄文早期	125.5	76.2	48.3	786.6	
第94図74	5区石器集中地点	R604	磨・凹石	閃緑岩	縄文早期	127.4	83.3	34.7	517.0	
第95図75	5区石器集中地点	R777	磨石	花崗岩	縄文早期	127.1	93.8	44.6	664.4	
第95図76	5区石器集中地点	R721	台石	凝灰岩	縄文早期	217.6	222.5	87.9	6060.0	
第122図1	3区	S94	石鏃	安山岩	縄文早期	31.6	21.3	5.2	2.2	
第122図2	5区	S25	石鏃	緑色凝灰岩	縄文早期	25.7	14.9	4.4	1.0	
第122図3	6区	S26	石鏃	黒曜石(恩馳島系)	縄文早期	29.7	17.7	6.0	2.0	
第122図4	3区	S65	石鏃	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	15.8	19.2	3.6	0.6	
第122図5	4区	S41	石鏃	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	21.8	14.1	4.6	0.9	
第122図6	5区	S973	石鏃	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	24.2	15.1	3.8	0.8	
第122図7	5区	S803	石鏃	黒曜石(判別不可)	縄文早期	16.8	16.6	6.0	1.1	
第122図8	5区	S19	石鏃	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	17.9	15.3	4.7	0.8	
第122図9	6区	R29	石鏃	黒曜石	縄文早期	21.1	15.3	3.9	1.0	
第122図10	5区	S787	石鏃	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	18.8	14.6	3.7	0.5	
第122図11	5区	S967	石鏃	緑色凝灰岩	縄文早期	19.3	13.0	4.5	0.7	
第122図12	5区	S608	石鏃	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	16.8	13.8	2.9	0.5	
第122図13	5区	S910	石鏃	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	15.6	12.8	3.7	0.5	
第122図14	3区	S1	石鏃	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	18.6	14.2	4.4	0.8	
第122図15	5区	S790	石鏃	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	17.3	14.00	2.9	0.5	
第122図16	6区	S11	石鏃	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	18.8	13.2	3.6	0.5	
第122図17	5区	S901	石鏃	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	19.6	12.4	3.5	0.5	
第122図18	5区	S14	石鏃	凝灰岩	縄文早期	17.3	13.2	3.9	0.5	
第122図19	5区	S685	石鏃	黒曜石(判別不可)	縄文早期	15.8	12.3	3.5	0.4	
第122図20	3区	S51	石鏃	黒曜石(恩馳島系)	縄文早期	15.2	12.6	4.3	0.6	
第122図21	5区	S728	石鏃	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	15.3	13.0	3.0	0.4	
第122図22	5区	S808	石鏃	黒曜石(判別不可)	縄文早期	16.1	9.4	3.7	0.5	
第122図23	5区	S601	石鏃	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	15.9	12.0	3.7	0.5	
第122図24	11区	S14	石鏃	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	18.4	14.3	3.3	0.6	
第122図25	11区	S9	石鏃	黒曜石(恩馳島系)	縄文早期	18.6	13.4	4.0	0.7	
第123図26	5区	S949	石鏃	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	14.5	12.4	3.9	0.4	
第123図27	5区	S644	石鏃	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	10.2	13.0	2.9	0.3	
第123図28	5区	S701	石鏃	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	13.8	11.6	3.1	0.4	
第123図29	5区	S887	石鏃	黒曜石(判別不可)	縄文早期	11.5	12.1	2.8	0.2	
第123図30	4区	D-6G一括	石鏃	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	11.0	10.8	2.9	0.3	
第123図31	5区	S852	石鏃	黒曜石(判別不可)	縄文早期	14.8	9.0	3.9	0.5	
第123図32	6区	S29	石鏃	黒曜石(判別不可)	縄文早期	12.6	9.8	3.2	0.3	
第123図33	5区	S一括②	石鏃	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	8.1	11.5	2.9	0.3	
第123図34	11区	S21	石鏃	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	9.5	11.1	2.7	0.2	
第123図35	5区	S944	石鏃	黒曜石(判別不可)	縄文早期	10.1	11.6	3.3	0.3	
第123図36	5区	S一括③	石鏃	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	8.3	7.3	2.7	0.2	
第123図37	5区	S592	石鏃	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	10.5	7.5	3.7	0.2	
第123図38	5区	Q-11G一括	石鏃	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	10.0	7.9	2.8	0.1	
第123図39	5区	S一括④	石鏃	黒曜石(判別不可)	縄文早期	7.3	8.5	2.3	0.1	
第123図40	3区	S50	石鏃未成品	緑色凝灰岩	縄文早期	35.1	21.0	5.4	3.9	
第123図41	3区	S35	石鏃未成品	緑色凝灰岩	縄文早期	30.3	17.7	6.2	2.3	
第123図42	3区	S63	石鏃未成品	緑色凝灰岩	縄文早期	25.4	15.2	5.9	1.6	
第123図43	4区	S48	石鏃未成品	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	20.5	12.9	4.4	0.9	
第123図44	3区	S66	石鏃未成品	緑色凝灰岩	縄文早期	18.7	21.6	3.6	1.1	
第123図45	5区	S899	石鏃未成品	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	21.2	22.8	9.0	2.9	
第123図46	5区	S759	石鏃未成品	黒曜石(判別不可)	縄文早期	17.9	13.3	4.6	0.7	
第123図47	5区	S18	石鏃未成品	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	21.3	16.1	6.5	1.5	
第123図48	6区	S18	石鏃未製品	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	15.1	13.6	4.5	0.8	
第124図49	5区	S874	石鏃未成品	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	15.0	11.4	5.4	0.6	
第124図50	5区	S604	石鏃未成品	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	16.3	11.2	5.5	0.8	
第124図51	3区	S102	石鏃未成品	黒曜石(判別不可)	縄文早期	14.9	13.5	4.9	0.7	
第124図52	5区	S573	石鏃未成品	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	20.1	15.5	7.2	2.0	
第124図53	5区	S801	石鏃未成品	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	17.9	18.4	6.6	1.3	
第124図54	5区	S817	石鏃未成品	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	20.0	15.5	5.5	1.0	

図版番号	調査区	注記番号	器種	石材	時代	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	備考
第124図55	3区	S7	石鏃未成品	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	16.3	18.3	5.2	0.8	
第124図56	5区	S一括①	石鏃未成品	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	23.0	13.9	4.5	0.7	
第124図57	5区	S37	石錐	黒曜石	縄文早期	21.6	7.0	5.1	0.7	
第124図58	5区	S641	石錐	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	25.5	13.0	7.9	1.9	
第124図59	3区	S72	石錐	黒曜石(恩馳島系)	縄文早期	26.4	14.7	5.7	1.4	
第124図60	5区	S780	石錐	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	27.7	9.0	8.6	1.5	
第124図61	5区	S935	石錐	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	25.6	7.4	7.0	1.0	
第124図62	4区	S35	石錐	黒曜石(判別不可)	縄文早期	25.0	10.3	7.2	1.5	
第124図63	5区	S812	石錐	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	17.2	8.1	5.0	0.5	
第124図64	5区	S599	石錐	黒曜石(判別不可)	縄文早期	14.3	6.9	6.7	0.5	
第124図65	6区	S一括	石錐	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	16.5	7.0	2.8	0.3	
第125図66	6区	S23	石匙	黒曜石(恩馳島系)	縄文早期	40.0	61.5	13.5	21.6	
第125図67	4区	S38	石匙	黒曜石(恩馳島系)	縄文早期	25.8	33.3	7.4	4.9	
第125図68	4区	S28	石匙	黒曜石(恩馳島系)	縄文早期	50.6	21.8	9.4	10.0	
第125図69	5区	R613	楔形石器	凝灰岩	縄文早期	57.6	30.4	16.1	28.2	
第125図70	3区	O-12G一括	楔形石器	凝灰岩	縄文早期	42.5	30.6	12.3	11.1	
第125図71	4区	S18	楔形石器	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	18.9	9.2	4.1	0.6	
第125図72	5区	S819	楔形石器	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	19.7	9.1	5.8	1.1	
第125図73	6区	R3	楔形石器	凝灰岩	縄文早期	45.2	29.0	7.9	11.6	
第126図74	4区	S42	楔形石器	黒曜石(恩馳島系)	縄文早期	32.7	9.9	9.1	2.6	
第126図75	3区	S80	楔形石器	緑色凝灰岩	縄文早期	25.3	13.3	5.5	1.9	
第126図76	3区	S20	楔形石器	水晶	縄文早期	16.5	7.8	9.4	1.5	
第126図77	5区	S27	楔形石器	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	23.2	15.4	9.4	2.6	
第126図78	5区	S731	楔形石器	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	19.3	12.2	11.3	2.1	
第126図79	3区	S100	楔形石器	水晶	縄文早期	18.9	7.3	4.4	0.7	
第126図80	3区	O-12G一括	楔形石器	凝灰岩	縄文早期	20.7	17.6	9.8	2.8	
第126図81	3区	一括	楔形石器	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	17.0	9.9	7.6	0.1	
第126図82	5区	S916	楔形石器	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	15.0	11.6	7.4	1.2	
第126図83	5区	S833	楔形石器	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	15.9	9.1	4.9	0.6	
第126図84	6区	S5	楔形石器	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	11.4	11.2	2.4	0.2	
第126図85	3区	N-12G一括	楔形石器	安山岩	縄文早期	24.9	26.1	7.6	4.9	
第126図86	5区	S638	楔形石器	頁岩	縄文早期	25.9	36.3	13.1	10.8	
第126図87	5区	R22	楔形石器	緑色凝灰岩	縄文早期	23.3	33.0	11.1	6.6	
第127図88	3区	S32	削器	鉄石英	縄文早期	60.7	21.5	11.8	12.6	
第127図89	11区	S32	削器	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	43.5	22.3	6.0	6.5	
第127図90	4区	S46	削器	チャート	縄文早期	17.5	22.3	8.6	4.1	
第127図91	11区	R10	削器	凝灰岩	縄文早期	28.4	30.8	20.3	14.3	
第127図92	5区	S883	削器	黒曜石(恩馳島系)	縄文早期	19.4	20.6	6.2	1.9	
第127図93	5区	S882	削器	黒曜石(判別不可)	縄文早期	18.6	42.5	8.4	6.7	
第127図94	5区	S798	削器	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	12.8	24.2	9.5	2.1	
第127図95	11区	S25	削器	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	12.9	23.5	10.3	1.6	
第127図96	5区	S971	削器	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	10.8	23.0	6.1	0.9	
第127図97	5区	S917	削器	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	7.1	19.9	8.5	1.2	
第127図98	6区	R38	削器	緑色凝灰岩	縄文早期	33.2	55.9	10.2	18.2	
第127図99	5区	S744	削器	緑色凝灰岩	縄文早期	20.4	39.6	14.3	8.9	
第128図100	5区	R9	削器	緑色凝灰岩	縄文早期	30.3	53.2	14.8	13.3	
第128図101	5区	R806	削器	緑色凝灰岩	縄文早期	53.9	68.2	22.4	51.4	
第128図102	4区	R3	削器	チャート	縄文早期	52.8	64.3	13.9	48.4	
第128図103	5区	S898	削器	緑色凝灰岩	縄文早期	35.0	56.3	11.9	19.4	
第128図104	3区	一括	削器	頁岩	縄文早期	81.4	48.6	14.8	61.6	
第128図105	5区	R29	削器	凝灰岩	縄文早期	23.3	33.3	7.5	3.6	
第128図106	5区	R-891	削器	緑色凝灰岩	縄文早期	45.6	70	24.4	50.7	
第128図107	6区	R36	削器	緑色凝灰岩	縄文早期	55.4	67.5	18.9	49.3	
第128図108	3区	R75	削器	凝灰岩	縄文早期	53.4	49.9	22.9	41.5	
第128図109	5区	R622	削器	凝灰岩	縄文早期	50.0	52.2	19.1	43.9	
第129図110	5区	R737	削器	凝灰岩	縄文早期	54.8	44.5	15.6	37.4	
第129図111	5区	R692	削器	凝灰岩	縄文早期	50.7	32.1	19.1	20.8	
第129図112	5区	R648	削器	凝灰岩	縄文早期	121.8	85.3	46.4	356.4	
第129図113	3区	R215	削器	頁岩	縄文早期	89.4	52.5	21.7	93.3	
第129図114	3区	R232	削器	緑色凝灰岩	縄文早期	116.3	92.2	47.9	441.8	
第129図115	4区	S36	削器	凝灰岩	縄文早期	82.9	63.3	20.3	106.4	
第129図116	6区	R20	削器	頁岩	縄文早期	94.1	77.5	30.2	239.1	
第129図117	5区	R657	削器	緑色凝灰岩	縄文早期	74.8	52	27.6	74.7	
第130図118	5区	R677	削器	凝灰岩	縄文早期	67.5	97.4	47.5	307.9	
第130図119	3区	R316	削器	ホルンフェルス	縄文早期	56.4	127.2	35.9	264.6	
第130図120	5区	S570	削器	緑色凝灰岩	縄文早期	37.1	67.8	36.2	57.7	
第130図121	3区	R39	削器	結晶片岩	縄文早期	91.9	80.0	43.5	309.5	
第130図122	5区	R878	削器	緑色凝灰岩	縄文早期	59.7	80.8	32.1	117.1	
第130図123	5区	S750	削器	頁岩	縄文早期	56.2	70.1	32.0	95.9	
第130図124	5区	R809	削器	緑色凝灰岩	縄文早期	67.1	47.1	27.6	48.6	
第130図125	5区	R826	削器	凝灰岩	縄文早期	60.3	76.2	33.4	154.9	
第130図126	4区	R6	削器	凝灰岩	縄文早期	78.1	85.5	37.2	190.2	
第131図127	5区	R26	掻器	凝灰岩	縄文早期	32.4	50.8	11.8	11.2	
第131図128	5区	S722	掻器	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	31.6	13.6	12.0	3.8	
第131図129	11区	S13	掻器	頁岩	縄文早期	30.6	20.3	6.4	3.5	
第131図130	11区	S19	掻器	黒曜石(恩馳島系)	縄文早期	23.6	18.2	12.6	4.4	

図版番号	調査区	注記番号	器種	石材	時代	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	備考
第131図131	3区	S2	掻器	黒曜石(恩馳島系)	縄文早期	22.9	13.6	4.2	1.1	
第131図132	5区	R863	掻器	凝灰岩	縄文早期	96.5	82.7	50.5	421.1	
第131図133	6区	R21	掻器	凝灰岩	縄文早期	102.9	66.6	28.9	205.7	
第131図134	5区	R698	掻器	緑色凝灰岩	縄文早期	114.2	66.0	61.7	540.8	
第131図135	5区	R518	掻器	凝灰岩	縄文早期	118.4	54.1	40.8	330.7	
第132図136	3区	R28	掻器	凝灰岩	縄文早期	114.7	45.4	69.7	367.1	
第132図137	5区	R503	掻器	凝灰岩	縄文早期	127.6	45.0	49.1	392.4	
第132図138	3区	R169	掻器	緑色凝灰岩	縄文早期	116.4	59.8	38.1	219.1	
第132図139	5区	R730	掻器	砂岩	縄文早期	91.7	69.7	35.6	195.6	
第132図140	3区	N-13G一括	掻器	砂岩	縄文早期	65.7	36.1	20.3	53.3	
第132図141	3区	S38	掻器	安山岩	縄文早期	58.3	39.4	11.9	30.2	
第133図142	5区	R846	礫器	凝灰岩	縄文早期	113.4	191.9	62.1	1421.1	
第133図143	3区	R207	礫器	凝灰岩	縄文早期	96.4	100.9	50.5	657.2	
第133図144	3区	R179	礫器	緑色凝灰岩	縄文早期	116.1	101.7	59.5	848.5	
第133図145	5区	R743	礫器	斑糲岩	縄文早期	154	144.4	71.3	1269.7	
第134図146	5区	R506	礫器	礫岩	縄文早期	122.8	144.3	54.4	972.1	
第134図147	5区	R617	礫器	花崗岩	縄文早期	72.5	71.2	49.5	287.4	
第134図148	5区	R508	礫器	緑色凝灰岩	縄文早期	84.6	122.2	44.1	443.3	
第134図149	6区	R13	礫器	砂岩	縄文早期	81.7	116.5	45.3	453.2	
第134図150	5区	R581	礫器	砂岩	縄文早期	150.2	124.5	65.2	1210.7	
第135図151	3区	R156	礫器	緑色凝灰岩	縄文早期	141.7	94.0	48.1	1019.3	
第135図152	3区	R175	礫器	砂岩	縄文早期	91.3	62.2	40.2	236.5	
第135図153	3区	R163	礫器	凝灰岩	縄文早期	99.1	110.5	51.2	687.7	
第135図154	3区	R178	礫器	凝灰岩	縄文早期	71.2	70.4	29.9	140.8	
第135図155	6区	R48	礫器	緑色凝灰岩	縄文早期	88	82.9	49.6	262.8	
第135図156	4区	S3	礫器	凝灰岩	縄文早期	96.2	78.5	21.8	197.4	
第135図157	5区	R930	打製石斧	ホルンフェルス	縄文早期	251.5	121.8	48.9	1870	
第136図158	3区	R129	MF	緑色凝灰岩	縄文早期	57.2	33.7	13.9	22.0	
第136図159	6区	R24	MF	頁岩	縄文早期	65.3	22.9	7.1	8.4	
第136図160	5区	R10	MF	凝灰岩	縄文早期	62.4	22.9	8.6	9.2	
第136図161	3区	S69	MF	黒曜石(恩馳島系)	縄文早期	39.2	21.6	10.9	5.1	
第136図162	5区	S914	MF	黒曜石(判別不可)	縄文早期	36.9	8.4	8.4	1.8	
第136図163	5区	S693	MF	凝灰岩	縄文早期	36.5	19.8	7.2	4.3	
第136図164	5区	S757	MF	凝灰岩	縄文早期	44.3	19.1	7.9	5.9	
第136図165	6区	一括	MF	黒曜石(恩馳島系)	縄文早期	30.3	13.8	7.9	2.5	
第136図166	6区	S3	MF	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	22.7	17.0	6.5	1.9	
第136図167	6区	S17	MF	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	26.4	16.8	3.7	1.1	
第137図168	4区	S20	MF	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	32.7	19.2	4.9	2.2	
第137図169	3区	S10	MF	黒曜石(恩馳島系)	縄文早期	32.6	16.0	13.3	4.3	
第137図170	3区	一括	MF	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	33.0	16.5	7.4	2.9	
第137図171	3区	S103	MF	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	22.0	14.6	6.1	1.2	
第137図172	3区	S8	MF	黒曜石(恩馳島系)	縄文早期	19.4	9.9	3.3	0.5	
第137図173	5区	S864	MF	黒曜石(判別不可)	縄文早期	20.0	18.3	8.0	2.4	
第137図174	5区	R24	MF	凝灰岩	縄文早期	38.8	35.9	17.1	18.7	
第137図175	5区	S948	MF	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	20.5	20.3	7.8	2.1	
第137図176	6区	S6	MF	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	18.7	17.3	8.1	1.7	
第137図177	5区	R894	MF	凝灰岩	縄文早期	17.9	45.9	8.1	3.9	
第137図178	6区	S10	MF	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	15.9	17.9	4.0	0.7	
第137図179	6区	S24	MF	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	13.1	27.0	9.3	2.7	
第137図180	5区	S778	MF	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	11.0	23.9	4.7	1.1	
第138図181	5区	2トレンチ一括	MF	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	19.9	25.6	5.4	1.2	
第138図182	5区	S17	MF	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	13.2	13.7	3.8	0.7	
第138図183	5区	S953	MF	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	11.2	16.5	5.3	0.7	
第138図184	4区	S31	MF	黒曜石(和田峠系Ⅰ)	縄文早期	10.7	17.9	4.3	0.5	
第138図185	5区	S41	MF	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	11.7	17.4	7.5	1.4	
第138図186	5区	R873	MF	凝灰岩	縄文早期	87.1	135.7	49.3	589.4	
第138図187	5区	R822	MF	砂岩	縄文早期	157	53.4	36.9	275.9	
第138図188	6区	R27	MF	凝灰岩	縄文早期	90.6	121.8	45.3	408.5	
第138図189	6区	表土剥ぎ一括	研磨面を有するMF	頁岩	縄文早期	50.2	86.7	37.0	162.8	
第138図190	4区	S14	MF	凝灰岩	縄文早期	71.2	81.2	36.4	168.3	
第138図191	3区	O-11G一括	MF	凝灰岩	縄文早期	87.1	71	35.0	145.4	
第139図192	3区	R40	MF	凝灰岩	縄文早期	72.1	68.1	30.8	149.2	
第139図193	5区	R915	MF	凝灰岩	縄文早期	73.7	69.4	39.0	147.1	
第139図194	6区	R44	MF	凝灰岩	縄文早期	65.1	54.5	18.1	61	
第139図195	6区	表土剥ぎ一括	MF	凝灰岩	縄文早期	68.7	62.5	19.7	90.2	
第139図196	5区	R691	MF	緑色凝灰岩	縄文早期	53.5	53.1	14.0	32.8	
第139図197	5区	R895	MF	緑色凝灰岩	縄文早期	47.7	65.0	21.8	54.7	
第139図198	4区	S51	MF	凝灰岩	縄文早期	35.4	44.7	26.9	24.9	
第139図199	3区	S99	RF	水晶	縄文早期	22.7	17.0	6.5	2.2	
第139図200	3区	S5	RF	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	23.4	14.2	9.2	2.6	
第139図201	6区	R41	RF	緑色凝灰岩	縄文早期	20.8	16.3	3.5	0.9	
第139図202	4区	一括	RF	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	17.8	27.3	11.3	3.1	
第139図203	3区	S92	RF	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	13.5	16.3	7.3	1.0	
第139図204	5区	S866	RF	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	12.6	10.4	5.2	0.4	
第139図205	3区	S70	RF	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	11.7	8.5	3.5	0.2	

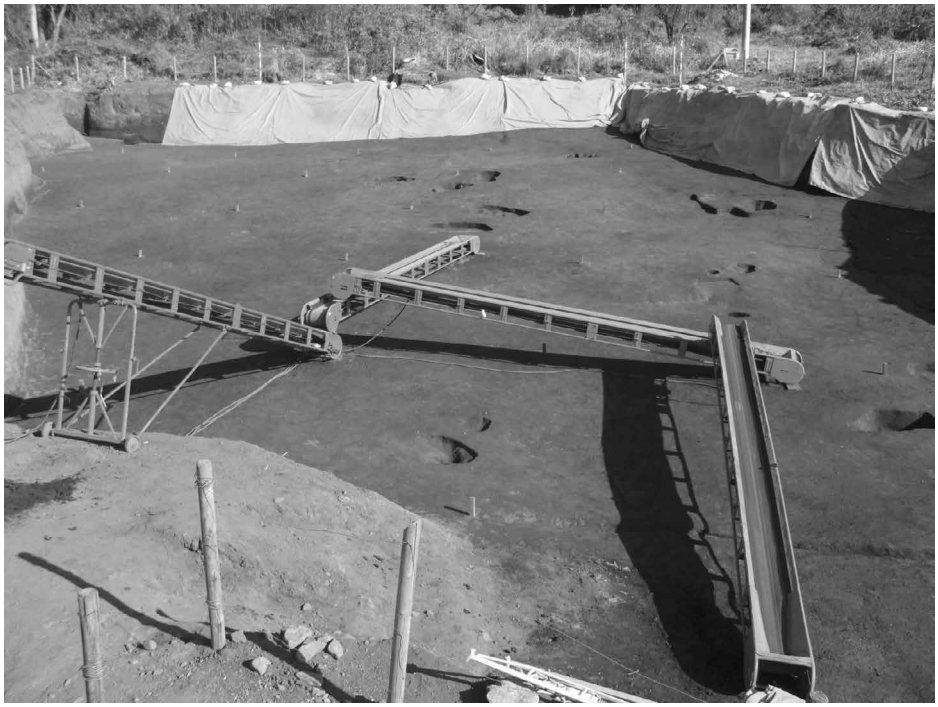
図版番号	調査区	注記番号	器種	石材	時代	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	備考
第139図206	5区	S968	RF	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	15.7	40.8	9.5	5.0	
第139図207	4区	S37	RF	黒曜石(判別不可)	縄文早期	12.8	15.3	4.1	0.4	
第140図208	3区	R87	MF	砂岩	縄文早期	50.7	76.6	14.5	65.8	
第140図209	3区	R8	RF	緑色凝灰岩	縄文早期	43.4	53.8	11.8	28.2	
第140図210	3区	一括	RF	緑色凝灰岩	縄文早期	45.7	41.2	8.1	11.2	
第140図211	2区	S62	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	26.1	39.2	12.5	9.2	石核分類A-1-1
第140図212	5区	S720	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	28.0	13.6	11.4	4.5	石核分類A-1-1
第140図213	5区	S561	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	21.9	14.0	12.0	3.0	石核分類A-1-1
第140図214	3区	R67	石核	緑色凝灰岩	縄文早期	35.8	26.9	12.3	9.6	石核分類A-1-1
第140図215	5区	S738	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	26.9	16.7	9.6	4.0	石核分類A-1-1
第140図216	3区	S34	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	14.2	23.4	10.3	2.7	石核分類A-1-1
第140図217	5区	S871	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	17.2	18.4	10.0	2.6	石核分類A-1-1
第140図218	5区	S743	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	14.4	16.2	7.7	1.6	石核分類A-1-1
第141図219	5区	S877	石核	頁岩	縄文早期	13.4	24.1	9.0	2.3	石核分類A-1-1
第141図220	4区	S39	石核	黒曜石(判別不可)	縄文早期	19.0	15.0	6.1	1.8	石核分類A-1-1
第141図221	4区	S50	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	23.4	18.9	13.9	5.0	石核分類A-1-2
第141図222	5区	S784	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	11.4	20.3	8.5	1.4	石核分類A-1-1
第141図223	11区	S2	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	24.2	22.0	12.6	4.4	石核分類A-1-2
第141図224	5区	S704	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	21.1	22.1	15.0	4.7	石核分類A-2-2
第141図225	3区	S93	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	15.2	16.5	6.0	1.2	石核分類A-1-2
第141図226	5区	S587	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	17.3	27.4	10.0	4.0	石核分類A-2-2
第141図227	3区	S29	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	14.9	17.8	7.5	1.7	石核分類A-2-2
第141図228	5区	S856	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	14.9	29.9	10.7	2.7	石核分類A-2-2
第141図229	3区	S88	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	21.3	14.2	7.7	1.8	石核分類A-2-2
第142図230	3区	S4	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	13.1	20.5	12.8	2.6	石核分類A-2-2
第142図231	3区	S64	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	18.9	21.1	10.7	2.9	石核分類A-2-2
第142図232	3区	R256	石核	緑色凝灰岩	縄文早期	32.9	29.0	15.3	12.8	石核分類A-2-3
第142図233	5区	S20	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	15.5	18.5	10.0	2.1	石核分類A-2-3
第142図234	5区	S961	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	23.3	21.1	12.7	4.7	石核分類A-2-3
第142図235	5区	S841	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	25.7	17.7	7.5	3.2	石核分類A-2-5
第142図236	6区	S21	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	17.9	20.0	10.0	2.5	石核分類A-3-5
第142図237	3区	R134	石核	凝灰岩	縄文早期	42.7	62.4	24.2	60.4	石核分類A-2-4
第142図238	3区	O-12G一括	石核	緑色凝灰岩	縄文早期	41.6	45.2	11.9	19.5	石核分類A-2-2
第143図239	3区	R92	石核	凝灰岩	縄文早期	35.3	54.4	72.6	123.0	石核分類A-1-1
第143図240	5区	R-850	石核	凝灰岩	縄文早期	50.8	52.3	27.9	66.2	石核分類A-1-2
第143図241	5区	R23	石核	凝灰岩	縄文早期	82.4	86.5	42.1	307.9	石核分類A-1-2
第143図242	5区	R504	石核	頁岩	縄文早期	76.3	80.1	60.4	464.3	石核分類A-1-2
第143図243	11区	R-19	石核	凝灰岩	縄文早期	102.8	121.2	97.5	1478.3	石核分類A-2-2
第144図244	5区	R553	石核	凝灰岩	縄文早期	88.2	80.6	43.7	363.2	石核分類A-2-3
第144図245	5区	S782	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	17.9	28.5	13.8	5.7	石核分類B-2-2
第144図246	5区	S875	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	12.4	14.8	8.5	1.2	石核分類B-2-2
第144図247	5区	S886	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	27.4	19.8	15.0	5.6	石核分類B-2-2
第144図248	5区	S810	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	10.9	19.8	10.7	1.8	石核分類B-2-2
第144図249	11区	S27	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	15.5	24.5	8.9	3.7	石核分類B-2-2
第144図250	5区	S779	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	20.5	20.3	9.5	2.6	石核分類B-2-2
第144図251	5区	S658	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	20.6	25.4	7.9	4.2	石核分類B-2-2
第144図252	5区	S954	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	21.8	14.2	11.0	2.5	石核分類B-2-2
第144図253	5区	S893	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	15.3	18.2	9.9	2.3	石核分類B-2-2
第145図254	5区	S639	石核	頁岩	縄文早期	25.6	29.5	11.7	7.3	石核分類B-2-3
第145図255	5区	S645	石核	黒曜石(判別不可)	縄文早期	20.3	22.4	9.9	2.6	石核分類B-2-3
第145図256	5区	S908	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	11.4	18.6	10.6	1.6	石核分類B-2-3
第145図257	5区	S946	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	13.2	13.6	10.1	1.7	石核分類B-2-3
第145図258	3区	S31	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	24.3	28.0	21.0	10.2	石核分類B-2-4
第145図259	3区	R191	石核	緑色凝灰岩	縄文早期	37.9	45.4	19.8	28.1	石核分類B-2-5
第146図260	3区	S87	石核	黒曜石(恩馳島系)	縄文早期	38.3	22.4	11.8	6.2	石核分類B-2-6
第146図261	6区	S4	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	26.2	13.0	13.3	5.2	石核分類B-3-3
第146図262	5区	S588	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	19.8	12.2	10.3	2.5	石核分類B-3-4
第146図263	3区	S28	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	28.7	16.7	12.8	3.7	石核分類B-3-5
第146図264	3区	R261	石核	緑色凝灰岩	縄文早期	15.2	24.7	10.0	2.5	石核分類B-4-4
第146図265	5区	S823	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	16.3	10.9	11.5	1.8	石核分類B-4-4
第146図266	4区	S17	石核	黒曜石(恩馳島系)	縄文早期	20.0	24.5	14.9	6..1	石核分類B-4-4
第146図267	3区	S71	石核	緑色凝灰岩	縄文早期	35.1	54.4	25.9	44.5	石核分類B-2-2
第147図268	5区	R705	石核	緑色凝灰岩	縄文早期	60.6	63.2	41.4	166.2	石核分類B-3-3
第147図269	5区	R715	石核	頁岩	縄文早期	27.1	30.8	44.7	29.3	石核分類B-4-4
第147図270	5区	R610	石核	凝灰岩	縄文早期	42.4	38.8	24.0	31.9	石核分類B-4-4
第147図271	3区	R253	石核	凝灰岩	縄文早期	36.4	49.3	24.5	36.1	石核分類B-4-6
第147図272	3区	K-7G一括	石核	凝灰岩	縄文早期	37.3	71.4	77.7	198.7	石核分類B-2-2
第147図273	5区	R821	石核	頁岩	縄文早期	74.3	124.8	49.9	671.8	石核分類B-2-2
第148図274	5区	S723	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	20.7	26.3	10.7	4.0	石核分類C-1-1
第148図275	5区	S860	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	26.8	16.8	11.5	4.5	石核分類C-1-1
第148図276	5区	S828	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	28.7	18.6	13.4	5.2	石核分類C-1-1
第148図277	5区	S813	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	21.4	22	9.7	3.4	石核分類C-1-1
第148図278	5区	S526	石核	黒曜石(判別不可)	縄文早期	16.8	18.9	16.2	4.0	石核分類C-1-1
第148図279	3区	S18	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	20.1	21.5	9.6	2.3	石核分類C-1-1
第148図280	5区	S890	石核	黒曜石(判別不可)	縄文早期	15.7	20.6	12.2	2.7	石核分類C-1-1
第148図281	5区	S834	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	16.9	15.8	5.4	0.9	石核分類C-1-1

図版番号	調査区	注記番号	器種	石材	時代	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	備考
第148図282	5区	S957	石核	黒曜石(判別不可)	縄文早期	21.9	21.7	9.6	3.9	石核分類C-1-1
第148図283	11区	S22	石核	黒曜石(恩馳島系)	縄文早期	13.5	18.5	9.5	1.3	石核分類C-1-1
第149図284	5区	S725	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	25.8	23.5	12.6	4.6	石核分類C-1-2
第149図285	5区	S928	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	18.6	17.3	10.0	2.8	石核分類C-2-2
第149図286	5区	S33	石核	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	13.8	17.2	6.3	1.1	石核分類C-1-2
第149図287	6区	R47	石核	凝灰岩	縄文早期	36.8	42.7	26.6	28.8	石核分類C-1-2
第149図288	5区	R591	石核	頁岩	縄文早期	58.7	47.6	53.7	119.8	石核分類C-2-2
第149図289	5区	R770	石核	凝灰岩	縄文早期	37.6	64.3	56.8	157.7	石核分類C-1-1
第149図290	3区	R3	石核	凝灰岩	縄文早期	47.4	91.1	83.9	327.6	石核分類C-1-1
第150図291	5区	R663	石核	緑色凝灰岩	縄文早期	79.8	96.8	64.6	482.9	石核分類C-1-1
第150図292	5区	R536	石核	凝灰岩	縄文早期	111.6	90.4	72.7	687.9	石核分類C-1-1
第150図293	11区	R2	石核	凝灰岩	縄文早期	73.6	83.7	50.1	268.1	石核分類C-1-1
第150図294	5区	R542	石核	凝灰岩	縄文早期	156.0	109.9	54.0	1461.6	石核分類C-1-1
第151図295	5区	R555	石核	凝灰岩	縄文早期	46.0	77.2	84.6	295	石核分類C-1-2
第151図296	5区	R620	石核	緑色凝灰岩	縄文早期	39.2	71.3	83.3	325.3	石核分類C-2-2
第151図297	3区	S47	剥片	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	20.2	27.4	8.4	2.7	
第151図298	4区	S15	剥片	黒曜石(和田峠系Ⅰ)	縄文早期	12.8	17.3	8.9	1.4	
第151図299	4区	S26	剥片	黒曜石(和田・鷹山系)	縄文早期	23.9	14.7	4.5	1.1	
第151図300	4区	S26	剥片	黒曜石(和田・鷹山系)	縄文早期	15.2	12.4	4.7	0.5	
第151図301	2区	S56	剥片	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	15.2	5.2	5.4	0.3	
第151図302	3区	R59	剥片	凝灰岩	縄文早期	62.2	76.9	36.2	133.7	
第152図303	5区	R929	剥片	凝灰岩	縄文早期	179.7	103.3	51.5	753.1	
第152図304	5区	R835	剥片	凝灰岩	縄文早期	58.5	51.7	25.7	63.5	
第152図305	5区	R839	稜磨石	花崗岩	縄文早期	135.9	85.1	69.5	1024.9	
第152図306	5区	R582・588	稜磨石	凝灰岩	縄文早期	136.7	42.1	54.9	434.4	
第152図307	5区	R802	稜磨石	花崗岩	縄文早期	138.6	84.8	53.4	922.9	
第152図308	3区	R317	稜磨・敲石	凝灰岩	縄文早期	121.0	54.0	35.6	360.6	
第152図309	6区	R49	稜磨石	花崗岩	縄文早期	87.7	97.4	43.7	529	
第152図310	5区	R559	稜磨石	花崗岩	縄文早期	50.1	75.5	36.6	208.2	
第153図311	5区	R586	稜磨石	凝灰岩	縄文早期	149.2	97.7	61.5	1629.5	
第153図312	5区	R512	稜磨石	花崗岩	縄文早期	94.1	64.2	72.4	558.7	
第153図313	5区	R538	磨石	砂岩	縄文早期	91.1	94.2	42.2	542.4	
第153図314	5区	R537	稜磨石	閃緑岩	縄文早期	126.7	91.9	43.8	905.0	
第153図315	3区	R77	稜磨石	花崗岩	縄文早期	135.4	79.2	55.7	1013.8	
第153図316	5区	R734	稜磨・敲石	凝灰岩	縄文早期	163.6	57	57.6	763.0	
第153図317	6区	R6	稜磨・敲石	凝灰岩	縄文早期	128.5	55.6	62.4	509.6	
第154図318	5区	R579	稜磨・敲石	花崗岩	縄文早期	174.0	67.9	70.2	1208.8	
第154図319	5区	R720	稜磨・敲石	凝灰岩	縄文早期	154.6	69.8	70.8	1064.5	
第154図320	6区	R15	稜磨・敲石	凝灰岩	縄文早期	183.5	56.3	85.5	1153.2	
第154図321	5区	R626	稜磨・敲石	閃緑岩	縄文早期	157.6	61.8	69.1	885.0	
第154図322	3区	R86	稜磨・敲石	閃緑岩	縄文早期	165.5	65.5	64.4	1080.3	
第155図323	5区	R812	稜磨・敲石	閃緑岩	縄文早期	94.8	73.2	58.2	562.4	
第155図324	3区	R246	稜磨・敲石	安山岩	縄文早期	81.3	63.0	48.3	356.5	
第155図325	5区	R807	稜磨・敲石	凝灰岩	縄文早期	79.1	84.5	55.2	546.4	
第155図326	5区	R808	稜磨・凹石	凝灰岩	縄文早期	118	76.6	66.5	835.5	
第155図327	5区	R711	稜磨・凹石	花崗岩	縄文早期	119.5	69.7	74.7	966.1	
第155図328	5区	R746	稜磨・凹石	花崗岩	縄文早期	117.9	70.5	56.2	691.9	
第156図329	3区	R95	稜磨・磨石	花崗岩	縄文早期	61.0	58.9	62.6	256.6	
第156図330	3区	R231	稜磨・凹・敲石	安山岩	縄文早期	76.9	63.3	47.3	328.0	
第156図331	3区	R155	磨石	安山岩	縄文早期	110.5	83.5	29.2	411.6	
第156図332	3区	R98	磨石	花崗岩	縄文早期	129.6	84.5	50.2	826.8	
第156図333	3区	R74	磨石	花崗岩	縄文早期	56.3	85.0	37.3	308.1	
第156図334	5区	R813	磨石	閃緑岩	縄文早期	115	71.4	32.7	444.7	
第156図335	5区	R877	磨石	花崗岩	縄文早期	103.2	49.3	43.7	289.2	
第156図336	5区	R834	磨石	砂岩	縄文早期	87.1	73.4	34.0	351.5	
第156図337	5区	R502	磨石	砂岩	縄文早期	82.9	64.0	39.2	285.7	
第156図338	5区	R544	磨石	花崗岩	縄文早期	50.9	77.7	27.9	120.4	
第157図339	5区	2トレンチ一括	磨石	花崗岩	縄文早期	70.4	81.1	38.6	314.2	
第157図340	5区	R-571	磨石	砂岩	縄文早期	61.3	84	44.9	234.3	
第157図341	5区	R6	磨石	凝灰岩	縄文早期	50.3	45.0	70.0	198.0	
第157図342	5区	R596	磨石	花崗岩	縄文早期	81.9	41.8	31.6	173.3	
第157図343	5区	一括	磨石	花崗岩	縄文早期	51.7	71.6	33.8	166.0	
第157図344	5区	R931	磨・凹石	安山岩	縄文早期	78.7	71.0	39.6	239.8	
第157図345	5区	R550	磨・凹石	花崗岩	縄文早期	76.2	71.0	41.5	354.5	
第157図346	3区	R235	磨・敲石	安山岩	縄文早期	115.4	58.8	42.9	357.0	
第157図347	5区	R509	磨・凹石	花崗岩	縄文早期	–	–	–	318.7	
第157図347・348	5区	R509・R572	磨・凹石	花崗岩	縄文早期	107.3	84.9	35	543.8	
第157図348	5区	R-572	磨・凹石	花崗岩	縄文早期	–	–	–	225.1	
第158図349	5区	R841	凹石	凝灰岩	縄文早期	86.0	95.7	29.1	361.0	
第158図350	5区	R505	凹石	花崗岩	縄文早期	104.2	83.3	54.7	641.1	
第158図351	3区	R158	凹・敲石	安山岩	縄文早期	86.7	57.8	29.5	210.7	
第158図352	5区	R564	敲石	凝灰岩？	縄文早期	40.4	37.2	25.8	54.1	
第158図353	5区	R592	台石	凝灰岩	縄文早期	250.3	239.0	67.7	6550.0	
第158図354	5区	R764	台石	閃緑岩	縄文早期	246.4	241.3	85.5	8200.0	
第158図355	5区	R747	台石	閃緑岩	縄文早期	264.0	203.2	70.0	5900.0	
第158図356	3区	R244	台石	凝灰岩	縄文早期	230.0	162.4	80.0	4460.0	

図版番号	調査区	注記番号	器種	石材	時代	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	備考
第158図357	5区	R2	台石	閃緑岩	縄文	200.3	178.3	70.0	3120.0	
第158図358	4区	T-16G一括	台石	凝灰岩	縄文早期	179.0	150.1	90.1	3660.0	
第158図359	5区	R755	台石	閃緑岩	縄文早期	147.4	152.4	75.0	2171.0	
第159図360	3区	R321	台石	安山岩	縄文早期	274.0	223.3	65.0	5090.0	
第159図361	3区	R78	台石	凝灰岩	縄文早期	167.0	159.0	71.0	2520.0	
第159図362	3区	R243	台石	凝灰岩	縄文早期	92.4	142.8	62.4	1080.0	
第159図363	3区	R237	台石	緑色凝灰岩	縄文早期	331.1	126.9	94.9	5062.2	
第159図364	5区	R752	台石	凝灰岩	縄文早期	387.0	199.8	83.9	10700.0	
第159図365	3区	R174	台石	凝灰岩	縄文早期	270.0	166.0	81.6	5630.0	
第159図366	5区	R511	石皿	安山岩	縄文	159.7	136.3	67.7	1496	
第159図367	5区	S736	原石	黒曜石(西霧ケ峰系)	縄文早期	42.0	53.0	21.5	41.8	
第159図368	5区	S559	原石	黒曜石(判別不可)	縄文早期	32.5	39.0	26.0	33.4	
第159図369	6区	S9	原石	黒曜石(判別不可)	縄文早期	36.0	47.5	12.4	18.4	
第162図1	5区	S2	石鏃	黒曜石	縄文後期	15.2	13.9	3.0	0.5	
第162図2	5区	S7	楔形石器	凝灰岩	縄文早期	35.4	25.0	15.5	12.7	
第162図3	5区	S3	削器	ホルンフェルス	縄文後期	69.7	58.5	19	98.6	
第162図4	5区	R3	礫器	安山岩	縄文後期	135.6	77.5	63.9	600.7	
第162図5	5区	R35	掻器	頁岩	縄文後期	56.3	44.4	17.9	58.7	
第162図6	5区	R13	打製石斧	粘板岩	縄文後期	140.8	60.1	19.3	158.6	
第162図7	5区	R19	打製石斧	ホルンフェルス	縄文後期	172.7	92.0	16.4	261.3	
第162図8	5区	R33	磨製石斧	緑色凝灰岩	縄文後期	96.8	51.1	30.8	225.4	
第162図9	5区	S4	MF	黒曜石	縄文後期	24.6	14.0	4.6	1.3	
第162図10	5区	S8	MF	黒曜石	縄文後期	17.6	13.4	7.2	1.3	
第163図11	5区	R32	MF	凝灰岩	縄文後期	148.9	65.7	32.8	238.9	
第163図12	5区	R5	MF	頁岩	縄文後期	52.1	84.8	30.6	155.6	
第163図13	5区	R14	RF	凝灰岩	縄文後期	24.7	21.1	7.4	3.1	
第163図14	5区	S1	RF	凝灰岩	縄文早期	39.3	61.7	20.5	35.2	
第163図15	5区	S11	石核	緑色凝灰岩	縄文早期	−	−	−	95.1	石核分類B-2-4
第163図15・16	5区	S6・S11	石核	緑色凝灰岩	縄文早期	60.2	79.2	35.9	144.4	石核分類B-2-4
第163図16	5区	S6	石核	緑色凝灰岩	縄文早期	−	−	−	49.3	石核分類B-2-4
第163図17	5区	S12	石核	黒曜石	縄文早期	16.6	31.6	12	5.1	石核分類C-1-2
第163図18	5区	S5	石核	黒曜石	縄文後期	20.1	23.1	11.5	4.4	
第165図20	3区1住	R62	礫器	凝灰岩	縄文	105.7	98.8	40.4	444.3	
第166図28	3区2住	R165	台石	閃緑岩	奈良	362.0	292.0	84.2	14000.0	
第166図29	3区2住	R104	礫器	ホルンフェルス	縄文	69.5	52.5	13.1	53.9	
第168図10	4区1住	S9	台石	凝灰岩	奈良	205.8	137.9	62.6	2250.0	
第168図24	2区3住	S52	石核	凝灰岩	縄文	72.9	75.0	47.0	199.8	
第168図25	2区3住	S54	石核	黒曜石	縄文	15.2	16.0	9.7	1.2	
第168図26～28	2区3住	R121	礫	凝灰岩	奈良	506.1	175.0	117.0	19040.0	
第179図1	8区	S3	砥石	凝灰岩	中世	10.7	4.9	2.6	195.0	

第14表　金属製品一覧表

図版番号	出土地点	種別	形状	時代	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)
第169図1	4区4住Fe－3	鉄製品	刀子	奈良・平安	157.0	20.5	6.9	34.9
第169図2	4区4住Fe－3	鉄製品	やっとこ	奈良・平安	110.5	30.0	13.4	36.7
第169図3	4区4住Fe－3	鉄製品	板状	奈良・平安	32.5	7.5	4.7	2.5
第169図16	6区1墓Co-1	銭貨	寛永通寶	近世	24.1	23.6	0.1	2.6
第170図2	3区1溝Co-1	銭貨	熙寧元寶	北宋	23.7	23.9	0.1	2.6
第170図15	5区48溝Fe－13	青銅製品	棒状	－	51.0	8.5	3.1	3.0
第180図1	5区Fe－1	鉄製品	鉄鏃	奈良・平安	97.5	30.5	11.4	20.4
第180図2	5区Fe－10	鉄製品	鉄鏃	奈良・平安	76.0	31.5	8.3	20.5
第180図3	1区Fe－6	鉄製品	鉄鏃	奈良・平安	49.0	34.5	10.8	13.8
第180図4	7区Fe－1	鉄製品	鉄斧	－	93.5	40.0	17.2	130.0
第180図5	1区一括	鉄製品	紡輪	奈良・平安	48.5	50.0	7.6	10.5
第180図6	8区Fe－17	鉄製品	紡軸	奈良・平安	62.5	11.0	10.3	8.6
第180図7	2区Fe－1	鉄製品	鉄鍋	中世	－	－	－	28.6
第180図8	8区Fe－22	鉄製品	鉄鍋	中世	－	－	－	4.4
第180図9	8区Fe－9	青銅製品	棒状	－	63.5	16.0	8.1	12.7
第180図10	8区Fe－1	鉄製品	板状	－	38.0	20.0	4.0	11.6
第180図11	1区Fe－1	鉄製品	環状	－	28.5	31.0	12.7	11.0
第180図12	8区Fe－19	鉄製品	棒状	－	21.5	11.1	7.2	1.5
第180図13	8区Fe－7	鉄製品	棒状	－	103.0	13.0	10.0	34.7
第180図14	8区Fe－21	鉄製品	棒状	－	56.5	11.0	9.0	12.1
第180図15	8区Fe－10	鉄製品	棒状	－	49.5	22.0	10.0	5.6
第180図16	8区Fe－12	鉄製品	板状	－	29.0	45.0	7.6	10.2
第180図17	8区Fe－4	鉄製品	円形	－	25.5	31.0	5.5	6.6
第180図18	8区Fe－8	鉄製品	棒状	－	73.5	13.5	7	8.9
第180図19	8区Fe－3	鉄製品	棒状	－	53.5	17.5	5.4	5.8
第180図20	8区Fe－11	鉄製品	板状	－	42.0	15.5	6.6	5.3
第180図21	8区Fe－20	鉄製品	塊状	－	38.5	17.0	7.5	6.1
第180図22	8区Fe－20	鉄製品	塊状	－	21.0	17.0	5.8	2.7
第180図23	1区Fe－9	鉄製品	棒状	－	76.5	18.0	7.1	15.2
第180図24	1区Fe－8	鉄製品	板状	－	70.0	15.0	6.6	9.3
第180図25	4区Fe－4	鉄製品	板状	－	47.0	17.5	6.0	10.3
第180図26	1区Fe－2	鉄製品	棒状	－	39.0	11.5	8.8	4.0
第180図27	2区Fe－3	鉄製品	棒状	－	49.0	10.5	4.2	3.2
第180図28	2区Fe－3	鉄製品	棒状	－	43.0	8.5	4.5	2.7
第180図29	8区Fe－16	鉄製品	棒状	－	61.0	10.5	5.8	7.1
第180図30	8区Fe－16	鉄製品	棒状	－	22.0	6.0	4.9	0.7
第180図31	2区Fe－2	鉄製品	棒状	－	76.0	9.0	8.6	9.6
第180図32	2区Fe－2	鉄製品	棒状	－	40.5	10.0	7.5	3.7
第180図33	1区一括	鉄製品	棒状	－	72.5	9.0	7.3	13.9
第180図34	1区一括	鉄製品	棒状	－	65.0	9.0	7.7	6.7
第180図35	1区一括	鉄製品	棒状	－	53.5	10.5	6.0	2.8
第180図36	1区Fe－5	鉄製品	棒状	－	53.0	12.0	8.1	4.7
第180図37	8区Fe－18	鉄製品	棒状	－	58.0	18.0	6.8	3.7
第180図38	4区Fe－5	鉄製品	棒状	－	54.0	6.5	4.4	3.2
第180図39	8区Fe－6	鉄製品	棒状	－	49.5	8.0	5.5	4.2
第180図40	8区Fe－5	鉄製品	板状	－	42.5	8.5	6.7	3.8
第180図41	4区Fe－1	鉄製品	棒状	－	32.5	8.5	5.2	2.1
第180図42	8区Fe－13	鉄製品	棒状	－	29.0	8.5	4.0	1.8
第180図43	8区Fe－15	鉄製品	棒状	－	23.0	6.0	3	0.7
第180図44	1区Fe－10	鉄製品	円形	－	29.5	33.0	10.7	8.9
第180図45	7区Co-2	銭貨	開元通寶	唐	24.1	24.2	0.1	2.9
第180図46	排土中	銭貨	開元通寶	唐	23.5	23.8	0.1	2.6
第180図47	1区Co-1	銭貨	天禧通寶	北宋	25.1	25.1	0.1	2.4
第180図48	4区Co-1	銭貨	熙寧元寶	北宋	23.1	22.8	0.1	2.4
第180図49	7区Co-1	銭貨	元豊通寶	北宋	24.7	24.8	0.1	2.0
第180図50	試掘調査地点	銭貨	寛永通寶	近世	24.2	24.3	0.1	2.5

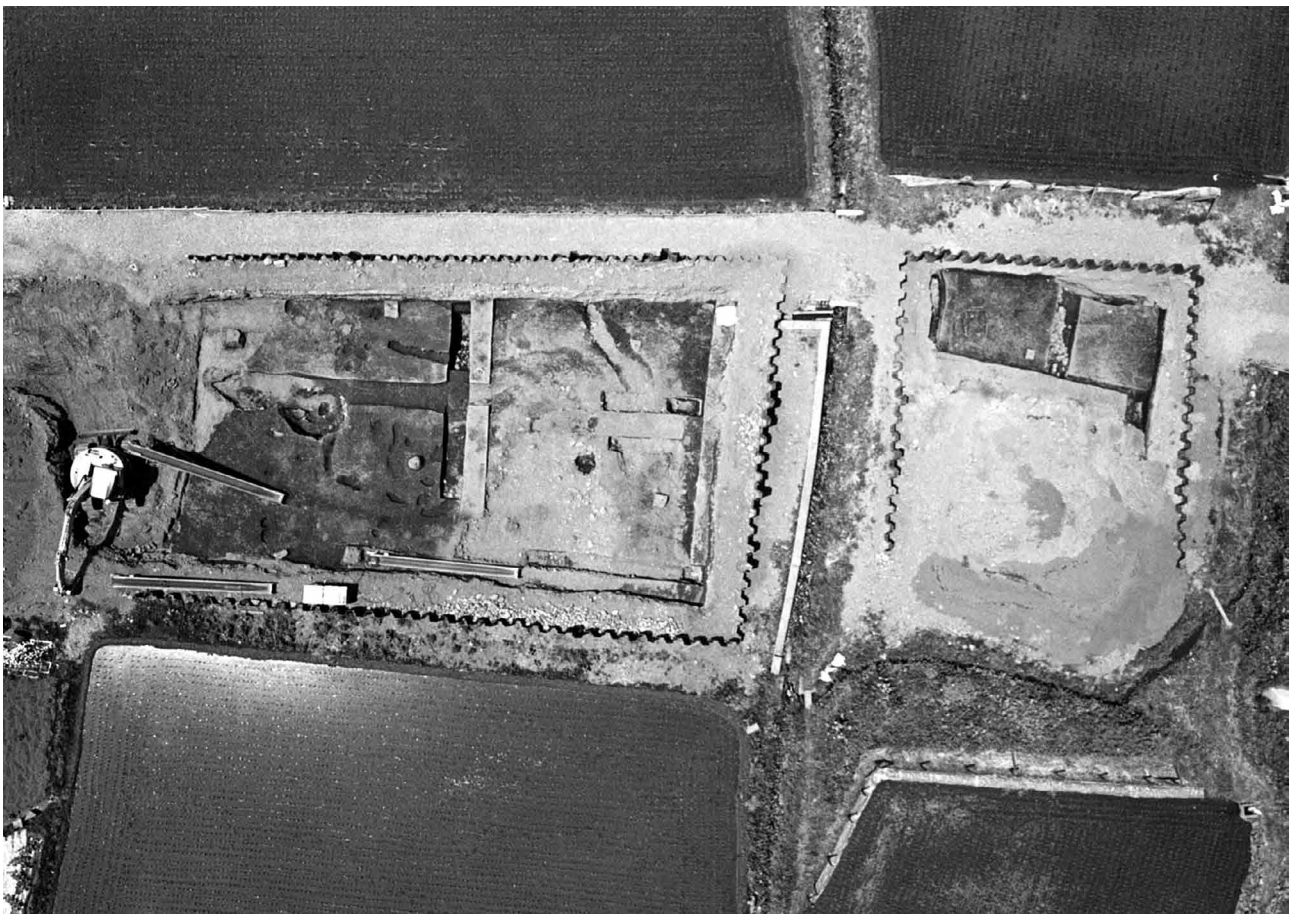


玉川金山遺跡の調査によって確認された、最も古い遺構面は縄文時代早期ですが、現在の地表面から２m近くも下に埋もれていました。

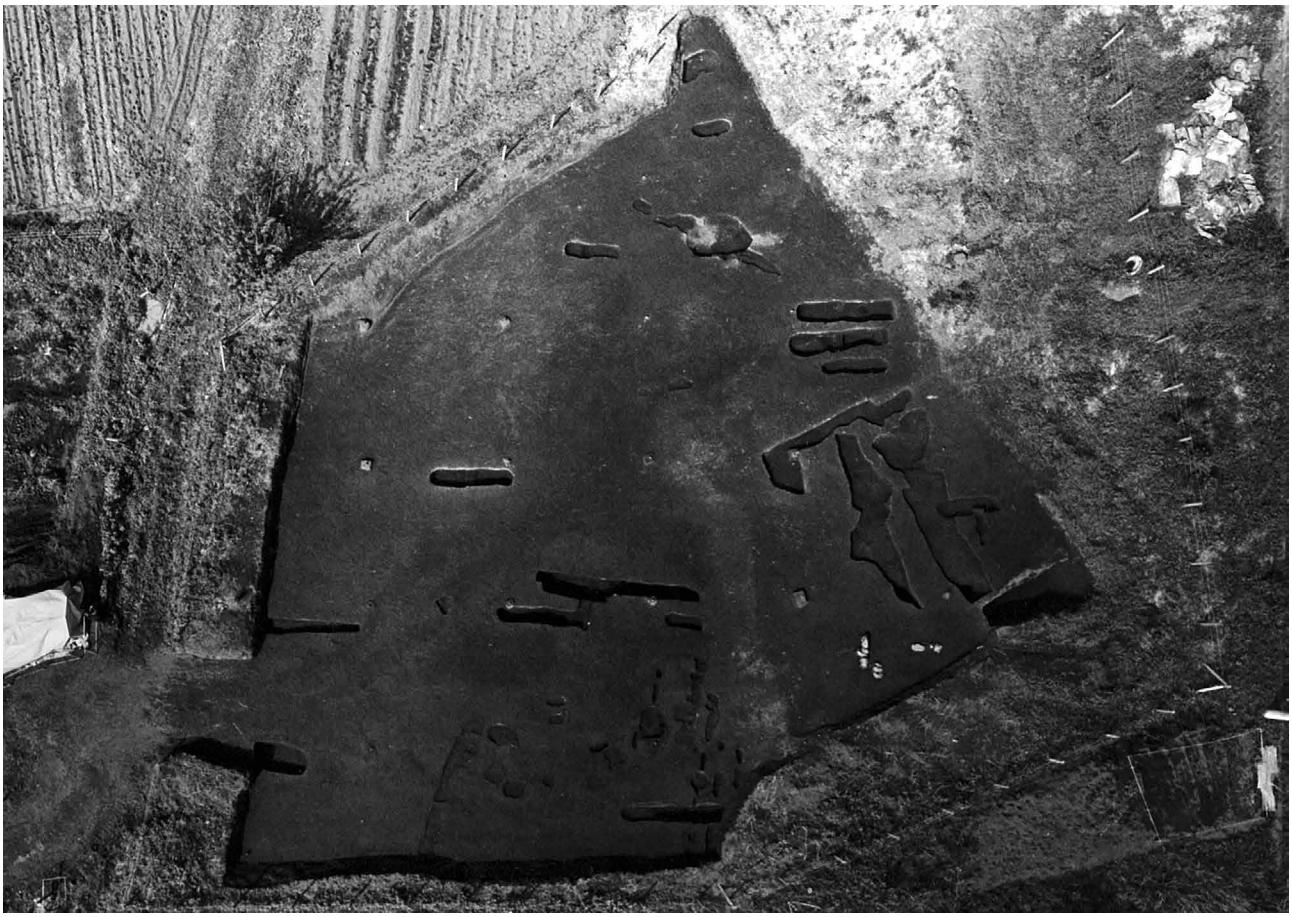
（左写真は縄文時代早期の面から確認された土器です）

縄文時代以降も弥生時代から近世の遺物が確認されており、引き続き、さまざまな形で土地を利用したと考えられます。

写 真 図 版

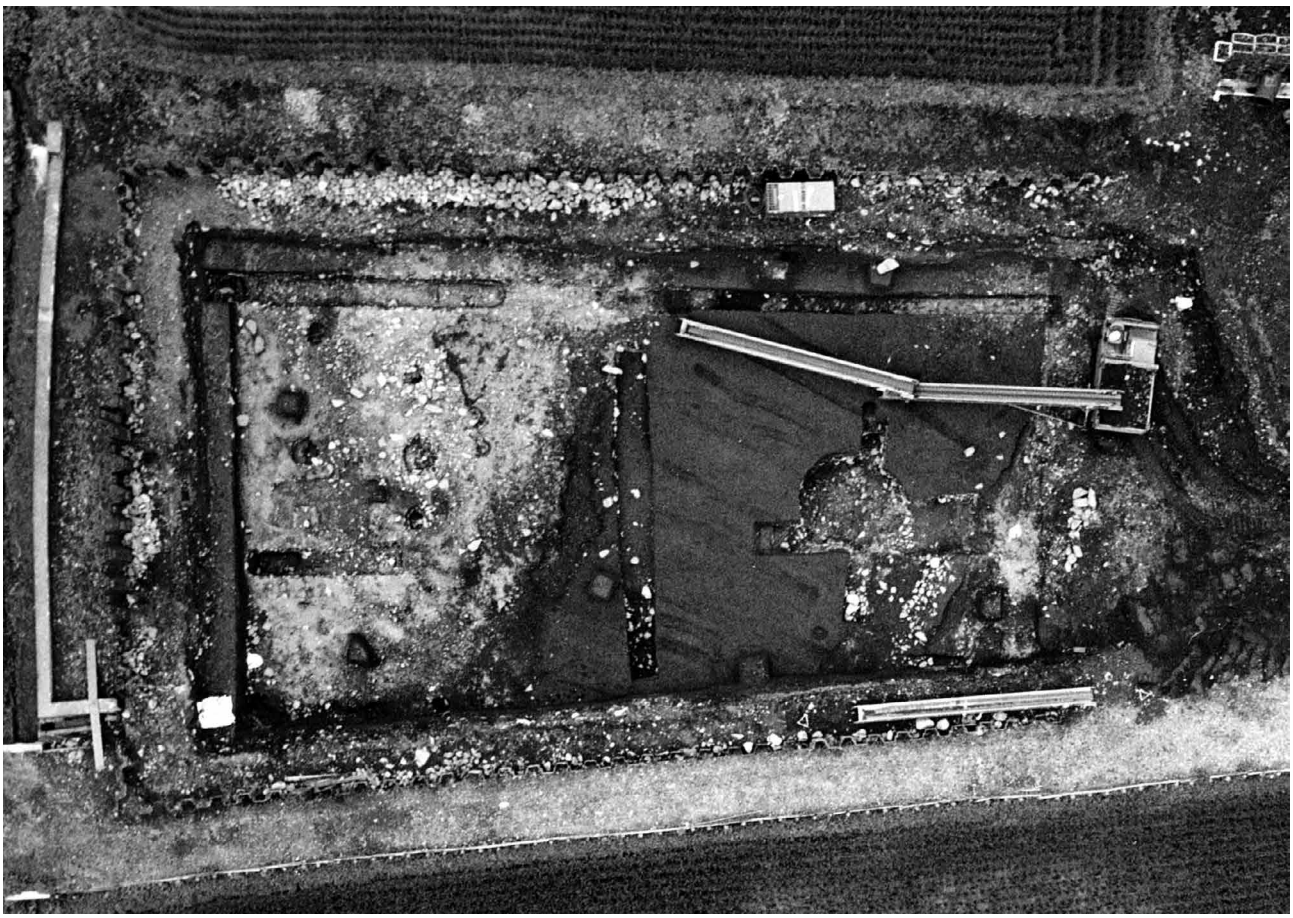


７・８区　第Ⅰ面遺構完掘状況

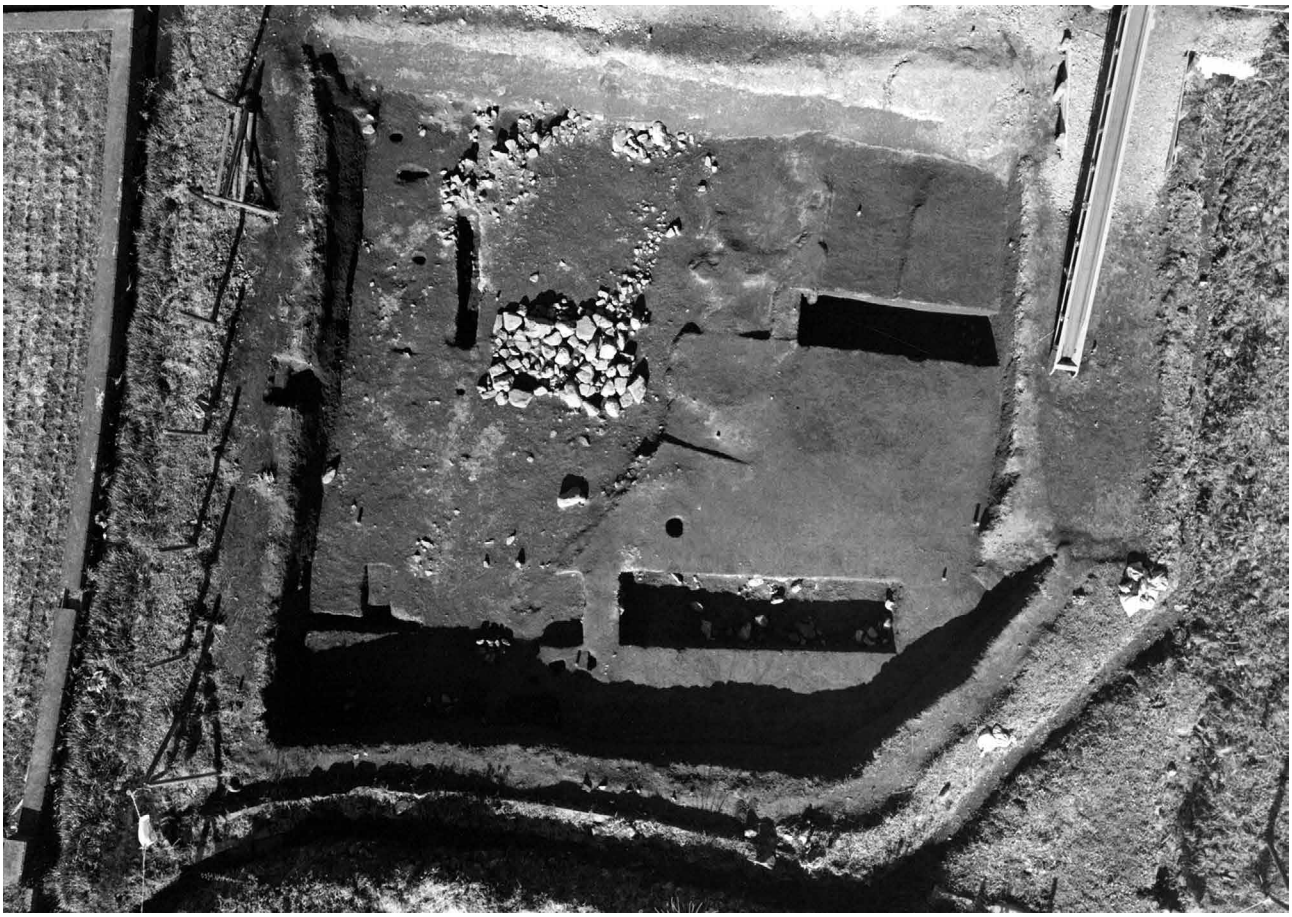


５区　第Ⅰ面遺構完掘状況

図版２　遺構俯瞰写真２

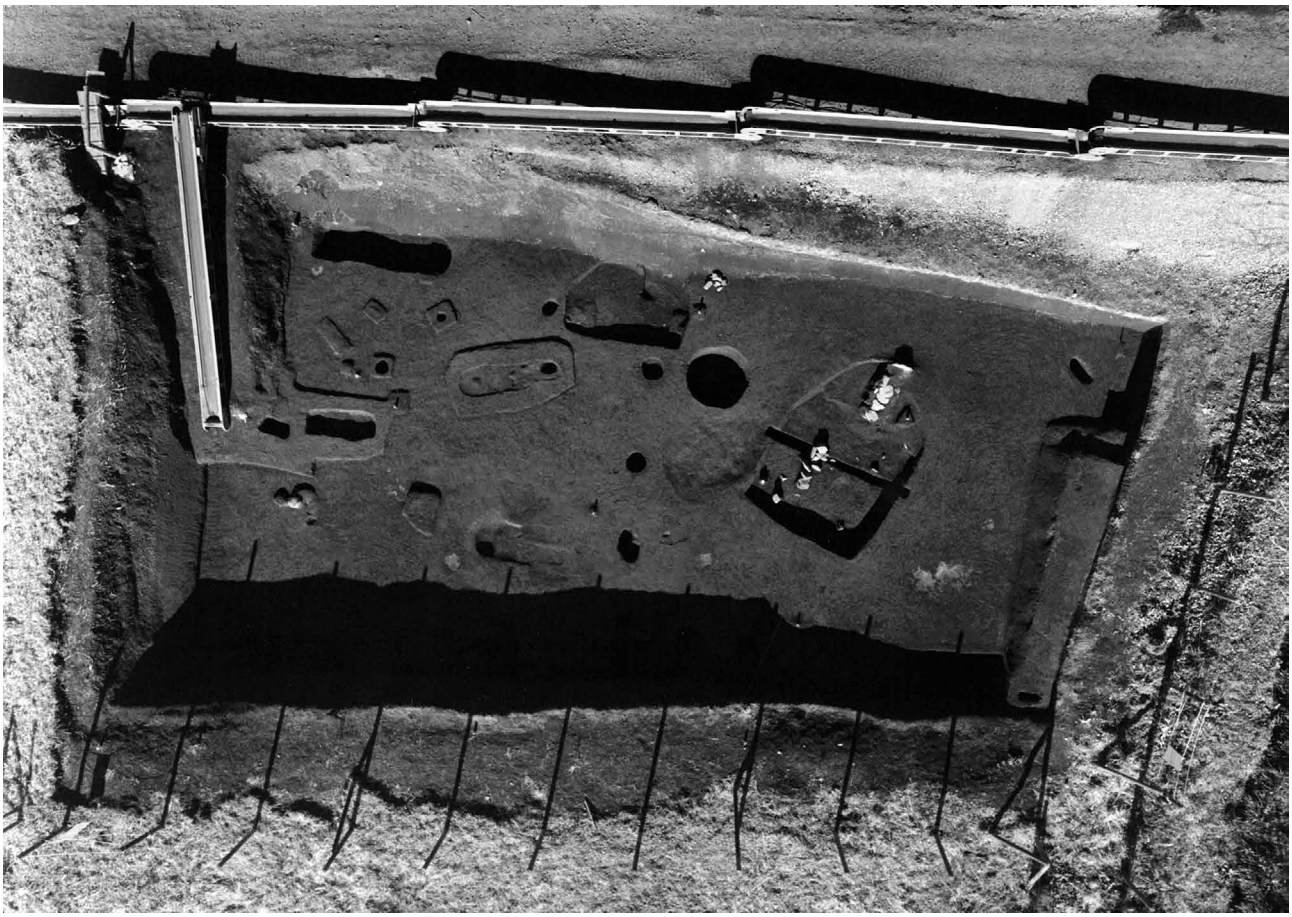


７区　第Ⅱ面遺構完掘状況



１区　第Ⅱ面遺構完掘状況

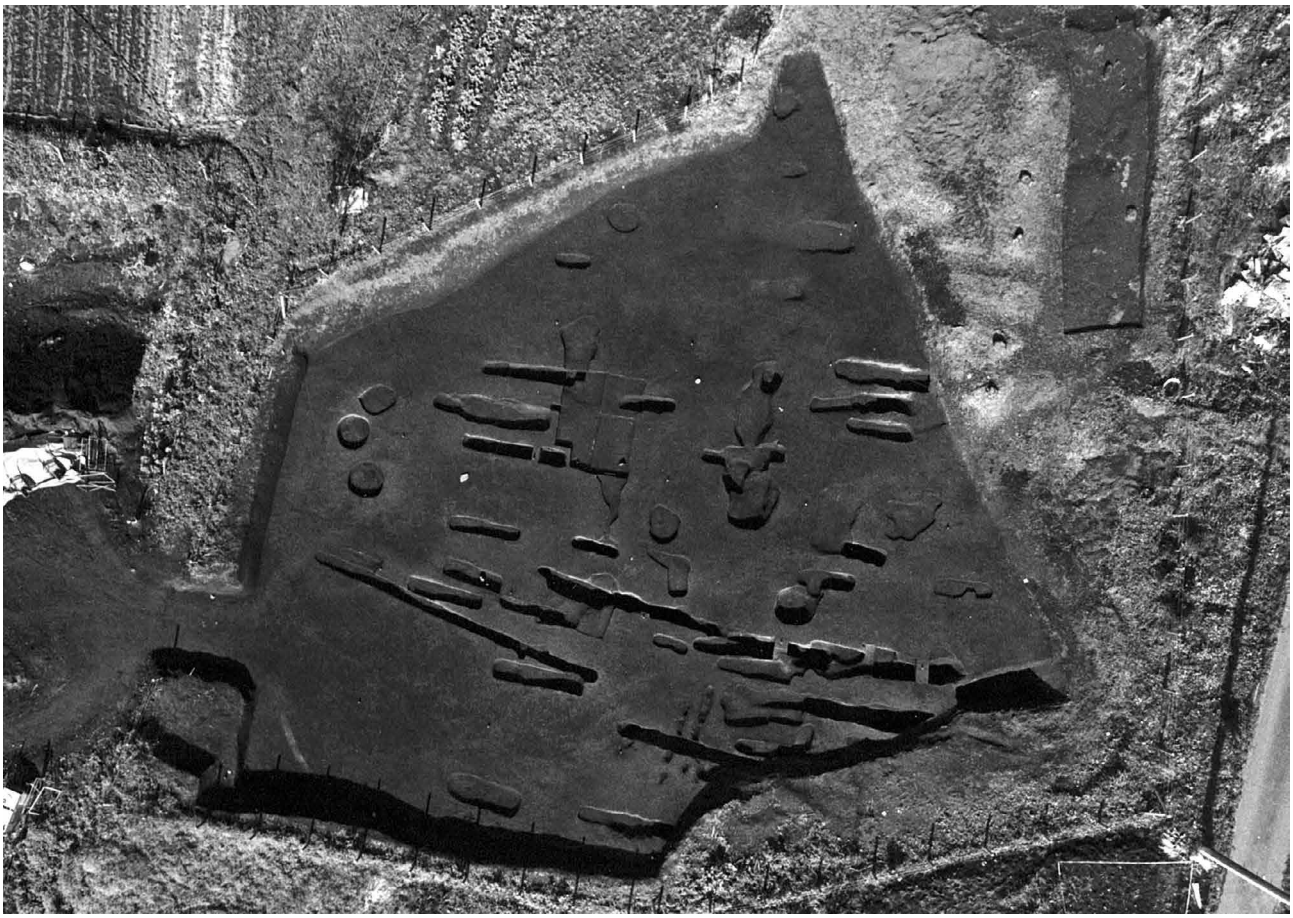
４区　第Ⅱ面遺構完掘状況



２区　第Ⅱ面遺構完掘状況

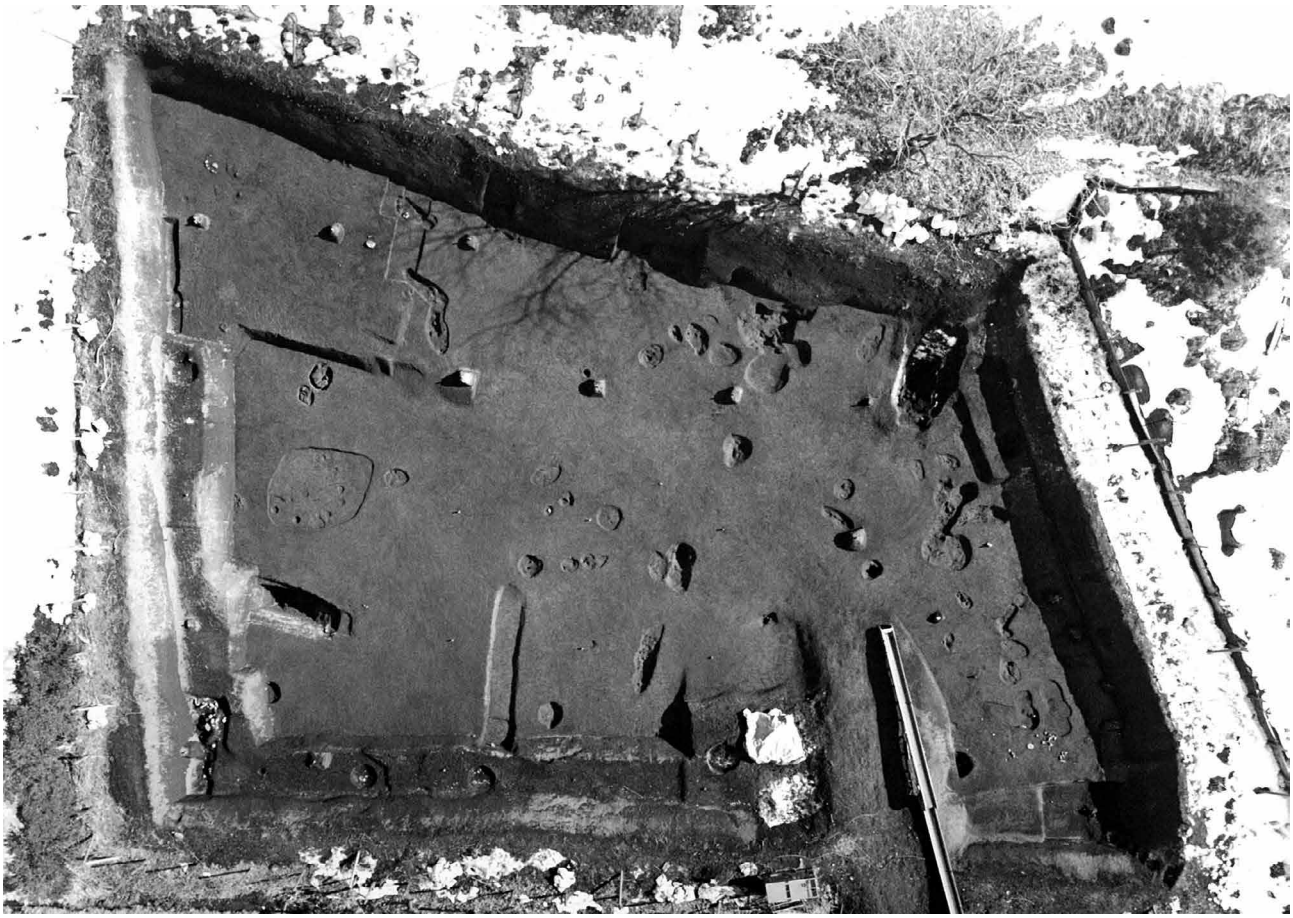
図版４　遺構俯瞰写真４

３区　第Ⅱ面遺構完掘状況



５区　第Ⅱ面遺構完掘状況

４区　第III面遺構完掘状況



３区　第III面遺構完掘状況

図版６　遺構俯瞰写真６

６区　第III面遺構完掘状況

５区　第III面遺構完掘状況

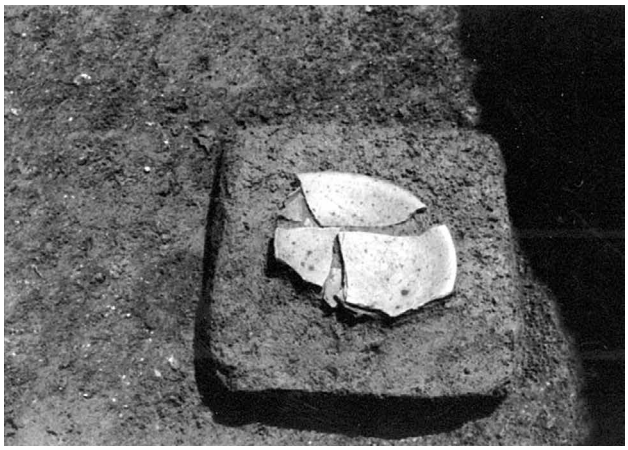
７区　１号土坑半截状況

７区　１号土坑獣骨検出状況

７区　１号土坑獣骨検出状況

７区　１号土坑完掘状況

７区　２～６号溝状遺構完掘状況



７区　遺物出土状況

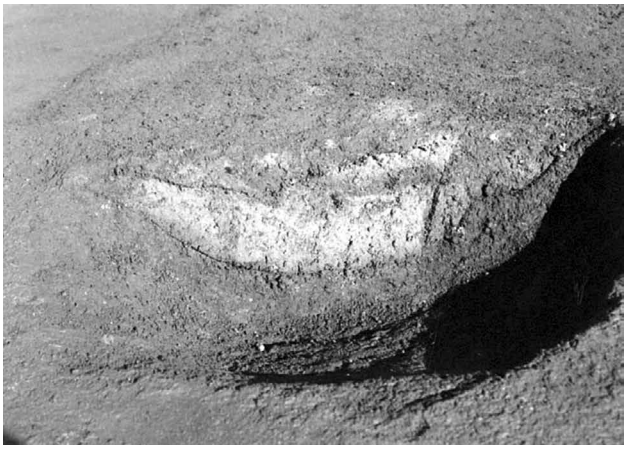
７区　遺物出土状況

８区　遺物出土状況

図版８　第Ⅰ面調査２

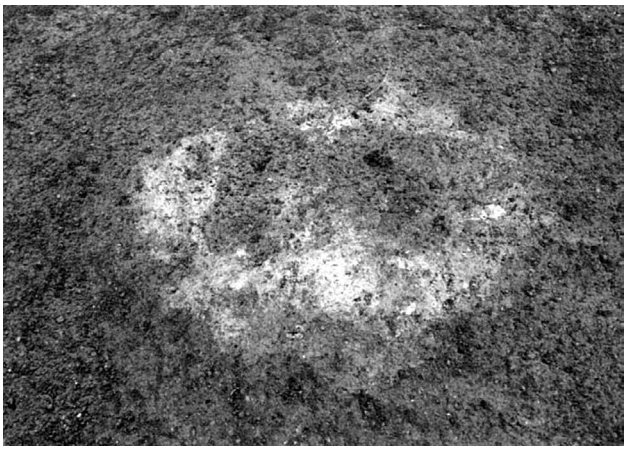
８区　遺物出土状況

１区　10・13号焼土集中検出状況

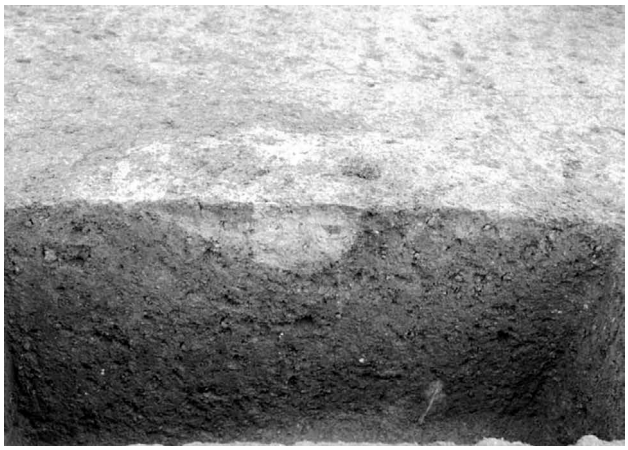


１区　15号焼土集中半截状況

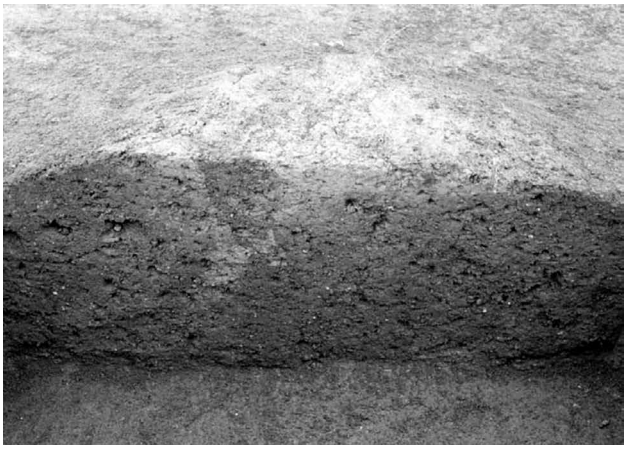
２区　遺構完掘状況



２区　３号焼土集中検出状況

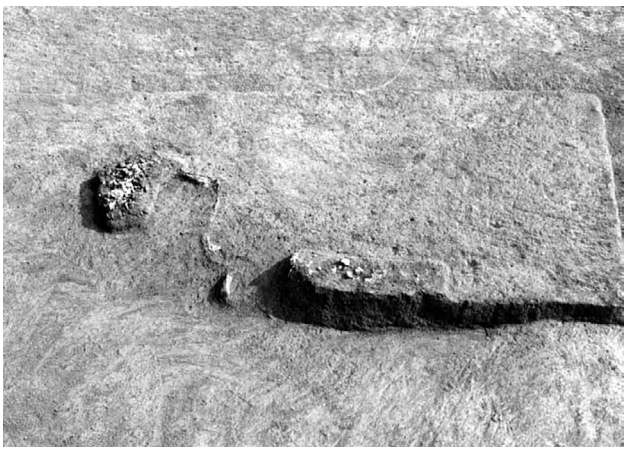


２区　３号焼土集中半截状況

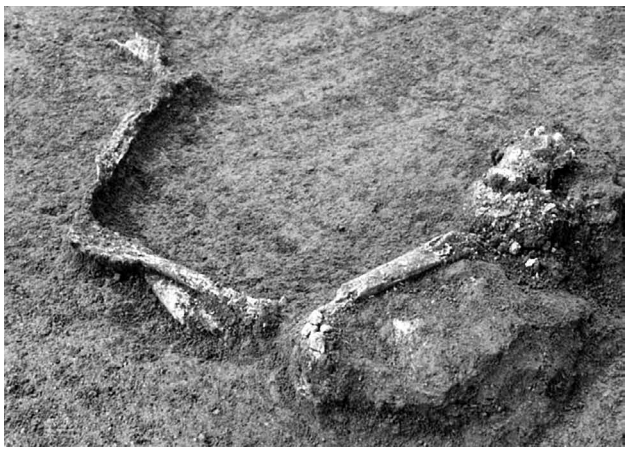


２区　４号焼土集中半截状況

４区　４号焼土集中検出状況



３区　15号土坑獣骨検出状況



３区　15号土坑獣骨検出状況

３区　15号土坑獣骨検出状況

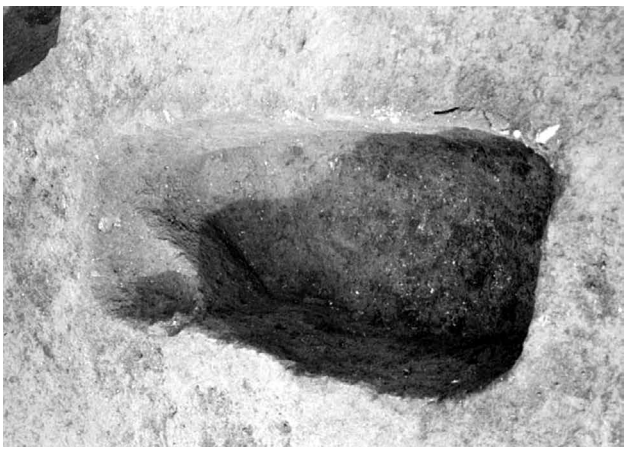
６区　遺構検出状況

６区　１号墓坑人骨検出状況

６区　１号墓坑半截状況

６区　１号墓坑人骨検出状況

６区　１号墓坑人骨検出状況



６区　１号墓坑完掘状況

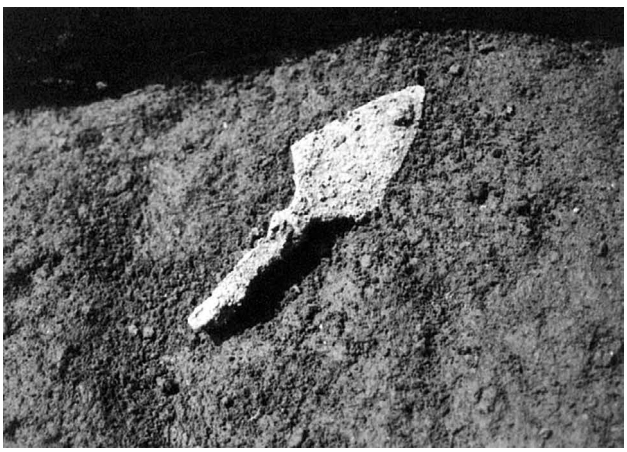
６区　遺構完掘状況

５区　遺構完掘状況

５区　遺構完掘状況

５区　１号石組完掘状況

５区　１号石組完掘状況



５区　遺物出土状況

５区　遺物出土状況

７区　７～26号溝状遺構完掘状況

７区　７～26号溝状遺構完掘状況

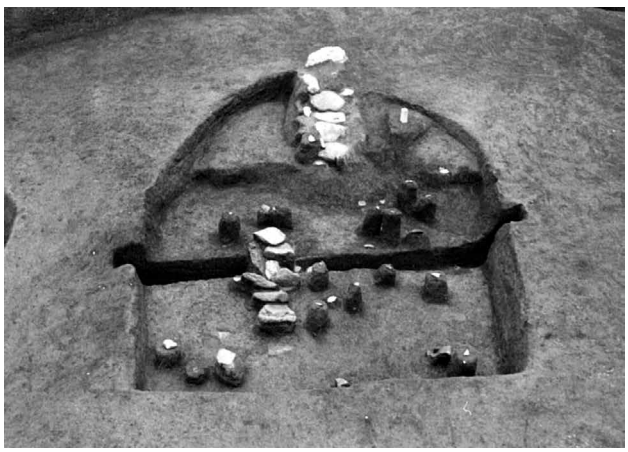
８区　第Ⅰ面完掘状況

８区　５・６号土坑完掘状況

１区　１号礫集中完掘状況

１区　８号溝状遺構完掘状況

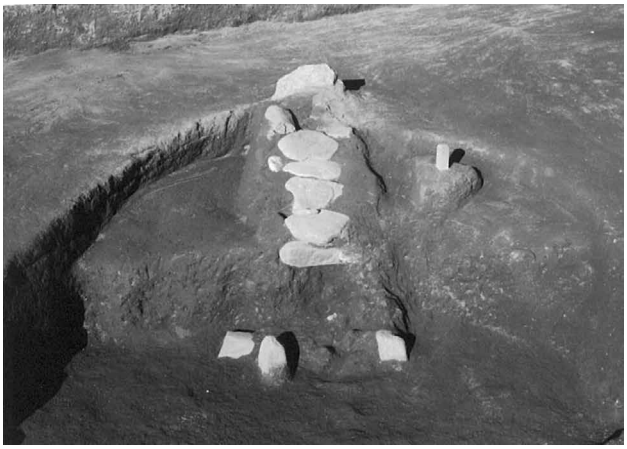
２区　第Ⅱ面遺構完掘状況



２区　３号住居跡遺物出土状況

２区　３号住居跡遺物出土状況

２区　３号住居跡遺物出土状況

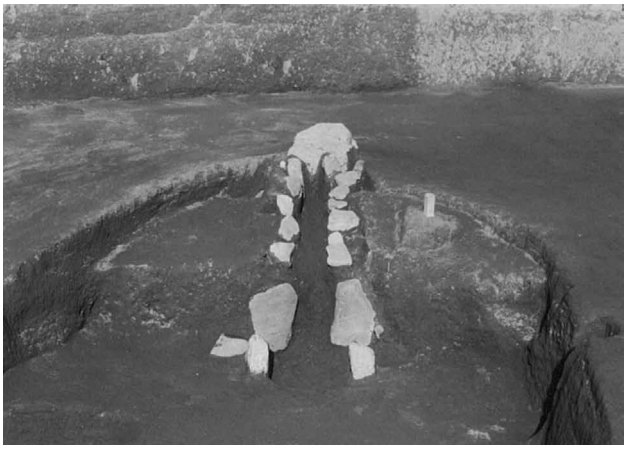


２区　３号住居跡カマド検出状況

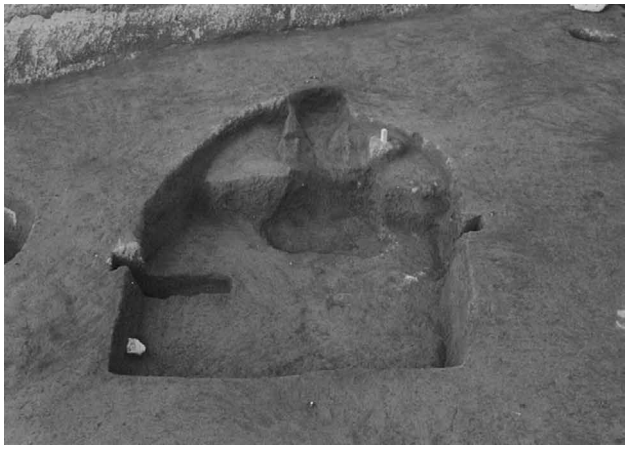
２区　３号住居跡カマド半截状況

２区　３号住居跡カマド半截状況

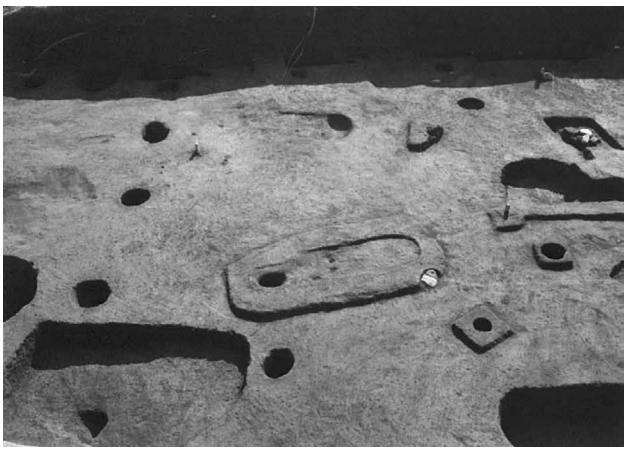
２区　３号住居跡カマド半截状況



２区　３号住居跡カマド完掘状況

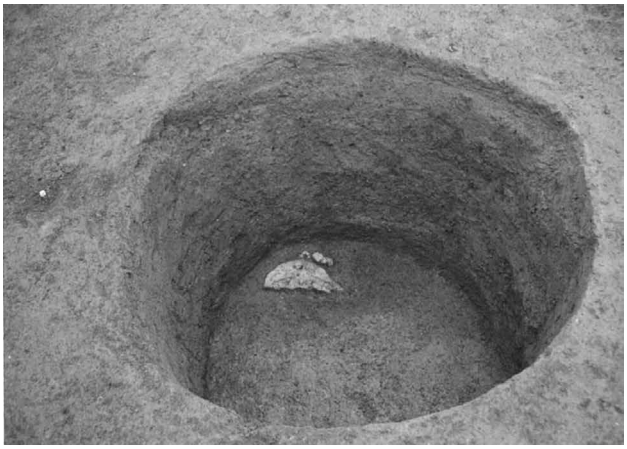


２区　３号住居跡完掘状況

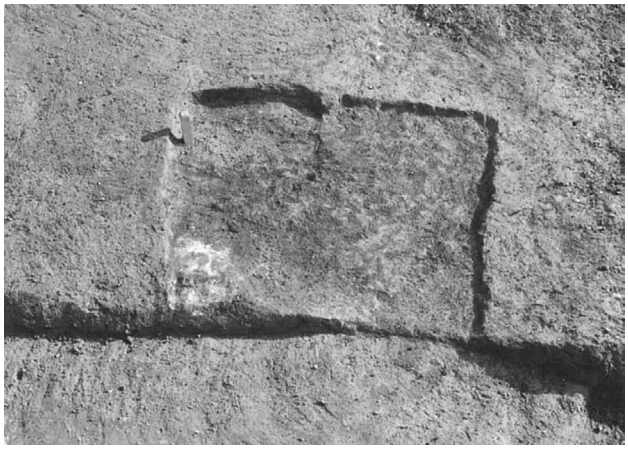


２区　１号掘立柱建物跡完掘状況

２区　22号土坑完掘状況



２区　24号土坑灰検出状況



２区　24号土坑灰・炭化物集中検出状況

２区　３号土坑完掘状況

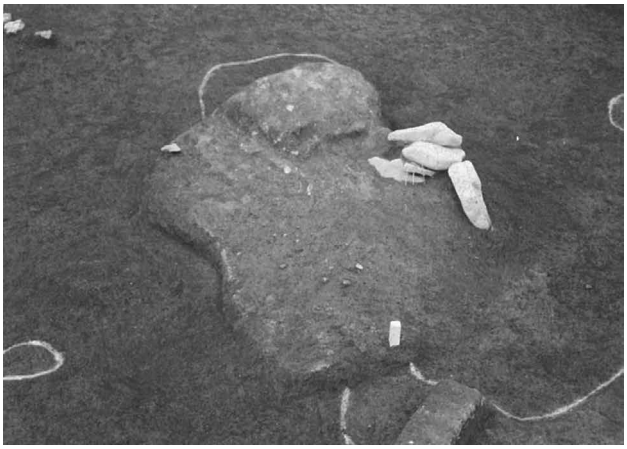
２区　３号土坑焼土検出状況

２区　25号焼土集中半截状況

４区　１号住居跡完掘状況

４区　２号住居跡カマド検出状況

４区　３号住居跡完掘状況

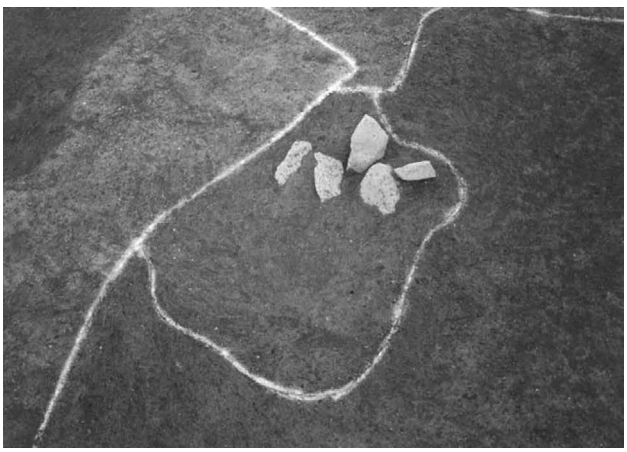


４区　４号住居跡カマド検出状況

４区　４号住居跡遺物出土状況

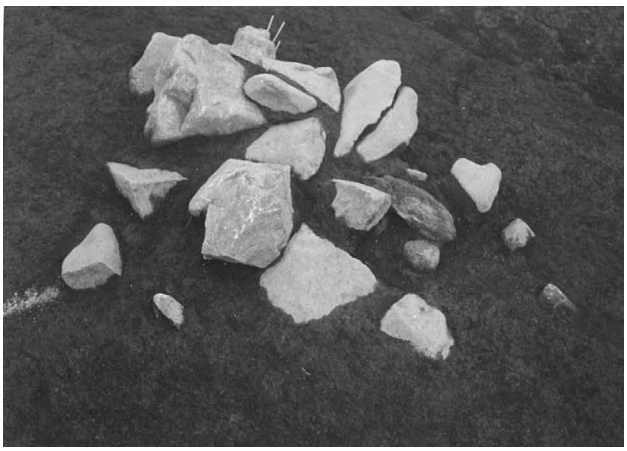
４区　４号住居跡カマド半截状況

４区　１号掘立柱建物跡完掘状況



４区　18号土坑検出状況

４区　５号焼土集中検出状況



４区　１号礫集中検出状況

４区　２号礫集中検出状況

４区　３号礫集中検出状況

３区　１号住居跡遺物出土状況

３区　１号住居跡遺物出土状況

３区　１号住居跡遺物出土状況

３区　１号住居跡遺物出土状況

３区　１号住居跡完掘状況

３区　２号住居跡検出状況

３区　２号住居跡遺物出土状況

３区　２号住居跡遺物出土状況

３区　２号住居跡遺物出土状況

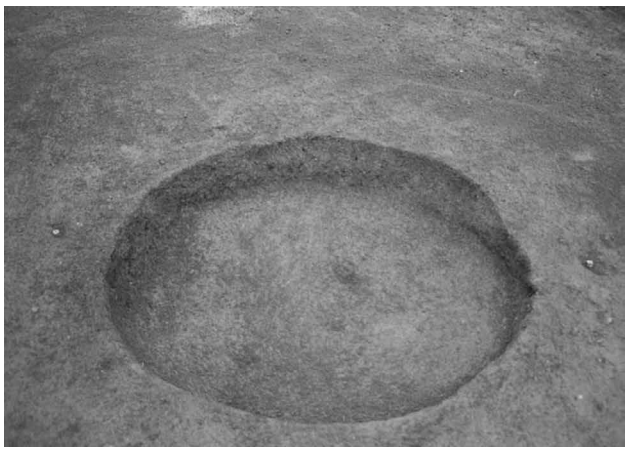
３区　２号住居跡遺物出土状況

３区　２号住居跡完掘状況

３区　４号住居跡カマド検出状況

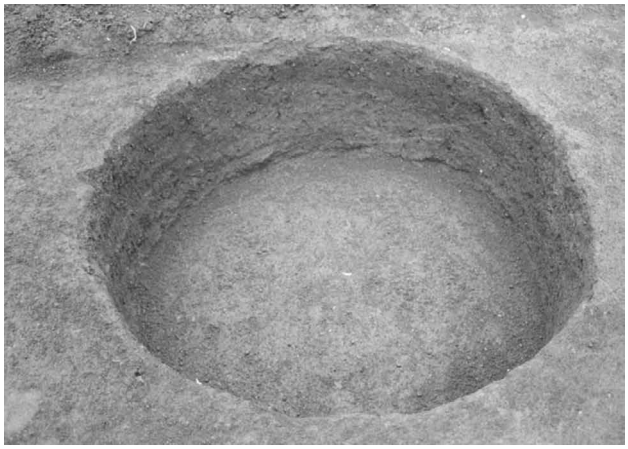
３区　４号住居跡カマド検出状況

３区　遺構完掘状況



３区　６号土坑完掘状況

３区　７号土坑完掘状況



３区　11号土坑完掘状況

３区　13号土坑完掘状況

３区　20号土坑完掘状況

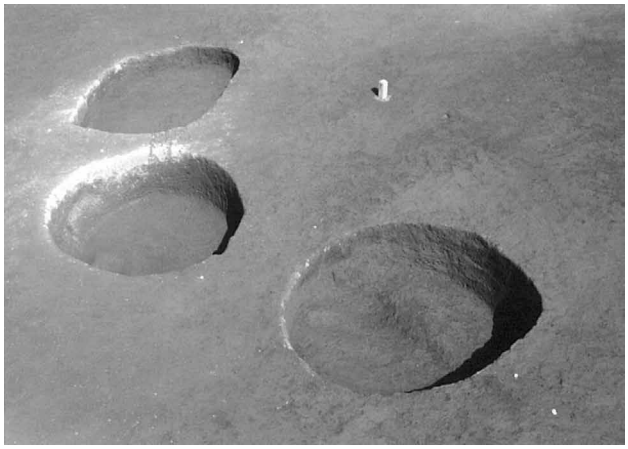
３区　30号土坑完掘状況

６区　遺構検出状況

6区　遺構完掘状況

5区　遺構完掘状況

5区　遺構完掘状況



5区　33～35号土坑完掘状況

5区　遺構完掘状況

5区　遺構完掘状況

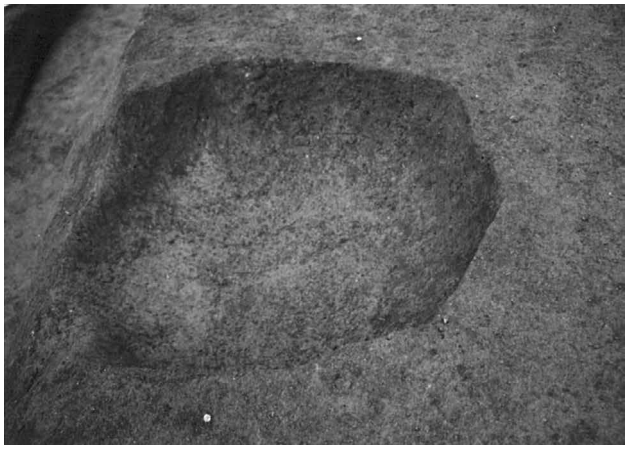
5区　遺構完掘状況

5区　遺物出土状況

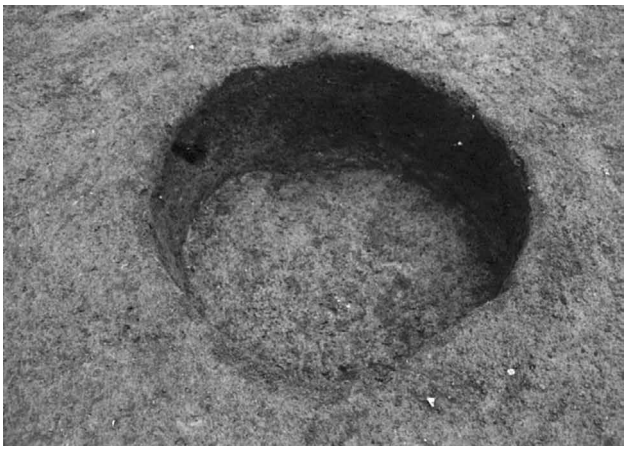
９区　２号土坑完掘状況

９区　２・３号溝状遺構完掘状況

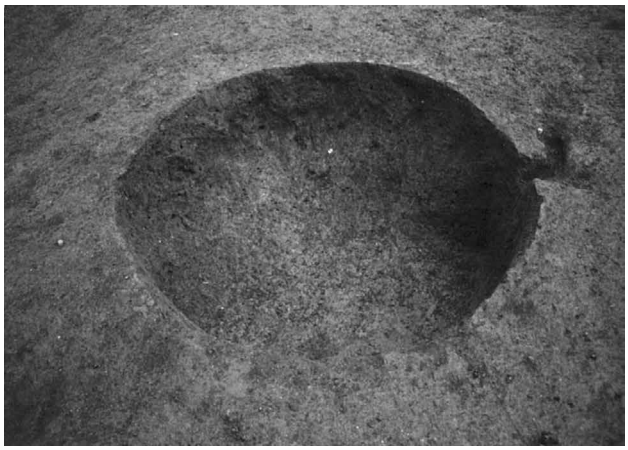
10区　遺構完掘状況



10区　１号土坑完掘状況



10区　２号土坑完掘状況



10区　７号土坑完掘状況

11区　遺構完掘状況

11区　１号礫集中検出状況

図版20　第III面調査１

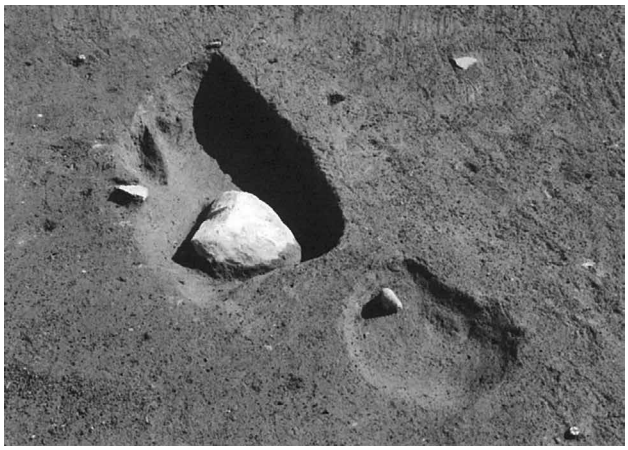
４区　32号土坑完掘状況

４区　１号集石検出状況

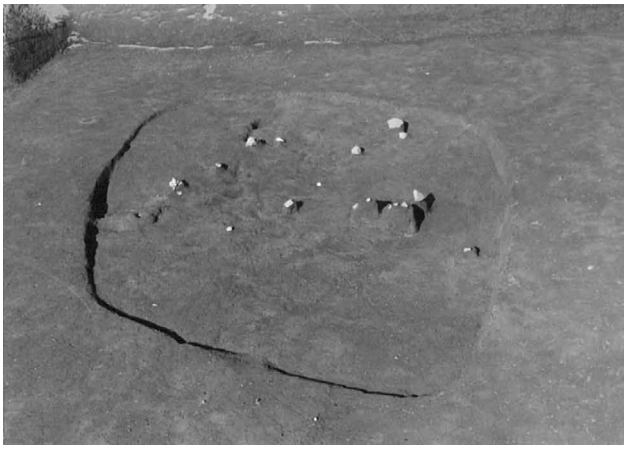
４区　２号集石検出状況

４区　９号焼土集中半截状況

４区　11号焼土集中完掘状況



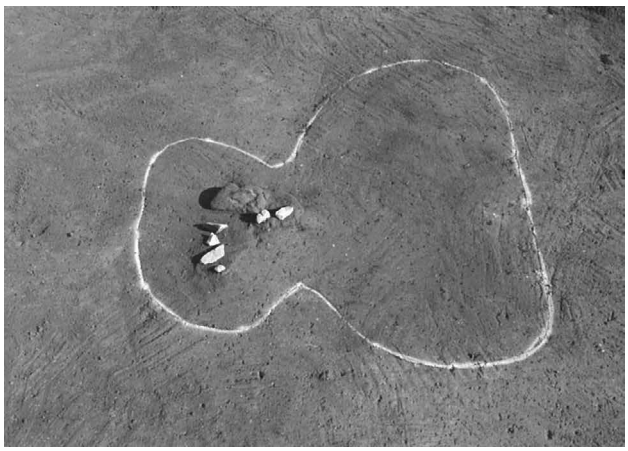
４区　12号焼土集中完掘状況



３区　５号住居跡遺物出土状況

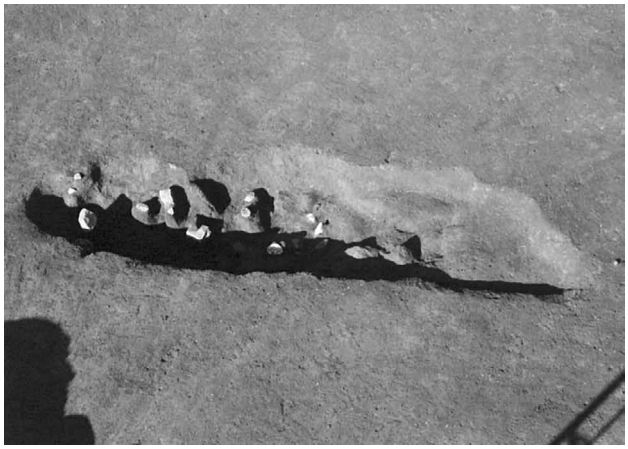
３区　５号住居跡完掘状況

３区　35号土坑半截状況

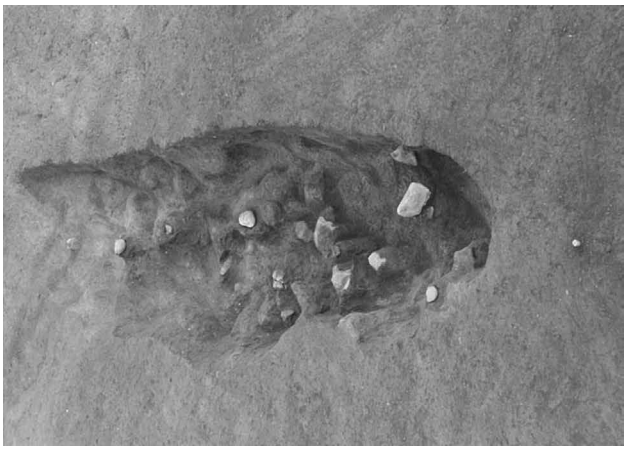


３区　38・49・83号土坑検出状況

３区　38・49・83号土坑完掘状況



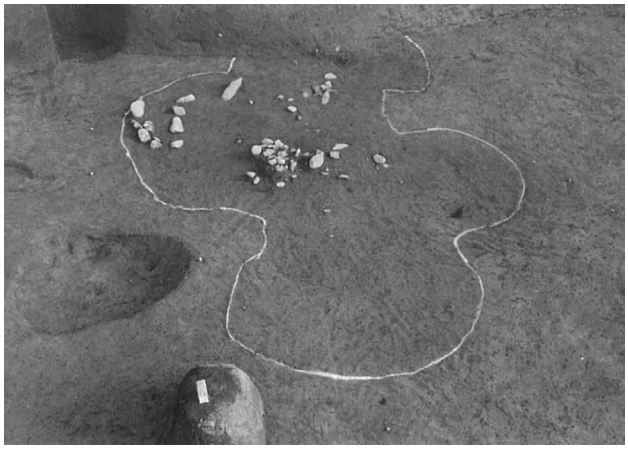
３区　39号土坑遺物出土状況



３区　39号土坑遺物出土状況

３区　41・42号土坑完掘状況

３区　遺構検出状況

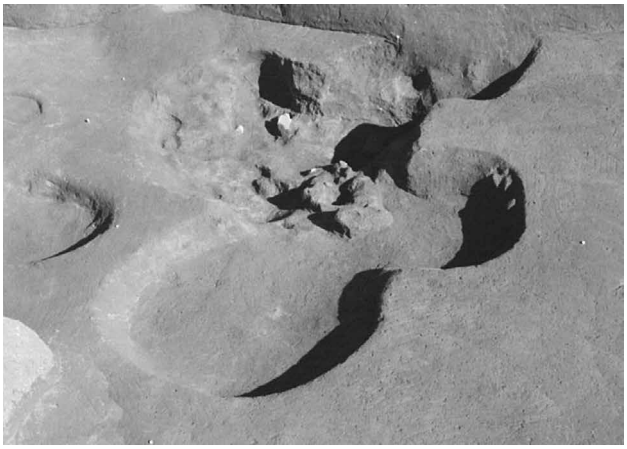


３区　44～46・55・85号土坑検出状況

図版22　第III面調査３

３区　44～46・55・85号土坑遺物出土状況

３区　44～46・55・85号土坑半截状況

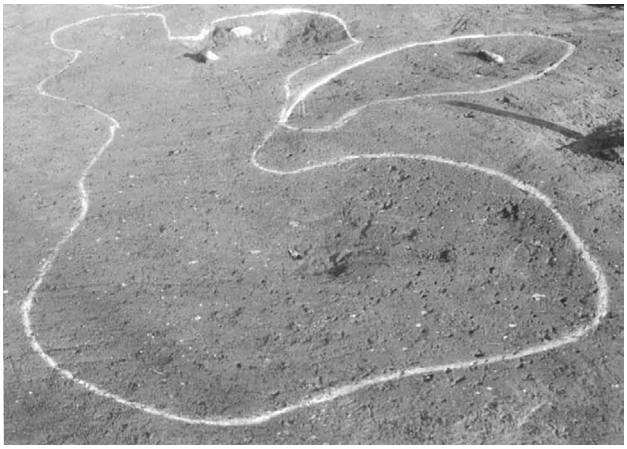


３区　44～46・55・85号土坑焼土検出状況

３区　44～46・55・85号土坑完掘状況

３区　48号土坑完掘状況

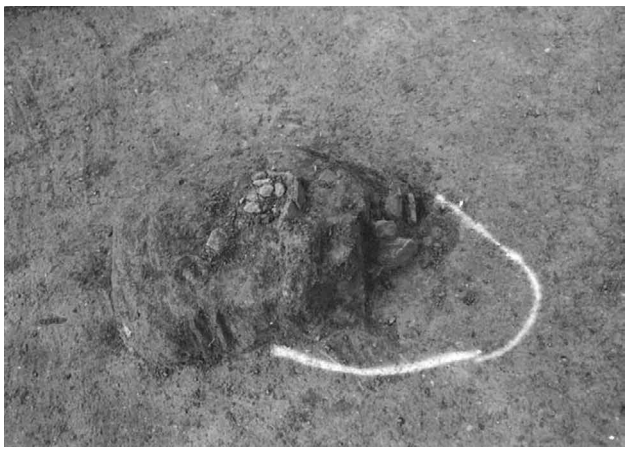
３区　54・89～91号土坑焼土検出状況



３区　62・73・105～107号土坑検出状況

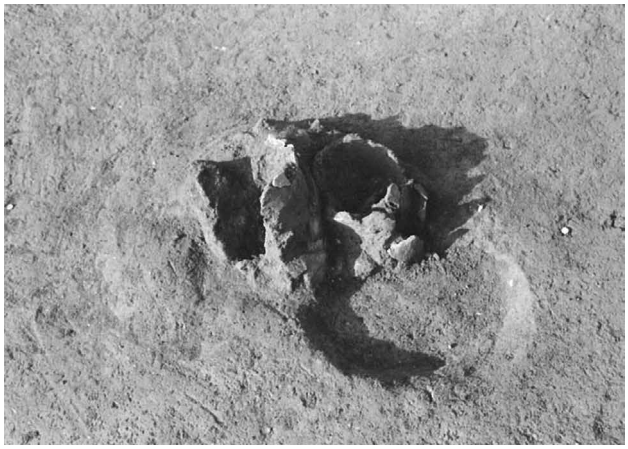
３区　62・73・105～107号土坑焼土検出状況

３区　62・73・105～107号土坑完掘状況



３区　75号土坑検出状況

３区　75号土坑半截状況



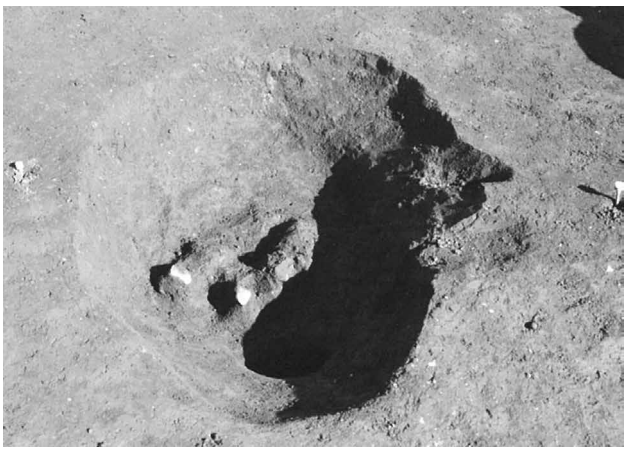
３区　75号土坑遺物出土状況

３区　92・100号土坑半截状況

３区　92・100・101号土坑完掘状況

３区　101号土坑完掘状況

３区　94号土坑半截状況



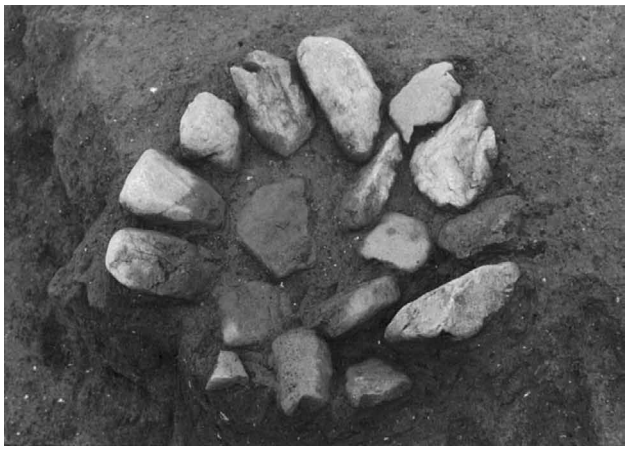
３区　94号土坑焼土検出状況

３区　98・103・104号土坑半截状況

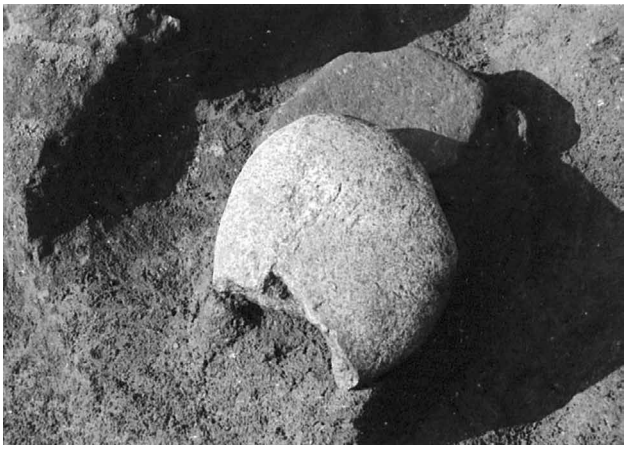
３区　１号配石検出状況

３区　１号配石検出状況

３区　１号配石・103号土坑検出状況



３区　１号配石検出状況



３区　98号土坑遺物出土状況

３区　98号土坑焼土半截状況

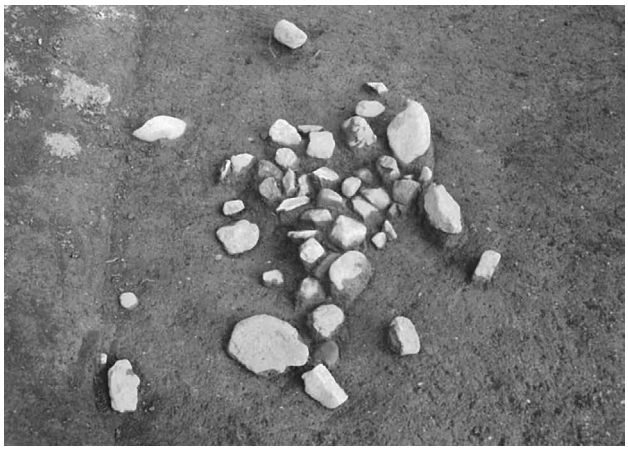
３区　97～99・102～104号土坑完掘状況

３区　１号集石上面検出状況

３区　１号集石下面検出状況

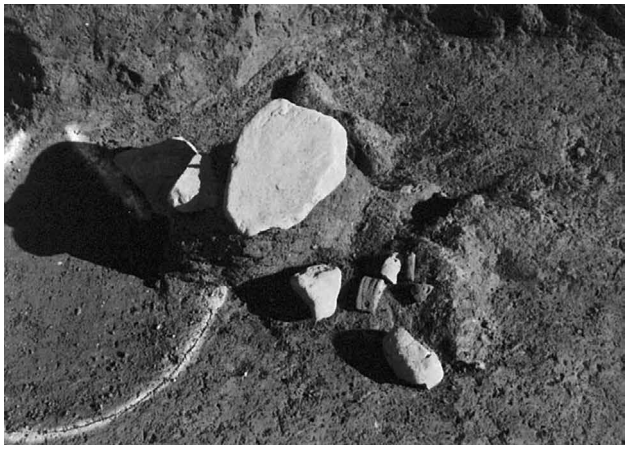
３区　２号集石検出状況

３区　３号集石検出状況



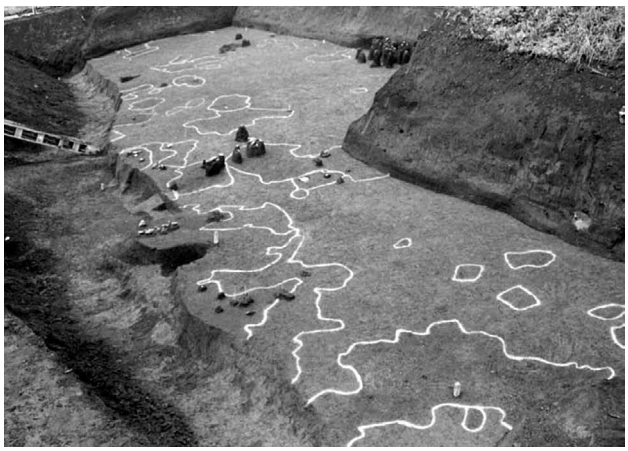
３区　４号集石検出状況

３区　30号焼土集中検出状況



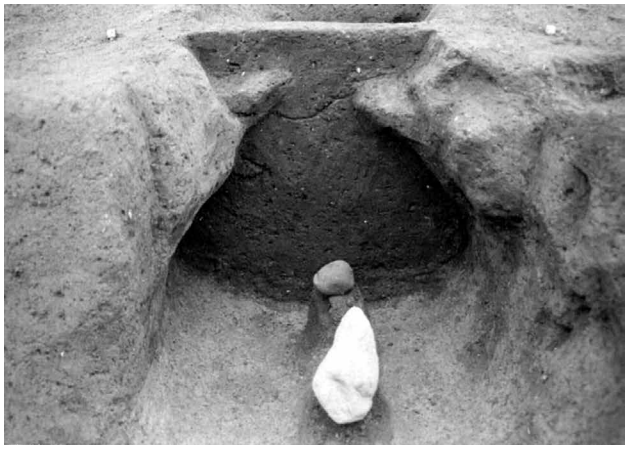
３区　29号焼土集中検出状況

３区　遺物出土状況



６区　遺構検出状況

６区　23号土坑検出状況



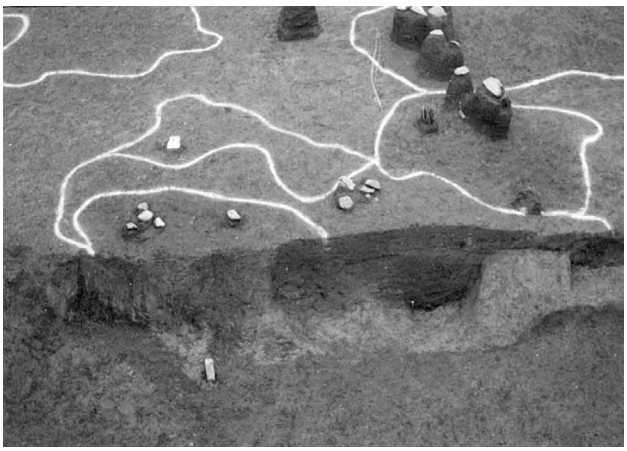
６区　23号土坑半截状況

６区　23号土坑完掘状況

６区　23号土坑完掘状況

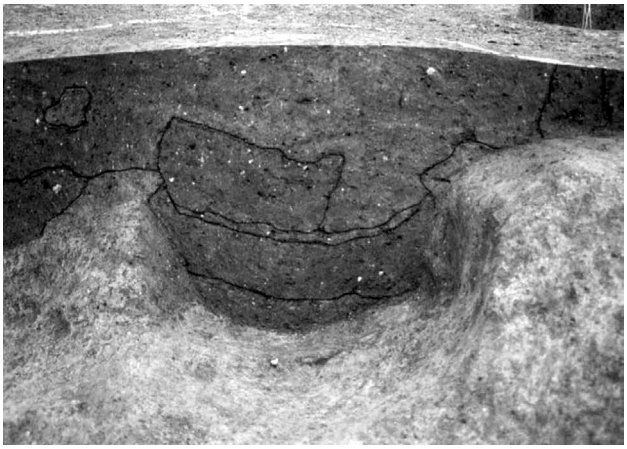
６区　23号土坑完掘状況

６区　37号土坑礫出土状況

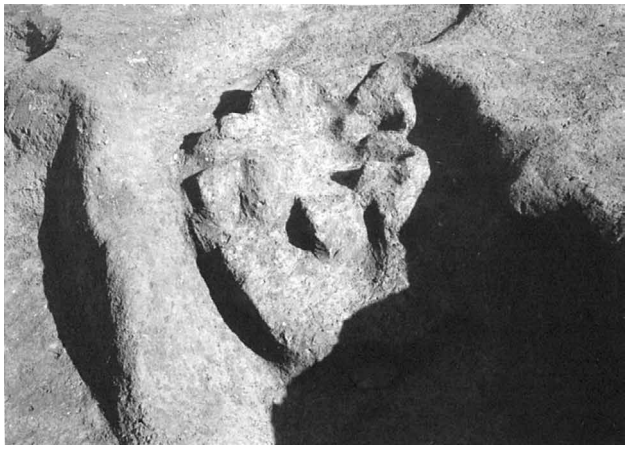


６区　39～42号土坑検出状況

６区　39～42号土坑半截状況



６区　40号土坑半截状況

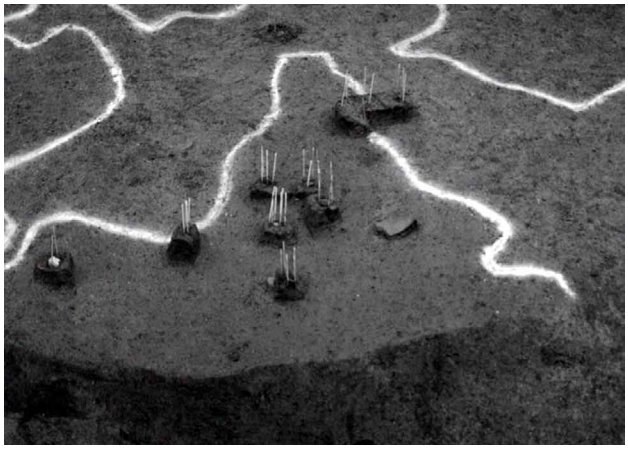


６区　41号土坑焼土検出状況

６区　41号土坑焼土半截状況

６区　41号土坑完掘状況

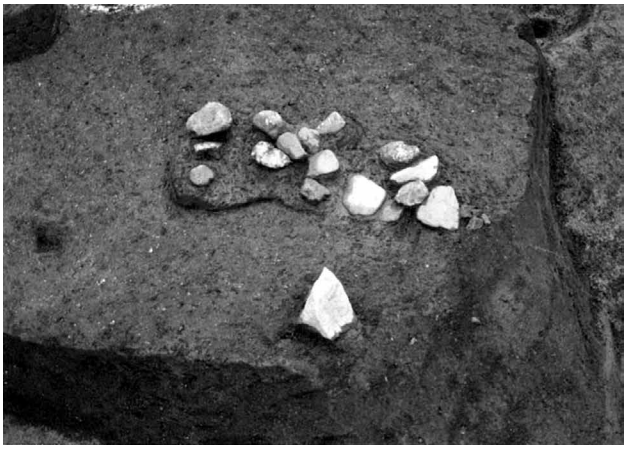
６区　39～42号土坑完掘状況



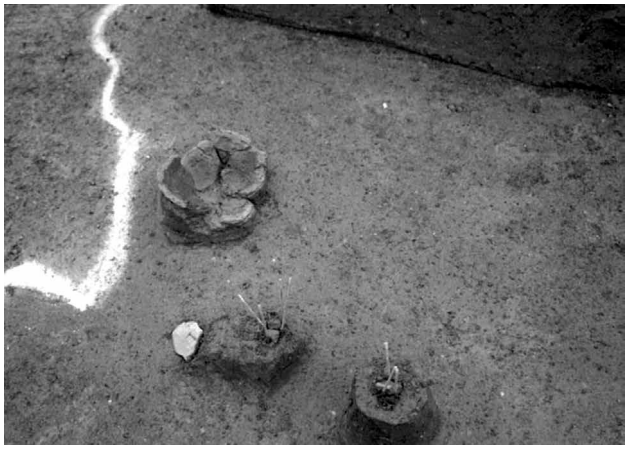
６区　57号土坑検出状況

６区　57号土坑半截状況

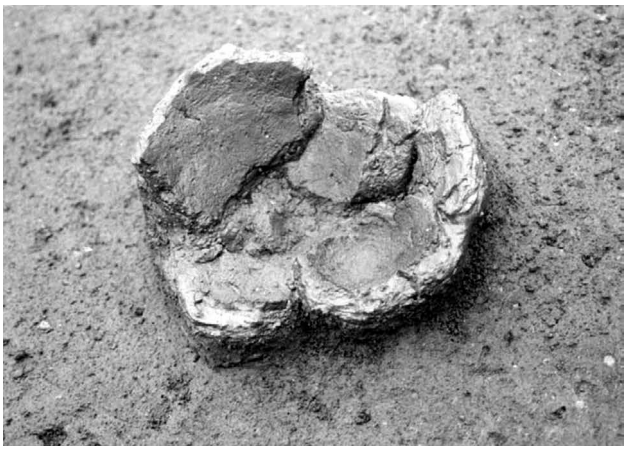
６区　57号土坑完掘状況



６区　１号集石検出状況



６区　36号土坑遺物出土状況



６区　36号土坑遺物出土状況

６区　遺構完掘状況

５区　１号集石検出状況

５区　１号集石検出状況

5区　1号集石検出状況

5区　1号焼土集中半截状況

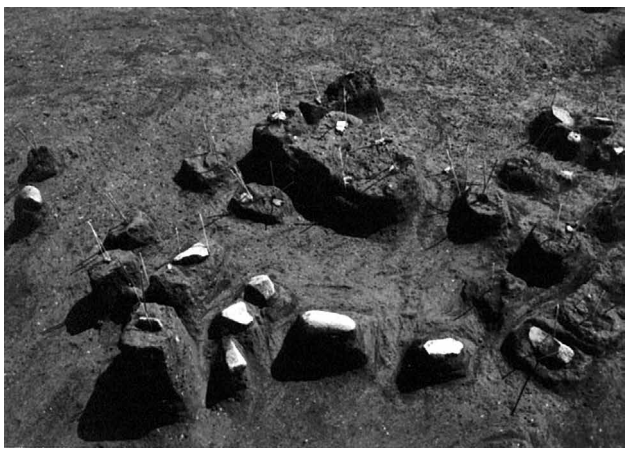
5区　1号焼土集中完掘状況

5区　1号礫集中検出状況

5区　1号礫集中遺物出土状況

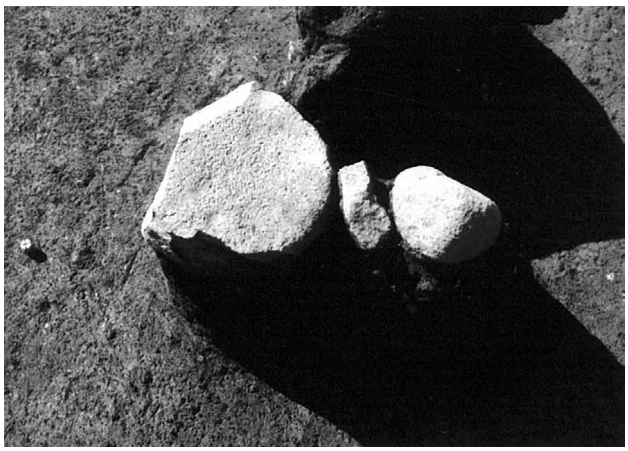
5区　1号礫集中遺物出土状況

5区　石器集中地点遺物出土状況

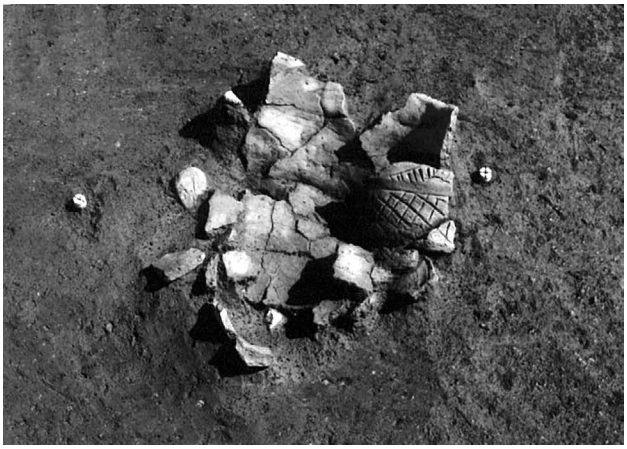


5区　石器集中地点遺物出土状況

5区　石器集中地点遺物出土状況

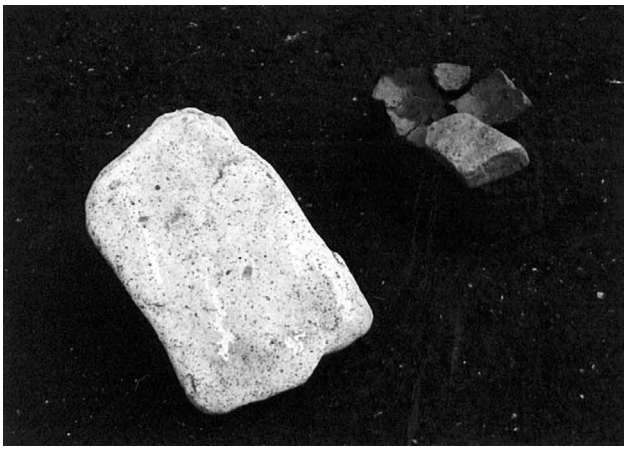


5区　石器集中地点遺物出土状況



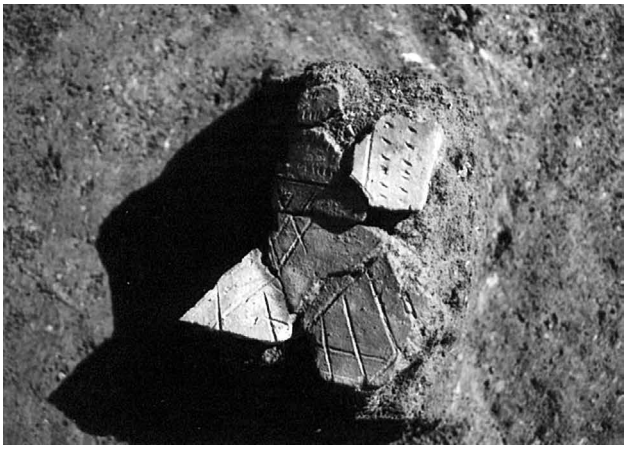
5区　土器集中地点１遺物出土状況

5区　土器集中地点１遺物出土状況

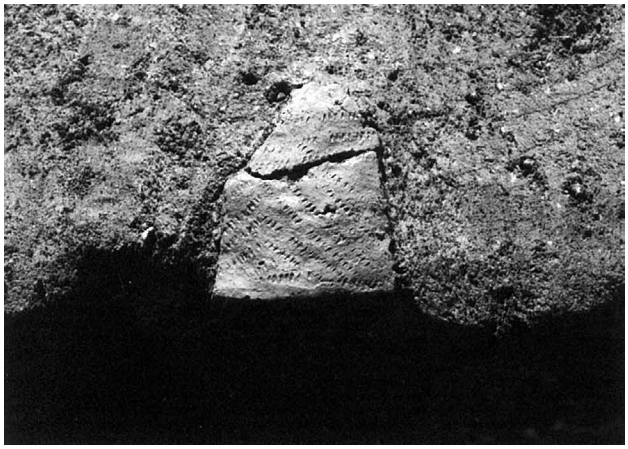


5区　土器集中地点２遺物出土状況

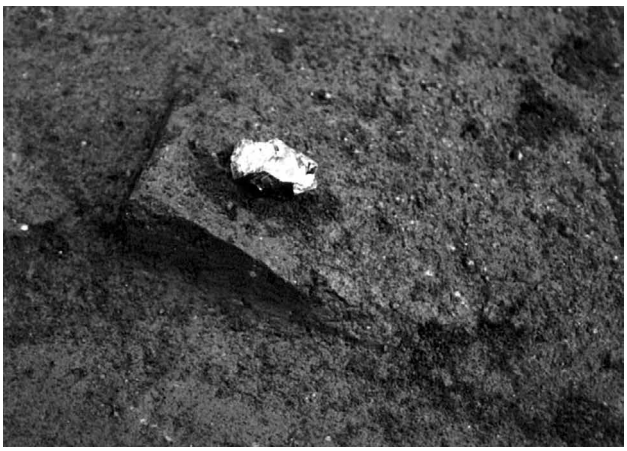
5区　遺物出土状況



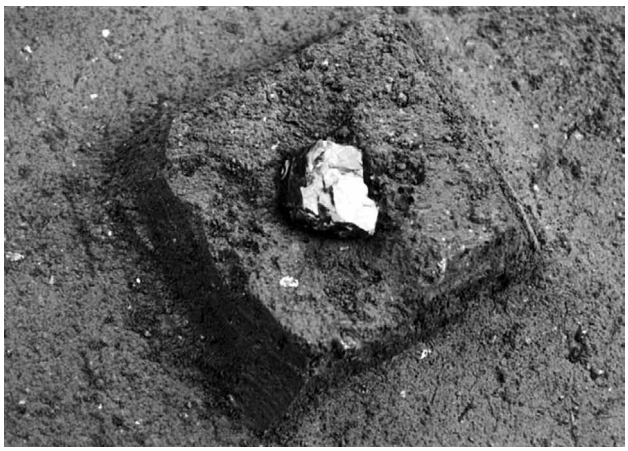
5区　遺物出土状況



5区　遺物出土状況

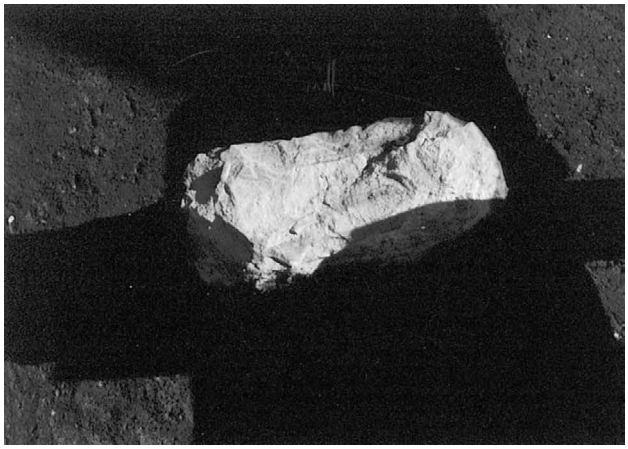


5区　遺物出土状況



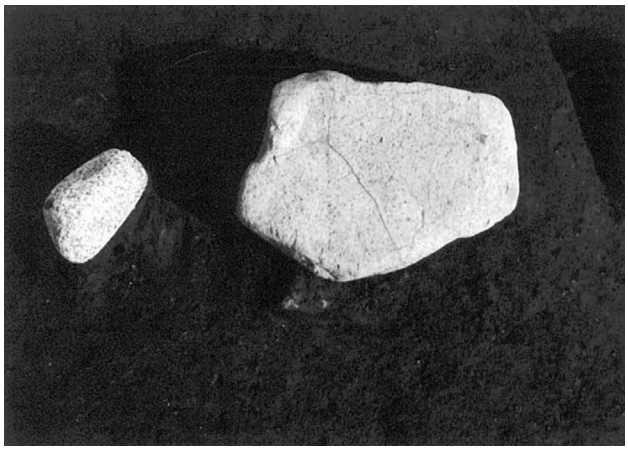
5区　遺物出土状況

5区　遺物出土状況



5区　遺物出土状況

5区　遺物出土状況



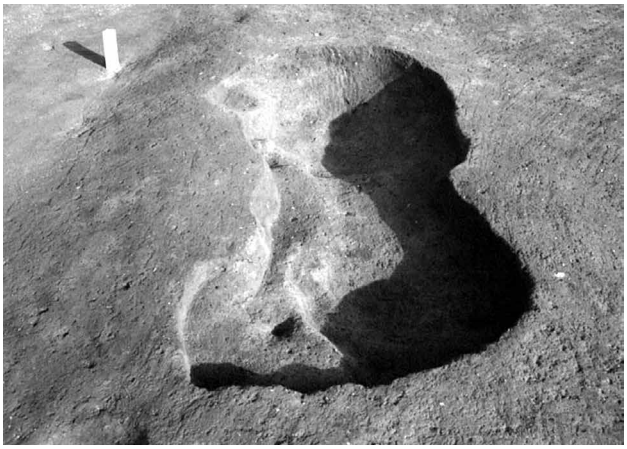
5区　遺物出土状況

5区　58号土坑検出状況

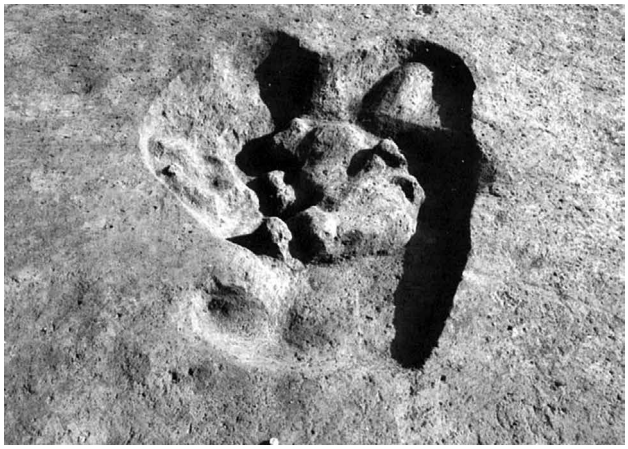
5区　58号土坑半截状況

5区　58号土坑礫・焼土検出状況

5区　58号土坑礫・焼土検出状況

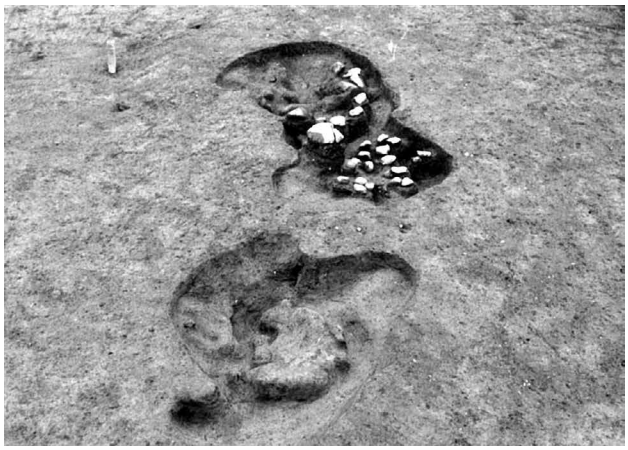


5区　58号土坑完掘状況



5区　59号土坑焼土検出状況

5区　59号土坑焼土半截状況

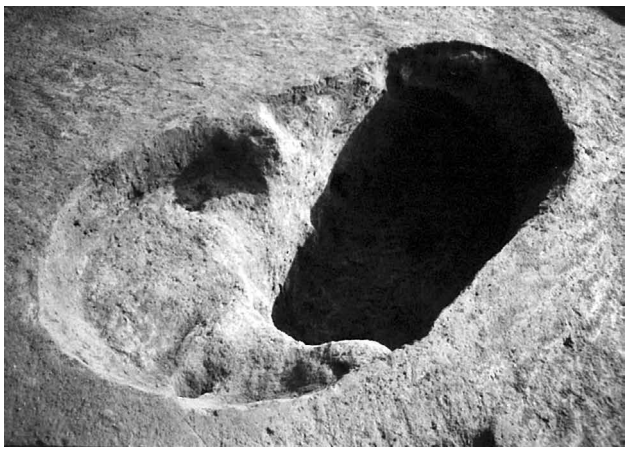


5区　58・59号土坑礫・焼土検出状況

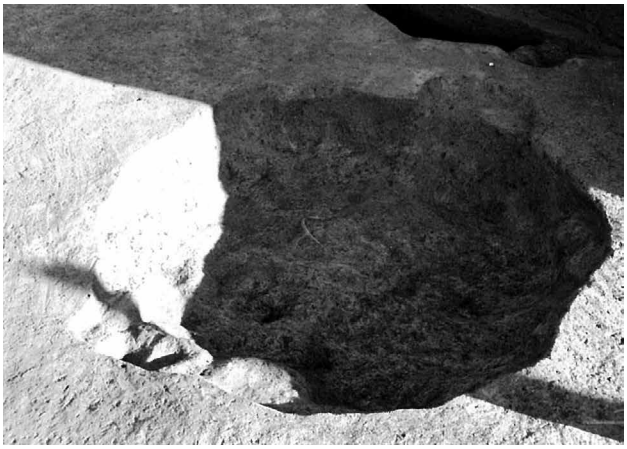
5区　58・59号土坑完掘状況

5区　63号土坑遺物出土状況

5区　63号土坑遺物出土状況



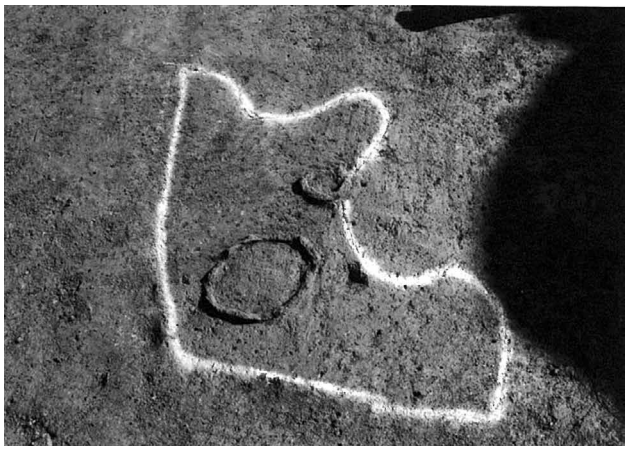
5区　67号土坑完掘状況



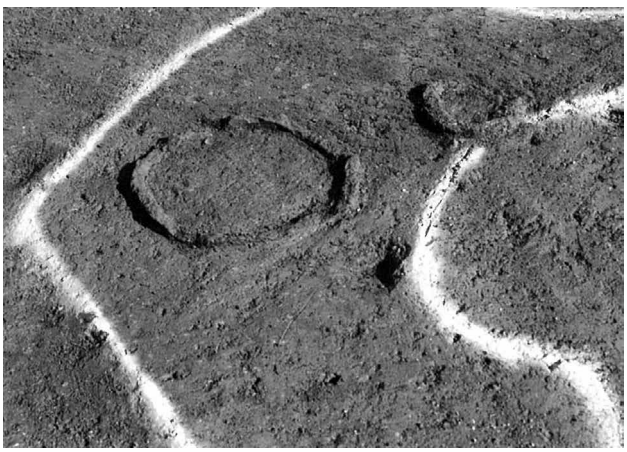
5区　74号土坑完掘状況

5区　75号土坑礫検出状況

5区　75号土坑完掘状況



5区　77号土坑遺物出土状況



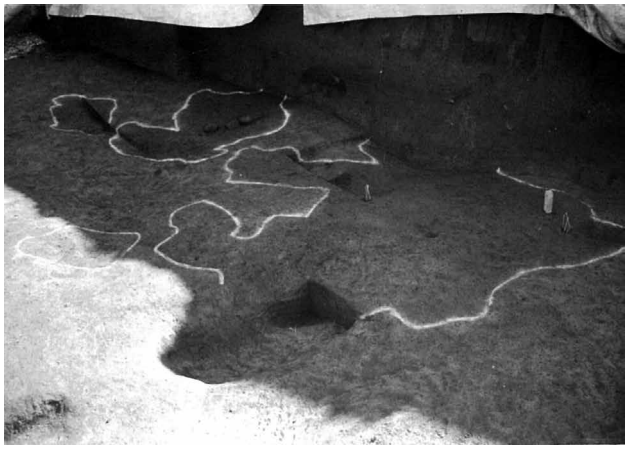
5区　77号土坑遺物出土状況

5区　77号土坑完掘状況

5区　78号土坑焼土検出状況

5区　79・80号土坑完掘状況

5区　81号土坑完掘状況



5区　82～88号土坑検出状況

5区　82～86号土坑礫検出状況

5区　82号土坑礫検出状況

5区　83・84号土坑焼土検出状況

5区　83・84号土坑焼土半截状況

5区　83号土坑焼土検出状況

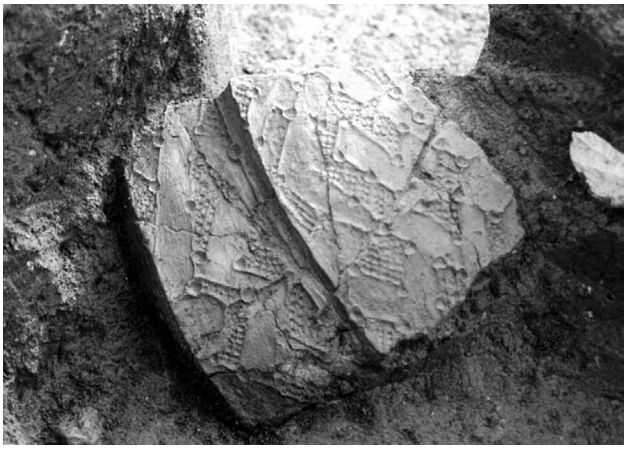
5区　83号土坑焼土半截状況

5区　82～86号土坑完掘状況

5区　83～85・87・88号土坑完掘状況

11区　1号集石検出状況

11区　1号集石遺物出土状況

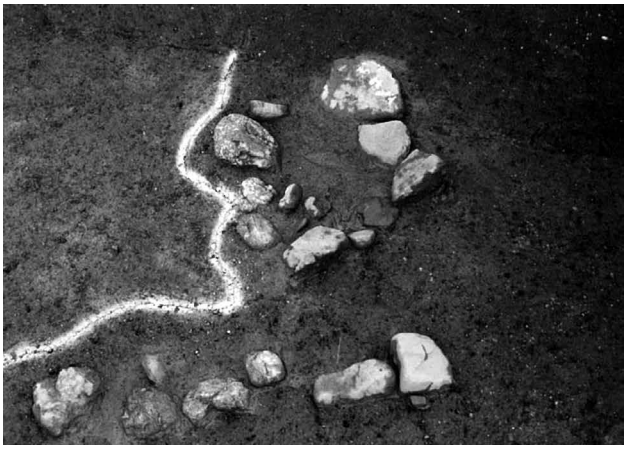


11区　1号集石遺物出土状況

11区　1号集石遺物出土状況

11区　１号集石・土器集中地点検出状況

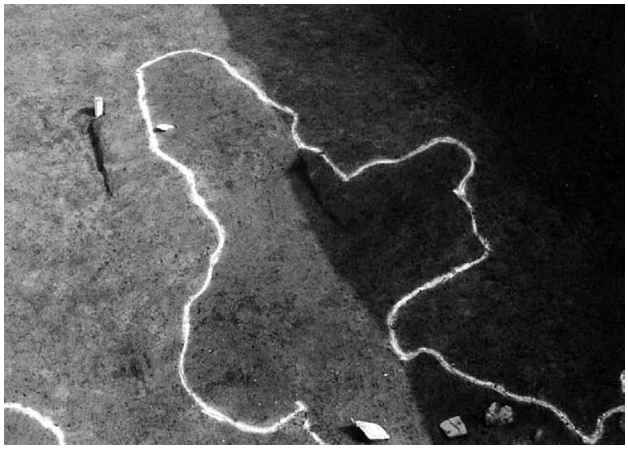
11区　１号集石検出状況



11区　１号配石検出状況

11区　土器集中地点遺物出土状況

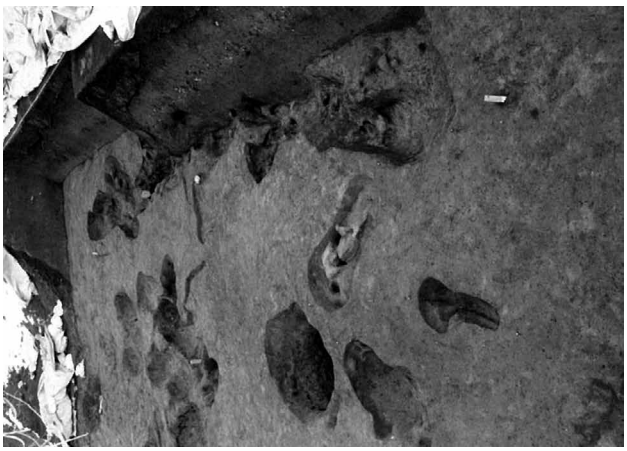
11区　遺構検出状況



11区　４～６号土坑検出状況

11区　７・８号土坑検出状況

11区　６号土坑半截状況



11区　遺構完掘状況

11区　4～8号土坑完掘状況

11区　4・5号土坑完掘状況

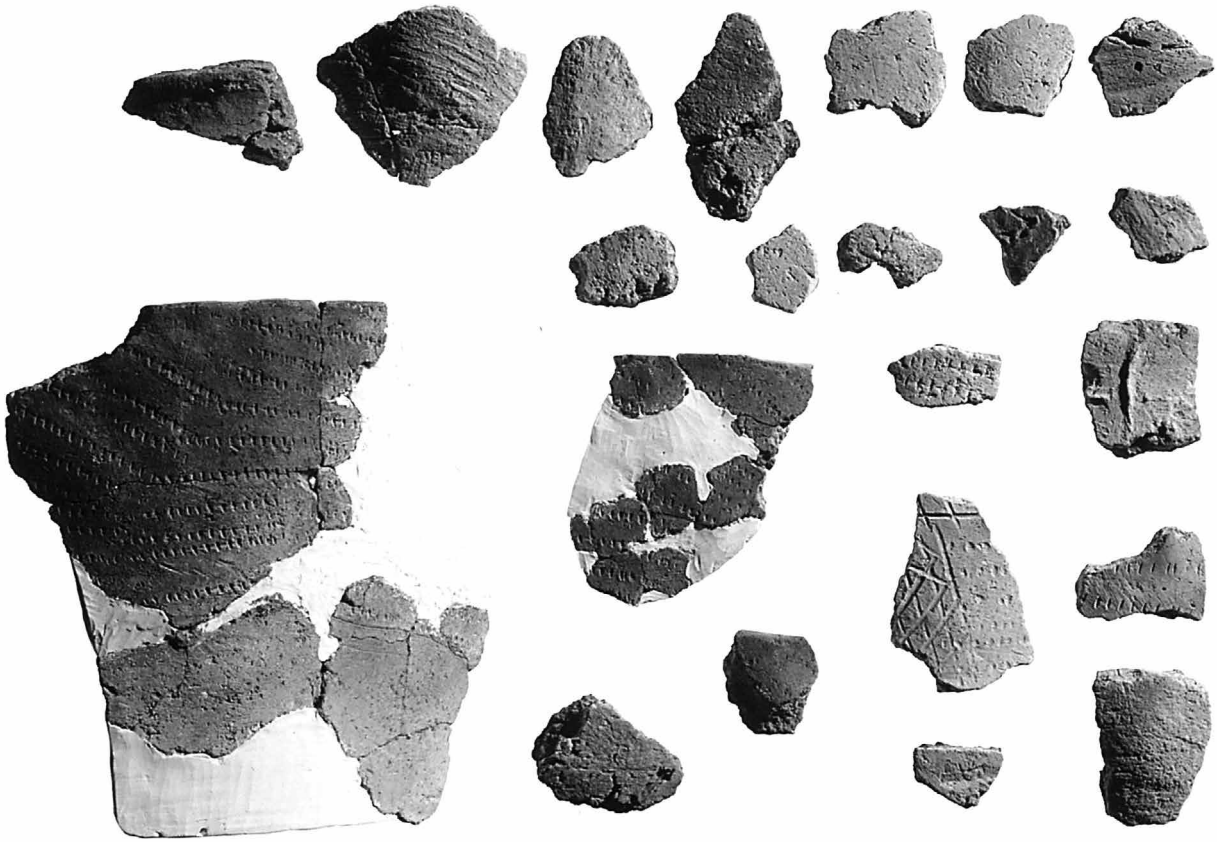
11区　6号土坑完掘状況

11区　8号土坑完掘状況

11区　12・13号土坑完掘状況

11区　11～15号土坑完掘状況

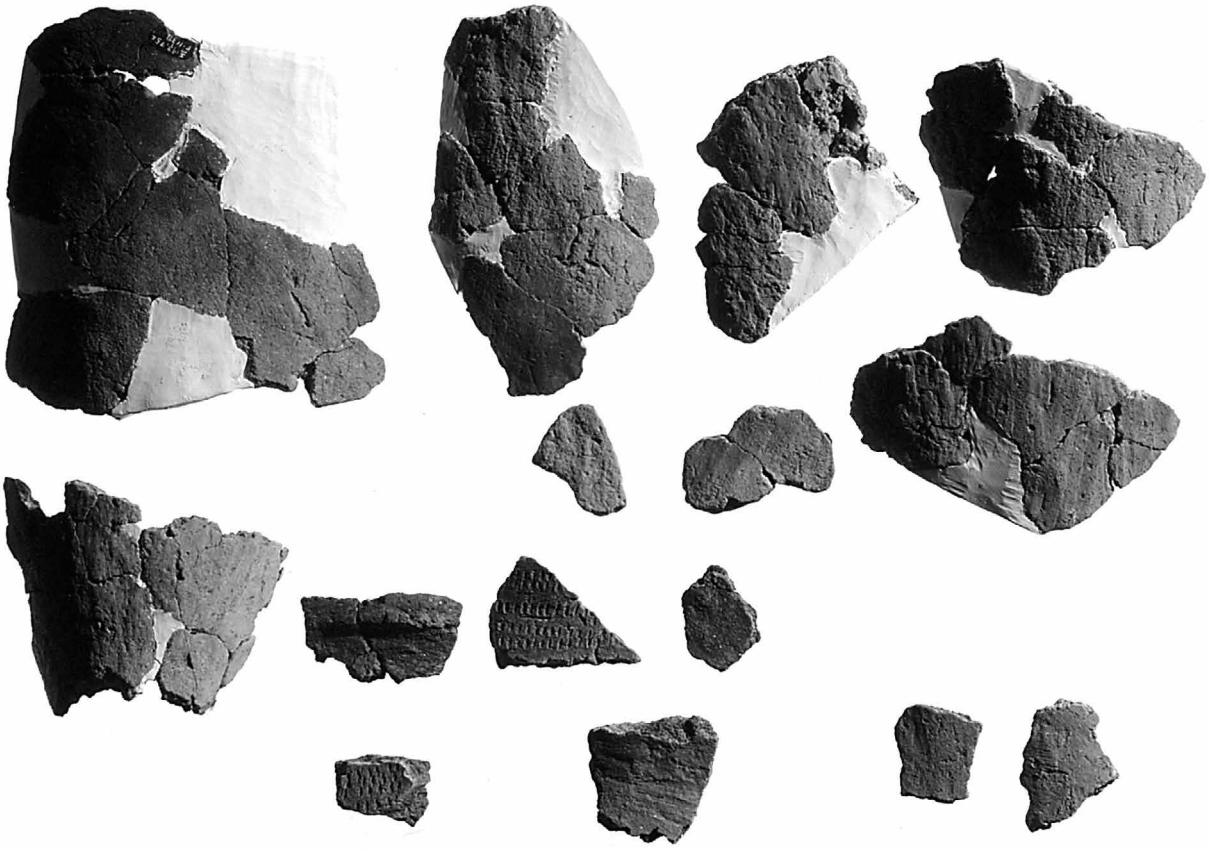
11区　16号土坑焼土検出状況



遺構出土縄文土器１

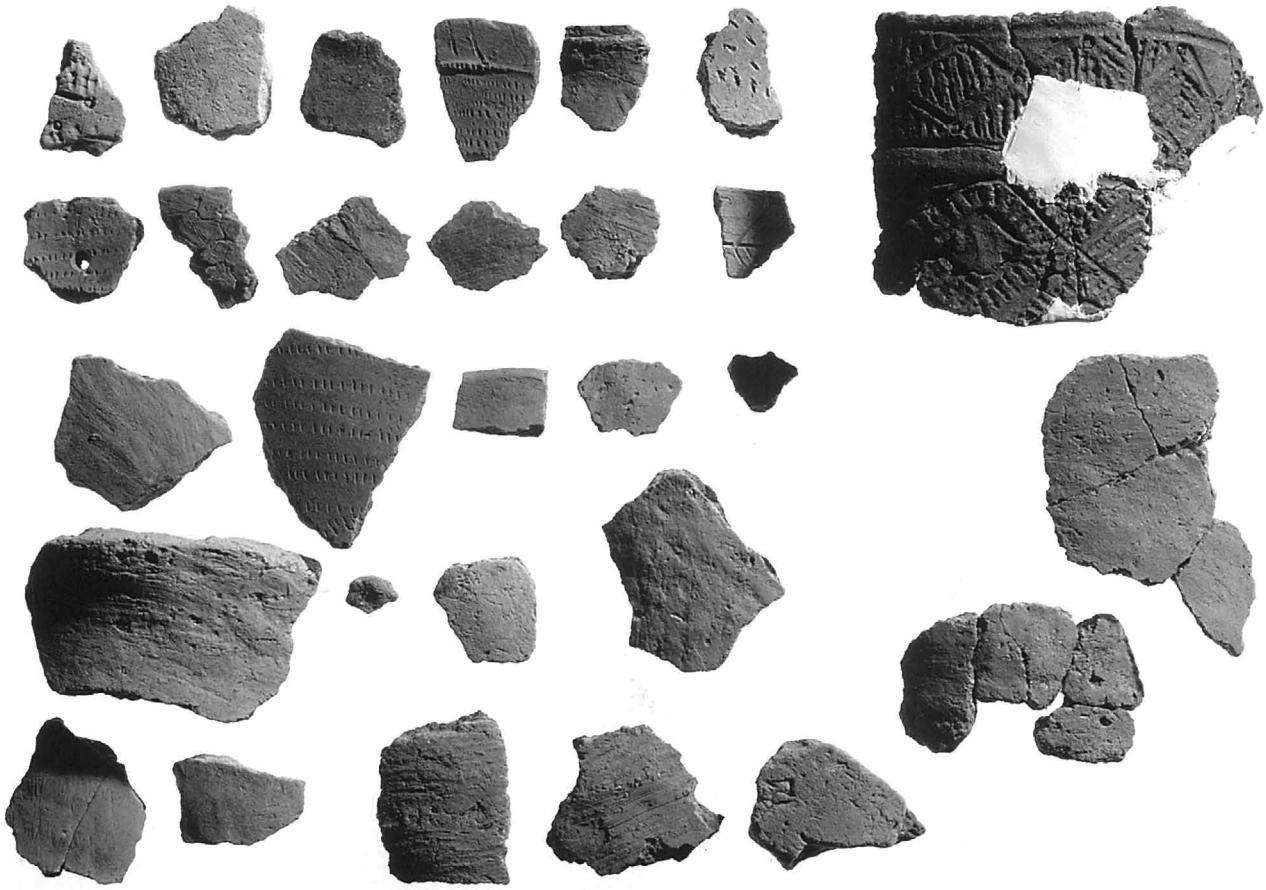
遺構出土縄文土器２

遺構出土縄文土器３

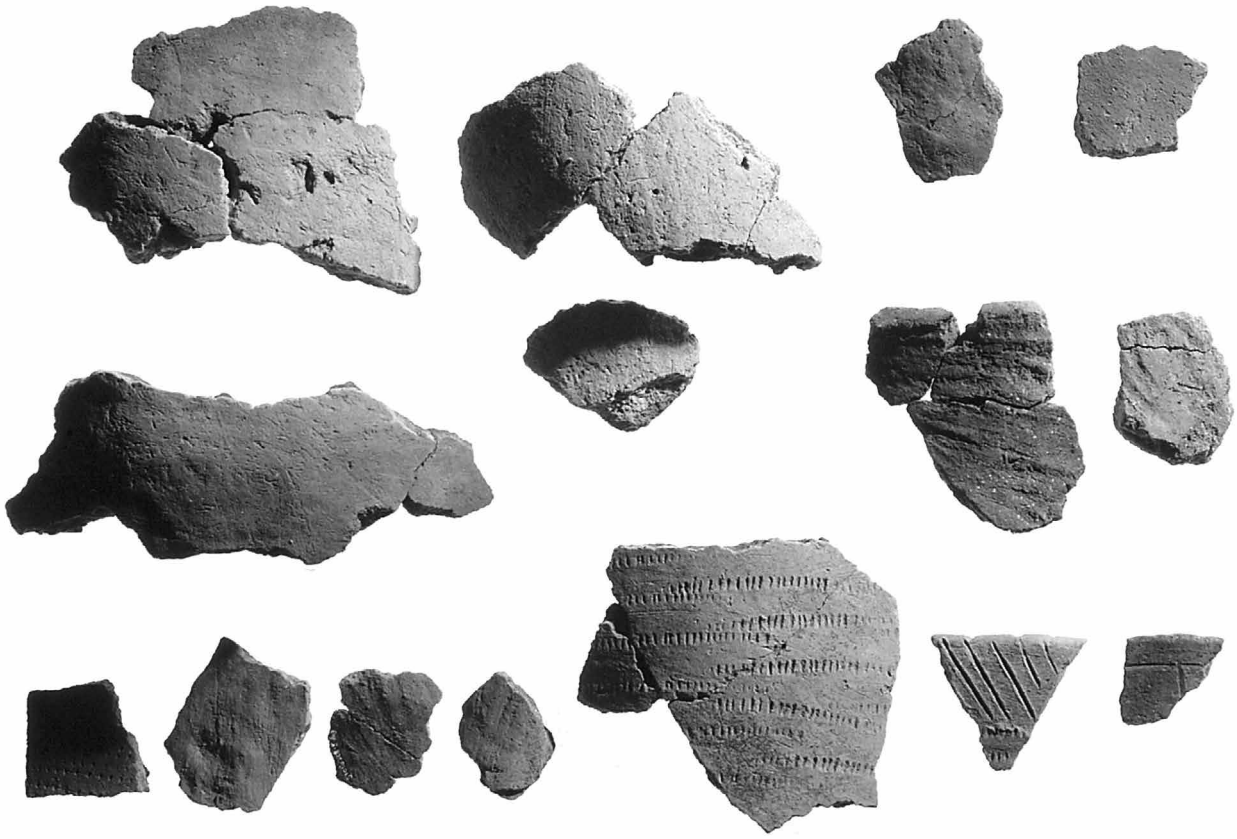


遺構出土縄文土器４

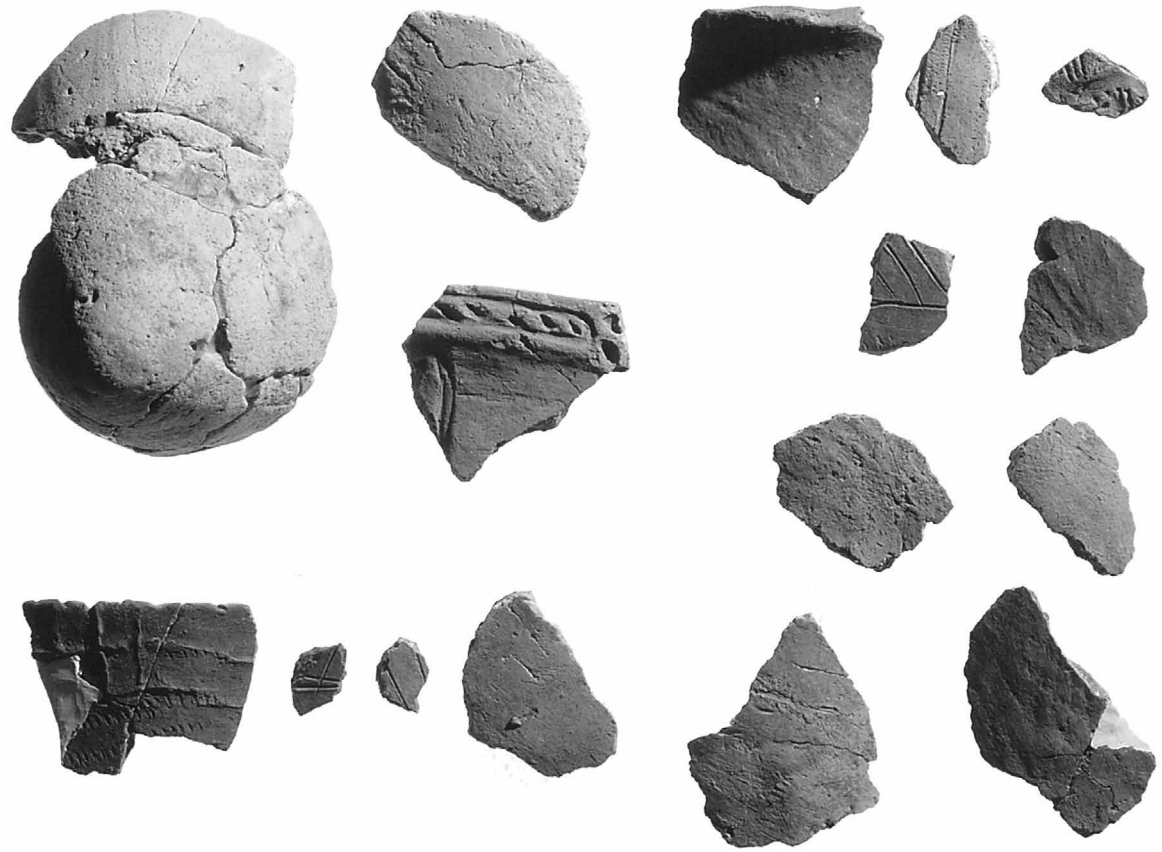
図版40　遺構出土縄文土器３



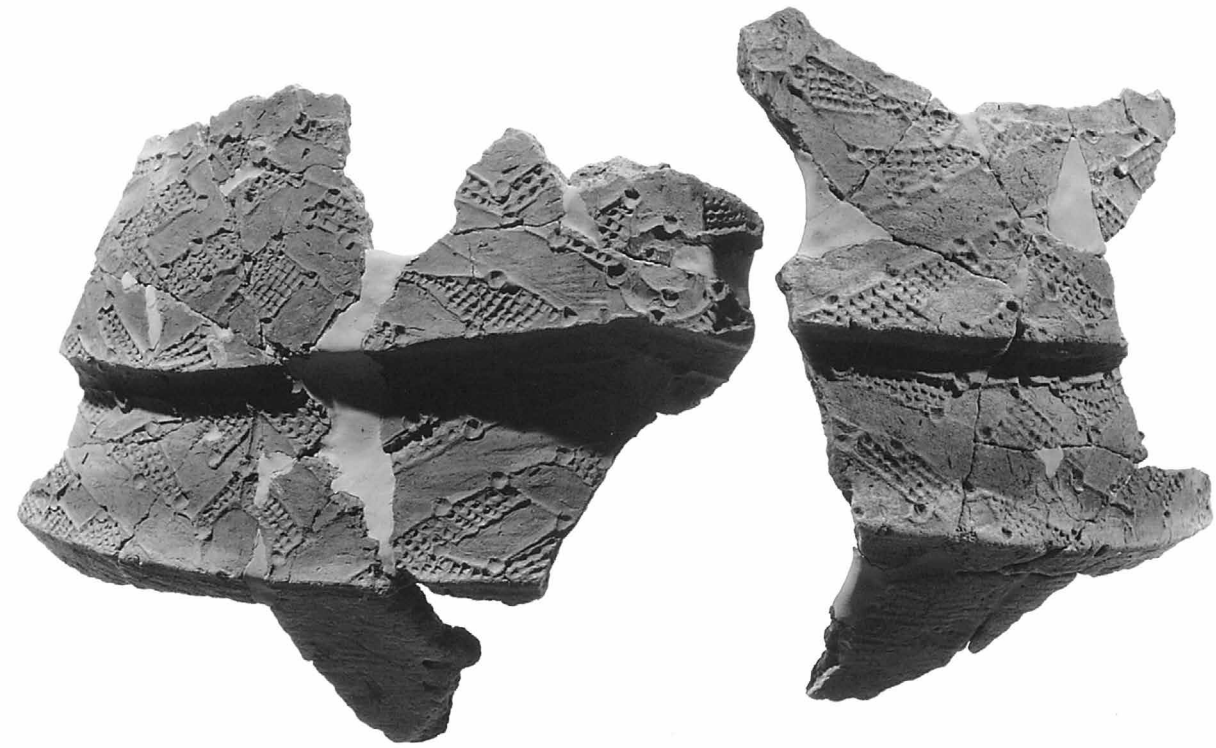
遺構出土縄文土器５



遺構出土縄文土器６

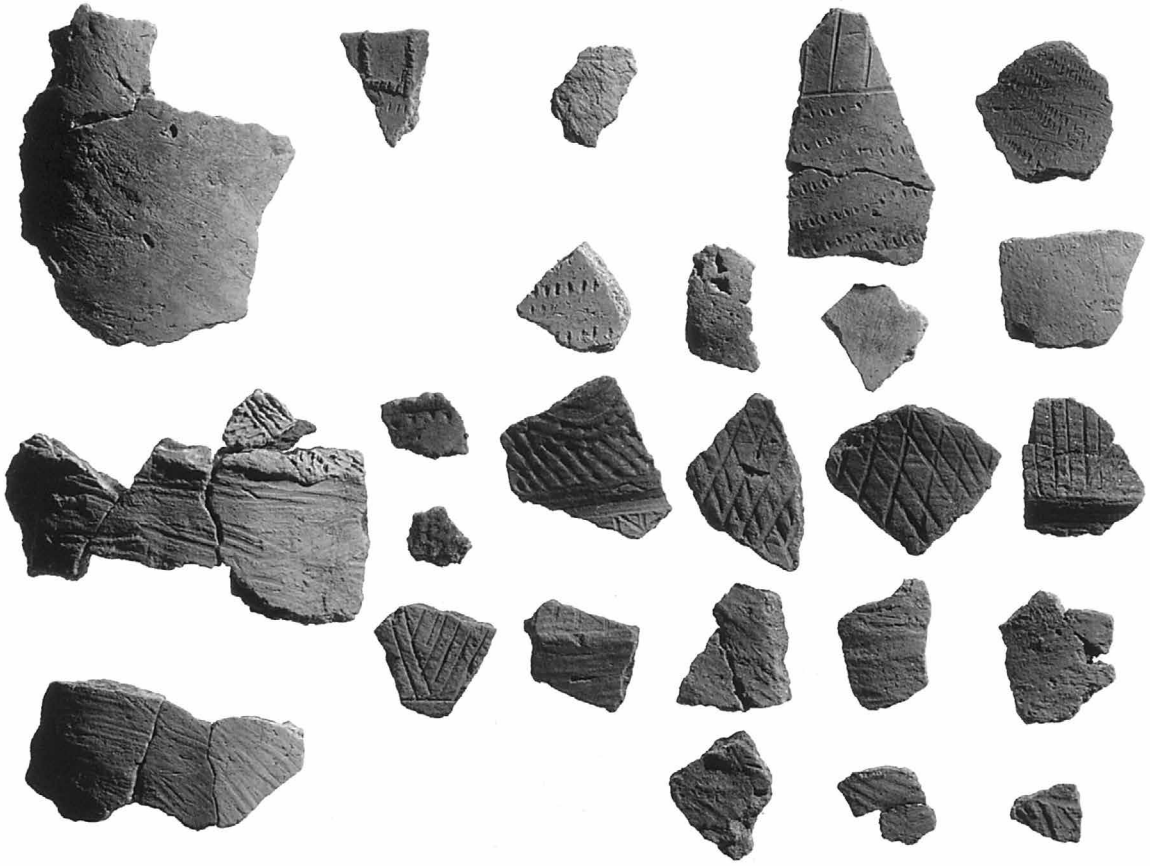


遺構出土縄文土器７



遺構出土縄文土器８

図版42　遺構出土縄文土器５

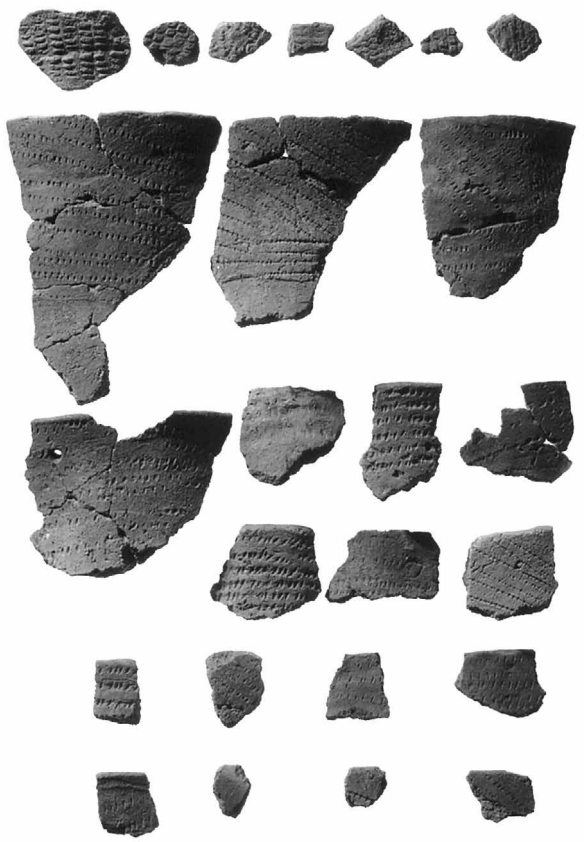


遺構出土縄文土器９

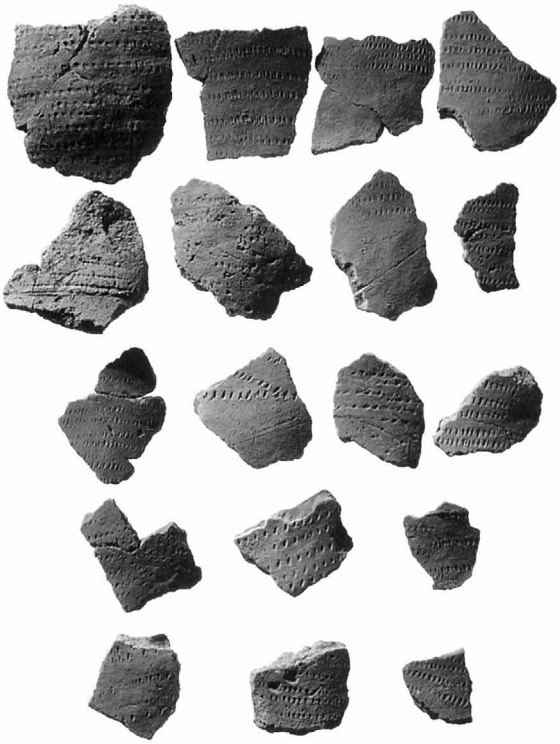
遺構出土縄文土器10

遺構出土縄文土器11

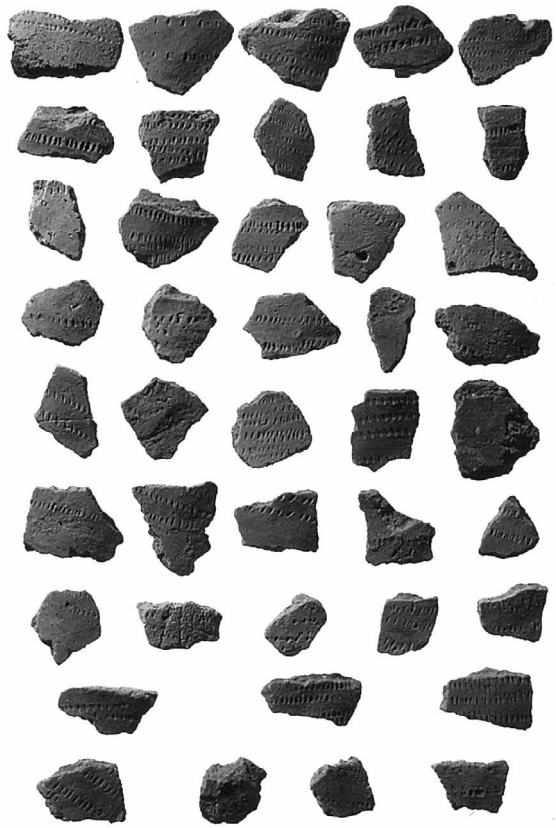
図版44　遺構外出土縄文土器１



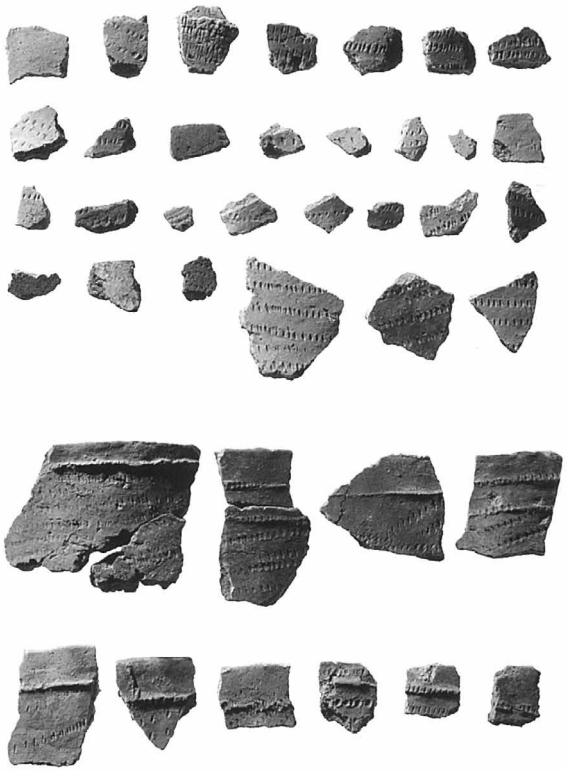
遺構外出土縄文早期土器１



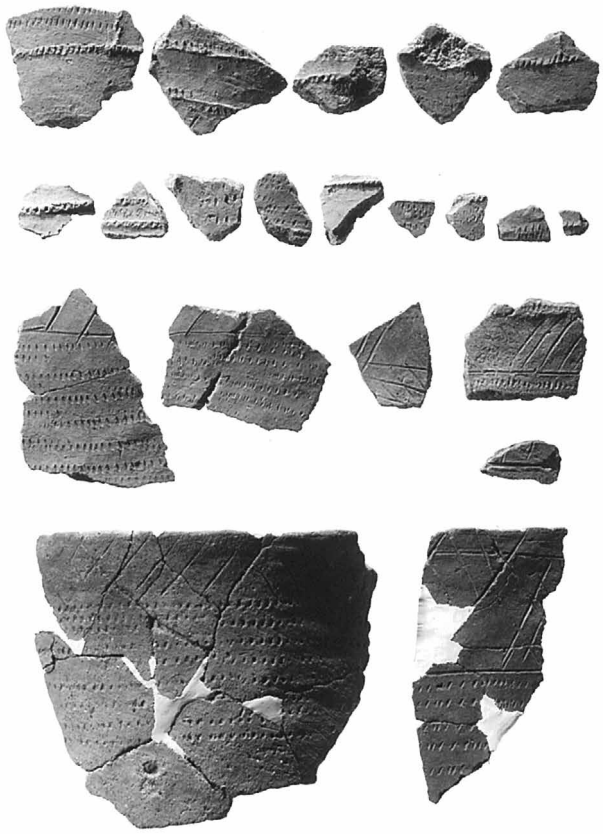
遺構外出土縄文早期土器２



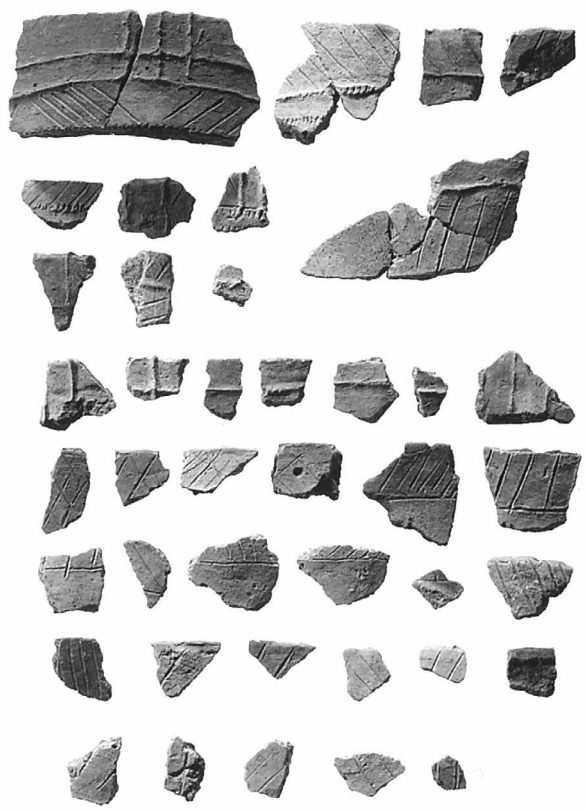
遺構外出土縄文早期土器３



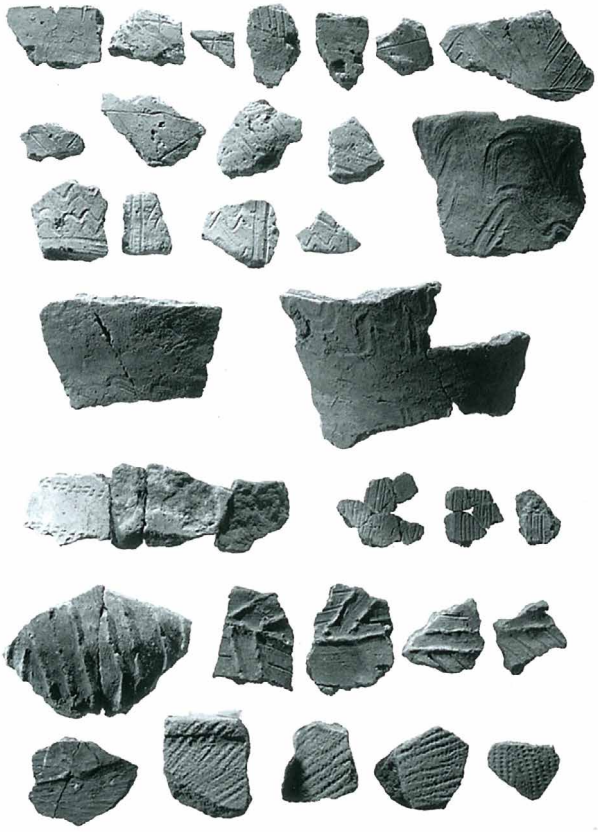
遺構外出土縄文早期土器４



遺構外出土縄文早期土器５



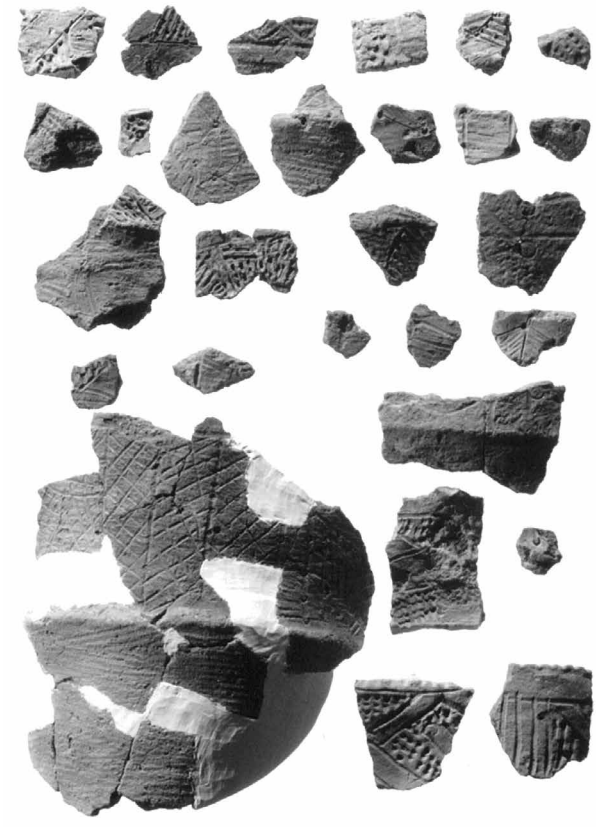
遺構外出土縄文早期土器６



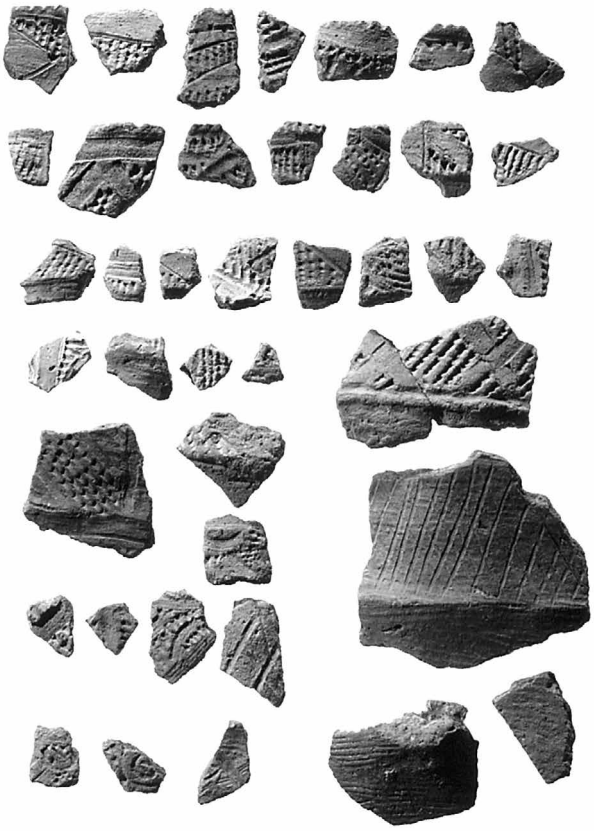
遺構外出土縄文早期土器７

遺構外出土縄文早期土器８

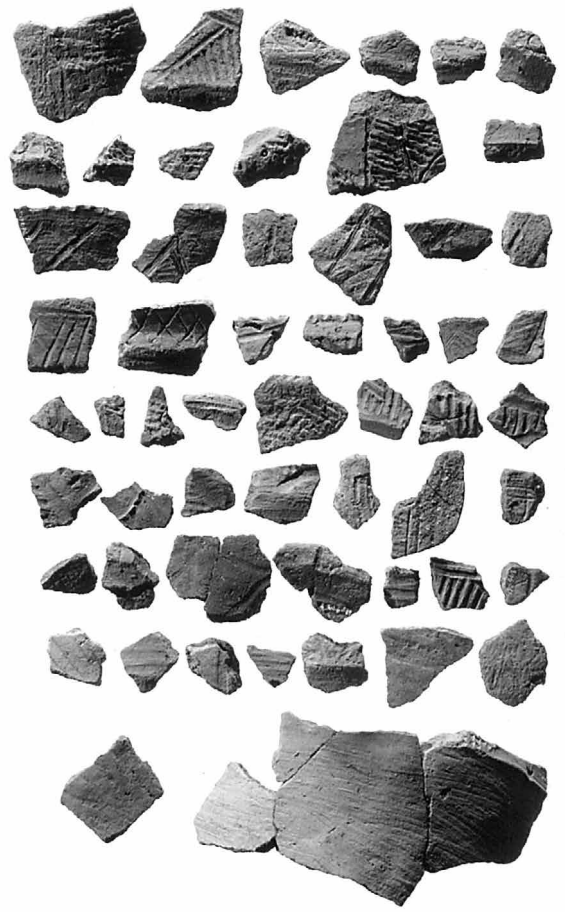
図版46　遺構外出土縄文土器３



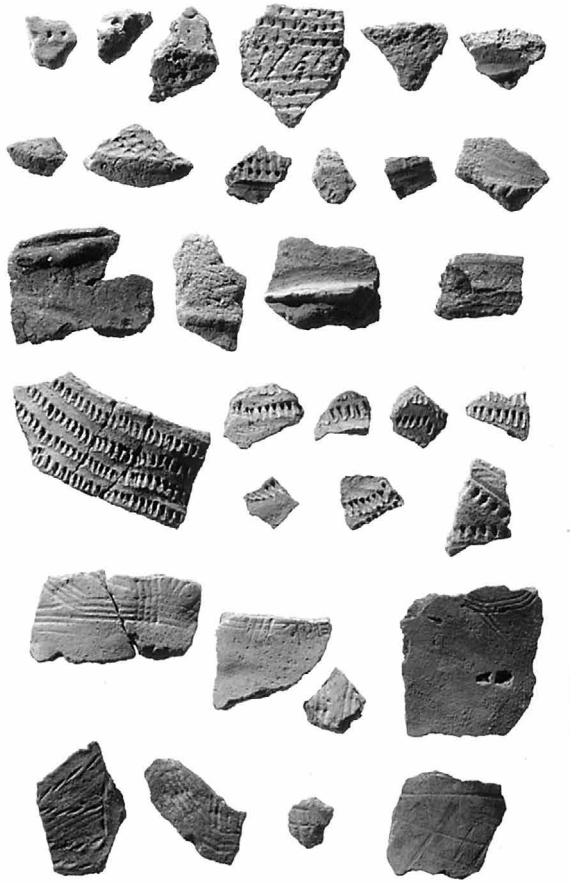
遺構外出土縄文早期土器９



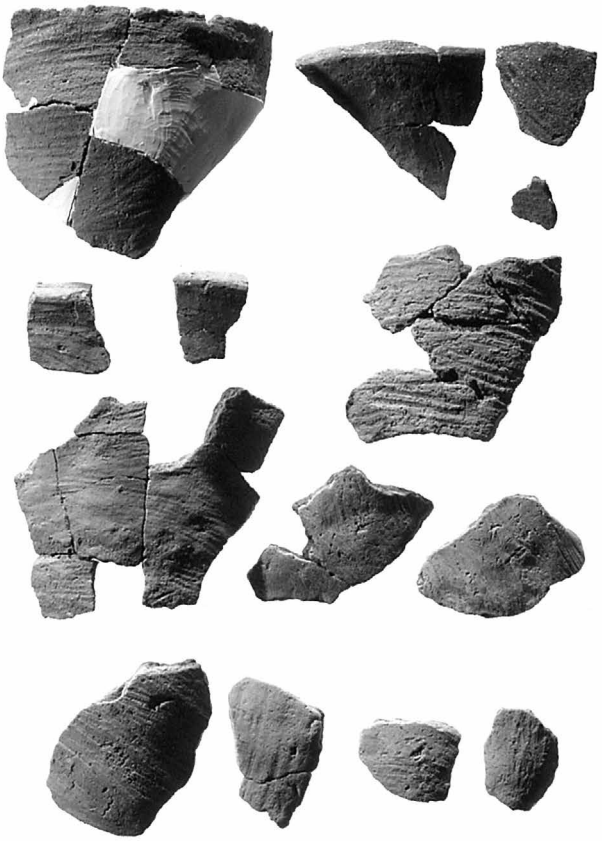
遺構外出土縄文早期土器10



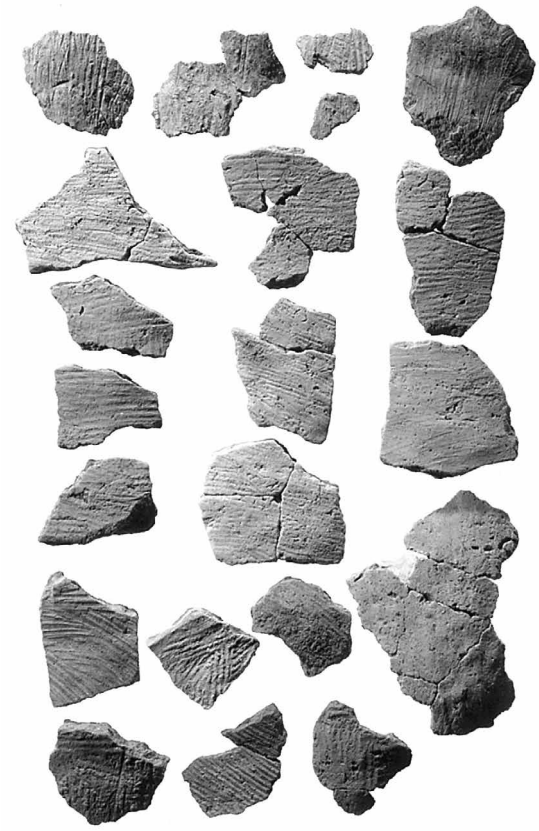
遺構外出土縄文早期土器11



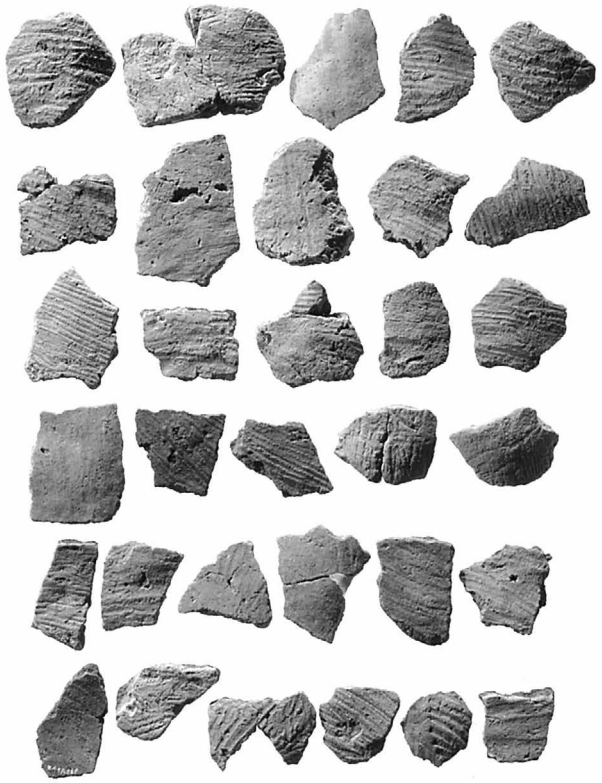
遺構外出土縄文早期土器12



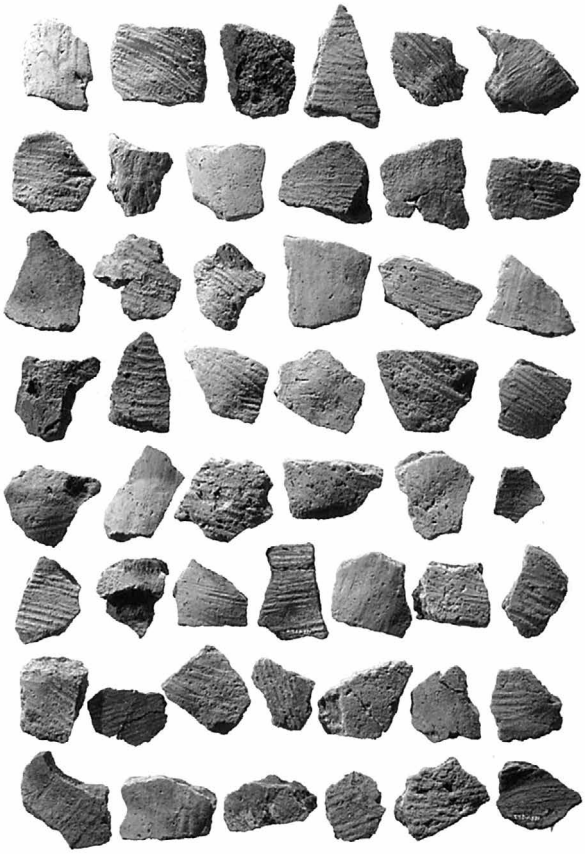
遺構外出土縄文早期土器13



遺構外出土縄文早期土器14

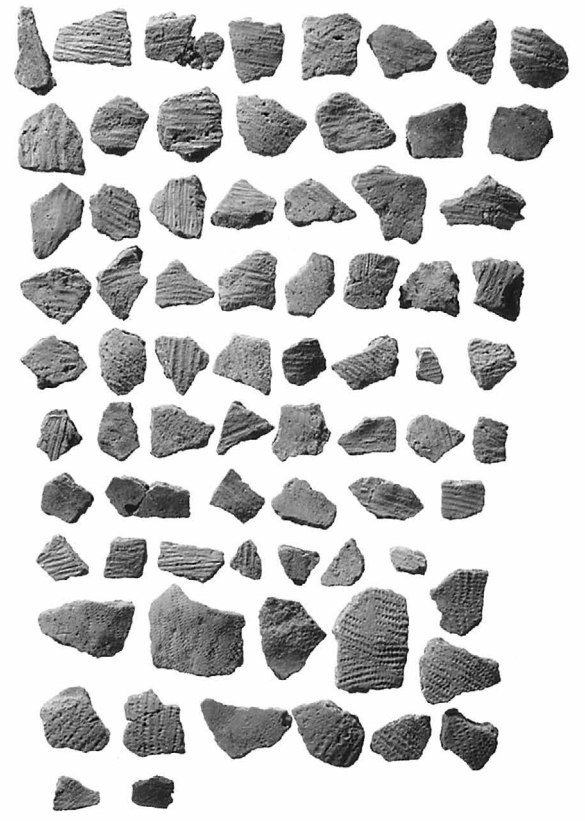


遺構外出土縄文早期土器15

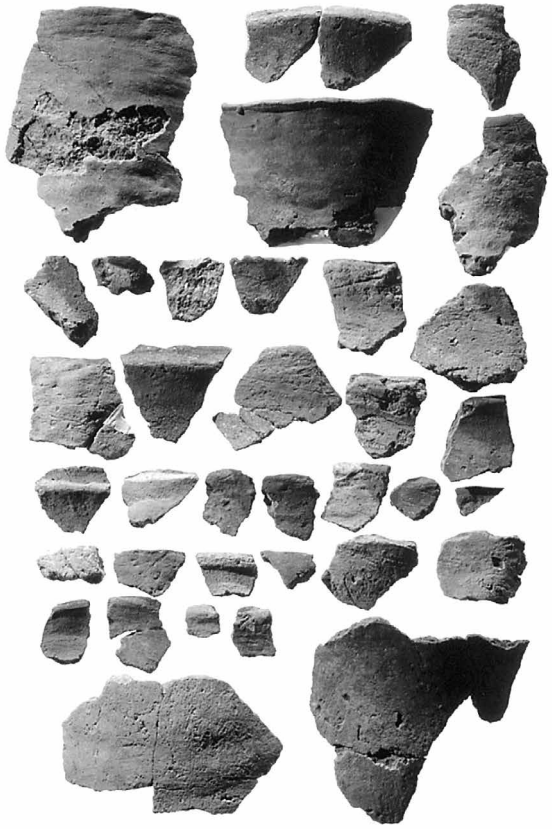


遺構外出土縄文早期土器16

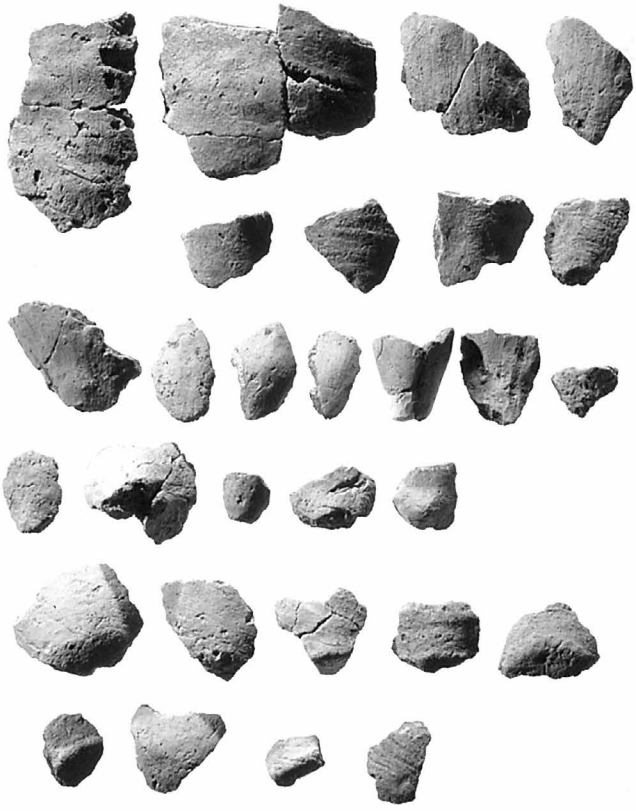
図版48　遺構外出土縄文土器５



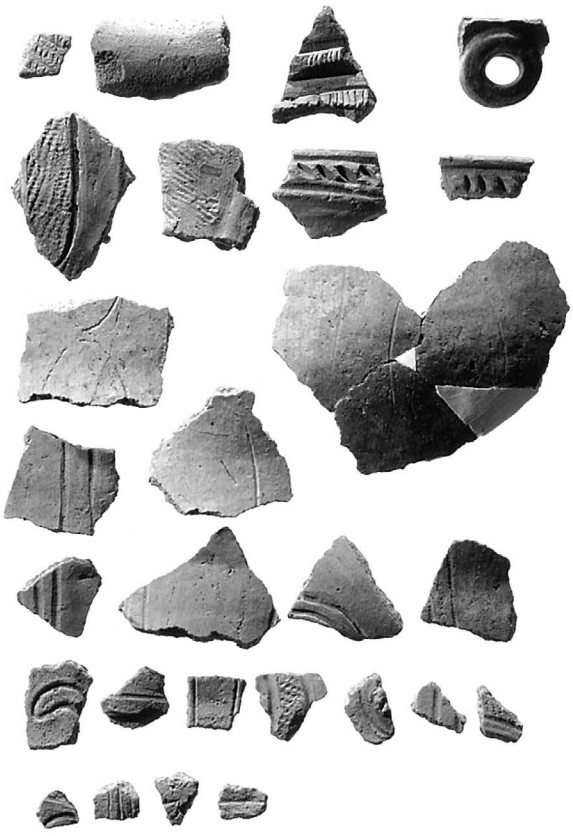
遺構外出土縄文早期土器17



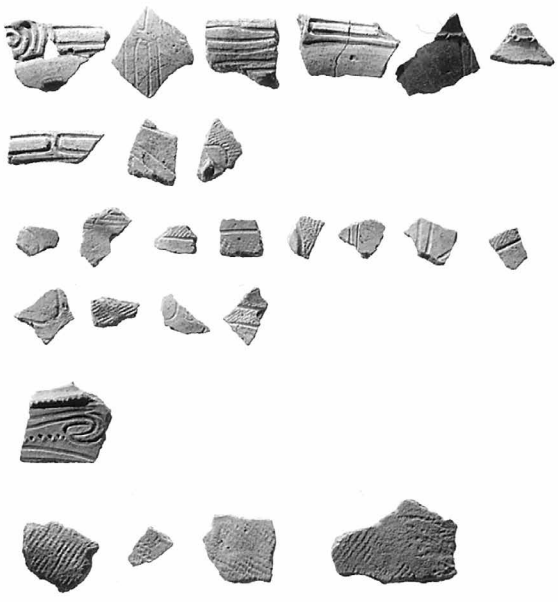
遺構外出土縄文早期土器18



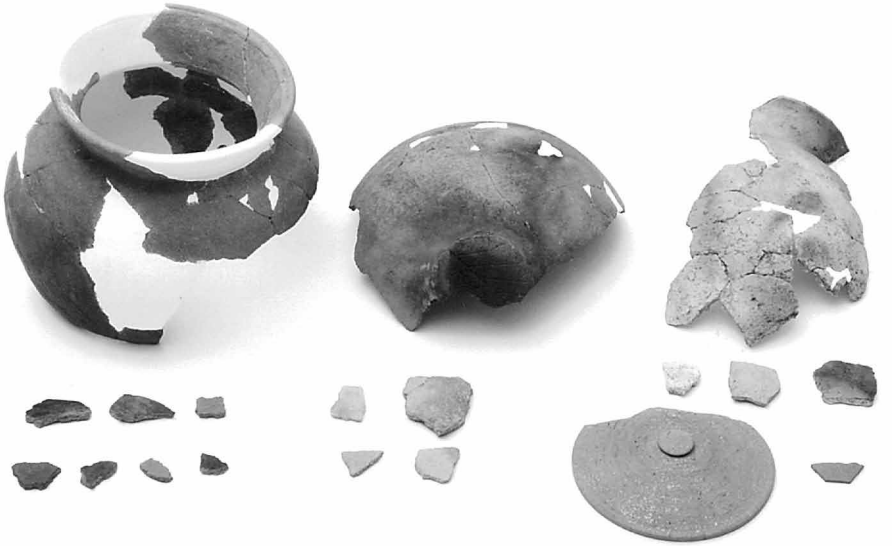
遺構外出土縄文早期土器19



遺構外出土縄文土器１



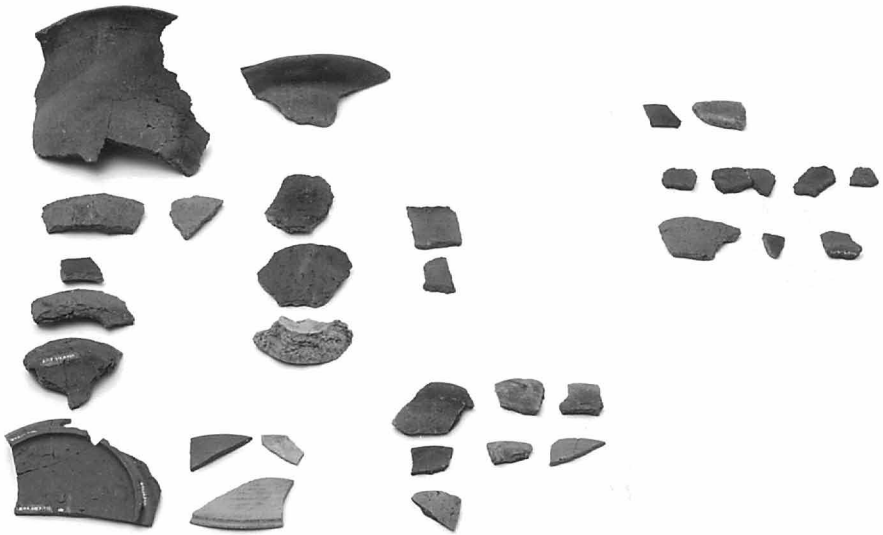
遺構外出土縄文土器２



３区　１号住居跡出土遺物

３区　２号住居跡出土遺物１

３区　２号住居跡出土遺物２



２区　３号住居跡出土遺物、土坑・溝状遺構出土遺物

３区２号住居跡出土甕（第165図１）

３区２号住居跡出土甕（第165図２）

３区１号住居跡出土甕（第164図３）

２区３号住居跡出土甕（第167図12）

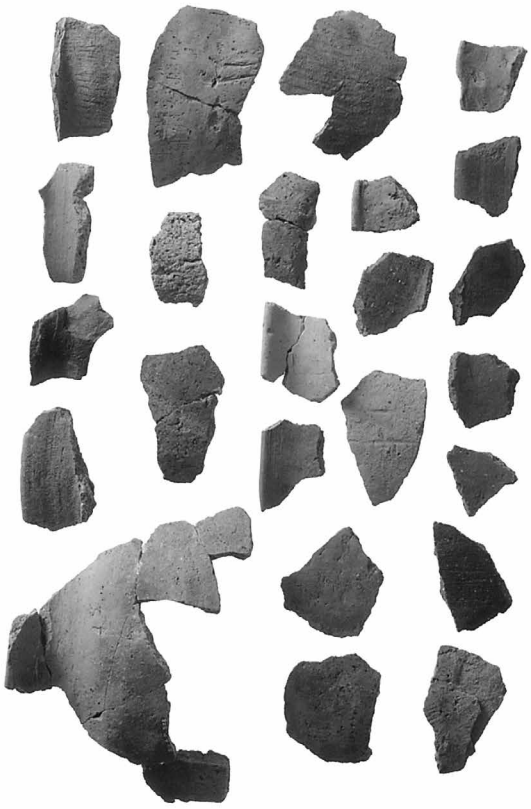
３区２号住居跡出土小型甕（第166図26）

３区１号住居跡出土蓋（第164図１）

２区３号住居跡出土坏（第167図11）

図版52　遺構出土遺物３・遺構外出土遺物１

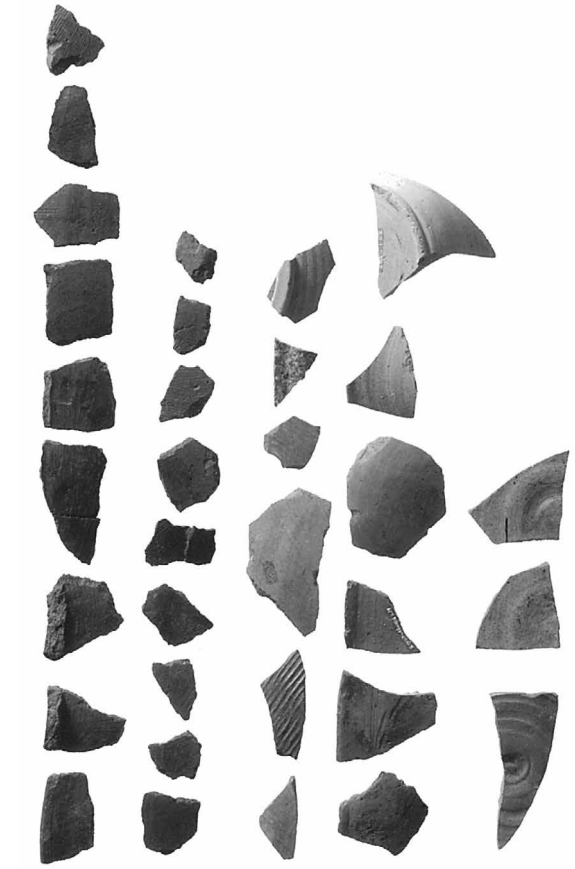
遺構外出土遺物１



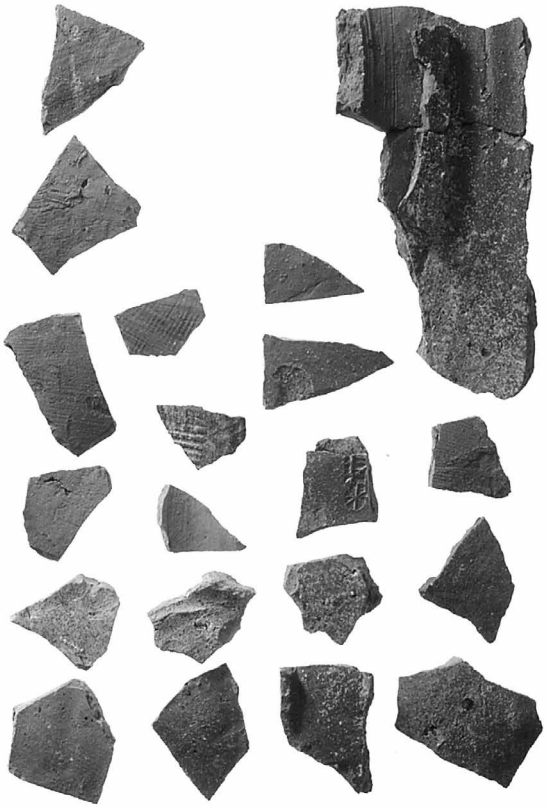
遺構外出土遺物３

土坑・溝状遺構出土遺物

遺構外出土遺物２

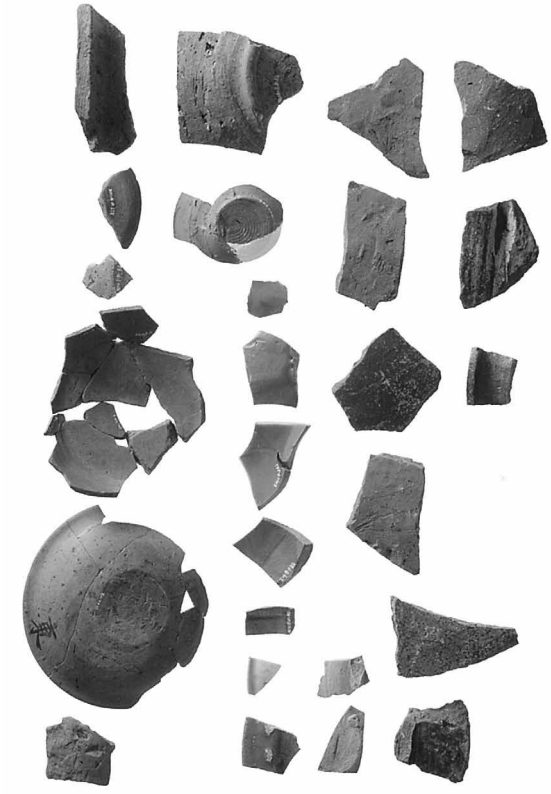


遺構外出土遺物５



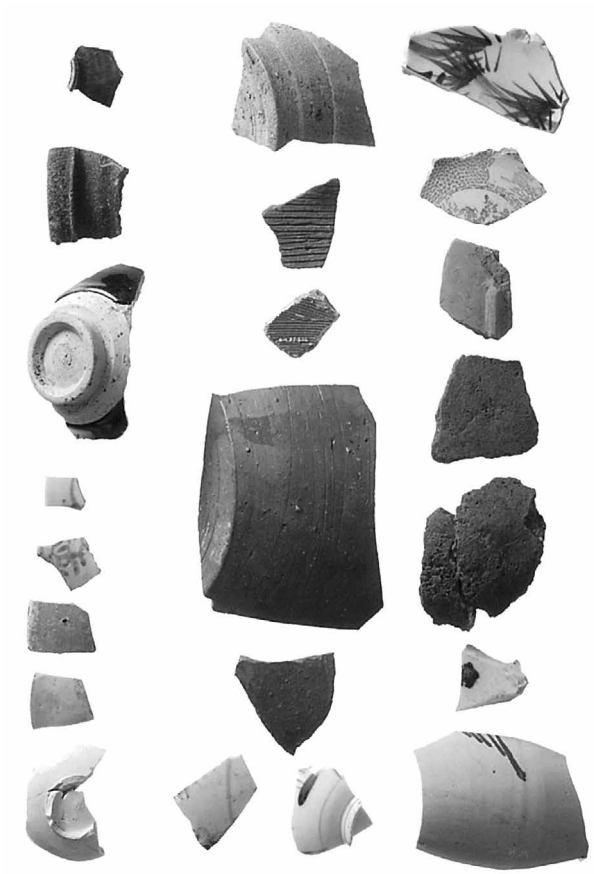
遺構外出土遺物７

遺構外出土遺物４

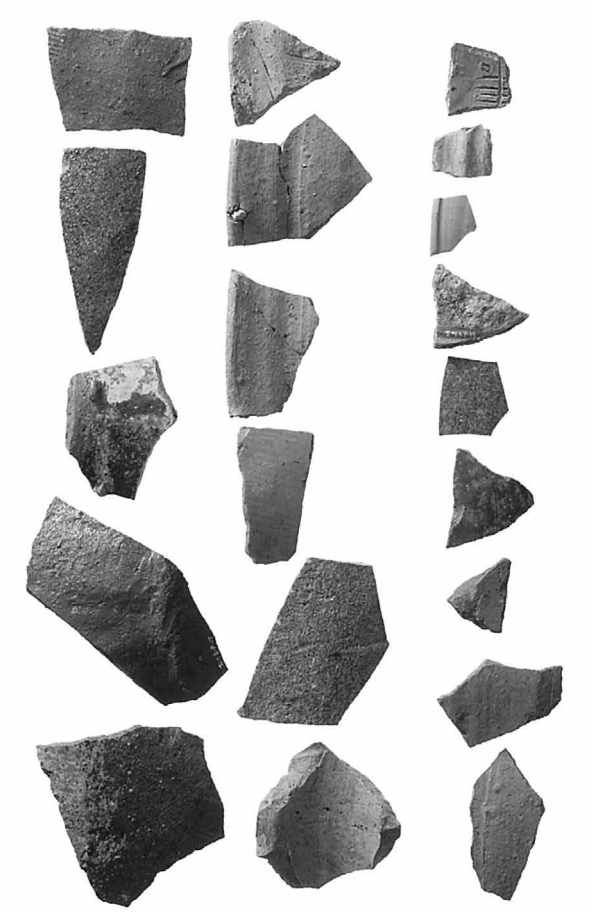


遺構外出土遺物６

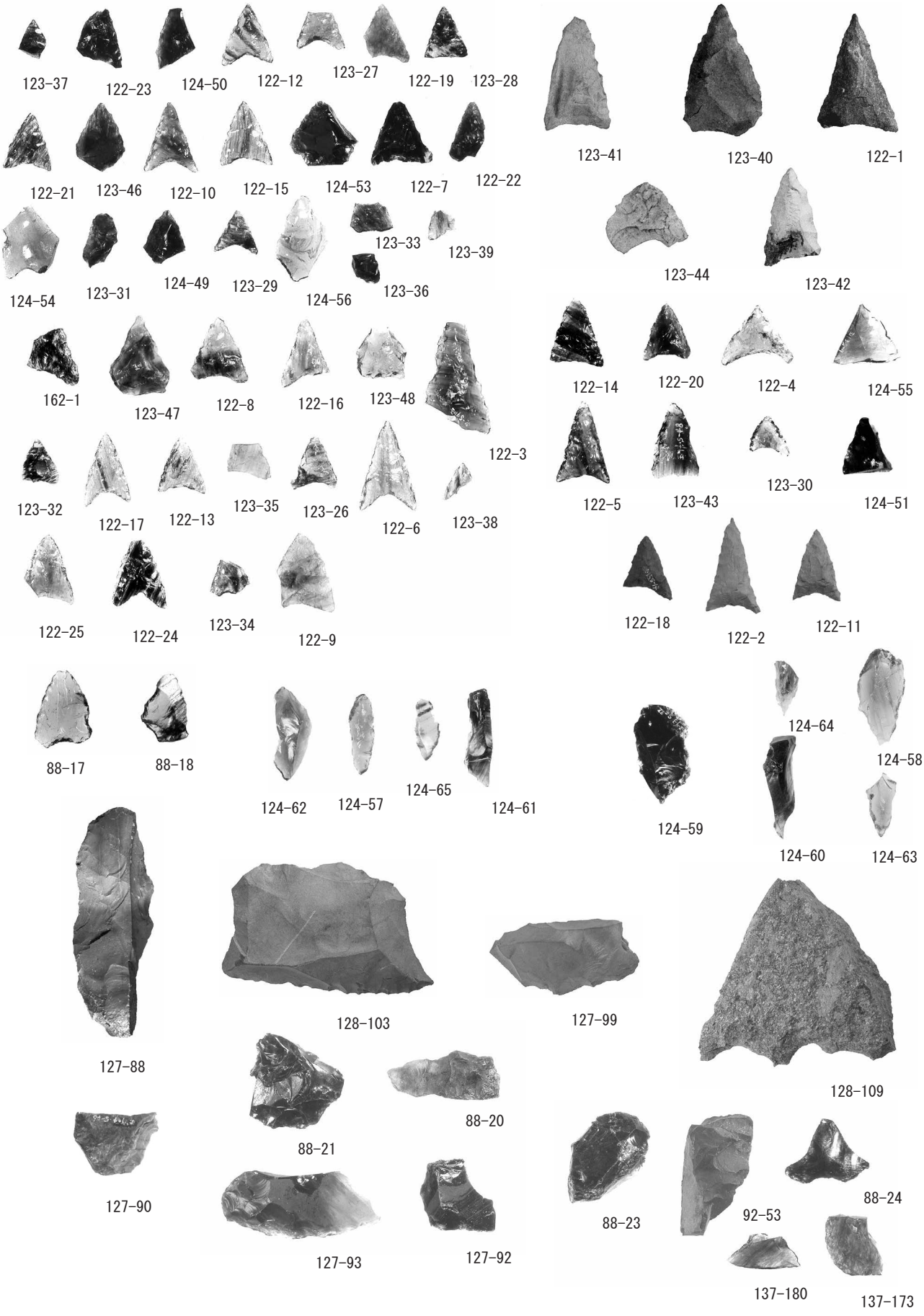
図版54　遺構外出土遺物３



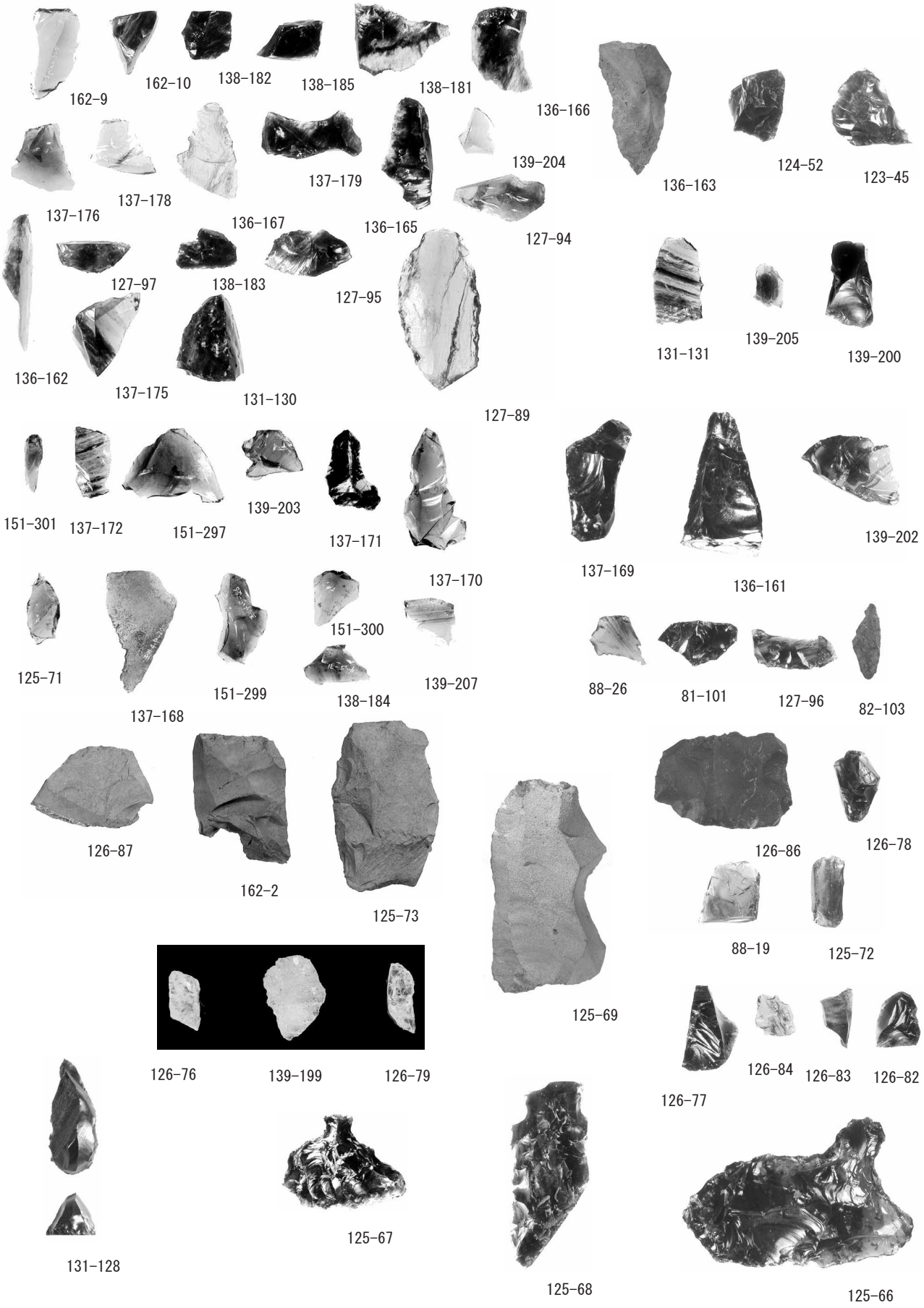
遺構外出土遺物９

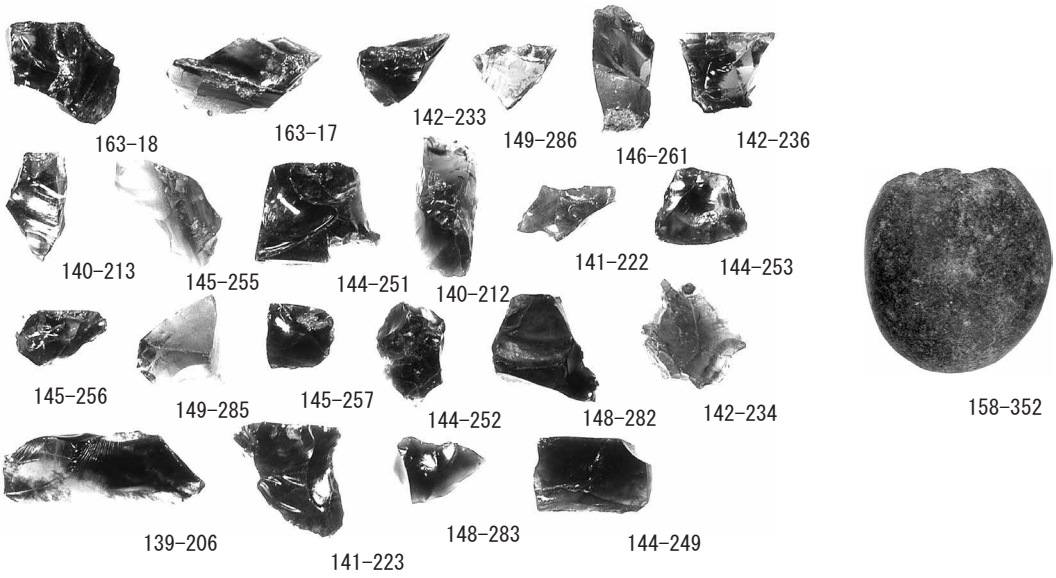


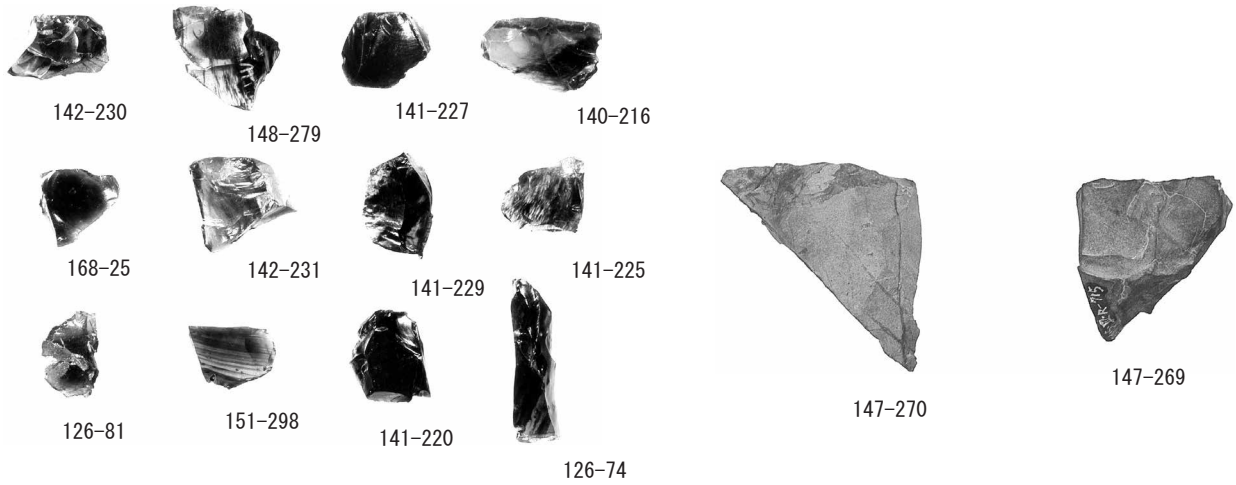
遺構外出土遺物８

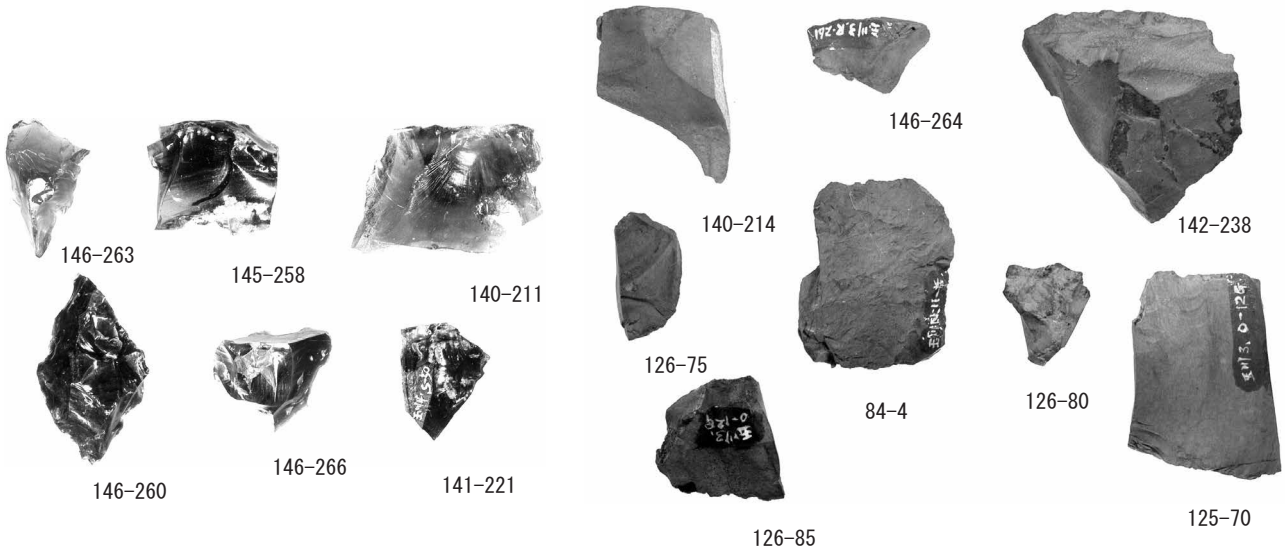

123-37
122-23
124-50
122-12
123-27
122-19
123-28
122-21
123-46
122-10
122-15
124-53
122-7
122-22
124-54
123-31
124-49
123-29
124-56
123-33
123-39
123-36
162-1
123-47
122-8
122-16
123-48
122-3
123-32
122-17
122-13
123-35
123-26
122-6
123-38
122-25
122-24
123-34
122-9
88-17
88-18
124-62
124-57
124-65
124-61
127-88
128-103
127-99
127-90
88-21
88-20
127-93
127-92
123-41
123-40
122-1
123-44
123-42
122-14
122-20
122-4
124-55
122-5
123-43
123-30
124-51
122-18
122-2
122-11
124-64
124-58
124-59
124-60
124-63
128-109
88-23
92-53
88-24
137-180
137-173

図版56　石製遺物２

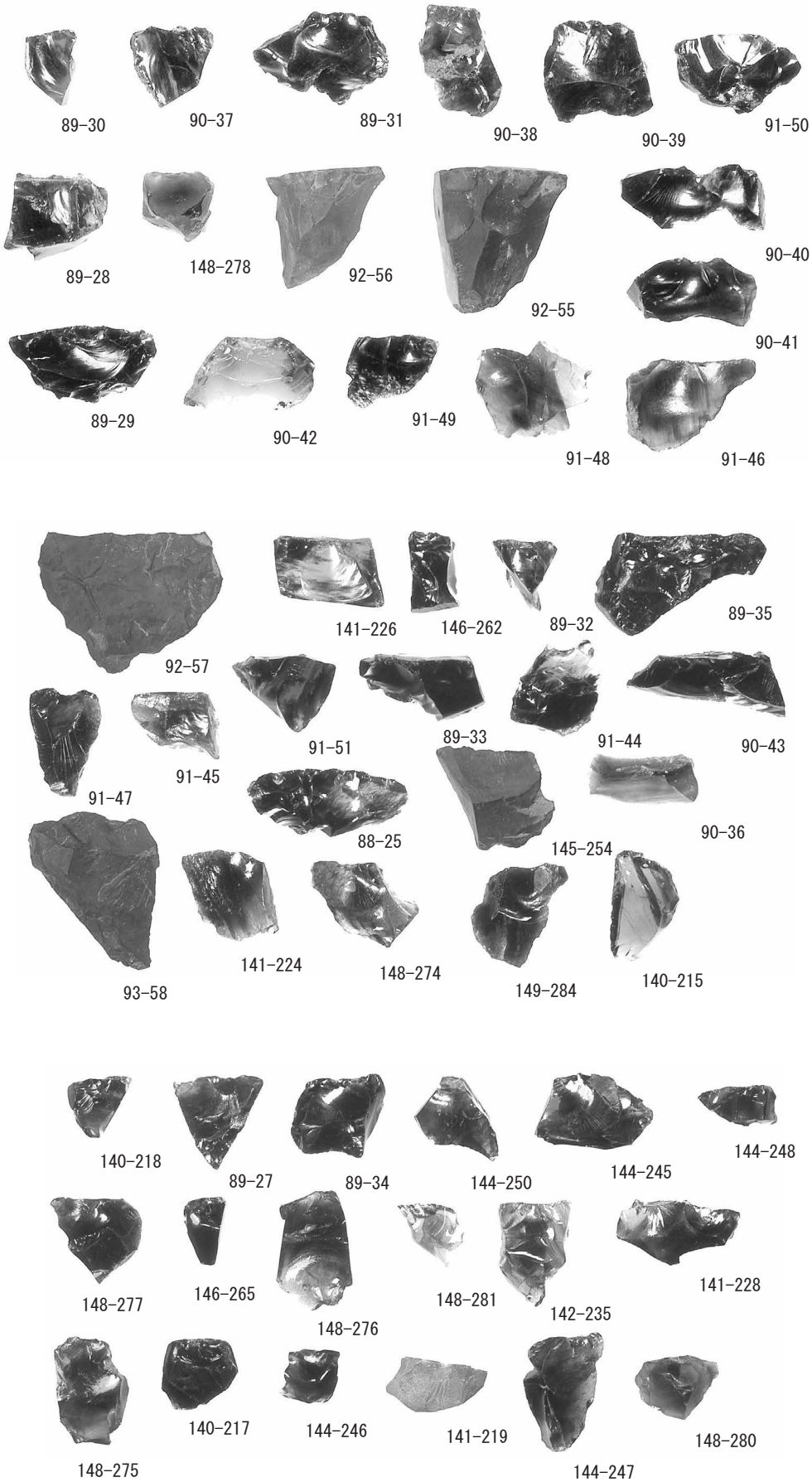

162-9
162-10
138-182
138-185
138-181
136-166
124-52
123-45
139-204
137-176
137-178
137-179
136-167
136-165
136-163
127-94
127-97
138-183
127-95
131-131
139-205
139-200
136-162
137-175
131-130
127-89
151-301
137-172
151-297
139-203
137-171
137-170
137-169
136-161
139-202
125-71
137-168
151-299
151-300
138-184
139-207
88-26
81-101
127-96
82-103
126-87
162-2
125-73
126-86
126-78
88-19
125-72
125-69
126-76
139-199
126-79
126-84
126-83
126-82
126-77
131-128
125-67
125-68
125-66

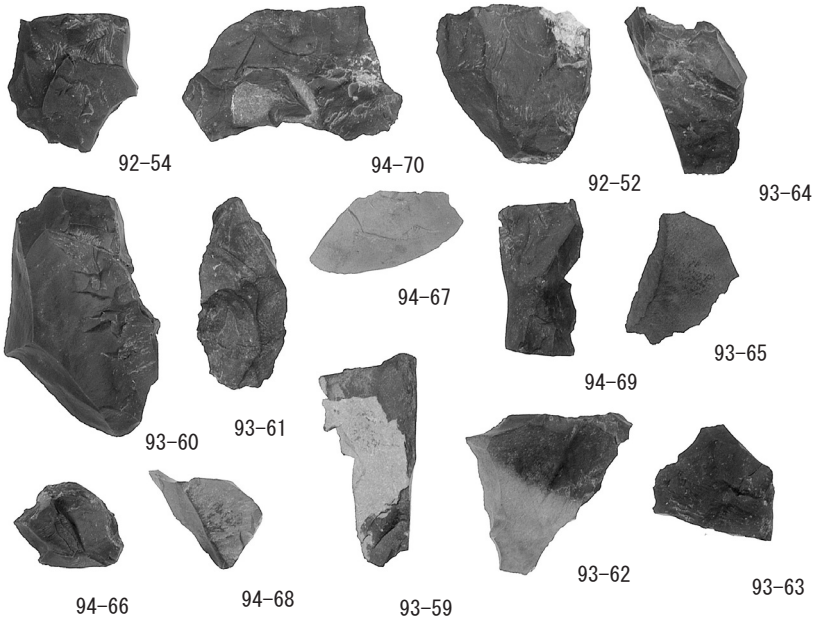

163-18
163-17
142-233
149-286
146-261
142-236
140-213
145-255
144-251
140-212
141-222
144-253
145-256
149-285
145-257
144-252
148-282
142-234
158-352
139-206
141-223
148-283
144-249

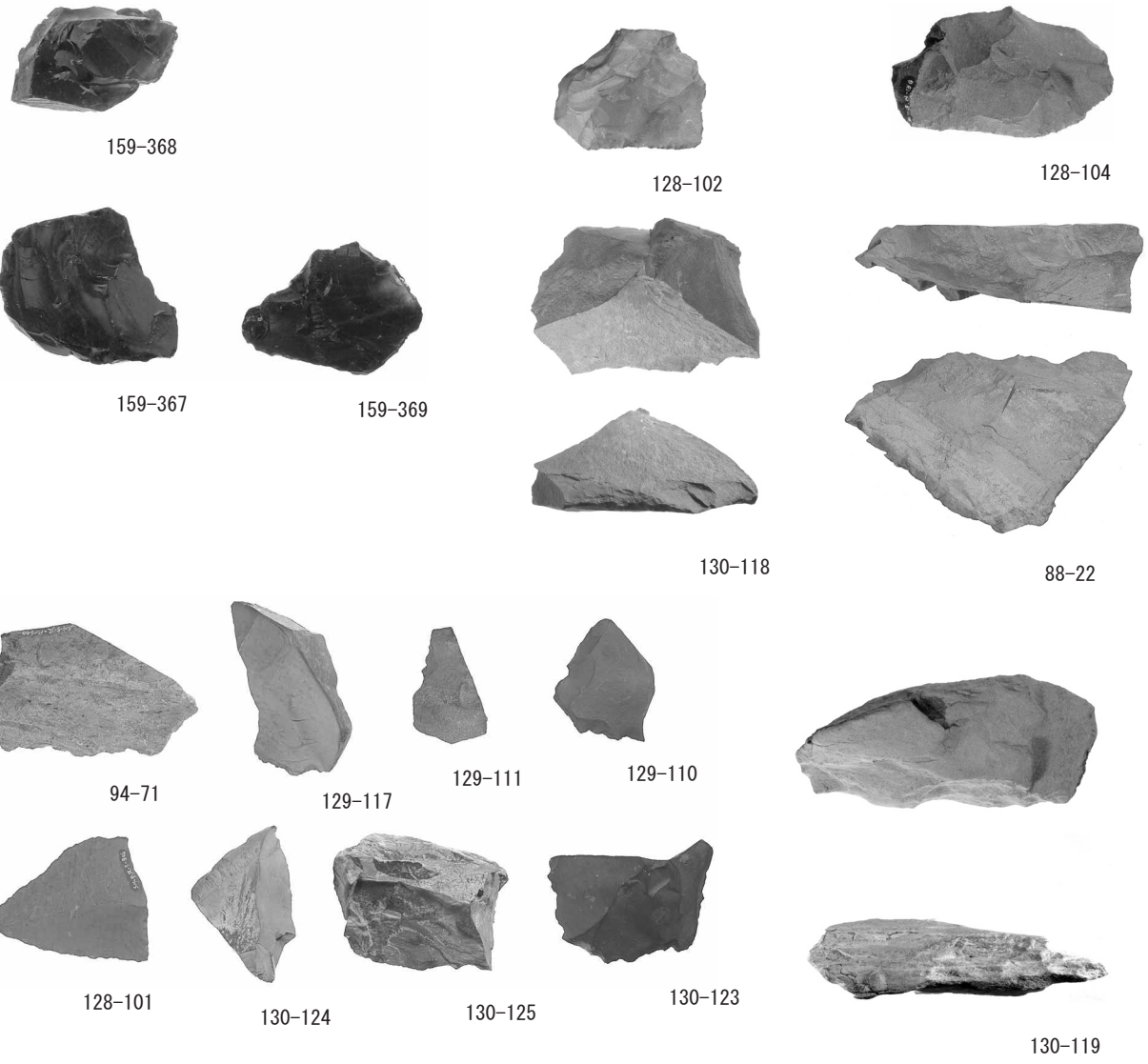

142-230
148-279
141-227
140-216
168-25
142-231
141-229
141-225
147-270
147-269
126-81
151-298
141-220
126-74


146-263
145-258
140-211
140-214
146-264
142-238
126-75
84-4
126-80
146-260
146-266
141-221
126-85
125-70

図版58　石製遺物４

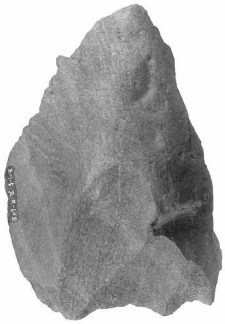

89-30
90-37
89-31
90-38
90-39
91-50
89-28
148-278
92-56
92-55
90-40
90-41
89-29
90-42
91-49
91-48
91-46
92-57
141-226
146-262
89-32
89-35
91-51
89-33
91-44
90-43
91-47
91-45
88-25
145-254
90-36
93-58
141-224
148-274
149-284
140-215
140-218
89-27
89-34
144-250
144-245
144-248
148-277
146-265
148-276
148-281
142-235
141-228
140-217
144-246
141-219
148-280
148-275
144-247


92-54
94-70
92-52
93-64
94-67
93-65
94-69
93-60
93-61
94-66
94-68
93-59
93-62
93-63


159-368
128-102
128-104
159-367
159-369
130-118
88-22
94-71
129-117
129-111
129-110
128-101
130-124
130-125
130-123
130-119

図版60　石製遺物６

75-15



129-112

75-13

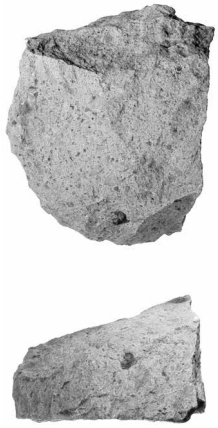
129-114

129-115

132-137

131-135

132-136



131-132

129-113

131-134

132-138

132-139

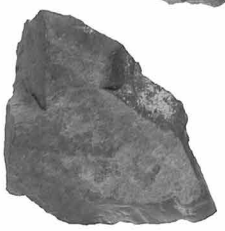
132-140

132-141

133-143

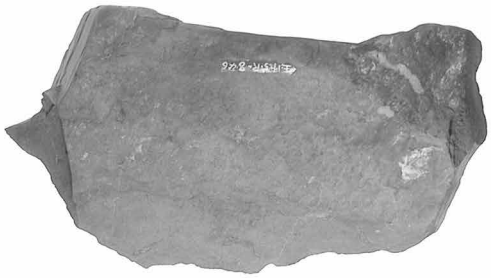
162-4

134-149

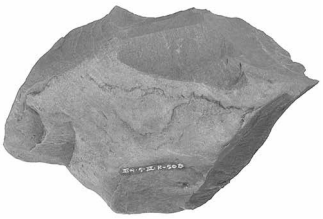


135-155

134-150



133-142



134-148

133-144

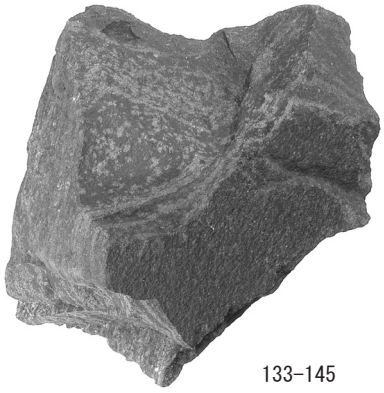
134-146

139-192

135-154

84-3

図版62　石製遺物８

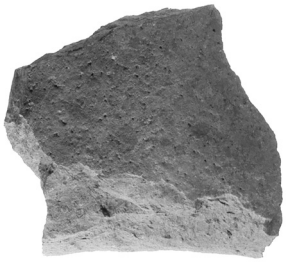


133-145

75-14

166-29

75-16



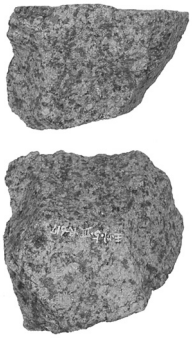
135-153

135-151

165-20

130-121

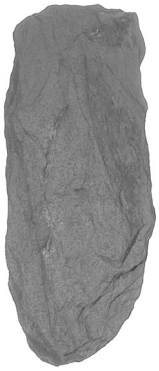
135-152



134-147

135-156

135-157


162-6

162-7

162-8

128-108

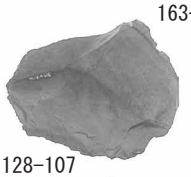
139-198

163-12

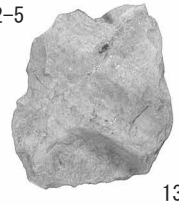
162-5

163-14

162-3


128-107

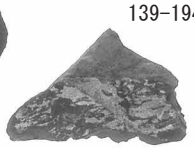
139-194


139-195

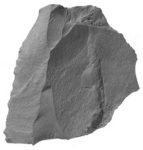
138-187

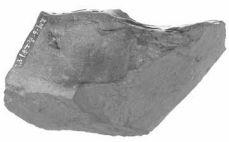
130-120

152-304


128-106

139-197


139-196

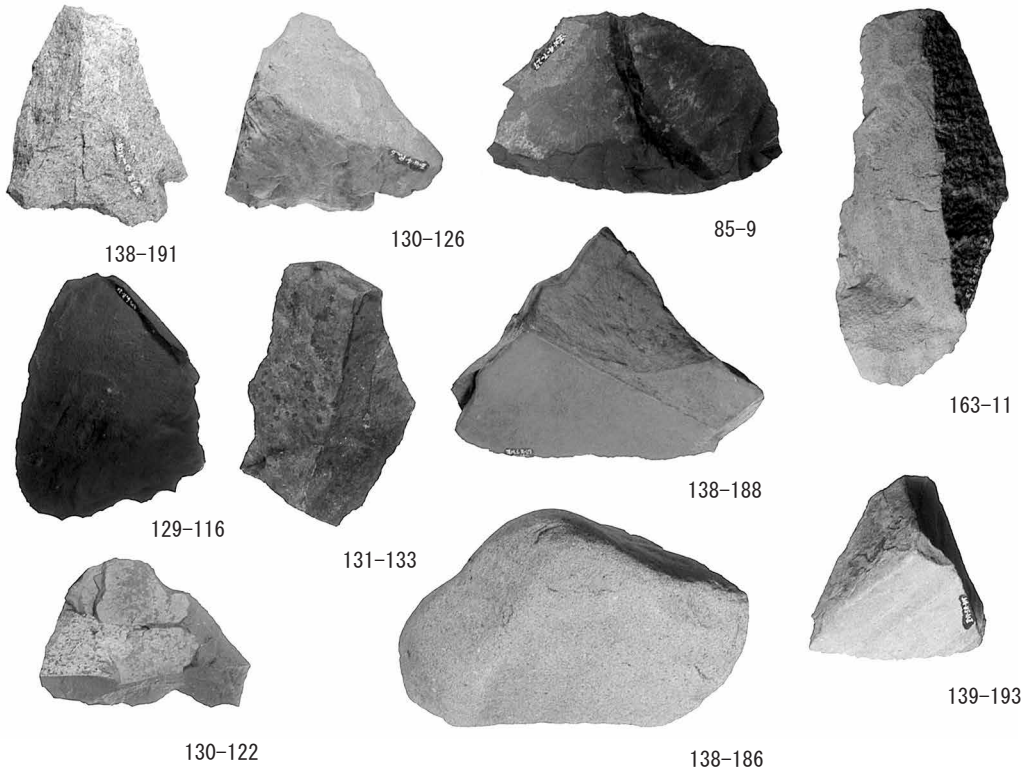


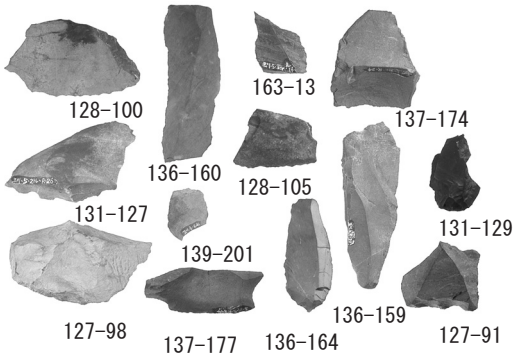
138-189

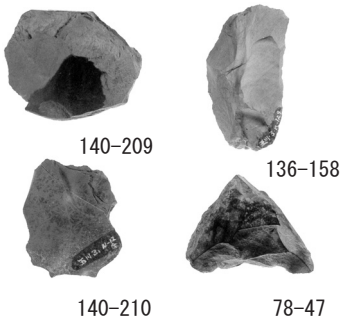
138-190

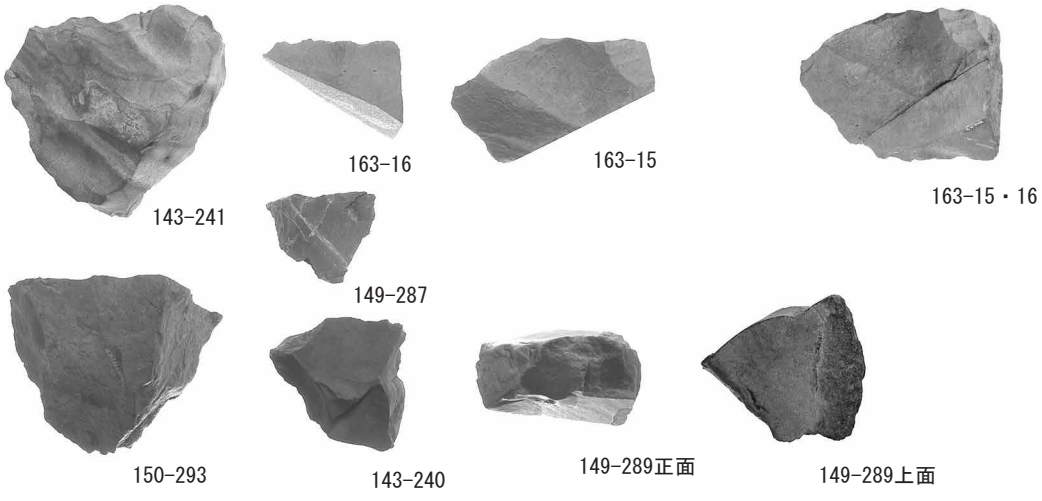
140-208

図版64　石製遺物10


138-191
130-126
85-9
163-11
129-116
131-133
138-188
130-122
138-186
139-193


128-100
163-13
137-174
136-160
128-105
131-127
131-129
139-201
127-98
137-177
136-164
136-159
127-91


140-209
136-158
140-210
78-47


143-241
163-16
163-15
163-15・16
149-287
150-293
143-240
149-289正面
149-289上面

143-242

150-292

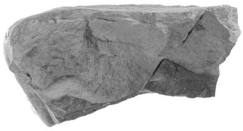
144-244

151-295

151-296

149-288

147-272正面



149-290正面

147-272下面

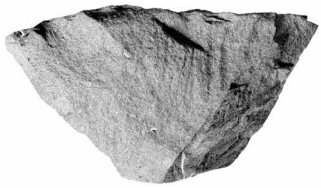
149-290下面

143-239正面

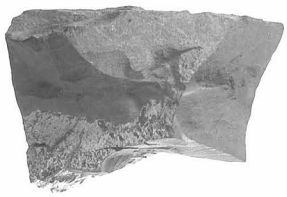
76-18正面

143-239下面

76-18下面

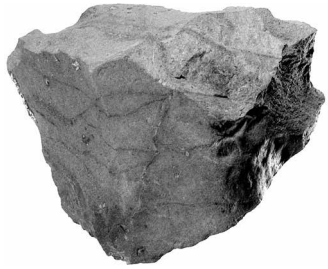


84-2正面



86-2

143-243



84-2下面

図版66　石製遺物12

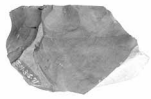
150-291

147-268

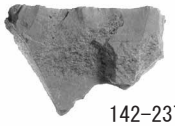
147-273

168-24

150-294



146-267



142-237

145-259

147-271

75-17

78-40

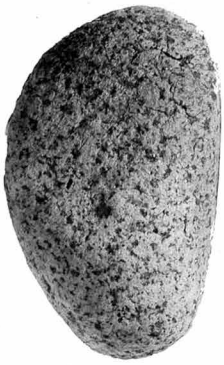
142-232

152-303

151-302

85-7

153-314



152-307

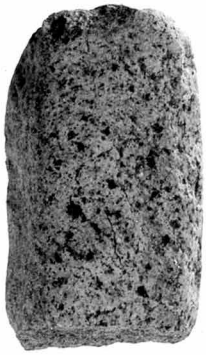
86-1

152-309

153-311

155-328

86-4



153-315

79-62

156-329

85-5

78-41

図版68　石製遺物14

87-1(1配)

153-317

154-320

153-312

152-306

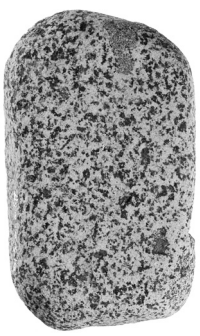
154-318

154-321

154-322

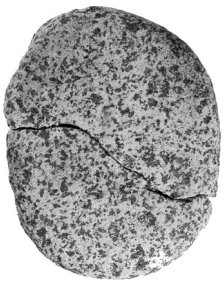
155-324

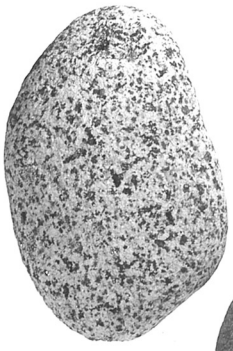
79-63


94-73

94-74

87-1(1焼)

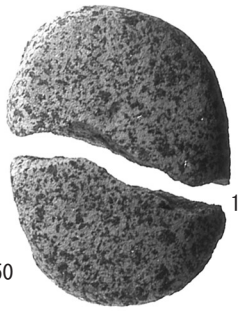

157-347・348


156-332

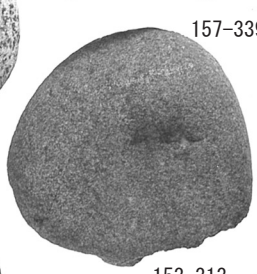
157-339

156-337

158-350


157-347

157-348


153-313

157-345

152-310

156-334

157-340

157-342

155-325

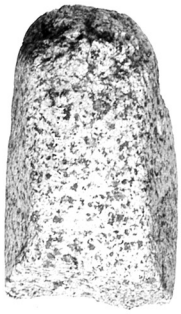
156-336

156-335

157-343

157-344

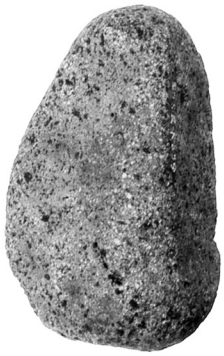
156-338


155-327

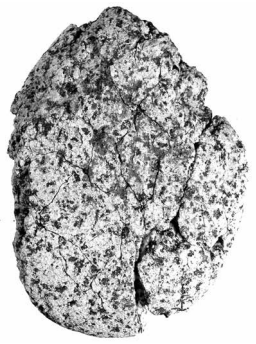
154-319

153-316

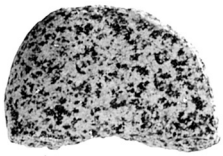
155-326


152-305

図版70　石製遺物16



95-75



156-333

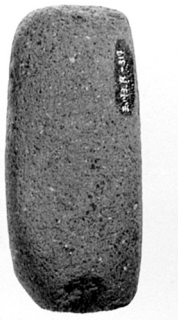
156-331

156-330

94-72

157-346

158-351



152-308

155-323

157-341

86-3

85-8

158-349

159-362

76-11

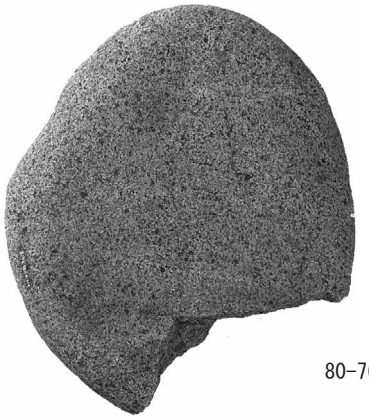
80-83

168-10

78-49

78-51

80-75



80-76

80-82

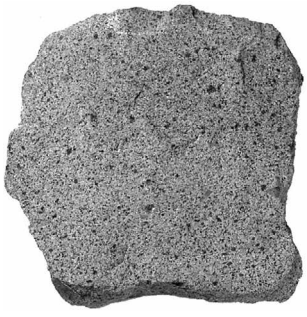
図版72　石製遺物18

83-121

83-123

95-76

158-353



158-354

158-355

158-356

158-357

158-358

158-359

159-360

159-361

図版74　石製遺物20

159-363

159-364

159-365

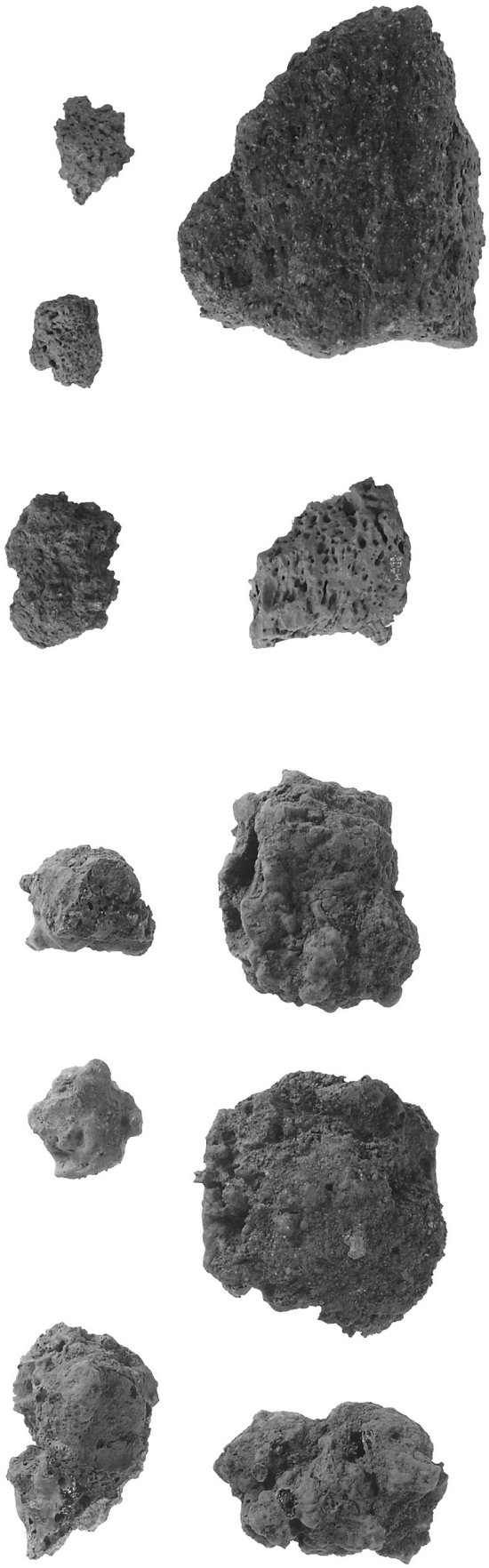
159-366

166-28

168-26～28

180-1
180-2
180-3
180-4
180-5
180-6
169-1
169-2
169-3
170-15
180-7
180-8
180-9
180-10
180-11
180-12
180-13
180-14
180-15
180-16
180-17
180-18
180-19
180-20
180-21
180-22
180-23
180-24
170-2
169-16
180-45
180-46
180-47
180-48
180-49
180-50
180-25
180-26
180-27
180-28
180-29
180-30
180-31
180-32
180-33
180-34
180-35
180-36
180-37
180-38
180-39
180-40
180-41
180-42
180-43
180-44

図版76　鉄滓・溶岩



報告書抄録

ふりがな	たまがわかなやまいせき
書名	玉川金山遺跡
副書名	一般国道139号(都留バイパス)建設に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第261集
著者	網倉邦生・杉原重夫ほか明治大学文化財研究施設スタッフ
発行者	山梨県教育委員会 国土交通省　関東地方整備局
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター
所在地・電話	〒400-1508　山梨県甲府市下曽根町923　TEL055-266-3016
発行年月日	2009年3月19日

ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
たまがわかなやまいせき 玉川金山遺跡	山梨県都留市上ノ原地内	204	101	35° 33′ 39″	138° 56′ 9″	平成16年10月18日～平成17年2月18日 (平成16年度調査) 平成17年11月10日～平成18年1月26日 (平成17年度調査) 平成18年8月14日～平成19年1月19日 (平成18年度調査) 平成19年5月14日～平成19年8月3日 (平成19年度第1次調査) 平成19年9月3日～平成20年1月31日 (平成19年度調査第2次)	6,484㎡	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
玉川金山遺跡	集落跡	縄文時代早期後半(子母口式併行期)	土坑45基(炉穴37基)・集石2基・焼土集中1基	土器・石器	東海地方を中心に分布する土器群が出土している。
		(鵜ヶ島台式期)	住居跡1軒・土坑7基(炉穴5基)・集石5基・礫集中1基・焼土集中1基・土器集中地点3基・石器集中地点1基	土器・石器	土器集中地点や石器製作跡が確認された。
		(時期不明)	土坑127基(炉穴14基)・集石2基・配石2基・焼土集中18基	土器・石器	遺物を伴わないため時期は不明であるが、縄文時代早期後半に所属する遺構である。
	集落跡・畑跡	奈良	住居跡8軒・掘立柱建物跡3軒・土坑5基・柱穴8基・溝状遺構20条	須恵器・土師器・石製品・金属製品	駿東型甕が出土している。
	墓域	中世	土坑(地下式土坑)1基・礫集中1基・溝状遺構4条	陶磁器・金属製品	
	畑跡・墓域	中世～近世	焼土集中27基		
	畑跡・墓域	近世	土坑3基(土坑墓1基)・石組2基	陶磁器・金属製品	
	時代不明		土坑38基・溝状遺構62条・焼土集中6基(第Ⅰ面)、土坑102基・柱穴12基・溝状遺構67条・焼土集中8基・礫集中4基(第Ⅱ面)		

要約

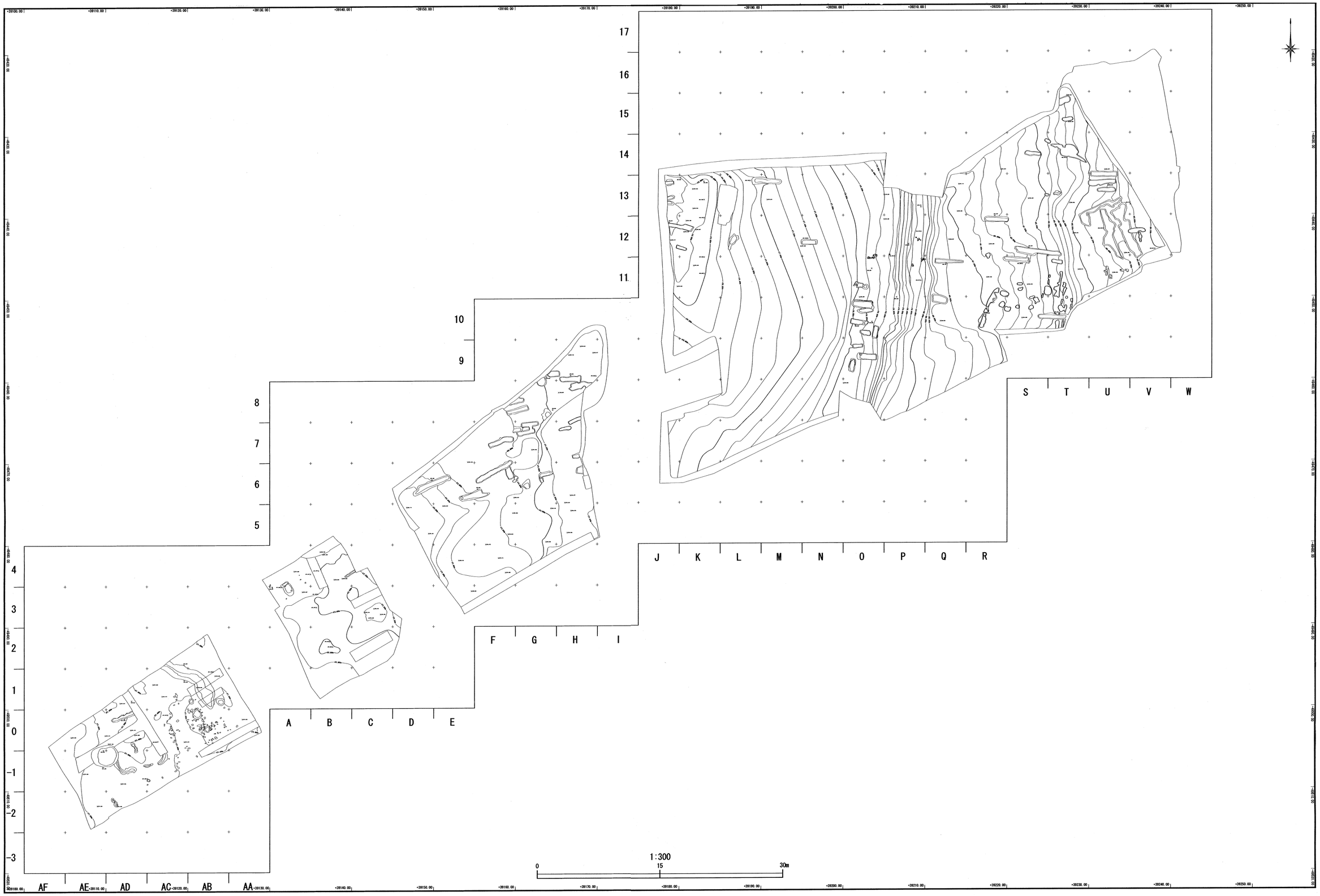
玉川金山遺跡は都留市上ノ原地内に所在する遺跡で、河川と山に挟まれた傾斜地に立地している。調査により縄文時代早期・奈良時代・中世の遺構と縄文時代早期～近世の遺物が出土した。調査の主な成果としては、1)子母口式併行期(清水柳E式・ミヲ坂式)と鵜ヶ島台式期の土器がまとまって出土したこと、2)多数の炉穴など縄文時代早期の遺構が検出されたこと、3)奈良時代の集落跡が確認されたこと、4)中世の地下式土坑が見つかったことなどが挙げられる。また、自然科学分析や報告段階で行った検討により、子母口式併行期における遺構は、恩馳島系の黒曜石を保有した東海系の集団によって構築されたこと、鵜ヶ島台式期に使用された黒曜石の比率は西霧ヶ峰系が多数を占めること、検出された縄文時代早期の遺構群は、都留市内で採取される緑色凝灰岩・凝灰岩を獲得するために形成された可能性が高いことなどが指摘される。奈良時代の出土遺物として駿東型甕が出土しており、縄文時代早期と同様に、奈良時代においても東海地域と深い結びつきがあったと考えられる。また、中世段階においては、集落の周囲に展開する墓域であったと推定される。

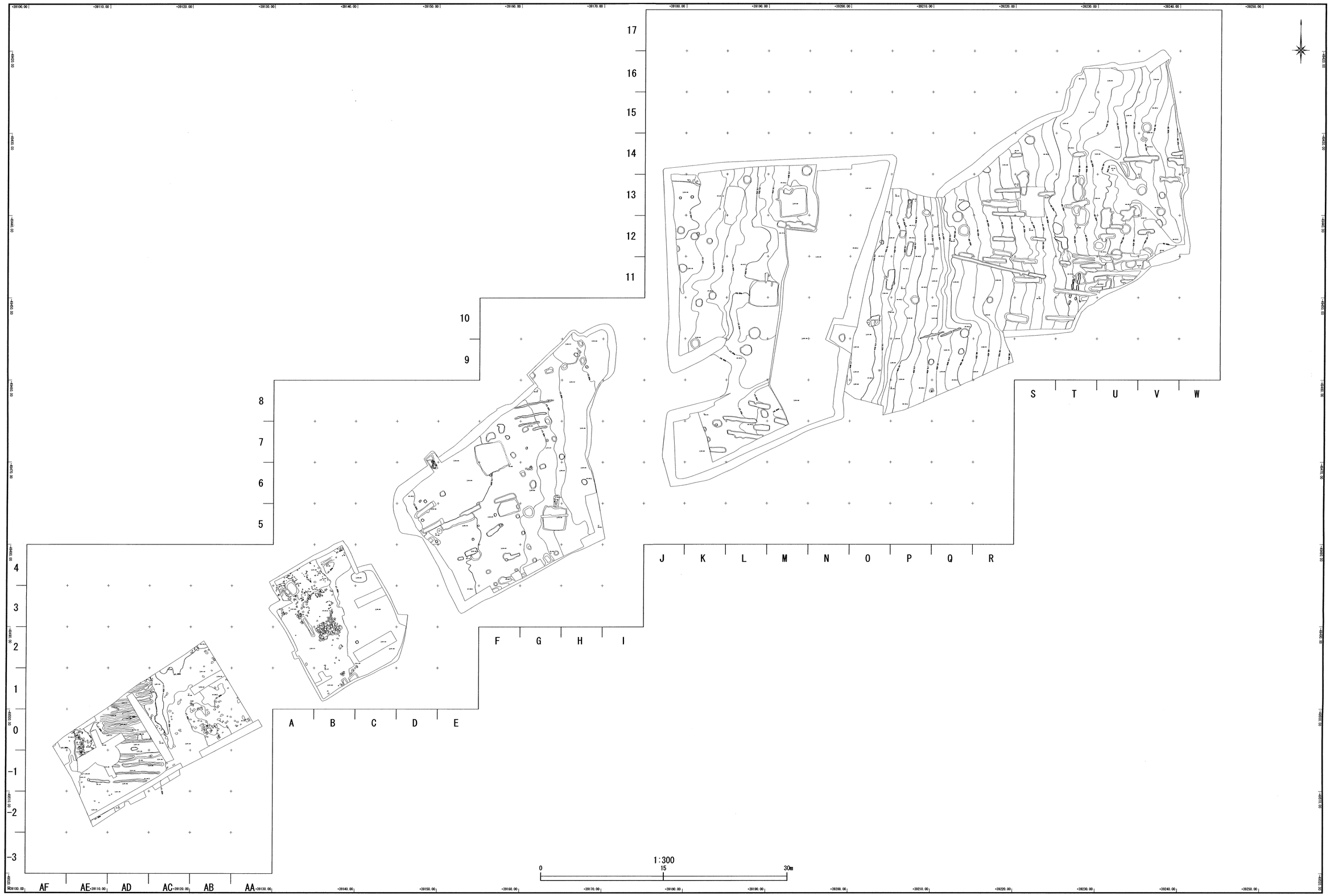
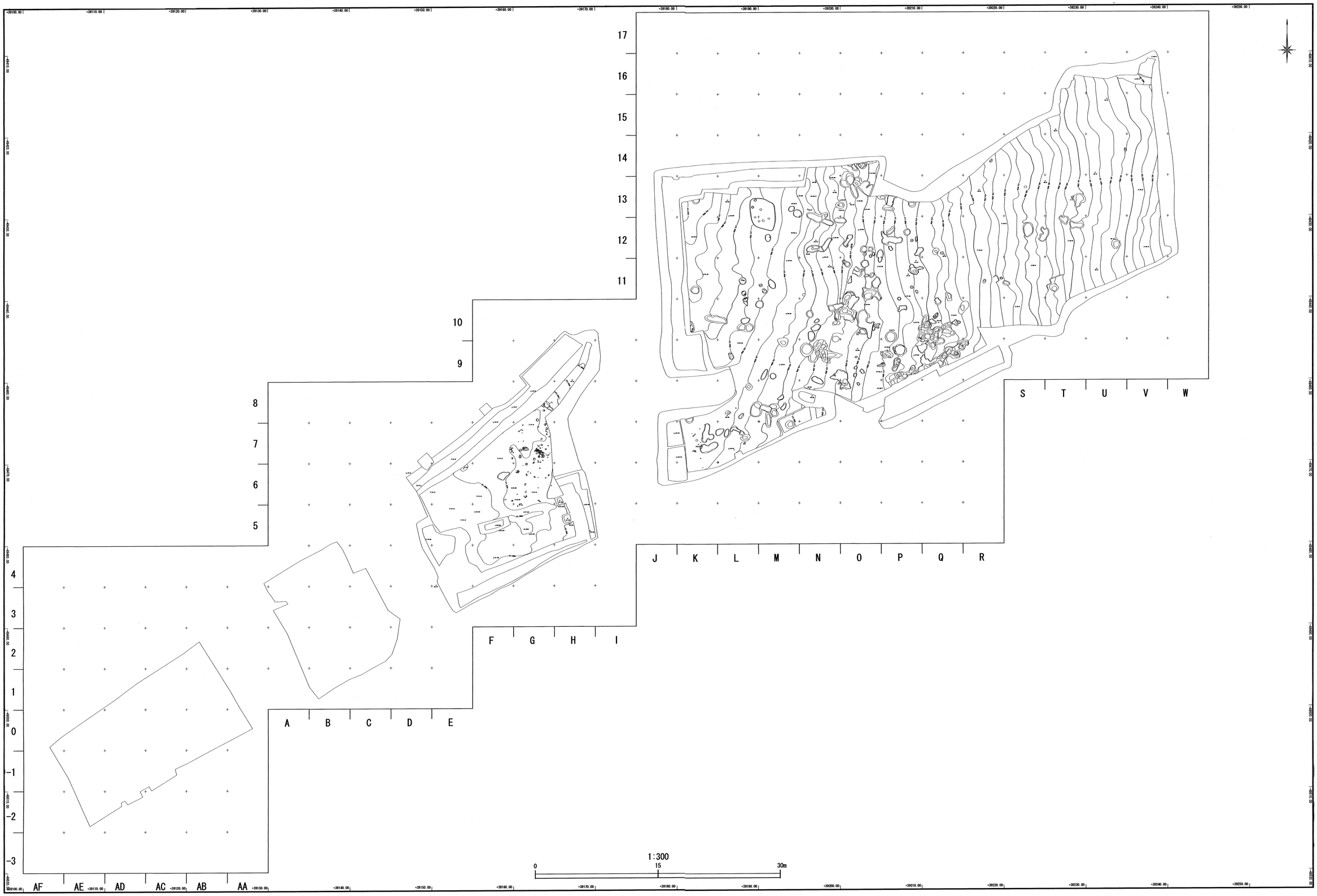
山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第261集

玉川金山遺跡

一般国道139号（都留バイパス）建設に伴う発掘調査報告書
平成21年3月25日印刷
平成21年3月31日発行

編集　山梨県埋蔵文化財センター
〒400-1508　山梨県甲府市下曽根町923
Tel　055-266-3016　Fax　055-266-3882
http://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/index.html
発行　山梨県教育委員会
国土交通省　関東地方整備局
印刷　（有）雨宮印刷


17
16
15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0
-1
-2
-3
S
T
U
V
W
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
F
G
H
I
A
B
C
D
E
AF
AE
AD
AC
AB
AA
1:300
0
15
30m


17
16
15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0
-1
-2
-3
S
T
U
V
W
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
F
G
H
I
A
B
C
D
E
AF
AE
AD
AC
AB
AA
1:300
0
15
30m

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第261集　玉川金山遺跡付図３　第Ⅲ面全体図